令集解

PL
753
M6
v.2

Mozume, Takami (ed.)
Shinchū kōgaku sōsho

East
Asiatic
Studies

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

文學博士 物集高見編

新註

皇學叢書

第二巻

廣文庫刊行會

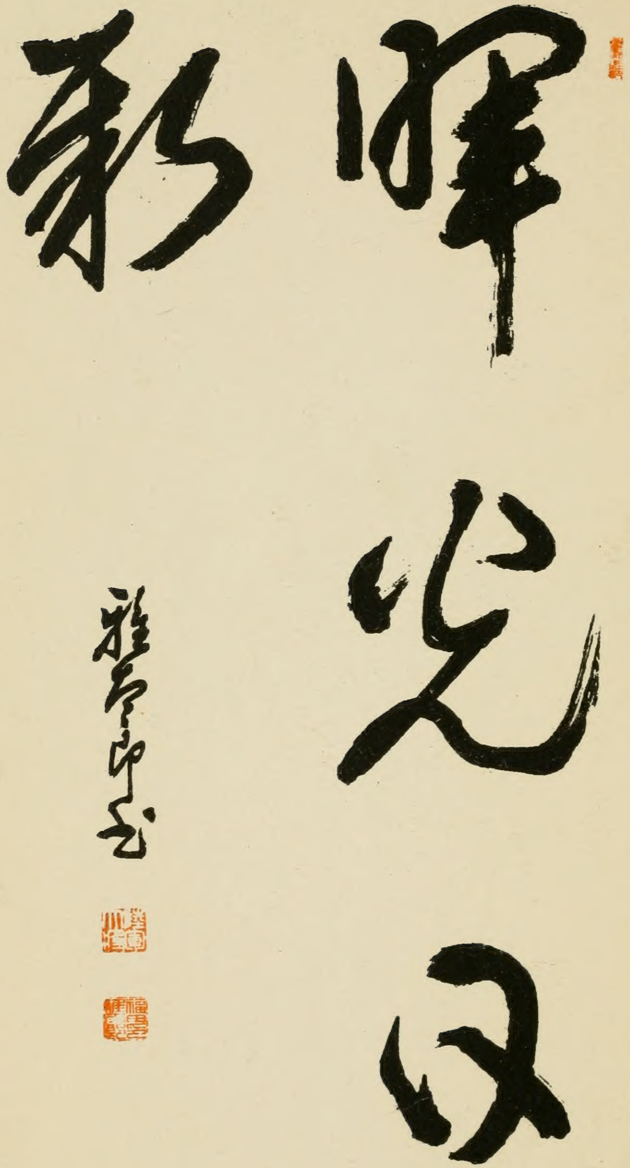
PL
753
M6
V. 2
LIBRARY
SEP 26 1966
UNIVERSITY OF TORONTO
1126375

新註皇學叢書第二卷題辭

樞密顧問官
陸軍大將　福田雅太郎閣下

公爵　一條實孝閣下

衆議院議員　犬養毅閣下


輝光日新

公正治化
天下

公爵一條實孝書

其旨遠
其辭文

犬養毅

令集解

凡例（本文）

一本書は去る明治四十五年、國書刊行會が、余輩の校訂本を底本として開版せる校訂令集解に、更に其の後に於て發見せる金澤文庫本の別本を始め、多くの異本との校合に依りて得たる成果を加へ、且つ校訂本の誤植等は、嚴密なる對校に依りてこれを刪正し、以て其の面目を一新した。

一校訂本には鼇頭に、諸本との異同を標出したが、本書に於ては、次の符號を附して、これを本文中に挿入した。

(1) 異字の場合（　）　(2) 増補の場合「　」　(3) 刪除の場合〔　〕

一校訂本に於ては、諸本の異同は力めてこれを採摭せるも、本書は本文閲讀の際、煩雜に亙るを避けんが爲め、明白なる錯誤は、總て省略に從つた。

一本書の編纂については、數年來令集解校訂の業を共にせらるゝ京都帝國大學大學院學生文學士藤直幹氏、校訂本との對校に當られ、なほ印刷の校合は東京帝國大學史料編纂官補武田政一氏を煩はし、余更にこれを校勘して其の異同を裁定した。

昭和六年三月　　三浦周行

凡例（標註）

一本書の標註は、集解の標註であつて、令の標註ではない。從つて令文の字句及び義解註の文中に見える字句には、原則として標註を加へなかつた。

一同じ字句が二箇所以上に見えるときは、その最初のものにのみ標註を加へるのを原則としたが、一頁以上標註が順送りとなることを避けた爲めに、第二若しくは第三以後のものにのみ標註を加へた場合もある。

一標註は成るべく註せらるべき字句の上に掲げることにしたが、順送りとなつたものも尠くないので、檢出に便する爲めに、註せらるべき字句の肩には、例外なく＊印を附けた。

昭和六年三月

瀧川政次郎

令集解 目次

解題……一
卷一 官位令第一……一
卷二 職員令(第二)(一)……三三
卷三 職員令(第二)(二)……五一
卷四 職員令(第二)(三)……七五
卷五 職員令(第二)(四)……一〇六
卷六 職員令(第二)(五)……一三三
後宮職員令(第三)……一四九
東宮職員令(第四)……一六〇
家令職員令(第五)……一六五
卷七上 神祇令(第六)……一七〇
卷七下 僧尼令第七(一)……一八三
卷八 僧尼令(第七)二……二〇六
卷九 戸令(第八)一……二三〇

卷　十　戶令(第八)(二)……二五七
卷十一　戶令(第八)(三)……二七九
卷十二　田令(第九)……三〇四
卷十三　賦役令(第十)一……三三七
卷十四　賦役令(第十)二……三七四
卷十五　學令第十一……三九三
卷十六　選叙令(第十二)一……四一一
第十七　選叙令(第十二)二……四三三
　　　　繼嗣令第十三……四六二
卷十八　考課令(第十四)一……四七〇
卷十九　考課令(第十四)二……四九六
卷二十　考課令(第十四)三……五二三
卷廿一　考課令(第十四)(四)……五四一
卷廿二　考課令(第十四)五……五五五
卷廿三　祿令第十五……五七八
卷廿四　宮衛令第十六……五九七
卷廿五　軍防令(第十七)(一)……(闕)

卷廿六　軍防令（第十七）（二）……（闕）
卷廿七　軍防令（第十七）（三）……（闕）
卷廿八　儀制令（第十八）……六三三
卷廿九　衣服令（第十九）……六五四
卷三十　營繕令（第二十）……六七〇
卷卅一　公式令（第廿一）一……六八六
卷卅二　公式令（第廿一）（二）……七〇九
卷卅三　公式令（第廿一）（三）……七三三
卷卅四　公式令（第廿一）（四）……七五七
卷卅五　公式令（第廿一）（五）……七八〇
卷卅六　公式令（第廿一）（六）……七九九
卷卅七　倉庫令（第廿二）……（闕）
卷卅八　廐牧令（第廿三）……八二六
卷卅九　醫疾令（第廿四）……（闕）
卷四十　假寧令（第廿五）……八五一
喪葬令第廿六……八六二
關市令（第廿七）……（闕）

逸文
捕亡令（第廿八）……八八三
獄令（第廿九）……八八四
雜令（第三十）……八九〇

令集解目次終

令集解解題

瀧川政次郎

令集解は、令の註解を集大成したるものの意である。本書に註解せられてゐる令は、元正天皇の養老二年に贈太政大臣正一位藤原不比等等が勅を奉じて刊修し、孝謙天皇の天平勝寶九年五月に至つて施行せられた養老の令である。荷田在滿は、これを大寶の令と解し、稻葉通邦は、これを延暦の令（刪定令）と解してゐるが、本書に註解せられてゐる令が、大寶の令でも、延暦の令でもないことは、本書に引かれる註解が、屢々本文の令文と大寶令及び刪定令の令文との差異點を擧げてゐることによつて疑がない。本書に集大成せられてゐる註解は、主として平安初期の法律家の手に成れる律令問答私記に見えるものであるが、中には奈良時代の法律家の手に成つた律令問答私記に見えるものもあり、また稀には唐の法律家の手に成つた唐令の註解もある。されば本書は、まさに我が王朝の法律學說彙纂と稱すべきものであつて、その我が王朝法源史の上に占める重要性は、ローマのヂゲスタ digesta がコルプス、ユリス、キビーリス Corps juris civilis 中に占めるそれに比して優るとも劣るものではない。我が王朝の令を註解せるものには、本書の外に仁明天皇の天長十年に右大臣從二位淸原夏野等が勅を奉じて撰した「令義解」がある。然し令義解は、その註解に法的强制力を賦與せられた公權的註解書 öffentlich Commentar であるが、本書は純然たる私的註解書 private Commen-

言」である。又令と相並んで王朝法源の一要素であつた律の注解を集大成したものに「律集解」がある。されば本書は、令義解と對立し、同時に律集解と並立するものであつて、令義解が「義解」と略稱せられるに對して、屢々「集解」と略稱せられる。さうして又令義解の各篇が、職員令義解、公式令義解等と呼ばれるやうに、本書の各篇は、職員令集解、公式令集解等と呼ばれる。本書の寫本には、往々「令總記」と題せるものがあり、又一條兼良の「令抄」には、「惣記云」として考課令集解、内外官條の讃記の文を引用してゐる。故に本書は一に令總記と稱したやうに思はれるが、「本朝書籍目錄」は、令集解と令總記とを併記してゐるから、令總記を以て本書の別稱とすることは、今暫く躊躇した方がよいやうに思ふ。

　本書の卷數は、本朝書籍目錄に「三十卷」とある。本朝書籍目錄及び「本朝法家文書目錄」に據れば、本書の姉妹篇とも云ふべき「律集解」も三十卷より成つてゐるから、本書がもと三十卷より成つたことは略ぼ疑がない。然し今傳はる「令集解」は、喪葬令までで四十卷となつてゐるから、闕卷がなかつたならば、全部で五十卷近くあつたものに相違ない。本書の最初の刊本である石川本の奥書は、即ち「右令集解舊本凡五十卷。今所存三十五卷」云々と云つてゐる。今存する三十五卷は、官位令第一、職員令第二乃至第六、後宮職員令・東宮職員令・家令職員令第六、神祇令第七上、僧尼令第七下及び第八、戸令第九乃至第十一、田令第十二、賦役令第十三及び第十四、學令第十五、選敍令第十六及び第十七、繼嗣令第十七、考課令第十八乃至第廿二、祿令第廿三、宮衛令第廿四、儀制令第廿八、衣服令第廿九、營繕令第卅、公式令第卅一乃至第卅六、廐牧令第卅八、假寧令・喪葬令第四十であつて、軍防令第廿五乃至第廿八、倉庫令第卅七、醫疾令第卅九及び捕亡令、獄令、雜令の諸卷は闕卷となつてゐる。斯やうに現存の「令集解」の卷數が、本朝書籍目錄の記載と合は

ないのは、もと一卷であつたものを分つて二卷乃至三卷としたやうなところもあつて、一卷の分量が違ふ故でもあらうが、後人の追記が本文のに折り込まれて、全體の分量が增加した爲めでもあらうと思はれる。本書に『朱云』『或云』として引かれてゐるものには、隨分古いものもあるが、集解編纂以後のものも混入してゐる。繼嗣令集解に『基按』として引ける文の如きは、明かに集解以後の人の追記である。又本書に引ける天長以後の格文も、概ね後人の追記に成つたものと解すべきである。然し又政事要畧、法曹至要抄、令抄等の諸書に引用せられた令集解の逸文にして現存令集解に存せざるものもあるから、現存令集解がもとの本より分量が多いとは必しも斷言し難い。これを要するに、本書は永い間寫本で傳へられた爲めに、轉寫の間に誤脫攙入が屢々加つて、もとの本とは餘程違つたものが傳つてゐることは、略ぼ疑なきに庶い。

本書の撰者は、本朝書籍目錄に『直本撰』とあることによつて、平安初期の法學の泰斗惟宗朝臣直本と斷定してよからうと思ふ。直本の舊姓は秦公であつて、その本貫は讚岐國香川郡であつた。秦氏の遠祖は、秦始皇帝の後と稱する功滿王、融通王であつて、融通王の率ゐた百二十七縣の同族は、諸國に分置せられたと云ふから、直本は恐らくその讚岐國に分置せしめられた者の子孫であらう。續日本紀、神護景雲三年十月甲辰條には、讚岐國香川郡の人秦ノ勝倉下等五十二人に秦原ノ公の姓を賜うたことが見えてゐるが、秦原公なる姓は他に見えない姓であるから、秦原公は秦公の誤であつて、倉下等は或は直本の祖先ではないかと思ふ。直本の父は明かでないが、その兄の直宗は、淸和、陽成、光孝、宇多の四朝に仕へた有名な法律家であつて、官は左少史、明法博士、大判事、勘解由次官等を歷任して、能登權介、播磨大掾を兼ね、位は外從五位下より從五位下に進んだ。彼が、仁和四年十月、同僚凡春宗等と共に、阿衡の文を詔書に引ける左大辨橘廣相の罪を

勘申したことは、史上に名高い。直本の郷里讚岐國は、瀨戶內海の要津に臨み、田疇早く開け、文化夙に進みで、法律思想の如きも大いに發達し、平安初期には、多くの名ある法律家が輩出した。卽ち香川郡からは、直本兄弟を初めとして惟宗善經、同公方、令宗允正、同允亮、同道成等のその一族が出で、三木郡からは、櫻井眞相、同眞世、同右弼等が出で、寒川郡からは、讚岐千繼、同廣直、同永直、同永成、同當世、同時人等が出で、大内郡からは、凡香宗、阿蘇廣遠等が出てゐる。されば平安初期の名ある法律家は、大抵讚岐出身であると云つてもよい程であつて、當時の法曹界から讚岐人を拔き去れば、そのあとは頗る寥々たるものとなり了るのである。文德實錄、天安元年正月乙卯條には、讚岐國の百姓が前讚岐守弘宗王を訴へたことが見え、三代實錄、貞觀八年十月廿五日條には、同國香川郡の百姓縣春貞の妻秦淨子が、國司の判決に服せずして太政官に上訴し、その結果國司の判決が覆されて、守以下の國衙の官人は、判斷の失によつて夫々贖銅を徵せられたことが見えてゐる。百姓がその國司を訴へることは、當時に於てはさ程めづらしいことではない。が、百姓の一女子が國司の斷決に服せずして、終に太政官にまで上訴したといふやうなことは、全く他に例を見ないところであつて、この國人の法律思想の發達は、實に驚くべきものがある。元慶六年に讚岐守と爲つてこの國に赴任した藤原保則の傳記の如きも、當時のこの國の風潮を敍して、「此國庶民皆學法律。執論各異。邑里彊畔。動成諍訟。」と云つてゐる。直本は斯くの如き鄕土に生れ、兄直宗の家學を承けて、幼より法律を學んだ。さうして陽成天皇の元慶元年の頃には、正七位下彈正忠に任敍して、監察の事務を行ひ、同七年の頃には、右衞門少志に任じ、宇多天皇の寛平四年頃には、更に檢非違使右衞門尉と爲つて、追捕、推鞫の事務に當つた。直本の爲つた右衞門少志は、後世の所謂道志である。元慶元年十二月、兄直宗と

共に、本貫を讃岐より右京六條に移され、同七年十二月には、兄直宗、同族秦忌寸永宗、秦忌寸越雄等男女十九人と共に、惟宗朝臣の姓を賜つた。その後直本は、勘解由次官、主計頭、明法博士等の官を歴任したことは、「政事要略」、「二中歴」、「源語祕訣」等によつて知られるが、その歿年は詳かでない。「法曹類林」には、延喜五年の彼の勘文が見え、「源語祕訣」には、延喜七年二月廿八日の日附を有する彼の勘と認められる惟宗善經との勘文が見えるから、彼の歿年がそれより後であることは云ふ迄もない。されば直本は、清和、陽成、光孝、宇多、醍醐の五朝に歷仕した人であつて、餘程の老齡を以て延喜年中に歿したやうである。彼の著書には、本書の外に、前に一言した「律集解」十卷があり、又「撿非違使私記」二卷がある。然しこの二書は、共に亡んで今傳らず、「政事要畧」、「中右記」、「平戸記」、「法曹至要抄」、「裁判至要抄」等に、その逸文を存するのみである。直本が斯界の泰斗として當世に重んぜられたことは、彼の勘文が諸書に引かれ、彼の著書が弘く讀まれたことによつても知られるが、「西宮記」に讚岐永直の例に倣つて私第に於いて律令を講ずべき由の宣旨を給つたことの見えることと、「二中歴」に王朝の名法律家十人を擧げた中にその名の見えることとによつて、最も明瞭にこれを認めることができる。

本書撰述の年代が、撰者直本の壯年期からその歿年に至る約五十年間にあることは云ふ迄もないが、私は次の二つの理由よりして、本書撰述の年代を大體淸和天皇の貞觀年中に推定したいと思ふ。その第一の理由は、本書に引かれてゐる格及び式が、悉く弘仁の格式であつて、貞觀の格式ではないことである。卽ち本書に引かれてゐる格は、後人の追記に係るものを除いては、悉く弘仁十一年以前のものであり、又本書に引かれてゐる式には、弘仁式と明記したものはあるが、貞觀式と明記したものは一として存在しない。故に本書

は、貞觀格の編纂せられた貞觀十年以前に成つたものと推斷しなければならない。その第二の理由は、儀制令集解、太陽虧條に、夜間の日蝕に當つて廢務すべきや否やの問題に關して、何事をも語つてゐないことである。「三代實錄」元慶元年夏四月壬申朔の條には、當日夜の丑の一刻の日蝕に廢務すべきや否やに就いて、明經、文章、明法、暦等の諸道の博士の勘文を徵したことが見えてゐる。故に本書が元慶以後に成つたものであれば、その太陽虧條にこの問題に關して何等かの說が見えてゐなければならない筈である。況んや直本の兄直宗は、この時同僚櫻井田部貞相と共に、儀制令、太陽虧條の文を引いて勘文を進めてゐるに於いてをやである。然るに本書太陽虧條には、この問題に關して何等の說も見えないのであるから、本書撰述の年代は、元慶以前なる貞觀年中であると推斷しなければならないのである。

　直本が本書を撰した動機は明かでないが、公權的註解書である令義解が施行せられてから、僅かに半世紀を出でずして本書が撰述せられたことは、令義解に對する當時の法曹界の不信任を表明するものでなくて何であらう。本書に引かれてゐる跡、穴、椋、讚、物、貞、額等の令私記は、何れも令義解撰述の當時若しくはそれ以前の法律家の律令問答私記である。「令義解」は、その序によつて知られる如く、元來これらの所謂先儒の舊說の中よりその迂說を省き、正義を取り、學者をして學び易からしめ、與奪を異なる莫らしめん爲めに撰述せられたものであるから、その施行以後は、これらの諸說は不用であるべき筈である。然るに本書にこれらの諸說が引かれてゐるのは、當時の法曹が義解の所說に承服せずして、その本源に遡つて令意を解釋せんとしたからに外ならない。又直本が「令義解」の撰述以後に本書を撰した理由は、これを義解の註に更に註を附ける必要のあつたことにも求め得られる。承和元年十二月に、「令義解」が施行せられて後は、その

註文にも本文と同一の法的效力が與へられたから、義解以後の法律家は、令の本文を註解する如く義解の註文を解釋する必要があつた。「令集解」に引かれてゐる學說の中には、義解の註文を註釋し、又義解の註文を根據として他の令文を解釋したものも、往々にして見えてゐる。伴記の如きは、卽ちその著しい例である。斯やうに「令義解」の編纂以後、本書の如き私撰の法律解釋書を集大成したものが出たことは、ユスチニアヌス Justinianus 帝がインスチチユーシヨネス institutiones を作つて、嚴にこれを更に註釋することを禁じたに拘らず、その後これを註釋する學者が絕えなかつたことと比較して、まことに興味が深い。

本書敍述の體裁は、先づ大字を以て養老令の條文を逐條的に掲げ、その章句の間に註釋文を小字を以て夾註に挿入してゐる。斯くの如き體裁は、云ふ迄もなく唐の法律註解書の體裁に則つたものであつて、「令義解」も養老律も皆これと同じ體裁を取つてゐる。本書の註解文は、最初に義解の註を掲げ、次に古記、令釋、跡私記、穴記、貞記、物記、讃記、伴記等の日本の律令問答私記、宋私記、張私記、簡私記等の支那の律令問答私記、その令文の解釋に參考となるべき日本及び支那の律令格式及び八十一例、法例、判集等の法律雜書を引き、稀には『時行事』、『今行事』として當時の實際の慣行を掲げ、又『私案』として撰者自身の意見を附け加へてゐる。この體裁に對して例外を爲すものは、卷一官位令、卷廿考課令第三、卷卅五公式令第五の三卷であつて、この三卷に於いては、古記、令釋、跡記等はすべて見えずして、皆『或云』となつて居り、又他の卷に於いては『謂』として最初に義解の註を引いてゐるが、この三卷に於いては『義云』として最初の次以下に義解の註を引いてゐる。又この三卷に於いては、律文を引くこと他の卷よりも多く、又そこに引かれた學說は、他の卷のそれに比して一般に膚淺である。故に私は、この三卷のみは、早く闕卷となつてゐたもの

を、後人が補つたものであらうと思ふ。但しその補つた年代は、三巻とも違ふやうであつて、巻一は古く、巻廿及び巻卅五は新しい。前者を平安末期とすれば、後者は恐らく鎌倉期であらう。試みに巻廿及び巻卅五の註釋文を「法曹至要抄」、「裁判至要抄」、「金玉掌中抄」等の鎌倉時代に成れる法律書と比較してみよ。そこには或る共通の色彩の存することが看取せられるであらう。

前述の如く、本書は義解、令釋、律令格式等より引ける文の集積より成つてゐるが、その大部分を占めるものは云ふ迄もなく古記、令釋、跡私記等の日本の律令問答私記より引ける文である。故に本書の文章即ち律令問答私記の文章であるが、この律令問答私記の文章たるや、一種の和臭を帶びた古拙なる漢文である上に、一般には用ゐられない法律上の熟語があり、更に轉寫の際に生じた誤脱が尠くないから、これが讀解は古來一大難事業とせられてゐる。然しその文章の癖を呑込み、法律上の熟語に通じた上で、これを法律解釋學的頭腦を以て讀んでゆけば、案外明確にその意味を了解することができる。その文章は、文學の素養に乏しい法律家の手に成つたものであるから、一體に古拙であつて、菅原清公、小野篁等の文章家が筆を加へた「令義解」の文章の流麗なるに遠く及ばないが、それだけに日本的色彩が濃厚であつて、史料としての價値は高いと云はねばならない。又伴信友は「遊部考」の中で、本書を評して『さてこの書もとよりうるはしく撰註せるものにあらず、多くは諸説を打聞に記せる如き私記どもを書集めたりと見えたるが、中には文ざまのつたなく調はざるところあり、事の次第も前後いりくみ、又は同じことのいたづらに重りなどして、しどけなきものながら』云々と云つてゐるが、仔細に本書を點検すれば、本書の撰者は、ただ雜然と諸家の問答私記を書き集めたのではなくして、最初に古記、令釋等の權威ある私記を引いて通說とも云ふべきものを擧げ、

異說あるものは忠實にこれを掲げ、兩說あるものはこれに長劣を註記する等、諸家の問答私記を採錄するに當つて相當苦心を致した點が看取せられる。又前後入り組み、同じことの繰返されてゐることも、夫々意味のあることであつて、本書を一概に『しどけなきもの』と評するのは心なきわざである。

本書に引かれてゐる典籍は、すべてで百二十種ばかりに達してゐる。法律關係のものは、その中の五十餘種であつて、その他の七十餘種は、主として支那の古典及び字典である。法律關係のものは、これを大別して、日本及び支那の律令問答私記、律令格式、及び法律雜書の六類とすることができる。次にその主なるものを簡單に解說しよう。

〔甲〕日本の律令問答私記

(一) 古記　古令卽ち大寶令の私記であつて、古き令私記である古私記とは別物である。卷數、撰者ともに不明であるが、そこに引かれた格によつて、聖武天皇の天平九年十一月から同十二年八月に至る一年十箇月の間に成つたものであることが知られる。

(二) 令釋　これに二種以上あつて、古令の註釋書もあつたのではないかと云ふ疑があるが、本書に『令釋』又は『釋云』として引かれてゐるものは、大體新令卽ち養老令の註釋書と見てよい。「本朝法家文書目錄」に『令釋一部七卷卅篇』とあるもの卽ちこれであらう。撰者及び撰述の年代は共に不明であるが、古記に次いで古いものであることは略ぼ疑がない。又本書には、令釋と相並んで「新令釋」及び「令釋問答」なるものが引かれてゐる。「新令釋」は從來新令卽ち養老令の釋記の意味にとられてゐるが、これを新しき令釋の意味に解し得られない理由はないと思ふ。又「令釋後記」なるものもある。

（三）新令私記　撰者、卷數共に不明であるが、その書名より察するに、恐らく新令の施行後幾くもなくして撰述せられたものであらう。職員令集解に新令祕私記とあるもの及び雜令私記とあるものは、恐らくこれと同書であらう。新令問答、新令說またこれと略ぼ同じものである。

（四）律附釋　略して「附釋」と云ひ、又その一篇を職制律附釋、廐庫律釋等と云ふ。「本朝法家文書目錄」には「律附釋一部十卷」として、その細目を擧げてゐる。「日本國見在書目錄」には「律附釋十卷」と見えてゐるが、これは藤原佐世が本書を支那の典籍と見誤つたものであつて、支那にも同書名のものがあつたわけではない。撰者及び撰述の年代は全く不明である。

（五）跡私記　本書には「普通」「跡云」、「跡記」として引かれてゐる。「令抄」選敍に「跡問答」とあるものもこれであらう。跡は阿刀、安都、皆同じである。阿刀連又は安都宿禰某の令私記である。刪定令が引かれてゐるから、延曆十年以後弘仁三年以前のものであらう。

（六）椋記　「椋云」、「椋搢」、「椋據」とあるものの若干もこれである。「法曹類林」卷百九十七に見える椋橋部(クラハシベ)家主の令私記であらう。この記は多く穴記に引かれてゐるから、寶龜延曆の交に成つたもののやうに思はれる。

（七）貞記　「令抄」選敍に「貞大夫」とあるものも恐らくこの記であらう。貞大夫は從五位上明法博士貞江(サザエ)連繼人であらう。この人の名は「類聚國史」卷九十九、「法曹類林」卷百九十七及び二百、「菅家文草」卷九等に見えてゐる。本書に「江云」とあるものも、恐らくこの人の私記であらう。

（八）穴記　本書には「穴云」、「穴志」、「穴大夫」、「穴博士」、「穴太博士」等とある。「法曹類林」卷二百に

見える穴太内人の令私記であらう。延暦十五年に置かれて同廿四年に廢せられた造宮職及び刪定令の名が見えるから、延暦弘仁の間に成つたものであらう。

（九）物記　物部敏久の令私記であらう。敏久は三河國の人、大同の初年大宰少典と爲り、同三年外從五位下に敍し、弘仁の初明法博士と爲り、同四年物部中原宿禰の姓を賜はり、大判事に任ぜられ、同十年從五位下に進み、再び興原宿禰の姓を改め賜ひ、弘仁格式の撰述に與り、功を以て天長七年正五位上を授けられ、同十年には令義解の撰述にも與つた。本書に『興大夫云』『原云』とあるもの、亦恐らくこの人の私記であらう。

（一〇）額記　本書には『額云』、『額大夫』、『額博士』等とある。「令義解」の撰述を上請した明法博士額田國造今足の令私記であらう。今足の勘文は、「政事要畧」、「法曹類林」に見えてゐる。

（一一）讚記　『讚云』『讚說』、『讚案』『讚博士』等とあるもの即ちこれである。「令義解」の撰者の一人なる從五位下守大判事兼行明法博士讚岐朝臣永直の令私記である。永直は、前述の如く、本書の撰者直本の同鄕人であつて、性甚だ聰明、幼にして大學に齒し、好んで律令を讀み、弘仁六年明法得業生に補せられ、兼ねて但馬權博士と爲り、天長七年明法博士と爲つて右少史を兼ね、承和元年外從五位下を授けられ、大判事兼勘解由次官と爲り、同十三年正躬王等の獄に斷文を進めて權臣伴善男の意に戾り、嘉祥元年事に坐して土佐國に配流せられたが、翌二年文德天皇踐祚せらるるに及んで恩免を蒙り、明法博士、大判事に復任した。同三年老を以て骸骨を乞ひ、天安二年優詔を蒙つて私第に律令を講じ、貞觀元年從五位下に進み、同四年八十歲の高齡を以て第に卒した。本書には又、『後讚』、『堂讚』なるものが見えてゐるが、後讚は永

直の子時人、堂薦は永直の堂兄弟と認むべき讃岐永成ででもあらうか。永成は永直に次いで明法博士となつた人で、二中歴には直本、永直等と共に十大法律家の一人に數へられてゐる。

(一一) 民記　「民云」、「民博士」とあるもの即ちこれである。民は「法曹類林」卷百九十七にその勘文の見える民之人であらう。

(一二) 伴記　職員令集解のみに引かれてゐる。義解註を更に註してゐるから、義解撰述以後の人であることは疑がない。讃岐永直の論敵たる伴良田連宗が或ひはその人であらう。本書に「伊云」とあるものは、伊與部連家守の私記であらうと云ふ說もあるが「伴云」の誤りとする方が寧ろ穩當であらう。

乙　日本の律令格式

(一) 大寶律令　古記に見える律令の條文及び令釋、穴記等に「古律」「先律」「前令」「古令」として引けるもの等、即ちそれである。

(二) 養老律令　古記以外の律令問答私記に引ける律令の條文、及び古記が『新選』として引けるもの、即ちそれである。但し古記以外の律令問答私記に於いても、他の律令と區別する必要のあるときには、「新律」、「新令」、「今令」等と明記して引かれてゐる。

(三) 刪定律令。跡記及び穴記に「刪定令」「刪定」とあるものがこれである。刪定令は稱徳天皇の神護景雲三年に吉備眞備、大和長岡の兩人が養老律令を刪して首尾の差違を矯めたものであつて、桓武天皇の延暦十年に施行せられ、嵯峨天皇の弘仁三年に廢止せられた。

(四) 弘仁格式　本書に引かれてゐる格は、その傍註に引けるものを除いて、悉く弘仁の格である。又本

書に『弘仁式』として引けるものは、唯一箇所よりないが、本書に引ける式文が弘仁の式なることは、そこに引ける格が弘仁の格であることから類推せられる。「式逸」の編者の如きは、即ち本書引くところの式文をすべて弘仁式の逸文として採錄してゐる。

〔丙〕日本の法律雜書

(一) 別記　職員令集解の古記、令釋にのみ引かれてゐる。大寶令の別記(附屬法令)であつて、後世の式に當るものである。

(二) 彈例　彈正臺の糺彈の法式を定めたものであつて、これに奈良時代に成れる舊彈令と延暦十一年に成つた新彈例との二種がある。古記に引けるものは即ち舊彈例であり、讃記に引けるものは即ち新彈例である。「本朝法家文書目錄」に『彈例一卷』とあるものは、恐らく延暦の新彈例であらう。

(三) 省例　本書に引かれたものは、『式部省例』、『治部省例』、『刑部省例』、『囚獄司例』の四篇である。令釋に引かれてゐるから、奈良時代の例を類聚したものであることは慥かである。和氣清麿が撰したと云ふ「民部省例」と何等かの關係にあるものかも知れない。

(四) 八十一例　「本朝書籍目錄」及び「本朝法家文書目錄」に『八十一例一卷』とあるものがこれである。古記に引かれてゐるから、天平九年以前のものであらう。本書の外には「政事要畧」に引かれてゐる。

〔丁〕支那の律令問答私記

(一) 宋私記　『宋云』、『宋張云』等として引かれてゐる。「政事要畧」第七十に見える寛弘六年二月の令宗允正等の勘文に『唐儒宋云』とあるものも亦この記である。

〔二〕張私記　「張云」、「宋張云」、「宋張云」等として引かれてゐる。「政事要略」第七十に見える前記の勘文には、「唐信張云」云々とある。

〔三〕簡私記　「簡云」として引かれてゐる。宋、張、簡と並稱せられてゐることによつて、支那の令私記なることが推定せられる。

〔四〕唐令私記　「日本國見在書目錄」に、「唐令私記三十卷」とあるものがこれである。但しこの書、新舊唐書の藝文志、經籍志には見えない。

〔五〕唐令釋　この書、新舊兩書は勿論、「日本國見在書目錄」にもその名が見えない。

〔六〕杜氏傍通　引用の文に「部曲奴婢」の語あることによつて、唐の律令の註釋書であることが推測せられる。「通憲入道藏書目錄」に「律傍通一部一卷」とあるもの、或では本書であるかも知れない。

戊　支那の律令格式

〔一〕永徽律疏　「律疏」又は「本律」として引かれてゐる。本律は日本律の本と爲れる律の意である。

〔二〕永徽令　永徽令の名は集解中に唯一箇所見えるのみであるが、「本令云」、「唐令云」として引かれてゐるものの大部分は、永徽令の條文である。繼嗣令集解に引かれてゐる「封爵令」は、永徽令にあつて開元令にはない篇名であるから、それが永徽令の文なることは疑がない。

〔三〕開元令　開元令の名は、集解中に三四箇所見えるのみであるが、「本令云」、「唐令云」とあるものの中には、開元令の條文も多く含まれてゐる筈である。

〔四〕道僧格　「道僧格云」、「本格云」として僧尼令集解に引かれてゐる。道僧格は一條冬良の「令聞書」に

『唐開元令ニハ僧尼令ナシ。唐道僧格トイフ書ヲモテ、僧尼令ニツクリナスナリ』。と云へる如く、我が僧尼令の粉本となつたものであるから、本格は卽ち我が令の本づくところの格の意である。道僧格は唐の太宗の貞觀年間に僧玄琬の獻言によつて制定せられたものであつて、「日本國見在書目錄」に『僧格一卷』とあるもの卽ちこれである。

（五）垂拱格　本書には刑部格と吏部格とが各一條引かれてゐる。「舊唐書」經籍志、同刑法志、「唐六典」刑部郞中條及び「日本國見在書目錄」には、垂拱格二卷、同留司格六卷と見えてゐる。

（六）開元格　賦役令集解に唯一箇所見える。開元格には、開元前格、開元後格、格後長行格、開元新格の四つがあるが、本書に引かれてゐる開元格がその中の何れであるかは、今日これを判定することができない。

（七）永徽式　永徽式の名は本書中に見えないが、戶令集解に引かれてゐる「法例」中に見える『刑部式』及び公式令集解に見える『監門式』は僅かに永徽式の式文である。

（八）開元式　これに開元前式と開元後式との二種があるが、本書に引かれてゐる開元式がその何れであるかは不明である。

〔己〕支那の法律雜書

（一）格後勅　格後勅は、一つの格が編纂せられてから次の格が編纂せられる迄の間に發せられた所謂格後の勅にして時務に便なるものを蒐めた勅令集であつて、唐代に成つた格後勅には、開元格後勅、格後長行勅、太和格後勅、新編格後勅、大中刑法總要格後勅、垂拱格後常行格等がある。本書に引かれてゐる格

後勅は、天平十二年以前に成れる古記の中に見えるから、「唐會要」卷三十九に「神龍元年六月二十七日又刪定垂拱格及格後勅」とある垂拱の格後勅であらう。

（二）法例。　法例には高宗の咸亨初年に尚書左丞を以て卒した趙仁本の手に成つたものと、同じ高宗の世に戸部尚書を以て卒した崔知悌の手に成つたものとの二種がある。二書ともに高宗の世に斷獄の典據として用ひられたが、儀鳳二年永徽留司格成るに及んで高宗はその使用を禁じた。

（三）判集。　「日本國見在書目錄」には「判樣十卷。判軌一卷。救急判罪一卷。百節判一卷。貞觀勅九卷。中臺判集五卷。牛鳳及撰大唐判書一卷」とあるから、我が王朝に唐の判決集が多く傳へられてゐたことが知られる。本書に引かれてゐる判集も、その一種であることは、引用の文を一讀すれば、直ちに首肯せられる事柄である。

尙法律關係の典籍にして、その書名だけより知られないのには、「一卷私記」、「二卷私記」、「式部問答」、「春秋私記」、「公私記」等があり、書名すらも明かでないものには、「朱云」、「或云」、「一云」、「私記云」、「古問答」、「生云」、「博士云」、「大判事說」、「大夫云」、「古私記云」、「先云」、「師云」、「今說」、「舊說」、「先達說」、「大和山田說」等がある。「朱云」は朱書傍註に云ふの意であつて、朱某なる人の私記ではない。「大和山田說」は、共に養老律令の撰定に與れる正四位下大和長岡、及び明法博士山田白金(銀)の學說であらう。非法律關係の典籍は、多く支那の典籍であつて、日本の典籍は纔かに「古事記」、「楊氏漢語抄」、「東宮切韻」等に過ぎない。支那の典籍中、經部に屬するものには、「易經」、「周易」、「毛詩」、「韓詩」、「尙書」、「孝經」、「周禮」、「儀禮」、「禮記」、「論語」、「五經正義」、「春秋左氏傳」、「公羊傳」、「國語」、「孔子家語」、「爾雅」、「廣雅」、「釋名」、「白虎通義」、「說文解字」、

「字書」、「蒼頡篇」、「玉篇」、「聲類」、「文字集畧」、「切韻」等があり、子部に屬するものには、「老子」、「莊子」、「韓非子」、「管子」、「淮南子」、「呂氏春秋」、「風俗通」、「蔡邕獨斷」、「山海經」、「漢官典職儀」、「六韜」、「新序」等があり、史部に屬するものには、「史記」、「漢書」、「續漢書」、「晉書」、「隋書」、「烈女傳」、「帝王世歷」、「宋志」、「劉子風俗篇」等があり、集部に屬するものには、「楚辭」がある。又內典には龍樹菩薩の知度論があり、醫書には「甲乙子卷」、「葛氏方」、「針經」、「本草新註」等がある。

本書の價値は、全體としての本書の價値と、その引用書の價値とに大別することができる。而して全體としての本書の價値は、本書が「令義解」と相竝んで王朝の令意を解釋する最も重要なる註解書であること、大寶律令と養老律令とを比較硏究する殆ど唯一の材料であること、唐令と日本令とを比較硏究する好資料を提供してゐること、當時の法律と實際との間隔を指示してゐること、王朝法律學の學風を觀るべき最重要の資料であること、令義解の學說が發展して行つた過程を示してゐること等の點にあり、その引用書の價値は、種類によつて千差萬別であるが、その大部分が今日亡佚して傳はらないことは、その價値を高からしめてゐる所以である。本書が王朝時代に成れる現存唯一の令の私的註釋書である以上、それが義解と相竝んで令意を解釋する最も重要なる參考書であることは云ふ迄もない。本書は義解に比すれば數層倍も浩瀚なものであるから、その註釋は義解のそれに比すれば遙かに詳密である。世の律令を云ふ者、動もすれば義解のみを見て集解を見ることを忽せにしてゐるのは遺憾である。大寶令と養老令との差異點は、義解にもあらはしてゐるが、本書が最も多くあらはしてゐる。殊に大寶律と養老律との比較に至つては、本書の外に殆どこれを徵すべき材料がない。又唐令と日本令との差異點は、現存の令と「唐六典」、「唐會要」、「通典」、「文獻通考」、「冊

唐六典」、「唐律疏議」、「新舊兩唐書」等に見える唐令の逸文とを比較することによつてこれを發見することができるが、本書には明確に兩令の差異點を言へるものがあるから、兩令の比較を試みんとする人は、先づ本書を瞥見しなければならないのである。又令集解は、屢々「時行事」、「令行事」なるものを擧げて、それと法意と云ふものとの差異を説明してゐる。時行事、令行事と云ふのは、當時の實際の慣行であり、法意と云ふのは、文理によつて解釋せられる法律の意味である。斯やうに我が王朝に於いて、法律と實際の慣行とが一致しなかつたのは、云ふ迄もなく、當時の法律が外國より繼受せる法律であつたからであつて、この事は我が國の法制史を研究する者の輕々に看過してはならない事柄である。王朝の法律學の學風を觀るべき資料としては、本書の外に令宗允亮の「政事要略」があり、又藤原通憲の「法曹類林」がある。この兩書が、夫々平安中期、後期の學風を代表するものとすれば、本書は明かに平安前期の學風を代表するものであらねばならない。又本書は、令義解撰述以後に成つたものであるが、そこに引かれてゐる律令私記は多く義解撰述以前のものである。故に吾人は、本書と義解とを精細に比較することによつて、これらの律令問答私記の中の、如何なる説が令義解の撰者によつて採用せられたかを知ることができるのである。次に前項に掲げた數十種の法律關係の引用書の中で、現存してゐるものは、僅かに養老律令、弘仁格式、永徽律疏の五つであつて、その他のものはすべて亡佚し、中にはその書名すら傳らないものがある。而してその殘存せるものにあつても、全篇を存するものは、永徽律疏たる「唐律疏議」のみであつて、養老令は倉庫、醫疾の二篇を缺き、養老律は名例、衞禁の一部及び職制、賊盜の全篇を存するのみであり、弘仁格はその全部の目錄と格文の大部分とを存してはゐるが、編目を缺き、弘仁式は僅かに式部、主稅の斷簡を存するに過ぎない。されば本書に引かれたこれらの諸

書の逸文は、何れもその價値重大であるが、そこに見える律令格式の逸文は、その價値特に重且つ大である。「令逸」「律逸」「格逸」「式逸」の諸書が、何れもその材料を豐富に本書に求めてゐることは、本書の法制史上の價値の如何に重大なるかを雄辯に語るものであつて、本書を熟讀せずしては王朝の法制を論ずる資格がないと云つても敢へて過言ではない。而して本書の價値は、また決して上述の日本法制史上の價値に盡きるものではない。本書に引かれた支那の律令格式の類は、支那に於いても亡佚せるものであるから、本書が支那法制史の研究にも缺くべからざる史料であることは附言する迄もない。又本書に引かれてゐる支那の典籍は、皆當時の日本人が實際に見たものに相違ないから、本書はまた藤原佐世の「日本國見在書目錄」と相竝んで漢籍傳來の沿由を徴する重要なる史料たることを失はない。又本書には、遊部のこと、品部雜戶のこと、笠麻呂の木曾道を造つたこと等が見えてゐて、國史の闕を補ふべき材料も稀少ではない。

本書は、應仁の大亂以後、暫くその傳を失つたが、慶長以後、德川家康古書を寺社搢紳家に求めるに及んで、漸次世に出づるに至つた。慶長十九年七月、右大臣今出川晴季が家康の意を迎へて關白豐臣秀次より傳へた「令集解」十卷を、律二卷、令義解七卷と共に駿府に贈つたのは、實に近世本書の世に出た最初である。正德享保の頃、荷田春滿は本書を上梓すべきことを幕府の當路者に獻言したが、その事終に行はれず、本書は明治の初年まで寫本を以て傳へられた。本書の活字本が初めて世に出たのは明治五年正月であつて、この時には石川介なる人が十六種の古本を以て校正に當つたと云はれてゐる。然しこの活字本には、尚多くの缺點があつたので、故法學博士宮崎道三郎氏は、諸本を校合して底本を作るの急務を感ぜられ、明治三十一年以後、三浦周行、和田英松、佐藤球、幣原坦、中田薫の諸博士と共に、本書の校讀を行はれたが、事故あつ

て中止し、三浦博士獨りその後を承けて高橋萬次郎、植木直一郎の兩氏と共に、更に校合の事に從はれ、明治四十五年六月、その結果得たる校本を、國書刊行會の求めに應じて出版せられた。而も學に忠實なる博士は、その後と雖も本書を完璧に近づけんとする念願を絶たず、普く天下の善本を旁搜し、京都帝國大學學生の有志と相會し、更に校合の功を積まれること年有り、今回その新たに得たる校本を鉛槧に附し、不肖私をしてこれに標註を加へしめられた。本書卽ちこれであつて、これが今日のところ最も行屆いた「令集解」の校本であることは云ふ迄もない。（昭和六年三月十日稿）

令集解卷第一

官位令第一凡十九條
職員令第二凡八十條
後宮職員令第三凡十八條
東宮職員令第四凡十一條
家令職員令第五凡八條

第二卷

神祇令第六凡廿條
僧尼令第七凡廿七條
戶　令第八凡四十五條

第三卷

田　令第九凡卅七條
賦役令第十凡卅九條
學　令第十一凡廿二條

第四卷

選敍令第十二凡卅九條
繼嗣令第十三凡四條
考課令第十四凡七十五條
祿　令第十五凡十五條

第五卷

宮衞令第十六凡廿八條

第六卷

軍防令第十七　凡七十六條
儀制令第十八　凡廿六條
衣服令第十九　凡十四條
營繕令第二十　凡十七條

第七卷

公式令第廿一　凡八十九條

第八卷

倉庫令第廿二　凡廿二條
廐牧令第廿三　凡廿八條
醫疾令第廿四　凡廿七條

第九卷

假寧令第廿五　凡十三條
喪葬令第廿六　凡十七條
關市令第廿七　凡三(二)十條
捕亡令第廿八　凡十五條

第十卷

獄令第廿九　凡六十三條
雜令第三十　凡四十一條

以上三十篇條數九百五十五條

〔義云〕義解云の略なり。集解が令義解の文を引く場合には、本文本註の下に「謂云々」として夾註に作るを例とせるも、この官位令第一と考課令第三及び公式令第五とは「義云」としてこれを引けり。

〔或云〕或る令私記に云ふの意なり。古記に「一云」と云へるも同じ意なり。他の諸篇に於ては「跡云」「穴云」「讃云」等の如く私記の著者の名を擧ぐるを例とせるも、本篇及び考課令第三、公式令第五に於て

令集解

令集解卷一

官位令第一　凡十九條

義*云。官位謂大臣以下書吏以上曰官。一品以下初位以上曰位。凡位有貴賤。官有高下。階貴則職高。位賤則任下。官位相當各有等級。故曰官位也。令謂教令也。教以法制。令其不相違越。故曰令也。第一謂第者次第也。一者數之始也。既居諸篇之首。故曰第一「也」。*或云。官音古丸反。官猶職位也。官猶事也。官法也。吏事所居也。版圖文書舍也。位胡愧反。位處也。位列也。孝經。能保其祿位。鄭玄曰。食禀曰祿。居官曰位也。職掌所事謂之官。朝堂所居謂之位也。凡臣事君盡忠積功。然後得爵位。得爵位然後受官。官有高下。位有貴賤。准量。補任官職之高下。故曰官位。言官與位相當令也。又云。周易下繋辭云。天地之大德曰生。聖人之大寶曰位也。爾雅釋名曰。朝廷左右謂

日或云ト云ヘリ。

〔問令字若爲訓何答〕當時の明法家の令私記は、屢問答の形式によりて、法律問題を解釋せり。唐律疏議にも問答多く見えたれば、問答體を以て律令を註釋することは、支那の法律家より學べるなるらむ。

〔若爲〕イカガ、又はイカンカと訓む。若一の一字のこともあり。以下文中にこの用語頗る多し。

之位、郭璞「注」曰、群臣之列位也。

或云、問、*令字若*爲訓「何」。答、令者無疏、語(誥)其是非教其法則。故謂之令、又云、法也、式也、教令之法耳。論語云、天將以夫子爲木鐸。孔安國云、木鐸施政教之時所振也、言天將令夫子制法度、以號令於天下也、孝經、故能成其德教、而行其政令。又論語、子曰其身正不令而行、其身不正雖令不從、注令教「令」也、尙書云、臣下罔攸稟令、孔安國曰、令上命也、儀禮令月吉日、鄭玄曰、令吉也。爾雅、令善也、野王案、尙書。惟王嗣有令緖、毛詩、我無令人竝是、又曰、令告也、野王案、謂告語也、毛詩、自公令人是、說文、令發號也、廣雅、令伶也、使也、莊子、飾(餙)小說以干縣令、其於大達遠矣、漢書、縣令、秦官掌治其縣、萬戶以上爲令、秩千石至六百石戶、減萬戶爲長、秩五百石「至三百石皆有丞尉」。野王案、縣令之名遠矣、齊太公爲灌壇令、西門豹爲鄴令、虞卿爲蘭陵令是也、漢書、令甲死不可復生、文穎曰、蕭何承秦法、「所」作爲律令、令律經是也、天子詔所增損不在律上者爲令「令」甲者前帝第一令也、「[illegible]云、大[illegible]甲子[illegible]云、黃帝大[illegible][illegible]也」臣瓚曰、董仲舒書云、令百七十篇、莫善於甲令、是使教令之令爲伶、字在人部、漢書、遂西郡有令支縣、音郎定反、金城郡有令居縣、

〔黃石公下略云〕黃石公の著と傳へらるゝ三略の下卷なり。

〔杜預律序〕この書、今傳らざるも、この句、太平御覽六百三十八に引かる。

〔商君書〕この書、今傳らざるも、漢書藝文志には「商君二十篇」とあり。

〔申子〕申子六篇は、漢書藝文志に見えたり。

〔刑書〕刑は型にして人を型して正しからしむるの意なり。故に刑書は刑罰書の意にあらずして、廣く法律書を意味す。

〔律綵也〕以下十三字釋名の文なり。

〔令有律語〕今日の刑

晉速。又或云。令者法也。誥也。教也。言誥其是非。教其法式。周禮。王佾公會其期。鄭玄曰。佾猶令也。「尙書云。臣罔攸稟令注云。令者上命。」*黃石公下略云。出君下臣。名曰命。施於竹帛。名曰令。奉而行之。名曰政也。然則受君命注竹帛。以國行故云令(命)也。命(令)不行則政不正。政不正則道不通。道不通則邪臣勝。蔡邕獨斷曰。奉而行「之」。名曰令。著之竹帛。名曰政。是與下略殊耳。周易習坎卦云。王公設險以守其國。孔穎達曰。法象天地。固其城地。嚴其法令。以保守其國也。孝經述義序曰。法令漸章也。禮記。祭義伊耆氏爲蜡。卽農神也。祭初也。文子問老子。法安所生乎。老子曰。法生於義。義生於衆。適合於人心。此治之要也。法非從天下。非從地出。發於人間反己自正。爾雅釋名曰。令「猶」領也。言理領人「之」身。使不相犯也。漢書曰。南陽太守杜周曰。前主所是著爲律。後主所是疏爲令。當時爲是何。古之法也。*杜預律序曰。律以正罪名。令以存事制。管子曰。法者所以興功懼暴。律者所以定分正爭。又云。法者法天地之位。象四時之行。「所」以治天下。四時之行有寒有暑。聖人之法故有文有武。天地之位。有前有後。有左有右。聖人法之。以建經紀。春生於左。秋殺於右。夏長於前。冬藏於後。生長之事文也。殺藏之事武也。是故文事在左。武事在右。聖人法之。以行「法」令以治事

法、民法等の語に形式的、實質的の二義ある如く、當時の律令の語にもこの二義ありて、律、令は形式的には夫々教令法典、刑罰法典の意味を有し、實質的には教令法、禁令法の意味を有す。故に令法典の中にも實質的律即ち刑罰法規あり、律法典の中にも亦實質的令即ち教令法規あるなり

〔上宮太子幷近江朝廷唯制令而不制律〕推古天皇の十二年、聖德太子十七條憲法を作り、天智天皇の稱制七年、中臣鎌足等近江令二十二卷を作れることを謂へるなり。十七條憲法が法律なりや否やに就きては學者の間に議論あれど、王朝の人士がこれを以て令の一種と考へたることは、此文によりて明かなるべし。又天智天皇の御代に成りしは令のみに

理。又云。正月之朝(朔)。百吏在朝、君乃出令。布憲于國、五鄉之師大夫。皆受憲於上大夫。商*君書曰、法令者民之命也、爲治之本也、所以備民也。智者不得過。愚者不得「不」及。*中子曰、君之所以尊者命、命不行。是無君也。故明君愼令也。楊雄劇秦美新曰、金科玉條注云。科條謂所施法律金玉當珍之也。鹽鐵論曰。夫善言天者。合之於人、善言古者、考之於今。〔今〕二尺四寸之律。古今一也。崔寔「政」論曰。君以審令爲明、臣以奉令爲忠、故背制而行賞。謂之作福。背令而行罪。謂之作威、作威則人畏之、作福則人歸「之」。夫威福者人主之神器也、譬之操莫邪矣、執其柄則人莫敢抗、失其柄則還見害也。杜預奏事云。古之刑*「部」書。銘之鐘鼎。鑄之金石。斯所以塞異端絕異理也、凡令以教喩爲宗。律以懲正爲本。此二法雖前後異時。並以仁爲旨也。或云、問、律令之別。答。律者訓詮訓法。詮量輕重。依義制律。案尙書大傳云。丕天之大律注云。奉天之大法。法亦律也。又禮記王制證明律訓法也。律*繰也。言繰囚人心使不放肆也。**律令前後事**問。律令誰先誰後。答。令*有律語。假如。獄令云。犯罪應入議請者。皆申太政官。應議者、大納言以上判事等。於官議定。雖非六議本罪應奏。處斷有疑者。亦衆議量定是。律有令語。假令。雜律違令者五十注云。行路巷街賤避貴之類是。以此案之耳。謂其制。但就書義論。令者教未然事。律者責違犯之。然則略可謂令先萠也、又上*宮太子幷近江

あらずして、律もこの時に成れりとの說あれど、此文によれば近江の朝に成りしは令のみなりしこと知らる。

〔跡同〕上記の文、跡私記の文に同じの意なり。跡私記のことは後に說くべし。

〔律令格式〕律令格式は、唐及び我が王朝に於ける成文法源の主なるものにして、唐六典には「凡律以正レ刑定レ罪。令以設レ範立レ制。格以禁レ違正レ邪。式以軌レ物程レ事。乃立二刑名之制一焉。」とあり。又弘仁格式序には「律以二懲肅一爲レ宗。令以二勸誡一爲レ本。格則量レ時立レ制。式則補レ闕拾レ遺。」とあり。卽ち之によれば、律は禁止法にして刑罰法規を多く含み、令は敎令法にして行政法規及び民事法規を包含し、格は臨時法にし

朝廷。唯制令而不制律、以斯言也、然令先萌也。跡同。問、斷獄律云、凡斷罪皆須具引*律令格式正文者、未知、格式何物、答、格者蓋量時立制、或破律令而出矣、獄令云。犯罪未發及已發未斷決逢格改者。若格重。聽依犯時。若格輕。聽從輕法者。律亦引此文。故知破律令出也矣。或助律令而出矣、但有稱律謂格文耳、名例。犯罪雖未老疾。而事發時老疾者。依老疾論條注云。若事發時無疾。斷日加疾推有故作者。准格仍依犯時者案之。此稱格者卽是律也。其式者、補法令闕、拾法令遺。讀令之日。當所說也。但有稱律謂式處「分」耳、名例云。其本應徒已決杖笞者。則以杖笞贖直准減徒年、注云。若一年徒中已決笞五十。卽以五斤之銅。減役九十日。減外殘徒。各依式配役者。案之當條卽稱式也。或云、第者居也。次也、又或云。第者且也、言聖人作法未必一時得之、又云、第者不定辭。或云第一、或云第五之類也、

或云。先授位階、後任官職耳、然則可云位官令、而云官位令、是取詞順、更無異義也。師說、此說乖文、須隨文爲義。(准脫カ)令、官是貴而位卽賤也、何者選叙令云、散位若見官無闕。雖有闕才職不相當者、六位以下分番上下、又條云。散位身材劣弱不堪釐務、式部判補諸司使部。名例律云、初位非職事品秩卑微、又云。職事初位與八位同者。然則雖有位無官之日其身猶賤、以此言之。先擧官後云位、良有其由。譬猶牛角與耳、何者論先後者。耳先生。准長短則角是長也、今論先後者。位是先也、論貴賤者、官則貴故也、或難云。*師說未安、何者歷檢律條。有官無位之輩犯罪者加貞*決、無官有位之類違法者

て律令法典の規定を改廢增補し、式は補充法にして、律令格の施行細則を規定せり、四者相須つて當時の爲政の要具をなせり、

「師說未安」師說は撰者惟宗直本の師たる人の學說なるが如きも必しも然らず。或私記に引ける師說は、その私記の著者の師匠の說なり。未安は未だ安定せずして疑問の餘地あるを謂ふなり。

「贖決」贖銅、官當、加杖等の換刑、若しくは閏刑を執行せずして笞杖徒流死の正刑を執行することなり。

「私選敍云」選敍令私記云の意なり、

「又條云」同條云の謂にて、此にては選敍令の條文を指示す、

用贖法。又以位當罪之日。其職自解却。然則以官爲貴。未可。私*選敍云。任兩官以上者。一爲正。餘皆爲兼。義云。官位相當者爲正。若皆不相當者以一高者爲正。*又條云。任內外文武官。而本位有高下者。若職事卑爲行。高爲守。義云。其郡司軍毅者。雖是外武官既非官位相當之職。故不關此條也。案此等文。官位相當者可注其官位姓名。不相當者可注某位行守某官姓名。由此言之。先官後位之義於此可知。既是官位相當之令也。故云官位令。然則不可習官位貴賤及詞順牛角等之說。加以。典籍之義當據成文。不可以牛角准論之。問。令是教令法也。非科斷之制。而義解序云。遂至同聽之獄生死相半。連案之斷出入異科者其意何。師說。令條內。有不加敎令直科罪之文。然而一端擧多。文稱敎令。今(令カ)序論出入之科者。蓋得此意耳歟。問。義云。大臣以下書吏以上曰官者。檢職員令。郡司軍團各制其職。而不載此令何。師說。既非官位相當職。仍不載此令。然則依職員令猶得官名。唯今稱大臣以下書吏以上者。止指載此令之官耳。須隨文習。

問。義云。一品以下初位以上曰位。選敍令云。內外五位以上勅授。內八位外七位以上奏授。外八位及內外初位皆官判授者。此各(令カ)不載外位如何。

〔問前令有散品散位此令除意〕前令は大寶令なり。養老令を今令、新令と云ふに對して、大寶令を古令、前令と稱す。問ふ所の意は、大寶令には散品散位に關する條文ありしに、養老令に於て之を除ける理由如何といふなり。斯く新古二令の差異を擧げたるは、義解にも見えたれど、集解には百數十ケ所の多きに及べり。新古二令比較研究の好資料と云ふべし。

〔下文〕後出の條文を謂ふ。

〔不見正文可有臨時處分〕法典に適用すべき條文なければ、時に臨んで詔勅官符を以て適宜の處分をなすべしとなり。

〔八十一例〕臨時の處分

師說。「隨」文習。

問。選敘令云。帳內資人。本主亡者。期年後送式部。任職事。即改入內位者。因此言之。外位不可任職事哉。師說。不可以一概執。何者大少領是職事也。是則可敘外位之故。但載此令之旨。不可以外位任。

親王。一品。

義云。品謂位也。親王稱品者。別於諸王。公式令云。應敘者親王四品。諸王五位。諸臣初位以上是也。或云。*問。前令有散品散位。此令除意。答。雖無散品之字。而無職掌之人。自然應在散品故除耳。

問。案下文。*勳一等相當正三位。至于親王未見相當。若親王有勳功者。敘勳位之法何。所以發問者。義云。品謂位。親王稱品者。「別於」諸王者。既可異諸王。然則不可准諸臣稱等故也。師說。*不見正文。可有臨時處分。

太政大臣。

或云。凡諸王諸臣任太政大臣。親王不任左右大臣。但任八省卿。諸臣任太政大臣。亦諸王不任左右大臣。親王任左大臣者。諸王得任右大臣。諸王任左大臣。諸臣亦得為右大臣。但親王與諸臣。不得為左右也。問。此說可用哉。答。此取八*十一例文。宜習彼例。

にして、以て永格となすべきものにあらざるも、取つて例となすべきもの八十一事案を收載せる刑書ならむ。本朝諸家文書目錄及び政事要略にこの書名見えたれど、今傳らず。八十一なる數は恐らく極數九の九倍より來れるなるべし。

〔行守文〕選敍令に「凡任二内外文武官一而本位有二高下一者。若職事卑爲レ行。高爲レ守。」とある條文を指せるなり。

〔黃袍〕无位の百姓の著する衣服なり。

〔此令〕官位令を謂ふなり。

〔鬪訟律〕「凡監臨官司、於二所統屬一官及所部之人有高官而毆之。及官位同自相毆者。並同二凡鬪之法一」なる條文の一部なり。

一品。左右大臣。
三品。「四品」。大納言。大(太)宰帥。八省卿。
或云。問。親王三品八省卿者。得任彈正尹京職長官乎。答。此令云官位相當之法。然依*行守文上下。即知得任無障。又除前令下文諸王不下六位字故。
諸王。諸臣。正一位從一位太政大臣。正二位從二位左右大臣。
正三位大納言。勳一等。
義云。「謂」此條舉勳一等者。以顯相當正三位故也。下皆准此。依公式令。文武職事散官朝參行立。各依位次爲序。故知一等以下。皆著當色之服。立文官之列。假如。一等行列者。立正三位之下從三位之上之類也。然案衣服令。勳位服色。其制不顯。即知一等以下。不帶文位者。皆著*黃袍也。
或云。*此令。非爲任用相當也。唯爲示官位同階相次耳。假令。*鬪訟律。官位同自相毆者。並同凡鉤(幼カ)(均)(鬭カ)法也。如此事之類相同耳。師說。不可爲官位同。此止爲行列生文故。問。名例律官當條云。有二官先以官位當。次以勳位當。注云。官位每階各爲一官。勳位即正從各爲一官者。然則非止爲行列生文。兼爲官當授法歟。問。以勳一等准正三位。儀制令云。在路相

〔私案〕私案とあれば、撰者惟宗直本の意見の如く思はるゝも、必しも然らず。この私案の如きは或る私記の撰者の私案なるべし。

〔時行事〕當時の實際の慣行を謂ふ。律令施行以後、官廳内に發達せる慣習法にして、事實上法意即ち律令の眞意と乖違せるもの多し。故に集解は、屢々法意と行事とを竝べてその差異を指摘せり。令集解がこの行事と法意との差異を示せることは、王朝時代に於ける法律の實際を知らしむる重要なる史料たるなり。時行事は又一に今行事と云ひ、又單に行事と稱す。

〔天平寶字五年二月一日格〕この格、類聚三代

過。三位以下遇親王皆下馬云云。今所疑勳位致敬及下馬皆准文位哉。師說。據檢法條無有明文。如此之事可有臨時處分耳。或云。外位行列亦准當勳位列當位下。無職掌者於散位寮上下。*私案。外位不可朝參。何者。郡司不可在京之故。又不可上散位寮。仍須於國上下。但*時行事雖非郡司有外位。非是令意耳。或云。問。（將軍依無職掌不載此令事）除將軍意何。答。將軍檢職員令無有職掌。但有所征討者臨時差充耳。故不載此令也。

從三位。大宰帥。勳二等。

（品位差別事）或云。問。三品四品任八省卿何。三位之任不降八省卿。答。品者功淺。位者功深。然禁而所不言也。

（*中納言改正四位上爲從三位官事）天平寶字五年二月一日格云。勅。中納言。准格。正四位上。此則職掌既重。季祿尙少。自今以後。宜改爲從三位官。又彈正尹爲從三位官。其格在下。

正四位。皇太子傅。中務卿。以前上階。七省卿。勳三等。從四位彈正尹。

*天平寶字三年七月〔十〕三日格云。勅。准令。彈正尹者從四位上官。官位已輕。人不敢畏。自今以後。改爲從三位官。主者施行。

左右大辨。以前上階。神祇伯。中宮大夫。春宮大夫。勳四等。
陸奥出羽按察使大宰大貳等。爲從四位下官。*其格在下。

正五位

或云。問。前令有外位之字。然「案」選叙令合有外位。今除如何。答。凡得外位人者。郡司并帳內資人等。然其選年甚遠。人年不久。故除耳。然有所賜者。雖三(五カ)位而猶得外位耳。*神龜五年三月廿八日格云。內外五位不合同等事。右謹案官員(位)令。外名之興者自正五位上階訖從五位下階。於內相當惣是四階。又據選叙令云。凡內外五位以上勅授。准祿令五位以上不在食封之例。直稱疋屯之數。則知內外之目舊來殊號。祿料之色未有處分。禮數等級豈合同科。自今以後隨名異秩。以外則別姓高下。以內則擇家門地。其五位以上子孫歷代相襲。冠蓋相望。并明經秀才堪爲國家大儒後生袖領者。即叙內位。**明經秀才大儒後生可敘內位事**「餘選外位。但得外位。「後」積其功效。應入內位者。便叙當階。」不須連延日時。但其別勅特授不拘此式云云。
*弘仁三年正月廿六日格云。太政官謹奏。應增陸奥出羽兩國按察使位階事。右謹檢案內。去*養老五年六月十日奏。用件官品准正五位上。爾來流行以至

格、卷五、定官員并官位事の條及び續紀卷二十三に見えたり。
〔天平寶字三年七月三日格〕この格、類聚三代格、卷五、定官位事の條及び續紀卷二十二に見えたり。
〔其格〕陸奥出羽按察使を從四位下の官となす格は弘仁三年正月廿六日の官奏にして、大宰大貳を從四位下の官となす格は延暦廿五年二月十三日の官符なり。
〔神龜五年三月廿八日格〕この格、類聚三代格、卷五、定內外五位等級事の條及び續紀卷十に見えたり。
〔弘仁三年正月廿六日格〕この格、類聚三代格、卷五、定官員并官位事の條及び日本後紀卷廿二に見えたり。
〔養老五年六月十日奏〕この奏、類聚三代格、卷五、定官員并官位事の條に見えたり。

〔延暦廿五年二月十三日格〕この格、類聚三代格、卷五、定官員幷官位事の條及び日本後紀卷十三に見えたり。

今日。臣等商量。方面之任。威風所存。夷「內」之「倡」。瞻仰是賴。然則職重階輕。管大勢少。伏望增階品爲從四位下。將優邊守且鎭物情。臣等商量具件如前。伏聽天裁。謹以申聞謹奏。

左右中辨。大宰大貳。

*延暦廿五年二月十三日格云。應改大宰大貳官位事。右被右大臣宣偁。奉勅。准令。大宰大貳是正五位上官。自今以後。宜改爲從四位下官。

中務大輔。左右京大夫。大膳大夫。攝津大夫。衛門督。左右衛士督。以前上階。彈正弼。左右少辨。七省大輔。大判事。勳五等。

〔義解。以彈正尹（弼カ）置七省大輔次。〕

從五位。中務少輔。左右大舍人頭。大學頭。木工頭。雅樂頭。玄蕃頭。主計頭。主稅頭。圖書頭。左右兵衛督。左右馬頭。左右兵庫頭。大國守。以前上階。神祇大副。侍從。少納言。大宰少貳。七省少輔。大監物。中宮亮。春宮亮。左右京亮。大膳亮。攝津亮。衛門佐。左右衛士佐。皇太子學士。內藏頭。縫殿頭。大炊頭。散位

〔神龜五年七月廿一日格〕この格、類聚三代格、卷四、廢置諸司事の條に見えたり。
〔弘仁九年五月九日格〕この格、類聚三代格、卷四、加減諸司官員并廢置事の條に見えたり。

頭。陰陽頭。主殿頭。典藥頭。上國守。一品家令。職事一位家令、勳六等。或云、一位者本位也、餘皆放此、

　神龜五年七月廿一日格云、齋宮寮頭一人、〔從五位官〕、助云云。勅依前件。＊弘仁九年五月九日格云、定新置齋院司官位職員事。長官一人。〔從五位下官〕、次官云云。右被中納言兼左近衞大將從三位行春宮大夫陸奧出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣偁、奉勅、宜依件定。

正六位。神祇少副。大內記。彈正大忠。左右辨大史。正親正。內膳奉膳。造酒正。兵馬正。鍛冶正。造兵正。畫工正。典鑄正。掃部正。內藥正。東西市正。官奴正。鼓吹正。園池正。諸陵正。贓贖正。囚獄正。一品家令。以前上階。大外記二人。〔元正七位上官。今改爲正六位上官、其格在下、〕大宰大監。八省大丞。彈正少忠。中判事。左右大舍人助。大學助。木工助。雅樂助。玄蕃助。主計助。主稅助。圖書助。左右兵衞佐。左右馬助。左右兵庫助。內兵庫正。土工正。葬儀正。采女正。主船

〔神龜五年七月廿一日格〕前出。

〔弘仁九年五月九日格〕前出。

正。漆部正。縫部正。織部正。隼人正。內禮正。內藥侍醫。大學博士。大國介。中國守。勳七等。

*神龜五年七月廿一日格云。齋宮寮助。正六位官。勅依前件。

從六位。神祇大祐。大宰少監。八省少丞。中監物。中宮大進。春宮大進。內藏助。縫殿助。大炊助。散位助。陰陽助。主殿助。典藥助。主水正。主油正。內掃部正。筥陶正。內染正。舍人正。主膳正。主藏正。上國介。一品家扶。三品家令。職事一位家扶。職事二位家令。以前上階。

*弘仁九年五月九日格云。太政官符。定新置齋院司官位職員事。次官一人。從六位上官。右被中納言兼左近衛大將從三位行春宮大夫陸奧出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣。奉勅。宜依作定。

神祇少祐。少判事。大宰大判事。中宮少進。春宮少進。左右京大進。大膳大進。攝津大進。衛門大尉。左右衛士大尉。大藏大

〔神龜五年七月廿一日格〕前出、

〔大同三年八月三日格〕この格、類聚三代格、卷五、定官員并官位事の條及び日本後紀卷十七に見えたり、

〔延暦二年五月十一日格〕この格、類聚三代格、卷五、定官員并官位事の條及び續紀卷三十七に見えたり。

主鑰。主鷹正。主殿首。主書首。主漿首。主工首。主兵首。主馬首。下國守。勳八等。

*神龜五年七月廿一日格云。舍人司長官一人。(従六位官。)藏部司長官一人。(従六位官。)膳部司長官一人。(従六位官。)勅依前件。*大同三年八月三日格云。太政官符。炊部司長官主典官位事。右得齋宮寮解偁。件司。元長「官」一人。而今改置長官主典。未審官位。仍請處分者。右大臣宣。奉勅。宜准舍人藏部等司官位。

正七位。中内記。大外記。(*延暦二年五月十一日格云。太政官謹奏。大外記二人。右二員元正七位上官。今爲正六位上官。)以前頃年之間。前件一官。職務繁多。觸途忩劇。詔勅格令自此而出。至於官位(品)實合昇進。臣等商量改張具如前件。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞謹奏。

大宰大工。大宰少判事。左右辨少史。大宰大典。八省大錄。彈正大疏。左右京少進。大膳少進。攝津少進。衛門少尉。左右衛士少尉。内藏大主鑰。防人正。二品家扶。四品家令。以前上階。

少外記二人。元從七位上官。今「改」爲正七位上官。少内記二人。元正八位上官。今改爲正七位上官。其格竝在下。

〔神龜五年十月廿一日格〕この格、類聚三代格、卷四、加減諸司官員并廢置事の條に見えたり

〔大同三年二月四日格〕同前。

〔延曆二年五月十一日格〕この格、類聚三代格、卷五、定官員并官位事の條及び續紀卷三十七に見えたり。

大宰主神。彈正巡察。左右大舍人大允。大學大允。木工大允。雅樂大允。玄蕃大允。主計大允。主稅大允。圖書大允。左右兵衞大尉。左右馬大允。左右兵庫大允。少監物。大主鈴。判事大屬。助教。

*神龜五年十月廿一日格云。勅。大學寮律學博士二人。直講三人。文章博士一人。以前。一事以上同助博士。*大同三年二月四日格云。太政官符。紀傳博士一員。右右大臣宣。奉勅。割直講員置件博士。其官位同直講。

醫博士。陰陽博士。天文博士。主醬。主菓餅。大國大掾。勳九等。

從七位。少外記。*延曆二年五月十一日格云。太政官謹奏。少外記二人。右二員元從七位上官。今爲正七位上官。以前頃年之間。前件一官職務。繁多。觸途忿劇。詔勅格令自此而出。至於官位實合昇進。臣等商量改張具如前件。謹錄事狀。「伏」聽天裁。謹以申聞謹奏。

左右大舍人少允。大學少允。木工少允。雅樂少允。玄蕃少允。主計少允。主稅少允。圖書少允。左右兵衞少尉。左右馬少允。左

〔弘仁九年五月九日格〕この格、類聚三代格、卷四、加減諸司官員并廢置事の條に見えたり。

〔神龜五年七月廿一日格〕この格、類聚三代格、卷四、廢置諸司事の條に見えたり。

右兵庫少允。內藏允。縫殿允。大炊允。散位允。陰陽允。主殿允。典藥允。音博士。陰陽師。曆博士。書博士。算博士。呪禁博士。大國少掾。上國掾。一品家從。三品家扶。職事一位家大從。職事正三位家令。以前上階。

＊弘仁九年五月九日格云。太政官符。定新置齋院司官位職員事。判官一人。（從七位上官。）右被中納言兼左近衛大將從三位行春宮大夫陸奧出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣。奉勅。宜依件定。

正親佑。內膳典膳。造酒佑。兵馬佑。鍛冶佑。造兵佑。畫工佑。典鑄佑。掃部佑。內藥佑。東西市佑。官奴佑。鼓吹佑。園池佑。諸陵佑。贓贖佑。囚獄佑。大解部。大宰博士。大典鑰。大藏少主鑰。醫師。漏尅博士。針博士。一品家少從。二品家從。二品文學。四品家扶。職事一位家少從。職事從三位家令。勳十等。

神龜五年七月廿一日格云。齋宮寮少允一人。（從七位官。）主神司中臣一人。（從七位官。）酒部

〔大同元年七月廿一日格〕この格、類聚三代格、卷五、定官員幷官位事の條及び類聚國史、卷百七、職官部十二に見えたり。

司長一人。從七位官。水部司長一人。從七位官。殿部司長一人。從七位官。掃部司長一人。從七位官。勅依前件。

正八位。少內記。※大同元年七月廿一日格云。太政官符。今定內記四人。大內記二人。右依舊正六位上官。少內記二人。右定正七位上官。以前。右大臣宣。奉勅如件。大宰少典。八省少錄。彈正少疏。內兵庫佑。土工佑。葬儀佑。采女佑。主船佑。漆部佑。縫部佑。織部佑。隼人佑。內禮佑。少主鈴。內藏少主鑰。呪禁師。針師。藥園師。典履。典革。大宰陰陽師。大宰少工。大宰算師。中國掾。防人佑。大宰主船。大宰主廚。以前上階。神祇大史。中宮大屬。春宮大屬。左右京大屬。大膳大屬。攝津大屬。治部大解部。刑部中解部。衞門大志。左右衞大志。判事少屬。主水佑。主油佑。掃部佑。筥陶佑。內染佑。舍人佑。主膳佑。主藏佑。按摩博士。衞門醫師。左右衞士醫師。三品家從。三品四品文學。職事一位家從。勳十一等。

神龜五年七月廿一日格云、膳部司判官一人、正八位官。勅依前件。

從八位。神祇少史。中宮少屬。春宮少屬。左右京少屬。大膳少屬。攝津少屬。衞門少志。左右衞士少志。左右大舍人大屬。大學大屬。木工大屬。雅樂大屬。玄蕃大屬。主計大屬。主税大屬。圖書大屬。左右兵衞大志。左右馬大屬。左右兵庫大屬。少典鑰。按摩師。雅樂諸師。左右兵衞醫師。馬醫。四品家從。大國大目。以前上階。刑部少解部。治部少解部。左右大舍人少屬。大學少屬。木工少屬。雅樂少屬。玄蕃少屬。主計少屬。主税少屬。圖書少屬。左右兵衞少志。左右馬少屬。左右兵庫少屬。內藏大屬。縫殿大屬。大炊大屬。散位大屬。陰陽大屬。主殿大屬。典藥大屬。主計筭師。主税筭師。大國少目。上國目。一品家大書吏。職事一位家大書吏。勳十二等。

神龜五年七月廿一日格云。齋宮寮大屬一人。少屬一人。已上從八位官。主神司忌部一

〔弘仁九年五月廿二日格〕この格、類聚三代格、卷四、加減諸司官員幷廢置事の條に見えたり。

人。宮主一人。已上從八位官。采部司長一人。從八(七)位下(官カ)。藥部司長一人。從八位官。勅依前件。
弘仁九年五月九日格云。太政官符。定新置齋院司官位職員事。主典二員。從八位下官。右被中納言兼左近衞大將從三位行春宮大夫陸奥出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣「偁」。奉勅。宜依件定。
*弘仁九年五月廿二日格云。新置齋院司宮主一員。准從八位下官。右被中納言兼左近衞大將從三位行春宮大夫陸奥出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣「偁」。奉勅。宜依件定之。

大初位。內藏少屬。縫殿少屬。大炊少屬。散位少屬。陰陽少屬。主殿少屬。典藥少屬。正親大令史。內膳令史。造酒令史。兵馬大令史。鍛冶大令史。造兵大令史。畫工令史。典鑄大令史。掃部令史。內藥令史。東西市令史。官奴令史。鼓吹大令史。園池令史。諸陵令史。贓贖大令史。囚獄大令史。畫師。大宰判事大令史。一品家少書吏。二品家大書吏。職事一位家少書吏。以前上階。正親小令史。兵馬小令史。鍛冶小令史。造兵小令史。典

鑄小令史。鼓吹小令史。贓贖小令史。囚獄小令史。內兵庫令史。土工令史。葬儀令史。采女令史。主船令史。漆部令史。縫部令史。織部令史。隼人令史。內禮令史。挑文師。大宰判事少令史。防人令史。中國目。二品家少書吏。

神龜五年七月一日格云。舍人司主典一人。大初位官。藏部司主典一人。大初位官。膳部司主典一人。大初位官。勅依前件。

大同三年八月三日格云。炊部司長官主典官位事。右得齋宮寮解偁。件司。元長一人。而今改置長官主典。未審官位。仍請處分者。右大臣宣。奉勅。宜准舍人藏部等司官位。

少初位。主水令史。主油令史。內掃部令史。筥陶令史。內染令史。舍人令史。主膳令史。主藏令史。染師。下國目。三品四品家書吏。職事一位家書吏。義云。案家令職員令。職事二位有大少書吏。而於此令不別大少。共居同階。此則家吏品秩卑微。是以不更煩差降也。以前上階。
主鷹令史。主殿令史。主書令史。主漿令史。主工令史。主兵令

史。主馬令史。職事三位家書吏。

令集解卷一

本奥云

合本書加一見至要所所或加首書或合點畢

建治二年二月廿四日校合畢　權大納言藤原在判

文永六年三月一日合本書讀了　越州刺史

本云

文應元年七月八日平旦見合本書了　權大納言藤在判

建治二年後三月十三日引合正親町本校合了

慶長三年重陽於燈下令校合了　清原秀賢

右令集解借薩州山田氏之本謄寫訖

弘化三丙午歳冬十一月廿二日今月十八日初執筆至今日功成　神谷克楨

右令集解第一卷以御園先生本令書寫
執筆中嶋莊三郎庚戌五月廿日一校了

慶亥蒲月念日課少内記賢好令校合畢　吏部清原秀賢

寬永十一甲戌仲秋令一校畢　大府侍郎中原職忠

右者河邑秀興先生之以藏本如本書
寫卽一校畢元本ハ以或本寫之由赤字卽元本之書込也黃字ハ花山院家ノ御本　越智通邦（印）

明和丁亥孟秋與河郁氏一會了　安永二年三月廿九日

文政三年五月以彰考館本校正了　撿校保己一

令集解巻二

職員一

神祇官條　太政官條

〔釋云、穴云、跡云、朱云、貞云、讃云〕何れも令釋云、穴私記云、朱書云、貞私記云、讃私記云の略にして、平安初期になれる諸家の令私記を引けるものなり。跡、穴、讃、貞の何人なるやに就いては、稻葉通邦の神祇令和解、佐藤誠實博士の律令考に考證あり。余その闕を補ひて、これを新版大日本人名辭書に入れたり。以下適宜の場所に於いて各私記を解說すべし。

〔官有員條〕養老職制律の第一條に「凡官有二員數一。而署置過レ限。及不レ應レ置而置。（謂非二奏任一者。）一人杖一百。三人加二一等一。十人徒二年。後人知而聽者。減二

職員　謂職者職司也。員者員數也。官省寮司等各有員數也。細而言之。則司別長官以下雜任以上也。釋*云。說文曰。員物數也。百官數令耳。謂職制律云。官*有員數條注*云。內外百司雜任以上在令。各有員數是也。但直丁等使著耳。「問。雜任以上者。案律官有員數。謂內外百司雜任以上。於令各有員數。選敍令云。使部式部制補者。由是見此義。「數」稱雜任以上者使部以上。然則直丁雖有員數不約此文其意何。答。古來或稱直丁以上。而作義解之日稱雜任以上。然則直丁以下不約職員之字便載耳。問。律爲科罪殊舉得考以上。或人彼律云過「置」直丁之日科違令者。今於令直丁駈使丁已有員數。而偏想律文稱雜任以上若有由哉、私案。義云。職者職司。又穴云。職猶云官者。以此見之。使部以上得考之色。堪稱官直丁以下非得考之色故不入職字歟。然則便載之說於義無妨。問。或云職字兼官與職掌兩途。假令。神祇以下惣判以上之員數者何。答。往古之說也。今於義有明文。不可依彼說(記)。」穴云。職主也。職掌也。業也。今說云。職猶言官也。神祇官太政官中務省之類是也。員者長官以下使部以上之員也。但直丁等者便附耳。案此意與古令稱官員令之時無別。跡云。職謂神祇以下至惣判官事也。員謂諸官省寮并其內主典以上即就此。亦云。伴部以下人等員耳。朱云。職者職掌也。員者百官及使部以上之數。但直丁之數便顯耳。私心同。故。職制律讀曰。署置直丁過限者科違令罪者。或人異說耳。未知。但或說員者長官以下直丁以上員。又百官之員者非。貞云。職員者先大旨一事也。猶云職之員者。未明。讃說。員者人數。何者職制律計人數科罪。又後宮職員令。妃二員。夫人三員。嬪四員。此則人員故者。未明。但私同。何者職制律云。官有員數者已稱員字也。其注即引此令故也。讃云。職主也。職掌也。業也。或云。職猶官也。謂百官數令耳。即雜任以上也。但直丁等便著耳。或說。職主也。職掌也。業也。言職者職

掌。員者長官以下直丁以上之員。又官之員也。問。二說何爲長。答。雜任以上之說爲長。何者職制律官有員數。而署置過限者。一人杖一百注云。官有員數。謂内外百司雜任以上。在令各有員數之故。但於職字者。上讀字訓也。下惣說大意也。取文雖別。上下無別。*靜可檢也。私案。於職字亦兼官與之職掌之兩途也。

令第二　凡八十條

神祇官

釋云。神祇者是人主之所重。臣下之所尊。祈福祥。求永貞。無所不歸神祇之德。故以神祇官爲百官之首。「尚書。知人則哲。能官人。野王案。官猶職位也。禮記。欣喜歡愛樂之官也。鄭玄曰。官猶事也。又曰其官於天也。鄭玄曰。官位也。說文。史事所居也。廣雅。官君也。」

伯一人

釋云。爾雅云。正伯長也。郭璞注云。正伯皆官長也。讃云。問。以伯字爲官長意。答。爾雅云云。然則用此字非無由也。但此司以伯字。余司用他字者不見其由也。

掌神祇祭祀。釋云。孔安國孝經傳云。天精曰神。地靈曰祇也。周禮云。祀大神享大鬼祭大祇。鄭玄曰。大神者天也。大鬼者人也。大祇者地也。「或云。周禮云。大宗師伯以吉神事鬼神祇。以禋祀々昊天上帝。以實祭祀日月星辰也。禮記。有文經莫重於祭。天子祭天地。諸侯祭社稷。大夫祭五祀。尚書大傳曰。祭之言爲祭也。察者至謂祭百神也。堯典曰。所重民食喪祭。孔安國曰。重祭所致敬也。廣雅曰。祭薦也。論語。孔子曰祭神如神在」古記云。問。神祀諸祭。答。疏祭與令祭義異也。天神者。伊勢。山代。鴨。住吉。出雲國造齋神等是也。地祇者。大神。大倭。葛木。鴨。出雲大汝神等是。所謂耳也。私。神祇「令」跡云。自天而下坐曰神也。就地而顯曰祇也。祭祀謂祓於神祇令諸祭。但班諸國社幣帛亦在耳。又祀就神祭就祇而讀。然廣言時皆同耳。朱云。貞說掌社名帳耳。但祭祀之事不可掌。未知。而何掌名帳之由。若臨時爲奉幣帛等歟何。私案。見神祇令終條。如可掌諸國社何。讃

前人案當一等上里求者爲是者。被二徵須一者勿論。卽軍機要速。並レ非機密者。不レ用二此律一とあるものなり。

〔注云内外百司雜任以上在令各有員數〕これ前掲職制律初條の疏なり。集解には律の注と疏とを混同して何れも「注云」と云へり。これ疏を一に子注と云ひ、略して更にこれを注とも呼びし故なるべし。

〔二說何爲長〕長は長所、採長補短の長にして勝る、優る等の意なり。二說何れかまされりと爲すやと訓むべし。

〔靜可檢也〕これ上記の或私記の問答に對する疑點を注記せるものなり。この私案は、直本の私案と見られざるにあらざれども、恐らくは靜備を讀める後人の追記ならむ。

〔衛禁律云神部不覺減二等〕この律、石原正明の律逸に洩れたり。思ふに石原正明は、この條文に相當する條文を唐律に發見し得ざりし爲め、これを我が律の逸文と斷定することを躊躇したるなるべし。然れども唐の衛禁律には「諸闌二入太廟門及山陵兆域内一者徒二年。越レ垣者徒三年。大社各減二等。」一等。守衛不レ覺減二二等一なる條文あり。我が律は、これを「凡闌二入大社門一者徒一年。」云々なる條文と「凡闌二入山陵兆域内一者笞五十。」云々なる條文との二條とし、太廟を大社と改め、守衛を神部と改めたるなり。「禰宜破布里是神部也。神主是爲監神。」なる說明は、恐らく律の疏文に據れるものならんも詳ならず。

說。神祇令所云十三種祭祀。皆此官預知者。未知何計十三種哉。而計其種有十三種耳。私案。神祇令有十九度祭也。就中神衣。大忌。風神。月次。道饗。鎭火。此六祭各二度也。故祭名止有十三種耳。又云。神祇令云。凡天神地祇者。神祇官。依常典祭之者。此則用祭字者總稱辭耳者。讚云。問。神祇二字有別。答。孔安國孝經傳云云者。案天之神地之祇也。故神祇令天神地祇也。又古記云云也。又跡記云云也。問。祭意訖(記)。答。周禮云云也。案於神曰祀。於祇曰祭也。但神祇令用祭字者總稱辭耳。跡記云。此祭祀者。神祇令所謂仲春年祈祭以下。季冬道饗祭以上諸祭是也。不及諸國祭祀。但班諸國社幣帛之日亦掌行耳。此云無於跡記。季冬如「上」。神祇竝記(跡說)。但以下見上。祝部。謂爲祭主贊辭者也。其祝者。國司於神戶中簡定。卽申太政官。若無戶人者通取庶人也。釋云。說文曰。祝者爲祭主贊辭者也。師記云。或國司選定。或神祇官遣使卜定也。有神戶者取神戶內。無神戶者取庶人也 民部例免課役。若犯罪差替。遭喪服闋復任也。古記云。問。祝部何人。答。取神戶之內。又無神戶所者在祝部一人「耳」。或國司選定進上也。「或」神祇官遣使卜定也。穴云。祝部取用及考選竝依別式也。「問。祝部犯罪遭喪差替。遭喪服闋復」「問。贊詞之意。答。助神詞告於人。助人詞申神心耳。」「問。神祇令云。仲冬上卯相嘗祭。」「義云。大倭住吉云々等也。神主爲受官幣帛而祭之。*衛禁律云。神部不覺減二一等。監神亦減二一等。物記云。禰宜。破布里是神部也。神主是爲監神。假於多社者多朝臣者。今案此等文可有禰宜神主。而唯擧祝一色。若約祝部之何哉。」朱云。祝部職掌何事。凡與神戶其別何。答。了見後記也。讚云。若犯罪差替。遭喪服闋復任者。是時行事耳。「或記云。禮記曰。脩其祀假以降上神。鄭玄曰。祝爲主人饗神之辭也。又曰。祝祭於祖則迎四廣之主。鄭注曰。祝接神者也。周禮云。大祝掌六祈以同鬼神祇也。又云。大祝掌六(祝)祝云辭以事神祇祈祥求貞。」

神戶事

神戶。讚云。問。神戶行事。答。神祇令云。神戶調庸及田租竝充造「神」宮及供神調度。皆國同檢校申送所司者。是知。神戶者輸調庸及租。而充造神宮竝供神料者。但雜徭者役公事耳。於今有格。役掃社等。私案。弘仁二年九月廿三日官符云。應令神戶百姓修理神社事。右奉勅。諸國神戶例。多課丁供神之外不起公役。宜役其身修理神社。隨破且修。莫致大損。國司每年巡檢修造。若不遵改更致緩怠者。隨「陵」狀科秡也。名籍。謂祝部名帳。神戶戶籍也。案戶令雜戶戶籍。更寫一通各送本司。

「古記无別也」古記の說亦上記の說と異ることなしとなり。同說と云ふに同じ。

「其計帳者雖無正文論理尋情亦別記可送」條文には名籍とあるのみにして、計帳の文字見えざれども、名籍即ち戶籍を掌るとある以上は、戶籍と密接不離の關係にある計帳の事をも亦掌るものと解釋すべしとなり。

「問」以下の問答恐らく古記の文なるべし。

即神戶籍亦須准此也。「釋云。名籍者祝部名帳神戶々籍也。古*記无別也。跡云。无別。又云。此等皆別寫可送也。」朱云。祝部神戶名籍者。國惣造籍三通之外。別更寫一通送神祇官耳。未知。神戶計帳亦掌何。貞說不掌也。諸說皆同也。私情不安何。不掌心。而專神戶人不作計帳何。答。了見後記也。讚說。祝部神戶名籍者祝部名帳也。神戶戶籍計帳竝掌。貞不同也。又更云。籍者猶社。何者門籍是不必戶籍故者。又此書云。神戶名籍者。令案此等說。神祇官只掌名籍也。戶籍不可掌。未知其理何。但令釋及諸說。戶籍掌者。私案。名籍戶籍簿帳竝同歟。何者中務省職掌。云諸國戶籍者。又京職職掌。云戶口名籍者。又諸國職掌。云戶口簿帳故者。讚云。名籍者。就上一色也。言掌祝部之名帳。亦掌神戶戶籍計帳也。此籍與門籍異。其*計帳者雖無正文。論理尋情。亦別記可送。問。送方如何。答。作讀解送太政官。官受取分付。一如公戶帳籍也。問。此司掌神戶籍帳意。答。爲勘知。則役調庸幷田租等(管)也。

大嘗事

大嘗。謂嘗新穀以祭神祇也。朝諸神之相嘗祭。夕者供新穀於至尊也。釋云。嘗猶試也。「言試嘗新穀之始以祭神祇。令云。大嘗者每世一年國司行事。以外每年。所司行事是。」古記云。問。大嘗若爲。答。爲「每」年供奉也。「神祇令云。大嘗每世一年云云卽是。」跡云。大嘗謂每世大嘗。亦此司幷國司行事耳。」朱云。神祇令仲冬下卯大嘗祭是也。」問。嘗新穀行事。答。細旨可依別式。問。義云。朝相嘗祭者。然則上下卯日相嘗幷無別哉。答。上卯所司所行也。下卯爲以新穀供至尊所祭耳。或記云。神祇令所謂仲冬下卯大嘗祭是也。嘗猶試也。言試嘗新穀之始。以祭神祇。禮記郊特牲曰。祭有報焉。鄭玄曰。謂若獲禾報稙也。春秋桓十四年秋八月壬申。御廩災。乙亥嘗。釋例曰。始殺而嘗。謂建之酉月。蒹葭蒼蒼。白露爲霜。陰氣始殺。嘉穀始熟。於是薦嘗於宗廟也。凡天子卽位。卜食二國。設飯食。供奉朝夕之禮。自外神祇官依例行事也。神祇令云。大嘗者每世一年。國司行事。以外每年所司行事卽是也。

鎭魂。謂鎭安也。人陽氣曰魂。魂運也。言招離遊之運魂。鎭身體之中府。故曰鎭魂。問。*案神祇令。大嘗鎭魂旣在常典之中。而此重載其義何知。答。凡祭祀之興。新穀爲本。新穀所科。率土共賴。唯此二祭者。是殊爲人主不及羣庶。旣爲有司之愍慎。故別起之。又問。此令以大嘗次鎭魂之上。神祇令以鎭魂居大嘗之上。兩處次第何其不例。答。

〔神祇官式〕これ恐らく弘仁神祇官式なるべし。但し延喜式、卷二、四時祭下にはこの條文見えたり。
〔問大嘗鎭魂此二祭者不約上神祇祭祀之句〕大嘗、鎭魂これ又祭祀の一種なり。然らば先に神祇祭祀とあれば、この二つは祭祀の中に含まれゐるにあらずや。然るに茲に特にこの二つの祭祀を揭げたるは何故ぞやと設問せるなり。

此令依事大小爲次。何者神祇令所謂天皇卽位惣祭天神地祇。是則大嘗事旣重大。御亦親供。故次鎭魂之上。神祇令者依祭先後爲次。故居大嘗之上。隨事設文不必一例。「釋云。鎭殿也。人陽氣曰魂。々運。人陰氣曰魄白也。然則召復離遊之運白。令鎭身體之中府。故曰鎭魂。案神祇令。大嘗鎭魂旣入神祇祭祀之例。*然所以別顯者。祭祀之中此祭尤重故顯耳。朱云。鎭魂謂神祇令仲冬寅日鎭魂祭者是。問。鎭魂祭何神。答。神祇官式云。鎭魂祭神八座。神魂。高御魂。生魂。足魂。魂留魂。大宮女。御膳魂。辭代主。問。稱布利之由。答。古事記云。饒速日命。降自天時。天神授瑞寶十種。息津鏡一。部津鏡一。八握劍一。生玉一。足玉一。死反玉一。道反玉一。蛇比禮一。蜂比禮一。品品物比禮一。敎導若有痛處者。令茲十寶。一二三四五六七八九十云而布瑠部。由良由良止布瑠部。如此爲也(之)者。死人反生矣讀云 問。*大嘗鎭魂此二祭者。不約上神祇祭祀之句。答。旣人祭祀之例。然所以別顯者。祭祀之中此祭尤重故別顯耳。所謂仲冬寅日。鎭魂祭是也。鎭殿也。言如前駈後殿之殿也。凡人之陽氣曰魂。魂運也。人之陰氣曰魄。魄曰。然則召復離遊之運白。令鎭身體之中府。故曰鎭魂。唯擧魂爲例。則有魄可知。故不云魂魄耳。禮記郊特牲云。凡祭愼諸此。魂氣歸于天。形魄歸于地。故祭求諸陰陽之義也。殷人先求諸陽。周人先求諸陰。祭義。宰我曰。吾聞鬼神之名不知其所謂也。子曰。氣也者神之感也。合鬼與神。敎之至也。鄭玄曰。氣謂噓吸出入者也。耳目之聰明爲魄。合鬼神而祭之。聖人之敎致也。春秋昭公七年傳。及子產適晉。趙景子問焉曰。伯有猶能爲鬼乎。子產曰。人生始化曰魄。旣生魄陽曰魂。用物精多。則魂魄强也。杜預曰。魄形也。魂陽。神氣也。强物權勢也。孝經援神契曰。魂者芸也。魄者白也。宋均注云。芸除穢濁也。潔白情性。所以芸情白性者。時以苞含供奉之道也。易繫辭云。遊魂爲變。謝靈運曰。精氣之爲物常遊魂變化。飄飡在天地之間也。韓康伯曰。聚極則散。而遊魂爲變也。遊魂言其遊散也。

御巫。卜兆。謂在女曰巫也。卜者灼龜也。兆者灼龜縱橫之文也。凡灼龜占吉凶者。是卜部之執業。非長官自行之事。然而於此稱之。欲顯官內諸事皆由長官故。兼附以注於職掌之中。其以下諸司亦准此例。釋云。巫者知鬼神之道也。在男曰巫。在女曰覡。一說。在男曰覡。在女曰巫。此令取此說。覡音胡的反。員

〔別記云〕別記は其內容より見るに、令の細則を示せるものにして別式と云ふも不可なし。集解中引用せられたるものは、古記、令釋の二書に過ぎず、されば別記は大寶令の附屬法令ならむ。

〔神祇式〕この神祇式は後人の書入なれば恐らく延喜神祇式、四時祭下の記事なるべし。

〔而臨時令行事〕令は副詞にして「べし」と訓むべし。

數考選敍式處分。別記云。*御巫五人。倭國巫一口。左京生嶋一口。右京坐摩一口。御門一口。各給庸守一人又免戶調役也。灼龜爲卜灼驗爲兆也。曲禮疏皇侃云。凡用龜名卜。用蓍名筮。卜者覆也。有二義。一則綠已志不定。故須檢覆。二則大事。前筮後卜。既已前筮。又重之以卜覆之。以此二義。故名覆也。筮者決也。亦有二義。一則綠已志未了。應須決定。二則決在龜前。事非重覆。以此二條。故受決稱也。古記云。別記云。御巫五人云云。在釋。問。卜兆若爲。答。卜者燒龜甲也。兆者燒效驗。巫術亦名爲卜兆也。跡云。巫。神奈伎。朱云。問。御巫何時可用何。答。不見。伴云。問。答。兆者燒牛馬骨等。讀云。問。御巫爲何事者。答。不見行事。但見時行事。相代一人。*神祇式云。九月祭伊勢大神宮神嘗祭云云。御巫奉齋神祭。御門巫奉齋神祭。座摩巫奉齋神祭。生嶋巫奉齋(齋カ)神祭。右御巫以下諸祭並於神祇官齋院祭之。又十一月鎭魂祭條云。右某(其)日御巫於官齋院舂稻舂以龜竈炊以韓竈訖。卽盛闕筥納櫃居案也。忌部一人執向祭所供也。」

總判官事。謂卜兆以上皆既大事。是故別注供神之人。自外諸事不可具顯故稱總而兼之。問。總判糺判。其別廻何。答。考課及他司移送諸事。不待判官。而長官得獨行。故曰總判。判官者唯知官內尋常之事。故曰糺判。釋云。凡長官者。考事及自他司來雜事。不待判官而判之。但判官者糺判官內尋常之事。故稱長官總判。判官糺判。穴云。總判只判官注糺判。以臨時尋常爲別。不以大小爲別也。私案。雖尋常事。若大者申長官令判。何者釋官後雖尋常。釋官勘定後。申大臣令總判。故凡應送他司事。皆爲符移解。下述(送カ)了。故送他司。及自他司來書者。必經長官令判。何者施行之文必印。印卽長官掌故。私案。但應斷罪色。不必經長官。自卽推斷。舊文云糺判。又判官所斷令理故。又職掌無長官次官者。判官亦掌長官之行事。公式令云。無長官則次官判官署。又云。少輔以上不在者。餘官見在者。准此故。但事大臨時聽裁耳。跡云。稍注。官內糺判與上總判別何。答。糺判官內者。自他司來事。並令違他司事等。皆當定例。令行事雖不經長官。而稍自得行判。但臨當司內事。*而臨時令行事。令待次官以上處分。以此爲別也。次官以上。所以不注審署者。皆約總判耳。餘他司放此也。朱云。長判也。私案同此　讀云。但貴賤不一定耳。　朱云。次官以上職掌。無審署何。答可署也。可見公式令也。未知。何文不云。

〔朱云〕朱書に云ふの略なり。集解の寫本に「米云」「未云」等とあるもの多くはこの朱云の誤寫なり。諸家の令私記には、何人とも知れず、之を批見せる者が、朱筆を以て自己の意見を書き入れたるものあり。朱云は即ちこの朱記を引けるものにして、或云とあるものと實質的には同じものなり。

〔伴云〕伴某なる明法家の令私記なり。平安初期の著名の明法家にして、伴姓を有するものは、伴良田連宗なれば、この令私記は、恐らく宗の令私記なるべし。宗の傳は、文德實錄、齊衡二年正月己酉の條に見えたり。即ちそれによれば、宗は畿外の國より貢擧せられて大學に入り、明法の第を得て大宰の明法博士に任ぜられ、仁明天皇の承和八年京都に召さ

若略歟。或云。約總制何者何。答。貞說不決也。讃云。問。依官事與官内爲別歟。答。不然。依總字與糺字爲別耳之。餘長官判事准此。大副一人。釋云。副輔。輔之言佐也。言佐長官而共治其事也。掌同伯。餘次官不注職掌者。掌同長官。謂以下諸司。多不注者。故立此例。文云不注。恐似注者不同長官。此有別掌者注。無別掌者不注。故下條云抄寫判文。其主典之職掌。豈唯鈔寫判文。餘皆准此條例。故特注其別掌。餘次官注職掌者。亦皆准此。穴云。餘次官不注職掌者。其大納言別注職掌。不同長官。但此條之例。太政官條。并倣用也。*朱云。餘次官不注職掌者。掌同長官者。未知。注職掌者何。答。此亦同也。見大納言職掌也。讃說。有職掌次官。亦可同長官。唯顯漏長官職掌事。並不可行政耳。私。問。有別掌。次官誰。答。大納言中務大輔内侍典侍等是。讃云。問。注云。餘次官不注職掌者。掌同長官。未知。注職掌者何。答。大覽同之。細言小別何者大納言掌參議庶事者與右大臣以上參議。是同長官也。若無長官者可得獨行。但敷奏宣旨侍從獻替等。是特加職掌耳。穴案。大納言不同長官。但長官無者。行之無妨。引無長官者次官考。又少輔不在者。餘官見在人准此。又無長官者。次官掌之等文爲證也。少副一人。掌同大副。大祐一人。釋云。率下扶上謂之祐。祐之言佑也。佑亦助也。詩云。受天之祐。箋云。祐福也。切韻云。祐者神助也。音尤救反。方言祐亂也。郭璞曰。此亂宜訓治之也。「然則祐者蓋以福助人之義。故以此字爲神祇之判官。穴云。祐音胡救反。祐助也。」*伴云。周易曰。祐者助也。天之所助者從(順)也。人之所助者信也。「讃云。率下扶上謂之祐。々之言佑也。佑亦助也。詩云。受天之祐。箋曰。祐福也。切韻云。祐者補助也。音尤救反。」又云。祐者天之福也。然則祐者蓋以福助人之義。故以此字爲神祇之判官也。此字「祜歟。玉云。胡古切。詩云。受天之祜。箋云。祜福也。玉云。手救切。助也。易曰。自天祐之吉無不利。或作佑。」祐佑難定。故二說之。掌糺判官内。朱云。糺官内未知一端何。答。史生不繕寫公文。省掌不敎訴人之類者。讃同(曰)(問)未知。何此司稱省掌哉。若爲餘司歟何。問。未知公罪私罪皆糺判

哉。答。皆可糺判。唯於〈檢カ〉勾長官有難耳。貞說同。

審署文案。 謂審署者審察主典勘造文案。而署之也。文案者。施行曰文。纏置曰案也。「玉篇。審詩甚反。尙書。乃審厥象。野王案。審猶詳諦也。國語。無不審。賈逵曰。審信也。」釋云。審察。史所注之文案署名。故稱審署也。施行謂之「文」。留官謂之案也。跡云。審署文案者。謂主典自勘造公文訖判官見監印其文并案署也。讃云。私案。公文者文案總名也。或云。施行謂之公文。留官謂之案者劣也。

勾稽失。 謂勾勘也。稽稽留也。失失錯也。依律公事及文書。並有稽留失錯之罪。卽知。稽留失錯者。行事文書皆兼之也。「釋云。緩期謂之稽。失理謂之失。皆謂文案稽失也。若行事者。入糺判之例耳。長官以下稽失皆勾也。或說。勾以下稽失「已上稽失不得勾者非。何者職制律見文云。在外長者有犯者。次官以下不得勾者。卽知。在京長官有犯可勾故。」古記云。問。判官勘校稽失監印若爲。答。勘校長官以下稽失。往來公文印之監印知耳。但無印所掌也。或說。當司之內政事稽失勘問。無所廢闕施行耳。問。若爲司別無印。答。案公式令。內印方三寸。下諸國公文。則印事狀物數及年月日。亦印鈴尅傳符署處。外印方二寸半。太政官及諸司。案文則印之。太政官判用。諸國印方二寸。上京公文及案調物則印之。自外勿用。唯師說隨後造將給宣也。穴云。稽失謂先爲覆勘主典檢出立文。其判官自檢發亦是也。爲得訪察精審庶事兼擧之最故也。但不據稽失者。皆約糺判耳。跡云。稽者公文稽程也。失者公文失錯也。問。糺判與勾何別。答。不文案而直言判行事曰糺判。勘文書稽失曰勾。然則此人。有長官以下犯并稽失等。皆令勘。但在外長官依職「制」律耳。朱云。勾稽失者。公文之稽失也。見令釋也。次官以上。非違稽失。判官可糺勾者。未知。於次官以上。所可稱公文稽失何。答。公式令見文也。讃說亦同。何者詔書式。卿大少輔錄宣奉行。是如式不注。并連署不如法之類。除在外長官之外。在京諸司長官以下等。皆可糺勾者。但物云稱不得。問。在外長官者去上京遠。是故疑不申上官。問。律別立文云也。然則在京長官者必申上官。可令推問耳也。不收、*又物記依此說。不同此說也。私案。亦不安也。二度尙不收也。抑稱在長官者。只長官一人歟。何者職制律云。若無長官者。次官執印者亦同長官故。又物說云。次官執印者。若無次官者判官亦同者。未

れて右小史となり、十一年右大史となり、十二年左大史に轉じ、十四年外從五位下に敍し、嘉祥元年勘解由次官となり、俄かに大判事に遷り、二年明法博士を兼ね、三年伴宿禰の姓を賜らて從五位下に敍し、仁壽四年、備後介を兼ね、齊衡元年正月、年六十四を以て卒せり。承和十三年十一月、正躬王斷罪事件の際に進めしめられたる彼の斷文は、續日本後紀、卷十六に見えたり。但しこの作記は職員令に引かれたるのみにして他の卷に見えず。これ宗家官職の權威者なりし故ならんか。

〔若無長官者次官執印者亦同長官〕これ職制律「凡在外長官及使人。於使處有犯者。所部屬官等。不得輒推。皆須申上聽裁」たる條文の疏なり。

〔雜令私記〕これ或る令

知。依此不何。答。次官亦同者。未知判官何。雜*令私記云。問。大祐注云。勾稽失。未知事〔賦〕書。答。此謂文案稽失也。若行事者入糺判之例耳。讃云。勾稽失者。後期謂之稽。失理謂之失。案之文案稽失也。此覆勘主典所檢定。知其稽失耳。但行事稽失者入糺判之勾耳。與額同上。失云文案稽失。行事稽失並約。此勾。案公事稽留條注文知之。問。所謂稽失者。何誰稽失。答。長官以下稽失。皆約此勾也。或云。勾己以下稽失。己以上稽失。不得勾者非。何者案*職制律。除在外長官。自餘官長公(文)案稽失及行事失錯者。皆應勾勘及糺判故。又爲得訪察精審庶事兼舉之最故也。問。何色稱文案稽失。答。一*端公式令云。小事五日程。中事十日程。大事二十日程。獄案四十日程。又太政

文案勘了日數事

官施行詔勅。案成以後頒下各給寫程。五十紙以下一日程。過此以外。每五十紙以上。加一日程。所加多者。總不得過三日者。違此程限。而不勘了。是可謂文案之稽也。又條云。詔勅宣行文字脫誤。於事理無改動者。勘檢本案分明可知者。即改從正。其官文書脫誤者。諸長官改正者。是可謂文案之失也。問。於次官以上。誰色稱文案稽失。答。依詔書式。卿大少輔下錄宣奉行。而如式不錄。並連署不如法。及令稽留之類，如式不錄及署不如法是失也。經日稽留。是稽耳。又跡云。主典。依程造公文。訖而長等官不署爲稽。或雖署名。其字失落是文案失耳。此說在下條。問。何色稱行事失錯。答。一端主典不讀申。及讀申有忘。史生不繕寫。及繕寫有忘。省掌不通傳訴人。及通傳有失。又神祇令云。供祭祀幣帛飲食及菓實之屬。所司長官親自檢校。必令精細勿令穢雜者。而不檢校此等。是行事稽失也。問。稽失之罪可指何條。答。一端職制律云。稽緩詔書者。一日笞五十。二日加一等。其官文書稽程者。一日笞十。三日加一等者。是稽罪也。又條云。上書若奏事而誤。笞五十。上太政官而誤笞三十。餘文書誤笞二十之類。是失罪也。案之。於行事稽失隨*狀可科違令。及公事稽留等。公罪可檢。

知宿直。

跡云。知宿直謂分番宿直次第者。此人定行耳。朱云。宿與直二事也。判官檢知宿直之次第耳。公式令。凡內外百官。司別量事閑繁。各於本司分番宿直。大納言以上及八省卿不在

大納言以上及八省卿不宿直事

此例也。謂尋常時者是也。外謂國郡司是也。史生皆約者。若無判官者。申次官以上。主典定行宿直次第耳者。作云。公式令義解云。內外百官。司別量事閑繁。分番宿直。謂雖是假日。亦須宿直。朱云。量事閑繁。謂

私記の雜令の部分を云へるか、或は又新令私記の誤ならむか。

〔案職制律〕「凡在外長官及使人。於二使處一有レ犯者。所部屬官等。不レ得二即推一。皆須二申上聽一裁。」なる條文の意を案ぜるなり。

〔一端〕一例と云ふに同じ。一端を擧げて以て四隅を示すの意なり。

〔隨狀可科違令及公事稽留等〕事狀に隨つて違令の罪、又は公事稽留の罪等を科すべしとなり。違令の罪は雜律に「凡違レ令者笞五十。（謂令有二禁制一無二罪名一者。）別式減二一等。」とあるものにして、公事稽留の罪は、職制律に「凡公事應レ行而稽留。及事有二期會一而違者。一日笞卅。五日加二一等。罪止二徒一年。」云々とあるものなり。

〔穴私〕穴記に見えたる私案の謂ならむか。穴

記のことは後に說くべし。

〔宿直一貫二貫〕宿直はこれを熟語として一義に解すべきか、又宿は宿、直は直として二義に解すべきやと疑問せるなり。この答は、宿は夜仕へること、直は晝仕へることにして二義なりと云へり。

〔唐令私記〕唐の何令の私記なりや明かならざれども、恐らくは我が令の藍本となれる永徽令の私記なるべし。撰者詳かならず。日本國現在書目錄に「唐令私記三十卷」とあるもの卽ち之なるべし。

〔依律同司犯公坐者主典以上節級連坐〕これ「凡同司犯公坐者、長官爲一等、次官爲二等、判官爲三等、主典爲四等、各以所由爲首」なる名例律の條文の語を取れるものなり。

〔古記云問主典事同稽

隨事定宿人多少耳。百官謂史生皆約也。使部直丁亦同。可准主典以上也。凡直人其夜卽可宿耳。於同日直人與宿人。不可有別。人分番。謂每日作番心耳。穴*私。案。長官次官判官主典各有一人爲四番耳。讚云。知宿直者。公式令云。內外百官司別量事閑繁。各於本司。分番宿直注云。謂尋常時者。卽須判官勘造宿直次第耳。又問。有不宿直色哉。答。依公式令。大納言以上及八省卿。不在此例。問。宿*直一𧶠二𧶠。答。夜仕曰宿。晝仕曰直。又問。誰官人晝不仕。答。依公式令。京官皆開門前上。閉門後下者。依此文。閉門之後。卽皆可退。而作次第令直耳。私案。縱長官以下俱居廳座。仍定直官耳。故職制律。「立」在官應宿不宿。應直不直。各笞二十之條。

四番事

宿直二事

餘判官准此。

少祐一人。掌同大祐。大史一人。讚云。史者周禮八職。六曰。史掌官書以贊治。鄭玄曰。史掌書者也。

掌受事上鈔。謂上者藏也。鈔者錄也。言受判官以上處分而藏錄也。釋云。唐*令私記云。都省令史。受來牒而付本頭令史。付訖作鈔目。謂之上鈔。其樣如左也。太常寺牒爲請差巡陵使事。右壹通十九日。付吏部令史王庭。讚案。上說云。假令。治部請差巡謂(諸カ)陵使解文進太政官。官史受取。申少辨以上。掌進止後。召式部付。訖之後日記注云。治部省解一通。其事。右月日付式部錄姓名意也。然則官內應行雜事。施行并判收訖卽日記。謂之上鈔。或云。受判官以上言。注之者爲劣。朱云。受事上鈔。謂受判官以上事。記錄耳。先如令釋。上鈔猶言記也。穴云。上鈔行事何。答。今依唐令所答也。

勘署文案。謂勘造文案而署之也。讚云。勘署文案者。史與祐同。但祐者覆審。史勘署公文爲「署」耳也。

檢出稽失。謂依*律。同司犯公坐者。主典以上節級連坐。故知。判官以上稽失。主典皆得檢出也。問。祐勾。史檢出。其別如何。答。依律。事發。未斷勾間。去職。卽勾者。是斷勾之義也。又案獄令。諸司斷事。悉依律令正文。主典檢事。唯得檢出事狀。不得輙言與奪。卽是勾與檢出。自爲殊別。古*記云。問。主典舉問稽失若爲。答。舉判官以上稽失。問。主典以下稽失耳。或說。當司之內。政事稽失舉出不怠施行耳。其舉問稽出一種耳。釋令私記云。問。檢出稽失者何。答。此亦謂文案稽失。皆謂己以下人之稽也。己以上稽失者不得言也。故以

失若爲〕古記は後に述ぶる如く、古令卽ち大寶令の註釋書なり。故に茲に引ける「擧問稽失」なる句は、大寶令の條文なり。故に吾人はこの古記の文によりて、大寶令には「擧問稽失」とありしを、養老令に至つて「檢出稽失」と改めたることを知るべし。

〔新令記〕新令私記の私を脫せるものならむ。新令私記に就きては後に述ぶべし。

〔古令稱擧問而稱檢出何〕古令卽ち大寶令に擧問とありしを、新令に檢出と改めたるは何故ぞと設問して、その改正の理由を說けるなり。

〔越司犯職罪〕職制律に「凡受レ詔出使。不レ返二詔命一輙干二他事一者徒一年。(中略)越レ司侵レ職者笞五十。」とある罪なり。

〔一云〕一說に云ふなり

檢出字。代擧問字也。但主典者。不得與奪。輙不得糺行事也。問。判官已上。有稽失者。主典得言。答。可連坐者。擧問無障。穴云。主典。檢出長官以下之稽失耳。爲有連坐也。又稽失之外。其檢爲實錄故。問。古*令稱擧問而稱檢出何。答。主典檢出事狀不可推問。故作此文也。跡云。主典無文案事之稽失及餘犯等。皆令稽出。爲實錄「之」人故也。朱云。問。檢出稽失者。未知。已自勘造公文人也。可檢出誰稽失。若只判官以上稽失歟。一端何答他司來。公文稽失。及傍主典等公文稽失。檢出申判官以上耳。又云。檢出稽失。謂公文之檢失也。判官以上稽失。皆可檢出也。雖不依公文。他犯稽失。皆可勘出也。爲實錄之人者。未知。一端。依何所說。答。考課令二條。及最所見。實錄人耳。問。讚說云。次官以上*行判官以下*職掌哉。答。無判官以下者行耳。唯有判官以下者。不行耳者。有判官以下。奪其職掌行者。應科越*司犯職罪。一*云。長官者可攝判官以下政、唯判官以下不可攝次官以上政者。又式(或)云。不論次官判官。急事行。但不有急事。待後可行者。未知。何說爲正。作云。主典雖不依公文。他犯皆行檢出。何者考課令云。凡官人景迹功過。應附考者。皆須實錄。義解云。一年之內。毎日記錄。卽至考校之時。集此記。注以爲總錄。是上條所謂(其錄「字脫カ」)一年功過行能者也。又云。勤於記事。稽失無隱。爲主典之最故。讚云。檢出稽失者。亦文案稽失也。與紏注同事。但始檢出與後覆爲別耳。問。史亦得檢出判官以上稽失哉。答。可得也。何者有失之時爲連坐故。又爲實錄故。又得勤於記事。稽失無隱之最故。問。得行已以上職掌哉。答。身在之日。不得敢行。爲職制律云。越司侵職者。笞五十故。但無身之日。如有急事者。便須得行。何者假令。當於假日主典在直。官仰速事。何待判官。如可得判行。其所由上解了。但事不速者。待來行耳。又問。已以下無者何。答。亦得行耳。但不讀申耳。讀申公文。讃云。私案。公文者文案總名也。或云。施行謂之公文也。留官謂之案者劣*也。餘主典准此。少史一人。掌同大史。穴云。問。此司無史生。宜(置)主典繕寫及取署。案令心所讀耳。私案。革關繫不置也。作云。無史生司。使部直丁等行署。讚云。問。此司無史生。未知。誰行史生職掌。答。穴案。史(主典カ)自繕寫及取署耳。古記。凡無史生司者。主典行署耳

也。

神部三十人。朱云。此令云神部。與衞禁律云神部。各別者。貞說。於此司尤是名負色也。故置卜部上也。案。[*]衞禁律神部者。卽祝也。異於此條神部也。監神者神主也。此條無其色。臨時處分耳者。未知。此令神部職掌何事。貞云。問。神部不注職掌者。爲何行事。答。宮內雜驅使耳。不見行事。問。神部本何色人。答。神祇令忌部班幣帛者。所謂忌部是神部耳。但定氏耳歟。不見明文也。「問。選敍令云。散位身材云云。軍防令云。內六位以下八位以上嫡子云云。今補使部之文。已在令內。未知。神部是何色人。答。不見明文。但依神祇令。中臣宣祝詞。忌部班幣「帛」。然則以中臣等補之。問。神祇令義解云。中臣忌部取用當司及諸司中者。然則不必神部。答。雖他人司人。猶取用。因襲之。取用神部。於事無妨。問。神部職掌。答。司內驅使耳。」

卜部廿人。謂案考課令。占候醫卜效驗多者。爲方術之最。而於此令。長上番上色制不分。卽知。卜部廿人。長上約在其中。其員數者。依式處分。釋無別。穴云。卜部廿人之中。可有長上。案考課令所知也。但其員數可有別式也。古記云。問。卜部數多。令文數若爲。答。不知可同神祇官也。[*]寶龜六年五月十九日格云。勅。卜長上者簡定卜部等中。推卜尤長二人。以任長上。永爲恒例也。跡云。卜部廿人之中。令有長上人。但員將有別式。朱云。卜部廿人。掌卜兆耳。此中可有長上也。考課令最所見者。或云。「或本作式可勘。」此卜部。在使部下。則知卑色乎。考課令。得長上之考者。此貴色各別人者非也。貞云。問。卜部行事見法條哉。答。神祇令云。六月十二月晦日。卜部爲解除者。自餘不見。私。神祇令云。當祀之外。須向諸社供幣帛者。皆取五位以上卜食者充。義解云。卜食謂凡卜者。必先墨畫龜。然後灼之兆順食墨。是爲卜食」。伯注。義解云。凡灼龜占吉凶者。是卜部之執業者。然則定供幣帛使之日。卜部可卜定。私案。可謂卜人。何者考課令云。卜效多。爲方術之最者。案之卜部二十人之中。可有長上。寶龜六年格云云者、於令不見其員。問。卜部本何色人。答。臨時簡取「堪」其事人耳。

使部三十人。朱云。使部以下何職掌不見。貞說云。宮內雜事驅使耳。不見行事何。貞云。問。使部不注職掌。何爲行事。答。宮內雜使耳。不見行事。問。使部本何色人。答。選敍令云。散位身材劣弱。不堪理務。式部判補

貞云と云ふに同じ。〔劣也〕劣は長の反對なり、且讀者ならにあらざるも、穩當ならざる時に此說劣也と云ふ。〔案衞禁律神部者卽祝也〕これ前述の「凡闌入大社門」者徒一年。(中略)神部不レ覺減二二等一。監神亦減二二等一。」なる條の疏に神部を說明して、祝(當布里)也と云へるを指せるなり。

〔寶龜六年五月十九日格〕この格、類聚三代格卷四、加減諸司官員并廢置事の條に見えたり。

〔官內〕神祇官の內部卽ち官舍內の意なり。

〔二儀〕天地を謂ふ。茲にては神祇官の意なり。天神之を神と云ひ、地神之を祇と云へばなり。

諸司使部。又軍防令。內六位以下嫡子。年(年字脫カ)上等下等。送式部。上等爲大舍人。下等爲使部。中等送兵部。試練爲兵衞也。**直丁一人。** 讚云。問。直丁行事。答。官內驅使耳。但不可駈使出野。何者兼司閑繁置駈使丁故。問。直丁本何人。答。諸國點定進上者也。賦役令云。仕丁。每五十戶二人。注云。以一人充廝丁。又云。三年一替是也。或云。古記云。別記云。御巫五人云云。在上(當作細注)戶巫(座カ)三人。吉備前國一口。阿波國一口。齋宮一口。各給養丁一口如常。津嶋上縣國造一口。京卜部八口。廝三口。下縣國造一口。京卜部九口。京廝三口。伊岐國造。京卜部七口。廝三口。伊豆國嶋直丁一口。卜部二口。廝三口。齋宮卜部四口。廝三口。伊岐二口。津嶋二口。伊豆二口。國造丁直丁等。各給廝一口。亦常食。卜部等。及廝直。身免課役。亦常食給。京戶所給人之廝。自被(彼)點上事京戶廝。莫給。免課役。又祝部免調役。戶口丁「調」者。取而依神調。但戶內有他姓人者其調者。依公調也。問。卜部數多云云。在上(當作細注)。

太政官

義解云。太政官內。總有三局。少納言。左辨官。右辨官是也。大納言以上。卽兼通攝也。釋云。太政官者。是社稷之鎭守。國家之管轄也。音苦蓋切。車聲。但所疑爲此字歟。轄者車軸頭鐵。音胡瞎反。奉主命而施號令。退姦僞而進賢良。百官之所以法則。萬民之所以瞻仰。故次二*儀之後。居八省之前也。

太政大臣一人。 伴云。古記云。智周萬物。德合二儀。位高任重。於官尤重。故曰太政大臣也。 **右師範一人。儀形四海。** 謂師者教人以道者之稱也。範者法也。儀者善也。形者亦法也。四海者九夷八狄七戎六蠻也。釋云。師範一人者。稱道敎人。謂之師。師長也。喩軌示制。謂之範。範法也。夫師者脩心愼言之根本。改非從是之門戶。然則太政大臣自長百官。實導一人。准先王之典籍。施當時之憲章。是從以人君其敎者。能保天下。流福慶於子孫。違其諫者。必失社稷。及恥辱於祖考。昔之明王賢君。皆立師傅。以規身過。然後爲兆民之父母。立

〔永徽令儀形者開元令儀形也〕永徽令、開元令の何れか一方に儀刑とありて、他の一方に儀形とありしなり。刑も形も人を鑄型に入れて匡正するの意にして同音同義なり。

四海之儀形也。儀形四海者。儀者善也。形(者脫カ)法也。又儀威儀也。形容形也。漢書云。李膺風格儀形皆可師範也。師範儀形。文異義同也。九夷八狄七戎六蠻。謂之四海也。古記云。師範。師者所習爲師也。範者法也。四海海者冥也。冥者陰也。四冥之民不知法則。以興(冥)海也。穴云。*永徽令儀形(刑)者。開元令儀形(刑)也。師範儀形是德行也。形者刑也。以音相涉耳。儀刑也。毛詩文王詩。有本文。猶儀刑也。跡云。以道德助敎。謂之師也。所行可爲法則謂之範也。儀猶法則也。儀善也。刑法也。朱云。師範一人者。不必講敎先聖之典籍也。凡此人之言行。自師範一人。但觸類。或時時申喩耳。一人者天子也。儀刑者猶言法也。四海者天下然則此人。師範人君亦儀形庶人耳。「或云。乖先王典籍。何得爲師之號。然則雖不執經敎授。而尙以君臣上下之理。父子夫婦之道申覺耳。」作云。師範一人。儀形四海者。爲一人稱師範也。於君爲摸者也。爲四海稱儀形耳。釋名曰。海晦也。主引穢濁。其水黑而晦也。漢書云。戎狄居上黨者爲赤狄。居西河者爲白狄。居北地者爲義渠也。

四方行程

雜物記云。四海之內。東西二萬八千里。南北二萬六千里。東九夷。被髮文身。南八蠻。彫題交趾。西六戎。被髮衣皮。北五狄。衣毛穴居。

四海夷名

九夷。玄兎。樂浪。高句麗。大餘(蒲飾)。鳧臾(申)。索加(家)。一曰陳齒。東屠蘇。一曰名蕭(蘇)。倭戈(戎)人。天鄙。八蠻。天竺。咳(吹)首。焦僥(繞)。跛踵。穿胸。儋耳。狗軹。一曰重踵。旁春。一曰赤齒。六戎。羌夷。一曰戎夷。一虫。染夷(鷄)。依綠(綠)伯。一曰織皮。安息。天綱(剛)(網)。羌凡有一百五十種。五狄。月氏。穢貊。武百。匈奴。單于。白屋。集注爾雅第六卷。釋地第九。野篇云。九夷。八狄。七戎。六蠻。謂之四海。李巡曰。九夷在東方。八狄在北方。七戎在西方。六蠻在南方。四海遠荒於四海冥無形。不可敎誨。故曰四海也。孫炎曰。海之言晦。晦闇於禮義也。在四荒之內。餘同李巡。郭景純曰。次四荒者也。餘同李巡也。九夷在東方。李巡曰。一曰玄兎。二曰樂浪。三曰高句麗。四曰稜(扶)余。五曰索加(鳧臾)。六曰浮遊(索家)。七曰東都蘇。八曰兒(倭人)。九曰汲沮(天鄙)。諸家文竝無此句。八蠻在南方。李巡曰。一曰天竺。二曰咳(喙)首。三曰焦僥。四曰跛踵。五曰穿胸(匈)。六曰儋耳。七曰狗軹。八曰旁(虎)春(舂)。諸家文竝無此句。六戎在西方。李巡曰。一曰僥(繞)夷。二曰戎央。三曰老(宛)曰(白)。四曰耆(古)羌。五曰鼻息。六曰天剛。諸家文竝無此句。五狄在北方。李巡曰。一曰月支。二曰穢

〔新令私記〕新令卽ち養老令の註釋書なり。後に出づる新令祕私記は、恐らくこれと同書ならむ。撰者及び撰述の年代明かならざれど、新令と云へるを見れば、古令の施行止みてより日尙淺き奈良時代に撰述せられたるものなるべし。

〔論字之情何〕令文に經邦論道とある論の字の意味如何と問へるなり

〔六典云〕大唐六典なり。次に引ける句は、その卷一太保の條に見ゆる「三師訓導之官也。其名卽周之三公。漢哀平閒。始尊二師傅之位一。在二三公上一。謂二之正公明一。雖二天子一必有レ所レ師。其後或廢或置。大抵無レ所レ統レ職。至後魏特稱二三師一。以正二其名一。然非二道德崇重一。則不レ居二其位一。無二其人一則闕レ之」なる句の註を取れるものなり。

〔又云〕以下又六典の

箭。三曰匈奴。四曰單于。五曰白屋。諸家文並無此句。**經邦論道。燮理陰陽。**謂燮者和也。理者治也。言太政大臣佐王論道。以經緯國事。和理陰陽。則有德之選。非分掌之職。爲無其分職故不稱掌。設官待德。故無其人則闕也。「周禮。體(經)國經野。鄭玄曰。謂爲之里數也。鄭衆曰。營(榮)國方九里。國中九緯九經。又曰。六典一曰。以經邦國。鄭玄曰。經法也。釋云。尙書曰。三公論道經邦。燮理陰陽。注云。三公之任。佐王論道。以經緯國事。和理陰陽。言有德乃堪也。燮和也。音蘇協反。理治也。古記云。「經國」。經者治也。論道居(者カ)君臣父子夫婦之道。燮理陰陽。此人德行。通感天地。風五日吹不折枝。雨十日落不悖塊。此所謂賢人君子。言行可爲法則哉。「言辭。謂諸蕃歸化停囚等人。所申消息秘密之辭也。」穴云。經邦。謂執爲邦經事耳。論考也。考德行道藝。謂之論。問。太政大臣職掌何。答。依公式令。有署奏書之文。又依儀制令。有坐廳上見太政大臣之文。然則預雜政。同左大臣耳。但可消息也。新令私記云。經邦。謂結(糺)辦國堺也。燮理陰陽。謂象四時行政事。仍陰陽不乖節也。跡云。經邦。補江反。周禮大宰之職。掌建邦之六典。以治邦國。鄭玄曰。大曰邦。小曰國。邦之所居亦曰國。韓詩至于海(洛)邦。邦界也。又曰。邦臣(遺カ)厥福。邦大也。謂能行爲國家令固綱云事。所謂經緯國事是也。論道。謂治國亦可用可堪此任之人也。朱云。經邦者。化內與蕃國二界。辨結耳。此反。大者云邦也。小者云國。未知。依何所說也。論道者五孝(教カ)之道也。後說。孝悌仁義總名論道者。未知。教示他人歟。若行已身歟。答。能行已身者。他人自喩習者。未知。而論*字之情何。問。此事摠幾事。又職掌歟。若自所得德行歟。答。德行也。又摠四事。但闕一事。不可任此司也。問。太政大臣者。左大臣以下政。共預行不。答。依公式令。詔書論奏事式太政大臣位臣姓名者。依此爲可共預行。而何職掌不云情何。答。貞云。何長官不預行哉。可至者。伴云。論道。治國之正道。則五常之道耳。廣定(言カ)時。經國論道一種。爲足句文耳。此是太政大臣之職掌。故云(亦)。可用可堪此任之人也。又云。論治國道。幷緣論仁義孝悌之道。自然被陰陽燮理耳。此太政大臣德稱耳。但衆務者。左右大臣共行耳。讃云。問。太政大臣有職掌哉。答。公式令云云。又儀制令云云。又獄令云。公坐相連右大臣以上爲長官者。依此等文。雖不注職掌。而預視雜務。不異左大臣也。但有消息耳也。

太政大臣職掌

德稱事

無

其人則闕。「唐令云。大師大傅大保。右三師師範一人儀形四海。大尉司徒司空。右三公經邦論道。燮理陰陽。祭祀則大尉亞獻司徒奉俎。司空行掃除。自三師以下。無其人則闕。*六典云。三師訓導之官也。蓋天子所師法大極無所統職。然非道德崇重。則不居其位。无其人則闕之。*又云。三公論道之官也。蓋以佐天子。理陰陽平邦國。無所不統。故不以一職名其官者。因此言之六典之尚書令。掌總領百官儀形端揆。其屬有六尚書。一曰吏部。二曰戸部。三曰禮部。四曰兵部。五曰刑部。六曰工部。凡庶務皆會而決之。左右丞相掌總領六官。紀綱庶務以貳之職令。則專統焉。」

左大臣一人。掌統理衆務。謂臨時大事也。假令。公式令論奏式。所言之事。不由辨官直申大臣。考選任官之類也。釋云。統理衆務。謂天下諸司事。凡諸司事。由辨官申者。爲官内事。若不由辨官。而直申大臣者。爲天下諸事耳。假令。考選任官之類也。新令私記無別也。穴云。統理衆務。如先私記。*但雖無經辨官。辨官不加勘事。所以稱不由辨官。跡云。統理衆務。謂是不由辨官之政也。朱云。統理衆務。謂考選任官。不由辨官。只越申右大臣以上者。何者任官之事。此上官之行事也。非下司之行事之故也。考選亦式兵部。只可申右大臣以上者。*未知。此說量心所云歟。若有正文何。若依考課令。毎年當司長官。考其屬官也。無長官者。次官考者。准此文。案所說歟。不何。生(朱カ)(先カ)云。依公式令。授位記者。皆太政官行也。即大納言以上一人署名。故知考選事。只越可申右大臣以上者。未知何。貞說。先人所傳尚如此。但明文可求耳者。作云。跡云。問。考選任官之類。必可由(申)辨官。何者。考課令云。京官職門。十月一日。考文申送太政官。外國十一月一日。附朝集使申送者。然何稱不由辨官政哉。答。元(先カ)申辨官。而後辨官則下式部。式部勘定等第訖。不由辨官直申大臣。又任官之擬擬同申。此稱不由辨官政耳。*抑可求此記。無於跡記。

擧持綱目。謂陳其大綱。總目必擧也。其諸司諸國之事。由辨官者。辨官受取。申於大臣。大臣位高任重。不可細碎。故唯擧其大綱。持其總目也。釋云。擧持綱目。謂擧持庶事之綱目也。孔安國孝經注曰。陳其大綱。則綱目必擧也。持猶執也。綱宗也。新令私記云。擧持綱目。謂。

天子章

文を引けるなり。「故不以一職名其官」までは三公の條下に見える文にして「尚書令」以下は尚書令及び尚書左丞相の條下に見える文なり。

〔先私記〕先人の令私記の意なり。何人の令私記とも明かせず。古記云、先云とあるもの皆この類なり。

〔未知此說量心所云歟若有正文何〕上記の說は、立法の趣旨より演繹せしものなりや、將又根據とすべき法文ありて、それより演繹せしものなりやと問へるなり。心は律令の心にして、即ち立法の趣旨なり。正文は即ち條文そのものにして、條文より引き出したる學說にあらざるもの、意なり。

〔抑可求此記無於跡記〕律記に跡云として最上の說を引けるも、この說跡私記に見えず捜

し求むとべしなり。

これもとより後人の註記にして、直本の筆にあらず。この後人の見たる跡記と作氏の見たる跡記との間には差異あるべければ、之を以て作記の引用を妄なりと速断する能はざるも、作記の引用の後には、斯かる註記のあるもの極めて多し。作氏或は先人の說に名を藉りて自說を述べしにあらざるか。

〔論奏式事〕論奏の式は公式令に見えたり。論奏の式によりて上奏勅裁を經べき事項は大祭祀、國用の支度、官員の增減、流罪以上及び除名の斷決、國郡の廢置、兵馬の差發等なり

〔一云上句下句兼懸舉持耳〕統理衆務なる上句及び惣判庶事なる下句俱にこの舉持綱目の句に懸る。故に衆務を統理して綱目を舉持し以て庶事を惣判すと訓

舉衆務之綱目。務與事同也。衆不同。穴云。舉持綱目。謂考選授官之外大事。亦不由辨官是也。假。論奏式事等是也。並爲大事。別生文耳。*一云。上句下句。兼懸舉持耳。何者或人讀文統理衆務。而舉持綱目故也。爲兩說也。又云。舉持綱目。總判庶事。令三說。*但本令云。總判省事。故分爲三句長。或云。經辨官而申大事者。申右大臣以上令判。是謂舉持綱目也。一端班田之狀。辨官者(受カ)申大臣令判耳。舉持。謂陳大綱總目必舉之義耳。跡云。舉持綱目。而總判庶事。謂辨官受諸司申解。而細覆勘申大臣。大臣不加細勘。直處分可行之狀。是曰舉持綱目也。讃云。舉持綱目。謂除考選任官之外。諸司之事。亦不由辨官是也。假令。如論奏式之事等。又當班田年。諸國經辨官。申可班田之狀。辨官受取。不加勘事。經徑申大臣。令處分之類是也。*與大夫云。舉持綱目。謂在中兼上下句也。讃文可求也。*一云。式部式云。考選目錄申太政官。每年正月三日。中務式部兵部三省輔。各引其丞。就太政官版位。如辨官申政儀。輔讀申內外諸司諸家考目。丞讀申選目錄。次兵部。次中務丞。如式部儀。訖退出。事見儀式。又條云。凡選位者。奏任以上者。式部注可用人名。送太政官。但官判任者。詮擬而申太政官。」

總判庶事。謂官內尋常小事也。故唐令云。總判〔官〕省事也。釋云。總判省(庶カ)事。謂官內小事也。何者神祇伯注云。卜兆等諸事。并是大要之事。總判官事者。此所遣事也。新(雜)令私記云。總判庶事。謂官內少少之事。何者神祇伯注云。卜兆以上宜諸事是大要之事也。總判官事者此。謂少少所遣事。故又本令云。判〔官〕省事故也。

彈正糺不當者。兼得彈之。釋云。依公式令。彈正不得彈太政大臣。但得彈左右大臣。然則左右大臣彈正。更互相彈。古記云。得彈彈正。糺不當者。太政大臣者。得彈彈正及左右大臣。彈正者互相彈〔之〕。唯不得彈太政大臣也。太政官者召彈正彈之。〔彈正之〕彈正者。就官彈之也。*聘者。經六歲聘一年也。問。聘三年也。六會六年也。十一聘十二年誓也。師說。諸侯三年一度。謂之朝也。一年一度遣使。謂之聘。私案。朝聘以下可在治部省。穴云。兼得彈者。聞彈見彈。是假聞可。掌而不掌者召彈耳。令釋云。左右大臣彈正。更相彈。謂其身非違也。非吏說文所云事也。作云。大納言以上有非違者。彈正得召問也。與古記違。可求也。讃云。問。大臣糺彈正。彈正

なし」と云へるなり。〔但本令云總判省事故分爲三句也〕但し本令即ち唐の永徽令には總判省事とあれば、統理衆務、擧持綱目、總判庶事の三句を三句獨立のものと解する說を勝れりとなすべしとなり。本令の永徽令なることは、後に述ぶべし。〔釋大夫云〕與大夫は正五位上國原儀久にして、物部の書者なるべし。儀久のことは後に物記のことを述ぶる所にて述ぶべし。〔式部式〕これ令釋文庫本にあらはれたる後人の傍註にして、延喜式部式の文なり。〔古記師說〕古記師說にこの句を說明せるによりて言すれば、古令即ち大寶令には、「此下に側聘云々の句ありしならむも、今其句を削りしにせず。〔彈例〕彈例のこと後條に說明すべし。

任大臣。行事如何。答。「可」有別式也。子細行事。載在彈例。略見令釋。古記。

右大臣一人。掌同左大臣。

大納言

謂納言。王者喉舌之官也。言納下言於上。宣上言於下也。釋云。尚書第一卷云。帝曰。龍朕堲讒說殄行。震驚朕師。「註云。堲疾也。殄絶也。震動也。言我疾讒說絶君子之行而動驚我衆。欲遏絶之。」又云。「命汝作納言。夙夜出納朕命惟允。孔安國傳曰。「堲疾也。殄絶也。震動也。言我疾讒說絶君子之行而動驚我衆。欲遏絶之。」納言喉舌之官。聽下言。納於上。受上言宣於下。必以信也。納。南答奴答二反。納猶内也。古記云。左傳中帙文。納言喉舌之官也。聽下言納於上。受上言宣於下。必以信。正義曰。詩。「蒸民詩」是仲山甫爲王之喉舌。喉舌者。宣出王命。如王之動咽喉口舌。故納言爲喉舌之官也。此官主聽下言納於上。故以納言爲名。亦主受上言宣於下。故言出朕命。納言不納於下。朕命有出無入。官名納言。云出納朕命。互相見也。

四人。 古記云。慶雲二年四月十七日勅旨。依官員令。大納言四人。職掌既比大臣。官位亦超諸卿。朕念之。任重事密。充員難滿。宜廢省二員。爲定兩員。更置中納言三人。以補大納言不足。其職掌敷奏宣旨侍問參議。其官位料祿。准令商量施行。奉勅如前件。朝議商量。令加任官。掌近大納言。事關機密。其官位料祿。不可便輕。其位授正四位上。資人三十日給。

掌參議庶事。 謂與右大臣以上。共參議天下之庶事。若右大臣以上並無者。即大納言得專行。其兼彈者。雖是左右大臣。尚不得爲職掌。故職掌之末別起而注。即大納言雖大臣以上並無。不得復兼彈之。問。或云。讀義解文。乃與右大臣以上。參議天下諸事者何。釋云。大納言與右大臣以上。共受議天下之庶事。凡右大臣以上。一人入官者。不得追喚而參上耳。穴云。大納言不同長官。但。長官闕及假退。次官行無妨。引無長官次官等。又少輔不在者。餘官見在人。准此文等爲證。但兼彈者不合也。爲職掌之外。注加故也。參議庶事。謂上

〔慶雲二年四月十七日勅旨〕この勅類聚三代格、卷四及び續紀卷三に見えたり。

〔引無二長官一次官考。又少輔不在者、餘官見在人准此〕これ考課令に「凡內外文武官初位以上、毎年省司長官、考二其屬官一。應レ考者、皆具錄二一年功過行能一、並集對讀。（中略）無二長官一、次官考。」とあり、公式令、詔書式の條に「若少輔不レ在、餘官見在者、並准レ此。」とあるものを節略して引けるなり

〔有可行事又有不可行事即見此文者未知何〕右大臣以上缺席の日、大納言代つて獨行すべき事と獨行すべからざる事とありて、此の法文のみにては何れとも知り難しとなり。

〔宣旨一端指示〕法文に宣旨と云へるは、一例を擧げたるのみにして、その意は天皇の命

文統理以下總判。以上皆是也。議務合理之最外是也。「考課令最條云。獻替奏宣議務合理。爲大納言之最。」跡云。大納言若無大臣者。上諸事皆自得行也。敷奏以下等事。又更在注加耳。但彈正以下事。不參議。何故者得彈者。職掌外兼事故。然則依文自應事以上事合行也。朱云。無右大臣以上之日。大納言獨得行政「行」哉。答。有*可行事。又有不可行事也。即見此文者未知何。但此書云。總判應事以上。大納言得獨行也。但彈正以下事不得行也。何者職掌之外。稱兼得糺之故者。若此說合理不。答。貞同也。

敷奏。謂敷陳也。奏進也。釋云。敷撫倶反。布也。奏子豆反。進也。尙書第一卷。舜典曰。羣后四朝。敷奏以言。明試以功。車服以庸。注曰。敷陳也。奏進也。諸侯四朝。各使陳進治化之言。明試其言。以要其功。功成則錫車服。以表顯其能用也。讃云。案之。敷奏者猶奏也。問。敷一端指示。答。論奏並奏事式事等。是曰敷奏也。又詔書式云。大納言覆奏。亦此敷奏也。

宣旨。讃云。問。宣*旨一端指示。答。公式令詔書式云。畫可訖。留爲案。更寫一通誥。是曰宣旨也。

侍從。中務條釋云。侍「音」時至反。孝經。仲尼閒居。曾子侍坐。說文。侍承也。從「音」子龍反。廣雅從行也。使也。讃云。*案祇承之意也。

獻替。謂君所謂可。而有否焉。臣替其否。以成其可。君所謂否而有可焉。臣獻其可以替其否也。釋云。昭公廿年。左傳「第廿四卷。廿年傳」曰。君所謂可而有否焉。臣獻其否。以成其可。君所謂否而有可焉。臣獻其可以替其否。師說云。是大事也。獻奏也。進也。替廢也。古記云。獻替。獻進可也。替退否也。伴云。賈逵曰。替滅也。替出也。爾雅云。替待也。讃曰。問。大納言若不在者。誰行敷奏宣旨獻替等事。答。不見也。案。*上得攝下事。然則大臣代。須審敷カ奏並獻替耳。但宣旨不合也。後案公式令奏事式云。大納言位姓名。若少納言奏者。加名者案之。無大納言者。有少納言奏之文。准此言之。少納言須敷奏及宣旨。又無上之日。下得行上事故。但於獻替者不合也。未定。朱云。無大納言以上時。少納言不得行上政然。則與神祇官之例少別者。但奏事式一事者依彼文。少納言可有行時耳。

少納言三人。跡云。少納言亦糺判審署勾稽失等事。皆可得。問。大納言以上之稽失等在者何。答。少納言正顯。朱云。貞亦同。但不得勘當者（以上十一字細注カ）。伴云。經說

令合物を掌るの意なるかと聞へるなり。「[illegible]」法文に侍從と云へるは、案ずるに天皇に[illegible]するの意なりと云へるなり。祇承は謹み畏みて命を承はることにして、延喜式以下の儀式の書には、この語多く見えたり。書紀[illegible]に[illegible]

[illegible]

注稽失。令告知耳。在實錄人故。朱云。少納言。得糺判勾稽。答。可糺勾者。未知。依何文所記。若獄令。少納言左右辨及諸司糺判。皆爲判官者。依此文。爲判官所說歟何。貞反云。大納言以上有非違稽失等。可申顯。不得糺勘者。讃云。問。依公坐相連條。少納言是判官也。進神祇祐。糺判官內。當署文案。勾稽失。知宿直哉。答。可然也。上條餘判官准此之故。跡同。**掌奏宣小事。**謂公式令所謂請進鈴印。及賜衣服。如此少事之類是也。「問。於奏事明有所由至宣小事。未見其由。答。便奏奏上之耳。諸其物報處分宣之云宣耳。」朱云。奏宣小事者。奏謂便奏式云。請進鈴印。及賜衣服鹽酒菓食。並給醫藥。如此小事之類。並爲便奏者是也。未知。宣一端何。私案。宮內省職掌。云奏宣御食産者。若此稱小事宜乎何。更案。此卽宮內省所爲也。不可預少納言。而則未知。何色何。**請進鈴印傳符。**讃云。當可用之時。中給謂之請也。至事給之日受。取而進謂之進也。朱云。少納言門鑰請進。生等案。「或云。飛驛來時。乍乘馬馳至中務南大庭。振鈴發時。少納言生鈴共受得進。卽初下時。亦不經太政官。然則依職掌所進授者也。稱依少納言在侍從之中者。甚不當。」**進付飛驛函鈴。**跡云。少納言在侍從員內。故飛驛函鈴。在中務而進付之。問。何由。飛驛預中務乎。答。依有少納言故也。朱云。問。飛驛始來。經中務其理何。答。中務省攝主鈴司之故。經中務省者。或說。少納言請進鈴印也。此少納言。則在侍從員內。而被攝中務。故經中務省。此兩說志各別。未明。而飛驛來經中務。令文不見也。貞改云。依令文。飛驛始來。可經太政官也。依有少納言。讃云。進付飛驛函鈴者。自諸國到來之時。領取而進。及自京發遣之日。中給而附使者是也。**兼監官印。**謂唯得監視踏印。其印者。依律長官執掌也。釋云。兼監官印。謂監掌捺印。不掌印管。但印者。長官掌之。若長官無者。次官掌也。見職制律也。唐令。監官者監掌之意。與此不同也。「問。少納言得監[illegible]印。未知誰人捺印。問。此印外印也。未知。內印諸人可令捺之。答。不見令條。可有別式。主鈴式云。凡下諸公文。少納言奏請印狀。訖主鈴印之。但勅符位記。少納言印之。」穴云。監官印。謂令捺印也。但封討治長官掌。無者次官掌耳。今時行事。總集令(合)印文。少納言給印也。跡云。監官印。謂令踏印并

〔奉宣御食産〕職員令宮内卿職掌中にある文字なり。

〔中務省攝主鈴司〕中務省の被管に主鈴なる司なし。然ども其の雜任に大主鈴二人、少主鈴二人ありて、鈴印傳符、飛驛函鈴の出納を掌る故に、主鈴の司の事を攝すと云へるなり

〔但印者長官掌之若長官無者次官掌也〕職制律、凡在外長官及使人。於㆓使處㆒有ㇾ犯者。所部屬官等。不ㇾ得㆓即推㆒。云々の條の疏に、「若無長官。次官執ㇾ印者。」とあるを云へるなり。

〔倉庫令云〕これ亡佚せる倉庫令の逸文なり。珍重すべし。

〔鎰鑰是輕倚長官掌之鈴印是重亦長官掌故也〕鎰(鑰)の事これ輕少事と雖も倚長官自ら之を掌る。況や重大事なる鈴印の事、長官自ら之を掌るべき事勿論な

對(封)治事。但印長官掌耳。讃云。兼監官印者。掌捺官印。但印實者長官掌。若無者次官掌耳。何者職制律云。在外長官。犯當死罪者。留身待報。注云。若留身印及管鈴(鑰)等付知事次官者。是知長官掌之。又倉庫*令云。置公文庫鎰鑰者。長官自掌。若無長官者。次官掌之者。令釋云。鎰*鑰是輕。倚長官掌之。鈴印是重。亦長官掌故也。**其少納言。在侍從員內。**跡云。有侍從五人。然則少納言。兼侍從職掌耳。朱云。少納言倚兼侍從之故。不除侍從之名者也。

大外記二人。

跡云。大外記請(讀カ)云外大記司也。**掌勘詔奏。**謂勘正詔書。及勘造奏文也。釋云。詔書始出者。先至辨官後。施行之日。送外記勘誤不。而令捺印。奏亦經辨官至也。新令私記無別也。跡云。勘詔奏。謂自辨官并他官(司)來奏書詔勅等。直勘失不狀。非自造也。當外記奏書者。約勘署文案而造耳。朱云。未知此說合不。貞答。不同也。此亦約勘詔奏旬耳者。引宮內省衛府等合(奏カ)爲證。「問。公式令義云 宣奉行。謂詔書者。內記於御所作訖。卽給中務卿受詔書宣大輔。大輔奉付少輔令送太政官。故因宣奉行也。太政大臣位臣姓。謂自此以下皆是外記之自中務來詔書之後所注記。故外記職掌云。勘詔奏也者。令稱送太政官者。不送辨官。而直送外記歟。」朱云。勘詔奏。謂並云將施行之時勘也。勘由者。詔書式論奏式等見義者。何者詔(書脫カ)式云云也。問。勘詔奏者。未知奏者。先辨官奏了。後可至外記乎。若不何。貞說。奏亦辨官送外記。外記勘誤不。知奏者。朱云。知*他司奏。必經辨官狀。依何文可放。若依受付庶事所案歟。凡奏案外記辨官並可有不何。穴云。勘詔奏謂自中務來詔及奏。並自辨官諸司來奏是。其勅者。中務送辨官。史以上連署。留爲案。不到外記。故不言勅耳。一疑。詔勅。同自中務送太政官。官乃送辨官歟。然爲文略也。伴云。跡云。詔者始至中務。從中務送辨官。從辨官送外記。外記勘誤不。令捺印奏。若詔誤至中務。中務知誤者。更奏可改。但詔不誤。而中務誤而送外記。外記知誤者直勘耳。但奏者。必經辨官至外記。外記勘不。只奏耳。更毀。而外記奏不作。但外記當奏書者。約勘詔奏耳。或(式)云。諸司奏者。

りと云へるなり。これ名例律に「[illegible]以明[illegible]重。」とある趣旨に從つて、法文の解釋を行へるものにして、今日の法律學者の所謂勿論解釋なり。

「如使司不必[illegible]官狀依何文可放若依受付庶事所案歟」他司の奏も必ず[illegible]官を經由しこなされることは、如何なる法文によりて爾か解するや、或は職員令辨官職掌の條に「受付庶事」とある文を擴じて爾か解する歟と云へるなり。

〔額傳同此說〕明法博士額田今足の說、この說に同じと云へるなり。額田今足の事は、後に額云を說明する所にて說明すべし。

〔大外記於太政官廳申事之時列於辨官大史及諸省丞等上云々〕これ當時の行事を擧げたる物にして、珍重すべき材料なり。當時の法律

作解文進官。外記作奏耳。引官省衞府等令(奏カ)(令カ)爲證。讃云。勘詔奏者。釋云云者。私案檢。詔書式。已注大納言以上姓名。不見辨官預知之文。然則詔書始出者。先送辨官。辨官不加勘事。直送外記。外記勘失不訖。便書大納言以上位臣姓。而令自筆署姓名覆奏。御畫訖後。即留爲案。更寫一通。誥官訖。後付辨官令施行。令釋。所說未安。問。勘奏者。經辨官來。受爲覆勘也。未知。有外記自造奏哉。答。可有。何者六位以下致仕之時。依選敍令。申牒官奏聞。彼牒。先經辨官。後至外記。外記依牒更造奏。少納言以上審署。然後可奏聞故。但外記所造奏者。入勘署文案之句耳引。宮內省及衞府等奏(令カ)爲證也。私案。論奏式奏事式等奏。亦外記可作。穴案。勘詔奏者。自中務直來詔及奏。幷自辨官諸司來奏也。其物者。中務經送辨官。史以上共署尚爲案。更寫施行。不至外記。案公式令知之。故不注耳。*額傳同此說。式(或)云。詔勅一同也。跡同。古記云。大外記。於太政官廳申事之時。列於辨官大史及諸省丞等上。又辨官史等。列諸省丞等上。但爲考選。所率之日。列於式部之下。凡非關考選事。式部不得。輙喚辨官史以上也。行署文案。謂行取大納言以上署名。但於少納言邊。史生等行署。諸司錄下。不注行署。皆准此。但史生行署耳。

大外記於廳申事時列所事

及讀申公文。謂上日行事之類。讀申於少納言也。釋云。讀申少納言所也。穴云。讀申公文者。非辨官所勘申公文重讀申也。唯外記一局之內公文耳。一端。大臣以下。上日行事之類等耳。可求。讃云。問。諸國諸司解申至太政官者。皆史讀申辨及大臣所。何色公文外記讀申。答。當局之內。上日行事幷假請文之類。讀申少納言所是也。古記云。問。大外記無讀申公文宇(事カ)。若爲。答。大外記無讀申公文事。但臨時在耳。「問。於神祇官條立例。而何更立讀申公文等之職也。」勘署文案。檢出稽失。讃云。勘署文案。檢出稽失等之事。一同神祇史也。

少外記二人。掌同大外記。

家は、斯の如く、法文の解釋を助ける爲めに、屢々時の行事即ち當時の官廳内に於て行はれたる實際の慣行を擧げたり。

〔大外記無讀申公文字〕大寶令には、大外記職掌の條に「讀申公文」の字無かりしなり。

〔往主典以上許取署〕主典以上の人の許（モト）に往きて署名を取るなり。下文によれば許にゆくといふは、その人の廳所にゆくの意にして、其人の家にまでゆくの意にあらず。

〔故律云〕共に闘訟律なり。

〔但隨事勢申左右耳〕事務の内容によりて或は左辨官に隷し或は右辨官に隷す。即ち下に引ける跡記によれば、文事なれば左辨官に申牒し、武事なれば右辨官に申牒す。傳宣草には、辨官に下す宣旨は、学事左辨官宣し、因事右

史生十人。掌繕寫公文。古記云。問。繕寫與造若爲別。答。造謂自親案成並上鈔也。繕寫謂承案成轉治寫裝潢等也。跡云。繕寫謂裝潢繕（縫）寫等也。行署文案。謂行官人所。取文案署也。釋云。賚公文。而往官人邊取署案。作云。古記云。未知。退家如何。答。猶行家令署也。「問。公式令云。行公文皆印事狀物數及年月日。並署縫處鈴驛傳并剋數者。未知誰人跡（蹋カ）其仰（印カ）哉。答。繕寫公文之史記即捺耳。然則少納言監蹋印請令史生捺耳。」跡云。行署*謂往主典以上許取署。讃云。行署文案者。賚公文。而往主典以上邊取署是。案之。行者行聽上不行其家也。

餘史生准此。古記云。無史生司者。主典自行署取。

左大辨一人。掌管中務式部治部民部。謂其餘不被管諸司。亦各隨事分隷左右也。問。辨官管八省。并八省管寮司。未知有別以否。答。辨官管省者。因事管隷。不常監臨。故律云。太政官雖管國郡。文案若無關涉。不得常爲監臨。内外官司准此。其省者。於寮司常爲監臨。故律云。所統屬官。謂省管寮。國管郡之類也。釋云。神祇官。春宮坊。左辨官管。彈正臺右辨官管也。*但隨事勢申左右耳。穴「云」。遣驛使者。左管諸司事。左辨官遣之。右管諸司事。右（凡）辨官遣之。訴訟事者。左京職事。左辨官受推即付刑部。右京職事。右辨官受推亦付刑部。凡出納藏物事。左辨官。宣中務出納訖。大藏省錄受（出カ）納物數。申右辨官也。又左事右受。右事左受。各令相知。而專受人自宣之。跡云。諸國申解者。隨事色申左右。言武事申右。文事申左。古記云。左辨官管諸司。謂中務式部治部民部也。讃云。問。左右兵庫并左右馬寮左右衛府等者。左右各分。可管攝官皷。答。皆右辨官可管。爲武官故。故古*私記。左右馬寮。右辨官管之。又或記云。彈正左右馬寮兵庫之類。革事並約耳。受付庶事。謂*依令。受事一日受。二日付了是也。古記云。申付庶事。*謂申官付諸司也。跡云。受付庶事。謂受諸司諸國事。而付諸司。受上事亦同耳。朱云。受付庶事。謂管諸司事也。讃云。受付庶事者。謂受上所仰政事。而付諸

辨官並すと見えたり。これ恐らくは令制中期以來の行事なるべし。

〔古私記〕古令私記の意にして、古記即ち古令の私記とは別なり。

〔依令〕公式令に依るなり。

〔申付庶事〕これ古令の句なり。新令は申付を改めて受付としたるなり。

〔糺判官內。自然可依上條例。而更生此文。爲糺被管諸司內歟〕太政官內の事を糺判すること、神祇大祐の職掌に「掌下糺二判官內一審二署文案一勾二稽失一知中宿直上」隷判官准此」とあるによりて當然知らる。何となれば、辨官は即ち太政官の判官なればなり。然るに茲に重ねてこの文を設けるは、即ち太政官內のみならず、その被管の八省の事をも糺判するの意なりといふを闡明せるなり。

司諸國。或受諸司諸國申事。而亦付諸司諸國也」。一端。營繕令云。在京營造及貯備雜物。每年諸司總料來年所須。申太政官付主計。預定出所科備。賦役令。雇役丁者。本司預計當年所作色目多少申官。錄付主計覆審支配者如此之類。謂之受付也。

糺判官內。朱云。糺判官內〔配者如此之類。謂之受付也〕謂辨一司內事也。讚云。糺判官內者。蓋如神祇祐主〔注〕也。但於此官者。當司竝管諸司之事。尋常可糺判者。皆爲官內事耳。「問。*糺判官內。自然可依上條例。而更生此文。爲糺被管諸司內歟。問。稽失被管亦同歟。答。判官內不及被管。」

署文案。讚云。署文案者。審字文略也。

勾稽失。謂勾官內稽失也。其被管稽失亦同也。釋云。無別。古記云。勘校稽失。謂官內幷管諸司稽失也。臨印。謂與神祇官祐同也。一說。即者大辨所掌。然今外記主當耳。一云。少納言官判官所掌耳。朱云。大納言以上。有稽失非違。勾稽失何。讚云。勾稽失。謂官內竝管諸司稽失也。其義亦同上條也。

知諸司宿直。謂被管諸司宿直也。當司宿直者。自依神祇大祐例也。*依令。京官開門前上。閉門後下。宿衞官不在此例。即明。宿衞官者不入諸司宿直之例也。古記云。宿直。謂官內竝管諸司宿直也。「問已云。被管諸司宿直者。然則兵庫等諸司宿直不可知。而更云。宿衞官不入諸司之宿直之例者。以此見之。除宿衞之外諸司宿直必可知行哉。四者內。諸司皆是。其左右京職左右辨各分。古私記左右馬寮惣上。答。以可知之。隨當時事分祿左右之狀於上說了。然則宿直之例也。」穴云。諸司宿直者右辨之類也。令釋所云。兵庫彈正馬寮之類。量事兼約耳。其五衞府掌宿衞官。故不合預宿直也。但自餘屏申者。皆申右辨。爲攝兵部故。又春宮坊宿直不預辨官也。「是非民事。亦非訴訟故。不論兵庫馬寮春宮京職。皆令知左辨官。」跡云。諸司每日至番宿直之鈔進辨官。但衞府雖宿直皆奏。朱云。未知。而門部以上每日奏何。此說又何司可奏乎。貞不得決。但疑者。若中務奏官人宿直耳歟。但兵衞者一番內。必可宿直人也。而則除故任〔仕〕行使外。更不奏歟。番初日奏了故。未知何。又云。知諸司宿直者。知一司之內竝管諸司宿直者。*新令釋私記云。*宿直事。今行事書式部知。令辨官知。依令不可然也。皆辨官可知。讚云。知諸司宿直者。知官內竝管諸司宿直也。今日別令進宿直札。勘知宿直官是。問。有宿直不經辨官之司哉。答。

〔依令〕この令は宮衞令なり。
〔新令秘私記〕新令私記と同一書ならむ歟。
〔宿直事今行事書式部知夜辨官知依令不可然也皆辨官可知〕これ行事と法意即ち實際の慣行と法令の趣旨との相違せることを示せるものなり。
〔外印〕太政官の印なり
〔新令問答〕養老令の註

穴案。春宮坊之宿直。不預辨官者。私案。不妥可檢也。又 諸國朝集。新令私記云。諸國朝集。式部省散位
五衛府者。常宿直官故不煩宿直。今時行事日別奉也。 寮兵部省皆掌。朝集未知其掌如何。
答。辨官式部兵部。並爲申雜政並考選等掌耳。唯散位寮爲點上日掌耳。然其上日者。式部點檢申官。請外印*
下國耳。內相定。朱云。諸國朝集。謂朝集使來雜政申。辨官聽裁者。*新令問答見也。讃云。諸國朝集者。爲勘考選
並雜務等掌之。式兵部亦爲考選事掌之。但散位寮者爲點上日掌耳。但其上日者送式部。式部點檢申官。捺
印下國耳。「問。式部條云。朝集義解云。諸國朝集使。依考選及補任郡司之事。集於此省。又兵部條有朝集。
此亦與式部同。又散位寮條朝集義云。諸國朝集使。皆於此寮。點其上日
者。未知辨官爲何事掌哉。案之。考文附朝集使。申太政官。以此可掌。」 若右辨官不在。則併行
之。釋云。併兼也。音卑政反。跡云。是辨無
者。右辨「官」併行。爲相左。右辨故也。
右大辨一人。掌管兵部刑部大藏宮內。「古記云。右大辨。」管右諸 餘同左大辨。古記云。
司。謂兵部刑部大藏宮內。 餘同左
大辨。未知。准與同若爲別。答同准。
義少異。但此條同字如准訓耳。
左中辨一人。掌同左大辨。右中辨一人。掌同右大辨。左少辨一人。掌
同左中辨。右少辨一人。掌同右中辨。左大史二人。右大史二人。左少
史二人。右少史二人。釋云。凡太政大臣以下。右少史以上。并少外記以上。*等親相避也。但外
記員與辨官員。不合相避也。古記無別也。讃云。釋云云也。問。左辨與

冒書なり。「同令釋をもご書ける際にこの補ある歟。

「官[illegible]相[illegible]」選敍令には凡同司主典以上、不得[illegible]三等以上親[illegible]なる條文ありて、三等以上の親族は、原則として同司の主典以上の官に[illegible]任することを相避くる[illegible]ものとせり。これは[illegible]典以上は公[illegible]に對して連帶の責任を有し、相互にその[illegible]を監察すべきものなればなり

「違[illegible]律[illegible]」名例律に「凡同司[illegible]公坐[illegible]者、長官爲[illegible]一等、次官爲[illegible]一等、判官爲[illegible]一等、主典爲[illegible]一等、各以[illegible]由[illegible]爲首」云々とあるものを指せるなり。

「謂廣申公事人」訴人とは廣く公事を申す人を謂ふなり。後世訴訟を公事と云ひ、[illegible]人を公事人と云ふことも之に[illegible]。

「但少領以上」臨時[illegible]使には[illegible]司以

右辨、少納言與史、辨與外記如何。答。額大夫說。不可相遷也。案連*坐律知之耳。私案。右辨官不在者。左辨官有併掌之（文脫カ）。然則左右可相遷相抑可覆檢也。

左史生十人。右史生十人。左官掌二人。掌通傳訴人。釋云。通傳訴人。謂導示訴人進止言辭也。穴云。通猶通導也。朱云。通傳訴人。謂廣申公事人耳。不必申訴己身患狀者。檢校使部。守當官府。跡云。守當猶守也。府者。治公文舍。並官人所居等也。釋云。周禮以八法治官府。鄭玄曰。百官所治曰府也。說文。文書藏也。府者。大禹反也。聽事鋪設。釋云。聽事者。官司所聽政事之處。謂之聽事也。鋪設者鋪音普。胡撫俱二反。鋪陳也。布也。設音尸熱反。毛詩。肆筵設席。傳曰。設席重席也。賈案之。私雖所謂敷席設席是也。穴云。聽事猶聽也。右官掌二人。掌同左官掌。左使部八十人。右使部八十人。左直丁四人。右直丁四人。巡察使。朱云。巡察使者。未知其志何。答。臨時若可遣此使者。此官明（印カ）預掌耳。掌巡察諸國。不常置。應須巡察。權於內外官。取清正灼然者充。謂郡司軍毅等。不在此限也。釋云。外官謂國司也。古記云。問。巡察使者。注權於內外官。未知。外官有限以下。答。外官謂國司也。問。若郡司大少毅等。堪此任者若爲。答。郡主政以下及大少毅等。不可取。但少領以上。臨時量耳。穴云。內外官謂並郡司用也。案本令知耳。問。散官何。答。擢才委任。然則令取用職事中。問。家令爲內官哉。答。令通例不同諸司也。案公式令上下之條知耳。又有准諸司考法文耳。跡云。內外官。謂國司爲外。朱云。內外官。謂內者京官也。但家令以下。不入內官也。外者國司也。郡司不入者。未見聞文耳。[illegible]云。公式令云。在京諸司爲京官。自餘皆爲外官者。案之。內文武官并國司等是。若無其人者。臨時商取散位家令及郡司耳。但擢才授職。故舉官人耳。問。家令官爲內哉。答。云云在

下の者を充てざること原則なれども、少領以上の者は、時に臨んで斟量して充つることあるべしとなり。

六、巡察事條及使人數。臨時量定。

令集解卷二

本云 文應元年六月廿二日於龜山宿所見合本書訖近日太上皇不豫之間悄然(心中相默)

仍不委見之但一令賀(朱カ)書畢　　員外亞相藤在判

文永十年閏五月二日重加一見畢　　內大臣在判

建治二年閏三月十五日引合正親町之本校合畢

一本 右以清家之本令寫之課職在邊校合畢

寬永甲戌初「秋」　　大府侍郎、中原職忠

「右者河村秀興先生之以藏本如本書寫且一校者也 元本朱書ハ之書入ハ武本ヲ以テ寫之 黃字ハ花山院家之本校合

明和丁亥孟秋　　盧智通邦 印

明和己丑 一本校合 即江府之本

與河村子一會了癸巳六月廿日」

文政三年仲夏以彰考館本比校了

撿校保己一

右令集解職員一借薩州山田氏之本謄寫訖

弘化四年丁未春三月八日

六十老翁神谷克楨

校了庚戌五月十九日元平

令集解巻三

中務

侍従　内舍人　大内記
中内記　少内記　大監物
中監物　少監物　大主鈴
大典鑰　中宮職　左右大舍人
圖書寮　内藏寮　縫殿寮
陰陽寮　畫工司　内藥司
内禮司

式部

大學寮　散位寮

中務省 釋云。務政也。省音性井反。明也。察也。徐廣雅說曰。上宮曰省。東宮曰坊也。凡中務省者。管詔勅之所通。宮中之所要。〔故次一。〕故次二官之後。居七省之前。跡云。中務省。奈賀乃司。* 職一。寮六。司三。釋云。神龜五年七月廿一日。* 新置内匠寮。管於〔於〕中務省。彼格云。物内匠寮頭一人。助一人。大允一人。少允二人。大屬一人。少屬二人。史生八人。直丁二人。駈使丁二十人。右令外增置。以補闕少。其使部以上考選祿料。一同木工寮。宜付所司。以「爲」恆。寮即入中務省管内之員。

卿一人。 釋云。卿明也。白虎通曰。以其章明臣道。故謂之卿也。 掌侍

〔奈賀乃司〕官位令義解は中務省をナカマツリゴトノツカサと訓み、通常にはこれをナカツカサと訓めど、古くはこれをナカノツカサと訓みたること之によりて知るべし。
〔神龜五年七月廿一日

「侍」内匠寮」この事、類聚三代格、卷四の同日勅及び續紀、卷十の同日條に見えたり。「同心也」同意たり。

「受事覆奏」謂爲事重顯文但省奏事放總判之例」中務卿は他司の事を受けてこれを覆奏する職務を有するが故に、受事覆奏なる字句を入れたるなり。中務省自身の奏事を覆奏することは、中

從。釋云。侍音時至反。孝經曰。仲尼閒居。曾子侍坐。「說」文曰「云」。侍承也。從音守龍反。廣雅云。從行也。使也。[illegible]云。案之祇、伺、承之意也。朱云。侍從謂與侍從注常侍規諫同心也。穴云。卿注侍從。又侍從注常侍。兩人無差別。何者少輔以上得侍從耳。故「知」必常侍從也。獻替。作記云。大納言注獻替與此獻替不見其別。但疑。納言注爲天下政事。此注爲御所尋常事歟。贊相禮儀。謂贊助也。相導也。禮禮節也。儀威儀也。言助導人君之禮儀也。釋云。贊音則幹反。佐也。導也。相音息高反。導也。禮禮節也。儀威儀也。言所以佐導禮節威儀也。禮記。有五禮六儀。五禮者朝聘喪饗婚姻之禮也。六儀者。祭禮之容。穆穆煌煌。朝廷之容。濟濟蹌蹌。喪紀之容。纍纍顚顚。軍旅之容。暨暨詻詻。如此之類。若有背違。徵(徵カ)擧其失。助勸其宜。使入于無過之地。實是臣下之忠節也。凡中務卿。非唯贊相人君之禮儀。兼亦誨正臣下之進退也。朱云。當可行禮儀時。可贊相耳。古記云。於君若于步行止立。若于步行廻立者。謂之儀也。申事時「言」。立聞。禮拜時者坐受者。謂之禮也。贊相者。助輔也。穴云。贊相禮儀。謂臨時有贊相事耳。又此的一人成政。其近臣等儀式也。內禮司內裏所掌。或云。卿亦掌爲非也。但有掌內禮司所禁察耳。爲管司故。跡云。贊相禮儀。謂一人言「之」禮儀。但彈正內禮司等。不近御所。故臣下在御所。有失禮儀者。此司御所敎助耳。

審署詔勅文案受事覆奏。謂依公式令詔書式。御畫日者留中務省爲案。別寫一通印署。又依勅旨式。受勅人。宣送中務省。中務覆奏訖。依式取署是也。釋云。詔勅文案者。詔書勅書之文案也。事見公式令。受事覆奏者。公式令。受勅人。宣送中務省。中務覆奏也。穴云。詔勅文案者。自余文案約總判之文。或云、尋常文案。只判官獨審署爲非也。受事覆奏。謂爲事重顯文。但省奏事放總判之例耳。假如審封之名、采女奏之類也

宣旨。謂侍從之宣命也。案軍防令有所征討。發日侍從充使。宣勅慰勞是也。穴云。宣旨謂知侍從宣勅慰勞事耳。凡宣旨此宣命也。其詔書大納言奏請也。如小事少納言奏宣也、但此司。掌侍從之宣命耳。其宣傳侍、行ヵ各別也。古記云。宣宣出也。旨詔勅旨也。爲一事爲非也。朱云、宣旨、謂軍防令云。有所征討。計行人。滿三千以上。兵馬發日侍從充使。宣勅慰勞發遣是也。或

務省の長官たる中務卿が省內を總判する權限を有する以上勿論の事にして、これのみなれば敢て「受事覆奏」の文を顯はす必要なしといふ意なり。故はナラフ（倣）と訓むべし。

〔異官判〕太政官の例外的處分例を集めたる書なるべし。

〔舊令〕前令と云へると同じく、大寶令を云ふならむ、

〔押監〕押は押領使の押にして、押へ支配するなり。監は監督、監修の監にして、勾勘の意なり。指揮命令と云ふに同じ。

〔後宮令〕後宮職員令の略なり。

〔彼令〕茲にては考課令を指せり。

（式）云。宣者宣出也。旨者勅旨也。此卿常近御所。自承宣旨勅旨者。私案。此宣旨與上大納言宣旨。可一同也。何者侍從獻替覆奏。皆無別之故者。而何。勞問。謂勞者郊勞也。依軍防令。凱旋之日。奏遣使郊勞是也。問者存問也。依公式令。五位以上致仕。身在畿內。令內舍人巡問奏問安不是也。讃云。文（又）軍防令大將出征。其家在京者。每月一遣內舍人存問等是也。釋云。勞力導反。勞勞來也。問存問也。問安不之狀。以慰臣下之意。是則人君之所以重臣也。軍防令。云云。公式令云云。受納上表。謂凡上表者。不由太政官。直向中務省。省受取奏進至尊也。釋云。選敍令。官人年七十以上。聽致仕。五位以上上表。表碑矯反。廣雅。表書也。釋名。下言於上書曰表也。又公式令。訴訟從下始條云。至太政官不理者。得上表。又職制律稱律令不便於時條云。詣闕上表者不坐。如此之類經中務。經中務而先由太政官。後經中務上表。但公式令云。有事陳意見。欲封進者。卽任封上。少納言受得奏聞。幷諸條中。中官奏聞等之色。經官奏耳。爲非上表。故云。據公式令。至太政官不理者得上表。故知上表。直進中務不申太政官官制依先說。穴云。受納上表。謂凡諸上表皆悉入中務。不合由太政官。故異※官判云。先經官者舊※令情耳。跡云。受納上表。謂五位以上致仕。又至太政官不理者得上表。又律令之不便。至闕而上表等。如此類。皆先由太政官。官省中務。奏而收量（置）也。監修國史。謂圖書寮所修。此省吏押監也。案雜令。有徵祥災異。陰陽寮奏訖者。季別封送中務省。入國史是也。讃云。新令私記曰。辨官幷諸司等國內。行事。皆注可送寮也。然後寮修選其文。中務押※監耳。云監修國史謂圖書寮所修國史。此省卿押監。及女王。謂二世以下四世以上。其五世者。自入命婦宮人之例。卽有品內親王。亦隸於此省。爲掌考課故。若無品者自非仕官。理然不隸。問。女王亦非仕官者不隸。答。然也。釋云。私案。後※宮令給乳母條云。親王三人。子二人。考限准宮人例者。卽知。有親王名帳乃合考乳母等。故有品無品皆給也。今說考課令云。嬪以上及內親王家事。隸宮內省者。然則嬪以上女儒（豎）。及內親王乳母等者。宮內省定等第送中務省。不預縫殿寮。但其至考者。付縫殿定耳。彼※令穴云。主家。只注上日行事送省。省承亦准諸司考法考耳。朱云。官（宮カ）「人」是也。讃云。女

〔繼妻號命婦哉〕繼妻は即ち後妻なり。五位以上の者の後妻は、外命婦と號するを得る哉と設問せるなり。

〔宮中令〕これ亡佚せる宮衛令の逸文なり。珍重すべし。

〔神覺〕御覽、天覽と云ふに同じ、天皇の御閲覽を謂ふ。

王者。爲官（宮人）者不限有位無位皆是爲考敍故。跡云。女王謂五世以上宮人仕者。不限有位無位。皆是司有名帳。縫殿寮亦有同名帳也。

内外命婦。謂婦人帶五位以上。曰内命婦也。五位以上妻。曰外命婦也。釋云。五位以上謂内命婦。從夫得蔭謂外命婦。何者後宮職員令云。其外命婦准夫位次故也。周禮云。内命婦謂九嬪世婦女御也。外命婦謂卿大夫之妻也。春秋昭四年傳曰。大夫命婦喪。浴用冰。杜預云。命婦。大夫之妻也。穴云。問。外命婦未知。婦妻死。繼*妻號命婦哉。答。可勘。又問。或云。天下五位妻。不論官不皆是。或云。論謂見官仕兩說誰是。答。只舉見官仕者。已約宮人。何別稱外命婦。然則不論官不皆是也。爲外命婦准夫。准夫位次耳。

宮人。謂案後宮職員令。内侍以下十二女司是。其氏女。御巫。縫女。乳母。東宮宮人。嬪以上女豎。歌女等名帳。考選。位記。亦皆總掌也。讃云。私案。豎猶男官與式部之也。跡云。宮人仕官。不限有位無位。皆是司有名帳。縫殿寮亦有名帳也。

等。朱云。問。宮人等。未知。等字情何。先云。上計諸色。則稱等者。私案。縫女歌女等考。可與此省。爲若爲此歟何。

名帳。考敍。釋云。縫殿采女職十一司宮人考。本司校定送縫殿寮。以外縫女采女等之類。本司直送中務。爲由男官。爲本司故。朱云。考敍者。考校敍位。二事。此省掌。女初位以上考敍耳。

位記。跡云。案公式令。五位以上位記。此司可知。然則男者五位以上。於女者初位以上也。朱貞同之。讃云。授位式部可知之。何者爲給賓人也。抑可檢之。

諸國戸籍。租調帳。謂案*倉庫令。調庸等物。應送京者。皆依見送物數色目。各造簿一通。此簿即納於民部省而於此令。亦云。租調帳。即是租調等帳。各造一通。更須納此省。其戸籍以下諸簿者。非此省之所執檢。唯止擬神*覺而已。〔問。租調帳之下。稱戸籍以下者。僧尼不入以何哉。答。如義解可然。然而僧尼籍亦止擬御覽而已。〕以上三十七字。釋文ノ攙入ナルベシ。釋云。租調帳。謂倉庫令調庸等物。應送京者。各造簿一通者。此爲納民部大藏。今案此文。更寫一通。可納中務耳。又云。庸帳文略也。古記云。問。戸籍租調文。中務掌若爲。答。國國申送太政官。即送中務耳。穴云。民部受官符國解帳。共諸國司檢納了。更寫一通以爲案。「以送中務。」以正文送中務耳）

僧尼名籍事。 讃云。雜令云。僧尼。京國官司。每六年。造籍三通。各顯出家年月及夏臘德業。一通留職國。以外申送太政官。一通送中務。一通送治部是也。問。此省卿可有總判職哉。答。可有。何者。神祇伯注云。總判官事。餘長官判事。准此之故也。

大輔一人。掌同卿。唯規諫不獻替。 謂以忠。恩。正君曰規。以義匡主曰諫。其所獻替者大。而所規諫者少。事既有大小。故立制不同。若無卿者。亦得獻替也。釋云。以恩正君謂之規。規正也。音癸支反。以義匡主謂之諫。諫禁也。改也。音何鴈反。切韻古晏反。言能諫其非。令改其過也。*規字之傍。從夫爲正。從矢爲非。諫字之傍。從柬爲正。從東爲非也。左傳曰。近臣盡(書)規是也。師說云。是少事也。作記云。恩音於根反。毛詩。恩斯勤(懃)斯。傳曰。恩愛也。說文。恩惠也。廣雅。恩隱也。規「音」癸支反。野王案。規圓也。孟子。規矩不能爲方圓是也。尙書。官師相規。孔安國曰。更相規闕也。國語。使不規東夏。賈逵曰。規猶有毛詩同也。鄭玄曰。規正員之器也。規主仁仁恩也。切韻。音居隨反。跡云。問。規諫行事何。答。*一端。飲酒過度者。申悟之類。與獻替同心。但以事大少爲別耳。又問。詔書式云。少輔亦不在者。餘官見在者。亦准此。未知。除詔書之外。諸事判官。*亦倣之不。答。詔書。依彼文倣行。但餘事臨時簡權。可行者且行。不可行。*自從上條說訖也。讃云。侍從獻替贊相及規諫等不合也々々。

少輔一人。掌同大輔。

大丞 釋云。丞音之繩反。此字在於大部。今檢雖有多訓。不合職掌。蓋是丞字耶。音特(持)(時)陵反。訓奉也。從受也。猶事也。讃云。一云。承也。切韻曰。丞佐也。翊也。 一人。掌宮人考課。 謂勘問宮人考課。即與式兵部丞考問。義同也。讃云。一端。舉宮人。自餘婦女。得考之徒皆是委曲。說卿注了。問。式部丞注云。勘問考課。與此宮人考課。有別哉。答。以男女爲別也。無有異義也。但穴云。勘問之字文略耳。跡云。然則縫殿寮*十二司考文進省被考問耳。若考等第不等者。依法不被考耳。或云。文不文(云)不略也。何者宮人出向於省。被問於事不便。未知是非也。 餘准神祇大祐。

少丞二人。掌同大丞。 大

〔規字之傍從夫爲正從矢爲非〕規諫の規の字は規とあるが正しく、䂓とあるは非なりとなり。

〔一端飲酒過度者申悟之類〕一端は一例と云ふに同じ。一例を擧ぐれば、度を過ぎて酒を飮むことを諫めて、その非を悟らしむるの類なり。

〔亦倣之不〕またこれに倣ふや否やと訓む。この規定(公式令の)を他の場合にも類推適用し得るや否やと設問せるなり。

〔自從上條說訖也〕この論既に前條にこれを論ぜりとなり。即ち大納言職掌の條に即にこの論見えたり。

〔十二司〕內侍司、藏司、書司、藥司、兵司、闈司、殿司、掃司、水司、膳司、酒司、縫司の十二司なり。

「補闕者假令臣等將朝見不著御襪令服耳」補闕と稱するは、例せば、天皇臣下の朝見をみそなはすに當りて、御襪を著するを遺忘せられたるを注意して、これを奉るが如きを云ふなり。襪はシタウヅにして靴下、足袋の類なり。

〔一人〕「師範一人。儀形四海。」の一人にして、天皇を斥す。

錄釋云。錄具也。第也。猶記也。音力屬反也。一人。少錄三人。史生二十人。侍從讚云。侍從說卿注訖也。八人。掌常侍規諫拾遺補闕。謂拾捘遺忘。補益闕失。卽是少事。與大輔規諫同也。古記云。規諫者少少行事。假令。御酒過度正諫耳。釋云。拾音時立反。鄭玄注。儀禮謂之拾者斂也。所以斂衣也。捘也。遺音以住反。又音胡癸胡季二反。毛詩。棄予如遺。箋云。遺亡也。失也。餘也。補闕。毛詩曰。袞職有闕。維仲山甫補之。師說云。此亦小事也。補音浦古反。補猶塞也。闕音袪月反。缺也。失也。闕猶過也。又古記云。拾遺者。可行事在遺忘串悟耳。補*闕者。假令。臣等將朝見。不著御襪令服耳。春秋傳曰。近臣盡規規主仁恩也。以恩親正君云規也。曲禮下云。爲人臣之禮不顯諫。三諫而不聽則逃之。注。逃去也。君臣有義則合。無義則離子之事親也。三諫而不聽。則號泣而隨之。注。至親無去志在感動之炫。孝經題云。拾其滯遺。補其弊漏也。毛詩云。袞職有闕。「能補者」維仲山甫補之。注有「云」。袞冕者。君之上服也。仲山甫補之。言補過也。「鄭玄」箋云。袞職者。「鄭玄」。不聽斥「敢斥」王之言也。故言王之職有缺。能補者仲山甫也。跡云。拾遺者忘事串悟。補闕者。裝束闕落取治心耳。又云。侍從以下上日。省錄日記哉。內舍人九十人。掌帶刀宿衞供奉雜使。「祿令云。其位主典以上者准少判官。以外並准大主典。」讚云。隨一*人命。供奉內外耳。一端。宮衞令有獻軍器衣使等。卽令內舍人隨獻人將入。軍防令。大將出征皆授節刀。辭訖不得反宿於家。其家在京者。每月一。遣內舍人存問。又云。有所征討計行人。滿三千以上。兵馬發日。侍從充使宣勅慰勞。發遣其防人。滿一千以上、並日遣內舍人發遣　又公式令。諸王五位以上。諸臣三位以上致仕。身在畿內。每季。五位以上。每年並令內舍人。一巡問存問安不之類是「也」。若駕行分衞前後。大內記二人。掌造詔勅。凡御所記錄事。釋云。御所記錄者。止斥至尊也　不渉三后也。中內記二人。掌同大

〔應爲二事〕監察出納を監察なる職務と出納なる職務との二事と解釋すべしとなり。監察出納は、出納を監察すと解せらるゝおそれあるによりて、この注意あるなり。

〔彼令〕宮衞令を指せるなり。

〔律云奉勅開諸門本司不覆奏注云本司謂衞府及闈司〕律は衞禁律にして、奉勅開諸門は「諸奉レ勅以合レ符夜開宮殿門。」なる唐律に相當する我が衞禁律の一部なるべし。又注云とある注は予注にして卽ち疏ならむ。この律、また石原正明の律逸にも見えず。

〔今說〕今栞の說にあらずして、今行はる通說の意ならむ。

內記。少內記二人。掌同中內記。大監物二人。掌監察出納。穴云。*應爲二事。何者考課令云。爲監察不怠出納明密爲監物最故。宜熟彼義也。請進管鑰。謂管鑰猶鑰。與鍵牡爲管不同。是卽庫藏管鑰。其諸門管鑰者。闈司掌之也。案宮衞令及衞禁律。衞府各請進管鑰。卽亦闈司掌也。凡此省。錄以上爲同司。內記監物主鈴典鑰各爲一司。卽三等以上親。不可相避。其侍從內舍人。亦不相避之。穴云。周禮司門掌授管鍵。以啓閉國門。鄭衆曰。管鑰也。鍵謂牡也。又穴云。問。案宮衞令。錄出入人名帳送中務。又云。錄須開門宜送中務。又云。「其實中務省付衞「府」門者。*彼令如此知其中。答此依本條習耳。私案。凡物皆先至中務故。云然也。朱云。貞云。門鑰者。衞府請進也。其出納者。闈司可掌也。不可由典鑰。何者衞禁律。進門鑰違遲條云。衞府及闈司之故者。又穴云。問。*律云。奉勅開諸門。本司不覆奏。注云。本司謂衞府及闈司。案之。少納言無合預也。推之。衞府覆奏勅稱是了。卽當時闈司出給也。又云。中務衞府俱奏物者。不覆奏。卽知。此時者。闈司當時出給。但闈物處分故。令心少納言不預也。故律只稱闈司也。依本律。監諸門管鑰。然則衞府卽請進。少納言無預知。*令說亦同。因之思順之。古記云。管鑰謂宮門及百官諸國倉庫等鑰也。凡在御所鈴印管鑰等進付事。中務所掌。少納言兼典知耳。何以知者。少納言職掌兼知故。或說。「此」條少納言知鈴印傳符以外。不經太政官。進付鈴印等者。又每年諸國進送太政官鈴印。官進納中務。其不動倉鑰者不常給。國司依「請」給耳。或說云。主鈴典鑰。是中務之攝。不可知。但鑰者監物等。率典鑰等請進也。又穴云。侍從以下品。官不避等親。其實錄人并上日行事。省之可知之狀。并至考課令案耳。中監物四人。掌同大監物。少監物四人。掌同中監物。史生四人。大主鈴二人。掌出納讃云。出納其實耳。鈴印傳符。古記云。少納言率主鈴等請進也。卽卿輔等請進時並事緒相知耳。飛驛函鈴「事」。少主鈴

二人。掌同大主鈴。大典鑰二人。掌出納管鑰〔之〕。少典鑰二人。掌同大典鑰。省掌二人。掌通傳訴人。檢校使部。守當省府廳事鋪設。餘省掌准此。使部七十人。直丁十人。讚云。省掌注說如官掌注。其使部直丁取用之法。委曲述神祇條。

中宮 謂皇后宮。其太皇太后皇太后宮。亦自中宮也。釋云。周禮云。以陰禮教六宮。鄭司農云。陰禮。婦人之禮也。六宮。後五前一。王者之妃百二十人。后一人。夫人三人。嬪九人。世婦廿七人。女御八十一人云々。云々。謂六宮謂后也。婦人稱寢曰宮。宮隱蔽之言也。后象王。立六宮而居之。亦正寢一。燕寢五。教者不敢斥言之。謂之六宮。若今。稱皇后爲中宮。跡云。問。有三后並存者何名乎。答。有中宮職之員耳。掌說云。令意失云中宮。但事回辨。然可謂太皇太后宮皇太后宮皇后宮耳。時行事加之。職 *弘仁九年三月二十八日官符云。應置職掌二人。右得皇后宮職解稱。職務繁劇。人物難〔整〕。望請。准春宮坊。置件職掌者。中納言兼左近衞大將從三位行春宮坊大夫陸奧出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣。奉勅。依請。大夫一人。掌吐納啓令。謂納啓於上。吐令於下也。亮一人。大進一人。少進二人。大屬一人。少屬二人。舍人四百人。謂分番宿直等事。一准大舍人。跡云。舍人名帳分番宿直等。三不見者。〔案大舍人合習之〕。使部三十人。直丁三人。

左大舍人寮。右大舍人寮准此。*弘仁十年八月廿六日官符云。減〔以下六字集解文。當作細字。〕定大舍人數事。元八百人。今定四百人。右被中〔以下四十

〔弘仁九年三月二十八日官符〕この格、類聚三代格、巻四に見えたり。

〔案大舍人合習之〕大舍人の條に說けるところを案じて類推すべしとなり。合習はナラフベシと訓む。倣ふべしの意なり。

〔弘仁十年八月廿六日官符〕この格、類聚三代格、巻四に見えたり。但し三代格はこれを弘

仁十一年四月廿一日の官符となしたり。今何れが是なるやを知らず。

〔長上之官〕長上は才技長上など云へる長上にて、番上に對する名稱なり。長は永久、常久の意、上は官司に上ることなり。されば長上之官は、即ち常に官司に出勤する官吏の意なり

〔大同三年二月十六日官符〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。
〔大同三年十二月十五日官符〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。
〔弘仁三年二月廿八日官符〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

五字集解文。當作細字。)

納言從三位兼行宮內卿藤原朝臣貞嗣宣偁。奉勅。今依舊置內豎。宜大舍人依件定。其食及時服定壹佰人。頭一人。掌左大舍人名帳分番宿直。謂大舍人是供奉之人。故長官定其宿直官人。宿直者自依神祇官之例。問。內舍人亦供奉之官。省卿定其宿直乎。答。內舍人是長上*之官。故依常例。判官知其宿直也。穴云。宿直。未知何處。答。不審其所也。問。分番別有宿直歟。爲當上番皆悉歟。答。上番之內。更勘定宿直耳。不然豈煩哉。假使。跡云。使謂寮內差遣使耳。容儀事。朱云。軍防令。內六位以下八位以上嫡子。年廿一以上。見無役任者。每年京國官司。勘檢知實責狀。簡試分爲三等。儀容端正。工於書算爲上等。云云上等下等送式部簡試。上等爲大舍人云云者是也。先日此司更簡定容儀也。爲差遣時者。未合。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。大舍人八百人。使部二十人。直丁二人。

圖書寮

*大同三年二月十六日官符云。圖書寮造筆「手」。元六人。今定三人。造紙手。元八人。今定五人。右右大臣宣。奉勅。年料造紙。其數不多。所有紙手用造既無食料。又年中造筆無有定數。依臨時宣。造備供奉。准量所用造手有餘。並從減省。又*大同三年十二月十五日官符云。停止并減定諸司才。長上事。圖書寮造紙「長」上二員。右減一員定一員。造筆長上。造帙長上。右并停止。以前被右大臣宣偁。奉勅。件司等「才」長上數停止並減定如件。永爲恒例。又弘仁三年二月廿八日官符偁。圖書寮造紙手少初位下秦公室成。右檢案內。太政官去大同三年十二月十五日下彼省符偁。右大臣宣。奉勅。造紙長上一員宜從停止者。今被右大臣

〔跡云〕跡は阿刀、安都の略にて跡私記の著者なり。賀茂真淵氏等によれば、阿刀宿禰、安都首に、物部日台の後なりと雖も、この跡私記の著者の何人なるやは詳かならず。然れども僧尼令集解、還俗條には「跡云、國師僧尼與三綱同也。」と見えたれば、跡記の成る延暦十四年以前にあるべし。何となれば、延暦十四年八月國師を改めて講師となしたれば、延暦十四年以後更に國師あるべからざればなり。故に跡は恐らく延暦初世の人なるべし。一体[illegible]の令[illegible]に[illegible]間[illegible]と云ふものは、この跡私記と同一書ならむ也。

〔其京外者玄蕃掌〕其の京外に於いて行ふ佛事は、玄蕃寮之を掌る也。

〔前令稱生〕大寶令に於いては、寫書手を寫書生と稱せしなり。

官得。本物。前長上奏部乙足死去之替補宰成。自今以後。依舊定一員。**頭一人。掌經籍圖書。**謂五經六籍河圖洛書之類。其諸史百家亦兼掌也。釋云。經謂五經周禮樂周易尚書毛詩。籍謂六籍。上五經加春秋之經。謂之六籍也。今五經者。周易尚書毛詩春秋左氏傳禮記。加周禮儀禮。謂之七經。加公羊傳穀梁傳。謂之九經。但禮記者。雖後人作。得名爲經者。爲學者驗多故也。凡所藏之古謂經。經常也。所記之策謂籍。籍長也。跡*云。經籍。五經六籍也。言理常合行曰經。經常也。注就簡牘曰籍。籍長也。穴云。經籍合古六經六籍也。詩書禮樂易春秋左氏傳是也。但於今無樂之書也。又釋云。圖音達胡反。尚書河圖在東序。孔安國曰。河圖八卦也。龍馬。河圖曰。昔伏羲氏王天下。有神龍負圖出於黄河。法而效之。始以畫八卦。推陰陽之道。知吉凶所在。謂之河圖也。周禮曰。辨其地域而爲之河圖。鄭玄曰。謂畫其地形也。職制律云。河出圖。洛出書。然則圖與書二也。又穴云。圖書謂以河圖洛書物耳。古記云。謂經五經也。籍六籍也」。圖書在圖之書皆是也。**修撰國史。**謂措撥國事修緝史書也。古記云。治曰修。執筆曰撰也。穴云。國史。謂當司所記是也。令釋稱史官之所記說錄書也。假如。實錄之類也。又古記云。國史。當時之事記書名也。如春秋漢書之類。實錄事也。朱云。修撰國史。謂實錄事也。何者考課令云。詳錄典正詞理兼擧爲文史之最故也。跡云。假如。永可爲跡者也 於詔書可跡者入耳 又如章下ニ章表等也。作云。義解。毛者。毛詩。緝續也。國語。緝明也。爾雅 緝光也 野王案 緝撰也 說文 緝續也。方言所以懸擢。謂之緝也。**內典。佛像。宮內禮佛。**謂宮中諸作佛事也。正月金光明會。及臨時轉讀般若等之類。其*京外者玄〔掌〕蕃掌。**校寫。裝潢。**謂裝治曰裝。染色曰潢。即寫書以下諸手者。皆得寫人也。釋云。裝治曰裝。裝音側羊反。潢音胡光反。**功程。給紙筆墨事。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。寫書手。**釋云。前*令稱生故。師說云。凡令內稱生無師者。是得考之色。有師者。只免徭役耳。此令之通例也。

〔借品部〕借陵戸と云ふと同じく、假の品部の意なり。品部は前代の作（トモ）、部（ベ）の遺制にして、雜戸と共に雜色人と稱せられ、良民の最下に置かれたり。然れども品部は雜戸に較ぶればその身分一等上なり。

〔大同三年七月十六日奏〕この官奏、類聚三代格、卷四に見えたり。但し三代格はこれを廿六日に作れり。

〔延暦十八年四月廿三日奏〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。又類聚國史、卷百七職官部にもこの事見えたり

〔大同三年十二月十五日官符〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔大同元年十月十一日官符〕この格、類聚三代格、卷四及び類聚國史、卷百七に見えたり。

廿人。掌校寫書史。朱云。問。校寫書史者。未知。校與寫二事歟。一事歟。答。校與寫二事。但書史一事也。猶言書耳。頭注云。校寫亦如之也。跡云。無校生故。且寫且校耳。穴云。問。此司寫書以下造墨以上。爲當司設歟。爲當分給諸司歟。答。私案。爲供御及諸司等所造也。裝潢手四人。掌裝潢經籍。造紙手四人。掌造雜紙。造筆手十人。掌造管。造墨手四人。掌造墨。使部廿人。直丁二人。紙戸。釋云。別記云。紙戸五十戸。山代國自十月至三月。毎戸役一丁。爲＊借品部免調雜徭也。古記無別。

内藏寮 作記云。野王案。藏謂蓄財也。倉府之屬也。＊大同三年七月十六日奏云。加置官員事。内藏寮今加少允一員。右件供御忙劇。兼侍別物。伏乞。更加件員。以前。雖官職之員令條立限。而臨時取宜。政道攸尚。伏乞。依件。廢置合理其務。臣等商量所定。具件如前。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞謹奏。又＊延暦十八年四月廿三日奏云。置廢官員事。内藏寮。省主鑰四員。今加少屬一員。右件員少事多。忽劇尤殊。而主鑰四人。曾無一用。從置官員。還費俸祿。伏請。省除更加少屬一員。綜濟寮務。以前。雖設官分職令員有限。而斟酌閑繁。取舍時宜。恆典通論。善政所先。伏望。廢彼閑吏。更置此要員。臣等商量所定。具件如前。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞謹奏。又＊大同三年十二月十五日官符云。停止並減定諸司才長上事。内藏寮典履二員。右減一員定一員。典革「長上」。造油絁長上二「造」御履長上。造御撿長上。右四員並停止。以前被右大臣宣偁。奉勅。件司等才長上數停止。并減定如件。永爲恆例。又＊大同元年十月十一日官符偁。典履二人。百濟手部十人。百濟戸。典革一人。狛部六人。狛戸。右件元大藏省之所管。今右大臣宣。奉勅。件人等。自今以後宜隸内藏寮。頭一人。掌金銀珠玉。謂自生爲珠。作爲玉也。釋云。無別。又云。管子曰。玉起於江漢。珠起於赤野也。寶器。謂金樽玉盞之類也。錦綾。

「穴云」上來雜物に見えたる穴云は、穴私記にいふの意なり。穴私記は、即ち明法博士穴太內人の令私記にして、穴說、穴博、穴太博士等とあるもの皆これなり。內人の名は、法曹類林、卷二百に見える弘仁五年六月三日の勘文に唯一箇所見ゆるのみにして、その傳詳かならず。「穴太博士」とあるによつて察するに、その明法博士たりしこと明ならむ。穴太はアナホと訓む。新撰姓氏錄、未定雜姓、左京の部には「志賀穴太村主。後漢孝獻帝男、美波夜王之後。」と見え、又三代實錄、貞觀五年三月十一日の條には「詔令下近江國坂田郡穴太氏譜圖與二息長坂田酒人一同レ卷進上官。」と見えたれば、穴太氏は歸化人の子孫にして、代々近江國坂田郡に住みしことを知らる。三代實

雜緤、氈褥。謂撚毛爲褥席者也。釋云。氈音之延反。說文云。撚毛爲席也。褥音乳屬反。褥毛席也。作云。爾雅。褥茵也 禮記。茵褥也。野王案。以虎皮爲䒌。音於申反。又釋云。撚乃殄反。撚續也。相接續也。諸蕃貢獻奇瑋。謂非常之物。其金銀以下雜物。皆自大藏省。割別而所送者也。釋云。奇音竭知反。奇異也。瑋音禹鬼貴二反。瑋琦也。*穴云。奇異也。瑋重也。瑋琦也。私案。香者約奇瑋文耳。即自此司分遣內典藥。又此司彩色亦納置意讀耳。「但化內所出香者。亦置納此司耳。」之物。年料供進御服。及別勅用物事。朱云。年料供進御服。及別勅用物者。倉庫令云。大藏准一季應須物數。量出別貯隨用出給。其內藏者。即納一年須物。每月別貯出用竝乘者附帳。欠者隨事徵罰是也。穴云。此司雜物支度一年用物。自大藏分受。每月別貯出用也。又穴云。內藏受納之物。亦監「物」等出給耳。鑰皆在御所故也。助一人。允一人。大屬一人。少屬一人。大主鑰二人。掌主當出納。穴云。問。此司主鑰職掌也。答。案職掌。云主當出納。不云鑰。然則審不掌鑰也。凡管鑰。皆中務所知故也。古記云。其大少主鑰。等親合相避。大藏准此。釋同之。餘主鑰准此。少主鑰二人。掌同大主鑰。藏部四十人。價長二人。掌平物價市易。謂猶言（者）評價直而市買也。作云。市利也。說文。市恃（持）也。「買」賣之所也。朱云。掌平物價市易者。臨時此司爲可賣物時耳。或云。監平物價與市易二事者非。亦（朱）貞不同也。餘價長准此。典履二人。掌縫作靴履鞍具。謂此爲供御也。穴云。典履。掌縫作也。非自親手造作耳。力推反。禮記曰。文王不能正履。鄭玄曰。履躡也。手造作耳。及檢校百濟手部。百濟手部十人。釋云。百濟手部十人得考也。跡曰。手部十人得考也。穴云。百濟戶爲作部也。古

錄に見える右衛門少志穴太門繼及び政事要略に見える左衛門大志穴太時道は、或は内人の子孫なるべし。

〔造賞賜之人既得考造供御之輩明知亦可得考〕これ又輕きを擧げて重きを示せるものにして、勿論僻釋の一例なり。賞賜の爲めの衣服を造る大藏省の被管の百濟手部尙考選に預るを得。況んや供御の用に供へる衣服を造る内藏寮の百濟手部が考選に預り得る事勿論なり。何となれば、賞賜これ輕く、供御これ重し。

〔延暦十八年七月廿一日官符〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔依雜令戸令。奴婢有給衣文〕雜令には「凡官戸奴婢、三歲以上、每年給二衣服一」云々の條文あれど、戸令には奴婢給衣の條なし。

記及釋云。別記云。百濟手部十口。左京一番役五人。爲雜戸免調徭也。百濟戸十戸。左京六戸。紀伊國四戸。臨時召役爲雜戸免調徭。餘亦同也。百濟手部十人得考。師說。百濟手部十人。此爲手人。不合得考也。私大藏省條云。義解云。百濟手部。狛部。謂並是得考者也。案之。彼省所造。此爲賞賜也。此寮所造。即爲供御也。*造賞賜之人既得考。造供御之輩。明知亦可得考。**掌雜縫作事。使部**

廿人。直丁二人。百濟戸。

縫殿寮

*延暦十八年七月廿一日官符云。縫殿寮准大寮事。右被右大臣宣偁。奉勅。件寮加充一員。以置大小。宜准大寮。又大同三年十一月十五日官符云。縫殿寮染師二員。右並停止。以前被右大臣宣偁。奉勅。件司等才長上數停止。並減定如件。永爲恒例。**頭一人。掌女王。**釋云。有位無位并是。古記云。女王者有位也。但無位同耳、一說無位者宮人之例也。**及内外命婦。宮人**古記(說)云。宮人者。職員令著名皆是。**名帳。**朱云。女王及内外命婦宮人名帳者。後宮職員令女官之所管。亦此司重知耳。**考課。**謂内侍以下十二司之考課。即本司錄上口行事。送於此寮。寮定考第申中務省。以内侍司無男官故也。其縫女采女等考者。本司校定直送中務。不由此寮也。**及裁縫衣服。**謂此擬御服。并爲賞賜。其縫司亦同也。朱云。裁縫衣服人文不見也。臨時可有耳。又云。裁縫衣服。謂女官裁縫。此司累知耳。及後度說。此司亦別可裁縫者。穴云。裁縫衣服。謂勘掌女之縫司所縫也。非當司別縫作也。人賜之類。亦此司所知也。但縫部司者。縫衛士等衣服耳。又朱云。問。*依雜令戸令。奴婢有給衣文。但衛士無給衣文。此若案所說歟何。跡云。此司與采女司。但縫御服并人給服等也。又云。分配女司所餘者。可宛彼縫司。然則此司與彼司相縫耳。又云以下跡無記。**纂組**謂並綬屬也。釋云。纂組並綬屬也。纂音作管反。組音則古反。穴云。纂組謂綬屬。「王逸曰組也」、綬者所以貫佩玉相承綬者。爾雅釋云。草組似組。東海有之。郭璞曰。海中草生有象組者。因以爲

【天平二年三月廿七日太政官奏】この格の一部、類聚三代格、卷五の弘仁十二年二月十七日の官符の中に見えたり。

【古記云】上來屢ゝ引かれたる古記は、古令の私記にして、即ち大寶令の註釋書なり。古記の作られたる年代に就きては、法學博士中田薫氏嘗て之を考證せられたり。其の考證の要點は、古記中には、天平十二年八月に廢止せられたる和泉監の事見え、又天平九年の格見えたれば、古記の成れる天平九年以後十二年八月以前なる三年八ケ月の間にありと云ふにあり。余この天平九年の格を研究して、古記製作の推定年代を更に十一ケ月短縮するを得たり。茲にその研究の要點を示さん。問題の天平九年の格は、選敍令集解選代條に「古記

名者。私案。纂組雖同爲綬。而之。此中有丸者爲組。平草部形似組故。古記云。纂組條。綬二種無別也。一云。玉篇。纂。國語。纓纂以爲奉。賈逵曰。奉紐也。所以繫玉之纓也。以纓織纂取其易也。是舒。纂組綺縞。漢書。錦【補】纂組宮女功。應劭曰。今五采屬粹也。說文。似組而赤黑也。玉篇。音時帝反。周禮。纂人掌典纂綬之事。鄭玄曰。綬組所以繫轢也。禮記。天子玄組綬。公侯朱綬。大夫青組綬。世子纂組綬。士縕綬也。鄭玄曰。綬者所以貫佩玉相承受者也。爾雅。遂綬也。郭璞曰。即佩玉之組所以連繫瑞玉。因通謂之遂也。」事一人。助一人。允一人。大屬一人。少屬一人。使部廿人。直丁二人。

陰陽寮

釋云。*天平二年三月廿七日太政官奏云。陰陽得業生三人。曆得業生二人。並准大學生。

頭一人。掌天文曆數。風雲氣色。

謂。天文者。日月五星廿八宿也。曆數者。計日月之度數。而造曆授時也。氣色者。風雲之氣色也。言以五雲之色。視其吉凶。候十二風氣。知其妖祥。其天文博士職掌。唯言氣色。不言風雲者。舉氣色。則有風雲可知也。古記云。天文謂日月蝕星變也。此記可求。作云。五星。東方歲星在地青龍。南方熒惑在地朱雀。中央鎭星（鈎陳）。西方太白在地白虎。北方辰星在地玄武。廿八宿東方角二星亢四星氐四星心三星房四星尾九星箕四星。南方斗六星牽牛六星織女四星虛三星危三星營室二星東壁二星。西方奎十六星婁三星胃三星昴七星畢八星觜觿三星參十星。北方東井八星輿鬼五星柳八星七星七星張六星翼二十二星軫四星。天文圖凡三百八十三宮。一千四百六十一星。釋云。曆數。尙書堯典云。乃命羲和欽若昊天。曆象日月星辰敬授民時。孔安國曰。重黎之後。羲氏和氏。世掌天地之官。故堯命之。敬順昊天。昊天言元氣廣大也。星四方中星。辰日月所會。曆象其分節。敬記天時以授民也。此舉其目正別序也。大戴禮。聖人緣(?)積。守日月之數。以察星辰之行。以序四時之從逆。謂之曆也。六云。風雲二氣一已說了。孔安國曰。曆分象節也。世未容成作曆。宋志云。黃帝臣也。今曆推有黃帝調曆日述也。又世本隷首作數。宋志曰。黃帝史也。案之。勘日月曆數造曆。是故大藏(?)釋云。在上文。又古記云*。曆數十九年爲一章。三年閏九月。六年閏六月。九年閏三月。十一年閏十一月。十四年閏八月。十七年閏五月。十九年閏十二月。不置閏。未盈三年差一月。正月反爲二月。未盈九年。已校三月

云。假令。天平九年格。石見等國。依二疫病一不レ進二考文一。」云々とあるものなり。この天平九年は、我が國に疱瘡の流行したる最初の年にして、格文に云へる疫病が全國的に流行せる疱瘡なることは云ふ迄もなかるべし。續紀によれば、この疫病は、同年春四月の頃新羅より筑紫に傳はり、六月には京師に入りて公卿大夫の死する者多く、藤原不比等の四子相次いで斃れ、終に廢朝の止むなきに至れり。格文に云ふ石見國考文を進めざりしは、國衙の官人に闕卒する者多かりし故ならむ。然り而して養老考課令の制によれば、外國の考文は十一月一日に朝集使に附して之を進むべき定めなれば、石見國疫病によりて考文を進めずと云へる前記の格は、早くも十一月一日以後

則以春爲夏。未盈十七年。則差校六月。便以春爲秋。春秋正義曰。古今之言暦者。大率皆以周天。爲三百六十。五度四分度之一。日行比月爲遲。毎日行一度。故一歳乃一周天。月行比日爲疾。毎日行十三度十九分度之故。一月内則行一周。又行廿九度過半。乃逐及日。言一月一周天者。略言之耳。其實及日之時。不啻一周天也。日月雖共行於天。而各有道。毎積二十九日。過半行道交錯。而相與會集。以其一會謂之一月。毎一歳之間。凡十有二會。故一歳爲十有二月。日月動物。雖行度有大量。不能不小有盈縮也。又曰期曰三百有六旬。謂從冬至至冬至。必滿此數。乃周天也。凡廿九日過半月行及日。謂之一月也。過半者謂一日。於暦法分爲九百四十分。月行及日。必四百九十九分。是過半廿九分。今一歳周有三百六十五日四分日之一。其十二月一周。唯三百五十四日。是少十一日四分日之一。未得氣周。細而言之。一歳止少弱十二(一)日。所以然者。一月有餘分廿九。一年十二月有餘分三百四十八。是一歳既三百五十四日。又得餘分三百四十八歩。其四分日之一。一日爲九百四十分。則四分日之一爲二百三十五「分」。今於餘分三百四十八内。取二百三十五。以當却四分「日」之一。餘分仍有一百「一」十三。其整日唯有十「一」日。又以餘分一百「一」十三。減其一日九百四十分。唯有八百廿七分。是一年有餘十日八百廿七歩少一百「一」十三分不成十一日。一卷正義文。又釋云。風所以動物也。天地之氣。音甫融反。雲山川之氣。音禹軍反。又古記云。卿雲者太氣也。朔日望雲。則災祥可覩也。左氏傳。天有六氣。陰陽風雨晦朔也。楚漢春秋亞父課曰。吾使人望。沛公長氣衝天或似龍。或似虎。非人臣氣也。史記云。其氣皆如龍虎。或成五色。此天子之氣也。氣者上三物色。釋云。或云。蒙霧之類是謂氣色。氣音社既反。此上古記與釋無別。東方朔書云。正旦臚雲氣。知當年豐儉災祥也。又穴云。左傳云。凡分至啓閉。必書雲物。杜云。物氣色災變也。正義云。言物謂氣色者。非雲而別有氣色。故恐與雲相亂。故別云氣色也。天文博士候天文氣色。謂天文與氣文二事也。文略也。有異密封奏聞事。穴云。天文亦合有異也。然則屬心(必)天文以下。皆奏聞也。但暦數之文。中間班耳。助一人。允二人。大屬一人。少屬一

に發せられたるものならざるべからず。古記の撰者は全く不明なれども、その新令施行の後に至る迄學者により て引用せられたるを見れば、當代巨匠の手に成りしや疑なし。古記の學說の特色は、行事を示すこと多く、又具體的事例を舉ぐること頗る多く、又日本語を以て屢〻漢語を解釋せることにありて、この點一にも二にも支那の古典を引かざればおさまらざる令釋と好個の對照をなせり。

〔凡令通例有師生者不得考只免徭役耳〕この文既に師說云として圖書寮、寫書手の條下に見えたり。

〔長者〕技術に長ぜる者なり。

人。陰陽師六人。掌占筮相地。謂占者極數知來曰占也。筮者蓍曰筮也。相者視也。古記云。陰陽師相地。訓見訓量也。陰陽博士一人。私問。陰陽師其位。博士其位。而居陰陽博士上之由也「如何例」。答。博士與生。不可相隔作如此耳。掌教陰陽生等。陰陽生十人。掌習陰陽。曆博士一人。掌造曆及教曆生等。曆生十人。掌習曆。天文博士一人。掌候天文氣色。有異密封。及教天文生等。天文生十人。掌習候天文氣色。朱云。習與候二事也先云。一事此生不得考也。凡令通例。*有師生者。不得考。只免徭役耳。跡云。天文生得考否。漏刻博士二人。掌率守辰丁。伺漏刻之節。守辰丁廿人。朱云。問。未知。得考之人歟。答。不得考。則此中取*長者。爲漏刻博士者。未「知」。掌伺漏刻之節。以時擊鐘鼓。使部廿人。直丁三人。天平十二年三月廿七日奏。陰陽得業生三人。曆得業生二人。並准大學生。

畫工司 釋云。畫音離卦反。爾雅。畫形也。郭璞曰。畫所以爲形象也。正一人。掌繪事。謂畫文卽繪事後素。是也。釋云。繪五采也。音胡對反。繪亦論語繪事後素。鄭云。繪畫文。皇云。繪畫。彩色。謂用畫之雜色。卽朱黛等之類。其朱黛等雜色。在大藏省及內藏寮。隨其用度。臨時受用。常不在此司貯之也。判司事。餘正判事准此。謂於神祇官。既立條例。自餘諸司所貫之。而更有此文者。贅詞重疊。非有殊意。朱云。此司最在司之上也。故爲以下司。一端立例。無別意者。未知。然何佑令史職掌。不云哉。佑 穴云。音胡

究反。禮記云。祐佑無考。鄭玄曰。祐佑猶扶持。廣雅。佑助也。一人。令史一人。畫師四人。古記云。問。此長上畫師無位令文。若爲。答。官位令無文。然依職員令文補任耳。*是所謂以別勅才伎長上諸司耳。跡云。若畫師有闕者。取*友造六十內補耳。此記可求也。畫部六十人。穴云。畫部六十人。謂識畫也。然則識畫之人六十四人而已。

使部十六人。直丁一人。

內藥司 尚書。司主也。說文。臣司事於外也。正一人。掌供奉藥香。跡云。藥并名香等進也。釋云。香名香也。穴云。名香謂藥之外諸香是。自大藏內藏來耳。*賦役令香藥故也。朱云。香者類藥奇香也。故此司掌者未。和合御藥事。佑一人。令史一人。侍醫四人。掌供奉診候。謂診驗也。候望也。言診驗血脉。候望顏色也。此診驗者。與醫疾令所謂診候。其意少異也。釋云。診候者診驗也。謂診驗血脉耳。候望也。謂候望顏色耳。穴云。診候具於令釋也。*醫疾令云。請脉決者令遞相診候者。爲脉生成文也。但此條。識死亡之氣。謂之候也。與彼爲異也。私案。疾是一種。發萬種。醫不知之。逢與藥故藥。經立候法。古記云。診候取脉也。診音之忍反。見病氣色也。已見一切經音義涅槃部。醫藥事。藥生謂此生卽得考之人。以自親供事故也。十人。掌搗篩釋云。搗音丁道反。搗舂也。篩音所佩反。說文。竹器可除麤去細也。諸藥。使部十人。直丁一人。

內禮司 *大同三年正月二十日詔。觀時改制。論代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職。損益非同。求之變通。何常准之有也。思欲省司令吏少牧多羊。致人務於清閑期官僚於簡要。其內禮司

〔是所謂以別勅才技長上諸司耳〕選敍令、散位條に「其以別勅及伎術。直諸司長上者。考限敍法。並同職事。」とあるを謂へるなり。

〔友造〕トモノミヤツコ（伴造）なり。茲には畫部を指す。

〔賦役令香藥故也〕賦役令に「凡諸國貢獻物者。皆盡當土所出。其金。銀。珠。玉。皮。革。羽。毛。錦。罽。羅。穀。紬。綾。香。藥。彩色。服食。器用。及諸珍異之類。皆准布爲價。以官物市充。」云々とあるを謂へるなり。

〔醫疾令云請脉決者令遞相診候〕請は讀の誤りなり。「醫針生、初入學者、先讀本草、脉決、明堂。」云々なる條文の一部なり。

〔大同三年正月二十日詔〕この詔、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔江云〕賦役令集解、義倉條に江說なるものあり。これと同一のものならむ。江は何人なるや未だ考へず。或ひは貞江繼人のことならんか。繼人のことは、「貞云」の條下に云ふべし。

〔見國廐折支者〕見は現なり。現行犯をいふ。折支は肉體を折損することなり。

〔番上人也一番三人可有耳〕六人の主禮が三人宛一組となりて、相を代して順番に官司に上るなり。故に主禮はこれ番上の人なりと云へるなり。番上は長上に對する稱呼なり。

〔但令行事門部者兵部補任耳此遺令文耳〕これ實際の慣行と法令との相違を示すものにして、注目に値すべし。

併彈正臺。主者施行。

正一人。掌宮內禮儀。謂門籍以內禮儀。其外者式部彈正掌也。「六」*江云。謂宮門以內迄至御所。又校正臣下之禮儀也。違失儀式之罪。至獄令合求之也。

禁察非違。謂若大臣彈正有非違者。內禮不得直禁。卽錄所犯申中務省。省更大臣之非違者。移彈正。彈正之非違者申大臣。各隨其狀。遞相紏正也。穴云。禁察非違者。督察紏察之義也。但於紏彈爲異。問。非違之罪禁斷如何。答。先禁但犯狀送者。省送刑部。若事大者。中務直送彈正。令奏彈也。其太政大臣。已是篤於道德。豈須論非常乎。釋云。禁察非違。謂假令。*見國廐折支者。告衛府。可令繫(禁止)。非然者注狀送中務。此禁內。故與「狀」獄令異。凡此司不得彈彈正非違。但彈正得押彈此司。古記云。云云。

佑一人。令史一人。主禮六人。朱云。*番上人也。一番三人可有耳。由(田)云主禮者可讀與(友)造。

掌分察非違。謂主禮。錄取所察之非違。卽令本司知正之。不得輙可禁。

使部六人。直丁一人。

式部省　管寮二

卿一人。掌內外文官名帳。謂任授簿外。更有名帳。其雜色亦可有名帳也。作云。何者公式令任授官位條云。餘色依職掌。應造簿者並准此。義解云。謂式部造作部及貢人簿之類故。釋云。內外文官。謂公式令云。凡在京諸司爲京官。自餘爲外官。又案云。五衛府軍團。及諸帶仗者爲武。自餘並爲文。朱云。雜任名帳亦掌者。未知。武官雜任名帳。何官可掌乎。式部與兵部與何。答。元式部可任耳。*但令行事。門部者兵部補任耳。此遺令文耳。但兵部官人等名帳式部可掌。

考課。謂考者考校也。課者諸司職掌所課之庶事也。言。考校一年功過者。必先據所職之修不。故曰考課。其

〔奏任、勅任〕奏任、勅任判任の區別は、選敍令に見えたり。卽ち大納言以上、左右大辨八省卿、五衞府の督、彈正尹、大宰帥は勅任にして、餘は大概奏任なり。判任の官は、主政、主帳、家令等を云ふ。

〔先云〕先私記云とあるに同じ。先人の私記の意なり。

〔太政官處分〕太政官の臨時の處分なり。斷獄律に「臨時處分不レ爲ニ永格一者」と云へるもの卽ち是なり。

〔明法博士外從五位下鹽屋連吉麿〕續紀及び武智麻呂傳は古麻呂に作る。これ正しかるべし。養老二年法學に達せるを以て養老律令の撰定に與かる。同五年正月、詔を承けて退朝の後東宮(聖武天皇)に侍し、同月明法博士たるの故を以て物を賜ふ。時に從七位下なり。養老六年律令撰定の功に

考課令所謂課者。爲課試之義。此條更有策試貢人之文。故不得重爲課試之義也。穴云。女王及内命婦等家令資人等考問之日。行事可在式部。又策試之人雜考課謂文官考課。跡云。考課謂考校功過也。釋云。考曰老反。考校也。稽也。成也。課恪過反。課猶訂也。平議也。試也。第也。

選敍。 謂選者選官也。敍者敍位也。穴云。選課隨任用上官。卽就考狀帳銓衡其人。故云選也。兵部亦銓衡武官耳。問。被選限何。答。*奏任以下也。勅任之色。非下官所知故也。問。女官亦奏任。未知。中務亦選哉。答。不審文也。何者依考選人之故。又專決奏任。亦爲未可也。敍位位記。累積可(可請)五位以上位記中務所知。此司依式加連署也。朱云。問。掌敍位意何。*先云。雖官敍位。式部先校定成選狀。申宮則。式部掌校位位案等。此故稱敍字也。無別義者。私同之。

禮儀。 謂朝廷之禮儀也。釋云。禮禮節也。儀威儀也。此謂朝廷禮儀之法式也。凡失禮儀者。三位以上者。遣少錄以上。就其位須。爲教紀。四位者遣史生等。爲教紀。五位者隨狀教正。不必遣教也。六位以下。式部召其正身爲教紀。*太政官處分。四位以上失禮儀者。召其司主典以上令教紀。五位式部召其正身教紀。凡八省相召者。隨務大少。將得相召。假令。式部向民部。民部向式部之類。隨宜交錯相通。若須授史生之事。如應授丞錄。亦准事之輕重耳。其式部依考選事。得召辨官史等。自餘部事不得召史已上也。*辨官五位以上上日史生送耳。若有可勘問事。亦得召史生等問也。問。彈正尹等有失禮儀者式部紀正以不。明法博士外從五位下鹽居(屋)連吉麿。答。謹案法令幷例。式部摠知朝廷禮儀之事。如有諸犯者。不論尊卑。必須教道紀正。若其臺家行事。縱不合理。式部不得輙致紀彈。但是在失禮儀。紀正無疑耳。式部式云。彈正在朝廷失禮儀者。省加教喩。古(右)(文)師說云。三位以上。失禮儀者。遣史生等令悟也。穴云。禮儀謂教正朝廷禮儀也。其內禮。亦近御所而教正近臣等耳。問。違失「禮」儀式部(事)。依獄令。於當司推斷。爲當放(故)禁察非違送臺及所司哉。答。至獄令令(合)勘也。

版位。 謂朝賀及祭禮。定著臣幷百官列位之版也。釋云。刊木曰版。列立曰位。儀制令云。凡版位。皇太子以下各方七寸厚五寸。題云其品位。竝漆字是。穴云。朝廷版位也。

位記。校定勳績。 謂勳績皆功也。不限文功武功也。釋

云。校古效居效二反。猶數也。報也。考也。比驗也。定德聽反。正也。量也。勳許運反。王功曰勳。右爲勳字也。績子狄反。功也。事也。周禮曰。王功曰勳。輔成於王業是也。事功曰勞。制禮樂是也。謂校勳績之大少。定等第高下也。穴云。周禮。立宗廟定社稷。謂勳動等業也。績功也。但征罰功。皆是。一端。大功見律。上功以下依令臨時聞。今案。校定勳績者。其定第等也。可有別式。乃須依別式校定功之大上中下。又云。校定勳績。謂校定有不之狀也。古私記云。校勳績之少大少。定等第高下也。問。勳事兵部所掌。而式部下注由何。答。隨文習耳。唐令亦同。凡勳位皆式部可校也。論功封賞。謂論其功勞。或封或賞也。釋云。掌論功及封賞事耳。尋義窮理謂之論。事君竭力謂之功。分地曰封。賜物曰賞。音傷冂反。賜也。周禮司勳云。國功曰成。民功曰庸。治功曰力。戰功曰多。鄭玄曰。國功。保全國家。若伊尹也。民功。法施於民。若后稷也。治功。制法成法。若皐繇也。戰功。戰巧見寇敵出奇。若韓信陳平也。如此之類。謂之功也。穴云。論功封賞者。從功大少。給封或給賞或可給田之狀。亦可有別式。依其式。可封可賞可給田之狀。此司校定申送官耳。此*掠習所說事以便宜。尙書封賞也。其位封或策(賞カ)竝是。田令云。功田。大功世世不絕。上功傳三世。中功傳二世。下功傳子。祿令云。五位以上以功食封者。其身亡者。大功減半傳三世。上功減三分之一傳二世。中功減四分之三傳子。下功不傳也。跡云。論功封賞。謂依其功等級。而封或賞也。此司校定職位封并功封等。可給之人申官。官下民部令封給耳。古記云。論功封賞者。摠曰封賞也。朝集。謂諸國朝集使。依考選及補任郡司之事。集於此省也。學校。謂大學也。釋云。學官爲學校。言學而校業之處也。周禮云。凡國有學。遂有校。鄭玄曰。勵校經業之處也。古記云。學校者。毛詩上。帙四卷子衿詩云。子衿。刺學校廢也。亂世則學校不修。注、鄭國謂學爲校。言可以校正道藝也。策試貢人。謂策試秀才明經之類也。釋云。策楚責反。蒼頡篇曰。策者簡也。不滿百文不書於策。其制長二尺短者半之。祿賜。謂位祿季祿。及臨時給賜也。穴云。祿謂二季依品位所給。是司勘知。及自大藏勘下。卽分給耳。賜謂別物臨時所給品告此司。令知分給也。問。賜田及依勳功田類何。答。民部可知。此司只知賜財物耳。

よりて田五町を賜ふ。天平寶字元年太政官奏してその田を下功田と定む。天平十二年藤原廣嗣の事に坐して配所にありしも、幾くもなく京師に召し還されたり。天平勝寶三年に成りし懷風藻には、古麻呂の詩を掲げて外從五位下大學頭と云ひ、選叙令集解には、鹽屋判事の名見えたれば、その大學頭、大判事等に歷任せしことを知らる。武智麻呂傳に當代の宿儒を擧げたる中に古麻呂の名も見えたり。

〔椋橋〕椋橋部家長なるべし。家長は、法曹類林、卷百九十七に興原敏久と名を並べて、二官を帶する官人一官に依りて失ありし時共に考を降すべきやの問題に就きて勘申せり。公式令集解、詔書式條には、椋屬とあれば、家長は大判事屬なりしが如し。椋説、椋云、椋橋

釋云。凡依四季上日。所給謂之爲祿。節日及別勑所給謂之爲賜也。 假使。 謂假者除六假外皆是也。本司判訖。卽申式部也。使者如巡察覆囚使之類是也。釋云。依私事而罷退爲假。依公事以差遣爲使。穴云。假謂奏及不奏竝是也。但古*假寧令非應奏及六位以下。本司判給。其應奏申省奏聞者與今*爲殊。爲祿及考。時(特)比校所知耳。又謂先主典以上也。使謂凡諸使皆告官。仰式部兵部令擢而已。問。內舍人大舍人等使亦知哉。答。彼當司所行也。此使者官仰簡是也。問。假寧令奏給假者。武官之假者兵部掌哉。何者職掌稱假使之故也。 補任家令。 謂先銓擬申官。然後乃補任也。釋云。選敍令。家令等官判任也。然式部先選定。申官補任耳。穴云。問。家令更擧由何。答。家令卑微之人。故不約文官。申官則成文也。古記云。請家令家申式部。卽式部申官。官判補也。 功臣家傳田。 謂有功之家。進其家傳。省更撰修。釋云。家傳書名也。假如。三史列傳之類。跡云。家傳謂功臣之子孫嫡嫡相繼狀注置也。古記云。三位以上。或四位以下五位以上有可爲功臣也。如漢書傳也。祿令云。五位以上。以功食封者。其身亡者。大功減半傳三世。上功減三分之一傳二世。中功減四分之三傳子。下功不傳也。田令云。功田。大功世世不絕。上功傳三世。中功傳二世。下功傳子也。 事。 大輔一人。少輔一人。大丞二人。掌勘問考課。餘同中務大丞。 少丞二人。掌同大丞。 大錄一人。少錄三人。史生廿人。省掌二人。使部八十人。直丁五人。

大學寮

釋云。天平二年三月廿七*日奏。直講四人。一人文章博士。(以下集解文當作細字) (律學博士二人。) 已上同 助教。 (明法生十人。文章生廿人。) 簡取雜任及白丁聰慧。不須限年多少也。 (得業生十人。) 明經生四人。文章生二人。明法生二人。算生二人。竝取生內人性識聰慧藝業優長者。賜夏人別絁一疋布一端。冬絁二疋綿四屯布

部とあるもの皆これなり。椋擡、椋椎、椋誓とあるものは、何れも椋哲の誤ならむ。戶令集解、造戶籍條には「穴云。太椋橋部等先衆不肯許耳」と見えたれば、家長は穴太內人の先輩なりしこと知らる。椋哲を引けるもの大半は穴記なれば、家長は或ひは內人の師ならんか。

〔古假寧令〕大寶の假寧令なり。

〔與今爲殊〕上記の大寶假寧令の文、今の養老假寧令の文と異なるあり。

〔天平二年三月廿七日奏〕この格の一部、類聚三代格、卷五の弘仁十二年二月十七日の符中に見えたり。

〔天平廿一年六月八日格〕天平廿一年六月は即ち天平感寶元年なり。この格、三代格に見えず。

〔但書生者既立貢試法而不載此令者文略也〕この令算生を擧げて書生、書生を擧げず、書生を載せざるは理由ありと雖も、書生は之を載せざるべからず。之を載せざるは文章の省略と見るべしとなり。

〔博士助教不得用等親〕博士と助教とは同司の官人なり。故に「凡同司主典以上、不レ得レ用ニ三等以上親。」なる條文に觸るゝなり。古記は、助教を助博士といふ。これ大寶令に於いては、助教を助博士と云ひしなり。この條、助教とあるは撰人の改竄ならむ。

二端。食料米日二升。堅魚*海藻雜魚各二兩。鹽二夕。（天平廿一年六月八日格云。明法生元十人。廿人今定。算生元卅人。廿人今定。）頭一人。掌簡試學生。釋云。簡音居限反。簡擇也。朱云。簡試謂一端年終試等也。何者學令云。每年終。大學頭助國司。藝業優長者試故。又元取學生時等。此司可簡試哉。不何。及釋奠謂依學令。大學國學。每年春秋二仲之月。釋奠先聖孔宣父是。其音博士。無生者。學令云。學生先讀經文通熟。然後講義。今依此文。明經生。必先就音博士。讀五經音。然後講義。故別不置生。*但書生者。既立貢試法。而不載此令者。文略也。釋云。依禮國子入學。必先釋奠于先聖先師。釋釋菜也。奠奠幣也。屬意禮其先師以下敬道耳。古記云。釋奠者設酒食酌奠而已。無迎尸以下之事。既無尸可以酬。名爲釋奠也。置菜謂釋也。菜芹也。芹勤也。學者爲令勤學。釋芹而已。置幣謂奠。穴云。學生兩說及稱書謹可政事可有式。其秀才進士不審文官別論也。經學生雖讀訓。而每年言內合試一帖三言。事。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。博士一人。掌教授經業。釋云。業魚劫反。業事也。國語。朝而受業。子將業君之官職也。又曰。業緒也。課試學生。朱云。所教授。每旬試也。穴云。課謂試也。課猶訂平議也。何平（試第）也。釋云。課試上辭記也。古記云。*博士助教不得用等親。爲預斟量決罰之事故。助教二人。掌同博士。學生四百人。掌分受經業。朱云。分經成業之故爾云耳。音博士二人。掌教音。書博士二人。掌教書。算博士二人。掌教算術。釋云。上音蘇換反。說文長六寸。以計曆數者。從竹從弄。言常弄乃不誤也。下音時橘反。術法也。導也。野王案。道也。野道

路。之道。亦曰術也。莊子。古之學術道者。鄭玄曰。術藝猶藝也。**算生卅人。**掌習算術。**使部廿人。直丁二人。**

散位寮

頭一人。掌散位謂文武散位。皆摠掌之也。穴云。文武散位。皆可在此司。但時行事。武散位在兵部也。朱云。名帳謂文武官人解官之後。皆同任(在)此司耳。選叙令云。散位。若見官無闕。雖有闕而才識不相當者。六位以下分番上下云云。**名帳。朝集**謂諸國朝集使。皆於此寮判其上日也。釋云。辨官式部兵部并散位寮共掌朝集。其辨官式部兵部者「爲」。申雜務并考選事。唯散位寮爲判上日也。官判其上日者。式部點於(放)申官請外官下國耳。因相定也。**事。助一人。允一人。大屬一人。少屬一人。史生六人。使部廿人。直丁二人。**

令集解卷三

本云　文應元年七月朔日見合本書畢

建治二年三月十九日校合畢

右一冊霖雨寂寂暫攬眠令校合畢

員外亜相藤　在判

慶長己亥初夏中澣　吏部郎中秀賢

右以清家之本令寫之遂一校畢　中原職忠

寛永甲戌仲夏

萬治三庚子孟冬下旬令一校畢

文政三年五月十七日以水戸彰考館本校正了　撿挍保己一

右令集解職員ニ借薩州山田清安稱一郎右衛門留守居役之本於京都今出川御殿官舍寫訖

弘化四年丁未五月廿一日　六十翁　神谷克槙

此卷以御園先生本書寫了執筆　中嶋庄三郎

庚戌五月廿一日一校了　元平

一本奥書

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　員外宰相藤判

文化九壬申年四月九日以一本校了　筒井忠英

令集解卷四

治部省　雅樂寮　玄蕃寮
　　　　諸陵司　喪儀司

民部省　主計寮
　　　　主稅寮

兵部省　兵馬司　造兵司　鼓吹司
　　　　主船司　主鷹司

刑部省　判事大中少
　　　　贓贖司　囚獄司

大藏省　典鑄司　掃部司　漆部司
　　　　縫部司　織部司

治部省　管寮二。司二。

卿一人。掌本姓。謂猶言姓。其姓氏者爲人根本。故連言也。釋云。本姓者。天下諸氏之本姓也。唯無有本姓文。從人爭訟掌解問耳。跡云。本姓謂有給姓者。官注其狀。給民部治部耳。」師說云。既掌姓氏何無其文。*然則必可有。」穴云。本姓。謂或云。譜第爭訟時。問定是。」譬猶刑部注云良賤名籍也。博士依之說。或云。同先私記。古記云。本姓者。諸人姓氏也。繼嗣。謂五位以上嫡

り。その何人なるかは詳かならず。

〔本部〕本部はその人の籍貫のある職國の官司を云ひ、本司はその人の勤務する官司を云ふ。

「戸婚律六節父爲婚妻父爲姻」これ「凡嫁娶女及夫喪而嫁娶者徒二年」云々なる條文の注なるべし。唐律疏議には「婦父爲婚、妻父爲姻」とあり。

〔服紀者服制等數〕令文服紀の事見えず。而して古記亦共に服紀の事を說明せるは、大寶令の本條には、婚姻の下に服紀の二字ありしに因るか。

子也。繼嗣令。定五位以上嫡子者。陳牒治部是也。釋云。五位以上定嫡子。申送治部。治部移民部。勘籍知實立耳。古記云。繼嗣者。五位以上嫡子也。朱云。諸國任郡司五位以上等皆同。依此文可申者也。凡不經本部。直五位家可申治部者。未明。

婚姻。謂五位以上嫡妻也。爲重繼嗣故。兼知其生服也。釋云。上音呼奔反。下音於神反。戸婚律云。聟父爲婚。妻父爲姻。白虎通。以昏時行禮。故曰婚。因夫而成。故曰姻也。知五位以上嫡妻者。爲立嫡子耳。穴云。爲定五位以上嫡子。掌婚姻也。問。無嫡子。立嫡孫庶子等者。其母亦注送哉。答。爲勘細和合申送也。跡云。婚姻謂知七位以上嫡妻名。若此妻至年五十無子者。爲立妾子。即其妾名申送耳。朱云。妻年五十以上無子者。立庶子爲嫡子之故。可掌妾名也。凡掌妻等名。立嫡子時可掌者。此說不明。若疑取妻初即掌歟。答。立嫡子時、副妻名可申送。此時掌耳。古記云。婚姻者。五位以上嫡妻籍。及庶人婚姻之爭訟事。雜戸陵戸等類。服紀者服制等數〔頭〕。告喪家知耳。

祥瑞。釋云。祥喜也。瑞信也。穴云。瑞符也。應人君之德。祥瑞應見也。跡云。祥善也。言善瑞耳。朱云。凶瑞不掌何。

喪葬。**贈賻**。謂官位曰贈。財貨曰賻。凡贈位者。中務作位記。此省受取付死人家也。賻貨者。死人本司。申太政官。官下此省。省更下勘申。自大藏省下給也。古記云。贈賻者。兼知贈官。式部亦記錄賻官事也。跡云。贈謂給於死人位時。省以其位記送治部。治部則注置其案。而以位記給死家也。說者稱玩好者。位記是也。「問。可有贈六位之道哉。答。中務作位記。即知五位以上也。」朱云。不可置位案。但給狀可注置者何。問贈賻一贖何。令釋如一事說哉。師云。行事之道。必可注給之狀及授案。」釋云。所以助凶禮也。玩好曰贈。財貨曰賻。音符遇反。凡贈位者。式部作位記。治部掌位記。付死人之家。賻者。死人本司申官。官下治部令勘。丁吏申官。官下大藏。穴云。贈謂死人授位也。令釋。稱玩好者。說文字之訓也。於此爲別也。

國忌。謂先皇崩日也。釋及古記。並無別也。

諱。謂諱避也。言皇祖以下名號。諱而避之也。釋云。皇祖以下御名諱。古記同之。件案。假令。名有春日王者。春日山者稱東山耳。跡云。諱者。不限死生時有可諱之事者。此司申發令諱耳。穴云。諱避也隱也忌也。

及諸蕃朝聘。謂國君自來曰

朝。使卿大夫曰聘。釋云。禮記王制篇云。諸侯之於天子也。比年一小聘。三年一大聘。五年一朝。注云。比年每年也。小聘使大夫。大聘使卿。朝則君自行也。穴云。朝聘謂蕃國朝聘時預知也。同注。侯甸男采衞要等。朝聘再會一盟是也。二年小聘。三年大聘。五年朝聘。此晉文公周未爲侯。而所立法。知非正教耳。跡云。朝聘謂二年小聘使大夫。又三年大聘使卿。五年自朝來。朱云。未知。我國詣諸蕃國聘歟。若蕃國來我國聘歟何。*凡此省掌事趣。一端何。答。蕃國來我國時。可知耳。依管玄蕃。此省亦共預知耳者。事。大輔一人。少輔一人。大丞一人。

少丞二人。大錄一人。少錄三人。史生十人。大解部四人。掌鞫問譜第爭訟。謂鞫問譜第之爭訟。定其族姓之次序。其解部。是爲別司。不在同員也。釋云。譜逋魯反。屬也。牒也。布也。列見其事也。鞫問天下人民本姓爭訟耳。大解部爲別員。不在同司例。跡云。譜第謂姓相爭訟者。此司爲掌本姓故。鞫問耳。古記云。譜第者。天下人民本姓之札名也。「師云。譜第者。那波比呪天止云意耳。」解部者爲別員。不在同司。一云。*自諸國請不理狀。中辨官婚姻之事。即付治部省。令問治也。

少解部六人。掌同大解部。省掌二人。使部六十人。直丁四人。

雅樂寮

*大同四年三月廿一日官符云。定雅樂寮雜樂師事。歌師四人。儛師四人。筑紫諸縣師一人在此中。笛師二人。唐樂師十二人。横笛師。合笙師。簫師。篳篥師。尺八師。箜篌師。箏師。琵琶師。方磬師。鼓師。歌師。儛師云云。高麗樂師四人。横笛師。箜篌師。莫目師。儛師。百濟樂師四人。(横笛師。箜篌師。莫目師。儛師)(以上十一字當作細注。)新羅樂師四人。琴師「二人。」儛師「二人。」度羅樂師二人。鼓師。儛師。右依舊爲定。餘皆停止。伎樂師二人(元一人。今置一人)(以上七字當作細注。)林邑樂師二人。今置。右依作爲定。*弘仁十年十二月廿一日官符云。定雅樂諸師數事。儛師四人。倭儛師一人。五節儛師一人。「田」儛師一人。筑紫諸縣儛「師」一人。新羅樂師四人。今定二人。琴師一人。儛師一人。頭一人。掌文武雅曲正

〔凡此省掌事趣一端何。〕この省の職掌として茲に掲げられたる事は、例示にして列擧にあらずと解すべきやと問へるなり。

〔自諸國請不理狀中辨官〕公式令、訴訟從下始條には「斷訖訴人不㆑服。欲㆓上訴㆒者。請㆓不理狀㆒。以㆑次上陳。若經㆓三日㆒內不㆑給。聽㆘訴人錄㆓不㆑給官司姓名㆒。以訴㆖。官司准㆓其訴狀㆒。即下㆓推不㆑給所由㆒。然後斷澤。至㆓太政官㆒不㆑理者。得㆓上表㆒。」とありて、太政官の下の義解には「謂至㆓辨官㆒也。」とあり。

〔大同四年三月廿一日官符〕この格、類聚三代格、卷四及び日本後紀、卷十七、類聚國史、卷百七に見えたり。

〔弘仁十年十二月廿一日官符〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

「正身」身柄と云ふに同じ。

「古說」古くより一般に行はるゝ說にして、未だ何人の說とも判明せざるものなり。「古答」と云へるもの亦之に等しかるべし。

儛、謂無干戈者曰文。有干戈者曰武。穴云。稱雅正者。依不如淫樂耳。釋云。帶刀爲武。無刀爲文。古記云。文武雅曲正儛及曲之謂也。帶刀爲武。無刀爲文雜樂耳。雜樂、謂雅曲正儛以外雜樂也。穴云。笛工以上諸舞等雜樂耳。男女樂人、音聲人名帳、謂樂人音聲人。男女相雜。既非一色。故先稱男女。以被之。釋云。雜樂男女。謂掌其正身也。樂人音聲人名帳。謂掌其名帳。穴云。雜樂男女。謂爲檢校其身(人、等」生文也。鼓笛等人稱音聲人「也。跡云。雜樂男女。謂爲檢校其人身等生文也。樂人音聲」名帳。謂爲掌上男女等「名」帳故。生文。非重累人合知也。試練曲課、謂音聲曲度、各有大小。課其程限試其成功也。問。上義云。釋云。樂人音聲人。男女相接。非一者。案之。謂儛人音聲人。謂歌人歌女笛工等也。今此義云。音聲曲度。各有大小者。然則曲課者。只爲音聲人也。於儛不入哉。古說云。曲通歌儛。師云。舞亦有曲節者。可求正文。釋云。隨曲大小。立限課成功是謂曲課。穴云。曲通歌舞也。古云程限謂之曲課也。後乃試練耳。古記云。一日若干調習。是謂曲課也。曲字通歌儛也。事、助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。歌師四人。釋云。「二人」立歌。二人大歌。(二人)〔二字釋文、當作細字〕掌教歌人、歌女「師」二人、掌臨時取有聲音堪供奉者教之。朱云。歌人卅人、歌女百人之外。取他人教者。未知。此人等教習之後。常置此司哉。若用了還退哉。答。有歌人歌女闕者。便先(便充、)留耳。不然者退還耳。穴云。二人。臨時取有「聲恥り」音者。謂若無臨時合供奉點耳。但得最卽常也。彼取人不見其色也。歌人卅人。歌女一百人。古記云。歌女准縫女也。儛師四人。掌教雜儛「也」。儛生百人。掌習雜儛。「笛師二人。「　　」。

笛生六人。掌習雜笛。笛工八人。謂供此間樂而吹笛者。其唐國以下諸樂者。吹笛之人。各在其樂生中也。釋云。笛工謂笛吹也。唐樂師以下笛吹。
在其中。何者樂者絲竹相備故。其絲竹品日待式處分。跡云。唐樂以下笛吹者。各可在其中也。穴云。笛工以
上諸儛等雜樂耳。朱云。笛工八人者。儛師之教習儛生所吹笛者。先云。只此不所可吹也。當臨時節會日亦此
人可吹者何。唐樂師十二人。掌教樂生。高麗百濟新羅「樂」師准此。樂生六十人。
掌習樂。「餘樂生准此。」高麗樂師四人。樂生廿人。百濟樂師四人。樂
生廿人。新羅樂師四人。樂生廿人。伎樂謂吳樂。其腰鼓亦爲吳樂之器也。穴云。伎樂腰鼓等。今云吳樂是也。跡云。
亦同之。師一人。掌教伎樂生。其生以樂戶爲之。腰鼓生准此。腰鼓師二人。掌教
腰鼓生。跡云。此司歌男女幷生等。得考。釋云。歌人歌女樂生等。案令不可得考。但時行事皆得考。古記云。問。諸師等無生若爲。答。宜量充耳。歌女准縫女也。別記云。歌人歌女笛吹。右三色人等男。
直身免課役。女給養丁也。不限國遠近。取能歌人耳。伎樂卅(卌)九戶。木登八戶。奈良笛吹九戶。右三色人
等。倭國臨時召。但寮常爲學習耳。爲品部取。謂免雜徭也。大屬尾張淨足說。今有寮儛曲等如左。久米儛。大
伴彈琴。佐伯持刀儛。卽斬蜘蝦(蛛)。唯今琴取二人。儛人八人。大伴佐伯不別也。五節儛十六人。田儛師「一
人」儛人四人倭儛師儛也。楯臥儛十人。五人土師宿禰等。五人文忌寸等。右著甲幷持刀楯。筑紫儛廿人。諸
縣師一人。儛人十人。儛人八人著甲持刀。禁止二人。歌師四人。立歌二人。大歌笛師二人。兼知横笛及文(尺
八カ)度羅儛師一人。歌師一人。婆理儛六人。二人持刀楯儛。四人持桙立。久太儛廿人。那(那)禁女儛五人。

三人傳人。二人花取。韓(漢カ)與楚舞女舞女廿人之中。五人著甲帶刀。右四傳度羅之樂。唐令笙師一人。倡揭箏師一人。横笛師一人。鼓師一人。歌師一人。方磬師一人。篳篥師一人。尺八師一人。箜篌師一人。儛師一人。百濟箜篌師一人。横笛師一人兼歌。韓琴師一人大理須古(石)。儛師一人。高麗儛師一人。散樂師一人。箜篌師一人。新羅儛師一人。琴師一人。伎樂師一人。以上隨時增減而已。使部廿人。直丁二人。樂戶。

玄蕃寮

頭一人。掌佛寺僧尼名籍。謂在京幷諸國佛寺。及僧尼名籍也。釋云。諸國佛寺皆知。朱云。凡住諸國寺僧尼名籍皆掌。何者雜令云。僧尼。京國官司。每六年造籍三通。各顯出家年月及夏臈德業。依式印之。一通留職國。以外申送太政官。一通送中務。一通送治部(云々)之故。謂供宮內幷在京佛事也。穴云。然則送治部。卽付此司何。答。然者。供濟。供濟謂七大寺及宮內並知也。不云內外之故也。供供養也。齋齋食也。請也肅也敬也。釋云。供齋。謂宮內幷在京禮佛。跡云。供齋者謂大寺爲也。古記云。供齋謂禮佛也。蕃客辭見讌饗送迎。謂凡諸蕃人朝者。始自入城終于辭別。讌饗送迎等。皆摠主知。其送迎者。唯於京內不出畿外也。釋云。離別京者曰辭。面參曰見。穴云。讌饗一事也。小曰讌。大曰饗。及在京夷狄。釋云。謂墮羅舍衞蝦夷之類。除朝聘外。蕃人亦入夷狄之例。古記云。在京夷狄。謂墮羅舍衞蝦夷等。又說。除朝聘外。在京唐國人等。皆入夷狄之例。穴云。夷狄謂非朝聘來。皆是也。跡云。雖蕃人。而非國使。皆是也。朱云。知而。案戶令。貫於寬國附貫。安置別何。若戶令蕃主逃亡外國此說爲來在京賊何。師云。國司申奏之日。寬國之籍。國司掌。貫京之從。京職。但此寮省取其身。未定所貫之間掌耳。監當館舍。謂鴻臚館也。釋云。謂在京及津國館舍等。古記云。館

〔舍衞〕印度の舍衞國の人なり。孝德天皇紀には、舍衞の女一人風に遭ひて日向に漂着せしこと見え、又齊明天皇紀には、覩羅人の妻となれる舍衞の女來朝せること見えたり。

〔鴻臚館〕字書に「鴻臚、也、鴻臚之也、傳聲贊導也」と見え、字書に「臚以二禮陳一敍二於賓客一也、又官之名也」と

注せり、又漢書に「掌二四方蠻夷一曰二大鴻臚一」とあり。我が國の鴻臚館の名はこれにとれるなり。

〔津國館舍〕攝津國難波にありし鴻臚館なり。齊明天皇紀、六年五月戊申の條に「高麗使人乙相賀取文等到二難波館一」とある難波館は、即ちこの鴻臚館なり。

〔天平元年八月五日有詔〕類聚國史、卷百七職官部に「聖武皇帝天平元年八月癸亥。天皇御二大極殿一詔曰。云々。諸大陵。差レ使奉幣。其改二諸陵司一爲レ寮。增員加秩。」と見えたり。

舍。謂在外及津國館舍者摠檢校也。穴云。古私記云。在京及津國館舍摠檢校也。此攝津職在京諸司故云爾。但於今不合。爲成畿內故。事。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。史生四人。使部廿人。直丁二人。

諸陵司 釋云。天平元年八月五日。有詔。改司成寮。在古記。*

正一人。掌祭陵靈。謂十二月奉荷前常是也。陵同墓。喪葬。凶禮。釋云。喪謂在家起哀也。葬謂送葬之也。喪葬之禮謂之凶禮。朱云。喪葬凶禮者。未知。此文只爲一人歟。若爲臣下歟何。私案。依喪葬令皆可知。臣下喪葬「何。師案喪葬令非啻一人。親王及三位以上喪葬令皆可知。但於皇太子無文。雖然理此司掌身。諸陵。及陵戶名籍事。戶令云。雜戶陵戶籍。則更寫一通。各送本司。跡云。非陵戶令守亦注名帳。令送此司。古記云。別記云。常陵守及墓守。竝八十四戶。倭國卅七戶。河內國卅七戶。津國五戶。山代國五戶。免調徭也。公計帳文莫納別爲計帳也。借陵守及墓守竝百五十戶。京廿五戶。倭國五十八戶。河內國五十七戶。山代國三戶。伊勢國三戶。紀伊國三戶。右件戶納公計帳文。而記借陵守也。佑一人。令史一人。土部十人。掌贊相凶禮。謂凶禮者。送終之禮。即土師宿禰。年位高進者爲大連。其次爲小連。竝紫衣刀劍。世執凶儀。其文多。故不載也」問。此文凶禮下條凶事儀式何別。」釋云。喪葬令。三位以上及皇親喪。皆土部示禮制。古記云。問。贊相凶禮。有限以不。答。喪葬令三位以上及皇親喪。皆土部示禮制也。穴云。贊相凶禮者。就手治死者也。與凶禮及凶事儀式全異也。員外臨時取充。謂此長官之職掌。而於此注者。隨便起事。無別例。釋云。此正職掌一也。而注土部下者。是隨便注耳。穴云。臨時取充人。亦不見其色也。使部十

は既に[illegible]令の注釋書なりとも、[illegible]本書の著者は明らかならず[illegible]も、名家の筆に成れることは、令義解[illegible]之に採れることによりて明かなるべし。本書製作の年代明かならざれども、古記よりは後にして穴記、跡記よりは前なること令集解の引用によりて知らる、令釋に引かれたる格には大同二年十二月のものあれども、僅かに一條に過ぎず、而して延暦の格は一も引かるることなく、[illegible]の格は多く引かれたり。故に大同の格は後人の追記にして、令釋に引[illegible]令集解[illegible]人[illegible]に引[illegible]格なり。[illegible]成る奈良朝の末年若しくは平安朝の初期なるべし。令釋の特色は、頗[illegible]的に[illegible]を引いて字句の解釋を

也。釋云。蠲音古玄反。除也。朱云。蠲免。一賦一賦。答。一也。伴云。郭璞曰。蠲除也。明也。又蠲潔也。免音辟蹇反。**家人。奴婢。**謂既非平民。故別顯。其道橋以下藪澤以上。唯據地圖知其形界。主於檢閲。不更關涉。古記云。問。家人奴婢。所注若爲。答。在異色者再明耳。伴云。周禮司屬之職掌。其奴男子入于罪隸。女子入于舂槀。鄭衆曰。坐爲盜賊（[illegible]か）。而爲奴者也。由是觀之。今奴婢並古之罪人也。禮記。婢之言卑也。說文。女之卑稱也。釋云。橋道以下藪澤已上諸句。皆如云地圖也。不涉檢校也。穴云。橋道以下。只國圖勘知也。言天下地皆悉知之心也。圖書案。更不令有國圖。京內道橋不預知。跡云。自橋道以下事。只國圖勘知耳。朱云。未知。在京道橋者。爲不可知哉何。**橋道。**古記云。上奇喬反。野王案。說文。橋梁也。道路也。徐廣云。道路已。言人之所踐而所行也。此記可求也。**津濟。**古記云。上子鄰反。論語。使子路問津焉。鄭玄曰。津濟度處也。下子悌反。尚書。予往暨汝其濟。孔安國曰。濟渡也。凡泊處謂津。渡處謂之濟。此記可求。**渠。**伴云。其於反。爾雅。河渠并一千七百一川。野王案。[illegible]亦川瀆也。**池。**伴云。除知反。尚書。陂池侈服。孔安國曰。停水曰池。**山川。藪澤。**伴云。桑後反。尚書爲逋逃主。華（萃）淵藪。周禮九職四曰。藪牧養蕃鳥獸。鄭玄曰。無水曰藪。又曰。有水（木か）曰藪。一曰。大澤也。藪無水而木之所在也。下直格反。尚書。雷夏既澤。周禮。大司徒掌辨其八澤。鄭玄曰。水鍾曰澤也。澤有水而草之所生也。雜令云。凡國內有出銅鐵處。官未採者。聽百姓私採。若納銅鐵。折充庸調者聽。自餘非禁處者。山川藪澤之利。公私共之是也。**諸國田事。**

大輔一人。少輔一人。大丞一人。少丞二人。大錄一人。少錄三人。史生十人。省掌二人。使部六十人。直丁四人。

行へる點にして、この點通俗的解釋を主とせる古記とよき對照をなせり。

〔延暦九年二月廿五日官奏〕この格、前出、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔古記云頭注云計納調租財貨也〕大寶令の主計頭の下の註には租財貨とありしを、養老令は及雜物と改めたるなり。

〔土毛〕毛は二毛作、下毛等の毛にして土地に生ずる穀菜草木を云ふ。土毛は卽ち鄕土の特産品の意なり。

主計寮

*延暦九年二月廿五日官奏。主計寮增官員事。右謹案令條。官員有限。緣事繁閑。應有增減。而主計寮。計納雜物。勘勾用度。諸司之中。尤是忽劇。伏請。加少允小屬各一人。自今以後永爲恒式。庶得各分其職公事早濟。謹錄事狀。伏聞天裁。謹「以」申聞。謹奏聞。

頭一人。掌計納調及雜物。謂除調以外。庸及諸國貢獻物等是也。*古記云。頭注云。計納調租財貨也。財謂調租之外。當國所出。種種土毛*交易進上。及諸蕃貢進財貨等也。「可計納其實。何者主稅寮義云。舂米謂納大炊寮之日。主計寮計納之故。師云。然也。既掌納。然則出亦可掌。」跡云。雜物謂調之雜物幷餘物等皆是也。穴云。雜物謂除謂之外雜物。如庸及土毛定不勾也。

支度國用。釋云。依計帳而計丁數。以勘當年。可輸物幷可用之數。跡云。支度國用。謂八月卅日以前。諸國計帳進上。則計算可輸之調庸。校定來年用物。可足不足之狀申官也。又司司進支度之書。則預勘定。可足之狀申官也。穴云。支度國用。謂尋常支度來年用物。及可出之數。預知足不也。公式令。支度謂臨時量事增減是。然則彼此各殊也。餘同。跡云。朱云。問。支度國用者。支度來年可用國用者。問。稱一年用物者。自去年用物者。自去年八月。至今月七月歟。何者。以八月卅日以前計帳至。主計寮可支度故。答。不然也。自來年正月。至十二月。稱一年。可支度者。未知。而者勘勾用度。與最降考事。可入後年考何。但犯罪合解。及貶降幷功應進色者。依考課令初條。追可附考。未知。於與此最。猶可入後年考耳歟何。作云。營繕令云。凡在京營造。及貯備雜物。每年諸司。摠料來年所須。申太政官。付主計。預定出所科備。若依法。先有定料。不須增減者。不用此令。其年常支料供用不足。及支料之外。更有別須應科折者。亦申太政官。私賦役令云。凡雇役丁者。本司預計當年所作色目多少。申官錄。付主計覆審支配。七月卅日以前奏訖。

勘勾用度〔事〕釋云。無(元)所支度之交物造用畢後申官。更下主計令勘勾耳。跡云。勘勾用度。謂去年所謂用之狀。勘勾錯不之狀。

助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。算師

二人。掌勘計調庸及用度〔事〕。穴云。算師注勘計用度。謂頭注。約一勾事。古記云。此二寮。算師以上各合相遷。爲自他司別故。＊一云。不合遷。文主典以上故。

史生六人。使部廿人。直丁二人。

主稅寮

頭一人。掌倉廩。謂穀藏曰倉。米藏曰廩也。釋云。徐廣雜記云。方謂之倉。圓謂之廩。禮記月令云。命有司發倉廩。正義蔡邕云。穀藏曰倉。米藏曰廩。又云。大倉曰廩。跡云。倉廩謂在諸國幷京職。倉數皆勘知也。朱云。倉廩謂京諸國皆廣包也。古記云。知左右京職及諸國收納出舉之帳。幷倉廩之丈尺。此記可求。穴云。藏米謂之廩也。倉廩者不知民部大炊之倉廩。私考課令云。謹於蓋藏。而於出納。爲主稅之最。義解云。京國官倉蓋藏　出納。跡云。出舉幷出用。及所收納之數等。依稅帳。普及出納。其在京者主稅自檢校。在外者據帳知之。勘知耳。朱云。出納謂京諸國皆廣包也。穴云。問。倉庫令云。在京庫者。共主稅檢校者。未知。出閇亦知哉。答。或云。亦可知之。至彼令可求也。　諸國田租。謂左右京田租亦准此。釋云。知當年輸租耳。古記云。頭注云。田租舂米與主計寮租若爲別。若主計租者。即計納舂米是。　舂米。謂知諸國舂米之數。但納大炊寮之日。主計寮計納也。釋云。下舂數。但至京納大炊寮之日。主計寮計納耳。跡云。舂米者。田租舂米納京也。穴云。舂米謂充知舂成之狀。其運京納大炊寮時。主計寮知也。伴云。田令云。凡田租准國土收穫早晩。九月中旬起輸。十一月卅日以前納畢。其舂米運京者。正月起運。八月卅日以前納畢。　碾磑　謂水碓也。作米曰碾。作麵曰磑。釋云。水碓也。作米曰碾。音女箭反。以石爲碓。以木爲杵。作麵曰磑。音五對反。臼杵並以石作也。穴云。碾磑者。公私一同。可反。朱云。碾磑者。公私無別。皆可知其所有碾磑。然則知。公私馬牛舟檝猜駿何。

〔一云不合遷文主典以上數〕或は「選敍令」の「凡同司主典以上。不レ得レ用二三等以上親一」なる條文を云ふ。

〔碾磑〕水碾、水磑の語によつて知られる如く、水力によつて運轉

するる石臼にして、碾は精米機、磑は精粉機なり。碾磑の事我が史に見えたるは、推古天皇の十八年三月、高麗の僧曇徵これを造るとあるが始めなり。

〔大少毅〕軍團の大毅、少毅なり。軍防令によれば、大毅は軍團の將にして、少毅はその副將なり。軍團一千人以上の兵士より成るときは、大毅一人、少毅二人之を指揮し、五百人以上より成るときは、大毅一人、少毅一人之を指揮す。

〔何而(不カ)〕この下恐らく脱文あらむ。察する所、この私案は、茲に版位と云はざれば、朝廷には武官の版位あるべからずとする上記の穴記の反對說を揭げたるものゝ如し。

〔主帳〕これ軍團の主帳にして、郡の主帳にあらず。軍防令には「凡軍團大毅小毅。通取二部

後度貞反云。只公有碾磑也。不云私。何者此文不公私故者。私同。而大反同先說。私不同。作云。雜令云。凡取水漑田。皆從下始。依次而用。其欲緣渠造碾磑。經國郡司。公私無妨者聽之。即須修治渠堰者。先從用水之家。事。**助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。算師一人。**古記云。此二寮算師以上。各合相避。爲自他司別故。一云。不合避。文主典以上故。 **掌勘計租稅。**朱云。租稅謂地租雜稅也。私倉庫令云。受地租。皆令乾淨。以次收牓。同時者先遠。京國官司共輸人執籌對受。在京倉者。共主稅檢校。國郡則長官監檢。賦役令云。調物及地租雜稅。義解云。謂田租稻及義倉等是也。皆明寫應輸物數。立牌坊里。使衆庶同知。 **史生四人。使部廿人。直丁二人。**

兵部省 管司五

卿一人。掌內外武官跡云。外武官謂大少毅也*。穴云。武官版位。不合在朝廷。故不云版位。私案。公式令云。文武職事散官。朝參行立。各依位次爲序者。此文已稱文武職事。何*而(不カ)。穴云。稱武官。不合在朝廷哉。 **名帳。考課。選敍。**作云。考課令云。銓衡武官。謂充戒事。爲兵部之最。軍防令云。兵衛每至考滿。兵部校練。隨文武所能。其爲等級申官。堪理時務者。量才處分云「々」。 **位記。兵士以上名帳。**謂校尉以下也*。即主帳亦同。其大少兩毅爲外武官。釋云。以上謂主帳及校尉*以下軍毅是。外武官故。穴云。兵士以上。謂主帳以下也。與郡司已殊故。不約武官之文。又古令簡用兵士中也。於今。亦國司簡取耳。跡云。兵士以上。謂主帳以下。作云。軍防令云。兵士以上。皆造歷名簿二通。並顯征防遠使處所。仍注貧富上中下三等。一通留

[illegible]〔校尉以下〕校尉、旅帥、隊正は兵士を率ゐ、軍防令によれば、校尉は二百人、旅帥は一百人、隊正は五十人を領する軍團の下士官なり。

〔陸奧越後出羽等柵亦同者〕衛禁律に「凡[illegible]者、徒一年、[illegible]」とあるを指すなるべし。

國一通。每年附朝集使送兵部。若有朝集。祿賜。假使。差發兵士。謂差遣衛士防人及征討也。依軍等行之。古記。國司攝領具文案送也。防令。差兵廿人以上。皆須契勅。即武官助錄軍令之國。立人數申官。官即奏聞下契勅。但差衛士防人者。省直下符於國。更不申官也。釋云。其防人等。依名帳差遣。穴云。差發兵士。謂只兵士。差衛士防人也。其差征軍亦同。跡云。差發兵士謂用軍。并防人衛士。假令。差發軍者。先官兵部。兵部量定其便宜并所識。而申聞遣給物皆合差發。廣雅。差次也。音楚佳反。兵器。儀仗　謂用之征伐曰兵器。用之禮容曰儀仗也。釋云。用征討器謂之兵器。用朝儀器謂之儀仗。穴云。兵器儀仗者。諸國并造兵司所造也。兵庫者不掌。古記云。兵器儀仗　謂左右及內兵庫之兵器儀仗等。一師云。依正文。諸國器仗又造兵司所造器仗也。但造兵司所造調兵庫之後。不可檢。但修理之時知除毀之物耳。軍防令云。國郡器仗。每年錄帳。附朝集使。申兵部勘校訖。十一月卅日以前錄帳。又條云。在庫器仗。有不任者。當處長官驗實。具狀申官。隨狀處分。除毀。其鎧刀弓箭幡鼓之類。即充當處修理要當用。在京庫者。送兵部。任充公用。若有非常不如法。致有損壞者。隨狀推徵。朱云。兵器謂內外皆包也。未知細行事何。先云。諸國并京職兵器者。私案。兵庫兵器亦可知哉何。儀仗未知。可有諸國不。答。諸國可有。答。又問。且由何。左右兵庫兵器。收納之後。兵部不可預。凡專所掌各別也。但軍防令。在京庫者。送兵部。任充公用者。除毀之時。依彼令條。可送兵部耳者。未明。私案不同何。城隍　城池無水曰隍。作云。說文。隍。城池也。又云。隍塹也。郭璞曰。空郎名塹也。音黃。城下坑也。一師云。筑紫城等是也。其隍在城邊耳。問。城隍。陸奧越後出羽等柵亦同者。今不云此文。然則不掌哉。答。國亦可掌。穴云。城隍等只帳知耳。

烽火事。作云。方言。烽燧望也。說文。烽燧候表也。邊有警則舉之也。釋云。諸國烽火。皆知其烽燧。至京之日。烽子申兵部。兵部申官。官奏聞。作云。衛禁律云。謂從緣邊置烽。連於京邑。烽燧相應。以備非常是。私軍防令。置烽皆相去卌里。若有山岡隔絕。須逐便安置者。但使得相照見。不必要限卌里。又條云。烽。晝夜守時候望。若須放烽者。晝放烟。夜放火。其烟盡一刻。火盡一炬。前烽不應者。即差脚力往告前烽。

〔本主〕牛馬奴婢等の所有主なり。帳內資人の主人をも亦本主と稱す。

問知失候所由。速申所在官司。(以下錯簡)(古記云。兵馬謂官牧馬配諸國軍團及騎士私馬。又每人門(閤)(騎)馬等也。軍防令云。兵士各爲〔依〕隊伍。便弓馬爲騎兵隊。餘爲「步」兵隊也。) 大輔一人。少輔一人。大丞一人。掌准式部大丞。少丞二人。掌同大丞。大錄一人。少錄三人。(以下錯簡後出)(廏牧令云。馬應堪乘用者。皆付軍團。於當團兵士內。簡家富堪養者充。免其上番及雜駈使也。依養老三年十二月七日格。每人騎馬令備。各有等差也。) 史生十人。省掌二人。使部六十人。直丁四人。

兵馬司

正一人。掌牧。(作云。牧音英祿反。左氏傳。牛有牧馬有圉。杜預曰。養牛曰牧。漢書云、孫弘牧豕。然則牧者畜養之摠名。非止馬牛也。釋曰。官牧。穴云。牧者所有馬牛共約之。驛亦同之。不入馬牛之何。) 及兵馬。(謂取牧馬付軍團令養者也。釋云。廏牧令云。牧馬應堪乘用者。皆付軍團。於當團兵士內。簡家富堪養者充。免其上番及雜駈使。軍防令云。兵士十人爲一火。火別充六駄馬養令肥壯。差行日聽將充駄。古記云。問。若爲令習兵馬也。答。本主*調習耳。廏牧令云軍團官馬本主欲於鄉里側近十里內調習者。聽之。穴云。兵馬牧馬。堪乘用付軍團。又條云。軍團兵馬卽是。其每火充六駄馬。亦同合掌知。先爲給官馬故也。跡云。兵馬謂牧馬堪乘用者。付軍團令養也。傳馬數皆可效(數)(知)。) 郵驛。(謂郵亦驛也。境上行書舍也。釋云。郵驛也。音羽求反。爾雅。郵過他。驛音餘石反。續漢書。驛馬卅里一置。說文。驛置騎也。若韻篇。驛傳也。廣雅。驛譯也。驛道也。穴云。郵驛驛耳。驛馬共約也。朱云。郵驛。未知馬及〔驛也〕。驛子數皆可知哉何。凡驛事一事以上。皆可申此司何。答。然。或云。郵無食。驛給食也。古

記云。問。驛馬并及兵馬只不管。答。不合。問。不在兵馬者。若爲此司所掌。答。兵部惣故。一（故二）更令勘校耳。　公私馬牛　謂公者傳馬及公廐馬牛也。私者凡非官者。而在民間者是。其征行大事。公私共給。爲其官軍。是故兼知。釋云。驛馬牧馬牛。謂之公馬牛也。知私馬牛者。爲征行之日官須徵發。穴云。此司除馬寮之外馬牛皆掌也。傳馬及公廐馬牛等。〔答〕。令云公馬牛也。朱云。問。公私牛者。京内人馬牛。爲不可知哉。何者。廐牧令云。官私馬牛帳。每年附朝集使送太政官者。然則於京内。無朝集使故。未知何。事。　佑一人。大令史一人。少令史一人。使部六人。直丁一人。

〔知私馬牛者爲征行之日官須徵發〕擅興律に、「凡寇賊卒來。欲有攻襲。若城屯反叛。若賊有内應。急須兵者。得便調發」とありて、若非常の事及び將校は、私の馬牛一般には民間の馬牛をも徵發することを得たり。兵部卿が公私馬牛の事を知るは令に之れを規定せるなり。

造兵司

正一人。掌造雜兵器。私營繕令云。營造軍器。皆須依樣鐫題年月及工匠姓名。有不可鐫題者。不用此令。　及工戸戸口名籍事。　佑一人。大令史一人。少令史一人。雜工部廿人。謂此取雜工戸。而充之。其兵衛司鍛部。主工司錦部等。如此之類者。皆自雜戸浪戸内而取充。但戸内無人者。通取他戸。穴云。雜工部者。簡取雜工戸之中人。或云。雜工部不在雜戸。取良人爲之。假令弓削衛部等也。可一校。　使部十二人。直丁一人。雜工戸。古記及釋云。別記云。鍛戸二百十七戸。甲作六十二戸。靫作五十八戸。弓削三十二戸。矢作廿二戸。鞆張廿四戸。羽結廿戸。桙刊卅戸。右八色人等。自十月至三月。每戸役一丁。爲雜戸免調役也。爪（兀々）工十八戸。楯縫卅六戸。幄作十六戸。右三色人等。臨時召役。爲品部。取調免

〔雜戸非卑人〕雜戸は賤民なれど、我が國の雜戸は雜色人にして賤民にあらず。然れども雜戸は良民の最下に置かれ、公民の權利義務の如きを有せざりき。されば一般良民よりは、一等品下れる

人間として賤視せられ、「卑品、卑人等と稱せられたり。續紀、天平十六年二月丙午の條に「汝等今負姓人之所レ恥也。所以原免同二於平民。但既免之後。汝等手伎如不傳習子孫。子孫彌降二前姓。欲レ從二卑品二とあるが如き即ちその明證なり。

〔可校〕可求、可撿と云ふに同じ。この説何に出でたるかを檢校すべしと云へるなり。

〔延暦十九年十月七日官符〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔雖不注而理必合有〕法文これを云はざるは無きにあらず、當然有るべきものなること自ら明かなるを以て云はざるなり。

〔鼓幷吹各一者非也〕鼓吹戸は鼓吹戸にして、鼓戸及び吹戸の二にあらざるなり。

〔大角吹〕ホラフキな

術役。

鼓吹司

＊延暦十九年十月七日官符云。應廢置鼓吹司長上事。廢大笛長上一員。今置鉦鼓長上一員。右得兵部解偁。鼓吹司解偁。軍旅之役。吹角爲本。征戰之備。鉦鼓爲先。今有吹角長上二人。曾無鉦鼓之師。主於威儀之日。有失進退之節。望請。鉦鼓長上。教習生徒者。右大臣宣。奉勅。宜廢大笛長上。兼預大角長上。更置鉦鼓長上。其官位亦同吹角長上。

正一人。掌調習。謂教習鼓吹戸人也。穴云。鼓吹戸其内取習長之人。令調習。釋云。鼓吹師幷生等。不載令文。而理必合有隨式處分也。別勅補長上。古記云。鼓吹師幷生等。不載令文若爲。答。＊雖不注而理必合有。所以別勅補長上也。伴云。兵部式吹部等。起十月一日。盡二月卅日。合五箇月間。教習鼓角。以三月一日試習才業。即歸本鄉。畿内吹部等年五十「以上」。不得吹習者免之。和銅二年六月十二日。右大辨宣之。鼓吹事。伴云。吹音呼餧反。山海經曰。東海中有流波山。有獸「狀」如牛。蒼身而無角。出入水則。必有風雨。其光如日月。其聲如雷。其名曰夔。黄帝得之。以其皮作鼓。聲五百里。以威天下。周禮地官司徒上曰。鼓人掌教六鼓。以雷鼓鼓神祀。雷鼓八面鼓也。以靈鼓鼓社祭。靈鼓六面鼓也。社祭。祭地祇也。以路鼓鼓鬼享。路鼓四面鼓也。鬼享享宗廟也。以鼖鼓鼓軍事。大鼓謂之鼖。鼖鼓長八尺也。以鼛鼓鼓役事。鼛鼓長丈二尺也。以晉鼓鼓金奏。晉鼓長六尺六寸。金奏謂樂作擊編鐘。佑一人。大令史一人。少令史一人。吹部卌人。使部十人。直丁一人。鼓吹戸。穴云。鼓吹戸者一也。＊鼓幷吹各一者非也。古記及釋云。別記云。＊大角吹幷二百十八戸。右毎戸召自九月至二月習。爲品部免調役也。

主船司

正一人。掌公私舟檝。釋云。營繕令云。官私船。毎年具顯色目勝受斛斗破除見在任不。附朝集使申省。穴云。船司船。令船戸人守(等)。自餘公船。令兵士守。案營繕令。可知之。私營繕令云。凡有官船之處。皆逐便安置。並加覆蓋。量遣兵士看守。隨壞修理。不堪修理者。附帳申上。其主船司舟者。令船戸分番看守。古記云。公私船檝及舟具事。常在津官私舟數。及受斛斗數。悉檢校知。但自他國往來者。臨時檢量耳。及舟具事。**佑一人。令史一人。使部六人。直丁一人。船戸。**別記及釋云。船守戸百「戸」。津國以上戸一番役。爲品部免調役。

主鷹司

正一人。掌調習鷹犬事。**佑一人。令史一人。使部六人。直丁一人。**

鷹戸。古記及釋云。別記云。鷹養戸十七戸。倭河内津。右經年毎丁役。爲品部免調役。

刑部省

大同三年正月廿日詔。觀時改制。論代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職損益非同。求之變通。何常準之有也。思欲省司合吏。少牧多羊。致人務於清閑。期官僚於簡要。其刑部解部宜從省廢。主者施行。貞觀七年三月七日官符云。應調刑部省。謂定訟司事。右得彼省解偁。承前之例。調刑部省者。讀訟之司云。名不正則事不從。又名以實事有故象。何以制斷之司可謂訴訟之司。望請。調刑部省三字。

り。天武天皇紀、十四年十一月丙午の條に「詔四方國曰、大角。小角。鼓吹。幡旗。及弩抛之類不レ應レ存二私家一。」とあるに、大角をハラ、小角をクダと傍訓せり。令には大角吹のみ見えて、小角吹のことは見えざれど、延喜兵庫寮式には「大角生十人。小角生八人」と見えたり。

〔大同三年正月廿日詔〕この格、類聚三代格、巻四に見えたり。

〔貞觀七年三月七日官符〕この格、類聚三代格に見えず。類聚國史、巻百七職官部に見えたり。

將號判法之司。謹請官裁者。右大臣宣。奉勅。宜號*定訟之司者。宜承知依宣行之。」

管司二。**卿一人。**掌鞫獄。定刑名。謂覆審解部所鞫。與判事以上。共斷定也。依獄令。在京諸司事發者。犯徒以上送刑部省。其衛府糺捉罪人。非貫屬京者。皆送刑部省。又云。刑部省。斷流以上者。皆連寫案申太政官。然則死以下笞以上。皆令推斷也。*「義云。覆審解部鞫狀。與判事以上共斷定者。案省判事相共斷之。而*堂說云。彼此各任意斷。不必相須者。此時行事歟。可謂非令意也。問。獄令公座相連條義云。中務管監物。刑部管判事。如此之類亦不連及。若事發監物判事。其人爲首。省司預事爲從者。今卿與判事。是同判之人也。若斷罪有失。以誰爲首。答。判事失而省同者。以判事爲首。省失而判同者。以省爲首。判事爲從耳。問。*名例律云。同司判官及主典者。今省判事連判之官也。而稱刑部管判事哉。答。*義解誤耳。」釋云。鞫獄謂解部所鞫。勘知耳。但定刑名者。判事以上與輔以上。共斷定。案死以下笞以上。官判事斷定。何者衛府糺捉罪人貫屬京者。皆送刑部省。此即笞以上可送故。穴云。鞫獄定刑名。謂掌解部所鞫。而定刑名也。卿自鞫也。定刑名者。卿判事共定也。判事獨斷而卿後覆勘也。問。解部所鞫文書。先進何所哉。答。拷*囚之日。先取長官同判。然則凡所鞫狀文書先可進省。省下判事令按覆耳。問。省與判事同判行若爲。答。一說。少輔以上判事以下同斷也。以下不預。何者考課令云。決斷不滯。與奪合理。爲刑部「*之」最。注云。少輔以上及判事。又獄令云。刑部卿大輔少輔判事。於官議定者故知丞以下。不預斷罪。但律名例注。稱丞錄者。爲杖以下。當司決之也。一說。丞以下預斷罪。何者此司丞四人者。據刑事要。又名例律有明文。但令稱少輔以下判事。擧刑法此重。爲次官以上最耳。餘省亦取重。稱輔以上之最情耳。兩說也。又假一說。於判事與省同連坐者。卿判乖失。次官以下及判事。俱依判者以卿爲首。次官爲第二從。丞判官事爲第三從。錄屬爲「四」從之類。就中丞以下。於不預斷罪之說。以判事及屬。爲省之三四從耳。仍丞以下不預連坐也。一說。判事與省。不預同連坐。何者判事「是品官也。則似餘官卿攸判乖失。次官

〔定訟之司〕ウタヘサタムルツカサと訓む。朝野群載、卷六、諸司訓詞に斯く訓めり。

〔堂說云〕堂の何人なるやは判明せず。文中に義解の文を引きたれば、天長以後の人なること知らる。

〔此時行事歟可謂非令意也〕實際の慣行と法意との背馳を云へるものこの外にも例多し。

〔名例律云同司判官及主典者〕「凡同司犯㆓公坐㆒者。長官爲㆓一等㆒。次官爲㆓一等㆒。判官爲㆓一等㆒。主典爲㆓一等㆒。各以㆑所㆑由爲㆑首。」とあるを指せり。

〔義解誤耳〕令義解は、淳和天皇の天長年間に時の法律學の權威を集めて撰定せる令の注釋書なれども、令意の論理的解釋としては明かに誤りと見らるべき點尠しとせず。然れども承和元年十二月令義解施行の後は、その說の

以下及判事。事依判者以判爲首。次官以下節級連坐也。其判事云判者。此同除官。不在減者之所由一等。仍減判一等。若減判事一等。若錄是所由者。判官以上節級連坐也。尋好。如不檢出。同省錄者以爲首。以判官事爲屬。之從耳。問。名例律云。次官以上異判有失者。止坐異判以上官者。未知。判事亦爲次官以上。答。於當局可然也。又問。判官以上有失或申。問。問。一是。一非。但長官判從正法者。餘悉免者。未省。知。輔及輔上判。而判事及省丞以下。有失理者何。答。省丞以下免罪。何者長判官爲從正法故也。判事及屬。尚得罪。以爲隣官而非一司故也。問。解部所聞乖失。而省次官以上改判得理。未知。爲次官判從正法故。爲解部科哉。答。解部是亦品官。然則不合科免也。自餘故名例律釋也。私獄令云。流移人。太政官量配。符至季別一遣。其錄應國家口及發遣日月。便下配處。義解云。謂刑部及國司。依太政官符。錄下於流移之國。其刑部遞人者。太政官差專使領送也。遞送防援事使部領。送遞配所云。又穴云。配流人。專使用何人。本令云。省部內散位者於此不問。又遞差防援。古私記云。其限可有別式。跡云。省定刑名。謂省以上皆是。何者行夜條、爲定刑部故也。連坐法。假令。卿判乖失。大輔以下。判事皆同判者。以卿爲首。輔以下錄以上節級連坐。判事爲卑。事判人故。爲首從減一等科。屬等爲判事從。皆丞以上判事等同判得理。而錄等失引判、正文。乖失錯亦。以錄爲首。丞以上節級連坐。同等依錄之失狀。不勘出而乖失狀鈔寫者。以屬等爲首。從錄減一等科。判事皆爲從。若判事有失。而丞以上唯云依判者。判事爲首。丞爲從。卿爲首。減判事一等科。錄以上節級連坐。省屬爲從。若丞失者。以屬爲首。判事爲從。以省錄爲首。減屬一等科。丞以上節級連坐。若輔并丞等有失者。習此連坐耳。凡判事官爾以下不連坐。問。依何省官有失者。判事首減省官一等。或判官有失者。省官首減判官一等之義何。答。名例律云。以所由爲首故也。今行事。自他司來事。丞錄等不預者爲非。何者此省比兵部等。丞。又錄且少者。與屬事點名畢。而其讀掌俱聽聞。然則與屬錄總七人共耳。又釋云。此省及中務省連坐之法。假如。中務省內監物。刑部省內判事。如此之輩。不合相連。若事當監物判事者。其人爲首。省司預事者爲從。或兩人俱可爲首。又名例律。刑部省卿以下錄以上。應連坐狀見。然則省錄檢出事狀。丞以上及判事

[illegible]例は[illegible]ず、義解の注にはその本文を[illegible]力を削除せられて、法文の一部をなせり。されば令義解以後の學者なる[illegible]の注[illegible]る注目に値すといふべし。

〔獄令之[illegible]官司判〕斷獄律には「凡應訊囚者[illegible]未能決。事須訊問」[illegible]となり。

〔名例律注稱丞錄者爲杖以下當司決之也。〕これ名例律、[illegible]の注[illegible]にこれに當る文なし。

〔名例律云次官以上異判[illegible]上官者〕これ名例律、

連座條の本注なり。

〔名例律釋〕律附釋の名例律の卷なるべし。律附釋のことは後に云ふべし。

〔行夜條〕宮衞令、分街條のことならむ。同條には、即ち「凡京路分レ街立レ鋪。衞府持レ時行レ夜。（中略）非二此色人一犯レ夜者。衞府當日決放。應レ贖。及餘犯者。送二所司一。」とあり。

〔名例律云以所由爲道〕これ名例律、連座條の本文なり。

〔又名例律刑部省卿以下錄以上應連座狀見〕これ連座條の疏によつて文を爲せるものならむも、その疏文明かならず。

〔然則省錄檢出事狀丞以上及判事共斷定刑名〕獄令に「凡諸司斷レ事。悉依二律令正文一。主典檢レ事。唯得レ檢二出事狀一。不レ得三輙言二與奪一。」とあるを參考すべし。

〔同令〕獄令なり。

共斷定刑名。即付判事之屬等。令鈔寫耳。或說。連坐法卿一等。輔一等。判事屬一等者非也。可著獄令。朱云。問。凡判事幷解部者。當刑部廳一所居。可行事不何。但令行事者。上日別與判事同已。但問罪人日者。刑部廳一所問者何。古記云。大判事以下與少輔以上。共相參人（入）者。判事皆於少輔後相從。若五位判事者。卿後從互（之）。大輔以上與王當相別（列）行諸判事。並於少輔後從之。凡大判事以下。並受刑部處分。其丞以下。不得問申獄及預訴訟事也。刑部判事解部。各爲別員。連「坐」不預也。決疑獄。謂讞請也。正也。依同*令。國有疑獄不決者。讞刑部省是也。釋云。讞正獄也。音魚列反。說文。議罪也。廣雅。疑也。古記云。讞記。有司讞于鄭玄云。讞之言議也。說文。議罪也。廣雅。讞疑也。音魚列反。案申疑獄書謂之讞也。如移解耳。跡云。申疑獄書。謂之讞。良賤名籍。謂良訴賤。賤訴良。判斷簿書。是爲名籍也。釋亦與義解無別。跡云。良賤名籍。謂良賤相訟而自定狀注置也。穴云。良賤名籍。囚禁債負等同跡云也。囚禁。跡云。檢掌囚獄司所禁囚。債負。謂徵財日債也。受貸不償日負也。即六贓之類。及諸合沒官者。此省皆掌。釋云。債徵財也。音測賣反。受貸不償日負。音房久反。此是欠負官物。應徵之類。而不注贓贖司下者。*互見耳。穴云。債負一也。凡乞索之贓。幷恩免贓。及贖物等。亦省徵令入私也。非只官物而已也。跡云。債負謂欠失官物。幷可入官之贖物等。皆此同乞徵也。可入私贖物。亦徵令給。朱云。貞云。可入私贖物。可得人可徵也。但出日限者。與出官贖物同者。未明。問。令釋云。債徵財也。受貸不償日負者。未知。其別何。答。一事者。未明。古記云。債乞也。音放夷反。負欠官物耳。在京贓贖之物。皆送來。但在外罪人之物亦來耳。事、大輔一人。少輔一人。大丞二人。少丞二人。大錄一人。少錄二人。史生十人。大判事二人。掌案覆鞫狀。穴云。謂亦覆解部所問也。斷定刑名。朱云。卿職。掌鞫獄定刑名。與大判事。案覆鞫狀。斷定刑名一同也。故共爲行同職掌。判

〔有被管〕被管の語は職員令中に見えず、[illegible]に被管の語あるによりて、贓贖司之を掌ることと知らる。刑部省の條と贓贖司の條とを左に見合して令意を解釋すべしとなり。

〔古答〕古說といふに同じ。古き令問答の解答といふ意なり。

〔椋習〕椋橋部家長なり。家長のことは前に云へり。

〔一云文異舉判文明不預餘事若習上例者豈預顯文〕判事屬は判文を鈔寫する職掌の外に、神祇史と同じく稽失を檢出する職掌を有すとする前揭の說に反對して、令文が檢出稽失と異なる鈔寫判文なる文を舉げたる上は、明かに鈔寫判文のみを行ひて餘の事に與らざるなり。若し上述の神祇史の例に倣ひ稽失を檢出するものとすれば

事等。爲有被管刑部耳。但一說。如此條文備。稱被管耳。未知何。件云。案。古答云。決疑議亦兼知也。**判諸爭訟**。朱云。不能解部問窮審問耳。後反不爲斷罪。直判定事是非。私同也。穴云。依律解違。判事兼解部。謂犯枝罪以下者。必經省輔合決。何者決答以上。依律必可經長官。今卿是於判事解部。可云長官哉。問。於者及判事解部等處犯罪。事条。未知爲一司哉。爲當爲別司哉。答。雖爲一司也。然則杖以下。其獄令當司決。不合同斷也。徒以上。比他司送判事共相斷。但合拷掠者。以判以下。亦取當司長官同判耳。自余諸司品官之類。臨時取斷不能悉論也。**中判事四人。**掌同大判事。**少判事四人、**掌同中判事。**大屬二人。**掌鈔寫判文。謂唯爲鈔寫別注。其餘檢出稽失等者。一准神祇史。跡云。除鈔寫外。令習神祇也。朱云後度又云。任文品官。可鈔寫判文。自外事不可行。不習神祇官例者。未知其由何者者。與刑部一所。常可行事乎何。穴云。問。大少屬注云。鈔寫判文。未知餘事放神祇史哉以不。答。一云。令習其例。仍檢出鞫狀之失錯等。并預斷罪也。一*云。文異舉判文。明不預餘事。若習上例者。豈預顯此文。然則亦有兩說。今依後說。**少屬二人。**掌同大屬。**大解部十人。**掌問窮爭訟。朱云。問。未知。獨得用拷掠哉不。答。不。得獨用。何。長官以下同判立案。可拷掠故者。未知。而刑部卿以下同判拷哉。爲當大解部以下同判拷乎何。先云。刑部卿以下同判可拷者。私同而何。跡云。解部。若有拷囚者。先申省承同判。合拷爲卿注鞫獄定刑名也。**中解部廿人。**掌同大解部。**少解部卅人。**掌同中解部。**省掌二人。使部八十人。直丁六人。**

贓贖司　同三年正月廿日詔。觀時改制。論代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職。損益非同。求之變通。何常準之有也。思欲省司合重。少牧多羊。致人務於清閑。期官僚於簡要。其贓贖司併

何ぞこの異文を顯さんやと云へるなり。神祇史の職掌には「餘主典准レ此」とあるのみなれども、上文との關係上「餘主典不レ注二職掌一者。掌准レ此。」の意に解すべし。故にその反對解釋よりしても、この後の說の方正鵠を得たりと云ふべし。

〔大同三年正月廿日詔〕この格、類聚三代格、巻四に見えたり。

〔子注〕本注に對して細字の注を云ふなり。疏と云ふに同じ。

〔倉庫令云隱截貸用不限在任去任納京〕これ「凡欠二負官倉一應レ徵者。若分對欠損之徒。未レ離レ任者。納二本倉一。已去レ任者、聽下於二後任及本貫一便納上。」なる條文のつゞきなり。塙本令義解は、交替式を見ざりし爲め、これを二條の條文として收錄せり。

刑部省。主者施行。

正一人。掌簿斂。謂簿疏也。斂收也。言疏收於逆人資財而沒官也。釋云。野王案。簿猶記也。爾雅。收斂也。謂記收逆人資財沒官耳。律云。名例律。彼此俱罪條。卽簿斂「之」物。赦書到後。子*注云。謂謀反大逆人家資合沒官者也。古記云。簿斂配沒贓贖者。自京及諸國送來刑部。沒官之物。領取而更分配諸司耳。假令。兵器者遣兵庫。文書者遣圖書寮。財物者送大藏省也。家人奴婢者送官奴司耳。**配沒。**謂領取沒官之物。更分配於諸司。假令。兵器者配兵庫。文書者配圖書。財物者配大藏。逆人父子者配官奴司之類也。釋云。自京及諸國。送來刑部沒官之物。領而更分配諸司。假令。兵器者遣兵庫。文書者遣圖書。財物者送大藏。奴婢者送官奴司之類。穴云。配沒一也。配猶當。言此司分配數司也。作云。賊盜律云。謀反及大逆者皆斬。父子若家人資財田宅並沒官。年八十及篤疾者並免。祖孫兄弟。皆配遠流云云。謂之配沒也。**贓贖。**謂非理取財曰贓。倍贓亦同也。出金當罪曰贖。入公入私並同也。其諸國贖物。卽入當司以充修理獄舍等也。釋云。文字集略曰。非理取財曰贓。音祖郎反。贖時燭反。尙書。金作贖刑。王肅曰。出金贖罪。出贖云贓也。其諸國贓贖物者。依獄令。充囚衣粮薦席醫藥及修理獄舍之用耳。不送官。古記云。取贓。文字集略曰。非理取財曰贓。音祖郎反。朱云。令釋云。諸國贓贖物。不送官者。未知。除錢帛等之外。雖奴婢兵器。猶不送何。又雖不送物。猶此司所領知不何。若奴婢兵器。皆賣收得直耳與何。穴云。贓贖。謂凡六贓皆入此司。假令。盜大藏司物。後得盜贓者。入此司之類。私案。贓謂彼此俱罪等沒官。及倍色是也。自餘正贓。各入本司。爲律云還官主故也。今說。盜官物正贓倍贓。並還人被盜之官。其贖銅者。在京斷訖牒本屬。徵取者送斷罪之司。但諸刑部斷者。入國府耳。問。*倉庫令云。隱截貸用。不限在任去任納京者。亦納此司哉。答。同大藏。之出入此司耳。今說。依狀納大藏幷藏院耳。跡云。贓謂六贓正贓幷倍贓。合入沒官者。皆此司勘收。但隱截貸用等有立別條耳。又朱云。未定入所。作云。雜律云。贓罪正名。其數有六。謂受財

〔刑部省例囚獄司例〕八十一例、六十二例の如く、職員の處分例を集めたる書、既に奈良時代よりありたり。本書に刑部省例及び囚獄司例なる二つの書を引く。其二つの書の中、刑部省及び囚獄司の處分を指すものなりやは疑なきにあらざるも後者なるべし。

枉法。不枉法受所監臨。强盜竊盜。并坐贓云々。謂之贓也。獄令云。贖死刑。限八十日。流六十日。徒五十日。杖卌日。笞卅日。云云。謂之贖也。闌遺雜物謂依捕亡令。得闌遺物。無主識認。沒官是也。釋與義解無別。伴云。妄出入爲闌也。言馬牛自適也。忘落財物爲遺也。廐牧令云。凡闌遺所得闌畜。皆仰當界官司請主。若經一季。無主識認者。先傳馬有餘者。出賣得價入官。其在京經一季。無主識認者。出賣得價送贓贖司。後有主識認。勘當知實。還其本價。又雜令云。凡闌遺之物。五日內申所司。其贓畜事未分決。在京者付京職。斷定之日。若合沒官。出賣在外者准前條。捕亡令。在市得者送市司。其衛府巡行得者。各送本衛。所得之物。皆懸於門外。有主識認者。驗記責保還主。雖未有記案。但證據灼然。可驗者亦准此。其經卅日。無主認者收〔掌〕。仍錄事狀申兵部。經一周無人認者沒官。錄帳申官聽處分。沒入之後。物猶見在。主來識認。證據分明者還之。事。佑一人。大令史一人。少令史一人。使部十人。直丁一人。

囚獄司

伴云。風俗通。三王始爲獄。夏曰夏臺。殷曰羑里。周曰囹圄。釋名。獄确也。以确人之情僞也。又謂之牢。又謂之圜土也。

正一人。掌禁囚罪人。謂衛府糺捉罪人。及諸司送徒以上者。皆此司任罪禁囚。釋云。衛府糺捉。送刑部罪人者。皆下此司。依罪輕重合禁。諸司送徒以上。此司令決者。亦使刑部等決之也。私獄令云。禁囚。死罪枷杻。婦女及流罪以下去杻。其杖罪散禁。年八十十歲及廢疾懷孕侏儒之類。雖犯死罪亦散禁。又條云。應議請減者。犯流以上若除免官當者並鎖禁。公坐流。私罪徒。〔並謂非〕官當者。責保參對。其初位以上及勳位。應贖犯徒以上及除免官當者鎖禁。公罪徒並散禁。不脫巾。徒役。功程伴云。獄令云。犯徒應配居役者。畿內送京師。在外供當處官役。其犯流應住居作者亦准此。婦人配縫作及舂。刑部式例。依延曆元年十二月廿六日太政官符。役徒人者。囚獄司率令作路橋及雜事。囚獄司例。依神龜元年六月四日太政官符。每月落日且引時囚人等。使掃除宮闕邊溝閘并東西廁等

〔加杖〕杖を以て徒流に代へたる換刑なり、杖數一百以上二百に達す。家に侍すべき老父母ありて兼丁なき者、及び家人奴婢の如き徒流の刑を科すことを不便とする者、及び之を科するもその效果なき者に、本刑に代へて之を科するなり。

〔物部與物部丁行事何〕物部と物部丁との職掌の差異を問へるなり。

〔從本貫耳〕物部の本貫のある國の國司の支配に從ふなり。

〔案令作部補任者既是式部職掌〕選敍令に「凡內外五位以上勅授。（中略）舍人。史生。使部。伴部。帳內。資人等。式部判補。」とあり。

〔大同三年七月十六日官奏〕この格、類聚三代格、卷四には七月廿六日となせり。又類聚國史、卷七、職官部、大藏省の條はこれを大同三年八月庚戌朔の條に係

也。又云。徒人役備。具錄役日并作物數。申送於省也。**及配決事。**穴云。配決二也。配流決杖是也。爲長。跡云。決配謂配徒流。又加*杖。決杖等也。古記云。配決謂決罰耳。**佑一人。**

大令史一人。少令史一人。物部卌人。謂此作部之色。故式部補任。其衛門府門部亦同也。釋與義解無別。穴云。問。*物部與物部丁行事何。答。物部主當罪人也。丁者就手決人也。古記云。物部卌人。謂戸口刑部獄司不得檢校。*從本貫耳。凡衛門及東西市物部者。刑部分配。其諸司物部等。爲武官考選。申送兵部省也。養老四年三月十日。刑部省解偁。囚獄司物部。老貧無病。不堪駈使。省依常例。即遣專使。就京及畿內簡點訖。經式部補。此今京國不肯承行。謹請官裁。即官判。*案令。作部補任者。既是式部職掌。今所謂物部。亦是作部之色。省錄所須人數。申送式部。依令判任補。若有選人欠少。應差白丁者申官。使「仰」本貫簡點。身來之日。及附式部補任。兵部亦准此。養老以下釋無別也。伴云。獄令云。徒流囚在役者。囚一人兩人防援。在京者。取物部及衛士充。（一分物部。三分衛士。）在外者。取當處兵士。分番防守云云。**掌主當罪人。決罰事。**朱云。只主當決罰之事也。物部丁可守罪人身者。**物部丁廿人。**謂諸國仕丁。帶使守獄者。即自民部省所充也。釋與義解無別。古記云。物部丁廿人。此充仕丁耳。

大藏省　*大同三年七月十六日官奏云。加置官員事。今加大丞一員大錄一員。右件出納事「忙」。官員欠少。伏乞。更加件員。以前雖官職之員令條立限。而臨時取宜。政道攸尙。伏乞。依件廢置。各理其務。臣等商量所定。具件如前。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。*延暦十八年四月廿三日官奏云。主鑰大少各一員。右同亦省除。以前雖設官分職令員有限。而斟酌閑繁取舍時宜。恆典通論。善政所先。伏望。廢彼閑吏置此要員。臣等商量所定。具件如前。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。*大同元年十月十一日官符云。典履二人。百濟手部十人。典革一人。狛部六人。狛戸。右件元大藏省之所管。今右大臣宣。奉勅。

けたり。
「延暦十八年四月廿三
日官符」この格、類聚三
代格、卷四に見えたり。
「大同元年十月十一日
官符」この格、類聚三代
格、卷四及び類聚國史、
卷百七に見えたり。
「和銅元年始用銀錢三
年始用銅錢」續紀、和
銅元年二月甲戌の條
には「始置催鑄錢司」
と見え、同年五月壬寅
の條には「始行銀錢」
と見えたり。和銅元年
始めて銀錢を用ふとは
之を謂へるならん。然
れども和銅元年八月己
巳の條には既に「始行
銅錢」と見え、又同二
年三月甲申條には「凡
交關雜物、其物價、銀
錢四文已上、即用銀
錢、其價三文已下、皆
用銅錢。」と見えたり。
されば三年始めて銅錢
を用ふとあるは誤なる
か如し。續紀、
和銅三年八月乙酉の條
には「廢銀錢一行銅

作人等。自今以
後、宜隷內藏寮。
管司五。卿一人。掌出納。謂與監物共出納也。釋云。凡調庸物非一色。隨色收納諸司。假令。
鹽魚納大膳。米納民部之類。其出納者。監物與本司共可出納。但今行
事。諸司出納者。辨官中務監物民部主計「共」出納
之。朱云。出納謂出納其下計物者。未明。或說異。諸國「調」及錢。作云。古記云。和銅元年。
銀錢銅錢事
始用銀錢。三年始用銅錢。金銀。
珠玉。銅「錢」。鐵。骨角齒。羽毛。釋云。尚書孔安國注。齒象牙羽鳥羽毛旄牛尾。作云。賦役令云。
凡諸國貢獻物。皆盡當土所出。其金銀珠玉皮革羽毛。錦罽羅縠
紬綾。香藥彩色服食器用。及諸珍異之類。皆准布爲價。以官物市充。不得
過五十端。其所送之物。但令無損壞穢惡而已。不得過事修理以致勞費。漆。帳幕。古記云。爾雅。幬謂
之帳也。說文。帳帷
帳也。字書。帳幬。廣雅。帷帳也。周禮。幕人掌帷幕幄帟之事。注云。在旁曰帷。在上曰幕。幕或在地展陳於上
也。方言。幕覆也。廣雅。幕帷也。釋云。說文云。帳張也。字書。帷帳也。廣雅。帷帳也。爾雅。幬謂之帳。周禮。幕
人掌帷幕。注云。在旁
曰帷。在上曰幕也。權衡。謂權懸錘也。衡橫木也。所以知輕重者也。釋云。無別。又云。公羊傳何休曰。
權者稱別輕重也。鄭玄注禮記云。注曰。稱錘曰權。稱上曰衡。案丈尺也。古記
云。權衡度量。月令。仲春之月。日夜分。則同度量。均衡石。角斗甬。正權槩。注云。因晝夜等。而平當平者也。
同角(甬)。正者謂平之也。丈尺曰度。斗斛曰量。卅斤曰鈞。稱上曰衡。百卅斤曰石。甬今斛也。稱錘曰權。槩平
斗斛。度量。謂丈尺爲度也。升斗爲量也。釋云。度丈尺也。音徒故反。量斗升也。音呂張反。作云。關市令
者也。云。官「私」權衡度量。每年二月。詣大藏省。平校。不在京者。詣所在國司。平校。然後聽用也。
雜令云。用度量權。官司。賣買估價。謂貨物價值。隨時輕重。官家賣買。擇其中估但當賣買時。知估價
皆給樣。其樣皆銅爲之。法。非是常在市而案記也。釋云。貨物之價。隨時輕重。是謂估價。音

錢。」と見えたり。三年始めて銅錢を用ふとは或ひは之を云へるか。

〔宮內諸方口味可稱諸國故也〕職員令、宮內卿職掌の條には「諸方口味」とありて、その諸方の下には「朱云。如言諸國也。」とあり。

〔瑠璃火齊珠〕瑠璃はガラスにして、火齊珠は太陽の光線を一つの焦點に集めて火を發せしむる球なり。故に瑠

姑戸反。言臨時當賣買官時。而詣市司。知其估價。取中估賣買耳。不常案記也。穴云。估價謂爲平官物成文也。依關市令。官與私交關。以物爲價。准中估者之類。一端爾也。伴云。俗語師古云。估同也。云固堅己物。待來人。求其利者也。價猗暇反。買物所堪之數也。諸方穴云。諸國也。或云。諸方者諸蕃。幷諸國皆約之文。其諸蕃皆納大藏。何*者宮內諸方口味。可稱諸國故也。餘放。跡云。私檢跡記。無此文。朱云。諸方謂如言諸國也。蕃國不云也。貞後說。如言其蕃者未令心也。貢獻雜物事。伴云。賦役令云。諸珍異之類是也。「師云。雜令云。國內有異寶等是。」大輔一人。少輔一人。大丞一人。少丞二人。大錄一人。少錄二人。史生六人。大主鑰二人。少主鑰二人。藏部六十人。價長。伴云。古記云。得考爲分番也。周禮鄭玄曰。主市買。知物價者也云云。四人。典履二人。掌縫作靴履鞍具。謂此爲賞賜。不關供御。百濟手部狛部。謂竝是得考者也。釋云。別記云。竝得考。穴云。此司典履。內藏典履等別何。答。二司竝各作同物。同充供御也。其染作皮。自此司入內藏耳。釋云。內藏爲供御也。此省爲人給也。古記云。典履典革爲長上。檢校百濟手部。百濟手部十人。掌雜縫作事。典革一人。古記云。典履典革爲長上。掌雜革染作。檢校狛部。狛部六人。掌雜革染作。省掌二人。使部六十人。直丁四人。駈使丁六人。百濟戸。狛戸。古記及釋云。別記云。忍海戸狛人五戸。竹志戸狛人七戸。合十二戸。役日無限。但年料牛皮廿張以下令作。村村狛人三十戸。宮郡狛人十四戸。大狛染六戸。右五色人等爲品部。

免調役也。紀伊國在狛人百濟人新羅人并卅人戸。年料牛皮十張。鹿皮麞皮令作。但取調庸免雜徭。百濟手部十戸。左京六戸。右京二戸。一番役五人。月料優一人十六兩令縫。爲雜戸免調役也。百濟戸十一戸。臨時免役。爲雜戸免調役。衣染卅一戸。飛鳥沓縫十二戸。呉床作二戸。蓋縫十一戸。大笠縫卅二戸。揩作七十二戸。右六色人等臨時召役。爲品部取調庸免雜徭。但百濟手部十人得考。一云。凡。縫笠。縫蓋。飛鳥縫履。染部。如此之類。皆在藏部之中。

典鑄司

正一人。掌造鑄金銀銅鐵。跡云。此司掌鑄造物。餘以鐵造物。皆鍛冶司掌耳也。塗飾。瑠璃。謂火齊珠也。釋云。瑠力鳩反。璃音。瑠璃火齊珠也。異物志。火齊狀如雲母。色如紫金。光曜如燭也。瑠音力弋反。玉作。及工戸戸口名籍事。朱云。名籍謂戸籍也。未明。若疑名帳戸籍二色頗何。先答不同也。佑一人。大令史一人。少令史一人。雜工部十人。跡云。雜工部謂友造玉。鍛冶司唯習此。自餘諸司作部等。皆直料友造耳。使部十八人。直丁一人。雜工戸。古記及釋云。抽取鍛冶造兵司部人。及高麗百濟新羅雜工人配之。

掃部司

正一人。掌薦席牀簀苫。及鋪設。釋云。以薦席簀等布設。別記云。*茨田葦原等地。即以駈使丁令作硯。又大藏調薦席等。充令造備也。古記云。問。諸鋪設

瑠火齊珠は、即ちガラス製の火取玉なり。ガラス又は水晶の火取玉を以て火をとる事今も神事に遺れり。百錬抄、第六、保延六年五月五日の條に「以二火取玉一[illegible]伊、八幡宮[illegible]炎上以後令レ續二常燈一也」とあり、又本朝世紀、仁平元年三月九日の條には、近衞天皇が伊勢大神宮に奉られた神寶の中に火取玉一顆のありしこと見えたり。これ[illegible]に用ひられたる事のものに見えたる古き例なり。

〔友造〕トモノミヤツコ（伴造）なり。伴部、雜戸の制が前代のトモベ、トモノミヤツコの遺制なることと之によりて知るべし。

〔茨田葦原等地〕[illegible]（マムダ）は河内の地名なり。[illegible]仁徳天皇紀、十一[illegible]

之屬何物也。答。茨田葦原等地在。卽以駈使丁。令作殖而造備。又大藏調薦席等充令造備也。伴云。雜令云。
廳上及曹司座「者」。五位以上竝給牀席。其制從別式。又條云。在京諸司主典以上。每年竝「給」座席。以下隨
壞卽給。

洒掃。蒲繭葦簾等事。佑一人。令史一人。掃部十人。使部六人。直丁一人。駈使丁廿人。

漆部司

*大同三年正月廿日詔。觀時改制。論代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職。損益非同。求之變通。何常准之有也。思欲省司合吏。少牧多羊。致人務於淸閑。期官僚於簡要。其漆部司併內匠寮。主者施行。

正一人。掌雜塗漆事。朱云。以漆塗物總掌耳。**佑一人。令史一人。漆部廿人。**古記及釋云。別記云。漆部廿人之中。作造七人。倭國經年役作造爲伴部。漆部爲品部。漆部十戶。經年每戶役。免調役也。*泥障二戶。革張一戶。右二色人等。臨時召役。爲品部。取調免徭役。限「外漆部五人。泥障八戶。革張三戶。右三色人等爲品」部。取調免徭役。但漆部伴部竝得考。**使部六人。直丁一人。**

縫部司

大同三年正月廿日詔。觀時改制。論代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職。損益非同。求之變通。何常准之有也。思欲省司合吏。少牧多羊。致人務於淸閑。期官僚於簡要。其縫部司併縫殿寮。主者施行。

年十月の條に浪速の都の北河の滂を防がんとして茨田の堤を築きしこと見えたり。和名抄には河内國に茨田郡あり。今郡名を廢し、北河内郡に入る。この地に掃部司の葦原あり。掃部司駈使丁を遣してその葦を作らしめ、之を以て宮庭に用ふる薦席(コモムシロ)の類を製せしなるべし。

〔大同三年正月廿月詔〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔泥障〕泥障を作ることを專業とせる品部なり。泥障はこれをアフリと訓む。雨天乘馬の際、衣服に泥のはねつくを障る爲めに、鞍の兩側に附するもの、後に晴天の時にも用ひて一種の裝飾とす。毛革及びなめし革にて作る。五位以上の者は羆熊の皮を用ふと云へり。

「內人」宮內の人なり。宮人と云ふに同じ。「外人」は女孺官以下の所謂宮中の官人を云ふ。
〔女孺〕女孺はメノワラハと訓む。雜人の雜使丁、直丁に當るものなり。後宮職員令に後宮十二司に仕へる女孺の定員見えたり。
〔新令釋〕令釋には古令の註釋書と新令の註釋書の二種ありしやの疑あれども、新令釋の新令の註釋書なることは疑なきに似たし。
〔大同三年十二月十五日官符〕この格、類聚三代格、卷四及類聚國史、卷百七に見えたり。
〔不同有師生之例〕本書、國書刊行會本の作に「釋云。（中略）師說云。凡令內稱レ生無レ師者。是皆有レ之色。有レ師者。只免二徭役一耳。此令之通例也。」とあるものゝ例外をなすものなりと云へり。
〔但令釋稱無師生者有

正一人。掌裁縫衣服。謂此爲衛士等衣服也。古記云。問。縫殿寮與縫部。裁衣服之別何。答。縫殿以給內人也。縫部以給外人。事。佑一人。令史一人。縫部四人。使部六人。直丁一人。縫女部。謂檢前令。縫女部在使部上。而新令在直丁下者。凡新令之體。縫女皆在男下。所以在直丁下。其考者依舊更無改張。釋與義解無別。穴云。問。縫女部。亦女嬬歟。答。非也。但別取耳。伴云。跡云。召京內婦女等。令裁縫耳。或令式入宮人例。檢跡記。無此文。朱云。新令釋云。縫女部依舊得考者。未知。得考。何以所知。又得考者長上歟。番上歟。此亦中務考哉何。古記云。卜戶縫年女役。但考仕大藏省。記定送中務省耳。

織部司 大同三年十二月十五日官符云。減定諸司等長上事。挑文師四員。右減二員。定一員。以前被右大臣宣偁。奉勅。件司等才長上數。停止幷減定如件。永爲恒例。正一人。掌織錦綾紬羅。及雜染事。穴云。雜染謂織衙染物也。伴跡云。隨用。此司受絲雜染耳。內染司。爲供御也。然則此司在染戶。廣布等染耳。檢跡記。無此文。佑一人。令史一人。挑文師四人。伴跡云。祇官位令。故得長上考。跡記。亦無此文。儀禮云。二子執挑匕杓。鄭玄曰。挑謂之歃也。結綜成文謂之挑也。綜閒（間）也。挑音他堯反。古記云。挑文四人。爲人長上。挑文結綜成文。謂之挑之挑也。綜閒（間）。掌挑錦綾羅等文〔事〕。挑文生 謂取綾錦文者名爲挑文生。即得考也。以自挑織故也。釋云。取綾錦文名曰挑文。挑音半彫反。師說云。挑文生。自執了挑織。故得考。亦課役但免。不同有師生之例。穴云。挑文生得考也。此雖有師。爲非習學人故。但令釋稱無師。生者有古私記說也。與今異也。更令請師說也。又令釋之意亦不失旨也。八人。使部六人。直丁一人。染戶 古記云。別記云。錦綾織百十戶。年料一人。

錦一疋。綾一疋令織。但貴錦一疋令織。錦機卅四枚（枝）。爲品部。取調免徭役。呉服部七戸。年料每戸小綾二疋令織。爲品部。取調免徭役。河内國廣絹織人等三百五十戸。機十五枚（枝）。一機七疋令織。取調免徭役。緋染七十戸。役日無限。染絁無定。爲品部。取調免徭役藍染卅三戸。倭國廿九戸。近江國四戸。二戸出女三人役。餘戸每丁令採薪。爲品部。免調役。以上釋無別。＊織手等一二人在司上。多在國織進耳。

令集解卷四

本云 文應元年七月八日早旦見合本書畢　　權大納言藤 在判

建治二年後三月十三日引合正親町本校合畢

慶長三年重陽於燈下令校合了　　清原秀賢

弘長元年九年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　　員外宰相藤判

寛永十一甲戌仲冬逐一校畢　　中原職忠

萬治三庚子仲冬上旬令一校畢

文政三年仲夏以彰考館本校正了　　撿挍保己一

古私記說也與今異也」但し令釋が師なき生は考を得、師ある生は得を得ずと云へる說は、古令の註釋書なる古記の說を承け繼げるものにして、古令の意なり。故に今令卽ち養老令の法意とは異るなり。

〔織手等一二人在司上多在國織進耳」この官司に上番せず國にありて織り進める織手なるもの、後世まで諸國に散在せり。延喜二年の阿波國戸籍などにも織部司織手なる者見えたり。この後世の織手は課役を免れんが爲めに、或は特權を保護されんが爲めに、織部司を本司と仰げるものにして、必ずしも織物を進める義務を負へるものにあらず。

令集解卷五

宮内省

大膳職　木工寮　大炊寮
主殿寮　典藥寮　正親司
内膳司　造酒司　鍛冶司
官奴司　園池司　土工司
采女司　主水司　主油司
内掃部司　筥陶司　内染司

彈正臺

衛門府

隼人司　左右衛士府　左右兵衛府
左右馬寮　左右兵庫

宮内省　管職一。寮四。司十三。

卿一人。掌出納。謂被管諸司之出納也。跡云。出納謂在此省并摂官等内雜物等。此司自監物等。行但出納耳。朱云。出納謂即出納其下計物者。未明。諸國調雜物。朱云。諸國調雜物只下官司取所須用者。春米。官田。謂供御稲田。分置畿内者。名為官田也。釋與義解無別。私田令云。畿内置官田。大和攝津各卅町。河内山背各廿町。每二

〔大宰進腹赤〕腹赤（ハラカ）は爾倍（ニベ）魚なり。その腹赤色なるを以て名づく。今云ふ鱒（マス）なり。景行天皇の御宇筑紫宇土郡長濱の海人これを得て天皇に獻じ、後聖武天皇の天平十五年正月十四日、大宰府よりこれを進獻せしより恒例となり、腹赤奏なるもの行はれたり。腹赤奏のことは、內裏式、江家次第等に見えたり。

〔古記云仕女丁者宮內省檢校分配諸司也〕これによれば、古令には宮內卿職掌の條に「仕女丁」の三字ありしこと知らる。正倉院文

町配牛一頭。其牛令一戸養一頭謂中中以上戸。又條云。官田應役丁之處。每年宮內省。預准〔米〕來年所種色目。及町段多少。依式料功。申官支配。其上役之日。國司仍准役月閑要。量事配遣。其田司。年別相替。年終省校量收穫多少。附考褒貶云云。**及奏宣御食產**。謂奏者官田園池當年所佃種色目。幷收穫多少。及氷室氷之厚薄。皆申奏之也。宣者若有物語者。更傳宣告也。穴云。奏宣御食產。謂供御雜膳。謂之食。官(屯)田及園池所生。謂之產也。釋云。官田園池幷氷室等。令年所佃種色目。幷所收穫數。及氷之厚薄奏宣。謂之奏宣御產也。**諸方**。朱云。如言諸國也。**口味**謂除調雜物外。諸方別獻珍味是也。伴跡云。假如。*大宰進腹赤。吉備進白魚御贄之類。檢跡記。無此文。釋云。除調雜物外。諸方別獻珍味者。判官以上。宜入進奏。若有物語者。追使報宣。事大者轉宣太政官知之類。謂之奏宣御食產也。女丁者。宮內省檢校分配諸司也。*古記云。仕女丁者。宮內省檢校分配諸司也。穴云。內親王嬪等家事。送宮內省曰。注(徑)送上日行事。或定等第。兩說可式定。考課令云。嬪以上。內親王家事。隸宮內省。義云。家事者考事。郎宮內省承主旨。定其考第(也)。又女王命婦等家事。古說。送正親司。未審。所歸亦可定也。「此古令文也。見正親司古記。問。此省知嬪以上等家事。而何不註職掌哉。答。依*彼令知耳。」**事。大輔一人。少輔一人。大丞一人。少丞二人。大錄一人。少錄二人。史生十人。省掌二人。使部六十人。直丁四人**。「*弘仁十二年八月廿九日官奏云。增少屬一員。右所管多數。其務塞繁。至于文案動致擁滯。伏望。加置件員。以濟劇務。」

大膳職

*大同三年七月十六日官奏云。加置官員事。今加少進一員少屬一員。右件依今年正月廿日詔書。省管陶司併於件職。又主醬主菓餅等。雖謂從停廢。其政復歸職。然則務繁人少。伏乞。更

書、天平十七年四月二十三日宮内省移に「以前、省仕丁四人、廝丁四人、仕女丁百人、來五月廿九箇日料、所請如件」とあることは、文大寳令に女仕丁なるものありしことの證なり。

〔彼令〕考課令なり。

〔弘仁十二年八月廿九日官奏〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔大同三年七月十六日官奏〕この格、類聚三代格、卷四に見えず。但し三代格はこれを廿六日に作れり。

如件。以前雖官職之員、令條立限。而臨時取宜。政迹攸尙。伏乞。依件廢置。各理其務。臣等商量所定。具件如前。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。

大夫一人。掌諸國調雜物。朱云。問。此「司」其實皆掌哉。及造庶膳羞、醢菹、謂其食曰膳。熟食曰羞。肉醬曰醢。醋菜曰菹也。釋云。說文。具食曰膳也。膳猶進也。音時扇反。羞音旨劉反。方言。羞熟也。郭璞曰。謂熟食也。周禮。供其邊薦羞之實。鄭玄曰。未饋食未飲曰薦。既食既飲曰羞。爾雅。羞進也。醢音呼改反。周禮云。作醢及臡者、必先膊乾其肉。乃后莝之。雜以梁麴及鹽。漬以美酒。塗置甀中百日。則成矣。有骨爲臡。無骨爲醢。醋菜曰菹。音側魚反。古記云。膳羞醢菹也。醢肉醬。音呼改反。菹。說文。以酢及米。淹菜使酢。名爲菹。音側魚反。禮記正義曰。膳食也。伴云。廣雅。膳肉也。穴云。具食謂之膳。謂已備具了也。熟食謂之羞。謂一一熟了。未至具了也。但皆言食耳。庶膳羞。謂御食以下是也。考課令有文也。膳羞亦爲百官也。但御膳者、至內膳有檢校耳。跡云。此司自不造御食。但檢校內膳所造。故亮以上爲最也。私考課令云。監造御膳淨戒無誤爲主膳之最、謂亮及典膳以上。朱云。造庶膳羞。謂凡臨時節日等。給諸司「官」人食等。此司掌造也。問。醢以下幷以上。何時可用何。醬豉。作云。音時置反。未醬。肴。作云。國語飲而無肴。賈逵曰。肴菁也。凡非穀而食之曰肴。菓。作云。野王案。說文。木實曰菓。草實曰蓏。張晏注漢書。有核曰菓。無核曰蓏。臣瓚云。木上曰菓。地上曰蓏也。雜餅。食料朱云。食料謂菜也。不在飯肴。未知。而朝々常給何。伴跡云。諸司菜料。此名食料。然則以此食料。作膳羞也。跡記。無「此文」。穴云。食料謂諸司食料也。率膳部以供「其」事。穴云。今私案。食薦等者。可云此司職掌。時行事亦如之。古記云。膳部注云。食薦也。內外諸部司營造充之。饗給諸刀禰者。諸部司爲數。即諸部司。掌諸司食薦事。亮一人。大進一人。少進一人。大屬一人。少屬一人。主醬二人。掌造雜醬

〔開元式〕唐玄宗の開元中に成れる唐式なり。これに開元七年式と開元二十五年式との二種あり。七年式は吏部侍郎宋璟等、二十五年式は中書令李林甫等の編修に係る。共に二十卷、三十三篇より成る。この書今亡んで傳らず。白孔六帖、和名抄等に纔かにその逸文を存せ文。されば茲に引ける文はこの式の内容の一部を窺ふに足る貴重の逸文なり。

作云。古記云。問。雜字意。答。作醬有三等。案開元式*。供奉醬一石料。上豆黄五斗。麴米三斗。鹽二斗五升。黄蒸二斗五升。麴子米八合。木橦四分。上醬二石料。豆黄四斗。麴米鹽各二斗。黄蒸二斗。麴子米八合。木橦三分九甕。〔醬〕次醬一石料。豆黄二斗八升。麴米鹽各一斗八升。黄蒸一斗九升。木橦三分「九」甕。造(送)官(宮内)省。檢古記。無此文。豉。未醬〔事〕。主菓餅二人。掌菓子。造雜餅等〔事〕。膳部一百六十人。掌造遮食〔事〕。使部廿人。直丁一人。駈使丁八十人。雜供戸。謂鵜飼。江人。網引等之類「也。」釋云。別記云。鵜飼卅七戸。江人八十七戸。網引百五十戸。右三色人等。經年每丁役。爲品部。免調雜徭。未醬廿戸。一番役十丁。爲品部。免雜徭。每年以下。古記無別。

鵜飼江人戸數事

木工寮

頭一人。掌營構木作。及採材謂斬伐樹木。可以施於工匠者。爲材也。釋云。蒼頡篇。材者衆木也。野王案。木已斬伐。可施工匠者皆云材。朱云。採材者。未知。此司自採材歟。爲當。申官令採歟。穴云。凡木作及採材。此司支度。申官令採。及掌作耳。跡云。木作謂凡以木作物。皆此司造也。私營繕令云。凡在京營造。及貯備雜物。每年諸司摠料來年所須。申太政官。付主計。預定出所料備。義云。人功「者」閑月應役故。賦役令。七月卅日以前奏訖。「但」役直材木等。預須科備故。此令前年申送者。然則此司不自採木仰所出之國令採耳。答。然也云云。事。助一人。大允一人。少允二人。大屬一人。少屬一人。工部廿人。謂不限雜色白丁。取

知工者充。郎得考之色。古記云。工部廿人。不限貴賤。知工人充得考。并給衣服等常也。在。釋亦同之。跡云。友造等取知工才人等。爲工部。非雜戶令知也。**使部廿人。直丁二人。駈使丁。**謂凡諸司駈使丁。皆有定數。特於此寮。不制員數者。分配諸司。其餘多少。皆配此寮故。無定員也。釋及穴記等。並無別義。古記云。駈使丁。分配諸司。以外餘仕丁。皆配此寮。私問。駈使丁。以何色人充。答。諸國仕丁是也。與直丁同。

大炊寮

頭一人。掌諸國舂米。雜穀。分給。謂凡諸雜穀者。皆於此寮收領。更分充諸司。假令。粟充主水。大豆充大膳之類也。釋云。諸雜穀此司分充諸司。假令。粟充主水司。大豆充。大膳。上菓餅之類。穴云。分給謂每馬給豆一升之類。上雜穀謂收掌耳。古記云。雜穀。分諸司者。釋同也。每月符給。跡云。雜穀。仰諸國交易令進耳。朱云。雜穀分給。謂隨色分給司司也。**諸司食料事。**朱云。諸司朝夕給常食。幷月一度給月料等。皆是食料者。或云。不然。食料謂具飯一色也。故雜穀具分給讀一事者。此說未明。後度同處也。未合。古記及釋云。別記云。大炊戶廿五戶。津國客舍爲品部。免雜徭。右廿五戶。定雜徭止。**助一人。允一人。大屬一人。少屬一人。大炊部六十人。使部廿人。直丁二人。駈使丁卅人。**

主殿寮

〔月料〕每月來の月の分の百寮の官人に給する食米を、大炊寮より百寮に給するものなり。百寮よりも大炊寮に月料を請求する移牒の文を大日本古文書といふ。奈良時代の大炊寮への文は、多く大日本古文書、卷三に見えたり。其事は、單なる儀式として行はれたり。

〔津國客舍〕蕃客には、難波館を以て蕃客の接待に備ふ。この大炊戶五戶は即ちその用に供するものなり。

〔漢語抄〕和名類聚抄に引ける楊氏漢語抄ならむ。これ現在知られる漢和字書の最も古きものにして、奈良時代の撰なり。撰者明かならざれど聖武天皇の天平二年詔して弟子二人を取りて漢語を傳習せしめられたる楊胡史眞身ならむか。この書今亡んで傳らず。

〔天平二年三月廿七日官奏〕この格の一部と覺しきもの類聚三代格、卷五の弘仁十二年二月十七日の格中に見えたり。

〔弘仁五年三月十二日官符〕この格、類聚三代格に見えず。格逸、卷一官職の部及び九條家の弘仁格抄、卷三、式部下に見えたり。

頭一人。掌供御輿輦。謂舉行曰輿。輓行曰輦也。釋云。舉行曰輿。音與魚反。輓行曰輦。音力翦反。古記云。輿無輪也。輦有輪也。*漢語〔抄〕云。輿。母知許之。腰輿。多許之。跡云。輦者。已之久留萬。蓋笠。織扇。謂織蓋。問。織蓋者。其意何。若如織之蓋歟。扇團扇也。釋云。上黒燗反。野王案。織即蓋也。見唐衣服令。或云。或似扇而大者非也。音蘇且反。扇團扇也。扇謂所用取風涼去塵粉者也。音尸戰反。穴云。織謂平織織蓋也。唐儀制令云。皇太子織者是。跡云。織者蓋言手織之蓋耳。扇者阿布岐。古記云。陸詞曰。織蓋也。音蘇且反。扇隱羽也。作云。家語。孔子將雨無蓋是也。今時織也。帷帳。湯沐。洒掃殿庭。及燈燭。謂油火爲燈。蠟火爲燭也。釋與義解無別。穴云。燭謂紙燭也。跡云。燭者日燭之大耳。松柴。炭燎。謂柴薪柴燎庭。燎。釋云。柴薪也。音士佳反。燎庭照也。音力召反。炭他旦反。說文。燒木也。穴云。松明也。燎讀庭火也。作云。禮記。以供百禮之薪燎也。毛詩。夜未央。庭燎之光。傳云。庭燎火燭也。朱云。問。此寮掌諸物。皆此司所作歟。若隨物色。自他司來歟何。私案。無自他司可來何。等事。助一人。允一人。大屬一人。少屬一人。殿部卌人。使部廿人。直丁二人。駈使丁八十人。

典藥寮 *天平二年三月廿七日官奏。醫得業生三人。並准大學生也。見大學寮條釋也。*弘仁五年三月十二日官符云。置得業生四人事。右太政官今月十一日下中務省符偁。得彼省解偁。內藥司解偁。醫針之道。國家大要。其業衰絕。無人可師。望請。永置件生。教傳醫業者。被右大臣宣偁。奉勅。依請。頭一人。掌諸藥物。朱云。問。諸藥物。未知。藥物一歟。二歟。私案。如一何。穴云。內藥司藥。自此司分納也。療疾病。謂依醫疾令。五位以上疾患者。並奏聞。遣醫師爲療是也。釋云。五位以上疾也。案醫疾令可知也。穴云。療疾病。謂依醫疾令五位以上疾患。遣醫爲療。又云。

〔醫疾令云〕これ亡佚せし醫疾令の遺文なり。今醫疾令の逸文を存するもの本書の外には、政事要略あるのみ。参看すべし。

療醫針師。典藥量其所能。有患之處。遣爲救療者。然則京中庶人以上。皆合救療也。及藥園事。助一人。允一人。大屬一人。少屬一人。醫師十人。掌療諸疾病。及診候。「力照反。周禮。療瘍以亡毒攻之。鄭玄曰。止病曰療。」朱云。謂爲五位以上也。何者。醫疾令云。凡五位以上疾患者。並奏聞。遣醫爲療。仍量病給藥。致仕者亦准此故也。或說。不然。彼令爲奏聞。別稱五位以上也。何者。文條。醫針師。典藥量其所能。有病之處。遣爲救療。毎年宮内省。試驗其識〔識〕解優劣。兼病多少。以定考第者。此則廣包六位以下文也。彼令義解云。遣爲救療。謂此據五位以上。不及六位以下也。如以外國遣醫師療。豈何京內六位以下不救療者。未明。後度不一決也。釋云。何脉爲診。何色爲候。穴云。診候其脉上釋也。非針生遍相診候之也。古記云。問。醫師十人。如此之類。可別數多。未知。等級相通以不。答。未受定。但臨時量定耳。或說。文。稱主典以上者。即除應連坐以外。不可相通也。醫博士一人。掌諸藥方脉經。教授醫生等。朱云。私案醫疾令云。醫生既讀諸經。乃分業教習。率廿人以十二人學體療。三人學創腫。三人學少「小」。二人學耳目口齒者。件諸業。醫博士一人皆習教耳歟。問。醫針博士等。何不云學生課試心何。若依醫疾令知可爲耳歟。師云。然也。但依彼令。於按摩咒禁博士。不云課試生者何。彼條義解云。醫針生。博士一月一試。謂略按摩咒禁生者。案文可知也。私醫疾令云。凡醫針生。博士一月一試。典藥頭助一季一試。宮内卿輔年終總試。其考試法式。一准大學生例。若業術灼然。過於見任官者。即聽補替。其在學九年。無成者退從本色。醫生卌人。「掌學諸醫療。」私醫疾令云。凡醫生按摩生咒禁生藥園生。先取藥部及世習。次取庶人年十三以上。十六以下聰令者爲之。針師五人。掌療諸瘡病。及補寫。謂虚者補之。實者寫之。釋云。針經云。針補瀉。所謂補者。以大指引。所謂瀉者以大指推。子午爲限。不得超過。穴云。補瀉子細之義。藥家所通耳。伴云。古記云。插

〔君臣〕漢法醫の云ふ君臣なり。主たるものを君と云ひ、副貳的なるものを臣と云ふなり。

搏推也。大拇指出外云補。大拇指入內云瀉耳。一云。捶針右戾爲瀉其惡氣其(身カ)內。故曰補瀉也。朱云。補瀉謂以大指引推也。瀉身內惡氣。補吉氣。故云補瀉者。針博士一人。掌教針生等。針生廿人。掌學針。按摩師二人。掌療諸傷折。按摩博士一人。掌教按摩生等。按摩生十人。掌學按摩療傷折。呪禁師二人。掌呪禁(事)。呪禁博士一人。掌教呪禁生。呪禁生六人。掌學呪禁。藥園師二人。穴云。藥園師在寮。以時檢校藥園也。生亦以時隨。俱往園。知採種之法耳。私醫疾令云。凡藥園。令師檢校。仍取園生。教讀本草辨識諸藥。幷採種之法。隨近山澤。有藥草之處。採(握)種之。所須人功。並役藥戶。掌知藥性色目。謂寒溫爲性。形狀爲色。名稱爲目也。釋云。性謂君臣*苦辛之狀也。色謂白黑之別也。目謂諸草之別名。如烏頭附子之類。古記同。但無君臣兩字。穴云。藥性謂寒溫。見醫疾令合釋也。種採藥園諸草藥。及教藥園生。藥園生六人。掌學識諸藥。使部廿人。直丁二人。藥戶。乳戶。古記云。及釋云。別記云。藥戶七十五戶。經年一番役卅七丁。乳戶五十戶。經年一番役十丁。右二色人等。爲品部。免調雜徭。「本草新註云。藥有君臣佐使相(以)宣攝合(令)和者。宜用一君二臣五佐。又可一君三臣九佐也。本說如此。今案。猶立之(云人之)制。君多君少。臣多臣少。佐則勢不周故也。而檢正道諸方之(亦)不如(必)皆然。養命之藥。則多君。仲景云。凡合(命)養藥用君分。用臣三分用使一分。相得良者內消。故云多君。養性之藥則多臣。仲景云。凡合養性藥用君二分。用臣五分。用使一分。相須者。良內消。故云多臣也。治病之藥。則多佐。仲景云。凡合破病藥。用君一分。用使二分。用使五分。正破病者。輒寫其分者非斤兩分也。」

正親司

正一人。掌皇親名籍。謂。一世以下四世以上名籍。案戶令。皇親爲不課。故知於京職。亦可有皇親戶籍也。釋云。親王以下四世以上名籍。皆於正親司案記之也。京職亦可造戶籍。何者。戶令云。皇親爲不課故也。穴云。皇親謂四世以上也。五世王非。但放格耳也。問。親王何。答。皆是約皇親也。戶令。不課謂皇親。親者。然則親王以下名籍。令在京職民部等也。跡云。皇親謂親王四世以上名籍帳。但戶籍皆在京職耳。朱云。承御宣預掌名籍也。京職亦同。但五世王者。只京職預掌耳。此司不掌者。未明。凡此明照諸人。每六年造戶籍。每年造計帳何。古記云。皇親名籍也。檢校無位諸王男女。凡親王及諸王名籍。皆於正親司。案記。有位內親王。若有請求者。由宮內省。朝參及物名者。由縫殿寮。又內侍司掌出之也。貴人等者。謂有位女王貴人也。一說。五位以上。二世以下名籍。又五世王嫡子。六世王之名籍。又有位女王等貴人考文。受取送宮內省。又有位女王名籍。送縫殿寮。但無位女王名籍。在此司耳。又親王并七世等名籍不掌。伴云。內親王帳內者。止至宮內省。不預此司。令行事止送於式部省。宜。佑一人。大令史一人。「少令史一人」使部十人。直丁一人。

內膳司

奉膳二人。掌總知御膳。朱云。謂典膳以下所造。監當耳。跡云。監知典膳所造耳。「式*部式云。內膳司「除長官」條、高橋安曇二氏以外爲正。」進食先嘗。謂。所御兩嘗之。正凡食動毒。欲宜天供膳古嘗造。請戒俱至。然猶慮其誤犯。故在照臨而先嘗。伴云。尚書云。惟辟玉食。注云。言惟君得專威福爲美食。珍音都苑反。爾雅。玉謂之珍。郭璞云。治玉之名

「皇親謂四世以上也。五世王非。但放格耳也」繼嗣令には「自親王五世。雖得王名。不在皇親之限」とあり。故に法曹の解釋としては、五世の王は皇親に非ずと雖も、五世の王を皇親の限りに入れる格文あれば、その格制に從ふべしとなり。類聚三代格、卷十七によれば、文武天皇の慶雲中に格ありて、五世の王も皇親限に入りしが、桓武天皇の延曆十七年再び令制に復せり。

「式部式」延喜式部式上に「凡內膳司長官。除高橋安曇二氏以外爲正」とあるを指せるなり。

〔膳部造盛見検也不自造者大非何者文稱造之字之故者〕典膳自ら手を下して造るに非ずと云へる穴記の說を駁せるものなり。反駁の理由は「掌造供御膳」なる法文の文字解釋にあるなり。

〔最條〕考課令に「監造御膳。淨戒無誤。爲主膳之最。謂亮及典膳以上。」とある條文を云へるなり。

〔女司〕後宮職員令に見える酒司なり。この司女官より成る。故に女司と云へるなり。

〔客饗時役也〕攝津の鴻臚館に蕃客を饗應するときに使役するなり。

也。或云。不似王者也。或爲雕字。朱云。進食先嘗。謂在御所自嘗耳。穴云。進食先嘗者。於御所而先嘗也。但不見女官先嘗。男官後嘗之事。徒宜嘗耳。事。典膳六人。掌造供「御」膳、穴云。非自就手造也。率膳部令領造耳。引大膳職職掌爲證耳。時行事。以高橋安曇之名負人。任者名奉膳。以他人任者爲正也。朱云。造供御膳。謂膳部之熟物等。則齊（齋）調盛。次前後次第耳。或云。*膳部造盛見検也。不自造者大非。何者文稱造之字之故者。作跡云。典膳自就手造。膳部同耳。検跡記。無此文。調和庶味寒温之節、謂寒甚者膳。熱過者爛。令其調適不失中和其。依考課令。大膳職亦須知御膳也。釋云。調冬温夏清之類也。大膳職監察御膳。案*最條知。令史一人。跡云。此令史行主典職掌耳。不預造食。膳部卌人。掌造御食、使部十人。直丁一人。駈使丁卌人。

造酒司

正一人。掌釀酒。醴。謂醴甜酒。釋云。醴音盧啓反。鄭玄周禮注云。甘酒也。甜音徒兼反。廣雅。甜甘也。古記云。醴甘酒。多麴少米作。一宿熟也。穴云。*女司來此司之供造耳。作跡云。釀酒謂女司共和耳。検跡記。無此文。酢事、佑一人。令史一人。酒部六十人。掌供行觴、穴云。廣「包」御所及諸司是也。朱云。供行觴。謂節會之日等。臨時廣包耳。古記云。行觴給酒耳。觴杯之字。使部十二人。直丁一人。酒戸。古記及釋云。別記云。酒戸百八十五戸。倭國九十戸。川内國七十戸。合定百六十戸。一番役八十丁。爲品部。免調雜徭。但津國廿五戸。令定十戸。*客饗時役也。

一大同三年正月廿日詔、この詔、類聚三代格、類聚國史、後紀に見えたり。

一寺奴婢名籍之以下誤脫あらん、良人の家人は戶籍に載す、名例律には、諸官戶部曲

鍛冶司　釋云。說文。冶銷鑄金也。考工記。攻金之工。冶氏執上齊。周易。冶容誨淫。劉猷曰。冶妖冶也。大同三年正月廿日詔。觀時改制。易代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職。損益非同。求之變通。何常準之有也。思欲省司合吏。少牧多羊。致人務於高閑。期官僚於簡要。其鍛冶司。併木工寮。主者施行。

正一人。掌造作銅鐵雜器之屬。及鍛戶戶口。名籍事。佑一人。大令史一人。少令史一人。鍛部廿人。使部十六人。直丁一人。鍛戶。古記及釋云。別記云。鍛戶三百卅八戶。自十月至三月。每戶役丁。爲雜戶。免調役。

官奴司　大同三年正月廿日詔。觀時改制。易代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職。損益非同。求之變通。何常准之有也。思欲省司合吏。少牧多羊。致人務於高閑。期官僚於簡要。其官奴司併主殿寮。主者施行。

正一人。掌官戶奴婢名籍。謂依戶令。官戶奴婢。每年本司色別。各造籍二通是也。釋云。名籍造二通。一通送太政官。此卽至民部耳。案戶令可知也。朱云。官戶奴婢名籍者。未知。更及良人之家人。送官之日。名官戶。此司掌何。又寺奴婢名籍。何司可掌何。民部省歟。古記云。官戶奴婢戶籍。不送民部。但授田之時。送事在耳。及口分田事。穴云。口分田之數。檢知耳。但收授之法。民部知耳。今說。收授之法。可准良人。無主文故。問。何別事此司稱田事。答。隨支習耳。其田租事。至戶令。合讀也。田令云。官戶奴婢口分田。與良人同。義解云。此不稅田。釋云。

死人等分田者。卽申送太政官。*但生益分田者。待班年給耳。佑一人。令史一人。使部十人。直丁一人。

園池司

正一人。掌諸苑池。謂凡苑池之所育。有可以供御者。皆司其地。令不浪使也。釋云。物產所在之地（池）皆掌。古記云。除灌田以外池等。一說。物產所在之池。皆掌。此池水處分。作云。雜說云。有木曰苑。蒼頡篇。養牛馬曰園。養禽獸曰苑。種殖蔬菜樹菓謂草可食者「皆」爲蔬菜。樹菓猶菓子。其種殖二字。兼屬蔬菜樹菓也。釋云。草之可食。摠謂蔬菜。樹音時注反。左傳。樹六憒於蒲圃也。穴云。樹菓二事。作云。鄭玄曰。草木之實爲蔬。跡云。有實子曰蔬也。等事。佑一人。令史一人。使部六人。直丁一人。園戸。古記及釋云。別記云。園二百戸。經年一番役百五十戸「爲」品部。免調雜徭。

土工司

正一人。掌營土作瓦泥。謂瓦埿猶瓦也。以泥爲瓦。故連言「也」。釋云。以泥爲瓦。故云瓦泥也。音奴雞反。土得水而爛也。跡云。土作謂瓦以土作物是。瓦埿猶言瓦。泥作瓦耳。朱云。營土作謂摠掌土作物耳。假令。爲塗壁起土。此等者。穴云。土作謂塗壁之類。幷燒石灰等事。穴云。石灰燒而卽收此司耳。佑一人。令史一人。泥部廿人。穴云。泥部者。古言。*波都加此乃友造。使部十人。直丁一人。泥戸。朱云。泥戸之讀何。穴

（注略）官私奴婢有レ犯。「本條無二正文一者。各準二良人一。」とあり。これ今說の基くところなるべし。

〔至戸令合讀也〕戸令の條文を說明する條に至りて、了解すべきなりと云へるなり。本書に用ひられたる讀の字は讀みて理解するの意なり。「彼奴の心中はよめた」など云ふ讀むなり。

〔生益〕生れ增したる人口なり。奈良時代の計帳には、各戸の終りに別項ありて、その年中の生益、死亡を記せり。

〔波都加此乃友造〕ハツカシノトモノミヤツコなり。これ泥部の古言ならんも、その原義を明かにせず。

云。泥戸。奴利戸。在疑有脱文。古記。及釋云。別記云。泥戸在十一戸。二番役廿丁。爲品部。免調雜徭役也。

采女司

正一人。掌檢校采女等事。穴云。此司只有名帳。其身在女司耳。問。采女名帳。亦在縫殿寮哉。答。私案不合有也。後案。配水司膳司。所殘可上縫司。故知。名帳可在縫司。但不合在寮。古記云。縫司。義云。此司無女孺者。氏女采女分配諸司之外。皆惣在此司也。師云。檢校知其上日并所爲之事也。朱云。檢校采女等。謂此司爲本司。可分配後宮十二司等也。擦名帳可有此司者。未知。等字惰何。古記云。采女考仕者。申中務省也。佑一人。令史一人。采部六人。使部十二人。直丁一人。

主水司

弘仁七年九月廿三日官符云。應增加水部十二人。雜色人。右得宮内省解偁。主水司解偁。水部員卅人。今供奉御幷平城宮皇后宮。而其數少。不足充用。望請。增加件員數。將令直皇后宮者。中納言從三位兼行兵部卿藤原朝臣冬嗣宣。奉勅依請。

「弘仁七年九月廿三日官符」この符、類聚三代格、巻四に見えたり。

正一人。掌漿(橑)水饘粥謂。周禮曰。饘。稀曰粥。釋云。禮記正義云。厚曰饘。音之延反。稀曰粥。音之育反。穴云。饘厚粥之稱。古記云。饘薄粥汁也。即可云稀水也。俗謂以寛字。名爲稀水也。及氷室事。佑一人。令史一人。氷部卌人。使部十人。直丁

〔弘仁十一年閏五月五日格〕この格、類聚三代格、巻四及び類聚國史、巻百七、掃部寮の條に見えたり。但し類聚國史はこれを正月辛卯(十八日)の條に係けたり。三正綜覽によるに、弘仁十一年の閏は正月にあり。故に五月は當に正月に改むべきなり。

一人。駈使丁廿人。氷戸。古記及釋云。別記云。氷戸百卌四戸。自九月至二月。毎丁役。自三月至八月。一番役卌丁。爲品部。免調雜徭。宮内禮佛之時。僧等洗手湯者。當司設。若有僧數多不堪造湯者。仍請主殿寮。

主油司

正一人。掌諸國調膏油謂肉脂爲膏。白餘爲油。釋云。肉脂爲膏。穀液爲油。朱云。謂膏油。賦役令云。調副物膏油。此則稱調膏油耳。事。佑一人。

令史一人。使部六人。直丁一人。

内掃部司

*弘仁十一年閏五月五日格云。併掃部内掃部二司。爲掃部寮「事」。右二司之職。内外雖異。論其所掌。倶是鋪設。而至設公會并臨時之座。彼此相讓。動致闕怠。加以事少司多。有乖穩便。臣等商量。先王垂範。致期簡要。往哲權宜。事貴沿革。伏望。依件爲定。隷宮内省。專濟職務。且省煩弊。但官員一同主殿寮。伏聽天裁。謹以申聞謹奏「聞」。

正一人。掌供御牀狹疊。謂狹疊猶云疊。釋云。狹音胡頰子頰二反。毛詩。既挾我矢是。爾雅。狹藏也。方言。狹護也。案狹疊猶疊也。穴云。狹疊二字。猶疊小疊亦有耳。俗云。之止禰是。朱云。所掌事。皆悉爲御料者。件物。元隨物色。從所所可來集者。席薦簀簾苫鋪設古記云。雜鋪設事。如掃部司耳。及蒲藺葦等事。佑一人。令史一人。掃部卅人。使部十人。直丁一人。駈使丁卅人。

〔大同三年正月廿日詔〕この格、類聚三代格、卷四及び類聚國史、卷百七に見えたり。

〔弘仁四年六月十三日官奏〕この格、類聚三代格に見えず。類聚國史卷百七、彈正臺の條はこれを六月乙未の條に係けたり。乙未は即ち

筥陶司　大同三年正月廿日詔。觀時改制。論代立規。往古相沿。來今莫革。故虞夏分職。損益非同。求之變通。何當準之有也。思欲省司合吏。少牧多羊。致人務於清閑。期官僚於簡要。其筥陶司。併大膳職。主者施行。

正一人。掌筥陶器皿　謂器摠名爲皿。其木土器亦皆掌。釋云。器摠名爲皿。音明丙反。說文。飮食之用器也。木土器皆掌。穴云。器皿謂筥櫃等之類是也。古令云。筥筥是也。古記云。檢校一事。土師皿器。**佑一人。令史一人。使部六人。直丁一人。筥戸。**古記及釋云。別記云。筥戸百九十七戸。年料。一丁。長二尺。廣一尺八寸。深四寸若干具。長一尺六寸。廣一尺四寸。深三寸一具。爲雜戸。免調役。

内染司　義解云。此司無駈使丁者。以官奴婢充。釋云。以官奴婢充駈使丁也。古記與釋同。伴云。古記云。此條内字者。織部司職掌雜染事故。有内字耳。

正一人。掌供御雜染之屬。**佑一人。令史一人。染師二人。使部六人。**

直丁一人。

彈正臺　弘仁四年六月十三日官奏云。加減彈正臺官員事。疏一員。今加少疏一員。巡察彈正十員。今減二員。史生六員。大同年中減二員。今復舊員。右件等官員。令條立限。而或事繁人少。衆務難濟。或職員徒多。其數不要。事有沿革。政崇改張。臣等商量。具件如前。伏聽天裁。謹以申聞謹奏聞。又大同五年四月十日官符云。臺掌二人。右得彈正臺解稱。糺禁非違者。臺家大務。而因犯被召之徒。多失其禮。非有臺掌。何糺

十四日にして格文と一日の相違あり。

〔大同五年四月十日官符〕類聚三代格、卷四及び類聚國史、卷百七に見えたり。

〔天平寶字三年七月十三日格〕この格、類聚三代格、卷五に見えたり。

進退。伏請。臺掌教正容止者。被右右大臣「宣」偁。奉物。准八省例補充。

尹一人。〈從四位上。*依天平寶字三年七月十三日格。從三位官。〉掌肅清風俗。 謂肅者敬也。風者氣也。俗者習也。土地水泉氣有緩急。聲有高下。謂之風焉。人居此地。習以成性。謂之俗焉。假令。信濃國俗。夫死者即以婦爲殉。若有此類者。即正之以禮教。是以「爲」肅清風俗也。伴云。殉辭閏反。以人送死。釋云。劉子風俗篇云。風者氣也。俗者習也。土地水泉氣有緩急。聲有高下。謂之風焉。人居此地。習以成性。謂之俗焉。越之東有駭輙)沐(沭)之國。其大父(夫)死。則負其大母。而弃之曰鬼。妻不可與居。其元子生。則解而食。謂其宜弟。楚之南有啖人之國。其親戚死則朽其肉。而後埋其骨。謂之爲孝也。風有厚薄。俗有淳澆。明王之化。當移風使之雅。易俗使之正。是以上之所化。亦謂爲風。民習而行。亦謂爲俗。古記云。風者氣。俗者習也。土地水泉氣有緩急。聲有高下。謂之風焉。人居此地。習以成性。謂之俗焉。風有厚薄。俗有淳澆。明王之化。當移風使之雅。易俗使之正。是以。上之所化。亦謂爲風。人習而行。亦謂爲俗。故越之風好勇。其俗赴死而不顧。鄭衞之風好淫。其俗輕蕩而忘歸。晉有唐堯之遺風。節財而儉嗇。齊有太公餘化。其俗奢侈以誇競。斯皆上所風化人習俗也。又漢書地理志云。民有剛柔緩急。音聲不同。繫水土之風氣。故謂之風。好惡取舍動靜亡常。隨君上之情欲。故謂之俗。然則風爲本俗爲末。皆謂民情所好惡也。繫水土之氣。急則失於躁。緩則失於慢。王者爲政。當移之。使緩急調和剛柔得中。隨君上之情。則君有善惡。道有昇降。政教失中(所)。民亦從之。有風俗傷敗者。王者爲政。當易之使善也。但此條。風俗之字訓者。法也式也。國家之立法式糺正耳。跡云。風氣也。俗習也。言人習土地水泉之氣。有剛柔之性。而善惡不齊。是曰肅清也。朱云。肅清風俗。謂風與俗。雖其字意別。言勢一事也。未知。諸京國之風俗皆肅清何。穴云。風俗先釋說也。言土風土俗是也。非教風教俗也。

彈奏內外非違 謂內者左右兩京。外者五畿七道也。依公式令。若言官人害政。及有抑屈者。彈正受推。當理者奏聞。不當理者彈之。如此之類。是爲彈奏也。穴云。內謂京內迄御所也。言內禮

司禁察非違事」。夫者奏彈故。又聞宮內非違。彈糺無妨故也。外謂京外諸國也。受告言。有官人害政抑屈
彈奏故。唐令、答、亦爾也。跡云。內謂京內。外謂諸國。公式令云。告言官人有抑屈者。彈正受推而問者
是。廣奏彈外國耳。但雖外國人而在京中者猶稱京內耳。凡傳聞有非違者聞。問。而令正。朱云。內外謂內
者京內也。外謂諸國也。未知。宮閤之內。皆同稱內歟何。答。然也。至御在所者。非違謂非者非法也。違者違
法也。彈奏謂彈與奏二事者。何者公式令云。事大者奏彈者。此則彈。謂非應奏。及六位以下並糺。移所司
推判者是也。釋云。內外謂京及諸國也。雖不巡行諸國。而諸國人。輻湊京都。又彈正以聞見事。亦爲彈之
故。諸國有非違者。仰國司令改。此所謂源淸流淸也。*凡彈親王諸王諸臣三位已上及參議者。就其前坐彈之。
四位以上官。在臺座。而遣忠若巡察等一人。就其前座而彈之。其坐隔事須仰所司設焉。被彈人者。初下座稱
唯。若不下者。亦彈之。彈竟之後。亦下稱唯。其彈親王及左右大臣者。跪於殿上彈之。不得設座。若臺座無弼
已上官者。待弼以上彈之。其四位以下不同上臣。皆喚於臺彈之。五位已上設座。其被彈人。下座稱唯。同上。
若其無弼以下官者。不得輙彈五位已上。自餘彈事。其見彈例。*古記云。彈正巡行諸國。雖不糺彈。諸國之人。
輻湊京都。又公式令云。若告言官人害政。及有抑屈者。彈正受推也。既爲京都方及邊境。此所謂源淸流淸
歟。糺正非違者。親王及三位以上者。遣大忠以下巡察以上。就座昇殿。糺彈以下。皆於臺追(遣)糺正。但五
位以上雖庶。若彈問有爭者。三位以上。遣家令等。問定事。猶不明。遣大忠以下巡察以上問定。凡問。間官司
枉制。官人者。案驗得實。然後奏聞。官司及總中徹匿殺人。若盜賊等事。而不顯申者。亦追(遣)問。凡有彈事
者。大忠以下。不得輙追彈。五位以上。必須弼以上判。然後彈之。穴云。問。獄令云。杖以下當司決。徒以上送
刑部者。未知。糺彈。杖以下當司決哉。答。凡糺彈之罪。笞以上皆依公式令。事大者奏彈。不合奏者。糺移刑
部者耳。但於當司者。一依獄令。杖以下當司決。徒以上送刑部。私案。緫事大合同彈奏也。餘依先記。伴云。
古記云。問。聞官司枉判及壅閉藏匿罪人者。隨狀勘問者。未知。罪輕重有限以不。答。衞禁律。私度關津條。
即被枉徒罪以上抑屈不申。及使人覆訖不與理者。聽於近關國郡。其狀申訴所在官司。即准狀申太政官。仍

〔源淸流淸〕君正しければ民正しきに喩ふ。韓詩外傳に「君者民之源也、源淸則流淸、源濁則流濁」と見えたり。

〔凡彈親王云々〕以下五行あまり彈例の逸文ならむ。

〔彈例〕彈正臺が左大臣以下の官吏の非違を糺彈する手續を規定せる法令にして、その法律上の性質は式なり。これを例と云へるは、從來彈正臺が行ひ來れる糺彈の例を集めて、その手續の準則となしたるに由るべし。彈例なる書は、既に古記、令釋に引かれたれば、奈良時代に編纂せられた

ることを知るべし。類聚國史、巻百七職官部に「延暦十一年閏十一月壬午朔。新彈例八十三條賜二彈正臺一。文多不レ載。」とあるものは、卽ちこの奈良時代の彈例を改訂せるものならん。この書今亡んで傳らず。本書及び政事要略にその逸文を留めたるのみ。本朝法家文書目錄に「彈例一巻」とあるものは、卽ち延暦新定の彈例なるべし。

〔巡察使注云巡察諸國〕職員令、太政官條に「巡察使。掌レ巡二察諸國一。不二常置一。」とあるを指せるなり。

遞送至京。注云。假關外有人。被官司枉斷徒罪已上其除免之罪。本坐雖不合徒。亦同徒罪之法。鬪訟律云。監臨主司條云。卽同伍保内。在家有犯。知而不糺者。死罪徒一年。流罪杖一百。徒罪杖七十。注云。犯百杖以下。保人不糺無罪。今案諸條。聞事。徒罪以上。可勘問。杖以下不合也。

弼一人。大忠一人。掌巡察内外糺彈非違。謂内者宮城以内。外者左右兩京。卽與尹職掌所謂内外者。遠近既異。*其巡察彈正之巡察糺彈。一亦同忠也。釋云。内外者。宮内爲内。京裏爲外也。其外國者。巡察使人巡察耳。故巡察使注云。巡察諸國。倉庫令云。在京倉藏。竝令彈(令彈)正巡察。在外倉庫。巡察使出日卽令按行。賦役令云。在京有大營造。役丁匠之處。皆令彈正巡行。則知在外有大營造。役丁匠之處。國司幷巡察使巡行耳。穴云。忠以下。是自巡察人故。内謂宮城門内宮門外也。於宮門内。不合巡察故也。外謂宮城以外京内是也。宮門内。聞有非違者。忠等亦召彈無妨。亦云。忠巡察等。内謂宮内。外謂京内。爲自親巡察故也。古記云。内者宮内也。外者京内也。諸國太政官隨處分耳。朱云。巡察内外。謂自巡察也。内者從宮城内。從宮門外也。外謂從宮城外。從京城内也。巡察彈正注云。内外。與大忠内外幷同也。但大忠者。從此事外。皆掌宮内雜事也。餘同神祇大祐之故。是以與巡察爲別也。大忠巡察内外時。疏共隨從可記(糺カ)非違也。巡察彈正之巡時亦同者。餘同神祇大祐。少忠二人。掌同大忠。大疏一人。少疏一人。巡察彈十人。掌巡察内外。糺彈非違。史生六人。使部卅人。直丁二人。

衞門府 管司一。

〔天平十八年四月廿三日格〕この格、類聚三代格、卷五及び日本後紀、卷八に見えたり。

〔律云〕衛禁律なり。

〔門籍依律合在宮門也〕唐の衛禁律には、「諸應レ入二宮殿一、未レ著レ籍而入。雖レ有二長籍一、但當下不レ直而輒入者、各減二闌入五等一。即宿衛人、未レ到二職掌一、輒宿、及籍在二東門一而從二西門一入者、又減二二等一。」なる條文あり。茲に「依律」と云へる律は、即ちこれに相當する日本律なり。

〔内物部〕刑部省の物部内裏の外にあるに對して、この物部門裏の諸門に居れば斯く云ふなり。

〔古辭〕フルコトブミの略にして古事記を云ふ。

督一人。正六位上。依天平十八年四月廿三日格。從五位下。掌諸門禁衛。穴云。諸門謂宮門宮城門也。問。律云。「於」宮門「以」外。若宮城門守衛。注云。守衛謂衛士者。未知。何司衛士乎。答。此司衛士是也。問。京城門。何司所掌。答。亦此司合掌。跡云。諸門謂宮門并宮城門也。出入。禮儀。以時巡檢。謂以時猶有時。依宮衛令五衛府官長。皆以時按檢所部。糺察不如法是也。釋云。以時猶時時。餘與義解同。及隼人。門籍。門牓。謂被人名爲籍。載物數爲牓。牓普唐反。埤蒼。牓牖楔也。釋云。人名爲籍。物數爲牓。音博朗反。穴云。門籍。依律。合在宮門也。問。依宮衛令。諸門出物。無牓不得出。一事以上者。未知。宮城門。亦有牓哉。答。合至宮衛令求也。事。佐一人。大尉一人。少尉二人。大志二人。少志二人。醫師一人。門部二百人。物部卅人。謂此名爲内物部。爲決罪人特置此府。當決罰時。皆帶刀罰。釋無別。跡云。物部謂臨時別勑。爲令決罪人而置耳。古記云。物部卅人。此名爲内物部也。臨時爲罪人決罰。在此府耳。但決罰之時。皆帶刀也。垂領足持笞杖一〔稱〕不解刀行事耳。使部卅人。直丁四人。衛士。朱云。数臨時可定也。餘〔司放〕此也。

隼人司

正一人。掌檢校隼人。謂隼人者分番上下。一年爲限。其下番在家者。差科課役。一如凡人。釋云。畿内及諸國。有附貫者。課調役。及簡點兵士。古記亦同之。朱云。凡此隼人者良人也。古辭云。薩摩大隅等國人。初捍後服也。諸歸云、已爲犬、奉仕人君者、此則名隼人耳。及名帳。教習歌儛。穴云。隼人之職是也。朱云。教習歌儛。謂隼

人之中。可有師也。其歌儛。不在常人之歌儛可別也。造作竹笠事。朱云。一端耳。竹扇（笠）等。亦可作者。私所不見文。「問。竹笠爲何用。答。不見者。私不見文。」佑一人。

令史一人。使部十人。直丁一人。隼人。

左衛士府。右衛士府准之。*大同三年七月廿日官奏云。廢省官員幷減定人數事。衛門府。右件謹案令條禁衛宮掖。以時巡檢。斯衛士府之職也。今衛門所掌。復不異於此。徒設官員。事乖忙劇。伏請。一從廢省。其諸門禁衛。出入禮儀。及門籍門牓等事。同令衛士府主之。然靫負爲名。年祀積久。今廢彼混此。雖不改文字。號曰左右靫負府。又門部者。掌率衛士守諸門。亦請分配左右。「左」衛士府（右衛士府准此）（六字細註）。士師六十人。今廢。衛士六百人。今定五百人。門部百人。今罷。左兵衛府。右兵衛府准此。兵衛四百人。今定三百人。使部卅人。今定十人。右件。斟酌職務。今所減定。以前伏奉今月十五日詔書。五衛府雜任以下員佐稠疊。宜從減省。卿等評議定數奏聞者。伏奉詔書。如右。官職之設。固嫌殷繁。宣導之方。唯務簡要。是以隨時損益。權宜弛張。聖詔所及。冠絕古今。臣等不揆淺近。濫叨周行。伏膺綸旨。敢以斟量。戰悚之誠。倍百恒品。臣等商量。具如前件。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞謹奏聞。*弘仁二年十一月廿八日官符云。應改左右衛士府爲左右衛門府事。右檢案內。太政官去大同三年七月廿日奏狀偁。謹案令條。禁衛宮掖。以時巡檢。斯衛士府之職也。今衛門所掌。復不異於此。徒設官員。事乖忙劇。伏請一從廢省。其諸門禁衛。出入禮儀。及門籍門牓等事。同令衛士府主之。然靫負爲名。年祀積久。今廢彼混此。雖不改文字。號曰左右靫負府者。謹聞既訖者。今得散位從五位下大伴宿禰眞木麻呂。右兵庫頭從五位下佐伯宿禰金山等解偁。己等之祖。室屋大連公領靫負三千人。左右分衛。是以衛門開闔。奕葉相承。望請。改衛士字。以爲衛門者。被右大臣宣偁。奉勅。勘檢（於）古記。所申有理。宜依件改。*延暦十八年六月一日官符云。左右衛士府。醫師各二員。今省廢一員。定一員。右被右大臣宣偁。奉勅。宜依件省定。

〔大同三年七月廿日官奏〕この格類聚三代格、卷四及び日本後紀、卷十七に見えたり。但し日本後紀はこれを七月壬寅即ち廿二日の條に係けたり。

〔弘仁二年十一月廿八日官符〕この格、類聚三代格に見えず。日本逸史これを卷十九に收めたり。

〔延暦十八年六月一日官符〕この格、類聚三代格、卷四及び日本後紀、

〔第八十頁三十行〕「此舉重包輕義也」重き一色を舉げて、輕きものは勿論その中に包含せらると爲すものにして、今日の所謂勿論解釋なり。

督一人。掌禁衛宮掖 謂掖者正門旁之小門也。令釋跡記穴記。並與義解無別。又釋云。掖音羊益反。穴云。說文云。掖者兩門之間。問。人物正門出入故。有籍哉。未知。於掖門亦有出入人物哉。答。可有也。爲律稱宮內諸門不立籍。禁前得通內者並是故也。有出入人物者。立籍者。於宮衛門。依闌兵衛等合撿挍也。私案。臨時往付衛門合勘。問。宮內諸門不立籍。禁臨時有監門對勘義檢同耳。但聚其大極殿院掖門等。是兵衛府禁衛耳。爲在宮內。但時行事別也。即別特引人出入時也。令有闌入者罪等也。古記云。宮掖謂宮門。是非禁內者。軍防令云。即諸衛府。各檢所部及諸門也。其門籍門牓。與衛門號。其可相知。然令行事不相預耳。宮掖謂宮及掖也。漢書。闌入尙書掖門應劭曰。正門之傍小門也。音餘石反。朱云。凡非正門。有宮掖之可者。皆悉衛士可守也。始於宮城門。至閤門。皆可有宮掖者何哉。或云。宮掖者。正門。閤掖同。古不同。伴跡云。門籍門牓文略。私云。穴記無此文。檢校隊仗 朱云。每隊兵士之兵杖仗也。檢校耳。以時巡檢。衛士名帳。及差科 謂差科。記兵庫大藏之類也。釋與義解無別。穴云。差科。差科謂差充所所令上當也。跡云。差科謂衛士等差充所所也。伴云。擅興律。防人衛士條云。若主司役防人衛士。不以理。致逃走者。一人笞卅。三人加一等。注云。若使不以理。而點不進者。陳。入國減一等坐也 大儀陳設 謂大儀禮儀。陳設兵仗也。釋云。行幸鹵簿。是謂大儀大駕。穴云。大儀謂行幸。但有大中小。故云大儀也。中小之行幸。謂之陳設也。衛門府。不供奉大儀陳設也。但至先所。有禁衛耳。其律條。跡云。大儀謂大車駕也。陳設謂不限大小。皆車駕。朱云。大儀陳。陳々設。謂大行幸時鹵簿。小行幸之陳設。亦可知也。此舉輕(重)包重(輕)義也。或云。大儀與陳設。一事也。大儀謂大駕行時鹵簿也。陳設謂少行幸之陳設。陳列音非也。車駕出入前後 謂導引也。釋云。鄭玄注周禮云。前驅。卽今引導道也。古記云。先驅謂前驅。大儀。出入。則有在駕前前驅。卽今引導也。後殿 謂在後爲殿。釋云。馬融注論語曰。軍後爲殿。古記云。論語曰。孟之反不伐。奔而殿。皇侃云。軍後曰殿。一門誌云。謂人名爲諸物名

爲膀。」事。佐一人。大尉二人。少尉二人。大志二人。少志二人。醫師二人。使部六十人。直丁三人。衞士。

左兵衞府。右兵衞府准此。*延暦十八年四月廿三日官奏云。左右兵衞府。今加少尉各一員。少志各一員。右件。任居禁衞。職資警守。部統之方。無異應府。而官員是少。行事稍多。伏請。加置件員。克理府事。其官位者。前後一准衞門府。以前雖設官分職。令員有限。而斟酌閑繁。取舍時宜。恒典通論。善政所先。今者衞府寄隆。職務尤重。伏請。使昇置品員。爵秩相當。臣等商量。所定具件如前。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞謹奏聞。督一人。正五位上。依延暦十八年四月廿三日格。從四位下。掌檢校兵衞。謂每番檢校。此府不稱門膀者。是即略文。更無別例也。「釋云。每番檢校。穴云。門膀文略也。」或云。*女司注。有出納之字。然則女司所知。故不成文者。朱云。依律。無門籍耳者。*律云。應入宮閣。在京諸司。皆有籍耳。「此」注既云門籍。然則朱云。不同。未知。門膀亦爲不可有乎。何無門膀者略文者。此說未明。或云。門膀不掌。何者闈司職掌。宮閤管鑰及出納事者。然則出納閤門之財」物。「總」彼司可掌故。但或云。闈司。只掌管鑰之出納也。故文稱出納。不云出入者。未明。跡云。無門膀。又說有也。分配閤門。釋云。御在所內重門也。音公合反。爾雅。小閨謂之閤。說文。門旁戶也。朱云。分配閤門者。殿門亦同。穴云。閤門之掖門及殿門等。兵衞亦合禁衞。爲有害故也。令釋云。大極殿東西小門。是謂閤門。謂取*本律心說耳。言大極殿之後。有御在院。副殿之後垣有東西小門耳。爾雅。小閨謂之閤。但於此令兵衞禁衞門。此閤門耳。以時巡檢。車駕出入分衞前後。作云。古記云。逐行幸者。必以左爲前。以右爲後也。近行幸者。隨便爲前後。故云前後也。分謂分左右而爲陳列也。及左兵衞名帳門籍事。佐一人。

〔延暦十八年四月廿三日官奏〕この格、近衞大將、衞門督、佐の官位を定むる格中にあれば、類聚三代格はこれを卷五の定官員幷官位事の條に入れたり。又この事、日本後紀、卷八に見えたり。

〔女司注有出納之字〕後宮職員令に「闈司。尙闈一人。掌二宮閤管鑰。及出納之事一。」とあるを云へるなり。

〔律云〕衞禁律なり。

〔本律〕我が律の本づく律の意にして、卽ち唐の永徽律なり。この事後に云ふべし。

〔釋云師說此四百人兵衞之內也與上云少納

大尉一人。少尉一人。大志一人。少志一人。醫師一人。番長四人。謂依之最長者。在兵衛四百人之外。釋云。師說。此四百人兵衛之内也。與上云、少納言在侍從中。文異意同耳。但案文。可云四百外。師云。案文。一府兵衛可相分。但于細行事如鹵簿圖也。問。衛士府亦同哉。答。然也。」穴云。可做令釋辭之(歟)。跡云。番長四人。依文。四百人之外。又但依師說。令習四百内人也。朱云。番長四人者。兵衛四百之數内。但注兵衛之上者。選取兵衛中長者。則充兵衛等之也。故雖兵衛之員内。自置其上也。尋心可學者。古記云。番長四人。並卽取兵衛四百内也。更不取也。兵衛四百人。使部卅人。直丁一人。

左馬寮。穴云。馬内司。右馬寮准此。大同四年三月十四日官符云。應新置幷加置諸司史生員事。左馬寮四員。元二員。今加二員。右馬寮四員。元二員。今加二員。以前。被右大臣宣偁。奉勅。夫官職之員。事資閑繁。寮司之務。豈無繁簡。而諸司史生。先無定准。或闕此員。實乖適時宜。量事廢置。令責理務者。謹依中旨。加增幷新置等員如件。弘仁四年三月十三日官符云。應令史生帶劍事。右得左右馬寮解偁。夫馬者軍國之用。非常之備。掌守之司。不可無備。望請。令史生帶劍。備于非常者。右大臣宣。奉勅。依請。釋云。師說。兵部不得檢校。但馬數知耳。中務亦知也。古記同之。馬寮兵庫等爲武官。考選隷兵部。

頭一人。掌左閑馬調習養飼。供御乘具。謂是卽自内藏寮所送者。其在大藏省賞賜之料。亦同送焉。釋云。内藏寮縫作。儲備此司。穴云。供御之外乘具。亦合有也。伴云。職制律。車馬之屬。不調習者是。周禮。校人之職天子(十)有二閑。鄭玄曰。每廐爲一閑也。說文。閑闌也。戶閑反。配給穀草。朱云。配給穀草。謂牧者從大炊寮可給也。其職掌雜畜分給故也。草謂廐牧令。馬戶分番上下。其調草。正丁一百圍。次丁一百圍。中男五十〔五〕圍者。此則其司可收掌者。古記云。配給穀草也。廐牧令云。廐細馬一疋。中馬二疋。駑馬三疋。各給丁

言在侍從中文異意同耳」但案文可云四百外」令釋に曰、師說として、此の番長四人は、兵衛四百人の中に含まる。上條に少納言侍從の中に在りと云へると、文異なるも同意に解すべきなりとの說を擧げたり。然れどもこの令文の文字解釋としては、番長四人は兵衛四百人の外にありと解せざるべからず。

「尋心可學」令文の文字解釋に囚はれず、心卽ち立法の精神より演繹して法意を知るべしとなり。

「大同四年三月十四日官符」この格、類聚三代格に見えたり。

「弘仁四年三月十三日官符」この格、類聚三代格に見えず。

「職制律車馬之屬不調習者是」「凡乘輿服御物、持護修整、不レ如レ法者杖八十。其車馬之屬

不ニ調習一。駕馭之具不ニ完牟一徒一年。」とあるを云へるなり。

〔天平勝寶三年官符〕この官符、類聚三代格に見えず。又續日本紀、同年條にも之に相當する記事見えず。

〔大同四年三月十四日官符〕この格、類聚三代格に見えず。格逸これを卷一官職部に收めたり。

〔天平神護元年閏十月廿五日官符〕この格、類聚三代格、卷十八、器仗事及び續日本紀、卷廿六に見えたり。但し續

一人穫丁。每馬一匹日給。細馬。粟一升。稻三升。豆二升。鹽二夕。中馬、稻若豆二升。鹽一夕。駑馬。稻一升。乾草各五圍。木葉二圍。注「經一尺。」周三尺爲圍。青草倍之。皆起十一月上旬飼乾。四月上旬給青。其乳牛。給豆二升稻二把取乳日給。又條。馬戶分番上下。其調草。正丁二百圍。次丁一百圍。中男五十〔五〕圍。但令行事。馬一匹日料。乾草三圍宛。雜穀之類。不給養。調草。正輸官御繼內交易宛也。 及飼部。

戶口名籍事。作云。戶令。戶籍六年一造條云。其雜戶。「陵戶」籍。則更寫二通。各送本司是。 助一人。大允一人。少允一人。

大屬一人。少屬一人。馬醫二人。馬部六十人。使部廿人。直丁二人。飼丁。穴云。飼丁猶言飼戶。古記「云」。及釋云。別記云。左馬寮飼造戶二百卅六戶。馬廿三百二戶。右馬寮。馬廿造戶二百六十戶。右馬造〔戶〕等仕寮者。爲作部。免調雜徭。不仕者取調。其馬廿爲雜戶。免調雜徭。以前雜戶品部戶。其差兵士。但品部。或常品部。或差人夫年代宛品部。*天平勝寶三年官符云。馬飼者悉宛雜徭如舊。作番上下。左右馬寮。國司與本司。共檢校。勿令遺漏。

左兵庫〔寮〕。右兵庫准此。 *大同四年三月十四日官符云。應新置幷加置諸司史生員事。左兵庫二員。右兵庫二員。右新置如件。以前被右大臣宣偁。奉勅。夫官職之員。事資閑繁。寮司之務。孰無繕寫。而諸司史生。先無定准。或闕此員。實乖適時宜。量事廢置。令濟理務者。謹依勅旨。加增幷新置等員如件。*天平神護元年閏十月廿五日。官符云。出納兵庫器仗事。右被大納言從二位藤原朝臣永手宣偁。奉勅。出納庫兵。事可重密。故先下勅。內印施行已畢。而今中務監物。仍承前例。唯與本庫知之。行符既重。檢司猶輕。自今已後。宜令諸司出納。

頭一人。掌左兵庫儀仗。 朱云。官衞令云。元日朔日。若有聚集及蕃客宴會辭見。皆立儀仗者是也。 兵器。安置得所。 謂依軍防令。凡軍器

在庫。昔造棚閣安置。色別異所是也。釋云。軍防令云。凡軍器在庫。皆造棚閣。安置。色別異所。以時曝凉」是」。出納。曝凉。釋云。案。曝凉之時。申兵部(庫)。令々申官。官奏。請鑰曝凉。」師云。申官。然則不申省哉。」一及受事覆奏朱云。就兵器之事。覆奏也。何者公式令云。*兵物處分。五衞及兵庫事者。本司覆奏故也。事。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。使部廿人。直丁二人。

內兵庫司一*大同三年正月廿(五)日詔。觀時改制。論代立規。往古相沿。來今莫革。故廣置分職。損益非同。求之變通。何常準之有也。思欲省司合吏。少牧多羊。致人務於請閑。明官徵於簡要。其內兵庫。辨左右兵庫。主者施行。朱云。*爲非常事。內外二處設者。或云。此司爲御料設者。未明。正一人。掌准兵庫頭。佑一人。令史一人。使部十人。直丁一人。

日本紀に之を十月壬子朔[illegible]日の條に係けたり。

〔公式令云〕これ公式令勅旨式の條なり。

〔大同三年正月廿日詔〕この格、類聚三代格、卷四に見えたり。

〔朱云爲非常事、內外二處設者或云此司爲御料設者〕これによれば、兵庫と內兵庫を併置したるは、全く非常に備へんが爲めに同じものを二つ置きたりといふ說と、兵庫は公用、內兵庫は御料用の兵器を納むる爲めに設けられたりといふ說との二者ありしを知るべし。

令集解卷五

弘長元年九月日於鶴山殿令一見加朱點畢

本云　文應元年七月十五日見合本書了

員　外　宰　相　藤　判

建治二年閏三月十八日引合正親町之本校合了　　員外亜相藤 在判

此卷以御園先生書寫之執筆

庚戌五月廿二日一校了　　中島元平

文以清家本校合了彼本云

慶長三暦臘初五於燈下令校合畢　　吏部郎中秀賢

寛永甲戌令校合了　　中原職忠

萬治三仲冬初八庚申之夜於燈下令一校畢

右者河邑秀興先生請所藏之本如本寫之卽校合者也　元本花山院家本

明和丁亥仲秋

同七年四月二十四日以京師本一校了　　越智通邦 印

文政三年梅雨中以彰考館本比校了　　撿挍保己一

令集解卷六

左右京職　東西市司
攝津職　大宰府
大國上中下　大郡上中下小
軍團
後宮職員
内侍司　藏司　書司
藥司　兵司　闈司
殿司　掃司　水司
膳司　酒司　縫司
東宮
傳　舍人監　主膳監
主藏監　主殿署　主書署
主漿署　主工署
主兵署　主馬署
家令
文學　家令　扶　大從
少從　大書吏　小書吏

左京職。右京職准此。

弘仁十年十一月五日官符云。應置職掌事。職別二員。竝令把笏。右得左右京職解偁。管司并條令百姓等。申政之日。訴訟之時。進退乖儀。言辭不遜。或執非爲是。聽理不伏。如此之類。觸事繁多。望請。簡入色人可堪事者。每職置二員。分番上下。守當職裏者。依請。

管司一。大夫一人。掌左京戶口名籍、朱云。名籍謂戶籍也。但計帳亦可掌。何者戶令云。凡造計帳。每年六月卅日以前。京國官司。責所部手實之故也。私。正親司皇親名籍義解云。一世以下。四世以上名籍。案戶令。皇親爲不課。故知於京職。亦可有皇親戶籍也。字養百姓。謂字亦養也。釋云。毛詩傳曰。字愛也。左氏傳杜預云。字養也。案。以義倉物申官。賑給餓飢人等也。作云。戶令云。鰥寡孤獨。貧窮老疾。不能自存者。「當界郡司。收付村里安養。仍加醫療。存者」（戶令文ニナシ。下文ノ攙入カ）令近親收養。若無近親。付坊里安䘏。如在路病患。不能自勝者。當界郡司。收付村里安養。仍加醫療。幷勘問所由。具注貫屬。患損之日。移送前所「也」。師云。一端如之外。又可有方。不可一定。糺察所部。穴云。糺察猶檢校也。非巡察。私案。同國守巡行糺察耳。「師曰。必可巡行。但不見時分。」貢擧。朱云。貢擧者。貢與擧二事也。何者職制律云。貢擧非其人者云云。又考課令。試貢擧人。皆卯時付策云云。擧者。學令。學生通二經以上云云。又醫疾令。國醫生業術優長云々等是。此條。在下條貢擧之下。朱云。具是私案。於京職可貢擧之色。可求也。「問。律云。貢謂依令。諸國貢人。擧謂別勑令擧。及大學送官竝爲擧人者。案之。擧者一端別勑人令擧也。但貢者未明。然則貢擧猶擧歟。考課令云。貢人。皆本部長官貢送太政官云々。其人隨朝集使赴集者。於京職無朝集使故也。」孝義。

田宅。釋云。案。此職掌無勸課農桑之文。然則荒（曠）田之罪（日）不可科罪。丁（下）考一說事略耳。「問。孝義者如民部省註。順孝義（節）皆兼哉。答。然也。」古記云。莫課殖桑漆。仍勸課農事耳。朱云。知賣買事耳。不可校知田宅實。穴云。宅地賣買。有知事耳。「問。田者戶口之分歟。答。然也。問。宅者依田令。知賣買歟。答。然也。師云。京職不可勸課故。此職不注勸課也。」雜徭、律云。賦役令云。令條外雜徭

〔弘仁十年十一月五日官符〕この格、類聚三代格、卷四及び類聚國史、卷百七に見えたり。

〔師云一端如之外又可有方〕義倉を開いて飢民を賑恤し、鰥寡孤獨を安養する等は、字養の一例に過ぎず。これらの外更に字養の方法あり。

〔荒田之罪〕戸婚律に「凡部内田疇荒蕪者。以二十分一論。一分笞三十。一分加二一等。罪止二徒一年。國郡各以二長官一爲レ首。佐職爲レ從。」

者。狗人助使。無不得過六十日也。**良賤**　釋云。檢唐令同。師云。相訟良賤也。刑部亦有此事。「師云。非真刑部同心」也(之)。猶云賤名帳。但良字對賤耳者。私思。不安可求。**訴訟**　謂凡訴訟。

皆從(自)下始。故先由京國。而後至官者也。釋無別。**市廛**　律云。關市令云。市恒以午時集。日入前擊鼓三度散。又條云。市每肆立標。題行名。市司准貨物時價。爲三等。十日爲一簿在市案記。季別

各申本司。師同。**度量**　私。此司掌度量之由何也。朱云。京諸國不掌權衡何。或云。量收地但掌之。但度及衡亦掌。師云。量是爲納租。其余度權衡亦可掌。」**倉廩**　私。倉庫令云。凡受地租。皆

令乾淨。以次收膀。同時者先遣。京國官司。共輸人執籌對受。在京者。其主當檢校。國部則長官臨檢也。師云。然也。但令[illegible]猶令也。」**租調**　私。賦役令初條云。京及畿內。皆正丁一人。調布一丈三尺。又正丁歲

役十日條云。京畿內。不在收庸之例。又條云。凡調物及**兵士**　私。*大同四年六月十一日官符云。應加增徭分雇役兵士事。人別可輸徭錢捌拾文。先所定五

[illegible]租雜徭。皆用當國輸物數。立牌坊里。使衆庶同知。

十文。今「所」有得在京職解偁。雜徭之中。兵士尤苦。計帳之日。雖能留點。至召正身都不參向。僅輸役料。賂物折文。

雇使人。而名之[illegible]罪。於事難違。加以兵士一年所輸。錢壹貫陸百佐拾文。正丁一人調「徭」。僅亦(只)壹百「文」

錢。被拔雜徭。事亦均平。望請。加取徭分雇役兵士者。右大臣宣。奉勅。依請。在京「職」准之。**器仗**　謂案前令。有兵士無器仗。今於此令。兵士器仗並注。郎知非兵士之器仗。別有官器仗。與諸國同。」案

軍防令。兵士此軍團所領未知。京職兵士軍家自可備哉。或云。京職可有軍團者何。答。不可有。軍團京職可

無兵士。」釋云。案前令。有兵士無器仗。在此令。兵士器仗俱在。郎知非兵士之器仗。故兵士隨身外。更有官

器仗耳。古記「與諸國同」。但時行事未備耳。穴云。器仗謂在軍團器仗是也。在(或)(職)左右(京)職「有」軍器。器

仗」耳。私案。鼓吹亦合有。爲令軍團置鼓二面大角四口故也。攝津職亦同也。問。兵部職掌云。兵器儀仗。今

此文稱器仗者。皆兵器儀仗儀。答。此兵器也。不可儀仗。」**道橋**　穴云。謂木工寮修理外小橋是也。師同之。但有移令營造耳。伴云。營繕令云。凡京內大橋。及宮城門前橋者。並木工寮修營。自餘役京

とあるをいふなり。
〔問。[illegible]者若[illegible]者皆是
賦役義皆被哉答然也〕
本條の字義も、民部省
職の字義と同様、「主[illegible]、
職掌、猶丈夫、猶婦の職
表といふ如き廣き意味
に解すべきやと設問せ
るなり。答に民部省は
といへるは、民部省職
の職掌の註なり。
〔宅地賣買有知事耳〕田
令に「凡賣買宅地。皆
經所部官司申牒。然後
聽之。」とあり。されば
京中の宅地は、京職を
經て賣買すべきなり。
〔唐令云〕王朝の法律家
は、我が律令を解釋す
るに當つて、屢ゝ之
に準據たる唐令の條
文を引用せり。これ
今日の法律學者が民法
を解釋するに當つて
獨逸民法第一草案を引
くが如し。而して集解
の撰者が唐令を引くに
當つては、本條の如く
「唐令云」と云へる場

合と「本令云」と云へる場合との二あり。之に因りこ之を觀れば、本令は我が令の藍本となれる唐の永徽令を意味し、唐令は唐の其の當時の現行法なる開元令を意味せるものゝ如し。廐牧令集解には、「答。案本令。至四歲爲別群也。開元令。牡馬牡牛每三歲爲群。云々」とありこ、本令と開元令との差異を述べたり。故に本令は即ち永徽令なること知らるゝなり。

「大同四年六月十一日官符」この格、類聚三代格、卷十八、軍毅兵士鎭兵事の條に見えたり。

「案前令有兵士無器仗在此令兵士器仗俱存既知非兵士之器仗故兵士隨身外更有官器仗耳與諸國同但時行事未備耳」大寶令の本條には、兵士とあるのみにして、器仗の字な

內人夫。又條云。凡津橋道路。每年起九月半。當界修理。十月使訖。其要路陷壞停水。交廢行旅者。不拘時月。量差人夫修理。非當司能辨者。申請。**過所**。私。關市令云。凡欲度關者。皆經本部本司云云。義解云。本部本貫也。假有大舍人。是京人而欲度關者。依式造過所。先申本寮。寮修牒送於京職。職更判給之類。其外國者。先經本郡。郡亦申國。若有本司者。亦經本司也。**闌遺雜物**。私。廐牧令云。凡國郡所得闌畜。皆仰當界內訪主。若經一季。無主識認者。先充傳馬。若有餘者。出賣得價入官。其在京。經一季。無主識認者。出賣得價。送贓贖司。(以上十九字。當作分註。)後有主識認者。酬當知實。還其本價。又條云。凡闌遺之物。五日內申所司。其贓者事。未分決。在京者付京職。斷定之日。若合沒官出賣。在外者准前條「之也」。**僧尼名籍事**。朱云。雖他國人。居住京寺僧尼。皆京職可知者。未明。可但寺此司不掌也。玄蕃頭掌故。又住外國寺僧尼名籍何。若京人外國人不論國司掌何。答。然者。私見雜令。雜令云。僧尼京國官司。每六年造籍三通。義解云。知外國人爲京僧尼。各顯出家年月及夏臘德業。依式印之。一通。者。京職造籍本國不造也。通留職國。以外申送太政官。一通送中務。一通送治部。所須調度。並令寺准人數出物「之」。**亮一人。大進一人。少進一人。大屬一人。少屬二人。坊令十二人**。朱云。四坊置令一人。是以知京可有十二條耳。四坊置令一人者。假令。有大寄等。雖不足四坊。猶置令耳。私。戶令云。凡京每坊置長一人。四坊置令一人。掌檢校戶口。督察姦非。催駈賦徭也。**使部卅人。直丁二人**。

東京司。西市司准此。

正一人。**掌財貨。交易**。朱云。其校知市內賣物耳。先云。知直高下耳。定估價故也。物實不可知者。未知。何者盜贓等事發時。爲顯贓賣物不賣物故者。**器物眞**

かりき。此の養老令は、即ち兵士と器仗とを併有せり。故に兵士に云へる器仗は兵士隨身の器仗にあらずして、京職に備へ置くべき大角、小角、幡、鼓等の器仗なり。然れども現在の實状は、諸國に於ける器仗を備ふるに至らずとなり。これによりて察するに、養老令に前令を改めたる所は、多く實際には施行せられず、前令の法意却つて時の行事として行はれしもの多かりしもの如し。

「律云」疑律なり。

「但權衡亦可掌略文耳」度量とある上は、權衡も亦當然これを掌るものと解釋すべし。權衡の二字なきは、之を掌らざるの意にあらず。當然自明の理なるによりて、之字を省略せるなり。

「廐庫律云稱量之物出納須平若重受輕出即有

偽。穴云。財貨與器物一物。名殊實同耳。朱云。財貨則稱器物耳。廣言。萬物皆器物者。此則爲禁行濫也。伴云。關市令云。凡出賣者。勿爲行濫。其横刀槍鞍漆器之屬者。各令題鑿造者姓名。雜律云。造器用之物及絹布之屬。有行濫短狹而賣者。各杖六十云云。注云。不牢謂之行。不眞謂之濫。卽造横刀及箭鏃。用柔鐵者。亦爲濫之。「師云。財貨眞僞幷器物眞僞耳。何者於財物可有眞僞之故。假如。律云。不眞謂之濫之故。」

度量輕重。穴云。度量乃輕重也。權衡文略耳。朱云。度謂度量之輕重也。*但權衡亦可掌。略文耳。穴云。無別。或云。度量者丈尺斗升也。輕重〔可掌略〕（上文ノ攙入カ）者。權衡之輕重者。私情此說爲長。何者京職職掌。只稱度量。不云輕重也。是以案。度量與輕重。可爲二事故也。「師同云。輕重者此在權衡。但於度量。以長短淺深稱輕重耳。然則於此條猶可讀度量之輕重耳。」問。權衡可掌哉。答。理可掌也。案廐庫律云。稱量之物出納須平。若重受輕出。卽有餘乘者。然則於量有權輕重之文。」

賣買估價。私關市令云。凡市毎肆立標。題行名。市司。准貨物時價。爲三等。十日爲一簿。在市案記。季別各申本司也」。

禁察非違事。朱云。市内非違。凡不限市人一也。人（不一）犯市内禁察非違者。未明。師同。

佑一人。令史一人。價長五人。物部廿人。釋云。價長物部並得考也。使部十人。直丁一人。

攝津職。帶津國。*延暦十二年三月九日官符云。廢停攝津職爲國司事。右被右大臣宣偁。奉勅。難波大宮。既停。宜改職名爲國。其二季祿及月料。並宜〔從〕停止。

大夫一人。掌祠社。謂祠者祭百神也。社者檢校諸社也。凡稱祠社者。皆准此例。釋云。祠假慈反。爾雅。祠祭也。祭之摠名。周禮。禱祠神祇是也。又百神廣亦曰祠也。社時野反。神廣也。三禮義宗曰。社五土神。稷者原隰之祇。故孝經曰。社土地之神。稷者能化生五穀。以養萬民。者爲土地自然氣。故名之曰神。古記云。祠百神集處也。廣也。穴云。祠謂祭百神也。祭社之外別祠耳。假。春時祭田等是也。師云。

稱祭百神者。祠諸社耳。」跡云。祠社謂檢校社幷祠等事。春祭田之時等是也。

戸口。簿帳。字養百姓。勸課農桑。穴云。勸課農桑「謂」勸課所部也。問。京職百姓受田。津國。未知誰勸課。答。有田之國。移京職勸課耳。故京職注。無云勸課也。伴云。考課令。凡國郡司。撫育有方。戸口增益者條云。其勸課田農能使豐殖者。亦准見地爲十分論。加二一分一、各進考一等。每加二一分一進一等。其有不加勸課以致損減者。損一分降考一等。每損一分降一等云云。田令云。凡課桑漆。上戸桑三百根。漆一百根以上。中戸桑二百根。漆七十根以上。下戸桑一百根。漆卌根以上。五年種畢。鄉土不宜及狹鄉者。必不滿數也。「問。與京職所云名籍無別哉。所以起疑。戸婚律云。國郡不覺脫漏增減。郡司十口笞卅。卌口加一等。國隨所管郡多少通計爲罪。各止徒二年。跡云。不覺脫漏增減。無簿帳。及不附籍書宣導覓也。長官者以此案之。簿帳與籍書不可同之故。答。律意。計帳爲簿帳。戸籍爲籍書。此令籍稱二簿帳一是戸簿耳。與律不同。」

糺察所部。貢擧。朱云。貢與擧二事也。何者職制律。凡貢擧非其人條。疏云。貢者。依令諸國貢人擧者若別勅令擧。及大學送官者爲擧人云云。故考課令云。凡國學生。業術優長。情願入仕者。本國具述藝能。申送太政官。考課令云。凡貢人。皆本部長官。貢送太政官。若無長官。次官貢。其人隨朝集使赴集至日。皆刻(引)見辨官。即付式部。「已經貢送而有事故。不及試者。後年聽試。其大學擧人。具狀申太政官。與諸國貢人同試。試訖得第者。奏聞。留式部。不第者各還本色。學令云。凡學生通二經以上。求出仕者。聽擧送云云者。一端如此之類者。未知。戸令國守條。好學篤道之人。擧而進者。此亦爲諸國貢人何。「或記云。貢位子約此文者。案之。於位子可稱申送。不可稱貢。此記在京職貢擧之下。是人カ」

孝義。田宅。良賤。訴訟。市廛。度量輕重。私關市令云。凡官私權衡度量。每年二月。詣大藏省。平校。不在京者。詣所在國司平校。然後聽用之。

倉廩。租調。雜徭。兵士。器仗。道橋。津濟。私營繕令云。凡津橋道路。每年起九月半。當界修理。十月使訖。其要路陷壞停水交廢行旅者。不拘

餘乘者」廐庫律「凡出二納官物一。給受有レ違者。計レ所二欠剩一坐レ贓論。」云々なる條の疏に「謂稱量之物。出納須レ平。若重受輕出。即有二餘剩一。及當レ出陳而新。或應レ受二上物一而受二中物一」とあり。さればこの文はこの疏文の一部にして、乎は明かに平の誤なり。

〔延曆十二年三月九日官符〕この格、類聚三代格、卷五、分置諸國事の條に見えたり。

〔貢位子約此文者〕軍防令に「凡內六位以下、八位以上嫡子、年廿一以上、見無二役任一者、每年京國官司、勘檢知レ實、責レ狀簡試、分爲二三等一。儀容端正、工二於書筭一、爲二上等一。身材强幹、便二於弓馬一、爲二中

時月。量差人夫修理。」私關市令云。凡欲度關者。皆經本部本司。請過所。官司檢勘。然後判給。還者連來文申牒勘給。若於來文外更須附者。驗實聽之日。別摽連爲案。若已得過所。有故卅日不去者。將舊過所申牒改給。若在路有故者。申隨近國司。具狀送關。雖非所部。有來文者亦給。若船筏經關過者。亦請過所也。之」」

上下公使。郵驛。朱云。他國之公使經過也」師同。」餘國職掌。上下公使*不云。略文耳。或讀文。上下公使事。郵驛事各別事者。今見大宰并國使職掌。只稱郵驛。不云上下公使。然則讀別事爲長何。

傳馬　私廐牧令。凡諸道置驛馬條云。其傳馬每郡各五。皆用官馬。義解云。以軍團馬充之。其驛馬亦同也。若無者。以當處官物。市充云云。又條云。凡國郡所得闌畜。皆仰當界內訪主。若經二季無主識認者。先充傳馬云云。「問。於大宰及國不云上下。公事如何。答。雖無文必可知也。」

闌遺雜物。檢校舟具　跡云。舟具在津國公私舟也。穴云。檢校舟具。未知其色。答。在其津舟是也。但自外往來。亦合勘私度越度之狀。「師同之。」問。主船司與此何別。答。主船司。勘知天下公私船。但此司只的在津耳。」師同之。」古記云。檢校舟具。是主船所掌。舟機其檢校知耳。

及寺僧尼名籍事

亮一人。大進一人。少進二人。大屬一人。少屬二人。史生三人。使部卌人。直丁二人。

大宰府。帶筑前國　大同三年五月十六日奏云。省大宰府監典各二員。置筑前國司事。守一員。介一員。掾一員。大少目各一員。右謹案令條。大宰府帶筑前國。自爾已來。或別或兼。至延曆十六年。更又還同隷府。今得府解偁。管內諸事。細加檢校。未進調庸。并欠失正稅器仗。及其勤績。每物有數。此是擁行之日。彼此相讓。無心(必)國政之所致也。望請。分置官人。以爲別當專一其心。令濟國

等一者有考第、不レ識ニ文筆一爲ニ下等一十二月卅日以前、上等下等。送ニ兵部一簡試。上等爲ニ大舍人一。下等爲ニ使部一。中等送ニ兵部一試練爲ニ兵衞一。如不レ足者。通取ニ位子一」とあるもの即ち位子なり。この位子を簡検することも、此の直舉の二字中に含まれゐるものと解せるなり。

〔只稱郵驛不云上下公使然則讀別事爲長〕令文只郵驛と稱して、上下公使と云はず、故に郵驛と上下公使とを別事と解するを優れりとなすなり。

〔大同三年五月十六日〕符、類聚三代格、會要、分類諸國事及び日本後紀、卷十七に見えたり。

〔弘仁五年正月十三日官符〕この格、類聚三代格、卷五、加減諸國官員幷廢置事に見えたり。

〔弘仁五年五月廿一日官符〕同前。

〔和銅元年三月廿二日勅〕同前、又續日本紀、卷四にこの事見えたり。

〔寶龜十一年八月廿八日奏〕この格、類聚三代格、卷五、定秩限事、及び續日本紀、卷卅六に見えたり。

〔九國三島〕三島は壹岐、對馬、多褹なり。天長元年九月、多褹島を廢してこれを大隅國に隸せり。これより大宰管內は九國二島となりたり。穴記にこの文字あるは、穴記が天長以前に成れる書なることを證するものなり。

〔大判事下義解〕大宰府大判事の下にある義解の注なり。刑部省大判事の行下にあらず。

務。然則帶國之名不乖令條。欠負之類。絶於國內者。臣等商量。承前府帶之時。或下官符而定別當。或府司相量。分置其人。同條之官。兼預國務。勘責雜忘不同比國。望請。省大同元年所增監典。便充補國司。庶令所守「司」有別各濟繁劇。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。又弘*仁五年正月十三日官符云。更加大宰府算師一員。右得府解偁。管內公文觸類繁多。見任一人。事勞勘會。入都之使。遂差他官至被勘出。不堪辨申。望請。蒙「天裁」加「一人」前件官員。每年相換。將令向京者。「右大臣宣」奉勅。宜依請之。又弘*仁五年五月廿一日官符云。應大宰府省史生置弩師事。右得府解偁。去延曆十六年此府弩師。永從停廢。不虞之備。不可不儲。望請。除史生一員。置弩師一員者。右大臣宣。奉勅。依請。又和*銅元年三月廿二日勅云。勅給傔使者。大宰帥八人。大貳四人。事力及料田幷考選。並准史生例。又寶*龜十一年八月廿八日奏云。加增府官及管諸國司相替年限事。右筑前（紫）大宰遠居邊要。常警不虞。兼待蕃客。所有執掌。殊異諸道。而官人相替。限以四年。送故迎新。相望道路。府國困弊。職此之由。加以所給廚物。其數過多。每守舊例充給。或闕蕃客之儲。於事商量。甚不穩便。臣等望請。且停交替料。兼官人歷任。增爲五年。然則百姓有息肩之娛。庖廚無懸磬之乏。謹具錄狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。

主神一人。掌諸祭祠事。穴云。與神祇官祭。其別合依式也。朱云。諸祭祀（祠カ）事。謂包九*國三嶋之內祭祀耳。假令。神祇官諸國社加班幣帛者。未明。依後度說疑耳何。私案。後度說者。師注。朱云。後反。或云。不然。只筑前國內事是歟。未知。主神何任之人。私依官位令。正七位下官也。准制官任歟何「也之」 問。大*判事下義解云。案覆犯狀謂案。管國所犯狀者。然則此說長哉。答。先如筑前國內其管內亦可勘知。」「問。管國皆兼哉。答。是府帶筑前國不及管國也。」

帥一人。掌祠社、戸口、簿帳、字養百姓、勸課農桑、糺察所部、貢擧、孝義、田宅

良賤。訴訟。租調。倉廩。徭役。私賦役令云。凡正丁歲役十日。若須收庸者。布二丈六尺云々。又條云。令條之外。雜徭者。每人均使。總不得過六十日。兵士。器仗。作云。營繕令云。營造軍器。皆須依樣。鐫題年月及工匠姓名。若有不可鐫題者。不用此令。又條云。貯庫器仗。有生澁綻斷者。三年一度修理。若經出給破壞者。並隨事修理。在京者。所須調度人力。功云申太政官處分。在外者。役當處兵士及防人。調度用當國官物。云々。之。鼓吹。郵驛。傳馬。烽候。問。軍防令云。軍團各置鼓二面大角二口少角四口。又云。三圖「各」設鼓吹軍器者。未知。此府既不領軍圖。何有鼓吹者。依考課令。鼓吹興行。或具充備。爲大宰之最者。然則可在府庫哉。又木工職掌云。之。在器故。作云。軍防令云。凡置烽。皆相去計里。若有山岡隔絕。須遂便安置者。但使晝但照見。不必要限晝里。又條云。凡烽。晝夜分時候望。若須放烽者。晝放煙。夜放火云々。城牧。作云。軍防令云。凡城隍崩頹者。役兵士修理。云々。又條云。緣東邊北邊西邊諸郡人居。皆於城堡之內安置云々。問。城者與兵部職掌所之城何別哉。答。然也。又廐牧令云。凡牧。每牧置長一人帳一人。每群牧子二人。其牧馬牛。皆以百爲群。又條云。凡須校印牧馬者。先盡牧子。不足國司量須多少。取隨近者充。過所。公私馬牛。穴云。先領前國也。其餘之別立職掌者。但具依帳押知耳。闌遺雜物。及寺。僧尼名籍。蕃客。朱云。蕃客者。蕃國使也。作云。關市令云。凡蕃客初入關日。所有一物以上。關司共當客官人。具錄申所司。云々。一關以後。更不須檢。若無關處。初經國司亦准之「此」。歸化。謂遠方之人。欽化內歸也。朱云。歸化者化來也。作云。戶令云。凡沒落外蕃得還。及化外人歸化者。所在國郡給衣糧。具狀。發飛驛申奏。化外人於寬國。附貫安置云「之」。饗讌事。朱云。則給此蕃人也。師同。又云。不給化來。穴云。問。亦以下饗讌以上。皆領前國及府官行事。不涉九國三島也。又朱云。自注。所計諸事。皆惣兼九國三島之內事者。徭役。或云不然。只當前國內事者。〔貞本同〕。凡大宰府管九國等。依何文可知。若謂承諸國役擬任官以下官等。所consulted

〔押知〕押領使の押にして總括の意なり。知は支配し管轄することなり。

鮪。爲當尋情所讀鮪何。答。尋情所讀耳。無正文者何。

大貳一人。掌同帥。少貳二人。掌同大貳。大監二人。掌糺判府内。穴云。府内謂筑前國摠爲府内也。審署文案。勾稽失。察非違。謂巡察所部非違。其諸國判官。察非違亦同此義也。釋與義解無別也。穴云。察非違。謂檢知也。非巡行察。但帥掌巡察屬郡也。又問。*勸課田農進考條云。擦以上。然則判官巡察。有何妨乎。答。同條注云。少領以上。不云主政。下條主政注云。察非違者。是則監注主政注文同。並不必巡察。但考課令別揚擦耳。不足爲證。抑至戸令合勘也。朱云。察非違。謂自巡察筑前國内。先云。此說違文例。只府内可云者。貞不同之。師注。糺察所部亦同者。未明。或云。師皆可巡察九國等者。貞不同。跡云。察非違。謂親自巡察也。*大領注察字皆放此。

少監二人。掌同大監。大典二人。掌受事上抄。勘署文案。檢出稽失。讀申公文。少典二人。掌同大典。大判事一人。掌案覆犯狀。謂案覆管國所申犯狀也。釋云。與刑部判事同也。穴云。案覆犯狀何。答。唯鞫府内犯狀是。有九國犯狀者。亦案覆耳。其刑部判事案覆鞫狀。謂按覆解部所鞫也。今此云犯狀者。自鞫是。按覆。猶推鞫也。*斷獄律。反覆參驗者。即自鞫亦云覆故也。問。府内罪。何時至判事。局何時不至哉。答。放刑部耳。假。*杖以下當司決罰。徒以上送判事。令推斷耳。但國郡死罪已下令推斷。今府不同國郡者。爲別設判事故。與刑部同也。連坐法亦如之也。然則或府或判事防人所犯杖罪者。當司決。待以上送判事耳。*自餘品官等令別求也。朱云。案覆犯狀。謂府内并管内品官。及九國云爲之斷罪。申上日案覆也。未知。而品官等斷罪申上何。或云。府内犯罪者。大監可糺判也。見其職掌者。(貞不同也。四字分註)依罪事尚可付判事者。未明何也。主廚以上。皆品官也。府内品官等。若有犯罪人者。不決申上者。未知。申府監以上。爲申判事何也。防人正。雖同品官。杖以下不申上。當司

〔勸課田農進考條〕考課令に「凡國郡司、撫育有方、戸口增益者。各准見戸、爲十分論。加一分。國郡司(謂據及少領以上。)各進考一等。(中略)其勸課田農。能使豐殖者、亦准見地。爲十分論。加二分、各進考一等。」云々とある條を云へるなり。

〔大領注察字皆放此〕下條郡の大領の職掌の條に、「掌撫養所部。檢察郡事」とある察の字義は、皆この意義に解すべしとなり。

〔斷獄律反覆參驗〕斷獄律に「凡應訊囚者。必先以情審察詞理。反覆參驗。猶未能決。事須訊問者。立案同判。然後拷訊。違者笞五十。」とあり。

〔但杖以下當司決當徒以上ハ判事令推斷〕ニある獄令に「凡犯罪、答罪當處決之。杖罪以上、當國斷定、申中務、刑部省及太國、國ニ流以上、若除免官當者、皆連ニ寫案申ニ太政官ニ」とある條文を直接適用せるなり。

〔品官〕長官、次官、判官、主典以外に配屬せる官なり。その職任と異るところは、國分官の屬官にあらざる點なり。

〔防人戎具兵士私備〕兵士の職を守る者を防人と名づく。故に防人は皆な兵士なり。兵士の戎具は兵士の自辨なることは軍防令に見えたり。

〔弓箭兵戎器戎具戎仗等別何〕令文中には兵器と稱し、或ひは戎器、戎具、或仗等と稱す。その區別如何と問へるなり。

〔軍防令云戎具者〕

決爲有正佐令史故者。未明。跡云。犯狀謂諸國斷罪申上而案覆。若在府諸司事發者。各於事發處推斷耳。古記云。大監以下。不預斷獄訟。判事刑部丞等一種也。大判事。案覆解狀。斷定刑名。摠別國等申送罪狀。案覆斷定耳。斷定刑名。判諸爭訟。穴云。問。糺判府內與判諸爭訟。其別何。答。私案文。放刑部內諸爭訟皆判事判耳。問。諸國疑讞何。答。先判事決。若不決讞刑部。刑部尙疑申太政官。少判事一人。掌同大判事。大令史一人。掌鈔寫判文。少令史一人。掌同大令史。大工一人。掌城隍。舟檝。戎器。穴云。戎器亦謂新造。造訖充防人料也。私案。防人戎具。兵士私備。此文戎器。令有府庫也。朱云。大工。注戎器。防人注戎具者。未知。別何。凡稱兵器戎器戎具戎仗等。別何。私案。稱兵器者。弓矢太刀戈甲冑也。稱戎具者。若軍防令云。䩮中一具。鞋一兩者。以上物。稱戎具歟。何者卽其條終云。行軍之日。自盡將去。若上番年唯將人別戎具。自外不須故者。諸營作事。少工二人。掌同大工。博士一人。掌教授經業。謂教授管國學生。其醫師不稱教「授」者。文略也。釋云。醫師教諸國醫生也。私自餘與義解無別。朱云。醫師注云。教授醫生者。未知。何不云課試。若文略歟。思此云不通。與義解相違。問。九國二島。每國各博士醫師學生可有何。凡博士醫師郡司等。從何處可任乎。但附令從他國爲不異何。答。令行事。遠國者。遣博士醫師也。近國者學生等。來大宰府習耳。故博士醫師注。不記生數者。依下條隨國大小可有者。又博士郡司等。大宰先任定。只爲給位記。申上任狀者。或云。未申上前。雖任不把笏者。未明定。但依文。不畢諸國耳歟何。古記云。大宰博士學生之數。陰陽并醫生等。又別國博士醫師有不。課試學生。跡云。謂諸國學生也。陰陽師一人。掌占筮相地。醫師二人。掌診候療病。算師一

「生者」本條醫師の注に「敎授醫生」の字なし。典藥寮の醫師の注を云へるか。將又これ古令私記の朱注なるか。

〔鮭肴也雜乾魚耳〕鮭はサケにあらず。調理せし魚類の總稱なり。乾魚に限らず。

人。掌勘計物數。防人正一人。掌防人名帳。伴云。軍防令云。凡兵士向京者名衞士。守邊名防人。又條云。凡衞士向京。防人至津之間。皆令國司親自部領。自津發日。專使部領。府大宰府云云。又條云。凡防人欲至。所在官司。預爲部分。防人至後一日。卽共舊人分付交替使訖守當之處。每季更代。使苦樂均平。戎具。軍防令。凡兵士。每火紺布幕一口條云。每人弓一張。弓弦袋一口。副弦二條。征箭五十隻。胡籙一具。太刀一口刀子一枚。礪石一枚。藺帽一枚。飯袋一口。水甬一口「鹽甬一口」。脛巾一具。鞋一兩。皆令自備。不可闕少。行軍之日。自盡將去。若上番年。唯將人別戎具。自外不須。教閱。古記云。閱音欲雪反。數也。容也。積代(功カ)曰閱也。及食料田事。朱云。未知何。若軍防令云。凡防人在防守固之外。各量防人多少。於當處側近。給空閑地。逐水陸所宜斟酌營種。并雜菜以供防人食。所須牛力官給。所收苗子。每年錄數。附朝集使。申太政官者是歟。佑一人。掌同正。

令史一人。主船一人。掌修理舟檝。謂大工職掌云。舟檝。此卽所新造者。故此司唯掌修理也。釋云。修理舊舟檝也。穴云。大工令新造也。主船以古。修理也　主厨一人。掌醯醢。齏。謂醯者醋也。齏者凡醬所和切也。卽令調和醬醋蒜韲之類是也。釋云。醯音呼啼反。說文。醯酸也。作醯者以醬酒也。醢音訶改反。爾雅。肉謂之醢。郭璞曰。肉醬也。鄭玄注周禮曰。作醢及臡者。必先膊乾其肉。乃后莝之。雜以粱麴及鹽。漬以美酒。塗置瓶中。百日則成矣。有骨爲臡。無骨爲醢也。齏音子題反。司馬彪注莊子曰。合物使一同也。卽令調和醬醋蒜韲之類也。古記云。醯音呼鷄反。肉醬也。醢音呼改反。齏。鄭玄周禮注曰。凡醯醬所和細切爲齏。音節稽反。醯字一訓酢。穴說。但此條酢訓耳。菹。釋云。菹音側於反。說文。酢菜也。謂以酢淹菜。及米淹菜使酢。名爲菹。古記云。菹。說文。以酢及米淹菜使酢。名爲菹。音側魚反。醬豉。鮭。謂雜乾魚也。釋云。鮭音古携反。說文。鮭脯也。廣雅。膎肉也。乾魚也。古記云。*鮭肴也。雜乾魚耳。*問。無酒

[同]無謂字若爲答兼亦所掌略文耳」者を掌ることと見えて、而を掌ることと見えざるは何故ぞや。消も亦兼ねて掌る。これ當然自明の事なれば、文を略せるなり。

[古記]云、問、大國撫慰與考仕令招慰若爲別」古令の大國條には撫慰なる二字ありしなり。これと考仕令に見える招慰なる語と如何なる差別ありや。同一語なり。考仕令は、古令の篇名にして、新令にてはこれを考課令と改めたり。招慰なる語は、

字。若爲。答。兼亦所掌略文耳。等事。史生廿人。穴云。問。刑部史生。在判事之上。此司史生。在條終。未知其由。答。文異理同。尙取典以上者耳。

大國

守一人。掌祠社。戸口。簿帳。字養百姓。勸課農桑。糺察所部。私戸令云。國守。毎年一巡行屬郡。觀風俗。問百年。錄囚徒。理冤枉。詳察政刑得失。知百姓所患苦。敦喩五教。勸務農功云云。貢擧。孝義。田宅。良賤。訴訟。租調。倉廩。徭役。兵士。器仗。鼓吹。郵驛。傳馬。烽候。城牧。過所。公私馬牛。闌遺雜物。及寺僧尼名籍事。餘守准此。其陸奧出羽越後等國兼知饗給。謂饗食幷給祿也。釋無別也。穴云。饗給。以上也。謂招慰不從戸貫之華意耳。朱云。饗給。未知。何人饗給。若外賤饗給賊何。古*記云。問。大國撫慰與考仕令招慰。若爲別。答。一種云云。征討。伴云。孔安國曰。奉辭伐罪曰征。鄭玄曰。討誅也。孟子征之言正也。野王案。代罪以正不正也。軍防令云。有所征討。計行人滿三千以上。兵馬發日。侍從充使。宣勑慰勞發遣。之云云。擅興律之令軍興條注云。興軍征討國之大事云云是也。斥候。謂斥逐也。言候逐於非常也。釋云。斥候商也。左傳。斥山澤之險。杜預曰。斥候也。逐也。朱云。征討斥候。此亦爲外賊賊何。穴云。斥候也。伺宮衞令。謂斥斥逐也。伴云。擅興律。主將守城條云。若連接寇賊。被遣斥候。不覺賊來者。徒一年。壹岐對馬日向薩摩大隅等國總知鎭捍。謂捍衞也。言鎭衞寇賊也。釋云。鎭捍謂鎭捍賊也。穴云。鎭捍謂擅興律。防鎭捍賊之處(是)然則我捍「於」

考課令、「凡國郡以戸口增益應須進考者」云々の條にも見えたり。

〔擅興律之軍興條注云云是也〕擅興律の「凡乏軍興者斬。故失罪等。謂臨軍征討。有所徵發。而稽廢者。」なる條文の子注（疏）に「興軍征討。國之大事。調發征行有所稽廢者。名之乏軍興。犯者合斬」とあるを云へるなり。

〔謂擅興律防鎮捍賊之處是〕唐の擅興律の初條の疏に「及國内成鎮、及屯聚兵馬之處」の句あり。これに相當する日本律の疏文ならん歟。

〔名例律云劃謂塹柵之處〕名例律「凡共犯罪。而本罪別者。雖相因爲首從。其罪各從本律首從論。」なる條の疏に「關者檢判之處。劃謂塹柵之所。」とあるを云へるなり。

賊耳。朱云。除此計(討)國之外。亦可有國守乎。稱等字心何。問。摠守情何。先云。如言皆賊者何。**防守**。穴云。鎮捍防守同意一也。朱云。總鎮捍防守者。未知。部内之人歟。若外賊歟。答。部内之人。凡此國邊。遠人心殊於餘人。故云爾耳。未明。**及蕃客歸化。三關國。又掌關劃**。謂依律。關者檢判之處。*劃者塹柵之所是。釋云。劃柵也。閣也。名例律云。劃謂塹柵之所。關左右小關。亦可云劃也。跡云。劃者在關邊垣也。作云。劃者諸人往來可障。皆謂劃也。朱云。關劃一歟。名例律云云。而則爲二事何。答。然也。又作云。軍防令云。置關應守固者。竝置配兵士。分番上下。其三關「國」者。設鼓吹軍器。國司分當守固。所配兵士之數。依別式。**及關契事**。私公式令。諸國給鈴條云。其三關國。各給關契二枚。并長官執。無次官執。**介一人**。掌同守。餘介准此。**大掾一人**。掌糺判國内。審署文案。勾稽失。察非違。餘掾准此。**少掾一人**。掌同大掾。**大目一人**。掌受事上抄。勘署文案。檢出稽失。讀申公文。餘目准此。**少目一人**。掌同大目。**史生三人**。

上國

守一人。介一人。掾一人。目一人。史生三人。

中國

守一人。掾一人。目一人。史生三人。

下國

守一人。目一人。史生三人。

大郡

大領一人。掌撫養所部。朱云。撫養行事一端何。檢察郡事。餘領准此。少領一人。掌同大領。主政三人。掌糺判郡内。審署文案。勾稽失。察非違。餘主政准此。主帳三人。釋云。太政官處分。其主政主帳有省員者。自今以後。宜改依令。*穴云。主帳無訓也。掌受事上抄。勘署文案。檢出稽失。讀申公文。餘主帳准此。

〔穴云主帳無訓也〕主政はこれをマツリゴトヒトと訓むも、主帳には訓なく、これをシユチヤウと音讀せしなり。

上郡

大領一人。少領一人。主政二人。主帳二人。

中郡

大領一人。少領一人。主政一人。主帳一人。

下郡

大領一人。少領一人。主帳一人。

小郡

領一人。主帳一人。

「朱云未知行決罰兩毅決之若杖罪送所在郡也何答行者未明而可行者小毅以上得行之」獄令、凡犯罪笞罪郡決之條の

軍團 伴云。周禮鄭玄曰。軍者衆之名也。團圓也。

大毅一人。掌檢校兵士。穴云。依軍防令。統領校尉以下耳。跡云。行決罰者令(命)習郡司也。抑決罰事。細合勘十卷。獄令云。犯罰笞罪。郡決之「義云笞罪」(脫文アルカ)。*朱云。未知。行決罰。兩毅決之。若杖罪。送所在郡也何。答。行者未明而可行者。小毅以上得行之。充備戎具。謂充備兵士之戎具也。釋無別。調習弓馬。穴云。調令兵士便弓馬也。非謂習軍團「官」也。古記云。調習弓馬。何處馬也。答。軍防令云。凡兵士各爲隊伍。便弓馬者爲騎兵隊云云者。卽此人等。各備騎馬也。厩牧令。凡牧馬應堪乘用者。皆付軍團於當團兵士内。簡家富堪養

義解には、「其兵士皆罪、兩毅決之。若杖罪者。送二所在郡一也。」と見えたり。故にこの朱書の說は、令義解編纂以前の說なること知らる。

〔八十一例〕本朝法家文書目錄及び本朝書籍目錄に「八十一例一卷」とあるもの即ち之なり。この書今傳らず、本書及び政事要略にその逸文を存するのみ。大寶以後法令を裨くべき例(その大部分は太政官處分なるべし)を八十一箇條集めたるものなり。「八十一」なる數は、極數九の積なるべし。その製作の年代明かならざれど、古記に引用せられたるを見れば、天平十年以前なる事明かなり。

者。宛免其上。番及雜駈使。簡閱陳列 謂檢閱軍行之陣列也。釋云。閱音餘說反。左傳。大閱簡車馬也。穴云。周禮。簡閱軍實。左氏傳。閱「簡」車馬是。古使弓馬爲騎兵隊。餘爲步兵隊耳。又陣法共知耳。古記云。簡閱簡試一種也。作云。軍防令云。凡兵士各爲隊伍。便弓馬者爲騎兵隊。餘爲步兵隊。主師以上。當色結領。不得參雜。八十一例云。軍團置毅者。兵士滿千人者。大毅一人。少毅二人。六百人以上。大毅一人。少毅一人。五事。百人以下。毅一人。少毅二人。掌同大毅。主帳一人。朱云。主帳掌造文書也。主帳以下。並不得考者。跡云。主帳亦合習郡主帳也。校尉五人。旅帥十人。隊正廿人。私軍防令云。凡軍團。大毅領一千人。少毅副領。校尉二百人。旅帥一百人。隊正五十人。

凡國博士。醫師。國別各一人。朱云。問。國博士醫師。何不云職掌。答。雖不稱職掌。則其下置學生。明知教授學生。無疑者。私案。考課令云。國博士。立三等考第。居官不怠。教導有方爲上。教授不倦。生徒充業爲中。不勤其職。教訓有闕爲下。其醫師准效驗多少。十得七以上爲上。得五以上爲中。得四以上爲下者。是以爲驗也。而於醫師以教授。不定考第者。可求考課令也。問。何學生課試不云乎。學令。凡學生。先讀經文條云。每年終。大學頭助國司。藝業優長者試云云者。於國博士何。又醫疾令云。凡國醫師。教授醫方。及生徒課業年限。並准典藥寮教習法。其餘雜治有用有效者。亦兼習之者。又條云。凡國醫生。每月醫師試。年終國司對試。幷明定優劣。試有不通者。隨狀科罪。問。若不率師教。數有愆犯。及課業不充。終無長進者。隨事解黜。即立替人者是以知。可爲教授幷每月試哉何。其學生。大國五十人。上國卌人。中國卅人。下國廿人。釋云。學令云。凡大學生。取五位以上子孫。及東西史部子爲之。條云。國學生。取郡司子弟爲之云云。醫生各減五分之四。釋云。醫疾令云。凡醫生。先取藥部及世習。次取庶人年十三

以上十六以下聽令者爲之者。然則國醫生取庶人耳。

後宮　謂妃夫人嬪。此無所掌。而處職員者。下有十二司。舉其多者言之。　職員令第三。

釋云。妃夫人嬪。是名後宮。謂三宮員數令耳。卷尾亦有宮人職員等。而唯以後宮爲名者。舉其最大耳。師說云。後宮名籍。在中務省。若任職事者。依本司考。不帶職事者。無考選事。穴云。在御所後。故號後宮。其皇后亦令在後宮。而號中宮者。與後宮別名耳。今依之說。古記云。後宮官員令。問。官員之字若爲。答。嬪以上三色夫人。在品位。故稱官(宮カ)字。此非職事者。祿令云云。在下。問。三員之人品位若爲。答。得三色號者。即授其品位耳。爲御在所後。故後宮云耳。「朱云。後宮職員令。謂如言後宮之職員令。」跡云。後宮職員。謂嬪以上。但是稱其員耳。不見所掌。又祿令。依品位給號祿。又云。若帶官者累給。即知非職掌「官」也。「又」穴云。問。嬪以上職事歟。若文稱職員。故合職事。祿令。稱嬪以上。依品位給號(封)祿。言於宮人設相當法訖。但於嬪以上。不相當。故別稱號祿耳。又云。帶官累給者。讀者任屬意耳。且(宜)妃夫人等。合有家令。令釋之說。更爲一通。古記云。祿令云。嬪以上。竝依品位給封祿。其春夏給號祿者。各有等差。注云。若帶官者累給。即明非職事者。

凡壹拾捌條。

妃二員。古記云。禮記云。天子之妃曰后。今法用妃以下皆爲妾也。朱云。妃二員謂皇后之次妻也。凡妃夫人嬪者。竝皆天子之婦也。其高下者如文列也。婦數有若干色可習也。如臣下。不可准思妻妾耳「者」。穴云。問。嬪以上考選令送中務。未知。誰人實錄。答。下文。稱嬪以上女竪。然則女竪中有女史。實錄上日行事送耳。

右四品以上。穴云。問。嬪以上。其位不相當者。稱行守哉。答。不合有。若以無位。爲妃夫人嬪者。即授其位耳。古記云。三員之人。品位若爲。答。得三色號者。即授其品位耳。

夫人三員。古記云。漢書云。天子妾。稱夫人。

〔後宮官員令〕古令に於いては、職員令を官員令と云ひし如く、後宮職員令を後宮官員令と云へり。

〔朱云後宮職員令謂如言後宮之職員令〕後宮は掌る所無し。故に後宮は職員にあらず。されば後宮職員令は、後宮に奉仕する職員の令と解すべきなり。

右三位以上。

嬪四員。古記云。尚書。嬪於虞氏。注曰。嬪婦也。伴云。禮記曰。生曰妻。死曰嬪。鄭玄曰。嬪。婦人有法度者之稱也。釋云。禮記。天子之妃曰后。漢書。天子妾稱夫人也。尚書曰。嬪於虞氏注云。嬪婦也。周禮。云「々」。但。在中宮職之釋。

右五位以上。

宮人。謂婦人仕官者之摠號也。釋。無別也。穴云。伴宮人等。亦合在御所後也。職員。朱云「先云」。未知。何不稱令字。若令臺上後宮職員令歟。先云。然。見令釋也。若然者。何更亦稱宮人職員心何。

内侍司　釋云。以下女司十有二局竝在内裏。供奉上臺。以擬尋常之貴事須便疾也。

尚侍二人。掌供奉常侍。奏請。謂奏而請其報。凡此爲女司。不涉男官。若須涉者。自依物旨式也。古記云。典侍注。請傳之字若爲。答。奏宣小事謂之請傳耳。少納言一種也。釋云。奏請名例奏請者。案奏而請其報也。穴云。問。依公式令。用。諸奏事。皆少納言以上所行。未知。此司掌何事乎。答。自餘諸事宜多是也。宣傳。穴云。注讀文一說。供奉常侍而奏請宣傳者。一說。供奉爲語。則侍從注。亦如讀文常侍傳宣事一耳。管男官侍從及獻替奏宣意耳。奏請猶奏宣。檢校女孺。謂下條。諸氏氏別貢女。雖非氏名。欲自進仕者聽是也」。釋云。無別。又云。

古記云。典侍注。請傳之字若爲。本條集解典侍の注には「奏請宣傳」とあり。古令には「奏請」の二字に作れり。

〔采女幷氏女〕采女及び氏女の事、後宮職員令の最後の條に見えたり

〔删定令〕删定令は律と共に二十四箇條あり。稱德天皇の神護景雲三年、右大臣吉備眞備、大和の國造正四位下大和長岡の撰定に係る。養老律令の輕重の舛錯を辨じ、首尾の差違を矯めたるものなり。桓武天皇の延曆十年三月、勅して施行せしめられしが、嵯峨天皇の弘仁三年五月、時宜に適せず、施行以來却つて訴訟多き故を以て停廢せられたり。本書中删定令を引けるものは、實に穴記と跡記の二書に

孺稚也。音而遇反。伴云。見尙書孔安國注也。穴云。檢校女孺。謂諸司皆押知耳也。今說此同也。問。當入司所殘女上何司哉。答。縫司掌女功。皆合在其司。私案。采女等配水司膳司。所餘「之女」合上縫司也。言名帳。皆在內侍司耳。跡云。女孺者謂諸司女孺皆檢校也。朱云。檢校女孺者。此司一司內女孺者。未明。女官本司。本司可記宮人之上日功過者。未知。記後何司可送。釋云。十二司宮人。考校定。送縫殿寮也。又云。或說。十二司注上日行事。送內侍司。內侍摠取送縫殿寮者。伴說未一定。又采女考者。所仕記上日行事。直送采女司。爲當。此亦與女孺等考同何也。而亦疑若送內侍司者。內侍司考定送。爲當。受取上送縫殿寮。令定考第。而凡可無本司各考定何。以上事。中務職掌說了。

采女從何來事

伴問。女孺者本從何處來女也。答。以*采女幷氏女等補也。采女者。兼必令仕主水司主膳司耳。氏女者。畢令仕縫殿寮耳。古記云。女孺以采女氏女召(名)(各)仕(任)等充也。

知內外命婦朝參。穴云。朝參。縫司所知。內侍司亦押知耳。朱云。朝參者朔節日朝參也。**及禁內禮式**謂後宮禮式也。此司以下。無女史者。皆取女孺堪任者爲之也。釋云。禁內禮式。謂女之禮式也。師說云。宮(宮)員內。無女史者。取女孺堪任者爲之。縫司條。穴云。以前女司女史。具放令釋者。朱云。禁內禮式者。從宮門內者。未明。古記云。尙侍。兼知諸司事幷妃以下宮人禮式也。穴云。禁內禮式。謂後宮院中禮式是。問。有違失儀式之罪。科罰何。答。女司決罰。故*删定令稱糺正推罰也。跡云。知朝參及禁內禮式之事。謂當命婦等朝參檢校(治)。及敎正禮儀耳。諸司等。皆太政官簡定奏聞。奏勅。合名其補任帳。中務掌耳。又朱云。凡此司。管藏司以下諸司。依何文可習若爲。作者本意所傳歟何。**之事。典侍四人。**掌同尙侍。唯不得奏請宣傳。若無尙侍者。得奏請宣傳。**掌侍四人。**掌同典侍。唯不得奏請宣傳。朱云。掌侍雖無。尙侍典侍。不得奏請宣傳也。其義卽見文也。**女孺一百人。**朱云。其職掌不見。尙宮內供雜事耳。

して、この事は總てこの二書の年代を推定する有力なる手係りとなるものなり。

〔木契〕木製の割札なり。古令には、大國條に關契の代りに木契の二字ありしこと此の文によりて知らる。唐の擅興律の疏にも亦木契の事見えたり。我が令は即ち唐制に據れるなり。

藏司

尚藏一人。掌**神璽。**古記云。神璽謂踐祚之日。忌部上神璽之鏡劒也。　**關契。**古記云。關契。官員令大國注云。三關國。又掌關劉*木契事知。以木作之。但如隨身符。左右在耳。不合欲知子細也。　**供御衣服。**穴云。供御衣服。謂見令供服用。其人賜料可在縫司。自餘雜物。或自內藏分收。我臨時與男官相共供奉耳。自餘諸司。皆放此耳。朱云。供御衣服。謂縫司裁縫衣服。其實可在此司者。未明。未知。縫殿寮裁縫御衣何。可掌其實何。　**巾櫛。**謂巾頭巾也。櫛梳櫛也。釋云。巾頭巾也。櫛音側秩反。說文。梳比之總名也。梳音色魚反。作云。說文。佩巾也。野王案。本所以拭物。後人稍著之於頭。以當冠也。古記云。巾者頭巾之類也。　**服翫。**古記云。服翫謂玉等之類也。作云。服翫。雙六圍基玉等之類。服如用也。昔者堯士天下之時。上世所謂賢者。玩好之器形寶。淫泆之樂形聽也。鄒(鄭)玄云。玉出於須彌。珠生於南海。無足而自至者。以人好之故也。　**及珍寶。**朱云。珍寶者猶言寶也。大藏內藏收掌。亦同一端。物者。未知。物實已在彼司。而此司預知行事如何。　**綵帛。**古記云。綵帛謂雜染綾絹「絁」等也。但帛字。通不染練耳也。穴云。染謂之綵也。白謂之帛也。　**賞賜之事。**古記云。賞賜謂賜耳。無別。朱云。賞賜者別勅給人物。此司收掌。又內藏注云。別勅用物事者。並此同物者。未知。此司預行事何。

典藏二人。掌同尚藏。

掌藏四人。掌**出納。綵帛。賞賜之事。**穴云。出納謂先女司之出納。其男官物不明知。如此之類。若無別者。據時行事耳。

女孺十人。

書司

〔內典〕佛教の經典なり。

〔彈弓〕はじき弓なり。楊弓の類なるべし、

尚書一人。掌供奉內典。經籍。朱云。內典經籍。其實可在圖書寮。反後度云。此司可有者。未明何。及紙。朱云。從紙以下。此女官常收置耳。其所來。隨物色。從司司來者。墨筆。作云。筆賦序曰。治世之功。莫尚於筆。筆者畢也。能舉萬物之形。而序自然之情也。几案。謂案亦几屬也。釋云。說文曰。案几屬也。几音居履反也。穴云。几案。令釋述訖也。猶几也。古記云。几案。周禮。几筵云。几大朝覲。王位設黼依之前。南面設左右玉几。是見羣臣。當憑玉几。以出命也。案謂今机一種耳。一說案。謂長机也。几謂短机也。如使(使)式耳。論語疏云。門人痛大山長毀「哀」。梁木永摧。隱机(几)非昔。離索行泊徵言一絕景行莫書也。卽几隱机一種耳。朱云。問。几案意何。各論故更疑耳何。絲竹之事。典書二人。掌同尚書。女孺六人。

藥司

尚藥一人。掌供奉醫藥之事。跡云。醫藥謂率醫師等。而供奉醫藥也。朱云。供奉醫藥。謂內藥司所作之御藥也。作訖後。其實可牧此司者。未明。後度云。供奉時。預掌者何。典藥二人。掌同尚藥。女孺四人。

兵司

尚兵一人。掌供奉兵器之事。朱云。供奉兵器。謂臨時隨召供耳。未知。何司有兵器「之」何。先云。翫兵器彈*弓之類者。未知何。典兵二人。

掌同尚兵。女孺六人。

闈司　釋云。爾雅。宮中門謂之闈。郭璞曰。相通小門也。音胡歸反。

尚闈一人。掌宮閤管鑰。謂宮城以內諸門管鑰。即京城門鑰亦同也。釋云。案。掌宮城以內諸門管鑰。*檢本令。諸門管鑰。本衞請進。然則諸門管鑰。闈司掌之。不由典鑰。京城管鑰亦掌耳。朱云。諸門管鑰。本衞進者。如令釋也。而具狀申務條說也。穴云。宮閤管鑰。謂宮門及宮城門閤門〔之〕鑰耳。其京城門鑰。亦在此司也。問。倉庫在何處。答。在御所耳。問。倉庫令云。置公文庫鏁鑰。長官自掌。若無長官者。次官掌之者。未知。文庫鑰。在何所哉。答。可在御所。男官女官便近而共供奉耳。然則與鑰等賈者。不必在此司。若有在事耳。跡云。宮閤謂宮門宮城門閤〔門〕等鑰。京城門鑰。亦習此耳。古記云。宮閤門管鑰。即閤門鑰耳。但內侍司以下諸司管鑰。各於本司掌耳。及出納　謂出納諸門管鑰。其從閤門出入雜物者。門司勘檢也。釋云。除管鑰出納外。閤門出納物。亦可知也。何者衞門府有門牓。兵衞府無門牓。故闈司知耳。朱云。出納謂管鑰一色之出納者。未明。*遂釋文也。跡云。出納謂管鑰之出納。又閤門牓。故出入財物不合掌。穴云。出納謂管鑰之出納也。或云。人物之出納亦知為劣。之事。典闈四人。掌同尚闈。女孺十人。

殿司

尚殿一人。掌供奉輿繖。膏。沐。燈油。火燭。薪炭之事。朱云。殿司與男官共預知耳。以下諸司亦放此也。未知。此

〔檢本令諸門管鑰本衞請進〕本令は、我が令の藍本となれる令にして、即ち唐の永徽令なり。諸門以下、恐らくは永徽宮衞令の逸文ならむ。

〔遂釋文也〕彼上の朱說令釋の文意と違へり。即ち令釋は、管鑰と出納とを二事に解し、出納は管鑰の出納以外に閤門より出納する雜物を勘檢する意となせり。然るに上記の朱說は、これを一事と見て、管鑰の出納を掌るの意となしたり。「及」の字

あるによつて考ふるに、令釋の說正鵠を得たるべし。

〔粟水訓也〕漿をアハミヅと訓みしなり。斯くの如く國語を以て法文の難語を通俗的に解釋することと實に古記の特色たり。漿水は卽ち今日のオモユなるべし。

〔然先嘗不之狀不審文也〕典膳と尙膳の何れが先に供御の物の御毒

司不掌物實何。貞不明。決乃疑云。此司亦別可掌物實也。以下諸司亦同者何。 典殿二人。掌同尙殿。 女孺六人。

掃司

尙掃一人。掌供奉牀席。灑掃。鋪設之事。 典掃二人。掌同尙掃。 女孺十人。

水司

尙水一人。掌進漿水 謂。飦汁爲漿也。釋云。案煮飯曰漿。音卽良反。古記云。漿水。以粟米飯漬(淸)水汁。名爲漿也。*粟水訓耳。私。飦音諸延反。飯也。 雜粥之事。 典水二人。掌同尙水。 采女六人。

膳司

尙膳一人。掌知御膳。進食先嘗。 朱云。內膳司職掌云。摠知御膳進食先嘗者。又此司職掌一同。未知。其別何。又進食先嘗者。若有先後何。答。先後不見也。凡此司者。男官造了。進時共*預知許歟何。穴云。問。男女兩司。何司先嘗乎。答。此司先嘗耳。其尙酒掌醸。但臨供御時。尙膳掌。然先嘗不之狀不審文也。跡云。酒司正造而已。供御之時。此司供奉耳。 摠攝

見をする時は、法文によつて審かにするを得ずとなり。

〔男官〕此にては上に同じ官人を意味す。

〔同〕衣服令大祀大嘗元日日同宮衛令云元日朔日若有聚集及蕃客宴會

膳羞酒醴、諸餅蔬菓之事。跡云。摠攝。猶摠言令冠菓之字合讀也。古記云。膳羞。一種無別也。見大膳義(式)。水司膳司二司。必以采女。則顯職掌之司耳。典膳二人。掌同尚膳。掌膳四人。掌同典膳。采女六十人。

酒司

尚酒一人。掌釀酒之事。釋云。釀酒事。與男官共預知之。作云。兼知釀「醴」酢也。典酒一人。掌同尚酒。

縫司

尚縫一人。掌裁縫衣服、纂組之事。兼知女功及朝參。穴云。問。兼字其意何。答。私案。此司凡掌縫衣服。而更知女功及朝參者。別所加。故作兼文耳。又問。女功者。他司女功皆知哉。答。掌縫汁。命婦謂內外皆是也。朱云。知女功者。裁縫衣服女功者。未知。此女何色女。答。不見。臨時取定耳。未明。朝參。未知。何人朝參。若女功之朝參歟。命婦朝參歟何。若然者。上內侍司知與此司知。別何。若同事歟何。典縫一人。掌同尚縫。掌縫四人。掌命婦參見朝會引導。朱云。命婦參見。謂別特有名命婦等者。此掌縫可預知者。未明。又命婦無對見等者也。朝會引導。謂節會之日。命婦等引導也。凡女人集會。見衣服令也。凡女官如男隨位色著衣乎。答。不著。不云衣服令故者也。古令(答)云。參見謂特引入也。朝會謂節日等也。穴云。參見謂除朝會外是也。問。衣服令。大祀大嘗元日四孟。宮衛令云。元日朔日。若有聚集。及蕃客宴會辭見。皆立儀仗者。未知。如何爲參見。

辭見皆立儀杖者未知如何爲參見如何爲朝會乞具分析答元日朔日朝會尋常參見耳」衣服令、諸臣禮服條の終りには、「大祀大嘗元日則服之」とあり、朝服條には、「四孟服之」とあり、又宮衛令には「凡元日朔日云々なる條文あり。茲に參見と云へるは如何なる意なりや、又朝會と云ふは如何なる意なりや、兩者の區別を明瞭ならしむべし。答ふ。元日朔日等の儀式的謁見を朝會と云ひ、尋常の謁見を參見と云ふなり。

［依假寧令男官給五日］假寧令には「凡在京諸司、每ニ六日、並給ニ休假一日ニ」とあり。故に一箇月五日の假あるなり。

［准大舍人耳］其の最大舍人に准ずるなり。大寶考仕令には、即ち「恭慎無懈。」爲ニ舍人之最ニ」とあり。

如何爲朝會。「乞」具分折。答。元日朔日。朝會。尋常參見耳。之事。此司無女孺者。氏女采女。分配諸司之外。皆總在此司也。古記云。充諸司外。餘氏女。皆置此司。即顯正官耳。右諸司掌以上皆爲職事。自餘爲散事。朱云。自餘爲散事。謂采女女孺也。未知。散事之心何。若如言散位敷何。答。然也。各每半月沐假三日。朱云。謂一月內。總六日者。未明。未知。依假寧令。男官給五日何女。官給六日。心何。作云。跡云。朔一二十日間得一日。又十日間一日得。又有故。一度三日得時有耳(其)「由」。其考敍法式。一准長上之例。謂考者考課之年限。敍者選敍之階級。既稱准長上之例。明可與公勤不怠。職掌無闕之最「也」。古記云。一准長上之例。謂散事考選與長上同也。作云。古記云。問。散事。女孺。既無職掌。未知。與誰最。答。准大舍人耳。此云無於古記。釋云。案。宮人以上。一准長上之例者。可者可與公勤不怠。職掌無闕之最。掌以上及宮人散位以上並同也。考敍謂考課年限。選敍階級也。氏女采女等。限年十三以上貢之。但敍位者。依選敍令限廿五年耳。私選敍令云。凡授位者。皆限年廿五以上。唯以蔭出身者。皆限年廿一以上。跡云。一准長上之例。謂歌司歌女等亦習此。女孺得長上考。又此司之采女等考者。本司注上日功過送采女司。考送中務。自外女孺。各本司注上日功過送縫殿寮耳。充諸司所餘女孺。皆(習)在縫殿寮也。朱云。其考敍法式。一准長上之例。謂爲散事以下立文者。未知。女官職事考。如男官者。若有明文乎何。答。掌以上者。解官及除免官當者。作云。古記云。一准長上之例者。未知。准考解官以否。答。掌以上者。解官及除免官當者。如男官。准女孺者。不解官也。此云無於古記。東宮宮人。及嬪以上女豎准此。謂宮人女豎。不制員數者。依式處分。其宮人考課者。春宮大夫掌之。女豎者宮內省掌之。嬪以上家事。隸宮內省故也。釋云。宮人女豎員數。待式處分也。豎內豎也。音殊主反。作云。周禮曰。內豎。倍寺人數。掌內外之通令。凡小事也。鄭玄曰。豎寺人之未冠。之官名也。穴云。孺與豎。文異

實同也。古記云。東宮宮人。及嬪以上女豎准此。東宮宮人。臨時定。依別式耳。但妃以下女豎。准帳內資人之數耳。孺與豎。以所仕貴賤。爲之別名也。但孺字通男也。朱云。東宮宮人。及嬪以上女豎准此者。只爲考敍也。給祿之法不見也。祿令無文故者。又有女豎等。以此文知耳。

但不見成人色者也。跡云。嬪以上女孺考。中進宮內省令定也。

凡內親王。女王。及內命婦朝參。行立次第者各從本位。謂四世以上也。朱云。女王也。中務五世王不入者。未知。而內命婦既朝參何。五世王不聽朝參。心何。後度反云。五世王以上者。私案。文先爲四世以上。但五世亦准入耳歟。何也。又各從本位者。未知何也。內親王以下。皆爲有位立朝參歟何。私案文。先爲有位。何者各從本位故者。未知何也。內親王以下外命婦以上。各不雜分別（列）耳。如男朝參者。古記云。問。內親王行立次第。各依本位意若爲。答。女王有位無位並女王處行立。穴云。此條衣服令所載。四位以上。五位以上是也。但宮人六位以下。亦依喪令可朝參。於參文略耳。行立者。行猶列也。**其外命婦**謂其勳位妻者。不預此色。凡令內。稱婦釋。見中務卿職掌也。餘與義解無別也。五位以上者。勳位者非也。釋云。外命**准夫位次。**跡云。謂假一位妻立五位後耳。**若諸王以上娶臣家爲妻者。不在此例。**謂不在於外命婦之例。其內外命婦。各須不雜而分別（列）之。釋云。案諸王以上。不在外命婦之例。朱云。諸王以上。娶臣家爲妻者。不在此例者。假准夫位將列者。則臣女可雜列女王之例也。依此不令出外命婦也。（未知。若不依夫位。自有位者何。若依自位依「立」內命婦例何。答。然也。）已上廿六字分注。又臣娶五世女王爲妻。亦不令出外命婦也。准夫位將列者。則女王可雜列臣女中故。然則貴王情耳。（私案。若有位者。立女王列耳歟何。）（以上十三字分注）跡云。諸臣。聽娶五世王爲妻。但亦不在命婦例。何者皇親雖無位。而列（別）參給祿故。（私。五世不在女王。然則可出外命婦。）（以上十四

「公勤不怠職事無闕之最」考課令に「公勤不レ怠、職事無レ闕、爲二諸官之最一」と見えたり。

「氏女采女等限年十三以上三十之但叙位者依二選叙令限廿五年耳」後宮職員令に「凡諸氏氏別貢レ女、皆限二年卅以下十三以上一」云々とあり、選叙令に「凡授レ位者、皆限二年廿五以上一、唯以二蔭出身一、皆限二年廿一以上一」とあり。

「女孺者宮內省掌之績以上家事故宮內省故也」女孺は績以上の家に仕ふる女孺にして其の地位は三位以上の王臣家に仕ふる家司に類せり。而して績以上の家には別に家司を置かず、その家政は宮內省之を掌る。故に女孺も東宮內省の支配に屬すと云ふなり。

「又臣娶五世女王爲妻亦不令出外命婦也」これ此の條文の適なり。

而して此の逆は王種を重んずる立法の精神によりてまた成り立つことを得るなり。

〔內命婦謂五位以上夫人也外命婦謂五位以下妻也〕この解既に職員令、中務省條の義解及び令釋に見えたり。

〔貞大煩不決〕貞は大同弘仁の頃の法學者貞江繼人なり。繼人大いに煩悶してこの問題を決し得ざりしとなり。

〔宗者女〕本宗の女なり。

字分註）穴云。若諸王以上。娶臣家爲妻者。不在此例。謂臣而不可立王次。故不合朝參耳。但當得號外命婦耳。問。一位妻與五位內命婦行立方何。答。至公式令。可令勘也。古記云。女王有位無位。並女王處行立。其夫雖在。不預外命婦之例。但皇親之外女王者。得預外命婦之例耳。凡諸王以上。不在出外命婦之例。若妻王者。參王列。有妻臣者。不得朝參也。*內命婦謂五位以上夫人也。外命婦謂五位以下妻也。

凡親王及子者。皆給乳母。謂若內親王嫁諸王。所生子者。不在給限也。釋及古記無別也。穴亦同。朱云。*內親王嫁諸王。所生子。乳母不給者。未知。合聽嫁。而何不給乳母心何。若依此文。稱親王及子。依此所云歟何。答。然也。凡子者。以父可稱也。依母不可稱故者。問。稱親王。未知。內親王何。亦同歟何。親王三人。子二人。

所養子年十三以上。雖乳母身死。不得更立替。朱云。子謂廣稱辭也。親王皆約者。又云。若不死。終身猶爲乳母也。但所養子身死者。乳母之名止耳。但未知。而未成選。所仕考何空弃。爲當雖止乳母名。尚預宮人例可得位何。*貞大煩不決。穴云。所養子。年十三以上。雖乳母身死。不得更立替。未知。生子年以幾。爲止乳母乎。答。不見止限耳。其考敍者並准宮人。自外女豎。不在考敍之限。朱云。謂親王家有女豎。依此文知耳。此猶私就仕女等者。

凡諸氏氏別貢女。朱云。謂氏無貴賤也。貢女謂中所部官司令（合）貢耳。或云。此京畿內也。不云外國者。未決。古記云。其氏女謂京畿內也。自進事謂不限內外也。穴云。氏謂石川氏一人。紀氏一人之類是也。但擢取氏中耳。不必*宗者女也。問。元一氏。後別成三姓。未知。尚號爲一氏。爲當成三氏乎。答。不審。文宜依別式也。自餘依跡云。諸氏定者有別式。皆限年

〔大同元年十月十三日官符〕この格、類聚三代格、卷四、加減諸司官員并廢置事及び、類聚國史、卷四十、政事要略、第五十九に見えたり。

〔端正俗語賀當好也正訓直正耳〕端正とは、俗語にいふカホヨシなり。その文字通りの訓みはキホクタダシなりと云へるなり。[illegible]の意なり。

卌以下十三以上。 跡云。女孺等。雖十三始官仕合敍位。而待年廿五合授位也。私大同元年十月十三日官符云。應令貢氏女事。右檢令條。諸氏氏別貢女。皆限年卅已下十三已上。而中間停廢。略無道（遣）行。今被右大臣宣偁。奉勅。凡倂女者。氏々之長者。擇氏中端正女貢之。其十三已上之徒。心神易移。進退未定。宜採女年卅已上卌已下時無夫者。或貢後適人。必令（令）貢替。又官途忽忙。獨難取（敢）捨（給）緩急（急速）之事。當有授（授）則。宜長者相補。令得仕進。自今以後。立爲恒例。

雖非氏名。欲自進仕者聽。 謂氏別。貢一人之外。別欲進仕也。跡云。雖非氏名。謂每氏貢一人之。而猶又重次貢者聽也。

其貢采女者。郡少領以上姉妹及女。形容端正者。皆申中務省奏聞。 朱云。姉妹及女者孫女等亦同者也。皆申中務省奏聞者。未知。先申太政官何。又氏女何處可貢送何。答。女幷皆先可申官也後至中務可奏聞耳。釋云。采女。限年一准氏女耳。古記云。端正。俗語賀當*好也。正訓直正耳。皆申中務省奏聞。謂先申太政官。即付中務令奏聞也。

東宮 謂太子之所居也。釋云。太子謂之東宮也。跡云。東宮謂美子宮。朱云。太子之宮名。稱東宮也。穴云。御子宮。在御所東。故云東宮也。作云。四時氣自東發。即春准此故。爲東宮春宮。其義無別也。

職員令第四　凡壹拾條

傅一人 止者。春宮大夫。錄上日行事。送於式部。式部校定。學士亦准此。釋無別也。穴云。考第。依令釋同非職官。又官位五位以上故也。跡云。傅學士考。注上日功過送式部。但上日坊官日日注耳。

■**掌以道德輔導東宮。** 古記云。傅以道德輔導也。立太師太傅太保。義疏云。師其天子所師法。傅傳相天子。保保安天子。於德義者也。佐王論道。以經緯國事。和理陰陽。言有

德乃堪之。今太子傅。行事與此同耳。道六合之內。無所非道。聽而弗聞。輔之不得。不虛不溢。非有無。隨時斟酌。信意舒卷。謂之道也。釋詁云。訓道也。言道可以訓人也。道猶道路也。就人而說道。道出行必由於道。離道則惡。服道則善。足之所涉。既謂之道。心之所憑。亦稱道也。總而言之。一種爲道。言萬行皆是道也。別而名之。則謂之孝弟仁義禮智信。此皆同源異流。枝流別名耳。出孝經述義也。德者得也。自得於心。心動於內。出則由道。故「道」德之字。文恆相待(將)。皇侃云。五常謂仁義禮智信也。就五行論。人稟此五氣而生。則備有仁義禮智信也。人有博受之德謂之仁。有嚴斷之德爲義。有明辨尊卑敬讓之德爲禮。有言不虛妄之德爲信。有照了之德爲智。是五常之道。不可變革也。出論語疏。道者流通無擁之稱也。問。傅知坊事以否。答。不合。但大夫管諸司事耳。釋云。道德。先王至德要道也。事見孝經也。穴云。道德者。未知。與師範儀刑何有優劣哉。答。傅是以道德。師範東宮也。然則遂任太政大臣無妨。但上文云。無其人則闕。此文不立其事。然知少有優劣。無止任用耳。朱云。以道德輔道東宮。謂此少殊於太政大臣。何者無其人闕不云之故也。但其大旨象太政大臣置耳。跡云。德謂天性所得。道謂所得五常之道也。

學士二人。掌執經奉說。朱云。以先聖典籍教耳。

春宮坊 跡云。美子宮司也。穴云。以東換春。更無異義也。朱云。春宮坊。謂東宮之內政事所行也。假令。如太政官也。古記云。問。東宮春宮。其別若爲。答。東*宮職員之內官(宮)之名。春宮坊云耳。伴云。野王案。秦漢宮閣各有九子坊。晉宮閣各有顯昌等坊。坊亦省名也。

管監三署六。

大夫一人。掌吐納啓令。古記云。大夫通傳。啓春坊政申太子。謂之啓也。他人啓事。兼爲通傳耳。通傳之字。或教進止也。或請傳也。隨事狀耳。以東宮政事申天皇。謂之奏也。以奏書應緣納言也。即請返命啓耳。但東宮耳。奏天皇事者。自親對奏耳。

宮人名帳。跡云。宮人謂此女孺等也。穴云。宮人名帳。亦在中務省。其舍人等名帳。在三*監六署皆是也。

〔東宮職員之內官之名春宮坊云耳〕東宮と云ふときは、皇太子を指す。皇太子の役所を指すときは春宮の字を用ふ。後世に於いても亦斯くの如し。

〔三監六署〕舍人監、主膳監、主藏監、主殿署、主書署、主漿署、主工署、主兵署、主馬署なり。

〔不見人色也〕如何なる種類の人を以て東宮舍人に補するや明かならず。

〔大同二年八月十二日官符〕この符、類聚三代格、卷四、廢置諸司事に見えたり。

考敍。謂坊内諸司。及宮人考敍。其宮人考敍者。坊司校定。更送中務省「也」。釋云。宮人名帳考敍。謂東宮之宮人考敍。坊校定送中務敍耳。其考敍者。兼坊内諸司及宮人考敍耳。穴云。考敍謂宮人考也。考敍猶考也。言合敍之人。亦勘定故耳。其男之考敍。別有文。故司別不別顯也。朱云。考敍宿直。謂宮人並管諸司之考敍宿直者。未知。敍之字意何。答。依勘定考第敍位。故加敍字耳。此司不有敍者。問。大夫考可讙定。答。注上日行事。申送式部省。跡云。宮人謂女孺等考。坊校定申送中務。此女孺名帳。亦在中務也。考敍謂考。言得考。敍位故云敍耳。古記云。考選坊内諸司。考選校定送式部。不得直申太政官。但學士考。傳令定。傳大夫等第。不定申送耳。傳以下。皆約坊文載耳。宿直事。跡云。所管諸司宿直。皆知耳。亮一人。大進一人。少進二人。大屬一人。少屬二人。使部卅人。直丁三人。

舍人監

正一人。掌舍人名帳。禮儀。分番事。穴云。假使宿直等。故上條也。佑一人。令史一人。舍人六百人。朱云。不見人色也。私案。若軍防令云。凡五位以上子孫。年廿一以上。見無役任者。每年京國官司。勘檢知實。限十二月一日。並身送式部。申太政官。檢簡性識聰敏儀容。可取宛内舍人。三位以上子。不在簡限。以外。式部隨狀。宛大舍人及東宮舍人者。比轉何。先云。然者何。使部十人。直丁一人。主膳監。古記云。兼炊司酒司。今私案。格云。大同二年八月十二日官符云。應併省春宮職員事。右被右大臣宣偁。奉勅。分官設職。雖載令條。隨時制宜。非萬事令。主書。主漿。主兵等署。職務少事。官人多員。宜主書主兵併主藏。主漿併主膳。每監加置令史

「膳司以下諸司雜物年料自大司分納耳」膳司以下の諸司に於いて費用する年料の雜物は、藥は典藥寮より、膳羞の物は大膳職よりと云ふが如く、大司より分ち納むるなり。

一員。**正一人。掌進食先嘗。及諸飲膳事。**穴云。膳*司以下諸司。雜物年料。自大司分納耳。一端見祿令也。私祿令。凡食封者。一品八百戶條云。東宮一年雜用料。絁三百疋。綿五百屯。絲五百絇。布一千端。鍬千口。鐵五百廷者。穴稱見祿令此歟。跡云。飲膳謂自大司分遣酒菓等也。朱云。進食先嘗。及諸飲膳者。未知。作物從何處可來物。又以下諸司之物。又何處可出物何。若。東宮一年雜用料有給物。然則此物充用諸雜用何。答。諸司物。皆自大司。可分受。但一年雜用料所給。此外別所給者。未知。而有支度一年用物。一度可受乎。爲當月別一度可受哉何。私心月別受歟。未知而何。**佑一人。令史一人。膳部六十人。使部六人。直丁一人。駈使丁廿人。**

主藏監

正一人。掌金玉。寶器。錦綾。雜綵。裁縫衣服。翫好之物。伴云。翫好者。尙書翫人喪德。翫物喪志。孔安國曰。以人爲戲弄。則喪其德。以物器爲戲弄。則喪其志。翫習爲翫。字在習部。**佑一人。令史一人。藏部廿人。使部六人。直丁一人。駈使丁二人。**

主殿署 古記云。兼掃部司。

首一人。掌湯沐。燈燭。洒掃鋪設事。令史一人。殿掃部廿人。使部六人。直丁一人。駈使丁十人。

主書署

首一人。掌供進書藥筆硏之屬。穴云。醫疾令。合藥供御條云。餌藥之日。侍醫先嘗。次内藥正嘗。次中務卿嘗。然後進御。其中宮及東宮准此者。未知。主書署何時供進哉。答。同共進退(是)也。令史一人。使部六人。直丁一人。

主漿署

首一人。掌饘粥漿水。及菓子之屬。古記云。水漿也。直水也。漿菓水也。漿水者一訓也。水漿者二訓也。令史一人。水部十人。使部六人。直丁一人。駈使丁六人。

主工署

古記云。兼*木工司土工司鍛冶司。一答。銅鐵雜器者。既成器物也。更不雜造也。

首一人。掌木土搆作。及銅鐵雜作事。穴云。銅鐵雜作。謂器及兵器。並約。*爲古令代雜器之字。爲雜作故也。但此司者不取材。然則用木工寮材

〔兼木工司土工司鍛冶司〕木工寮、土工司、鍛冶司の職掌に屬する東宮内の事務を掌るの意なり。

〔爲古令代雜器之字〕大寶令に於いては、「雜作」の字の代りに「雜器」の字ありしなり。

〔但其用不見然思量非常備耳〕本署掌るところの兵器の用途明かならざれど、察するところ非常に備ふる爲めならむ。

耳[木]。令史一人。工部六人。使部六人。直丁一人。駈使丁六十人。

主兵署

首一人。掌兵器儀仗之屬。穴云。兵器儀仗者。主工署所造耳。非兵庫之兵。*但其用不見。然思量非常備耳。其皇太子隨身威儀兵器儀仗等者。自然兵庫并五衞府備耳。非署之兵器也。朱云。兵器儀仗者。未知。何時可用。答。用時不見。猶爲非常設耳。而儀仗何用。此亦有用時耳「者」。令史一人。使部六人。直丁一人。

主馬署

首一人。掌供進乘馬鞍具之屬。朱云。乘馬謂猶文云也。更無別意者。乘馬者此亦大(文)司馬分受者。常此司飼養耳。穴云。主馬署飼丁等可飼也。私案。調習之「事」可放馬寮也。令史一人。馬部十人。使部十人。直丁一人。

家令職員令第五　凡家令者。唯得決答仕丁。不得決資人。　凡捌條

親王。內親王准此。但文學不在此例。

〔又不同外官日出上午後下之例故〕公式令には「凡京官、皆開門前上、閉門後下。外官、日出上、午後下。務繁者、量事而還。宿衛官、不在二此例一」と見えたり。家司の勤務時間は、この例に同じからずといへるなり。

〔若取封戸人充用耳賦何〕雜令には、「凡封戸者、皆以二課戸一充。……」

一品

文學一人。穴云。文學之考。何人定哉。答。令(今)說(本脫カ)主考文學以下書吏以上。但帳內資人有止文也。私(案)考課令云。凡帳內及資人。每年本主。量其行能功過。立三等考第云云「也」。跡云。家令文學考者。本主定。不同學士者。皇太子令無考人也(之了)。本主等有考。家令之故也々。掌執經講授。餘文學(二「餘文學」之三字。數本作「以下」之二字)准此。家令一人。掌總知家事。餘家令准此。私考課令云。凡家令。每年本主准諸司考法立考(注云云。)(三字分註)考說申省案記。穴云。家令以下。不同在京諸司之何例者。不約文官名帳之例。*又不同外官日出上午後下之例故。粗舉一例也。跡云。家令。不得同諸司斷決。朱云。家令。揔知家事。一事以上也。但不得行決罰也。若有可決人者。申本主者。未知。而犯徒以上罪者。不斷罪。直送所司何。扶一人。掌同家令「餘扶准此」。大從一人。掌檢校家事。餘從准此。朱云。檢校家事。謂其如神祇官祐職掌者。未知。而此家司。如諸司可宿直何也。穴云。問。勾稽失宿直。并主典讀申。及檢出稽失等事。放上文哉以不。答。尚不同彼例。又於彼家令。稱監臨主守。於例不當也。爲不同稱監臨。內外諸司主典以上。爲監臨之例故也。今說。准放神祇之例。亦准爲監臨主守之例。少從一人。掌同大從。

大書吏一人。掌勘署文案。餘書吏准此。朱云。大書吏。勘署文案者。此一端云耳。受事上抄。檢出稽失。讀申公文。其如神祇官史者。

少書吏一人。掌同大書吏。朱云。行署文案事。書吏爲耳賦。無史生故何。問。家司無直丁情何。*若取封戸人充用耳賦何。

庸全給。其田租爲二二分一一分入レ官。一分給レ主。」とありて、封戸の主は、封戸の丁の調庸を全納するを得たり。故に封主は、封戸の丁の庸を徴するを罷めて、これを一年に十日の割合を以て自家に使役することを得たり。何となれば、庸の本體は徭役にして庸は勞力を要せざる時に限り、徭役に代へて納めしむるものなればなり。

二品

文學一人。家令一人。扶一人。從一人。大書吏一人。少書吏一人。

三品

文學一人。家令一人。扶一人。從一人。書吏一人。

四品

文學一人。家令一人。扶一人。從一人。書吏一人。

職事一位。女亦准此。

家令一人。掌知家事。扶一人。大從一人。少從一人。大書吏一人。少書吏一人。

二位

家令一人。從一人。大書吏一人。少書吏一人。

正三位

家令一人。書吏二人。

從三位

家令一人。書吏一人。

令集解卷六

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢
員外宰相藤判

右一冊者課少外記賢好令繕謄之寫者也則令遂一校畢
慶長第四季春初六
吏部秀賢

右以清家之本令寫之課少外記一校了

寛永十一年五月日

中原職忠

萬治三庚子仲冬中六於燈下令一校畢

本奥云

文應元年七月廿五日見合本書了

權大納言藤 在判

文永十年後五月二日重加一見了

内大臣 在判

建治二年後三月三日引合正親町判官章兼本校合了

文政三年五月以水戸彰考館本比校了

撿挍保己一

令集解卷七上

神祇令

天神地祇條　中春條
季春條　孟夏條
季夏條　孟秋條
季秋條　仲冬條
季冬條　即位條
散齋條　月齋條
踐祚條　大嘗條
祭祀條　供祭祀條
常祀條　大祓條
諸國條　神戸條

神祇令第六　謂天神曰神。地神曰祇。釋無別也。祇音巨之(支)反。案。祀天神祭地祇令耳。　凡貳拾條

天神地祇條

凡天神地祇者。神祇官。皆依常典祭之。　謂天神者伊勢。山城鴨。住吉出雲國造齋神等類是也。地祇者大神。大倭。葛木鴨。出雲大汝神等類是也。常典者此令所載祭祀事條是「也」。釋無別也。自大汝神*以上。古記亦無別也。穴云。依常典祭。謂四季所祀。及祭之調度。依別式備儲。大嘗每世每年等。謂之常典也。若調度齋日等。遺失者此神祇祭禮。違常典也。其大宰主神與神祇官。其祭可有別式。但天皇即位。摠祭天神地祇時。皆可總祭也。跡云。常典謂自仲春以下。季冬以上。是日依常典祭之。朱云。皆依常典祭。謂在諸國社皆約此。爲班給幣帛者。但神祇官之不預。諸國社者。不班幣帛耳「也」。

仲春祈年祭　謂祈猶禱也。欲令歲災不作時令順度。即於神祇官祭之。故曰祈年。釋云。祈音渠依反。鄭玄注周禮曰。祈禱也。謂爲除凶災。別呼吉(告)神以來福也。於神祇官。總祭天神地祇。百官官人集。別葛木鴨名爲御*年神。祭日。白猪白鷄各一口也。爲令歲稔祭之。如*大歲祭也。於神以下一口以上。古記之文。

季春鎭花祭　謂大神狹井二祭也。在春花飛散之時。疫神分散而行癘。爲其鎭遏。始(必)有此祭。故曰鎭花。釋云。大*神狹*井二處。祭大神者。祝部請受神祇官幣帛祭之。狹井者。大神之麁御靈也。此祭之(者)。花散之時。神共散而行疫已(也)。爲止此疫祭之也。古記無別。

孟夏神衣祭　謂伊勢神宮祭也。此神服部等。齋戒潔淸。以參*河赤引神調糸。織作神衣。又麻績連等。績麻以織敷和衣。以供神明。故曰神衣。釋云。伊勢大神祭也。其國有神服部等。齋戒淸

〔大汝神〕オホナムチノカミなり。大國主命をいふ。日本紀に大己貴神、古事紀に大穴牟遲神、古語拾遺に於保那武智、姓氏錄に大奈牟智、文德實錄に太奈母智、三代實錄に大名持、延喜式に大名持又は於保奈牟智と云ひ、萬葉集及び本書に大汝神と云へり。

〔御年神〕素戔嗚尊の子大年神の子なり。父の神と共に稻の耕作には大功ありし神なり。古語拾遺にこの神大地主神の田に祟をなし給ひしこと見えたり。延喜神名帳に「大和國葛上郡葛木御歲神社」とあるもの之なり。

〔大歲祭〕大歲神は、御

淨。以三河赤引神調糸。御衣織作。又麻績連等。麻績而敷和御衣織奉。臨祭之日。神服部在右。麻績在左也。敷和者宇都波多也。此常祭也。古記無別。

大忌祭*　謂廣瀨龍田二祭也。欲〔令〕山谷水變成甘水。浸潤苗稼得其全稔。故有此祭也。釋云。*廣瀨幷龍田祭。自山谷下水。令甘水成。而爲令五穀成熟祭也。差五位以上充使也。古記無別。跡云。新年祭。祭甲神。大忌祭。祭乙神之類。依別式也。

三枝祭　謂率川社祭也。以三枝花。飾酒罇祭。故曰三枝也。釋云。伊*謝川社祭。大神氏宗定而祭。不定(宗)者不祭。卽大神狹井類之神也。以三*枝花。嚴罇而祭。大神祭供此云麁靈和靈祭。古記無別。

風神祭　謂亦廣瀨龍田二祭也。欲令*沴風不吹。稼穡滋登。故有此祭。凡讀此四祭者。先讀神衣。其次三枝。其次大忌。其次風神。卽與公式令連署義同。以下諸祭幷准此例也。釋云。廣瀨龍田祭也。世草木五穀等。風吹而枯壞之。此時不知彼神心。卽天皇齋戒。願覺夢中。卽覺云祭。龍田立(小)野二社。同日共祭。姉夫(天)二之神。亦五位以上充使。古記無別。又云。凡諸祭次第。具列如左。孟夏神衣祭。三枝祭。大忌祭。風神祭。以下放此。跡云。文讀次第。神衣祭。大忌祭。三枝祭。但仲冬處攝上對下耳。寅日在二分之中耳。穴云。孟夏仲冬等注。先讀上二件了。乃至下注爲長。一云。神衣。次大忌。次三枝。仲冬注。相嘗。次大嘗。次鎭魂也。但先讀寅日祭。乃可讀下卯祭。而先讀大嘗者。依職員令所次先後耳。又季夏。季冬。道饗祭是晦。故云。是說爲長也。新令問答篇所次。又律目錄篇所次。並亦如之。

季夏月次祭　謂於神祇官祭。與祈年祭同。卽如庶人宅神祭也。釋及古記無別。朱云。月次祭。與六月十二月大祓各異也。

鎭火祭　謂在宮城四方外角。卜部等鑽火而祭。爲防火災。故曰鎭火。釋及古記無別。

年神の父にして稲のことに功ありし神なり。この神を祭りて年穀を祈る祭を大歳祭といふ。

〔大神〕大國主命の和魂を祭れるオホミハの神なり。大和國の大三輪山に鎭座す。毎年四月卯の日に大神祭を行ふ。

〔狹井〕大國主命の荒魂を祭れる神社なり。大和國城上郡狹井にあり。延喜神名帳に「狹井坐大神荒魂神社五座」と見え、天平二年大倭國正稅帳に「佐爲神戶稻壹拾參束伍斗貳升」と見えたり。

〔參河赤引神調糸〕參河の國より大神宮へ調物として奉るアカビキノイトなり。アカビキノイトは、皇大神宮儀式帳に赤曳糸、神風抄に赤曳糸、延喜式、日本紀に赤引糸、大神宮雜事記に赤良曳御調糸と

書けり。伊勢の六月十二月の月次祭に供進する糸にして、古く伊勢、尾張、三河の地より獻上せり。持統天皇紀、六年閏五月丁未の條に「伊勢太神奏二天皇一曰。免二伊勢國今年調役一。然輸二其二郡赤引絲參拾伍斤一。」とあるもの赤引糸の史に見えたる初めなり。

〔廣瀨龍田〕廣瀨の神は、大和國廣瀨郡に坐し、龍田の神は、同國平羣郡に坐す。前者は水神、後者は風神なり。風水の難を除きて年穀を豐穰ならしめんが爲めに、毎年この兩神を祭る。天武天皇紀、四年四月の條に、「遣二小紫美濃王。小錦下佐伯連廣足一。祠二風神于龍田立野一。遣二小錦中間人蓋。大山中曾禰連韓犬一。祭二大忌神於廣瀨河曲一。」とあるもの即ち此の祭の史に見えたる初めなり。延喜祝詞式には、

道饗祭 謂卜部等於京城四隅道上而祭之。言欲令鬼魅自外來者。不敢入京師。故預迎於路而饗遏也。釋云。京四方大路最極。卜部等祭。牛皮并鹿猪皮用也。此爲鬼魅自外莫來宮内祭之。左右京職相預。古記無別。

孟秋 大忌祭　風神祭

季秋 神衣祭 謂與孟夏祭同。釋云。如孟夏祭。唯差(充)幣帛使。差(充)五位已上。

神嘗祭 謂神衣祭日便卽祭之。釋云。卽神嘗祭。謂神衣祭日饌食等具祭。*宇奈太利。村(持)屋。住吉。(津守。)(二字分註)古記無別。

仲冬 上卯相嘗祭 謂大倭住吉大神*穴師*恩智意富葛木鴨。紀伊國*日前神等類是也。神主各受官幣帛而祭。釋云。大倭社(大倭忌寸祭。)(五字分註)宇奈太利。*村屋。住吉。(津守。「連」)(三字分註)大神社。(大神氏上祭)(五字分註)。穴師神主。卷向神主。池社池首。恩智神主。意富太朝臣。葛木鴨鴨朝臣。紀伊國坐。日前。國縣(懸カ)須。伊太祁曾。鳴神。已上神主等。請受官幣帛祭。古記無別。

下卯大嘗祭 謂若有三卯者。以中卯爲祭日。不更待下卯也。釋云。朝諸神相嘗祭了。供奉新物也。若卯當中卯者。中卯爲下卯也。朱云。下卯大嘗祭。謂若一月内有卯日二日者。中卯可稱下卯也。於上卯稱下卯耳。然則鎭魂祭之後。可爲大嘗祭。但職員令爲文義。連大嘗祭下云耳。毎年毎世大嘗。竝此日可祭。但毎世大嘗祭年者。毎年大(新)嘗不可祭也。

寅日鎭魂祭 朱云。上卯之次寅日也。

季冬月次祭　鎮火祭

道饗祭

前件諸祭供神調度。及禮儀。齋日。皆依別式。朱云。禮「儀」二歟。一歟。先答云。二事者。其新年月次祭者。百官集神祇官。穴云。百官謂男官也。或一人。或毎司。竝不見文也。朱云。百官集神祇官。謂男官人也。女不云者。未知。史生同官人不。答。此主典以上。毎司一人許可參也。司集不云也。中臣宣祝詞。謂宣者布也。祝者贊辭也。言以告神祝詞。宜聞百官。故曰宣祝詞也。穴云。中臣宣祝詞者。時行事宜參集之社社祝部等也。但依文。宣百官司云耳。釋云。以中神祝詞。宣百官耳「也」。跡云。祝詞祓詞者。法刀言也。忌部班幣帛。謂班猶頒。其中臣忌部者。當司及諸司中取用之。釋云。忌部是神部也。此日忌部一人。拄木綿襷。而隨召祝部名而分充幣帛。穴云。中臣忌部。當司及諸司中取用耳。東西史（文）部同意也。或云。忌部者此神部也。但中臣者。爲供此事。當置此司耳。班謂班諸國也。時行事社社祝部。參神祇官受取耳。朱云。中臣忌部。竝在神部之中也。班幣帛謂皆班内外社者。但諸國預祭社。不班幣帛者也。

凡天皇卽位。總祭天神地祇。謂卽位之後。仲冬乃祭。下條所謂大嘗。毎世一年。國司行事是「也」。散齋一月。謂仲冬之月。自朔至晦。古記云。問。一月意何。答。起月（自カ）（生）一日盡晦日云耳。不在卅日云耳。朱云。散齋一月。謂不計日也。穴云。或云。散齋一月者。除修理之三月之外也。今說依此云耳。致齋三

此の祭の祝詞の文を載せ、天平二年大倭國正稅帳には此の兩社の封戸の租の事見えたり。

〔伊率川社〕イザカハノヤシロは、大和國添上郡率川に坐すと神名帳に見えたり。今奈良市子守町にあり。祭神は開化天皇なりとの說あれども、本書に引ける令釋によりて、大神の御子神となすを正しとす。

〔三枝花〕サイグサと訓む。サイグサは、サキグサにして福草の意なり。延喜式に朱草の別名とし、瑞草なりと云へり。和名類聚鈔には、薺と訓めり。

〔公式令連署〕公式令、詔書式以下には、官人連署の式見えたり。その署名は卽ち高官より始まりて卑官に至る。これ卽ち上下の順位を示せるなり。本條

日。謂自丑至卯。其辰日以後卽爲散齋。故下條云。致齋前後兼爲散齋也。穴云。三日謂自丑日至卯日是也。今說自其日者。依文不見耳。鎭魂祭在其中耳「也」。穴云。致齋三日。自卯至巳也。朱云。致齋三日。謂此三日不必適中。隨祭日當耳「也」。**其大幣者。三月之內令修理訖。**謂大幣者供神幣物。各有色目。金水(䃕)桶金線柱。奉伊勢神宮。楯戈。奉住吉神之類是也。三月之內者。唯據月言。不以日計。卽始自九月終十一月也。修理者此言新造也。釋云。大幣謂供神幣物。各有色目也。伊勢大社。奉金䃕筥金多多利。住吉。奉楯戈之類也。三月之內。謂以月數不計日也。修理。新作曰修理也。案祭卽位之後祭。朱云。三月之內。令修理訖。謂三月之後。更有祭月者。*此說違釋。但私心合耳。凡此祭上稱諸祭內約。而則依別式可祭者。跡云。大幣謂名大幣之物名也。古記云。問。大幣意何。答。大幣謂卽位之時。摠祭天神地祇。爲祭幣帛別地卜定。三箇月內令修理訖。此修理而散祭物名大幣。但修理之字。得新造名用耳。問。三月內修理了。若赴卽位日限有不。答。無限法「也」。

凡散齋之內。諸司理事如舊。不得弔喪問病。謂有重親喪病者。不在預祭之限「也」。釋云。以下所禁諸事。只爲百官官人耳。但於親喪病。隨式處分耳。穴云。諸司謂官人也。但宮內人吊喪以下事。不見行事。但思依假寧令。給假以上色者皆退耳。其官人遭親喪者。合有別式。爲長。假寧令。爲無事時。立文故也。雖非官人。而可預祭事者亦同之。卽親病若可假退者。臨時量狀耳。自餘喪等。皆不合假退。跡云。諸司理事如舊者 但造大幣之所司者。弔喪以下事。當親事(喪)者。合待式處分也。**食肉。亦不判刑殺。不決罰罪人。**穴云。職制律云。凡大祀在散齋。而弔喪問疾。判署刑殺文書及決罰。食肉者笞五十。奏聞者杖七十。*子注云。刑謂定罪。殺謂殺戮罪人。此等文書不得判署。及不得決罰杖笞云云者。未知。殺文書何。又刑文書者斷罪也。然則不判署笞罪斷罪。卽知。不可決笞杖。而何煩稱不決罰罪人哉。答。當其日不行殺事也。不必判書也。又不決罰罪人者。子細耳。不可有別義。

又祭の順位を示す。雜然と列擧せるにあらず。

〔宇奈太利〕延喜神名帳、大和國添上郡に「宇奈太理坐高御魂神社」とあるもの之なり。タカミムスビの神を祭れり。持統天皇紀、六年十二月甲申條に「遣二大夫等一奉二新羅調於五社一。伊勢。住吉。紀伊。大倭。菟名足一。」と見えたり。

〔穴師〕延喜神名帳、大和國城上郡の條に「穴師坐兵主神社」とあるもの之なり。天平二年大倭國正稅帳にその封戸の事見えたり。

〔恩智〕恩智神社と稱するもの神名帳に多く見えたれど、茲に云へる恩智は、河內國高安郡にある二座なるべし。大御食津比古命、大御食津比咩命を祭る。二神は卽ち食物の神なり

〔日前神〕延喜神名帳、紀伊國名草郡の條に見

朱云。不判刑殺。謂雖祭前判訖。不言。不流。不徵贖耳。

不作音樂。謂不作絲竹歌儛之類也。朱曰。不作音樂者。而者(間)。雅樂寮不得行職掌「何」。答。然也。不在臨時別作音樂者。

不預穢惡之事。謂穢惡者。不淨之物。鬼神所惡「也」。釋云。穢惡之事。謂神之所惡耳。假如。祓詞所謂上烝下淫之類。穴云。穢惡者如令釋也。或「云」「穢」惡「者」謂佛法等並同者。世俗議也。非文所制也。古記云。問。穢惡何。答。生產婦女不見之類。跡云。穢惡謂依穢而所惡心耳。延曆廿年五月十四日官符云。定准犯科祓例事。一大祓料物二十八種。承前。〔穢〕惡祓料物准此。重輕。今除一祓。下條亦同。馬一匹。太刀二口。弓二張。矢二具。以十隻爲一具。已上三種。並不限新舊。刀子六枚。木綿六斤。麻六斤。庸布六段。鍬六口。鹿皮六張。猪皮六張。酒六斗。米六斗。稻六束。鰒六斤。堅魚六斤。雜腊六斤。鹽六斤。海藻六斤。滑海藻六斤。食薦六枚。薦六領。坏六口。盤六口。柏十五把。枚手六十枚料。匏四柄。楉四枚。長各一丈。席一領。右闕怠大嘗祭事及同祭。齋月內。弔喪。問疾。判署刑殺文書。決罰。食肉。預穢惡之事者。宜科大祓。所輸雜物。具如前件。官人有犯。兼解見任。一上祓料物廿六種。太刀一口。弓一張。矢一具。刀子二枚。木綿三斤。麻三斤。庸布三段。鍬三口。鹿皮三張。酒三斗。米三斗。稻三束。鰒三斤。堅魚三斤。雜腊三斤。鹽三升。海藻三斤。滑海藻三斤。食薦三枚。薦三領。坏四口。盤四口。柏十把。枚手四十枚料。匏二柄。楉三枚。長各一丈。席一領。右闕怠新嘗祭。鎭魂祭。神嘗祭。祈年祭。月次祭。神衣祭等事。及伊勢大神宮禰宜內人。及穢御膳物。幷新嘗等諸祭齋日。犯弔喪問疾等六色禁忌者。宜科上祓。輸物如右。一中祓料物廿二種。刀子一枚。木綿一斤。麻一斤。庸布一段。鍬一口。鹿皮一張。酒一斗。米一斗。稻一束。鰒一斤。堅魚一斤。雜腊一斤。鹽一升。海藻一斤。滑海藻一斤。食薦二枚。薦二領。坏四口。盤四口。匏一柄。柏五把。枚手廿枚料。楉二(三)枚。長各一丈。右闕怠大忌祭。風神祭。鎭花祭。三枝祭。鎭火祭。相嘗祭。道饗祭。平野祭。園韓神春日等祭事。及穢物忌戶座火炬。穢物忌女。及觸穢惡事預御膳所。幷忌火等祭齋日。及犯禰宜及預齋祭事神戶人。犯弔喪問疾等六色禁忌者。宜科中祓。輸物如右。一下祓料物廿二種。刀子一枚。木綿六兩。麻六兩。庸布一段。鍬一口。鹿皮一張。酒四升。米四升。稻四把。鰒六兩。堅魚六兩。雜腊六兩。

見えたり。御神體は、八咫鏡の前身なり。古語拾遺に「初度所レ鑄少不レ合レ意。(是紀伊國日前神也)次度所レ鑄其狀美麗。(是伊勢大神也)」と見えたり。

〔村屋〕神名帳には村屋神社多く見えたれど、ここに云ふ村屋は、大和國城下郡の村屋坐彌富都比賣神社なるべし。

〔此說逆釋但私心令耳〕この說令釋の說に違へりと雖も、却つて我が意を得たりとなり。

〔子注〕本注に對して云ふ。即ち細注の事なり。

〔上烝下淫〕尊族又は己れより身分の高き女に通ずるを上烝と云ひ、卑族又は己より身分の卑しき女を姦するを淫と云ふ。左傳、桓公十六年に「衞宣公烝二於夷姜一」とあり。夷姜は卽ち宣公の庶母なり。

〔生產婦女不見之類〕產

蓐にある婦女は穢ありとして之を見ざるの類なり。

〔延暦廿年五月十四日官符〕この格、類聚三代格、卷一、科祓事に見えたり。

〔踐祚之日答云卽位之日〕現行法に於いては、踐祚と卽位とは別箇の觀念なるも、當時にありては、踐祚卽ち卽位なりし事、これによりて知らるゝなり。

鹽四合。海藻六兩。藻滑海六兩。食薦一枚。薦一領。坏二口。盤二口。匏一柄。柏五把。枚手二十枚料。楷二枚。長各一丈。右闕怠諸祭祀事。及齋日毆祝禰宜并預祭神戸人。犯諸禁忌者。宜科下祓。輸物如右。以前。被右大臣宣偁。承前。神事有犯。科祓贖罪。善惡二祓。重科一人。條例已繁。輸物亦多。事傷苛細。深損黎元。仍令改張立例如件。其毆傷若重者。祓淨之外。依法科罪。齋外鬪打者。依律科決。不在祓限。又祝禰宜等。與人鬪打。及有他犯事。須科決者。先解其任。卽決罰。神戸百姓。有犯失者。行齋之外。决罪如法。今具「奏」狀奏聞。奉勅。依奏(請)。

致齋。唯祭祀事得行。自餘悉斷。 朱云。雖不預祭事百官皆止耳。 **其致齋前後兼爲散齋。** 朱云。凡此條。廣爲諸祭立也。只不爲卽位一條者。

凡一月齋爲大祀。 謂上條云。散齋一月。卽此條稱齋者。皆散齋也。唯於一日齋。更無散齋。其致齋者。皆在散齋限内「也」。穴云。問。於一日齋。有散齋哉。答。不可有耳。朱云。一日之内。可有散齋者。未明。後度說無散齋也。一日内致齋耳者。 **三日齋爲中祀。一日齋爲小祀。**

凡踐祚之日。 謂天皇卽位。謂之踐祚。祚位也。福也。音阼故反。禮記。文王世子曰。成王幼不能涖阼。周公相踐阼而治。注云。踐履也。代成王。履阼階。攝王位治天下也。古記云。*踐阼之日。答(云)。卽位之日。賈逵注國語云。祚位也。跡云。踐祚之日。謂卽位之日也。 **中臣奏天神之壽詞。** 謂以神代之古事。爲萬壽之寶詞也。釋云。壽詞神代古事也。跡云。奏壽詞。上劒并鏡。至十一月。爲大嘗耳。鏡劒以一物。永奏數帝耳。但奏壽辭。在云云(踐祚)耳。又地祇不見文。穴云。問。有奏地祇壽詞哉。答。不見文也。時行事大嘗祭之日。奏壽詞。然至十一月祭日。新王不預神璽耳。與古說(記)異。博士不依「也」。 **忌部上神璽之鏡劒。** 謂璽信也。猶云。神明之徵信。此卽以鏡劒稱璽。

〔未知内外祭皆約不〕語に云へる祭祀は、廣く内外の諸祭を包むやと設問せるなり。〔弘仁二年二月六日官符〕この格、類聚三代格、卷一、祭并幣事及び日本後紀、卷二十一に見えたり。

釋云。神璽鏡劒也。唐令所云。璽者以白玉爲之印也。帝王世歷云。奉制傳國璽。是風俗各別。璽同實殊耳。朱云。問。中臣忌部。常可定置不。答。臨時擇取諸司中耳。如(必カ)取支部者。

凡大嘗者。每世一年。國司行事。朱云。臨時預祭事國司者。**以外每年所司行事。**謂所司者。在京諸司預祭事者也。釋無別也。穴云。所司謂神祇官也。預祭諸司皆同。下條所司亦同。神祇官也。〔預申官者。即一日齋。亦須預申之。朱云。預申官謂神祇官。稱所司。〕(下文ニ攙入)。

凡祭祀所司預申官。謂所司者。神祇官也。預申官者。即一日齋。亦須預申之。朱云。預申官謂神祇官稱所司。**官散齋日平旦頒告諸司。**穴云。問。文云。所司預申官。官散齋日平旦。頒告諸司。未知。神祇官者。待國司言上申賦。爲當。依例神祇官自然知而申賦。答。所司者。神祇官也。但例。神祇官主祭時。祝部來申。此時神祇官受其事。即申官耳。小祀。亦祭前一日頒告也。朱云。無散齋祭者。祭先之一日頒告耳。*未知。内外祭皆約不。答。皆約。爲班給幣帛者。但不預。社不云者。私*弘仁二年二月六日官符云。仰改齋日事。右據令條。凡祭祀所司預申官。官散齋日平旦。頒告諸司。其散齋之内。不得弔喪問疾食肉。不判刑殺。不決罰罪人。不作音樂。不預穢惡之事。今被右大臣宣偁。奉勅。散齋之日。頒告諸司。諸司未承事之前。或有犯禁忌之徒。宜改令條散齋之前一日頒告諸司。自今以後。永爲恆例。

凡供祭祀幣帛飲食。及菓實之屬。所司長官親自檢校。古記云。問。長官自親檢校何。答。長官無〔不〕得檢校者〔不得也。〕朱云。所司長官。謂如上文。預祭事〔諸〕司〔々〕長官者。未知。内外皆約不。於國司掌祠社事。故先不決何。**必令精細。勿使穢雜。**

〔淨御原朝廷紀〕淨御原朝廷は卽ち天武天皇の朝なり。この詔、日本書紀、卷二十九、天武天皇五年八月辛亥の條に見えたり。

〔東文直西文首〕東文直はヤマトノフミノアタヒ、西文首はカウチノオビトと訓む。東文直は應神天皇の二十年に歸化せる阿知使主、その子都加使主の子孫にして、代々大和國高市郡檜前邑に居る。西文直は應神天皇の十六年に歸化せる王仁の子孫にして、代々河內國に居る。而して兩氏共に漢高、漢靈の後と稱し、文事に與るを以て文氏を稱す。故にこの兩氏を東西文部又は東西漢文部といふなり。

凡常祀之外。須向社諸供幣帛者。皆取五位以上卜食 謂凡卜者。必先墨畫龜。然後灼之。兆順食墨。是爲卜食。釋云。尚書曰。卜惟洛食注云。卜必先墨畫龜。然後灼之。兆順食墨也。 者充。唯伊勢神宮常祀亦同。 朱云。未知。常祭日。皆必差使不答。

凡六月十二月晦日大祓 謂祓者解除不祥也。釋云。祓音甫物反。周禮。女巫掌歳時祓除。左傳。受蜃而祓之。杜預曰。祓除凶之禮也。*淨御原朝廷紀詔曰。四方爲大解除。用物則國別國造輪祓柱。馬一匹。布一常。以外郡司。各刀一口。鹿皮一張。钁一口。刀子一口。「鎌一口。」矢一具。稻一束。且毎戸麻一條也。 「者。中臣上御祓麻。」東西文部。 謂東漢文直。西漢文直「也」。釋云。*東文直。西文首。是謂文部。延暦六年六月卅日。右大臣宣。奉勅。自今以後。令任諸司主典已上者上之。穴云。東西文部。謂稱氏耳。學令。史部謂姓也。不要文史也。 上祓刀讀祓詞。 謂文部。漢音所讀者也。釋云。祓詞者兩文部祓讀漢語耳。穴云。問。二文部。各上別刀。幷讀別祓詞歟。爲當。上同刀。竝讀同祓詞歟。又所上祓刀。誰刀也若。一文部。上刀。幷讀祓詞訖後。更不爲哉。答。上別刀。幷讀別祓詞。但有同類耳。又所上刀。所司申官令備。但二文部。進退行事不見。其東文部參入。上刀讀祓詞。退出訖後。西文部參入也。漢語讀音。謂之祓詞。宣祓詞謂倭詞也。鐲除事令說祓詞者。可讀解除事。但上條祝詞者。可讀法刀事。此自久世。所讀傳耳。跡云。上劍謂上天皇也。上劍麻祓詞等事。兩文部在左右。而各上亦讀耳。朱云。東西文部。上祓刀讀祓詞。謂先東文部。上祓刀後。次西文部。讀祓詞也(者)。未明。或說。左右分。上祓刀。各讀祓詞也。先東後西也。祓刀。臨時作耳。作司不見者。上了後。卽給持退出。卽已得耳者。後度貞

同後記說也。古記云。問。大祓東西文部。上祓刀。幷讀祓詞意何。答。東西文部二人。各以刀一口參入御所。捧刀各讀申祓詞。卽刀所給也。東文部刀者。作造兵司〻少善之。西文部刀者。作鍛冶司。少惡之。又問。誰先誰後。答。隨文。東前參。西後參。一時共參入也。

訖。百官男女。聚集祓所。穴云。文云。百官男女。聚集祓所。未知。男官女官之官賤。若舉官内賤。又里人何。答。男官女官之人。不限官人雜色及直丁。皆可聚集。但里人進却任意耳。其可集人。不參者。依律科罪耳。私議制律云。凡祭祀及朝會。侍衞行事失錯。及違失儀式者。笞四十。應集而主司不告。及告而不至者。各笞五十。注云。謂祭祀以下及餘事。令集之。人而主司不敢告令集。罪在主司。告而不至。獨坐不至之者。故云各笞五十。

中臣宣祓詞。卜部爲解除。

凡諸國須大祓者。每郡。出刀一口。皮一張。鍬一口。及雜物等。戶別麻一條。其國造出馬一疋。穴云。刀一口。一可良。皮一張。一浚多。鍬一口。一和。國造。國別有耳。若國造闕者。無馬也。古說(記)。不依以官物買出。國造兼任郡司者。刀等並通備耳。令說。刀一口以下。雜物以上者。郡司私備耳。但國造出所馬者。祓訖之後。所至不見耳。今行事使(便)得耳。朱云。皮一張謂皮色不見。但令釋上條云。鹿皮者也。雜物以上。郡司中可備。未知。少領以上歟。不何。先云。主張以上。皆郡司耳者。郡司中作差可出者。未明。國造任郡司。無國造者。郡司兼亦出馬耳。若專無國造者。不可出馬也。國造謂官之名耳。每國一人可有者。未知。*選敍令云。國造與此同不。答。案一同耳。跡云。雜物以上。郡司之物令備。但無國造者。不出馬耳。古記云。「問」大祓刀輪皮鍬雜物何物也。答。郡司等私輪耳、皮謂鹿皮。天皇卽位。惣祭天神地祇。必須天下大祓。以外臨時在耳。

凡神戶調庸及田租者。並充造神宮及供神調度。其稅者。一准義

「義」は令云國」造異。此同不」は義令に、其大祓少毎」す川國者。牝草ヶ國造」と云へる國造と、置に云へる國造とは同じきや否やと問へるなり。

倉。謂租税者。竝是田賦。唯新輸曰租。經貯曰税也。一准義倉者。不出擧也。釋云。檢諸家字詁(話)。租音則胡
税。竝是田賦。本雖同物。見今所行。新出曰租。經年稱税耳。一准義倉者。謂不得出擧耳。

反。内相宣云*。自今以後。神戶調庸者。充供神用數(調度)。及所殘之數。具令申然後給之。亦如伊勢神税。出擧之類。准令停之。跡云。税謂百姓出時曰田租。置倉之日云税。然此始收納。幷供神之餘。竝國司檢校。合申神祇官。朱云。神戶調庸及田租。謂神戶人之田租。未知。神田何。穴云。税者一准義倉。具說新令私記及令釋了也。其神戶義倉。一混合公戶貯官倉也。或云。調庸等物。充用之殘者。亦名税者。博士不依。但調庸之殘耳。古記云。問。神戶調庸及租。幷充造神宮及供神調度也。若有乘者何。答。昔治(納)置神祇官。中間給神主等。今治置神祇官。臨時准量所用多少。給充荷(行)已訖。問。其税者。一准義倉意何。答。神戶義倉。如公民戶義倉云耳。其說字義倉云耳也。

皆國司檢校申送所司。朱云。申送所司。謂神祇官也。先可申太政官者。後度貞云。如文。申神祇官耳。但時行事。先申官者。

未明。古記云。所司何司。答。依文。神祇官。但今行狀者。自大辨至民部。民部至神祇官。給至所在故「云」所司耳。又問。義倉文。至神祇官以不。答。調庸幷田租義倉等文。又神戶戶籍。更各寫一通。送神祇官耳。

〔内相宣云々〕内相は紫微内相なり。天平寶字元年五月、之を置き内外の諸兵事を掌らしめ、その官位、祿賜、職分、雜物は竝大臣に准ぜり。置官と同時に大納言從二位藤原仲麻呂(惠美押勝)を以て之に任ぜしが、仲麻呂誅に伏するの後廢絶に歸したり。故に茲に云へる内相は、卽ち仲麻呂にして、この格年代を缺けりと雖も、天平寶字元年以後、同八年以前に發せられたる格なることを知るべし。

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　　員外宰相藤判

本書
右所寫卷本續目有前後相違一校之時所々書直者也

慶長第二曆丁酉十二月十有五　　吏部秀賢印

寬永十一年甲戌孟冬假他筆寫之令一校畢　　大府侍郎中原職忠

萬治三庚子仲冬十有二令一校畢

明和七年四月廿五日以京師本及河村氏藏版一校了　一本及異本

　即河村氏之藏本　元本即高橋家藏本

寛政六甲寅季春以一本校之

源　道　別

文政三年夏四月以彰考館本比校了

撿　挍　保　己　一

〔沙彌〕梵語にして、譯して、息慈、求寂、勤策等となす。初めて佛道に入れる者を云ふ。十戒を受け、比丘僧に隨つて受學勤行する者

令集解卷七下

僧尼令

觀玄象條　卜相吉凶條
還俗條　三寶物條
非寺院條　取童子條
飲酒食宍五辛條　有事可論條
作音樂條　聽著木蘭條
停婦女條　不得入寺條

僧尼令第七。

穴云。僧尼者沙*彌沙彌尼。皆僧尼耳。讃云。問。僧尼簡取之法。答。不見取用之法。但取識經論堪僧尼人耳。何者下條。其私度人。縱有經業。不在度限之故也。但*延曆廿五年正月廿六日官符云。應分定年料度者數竝學業事。華嚴業二人。竝令讀三(五)教指歸綱目。天台業二人。一人令讀大毗盧舍那經。一人令讀摩訶止觀。律業二人。竝令讀梵網經若瑜伽(百中論四卷。百論一卷。十二門論二卷。是日三論)(十六字格无數本朱書)聲聞地。三論業三人。二人令讀三論。一人令讀成實論。法相業三

人。二人令讀唯識論。人令讀俱舍論。右被右大臣宣稱。奉勅。攘災殖福。佛教尤勝。誘善利生。無如斯道。但夫諸佛所以出現於世。欲令一切衆生悟一如之理。然衆生之機。或利或鈍。故如來之說。有頓有漸。件等經論。所出(趣)不同。開門雖異。遂期菩提。譬猶大醫隨病與藥。設方萬殊。共在濟命。今欲興隆佛法。利益(樂)羣生。凡此諸業。廢一不可。宜准十二律。定度者之數。分業勸催。共令競學。仍須各依本業。疏讀法華金光明二部經。漢音及訓。經論之中。問大義十條。通五以上者。乃聽得度。縱如。一(二)業中無及第者。闕除其分當年「勿」度。省寮僧綱。相對案記。待有其人。後年重度。遂不得令彼此相奪廢絕其業。若有習義殊高。勿限漢音。受戒之後。皆令先必讀誦二部戒(戒)本。諳案一卷。羯磨四分律鈔。更試十二條。本業十條。戒律二條。通七以上者。依次差任立義複講及諸國講師。雖通本業。不習戒業(律)者。不聽任用。自今以後。永爲恒例。問。僧尼何爲業事。答。雜令云。凡僧尼。京國官司。每六年。造籍三通。各顯出家年月及夏臈德業。依式印之。一通留職國。以外申送太政官。一通送中務。一通送治部。所須調度。並令寺准人數出物者。案之。計安居爲臈次。謂之夏臈也。三論唯識之類。謂之德業。即知行安居。及學三論唯識之類者也。朱云。問。僧尼初何司所成也。若有見文乎答。　凡貳拾漆條

觀玄象條

凡僧尼。上觀玄象假說災祥。語及國家。妖惑百姓。謂天文爲玄象也。非眞曰假也。天反時爲災也。古凶先見爲祥也。過誤爲妖言也。語及國家。不敢斥尊號。故託曰國家也。言假說之語。關涉人主也。妖惑百姓者。以假說之言。惑一人以上。其自觀玄象。至(妖)惑百姓。摠是一(二)事相須。得罪也。若上觀玄象。所說有實。及非觀玄象。說他災祥。并雖說玄象。而不惑人者。並入下條也。釋云。玄象天也。易云。觀乎天文。以察時變是也。非眞曰假。音古雅反。災釋見考課令。妖巧也。妖音於喬反。國家謂斥人主也。上觀玄象以下。妖惑百姓以上。若就觀玄象云耳。但非觀玄象假說。并觀玄象而說不惑人。及觀玄象說實者。依下。准格律條科耳。古記(記)云。玄象謂天也。災謂惡事也。祥謂善事也。國家謂大八洲之內諸國也。名例謀反條。國

の稱なり。國俗剃髮して妻子ある者を俗沙彌と云ふ。

一二延暦廿五年正月廿六日官符」との格、類聚三代格、卷二、年分度者事、及び日本後紀、卷十三、類聚國史、卷百七十九に見えたり。

一三其自觀玄象至惑百姓總是一事相須得罪也。玄象を觀て假に災祥を說き、語を國家に及ぼしたりとも、之にては罪とならず、因りて以て百姓を惑はすに至りて初めて罪を得るなり。

〔若私習天文徒一年歟〕職制律に「凡玄象器物。天文圖書。讖書。兵書。七曜曆。太一雷公式。私家不レ得レ有。違者徒一年。(私習亦同。)」とあり。

〔妖惑百姓者不須三人卽科〕百姓を妖惑するは、一人の百姓を妖惑すれば、罪となるに足るなり。三人以上を妖惑するを須ひず。これ法文に衆と云はざる故なり。名例律には、卽ち「稱レ衆者。三人以上。」と見えたり。

〔賊盜律云畫地諦說災祥者〕これ賊盜律、造妖書及妖言條の疏文なり。

〔律疏云向家人說妖言止科不應爲重者〕下文に「依賊盜律造妖書及妖言遠流條疏云。不應爲重可科者。」とあるに據れば、この律疏が賊盜律、造妖書及造言條の疏なることは疑な

家。少義異也。穴云。玄象天也。不要以器物說也。私習天文說實事者。入下條。若以器物等假說。及國家。亦是條罪也。問。入下條而科罪者。何罪可科。※若私習天文。徒一年歟。答。暫可讀然也。災祥二也。問。災及祥說。行事一端如何。答。行事一端。思量可知。但祥行事未知。能思量耳。※妖惑百姓者。不須三人。卽科。自妖惑以上爲一事也。一云。語及國家者。不妖惑。倚入此條。語不及國家。妖惑百姓者亦同。兩說也。下說爲劣。問。※賊盜律云。畫地諦說災祥者。假有畫地理而妄說災祥。又構成怪異書。妄爲鬼神言等。如此之類。語之及國家者何。答。文稱玄象。然則自餘妖言。縱語及國家皆不可入此條。習讀天文。亦不入此條。爲不言禁書故也。問。向同居說者。亦入此條哉。答。※律疏云。向家人說妖言。止科不應爲重者。然不可入此條。今(令)說可檢覆耳。未決。同寺僧者。可比同居也。跡云。自百姓以上。是一事也。語及國家。謂見天象。假爲一人說災祥之語也。但實說者。合依下條也。朱云。僧尼。上謂爲稱天稱上字耳。八虐。如稱臣下也。災祥二事不相須也。妖惑百姓。謂別寺之僧尼亦同。但妖惑同寺僧尼者。依下條也。及律同居者。爲異科者。未明。反(也)。妖惑一人以上是也。不有三人以上也。文不稱衆故也。妖惑家人奴婢者。依下條也。依賊盜律。造妖書及妖言遠流條疏云。不應爲重可科者。不百姓故也。讚云。問。上字意。答。稱天曰上天也。稱地曰地下也。稱君曰主上也。稱臣曰臣下意耳。玄象天也。易云。觀乎天文以察時變也。又職制律。凡玄象器物。天文。私家不得有。違者徒一年條。子注云。玄象者玄天也。謂象天爲器。具以經星之文及日月所行之道。轉之以觀時變。天文謂日月五星廿八宿等者。案之。此稱玄象者。不必以器物說。但見天而假說者卽是。不云玄象之器物故也。但以器物說者。亦此條罪也。假者非眞是也。災祥者。杜預注左傳云。吉凶之先見爲祥。又左傳。天反時爲災。穴云。災與祥一也。私案。詐僞「律」凡詐(僞)爲瑞應者徒一年。若災祥之類而所司不以實對者。減(加)二等條。子注云。災謂祲沴。祥謂休徵者。今案。隨所合讀(讚)。不可一執。但於此條。災祥是一災耳。所謂凶之先見也。但於律。災與祥二耳。可求。國家謂斥人主也。妖惑者謂妖而惑之一事也。非妖與惑二事也。或云。妖者自造也。惑者傳惑者非也。妖惑僧尼。同百姓例。其妖惑百姓者。不待三人卽依此條科之。問。妖惑同居者如何。答。律疏云。向

トに據し、然れども現存賊盜律の造妖書及妖言條には此の疏文見えず。これ大寶律の文なるによつて然るか。又現存の賊盜律に脫文あるによつて然るか。

〔戲殺〕本殺意あるにあらず、戲謔によりて誤つて人を殺すを云ふなり。闘訟律に「凡戲殺傷人者。減闘殺傷二等。謂以力共戲至死和同者」云々とあり。

〔依律盜佛像者令爲眞盜〕賊盜律に「凡盜毀佛像者徒三年。卽僧尼盜毀佛像者徒流」

同居說妖言。此處不應爲重。然則不入此條也。未定。私案。依(自カ)上觀玄象以下之事。妖惑同居者。雖得滅罪。仍入此條。爲無節文故也。妖惑皆就觀玄象云耳。但非觀玄象。假說件事。並觀玄象而說不惑人。及觀玄象說實者。依下格律條科之。一云。語及國家者。百姓不妖惑。仍入此條。或語不及國家。而妖惑百姓者亦同。古記爲兩說。　問。賊盜律妖言條注云。造妖書及妖言。謂構成怪異之書。妄(詐カ)爲鬼神言。答謂妄言國家有咎惡。畫地猶說災祥。如此之類。語及國家者如何。答。文稱玄象。然則自非觀玄象以外。妖言等。縱有語及國家。不可入此條也。問。妖惑本罪。「答。」賊盜律云。凡造妖書及妖言遠流。傳用惑衆者亦如之。案之。造妖書及妖言。以妖惑百姓之人入此條。但傳惑之人。雖處同科。不入此條。卽依下條合科也。上觀玄象以下。妖惑百姓以上。摠一事也。

並習讀兵書。謂雖不成業亦是。若畜之而不習讀。及畜餘禁書者。亦入下條也。釋云。雖不成業亦是。唯畜自餘禁書。入下格律條耳。但罪唯有兵書。科徒一年耳。雖畜兵書。而不習讀者。亦入下條。讚云。習讀兵書者。職制律。所謂兵書。謂太公六韜。黃石公三略之類是也。縱有不成業亦是也。此謂有書習讀者。若有書不習讀者。依下條科耳。自餘天文。圖書。讖書。七曜曆。太一。雷公式等。依格律條科也。

殺人姧盜。謂若殺及姧家人奴婢。幷姧盜未得者。並依下條也。釋無別也。古記云。姧謂娶亦同。爲無娶法故也。盜謂强盜不得財亦同也。穴云。戲殺等。*皆爲雜犯。不入此條。問。姧家人奴婢何。答。名律除名條注云。姧謂犯良人妻妾。又雜律。姧官私婢者杖六十。姧他人及官戶陵戶婦女者杖七十者。今姧家人及婢。殊輕於姧良人。然則令入下條。問。尼被姧者如何。答。就律合案也。於家人家盜者。依例同。凡人入此條也。問。僧尼。私用父母財。或將人盜已本家財物者何。答。本法輕於凡盜。卽知可入下條。問。盜佛像及盜供養何。答。*依律。盜佛像者。令爲眞盜。其盜供養者。合勘律本法也。案本條行事殊輕。不可入此條。今依此說。跡云。姧盜未得。皆入此條。朱云。殺人謂殺僧尼幷同也。故闘謀殺無別也。殺卑幼等。雖不死償尙與殺人同者。未明其理。又殺舊家人奴婢經放爲良何。入此條不。答。也。姧謂雖有主婚。猶可稱姧也。於僧尼定夫妻。不許故也。未知。而娶夫妻僧尼。猶科姧罪。答也

菩薩減二一等一。盜而供養者杖八十。」とあり。

〔姧謂雖有主婚猶可稱姧也〕戸令には、「凡嫁レ女、皆先由二祖父母父母。伯叔父姑、兄弟、外祖父母一。次及二舅從母從父兄弟一。若舅從母從父兄弟不二同居共財一及無二此親一者。並任二女所レ欲爲二婚主一。」と見え、又戸婚律には、「凡嫁娶違レ律。祖父母父母外祖父母主婚者。獨坐二主婚一。」とありて、婚姻を爲すには主婚に由ることを要し、主婚に由りて爲せる婚姻は正當なる婚姻とせられたり。然れども僧には妻あることとなければ、主婚に由りて婚をなすも、尙これを姧と云ふべしとなり。

〔役身折報〕役身折酬の誤ならむ。人身を使役し、その庸賃を以て債務に充當するを謂ふなり。雜令、出擧條には、卽ち「家資盡者。役レ身折酬。」云々と見えたり。

(若爲)。强竊盜不得財。不入此條。但得一尺以上從者雖可得笞罪。尙入此條。但同居卑幼等盜者不入也。不科盜罪也。戸令姧條。穴云。問。僧尼。立主婚嫁娶。還俗之後離哉。答。科罪之日。稱姧了離之。問。僧尼財物不畜。於倍贓何。答。依獄令。免不。更案。*役身折報哉。成俗人故何也。私案。尼被姧家人及奴者。同此條罪也。雜律云。凡姧者徒一年。有夫者徒二年。官戸陵戸家人姧良人者。各加一等。又條云。凡姧良人者徒二年半。又條云。和姧本條。無婦女罪名者。與男子同者。檢其罪條。重於被姧良人故也。問。盜等親物者。入此條哉。答。私案戸婚律云。凡同居卑幼。私輒用財者。五端笞十。五端加一等。罪止杖一百。賊盜律云。凡同居卑幼。將人盜己家財物者。以私輒用財物論。加一等者。今罪名已異。須從下條。但又賊盜律云。凡盜〔凡〕五等親財物者。減凡人一等。四等以上遞。「減」一等者。此已盜名已存。科罪之事。須依此條。抑靜可檢問。略良人家人者。量意是重、唯入此條哉。答。不可入之。或云。入者爲非也。*私思。擧輕明重可入也。可檢。又(文)略及和誘奴婢。幷盜家人奴婢之財物者。同此條罪。案名例下卷終條。鬪訟律良人家人奴婢相犯條。賊盜律。略奴婢條等。知之耳。名例律云。犯姧盜者同凡人。子注云。僧尼犯姧盜。於法最重。故雖犯當寺家人奴婢。姧盜卽同凡人。鬪訟律云。凡家人。毆傷良人者。如凡人一等。奴婢又加一等。良人毆傷他人家人者。減凡人一等。奴婢又減一等。相使財物者。不用此律。賊盜律云。凡略奴婢者。以强盜論。和誘者以竊盜論者。案此等文知之耳。一云。姧盜未得。竝入下條。何者賊盜律云。器物之類。須移徙乃成盜。又名例請條云。盜不得財。及姧略未得。從減法故。長。問。僧尼盜佛像者。中流也。案之。罪重於俗人。明入此條。未知。盜而供養之杖八十。入此條哉。答。案彼條云。盜而供養者。卽明非盜。是知可入下條也。

四果聖人事

及詐稱得聖道。謂四果聖人之道也。釋云。聖謂四果聖人也。一曰。預流果須陀洹(恆)。二曰。一流果斯陀含。三曰。不還果阿那含。四曰。羅漢果也阿羅漢。但罪比己身有休徵科耳。不須惑衆也。古記云。聖道謂佛聖之道也。問。詐稱得聖道。吐出口。乃坐不。答。依律妖言條。合勘也。穴云。問。賊盜律云。凡造妖書及妖言遠流。注云。造謂自造休咎及鬼神之言。妄說吉凶涉於不順者。子注云。休謂妄說他人己身有休徵者。未〔及〕知。爲他

〔私思三字疑可入也〕私思ふに、輕きを擧げて以て重きを示す刑法によりて、良人を略する罪は、良人を賣する罪よりも重し。故にその罪この條文の列擧せる罪の中に入るべしとなり。

〔刑部省例〕この書のことは職員令、囚獄司の條下に述べたり。

〔道僧格〕唐に於いて道士、女冠、僧尼を取締る爲めに發せられたる法律にして、藤原佐世の日本國見在書目錄に「僧格一卷」とあるもの之なるべし。唐令には僧尼令なる篇名なし。我が令は、即ちこの道僧格を令の一篇に入れて、僧尼令となせしなり。唐に於いて道僧格の制定せられたる動機年代等に就いては、新舊唐書には何の記事も見えざれど、宋代になれる佛祖統紀には、唐の太宗の貞觀九年十月

人。說得聖道者何。答。亦不入此條讚云。依文可然。也。以上釋穴二說。貢無別。

並依法律付官司科罪。謂不論罪之輕重。皆先還俗。何者案道僧格。犯詐稱得聖道等罪。獄成者。雖會赦。猶還俗。故必先還俗。其僧尼還俗。猶俗人除名。依律犯除名者。罪雖輕從例除名。〔罪〕若重。仍依當贖法。准此言之。僧尼詐稱得聖道等者。罪雖輕猶還俗。不可更論本罪。罪若重者。仍依以告牒當之法也。釋云。並依法律。謂與俗人同也。檢格。雖會赦猶還俗者。故知。還俗科罪也。刑部省例云。大寶三年二月九日。太政官處分。訴訟人等。引證僧尼者。解部就於當寺。定問虛實也。和同元年正月廿二日。太政官處分。僧尼犯徒以上還俗。應徒會赦免者。聽爲僧尼也。古記云。並依法律。謂與俗人同也。禁法在下。但徒罪并合還俗者。未斷之間。散禁也。穴云。官司謂所在國郡。及京職。杖罪以上。並送耳。問。八十九十勿論人何。答。於僧尼。不見文。合勘也。但於苦使。放俗法耳。令(今)說名例律云。七十以上。十六以下。及廢疾。犯流罪以下收贖注云。犯加役流反逆緣坐流。會赦猶流者。不用此律。至配所免居作。又云。八十以上。十歲以下。及篤疾。犯反逆殺人應死者。上請。盜及傷人。亦收贖注云。有官者各從官當除免法。又云。餘皆勿論。九十以上。七歲以下。雖有死罪。不加刑者。案之。還俗之後。依俗人法可科。然則七十以上。百歲以下。皆先還俗。了後科罪者。一放俗人耳。年少之人亦如之。私思。還俗事似除名。依律。九十之人不除名。即知。九十僧不還俗。博士心皆還俗。問。此條罪。有從減哉。答。不論首從。皆先還俗了。而後科本罪時。依俗法可與從減。今依此說。問。下條云。以告牒當徒一年。百杖以下者。每杖十苦使。十日者。未知。此條何。答。一云。道僧格云。犯上件姧盜等獄成り。雖會赦還俗者。彼格。爲防會赦。別拔擧。但還俗之後。科罪法。依下條。徒一年以下。以告牒當。餘罪依律科也。又還俗。是除名之意。俗人除名先當而除名故也。一云。此條。別拔爲罪重。然則不用告牒。還俗而一如俗人科罪。又爲文不云用告牒當故也。一云。文稱。依法律付官司科罪。不云還俗文。然則一依格律乎。徒年以上還俗用告牒當。百杖以下。每杖十令苦使十日。兩條無別。又爲本格也(之)。獄成後雖會赦還俗。而今省除還俗字故也。餘放先私記也。問。依本格。獄成之後。雖會赦而猶還俗。未知。此令亦放彼

老少僧尼可還俗事

不可還俗事

延興寺の僧玄琬法師遺表して、沙門と百姓とは科を同うせしむべからざるを以て、自今以後僧に過あらば所屬に付し、內律を以て之を治せんことを請うて、太宗の嘉納を得たると見えたり。玄琬法師は、太宗の歸依厚かりし佛僧にして、全唐文には法師の遷化に當りて、太宗がその死を悼める詔勅見えたり。而して佛祖歷代通載には、貞觀十年、法典を參酌して僧尼の爲めに明かに條制を作りしこと見えたり。これ卽ち我が僧尼令の藍本となれる道僧格なるべし。

〔依俗法禁耳〕獄令には「凡應二議請減一者、犯二流以上若除免官當一者、並禁肱。公坐流、私罪徒、責レ保參對。其初位以上、及无位應レ贖者、犯二徒以上。及除免官當一者、梏禁。公罪徒、並散禁。不レ脫レ巾。」とあ

哉。答。然也。但雖還俗而不科本罪。博士「御」心還俗之後。令科本罪。或云。文不稱獄成未獄成。除(雖)會赦猶還俗之文。卽明。會赦。獄成未獄成。皆共放免。不還俗也。八虐及贖條。不得減贖色等。皆約此條。問。有人。有五位以下位記三四通。而情願爲僧。然後犯罪。已還俗行(訖)(了)。而將科罪之日。用此所賣位記以不。又爲僧之時。幼少不蒙父蔭。又爲僧後。年長子等。追得被父蔭乎。答。博士未決。問。此條禁法何。答。此條付官司科罪者。不預爲僧尼之事。而唯依*俗法禁耳。但下條。依彼條案耳。唯於此條。亦依下條科說依下條禁耳。朱云。並依法律。付官司科罪。謂自然先還俗後。如俗人科罪。凡於此條。僧綱凡僧無別。不用告牒。但還俗之後。得蒙親蔭。若其身先雖有位人。還俗之後。更亦不得位者。猶白丁耳。凡此條。於僧尼譬俗人如科八虐也。犯八*虐*五流亦入此條。凡八虐五流入此條者。舉輕明重義也。此條與格律條。全異不相通。凡此條。依律科。諸本罪可案律也。或云。此者。與下格律條。意不相涉。何者文云。僧尼與人鬪打者。各還俗。今案律條盜罪有杖罪以下。若依彼條令苦使者。自成矛楯。何者律*云。僧尼奸盜者。於法尤重。今文。稱與人鬪打者。卽知拳擊一下者。則可還俗。輕罪尙還俗。重罪還可苦使乎。其理顚倒。意義不通。故不約下條義。以爲長。此云在釋後。未知誰云。讚云。並依法律。付官司科罪者。先還俗而後科本罪。一如俗人也。檢本格。獄成之後。雖會赦。而猶還俗者。故知。還俗之後。更科本罪。此條之罪。不可用告牒也。

不用告牒事

跡記云。此條之犯。不論輕重。皆先還俗後。本犯杖罪者。更不科本罪。若犯徒一年。以告牒當。亦不科本罪。若犯徒一年半以上者。以告牒當一年。餘徒依律科之。*其雜犯流罪者。比徒四年。以告牒當徒一年。餘罪依律配役也。若犯加役流者。還俗而配流。居作一如白丁。若犯半年徒者。亦還俗而科半年徒。不用告牒故也。私案。就此說讀者。不科本罪例。比百杖故。可檢。或云。犯加役流者。至配所而免居作者非也。何者爲非官位除名故也。穴案。此條。科罪之事。有三說。一云。道僧格云。犯上作姧盜事(等)。獄成。雖會赦還俗者。彼格。爲防會赦。別生文。但還俗之後。依下條。謂犯徒以上。以告牒當一年。若有餘罪者。依律科之義也。物同。案之。與跡記同。一云。此條別拔爲罪尤重。然則不用告牒。而經還俗後。復科本罪。一如俗人。何者爲文不云用告牒當故。俗人除名意也。案之。與始說同也。一云。文稱依法律付官司科罪。不云還俗。然則依下

り。この法に據りて四謂するなり。

〔八虐〕謀反、謀大逆、謀叛、惡逆、不道、大不敬、不孝、不義を謂ふ。名例律にその條あり。

〔五流〕加役流、反逆緣坐流、子孫犯過失流、不孝流、會赦猶流を謂ふ。

〔律六罪〕[illegible]者於法之条」名例律下に盜條の疏なり。令撰、僧尼令の條にも、この文見えたり。

〔非謂見徒[illegible]〕[illegible]見徒囚年」以告牒當一年」にれ官當の法を準用するなり。名例律、官當の條には「凡以官當」流者三流同」比徒四年」とあり。

〔散禁〕獄令に「凡禁」囚、死罪、枷杻、婦女、及流罪以下、去杻。其杖罪、散禁。年八十、十歲及廢疾、懷孕、侏儒之類、雖犯死罪、亦散禁」とありて、この散禁の義解に「謂不枷杻禁。唯禁其出入也。」

條。徒年以上還俗。而以告牒當一年。餘罪依律科斷。如犯百杖以下。每杖十令苦使十日。何者本格云。獄成後。雖會赦還俗。而今省除還俗字故也。案之。如此云者。此條無用。甚爲非也。問。此云云。誰爲是。答。中云爲長。〈其最始說無異〉 問。僧尼有被親降哉。答。爲僧尼之日。不得爲降。但還俗之後。被親降。一如俗人也。問。此條之罪。會赦之日。若爲處分。答。道僧格云。獄成後。雖會大赦。猶還俗者。然則先還俗訖。爲科本罪依俗人法。未會赦爲當不會之色耳。 案之。俗人。犯八虐。獄成會赦除名。僧尼犯此條罪。獄成者。量情是重。故准八虐法。仍令還俗也。爲劣。 或云。此令。已除雖會大赦猶還俗之文。又不云獄成未獄成。然則凡僧尼。犯罪會赦之日。不求獄成未獄成。皆放免不煩還俗。與法異。爲是。問。名例律云。凡七十以上。十六以下。及廢疾。犯流罪以下收贖注云。犯加役流反逆緣坐流。會赦猶流者。不用此律。至配所免居作。又云。八十以上。十歲以下。及篤疾。犯反逆殺人。應死者上請。盜及傷人。亦收贖。有官者各從官當除免之法。餘皆勿論。九十以上。七歲以下。雖有死罪。不加刑者。未知。於僧尼如何處分。答。

老少可還俗事

依此令意。不論年多少。皆先還俗訖後。至于科罪。一如俗法。私案。還俗是除名意也。九十之人。律不除名。

不可還俗事

即知九十僧尼。不還俗也。〈物同〉。私案。八十僧尼。除盜及傷人之外。不還俗也。後思。此條罪者。一准盜傷令還俗也。〈可穴〉 問。貞徒以上哉否。答。此條罪。不限首從。皆還俗了後。爲首從合科斷耳。問。文云。付官司科罪。未知。十條還俗。及苦使等之色。誰可科斷。答。皆送官司。可令科斷。何者名例律云。凡除名者。比徒三年云

官司可科斷事

云。官司出入者。罪亦如之。注云。應斷還俗及苦使。官司判放。或不應還俗及苦使。官司枉入者。各依此反坐徒杖之法故也。或說。僧尼罪者。有二綱斷。亦有俗官斷。何者爲犯罪。皆於事發所官司推斷。又下條云。若有官司及罪皆於事發所官司推斷。僧綱斷決不平故。古記云。徒罪并令還俗者。未斷之間散禁耳。問。其徵。笞以上罪。依何法令禁。所以起問者。下條云。罪不至還俗。及雖應還俗。未判訖。並散禁者。則知。犯杖者。合苦使之色。已可散禁。未知。此條。犯笞杖可還俗者。依何禁法。答。下條。斷訖。苦使之時禁法耳。但於此條。杖罪散禁。笞罪不禁也。或云。下條。苦使斷訖。未領役間。依文散禁。但未斷及斷訖。苦使之間。不見禁法也。〈穴同〉。私案。此條。不限犯輕重。推定之後。自依俗法。但事未定間禁法不明。此准下條散禁之。但。除

案ニ下條ハ、別立ニ不レ脱レ巾之文一。故此條散禁以上、並皆脱レ巾。一とあり。

〔前令制湯藥今令不在制限〕大寶令に於いては、湯藥を以て療病することをも制禁せり。養老令に於いては、湯藥の二字をこの條より

官禁以外。私繫送者依律繫人。折傷以上若盜及强姧者。皆禁可送。自餘不合禁。又案。此條罪者。縱當笞罪。猶依徒法合禁。何者爲合還俗故。是比徒意耳。可問。或云。一依白丁禁法耳。私案。推定後合然也。後案。准八位禁法。何者獄令。其初位以上。犯除免官當者。枯禁公罪徒「竝」散禁者。因准事意。八位官當。與僧尼用告牒事情相類。然則犯當徒罪以上枯禁。當杖以下不用禁法也。不見所由。問。八位以上。犯官當。及凡人犯流以上。合決配者。申太政官申奏。未知。僧尼犯徒以上者。如何。答。犯死及五流。而眞決及眞配者。申官合奏。其雜犯之流。比徒四年。以告牒當。殘罪依律科。及徒用告牒色等。非是官位。如此之類。不可申奏也。穴案。下條云。僧尼自還俗者。三綱錄其貫屬。京經僧綱。自餘經國司。竝申省除附者。因准此文。還俗之狀。可申治部也。可覆。問。此條。不云還俗。而依何文讀還俗哉。答。下條云。徒年以上還俗。若有餘罪。依律科斷者。則知。依律科者。必告還俗。後依律科也。諸稱依律科罪之處。是還俗而後事耳也。

卜相吉凶條

凡僧尼卜相吉凶。

謂灼龜曰卜。視地曰相。占筮亦同「也」。釋云。相音息亮反。穴云。占筮約卜處也。今說占筮者。文所云相是。然則博士心。卜者龜也。相者占筮也。卜相者不療病即還俗也。古記云。上相吉凶謂占筮。相地也。朱云。卜相吉凶。謂占不入也。可入小道處也。或說。尚入卜相之句。

及小道。

謂厭符之類也。釋。無別也。古記云。小道謂小厭小符之類。俗云。小用師也。穴云。小道謂符造左道是也。小道。須治療及(乃)還俗也。今說。雖未療。而小道巫術事已行。亦還俗。其呪禁解除等。約小道耳。跡云。占筮厭符之類。約小道之處。

巫術。

謂巫者之方術。既是淫邪多端。不可具言。是竝雖不終事理。而已始行者。皆處還俗也。釋云。巫者行事也。*前令制湯藥。今令不在制限。古記云。巫術謂卜者筮者行事也。朱云。巫術謂祭神而療病耳。還俗之後。更不可科罪。

還俗後不可科罪事

穴云。問。依醫方治者何。答。古令。依道術符禁湯藥救療者。今除湯藥字。明不還俗。但爲非持呪故。令(合)有異科。額云。違令也。從*問。造厭符等治病。而未療其病者。不還俗。未知。有別罪乎。答。非依佛法持呪之故。可科

聞きしなり。

〔從違令也〕湯藥を以て療病する僧尼は、還俗せしむるに及ばずと雖も、尚これに違令の罪を科すべしとなり。

〔闕賦役科〕籍帳を詐り、若しくは浮逃絶貫して課役を闕く者に對する罪は、戸婚律、廐庫律等に見えたり。

〔名例律於寺內親承經教合爲師主〕これ名例律、下篇、□□の疏なり。

〔白衣〕下條、僧尼の服色の條に「釋云。須化俗白衣乃異」云々。又任僧綱條に「道編徒

可科不應爲事
不應爲輕罪也。其犯者造意從者倫還俗。無首從。但於苦使。可從減。具如先私記也。但用蔭贖者。依跡云耳。跡云。凡僧尼。依親蔭。雖令得減贖。猶還俗及苦使。但還俗訖後。依俗人之法。用減贖法耳。餘皆此。

療病者皆還俗。其依佛法持呪救疾。不在禁限。古記云。持呪謂經之呪也。道術符禁。謂道士法也。今辛國連行是也。湯藥謂萬種丸藥散藥湯藥皆是也。又合診候唯針灸不合。

還俗條
凡僧尼自還俗者。三綱錄其貫屬。謂還俗者先已還俗訖者。非今始還俗。故下文云三綱師主隱而不申也。三綱者上座寺主都維那也。釋云。自還俗訖而。隱而不申也。三綱與義解無別也。古記云。三綱謂寺主上座都維那也。其貫屬謂前本貫并本姓也。穴云。已還俗之者。不合科著俗衣罪也。問。僧尼自欲還俗。而請三綱者。行事如何。答。如自還俗時耳。無因准之文故。朱云。僧尼自還俗。謂凡自還俗。不制也。但還俗之徒。隱闕賦役者。依闕賦役科者。其罪可見律。跡云。國師僧尼與三綱同也。

自還俗不科事

還俗後可勘賦役事

京經僧綱。釋云。僧正僧都律師也。古記。無別。**自餘經國司。並申省除附。**穴云。案之。省受取即申官。官下民部。民部下本屬除附耳。從先私記解訖也。朱云。申省除附。謂申治部省除。即附民部也。古記云。省謂治部省。**若三綱及師主。**謂依止師是也。自爲白衣時。服事者也。出家以後受業。亦同也。釋云。依止師。出家之後。服膺受業亦同。穴云。令釋。服膺謂習業也。古記云。師主謂依止師也。一云。名例律。於寺內。親承經教。合爲師主者。跡云。師主謂白衣之時執仕。令得度師。并爲僧尼後。受業師。皆是也。朱云。師主謂一事也。不有必教文師主也。**隱而不申。卅日以上五十日苦役。六十日以上者百日苦役。**朱云。文云。三綱及師主。隱而隱不申

也。俗白衣也」とあり。故に白衣の時は、即ち未だ俗人にてありし時の意なり。

［相隱親］名例律に「凡同居若三等以上親、及外祖父母子孫之婦、夫之兄弟、及兄弟妻有ㇾ罪相爲ㇾ隱、家人奴婢爲ㇾ主隱、皆勿ㇾ論。」とあり。

［依名例律同居卑幼用財科也］茲に云へる名律例は「若於二其師一與二伯叔父母一同。於二其弟子一與二兄弟之子一同。」云々とあるものなり。弟子を兄弟の子に准ずる故に、弟子の財を盗むものを卑幼の財を盜む罪に准ずるなり。卑幼の財を盜む罪は、賊盜律の制するところなり。

［物不滿一尺無罪也］賊盜律に「凡竊盜不ㇾ得ㇾ財笞五十。一尺杖六十。」とあり。故に贓物一尺に滿たざる者は無

者。未知。國司僧綱隱何。又隱而不申者。未知。知不申與。官司知隱者。亦罪科者。未知。何罪可科。穴云。雖*相隱親不聽隱。故科此坐。古記云。苦使謂役使一種也。跡云。問。官司知而不糺者。科何罪乎。答。雖相隱親不聽隱。他放此。朱云。後度。貞疑不定也。但先同此說耳。

三寶物事

凡僧尼。將三寶物。餉遺官人。謂。三寶者佛法僧也。餉遺者無心囑請。直將送與。若送私物。妄相囑請者亦同。官人者內外官主典以上。若遺凡人幷自用者。須准同居卑幼用財之法。其三寶物混在一處。未經分割。故不科盜罪。若僧物分訖而盜者。依凡盜法。其同財弟子盜者。亦從同居卑幼之律也。釋云。三寶佛法僧也。爲防囑請立文。將三寶物遺。雖無囑請猶苦使。將私物送爲囑請亦同。無所囑請者非也。凡僧尼用三寶物。與同居卑幼用財同。故不科盜罪。若自用幷與凡人者。依佛法科。若僧物各分得畢。而盜者依凡盜法。若同財弟子盜者。*依名例律。同同居卑幼用財科也。不送物直囑請者。依下條五十日苦使耳。案。受送物官人者(苦)。依囑請受者。依職制律。枉法不枉法贓科。若無心囑請者。依坐贓科耳。官人謂百官人也。古記云。僧尼將三寶物。餉遺官人。謂爲囑請立文。將三寶物遺。雖無囑請猶苦使。將私物送爲囑請亦同。無所囑請者非也。不送物直囑請者。依下條。五十日若使耳。穴云。三寶物者佛法僧物也。未分得之間。名三寶物耳。令釋云。以私物送者。若有心囑請者

三寶物事

亦同。若無心囑請者非也者。令案令心。以三寶物送者。雖無囑請尚坐之。尋其心者。爲防囑請。然則以私物送。亦爲防囑請。尚猶可苦使。博士依令釋說。其所受官人。依囑請者。依枉法不枉法科。不依囑請者。可科坐贓。令釋依之。其將衆僧供養料餉者。亦是三寶物。但已分之後者。依盜法也。*物不滿一尺無罪也。諸贓不足一尺無罪故。但依囑請者。依下條耳。直送人及自用者。放同居卑幼用財也。或云。依法科。博士不依之。額云。以私物送官司囑請者。官人依枉法不枉法科。僧尼各隨與色罪耳。依此說。以三寶物與者亦罪可科重也。跡云。餉遺官人謂無事而遺。或有事而遺。皆是。但囑請或枉法者。依律論。若三寶物自盜取。或非官人而直遺人者。同同居

卑勢輙用財物合科。穴云。句人盜者。加二等合科。被句人讀凡盜。但已分之後。盜餘僧物者。依凡盜法也。朱云。三寶物者。佛之御布施此佛物也。爲造寺及寫經等。備什物等是法物也。衆僧之供養什等。是僧物者。

三寶物事

不同也。謂遣官人。謂監遣史生等。可得附寺亦同也。將私物送官司者。雖無附請心。尙可科罪也。若屬罪等可科耳。可求者。未明。遊令釋耳。何者。三寶物送。雖無附寺意。不免罪故者。

若合構朋黨。擾亂徒衆。謂假有一衆僧。欲排寺主。招引黨類。合謀構害。互相讚毀。亂人視聽之類也。古記云。合構謂放者如然爲。古者如是爲。數人共相同。而誘引他人一種耳。朋黨謂朋友也。徒衆謂道俗竝是。一云。若合構朋黨。擾亂徒衆。謂將物送官司。爲僧是。以阿黨相囑請是。誹敎化者。非新撰見文也。徒衆謂卽僧尼是。俗人者非。其爲親屬俗人囑請者。下條見文也。釋云。假如。有一罪僧。欲排寺主。相名物類。讒構陰謀。使此鑿穿。東西請訪。人（々）人非一。事發多方。寺內徒衆。自然躁動。朋黨相吠。是與當同之類也。徒衆者僧尼徒也。穴云。朋黨黨類也。假。甲僧合構黨類擾亂乙僧是也。今說。亂三人以上。額云。不知三人也。跡云。朋黨。且合稱。此說。未明。又同了。朱云。擾亂徒衆。謂擾亂三人以上者也。但先疑耳。

及罵辱三綱。陵突長宿。謂罵者惡言也。辱者恥辱也。陵者侵易。突者侮慢也。長宿者長老宿德。其罵辱者重。凌突者輕。長宿疏遠。三綱稍卑。卽明。凌突三綱者不合苦使之罪。穴云。案。惡言曰罵。音莫駕反。陵犯也。突欺也。音他骨反。長宿長老也。宿音思陸反。大也。謂老人爲宿十是也。罵辱僧綱亦同內律也。內律云。若病不知法。依止十萬知法者。知度論云。所謂長老亦必只年者。老者在腹髮白。空老內無德。能捨罪福果精進行梵行。已離一切法。是名爲長老。又云。有知慧精進。雖小而老。無知慧者。雖老而是小也。或云。罵辱。凌突。文異義同。古記云。罵辱。謂罵也。凌突謂加諸侮蔑。

阿奈豆留事

倚也。長宿者謂宿德者也。又時長者是。問。罵僧綱者爲答。亦同。穴云。罵辱爲重。陵突爲輕也。陵突三綱者。不入其條。科不應爲等耳。何者不條罵辱三綱。不論俗之故。律士依此說。一說。罵辱凌突同意。下條。謂三綱。亦同俗也。長宿長者尙宿德也。宿德謂如德其長老。無知宿德幼少者。宜可求也。突謂觸也。跡云。罵

罪なりと解釋せるなり。

〔三人以上〕名例律に「稱レ衆者。三人以上。」とあり。徒衆の衆をこの律に云ふ衆と同義に解せるなり。

〔內律〕內法と云へるに同じ。佛法の戒律を云ふ。

〔別立道場聚衆教化謂行基大德行事之類是也〕行基私に沙彌を度する罪によりて獄に投ぜられしこと、元亨釋書、卷十四の行基傳に見えたり。この文によれば、行基は又別に道場を立てゝ衆を聚めて教化する律にも觸れたること知らる。

詈陵突。並同凌心耳。長宿謂和上之類。朱云。罵辱三綱。謂長宿僧綱亦同也。凌突長宿。謂三綱僧綱亦同也。長宿謂有智足敬人也。無知之老人者非也。假每寺可有長宿耳。或云。罵辱長宿者。百日苦使也。陵突三綱者。依不應爲重可苦使者也。**者。百日苦使。若集論事。辭狀正直。以理陳〔諫〕者。不在此例。**朱云。依學文之事論者。未知。若亦約他事不。答。古記云。若集論事。謂寺內雜政之(也)。辭狀正直。謂是理灼然也。以理陳諫者。枉事正諫也。論義亦同。

非寺院條

凡僧尼。非在寺院。別立道場。聚衆教化。

罪福事

謂道場教化相須還俗。若雖立道場。而不教化者。須科違令毀去道場也。釋云。院垣院也。音王眷反。師說云。雖是聚衆教化。而非妄說罪福者。不須還俗。*唯科違令毀折道場耳。或云。道場謂修道之場也。穴云。雖立道場。不教化者。科私畜財物違令也。古記云。別立道場。聚衆教化。謂行基大德行事之類是。**並妄說罪福。**謂在寺院而妄說也。釋云。妄說罪福者。不限院內外。但妄說者。即還俗耳。或云。并者上下兩辭相連詞也。說罪福謂梵天經之類也。穴云。妄說罪福。謂不合佛法妄說是也。跡云。別立道場教化者。雖說眞如。又在寺內妄說罪福者。並還俗也。古記云。并妄說罪福。謂於院內說「是」梵天經辭。妄說之類是。**及毆擊長宿**謂據上條。長宿三綱。尊卑既異。今此條。唯舉尊者。故毆卑者不可還俗。自須准毆傷輕重。依格律條論。但不可輕於罵辱之罪。其凡僧相毆者。亦依下條也。釋云。三綱僧綱亦同。但以手足打。一下即是。凡僧相毆者。杖罪以下。隨狀罪(罰)苦使不還俗。一云。同類相鬪者。一依緇徒戒律耳。徒以上依下格律條也。與凡人鬪打者。依下條還俗也。一云。長宿重於三綱。故打三綱者。隨毆傷輕重。依律科。以杖比苦使。但不得輕罵辱。百日苦使。古記云。及毆擊長宿者。毆三綱僧綱亦同。自餘僧。相鬪打。杖罪以下。隨狀罰苦使不得俗。徒以上依律也。唯長宿以上。以手足一下以上。皆還俗也。與他人鬪打者。依下條。亦還俗也。穴云。問。一說。毆三綱僧綱者不還

國等作見法而不舉劾之罪耳、義從律ニ、凡寺内有一人爲ㇾ證、及皆止監者甲長計耳。中略、國司所ㇾ管部多少、當は當爲ㇾ罪、云々とあるを言へるなり。

俗。陵長宿還俗。其理何。答。隨文習耳。僧綱三綱。竝科凡鬪罪。但不可輕於罵罪也。今說同類相鬪者。一依律徒成律耳。此說得不。如何。答。今同類相打者。依俗人凡鬪法之說。爲長。但徒以上。依格律條耳。一說。與陵長宿同罪。問。〔僧尼打己〕尊長卑幼者。依俗法歟以不。答。可依親法可求。**者、皆還俗**。朱云。朱知。還俗之後。更亦科罪不。答。陵擊長宿罪。重於還俗。可科罪者。未知。此時用告牒不可。

國郡官司。知而不禁止者。依律科罪。謂不禁止者。犯上三事。已過之後。知而不糺。若知其始。犯而不禁止者。依律合與同罪也。依律科罪者。科違令罪。但陵擊長宿。以至徒以上。而知不糺者。科知所部有犯法。而不舉劾之罪也。釋云。案。上三事不禁止者。依律科違令。幷知*所部有犯法。而不舉劾之罪耳。一云。國郡司知而不禁止者。謂別立道場所屬國郡司是也。幷守以下不預國郡者非也。古記云。國郡司知而不禁止者。謂別立道場所屬國郡司是。幷守以下不預國郡也。穴云。問。國郡官司知而不禁止者。依律科罪者。未知。何罪。若爲。「古」答云。科違令不舉劾等罪。跡云。以還俗比徒一年。笠(令)科一年。故縱之故。令說。一年減三等。杖八十耳。今依後云爲者。國郡官司知而不禁止者、三綱僧綱、同國郡司。但玄蕃治部者無罪。但能思量耳。里長知而不禁。無罪也。治部玄蕃。亦放此耳。其由見先私記。僧綱三綱知不禁。不見文。無罪。諸條犯罪。國郡司知而不糺。亦依律科耳。跡云。擊長宿者。雖是本罪杖以下。而官司知而不禁止者。徒一年科。朱云。貞云。不可同罪。依律可減科者。未知。朱云。國郡官司知而不禁止者。依律「科」罪。謂科違令。幷知所部有犯法。而不舉劾之罪也。此科兩種罪者。隨僧犯罪所科者。未知。其意何。答。先案。僧尼科違令罪。時官司亦可科違令罪耳。何者此令知而不禁止故者。朱文云。知不禁止者、未知不如何、

玄蕃治部無罪事

其有乞食者。三綱連署經國郡司。勘知精進練行謂精進者慇懃也。言精銳求道。進而不退也。練者閑練也。言閑練情性。而以求解脫也。釋云。案。精進慇懃也。對懈怠之辭也。練以火治物之名也。熟練爲練。鍊金爲鍊。幷音落見反。然則練行。去麁入妙之善行耳。練釋見說文。古記云。精進練行。

〔律云弟子〕名例律に「於二其弟子一與二兄弟之子一同。」とあるを指す。

謂行基大德行事是。判許。京内仍經玄蕃知。穴云。問。國郡司勘知精神練行判許。京内經玄蕃者。未知。國司玄蕃判許行事何。答。取欲乞食人辭牒。三綱署而送郡。郡勘實而加署。轉送國。國判給耳。但郡司署所者。用郡印。國司署所者。用國印耳。京内。三綱僧綱玄蕃治部。以次署名亦同。其用印亦同郡國也。朱云。京内。仍經玄蕃知者。未知。誰判可許。答。玄蕃經治部。治部則其書後注判許狀。更不作別書也。不留案者。未明。竝須午前捧鉢告乞。釋云。鉢器類。手承曰捧。音敷隴反。案。鉢鐵器。所以盛飯也。音博末反。古記云。告乞謂令告。知主人乞。故云告乞也。跡云。告乞猶乞也。不得因此更乞餘物。謂衣服之類也。釋云。衣服之類。若乞餘物科違令。道僧格。乞餘物。准僧教化論。一云。直云已身服用而乞者。科違令罪。若詐云爲功德者。以詐勘(欺)科(律カ)。古記云。餘物謂衣服財物之類。穴云。乞他物者。放令釋耳。朱云。不得乞餘物。謂若乞者。科違令者。後度。尤如令釋也。

凡僧。聽近親謂三等以上。餘稱近親。皆准此也。釋云。近親者三等以上也。古記云。近親謂親屬也。跡云。近親謂三等以上。但依義。五等以上亦合取也。鄕里謂本貫也。釋云。鄕里所生鄕里也。古記云。鄕里謂不限遠近也。朱云。近親鄕里者。一歟。二歟。答。先云。二事者。取信心童子。謂未成人之稱也。釋云。廣雅。信敬也。童子。未成人之稱也。穴云。童子與*律云弟子殊也。童子習業者。令云。受業師。不習業者。同凡人也。供侍。至年十七。各還本邑。穴云。供侍。如供承也。古記云。供侍謂仕也。朱云。年至十七。各還本邑者。不還者。科違令罪者。其尼。取婦女情願者。謂不限年之長幼。但取於近親鄕里。釋云。不限年多少也。古記無別也。穴云。情願者。婦女之願也。

〔與神祇令宍義異也〕本條僧尼の宍を食ふを禁ぜるは、不殺生戒の爲めなり。神祇令散齋の間宍を食ふことを禁ぜるは、血穢を忌む故なり。故に本條の宍は廣く生類を意味し、神祇令の宍は血の滴る野獸の肉のみを意味するなり。

〔醉亂鬪打下可罪之也〕[illegible]

〔科俗人同類相犯罪〕普通の鬪毆傷殺の罪を科するなり。鬪訟律には「凡家人毆二傷良人一者、官戶與二家人一同。加二凡

凡僧尼。飮酒食宍服五辛者。謂飮酒者不至醉亂也。食宍者廣包含生之肉也。五辛者一曰大蒜。二曰慈(茖)葱。三曰角(慈)葱。四曰蘭葱。五曰興蕖也。釋云。飮酒不至醉亂也。食肉廣包含生之肉也。如有飮(殺カ)食者。考諸内教。無極重罪斷。爲還俗。於法無礙。五辛者。准梵網經云。大蒜。革(茖カ)葱。慈葱。蘭葱。興蕖。又雜阿含云。木葱。革葱。蒜。興蕖。蘭葱。一曰大蒜也。蒜也。二曰蕪葱也。葱也。三曰角(善カ)葱也。鶴蒜也。四曰蘭葱也。澤蒜也。五曰興蕖也。異母也。古記云。食宍五辛者。謂鳥魚之類亦同。飮酒謂不至醉也。穴云。殺食者。依令釋爲罰(樴)也。若殺而不食者。量意罰。於殺而食。依格律條。令三綱科罰。問。可請 跡云。宍*用含生類。與神祇令宍義異也。五辛謂葷葱日葷淺儭興許也。　卅日苦使。若爲疾病藥分所須。三綱給其日限。若飮酒醉亂。及與人鬪打者。各還俗。謂若本罪徒以上。及僧尼相鬪打者。並依下條也。釋云。醉亂鬪打。不可相須也。穴云。與僧鬪打者。科俗人同類相犯*罪之。令倒問。於子孫鬪打之罪。百杖以下只還俗而已哉。若徒一年以上。雖當條有罪名。若所爲重。仍依下條論哉。又高年事卿之哉。答。杖以下徒罪以上可然。但打子孫及尊長。可求後日定。依俗人尊長卑幼相打之法耳。但不見明文。可尋。古記云。及與人鬪打者。謂與俗人相毆。是二僧相打者。依下條耳。跡云。問。此條或若使。或道俗等。如有告牒俗何科。答。與人鬪打者還俗。唯食宍五辛者。止解僧綱任耳。何者上條云。犯奸盜者。依法律。付官司科罪。如上諸條。別雖釋立重罪用告牒。皆同故也。問。付官司科罪是別重於常犯。而何聽用告牒乎。答。付官司科罪。食宍者卅日苦使。如此之類。定重於常犯。然是釋重立罪文指耳。於用告牒。無妨也。朱云。飮酒醉亂。與人鬪打者還俗謂若會降。不還俗。但會一等降。只科百日苦使也。依律比徒故也。會赦不還俗。不免罪也。問。鬪打幾事。答。一事也。與人鬪打。謂家人奴婢不入也。未知。與家人奴婢鬪打何。答。此依格律條科皆也。問。還俗之後更科罪不。答。此文爲鬪打只還俗。更亦不坐。若折傷者。更科本罪

人一等一。（中略）奴婢又減二一等一。若奴婢毆二良人一折二跌支體一及瞎二其一目一者絞。死者各斬。毆二傷殺他人家人一者。減二凡人一等一。奴婢又減二一等一。」云々とありて、家人良人を犯す罪は凡人の罪より一等重く、奴婢良人を犯す罪は、更に一等重く、反對に良人家人を犯す罪は凡人の罪より一等輕く、良人奴婢を犯す罪は更に一等輕く、良人、家人、奴婢各々同類相犯す罪は相等し。故に僧尼互に相犯すものは、即ち同類相犯すの罪によるなり。

〔貞云〕貞菜の令私記に曰くの謂なり。貞は佐藤博士の律令考これを貞江繼人に擬したり。繼人は、もと螺江部繼人と稱せしが、嵯峨天皇の弘仁七年外從五位下を授けられ、同十三年從五位下を授けらる

者。未知。而則用告牒不。答。告牒不用。或說。此條。爲杖以下還俗立別條。但徒以上者。依下條用告牒者。竝未明、後度貞反同後說了。未明。問。與尊長卑幼鬪打何。貞*云。打尊長必可還俗也。但於打子孫等者。不被云鬪罪耳者。或云。打子孫雖無罪。於僧尼猶依此文還俗者未問。鬪訟律云。祖父母父母爲人所毆擊。子孫即毆擊之。非折傷者勿論者。未知。如此類。於僧尼何。問。凡除初一條之外。諸條還俗。更科本罪色（也）。皆約下條用告牒不。答。

凡僧尼。有事須論。不緣所司。輙上表啓。謂有事者。寺家事也。所司者。治部玄蕃。其外國可經國司也。釋云。有事謂寺事也。或說。以僧尼身事。并陳意見者非也。何者案道僧格云。寺觀有事須論故也。所司者玄蕃治部也。古記云。有事須論。謂以身事須申官。并陳意見者。須緣玄蕃治部。唯凡人者。依公式令。緣辨官耳也。所司謂治部玄蕃也。輙上表啓謂進太政官幷東宮官也。穴云。事謂意見幷身事衆事功德是也。所司謂國及治部玄蕃僧綱等是也。三綱亦合云所司。爲掌科罰故也。郡司者。此於僧尼。不合云所司也。少不安也。額云。自郡並國。如常例。可經國及僧綱。而經國不經僧綱。亦爲不緣所司也。後定可爲越訴罪。其不經國。直向僧綱所者。科不由所管越言上及越訴之罪也。今定依越科。問。表者經中務可上達也。而經僧綱治部等。不緣中務。直上者何。答。文稱所司。僧綱以下是。其中務非也。於僧非所司。然則無罪也。今說亦爲不緣所司也。跡云。有事謂先有公事。次雖有私事。不緣所司。輙上表啓。亦同也。所司謂三綱僧綱玄蕃治部太政官等次次合經申。而越上表啓何。答。此「句」以上五句官司。皆理有屈滯。須申論者。得上表。但囑請不聽也。假令。僧綱有抑屈。而不經治部玄蕃。而越申太政官者。合科越訴罪之類。餘推可知。朱云。問。不緣所司。輙上表啓者。未知。何司。答。治部玄蕃者。未知。僧綱何。答。三綱僧綱

越訴罪事

太政官皆爲所司者。**并擾亂官家。妄相屬請**謂不論主司許與不許。唯止囑請者即是也。釋云。杜預注左傳。囑託也。音之欲反。廣雅。請求

也。乞也。穴云。囑請謂所司不聽。尚即合科也。私思爲是。但垂律例耳。抑可覆檢。律云。監臨勢要爲人囑請法云。不問許與不許者。爲諍也。囑請於僧綱三綱亦同。爲是。古記云。擾亂官家也。妄相囑請。謂夫太良加波志久。官家爾妄相囑請也。官家謂官司也。跡云。囑請謂官司雖不云然。皆是也。擾亂官家。妄相囑請。謂頻囑請於官家心耳。朱云。擾亂官家。謂受囑請官司擾亂者。未明。**者。五十日苦使。再**

犯者百日苦使。謂已發再（更）犯與律更犯。其意同。若先上表啓。後妄囑請者。亦是再犯文爲求南事之下故。其第三度犯者。更始五十日苦使。第四度犯者。百日苦使。與三犯徒

苦使相累事

流之律。其義同。若二罪以上倶發者。亦依律取例。其先後四度舉犯而一度摠斷者。不得過二百日。何者爲准杖法故也。釋云。皆是重犯者。不在再犯之限也。案再犯者百日苦使者。第三度。科五十日。第四度。科百日苦使。又犯者准此例。其二罪以上倶發。或發訖。更犯之類。悉依律取例。又先後四度累。一斷者。不過二百日。何者。爲准杖法故。是亦依律取例耳。三犯盜徒流之義。至第四度始爲一犯。不併計前犯三度。穴云。再犯。謂重犯更犯也。律有再犯之字。令無再犯之文故也。爲是。律志。計降前犯。是條。亦通稱再也。第三度。可五十日苦使。爲再犯百日科了故。犯上表啓而又犯囑請。亦稱再犯也。雖累役。不過二百日。不依民博士之説也。問。謂二百日苦使。而苦使之間。又犯者何。答。更計餘可役日數。滿二百日耳。跡云。亦二同不知得不後定此云是也。或云。第三度亦科百日苦使。又犯者亦如亦不安。與律相違。故與僧綱一同也。跡云。再犯者。百日苦使。罪以外更犯故。若又犯者又百日。餘放此。凡此犯謂已發更犯。不待斷訖。但累雖苦使。不得過二百日。此杖罪故。若此二百日役中。而又犯者。併所餘之日。更滿二百日耳。朱云。於俗人不論。故何者。名例律云。即重犯流者。依留住法決杖者。未明。問。一度上表啓。事有又囑請者。得名再犯否。答。表啓與囑請。雖事異。而科罪。是同種。合爲再犯。朱云。問。上表事訖。又上表。同爲犯不。答。可爲再犯者也。再犯者百日苦使。謂事發更犯者。先罪雖未苦使猶爲再犯。百五十日苦使「也」。此説尚未明。又同下配外國寺條。并律三犯條。志遣也。貞云。依條等文。稱三犯。此條稱再犯故者。私心同也。凡此再犯者。只爲此一條也。餘條不可入此文也。假。不經治部玄蕃。越申官者。

るに及んで、貞江連の姓を賜はれり。（官家文草、政事要略、法曹類林に見えたる繼人の明法勘文には、何れも明法博士と見えたれば、その弘仁年中の明法博士にして法律に練達せる人なりしこと疑なし。一條兼良の令抄に貞大夫云とあるもの亦この繼人のことなるべし。）

〔若二罪以上倶發者亦依律取例〕若し僧尼令に規定せる罪を二つ以上同時に犯せる場合には「凡二罪以上倶發、以レ重論、等者從一」云々なる名例律の條文に例をとるなり。

〔不得過二百日苦使者謂准杖法故也〕名例律には「其杖罪以下、亦各依二數決之一、累决笞杖者、不レ得レ過二二百一」とありて、杖罪は二百を以て極數とす。而して僧尼令には「凡僧尼

越訴罪。此笞卌。可苦使科也。但至官遂上表者。依此文。可科五十日苦使者。掠云。累決笞杖者。不得過二百日苦使者。爲眞決也。於苦使者。比四年徒可苦使。何者名例律云。累流徒應役者。不得過四年故者。凡律情。於可贖人者。不論徒年多少。可贖故者。未明。貞云。再犯者百日苦使者。況更至第三犯。亦可百日苦使者。此說違令釋。又私案。依賊盜律。三犯徒者流者。而則亦犯徒者亦流哉何。貞更反同令釋也。未明。抑若與律可異論哉何。

若有官司及僧綱。斷決不平。理有屈滯。須申論者。不在此例。

釋云。屈滯者屈曲也。滯留也。音直例反。須申論者。不在此限謂以理申論耳。但「不可囑請也」。古記云。若有官司。謂玄蕃治部也。若國司及三綱。斷決不平。不緣治部玄蕃。輙申辨官。亦苦使。爲越訴故也。斷決不平。理有屈滯。須申論者。彈正受須爲問也。穴云。僧綱斷決不平。謂二綱斷決不平。陳僧綱。僧綱亦不平是也。朱云。問。斷決幾事。答。先云。一事者。未明。斷決不平。須申論者。不在此例者。若合理。誤不知。申不平者無罪也。請不理然人情者。未明。

凡僧尼。作音樂及博戲者。

謂雙六樗蒲之類也。釋云。音樂謂不相須也。博戲者武習力競之類。亦不聽。與俗人異也。告博戲盜賊之類。雖有報給之文。於僧尼告者。止沒官耳。不許告敗故。古記云。音樂謂不相須。與律作樂少義異也。*博戲謂武習力競之類亦不聽。與俗人少異也。博戲者。雜不賭亦苦使。雜戲皆是。在席所有之物。幷勾合出九得物。爲人糺告者。依〔賞〕賞例。幷沒官。輸物僧幷容止僧尼糺告者亦沒官。爲不聽音財物故。唯與俗人相戲者。俗人糺告者。依賞例。棊財賭過多亦同也。穴云。習武爭力。又〔及〕例弓作箭之類亦不聽。今案。此等之類爲苦使條。制外所犯。不至還俗。上條。釋云。殺食者還俗。無疑者。此等爲條制外。至還俗之罪。可請。*正說。博戲者。停止主人及出九勾合等亦同。

百日苦使。棊琴不在制限。

有レ犯。准二格律一。合二徒年以上一者、還俗。(中略)如犯二百杖以下一、毎二杖十一。令レ苦二使十日一。」云々とありて、俗人杖十は僧尼の苦使十日に當れり。故に僧尼の苦使は二百日以上に渉るを得ずと云へるなり。

〔民博士〕佐藤博士の律令考は、「民云」とあるは、卽ち民博士なるべし。但し其人は考へずと云へり。但し其後に發見せられたる法曹類林、卷百九十七の殘卷には「明法博士民支人論云。」云々と見えたり。茲に云ふ民博士は恐らくこの民支人なるべし。

〔博戲謂武習力競之類亦不聽與俗人少異也〕唐律疏義、雜律、博戲の條には、卽ち「弓射既習二武藝一。雖レ賭レ物亦無二罪名一。」云々とあり。我が雜律傳はらざれど、この疏文ありしこ

と疑の條也なし。[illegible]に俗人の間にありては、賭射をなすことは罪とならざりしも、僧尼の間にありては、賭射も制禁の中にあり。俗人を制する律の博戲と、僧尼を制する本條の博戲とは、その[illegible]少しく異れり。

「博戲者停止主人及出九句合等亦同」[illegible]律には、「諸博戲賭財物」者。各杖一百。「中略」其停止主人及出九、若和合者、各如之」賭飲食」者不坐」とあり。

「戸令聽婚嫁之法」下條に引ける、凡男年十五、女年十三以上、[illegible]を聽す。なる條文を謂ふ。

朱云。未知。琴之志何。答。只琴一色也。不包餘琴者。自餘琴。可入音樂者也。古記云。碁謂賭財雙六。亦不制。爲不聽者財物故。琴謂舜五絃琴之類是。一云。琴七絃有。在徽（徽）僧尼聽。

色事

凡僧尼。聽著木蘭。青碧。皂。黃。及壞色等衣。謂木蘭者。黃橡也。青碧者。碧亦青色也。壞色者。失錯常色。

謂壞并令者也。釋云。木蘭者黃橡蒲萄等色。是又色似橡。而色純不明也。青碧者紺色。謂之青也。綠色謂之碧也。壞色者非令。故云壞色。假如。衲衣之類。涅槃經。失錯常色是也。假令。蘇方紫色洗壞之類。其色不正而醜也。古記云。木蘭謂黃橡蒲萄等色是。青謂紺色也。碧謂綠色也。壞色謂涅槃經。失錯常色是。假令。蘇方紫色洗壞之類。但衲色亦是也。穴云。木蘭謂木色也。跡云。青紺也。碧綠也。壞色失常也。

餘色。及綾羅錦綺。並不得服用。違者各十日苦使。輒著俗衣者。謂衣冠並著也。雖不並著。犯其一者。亦須依彿法論也。釋云。須化成白衣乃坐。古記云。綺謂薄綺。與俗人帶綺少異也。輒去法服。謂脫去袈裟巾飛（裳）也。雖不去法服仍著俗衣者。亦同。朱云。未知。於僧相須衣冠不。答。可相須也。如令釋心者。**百日苦使。**

停婦女事

凡寺。僧房停婦女。尼房停男夫。謂男女不限年之多少。但須臨時斟酌之也。釋云。若有犯者。自從上條犯法。其有僧房停尼。尼房停僧者。

一依下條輙入之法耳。但經十日以上者。入僧停尼。並依上條百日苦使。何者。從重故也。其男婦年紀。一准戸令聽婚嫁之法耳。古記云。問。男婦年限有不。答。無限。唯隨狀耳。一云。依戸令。男年十五以上。女年十三以上聽婚嫁之。依此條令制。一云。婦女小兒亦不合聽。唯男夫七歲以下合聽也。男婦無科。若有姦通者。各自姦論也。朱云。或云。此條僧尼立制也。不犯者於人人無罪者。貞不同也。或云。科不應爲者。未明也。人人

留人。年限臨時可量其身體也。不依戸令年之限也。**經一宿以上。其所由人。**日來夜去非科事 謂所停僧尼。其被停男女者。自依首從律。但僧尼者。雖是爲從。猶科苦使。不合減罪「也」。釋云。男女亦與同罪。亦案格可知也。又文稱*經宿。即知。日來夜去者非也。雖晝無。而夜在者即坐也。唯親戚家口經過而。三綱相知。別院相見者許耳。古記云。問。經一宿以上。未知其理。答。文稱經宿。日來夜去者非。日雖不在而夜在者即是。問。日來夜去。累日常如是。若爲科斷。答。此亦不合聽也。穴云。僧首者婦女爲從也。男夫首者。尼不從減。今爲是。跡云。其僧房停尼。一宿以上九宿以下者。僧尼並同。不得輒入人(人カ)。合五十日苦使。十宿以上並百日苦使。但停俗人者。從首從合科。假令。俗人爲首。經一宿者苦十。若爲從者減一等。但僧尼。雖爲首從。不合增減其罪也。朱云。所由人十日苦使。謂留人之罪也。若數人共相謀留者。「作首」從科者。然則科十日苦使時。從者無罪耳。又留人與被留人。求所由。作首從科者。此說如令釋。**十日苦使。五日以上卅日苦使。十日以上百日苦使。三綱知而聽者。同所由人罪。**穴云。問。文云。三綱知而聽者。同所由人罪者。案之。所由人。經十日以上者。百日苦使。未知。三綱聞知。只經一日。事發者。猶同所由人科百日苦使哉。爲當。同經一宿以上。而只十日苦使乎。答。計日科罪。一同所由人。不得重於停人耳。但今說猶百日苦使。稱與同罪故。跡云。三綱知而聽者。同所由人罪。謂凡僧尼不用相隱之法。他放此。朱云。三綱知而聽者。同所由人罪者。未知。留經數日之後。三綱知猶聽。何日始可計日。答。不計日也。知而聽則科此罪者。未明。古記云。十日以上。謂無上(止)限日也。

凡僧。不得輒入尼寺。尼輒不得入僧寺。朱云。若入者科違令罪也。雖父母不入聽者。未知。爲對制意歟。答。於寺内僧尼

〔文稱經宿〕文何々と稱すと法文を擧げたるときは、その法文の文字解釋を行ひて、法文を狹く解すること、集解諸家の常例なり。

可數々。故不載者。私案。此條釋。見上僧房停婦女條也。跡云「也」。古記云。問。僧輙入尼寺。經一宿以上者。若爲科斷。答。停尼者。依上條停男夫當科。入僧者以違令科也。一云。入僧停尼。幷依上條以停男夫婦女罪科。何者女徧不得輙入。雖不經宿。輙入者。爲違令當科故。出滿日止宿亦同。唯停止主人。以保內罪論之。**其有觀省師主**。釋云。爾雅。觀見也。音渠息丹反。師主。省是省之意也。音釋見上注。**及死病看問**。謂雖非師主。皆聽看問也。釋云。看病問死耳。**齋戒**。謂齋會也。釋無別也。**功德**。謂修善也。釋云。造作佛經之類也。**聽學**。謂學問也。釋無別也。古記云。齋戒功德。謂齋會幷造作佛經之類。聽學謂學問也。皆云白日者之間。經宿亦科。唯徒衆悉集一堂(室)院內。悔過者非。若離衆。別房止宿亦科也。**者聽**。

離衆別房止宿科事

「前明法得業生三春信貞」

令集解卷七

本云文應元年八月九日於二條烏丸宿棧(處)合本書加一見畢「又粗加首書畢」

員外亞相藤在判

建治二年閏三月廿三日引合正親町之本校合畢

弘長二年臘月十九日於燈下令校合畢

寛永十一甲戌初冬以他筆令寫之少內記中原生職一校畢

清原秀賢

大府侍郎中原職忠

萬治三庚子仲冬令校合畢

右者以河村秀興先生之御藏本如本書寫之卽一挍畢　元本高橋家藏本

明和丁亥仲秋　越智通邦印

明和己丑夏一會了

同七年庚寅四月廿六日以京師本一校了

安永三年二月五日與河伯纖及嵩子祐一會了

文政三年首夏以水戸彰考館本比校了　撿挍保己一

〔具僧〕具僧の意、僧備なり。

〔仙道〕道教のことなり。拾芥抄に引ける私教類聚の目錄に「仙道不用事。」とあるによりて知るべし。

令集解卷八

僧尼二　僧尼有禪行條以下、終條以上。

禪行條

凡僧尼有禪行。謂禪靜也。修道。釋云。禪行修道。謂靜居行道也。穴云。禪訓靜也。行行事也。修治也。道佛道也。古記云。禪行修道。謂居不動行道也。意樂寂靜。不交於俗。欲求山居服餌者。

服餌事

謂。服餌者、服餌藥而靜居。行氣也。雖不服餌。亦聽山居也。「禪尺反。禮記。若士人拜則客辟拜。鄭玄曰「辟」。謂示不敢當也。又俾從反。漢帝作書要東以辟惡鬼。野王案。辟防禦之也。釋云。服餌謂避穀却粒。欲服仙藥也。蒼頡篇。餌食也。音如志仍吏二反。或説。此文。不待服餌可聽。何者唐格。獨此文爲道士設法。此令兼爲僧尼生文故者。此說非也。何者案道僧格。并兼也。獨爲道士立此文者非也。古記云。寂靜謂亦是居不動也。服餌謂雜穀既絶。以松皮藥并丸藥等充食也。問。禪行修道之人。不服餌。而直欲求山居者。得聽以不。答。不合。穴云。服餌謂除穀之外。諸草木爲食皆是。不要仙道也。三綱連署。在京者。僧綱經玄蕃。在外者。三綱經國郡。勘實竝錄申官。判下。穴云。問。文云。在京僧綱經玄蕃。在外三綱「經」國郡。勘實并錄申官判下者。案之。在京。三綱經僧綱。僧綱經玄蕃。玄蕃經治部。治部申官。未知。國司直申官哉。爲當。先經玄蕃哉。又官受取行之何。答。依文。經申官。官判下耳。且「但」官勘知事由。并錄史共署即下耳。申官判下。以爲一句也。下謂判下書也。問。判下者。何司判。答。待官報符國司判下。後定。官判下於治部諸國。治部諸國下山居所隷國郡耳。然則判下者官判下也。山居所隸國

〔令師 大外記正七位下伊吉連子人〕令師は、明法博士の異名なるべし。伊吉連子人は元明の朝の人ならんも、この人のこと續紀に所見なし。集解中に「伊云」とあるもの或ひはこの人の說ならむ歟。

〔養老四年二月四日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔大學明法博士越智直廣江〕續紀、養老五年正月庚午の條には、正六位上越智直廣江等をして退朝の後東宮に侍せしむること見え、又武

郡。謂假如。山居在金嶺者。判下吉野郡之類也。釋云。隷附著也。餘與義解無別也。古記云。山居所隷國郡。謂所在國郡司是。毎知在山。不得別向他處。朱云。雖僧尼向國郡司不聽者也。

任僧綱條

凡任僧綱。謂律師以上。釋云。大寶二年正月廿三日。太政官處分。任僧綱者。在京諸寺僧。請集藥師寺。仍大辨一人。史二人。式部輔一人。竝錄各一人。治部玄蕃主典以上官人幷集之。少辨以上大史(夫)宣命。辨官式部左列。治部右列。大寶三年正月廿三(二)日。太政官處分。任僧綱之佐官僧者。中官而後補任。解任亦同。大寶三年六月九日。太政官處分。僧綱所司。(以下百三字集解文。當作細字)(論事者。遣玄蕃允屬相論。若無者省錄遣耳。和銅四年十月十日。令*師大外記正七位下伊吉連子人口宣。僧綱死闕竝入師位僧歷名者。先中辨官。郎官與省相副。中太政官。養老四年五月十四日。奏任僧綱告牒式如左。太政官牒。僧其乙。今擬僧正位。右一人擬官如。)右勅依前件。告僧正其乙。今以狀牒。牒到准狀。故牒。養*老四年二月四日格。問。大*學明法博士越知直廣江等。答。凡僧尼給公驗。其數有三。初度給一。受戒給二。師位給三。每給收舊。仍注毀字。但律師以上者。每遷任告牒。不在收舊之例也。必須用德行能化徒衆。

德行釋

道俗欽仰。綱維法務者。謂僧綱者。僧正僧都律師也。德行者内外之稱也。在心爲德。施事爲行也。綱維者。張之曰綱。持之曰維。言張持法務令其不傾弛也。釋云。德

智麻呂像に當代の宿儒を擧げたる中にも廣江の名見えたり。養老七年正月丙子、從五位下を授けられ、後刑部少輔に任じ、大學博士を兼ねたり。懷風藻には「文藻我所難、莊老我所好、行年已過半。今更爲何勞」なる彼の述懷見えたり。その老莊の學にも深く、文藻にも豐なりしを察すべし。

〔顏面〕顏面の義は、次條に見えたり。

〔老者六十以上也〕この解釋戸令に「凡男女、三歳以下、爲黃、〔中略〕六十一、爲老、六十六、爲耆」とあるによれるなり。

〔謂七十以上合致仕也〕選叙令に「凡官人、年七十以上、聽致仕」云々とあるによれるなり。

行釋。見選叙令。謂有德行。能令徒衆推伏耳。道綱徒也。俗白衣也。孔安國注尙書曰。欽敬也。音去音反。張之曰綱。持之曰維。謂張持法事耳。古記云。德行謂賢僧言行。可爲法則者也。徒衆謂僧也。才智相競徒是也。道謂亦是出家之色也。俗謂俗人也。欽謂敬信之義也。綱維謂法式也。法務謂佛法法律是也。穴云。德行謂徒衆推伏也。道俗相須也。但至擧曰。俗人不連署耳。綱謂不緩而張也。維持也。持執也。務謂佛法之律是也。法務謂內法也。跡云。綱維法務。謂好張持內教人也。朱云。德行。謂如俗人德行也。道與俗相須也。凡雖非一寺內。諸寺僧等欽仰皆是也。**所擧皆徒衆。連署牒官。**朱云。徒衆皆連署。謂俗人不爲署也。牒官。謂不經治部玄蕃者。未明。又同。**若有阿黨朋扇。**謂阿黨者阿曲朋黨也。朋扇者朋黨相扇也。釋云。阿黨者顏面一種也。論語曰。君子周而不比注云。忠信爲周。阿黨爲比也。朋黨謂之朋扇也。阿黨之類也。古記云。阿黨謂顏面一種。論語。子曰。君子周而不比。孔安國曰。忠信爲周。阿黨爲比也。朋扇謂朋黨「也。阿黨」一種。不爲別事也。**浪學無德者。百日苦使。**穴云。失而學無德者。依律與失滅哉。答。文阿黨朋扇。浪學無德者。明知。非有阿黨朋扇者。無罪。俗人縱學無德者。無罪也。朱云。無德被擧僧。無罪。只解退耳者也。**一任以後。不得輙換。若有過罰。及老病不任者。**謂過罰者。十日苦使以上也。僧綱。若犯此罪者。唯解其任。不更苦使也。老病不任者。緣老若病。不任其事。釋云。過罰。十日苦使以上也。但解其任耳。不更苦使也。老病不任者謂緣老若病不任其事也。不限年數及病色也。穴云。老者六十以上也。病者日限不見。但量狀耳。古記云。若有過罰。謂苦使以上皆是。一云。（犯百日苦使。待經三度合換。以下犯者。輙不合換也。案改配外國寺條。可知也。老謂七十以上合致仕也。病謂長病區弱不堪任也。跡云。過罰謂十日苦使以上也。朱云。跡稱以上者。百日苦使以下也。至徒以上。依格律條耳者。先云。此文。爲解任立文。但苦使者。如例科耳。不免者。未明。但諸說不同耳也。**即依**

上法簡換。穴云。若有過罰者。依上法簡換。未知。本罪免哉。答。不令免也。換後。依法苦使也。令(今)說本罪可免。案。於僧綱任符爲告牒之說。可免。但於公驗爲告牒之說。不可放免也。問。令三綱依佛法科罰之色。亦換哉。答。彼罪全輕。然不合同過罰。(以下十八字。集解文當作細字。)(簡換也)今說。依此說也。(私案。依佛法所論者。不合習令所制也。)

修營條

凡僧尼有犯苦使者。修營功德。謂書寫經典。莊嚴佛像之類也。釋云。寫經裝像之類。古記云。功德謂造寺院之內佛經。幷鑄鐘之類是也。料理佛殿。謂丹塗塔廟之類也。釋云。丹塔廟之類也。古記云。佛殿謂塔金堂法堂之類是也。食堂步廊等類者非也。及灑掃謂灑散水。即灑掃堂宇。其斫斧舂稻之役。非道人所可親。故立其限制使。使不浪執也。釋云。灑散水也。音所綺反。謂灑掃佛殿耳。其斫斧之役。舂稻之役。元非出家所事。如此之類。不須役使。等使。須有功程。若三綱顏面不使者。即准所縱日罰苦使。謂顏面而柔也。言犯苦使僧。無所請求。而三綱自阿容不使者。即准所縱日多少。反罰苦使。若雖不滿十日。猶亦准所縱。須苦使。其被縱僧者。不可陪使。何者下文云。輙許之人與妄請人同罪。即明。非妄請者。不可科罪也。釋云。顏面而柔也。被縱之僧。更無令陪役之文。其所縱三綱。若縱一日者。苦使一日。准所縱日故。但不滿日者不坐也。罰猶科也。古記云。功程謂一日作物。物多少立限也。顏面謂阿黨一種俗語也。准所縱日。謂一日不使者。還一日苦使。不滿一日以下。不合科。爲稱日故。前僧不合陪役也。罰謂科也。跡云。顏面不使。謂罪人不請求。而三綱顏面不使也。*准所縱日。罰苦使謂假令五日者。罰五日之類。被縱之僧尼。更不合塡役。何者准所縱日。還令苦使三綱故。此與官司出入(人)罪異。(朱云。知其

〔此與官司出入人罪異〕斷獄律に「凡官司入ニ人罪一者。謂故增ニ減情狀一。足ニ以動一レ事者。若聞ミ知

作[illegible]自恣[illegible]
采導令ㇾ失二貫籍一之類、
諸人[illegible]因[illegible]
論。」云々とあり。この
條[illegible]とへる
なり。

「依二三罪法一、本罪與二施行
杖一百一重二者科ㇾ之
也。[illegible]の名稱を
事故ありとして輙く聽
許したものは、本條の
罪と、「作ㇾ所二請求一已施
行者杖一百。」なる職制
律の罪とを重ね犯す結
果となる。故に「凡二罪
以上俱發、以ㇾ重者論。」
名例律[illegible]の名例
律の條文によりて重き
一罪を以て之に科するこ
となり。

理。若此令（今）心贓。何也。（又十二字。本作分十二字）穴云。問。師云。請假日而許。（以下廿字、集解文當作細字）（聽者、更不合陪役　但過假日以外、合陪役者、放用以）不。答。博士不依。不安。後日定。若限日請假而許者。所限之内。不可更陪役。但限外所違者。不合免也。遂從。師云。具從令釋也。准所經日。罰苦使。謂經一二日皆是。其被放僧尼。更不合役也。此文。爲不受請只許者。與受請畢故也。竝與官司出入人不同也。朱云。有事故須聽許者。竝須審其事情。知實。然後依請者。未知。後日令役填不。答。不合役也。未知。依獄令云。凡流徒罪居作者。皆著鉗若盤枷。有病聽脫。不得著巾。每旬給假一日。不得出所役之院。患假者。陪日役讁。遷延未愈者。於此苦使役患假如何。（朱云以下。一本入下）（後註古記穴文之間）其有事故須聽許者。竝須審其事情。知實然後依請　謂事故者。身病及父母喪之類。既云知實依請。即知不可追役也。依律。有所請求已施行者。各杖一百。然則受請之人者。本罪之外。更合百日苦使。其輙許三綱者。依二罪法。本罪與施行杖一百。逐一重者科之也。釋云。事故謂十餘病喪之類也。輙許之人。與受請人同罪。其上文。被苦使人無所囑請。而三綱輙而免之。故共三綱。此文。身自辭請故。被親之例。與經三綱。其得罪。案此釋。本罪及囑請。可重科三綱也。何者職制律。囑求施行者。主司許者。與同罪。所枉罪重者。主司以出入人罪論。自請求者。重本罪科故。通情格云。有犯苦使者。三綱立案鎖閇。放一寺院內。令其寫經。日課五紙。日滿檢紙數。是放出。若不解書者。遣執土木作。修營功德等使也。其老小臨時量耳。不合陪也。古記云。其有事故。謂身病并未生父母及師主病患死亡之類是也。依者謂更追不合陪役也。「一本上段（註朱文[illegible]）穴云。其有事故須聽許。謂假身病未生喪制等者。全不可陪之類也。合陪。生。謂未生。假也。一百日苦使。有身病退者。有損之後。全不役之類也。但在下之狀。然則又。私案。臨時求假。不合之故者。謂役細常也。此說不知。（習不。如何）輙許之人。與受請人同罪。（今先令釋所說外不免耳）。謂假犯百日苦使。輙同免者。請人本罪之外。百日苦使。輙許之人。依二罪法。本罪與施行罪。本罪科。假有輙受囑實

〔額博士云〕額云、額大夫云、額說と云へるものと同じく、額博士の令私記を引けるものなり。額博士が嵯峨、淳仁朝の明法家額田國造今足ならんとは、稻葉通邦の神祇令和解、佐藤博士の律令考の推定せるところなり。今足は、天長三年の頃、明法博士外從五位下たり。養老律令の撰定以來、諸學者互に私記問答を作りて法條の解釋に異說を生じ、法律の適用劃一を缺けるを慨し、天長三年大學寮に上言して、公撰の令律問答私記を撰述して、法律の解釋を歸一せんことを乞へり。天長十年に成れる令義解は、實にこの上言によりて成れるものなり。今足嘗て大判事物部敏久と共に使を唐に遣して刑法の難事數十事を問はんとす。その好學の士なりしことを察すべし。今

被許者。依律徒一年半。有意故輙許人者。雖當條有罪名。依所爲重之義。亦同罪也。問。令釋云。本罪及囑請。可重科三綱。未知因哉。爲當以不。答。可科囑請之一年罪。違律例故。額*博士云。妄請者。依律重科之。但還俗之後。如終說也。其輙許者。依一重科。長合律意。問。依律。有所請求者。笞五十者。未知。於僧尼亦可用此例哉。答。文稱輙許者。即明。未許者無罪。今說可用律例。今說妄請人。依下條。以告牒當徒一年。殘半年眞(愼)役。又本罪苦使之分者。以杖笞決耳。掠背心不苦使。徑(經)放免。何者還俗之後。不顧(顧)僧尼之故。額博士云。還俗之後。依俗法有罪條者。重決杖笞。若無罪。但輙許人者、知情之故。得所詐徒一年半。乘者放免也。一端如擅興律。問。放而還獲滅(減)哉。答。私案。不坐。但陪所闕之役耳。跡云。有事故須聽許者。謂身病或父母師主死病之類同。請假日而聽許者。更不合陪役。過假日以外合「陪カ」役也。祿不同耳。與請人同罪。謂妄請人。依請求條。本罪外合百日苦使。三綱。亦依施行法。合百日苦使。是云妄(與カ)請人同罪也。朱云。更亦不科罪人本罪者。與令釋違耳。朱云。輙許之人。與妄請人同罪。謂請人者。本罪幷妄請罪重科也。輙許人亦同罪者。未知。妄請罪。何罪。答。可科已施行杖一百也。則見律注文也。**如有意故。無狀輙許**謂犯苦使之僧。無可許之狀。而貨賂潛行。囑託(詫)屢進。三綱受寄。挾情輙許者也。釋云。意故。假有犯苦使僧。三綱輙許。或依囑請。或規貨財是。無狀謂無可許之狀耳。古記云。如有意故。謂既無事故。假作逗留。相屬請之類也。**者。輙許之人。與妄請人同罪。**古記云。問。上。准所縱日。罰苦使。此文輙許之人同罪。若爲分別。答。上文。被苦使人無所囑請。然猶三綱有所顔面不使。所以科主司。免罪人也。此文。罪人妄爲囑請。知情相許。所以罪人主司同罪。事意全異也。

方便條
凡僧尼詐爲方便。移名他者謂僧尼以己公驗。授與俗人。令其爲僧尼。其本僧尼者。或猶爲僧尼。或還成白衣皆同。但防其猶爲僧尼。故並還俗之

是の學說は、本書の外法曹類林に見えたり、就中政事要略に引かるる弘仁十一年十一月、田租の束把と勘ぜる論文は、最も學者の間に知らる。致令釋等にも見えざれど、令義解の編者の中にその名の見えずるによりて、天長中に歿せしと疑なきに庶し。

〔公驗〕僧尼の身分を證する文書を云ふ。賣買公驗の如きまた公驗の一種たり。茲に云ふ公驗は得度公驗にして、即ち僧尼となるとの免許狀なり。

〔古記〕不得移名、謂已身還俗、而名與他人爲僧是」これによれば大寶令に於ては「移名他者」を「不得移名」に作りしもの丶如し。

〔度牒〕得度の公驗なり、度牒といひ、國上に籍、僧尼の形式見えたり。

文。釋云。移名他者。已之公驗。賣與俗人。是唐格移名。與此稍異。或說。甲寺僧乙丙寺僧丁。住寺相易。亦爲移名者非。古記云。不得移名。謂已身還俗。而名與他人爲僧也。若依令文移名他者。謂移名他人爲僧。已身猶僧也。跡云。移名他。謂以已度牒公驗與他人。若除貫者。移名之人。還俗。合徒一年。穴云。移名謂或先預僧貫。或未除貫。唯被移人并同。跡云。俗人不除貫未除貫。負徒一年。何者與還俗僧同坐之故。心難也。但律上不依之。**還俗。依律科罪。**跡云。依文而先還俗合徒。度之者杖一百之罪。但所由人。合科徒一年。未依何。古記云。并還俗。謂不得移名以下。而後僧并還俗。更無所科也。依律科罪。謂案戶婚律。私入道及度之者。杖一百。謂僧尼等。非是官度。而私入道及度之者。已除貫者。徒一年。謂度之者亦與。同罪。本國主司。及僧綱知情者與同罪。謂私入道人。同一所屬國郡司及僧綱并所住寺三綱。知情者也。案。上文移名未還俗。只違令罪論。若俗只私入道論。下文方便移名。並只私入道論也。穴云。依律科罪。謂百杖以下還俗。未知其罪。徒罪依下條還俗。即以告牒當耳也。謂諸僧綱還俗者。同其科罪也。不依跡云也。今問。是跡意。但心不安。何者與元(无)作別故也。穴云。移名他還俗。依律科罪。謂度之者除貫罪。依律科也。不用告牒也。**其所由人與同罪。**謂所由人者。俗人受公驗爲僧尼也。與同罪者。准還俗罪。合徒一年。古記云。其所由人與同罪。謂依律科罪。此令還俗者非。一云。此條。依律科罪。謂若只違令科。所由人亦同。何者律云。私入道者。是非官度者。今云移名者。是未錄官度。然後相濫(濫也)。此是事有因緣之類。故律令小殊異也。跡云。案。三綱等知情而聽者。依下條合還俗也。穴云。所由人者。被移名俗人耳。僧綱三綱知而許者。依下條還俗。同房人亦同。師非同房。知情。亦如下條。移名僧者還俗了。又科未罪。但知情并三綱等者。亦依律。杖一百。故徒一年。依下條苦使耳。朱云。其所由人與同罪。謂許受他名人也。已身還俗。還移他人。亦同罪也。凡此條罪。可見戶婚律。

〔賤色被認〕賤色は賤民卽ち陵戶、官戶、家人、公奴婢、私奴婢の色なり。認はその人を自己所有の賤民なりと認むることなり。

〔無利借貸〕借貸は、無利と云はざるも無利息の消費使用貸借を意味す。法曹類林には、利息を特約せる借貸が有效なりや無效なりやと問へる問答あり。無效なりと答へたり。故に借貸は相手方を救濟する爲めに行はるるを常とせり。されば借貸は一にこれを賑貸と稱し、借貸の物を借りて償はざるものは、忘恩者として刑罰に處せられたり。

有私事條

凡僧尼得私事訴訟。來詣官司者。釋云。雜戶陵戶及賤色被認。幷追放(逐引)因徒之類。謂私事訴訟也。古記無別。又云。來詣謂到來也。**權依俗形參事。**謂依俗形者。旣爲俗形。卽須稱俗姓名也。參事者參對官司。申論事緒也。釋云。權釋見獄令文。稱權依俗形。故知。權稱姓名耳。參事謂參對官司耳。古記云。權依俗形。謂參赴之時。著俗服。退寺之時。著法服也。參事謂申訴之事也。預於事耳。穴云。若合禁事者。依下條禁法耳。依令釋。權稱姓名耳。但不稱本貫也。其書狀稱僧尼及本寺耳也。**其佐官**謂僧綱之錄事也。釋云。無別也。朱云。佐官以上。謂僧綱以上。凡有佐官僧。以此條可知者。未知。其數幷任體何。答。不見文。但太政官處分見任狀也。**以上。及三綱**朱云。問。三綱等。相避等親不。何。答。不見者可求也。**爲衆事。**謂衆僧之事也。釋云。寺內。別有衆務。結衆謂之衆事也。古記云。衆事謂衆僧事也。穴云。衆事者。徒衆之事耳。少難。但餘衆事亦同耳。朱云。衆事謂寺內諸事者。未明。後度反了。**若功德。須詣官司者。並設床席。**古記云。功德謂立塔柱之類。

不得私畜條

凡僧尼不得私畜園宅財物。及興販出息。謂畜者聚其尋常所須。及緣身資用。如此之類。不在禁限。然不得仍出息興販也。興販者。賤買貴賣也。出息者。貸物生子。凡僧尼犯此法者。其物皆沒官也。古記云。不得私畜財物。謂僧聽駈使奴一二。幷乘馬。尼聽婢一二也。及興販。謂僧向市賣買隨身資具聽之也。出息謂無利借貸者不禁也。釋云。孔安國注尙書曰。畜積也。野王案。畜聚也。音抽陸反。字在草部。畜音丑六反。疑音相涉也。其學問燈油之直。修道覆散之資。幷緣身所須小小資物。如此之類。不在禁限。雖云許畜。不得興販出息。興販釋見關市令。非貸物生子曰息。出息謂出擧耳。或說。僧聽駈使奴一二。尼婢一二也。旣稱出息。卽知。無利借貸者不禁也。道僧格。物賞糺告人。案沒入寺家。爲衆僧物也。穴云。所畜財物。或說。放散文放散分(布)行也。或說。成三

出息物可沒官事

一百姓家に三寶物を入れに[illegible]まれば、三寶の物は、他の[illegible]物に轉せ、[illegible]私に家に入る[illegible]且、擧取利息の物を沒收して、三寶の物と爲したることを知らる。

[illegible]三寶物用之禁[illegible]寶の[illegible]之類[illegible]犯[illegible]物用[illegible]宜[illegible]あり。

三國延暦[illegible]三月廿八日格に[illegible]僧、類聚三代格、[illegible]内外[illegible]續日本紀、[illegible]に見えたり。

寶物。令說。依之。古記云。[illegible]、謂牛馬奴婢家人。並爲寺奴婢家人耳。其本出家。謂所貯財物。亦財主任意散與耳。跡云。謂、一遠法所有之物。何處分。答。此僧物故。令散入四方衆僧料。但其兵器得布施之類多者。官販給合科。即此。彼此俱罪之贓。故合沒官。（貞云同也）朱云。不得出息者。若違者。當違令罪者。未知。若園宅財物亦同罪贓。何也。

遇三位已上條

凡僧尼。於道路遇三位以上者隱。謂若無處可隱者。斂馬側立也。釋云。若無處可隱者。任三位情耳。其僧有若乘馬者。亦斂馬側立。古記云。遇三位以上者隱。謂若不須隱者。亦斂馬立側。有步者亦同也。穴云。問。遇親王者何。答。以上謂一品以下並隱耳。若無所可隱者。不下耳。跡云。遇三位者隱。若無所可隱也。朱云。遇三位以上者隱。謂乘馬時也。下文五位以上。斂馬相揖而過者。此則待受上文故者。未明。僧同。而若步何。又僧不下馬何。答。問。僧綱凡僧並同不。答。先云。並同。何者依位有下馬禮也。依官無下馬禮。但郡司立耳者。私同。五位以上。斂馬相揖而過。釋云。駐馬相揖而過耳。若步者隱。釋云。若無處可隱者。五位下馬耳。一云。五位不可下馬也。神龜五年三月廿八日格云。外五位若有要行。僧尼等遇道路者。下馬避去也。古記無別。但無一云。令說。穴云。問。令釋云。無所可隱者。五位下馬何。答。此文爲僧尼立制。不爲三位五位禁制也。然則五位亦不下耳也。私案。凡人亦於僧不可下馬。但有私敬者下馬耳。令釋說非穩耳。

身死條

凡僧尼等身死。三綱月別經國司。國司每年附朝集使申官。其京內。僧綱季別經玄蕃。亦年終申官。釋云。謂僧綱日錄申官也。養老七年七月廿日。太政官處分。僧尼死去。并還俗之僧者。當其名籍[illegible]

進於辨官。隨即毀之。穴案。注犯罪還俗字。以官印印文。又入師位。並還寺。及還俗者。收其公驗。仍於紙後。具顯申(由)狀。安置於省。穴案注入師位還寺還俗字。以官印印之。古記云。亦年終申官謂者。據日錄申官也。穴云。京內僧綱季別經玄蕃。謂三綱月別。經僧綱。僧綱季別經寮。寮申官耳。但國解。官受付治部。除帳耳。問。治部解。又返其司哉。答。收官耳。私案。官受而付京職令(令)除籍也。師許之。問。京職何將知死闕。答。三綱。亦月別經知耳。朱云。毎年附朝集使申官者。未知。凡諸國僧尼死者。治部等不知何。答。官下治部令附帳者。又下京職。令除京僧尼名籍者。僧尼二色人數互多也。故稱等字也。更無異色也。亦年終申官者。未知。何司可申乎。亦之字意何。答。玄蕃申治部。治部申官耳者。未知。而亦字意何。

准格律條

凡僧尼有犯。准格律。合徒年以上者還俗。許以告牒當徒一年。

謂格者臨時詔勅也。律云。事有時宜。故人主權斷詔勅。量情處分。是也。其格律者。元爲俗人設法。不爲僧尼立制。是以稱准也。徒年以上者死罪以下也。告牒者。僧尼得度公驗也。依律。雜犯死罪者除名。即知。僧尼犯死罪者。亦先還俗。然後處死。其流罪者。比徒四年。以告牒當徒一年。其餘三年。依下文役身也。若犯加役流者亦還俗。而配流不得以告牒當。即至配所不免居作也。釋云。告牒謂公驗也。案。道僧格。此條除一篇之內。稱依律科罪。或還俗或苦使之外。爲雜犯立例。假令。僧尼姧盜者還俗。餘不。科本罪。若犯雜犯徒二年者。以告牒當徒一年。餘一年配徒役之類。告牒有數者。如一告牒。當徒一年耳。古記云。問。僧尼犯徒以上送官司。依常律推斷。又初條云。姧盜依法律付官司科罪。*又獄令〔云〕凡犯罪云。徒以上及姧盜。依律科斷。餘犯依僧尼法。未知。此二條。若爲分別。答。初條犯色別攝立制。不論輕重。此條。犯色不別。唯論輕重。其獄令爲捞法禁法。立文。各當條。隨見義制。彼此不合交涉也。貫屬謂本貫屬姓也。其條制。宅文。罪至徒謂還告得反坐之類是。問。犯徒以上。與罪至徒者。若爲分別。答。一同。非別事也。穴云。問。僧尼有犯先行事何。

〔又獄令云凡犯罪云徒以上及姧盜依律科斷餘犯依僧尼法〕獄令にこの條文見えず。案するにこれ大寶獄令の文なるべし。

一 六議人　議親、議故、議賢、議能、議功、議貴の六つを六議と云ふ。天皇・皇后等の親族、故舊及び大勳功、大德行、大才藝あるもの並びに三位以上の位階を有するものは、八虐の罪に非ざる限りは、死罪を犯すも先づ奏してその罪を議し、勅裁を仰いで斷決し、流罪以下は必ず一等を減ずるなり。

二 〔令第十卷有文〕令第十卷は獄令なり。獄令に「凡 [illegible]

等。先還俗官。官推定。知徒杖及還俗苦使耳。或云。僧綱亦許還俗而送。爲非也。問。僧尼犯流徒以上。申奏哉。答。色非官位故。不申奏。私案。僧尼自還俗者。申省除附者。故此條亦申省還俗耳。但於事輕處。其斷還俗並屬本寺。與披俗衣耳。格謂臨時格。律令之外是也。一云其也。其上諸條。稱還俗苦使之類。當條制訖。其首財物并尼入僧寺之類。不立罪名。科違令。違令。律有罪條。宜云准律入此條。問。犯流當徒何。答。比徒四年以告牒當徒一年。所殘。依律求本法。而或贖或役。或有除者減贖耳。但未用告牒以前。不合減贖。爲僧尼之罪不用親蔭故爲是說。或云。犯流者配流。而以居作當免者。爲非也。但犯五流者。配流如法。至配所不合免居作。但其官位除名合別故。或云。亦至配所以居作當者亦非也。爲先不得當而配流訖故。跡云。格者臨時之格。不言恒不之例皆是。但違令及別式者。擬律有罪名故。令擬准律也。凡稱僧尼者。法師皆同。問。除准格與律外。別立罪條之色。用告牒否。答。付官司科罪以下犯等。皆得用告牒。又問。依文。准格律罪得用告牒。何別立罪條之色。得用告牒耶。答。假令。六議人。犯五流時。雖不得減贖。而於有位人。又免居作。然則有告牒人。皆同凡僧乎。但雖有告牒僧。犯盜時。會以上皆還俗。以此爲條犯爲別也。合徒年以上者還俗。罪假合。有告牒僧。無告牒僧。各犯徒一年。兩人並還俗。即有牒人免役。無牒人配役。又有牒人。犯百日以下苦使行。免苦使耳。朱云。私案。若此說。只在徒以下依有告牒所云。何。先云。凡此說不當。不合者私亦何。若爲犯流者。更案。至配所合免役。若犯五流者。至配所免居作。私謂徒遠流徒二年合役也。凡諸條。未犯杖以下而還俗色者。更不合科本罪。但依名他色依當條科耳。朱云。格律開一罪也。格謂臨時。一云。依律令出制也。格之字可云法也。令第十卷有文。律者餘也。餘條罪輕重者。未知以何所定也。徒年以上。謂死罪以下也。除入上諸條罪之外。死罪以下也。未明。若以制一種不入喪。此罪色頗多。就律可見。但死罪。無告牒之用。可直決者。若流以下有未蔭者。先以告牒當之後。可用親蔭也。文用告牒之後。勝依律科斷之謂者。或說。先用未蔭。後用告牒者非也。凡僧尼等。犯罪者十以上。若先可申所司也。所司與還俗。并知俗人科本罪色。同受取斷。但不還俗可苦使色者。付僧綱令科斷也。十條。餘官司及僧綱斷決不平等。即此者同。先下。凡僧尼犯罪。太政官刑部不預知何。答。流以上即俗人也。但

以告牒當色。雖似官當。不可預知太政官等者。未明。*讃云。養老四年二月四日格云。問。明法博士越智直廣江等(脫文有カ)。答。凡僧尼給公驗。其數有三。初度給一。受戒給二。師位給三。毎給收舊。仍注毀字。但律師以上者。毎遷任有告牒。不在收舊之例。准格律。合徒年以上者。還俗者。謂此篇内立制之外。有犯。准格律合徒年以上也。凡此條大意。此篇内諸條。稱依律科。或還俗。或苦使之類。各當條制說。自此以外。有犯可坐。准格及律爲罪徒以上。或杖以下生文耳。其私畜園宅財物。并出息興販。及僧入尼寺。尼入僧寺乞食之僧。乞餘物。訴訟之僧。權不依俗形。奴婢牛馬受布施類。當條不立罪名者。並可科違令。違令者。律有罪條。又依俗法科。不應爲及違式等。如此之類。此亦律有罪條。徒年以上。謂死以下也。但死罪者。先還俗訖。即毀告牒科本罪耳。不煩用告牒。贖猶有位人犯死罪也。其過失疑罪。非是正犯。不合還俗。至于贖物。亦既無財。故可從(依)放。穴案。其於二等以上尊長及「外」祖父母等。犯過失殴傷。應徒者。依眞犯之例。爲由常犯故也。子孫犯過失流已入五流下陳了。問。上條云。與人鬪打者還俗。又條云。方便移名他者還俗。依律科罪者。未知。二條之罪。如何科斷。答。與人鬪打者。還俗而已。不科本罪。何者。文云還俗。不云依律科罪故也。其方便移名他者。還俗而科本罪。何者文云。還俗依律科罪故也。或說。徒一年者還俗。以告牒當之。更不科本罪也。百杖以下、亦此還俗而不科本罪也。其犯五流者。配流如法。至配所而不免居作。爲與官位除名全別故也。與給條說加役流同。或說。亦至配所以居作當者非。何者。爲不得先當而配流訖故也。問。僧尼有犯行事如何。答。告事發。俗官令推斷後。牒寺令(令カ)知耳。何者。名例比徒條云。應斷還俗及苦使。官司判放。或不應還俗及苦使。官司枉入者。各依此反坐徒令之法。*又戶律云。犯法還俗。合出寺。官人斷訖。牒寺(令)知。仍不還俗者。從私度法之故。但罪合徒以上者。先還俗訖後。以告牒當一年徒。科殘罪耳。問。假如犯徒一年半。以告牒當一年。餘罪有半年。文在位合例減。何可科斷。答。名例律云。罪止月半年徒。若應加杖者。杖一百應減者。以杖九十爲決者。准此文。可減贖耳。問。止犯半年徒何。答。不還俗也。率百杖法。可苦使耳。*爲稱年者以三百六十日故。又不聽親蔭。爲僧尼故也。問。還俗苦使之罪。年七十以上。十六以下。何爲科斷。答。還俗之色。如上條說。不論老少。

未斷決、逢格改者、若格重、聽依犯時。若格輕。聽從輕法。」とあるを云へるなり、

〔讃云〕上來屢々見えたり。讃說、讃案と云へるも同じ。讃岐家の令私記なり。讃岐氏は、景行天皇第十皇子神櫛命の後裔にして、世々讃岐國寒川郡に住せり。初め凡直又は星直と稱せしが、敏達天皇の御代讃岐の國造に任ぜられて紗拔大押直の姓を賜ひ、桓武天皇の延暦十年、讃岐公の姓を賜ひ、仁明天皇の承和三年、更に讃岐朝臣の姓を賜へり。讃岐國は藤原保則傳に「此國庶民皆學法律、執論各異、邑里驕諍、」とあるによつて知らるる如く、法律思想の發達せる國柄にして、本書の編者惟宗直本の如きも亦讃岐國人なり。讃岐氏の一族皆

法律を以て身を立て、千繼、廣直、永直、永成、時人等の有名なる明法家を出せり。千繼は延暦廿四年勘解由次官、大判事の要職にありて、菅野眞道等と倶に延暦交替式を撰せり。廣直は大同の頃明法博士たりし人にして、その勘文は法曹類林、菅家文草等に見えたり。永直は幼にして大學に寓し、好んで律令を讀み、性甚だ總明にして、一たび聽けば暗誦せり。嵯峨天皇の弘仁六年、明法得業生に補せられ、兼ねて但馬の權博士となり、淳和天皇の天長七年、明法博士に任ぜられ、右小史を兼ね、俄にして左小史に轉じ、勘解由判官を兼ね、承和元年外從五位下を授けられ、大判事に任ぜられ、同三年讃岐の姓を改めて讃岐朝臣を賜ふ。[illegible]

若還俗者。一律以告牒當徒一年。猶所餘者。依本犯斷如俗人。但九十者不合還俗也。八十及篤疾之情。除當及傳人之外。亦不合還俗也。謂上。其犯苦使之人。年七十以上。及篤疾。無財可贖者。亦從放免。爲不可更於俗故也。穴案。宜依僧還未據疑事之役。不同俗人科法。理須別論也。**若有餘罪者。依律科斷。**謂假有犯徒二年者。以告牒當一年徒。其餘一年者依律役身。其犯徒以上還俗之後。猶有餘罪。謂父祖陰。應得減贖者。一依俗人之法也。問。今依此條。徒以上還俗。杖以下苦使。未知。過失疑罪若爲科斷。答。既依律令。過失疑罪不同正犯。仍聽收贖。但僧尼者。私無財物。理難可贖。其非犯罪。議合放免。或云。依律科斷。謂科私度之罪。此云在後。古記云。疑罪及過失者合贖。以贖物合宛功德。若於人使損過失贖財。合入使損之家也。穴云。其過失疑罪。是非正犯。而不合還俗。其贖物不合有責財。故徒。年。免科耳。或云。過失疑罪。此非正犯。所以依使罪法。苦使不過一百日耳。額云。可收贖。無物者役身折酬。一如凡人。何者。僧人不論官蔭可役故。私案。本條於祖父母父母等犯過失者。依正犯之例耳。爲重於常犯。是故也。今案。子孫犯過失傷者。疏云流所達了。但於二等以上尊長等。犯過失。實傷合徒。以下不得贖耳之色。任此條。以告牒當一年。殘罪合贖役耳。問。犯一年半徒。以告牒當一年。所餘合徒半年。又左位合律論。未知。減法何。答。名例云。罪止有半年徒。若應加杖者。杖一百。應減者。以杖九十爲決者。准此文眞除耳。問。還俗苦使之輩。年七十以上。十六以下何科。答。還俗之類。不論老少還俗。所餘罪依本法科斷。一如俗人之法也。然九十人不還俗。見判條。但苦使之人。不能身役者。豈亦於俗人乎。從放免耳。今案依之。私案。高年篤疾應贖之徒。不合同俗人科法。仍合別勘也。跡云。問。有罪止半年徒者何科。答。不足滿年。三百六十日爲一年。依杖法合科。朱云。苦罪止半年徒者。依杖一百苦使也。可謂杖九十。苦使者犯罪犯。謹不滿此罪四年。以苦使當徒一年。殘三年可徒役者。犯過失罪者。不還俗也。可爲苦使也。僧尼可贖無財之故者。條私令之。還徒以上。此杖法不可過一百日苦使者。然則百日苦使以下何。過失過犯無別。或說。四等何。答度成云。過失罪可贖。若無財者有時可贖者。私案。又或云。凡過失罪者。合入可免於僧尼。無財故者。此亦

大不敬事件に座して土佐に配せられしも、二年にして恩免に遭ひ、齊衡二年再び明法博士に任ぜられ、翌三年更に再び大判事を兼ねたり。されど永直はこの時既に七十三歳の高齢なりしかば、骸骨を乞うて家に歸休し、文德天皇より「明法博士是律令之宗師也。惜下其商在二諸舊一不上レ傳二正說一。宜レ令三好事諸生一就二之其里第一受中讀疑義上」となる優勅を賜はりて私第に律令を講じ、翌貞觀元年、陽成天皇の大嘗會によりて從五位下に進み、同四年八月八十歲の高齢を以て卒せり。永直家學を承けて交替解由の政に詳しく、又令義解の撰述にも加はりたれば、當代の法律を云ふもの皆永直の說を以て準的となせり。嘗て永直の先輩大判事興原敏久、明法博士額田今足渕法の[illegible]事數十事を抄出し、これ

不合也。又於俗人。不許贖眞刑。科過失罪者。於僧尼亦還俗。幷用告牒。餘罪者依律科斷耳者。私合。又諸條違俗色。雖本罪徒以上。不用告牒也。不入此條。但初條與諸條爲別故者。初條。答以上。全眞刑也。諸條者。杖以下者只還俗。本罪不科也。徒以上。乃始科罪也。此以爲別者。未明。後度反。或說。徒以上。依此條。用告牒者。後度同。讚云。若有餘罪。自依律科斷者。謂假令。犯二年徒。以告牒當一年。餘一年。依俗法眞役及減贖耳。略說。上條。

如犯百杖以下。每杖十。令苦使十日。朱云。未知。凡僧僧綱同不。或說僧綱者不苦使。但解僧綱任者何。答。然者。但先不同也。幷可苦使不免者。私亦所疑也。但諸說如貞說耳。未知何。

若罪不至還俗。及雖應還俗。未判訖並散禁。謂犯苦使已斷訖。未付三綱者散禁。若未經斷者付寺參對。其應還俗判斷已訖者。一同俗人禁法也。穴云。罪不至還俗。謂斷定苦使。未預苦使間也。及未判訖。謂推鞫之間也。其間定之後。依俗禁法耳。其苦使未制間。及斷定訖。至寺家。苦使間。無禁囚法。問。五十日苦使斷定之。亦散禁哉。答。斷訖未上苦使之間然耳。*生間云。若罪不至還俗散禁者。然則十日苦使。以上可散禁也。未知。於俗人笞罪。無禁法何。於僧殊重責意何。或云。僧與俗罪別。如此有明文者。未明。跡云。若罪不至還俗。謂十日以上苦使斷訖。皆合散禁。未斷不合散禁也。朱與跡無別。又云。未判訖。並散禁者。若判訖者。依俗人之禁法者。[illegible]云。若罪不至還俗。謂斷定苦使。未預役之間是。但苦使未斷之間。及斷訖苦使之間。不立禁法。或人上條說云。此苦使之間。禁囚法也。未就苦使之間。不見禁法也。省及雖應還俗。未判訖。謂推鞫之間也。總流罪以上。仍合散禁也。其推定之後。自依俗法耳。可檢也。

如苦使條制外。復犯罪不至還俗者。謂准據格律。所犯之罪。既非苦使。亦非還俗。故付三綱。量事。令科罰。是內法之制。非俗律之科。其違令違式及舉輕明重。幷不應得爲等類者。並律有科條。不可更依佛法也。釋云。條制外復犯罪。謂令條云。苦使。條制之外。復犯罪也。謂違內律之罪。律令無罪名是

・遣唐使に付して唐に問はしめて、永直之を解き、疑ひなきの義を詳傳せしに、累年の凝滯一時に氷釋し、遣唐請問の事終に中止せらるゝに至れりと云ふ。」永直の勘文は法曹類林、政事要略等に散見し、又信西入道藏書目錄には「大判事永直朝臣讀令」なるものゝ見えたり。されば令集解通釋、佐藤誠實は、但に「讀云」を以て永直の學說と推定せり。永成は、永直と倶に「中原の名明法家七人中に名を列ねたる法律家にして、承和三年永直等と共に朝臣の姓を賜りしる際に、「右小史兼明法博士なりしこと」知らる、時人は永直の長子にして、貞觀六年和氣朝臣の姓を賜はり、元慶元年には右衛門大尉を以て外從五位下を授けられ、「本朝に讀云」とあるもの永直の

也。誰制格也。此令已是格。故云制也。條制外復犯罪者。假令、爲殺生之類。或云、量事科罪。謂二内典科罪一事不一。假、僧尼不着衣裳者、已犯者。使地之類。此云布薩後。古記云、條制外犯罪。不至還俗。謂及笞杖以下是。條制謂非令條是。不拘他律令當數也。穴云。條制外復犯罪、不至還俗。謂苦使及還俗條制外輕罪是也。私案、僧尼觸其條。亦令云條制也。令三綱科罪。謂凡有犯者、皆送俗官。俗官斷定可依佛法。可依格律。而令三綱科罪、及於官司決斷之類。僧綱不可科罰。上條。僧綱斷決不平、三綱之不平、陳申僧綱、僧綱亦不平、是也。跡云。條制外復犯罪。不至還俗者。謂不行食齋六時。或造綱賣與人之類。如此犯。俗官不能斷決者。對三綱勘內教合斷決。如此至還俗。不至之狀合定。凡准俗法。無罪而違犯內教是也。朱云、苦使條制外復犯罪。還俗之類。故此條之外者。罪不至還俗者。令三綱依佛法量事科罰者。未知。若依佛法可還俗何。或說至還俗者。令俗官斷。不至還俗者。令三綱斷者何。答。依格律雖預准量犯狀可還俗者。俗官可科斷。不可付三綱也。假爲殺生之類。但准量不可還俗輕色。乃付三綱依佛法科罰耳者。貴云。如苦使條制外。復犯罪不至還俗者。謂此篇之內。得苦使條制外。復犯罪也。古記內律之罪。律令無罪名是。假令。爲殺生及不齋食。不行六時。造綱賣人之類。條制。俗也。此令無是格也。故云制也。此條亦所謂條制。問。文云。不至還俗。未知。有至還俗之色。皆可有也。答。文知之。其至還俗者。俗官三綱共定。付俗官令科斷耳也。朱云。問。苦使條制外。犯罪至還俗者之事何。謂者定之。凡僧尼有犯者。皆送俗官。俗官勘定可依格律。爲當可依佛法。然後令三綱科罰。及於俗官斷決耳。僧綱不顧之。但上條僧綱斷決不平者。依佛法科罰之色。三綱不平。陳申僧綱。僧綱亦不平是。或說。至還俗不至之狀。俗官與三綱共勘定。然後至還俗者。令俗官科斷。不至還俗者。令三綱科罰耳。跡云。如此之類。俗官不能斷定者。對三綱勘內法令合斷決也。私思。如此小少罪。於寺內事僧者。不必官俗官。三綱任意罰之。但爲俗官告訴者。同跡云也。朱云、可、

令三綱依佛法量事科罰。其還俗。並被罰之人。不得告本寺三綱及衆事。謂還俗之人至

說なりとせば、本書に「後讃云」とあるもの恐らく永成、時人の說なるべし。

〔文戶律云犯法還俗合出寺〕これ戶婚律、私入道條の疏なり。

〔爲稱年者以三百六十日故〕名例律に「稱レ年者。以二三百六十日一。稱二人年一者。以レ籍爲レ定。」云々とあり。

〔古記云疑罪及過失者合贖以贖物合宛功德若於人侵損過失贖財合入侵損之家也〕疑罪贖すべきことは、斷獄律に「凡疑罪各依二所犯一以レ贖論。」云々とあるによりて知られ、過失罪の贖すべきことは、鬪訟律に「凡過失殺二傷人一者。各依二其狀一以レ贖論。」とあるによりて知られ、過失罪の贖銅侵損せらるゝの家に入るべきことは、獄令に「凡傷二損於人一、及誣告得レ罪、其人應二合贖一者。銅入二被告及傷損一

于終身。被罰之僧。苦使之間。並不得告言也。釋云。是終身被罰人。故不得告也。一云。還俗幷被罰之間。不得告也。非終身。*謂鬪訟律被囚禁。而不得告他事者。即此禁間耳。古記云。不得糺告本寺三綱及衆事。謂還俗苦使之類也。其他寺僧犯者。合糺告也。問。知俗人犯者糺告以不。答。凡僧尼於俗人。不預身事幷寺事及謀叛以上。以外不合糺告也。穴云。「其」還俗人終身。年被罰人苦使間。不得告也。文稱還俗人不得告。而爲不可有年限故也。在禁之間。依鬪訟律。凡不得告他事。但被罰人。稱苦使間者。比鬪律。罪輕故也。本寺三綱等。縱或轉任他寺。或新人住本寺。並不得告也。不得告衆事者。謂衆僧之事也。道僧格云。徒衆事故。跡云。不得告。謂被罰之間。還俗之人。終身不得告。後度反。文稱本寺者。告餘寺三綱及凡人罪不禁。*但還俗被禁囚者。依斷獄律之例耳。朱云。其還俗幷被罰之人。不得告本寺三綱及衆事。謂依鬪律被囚禁之間。不許告也。永不制者此違耳。未知。何。又不得告本寺三綱及衆事。謂雖移去他寺。不許告。又雖他寺僧尼。成本寺僧尼者。不許告者。未明。何。又文稱本寺。即知告他寺三綱僧尼者不禁者。貞云。其還俗幷被罰之人。不得告本寺三綱及衆事者。謂還俗之人終身。被罰之人苦使之間。不得告其犯耳。何者文稱還俗之人不得告。而無其限故。其稱被罰之人苦使之間者。比鬪律罪輕故也。但在禁之間。依鬪律。總不得告他事耳。問。文云。還俗幷被罰之人。不得告本寺三綱及衆事。未知。只爲此條立文歟。爲當。知兼當爲還俗苦使之色。答。私案。爲依佛法科罰之色立文。不涉他事。何者爲不得告本寺三綱及衆事故。可求。更思。此篇内被還俗及苦使之人。並悉不得告。何者若只爲依佛法科罰色生文者。還俗一字無用故。可案。問。依俗法爲獄官鞫已聽告。未知。三綱之科罰及苦使等。爲已鞫者得告以不。答。可得告也。衆事者謂衆僧事也。道僧格云。徒衆事故也。問。三綱。或遷任地寺。或「新」任到來。幷不得告哉。答。可然耳。可檢。

若謀大逆。謀叛。問。文擧謀大逆。不云謀反意。答。是擧輕知重耳。**及妖言惑衆**

謂以妖言而惑二人以上。即雖妖言。而不惑衆者。不可告言也。穴云。妖言惑衆者。妖言而惑衆也。文爲無傳用字故也。律稱妖言。只說一人。皆是。但令稱妖言惑衆。明不滿衆不合言也。爲與律異也。即指斥乘輿。情理

之事[illegible]するにより
知らる。
〔生問云〕生は學生の意か。生云と云へるもの多し。[illegible]云の下に引ける[illegible]中には、何師生とも云はずして、單に師云、又は何師云など云へるもの多し。生云は何人とも知らざる明法生の說なるべし。
〔[illegible]〕此令人是指[illegible]也。[illegible]に[illegible]、師[illegible]使條外と[illegible]すると、[illegible]なすを以て、これを[illegible]使條制外と改めたるなり。
〔[illegible]〕得告他事者〕これ闘訟律に[illegible]不レ得レ告二舉他事一。其爲二獄官酷一己者聽之〕なる條文を適用するなり。
〔[illegible]〕[illegible]
〔[illegible]〕[illegible]
爲二[illegible]

切害者、亦可聽告、何者諸處不輕妖言故、又獄官已酷者告、然則三綱、科罰、及苦使等輸者、依律告言耳、今此依之、師、僧尼拘捉哉、以其語定哉、答、不見文、爲難也、（今說已除僧尼名、而猶有法之哉、問、僧尼會赦者何、答、）（[illegible]者拘捉、不拘捉、意而之、）依本格、立會赦者尙還俗之、今此令、除會赦文、然則、經八虐赦猶不還俗、但犯死罪、須成會赦、不原解見任、然准三綱等犯死罪赦成、會赦全原、准會解任耳、但凡僧者不還俗耳、其會降者、以還俗、比徒一年降一等、飮酒醉亂、無本罪、及與人鬪打、本罪當科加之會一等降者、百日苦使也、朱云、妖言惑衆、謂一事相須者、先監、還不許者、未知、傳業衆人何、答、也、（指斥乘輿亦同者、未知、有功切害、無功切害、別不、答、先云、此爲有功害者、私同、問、知謀大逆以下、不告者何、如俗人科乎、答、然者、凡僧尼犯罪、會赦者聽孟未斷不合、皆不還俗、又免本罪也、此令爲不輕斷之未會之故也、與俗人別者、未）穴云、妖言惑衆者妖言而惑衆是也、何者交爲無傳用字故也、或云、傳用而惑衆亦同、何者爲未罪同者非也、其律、稱造妖言者、謂說於一人皆是也、但此條妖言惑衆、則不足衆者、不聽告言也、爲與律異也、問、指斥乘輿、情理切害之色、同妖言惑衆、不聽告哉、答、准檢諸條、事由妖言、然則此妖言例、可聽告也、可檢、問、主于臨拷之色、若爲處分、答、不見文、其、或云、兒役答者、已用苦使、不得重決也、爲僧尼之日、何得拷掠哉、事須准七位以上、以贖定罪、或監門、八位犯罪、收贖、顯然、於拷不免也、八位官當與僧尼告牒、事意相似、然則准八位例可拷掠之、云、私案、僧尼犯罪者、法從寬典、何者上文云、雖無還俗、未判之、并散禁者、案之、監犯流死、未得免者、仍合散禁、是知、與俗法異、推尋其意、蓋崇僧尼所宥恕也、然則拷掠亦、定罪之處、爲其也、問、僧尼有犯會赦除者、若爲處分、答、未格、立會赦猶還俗之、今此令者除後文、然則至經八虐、悉得赦原、不爲還俗、但罪犯死罪、以成會赦、不原、解見任職事、然則僧綱三綱等犯死罪、自成會赦、除、准其文、解任之、已畢、如此說者、八虐故殺人等、亦合解任、爲皇帝國重故、可檢、但凡僧者、不還俗、須還俗耳、其會降者、一加俗人降耳、以還俗、比徒一年、降之一者、苦使往者、以苦使當一年、余罪準法、苦使半年者、率百日苦使耳、問、上條云、僧尼飮酒醉亂、及與人鬪打者、並還俗者、未知、合一等降須何處分、答、飮酒醉亂、尤本罪、與

罪論。」云々とある例によるなり。

〔卽指斥乘輿情理切害者〕名例律、八虐、大不敬の中に「指二斥乘輿一。情理切害。及對二捍詔使一。而無二人臣之禮一。」とあり。

〔僧尼拷掠哉以衆證定哉〕斷獄律には「凡應二議請減一。若年七十以上。十六以下。及癈疾者。並不レ合二拷訊一。皆據二衆證一定レ罪。違者以二故失一論。」とありて、議請減の特典を有する有位有官者及び七十以上、十六以下の老幼者及び不具者には、拷掠を加へず、三人以上の證人の證言によりて罪を定め、證相半するときは、疑罪として、贖を收せり。僧尼は刑法上屢々その待遇を有位有官者に準ぜらるゝを以て、本條の如きも僧尼に適用せらるゝにあらずやと問へるなり。

人國打。依律。笞卌。雖然。此令已從還俗。然則以還俗犯一年。降一等百日苦使耳。問。古令(答)云。任僧綱之書。謂之告牒。其義得不。答。案道僧格及此條。公驗爲告牒。何者於道僧格。无有僧綱。又案此令。於尼可有告牒。今任僧綱書稱告牒者。於尼不可有告牒。於是案。尋事涉相例(別)(倒)也。問。僧綱。犯百日以下苦使者。與凡僧有別哉。答。不合有別也。換任之後。依法苦使耳。或云。只換其任。不苦使者。蓋緣古說。任僧綱書稱告牒之說歟。或云。任僧綱之書。若犯一年徒。以告牒當徒一年。卽解其任。但不還俗者非也。何者文稱僧尼。豈可有尼綱乎。此說在釋後。**者。不在此例。**

私度條

凡有私度。釋云。私作方便。不由官司出家可(耳カ)(何カ)。穴云。私度者如律行事。今說賣死僧公驗。爲已僧者同私度何。朱云。私度謂雖不關課役。成僧形者。猶可私度罪者。未知。尼何同不。先云。僧尼無別。又律私度條情亦然者。不待免調役也。私依令釋「情」。若此於可〔情〕被疑官僧所云歟何。**及冒名相代。**謂冒覆也。言甲冒承乙名。而官司不覺眞度。或詐受身死僧尼名。相代爲僧尼者也。釋云。假令。三*野人甲。冒京人乙。官司檢甲正身與度者。古記云。冒名相代。謂上條移名爲僧是也。一云。冒名相代。謂冒他人姓名求度也。私名相代者。上條已說非冒名也。穴云。冒名相代。未知。行事何。答。假。甲相冒籍帳注乙子。忽有出家事。得度後。始知先冒心還俗。依俗人相冒罪。今說依令釋。或云。取死去之僧公驗。爲已公驗是也。跡云。冒承畿內人名入道也。**並已判還俗。仍被法服者。依律科斷。***私戸律子注云、斷後陳訴、須著俗衣、仍被法服者、亦從私度科杖一百也。古記云。依律科斷。謂依戸婚律。皆以私入道罪論。**師主三綱及同房人知情者。各還俗。**謂此唯據私入道。未除貫。若知已除貫者。自依格律條也。釋云。戸婚律云。私入道及度之者。杖一百。已除貫者徒一年。寺三綱知情者。與同罪者。未知。三綱知情者。依令還俗。又依律科杖一百乎。答。本犯杖者。依令還俗。但徒罪者。依格律條耳。古記云。*問。師主三綱及同房人知情者。各還

[illegible]

何〕翻訟律には、「凡知[illegible]

[illegible]とあり。

[illegible]流の條を指せるなり。

〔三野〕美濃の古字な[illegible]

[illegible]私人道條の疏なり。

〔四〕師主三綱及同房人知情者各還俗又上條其[illegible]師主及び同房の人、情[illegible]り、上條方便條には、[illegible]へるなり。

〔五〕此乞則約過多者以[illegible]

俗又上條。其所由人與同罪。未知。此一條若爲分。答。上條知情官司幷僧綱等。幷依律與同罪。故不稱還俗也。此條知情師主以下各還俗。不預所由官司。故不稱與同罪也。然則僧綱三綱。依私度及冒名相代之人還俗。幷依律科罪。唯從已判還俗之人。直還俗依律無罪。其師主及同房知情者。各還俗。依律無罪法也。跡云。依下條律。私入道者杖一百。三綱知情者還俗。但已除貫者徒一年。三綱知情者。律云。與同罪故。還俗合配徒。稱與同罪。據已除貫一色也。穴云。同房人。謂經知情百人。皆還俗。不求所由。問。律云。寺三綱知情者。與同罪。未知。還俗後。更科杖一百及徒一年哉。答。律稱與同罪者。只爲徒罪立文。仍還俗以苦使當也。其杖一百罪。只依令還俗。不得與同罪也。跡云。律稱同罪。爲徒罪立文。仍須還俗科徒一年。但杖一百罪。依此條唯還俗而已。不科本罪。朱云。師主三綱者。未知。僧綱知者何。答。未貫主司及僧綱。共可科罪。但其罪可求者也。又僧知情則知。不知者無罪者也。同房者。未知。一寺內皆稱同房不。若別房人知情何。答。皆可稱同房者。未知。而則別ヶ房一門內賦何也。**雖非同房。知情容止。經一宿以上。皆百日苦使。卽僧尼知情居止浮逃人。經一宿以上者。亦百日苦使。**釋云。捕亡律云。凡部內容止他界逃亡浮浪者一人。里長笞卌。注云。經十五日以上者。但於此令經一宿卽半。朱云。浮逃謂一宿也。古記云。雖非同房。謂同寺別房。幷他寺浮逃人。謂非浮逃雖擧四年十七以上長房止宿。不合止宿。謂卑往來者非也。**本罪重者依律論。**謂假知。知情容停反逆之類也。穴云。問。本罪重者。未知。亡罪亦稱本罪哉。答。可準論耳。朱云。本罪重者。依律論。謂罪人本罪。重於百日苦使也。然則徒以上罪。若逃亡罪重者。亦依逃亡罪科者。依律論。謂就律可見其罪者。未知。其志何罪可科。答。依捕亡律。容隱隱三人以上者。古記云。依律論。謂案捕亡律。凡知情藏匿罪人。若過致資給。令得隱避者。各減罪人罪一等也。

この句を註釋せるによりて察するに、これ恐らく大寶僧尼令の文なるべし。

〔僧尼盜佛供養杖八十〕賊盜律の條文の一部なり。

教化條

凡僧尼等。令俗人付其經像。歷門教化者。百日苦使。釋云。經像謂經幷佛像也。俗人。謂童子之類。古記云。俗人謂童子之類也。經像謂經幷佛像也。歷門教化。謂遣俗人及自牽亦同也。一云。一身獨教化亦同。*因此乞財物過多者。以詐欺取財物論過多。謂計贓百杖以上物。徵合還主也。若僧令童子直遣教化。仍乞餘物者。童子以詐欺論。僧以苦使科。不乞餘物者。童子無科。雖有造意。猶以家長共犯論也。朱云。僧尼等者。未知。等字意何。答。僧尼廣多。故稱等字也。無別色也。問。俗人謂童子他人別不。又不付經像令乞者何。先云。童子他人無別也。不依令釋者。未。私案。不付經像。令乞者。亦准上條。科違令何。「若以詐僞取財物論過多。」**其俗人者。依律論。**謂既云。僧尼令。俗人歷門教化。即明僧尼是爲造意。其俗人者自依從減一等之律。合杖九十也。釋云。因此乞財物過多者。以詐欺取財物論。徵物令還主。其俗人者依律論。除童子以外他人。以違令科。一云。從不應爲。若俗人造意者從重。隨從者從輕。一云。俗人從者。減僧一等。合杖九十。若俗人首者。杖一百。僧亦百日苦使。爲條立文故也。古記云。其俗人者。依律論。謂除童子以外他人。以違令科。一云。從不應爲。若俗人造意者從重。隨從者從輕也。一云。俗人減僧一等。合杖九十。跡云。僧尼自經門教化者。若此罪無疑。若乞取物多者。依詐僞律令科也。俗人若爲首者。杖一百若爲從者。減一等。但僧尼罪不增減也。穴云。跡云。僧尼自經門教化者亦同。令他人教化之罪。不安。僧尼自教化。若得乞食僧無罪也。不得聽僧者。科違令等耳。俗人依首從法科。是云依律也。問。不付經像而令教化者何。答。私案。科不應爲。假有計所乞之物。從以上從重。杖以下從輕耳。又僧俗爲首從科耳。但於僧尼不可增減也。問。*僧尼盜佛供養。杖八十。何時科哉。答。在寺供養是也。乞之財物贓多者。依詐欺。坐贓科。爲僞。仍還本主。爲是。私案。縱物少還入本主也。但俗人者。依令釋後說。爲首從法科之、爲是。童子他人無別也。朱云。先云。僧尼自乞。依上條科違令。何者自乞。輕於俗人故者。未。於僧尼。持經像不持無別者。問。此條諸說。何爲正說。若俗人首者杖一百也。從者杖九十也。僧尼者。首從不論。依此

令文百日苦使者。
爲良不。先亦同何。

出家條
凡家人奴婢等。若有出家。謂稱等者。官戸奴婢亦同。其依内教。奴婢者不許出家。而此稱出家者。縁其人道。免賤貴度故。釋無別也。古記云。若有出家。謂本主放與出家也。先放賤從良者非也。
後犯還俗及自還俗者。並追歸舊主。朱云。若先非爲成僧尼。尚放賤成良之後。自欲成僧尼者。雖還俗更還不歸舊主也。從良耳者。穴云。追歸舊主者。主自願令得度也。但爲良人訖。而習得經業得度者。不可還舊主耳。
各依本色。古記云。各依本色。謂官戸奴婢亦同。
其私度人縱有經業。不在度限。謂責其犯法制。故不聽其度。若改正之後。更應得度者。不在禁限也。釋云。經業謂知學經業也。古記云。經業謂所知經業也。穴云。其私度人。縱有經業。不在度限。謂以私人道。即不聽得道也。但科罪還本色後。順有經耳。跡云。不在度限。謂成白衣之後。受官度者。不在禁限。朱云。有經業。不在度限。謂成白衣之後。更爲官僧尼者不禁也。身所得經業。有不離其身之故者。或云。不聽何者先*後。堅爲基矣。尙爲不聽之故者。非也。何者此既爲不得改不聽耳者。

外國寺條
凡僧尼有犯百日苦使。經三度改配外國寺。謂已發更犯。是即與上條再犯義同。其第三度百日苦使者。爲其外配。不更苦使也。若前犯二百日苦使。其役未畢者。便於配所而役之。其三犯百日苦使。此數故降之後爲坐。自餘三度犯。亦同也。若配外國寺者。若外國僧尼有此三犯者。不可更移配他國也。釋云。赦後三度也。何者會赦原罪。僧尼不蒙赦。第三度。此配外國寺。不合苦使。何者案再犯條。第二度止。計百日苦使。不可更科九十日故。或云。第三度亦合苦使者。非也。古記云。制有禁約。謂此僧尼令諸條也。三度。謂赦後三度也。

一九行[illegible]不聽之故者」戸令に「凡[illegible]レ僧レ教猶聽レ之。」とあるに據れるなり。

一古記云制有禁約」制以下四字、もと大寶僧尼

令の文ならむ。

〔牛馬謂雜畜同也。〕法文牛馬と云へるのみなるも、雜畜をも同様に解すべしとなり。賊盜律には、「馬牛軍國所レ用。故與二餘畜一不レ同。」とあれど、本條は生類憐みの趣旨なれば、廣く牛馬以外の畜類をも牛馬と同様に取扱へるなり。

問。改配外國寺。未知。外國僧尼。若爲處斷。答。更無所遺。唯雖有德業。不得配入畿内耳。穴云。三度謂放上例。發訖更犯也。爲無斷訖更犯之字故也。仍不得配内。謂配外之僧。後日更不得配入也。但私暫東西不禁也。餘依先私記。今案。更犯三度者。一度之分。配外國寺。前犯二度之分。二百日於配所苦使耳。今說。先苦使後配耳。跡云。第三度。百日之分配外國故。不合役本罪。凡此條。已發更犯。又不計赦前之犯。假令。發更犯。摠三百日在者。後百日合免。前二百日。配外國合苦使。朱云。後度反云。犯處。先合苦使。後可配外國寺者。此說大難。何者依名例律。先犯徒後犯流時者。流所可役徒分之故者何。若外國僧尼有此三犯者。更不移寺。但不聽配入畿内耳。朱云。經三度改配外國寺。謂若外國寺之僧尼者。雖經三度。更不配別寺也。尚置同「寺」可苦使者也。凡犯百日苦使。經三度配外國寺。意何。此以案可稱外國賤何。**仍不得配入畿内。**

布施條

凡齋會不得以奴婢牛馬。及兵器充布施。謂若違法輙充及受之人。各當違令之罪。仍准上條。僧尼蓄財物法。其物皆須沒官之。釋云。奴婢謂家人亦同也。*牛馬謂雜畜同也。若違令受者。幷科違令罪。其物沒官。一云。非彼此俱罪之贓。不合沒官今改易耳者。非也。古記云。奴婢謂家人同也。牛馬謂雜畜同也。兵器謂大斧小斧刀子針之類者。非也。穴云。充及受者。違者從科違令耳。牛馬奴婢等物。或說沒官爲劣。今此說爲長。不安耳。或說。科罪還本據充者爲長也。不爲計贓故。不合沒官也。跡云。上相拼條。馬謂非僧尼得有馬。何臨時當請之日乘。朱云。不得充布施者。未知。雖與而僧尼不受何。此時倘與人科罪不。先云。僧尼不受者。將與人無罪者。來。**其僧尼不得輙受。**

焚身捨身條

凡僧尼。不得焚身捨身。釋云。焚身傷體也。捨身滅命也。焚音符分反。古記云。道謂出家也。俗謂在家也。焚身謂燃指燒盡身也。捨身謂剝身皮寫經。幷稱畜生布施。而自盡山野也。**若違。及所由者。並依律科。**釋云。所由謂知情受雇借人也。依律科者。詐爲律。凡詐疾病有所避。杖一百。自身傷

唯「在俗」役一年者云、有所遣無所遣等、但傷殘得此坐也、同、初條云、依法律付官司科罪者、此則還俗、依俗人法科罪。今此條、亦依律科斷者、未知、此亦依俗人法科罪、爲當。依格律條、百杖以下、若使乎、答、據道僧格無有此條、案爲取輕重罪名故、依律科斷耳、古記云、所由謂知情故受庇蔭人也、依律謂詐僞律詐爲條具文也、凡寺內在無外者、遣僧一二人、檢校者處之、凡官司違僧綱、若僧綱中官司公文故爲牒、檢養*老三年十二月七日格。太政官牒僧綱。治部省牒僧綱所。穴云。依律謂依律本罪科斷耳。但若使還俗。具依格律條、謂詐僞律也、私案、初條、依法律科罪、與此文依律科斷、爲意殊也、跡云、依律科斷、謂鬪訟律與詐僞律。尋其本意。合科傷殘之罪。但依律者。此本意輕。故准其罪耳、不合還俗、但依上條耳、朱云、若違及所由者。並依律科斷。謂不依上條也。專依律科罪。不用告牒也」後慶反也。但本罪者依律也、徒罪者、未知、而亦還俗何、而何依令看可有

且只卜罪意何、若設禮歟何、

〔養老三年十二月七日格〕この格、類聚三代格に見えず。

令集解卷八

本云、文應元年八月廿日以合本書加首書畢　　律大博士藤在判

建治二年閏三月十六日引合直觀寫之本校合畢

本云、慶長四年林鐘初六課少內記賢好令校合畢　　史部清原秀賢

寬永十一甲戌霜月朔日逢一校畢

大府侍郎中原職忠

萬治三庚子仲冬十有九令一校畢

右者河邑秀興先生之御本ヲモテ如本書

寫校合者也　元本ハ高橋家藏本

明和丁亥仲秋　越智通邦印

同七年甲寅四月二十七日以京師本一校了

安永三年十一月廿六日與河伯纜及萬子祐一會了

文政三年首夏以彰考館本比校了　檢校保己一

令集解卷九

戸令一 始條以下。戸令第八以上。

戸 謂一家爲一戸也。釋云。戸故古反。顧野王案。一家爲一戸也。說文。護也。穴云。婚事巡行事等皆是戸口。故摠載此令也。

戸令第八　凡卌五條

凡戸。以五十戸爲里。爲里條 謂若滿六十戸者。割十戸立一里。置長一人。其不滿十家者。隷入大村。不須別置也。釋云。師說云。若滿六十戸者。割十戸立一里。置長一人。或說。爲二分。各以卅戸爲里者非也。何者爲以五十戸爲里故。唐令見文。*跡云。所乘戸十戸以上。別置里長。不滿十戸者。當附大村里也。朱云。里者如是也。於里無地之多少限也。古記云。若有六十戸者。爲二分。各以卅戸爲里也。

毎里置長一人。掌檢校戸口。朱云。檢校戸口。未知志何。先云。可檢知戸口正身耳。催課農桑等故者。課殖農桑。釋云。農奴冬反。周禮。九職。一曰三農生九穀。鄭衆曰。三農謂平地山澤也。*考工記。飭力以長地財。謂之農夫也。農耕也。古文爲耕字。案文爲殖字。穴云。課殖農桑。謂課依律先當里所管戸田等。所在里長合催殖也。私案。田租未徵損。若當土人賃佃者。租是賃人所出。然則違期不充者。在罪賃人。不坐本戸。但里長以上備坐本郷耳。可與。但下可。抑合定律也。朱云。課殖農桑。謂雖他郡人。當里之內受田者。尙可令課殖。掌地利也。反。未知。里長率。依何文可知。答。禁察非違。朱云。未知。一罪何。答。催駈賦役。若山谷阻險。地遠人稀

〔唐令見文〕上記の如く唐令に據れるを見るべし。

〔課依律先當里所管戸田等所在里長合催殖也〕戸婚律には「凡里長不覺脫漏增減者。一口笞三十。三口加一等。」云々とあり、又「凡部內田疇荒蕪者。以十分論。一分笞三十。一分加一等。」云々とあり。

〔未知有所歸哉答案本令讀耳〕未だ知らず、上記の說その據る所ありや。答ふ。本令即ち唐令の意を案じて當に爾か解せざるべからず。

之處。謂縱山谷阻險。而人居稠密。或雖人居稀疎。而地理平坦者。並不在此限也。穴云。山谷阻險。地遠揔爲一事也。山谷阻險地近。或平地而地遠者。皆依上文。滿五也。「事也」。二云「事也」。今說遠謂一日程以上也。古記同之。未知。往還一日程歟。答。片行一日程以上耳。或說。不見遠近臨時置耳。跡云。遠謂不見限。臨時處分。朱云。阻險地遠者。二事。或云。一事。相須者非也。遠謂一日程以上者。然遠釋文耳。隨便量置。謂若滿十戶者。依上法。立別里。若不滿者。令伍相保。〔寄〕附於大村也。釋云。阻險地遠之狀。臨時處分。故云。隨便量置。師說云。滿十戶者。穴云。隨便量置。謂行一日程以上耳。或說。不見遠近。臨時量耳。十戶以上爲一里。其不得止而可別。纔五十戶以下三四人置耳。但務必滿五十戶。乃量置別長。問。滿十戶者。立別里。*未知。有所歸哉。答。案本令讀耳。跡云。量置謂十戶以上別置長。不足十戶附大里是也。朱云。未知。寄附大村時。五戶以上者則結保。此中置保長何。古記云。隨便量置。謂廿五戶以上。但不足廿五戶以上者。不置長。以保長催駈耳。一云。以廿戶令(合)置長一人。郡以二里。爲郡故。故私記案。開元令。十戶以上別可置長者。

凡郡。定郡條以廿里以下。十六里以上爲大郡。謂郡不得過千戶。若餘五十戶以上者。隸入比郡。若隸入比郡。地勢不便。或不獲已而應分者。別錄申官。其定國大小。可有別式。釋云。郡不得過千戶。若餘五十戶以上者。分隸比郡。地勢不便者。隨狀分置別郡。若不足百戶者。隨宜隸他郡。若不得已者。申上也。古記同之。定國大小。須式處分。穴云。以廿里以下十六里以上。爲大郡者。所乘二里以上者。置別郡也。若不足二里者。寄附便宜郡耳。跡云。同之。定國大小可有別式。朱云。令釋云。若餘戶不足百戶者。隨宜隸他郡者。未知。地勢不便何。私案。依令釋申上耳歟何。定國大小依令釋。須式處分者。或云。以定郡大小案可知故。文不云者。貞不同。(以下廿六字作小字。據義解宮本塙本改本文。)十二里以上爲上郡。八

[illegible]長者[illegible]取部内散位勲位一[illegible]令には、[illegible]牧長等者、取庶人清[illegible]堪[illegible]者爲之。其[illegible]六[illegible]動位、亦通聴[illegible]通[illegible]あり、又軍防令には、凡烽、置長二人、[illegible]三烽以下[illegible]唯[illegible]一人。國司、簡所部人家口重大堪檢校者充。若無者、通用散[illegible]位一云々

里以上爲中郡。四里以上爲下郡。二里以上爲小郡。

置坊長條

凡京。每坊置長一人。釋云。坊者大町也。大町四町置令一人。穴云。於坊無戸口之限也。朱云。每坊置長一人。謂坊内只有親王家。雖無百姓。尙可置。何者可令掃淨道路故者。四坊置令一人。掌檢校戸口。督察姧非。穴云。督察者禁察同意。朱云。問。姧非與非違別何。答。一同也。不在姧女也。催駈賦徭。謂案[illegible]貢令。不注坊令職掌。至此「乃」注者。只坊令職掌。與坊長同故。在一處相併而注也。釋云。此職掌長。令同也。穴云。檢校戸口以下職掌。令被坊長之文耳。跡云。職掌者坊長坊令並同。古記云。問。令一人職掌注。案長一人以下。答。長令共按檢也。

置坊令條

凡坊令。取正八位以下。謂内外並同。下文准此也。稱以下者。無位亦同也。案有防令。雖[illegible]六位。不可輙替也。釋云。内外並同。下文准此。稱以下者。無位亦同也。穴云。作後敍七位者。替任。里長替亦同也。只下謂初位也。無位不合也。*令云。無位亦可聽。餘同跡私記也。問。動位任用何。答。牧長烽長等。取部内散位勲位。然則坊令亦取動位無妨。但動六等以上。與七位同。不可任用也。古記是也。跡云。八位以下。謂至七位者令替。古記同也。坊長里長亦同。朱云。問。坊令一條一人。未知。何得分番[illegible]事。先云。身長上尙可得番上耳。官位令不載之故者。古記云。問。取外位任坊令。若爲選敍。答。同内分番敍内位。[illegible]同之。明廉强直。古記云。問。明廉强直。*又選敍令。性識清廉者爲分別。答。文異義同。下句清正亦(同歟)。令釋亦同之」。堪時務者充。里長。坊長。跡云。内位任里長者。合得外考。又外八位任坊長者。合得内考。古記云。問。取内位任里長。取外位任坊長。若爲選敍。答。里長。同外分番敍「外」位。坊長同内分番敍内位。之一

とあり。

〔明廉強直又選敍令性識淸廉若爲分別〕本條に云へる明廉強直と、選敍令、郡司條に見ゆる性識淸廉と、その區別如何と問へるなり。

〔與名例共犯條以伯叔父兄弟爲尊長又同居卑幼條尊長異也〕本條に家長と稱するものは、名例律、共犯の條に「若家人共犯只坐尊長」とある尊長、及び賊盜律、同居卑幼條の疏に「謂依下故殺傷尊長卑幼本法上他人依強盜之法」とある尊長とは異るなり。

〔皆依繼嗣令耳也〕繼嗣令に「凡三位以上繼嗣者、皆嫡相承。若无

釋同。並取白丁淸正強幹者充。若當里當坊無人。聽於比里比坊簡用。穴云、坊令亦聽比坊簡取耳。跡記同之。朱云、私案、此文廣可取、何以必先知可取當坊人哉、聽於比里比坊簡用。謂爲里長以下並文。但無人者、坊令亦放此文取耳。問。若比里比坊。無人者取比郡乎。答、一郡內、豈無可取里長人者。未明。私賦役令云、坊長免雜徭、義解云、取京畿人故不勞庸、若取外國人、卽令免庸、其坊令同里長、亦免徭也。若八位以下情願者聽。釋云、若成七位以上者替、古記云、問、八位以下、情願者聽、有限不、答、內八位以下聽也。

戸主條
凡戸主。皆以家長。謂嫡子也、凡繼嗣之道、正嫡相承、雖有伯叔是爲傍親、故以嫡子爲戸主也、釋云、若父死母子兄存者、以男爲之、又有伯叔兄數人、猶以嫡子爲戸主也。與名例共犯條以伯叔兄爲尊長。又同居卑幼條尊長異也。穴云。家長謂嫡子也。無嫡子立嫡孫。以次立、*皆依繼嗣令耳也。雜令、家長在而子孫弟姪不得私輙自專。又律、家人共犯只坐尊長等者、各隶尊長、但於此條、不要尊長等者、各隶尊長、但於此條不要尊長二(以上十一字衍文、可削)彼此相異、問、繼嗣令云、四位以下唯立嫡子者、然則不得立孫、而何無嫡子立嫡孫哉、答、一端言之耳、凡立戸主者、一依立嫡子之條耳、釋云、父死母子兄存者、以男爲者、爲是也、問、定嫡子不見年限、若嫡妻長子幼少、不任仕處分何。釋答、下條云、非成中男及寡妻妾不可析者、若不堪者、宜差以堪事人、爲戸主耳、母男一人、男不任者亦母任耳、今說、而〔尙〕立嫡子爲戸主、但有相代行事人耳、少不安、可求、問、嫡子堪任戸主者、並替哉、答、以母爲戸主者、於並替有何妨哉、但以庶子長、爲戸主者、不得並替歟、可求、又、私案、雜戸陵戸並戸主亦〔並〕替此、可然也、跡云、問、兄弟同籍而兄亡、弟在、未知、兄子與弟以誰爲戸主、答、得家人以兄子合戸主、但律共犯條、至律不限年合求也、朱云、戸主皆以家長爲之、謂於並戸主、不限年多少、或說、年少不堪者、「主」政之

嫡子ハ及有二罪疾一者、立二嫡孫一。无二嫡孫一以次立二嫡子同母弟一。无二母弟一立二庶子一。无二庶子一立二嫡孫同母弟一。无二母弟一立二庶孫一。四位以下、唯立二嫡子一云々とあるに據るなり。

〔嫡子幼弱者猶爲以母耳〕嫡子幼弱なるときは、一時母を以て戸主と爲すことは、恐らくは當時の慣習なりしなるべし。卽ち古記は、嫡子幼弱なるときは、何人を以て家長となすべきやとの問に答ふるに、當時の慣習を以てしたるなし。

〔馬戸雖賦役令免課役廐牧令有輸調草〕馬戸は[illegible]戸にして、[illegible]せる戸なり。賦役令には、「凡舍人、（中略）馬甘、雜戸、[illegible]人在レ役、並免二課役一」とありて、馬飼雜戸の課役を免ぜり。然れども廐牧令に

問。備立別人實未也。古記云。問。父不定嫡子死。母見在。以誰爲戸主。答。以母爲戸主。一云。依法定嫡子。令爲戸主也。問。有嫡子幼若。若爲處分。答。嫡子幼弱者。猶爲以母耳。

爲之戸内有課口者。爲課戸。朱云。戸内有課口一人。尙爲課戸耳。其數不云之故。又依律。以一人以上可爲戸。但以上文不見數限。隨宜耳。私賦役令云。凡封戸。皆以課戸充。額釋云。有中男一人以上者。卽爲課戸。穴云。問。馬戸雖賦役令。免課役。廐牧令。有輸調草。未知。注課不哉。答。於其等色。直注馬戸鍛冶戸。更不合注課不也。私案。品部之類。亦只注乳戸紙戸。不注課不。陵戸亦同。今案。雜戸以下准良人。注課不。但陵戸者不注耳。朱云。或云。雜戸等不注課不者。未知何。答。然也。但陵戸注課不者。未明。何者此亦不出課役之人故也。未知。何。

無課口者。爲不課戸。

不課。謂皇親。謂四世以上。其五世王者。未蔭五位。雖非皇親。理宜不課。六世王者。懸准未蔭。比五位子。亦是不課。七世王者。雖云絶蔭。比五位孫。故輸調免徭。可得用任。八世以下者。宜從已絶。並科賦役。一准白丁也。額。與義。俗無別。穴云。皇親謂四世以上親王以下也。五世以下放令釋。但約蔭子之趣耳。已案。七世王者。比蔭孫爲課耳。問。令釋。此依前令所解。未知。於今令六世七世何論。答。於今令無之。但於前定可檢耳。跡云。五六世王七世王。未明。謂帶身帶位。其蔭令釋解。五位孫亦同。

及八位以上。男年十六以下。並蔭子。謂五位以上之子。其三位以上父祖兄弟。亦是不課。而特以子爲文者。據其多者也。謂其字以下。與義。俗無別。古記云。問。賦役令云。三位以上父祖兄弟子孫及五位以上父子。並免課役。此條。爲嫡蔭子。其意如何。答。略文耳。若此之類也多。故賦役令耳。

耆。癈疾。篤疾。妻妾女。家人。奴婢。穴云。問。婢爲主被幸。仍有子。聽妻爲。未知。注妾以爲婢哉若。答。爲未從良故。尙注婢耳。今說。爲妾之日。卽從良。後注妾。

耳耆者。律可案。問。耆人也。年兵衛等之類。課役俱免。未知。爲不課哉。答。猶任之類。任樣異常故。不可爲不課也。又其合免之人。然亦不得爲課戸。不注課不耳。今依之。

三歲以下條

凡男女。三歲以下爲黃。 釋云。三歲以下其色黃也。所以爲黃也。 **十六以下爲小。廿以下爲中。其男。廿一爲丁。六十一爲老。六十六爲耆。** 謂凡服役之道。老壯異科。故隨其年秩。制二等法。其女者非力役之例。故唯擧男。若可注帳籍者。自依丁老耆法也。釋云。其男廿一爲丁。此說。始爲正丁之義。其女無役。以更不勞(務)。若有可注者。爲丁。女丁。穴云。擧男稱丁。老耆者爲課役生文。其於婦女有可稱者。亦放男也。*天平勝寶九年四月四日勅。天下百姓成童之歲則入輕徭。既冠之年便當正役。量(愍)其勞苦。用軫于懐。昔者先帝亦有此趣。猶未施行。自今以後。宜「以」十八爲中男。廿二「已上」成正丁。普告遐邇知朕意焉。主者施行。*天平寶字二年七月三日勅。東海東山道問民苦使正六位上(下)藤原朝臣淨弁等奏偁。兩道百姓盡頭言曰。依去天平勝寶九年(歲)四月四日恩詔。中男正丁並加一歲。老丁耆老俱脫恩。私伏(望)請。一准中男正丁。欲霑非常洪澤者。所請當理。仍須憫矜。宜告天下諸國。自今以後。以六十爲老丁。以六十五爲耆老。主者施行。

無夫者爲寡妻妾。 謂夫亡。及被出者。不限年之長幼皆爲寡也。釋云。依禮。五十以上無夫爲寡。穴云。無夫者前嫁之或夫死。或絕離是也。稱寡妻妾。只顯先有夫也。不合稱故夫名也。不須至九(五カ)十稱此名。其[illegible]寡條。一限五十以上稱寡者。有夫無夫摠通言之耳。但此條心。無有夫女者。十三以上皆稱寡妻妾耳。一云。此亦五十以上也。問。稱寡妻妾。在夫家。并在父家。有別以不。答。不見其別。縱有還本家附父貫。尙注寡妻妾耳。朱云。無夫者。爲寡妻妾。謂年十三以上離夫無也。與令釋異也。附夫戶。附祖戶無別。讃說。夫死之後。更還附父母戶者亦稱女者。未收。未知。凡顯寡妻妾之志何。答。跡云。無夫者。籍帳合注寡妻妾。古記云。無夫者爲寡婦。謂年五十以上也。

目盲條

凡一目盲。兩耳聾。手無二指。足無三指。 釋云。案手無二指。謂一手無二指。若左右並無二指。不可爲殘疾。朱云。手

は「凡廐、細馬一疋、中馬二疋、駑馬三疋、各給二丁一人。」云々とありて、その義解は「謂以二馬戶丁充一。」と云へり。

〔但於刪定可檢耳〕刪定は、吉備眞備、大和長岡の兩人が、神護景雲三年に養老令を刪定したる刪定律令二十四條なり。この律令のこと、既に後宮職員令、內侍司の條に說けり。

〔婢爲主被幸仍有子聽妾爲〕戶婚律に「凡以レ妻爲レ妾。以二家女婢一爲レ妻者徒一年。（中略）若家女婢有レ子。及經レ放爲レ良者、聽レ爲レ妾。」なる條文あり。

〔天平勝寶九年四月四日勅〕この格、類聚三代格卷十七、蠲免及び續日本紀、卷二十に見えたり。

〔天平寶字二年七月三日勅〕前格に同じ。

（三）[illegible]拇指不在[illegible]二殘疾[illegible]癈疾を篤疾となすことも一般原則なれど、必ずしもこの原則に拘泥すべからずと云へるなり。

〔葛氏方〕日本國見在書目錄に「葛氏方二十卷」とあるもの之なるべし。

無一指。謂其手無一指。及左右手各無一指同也。足無一指。手無一指。不爲殘疾者。未明。跡云。片足無一指。手無一指者爲殘疾。左右手各無一指者殘疾。穴云。令釋云。一殘疾爲癈疾。二癈疾爲篤疾。今偏取指不必體目假左右手各無一指。豈爲癈疾乎。但一手無四指。手與足各無大拇指者。皆心合爲癈疾。凡如此之類。皆臨時處分。令親與儀例。

手足無大拇指。謂拇大指也。或手。或足。無大拇指者亦同也。若手足共無者。自須從癈疾也。釋云。拇。音莫后反。賈逵注國語云。大指也。能別之別。朱云。手足無大指者無一。無二。並同也。爲不云數也。

禿瘡無髮。謂頭上生瘡。有白禿之類。其瘡甚癢。徒其上髮。悉落不生也。釋云。禿。音他谷反。説文。無髮也。謂因禿瘡而無髮也。古記云。禿瘡無髮。謂因禿瘡而無髮也。音他木反。

久漏　謂身成孔穴。膿汁常漏。久而不止。故曰久漏也。漏或作瘻也。釋云。身體腐壞一穿。膿出不止。是名久漏或瘡。久九同音。漏瘻同音。故知瘻索九康因日相漸耳。葛氏方云。婦人妊身兩月經不止。名爲漏也。古記云。久漏謂身體腐壞一穿。膿出不休也。一云。[illegible]出不休。亦同也。

下重。謂陰頹也。陰核腫脹。[illegible]其大如升斗。沈重墜行。故曰下重也。釋云。下部過重。不便行謂之。

大瘻疽　謂瘻者頸腫也。疽者足腫也。謂其小者爲瘻。[illegible]故知大字。以別也。釋云。説文。瘻頸腫也。音於郭反。古記云。毛詩傳云。足腫也。音之隴反。[illegible]少者。不得其人。故知大。以別耳。古記云。毛詩。既微且尰。傳云。腫足爲尰。音時種反。案。但稱大而小[illegible]小[illegible]不入此例。

如此之類。皆爲殘疾。朱云。未知。之類一據何色。先云。臨時可爲殘疾色弘多也。假使[illegible]之類者。跡云。凡殘疾有二種者爲癈疾。癈疾有一種者。爲篤疾。只是臨時合定。故云之類。古記云。殘疾有一種以上者。隨狀量酌入癈疾。癈疾有一種以上者。亦准此入篤疾。但篤疾一種以上。其身當爲殘疾癈疾者。猶爲殘疾。爲癈疾耳。

癡瘂。謂不皆爲癡。不能言爲瘂也。釋云。不皆爲癡。音丑之反。口不能言爲瘂。音烏雅反。古記云。説文。癡不慧也。[illegible]也。[illegible]音於[illegible]反。

侏儒。謂短人也。釋云。鄭玄

注、禮記云。短人也、侏、音心倶反、儒音日朱反也、穴云、侏人有大嬰者、尚爲癈疾也。 腰脊折。謂腰脊不相須也。若其折者、自合篤疾也。釋云、背脊爲脊、音資昔反、餘與義解無別。 一支癈。如此之類。皆爲癈疾。謂輕疾也。癈於人事、故曰癈疾也、釋云、癈謂癈於人事者、音方肺反也。 惡疾。謂白癩也。此病、有蟲食人五藏、或眉睫墮落、或鼻柱崩壞、或語聲嘶變、或支節解落、亦能注染於傍人、故不可與人同床也、癩或作癘也、釋云、遍身爛灼、體上無皮、毛髮洞落、指節自解、觸類繁多、摠云惡疾、唐梅病癩者、惡疾別名耳、古記云、惡疾謂病癩者、眉髮脱(總)落、手足零墮、遍身炮瘡、脊缺爛、色類非一、皆是。若有同親者、便以同親充侍、若無(其)無者、不給侍、所以人不欲近耳。 癲狂。謂癲者、發時仆地、吐涎沫、無所覺也、狂者、或妄觸欲走、或自高賢、稱聖神者也、釋云、倒仆爲癲、音徒賢反、師古云、癲者時時倒仆、失常心也、妄觸爲狂、音渠王反、野王案、狂猶觸人也、**癲病發始事** 常狂惑而無止時、古事云、癲狂謂癲病狂病二種之病也、師古云、癲者時時倒仆失常心也、又曰、狂之與癲同也、野王案、狂者狂而觸人也、又云、狂常狂惑而無止時也、故狂與癲異也、※甲乙子卷云、癲疾得之、在母腹中時、其母有所驚、氣上而不下、精氣并居故、令子發爲癲疾、又云、狂者始發少臥不飢、自高「自」賢「自」辨智、自「尊」貴「自」倨善、罵詈日夜不休、※名爲狂病、狂發則妄行走也、葛氏方云、凡癲疾發、則仆地吐涎沫無知、又云、凡狂發則欲走、或自高稱賢聖也、華他云、十歳以上爲癲。十歳以下爲癇。 二支癈。古記云、支癈謂既無一支、又有而不動一種。 兩目盲。如此之類。皆爲篤疾。

老殘條

凡老殘、古記云。殘謂上條殘疾耳。 并爲次丁。

五家條

凡戸皆五家、朱云、如言五戸也。 相保。釋云、鄭玄毛詩傳云、保守也、古記同之。音補抱反也、古記云、音補道反、一戸之内縱有十家、以戸爲限、不計家多少也、但一戸之内

〔甲乙子卷云〕日本國見在書目錄に、黄帝甲乙經十二卷、甲乙注四卷、甲乙義宗十卷、甲乙經私記二卷と見えたり。甲乙子卷は、恐らく甲乙經の子の卷なるべし。

〔華他〕華陀、花陀等と書す。魏の名醫なり。その傳三國志、魏書二十九、方伎傳に見えたり。

人。皆於他保有家者。量便而割入他保耳。一人爲長。以相檢察。朱云。未知。相字之意。先云。尙是相知情耳。勿造非違。釋云。詩傳云。造、爲也。音昨早反。爲圖謀云。作造爲也。如有遠客來過止宿。穴云。遠客謂一日程外人也。但雖知面識。問不在此例。此條大旨。爲防浮隱也。其比近甲人經十五日宿止者。依律科斷。自往來不禁也。來過止宿謂經一宿以上也。今說。雖比近人來而可經宿者。亦同遠客。並文不安。朱云。遠客未知。先用知別不。先云。我雖知爲他人不知。尙可遣告知者。古記云。有遠客謂一宿以上。保内之人。所行亦同也。及保内之人有所行詣。釋云。野王案。詣至也。古記云。穴云。有所行詣者。亦一日程以上。可經宿也。若不可經宿者非也。朱云。有所行詣謂一日程以上行也。並語同保知。古記云。來人行人。並告五保知。

〔此條大旨爲防浮隱也〕この條文の立法の目的、浮浪、逃亡を防止するにあり。然して、當時の明法家が、先づ立法の趣旨を把束して、これより解釋を試むること、當時の法學界の學風なりしことを察すべし。

戸逃走條

凡戸逃走者。令五保追訪。謂此五保職掌。故其追訪之人。不在折衝限也。釋無別。古記云。問。令五保追訪。未知。追訪之間。免徭役不。答。已職掌事。不免徭役也。三周不獲除帳。謂三年之後。至四年計帳而除帳。即其地者。除帳之年還公。不待班田之日也。釋無別。穴云。三周謂從元年十一月已後一周。必經三年不獲者。四年計帳除帳。凡諸條稱除附之類。皆計帳耳。今說。必經三度帳而不出者。至四年計帳造之時。除帳耳。但雖往徒除者。依當條也。朱云。三周謂不計日。一日。尙已釋稱周者。未明。其地還公。謂雖當班田年。未論三周六年之間。不可還公也。古記云。三周謂三年畢也。別名耳。除帳謂除帳之由。于籍記實。但年不附帳。至三周之帳。亦如之。還從一班收授。謂除帳之後。遭班田之年即收授也。其地還公。未還之間。五保及三等以上親。均分佃食。釋云。佃作田也。古記云。賢反。穴云。問。五保及三等以上親。均

〔或云雖無田有園者輸調也爲以桑漆輸調者非。〕田令には「凡課ニ桑漆一、上戸桑三百根。漆一百根以上。中戸桑二百根漆七十根以上。下戸桑一百根。漆卌根以上。五年種畢。」とあり。これ唐の永業田の制を模せるものなり。而して賦役令に據れば、調は原則として絁布を出す故に、園地を所有する以上は、調を出す義務ありと解する學說生ずるなり。

〔但因王事沒落外蕃者依田令也〕田令には、卽ち「凡因ニ王事一沒ニ落外蕃一不レ還、有ニ親屬同居一者、其身分之地、十年乃追。身還之日、隨レ便先給。卽身死ニ王事一者、其地傳子。」とあるなり。

〔竝流人田地等何答不可同亡人可別勘也〕延喜民部式には「凡流移人隨レ到給レ田。比レ至ニ

分佃食者。未知。稱五保者。只戸主歟。又三等以上有百人者。無差別。爲百四分。四戸各各一分。親百人各一分哉。答。稱五保只戸主耳。又爲百四分。各與一分耳。古記云。問。五保及三等以上親。均分佃食。若其田少者。誰人先佃。答。令佃五保。朱云。問。三等以上親均分佃「食。」男女有別哉。答。無別。未明。

租調代輸。 謂若無地者。不可代輸。其徭役者。縱有地不可代役。無其身故也。釋云。徭役不代役。無正身故也。無田者。其調亦不可輸。跡云。若逃人無田者。其調亦不合輸。穴云。租調代輸。各無田者不出租也。此文。與唐令改替故也。但調五保及三等均出。不論地有無也。爲是。或說無田者。調租並不輸者非也。朱云。無田者。租調不〔及〕代輸「反」*或云。雖無田有園者。輸調也。爲以桑漆輸調者非。古記云。問。租調代輸。未知。徭役若爲。答。依無正身而不科耳。

三等衣上親。謂同里居住者。 穴云。問。三等以上親。被貫他鄕而居住同鄕者何。答。文稱居住同里。卽明。不求所貫。唯居住同里者。均分佃食耳。但。師御心由不許。

戸內口逃者。 古記云。令追訪不。答。令同戸追訪耳。

同戸代輸。 朱云。同戸代輸謂戸主也。地亦戸主佃耳。凡令志。以子孫可爲戸故也。與今時異也。私案。他人亦可有也。

六年不獲。亦除帳。 古記云。問。除帳之後。未收授之間。租調若爲處分。答。輸租調不合。穴云。問。三周六年間。造籍及收給〔之〕後未收授之間。租調若爲處分。答。輸租調〕(以上十七字古記文ノ竄入)何處分。答。私案。尙依當條年限也。

地准上法。 穴云。問。地准上法未知。廣及三等以上及五保哉。答。地准上法者代輸人佃食耳。然則不及五保等。問。功田何者。答。自非田令所制。無取准法也。問。沒落人。田租調及除帳之限習何文。答。不見除文也。尙待來時耳。私案。全戸沒落者。五保三等以上親。戸口沒落者。同戸佃食。並代輸耳。但不得優於因王事沒落外蕃之人耳。然則十年之後。其口分田還公也。但不除帳耳。*但因王事沒落外蕃者。依田令也。死人之分地佃食。見田令釋也。問。*竝流人田地等何。答。不可同亡人。可別勘也。私案。無可還理故。卽年還公也。死人之分地佃食。見田令釋也。朱云。流人口田卽。別年

賦役〔賦役令〕と見えたり。之によれば、識人の本籍地に於ける口分田は、配所に發遣すると同時に收公せられしものの如し。

〔但官戸奴婢年七十六以上皆從良〕戸令下條に「官戸奴婢、年六十六以上、及癈疾、若被配没令爲戸者、並爲官戸。年七十六以上、並放爲良。」とあり。

〔稱孫者依律曾玄同也〕名例律、下卷に「凡稱二等親及祖父母者。曾高同。稱孫者。曾玄同。」とあり。

〔若在親之官者至免所居官條〕職制律に「凡祖父母父母。老疾無侍。委親之官。即妄增年狀。以求入侍。徒一年。」云々とあるを指せり。

何。答。穴云。問。不課役之人。並亡。其分田尚同不。先云。尚無別。賦者何。文云。問。犯死罪被決人。并亡人。除帳人口分田。同時可收哉。貞可求。不見者。私案。並志郎可收乎。

給侍條

凡年八十及篤疾。給侍一人。謂。其給侍者。不限貴賤。皆普給之。其篤疾之人。年亦八十者。猶給一人。不可累給。其九十百歲亦准此例也。釋云。師說云。雖有蔭贖。年八十者。猶給一人耳。以下准此。跡云。五位以上。雖得資人。給侍無妨。文一人。年八十。而有篤疾者。猶給侍一人耳。朱云。或云。五位以上者。不給侍者非。未明。但於親王不見。古記云。問。年八十兼有篤疾之病。給侍一人乎。答。猶給一人耳。穴云。雜戸陵戸。給侍即良人。但官戸奴婢年七十六以上。皆從良。然則給侍者然也。給篤疾侍。下賦求。給親王侍不見。今案。依令。給侍不限貴賤。然則親王以下給侍之說。爲侍。

九十。二人。百歲。五人。皆先盡子孫。謂。縱有子孫者。不限有官無官。皆先盡其子。然後及孫也。謂孫者。依律稱孫者曾玄同也。名例律。犯死罪祖父母老疾應侍條見文。案。雖五位以上。必可給侍人也。穴云。皆先盡子孫。謂先盡子。後取孫。縱有官位取充耳。但六十一以上不充也。不丁故也。師不然也。若其侍養者。令侍耳。亦不穩。就取同家老丁中男。聽爲次丁故。若在親之官者。至免所居官類可差。其中被已老丁從。不同丁例。非老人類。不可取充。爲是。跡云。子孫。依文次合盡。朱云。先盡子孫。未知。若子有官者。聽解官充。何。答。別而使人給者何。答。別不給他人也。不見文者。若無子孫。聽取近親。釋云。謂有服親者。一云。三等以上也。穴云。近親謂三等以上。不言貴賤卑幼取充。假子孫中數人以父充之類。爲字愛重於他也。今依此說。律犯徒應役家無兼丁之條。有耐文者。合爲丁故也。後定。文稱子孫。然則准決之文。爲近親等事者。其取侍長充侍者耳。但子孫其合取近親。不合取文祖。官民云。氏々云。同也。貞云爲吉。但師不然耳。朱云。近親謂三等以上也。爲相匿者。又古記云。近親謂三等以上也。一云。此條。近親謂四等以上。親爲不可。同外丁。又得養子故也。

〔古記云同家小子丁〕大寳令に於いては、中男のことを少丁と云へり。故に本條の如きも同家少丁とありしなり。少子丁の子は衍なるべし。

無近親。外取白丁。古記云。外取白丁。謂他戶丁。若有同戶異姓丁者。先取耳。若欲取同家中男者竝聽。謂主政以上。爲推決朱云。中男聽侍。未知。可免何「役」故。答。可免雜徭。問。竝聽者。未知。廣被(彼)條幷字歟。何。*古記云。同家少子丁。謂子孫及近親也。郡領以下官人。謂主政以上。爲推決故也。釋無別。古記云。郡領以下官人。謂主政以上也。數加巡察。若供侍釋云。供。音居庸反。具也。設也。奉也。進也。侍音。時至反。近也。承也。不如法者。隨便推決。謂量其情狀。便決以笞罪也。釋云。不如法。猶言不宜耳。隨便推決。謂隨狀輕重。量決笞罪耳。穴云。隨便。〔一云隨而便〕。推決。言子孫律條。有罪。餘人亦求罪條耳(而カ)斷決也。一云。隨便。〔爾而〕。推決。言除子孫之外侍等。隨狀量心。決廿卅之類。不求罪律條也。今依此說。朱云。若供侍不如法者。取尊長。雖充侍。尙同推決耳。未知。依法科歟。答。臨時量決笞罪耳。古記云。問。若供侍不如法者。未知。如法若爲。答。案職制律。卽役使非供已者。計庸坐贓論。罪止杖一百。其應供已驅使。而收庸直者。罪亦如之。供已求輸庸直者不坐。注云。事力侍人之類。案。不離老者許。取水湯。求訪物幷醫藥供侍耳。不得苦役山野也。

侍者勤役事

其篤疾十歲以下。有二等以上親者。竝不給侍。謂十歲以下者。三歲以上也。釋云。若無二等親者。別給侍人也。穴云。十歲以下謂一歲以上也。今說爲幼。依律。稱孫者曾玄同。稱二等親者。曾高非其中。然則曾高在者。猶可給之。非二等故。曾高非二等親。律祖父母老以上請條。亦見義。或說。三歲以下。付近親收養爲非也。師以此說爲長。唐令。六十課役俱免。故不爲侍。與此爲別。朱云。十歲以下。未知。以下幾年以上。答。四歲以上也。何者三歲以下雖異姓聽收養故者。私案。雜令。官戶奴婢三歲以上給衣服者。與此別哉何。古記云。問。幷不給侍。未知幷意。答。其篤疾十歲以下人數既多故。云幷字耳。

聽養條 凡無子者。聽養四等以上親。於昭穆合者。謂昭者明也。爲父。故曰明也。穆者敬也。子宜敬父也。凡取養子者。年歯須相適。何者下條云。男年十五聽婚。既定夫婦。理當有子。然則年十五者。則於卅者。有爲子之道。年卅者。則於廿五者。有爲父之端。※舉其一隅。餘從可知「也」。釋云。皇侃疏論語曰。列諸主在大祖廟堂。大祖之主。在西壁東向。大祖之子爲昭。在大祖之東而南向。大祖之孫爲穆。對大祖之子而北向。以次東陳。在北曰昭。在南曰穆。所謂父昭子穆也。昭者明也。爲父故曰明也。穆者敬也。子宜敬父也。凡養子者。取少十五年爲定。何者下文云。男年十五聽婚。然則十五始見爲人父之端。其養子者。爲嫡子聽出身。並得嫡子位。穴云。定昭穆可問撿。私案。無子謂專無子孫。※是縱無子有孫。依繼嗣令耳。不可養子也。但出身事可勘也。至繼嗣令可定耳。※無子謂妻年五十以上無男子也。縱有女子。爲無子也。或云。夫年六十以上者。妻年少壯。取養子爲不當也。爲律令無限故也。四等以上。謂兄弟之子。及從父兄弟子也。其兄弟之孫者。當孫列。爲不合也。問。律云。養子孫。未知。養孫之法有何條。答。令條無養孫之法。宜勘律也。後案。法無養孫許之輩。安爲子孫耳。故律云。雜戶養良人爲子孫。徒一年半。養家人奴爲子孫。徒一年。如此耳。私案。違法養子。養子孫生子。此。穴云。養之子孫耳。但律稱子孫者。據祖孫配役生文耳。朱云。無子謂雖有女子。倚無子可云也。又雖妻年少。夫六十一以上者。聽養子也。先異令耳。不明。雖無子。豈只十五可取養子哉。但雖夫少。妻年五十以上者亦取養子耳。穴謂弟孫者不入也。問。無子者子被配流者何若（答カ）。爲有子耳。又問。子得度者何。答。爲無子。何者不爲蔭之故。問。於曾玄孫何。答。不合昭穆之故不聽養。問。無子以下未明。古記云。問。昭穆若爲分析。答。伯叔是也。穆謂子列。兄弟子。從父兄弟子是也。只年十五（二十）以上長合爲父。不然者。雖伯叔不合也。然今時人を以己祖弟。從父弟等爲養子。此惑深何甚哉。

即經本屬除附。朱云。本屬。不待計帳時。則附不又本屬者。國郡必相須何。先云。待計帳時。可附者何。古記云。即經本屬。謂除所附所官司也。

〔舉其一隅餘從可知也〕一端と穴一とに同じ。一例を舉げて、他を類推せしむるものなり。

〔是縱無子有孫依繼嗣令耳不可養子也〕繼嗣令には、「若无二嫡子一、及有二罪疾一者、立二嫡孫一。无二嫡孫一、以レ次立二嫡子同母弟一。无二母弟一、立二庶子一。无二庶子一、立二嫡孫同母弟一。无二母弟一、立二庶孫一。」とあり。故に子なきも孫あれば、孫を立て、養子をなすべからず。されば本條の無子は、これを無子孫の意に解せざるべからざるなり。

〔無子謂妻年五十以上無男子也〕この說また下條棄妻の條に見えたり。戸婚律、立嫡違法の條に「即嫡妻年五十以上無子者。得立庶以

長。」とあるに本づける說なり。

〔然今時人多以己親弟從父弟等爲養子此惑深何甚哉〕法意によれば弟及び從父弟を養子とする能はざるも、古記の作成せられたる天平時代には、これを行ふもの多かりしなり。これ律令の法が法文通りに行はれざりし實證なり。

〔證依律相隱親等不用也〕斷獄律に「其於ㇾ律得二相容隱一。卽八十以上。十歲以下。及篤疾。皆不ㇾ得ㇾ令二其爲ㇾ證。」とあり。

〔依律保任不如所任證不言情各有罪條〕詐僞律に「凡保任不ㇾ如ㇾ所ㇾ任。減二所ㇾ任罪二等一。」云々とあり。又「凡證不ㇾ言ㇾ情。及譯人詐僞。致三罪有二出入一者。證人減二二等一。譯人與同罪。」云々とあり。

爲子條 凡戶內。欲析出口爲戶者。謂析分也。釋云。析分也。音先擊反也。 非成中男。及寡妻妾者。竝不合析。朱云。謂不堪政故。但律有女戶者。戶內男皆死亡無男時。自成女戶耳。未明。寡妻妾。未知。女者何答。古記云。非成少丁。謂少丁以上合析也。寡婦謂婦女耳。不必待五十以上也。 應分者。不用此令。謂縱非成中男。及寡妻妾。然猶堪爲戶主者。亦合聽分也。釋云。有堪爲戶主者。縱非成中男及寡妻妾。而聽之耳。穴云。應分者。不用此令。謂少子寡妻堪爲戶主應分者。古令見耳。又唐令云。上條以子孫繼絕者。謂爲養子也。分財條。見本令耳。朱云。應分者不用此令。未知。何色。答。雖非成中男及寡妻妾。爲戶主堪。檢調戶口。聽成別戶耳者。未明。古記云。注。堪爲別戶。謂臨時准量耳。

新附條 凡新附戶。皆取保證。謂新附戶者。未附戶籍之人始新附貫也。保證者。保保人也。證證人也。依文。保證須竝取也。所以防逃亡詐冒也。穴云。保證相須。保謂五保內五人。不論親疎取也。證*依律相隱親等不用也。保證相須爲防妄冒也。跡云。保證謂保與證若有二者亦令聽也。朱云。保與證相須也。未明。未知。誰人保證。答。今己戶所附之人取己保證。彼此令相知。可入己戶耳。古記云。〔親〕新附戶。謂未附帳籍之戶。始附籍帳也。生答(益)亦同。釋無別。讚云。新附戶皆取保證。本問元由者。或說保證相須也。保謂五保五人。公式令云。須責保者。皆以五人爲限。又上條云。戶皆五家相保。謂之保也。不限親疎。證謂依律得相容隱。卽八十以上十歲以下。及篤疾皆不得令其爲證也。保證也。相須者爲防妄冒也。私案。依*律。保任不如所任。證不言情。各有罪條。然則二事爲是也。跡云。假保與證只有二人者。亦令聽也。問。文云。新戶者。未知。何色人之。答。未附籍帳之徒。如附籍帳。皆是也。假令。隱首括出走還之類。生答(益)亦同。 本問元由。知非逃亡詐冒。然後聽之。

〔相冒調免罪在律條是〕相冒調免の罪は、下に引ける詐僞律の條文に見えたり。

〔古記云、從本國爲定謂父國是、但女不在此例隨便耳〕女子と雖も父に從ひて本籍を定むべきこと論なし。古記が但し女は此の例にあらずと云へるは、明かに當時の行事にして法意にあらず。男子は父に附き、女子は母に附く慣習法は、古く奈良時

釋云。下條。浮逃絕貫亦但此。爲絕其詐欺道云耳。疑以已賤爲子賤（孫カ）故入此條。是字以下。在律條。穴云。詐冒如詐也。相冒調免罪在律條是人。朱云。本問元由。未知。誰人可本問。答。問新附戶人口耳。詐冒。未知。其志何。先云。詐冒者一事者。朱問。又先記異說耳。讀云。逃亡猶逃也。詐冒猶詐也。問知非逃亡。然後聽之。若知逃亡者。不聽哉。答。不。下條云。浮逃絕貫。浮者浮漠也。逃者逃亡也。者。於所在附貫者。依彼文附耳。但此稱知非逃亡詐冒然後聽之者。爲絕其欺詐道云然耳。私案。戶律云。祖父母父母以子孫。妄認人後者徒一年。又云。相冒調免者。徒一年是冒也。又問。如何可知絕貫不絕。答。捕亡律云。若有軍名而亡。於他處附貫。課役如法。唯無軍名。即依逃亡自首之例。減罪二等。坐之。仍勒還本所者。案此文絕不之狀。合問浮逃人。不移本貫也。文稱絕貫。若不絕貫者須本貫耳。又問。下條云。若欲還本屬者聽。未知。縱在三越陸奧石城等國。亦聽還哉。答。若在城國而欲還無城本屬不可聽。何者父子分貫尚不聽故也。私案。難決。可檢也。又問。下條云。家人奴婢被免爲良。於所在附貫。未知。從良之日負姓如何。答。不見文。但古記云。生緣本姓及當土姓部隨宜命耳。案之。許良得免之人。自還本姓。其被放爲良之人。須隨時處分耳。

其先有兩貫者。從本國爲定。謂父國爲本國也。言父母各別國。而其子兩處附貫者。即從父國爲定也。釋云。假令。父母各別國也。而隨父母兩所附〔也〕。貫也。本國者父國也。穴云。先有兩貫。謂事發之日。知先有兩貫也。問。先附母貫。未附父貫何。答。改附父貫耳。縱父死後。改從本貫。爲父子同貫也。古記＊云。從本國爲定。謂父國是。但女不在此例。隨便耳。問。若俱三國。未知。若爲三國所貫。答。父國一貫。母國一貫。父母改嫁適他。將幼子從夫。便至處附貫。是一貫。合三國所貫耳。讀云。其先有兩貫者。從本國爲定者。謂假令。父母各別國。子隨父母兩所附貫也。本國者父國也。古答。女不在此例隨便耳。穴案。先有兩貫者。謂事發之日。知先有兩貫也。若先附母貫。未附父貫者。仍改附父貫耳。縱父死後。改從本國。爲父子同貫也。

唯大宰部內。及三越。陸奧。石城。石背等國者。從見住爲定。

代に淵源せるを見るべし。

謂假令。母在關國。父在他國。其子從母在關國者。從母爲定。是爲從見住爲定。若父在關國。母在他國。仍復有兩貫者。自須依從本國之法也。釋云。假令。母在關國。父在他國。內（因カ）有兩貫。而身隨母在關國。此即從關國爲定。是爲從見住定。若父在關國。母在他國。仍有兩貫。而身從母在他國者。上文云。先有兩貫者。從本國爲定。即知從父貫耳。又父在他國。母在關國。子孫〔文〕者是。則從本國爲定耳。何者不可著母貫之故。父字以下。在釋之背。跡云。從見住爲定。謂隨母在禁國者。仍從母貫。唯從父者不論禁國不禁國。皆附父貫耳。穴云。從見住爲定者。令釋所說爲是。然則凡國與關國相交。而有兩貫時之事耳。從見住。謂父長門母筑前國。而從母住者。貫筑前耳。問。兩親未附貫。而初貫之日。亦從見住哉。或云。父（母脫カ）幷爲先有兩貫。其新附之日從父是。父子常道也。長。其父筑前國。母長門。從母見住從本國爲定也。讃云。唯大宰部內及三越等國者。從見住爲定者。假令。母在城國。父在他國。因有兩貫。而身隨母。在城國。此即從城國爲定。是從見住爲定。若父在城國。母在他國。仍有兩貫。而身從母在他國者。亦依上文。從父貫耳。私案。若父在他國。母在城國。因有兩貫。子隨父在他國者。仍從父貫爲定耳。問。兩親幷未附貫。初貫之日。亦從見住哉。答。爲此先有兩貫也。其新附之日。從父本貫。是父子常道。

若有兩貫者。從先貫爲定。謂父母各有關國。仍復有兩貫者。不論父國母國。從先關爲定也。釋云。關國之內。俱有兩貫者。不限父國母國。從先貫爲定耳。跡云。從先貫爲定。謂各據在禁國也。穴云。先貫謂不論本國見住。從先貫也。私案。從先貫爲定。謂依文。雖母國見住若先貫父國者。從先貫矣。案之。若見住父國。而先貫母國者。歸凡國之兩貫時。從父國爲定。義以父貫爲定。爲人子以父爲本故。問。一度貫者何。答。習上文。從本國爲定也。或云。問。文從先貫爲定者。今遭時喪亂。父子分貫。各在關國。子先附貫可移誰人哉。讃云。若有兩貫者。從先貫爲定者。謂城國之內。俱有兩貫者。不限父國母國。從先貫爲定耳。穴案。從先貫爲定。謂依文。雖見住母國。而先貫父國者。從先貫也。若見住父國。而先貫母國者。放他國兩貫之時。從父國爲定。何者爲人子之道以父爲本故。私案。所說有理。然乖文耳。若一度貫者。放上從本國。爲定也。

〔三越等國從母貫除父戸。如此之類。律令蔭贖幷本服課役及毆詈之類如何處分〕三越等の國に在りて、母に從つて附貫せられ、父の戸籍より除かれたる子は、父の位蔭によつて贖罪の特權を享有し得るや、又喪葬令に從つて父の喪に服し、課役令に從つて父の貫により課役を免ぜられ、又父を毆詈するときは、鬪訟律に據りて凡人を毆詈するより重く處罰せらるるや如何、と問へるなり。

〔承家重〕家の祭祀を承繼することにして、卽ち今日の語によれば、家督相續を行ふことなり。[illegible]には、[illegible]

其於法。不合分析、讚云。謂父祖子孫等。不可別籍之類也。**而因失鄕分貫、**謂遭時喪亂。流離失鄕之類也。問。三越等國。既除父戸。永從母貫。未知。律令蔭贖。如何處分。答。案獄令[云]。流移之人至配所。六載以後聽仕。有蔭者。各依本犯收贖法。然則犯罪配流之輩。已附他貫。尙復蒙父祖蔭何。況王法之故。分從母貫之人。得其貴蔭。爲須知也。釋云。失鄕謂遭時喪亂。流離失鄕之類。問。三越等國。從母貫。除父戸。如此之類。律令蔭贖幷本服課役。及毆詈之類。如何處分。答。令蔭不得。何者爲他戸故。又供養侍寧旣闕及無承家重。理必可取養子故也。律蔭合得。何者爲母雖他戸。合得其蔭。又父子失鄕之類。合得其蔭故也。毆詈者依律合科。但本不知者。依凡論之。律條見文、其父喪合服一年。服年課役。父本貫合牒子本貫。何者母死者爲母本貫。牒父本貫。除徭役故也。已上。爲負父姓所論。若負母姓者不知。本生父母事合(令)同凡也。或云。案犯罪配流之輩至收贖時。若有蔭者。依本犯收贖法。然則令蔭亦可得。跡云。問。子陸奧之貫父是京戸。未知。承蔭否。答。不合承蔭。唯承律蔭耳。何者此子供養。有闕者。不科罪。宛侍亦不便。更有取養子之故也。又不合承祀繼家者。遂令亡京戸之籍故。穴云。因失鄕分貫。謂遺失之類。私案。律云。流離失鄕故。此化內失落是。但下條云。[浮亡]落外蕃耳。而喪別貫應合戸是也。父子流散。父貫越前子貫越後。未知。從見住哉。爲當從父貫哉。答。各於禁國中。有兩貫者。從先貫爲定。爲此條終文亦如之也。或云。可從父貫也。問。從母爲定。未知。被父蔭哉。答。立嫡庶位如常也。或云。立養子者爲非也。假令。爲流人至配所。更不可稱無子故也。問。上文。先有兩貫者。從本國。未知。先附母貫。未附父貫。忽父死。尙改從父貫哉。答。假令。雖父死。尙應合戸者。從本國。若父死後。不應合戸者。終亡之後。法所不拘。宜任意耳。或云。問。從母貫。在閩國之子。律令蔭共蒙貢於位子後。取養子。爲人眞嫡子分哉。又問。緣坐准出養入道。不追坐哉。朱云。問。失鄕分貫行事何。答。讚云。因失鄕分貫者。謂遺失之類。釋云。遭時喪亂。流離失鄕之類。私案。戸律云。於法應合戸而不聽合者。主司杖一百。注云。應合戸。謂流離失鄕。父子異貫。依令合戸。而主司不聽者是也。問。下沒落外蕃得還條云。沒落人

子有二罪疾一。不レ任レ承レ重者。申二牒所司一。驗レ實聽二更立一。」とありて、その義解注に「謂繼レ父承レ祭。祭事尤重。故云レ承レ重。」と見えたり。

〔但本不知者依凡論之〕名例律、下卷に「凡其本應レ重而犯時不レ知者。依レ凡論。本應レ輕者聽レ從レ本。」とあり。

〔其父喪合服一年〕喪葬令に「凡服紀者、爲二君、父母、及夫、本主一、一年。」とあり。

〔除徭役故也〕賦役令に「凡遭二父母喪一、並免二朞年徭役一。」とあり。

〔格後勅云〕唐の格後勅なり。格後勅は、格の編纂後、次の格の編纂に至る間に發せられたる詔勅を蒐錄したるものにして、唐代には格後勅と稱するもの屢〻編纂せられたり。即ち新唐書刑法志には、憲宗の時、刑部侍郎許孟容等、天寶以後の勅を删

依舊貫。無舊貫。任於近親附貫。此條云。因失鄉分貫應合戸者。亦如之者。未知。何以同事。答。此條爲化內流離失鄉生文。下條爲沒落外蕃得還立文耳。可檢。問。三越等國。從母貫除父貫。如此之類。律令蔭贖幷本服徭役及毆詈之類。如何處分。答。令蔭不得。何者爲他戸故。又供養侍等既闕。及無承家重理。必可取養子故也。律蔭合得。何者爲母雖他戸。合得其蔭。又父子失鄉之類。合得其蔭故也。毆詈者。依律合科。但本不知者。依凡論之。律條見文。其父喪合服一年。服年徭役。父本貫合牒子本貫。何者母死者爲母本貫。牒父本貫。除徭役故也。已上。爲負父姓所論。若負母姓者不知。本生父「母事」合同凡也。或說。律令之蔭並可蒙。何者子犯流罪。被配流。限滿敍日。依本犯收敍法故也。穴案。並嫡。敍位。及蒙律蔭。如常也。何者爲流人至配所。更不可稱無子故也。問。上文先有兩貫者。從本國。未知。先附母貫。未附父貫。忽父死亡。尙改從父貫哉。答。假令。雖父死。尙願合戸。聽從本國。若父死後不應願合戸者。終亡之後。法所不拘也。宜任其意耳。**應合戸者。亦如之。**跡云。亦如之。謂子在陸奥。父在相摸者。各從見住。在異國耳。朱云。此說分貫應合戸者。亦如義歟。答。穴云。應合戸者。亦如之。一如上也。讚云。與跡記無別。

居狹條

凡戸居狹鄉。有樂遷就寬。謂既云戸。即明戸口者。不可聽遷也。釋云。田令云。所部受田悉足者爲寬鄉。不足者爲狹鄉也。樂音五教反。穴云。問。戸內一人有遷貫者。不聽哉。答。不聽也。定鄉寬狹者。依田令耳。賦役令。人在狹鄉。亦云戸耳。又云。定鄉寬狹於諸國郡也。京與國非也。朱云。戸聽遷鄉。但口者遷鄉不聽也。未明理。古記云。狹里者。*格後勅云。人稠地狹也。遷寬者。田令云。國郡界內所部受田悉足者。爲寬鄉。不足者。爲狹鄉。案地狹。田少鄉人遷地廣。田多鄉者聽之也。**不出國境(堺)者。於本郡申牒。當國處分。**穴云。不申官也。**若出國境(堺)。申官待報。於閑月。**穴云。依賦役令雇役丁條。自十月一

して開元格後勅を編し、文宗の時、尚書省の屬官等勅を刊して大和格後勅を編せしこと見え、舊唐書刑法志には、開元十九年、侍中裴光庭、中書令蕭嵩等又格後長行勅六卷を撰し、元和十三年、許孟容等が前に編修臘等の詳定せる格後勅三十卷を頒下し、大和七年、刑部奏して前に大理丞謝登の編せる新編格後勅六十卷を删定して五十卷となし、大中五年、刑部侍郎劉瑑等勅を奉じて貞觀以後の制勅を集めて大中刑法總要格後勅六十卷を修せしこと見えたり。本書に引かれたる格後勅は、これらの格後勅の何れにもあらずして、日本國見在書目錄に「垂拱後常行格」とあるものにして、この書の編纂のことは、唐會要、卷三十九に「垂拱元年六月二十七日。又刪定垂拱

日至二月卅日爲閏月。自三月至九月爲要月。是爲。但雜令新訟條。自十月一日至三月卅日。彼令爲閑也。朱云。閏月。未知。何月。答。依賦役令。自十月一日至二月卅日內也。不依雜令者。

國郡領送。朱云。未知。加使送乎不。答。**付領訖各申官。**謂所送所受國各申官「也」。釋及古記無別。穴云。各申官謂付領兩國也。朱云。各申官者。未知。則申若附朝集使申哉。先疑不定。又〔又〕穴云。*問。古令云。京戶不在此例。令除此文何。答。京戶出外者。是輕役之入重役。不合禁制。但外國入京戶者。不合聽耳。此章心所讀非正文也。未知。依不。問。外國人入畿內何。答。此重役入輕役。亦不合許。又問。畿內京內相通。聽哉以不。答。此亦不可許也。

凡沒落外蕃謂沒者被抄畧也。落者。遭風波而流落也。釋云。沒者被抄畧也。落者遭風浪而流着也。沒沒賊也。流漂也。**得還。及化外人歸化者。所在國郡。給衣粮。具狀發飛驛申奏。**穴云。問。飛驛與馳驛其別何。答。馳驛令條有行程。飛驛不合有其限。只是爲別也。博士御意。飛驛者驛傳上下非專使。但馳驛專使上下也。此心所讀非正文耳。後定。馳驛專使者。明案可知也。**化外人於寬國附貫安置。**朱云。未知。待報之後附貫安置不。先云。待報附貫。而未附。何。寬國謂田寬國也。如云鄉也。**沒落人。依舊貫。無舊貫任「於」近親附貫。**釋云。師說云。樂往寬國者。亦聽之。跡云。沒落人欲附寬國者。亦聽。古記云。化內人往於近親附貫。謂若樂往國寬者。亦聽之。穴云。無舊貫謂先年不附籍帳也。沒落之人不合除帳故也。但田及租調役不見文也。私案。此條爲沒落外蕃得還生文。其於化內落散者。依上失鄉條。朱云。無舊貫謂從本未附貫人也。沒落人常不除帳故者。未明。沒落人亦待報附貫不。答。**並給粮遞送**

使達前所。朱云。未知。遞送行事何。答。或云。前所謂今指所往之處也。*古記云。問。若有才伎者。奏聞聽勅。又上句。具狀上飛驛。若爲分別。答。上飛驛時不知有才伎。後始顯才伎者。重奏聞耳。

凡浮逃絶貫。（絶貫條）謂浮者浮浪也。逃者逃亡也。其絶貫之由。卽問浮逃之人。不更牒於本貫也。依律。非亡而浮浪他所。闕賦役者。依亡法卽起自闕賦役之年追訪。若不獲者。依三周六年之法而除帳。是爲浮逃絶貫也。既曰絶貫也。若未絶者。須還本屬也。釋云。浮者浮浪也。逃者逃亡也。依捕亡律。非亡而浮浪他所者十日笞十。罪止杖一百。闕賦役者。依亡法者。然則起闕賦役年。合追訪。不獲者。依三周六年法。除帳名爲浮浪絶貫耳。捕亡律云。若有軍名而亡於他處附貫。課役如法。唯無軍名。卽依逃亡自首之例。減罪二等坐之。仍勒還本所者。今依此文案。絶貫狀止問浮逃人口。定絶不而附貫耳。更不移本貫也。文稱絶貫者。若不絶貫者。還本貫耳。跡云。逃人欲附貫云(亡)。逃過三周六年者。不移本國而直合附所在貫。何者捕亡律云。亡於他所附貫。賦役如法。但無軍名者同逃亡自首。減罪二等坐之者。卽知。不合移本國也。朱云。浮逃「絶」貫者。未知。浮與逃二事歟何。答。然。但浮「逃」絶貫由。令釋具說了。浮逃絶貫人移本貫。問。定絶不。附籍者。未明。違釋也。反了。穴云。浮逃二事。浮謂依律浮浪十日笞十。罪止杖一百。卽有官事不還。亦如之。營求資財及覓官者。各勿論。闕賦役者。依各亡法者。此等之人。自闕賦役年計年。逐三周六年不獲。除帳是也。以逃人申乃知絶貫也。問。浮逃罪徒罪。依獄令。徒人役訖遞送本國者何會作。答。此條。爲絶貫生文。未絶者依彼令。又有軍名而亡於他處附貫。課役如法。唯無軍名。依逃亡自首之例。減罪二等坐之。仍勒還本所者。依彼文也。但附貫有軍名者。合至律論。古記云。問。浮逃絶貫二歟。一歟。答。浮者逃者二耳。問。浮者何有絶貫。答。依捕亡律。浮浪闕課役者。卽同逃亡科罪。然則起闕賦役年合令追訪。不獲者。依三周六年之法。除帳名爲浮逃絶貫耳。或云。往來他國。不弃己國。課役全出。謂之浮浪。不輸課役。居住他

格及格後勅。尙書左僕射唐休璟。中書令韋安石。散騎常侍李懷遠。禮部尙書祝欽明。尙書右丞蘇瓌。兵部郎中姜師。戸部郎中狄光嗣等。同刪定。」と見えたり。

〔問古令云京戸不在此例今除此文何〕大寶令には、この下に「京戸不レ在二此例一。」なる句ありたり。養老令が右の句を除去せし理由如何と問へるなり。

〔量心所讀非正文耳〕この説律令の立法趣旨より解釋するところにして、律令の條文より解釋するところにあらざるなり。

〔古記云問若有才伎者奏聞聽勅又上句倶狀上飛驛若爲分別〕これによれば、大寶令に於いては、本條の末段に「若有二才伎一者、奏聞聽レ勅。」なる句ありしこと知らる。古記は卽ちこの下句と「倶狀上飛

讀みたる上句との意味の相違を説明するなり。

〔若上浮逃以下三色皆約者〕背面して編附せる者、家人奴婢の放たれて良となれる者、家人奴婢の良を訴へて免ぜらるることを得たる者の三者は、この若欲還本屬者聽なる句に該る。

〔戸頭〕戸主と云ふに同じ。延喜民部式にも戸頭なる語見えたり。

國。不願本屬。謂之逃亡。在背。及家人奴婢。被放爲良。若訴良得免者。並於所在附貫。謂取保證准上條也。穴云。此條。依文不須取保證也。釋云。家人奴婢放爲良之類者。生緣本姓。及舊主姓部。隨宜命耳。問。家人奴婢被放爲良。若訴良得免者。並於所在附貫。下條云。放家人奴婢爲良。及家人者。仍經本屬申牒除附。未知。其別如何。答。上條所在附貫云耳。下條。爲經官司申牒除附耳。古記云。問。並於所在附貫。若爲附姓。答。舊主姓部。注附耳。問。家人奴婢。或本母是良。或本父是良。未知。欲從父母姓聽不。答。欲還本生父母家。亦爲本屬。任意令附注耳之（也）。若欲還本屬者聽。謂若在關國。欲還本屬。無關者。即不可聽。何者父子分貫。猶不聽合故也。釋云。欲還本屬聽之類。若有城國而欲還。無城本國者。不合聽。何者父子分貫爲尙不聽合故。朱云。若欲還本屬者聽者。未知。只爲訴良得免一色歟。若浮逃人約不。答。上浮逃以下三色皆約者。然則於家人奴婢等。本所生長之國。釋本屬耳。此於賣退他國。所論者。穴云。欲還本屬者聽。謂令冠（律）條文也。唐令。爲訴良得免生文。更此爲畢也。假令。常陸國人家人奴婢。被沽成京人奴婢。或其國人被賣京戸。而被。奴。婢。放。家人從良之日。欲還已頗屬耳。古記云。問。若欲還本屬者聽。未知。家人奴婢以何處爲本屬。答。買得東國奴婢等。後放爲良欲還東國者聽。問。並於所在附貫。若爲附姓。答。舊主姓部注附耳。問。家人奴婢。或本母是良。或本父是良。未知。欲從父母姓聽不。答。欲還本生父母家亦爲本屬。任意令附注耳。或云。訴良得免之類。必須有生緣之處。故云欲還本屬者聽。在釋背。

造計帳條

凡造計帳。每年六月卅日以前。京國官司。責所部手實。謂手實者。戸頭所造之帳。其戸前亦責手實也。釋云。說文。責求也。手實謂戸頭所造之帳耳。古記云。手實謂戸主所造計帳也。具注家口年紀。謂年紀猶云年歲也。釋云。年紀猶年也。尙書述議云。

〔案令不因此義耳〕令文云ふところの年紀は敢てこの義（十二年曰レ紀）に據らざるなり。

〔爲以本令里正易京國官司故也〕本令には里正とあるところを、我令は京國官司と改易したる爲めの故なり。

〔造計帳之樣謂之式也〕計帳の式、延喜主計式に見えたり。

既歷三紀。世久風移注云。十二年曰紀。讃曰。般民遷周。已歷三紀。十二年者。天之大數。歲星大歲。皆十二年而一周天。故十二年曰紀。古記同之。又云。*案令。不因此義耳。或云。問。家口年紀。答。家口之年紀也。

若全戶不在鄕者。 謂假如要籍驅使。擧戶赴任。幷浮逃未紋之類也。釋云。假有遷要之官。擧戶在任。幷浮浪未紋之類。古記云。若全戶不在里。謂合家之外任。幷浮逃未紋之類。

即依舊籍轉寫。 穴云。依舊籍者。一端耳。依舊計帳亦轉寫耳。無增減之故。轉寫謂京國官司寫也。*爲以本令里正易京國官司故也。朱云。依舊籍轉寫。謂官司寫也。

並顯不在所由。 或云。擧戶死去。幷逃亡之類。依往年帳寫取。注云。擧戶死逃之類。謂之顯所由也。案總可寫三通。在釋背。

取(收)訖。依式造帳 謂造計帳(之)模樣也。釋云。*造計帳之樣。謂之式也。其計帳者。國摠造目錄一卷申送。朱云。計帳摠造二通。一通留國。一通送民部耳。穴云。問。神戶雜戶陵戶何。答。亦同。但更造一通不見文也。古記云。依式謂造計帳之樣也。造國帳謂國總造目錄一卷申送也。如戶籍不作里別爲卷。總寫三通也。

連署。八月卅日以前。申送太政官。 謂雜戶陵戶計帳。亦同申送也。穴云。問。神戶雜戶陵戶何。答。亦同。但更造一通不見文也。朱云。申送太政官。謂差專使送也。八月卅日以前。可至太政官也。賦役令見也(文)。

造戶籍條

凡戶籍六年一造。起十一月上旬。依式勘造。里別爲卷。總寫三通。其縫皆注其國其郡其里其年籍。五月卅日內訖。 釋云。案元年十一月始造者。以元年爲籍年名。以七年十一月後造籍。又田起二年十月檢班。跡云。別無。又云。籍謂假令元年十一月始造者。以元年爲籍年名。以下年十一月後籍造。又田起二年十月檢班也。諸說皆同此也。穴云。問。稱籍年者。始年賦

一但穴云太掠橋部等先衆不肯許耳」穴云太は穴記云の誤り、掠は椋の誤ならむ、椋橋部衆長等の集佛學者は、この說に同意せずとなり、衆長の穴太內人より先輩なること之によりて明なり。

爲當終年歟。答。今說始之年是。跡云。同之。時行事亦如之。但穴云。太掠橋部等先衆不肯許耳。可求。至十一月上旬。更責所部手實。及顯不在所由。爲計帳戸籍同數故耳。習耳。其年謂造訖年也。師不依此說。上逮了。假令。元年十一月始造。二年造了。自二年始。計一年。而至七年十一月。始責籍手實。八年造了。又以了年爲一年計亦如之。班田之事亦如此意耳。但指籍年班田年。如上說之思順也。假。自元年而至六年十一月勘造。至七年爲籍年也。計年自七年始。爲一年以十一年十一月造。以十二年爲籍年耳。朱云。戸籍六年一造。謂假元年初造籍。二年五月訖者。七年十一月上旬亦始造籍也。八年五月訖耳。然則其遂注八年籍者。後反。又更始八年計十四年五月內造訖耳。未知。而八年稱造籍年乎。答。然也。而先等不同也。又。旧三年始了班。又九年班。又十五年班耳。未明。遣諸說也。問。最元造籍年。尙必以下十一月上旬可造初乎。何者先造計帳。後可造籍故。答。古記云。問。依式勘造。未知。式幷責手實不。答。依式謂造戸籍樣。又以計帳造。更不責手實。一云。更令責手實也。

二通申送太政官。一通留國。其雜戸陵戸籍。則更寫一通。各送本司。釋云。神戸籍亦同也。神祇官職掌名籍故。穴云。神戸籍文略也。案。神祇職掌可知。朱云。雜戸陵戸籍。則更寫一通。謂本國寫送。然則二通之外更亦寫一通。送本司耳。古記云。其雜戸籍。則更寫一通。謂神戸籍亦更寫一通。各送本司也。

所須紙筆等調度。謂墨軸帙帶之類。即食料者。用官物給。其計帳。亦出紙筆等調度也。釋云。紙筆墨及軸帙等。此則調度耳。食料官給也。計帳亦出調度。戸籍亦責手實。別(可)相備也。古記云。所須紙筆等調度。皆出當戸。謂計帳亦准此。問。造籍書生等食料。若當戸分。答。皆當戸出。但今行事官給耳。

皆出當戸。朱云。雜戸逃亡戸分者。以官物作耳。問。出當戸者。戸口皆出何。先云。戸口偏可出者何。

國司勘量所須多少。臨時斟酌。釋云。賈逵注國語曰。斟取也。酌行也。斟音職深反。**不得侵損百姓。**

〔計會〕引合せを爲すことなり。計會の式は、公式令に定められたり。下文「公式令有二正文一者。」と云へるもの即ち之なり。

〔私案依本令手實及籍然則帳籍二也師亦不許也帳籍者猶籍也〕本條の粉本となれる唐令には、手實及び籍とあれば、帳籍は計帳及び戸籍の意なりと私案す。然れども我が師はこれに反對にして、帳籍は猶籍と云ふに等しく戸籍の一つを意味するとな

其籍至官。並即先納後勘。謂先納中務民部。後更勘検也。釋云。先治納民部中務後閑月二省勘耳。穴云。先納謂二省及本司也。古記云。先納後勘。謂先納於民部中務省。然後民部勘校。若有誤者。即具注事由。又注誤狀送中務也。**若有增減隱沒。**謂增減者。年紀不依實也。隱者脫籍不上也。沒者。詐生注死也。釋云。增減年紀曰增減。見口。脫籍曰隱。生者詐死曰沒也。**不同。**穴云。不同謂與先籍相違也。朱云。未知何。先(前)籍與後籍不同歟。爲當。中務民部二籍不同歟。凡何可計會*。答。隨宜勘耳。但二省籍者。不可會也。勘日限。公式令有正文者。後度不見。隨宜耳者。未合。**隨狀下推。**穴云。下推謂問使者。下能辨答故。下推本國也。公式令云。官准訴狀下推。不給所由者。下符而推問耳。未審。下推者。使不得辨答而下推歟。爲當。省下符而下推歟。答。省下符而下推耳。未定。令案。使令陳錯由者。更不下符耳。可隨狀也。朱云。下推謂猶問也。或云。下符國推也。故云下推者。未明。古記云。下推謂推也。**國承錯失。即於省籍具注事由。**謂失錯之由。具注省籍也。釋云。失錯之狀。即注著其籍耳。穴云。注事由謂改帳而即注其由也。朱云。具注事由。謂省之所注。更籍不下國也。所注之上者。以省印印耳。**國亦注帳籍。**謂帳者計帳也。籍者戸籍也。朱云。帳籍者一如言籍也。穴云。帳籍亦籍。*私案。依本令手實及籍。然則帳籍二也。師亦不許也。帳籍者猶籍也。古記云。問。國郡亦注帳籍。未知。於郡在籍文不見。若爲。答。必有籍帳之案。雖不載文。必有獻案。更不合疑。

造帳籍條

凡戸口當造帳籍之次。釋云。帳者計帳也。籍者戸籍也。穴云。帳籍二也。或云。次猶云時也。**計年。將入丁老疾(耆)。應徵免課役。及給侍者。皆國司親皃形狀。以爲定簿。**謂皃者定人顏狀。

貌令貌閲。古遣帳籍之次。親視其形狀。或籍年少而貌案老。或貌案少（老）而籍年老（少）。如此之類。僞濫依籍。故更依貌案。以爲定簿。卽依其貌案。進老入耆。及退丁出中男之狀。便卽注當年之帳籍。更不改勒（動）。其年紀也。釋云。貌。音莫教反。廣雅。貌。視也。山海經狀卹犁牛故。知形狀。是一耳。案年高貌狀少者。下准盡少貌狀成人者。不可課役。穴云。古六月貌之。又籍臨責手實十一月又貌耳。問。依文入丁老疾者。未知。未入丁之前者。無貌定法以不。答。年高貌少依形爲少。年高入老。量形狀者。亦依貌留爲丁。案之。依年少子量形十七以上。亦依貌爲中及丁。以得適中也。朱云。丁老疾（者）謂廿一。六十一。殘疾以上也。國司親貌形狀。以爲定簿。謂假年廿一雖形狀亦合年見其身體。尩弱不堪丁役（政）者。依身之體之形狀。不入丁也。但其年者依實注附耳。不增減。又年十六見其形貌亦不違。今見其體雖堪丁役。亦不入丁。然則依實義耳。後問。年六十一人見其齒合年。但其氣力强幹堪丁役何。答。上二事幷依狀可依丁例。何者貌形狀爲定簿故者。穴同也。違令釋。古記云。皆國司貌形也。廣雅。貌見也。貌讀與貌同也。以爲定簿。謂定於籍也。

一定以後。不須更貌　謂小子入中男。中男入丁。丁入老。老入耆之間。是爲一定以後。若改其常色者。更須依親貌之法。故云。一定以後。不須更貌也。釋云。計帳之日貌定。至來年計帳之間。不可更貌耳。一云。不須帳時。貌定此爲長。何者式有四季帳。課役幷侍人出入。皆據季帳。明知季貌也。穴云。今說不須更貌者。至來年計帳日。不須更貌也。或說。終身。或說季別者。師不依耳。朱云。一定以後不須更貌。謂若計帳戸籍其當可作年者。一年之內二度可貌也。

若疑有姧欺者。亦隨事貌定。以附帳籍。　謂姧起之時便卽貌定。不待造帳籍之次。上文定簿貌此文附帳籍。其義一同。釋云。假令。若有貌賦者。隨告卽勘。不待計帳。朱云。隨事貌定附帳籍。謂隨事發時貌定。不須計帳之時。但注附者。須計帳之時附者。帳籍二事也。穴云。若疑有姧欺者。亦隨事貌定。謂未至計帳。隨發貌定耳。私案。仍依賦役令。徵當發年課役也。問。上以爲定簿之貌下文以附帳籍其義何。答。上文爲定簿。謂不改年紀。只注依貌進丁留少之由。下文附帳籍。謂紀籍

すなり。これによれば、當時の明法家にありても、弟子は必ずしも其の師説を守らず、學說に於いては師に反對するものもありしこと知らる。

〔謂假年廿一雖形狀亦合年見其身體尩弱不堪丁役者依身之體之形狀不入丁也〕年廿一歲に達し、その面貌を點するに年廿一歲なることと明かなるも、その身體尩弱にして課役を擔ふに堪へざる者は、丁例に入らしめずと云へるなり。法意の解釋としては、年廿一に達したる者は、殘疾、廢疾にあらざる外は、皆丁例に入ると解すべきにして、斯くの如き解釋は明かに誤なれども、理論の劃一を好まず、具體的妥當性を重んずる當時の法學者の間には、[illegible]學說

有力なりしなるべし。

〔仍依賦役令徵當發年課役也〕賦役令の「凡春季附者、課役並徵。夏季附者、免レ課從レ役。秋季以後附者、課役俱免。其詐冒隱避、以免ニ課役一、不レ限ニ附之早晚一、皆徵ニ當發年課役一。逃亡者附亦同。」なる規定に依るなり。

〔法例〕新唐書藝文志に「趙仁本法例二卷。崔知悌法例二卷。」とあり。舊唐書經籍志に「法例二卷（崔知悌等撰）」とあるもの之なり。趙仁本は、太宗の貞觀年中に殿中侍御史に累轉し、乾封年中、東臺侍郎、同東西臺三品に歷遷し、尋いで司列少常伯に轉ぜしが、右相許敬宗と合はずして尙書左丞を授けられ、咸亨の初め官に卒せり。崔知悌は中書令贈荊州大都督崔知溫の兄なり。貞觀年中、中書侍郞となり、尋いで尙書左丞

欺由。隨狀貞。以定年記注帳籍。所以知者。法例云。陳訴兒籍年十五。貞案年十六。據籍使當贖條。從貞乃合從（徒）役。國司有疑。令讞請報同形制。以籍爲定本。謂實年年有隱欺。准令許貞案。一定刑役。無依未及。改錯之間。止得據案爲定。古記云。亦隨事貞定。
以附帳籍。謂當造計帳之時。亦覩貞爲定也。

籍送條
凡籍。應送太政官者。附當國調使送。釋云。其勘籍者。隨省處分。調使。朝集使。計帳使等隨便勘耳。郡別有雜掌。朱云。籍應送太政官者。附當國調使送者。是以知尤籍之使也。古記云。問。附當國調使送。未知。此使即爲勘籍也。答。隨民部省處分。若即勘者使（便）留勘也。若朝集時勘者朝集使勘也。計帳時勘者。計帳使勘也。但郡別勘籍雜掌在耳。若調不入京。謂或蒙恩復。或遭水旱之類也。釋古記並與義解無別。又古記云。今陸奧國之類。穴云。調不入京。謂恩復年等是也。專傳送之。朱云。未知。以何時可送。答。古記云。專使送。謂有使次者。使（便）附送耳。

戸籍條
凡戸籍恒留五比。謂六年爲一比。謂之比者。比校之義。言卅年籍恒留不除。若有紕繆者。所以相比校也。釋云。鄭玄注禮記云。已行故事曰比。方言曰比代也。音婢四反。五比者卅年籍可留注。古記云。五比謂五六卅年也。其遠年者依次除。古記云。遠年謂卅年以外六年除耳。近江大津宮庚午年籍不除。謂雄朝津間稚子宿禰尊御世。諸氏爭姓。紛亂不定。即盛煑湯。令以手探攬。詐僞者爛。眞誠者全。於是定姓造籍。是爲庚午年籍也。釋云。近江大津宮庚午年籍不除。謂小朝津間稚子宿禰尊御世氏氏爭姓。分亂。沸湯以手令攬。詐者被害。信者獨全。是以定姓籍也。古記云。水*海大津宮庚午年籍莫除。謂小朝津間稚子宿禰尊御世氏氏爭姓分亂。煑沸（浴）湯。以手攬。詐者被害。信者得全。以此定姓造籍也。

に遷り、裴行倹を佐けて突厥を征し、高宗の世に戸部尚書を以て卒せり。趙仁本の法例は、高宗の世には断獄の典據として盛んに使用せられしも、儀鳳二年永徽留司格後勅成りて後は、高宗その煩文にして不便なるを覧て之を廢せり。但し本書に引かれたる法例が趙氏のものなりや、崔氏のものなりやは之を明かにする由なし。

〔小判[illegible]開稚子宿[illegible]〕[illegible]大[illegible]なり。

〔本[illegible]〕[illegible]と云ふに同[illegible][illegible]なり。

令集解卷九

本云

文應元年八月卅日於一條烏丸邊見合本書加首書畢　員外宰相 在判

建治二年後三月廿一日引合正親町之本校合畢

慶長二暦季冬初五於燈下「令」一校「合」了　清原秀賢

正親町本奥書也

本書奥書云此次應分條也　分親(配カ)役所抄出(書)也豈非朝之重寶道之遺花哉　宗正直承 在判

又云承久三年九月十六日此卷抄出(書)了　章行 在判

寛喜二年端午日此本明法博士章行本云々自宰相殿可急返「上」之由被責召之間披々招(根)引貢士李部二千石相共手自所校點也其間及遲々之由數度預御使大略如雨脚仍予馳筆自朝至申斜不及食事終其功之後所返上也爲朝爲道守公神尤可有知致歟(也)

右衛門大志中原 在判

右以清家本令書寫寛永甲戌孟冬校了　中原職忠記之

右者河村秀興先生之御本ニテ書寫シ校合畢

明和丁亥季秋　越智通邦 印

明和七年庚寅五月八日以京師本一校了

安永三年三月十一日一會了

文政三年五月以彰考舘本比校了

〔平價〕評價といふに等し。名例律に「凡平レ贓者。據二犯處當時物價及上布估一。平二功庸一者。計二一人一日一爲二布二尺六寸一。」とあり。捕亡令に「凡平二逃亡奴婢價一者。皆將二奴婢一對二官司一平レ之。」とある平は、何れもこの評價の意なり。

〔氏宗〕氏の宗家の長にして、上古の氏上なり。大寶令に於いては、依然氏上と稱せしが、養老令は唐風の字を入れてこれを氏宗と改めたるなり。

〔治田〕ハリタ、ハルタと訓む。墾田のことなり。

〔功田功封不及妻妾之理田令祿令見文也〕田

應分條

凡應分者。家人。穴云。問。家人分法何。答。家人雖無賣買。暫家內而平*價處分無妨耳。新令問答云。家人等皆混合准價作分也。奴婢。古記云。注。其奴婢等嫡子隨狀分者聽。謂必令分。任意不聽也。一云。嫡子任意耳。抑不合令分也。氏賤不在此限。釋云。其氏賤者。不入財物之例。氏家人奴婢者。轉入氏宗之家耳。或云。繼嗣令云。氏宗聽勑。假令。諸氏氏別以其中長者。勑定爲氏宗故。此氏賤不入均分之限。則充氏宗之家。假如甲元爲宗。丁子後爲宗者。甲子不可得之。丁子爲宗之故。舉一反三從之可知。在釋背。田宅。穴云。問。口分田何。答。父母之口分田。亦放財物處分作分耳。或說。放功田。唯入男女。不及妻妾等也。但不入財物之文耳。或云。問。田宅者。未知。稱田者治田。*口分田竝同不何。先云。師說云。口分「田」不入此文。但而准依此法可處分者何。在跡記背。古記云。問。未知。位田。賜田。功田。新墾田。園圃。桑漆等若爲處分。答。法主(王)命。隨宜處分。不同財物。一云。封物同財物封戶均分也。一云。封戶依嫡子也。資財。其

口分田事

功田封田分法事

功田。功封。唯入男女。謂不依財物之法。男女嫡庶。竝皆均分也。跡云。功田封戶。不別嫡庶子合均分。爲師說也。朱云。*功田功封不及妻妾之理。田令祿令見文也。*新令釋云。功田功封入男女。未知。作男女嫡庶處分。或說不別嫡庶均分何。答。然也。不別嫡庶男子者而未明。其理何。或云。案此文。作嫡庶可分者何。「男女者財主之女子也。兄弟之女子不與者。未明。」先云。師說。功田功封入男女者。凡財主死之後。未分財前。死子之子者。猶可得「預」父之分「定故」。但財主之前。死子之子者。不可得功田功封者。未明。穴云。兄弟均分。未知。功田封戶園地等何。答。皆與財物同分耳。或云。男女嫡庶。同分無差別。師同之。又問。功田功

未分財前死子分事

令には、「凡應レ給ニ功田一、若父祖未レ請、及未レ足而身亡者、給ニ子孫一。」とあり。又祿令には、「凡五位以上、以レ功食レ封者、其身亡者、大功減半傳ニ三世一。上功減ニ三分之二一傳ニ二世一。中功減ニ四分之三一傳レ子。下功不レ傳。」とありて、功田功封は何れも子又は孫に傳ふと云へり。

「兩令ニ三の書のことく位に令曹の釋に云へり。

封唯入男女者。未知。兄弟亡者。其子不承父分哉。非功主之男女故也。又姉妹此財主之孫也。不與功田功封哉。又以功田功封得作遺言哉。答。非財主男女者不與耳。但財主亡之後。未分之前。兄弟亡者。雖未分。而其父分略定。然則彼分與其子灼然也。可反。又功田。限世遺言無妨。亦可問他。

功田大中下事

私田令云。凡功田大功世世不絕。上功傳三世。中功傳二世。下功傳子。注云。大功非謀叛以上。以外非八虐之除名並不收。祿令云。凡五位以上。以功食封者。其身亡者。大功減半。傳三世。上功減三分之二傳二世。中功減四分之三傳子。下功不傳也。**總計作法。嫡母。繼母。**謂異母「之」男女所稱。其養母分法亦准此。「釋云。異母男女所稱也。養母分法亦准此。」釋云。異母男女所稱也。養母「無母」亦同也。朱云。未定嫡繼母。而財主亡者。後更追定也。爲財處分。問。凡處分財物。嫡繼母皆亡後顯不。答。私案。此父存日可分者而何。穴云。問。嫡繼母等之財物。夫亡之後。雖其身存。而混合夫財處分哉。爲當財主見存之故。不入分例哉。答。身存之日。准妻家所得。不入分例。何者寡妻妾之分。還同嫡母繼母之故也。私案。身死之日。其子稱母財殊得耳。讚博士云。嫡母繼母不得遺言。今說依此。「私。凡嫁女。與他家並財物送。」問。嫡繼母得處分遺言等哉。答。與親母相似者。明任處分耳。今說。不依之。但於「已」正子。得左右也。但於他妻之子。及傍妾等不合。**及嫡子。各二分。**朱云。未定嫡子而財主亡者。後便追定也。爲財處分。穴云。問。財主之前死其子死亡。其孫有存者。「死亡」之子分。與見存之孫。止(正)宗(奉)子(了)令絕「撰」所者。依繼嗣令。嫡子未敍身死者。聽立替者。未知。財主雖後嫡子立替。猶亡嫡子之子承嫡子二分哉。答。以後立嫡子可與二分。又問。敍了死者不得立替。雖爲出身不許。而與財承門許立嫡哉。答。敍了。身死「亡」不立耳。少不安。其嫡子未定。父死者。官司依法定嫡乃處分。無嫡子立嫡孫。及以次立。一依繼嗣令。仍與二分。問。其八位以上嫡子敍訖。身死更不立替。於此處分何。又庶子立嫡子。嫡子身死。更有立替乎。今說。兄弟亡者。子承父分。師明。嫡子之子承父二分。庶子之子承父一分。然則無有依彼令立。而不與嫡子之分耳「也」。答。於庶人不合有敍位之類(頻)。然則以次立替無禁。以此准。八位以上嫡子敍訖。身死者依此令心。更立

替。與二一分。但不聽出身耳。不依此說也。但嫡子父前死亡矣。父以庶子立嫡子者。見在嫡子與二一分耳。但前死亡嫡子之子得庶子之分耳。師同之。古記云。問。父嫡子不定死。若爲處分。答。父嫡子定已訖死。未分財之間。嫡子身亡并罪疾。嫡子不合更立。若父不定嫡子死。官司依法立嫡。合處分。一云。父不定死者。亦不合定嫡子也。問。嫡孫分法未明令文。答。嫡子一種。一云。庶子一種也。此云未盡。問。定嫡子有限以不。答。內八位以上得定嫡子。以外不合。財物均分耳。但累世相繼富家財物者。准八位以上處分也。一云。*養老五年籍式庶人聽立嫡子。卽依式文。分財之法。亦同八位以上嫡子耳。問。立嫡孫有限以不。答。此亦內八位以上。一云。三位以上蔭及孫。卽是嫡孫合立。四位以下不合立也。依禮合令。竝造籍式有嫡子者。無嫡孫之名。然則嫡子死祖立嫡孫。祖不立者。不得嫡孫之名。皆爲庶孫耳。卽承嫡子分太難也。一云。祖父見在不得爲嫡孫。

嫡子死嫡孫立程小事

祖父死卽嫡子之子得承家。卽有嫡孫耳。雖祖定已訖違法者。合改故也。子夏喪服傳云。爲適孫何以期也。不「敢」降其適也。有「適」子者。無適孫。孫婦亦如之。玄謂周之道適子死則立適孫。是嫡孫「將」上爲祖後者也。長子在則皆爲庶孫耳。孫婦亦如之者。適婦在也。亦爲庶孫之婦。

不孝子分法事

凡父於將爲後者。非長子皆期。問。服中有不孝之子。服闋若爲均分。答。依律科罪。物猶分之耳。

妾同女子之分。

妻家所得不在分限事

庶子一分。「其」妻家所得。不在分限。釋云。稱妻者。是兄弟之妻也。假有婦隨夫之日。將奴婢牛馬并財物等寄從夫「婦」家夫婦同財故。婦物爲夫物。「夫」亦有父。父子同財。因轉爲舅物。夫之父母然亡之日。兄弟欲別之時。出兄弟之婦家函書。陳置殘物。各與其夫只均分父母財物。故云妻家所得不在分限。私同。問。妻家所得不在分限者。*未知。夫妻共死。男女亦無有之。未知。妻家所得財物。誰人可得之。答。營盡功德耳。私案。此時若有妻祖者。可還妻祖(家)者。朱云。妻家所得不在分限。未知。妻亡者其財何。答。妻之子得耳。未知。若夫得乎。答。無子者。夫得耳。不還妻之祖家也。夫妻。同財人故也。此爲妻之子與繼父存*時所論也。未知。妻亡無子又繼父亡何。若。此時與繼父之子。若還妻之祖家。答。穴云。妻家所得不在分限。未知。家女婢有二(一)人。於夫家蕃

〔養老五年籍式庶人聽立嫡子〕養老五年は養老元年の誤りにして、籍式は、造籍式の造字を脱せるものに非ざるか。續紀、養老元年五月辛酉の條には大計帳等の式を七道諸國に頒下すること見え、又本書下條には、「竝造籍式。有嫡子者。無嫡孫之名。」云々とあり。

〔未知夫妻共死男女亦無有之未知妻家所得財物誰人可得之答營盡功德耳〕これ喪葬令の「凡身喪戸絶無レ親者、所レ有家人奴婢、及宅資、四隣五保共爲ニ檢校一。財物營ニ盡功德一。其家人奴婢者、放爲ニ良人一。若亡人存日處分證驗分明者、不レ用ニ此令一。」なる條文によつて答を爲せるも

息。何處分。答。皆不在分限。案下條知耳。牛馬亦同。古記云。妻家所得奴婢不在分限。還於本宗。謂自妻父母家將來婢。有子亦還。不入夫家奴婢之例。財物亦同。若有妻子者。子得。無子者還本宗耳。問。妻家所得。奴婢者父母既與賦。身生之間。令仕賦。答。既與者。不云。此者身生之間。令仕耳。雖已與。而妻無子死者。猶還本宗耳。一云。身生之間令仕。更不合論之也。

兄弟亡者。子承父分。謂兄弟亡者。既曰兄弟。即姉妹之子不在此限也。子承父分者。〔謂〕稱子者。男子也。即嫡子之子。承嫡子分。庶子之子。承庶子分也。下文云。寡妻妾無男者承夫分。亦同此法也。問。文云。子承父分。未知。若有父之妻妾者如何。答。子承父分之後。更依上文爲分。但於法。母子無異財之理。即分得之後。各當同財。又問。嫡母繼母亡者。子承母分否。答。唯得己分。不可更承母分。又問。假令。嫡妻有子。共承分之後。其母改嫁。即責己及子財。過後夫家。其後母亡。所有財物。須入何人。答。令有妻承夫財之文。而無夫得妻物之法。即須與其子。不可入夫。其於母者。無嫡庶之名。分其財物者。當從均分之法也。釋云。文稱兄弟。故姉妹之子。不承母分。私同。稱子男女子。〔於今不合也。何者下文。无男者妻妾承夫分故。但无男竝妻妾者。女子得父分耳歟。何之(也)。〕問。姑姉妹「未」得分。身亡。其男女得母分乎。「答」。同(又)兄弟曾無也。女子有一人身亡。女子之男女受母分乎。答。兄弟存日。姉妹之子。不可受母分。私同。唯兄弟曾無。而女子一人耳者。女子之男女受「母」財耳。無相爭競人故。私同。穴云。「私思。有財主之妻妾亦不得賦。」兄弟亡者。子承父分。嫡子之子。被立嫡孫者。得二分。若不然者。不合得二分。上已解訖。師不依此說也。子謂男子也。有女子。無男者。與寡妻妾故也。寡妻妾及男竝無。唯有女子者。讃云。物依令與一分。依元格與半分)(以上十三字。一本作)全與一分。*物云。依元格與半分)後案。爲不合重於姑姉妹故減半。師不依此說。何者假令。甲有三男。而一男身死。其死人有十女。今依此說。何者只以半分。將與十女。其分甚少也。「十」女各將與半分。太過父分也。其理不通也。但就令。以半分與十女灼然矣。何者寡妻妾無男者承夫分。注云。女分同上者。案此文。兄弟二人。一人亡。而無男及寡妻妾。而但有女子者。不限多少。仍以半分可與故。假令。女子一人者。全以半分與之。若有十人者。尚以半分。均分十女耳。此是女分同

るなり。
〔朱田[illegible]〕妻家女婢有二人於夫家[illegible]何處分答皆不在分限案下條知耳」下條と云へるものは、即ち戸令の「凡[illegible]、先由[illegible]父母[illegible]若無[illegible]自由[illegible]其所[illegible]之田、若[illegible]なり、[illegible]と云ふなり。

〔物云〕物部敏久の令私記なり。「物記云」「興大夫云」とあるもの之に同じ。物部敏久は、參河の人なり。平城天皇の大同三年以前、既に大[illegible]少[illegible]に任じて法律家として令名あり。同年正月、正六位上より外從五位下に進み、嵯峨天皇の弘仁二年頃、明法博士に任ぜられ、同四年正月、物部中原宿禰の姓を賜はり、同年二月、大判事に任ぜられ、同十年正月、内位に進み、[illegible]大[illegible]を兼ね、弘仁十年、弘仁格式の

撰定に加はれる時には、從五位下守大判事兼行播磨大掾となれり。淳和天皇の天長元年正月、從五位上に進み、同四年正月正五位下に進み、同十年に成れる令義解の撰定に加はり、天長十年閏十二月、弘仁格式の撰定に與れる功によりて正五位上を授けられたり。敍久の學說は、本書の外、政事要略、法曹類林、令抄等に見えたり。その法學の巨擘として當代に重んぜられたることを知るべし。

〔夫妻是同財〕茲に夫妻同財と云へる意味は、夫妻はその財產を共有

上義也。額不依也。但倘有號父分耳。文稱兄弟。明姉妹亡者子不得母分也。朱云。子稱承父分者。女子不云也。何者爲下文云。寡妻妾無男受夫分故也。子承父分者。未知。子亡有孫何。先云。見文(父)財倘得耳歟。可求者。未知何。掠亦同者何。問。祖之先亡兄弟之子。倘同與父分何。文(父)志。答不見。可求者何。姉妹亡者。子不可得母分也。爲文稱兄弟亡故也。子承父分者。未知。亡父服中承父分聽不。古記云。子承父分。謂嫡子之長子。雖未得嫡孫之名。猶承嫡子之分。但無嫡子。直有庶子者。同庶子之子。承庶子之分。一云。未得嫡孫之名者。猶承庶子之分。但子細事。放繼嗣令耳。又釋云。寡妻妾無男者。承夫分。故文。妾與一子分。縱有子亦同。未知。寡妾等無正子者。依上法造嫡庶分法與耳。寡妾以下。跡記亦同。又穴云。寡妻妾無男者承夫分。問。妾二人。一妾無子。一妾有男一人者何。答。男承父分。後爲三分。各得一分。何者財主之妾。得一子之分之事。雖有子。倘別得分義耳。今案。爲三分。與嫡子二分。二妾各半分。若有庶子。一分二妾各半分耳之。問。嫡子之妻妾。得夫分二分哉。答。同上子承父分之義耳。不合得也。二分爲繼門人所得故。其家遂合無立嫡子者。依均分之法也。此說。師不依上字承父分之處說了。私案。寡妻謂養子之妻妾亦同。諸子均分之時。亦放此法也。問。寡妻妾無男者承夫分。今有寡妻妾及女二人。以其夫分處分如何。答。爲三分。以二分與妻。以一分與妾。女各半分。若無妻有妾。及女二人者。中分與耳。妾女同分之故。古記。寡妻妾同分无差別「者」。蓋依前令。所說「歟」。於今不合。此說。可覆問也。又朱云。兄弟亡者。子承父分者。〔知〕未知。「承」後。更作男女妻妾之分法。如常處分何。答。然者。問。兄弟未定嫡子妻妾亡者。後追定處分財物何。答。寡妻妾無男者。承夫分者。未知。承後更女子分者處分。又此時妻妾同不。貞云。妻妾同者。反。物云。妾幷女子者。如常與半分者。私先幷同也。又古記(說)云。寡妻無男者承分。〔謂若嫡子無男死者。嫡子之妻承庶子之分。即與

嫡子妻承庶子分事

庶子妻同也。但嫡母無男者。過庶子分稍優處分耳。爲與子之妻不等故。其前嫡母亡。後娶嫡母無男者。臨時量宜。頗(須カ)處分。不合同前母也。又釋云。問。母幷子等相得父財訖。而母率數子等。嫁往他處。而母死而夫在。或夫亡而母在。未知。夫妻各有子何處分。答。*夫妻是同財。然母亡。夫存者。其財可得夫。但妻之子等。自父家持來物等。可與其子等。*於夫亦如之。但夫妻共亡者。妻之子承母之分。所殘之物。合與夫之子等。其

するの意にあらず。夫妻は各獨立に財產を有するに非ずして、凡て一體となすの意なり。即ち妻の取得物は夫の所有に歸すといふ消極的意味の同財なりと解すべからず。

〔新令答〕新令問答の問を脫するなるべし。

〔未知遺弃小兒即從其姓及死罪婦人產子近親等養爲子等何〕遺棄の小兒を收養して子となすことは、戶婚律に「即養二異姓男一者徒一年。與者笞五十。其遺棄小兒年三歲以下。雖二異姓一聽收養即從其姓」と見え、死罪の婦人の子を收養することは、獄令に「凡婦人犯二死罪一產レ子、無二家口一者。附二近親一收養。無二近親一付二四隣一。有レ欲二養爲レ子者一聽。雖二異姓一皆聽之。」と見えたり。

〔但非兄弟子故不得出身耳〕これ選敍令に「凡

如上法。讚記无別 或云。問。女子受父財物。隨夫家。夫妻同財。而女子死去。夫並姑見存。誰人可得其財。答。夫得耳。在讚記皆 又穴云。問。姑姉妹在室者。各減男子半。未知。母及女子并二人女子嫁。受財從夫。母後嫁與夫同居。母亡以後何處分。答。所在之家已是前夫家。今亡（已）有女子。然女子令（令）得耳。其後父是無親之日得耳。有女子者。不合得也。爲無復後夫。與前夫共得分之法故也。今。後夫時所業加物者。與其後夫耳。私案。母改嫁分取奴婢財物。從夫胃已去本家。母於後夫家死者。隨身財物。合入後夫。爲自非因義絶出。無得見在財之文故。今說同之。又從夫之女子。於夫家死。所在財物不還本宗故也。博士說。尙還本家也。爲劣。唐令（答）。妻死之後。夫以奴婢入夫家也。私凡嫁女與他家竝財物送也。夫家女死者。女父母雖欲還財不許故。新令答云。妻死夫存者。夫得。不被弃時不還者。又除還本宗文故。今案夫妻俱死亦不反也。與舅財耳。問。母財物。處分於嫡子并女子及孫之事。放父財物哉。爲當以不。答。母財分法。嫡庶無別也。**養子亦同。**穴云。未知。遺弃小兒即從其姓。及死罪婦人產子。近親等養爲子等何。答。已養爲子。并是養子得分無妨。但非兄弟子故不得出身耳。朱云。養子亦同。未知。兄弟之養子。若財主之養子歟。私案。兄弟之養子歟。何者於財主者。有「子者」不可娶（取）養子也。無子者。養子自可得財故者何「也」。**兄弟俱亡。則諸子均分。**謂假有兄子一人。弟子十人者。摠爲十一分。各得一分也。釋與義解無別。古記云。兄弟俱亡。諸子均分。謂假令兄子一人。弟子十人。合（合）十一人均分耳。穴云。兄弟俱亡。諸子均分。立嫡孫上釋記。問。四位以下子皆亡。只有諸孫者。同一男之分。寡妻者同一女之分是。何者女子亦可稱一子故。私與本文。孫者何。私答。依古記。諸子均分。無得一分人耳。朱云。諸子均分。謂嫡庶無別也。未知。此時父之妻妾之分何。若與諸子同。答。別「卷」說了。又妻與妾等分不何。諸子均分。未知。諸子或亡。或存。有其子。及諸子皆亡。有「其」子何。檢云。并同無別者。何之。**其姑姉妹在室者。各減男子之半。**謂姑姉妹各（乃）得諸子半也。釋云。文稱各字故。兄弟之姉妹者。減兄弟之半。諸子之姉妹者。減諸子之半。朱云。其姑姉妹在室者。

爲二人後一者。非二兄弟之子一。不レ得二出身一。」とあるによれるなり。

〔原大夫幷掠哲云〕原大夫は興原敏久なるべし。掠哲は椋橋部家長なること明かなり。

〔新選〕新たに編纂せられたる令にして、卽ち新令たる養老令を云ふ。古記は養老令撰定以後に成れる大寶令の註釋書なれば、屢〻新古兩令の差異に言及せり。

〔嫁裝〕出嫁の裝束、卽ち今日云ふ嫁入仕度なり。

〔除服之後不禁改嫁既已無罪〕戸婚律に「凡居二父母及夫喪一而嫁娶

減男子之半。謂姑與姉妹無別。同減諸子之半。然則。姑者得已兄弟之男子之半分耳歟。答。然也。穴云。問。姑姉妹在室者。各減男子之半。未知。姑者云兄弟時分事。姉妹者。云諸子時分事歟。爲當。姑姉妹。皆云諸子時分法歟。答。原*大夫幷掠撵(哲)云。姑姉妹皆會諸子均分時也。但今師所說姑會兄弟時。姉妹會諸子均分之時也。兩說能可檢。古記云。問。女子無分法。若爲答大例。女子既從夫。去出嫁之日。裝束不輕。又幷妻條。皆還「其」所賚兄在財之時。卽是與父母財也。所以更不分論。然則未出嫁在室。女不合無分。宜依新*選。與男子之半。以充嫁*裝。出嫁還來更不合分也。一云。女子無分法故。嫡子養耳。夫在被出還來。亦同。

雖已出嫁。未經分財者亦同。 **寡妻妾無男者。承夫分。** 謂兄弟之妻妾。無男者。承其夫分也。〔所云貞不決也。物云。爲無男子幷寡妻妾時。立文者也之。〕〔下朱文ノ攙入。〕 **女分同上。** 朱云。未知。爲何時所云。貞「云」不決也。物云。爲無男子幷寡妻妾時。立文者。然則女「子」可與父之半分耳。雖女子多。亦同者也。 **若夫兄弟皆亡。各同一子之分。** 穴云。問。未知。於此時。妻分妾分無別哉。答。文各同一子之分者。然則妻妾等分無差別。但乖上例耳。能可檢求也。今案。妾分須同姉妹半分。額博士云。若夫兄弟皆亡。各同一子之分者。寡妻「者」。同一男之分。寡妾者同一女之分是。何者女子亦可稱一子故。此文以下註也。私思乖文」耳。又繼父之財諸子得分以不。私案。繼父不同嫡「繼」母以同居僅入親例。至財物不同親父之例。財前夫之子。不得分。問。凡人等同居共財。一人身死「々」者有子何。答。有死者財驗分明者。合與其子。非分明者。不合與也。朱云。若夫兄弟皆亡。各同一子之分者。未知。若爲諸子均分時云文歟。答。然也。凡「此」時「妻」妾分何。先云。倘可與女子分。而未明者。私亦同。然何。或云。讀文夫兄弟三色者。在跡記背。 **有男无男等。** 謂恐於有男者。不與其母分。故云有男無男等。問。家長妻妾。服闋之後。未分之前。改嫁如何。答。文云。嫡母繼母各一分。謂家長之妻。夫亡寡居「者」也。若未分之前。改嫁適他者。不可得財。又問。除*服之後。不禁改嫁。既已無罪。何不承

者、妻妾、及〔三等〕各同一子之分」と見えたり。

〔但於僧尼既無嫡庶至其分財物須依均分法〕法曹至要抄、中巻、處分條には、僧尼の遺物は弟子傳領する法見えたり。それによれば、弟子に譲りを相承する者と譲らざる者とを區別し、前者は相承する者を嫡子に準じて曽我部論の頭をこれに傳へ、自餘の僧具衣鉢の類は、これを衆弟子に均分すべしと云へり。

〔家人奴婢立券賣買已訖〕關市令に「凡賣奴婢、皆經本部官司、取〔保〕保證、立券、付價」、と見えたり。

〔開元令〕開元令には、開元三年令、七年令、二十五年令の三種あり、二十五年令は、開元の初、[illegible]

分。答。服闋改適。雖無罪條。於夫義已絕。豈得更稱妻。又上文云。寡妻妾無男者承夫分。若夫兄弟皆亡。各同一子之分。然則自非寡居守志。並皆不可承分。又問。僧尼嫁娶生子。亦既私有〔移〕財物既(即)僧尼身死。若爲處分。答。僧尼嫁娶。及私畜財物。並是破戒律。犯憲章。其若在生日。即國有恒典。然而僧尼。其身既死。雖是遺法。亦有妻子。即所有財物。當與其妻子。*但於僧尼。既無嫡庶。至〔其〕分財物須依均〔分〕法。其家人奴婢身死。有財物。其子孫應分者。亦准此法〔也〕。釋云。有男者。其分全也。疑不與母分故。云有男無男等。私無。穴云。有男無男等。謂有男者男分。妻妾人別〔各〕分得以不。又無男。有女子者何。答。上陳訖。不可更勞。新令問答云。家長之妾。雖有子。受分。其母別受一子之分爲是也。朱云。有男無男等者。未知。有男妻。無男妻。其分等意賤。答然也。見先記也。古記云。有子無子等。謂有子亦別分得也。釋云。妻謂未幸來夫家。或雖未附籍。唯號妻。而取者皆是。服中改嫁者。不合與分。何者。若夫在日犯奸者。爲犯七出可放故。此亦不在攝故夫之限。犯奸舉此輕。改嫁此重。更不可疑。服闋未分財之間。犯奸嫁者。仍合得其分。何者無嫁之罪。又爲稱故夫故。跡記乞別。或云。問。夫與爲財處分亡後。其妻服中改嫁何。取其分財不。處分未明。或云。雖得罪。其財不追何。答。然也。在跡記背。古記云。問。夫存日處分已訖。服中改嫁。若爲處分。答。依律科罪。物不可奪。又云。夫存日。妻妾之家別處分營造。分異奴婢。雖嫡子不得患認之宜。不見。一云。服中合奪。服闋之後。不合。更論之。

僧尼子事

僧尼子無嫡庶事

謂在夫家守志者。 古記云。問。在夫家守志。無他之心。家人奴婢田宅財物。既費用後改適。若爲處分。答。祖父母強嫁。并被強奸他。不合論。但雖被強奸。而後自同者。家人奴婢田宅可追徵。財物不合也。一云。父母雖強嫁。猶可追徵。守志謂以終身爲限。問。*家人奴婢立券賣買已訖。若爲追徵。答。不追徵也。一云。*開元令云。若改適。其見在部曲。奴婢。田宅不得費用。皆入應分人。約案此令。即知。夫改適以前費用及賣買者。不合追論。一云。律云。令〔云〕以文守〔志〕爲費。然則文稱不得費用。而不云追奪。故知。前費用已訖。更不合論之也。

若欲同財共居。及亡人存日處分。證據。 朱云。未知。證據

綫
事。灼然者。不用此令。釋云。*凡此條。與喪葬令云各異。然依理相通。可用。縱牒不入司。而遺言分明。可依遺言。跡記无別。朱云。問。父存日一子與財。餘子不與財。父亡後
可處分財物。未知。先得子分。後日入財物之例。作分法不。答。計入可作。何者餘者更不追取。但其分少者。
加與故也。古記云。問。亡者處分用不。答。證驗分明者。依處分耳。一云。「己」身之時(持)物者得分也。從
祖父時承繼。宅家人奴婢者。不合依令耳。唯身存(在)日費用不障(妨)。「驗」臨死者不合。問。
父亡。母在分不。答。同母者。不異財。故不可分。若有異母兄弟應分。雖嫡母。亦應分也。

聽婚嫁條

凡男年十五。女年十三以上。聽婚嫁。釋云。此越王勾踐之下令。欲〔不〕令人民蕃息乖於禮義。古記。穴記。竝无別。

嫁女條

凡嫁女。皆先由祖父母。父母伯叔。父姑。兄弟。外祖父母。謂先由者。皆先
由於外祖父母以上諸親。縱不悉由者。唯科其違令。不可更離之也。祖父母父母者。皆主婚之祖父母父母也。
言女之父母。受其禮辭。必先由祖父母父母等也。伯叔父姑者。父兄曰伯父。々弟曰叔父。「々」姉妹曰姑也。
〔凡此條。與喪葬令各異然。〕(上ノ釋文ノ攙入)釋云。祖父母父母婚主之祖父母父母也。一云。凡女嫁者。必
待祖父母父母之命。及諸親之命。假令。媒人直請女許者。先申祖父母父母。故戶婚律云。違律爲婚。事依男女者。
男女爲首。主婚爲從。事若依主婚者。「主婚」爲首。男女爲從。又下文無此親者。幷任女所欲。爲婚主者。卽是
女行事也。一云。以下。古記無別。又云。不預他人。祖父母以下從父兄弟以上。皆相知。然後乃成。若有不相
知親而後悔者聽。但已成者。「量宜隨近親尊長命耳。不合追改。唯以所由人。科違令罪耳。又釋云。法例云。
雀門州申牒偁。部(郭)當蘇鄉皆娶阿龐爲婦。部(郭)當於龐叔靜邊而娶。蘇鄉又於龐弟戚(滅)處娶之。兩家
有交。龐者。叔之與姪俱是非親。依令。婚先由伯叔。伯叔若無始及兄弟。州司據狀判。婦還部當。蘇鄉不伏。
請定何親令爲婚主。司刑判。嫁女節制。畧載令文。叔若與戚同居。資產無別。須稟叔命。戚不合主婚。如其

三年正月之を撰上せり。七年令は、開元四年、吏部尙書宋璟、中書侍郎蘇頲、尙書左丞盧從愿等詔を受けて改修に從事し、開元七年三月十九日を以て之を奏上せり。又二十五年令は、開元二十二年、戶部尙書李林甫、侍中牛仙客、御史中丞王敬從等删定に從事し、開元二十五年九月一日を以て撰上せり。開元前令と稱するものは、卽ち開元七年令にして、開元後令と稱するもの卽ち二十五年令なり。而して開元二十五年は、我が聖武天皇の天平九年に當れば、古記に引かれたる此の開元令は、恐らく開元七年の前令なるべし。

〔凡此條與喪葬令云各異然依理相通〕本條に〔亡人存日處分、證據灼然者、不レ用二此令一〕と云へるものは、喪葬令、絕戶條に「若亡人存日

臭分、言聽分明者不用。此令二と云へるものと相異あらも、その理は相關せざるものありと云へるなり。

〔刑部式〕玆に引ける刑部式は、恐らく唐の永徽の刑部式なるべし。永徽式は、高宗の永徽二年、太尉長孫無忌、司空李勣、左僕射于志寧、右僕射張行成等が、律令格と倶に撰定するところなり。六典に十四卷に作り、唐會要に四十卷に作り、唐書藝文志、舊唐書經籍志に同卷に作り、日本國見在書目錄に二十卷に作る。何れが是なるやを知らず。

〔雜律云從母謂母親姉妹也〕唐律、名例律同母姑姨の疏ならむ。

分折異財。雖弟得爲婚主也。檢刑部式、以弟爲定。成婚已之。法例以下、「古」記無別。又云。案檢法例文。先申由、祖父母父母者、雖不由伯叔以下無罪。又由伯叔父姑者。雖不由兄弟外祖父母。不合論。（但未成者。情令譴也。已成不合。又釋云。）（以上十五字、一本下ノ朱云ノ上ニアリ）伯叔父姑。父兄曰伯父。父弟曰叔父。父之姉妹曰姑。音古胡反。跡云。嫁女謂凡庶（庶）廣、嫁婦女之心耳。由祖父母父母等。謂由女之祖父母以下也。（一本コノ間ニ、上ノ十五字アリ）朱云。婦女者。未知。妻妾同不。答。妻妾並同者。「何者」下條云。先娶後娶爲妻妾。雖會赦。猶離故者。先以棄時離耳何。先由祖父母等。謂女之祖父母等也。夫之祖不云也。未知。何人可由。又由者、以言由及觸。若作書由觸。又由時者。則以言聽觸。若可與聽與狀文何。答。不見也。宜合習者。與案。戶婚律云、男女嫡庶長幼。當時理有契約者。若作文所爲觸不。何。問。上諸親雖由。皆悉不由盡者何。答。科違令耳、但由重親。不由輕親無罪者。未明。文志何。或云。問。嫁女者。先由祖父母、誰人可由。答。女父母受媒人口轉輕耳。又先不由祖父母而及舅從母者。科違令耳。未明。（在跡記背。）穴云。嫁女者。先爲妻也。案下條可知也。但「云」亦准由其親屬耳。令釋初說不當也。何者條終云。若舅從母等不同居共財。及無此親者。並任女所欲。爲婚主者。然則明女行事。非婚主之祖父母等也。依法例。由祖父母等。不由兄弟無罪。若由兄弟。不由父母者。從違令。但不爲好耳。（爲是）法例。叔及弟當頭爲主婚。各嫁夫故。女謂廣稱男女之意也。由謂有媒人。由女之祖父母等也。令釋後記說云。媒人詣女許者。女先申（由）、祖父母父母。故戶婚律云。嫁娶違律、祖父母父母外祖父母主婚者、獨坐主婚。若二「等」尊長主婚者。主婚爲首。男女爲從。餘親主婚者、事由「主婚」々々爲首、男「女」爲從。事由男女「々々」爲首、主婚爲從者。即是女行事也者。此兩云以准〔謂〕爲是。二云爲別何。

次及舅。從母。從父兄弟。謂母之昆弟。男曰舅。女曰從母也。皆依上文。先當由祖父母等。若並無此親者。乃及舅從母等。故曰次及也。釋云。母之昆弟云舅。音巨久反。若女曰從母。祖父母等在。不及由此親故。云次及。何者縱使與祖父母共一時兩由者。何煩次及之文耶。跡云。次及謂上親無及由舅以下耳。穴云。雜律云。從母謂母親姉

〔律云〕戸婚律なり。
〔依下條〕下條棄妻の條なり。

〔毛人〕蝦夷人なり。エミシと訓むべし。蝦夷人毛髮多きによりてこの名あるなり。

妹也。**若舅。從母。從父兄弟。不同居共財**謂同居。共財。二事相須也。穴云。問。此條同居共財相須以不。答。可相須也。求由所。朱云。可相須也。**及無此親**謂祖父母以下。從父兄弟以上。并無也。釋與義解无別。朱云。未知。若外祖父母以上親無歟。釋云。祖父母以下從父「兄」弟以上「并」無何。更案依釋可習者。**者。竝任女所欲爲婚主。**穴云。問。律*云。事由主婚者。主婚爲首。男女不坐。未知。男家亦有主婚哉。答。依*下條。與尊長屬近親同署者。然則男自由己之祖父母。「々々」次及近親耳。私案(思)。無近親者。任男所欲爲婚主也。餘習令釋也。

結婚條

凡結婚已定。謂已許婚訖也。穴云。問。結婚何。答。許嫁訖是。仍自許訖日(月)。始爲三月。若有期約者。依期約日始計也。但此文稱許訖時。爲唐令云爲婚故也。案。於無期約爲說耳。朱云。問。結婚已定未會之間。男死者。尚如夫著服竝承財物。又於夫何。答。不見。可求者。**無故三月不成。**古記云。男夫無障故不來也。**及逃亡一月不還。若沒落外蕃。一年不歸。**謂若遣使不歸者。計其應歸年。更復待一年也。此條。稱年月者。皆計日也。釋云。「無別」若遣使不廻者。「計」可廻年更一年待耳。稱年者。計日也。朱云。沒落外蕃。謂若被遣使不歸者。不限年遠近。常待者。後反。未明。違令釋。或云。依下條因王事。沒落外蕃不還。有親屬同居者。其身分之此。十年乃追者。比此文可待十年者。此亦未明。後反云。同令釋。稱月者計日也。穴云。往蕃國使而不歸者。除可還年。而更待一年。不依待十年論也。三月謂准服紀條耳。稱年亦如之。以(似)(假)案一年功過行能之心等耳。毛*人抄略亦放外蕃也。古記云。沒落外蕃。謂被抄略。及遭逆風流離之類。遣使者。非遣使限終身待耳。**及犯徒罪以上。**謂本犯徒罪者。雖不身配亦是。但過失疑罪者非也。釋「云」。與義解無別。朱云。犯徒罪以上。未知。責情特

(特)配色。并比徒之[徒]罪以上何。答。不離。不在未犯徒以上故者。此犯免所居官爲罪上耳。問。未犯徒一年。例減一等。成杖罪。何所定。爲杖以下不離之乎。何。或云。問。「比徒」「徒」以上。答。比徒等准入耳。未知。在律已背。穴云。徒罪比徒亦同。問。文云。犯徒罪者。未知。元徒罪。減後杖罪。或爲徒罪之徒。得減一等。爲杖罪。又得贖徒罪等者。何爲處分。答。減後爲杖。及贖徒等並同徒罪。又法。但徒一年之徒。從者。不同徒罪法。所犯非徒之故。其過失疑罪徒等非也。古記云。「問。犯」杖罪以上。若贖杖若爲。答。雖贖亦是也。過失并疑罪亦同。一云。除眞決以外贖杖不合。聽改嫁也。　女家欲離者聽之。穴云。問。同已。唐令云。不[能]娶[聘]財。於此令何。答。*勘律不可反[癸也]。　雖已成。其夫沒落外蕃。有子五年。謂稱子者男女同也。若夫婦在同里。而不相往來者。即比無故三月不成類(離)也。釋云。稱子者。男女同。其男女同里不相往。[相]比逃亡。而有子三年。無子二年待耳。跡云。已成。在同里。不相通者。比已成逃亡之法。合離。穴云。問。同里絶往來者何。答。比逃亡改嫁也。朱云。問。在同里不相往。比逃亡者。未知。雖已離畢定。猶比逃亡不也。依下條。依有七出之狀夫手書弃色等。則改嫁聽何。答。未明。知離狀故尙比逃亡耳。但夫手書弃色者。則聽改嫁耳。古記云。有子謂女子不同。一云。女子同例。妻妾亦同也。　無子三年不歸。及逃亡。有子三年。無子二年不出者。並聽改嫁。

先姧條

凡先姧後娶爲妻妾。謂不以禮交。爲姧也。假令。初不由主婚。和合姧通。後由祖父母等。已聽婚娶。其後姧通事發者。*縱會非常赦。猶亦離也之類。釋云。若當赦不以禮交曰姧。音古寒反。假令。先不由主婚。和合姧通。後由祖父母等。立主婚已訖之後。先姧通事發者。縱生子義猶離之耳。但常赦可不免。惡赦條者不離。唐令。答。猶離者非。朱云。問。雖有媒人「相媒」不由「可由」親

〔勘律不可反癸也〕茲に云へる律は、唐の戸婚律に「諸違律爲婚。當條稱離之正之者。雖會赦猶離之正之。定而未成亦是。聘財不追。女家妄冒者追還。」とある條文に相當する日本律なり。この律條全く傳はらずと雖も、この文によりて我が令にも之に相當する條文ありしことを推定し得べし。

〔非常赦〕赦に常赦、大赦、特赦、曲赦等の種類あり。非常赦は常赦に赦さざる所をも赦すものにして、その恩の及ぶところ頗

者。猶名奸何。答。然也。依戸律。雖奸可有媒人「故」者。問雖奸狀。自首猶離何。答。然也。何者雖自首不免罪故者。跡云。此條雖會非常赦。猶合離之。朱云。後度不決。乃依此說離耳。但罪者隨赦可免者。私同之「也」。（以上細註。一本作大字）穴云。科罪訖後。更亦不婚也。赦謂非常赦幷是。令釋云。會常赦。所不免咸赦除之者。不可離「者」如何。答。兩存加思量耳。問。雖會赦猶離之。未知。離而後聽更婚哉。爲當終身不聽哉。答。*穴太博士說。至終身不許婚也。可問他。今說同之。問。僧尼立主婚嫁娶。還俗之後離「之」哉以不。答。私案。科罪之日稱奸了。宜離之。古記云。先奸後娶爲妻妾。雖會赦猶離之。謂先不由主婚。和合奸通後由祖父母父母立主婚。娶已許訖。雖生長子孫。事發者猶離之耳。但常赦所不免悉赦除者。不離耳。

雖會赦猶離之。

六出條

凡棄妻。須有七出之狀。朱云。文稱弃妻。則知。妾者任夫意弃者。未明。穴云。問。於弃妾亦放此例不。答。可任夫意。不可用此例。古記云。問。妻有七(六)出之狀不弃。其夫科罪不。答。不科。聽不離也。*但義絕不離者科罪。必令離也。或云。妾已卑微。故唯稱妻耳。在釋背。

一無子。謂雖有女子。亦爲無子。更取養子故也。釋與義解無別。跡云。子者男子也。朱云。無子者雖取養子。猶弃離耳。無正子故者。私案。任夫意歟。先不同。穴云。*無子謂妻年五十以上無子也。夫年限不見令條。縱六十以上。更取繼妻耳。若取養子者。不合出妻。違者依律科罪也。今說。雖取養子。猶弃耳。無禁文故。不安也。抑令勘律也。養子條無子者。縱有女子爲無子。*名例養者條簡已(云)說了。但於此條可勘。今案。於此亦可然也。古記云。無子。謂有女亦同爲無子。得養子故。謂五十以上也。

一婬泆。謂婬者蕩也。泆者過也。須其奸訖。乃爲婬泆也。釋云。婬蕩也。音余針反。泆水所蕩泆也。音夷質反。須已奸訖。乃爲婬泆。跡云。婬泆謂已奸訖也。古記「云」。婬泆。謂竊奸通已訖也。一云。不必通訖。於夫有二心而流宕。彼此交預宴席是。穴云。古記(說)。奸者須已奸訖也。

三不事舅姑。謂夫父曰舅。夫母曰姑。上條云。母之昆弟曰舅。父之姉曰*妹姑。一字兩訓。隨事通用也。釋與義解无別。古記云。舅姑謂夫之父母也。白虎通云。

る廣汎なる恩赦なり。

〔穴太博士說〕穴私記の撰者明法博士穴太內人の說なり。

〔但義絕不離者科罪必令離也〕戸婚律に「凡犯二義絕一者離レ之。違者杖一百。」云々とあり。

〔無子謂妻年五十以上無子也〕戸婚律に「凡立レ嫡違レ法者徒一年。即嫡妻年五十以上無レ子者。得レ立二庶以長一。不レ以レ長者。亦如レ之。」とあり。

〔名例養者條〕名例律、下卷に「凡稱二二等親及祖父母一者。曾高同。（中略）其嫡繼慈母。若養者與レ親同。」云々とある條なり。

〔白虎通〕白虎通義の略なり。後漢の建初四年、諸儒を白虎觀に會して五經の異同を講ず。班固これを撰集して、白虎通義と名付けたり。

隋書經籍志及び唐書藝文志には白虎通義六卷とあれど、日本國見在書目錄には、白虎通十五卷とあり。今に傳はる、普く行はるゝものは漢魏叢書本及び我が寛文四年の刻本なり。

〔癲狂久痛〕癲疾、癇疾に當る疾病なり。その備制備戸令、日本書紀に見えたり。

〔唐令釋〕唐令釋は、本書考課令、內外官の條下にも引かれたり。この書新舊兩唐書及び日本國見在書目錄にも見えざれど、唐令の註釋書なることは、その逸文によりて明かなり。前記の令釋は、即ち名を之にとれるなるべし。

〔令釋後云〕令釋後記の意なるべし。後記は即ち後人の追記なり。

妻稱夫之父爲舅。舅者舊也。尊如父。而非父也。稱夫之母爲姑。姑者故也。親如母而非母。**四口舌。**謂多言也。婦有長舌。維厲之階。是也。釋云。詩大雅曰。婦有長舌維厲之階。注云。長舌「喩」多言語也。穴云。多言口謂〔之〕口舌。古記云。口舌謂惡言交通彼此之中。被推問并至罪之類。**五盜竊。**謂雖不得財。亦同盜例也。釋无別。跡云。盜不得財是也。朱云。或云。依賊盜律。未得盜名。故不離者。不收。穴云。私案。盜不得財非。今案。量行事尚可弃耳。又雖夫物將人盜者。比直盜。何者彼凡人爲直盜「罪」故。抑可請正說。古記〔說〕。盜者不得財亦同。古記云。盜竊謂盜他人之物。輙用夫物者非也。問。盜竊不得財若爲處斷。答。竊盜不得財亦同。一云。不得財者。名不爲盜也。強盜不得財亦不爲盜。得財者可「在」出之限。此云未盡也。**六妬忌。**謂。以色曰妬。以行曰忌也。釋云。毛詩箋曰。以色曰妬。以行曰忌。妬音當故反。古記云。妬忌謂妻爲憎嫉也。**七惡疾。**穴云。癲狂久痛等不合出也。**皆夫手書棄之。與尊屬近親同署。**謂尊屬近親相須。即男家女家親屬共署也。或云。三等以上尊屬也在釋背。釋云。妻之親屬也。一云。下條由祖父母父母是。但夫祖父母「々々」亦署。唐令釋云。男及父母伯姨舅。并女父母。及伯姨「舅歟カ」東國西國及見人皆署也。跡云。與尊屬近親同署。謂依下條。由夫祖父母父母。若无祖父母父母者亦是。此條云。由近親。故令由三等以上親。若無三等親。亦依下條。夫得自由。朱云。下條一端由祖父母父母者。舅從母等亦可由者。未知。此親雖非三等以上親。入近親何同署乎何。問。尊屬近親幾事。答。一事也。尊屬之近親耳。反問。近親何〔者〕。答。三等以上親。凡此「何」人親屬。答。下條所由諸親者。未明。然則尊屬者尊長也。近親者卑幼者。近親者凡三等以上也。穴云。手書匪官司。以計帳時除弃耳。尊屬謂夫之祖父母父母也。近親謂依女吏三等親等共署。案下〔一〕條。無祖父母父母。謂一端生文。近親共署故也。尊屬近親共無者。於上條。舅從母從父兄弟。凡無此親及慍責之狀。悉放〔致〕上條後定耳。今師說云。尊屬近親之中。皆有舅從母等耳。少乖文義〔歟〕也。令釋。妻之親屬者爲非說也。令釋後云。得埠。又依唐令釋。男及男之親屬「竝女之親屬」。東隣西隣及見人皆署也。未知。女之祖

父母等俱署哉以不。答。有令由知事耳。但不見共署。可求。古記云。皆夫手書弁。謂夫自子細共七(六)出之狀記耳。與尊屬近親同署。謂下條云。祖父母父母也。妻祖父母父母亦署也。若無祖父母父母者。伯叔姑兄弟等爲近親故也。**若不解書。畫指爲記。**古記云。謂夫不解寫書。賃他人令(令)作牒狀。年月日下。夫姓名注付。食指點署。但食指爲記。法用此間與本令異耳。其記文送里長也。朱云。若不解書「畫脱カ」指爲記。未知。爲何。文云。若夫竝親屬皆約文歟。**妻雖有棄狀。有三不去。**跡云。三不去以下具如令釋。夫娶妻妾亦令習女。**一經持舅姑之喪。**謂持猶扶持也。釋云。持猶執也。持訓助也。古記云。持訓助也。取也。保也。云云。**二娶時賤後貴。**謂。依律。稱貴者。皆據三位以上。其五位以上即爲通貴。但此條稱(曰)貴者。直謂娶時貧若下賤。弃日官位可稱而已。不必五位上也。釋云。律内稱貴。多據三位以上。及五位以上爲通貴。但此條稱貴理必不然。何者假令。有貧窮白丁。欲塡溝瀆。賴妻資給官仕請(諸)官。若斯之徒。不稱後貴。此令本意塞而不通。隨事原情。於義允愜也。穴云。貴謂令釋訖。假白丁得官仕之端。貧夫得給問之類。古記云。娶時賤後貴。謂五位以上爲貴也。一云。列(判)集布衣之時妻。至富榮之時不聽離異也。**三有所受。無所歸。**謂無主婚之人。是爲無所歸。言不窮也。釋云。所受謂前主婚者。所歸謂後可歸宗者。案取時祖父母以下從父兄弟以上皆由。若先由人一人有者。爲「有」所歸耳。穴云。有所受無所歸何。答。令「校」據禮家也。私假無主婚家是。但主婚死後不由審也。後定無所主婚。是云「无」所歸。若無一人者。云無所歸。抑可勘禮也。古記云。有所受無所歸。謂娶時有主婚。去時無主婚也。問。娶妻之時。祖父母以下。從父兄弟以上皆相知許訖。未知。至出之時一親見在者。若爲處斷。答。爲有所歸。令出無疑也。**即犯義絕。**古記云。下條具明文。**婬泆。**古記云。問。妻立主婚嫁他人。前後之夫相覺(競)(覓)。若爲處分。答。妻并後夫共科罪也。前夫不欲離者追還。「前」夫若不娶者。後夫給耳。**惡**

〔賃他人〕賃銀を與へて他人を傭ふことなり。

〔食指點署〕正倉院文書及び燉煌發掘の文書によつて畫指の實例を檢するに、食指の長さ及び關節の位置を紙上に畫き、指端の所に末と注し、指の根本の所に本と注せり。その例次の如し。

本 ―|―|―|― 末

〔依律稱貴者皆據三位以上共五位以上卽爲通貴〕名例律、六議條に「六曰議貴。謂三位以上。」とあり。同律、「凡五位以上妾。犯非二八虐一者。流罪以下聽二以レ贖論一。」條の疏に「五位以上者。是爲二通貴一。」とあり。

〔允愜〕允はマコトなり。愜はカナフなり。適當、妥當、穩當など云ふに等しかるべし。

〔判集〕賦役令集解にも

疾。不拘此令。

先由條

凡棄妻。先由祖父母父母。朱云。未知。誰祖父母父母。或云。夫之祖父母等者。以何所案。答。夫之祖也。先云。何者悉棄カ人夫カ方親故也。上條同署亦此親耳者。穴云。妾不在此例。假令留任男夫。祖父母謂男之祖父母也。若無祖父母父母。夫得自由。謂。自由猶云自專也。即將手書棄之。里長造帳籍時。令知國郡。據上條。若無尊屬者須由近親。而此條。唯擧祖父母父母者。文之省略也。釋云。自由猶言任意也。假令。告知可由人弃耳。但以手書送里長。籍帳之時。告國郡知耳。上云。祖父母父母。下云自由。即知其間（閒）親者理必由耳。穴云。自由謂自專也。古記云。「夫」得自由。謂夫任意可由人告知弃耳。但以手書送里長籍帳之時告國郡知耳。皆還其所齎見在之財。謂自妻家將來之財物。妾亦同也。釋云。謂自妻家將來財物也。妾亦同。齎音即稽反。說文。齎持也。字書。又齊字也。穴云。轉易得他物。及生產蕃息。皆爲見在故。婢有子亦還。問。夫婦同財。經年混合者何處分。答。「文」稱見在。然則非所齎見在者。不還耳。此說少不安。可謂也。古記云。皆還其所齎見在之財。謂自妻家將來財物也。妾亦同之也。若將婢有子亦還之。穴云。家女馬牛「子」亦還也。或云。問。背婢有子者。奴子何。答。不還。在後記。

嫁女弃妻條

凡嫁女。棄妻。不由所由。皆不成婚。不成棄。所由後知。滿三月不理。皆不得更論。謂所由者。上條云。嫁女。皆先由祖父母父母等。是也。後知者。既嫁女之後。而知其不由也。三月者。九十日也。不得更論者。不由所由。嫁弃已訖。而所由後

引き在せり。唐代の判例を集めたる書なり。日本國見在書目錄に「判格十卷。判軌一卷。救急判罪一卷。百節判一卷。百詞鶴九卷。中臺判集五卷（中臺皮撰）大唐判書一卷」とあるもの即ち唐代の判例集なり。本書に引かれたる判集が、その何れなりやは、之を詳にするに由なし。

「轉易得他物及生產蕃息皆爲見在故」これ名例律「下條準此」條の凡罪人入官已費用者、已費用者、非死及配流、云々なる律文の本注を引けるなり。

「奴子何答不還」戸令には、「凡癸家奴婢俱逃亡、合生男女、並從母」云々とありて、卜云の家人と奴婢間に生まれたる男女は、婢の本主の有に歸せり。此說によれば、奴婢の男女は婢の

生產蕃息物にして、奴の生産蕃息物にあらず。故に奴の子はこれを返還する必要なきなり。

〔故毆闘毆〕故毆とは、故意を以て人を毆るを云ひ、闘毆とは、相闘

知。滿三月不理者。不可更追論。縱三月内理者。科違令罪。不可更令離也。釋云。謂不由上條諸親。嫁弃已訖。而親後知滿三月不理。〔不理〕不可更追論耳。若三月内理。科不由諸親之罪耳。更不合離之。跡云。「不成婚」。不成弃。謂三月内有悔者。合科不由所由之違法罪耳。但不得離之。又令牽也。朱云。不成婚。不成弃者。未知。雖科罪更不離合哉。答。然也。如令釋也。問。不由諸親之罪何罪。若違令罪歟。凡此罪誰人可科。若求所由之人科哉。先云。夫可科者。又問。被稱不成婚不成弃之間。夫妻一一死者。著服并於財物等何。私案。猶同眞夫耳歟。何者。爲更不離合也。於弃亦爲他人取歟何。所由後知。滿三月不理者。知後之三月者。或云。始違犯計三月。貞不同也。私亦大不同也。又稱三月者。計日。或云。問。所由後知者。其義何。答。不皆由盡耳。假令。祖父不令知祖母嫁者。祖父得違令罪耳。未明。在跡記 穴云。私案。不成婚。謂結婚已定。未成之間。是仍所由悔者。不娶耳。弃亦如之。若已成弃者。無離合之文。只科違令罪也。此亦依法例。經祖父母等。而不經兄姉(弟)等者不坐也。嫁。女。條記見文。不得更論。謂問答云。如云不得悔者不論。謂。爲罪。新令問答。爲罪生文也。所由謂上條所計也。假經父。不經母。爲不由所「由」科違令也。問。不成婚。謂凡婚娶及弃之法。不由不得婚弃以不。答。婚及弃訖者。但科違令。更不離及違也。三月不理者不得更論。謂不科違令是也。三月内發者科罪。不離也。假律有須舅姑告乃坐之類。他人告尙不坐。今此雖本有罪。彼親三月内理告者科罪。過日告者。不科。此亦法之制耳。成婚後三月也。非知後三月。今云「師」說知後之三月耳。其所由之法。悉盡不盡。可檢校法例也。古記云。所由後知滿三月不理。謂不由上條諸親娶弃也。已ヵ訖。知事狀應離。應不「離」合判。滿三月後輙有悔者。不合更論。但三月内悔者聽。問。先奸後娶爲妻妾。所由後滿三月不理。若爲處「分」斷。答。先奸者雖會赦猶離之。知滿百年。目ヵ「離」不理。雜事之時。猶合得論也。

毆妻祖父母條

凡毆妻之祖父母。父母。

朱云。問。毆者故毆闘毆同。因何。毆妻之祖父母等。不爲義絶也。卑色故也。穴云。夫犯妻祖父等者。弃不任夫情耳。可反覆。問。案

因りて人を傷るものにして、初めより人を傷る計畫あらざるものを云ふなり。闘殴の罪は、闘訟律、第一條以下に規定あり。故殺に就きては、同律、闘殴殺人條に「不因闘故殴傷人」者以闘殴傷罪一等」とあり。

「故闘謀殺同」故殺、闘殺、謀殺皆同じなり。故殺は害意ありて人を殺すを云ひ、闘殺は本害意なく相闘によりて人を殺すを云ひ、謀殺は二人以上共謀して人を殺すを云ふ。故殺、闘殺に就きては、闘訟律に「凡闘殴殺人者絞、以刃及故殺人者斬」と云ひ、謀殺に就きては、賊盗律に「凡謀殺人者徒三年、已傷者近流、已殺者斬」と云へるなり。

「朱云二張」其の令釈以て「政事要略」第七十に引ける寛弘六年二月八日の令宗允正の勘文に

律毆妻祖父母者、答聞、若論告者反坐徒流死、未知、爲義絶哉。答、依文不爲義絶耳。古記云、毆妻之祖父母父母、以手一下以上、毆妻之祖父母者非、以下准此也。**及殺妻之外祖父母、伯叔父姑、兄弟姉妹。**朱云、問、殺者故鬪謀殺同何。穴云、殺謂故鬪謀殺。其減一等二等之類。不在此例也。爲是。古記云、殺妻外祖父母。謂毆至傷疾以下者非、但依律科罪耳、以下皆放此之也。**若夫妻祖父母、父母、外祖父母、伯叔父姑、兄弟姉妹。自相殺。**古記云、若夫妻祖父母、謂夫祖父母與妻祖父母相殺之類。或云、問、自相殺者、本條得減死罪者何。答、義絶耳、在古記皆。**及妻毆詈夫之祖父母、父母。**謂須舅姑告、乃爲義絶也。穴云、此條論妻。其妻毆夫父母之類不在此例。令請諸、妻犯此義絶者如何行事。答、令師云、妻犯夫祖父母等、輕重可放弃也。此條毆詈夫之祖父母、須舅姑之告、乃爲義絶也。朱云、問、毆詈者相須不何。不須。妻毆夫之祖父母等者、輕重同重義也。可義絶者。未聞。**殺傷夫之外祖父母、伯叔父姑、兄弟姉妹。**謂或殺或傷皆是也。釋云、殺傷不相須也。但戸婚律義絶條朱、朱云、緣[illegible]殺而傷者、此難也。跡云、殺傷謂已殺。并鬪傷等皆是也。言皆殺（毆與詈廢殺。毆、與傷之耳。故、以案非法、後。然又不依戸婚律。朱、朱云、何者告言夫是輕、倘法意害夫爲義絶。然則鬪傷是重、故凡此此、告言得罪重者、皆比此合義絶。**及欲害夫者**謂若誣陷罪及害身并是。但毆夫者、輕於陷罪。故不入義絶。凡諸條稱妻者、媵妻亦同。但妾者非。其夫死之後。妻。更此七出義絶者、亦猶依出例也。釋云、或欲陷罪。或欲害身是。但毆夫者輕於告。害、罪故。不入義絶也。諸條稱妻者、媵妻亦同。但、妾不入也。條、案、夫在犯義絶七出者、令有明文。若夫死、犯義絶七出亦在出限。穴云、唐律以下、古記云、及欲害夫、謂或欲陷罪。或欲害身、皆是。於夫有此者、但自理訴者非。問、夫妻相

殿者若爲處分。答。依鬭律妻毆夫者徒一年。今欲害夫此輕。倘猶義絶。況已毆此重。何更生疑。其夫妻毆者。不在論限。唯依律科罪耳。問。諸條次妻幷竝無文。若爲處分。答。次妻與妻同。但妾者不載文。夫任意耳。一云。*本令妾。比賤隷所以不載。此間妾與妻同體。「宜」臨時量也。穴云。害謂謀殺及告言也。毆夫杖一百。不爲害。但尤*（先）律毆夫徒一年。故古記亦爲義絶。與今異也。若傷徒以上者。准亦爲義絶也。或云。問。欲害夫者。毆何。答。不爲義絶。在跡記。**雖會赦皆爲義絶。**朱云。凡此條爲已自（身カ）見毆與殺傷立文也。自餘他罪。雖死罪科。不爲義絶也。假誣告厭魅之類者雖殺。得減死罪。者。不爲義絶者。未知。常赦非常赦同不。答。同無別。穴云。此條赦謂非常赦。一同與上。先姧後娶「條」同之（也）。

鰥寡條

凡鰥寡。孤獨。貧窮。老疾。不能自存謂六十一以上而無妻爲鰥也。五十以上而無夫爲寡也。此與上條意異也。十六以下而無父爲孤也。六十一以上而無子爲獨也。困於財貨。爲貧窮也。六十六以上爲老也。癈疾爲疾也。其八十以上。及篤疾者。幷別給侍。故不入此「例」也。釋云。*依禮老而無妻謂之鰥。音古頑反。准令。六十「一」以上也。老而無夫謂之寡。依禮五十以上也。少而無父謂之孤。准令。十六以下也。老而無子謂之獨。准令。六十一以上也。此是四者。天民之窮而無告者。或說。孤者十四以下。無父母也。十五年者有妻。卽爲人父。非孤也。又鰥寡之人有父母及子者。不爲鰥寡也。又獨有妻及父母者。非獨者。非也。何者爲須上色人等。皆不能自存故。貧窮謂貧無資財者。老疾謂給侍。八十以上及篤疾者非也。不能自存。謂鰥寡以下老疾以上。不能自存者。就中。如有可得自存者。不入此條。古記云。*王制。稱小而無父謂之孤。老而無子謂之獨。老而無妻謂之鰥。老無夫謂之寡。此四者。天民之窮而無告者也。釋名云。無妻曰鰥者。愁悒不寐。目恒鰥鰥然。故其字從魚。魚目恒不閉也。無夫曰寡。寡踝也。單獨之言。鰥或作矜同。蓋古今字異也。婦人亦無稱鰥之文。其男子亦稱寡。襄廿八年傳云。崔杼生成及强而寡。故爾雅無夫無婦。幷謂之寡也。鰥寡之名。以老爲稱。其有

「唐儒宋云。謀殺皇親及議貴等。□無異文。今依凡斷。」とある宋氏は之と同人なるべし。但し宋氏の令私記なるもの唐書藝文志、日本國現在書目錄に見えず。

〔凡諸條稱妻者繼妻亦同〕この句、律令の正文にあらず。名例律に「其嫡繼慈母若養者與レ親同。」とあるより類推したる原則なるべし。

〔本令妾比賤隷所以不載此間妾與妻同體宜臨時量也〕唐に於いては妾の地位賤隷に近ければ、唐令は妾のことを本條に載せず。然れども、我が國に於いては、妾の地位は妻と略ど同等なり。故に妾のことは唐令によりて類推するを許さず。適宜に解釋すべきなり。

〔先律毆、夫徒一年故古記亦爲義絶與今異也〕先律は古律と云ふに等しく、大寶律を指す。大寶鬪訟律に於いて

り、夫を娶る事は只一年なりしなり。養老闘訟律に於いては、夫を娶る事は只一日に[illegible]られため。これ令と異ると云へる所以なり。

〔鰥寡孤獨〕[illegible]に出で儀式[illegible]に引ける鰥は、恐らく唐の永徽禮[illegible]又は開元禮なるべし。永徽禮は、高宗の永徽二年、儀[illegible]の禮[illegible]備らずと爲すを以て、高宗太尉長孫無忌、中書令杜正倫、中書侍郎[illegible]李義府等に詔して禮官を加へしめたるものにして、その成る顯慶三年正月に[illegible]之[illegible]二十[illegible]一百[illegible]四年、[illegible]事舍人王[illegible]の上言によ[illegible]學士[illegible]

妻得乃時、得其乃至、爲室家者亦同名焉。故舜年三十不娶、書云、有鰥在下曰虞舜。孔子對曰、舜父頑母嚚、無室家之端、故謂之鰥。謂鰥者無妻之名、不拘老少。但少者無妻可以更娶、老則不復能娶、謂之天民之窮。故謂老者言耳。詩云、何草不玄、何人不鰥。哲離室、尚謂之鰥、不獨老而無妻。婚經鰥矣、王制云、少而無父者謂之孤。疏曰、若朝曲禮之注、謂未三十無父者孤。師說、令所云、孤是未十六以上、則有成人端。不復（後）内極。故云。少而無父也。案禮并本令、以十六爲中男、此間令以十七爲中男、即十六以下謂之孤耳。老而無子者謂之獨。疏云、六十以上、無復生子之道、乃曰獨。故曰老而無子也。案此間法用以六十一爲老丁、即是。尚書曰、惸獨謂無兄弟也。老而無妻者謂之鰥。疏云、亦謂六十以上也。陽氣已絕、不復更娶、故云。老而無夫、白虎通、鰥矜也。爲人所矜。案亦以六十一爲鰥也。老而無夫者謂之寡。疏云、謂五十以前〔上也。閉房之年、故云。老而無夫也。白虎通云、寡踝也。人之所踝也。軟弱人之所使輕。上之所當顧也。案婦人五十以上無男者、以然爲寡。又在出限。亦以五十以上爲寡也。貧窮老疾、謂此上四人、不在別人也。老謂六十一以上七十九以下也。八十以上即給侍人也。疾謂在身殘疾以下并癈病之類。篤疾即給侍人也。問、鰥寡孤獨貧窮不能自存、免課役以不。答、無絶文、但臨時言上、聽報耳。跡云、貧窮、老、疾、不能自存者、謂十七已上人。孔皆揔云貧窮、而不能自存而已。但給侍之色、不在此例。朱云、問、鰥寡孤獨貧窮老疾、不能、自能、自存、未知、何義事。答、若鰥寡孤獨之人、貧窮不能自存。又老疾之人、不能自存。總六事賑給。穴令釋云、貧窮老疾不能自存、并謂鰥寡孤獨四者、無取之由者。其意何。答、若然者、惣四事賑。答、七事者通令釋、私不同也。又古令釋、四事者、非問獨者雖有父母及妻、無子者尚爲獨也。不然者、與獨何以可別。答、不論父母妻子有無、不能自存、皆收養耳者。未明。尚父者志。問、老疾者何以上、無不禁自存、皆收養耳。有若六十一以上、七十九以下、及廢疾篤疾、皆爲然也。或云、孤十六以下、獨有妻亦同。問、貧窮者、唐令曰鰥寡孤獨之貧窮者、無則闕之耳。自存自贍、一同。昔在跡記穴云、鰥貧窮等七、免課役事。古記依常法爲文耳。鰥既有父母兄弟、尚爲無妻爲鰥。他皆案此意也。令釋、等無父云孤、此禮志。但於令無父母也。若有母不

勞かれ、集賢院學士蕭嵩によつて開元二十年に完成せられたる禮書にして、序例、吉禮、賓禮、軍禮、嘉禮、凶禮の五篇一百五十卷より成り、粲然たる盛唐の儀式典禮を網羅せり。

〔王制〕禮記の一篇なり。この一篇は漢の文帝の時、諸博士の作るところなりと傳ふ。

〔只爲五位以上〕政事要略、第九十五及び職員令集解引くところの醫疾令の逸文に「五位以上病患者。並奏聞遣レ醫爲レ療。仍量レ病給レ藥。致仕者亦准レ此。」とあるを參考すべし。

爲孤也。今説。依本文習耳。令无正文故也。一云。孤謂十四以下。何者十五以上成人父故也。爲是。老疾以上。並謂不能自存也。問。老疾者給侍。八十篤疾等者非也。然則「年」六十一爲老。殘疾癈疾篤病哉。答。村里或近親等。以私物供相養也。**者。令近親**釋云。有服親也。或云。三等以上。在跡記背。**收養。**釋云。收取也。或云。收養安賑一同。問。收養。答。以私物收養。在跡記背。**若無近親。付坊里安賑。**謂安賑猶言安養也。釋云。野王案。賑振救。音辛律反也。古記云。安賑謂安置謂之安也。供給謂之賑也。音思律反。玄曰。振賑憂貧。野王案。賑謂振救之。國語。勸恤民隱是也。**如在路病患。不能自勝者。當界郡司。收付村里安養。**謂勝者任也。當界郡司者。舉其一端。在京亦同。故唐令云。當界官司。其存養所須。官司量酌。不給官物也。釋云。案勝猶任也。音識金反。賦役令云。丁匠往來。如有重患。不堪勝致者。留付隨便郡里。供給飲食。待差發遣。若無粮食。即給公粮。是以案。付村里安養。不給官物。唐令。答。亦同。郡司者舉其一耳。古記云。自勝往也。至也。當界郡司收付坊里。養謂給公粮。又充供侍人。免雜徭也。跡云。郡司者。京皆同耳。朱云。問。令近親收養。付坊里安賑。付村里安養等。以何人物可養。答。遍取集福者物收養耳。不給義倉物者。凡義倉者。廣爲賑給飢民等者。穴云。「村里近親等。以私物供相養也。」問。此條。不能自存人等。皆私物給養之。未知。義倉物。以何時給貧窮者也。答。此謂尋常之事耳。但。臨時當給義倉之物。餘放唐令。唐令不給官物也。以私物令養耳者。皆共被給養耳。在路謂在京亦同付坊安養也。**仍加醫療。**穴云。醫療國醫療及典藥是。朱云。問。醫療官給何。答。諸國者有醫師也。但於京職何。卷。只爲五位以上。説仍疑耳。**并勘問所由。具注貫屬。**朱以。問勘問所由。未知。若勘問來由賻。「爲當」勘問本屬賻。或云。勘問因何事故。來於此處之類。在釋背。**患損之日。移送前所。**朱云。未知。副別(例)使送賻。若只此人付移文賻。答。此人附養發

謂狀移文途者。或云。不作移文。貞不同。穴云。移謂遞其身。令師說移者給移「者」書。令所在官司往耳。不安。古記云。移送前所。謂以移狀付萬者遞送供給達前所。

令集解卷十

〔舊本云文應元年九月九日見合本書、加首書畢、文字狼藉未直得之〕

權大納言藤　在判

本云注校了

建治二年三月卅日以正親町本書寫了

同後三月七日引合他本校合了

花山院

右以清家秀賢之本令寫之遂一校了

寬永十一年臘

中原職忠

萬治三庚子臘月初二令校合畢

右者河村先生之御本〔〕〔〕如本寫之校合者也

明和丁亥歲季秋

越智通邦〔印〕

同七年五月九日以京師本一校了

安永二年巳四月四日一會了

文政二年仲夏以水戶彰考館本比校了

塙檢校保己一

國遣行條

凡國守。每年一巡行屬郡。穴云。本令云。州判史。*每年一巡行屬縣。無守者。介巡行也。賊*盜律終條。有證文也。掾不合巡行也。但勸課田農。進降考者。跡云。無長官者。介合巡行。若*守介並闕。馳驛言上。馳驛令發進。依次官以上能不耳。（今師說。雖中下國而掾目者。不可巡行。可檢也。）朱云。若無守者。介巡行耳。不及掾以下。何者介職掌。云掌同守者。又賊盜律部內盜發條云。宜風。導俗。肅清所部者。長官之事〔也〕。故以長官爲首。即國守。郡領闕者。以次官當之故者。但於中下國。雖無守掾目不可巡行者。問。大宰帥可巡行攝九國二(三)島內不。或云。問。京職何。答。准此耳。（在跡記背。）讚案。國守每年一巡行屬郡者。若無守者。介合巡行。何者職掌同長官之(也カ)〔事〕。賊律部內有一人爲盜。及容止盜者。里長笞卌。三人加一等。郡內一人笞卅。四人加一等。國隨所管郡多少。通計爲罪。注云。以長官爲首。佐職爲從。疏云。但宜風導俗。肅清所部者長官之事。故以長官爲首。即國守郡領闕者。以次官當之故也。跡記云。長官次官並闕者。馳驛言〔言〕上馳驛發遣。即知掾以下不可巡行也。或云。長官次官并無者。掾可巡行也。何者考課令。進掾以上考故。劣。穴案。掾以下不合也。但依次官以上能不。爲昇降耳。私案。但中國守闕者。掾可巡行。何者不馳驛故也。（可檢。）屬郡者。附之郡也。案鬪律。所統屬官毆傷官長。注云。若省管寮。國管郡之類。又考課令當司長官考其屬官。又斷獄律。鞫獄官。囚徒伴在他所者條疏云。即擬移囚郡。各附隷別國者。即受囚之郡。中所屬〔管〕之國。轉牒送囚之國。依法。推效(劾)者。依此等文。國稱郡曰屬郡也。郡稱國曰所屬國。然則稱附之郡。於事無妨也。

觀風俗。釋云。風俗釋。見職員令。穴云。晉*書云。風俗謂百姓土風土俗剛柔緩*急是。其宜風。導俗。肅清所部長官之事故。加教風。而宜導彼風俗也。古記

〔州判史〕州刺史の誤ならむ。唐六典、卷三十に「上州刺史一人從三品」とあり。

〔賊盜律終條有證文也〕賊盜律終條に「以ㇾ官長一爲ㇾ首。佐職ㇾ爲ㇾ從。」とありて、判官、主典の事見えざるを證となせるなり。

〔若守介並闕馳驛言上馳驛發進〕公式令に「其國司。大上國介以上。中國掾以上並闕者。皆馳驛申二太政官一。」とあるを參考すべし。

〔晉書〕二十四史の一、晉より六朝に至る正史にして、百三十卷より

成る。唐の大宗の貞觀十八年、[illegible]
[illegible]
なり

云。觀風俗。謂令其識之也。朱云。風俗。或説言書文。或云。劉晝子文者。未明。或云。案無別。但於古
事異耳。○儀風俗。但禮記令風俗義同。行事異也。○案。觀風俗者。劉晝子風俗篇云。風氣也。俗習也。上
依衣其氣有緩急。聲有高下。謂之風也。人居此地。習以成性。謂之俗焉。越之東有輆沐之國。其人父死。則負
其大母而棄之。云鬼妻。不可與同居。其長子生。則解內而食。謂其宜弟。楚之南。有啖人之國。其親
戚死。則折其肉。而後埋其骨。謂之爲孝也。風有厚薄。俗有淳澆。明王之化。當移風。使之雅。易俗使
之正。是以上之所化下。亦謂之風焉。民習而行。亦謂之俗焉。古曰。雖土風土俗。有間焉
觀急是也。其合風。專俗。屬諸所部長官
之事故。如牧風牧俗。而官導護俗風也。

問百年。錄囚徒。理冤枉。

謂。問百年者。問其安否也。錄囚徒者。省錄之知
其情狀。○有冤滯與不也。理冤枉者。理治也。冤屈也。枉曲也。此言囚徒之外別被抑屈。假如。財物訴訟及良賤
相爭之類。判斷違理也。釋云。問百年。問存不并風俗。或云。問有德百年。不問無德百年。跡云。問百年謂
耆舊百年以上人等。問風俗古事等。穴云。問謂問安不也。稱百年。九十以下非也。令釋云。因觀風俗。問
百年。而能致刑得失。並問百姓患苦耳。跡記云。問百年謂耆舊百年以上人等。問風俗古事等。未知。
非宗盡耆不。古國意問存問之心耳。儀則令釋也。令私思此等同字也。不必因觀風俗耳。或云。問百年謂不
限男女貴賤。皆同。朱云。問百年謂女亦同者。未知。案人奴婢百年以上何。○案。問百年者。謂問存不并
風俗也。貞云。問有德百年不問凡百年也。案文不言男女可問。跡云。耆舊百年以上人。并問風俗古事也。跡云。錄囚
徒。謂當巡行之日。見囚散禁以上見囚。其已斷者未斷者。止其數多少耳。但前日已決放之者非也。或云。錄囚徒謂
省錄省釋。朱云。問。錄囚徒。未者。從去年春始。至今年春。決訖囚等。不勘其出入乎。答。可并見囚也。不可
勘其前事也。私案。可入其致刑得失也。先人答。然者穴云。因謂見囚。謂見囚散禁以上。其答罪亦
同。○謂朗光歟。私案。先決放了者。不並采錄。跡同也。仍只依下文勘失不耳。附云。謂獄訟案。傷務員不足。古記
云。錄囚徒謂國那人數。附部司云。○私案。錄囚徒者。當巡行之日。見囚散禁以上。○附寫狀。止其數耳。穴云。

〔漢官典職儀〕日本國見在書目錄、職官家に「漢官職十卷(漢應劭撰)」とあるもの之ならむ歟。

〔爲河伯娶婦女之類〕次に引ける史記の故事を指せるなり。

〔杖以上囚郡斷定送國獄令有文〕獄令に「凡犯レ罪、笞罪郡決之。杖罪以上、郡斷定送レ國、國覆審訖、徒杖罪、及流應二決杖一若應レ贖者、卽決配徵贖。」云々とあるを指せるなり。

管罪亦同。爲附考也。但先決放訖者。不注也。穴案。決放先訖者。合約下案政刑得失之句。釋云。理寃枉。理正也。治也。寃屈也。音於袁反。枉曲也。音紆往反。跡云。理寃枉謂見禁人幷私訟財物人等。理有屈滯者合治正也。朱云。使郎司推決者。穴云。寃枉訴訟財物是也。跡記云、理寃枉者。見禁人。幷私訟財物人等。理有屈滯者。合治正也。古記云。理寃枉。謂郎囚徒寃枉耳。*漢官典職儀云。理寃獄以六條。讃云。理寃枉者。理正也。治也。寃屈也。枉曲也。

詳察政刑得失。知百姓所患苦。謂政政教也。刑刑罰也。假如。差科賦役違法之類。是政失也。判斷獄訟乖理之類。是刑失也。

知百姓所患苦者。寃枉之外。有所患苦。假如。*爲河伯娶婦女之類。是患苦也。釋云。詳案政刑得失。政政教也。刑刑罰也。古記云。政刑謂政事謂之政也。刑罰謂之刑也。跡云。案政刑得失。謂勘覆前案。知得失耳。穴云。刑得失。謂笞罪郡決。杖以上郡斷定送國也。問。*杖以上囚郡斷定送國。獄令有文。未知。送身歟。爲當。送斷罪歟。若送身者。已送了者入何句矣。答。且可讀人見刑得失之句。何者已送國者「似」決。於。放了故也。可反。政刑者一事也。行政之得不。行「刑」之「得」失耳。附考謂獄訟繫爲郡領不是。但以本案及罪人辨狀。勘以知枉斷也。假雖官案。覆了。覆因使申覆義耳。釋云。知百姓所患苦。謂因觀風俗。問百年。而能察政刑得失。兼知百姓患耳。

西門豹停河伯女事

史記曰。西門豹爲鄴令。豹到鄴。會長老問民之所疾苦。長老曰。鄴三老廷掾常歲賦斂百姓。收取其錢數百萬。爲河伯取婦。當其時。巫行視小家好者云。是當爲伯婦。娉取洗沐之。如嫁女牀席。令女居其上。浮之河中。始浮行數十里乃沒。其人家有好女者。恐大巫祝爲河伯取之。以故多持女逃亡。後豹曰。至爲河伯取婦時願三老語之。至其時。豹往河上。呼河伯婦來曰。是女子不好。願大巫嫗爲入報河伯。得更求好女。後日送之。卽使人抱巫嫗投河中。豹顧曰。巫嫗不來。復欲廷掾與豪長一人趣之。皆叩頭血流地。後不敢言爲河伯取婦。豹卽發民。鑿渠十二。引灌民田。皆渠溉。至今皆得水利也。古記無別。讃記亦取此文。跡云。知百姓患苦。謂假令對百年人。問風俗。知百姓所苦。朱云。賦斂百姓物等者。或非問百年。而外問知人所苦之政等耳。穴云。患苦謂寃枉之外。觸類多端當時差科等之類也。跡記云。知百姓患者。對百年人而問風俗。知百姓患苦。或非問百年。而

〔釋名〕釋天、釋地、釋山、釋水等の二十七篇に分ち、各其の編に屬する物名を訓釋せる書にして、後漢の劉熙の撰と傳へらる。日本國見在書目録、雜家に「釋名八卷、劉熙撰」とあるもの即ち之なり。

外聞知人所苦之政等耳。朱云。評察政刑得失知百姓所患苦者。謂政政教也。刑刑罰也。古記云。政謂政事也。謂觀風俗。問百年。而能察政刑得失。兼知百姓患苦耳。古記云。覆勘前案。及依罪人辨狀。而知政刑得失及問百年。而觀風俗。而知百姓患苦耳。假如。雖官案覆了。覆因使吏申覆表耳。或云。問百年謂是問安否也。知百姓患苦者。問百年之外。問知民所苦政耳。問。上理冤枉與此知所患苦何別。答。上云冤枉者。枉法枉罰及訴訟財物等被抑屈者。合理正之類。此云患苦者。冤枉之外。觸類可存。假令。當時差使之類。於民爲愁耳。史記云云。在令釋仍略。**敦喩五教。勸務農功。**謂五教者五常之教。則父義。母慈。兄友。弟恭。子孝是也。勸務農功者。文稱農功。政知。巡行必以春時。史傳所謂。大率行作。勸人農桑是也。釋云。五教尚書舜典云。愼徽五典克從。孔安國注云。徽美也。五典五常之教。父義。母慈。兄友。弟恭。子孝也。舜愼美。篤行斯道。擧八元。使布之于四方。五教能從。無違命也。古記云。別或云。喩五教。謂不必每人語喩。立制。垂法。人自學耳。讃云。敦喩五教者。謂孔安國注。尚書曰。五常之教。父義。母慈。兄友。弟恭。子孝也。五教與五常之教文異。義同。論語皇侃疏云。五常謂仁義禮智信也。就五行論人稟此五氣而生。則備有仁義禮智信也。釋名曰。德者得也。得事宜也。人有博愛人德。謂之仁。有嚴斷之德爲義。有明辨尊卑敬讓之德。爲禮。有言不虛妄之德。爲信。有照了之德。爲智。是五常之道。不可變革也。朱云。農功一事也。讃云。勸務農功者。謂令勸勤百姓能農廢桑耳。釋云。以春時巡行。爲勸務農功故也。跡云。巡行時不見文。然爲催農。以春時巡行耳。穴云。巡行以春時。晋書之文。稱春時也。仍知去年荒熟。兼知當年豪業耳。但知荒熟就考。臨檢田之得損。田知耳。私案。依去年荒熟者。去年考界降了之。更不可追求。然能。只論巡行當時耳。下説了。讃云。問。何時可巡行。答。只春時可巡行。何者。令勸務農功故也。穴記云。只春時可巡行事。見晋書也。**部内有好學篤道。孝悌忠信。**謂好學者。秀才明經之類。篤道者。兼行孝悌仁義等道。何者。摠而言之。一謂之道。別而名之。即謂之孝悌仁義禮忠信等。然則孝悌仁義。即人之人之爲道。而更下文事孝悌忠信者。譬一

〔好學謂通二一經以上一者〕學令に「凡學生、通二二經以上一、求二出仕一者、聽二舉送一。」とあるによりて生じたる說なるべし。

〔此人依律名貢人哉〕職制律に「凡貢舉非二其人一、及應レ貢舉一而不レ貢舉一者。一人杖六十。二人加二一等一。罪止二徒一年一」云々とあり。

一存(在)身之謂矣。凡此四者。人之高行。故舉爲稱首也。釋云。好*學謂通二一經以上一者。篤道謂通二一經者。心篤聖道。耽味。忘疲者也。雖曰好學。其志頑嚚。縱有大才何用薦舉。故好學篤道。必合相須。或云。孝悌仁義忠信摠名稱道。然則不必好道也。何者選敍令。秀才明經等被孝悌表顯者。更加階敍故。跡云。好學謂通二一經以上人。方正清脩。而非學生。而發聞鄕閭。但學生依選敍令舉耳。篤道謂雖不通經。而仁義禮智信之道具。但(但)自孝以下雖非具五孝(教カ)。而一名顯聞者。亦合進。穴云。篤道謂身存五教人也。抑合問經家也。篤道謂存行五教是。但此人不必學習所得。假顏淵自然不待藉而悟人也。朱云。問。好學篤道必相須不。或云。不相須也。好學謂通二一經以上人之方正清脩。有清廉德行。何者職制律云。非其人謂德行乖僻不如舉狀者。又注云。若德行無聞。妄相推薦者。一人杖六十故。又選敍令云。其秀才明經得上中以上有蔭及孝悌被表顯者。加本蔭本第一階敍者。既別更加階敍也。明知不可相須者何。答。然也。又問。稱篤道者何色。或云。篤道謂篤於五常道也。孝悌仁義忠信六。摠稱道也。而文更稱孝悌忠信者。雖合一色。爲舉所云。然則事委曲之耳者何。答然也。問。未知。通二一經以上。試知實學哉何。答。試得第時乃舉。又問。此*人依律名貢人哉。先云。此亦同可稱貢人者。古記云。好學篤道。謂通二一經以上者。行異於他人。假令。螢髮積雪穿壁刺股之類。論語。哀公問弟子孰爲好學。孔子對曰。有顏回者好學。不遷怒。不貳過。不幸短命死矣。今也則亡、未聞好學者也。子夏曰。日知其所亡。月無忘其所能。可謂好學也已矣。孔安國曰。日知其所未聞也。子夏曰。博學而篤志。孔安國曰。廣學而厚識之也。一云。好學謂通二一經以上者。論語。子曰。君子食無求飽。居無求安。敏於事而愼於言。就有道而正焉。可謂好學也已矣。孔安國曰。敏疾也。有道有道「德」者。正謂問事是非也。篤道謂上云。五教是也。讃案。好學篤道者。好學謂通二一經以上者。篤道謂通二一經者。心篤聖道。耽味。忘疲者也。雖曰好學。其志頑嚚縱。有大才何用薦舉。故奴學篤道必須相須。或云。孝悌仁義禮忠信摠名稱道。然則篤於孝悌仁義之道者也。與好學不相須。是故選敍令云。秀才明經等。被孝悌表顯者。更加本蔭本第一階也。孝經注。孔安國曰。摠而言之一謂之道。別而名之。則謂之孝悌仁義禮忠信也。竝 古記好學。謂通二一經以

上之人方中品者。名行相副也。爲道冒雖不通經。而仁義禮智信之道。自備其身者也。其孝悌以下雖非備九教。但一名顯聞者合舉也。或說。好學者。雖不篤道。而其精方正清脩。名行相副者。即可舉也。何者孝悌忠信人等。豈無好學。而篤學進之。今在左教人。依無好學。不舉進者。甚不例故也。穴云。案篤道。謂自存行左教人也。不必學而得。假如。顏淵不待學而悟之類。私案。相須之說多難也。穴云。孝悌忠信。人之高行故。舉爲稱首。若有履行仁義終始不渝。如此之徒亦宜舉進。跡云。有仁義名聞之者。此孝悌。亦合進也。穴云。跡記云。聞仁義名者。此孝悌亦合進。可反。今師不依。後定。子事君曰忠。孝經曰。忠臣下高行是。問。孝悌忠信唯有一事者。良舉哉。爲當。孝與悌相須。又忠與信相須舉歟。答。若有顯其中一一在者良耳。跡記云。孝悌以下二名聞。乃可舉。未知是非。師不依。跡云。師同之。古記云。孝悌事父母謂之孝。事兄謂之悌也。論語曰。孝悌者。其爲仁之本歟。先能事父兄。然後仁可成也。弟子入則孝。出則悌。忠信。孝經。子曰。君子事親孝。故忠可移於君。注云。能孝於親。則必能忠於君。求忠臣。必於孝子之門也。論語。曾子曰。吾日三省吾身。爲人謀而不忠乎。與朋友交而不信乎。傳不習乎。子夏曰。與朋友交。言而有信者。行之本。行者人之本也。人非行無以成。行非信無以立。故行於人。猶車之須轄。信之於行。猶轄之待轄行也。子曰。十室之邑。必有忠信如丘者焉。不如丘之好學者也。子張問曰。令尹子文。三仕爲令尹。無喜色。三已之無慍色。舊令尹之政。必以告新令尹。何如。子曰。忠矣。未知。焉得仁也。此謂之信也。釋云。孝悌忠信。謂孝悌忠信人之高行。故舉。孝悌爲稱首也。孝悌者。如曾參之子也。假使瓜園草穢。仍鋤瓜蔓。根斷。父持大杖打。終不走。後入室彈琴也。此若殺子者。安使殺子。陷不義也。此不在篤孝也。舜受小杖。大杖終走。是爲孝也。若有履行仁義。終始不渝。如此之徒。亦宜舉進也。前問。古記云。論語。子夏曰。與朋友交。言有信是也。

清白異行。謂不濁者爲清。不穢者爲白。假如。曾參辭費。魯君致邑。固辭不受之類。此行過厚。異於人倫。故云。異行也。釋云。不濁爲清。不穢爲白。假如。曾參辭衣。魯君致邑。固辭不受之類。此行過厚。異於人倫。故云。異行也。或云。後漢書曰。卓茂字子康。南陽宛人也。習詩禮。性寬仁。人皆愛慕。稱爲長者。嘗出行。有人認其

〔又考課令殊功異行者〕
考課令に「凡毎年國司、得二郡司政一、有二殊功異行一、及祥瑞灾蝗、戸口調役增減、當界豐儉、盜賊多少、並錄送レ省。」とあり。

馬。茂知其謬黠解與之。輓車而去。他日馬主得亡馬詣。茂叩頭謝之。茂後遷密令。視人如子。舉善而教。口無
惡言。平常時天下大蝗。河南廿餘部皆被其災。獨不入密界。是異行也。古記無別。古記亦取此文。＊又考課令。殊功異行者。
則知。異行爲一色也。古記云。清白。除廣晉記曰。中宗令曰。太常賀循氷清玉。潔行爲俗表。孤近、脊、遣其
廬。屋宇服物周身而已。賜循牀褥錢廿萬。論語曰。翟子栻齊君。陳文子馬十乘。棄而違之。何如。子曰。清矣。
異行。後漢書云云。見釋文。令諸家之記文。異行者。承上諸事者。既爲不通。又考課 仕、令異行文、在彼此不合
異說。跡云。清白與異行二事也。朱云。異行者。考課令所說異行也。然則令釋後說耳。穴云。異行謂考課令。
令釋。卓茂等密行善避蝗之類。所謂異行也。不依此條。令釋。曾參弊衣耕魯。魯君致邑。固辭不受之類。此行
過厚異於人倫。故云。異行之說。讃案。清白異行者不濁云云。或云。後漢書云云。此說爲合。穴云。問。孝悌忠信
清白異行總幾事。答。惣六事。朱云。問。孝悌忠信清白異行惣幾事。或云。孝悌一。忠信一也。事君有忠。交
朋友有信者何。答。事色然也。但待二色舉耳歟。抑可見本文。又問。在村里何知有此行哉。讃案。問好學以
下。異行以上幾事。答。於好學篤道相待之說七事也。劣。於不相須之說八事也。長。好學一。篤道一。孝一。
悌一。忠一。信一。清白一。異行一也。跡云。孝悌以下二名顯聞。乃舉進也。就此云六事也。私案。孝悌忠信總
四事也。但一一事相須可貢舉耳。問。孝悌忠「信」檢其實一也。舉孝一色。自知有忠。而
何累稱孝悌忠信邪。又在村里而何知有忠乎。答。子細舉事色耳。又待發舉得忠名耳。

發聞於鄉閭者。

朱云。鄉閭者猶鄉也。戸令、國與稱鄉義別者。穴云。田令云。國郡堺內所部受田。悉足者爲寬鄉。不足
者爲狹鄉。又戸令云。戸居狹鄉。有樂遷就寬。不出國界。當國處分。若出國界者申官待報者。然則鄉
者國及郡耳。閭者猶里也。讃云。發聞於鄉閭者。謂發見也。依周禮。萬二千五百家爲鄉。五家爲比。五比爲閭
者。於此令。國鄉。郡ヵ、爲鄉。何者。田令云。狹鄉田不足者聽寬鄉遙受。又云。國郡堺內所部受田悉足者爲
寬鄉。不足者爲狹鄉。戸令云。戸居狹鄉。有樂遷就寬。不出國堺。當國處分。若出國堺者申官待報者。案此令
用鄉字。通國郡故也。但儀制令。集鄉之老者。又厩牧令。軍團官馬。本主欲於鄉里側近十里內調習者聽者。

〔依律〕德行[illegible]不知擧狀者、職制律、[illegible]ノ本注ナリ。

〔賦役令與此條別何〕賦役令ニ「凡孝子、順孫、義夫、節婦、志行聞於國郡者、申太政官奏聞、表其門閭、同籍悉免課役」[illegible]者、[illegible]條ト本條トノ區別ヲ問ヘルナリ。

〔先人云〕[illegible]

同ジ[illegible]。

案之。閭中亦可稱也。相申國閭。何者。賦役令。孝子順孫等志行聞於國郡者。申太政官奏聞。表其門閭者故。**擧而進之**。謂擧遂其身。非唯申其事狀而已。何者。依律。德行乖僻。不如擧狀者。即知。前有貞[?]行被貢擧者也。釋云。賦役令亦有此事。彼爲申奏并免課役。此爲貢其身也。但其身者。與學生共隨朝集使赴京耳。跡云。擧而進之。謂猶進言此進人正身。問。賦役令與此條別何。答。此條附朝集使。申正身。穴云。但細行事賦令可使習耳。節婦助兩條。申上名而已也。先云。[illegible]用故也。朱云。順孫者。比孝子。可擧其正身者。問。孝悌者三條。爲下條。免課役擧。未知。滿白異行等色爲何擧哉。先人云。武才無試叙之法也。雖然猶擧。然則忠信清白異行猶擧耳。叙位任官不見文。臨時處分耳者。又或云。有並遠進擬人也。故此任官者。未知。凡擧武才依何文可知。若依職制律初條知賊。爲當選叙令。帳內資人才堪文武貢人者。亦擬貢擧者。依此知賊何。穴云。擧而進。謂見進其身也。依考課令。放貢人隨朝集使赴集耳。問。此條稱孝子。與賦役令兩條何別。答。賦役令爲課役生文。此條爲擧身生文。但義夫節婦進而無用。不合擧進止。依彼條。申官免課役耳。順孫一同孝子。仍擧耳。今依之。古記云。擧而進之。謂與學生共。隨朝集使赴集耳。問。考課令云。貢人皆本部長官貢送太政官。其人隨朝集使赴集。其大學擧人。具狀申太政官。與諸國貢人同試者。未知。與此條人何別。答。彼令爲貢學生立文。此條除學生外孝悌聞者耳。問。賦役令云。孝子順孫義夫節婦志行聞於國郡者。申太政官奏聞。表其門閭。同籍悉免課役。今此云。孝悌忠信清白異行等。擧而進之。未知。二條之別。答。彼令爲免課役。旌表門閭時言上奏聞。不進其身也。斯令爲貢其身立文耳。問。孝悌忠信清白異行等爲何擧哉。答。武才雖無試叙之法。而猶擧之。孝悌以下人其行勝於凡庶。故擧耳。穴案。順孫同孝子擧也。義夫節婦不擧也。擧而無益故也。但依賦役令言上。而免課役耳。**有不孝悌悖禮。亂常不率法令。**謂悖逆也。亂常者。紊亂五常之敎也。不率法令者。率循也。不遵律令格式也。釋云。悖逆也。見鄭玄禮記注。音薄背反。亂常謂紊亂五常之敎者也。古記云。悖禮。孝經云。子曰。不愛其親而愛他人者。謂之悖德。不敬其親。而敬他人。謂之悖禮。注

〔悖禮者賤避貴之類〕儀制令に「凡行路巷街、賤避レ貴。少避レ老。輕避レ重。」とあるに據れるなり。

〔廣雅〕日本國見在書目錄、論語家に「廣雅三卷。(張揖撰)」と見えたり。

云。盡愛敬之道。以事其親。然後施之於人。孝之本也。違是道。則悖亂德禮。亂常謂上云。五常之敎反亂也。
跡云。不孝悌而悖禮。謂如孝經解。又不孝悌而亂常。謂亂五常敎耳。朱云。悖禮亂常其別何。或云。其大旨一
也。但細言少異耳。何者。亂君臣貴賤之禮。稱悖禮也。亂常謂亂五常之敎者何。答。然也。或云。問。悖禮亂
常其別何。答。悖禮者。*賤避貴之類。但未明。亂常者。亂五常敎。在跡記背。穴云。悖禮亂常一事。但子細言者少
別也。父不義。母不慈。兄不友。弟不恭。子不孝。是亂常耳。是摠云。不孝悌也。或云。不孝悌悖禮亂常總一
事。何者。無孝悌者自然悖禮。亂常故。在穴記背。讃案。不孝悌者。謂違五常之敎。是總曰不孝悌也。悖禮亂常
者。謂不孝悌而亂五常之敎也。父不義。母不慈。兄不友。弟不恭。子不孝是也。亂常耳。悖禮亂常一事也。悖者逆也。
私案。悖禮者。謂違進退敬讓。及事死事生之禮也。亂常者謂違五常之敎也。〔也〕禮敎雖一。分爲別名耳。
抑可問經家也。古答云。孝經。所謂不愛其親。而愛他人。及不敬其親。而敬他人。謂之悖禮也。違五常敎。謂之亂常
也。跡同之也。長。釋云。不率法令。爾雅。率循也。音所律反。穴云。不率法令一事。然則不孝悌而悖禮亂
常。不率法令者。總二事也。跡云。不率法令。亦是一事也。朱云。問。不率法令者。一端何。或云。法者理也。敎
理則名令也。凡違律令耳。格式亦同。假。陵戸官戸家人公私奴婢。皆當色爲婚者。而異色相婚者。紀改之
類者何。答。然者。讃云。不率法令者。
猶不從法也。此亦一事。*廣雅曰。率循也。

者。紀而繩之。

釋云。紀正也。音居黝反。廣雅。繩貞也。音食
陵反。跡云。紀而繩之。謂加罰敎正。而成其
善人。或云。紀其非禮。使適繩直之道也。在釋背。讃云。紀而繩
之者紀正也。繩直也。跡記云。能加罰敎正。而加赴善也。

其郡境內。田疇闢。

釋云。杜預注
左傳曰。疇畔
爲疇。律云。田疇類。又曰。疇地畔也。音直由反。闢開也。或云。疇類者久留地畔者畔。在釋背。古記云。田疇。謂
田之疇類。或云。疇地畔。說文。畔田堺也。一云。種稻謂之田。種麻謂之疇也。劉炫等云。田中之高地種
菽豆之地。讃云。田疇闢者。猶言田也。戸律云。部內田疇荒蕪者。以十分論一分。管卅。注云。稱疇者。言
田之疇類。或云。疇。地畔是也。杜預注左傳曰。并畔爲疇也。劉炫等云。田中之高地。稱菽豆之地也。

〔作六〕〔[illegible]〕

産業脩。朱云、田疇闢、産業脩、只春時巡行見種苗子等、可知者、未明、又尺云、去年所作産業、只今年春巡行可知耳者、重云、問、田疇闢、與産業脩何別、答、産業者是貨殖之謂、假、雖田疇闢、而可有貨殖不、不脩之事數云教無耳。**禮教設** 朱云、未知、禮教設何可知、若預見其部内人之行知歟、先云、見人儀禮可知者何、讃云、禮教者、上所謂五常之教耳、私案、禮者事先及生禮也、教者五常之教耳、後案、卽上古晉者、能愛已親、能敬已民、謂之設禮也、能行五常教、謂之設教也。**禁令行** 謂禁制及號令之事也、古記云、禁令法一種、謂律令格式耳、跡云、禁令行謂立禁制、幷示教令也、朱云、問、禮教設、禁令行者幾事、或云、三事者何、答、隨上文、讃定可定事數、又問、行事何、或云、上文所云之禮教、法令卽押當行者何、讃案、禁令者上所謂法令也、跡記云、能立禁制、幷能示教令也、長、

者、爲郡領之能。**入其境**。**人窮匱** 釋云、鄭玄注禮記曰、匱亦乏也、音逵位反、古記、取此文、或云、問、人窮匱者人之云散無歟、若身貧窮歟何而識也、朱云、人窮匱者、身之貧乏耳、**農事荒** 讃云、人窮匱農事荒者、謂對田疇闢、産業修二句之辭耳、**姧盜起** 古記云、姧謂詐意實、穴云、姧盜一事、律云、故燒人舍屋、而盜者、計所燒減價、併贓以強盜論、注云、賊人姧詐千端萬緒之志耳、或云、姧盜一事、姧字爲盜又姧女繁者、同約姧字也、在次、或云、問、姧盜、答、姧者欺也、然則姧盜一耳、但姧女者約上文耳、穴答、姧盜一也、問姧盜起者不得財、何、行、在跡記、讃云、姧盜者、猶云盜也、非姧與盜二事、賊盜律、故燒人舍屋、及積聚之物、而盜者、計所燒減價、併贓以強盜論、注云、賊人姧詐千端萬緒之志耳、或云、姧者姧詐也、古答同之、**獄**

訟繁 謂爭罪曰獄、爭財曰訟、釋云、鄭玄注周禮曰、爭罪曰獄、爭財曰訟、讃云、同之、古記云、獄訟上音廬鐘以下、下音似從反、周禮、凡萬民有獄訟者、聽而斷之、鄭玄曰、爭罪曰獄、爭財曰訟、周易、不親、音二言、未見能見其過、而内自訟者也、包氏曰、訟猶責也、左氏傳、訟因公子、晉杜預曰、訟猶言之也、說文爭也、一曰歌訟、野王案、歌頌之訟、今並爲字在頁部也、繁者、謂比於他郡爲多、跡云、獄訟繁、謂斷決難無失、而

〔顏面〕顏面は面柔なりと僧尼令集解に見えたり。

比於他郡多者。依不肅清所部降考耳。穴云。獄訟繁。謂與肅清所部之郡。相比知耳。假。禁令行者。爲郡領之能。比彼郡此郡繁耳。凡此條。皆摠云巡行曰事也。尋常事。考課令云。訖也。讃云。獄訟繁。謂雖斷決無失。而比他郡肅清郡〔也〕。特繁耳。假上文云。禁令行者。爲郡領之能者。比如斯郡知其繁耳。**者。爲郡領之不。**朱云。爲郡領之能不。謂少領以上也。主政以下不依能不。〔主〕昇貶考也。依罪貶考也。郡領者。依能不昇降。亦依罪貶考者。未知。主政以下不預能不理何。或云。考課令云。國郡司撫育有方。戸口增益者。各准見戸。爲十分論加一分。國郡司各進考一等者。注云。據及少領以上者。然則少領以上預功例。依此文可知者何。答。然也。但而依事色可稱也。假。部内奸盜繁者。依賊盜律終條。主帳以上皆可坐故者。或云。戸令郡領以下官人數加巡察者。案只稱郡領者。廣郡司皆約者何。更稱以下字。是以知。只稱郡領者。少領以上乎。在跡記背。穴云。問。能不二併者何。答。二注而至考時定耳。讃云。問。「文」云。「爲郡領之能。」爲郡領之不者。未知。主政以下有依能不昇降哉。答。私案。主政以下不預此條能不也。穴云。無依能不昇降。但有依罪降耳。**若郡司**謂主帳以上也。上〔主〕論少領以上之能不。此說。主帳已上之善惡也。朱云。郡司謂主帳以上也。何者選敍令云。郡司。取性識清廉堪時務者、爲大領少領。强幹聰敏工書計者。爲主政主帳。又條云。敍郡司軍團。皆以十考爲限。又考課令云。國司。每年量郡司行能功過。立四等考第者。此并主帳以上。皆約故。又田令云。郡司職分田。大領六町。少領四町。主政主帳各二町者。未明。或云。郡司謂主帳以上。在跡記背。**在官公廉。**釋云。公平也。廉清也。穴云。公廉者。韓非「子」曰。背私爲公也。跡云。私案。公廉謂差仰人人在公平。臨財清廉也。讃云。公廉謂公平廉也。跡云。案所行。每事在公。臧財亦清廉也。韓非曰。背私爲公也。**不及私計。**跡云。謂無心欲達身聞名。而有公平之心也。讃云。不及私計。謂不緣私事也。假如。無心欲達身求名之類也。**正色直節。**謂正顏色。直節操也。釋別无。古記云。正色直節。謂公事無顏*面。直正處分不求名譽也。直節節亦直耳。每事無違。謂之節也。假令。歌儛不失。是亦得節耳。一云。正色者不顏

之限。今此文稱不可待至考者。隨事糺推故者。或云。侵害謂笞罪以上。何者。斷獄律云。在官侵奪私圖利者。一等以下之罪者。又賦役令云。事切有害者。不在此例者。注云。切害謂殺人賊盜逃亡。若強奪良人。及有急速之類者。又名例共犯條云。侵謂盜竊財物者。未知。此等稱侵害哉何。貞不同。但或云。其古令。令々時事者。傳聞稍同。或云。問。侵害。答。官當已上。朱云。侵害謂依侵害之罪者。笞罪以上也。不依侵害之罪者。官當以上。又侵害者。此貞記。不合。私亦不同也。在跡記背。穴云。侵害謂笞以上是。又上文。司責來名習替先論之。事了乃論罪耳。知非謂上文見罪耳。假。考課令云。經恩降不在一公私負殿附帳限。注又有徒以上。准殿降之文心。或云。官當以上。兩說未定。跡記云。侵害者云。當時推決耳。案之。說推決之。然則真上皆以上之說同也。朱云。卽事有侵害。謂害政及抑屈之類。當時可推決之色。皆是也。穴案。侵害謂犯笞以上皆是。何者案文。先論司責來名者之等。注考狀褒貶之事。之後。乃論罪事故也。但非上文。今無罪。假考課令云。經恩降。公負殿不在附限。注云。本犯私罪斷徒以上。准殿降之心耳。古記云。稱官當以上者非也。又云。古記讀侵爲人犯害附釋。及跡云。害謂害者。是卽同意也。也。古可檢。古答。侵害者害政抑屈。私案。上文所謂錄囚徒。及政績能不。是巡者惡者。并是去年八月以後。巡行日以前。見囚及能不善惡也。其巡行以後。七月卅日以前之事。且候考課令耳。（以下十字。異本。六云。可勘也。）**不可待至考者隨事糺推。**

國郡司條

凡國郡司。須向所部檢校者。不得受百姓迎送。妨廢產業。及受供給。謂國司向所部有所檢校。郡司里長及百姓等。不得輙奉僮迎送。至於境上。皆於當所祗承而過之。國郡司入部。里長百姓亦依此例也。供給者。百姓供給也。依律。受供饋者勿論。今此令。謂向所部。將隨身僮。不得輙受供給也。釋云。不得受百姓迎送。謂國司巡所部者。郡司檢當部院。郡司巡部內者。里長檢當里。不得向境也。受供給謂百姓供給也。職制律云。受供饋者勿論者。今此條。爲向

〔校補〕下に引用する職制律なし。

〔郡院〕郡衙と云ふに同じ。郡司の政務を執る所なり。

〔案職制律監臨之官强取猪鹿之類者依强取監臨財物法乞取者坐贓論受供饋者勿論贊亦准此〕これ大寶職制律の條文なり。養老律と異同あるを見るべし。

〔但陵戸不聽若與良人爲夫妻所生男女者不限知情不知情皆從陵戸〕下條に「凡官戸陵戸家人公私奴婢、與㆓良人㆒爲㆓夫妻㆒所㆑生男女、不

所部檢校禁制故。雖不至煩。不可受。或云、因受迎送。而煩擾百姓。妨廢產業、在釋背。跡云。不得受謂全不聽受。但不依檢校供給者。依職制律。不在禁之限也。朱云。受供給。未知、受魚宍之類何。或云。不制。先云。供給者此尤食物也、不可受者。私「因」同。問。不檢校。未知何。或云。問。上條與此條行事何別。答。上條長官每年行事。此條。臨時不限事之大小。有可檢校耳。在穴記。或云。問。不妨廢產業。有受迎送者何。答。有受迎送者何。不妨哉。穴答。郡司可迎。百姓不迎。又鳥魚之類。受無妨。未明。在跡記背。穴云。具同先私記。跡云。非依檢校。供給者。依職制律。不禁限。令釋云。國司巡者。郡司候當郡院*。郡司巡者。里長候當里。不得向境。又受供饋者。依律勿論。但此條。爲因檢校不許耳。穴太云。文稱百姓。然則郡司里長向境者。不在禁限。師不依此說耳。古記云。須向所部檢校者。謂預雜政事巡行也。不得受百姓迎送。謂國司巡部內。郡司待當郡院。郡司巡部內。里長待當里內。不得率百姓向境待及送過界。但從境始須檢校者。隨便迎送耳。公使亦同也。受給謂受供給也。*案職制律。監臨之官。强取猪鹿之類者。依强取監臨財物法。乞取者坐贓論。受供饋者勿論。贊亦准此。字書云。供饋者謂備食也。依律。雖受聽。依令以供給。經日時宴樂。百姓不合致令煩擾。

致令煩擾。

當色爲婚條

凡陵戸。官戸。家人。公私奴婢。皆當色爲婚。謂凡此五色。相當爲婚。卽異色相娶者。律無罪名。幷當違令。既乖本色。亦合正之。若異色相娶。所生男女。卽知情者。自合從重。其官戸。陵戸。家人。是此三色者。官戸爲輕。二色爲重。亦公賤爲輕。私賤爲重。但陵戸家人相婚所生者。從母爲定也。釋云。當色爲婚。官戸家人相通嫁娶。是謂當色。公私奴婢亦同也。一云。雜戸與良人爲婚聽*。但陵戸不聽。若與良人爲夫妻。所生男女者。不限知情不知情。皆從陵戸。爲不在奴婢故。但與家人奴婢。爲夫妻所生者。與良人同。一云。良人所生男女者。從父爲姓。陵戸所生男女者。從父母皆與奴婢同。卽知。陵戸與良人爲夫妻。所生男女者。知情者從重。不知情者從輕。凡諸條非當色爲婚。所生男女者。知情從重。不知情從輕。此說爲長。或云。陵戸與官戸婚。所

知情者從（其）」と見え、されば、この種の婚姻は法意にあらず。これ恐らく或る時代に於ける行事を舉げたるものならむ。本居內遠の賤者考は、この說によりて陵戶を中古賤民の最下級に置けり。

〔不論公私〕「生子者入官乎入私乎若不論公私從母乎何答然者」の問に對して然りと答へたるものと解すべし。所生の男女は、公私を論ぜず、母に從ひて所屬を定むべきものなればなり。

〔古記云本省謂宮內省〕古記には、本省は宮內省とありしを知るべし。

生男女從官戶也。一云、從母也。古記云、問、官戶家人相交接得不。答、不得。若所生男女者、知情者從軍、不知情者從輕。其官戶至七十六以上、放爲良故。但官戶家人、與公私奴婢爲夫妻所生者、知情者從賤、不知情者並從輕。其公私奴婢相爲婚者得也。一云、官戶家人、相爲婚亦得也。所生者從母耳。問、雜戶陵戶如何爲婚。答、雜戶與良人爲婚違。但陵戶不違。若與良人爲夫妻、所生男女者、不限知情不知情、皆從陵戶。爲不在奴婢限。但官戶家人奴婢、爲夫妻所生者、與良人同耳。一云、良人所生男女者、皆從父爲雜。陵戶所生男女者、從父從母。皆與奴婢同。即知、陵戶與良人爲夫妻、所生男女者、知情者從重、不知情者從輕。凡諸條不在當色。爲婚所生男女者、知情從重、不知情從輕耳。朱云、問、雜戶與陵戶爲婚聽不。答、不聽。雜戶與良人聽婚故者。又云、其奴婢等相婚、生子者入官乎、入私乎、若不論公私、從母乎何。答、然者。穴云、雜戶與良人相通爲婚所生男女、一如良人。假雜戶娶良人爲妻者、良人娶雜戶爲妻者也。與自達本宗爲異也。餘敎先私記也。令釋云、官戶家人相通爲婚、公私家人奴婢亦同得不。如何。又陵戶與官戶得相婚哉。皆、師同令釋。但陵戶與官戶者不異官。當色、色爲異色故。但其所生子者就下條案耳。

造官戶籍條

凡官戶奴婢。每年正月。本司色別。各造籍二通。謂本司者官奴司也。古記云、本司謂宮內省。朱云、色別各造籍。謂一通者、未知、官戶與奴婢爲色別歟。答、然。問、雜戶陵戶官戶奴婢等、更不造計帳何。答、官戶奴婢更不得造計帳也。但雜戶陵戶者可作計帳。知良人爲知人數生、答、死亡者、又註課不課者、未明何。穴云、問、官戶奴婢有作計帳乎。答、不可有。每年造籍故。又不可責手實、不定戶主之故。可問他人。問、雜戶陵戶官戶奴婢等、有得情人乎。答、給侍之文、先爲良人、其雜戶以下不見文。但注丁者疾等、一如良人也。師同之也。一通見下條從良條。今釋上條云。」一通送太政官。跡云、送太政官謂、各送民部。穴云、送太政官謂官、爲給衣糧等。但臨班田日、爲一通送民部耳。一跡云、送太政官者、即領下

民部。爲給口分田也。未知。依誰爲實。答。以師說爲長。(以上卅字。一本作細注。)問。何司寫送哉。答。本司寫耳。

一通留本司。有工能者。色別具注。謂工者工匠也。能者書算之類也。古記云。有工能者。工作書算醫術等之類。穴云。工能謂木工鍛冶。書算驗異者。卽注附其籍耳。或云。問。色別者。人之色歟。爲當工能色歟。答。人之色。工能之色竝約。又問。爲何注其工能。答。臨時可有所用耳。在穴記。或云。上色者。奴婢官戶之當色。此色者。才能之品色[也]。以下工能之屬。在釋背。朱云。有工能者色別具注者。未知。此才之色別歟。先云。此亦官戶與奴婢色別者。同。私問。注附籍乎。若注別卷歟。答。注附籍者。

良人家人條

凡良人。及家人。被壓略。謂壓者。放家人奴婢爲良。還壓爲賤者也。略者。不和之稱。卽略良人爲奴婢之類也。釋云。壓鎭也。音烏狎反。謂放家人奴婢爲良。還壓爲賤也。略者强取爲略也。音離灼反。謂略良人爲奴婢也。古記云。壓謂放家人奴婢爲良。還壓爲賤也。略謂略良人爲奴婢也。穴云。其和誘和同相賣者。科逃亡罪。然則所生男女依下條從賤也。賊律疏云。受誘律無正文者。竝合從坐科罪。若逃亡罪者。依例當條雖有名所爲重者自從重是。令釋云。壓者放家人奴婢爲良。還壓爲賤。略者略良人爲奴婢者。未知。已放從良了。而何故終文。所生男女從家人。若不得令心歟。答。以家人壓爲奴婢耳。故其所生子還從家人。私思。令釋所說不合令文。朱云。問。良人者。未知。雜戶陵戶何。此亦從本色耳歟。凡於雜戶陵戶。稱壓稱略何。答。一端擧良人。餘色亦從本色。有除良人外。雜戶以下可稱壓者。

充賤。跡云。成奴婢也。配奴婢。釋云。配匹也。見爾雅。音普佩反。跡云。配配偶也。穴云。配謂不知情知情皆是。古記云。配謂配隷家人奴婢色。因駈使之。而生男女者。後訴得免。所生男女。竝從良人及家人。古記云。自相爲所生男女者。并從良人。他

「和銅四年十月廿三日格云」この格、續紀及び三代格に見えず。然れども類聚國史、卷二十、斷獄部に見ゆる寶龜十一年十一月二日の官符に「和銅四年格云、以縱盜者、配官奴婢、贓物沒官者」とあるも、この格の事か。又この格の事、續日本紀、卷五の和銅四年の條にも見え、律令考中に見えたり。

「監臨官以盜良人、賣作奴婢也」の六字衍か。

家人奴婢爲夫妻所生同。問。此云心。答。良人家人奴婢配奴婢。爲夫妻所生。並從良之類。問。文婢所生子。未知。孫亦稱若爲處分。答。子孫以下皆從良。一同云耳。

官奴婢條

凡官奴婢。年六十六以上。及癈疾。若被配沒令爲戶者。並爲官戶。謂下條云。家人奴〔婢〕。謂主及主五等以上親。所生男女。各沒官。又依律。謀反大逆者。父子並沒官。是也。釋云。賊盜律云。謀反及大逆者。父子並沒官。下條云。家人奴〔婢〕。主及主親。所生男女。「各沒官」是。古記云。若被配沒爲戶。謂賊盜律。謀反大逆者之父子。及謀叛者。並沒官。合從三年。和銅四年十月廿三日格云。以縱盜者。從者沒官。此等官戶也。跡云。家人合沒者。爲官戶。穴云。以上兩字無用也。問。配沒之日。奴婢者爲官奴婢。家人者爲官戶哉。答。可然。但高年者隨文耳。師同之。自餘依令釋之意也。又問。八十以上疾等人。犯反逆者爲上請。若上請免罪者。其緣坐人等皆從放免哉。答。爲會赦免人者。名例有免文。官稱上請人者。不見免文。可求。令爲戶者。謂爲官戶者。不在定戶主戶口之事。問。緣坐沒官日妻妾並放例。答。可附賊盜律條也。朱云。問。夫被沒官者妻同。貞。不沒。穴云。可讀也。可見賊盜律條者。未明。問。名例云。八十以上。十歲以下。及篤疾。犯反逆殺人應死者上請者。未知。此時。財物沒官。若從罪人之免。不摘取乎。答。並也。從罪人之免。不可摘取也。不同赦免例者。又問。令爲戶者。并爲官戶者。未知。令爲戶之稱何。答。謂爲官戶也。更卽良人。不定作戶主戶口。迹云。本役皆可除取者。穴云。配字爲沒也。良律背

至年七十六以上。並放爲良。謂。緣坐家賤。當沒入時。年六十六以上。及癈疾者。卽爲官戶。加七十六以上及篤疾者。亦從良人也。釋云。緣坐家賤沒入當時。年六十六以上。及癈疾者。亦爲官戶。卽年七十六以上。及篤疾者。自從良人耳。跡云。家人奴婢者配沒。當時年七十六以上。及篤疾者不沒。而者則放賤耳。穴云。官戶。奴婢。篤疾卽放爲良人。「家人奴婢也」。八十篤疾。並家緣坐。故云賤耳。問。從良人與本時異。答。更緣別進耳。「家人奴婢從良之日並給也」。古記云。問。官奴婢亦爲

及び廢疾免されて官戸となる。故に年七十六及び篤疾は免されて良人となるものと解すべし。文唯七十六以上とあるは、篤疾の字を脱せるなりと解すべしとなり。

良者。從舊主姓部。未知。官奴婢放爲良。若爲處分。答。隨情願。但不得高氏部耳。朱云。問。一端。假。官奴婢爲夫妻後。夫七十六以上放爲良日。妻年少尙爲婢何。離不。答云。不見。可求。

任所樂處附貫。穴云。所樂者官戸等願耳。或云。問。文云。任所樂處附貫者。未知。不被樂者何。答。可附所在。在穴記。

反逆緣坐。八十以上。亦聽從良。謂若甲是緣坐。乙郎甲奴。倶是七十六者。乙依法從良。甲爲未滿八十。猶爲官戸。其家人者。依律。准奴婢「之」例。釋云。假有甲。是緣坐。年六十六。乙是甲奴。年亦六十六。依法甲爲官戸。乙同資財。亦爲官戸。後滿十歲。兩人各年滿七十六。依令。乙放從良。甲爲未滿八十猶爲官戸。或說（作記字可正歟）。（作已下六字當作傍註）乙是舊奴。甲是舊主。主尙未免奴。豈從良非。何者。甲待八十。本爲反逆之類。乙有何事翻從緣坐之色耶。問。賊盜律云。反逆人之父子家人竝沒官。名例律云。其奴婢者同資財。不從緣坐免法者。今案兩條。家人無明文。未知。依緣坐待八十。爲當。比奴婢。至七十六從良。答。同奴婢待七十六從良。但賊律者說不同資財。而別生文由。名例或作記可勘者。爲緣坐家口立例。又諸條稱奴婢賤隸之處。奴婢家人同科。又緣坐老疾得免之徒。依戸令分法。應得家人故也。古記云。注反逆緣坐八十以上亦聽從良。謂上云。謀反大逆者之父子沒爲官戸者。須八十以上聽從良。以外至七十六以上。幷放爲良也。穴云。家人奴婢本主幷年七十六者。家人等放爲良人也。本主沒爲官戸。沒官之後。篤疾者爲從良也。

放家人奴婢爲良及家人條

凡放家人奴婢。爲良及家人者。仍經本屬。申牒除附。古記云。放爲良狀注記。家長署申國郡司。然後附貫。穴云。問。經本屬申牒。未除附之間。稱良預賞等例哉。爲當猶稱賤不預哉。答。稱良預賞例。又鬪毆傷殺之類。一同良人。但未負姓名之間。尙號賤耳。可檢反。又不申上給姓之由也。貞云。放家人奴婢爲良日。其姓所司可定。更不可奏者。私案。官處分可聞也。臨時事故。令行事。主姓隨部字申送所司耳者。在跡記背。朱云。經本屬者。未知。經本部者。郡者郡轉即由國。爲當。計帳之時。經國何。答。計帳時可附。問。

未備之間、尚從良人法、爲當從賤法哉何、答、給賜給等、不可同良人法者。但闘打傷、可同良人法者。未聞、案、無無官犯罪條等、放位記、悉皆從良人法何。

家人所生條

凡家人所生子孫。相承爲家人。朱云、子孫者、未知、玄孫等之類皆同不、私案皆約六云、問、兩家「々」人何、答、依捕亡令、從母也、家人奴婢同類故、之。師同　私案、奴婢令有正文、家人無此文、案之、相承爲家人、謂從假兩家家人所生從父、相承爲家人、是本令云、部曲子、不之客女子故。師不同之。但可問他耳。問、官戸陵戸何處分、答、私案、官戸亦同家人。今師云、官戸與陵戸爲夫妻所生者、由情從官戸。兩陵戸相生不同、稱從陵戸、古答亦同。從父、爲賤戸陵戸義于准良人故也　之。師同　皆任本主駈使。唯不得盡頭駈使。謂假有家人男女十人者、故云兩人、令執家業也。釋云、假家有人男女十日者、放兩三日令產私業耳、古記云、不得盡頭駈使、謂有一百者、六十七ー駈使耳。假令、一家有二人者、役一人免一人、若有三人者、二人役一人免。有五人。三人役二人免、苦免丁少役耳。問、官戸駈使之法若爲、答、不載文。然可准家人。免堂從駈故。一云、官戸皆給公糧衣服異於家人。依例式耳。及賣買。

官戸自拔條

凡官戸。家人。公私奴婢。被抄略。古記云、被抄略謂爲蕃賊被擄掠也。沒在外蕃。自拔得還者。皆放爲良。古記云、問、文稱自拔得還者、假令、新羅賊竹志國人略去、卽奴婢賣新羅王告。仍新羅王送上者、若爲處斷。答、此亦爲自還耳、但因使至賊地、尚求贖來者、良本作贖　不合、皆不有求訪、自來願還者、亦合從良。間、贖由賊贖抄略得還者、若爲處分、答、此亦同。非抄略。謂抄猶掠、卽強取物也。假如、海人漁釣、被風漂落、如此之類、非是抄略也。釋云、采音捕魚、被風漂蕩、如此之類、亦是非抄略也。穴記云、抄掠也。強取物也。音楚交反。守書、或鈔字也。古記云、非抄略、謂乘舟遭逆風、流漂得著外蕃也。及背主入蕃。後得

〔子孫等之類、皆同不〕名例律に「稱」孫者曾玄同。」とあるを參考すべし。

〔各依捕亡令從母也〕捕亡令に「凡兩家奴婢俱逃亡、合生」男女、竝從」母。」とあるに據るなり。

〔部曲・客女〕部曲は唐に於いて我が國の家人に當り、客女は家女に當るものにして、唐律疏議、名例には、卽ち「部曲謂私家所有、其[illegible]良人女爲[illegible]之客女。」と見えたり。

〔竹志國〕筑紫國なり。

〔律以化外奔科叛罪〕賊盜律に「凡謀叛者絞。已上レ道者皆斬。」とありて、その疏に「謂欲レ背ニ本朝一、將レ投ニ蕃國一、始謀未レ行レ事者、首處レ絞。從者遠流。」とあり。

〔爲不通〕意味通ぜず、論理一貫せずの意なり。

歸者。各還官主。穴云。非抄略入蕃。所生亦歸官主。不同化外奴婢來投也。但彼抄略而在蕃。所生悉從良。案勢如耳。問。背主入蕃。是已入逆。何故不科叛罪。答。律以化外奔科叛罪。今一身逃者。非眞奔。但合有別罪。今案。只一身逃亡入蕃。元無謀叛之心耳。若二人以上相謀入者。從叛罪耳。然今爲還官主生文。但罪事至律檢耳。令師云。依還來而減叛罪二等科耳。然則猶不脫叛罪也。

爲夫妻條

凡官戸。陵戸。家人。公私奴婢。與良人爲夫妻。謂夫良妻賤。及夫賤妻良。並是。故云爲夫妻。若與他家人奴。合所生者。並從母。穴云。爲與良人相婚生文。未知。官戸與陵戸所生。陵戸與家人所生何。答。二中撰〔擢〕貴賤定耳。假。陵戸家人知情爲夫妻所生。從家人之類。此即依法所從不同。避本業罪也。令釋云。夫良妻賤。夫賤妻良亦同。但與他家人奴。合所生者。並從母耳。朱云。問。稱公私奴婢者。寺奴婢皆同哉。先答。然也。所生男女。不知情者從良。皆離之。其逃亡所生。男女皆從賤。古記云。問。其逃亡所生子者。皆從賤。未知。孫以下玄孫以上。若爲處分。答。從賤耳。一云。文稱子也。孫以下不合從。此云爲不通也。問。與他家人奴婢爲夫妻所生子者。若爲處斷。答。逃亡奴婢與至處奴婢。合所生子。並從母。但與家人合所生男女者。准良人皆從賤耳。穴云。問。逃亡所生男女。皆從賤。未知。誰逃亡也。奴婢良人一同歟。答。良人逃亡耳。師云。官戸家人等逃亡耳。或云。逃亡所生男女者。雖與良人爲夫妻。及其良不知情。而依文猶可從賤。記〔作穴〕朱云。其逃亡所生男女者。皆從賤者。未知。誰人逃亡。貞云。良人之逃亡者何。後度反了。若然者。奴婢等之逃亡。嫁娶良人所生男女何。後答云。奴婢逃亡者。未明。若然者。良人逃亡。嫁娶奴婢等生子何。先云。此則上文如云無別耳歟何。問。稱亡者男女同不。私案。無別也。問。皆從賤者。未知。不論知情不知情。皆同哉。私案。然也。又問。從賤謂入奴婢之主乎何。私案。然也。入官主耳歟何。或云。逃亡所生者。誰逃亡。答。良人逃

〔一〕依律准犯時不知之法、自合從良〔一〕凡其本應重而犯時不知者、依凡論、本條輕者聽從本、なる名例律の文[illegible]るなり。

〔二〕[illegible]律に「[illegible]者、徒二年半、强者流、傷者絞、[illegible]人を[illegible]者絞、姦減二一等」と見えたり。

〔一〕尋本意〕來投の本意果して化を慕ふにありや否やを[illegible]。

亡也。官戸等者非。未明。在律記皆。

奴姧主條

凡家人奴。姧主及主五等以上親。所生男女。各没官。謂若被強姧者。所生男女。即從良人。其主及親、元不相知、姧後始知者、依律准犯時不知之法、自合從良。釋云、師説云、若被強姧者、所生男女、自從良人耳。或云、主及奴婢等不相知、姧後始知、所生男女者、依律犯時不知之法、合從從良人也。古記云、各没官、謂、記云、強姧亦没官。此已文爲未盡。問、諸條有服親准四等親、未知、此若爲處分。答、此條准凡人也。問、主及諸親家人奴不相知、姧之後始知、悉所生子、若爲處斷。答、案名例律云、其本應重、而犯時不知者、依凡論、本應輕者、聽從本。注云、或有父不識子、主不識奴也。即准凡人法、合從良也。問、強姧主所生。得從良者。父奴若爲驅使。答、強姧主奴、即被絞罪、不合更没。問、未知識、和姧所生子得爲良、父奴即何使役。答、賣與遠國人耳。穴云、問、所生男女、各没官、未知、從主爲官戸、爲當、從奴爲官奴婢賤者。則從賤。何者與凡人爲夫妻、尚知心者從賤、況於姧主乎。但疑上文、被配没合爲戸者、爲官戸處。引此文、釋同。其於令釋乎。

但備同、令釋不依此説耳。

化外奴婢條

凡化外奴婢。自來投國者。悉放爲良。謂教化之所不被。是爲化外也。投者歸也。悉放爲良者。據無主自來者。其有主者非也。家人亦同也。釋云、法制不同。是謂化外。投歸投也。投、音度侯反。悉放爲良、謂無主自來也。家人亦同。隨主來者非也。古記云、悉放爲良、謂無主自來奴婢也。家人亦同。主自將來者非。穴云、在投謂慕皇化歸從良。若爲慕風落來者。尋本意。令別不從良。合爲官奴也。伴同。朱云、化外奴婢來投國者、未知、化之字謂何。又來投者、未知、爲投者何。貞説云、不放爲良者。未知、然則爲官奴婢哉。問、何此可知奴婢、若得自口

〔陸法言切韻〕日本國見在書目錄、小學家に「切韻五卷。〔陸法言撰〕」とあるもの之なり。

〔賤理不可有財〕賤民は理論上原則として財產を所有し居らざるものなり。唐の名例律に「諸官戶部曲官私奴婢有レ犯。本條無二正文一者、各准二良人一。若犯二流徒一者、加杖免二居作一。應レ徵二正贓及贖一無レ財者、准二銅二斤一、各杖十。決訖、付二官主一」と云へるも、賤民には理論上財あるべからざる故なり。

顯〔頭〕稱何。答。然也。可待知者。**卽附籍貫。本主雖先來投國。亦人得認。**謂認識也。若雖後來。而不可得更認〔也〕。釋云。本主雖先來。不得認者。後來者亦不可更認也。認陸法言切韻。認識也。音而晋反。認之物也。音而震反。古記云。本主雖先來投國。亦不得認。謂雖後來投亦同也。穴云。問。來投之奴婢。有本主認來者何。答。從本主耳。令釋云。悉放爲良者。謂無主自來也。若有主來者非也。家人亦同奴婢也。本主雖先來投國。亦不得認者。若後來者。亦不得認者。若後來者亦不可更認者。二說誰爲是。答。師同令釋之說也。**若是境外之人。**謂亦與化外同也。釋無別。古記云。境外之人。與化外一種無別。**先於化內充賤。**古記云。問。境外之人。先於化內充賤若爲。答。蕃賊虜掠爲奴婢者。法令所聽。如此之類耳。穴云。問。文云。境外之人。先於化內充賤。未知。外境人投化者。悉充爲賤意歟。爲當。爲賤爲良臨時處分歟。答。今師心就流來也。自餘不合也。或云。化內人之相取也。或云。相戰被取充賤耳。未定。或云。化內人往化外略得。或云。問。若是境外之人。先云。化內充賤者。不知。强爲奴婢歟。答。猶出直爲良耳。**其二等以上親。後來投化者。聽贖爲良。**古記云。問。聽贖爲良。未知。無財可贖若爲處分。答。不得爲良耳。問。雖等親不來。賤自贖爲良聽不。答。大例稱等親者。賤理不可有財。若有財贖者亦聽。一云。文限二等親也。三等親不合聽贖。爲有近親歸功聽贖。若親不來者。不合聽。穴云。聽贖爲良。其人任意。見唐令。朱云。其二等親以上後來投化者。未知。先來投同不何。先云。可然者何。聽贖爲良。良者。未知。主雖不放。猶依令可令放何。又聽贖爲良者。未知。贖爲良。將還己本國聽不。或云。贖者准奴婢直耳。

遭水旱條

凡遭水旱災蝗。謂。災蝗者。釋見考課令也。釋與義解無別。**不熟之處。少粮。應須賑給者。**謂賑贍也。

賦役令。亦有此條。讀爲課役。非爲賑給也。釋云。賑給。謂恤。賑富也。賑音之忍切。賑。贍也。音識及反也。**國郡檢實。預申太政官**釋云。賦役令亦有此事類。非爲賑給。彼爲令說也。**奏聞**。釋云。奏聞謂一里以上及。之人。依恪且賑給。及奏聞數有節文。古記無別。穴云。奏聞謂賑給之狀奏。但官處分。及乞奏聞。并放損田之條。釋仍少者。官處分耳。朱云。釋云。一里以上者。未知。一郡內一里以上合賑。爲當。通計諸郡一里以上賑。先云。一里者雖通計數所。一里以上。同郷人口分者可奏聞。又雖相交他郷人田。損一所一里以上者。亦同也。並爲畢竟。下條亦然者。問。貞云。不然。雖損一里以上。他郷人里相交者。不可奏聞者。問。不足一里者何。凡損一里者。田一里賑。若一郷賑。又一里者。口分田私田同不何。

「一里以上者」賦役令、排田類の義解に「若不滿之田、二毫等」五十戸」者、准量定」若里」計數定」國」五十戸」者、國司處分申レ官。」とあるに據れるなり。五十戸即ち一里なること戸令初條に見えたり。而してこの義解の說は、書に慶雲三年九月廿日の格制によりて說を立てたるものなり。

令集　卷十一

本云文應元年九月十九日見合本書加首書畢

建治二年閏三月廿三日引合正親町之本校合了　　員外宰相藤　在判

右請家壽賢之本申請令寫之一校了

寛永十一年仲冬　　大府侍郎中原職忠

萬治三庚子季冬仲二令一校畢

右舊西村先生之御本ヲ以テ寫校了　　羽林中郎將藤原

元本ハ高橋家藏本

明和四丁亥歳季秋

明和己丑歳十二月以京師本一校了

安永三年四月十二日一會了

越智通邦印

令集解卷十二

〔和銅六年二月十九日格〕この格、類聚三代格に見えず。續紀、和銅六年二月[illegible]量衡の改定を行へるなるべし。

〔穗云〕穗は秦なり。秦業の私記なり。但し此の人外に見えず。明法

田　謂田所以界五穀之地也。釋云、說文云、樹穀曰田。爾雅。〔穗者〕曰田云私。史記五帝本紀云、軒轅乃修德。振兵治五氣、藝五種。注云。周禮云、穀宜五種。鄭玄云、五種、黍稷菽麥稻也。

令第九　凡參拾漆條

田長條

凡田。長卅步。廣十二步爲段。十段爲町。謂段地穫稻五十束。束稻舂得米五升也。町者須得五百束也。釋云、穫稻五十束。舂束得米五升。然則積十段地。得稻五百束。成米廿五斛。是名爲町。古記云、町田區也。音他丁反。穴云、一町積百卅步。長卅步是也。與令違也。但田積不相違也。步法雖違令也。朱云、問。田長廣相違。不知事意何。答。違耳。不見由者。古記云、問。田長卅步。廣十二步爲段。即段積三百六十步。更復段積爲二百五十步。重復改爲三百六十步。又雜令云、度地以五尺爲步。又和銅六年二月十九日格、其度地以六尺爲步者。未知、令格之趣并段積步數改易之義。請具分釋。允使曉爲也。答、穗云、令以五尺爲步者、是高麗法用爲度地令條。而尺作長大。尺々以二百五十步爲段者。亦是高麗術云々。即以高麗五尺、准今尺大六尺相當。故格云、與六尺爲步者則是。今五尺內積步。改名六尺積步耳。其於地无所損益也。然則時人念、令云五尺。格云六尺。即依格文可加一尺者。此不然。准穗々令云五尺者。此今大六尺同覺耳。此云未詳。

段租稻　謂田賦爲租也。　二束二把。町租稻廿二束。釋云、租田賦也。見說文。音則吾反。慶雲三年格云、取令內束、減令內把、令准段租、其西當益朕

家にあらずして算師なるが如し。

〔高麗法高麗術〕高麗の度量衡法なり。高麗尺は、高麗新羅の尺にして、これが我か國に傳はりしは遠く推古朝以前にあり。法隆寺が高麗尺の設計なることは人の周く知る所なり。この尺の長さ唐尺の一尺二寸にして、高麗尺の五尺は唐尺の六尺に當る。故に大日本租稅志の編者はこれを鯨尺の本なりと推定せり。然れども藤田元春氏の「尺度綜考」は、鯨尺は唐尺即ち曲尺の一尺二寸五分に當れば、鯨尺と高麗尺とは類を異にせるものなりと云へり。

〔慶雲三年格〕これ類聚三代格、卷十五、損田并租地子事に見ゆる慶雲三年九月廿日の格なり。この格又政事要略第五十三及び第六十に見え、又續日本紀、同年九月丙辰條に「遣使七

念百姓有食萬條。卽成民之豐饒。猶同充倉。宜段租一束五把。町「租」二十五束也。*民部例。神田。寺田。戒本田。放生田。國司公廨田。以上爲不輸租田。无主位田。國郡司職田。國國造田。國采女田。射田。公「田」乘田。已上不輸租田爲地子田。見任國造田。郡司職田。采女田。位田。口分田。墾田。已上爲輸租田也。六云。私案。職田。依官仕功所給。更无進租。位田。爲其人佃食治(活)業所給。與口分无異。依理可輸租。但輸租不輸租委曲者。令釋說了。可覆問也。租賦也。土地所生謂之賦。言田給。卽所生之物進官耳。問。租何人出。答。佃人出耳。賣進之田主不出(輸)也。假一段直稻十束。「是」除田租可出之直。所賣買耳。私案。今行事。下田直四束。而公田直下田進六束之類。是无租者直高。有租者直少耳。令文廿二束與今十五束具殊實同。但先束者不斤成。今十五束者成斤耳。田租先爲口分田生文。其功賜位田等亦同。但神田。寺田。古說。无租也。然不審文耳。朱云。問。町租稻廿二束者。未知。十把爲束乎。新令釋云。令稱一町租廿二束。是小斤者何。答。古問答云。古代之租稻廿二束者。此則一段租也。依此一段充一束五把也。此則令釋稱令前束者。古記云。慶雲三年九月十日格云。准令。田租一段租稻二束二把。以方五尺爲步。步之內得米一升。一町租稻廿二束。令前租法。熟田百代租稻三束。以方六尺爲步。步之內得米一升。一町租稻一十五束。右件二種租法。束數雖多少。輸實猶不異。而令前方六尺升漸差地實。遂其差升亦差束實。是以取令前束。擬令內把。令條段租「其」實猶益。今斗升既平。望請輸租之式折衷聽判者。朕念百姓有食萬條。卽成民之豐饒。猶同充倉。宜段租一束五把。町租一十五束。主者施行。令(今)依等法。以廿二束准計十五束者。所得一束者。一十四把三分之二。

田租條

凡田租。准國土收穫早晩。謂收穫者收斂也。穫刈也。早晩者九月爲早。十一月爲晩也。釋云。爾雅。收斂也。說文。穫刈禾也。音胡郭反。九月爲早。十一月爲晩也。古記云。穫胡郭反。毛詩。十月穫稻。說文。刈禾也。早子道反。國語。早晏無失。野王案。記文早晨也。禮記。孔子早作是也。晩「武」遠反。蒼頡篇。晩暮也。九月中旬起

貴一兩安ニ日穫敷ニ兩十五束、五把ニ段丁ニと云へり。

〔令前束令内把〕大寶令以前の束把を令前束と稱し、大寶令以後の束把を令内把と稱す。令前の束は、令内の束より重く、令前の二十二束は、令内の十五束に當れり。故に令前の一束は、令内の一束四把三分の二に當れり。

〔民部省例〕格式撰進目の撰せし民部省例なる可し、文職員令集解に見えたる民部省例、因號に見えたる民部省例と同じく、或る例書の民部省例の事は、格式撰進の時本書目録に見えたり。

〔雜依格公粮給〕類聚三代格、卷六、公粮事に見えたる天平寶字二年二月十日の官符に「謹案二太政官去神護景雲二年二月廿日符[illegible]」

輸。十一月卅日以前納畢。穴云。重レ京ヵ戶田租。亦十一月卅日以前。納京倉畢耳。朱云。納畢謂納官倉畢者。其春米運京者。謂輸租之處。家自出脚力。送大炊寮。猶如運送調庸也。釋云。租稻造米送大炊寮。充諸司常食。古記云。其春米運京者。謂租稻造米送大炊寮也。問。運丁雜徭。免不。答。不免。已戶租春進送耳。如調庸均輸。脚力運耳。一云依格公粮給。問。庸米春米如何其別。答。庸米者叢役著輸。即送納民部省。充衞士仕丁等食。春米者。租春送大炊寮。充諸司常食也。穴云。春送并田主所勞。非官所預知也。亦不用雜徭也。甲田賃已。但運直之日甲運耳。佃田。功田等租。本主亦放此春。及運耳。問。文云。十一月卅日以前納畢。春米運京者。正月起運者。未知。先納稻畢後。更出給田主春賦。若當。可春米時者。不納稻。而一度爲佃田人十一月卅日以前春納了賦。答。先納稻了。後更出給田主令春取。是知買田之人。尤春米并運京之勞也。而國司之於今行事。田租成稅。以稅爲春米故。給功春運耳。朱云。其春米運京者。未知。此臨時事賦。爲當。國司自爲恆例。毎年所運賦。貞說。依例春米可運也。毎國春米數可有定例者也。充運功也。出租之人運耳。已田租成者也。未知。凡此米出人。則春米納乎。爲當。納官司之後。所爲軟何。答。田租先納所司。〔後〕田給田主從春米運計輸送耳。今買田人不可春者。正月起運。八月卅日以前納畢。

口分條

凡給口分田者。男二段。女減三分之一。五年以下不給。其地有寛狹者。從鄉土法。謂受田足二段者爲寛。不足者爲狹也。言依上文。男女口分。既有定法。若鄉土少田者。不可必滿其數。故云從鄉土法。即雖寛狹而有餘。亦猶依二段法。不須可。鄕狹也。釋云。給二段爲寛之。不足二段謂之狹也。古記云。其地有寛狹者。謂給二段滿之寛。一段不足謂之狹。「寛」「狹」相寛耳。穴云。問。文稱其地。有寛狹「者從」鄕土法者。未知。田多之國。給二四段賦。

從五位下式部大輔紀朝臣廣名等解偁。舂米諸國百姓申云。運二舂米一者。元來差レ徭。人別給レ粮。而自二天平勝寶八年一以來。徭分輸レ馬令レ運。只給二牽丁之粮一。窮弊百姓無二馬可一レ輸。望請依レ舊運送。人別給レ粮者。官議申聞。奉レ勅依レ奏者。」とあるものなり。

〔神龜五年三月廿八日格〕この格、類聚三代格、卷五、定內外五位等級事及び續日本紀、卷十に見えたり。

答。依下條。悉足爲寛鄉。然則稱寛者。悉足之號。縱有過多。不可過男二段。女減三分之一法。師同之說。或云。通計國內授口與乘田。若可加一步者。增加常男二段法給之。所乘之田不足步之時。乃置乘田者。若是時行事歟。朱云。其地有寛狹者。從鄉土法者。未知。地多乘者。二段外更亦加給不何。答。不可加。但有寛狹者。從鄉土法者。一端爲稱狹云寛耳者。問。不足分田。至寛鄉給也。若不欲得者更「不」給何。問。得位田職田等人。猶皆得口分田不。答。可給者。未知。親王皆同歟何。先云。可同者何。

易田倍給。 謂易田者。其地薄埆。隔歳耕種也。倍給者。假令應給二段者。即給四段之類也。釋云。依周禮易田地薄。故隔歳乃種也。倍謂可受一段給二段耳。古記云。易田謂一年作種。一年不種。所以倍給。合二年。分一年令作種也。穴云。問。有人易田一年四段作。未知。輸租何。答。四段租輸耳。何者見納之租。爲無不出故也。令「師」云。輸二段之租也。朱云。易田倍給者。未知。每年佃聽不人出租事何。或云。一段之分得二段也。而雖二段佃。其所得實不過一段佃。然則每年佃聽。又可出租一段之分者何。貞說。出二段租者。後度云。雖依二段出依田損得者。反。則出一段租意耳者。

給訖。具錄町段及四至。 謂田之四面所至。表驗也。釋無別也。穴云。町段及四至謂一戸之內所給町段及四至也。假一町五戸各二段給者。各注四至之類也。古記云。具錄町段。謂步數亦錄也。

位田條

凡位田。 釋云。案令外位亦同也。但神龜五年三月廿八日格云。外位者內位減半給之。女減三分之一。「古記云。位田輸租也。神龜五年三月廿八日格云。外位者內位減半給之。女減三分一。」無故不上。經一年者停給。案。內位無故不上。經二年以上者停給也。**一品八十町。二品六十町。三品五十町。四品卅町。正一位八十町。從一位七十四町。正二位六十町。從二位五**

〔太郎腹侍郎腹〕太郎腹は嫡出、侍郎腹は庶出を云ふならむ。

十四町。正三位卅町。從三位廿四町。正四位廿四町。從四位廿町。正五位十二町。從五位八町。女減三分一。謂。此依町減。不垂段歩也。釋云。蔭以上者不在減例。事具條令。或説。條令云。其蔭已下應依品位給封祿。即以外雜物。皆減給耳者非也。減三分之一。謂依町減之。不垂段歩。穴云。女減三分之一。謂准下亦同。但蔭已上。依條令不減耳。問。或云。依町成三分。或云。割段歩爲三分。兩説別。答。依文稱町以上。然則三分謂以町作三分。不成段歩。亦賞爲從重故也。古記云。其女減三分之一者。未知。蔭以上減不。答。條令云。其蔭以上并依品位給封祿。問。女減三分之一。未知。以町減。爲當垂于段歩。答。不垂。依町減之。跡云。蔭以上不減也。

職分田條

凡職分田。謂。以理解官。及致仕者。准職封減半。其國郡司以理解。其職田即收。不可准此。穴云。大納言以上之以理解官。及致仕者。准祿令。食封各減半給耳。釋及跡并無別也。古記云。職田者不輸租田也。太政大臣卌町。左右大臣卅町。大納言廿町。

功田條

凡功田。大功世世不絶。上功傳三世。中功傳二世。釋云。簡説云。父死以後所有。兄弟不論嫡庶。依法分耳。古記云。一世盡亡傳二。二世嫡孫庶孫各承父分。穴云。太郎腹四世侍郎腹三世者。取世盡之人分。給未盡侍郎腹耳。身死無可承人者亦同之。問。得功田功封之人。身死去。其子有男女各一人。依法分得了後。女子身死者。其分與女子之子哉。又若無子者。與其兄哉。又於功田等。聽作遺言哉。答。不及女子之子。身其也。此田即須授其兄弟及姉妹。若無者還公耳。唯聽得遺言也。跡曰。此田不論嫡庶男女。皆爲均分。

〔案名例律嫡孫承祖與父母同〕名例律下卷、凡稱二等親條にこの文あり。

〔下功傳子謂女子不入子之例也今行事女子亦傳〕これ又法意と行事との背馳を見るべき例なり。

〔依斷獄律會赦者雖可追究〕斷獄律に「凡應訊囚。必先以情審察詞理。（中略）若事已會赦者。雖可追究不拷。」とあり。

貞。此古令時事。可求者何。若此中有身死人者。即傳其子。如此各分得後。女子死者。其分何。答。傳與遺男也。女子之子。不可與分之故者。朱云。問。大功世世不絕者。而男女各分得後。女子死者。其分何。答。傳與遺男也。女子之子不可與分之故者。

下功傳子。謂男女同一也。釋云。稱子者。男女同。或說。*案名例律。嫡孫承祖與父母同。此即爲優於庶子。於理合傳者非也。案大功世世不絕者。可與女子一身。女子之子不可授之。爲異姓故。穴云。稱子男女同。但男一分女半分耳。其父之兄弟均分佃食。而父死者。女子全得父分。爲父兄弟時均分子故。不減半也。今師云。不同。此說同均分之說。朱云。問。下功傳子者。兄弟分得。然後兄死者。其分何人可得。答。遺弟等可得也。兄之子不可得也。稱傳子之故者。稱子者男女養子並同者。未明。古記云。*下功傳子。謂女子不入子之例也。今行事女子亦傳。問。下功傳子。未知。嫡孫承祖。若爲處分。答。大寶元年七月廿八日太政官處分。功臣封應傳子若。無子勿傳。但以養兄弟子爲養子者。聽傳其封。得傳封之人亦。無子亦聽傳於（更立）養子而轉授之。其計世業一如（一同）正子。但以嫡孫爲繼者。不得傳封。

大功非謀叛以上。謂犯惡逆以下者。不收也。釋及古記無別也。穴云。*大功人犯謀叛以上。（未）獄成。會赦者會赦猶流也。令（今）囚獄成而收。問。依斷獄律。會赦者雖可追究。不拷。而以何方術可令獄成。答。不如拷而令獄成耳。若不得獄成者。赦免耳。可反。大逆及謀反會赦故不放也。會降官當之時。亦不收。爲與雜犯同故也。問。八十以上十歲以下。及篤疾犯反逆殺人應犯（死）（究カ）者。上請。盜傷人收贖。有官除名。餘皆勿論。未知。犯謀叛及八虐盜者何。答。除反逆之外。從勿論。然則大功八十而犯謀叛八虐等者。不收功田也。朱云。問。大功之人犯謀叛以上。會非常赦全免者。不收何。答。然者也。又會常赦。免死配近流時者何。若爲不全免。仍收乎何。答。然者古記云。注大功非謀叛以上。謂犯惡逆以下者不收也。

以外非八虐之除名並不收。謂上功以下是也。言八虐之外。犯餘除名者。不在收限也。假有功田十町。父沒以後。兄弟甲乙各得五町。甲犯除名者。收甲五町令（合）還公也。釋云。中功下功謂之以外也。除八虐之外除名者不收也。假有功田十

「白丁亦放有位之法也」白丁は無位なり。故に白丁には田名目當口適用なしと雖も、有位者に準じ、除名に當る罪を犯したる時は、その功田を收むるなり。

町。父死之以後兄弟甲乙各得五町。甲犯除名者。收甲五町還公耳。或說。收甲五町添乙者非。何者功主犯罪尚被不收。傳至子孫。豈合翻厚耶也。縱無位而未犯八虐之除名者收耳。案。大功以下會赦合(全)免者可免。更可求也。穴云。令釋云。嫡孫承祖不同子例。又云(穴八)父得功田十町。父死以後。兄弟甲乙各得五町。甲犯除名者。收甲五町還公耳。或說。收甲五町添乙者非。何者功主犯罪。尚悉被收傳至子孫。豈合翻厚耶。又說。一人犯罪者。二人共合追亦爲大非也。跡同之。今師同。給讀也。問。反逆之人。兄弟者皆遠流也。未知。其功田何。答。依賊律。非同居不收。若同居者可追耳。問。功田須得遺言上條奉給了。未知。有十男。而父以身功田。與一男犯罪者可追其功田哉。爲當。與所殘九男哉。答。依犯罪者可追還。但非犯罪而得之子死去。無可承繼人者。與傍兄弟姉妹等耳。上功以下。年八十而犯謀反及八虐者。非八虐内盜。八虐内傷外亦不收也。白丁亦放有位之法也。但此文非除名者。爲老少及會赦生文耳。問。上功以下人。犯反逆緣坐者何。答。與八虐同科。故亦可收。縱年八十亦收也。老疾得免亦除名故。但大功不在此例。若合父子共沒官者。雖大功追耳。古記云。以外謂中功下功謂之以下也。非八虐之除名。謂縱五流而非八虐並雜犯除名者。並不收。問。穴云。八虐之除名。未知。無位若爲處斷。答。案。名例律云。八虐故殺人反逆緣坐獄成者。雖會赦。猶除名。即知八虐獄成。雖會赦。猶除名者合收。無位獄成者。雖會赦猶合收。若未獄成會赦免罪者。並不可收。問。諸子以功田均分得。然一人犯八虐者。如何處分。答。一人犯八虐者可收。跡云。兄弟二人。而兄犯罪被追田者。弟田不合追。兄子等據給耳。但預緣坐而。同居者。弟田亦合追。非同居者不合追。又白丁犯八虐獄成者。縱會赦合追收。未獄成會赦者。並不合追也。或說。追罪人分。合與餘人。又說云。二人犯罪者。餘人皆合追者。並爲不也。朱云。非八虐之除名。並不收者。未知。犯八虐。未獄成會赦之免者何。皆不收乎。答。然者。又凡於功田。雖家人奴可得不可。

非其土人條

凡給田。非其土人。皆不得狹鄉受。謂位田職田等之類。亦不合受「也」。釋云。位田亦同也。古記云。位田亦同也。土人即給。非

其土人不給。問。京戸若爲。答。此亦不可受。但臨時處分耳。穴云。位田職田亦同。師云。位田者。雖土人不得狹鄕受。朱云。非其土人者。未知。於*此郡所云歟。若於一郡內可云乎何。答。一郡內可云其土人也。又狹鄕者。*未知。鄕之字意何。答。郡稱鄕耳者也。**勅所指者。不拘此令。**釋云。賜田及口分田勅給也。古記云。勅所指者。未知。其意。答。勅所給田名爲賜田也。若口分所「給」指亦同。穴云。勅所指者。賜田位職田及口分田等之勅給耳。

官位解免條

凡應給職田位田人。謂案職田位田者。據先既給訖。不可更稱應。或是衍文乎。其職田位田。得職位則授。去者則收。皆不待班田年「也」。釋云。其職田位田者得職位之日卽授。死闕之日卽收。不待班田年也。自餘特立文者。皆放此。*寶龜九年四月八日格。五位已上位「田」薨卒之後。一年勿(莫)收。自今以後。永爲恆例也。朱云。此文應給職田。位田人者。未知。未得人歟。若下文稱從所解免追之故。爲已得了乎何。先云。爲已得了者。跡云。職田身死則合追。但格云。位田身死後一年乃追也。**若官位之內有解免者。從所解免追。**謂解解官也。免免官也。假有正三位位田卌町。犯免官者。三載之後。降先位一等。敍正四位上。卽依正四位。給卅四町之類也。若解官者。追亦如之「也」。釋云。若帶官職者。從所解追。亦如之。此爲帶數。穴云(官カ)。又(人)所說耳也。問。假令從四位下止有一官。犯免官罪。毀位記了。未知。不知不敍之間。若見後敍法授其田乎。答。不可授之。若有位記數者。依其位可給耳。同。穴云。解者以理解亦同。問。食封條。以理解官。及致仕減半於此條何。答。依令釋。亦放祿令也。後定。追可給替人也。令釋云。職「田」位田〔得職位田〕得職位之日卽授。死闕之日卽收。不待班田「此間年」也。自餘特立文者。皆放此。〔此〕。寶龜云云。問。令釋云。正三位犯免官。三載之後。降先位一等。敍正四位上者。依正四位給耳。未知。依後敍給歟。爲當犯與位自相當。有歷任(位)正四位歟。答。有歷任(位)正四位耳。若有歷任五位者。〔位者〕依當耳云云。位有歷任

〔比郡〕隣接の郡なり。

〔未知鄕之字意何答郡稱鄕耳者也〕本條の鄕の字は鄕土の意なり。五十戸を鄕と云ふ鄕にあらず。その事を明かにせんが爲めに、この問答あるなり。

〔寶龜九年四月八日格〕この格、類聚三代格に見えず。續紀、寶龜九年四月甲申の條に「勅。自今以後。五位已上位田。薨卒之後。一年莫レ收。」とあるもの之なり。

〔食封條〕祿令、食封條なり。

〔職位封與位分之資人者何若爲此文從所解免追何〕職封位封及び職分資人位分資人に關しては、本條の闕を補用するものあるも明かならず。職封位封の事は祿令に見え、職分資人位分資人の事は軍防令に見えたり。

五位犯官當。追二位者給從五位位田耳。不見後敍四位也。若論叙四位者。即依當位階加給耳。免官免所居官者同也。謂除免者。免官以下除名也。跡云。官位謂官與位也。免者官當皆同也。解免追。謂假令三位免官有歷任五位者。五位位田者不追。但後敍日。依復敍高法加給耳。朱云。問。職位封職位分之資人者何。若依此文從所解免追何。私案。可然。抑可見祿令何也。此文只據位田。未知。資人封戶等之類何。若依此文。爲不可追請乎何。先云。然者何。古記云。問。官位之內有解免者。未知其意。答。官位謂官與位也。解免謂但官追位是也。有解免者。從所解者。追謂位盡也。注即解免不盡者。隨所降位追。謂位不盡也。穴云〔云々〕。止少額也。**其除名者。依口分例。**釋云。止給口分。不更重給也。穴云。依口分例。謂請田皆追。只殘口分是也。五位以上。位田口分田並給耳。朱云。除名者依口分例者。未知。免官之人無歷任之位記。專不持得口田者。依口分例何先云。然者也。古記云。其除名者依口分例給。謂口分不追。但不在更加給之例。**若有賜田者亦追。**謂此亦爲除名者立文也。釋。無別也。穴云。有賜田亦追。謂除名人其犯免官以下者不追也。跡云。有賜田亦追。謂此據除名人也。朱云。然則免官以下者。不追耳職何。答。古記云。問。若有賜田者亦追。未知。并字意。答。對於位田文耳。一云。若有賜田者亦追也。謂爲除名人立文。以外不收也。**當家之內。**跡云。當家猶同籍也。朱此說與「當」戶同心耳。**有官位及少口分應受者。並聽迴給。**謂口分田者。待班田年乃給也。釋。無別也。穴云。惣迴給者。位田不待班田即可給也。口分田者。待班田年給耳。事爲是。待班年給卜讀耳。令田即充口分等皆同。但國便先給之。案。此文不待班年給耳。古記云。問。少口分。未知。少口分之由。答。崩埋之類也。**有乘追收。**

〔應給位田條〕

凡應給位田。未請。及未足而身亡者。子孫不合追請。「釋云。此說不可與請之理耳。或

說。位田待班田年收。故云爾者非也。穴云。此條。說子孫不可更請之理耳。不依令釋後云也。古記云。問。子孫不合追請。未知其意。答。身亡之日。位祿位田。竝停故。不合更請耳。一云。左位以上身亡之日。封祿竝停。唯位田賜田功田一班之內。聽再班收授。戶婚律明文也。朱云。未足者。假如。五位成四位未加請之類。謂之未足哉。

應給功田條

「凡應給功田。若父祖未請。及未足而身亡者。給子孫。」古記云。功田輸租也。穴云。待世盡乃收耳。給子孫者。若下功者不給孫耳。朱云。問。上條云。下功傳子者。又此條云。父祖未請。及未足身亡者給子孫者。未知。下功人身亡無子有孫者何。與孫否。答。不與孫也。過世次故也。或云。身亡者給子孫者稱孫者。計世耳。此說在跡記後。

公田條

凡諸國公田。皆國司隨鄉土估價賃租。謂公田者乘田也。田(賃)租者。凡乘田限一年賣。春時取直者爲賃也。與人令佃。至秋輸租(稻)者爲租。即今所謂地子者是也。釋云。乘田謂公田也。估價釋見官員令也。賃租者限一年令佃。而未佃之前出價名賃也。佃後至秋。依得不出價是名租也。朱云。未佃之前出價。後有損。其實不得者。還其價不。又春出秋出其價同不。答。雖不得實。不還其直歟。既入官司故者。未知。而秋出直人者。依損免直也。而各別身歟何。古記云。公田不輸租。以十分之一地子爲價也。其價送太政官。以充雜用。穴云。送謂官雇人送耳。舂米亦給功也。朱云。送太政官。見日限不。又以充雜用者。未知。充一司之雜用歟不何。先云。一司之內雜用也。古記云。販賣謂賣也。供公廨「料」所。謂供給官人也。以充雜用。謂臨時雜用耳。問。公廨正調未知何訓。答。供給官人之物。謂之公廨物也。此物所安置處。謂之公廨院子也。假令。借代諸官物。出擧取利。以本還官。以利更迴出擧取利。以

〔釋云乘田謂公田也估價釋見官員令也〕官員令は前述の如く大寶令の篇名なり。故に之に據れば、令釋は大寶令の註釋書なるが如し。これ令釋に二種以上ありて然る歟。官員令は職員令を誤りたるものか、今之を判ずるに由なし。

〔出擧取利〕出擧のこと

供給當司官人等。此爲公廨物。未此官物。故既庫律之固官物之例。

賜田條
凡別勅賜人田者。名賜田。古記云。輸租也。穴云。位職田及口分田雜色田等。別勅指人給耳。

寛鄕條
凡國郡界内。所部受田。悉足者爲寛鄕。不足者爲狹鄕。穴云。定寛狹爲郡生文。仍狹郡當遙授寛郡也。非於一國爲狹鄕。何者下條無田者。遠隔郡受之故。若國内人可受他國者。不見文故。戸令申官之。令釋同。凡此條。先爲口分生文。但國司職田。不得在而割置。「郎」郡司職田口分田等支度均給也。不論遙雜色田支度也。古記云。不足者爲狹鄕。謂依鄕法少少均分給訖。但給田之法只二段爲限。此數不足。故名爲狹鄕耳。舊只然。此少田鄕人聽於寛鄕受。又聽遷就業寛鄕爲如此立例耳。朱云。稱寛鄕狹鄕者。於國於郡。并可稱乎何。又何國郡可稱鄕乎。凡國郡之寛鄕可付帳不。又凡定寛狹者。爲聽隔越受田並遷鄕帳何。先云。頁說。此文先爲郡稱寛狹也。如言國之郡也。如此之例往往者。私未明。又。先云。寛狹不可附帳者。何未明。

狹鄕田條
凡狹鄕田不足者。聽於寛鄕遙受。謂一國之内。比國不合也。何者下條。本郡無田者。遠隔郡受故也。釋云。遙謂一國之内。比國不合。何者下條無田者遠隔郡受故也。一云。比國亦聽遙受耳。何者戸令。稱狹鄕者。國亦同故。但亦申官耳。古記云。遙受有限以否。答。一國之内。比國不合。一云。若無田之處。亦受比國耳。穴云。依上條。狹遷鄕土者。謂先支度一郡内田。均給訖後願遙授者。依此條給。不願者不遙受耳。跡云。聽遙受謂依鄕土法。若少少授。此而有願受遙鄕者。合聽。未知。不欲受者。更不加給耳賦何。但下條亡無由也。

[illegible]雜令に見えたり。又公廨に供する爲めに官稻を出擧することは、[illegible]雜式上に見えた[illegible]

〔一〕云若無田之處亦受比國耳、續日本紀、神龜三年七月[illegible]の條に[illegible]

始班ニ給志摩國百姓口分。」と見えたり。これ此の實例たり。

〔問若絶戶還公 未知亡者存日處分若爲答賣受直已訖證驗分明者聽〕この問答、喪葬令に「身喪戶絶無レ親者。所レ有家人奴婢。及宅資。四隣五保共爲ニ撿挍ー。財物營ニ盡功德ー。其家人奴婢者。放爲ニ良人ー。若亡人存日處分證驗分明者、不レ用ニ此令ー。」とあるものと、本條との關係を

園地條

凡給園地者。隨地多少均分(給)。謂戶內之口。不論多少。每人均給。何者則殖桑漆者。必於園地故也。釋云。鄭玄注周禮云。樹菓蓏曰圃。園其樊也。均給每人均給。故稱均字也。古記云。論語疏云。若種蓏實則曰園。園蕃也。種菓於園外爲蕃。均給謂每戶均給。與授田一種。但一班之後。更不爲收授耳。穴云。問。隨地多少均給者。未知。依戶節級均給歟。爲當。每人身予細通計。男女無差別均給歟。所以致疑者。桑漆條依戶品有殖數。然則依戶品均給歟。答。師云。每人均給。不依戶品第也。但不見男女之差別耳。後定男女無差別也。古答。依給田之差可及。又私思依戶品給之。合條例。又云。均給。謂從戶上中下等。有多少均給耳。問。有收給哉。答。無然事也。假一戶內无(元カ)給家長死者。依財物例均分無妨。若一戶分成十戶者。更不合均分之(地)耳。但有以還公地。給雜(新)戶耳。又地多三四段給耳。朱云。隨地多少均給者。未知。男女同也。又雖五年以下、上、猶給不何。答。一說男女均給也。文云。均給故者。又年多少不論可給。何者一給後亦不可給故者。

若絶戶還公。謂依下條。聽賣園地。卽地主存日賣訖者。不可更還。其戶內所貫。有一人存者。不別親疎。不爲絶戶也。釋云。亡者存日賣訖者不可還。爲聽賣故。戶內所貫不論親疎。只有一人非是絶戶。古記云。*問。若絶戶還公。未知。亡者存日處分若爲。答。賣受直已訖。證驗分明者聽。不然與親屬幷捨施之屬猶還公耳。穴云。絶戶者卽年還公也。又五年以下。又須給園地。不依給田之例。絶戶謂令釋釋訖。若戶內人不堪承戶田地戶者。亦爲絶戶還公。但先賣他人者不還。戶絶還公之日者。有新戶者。亦人新戶。殖桑漆也。問。在室女子得半分嫁從夫。而改貫之日何。答。私案。留本戶耳。絶戶爲還公故也。朱云。戶絶還公者。未知。買得地亦還公不何。喪葬令云。身死(喪)戶絶。所有宅資。營盡功德者。未知。稱宅資若均地不也。其志何也。

桑漆條

凡課桑漆。上戶桑三百根。漆一百根以上。謂凡戶上中下者。計口多少。臨時量定。其餘條稱上上戶中中戶等。亦

[illegible]

准此例也。釋云。定戸等第。或據丁多少。或以人富貧。賦役令義倉者。富賤爲品。此條多少爲級也。穴云。上漆園併同虚分耳。定上中下戸在別式。但此條。依戸口多少定耳。朱云。問。桑漆種也。私地何。又借佃者又即本貫。合種謂何。凡此皆通課戸口合種何。先云然也。借者亦即本合種。又戸主戸口共通可種者何。

中戸。桑二百根。漆七十根以上。 謂。若別爲戸者。亦依此限。其桑漆者。「皆」於園地種。若無園地者。不在課限

下戸桑一百根。漆卌根以上。五年種畢。 也。跡云。五年種訖。謂新爲戸主人始課也。穴云。問。桑漆無園。其一戸分成十戸。更不給園者。桑漆何。答。以還公園給新戸。若無園地戸者。不[illegible]桑漆「耳」。跡云云也。

郷土不宜。及狭郷者。不必滿數。

宅地條

凡賣買宅地。 謂。有舍宅之地也。[illegible]「舉」宅地。田園皆同。其賣買舍屋等者。自須論據分明。不可經官司也。穴云。宅地者猶言宅耳。問。宅地一賦一賦。答。一也。宅及田園之地。師不依此。

皆經所部官司。申牒然後聽之。 穴云。所部官司。謂。郡及國相須也。師同之。私之說。案。郡必經國司爲郡司不掌田宅故。朱云。貞說不問國司者得違令罪者。未知。申郡。郡則申國。若賣人自申國何。先云。案郡司申國。國則其皆未未。署名。其所據國印耳者。

王事條

凡因王事。沒落外蕃不還。 穴云。職事謂之王事也。謂。蕃使而沒落者非也。諸蕃使。若經渉險難。而終沒落及死者。准(贈)入此例。爲人大功故。不經險難者。並不依。問。戸令云。沒落外蕃得還者。所在國郡給衣粮。具狀發驛申奏。與此條因王事沒落外蕃同歟。異歟。答。戸令。不限因王事。不因王事。皆摠兼生文。但此條。爲因王事立文耳。然則給衣粮申

〔水手〕古書にカゴと訓めり。船頭の事なり。船頭をカゴと訓む因緣は、應神天皇紀に見えたり。萬葉集に「なこの海に朝こぎ來れば海中に鹿ぞなくなるあはれそのかご」とあるは、卽ち應神紀の故事を歌へるなり。

〔古記云三班乃追〕古令には「十年乃追」を「三班乃追」に作りしを知るべし。一班は六年なれば、三班は卽ち十八年なり。

〔王事死 謂選敍令已說訖也〕選敍令に「凡贈

癸。竝附貫之事。依戸令也。追留口分之事。合依此條也。卽非因王事不預此條。朱云。因王事沒落外蕃者。未。知何。若遣蕃國使歟。若然者。*水手皆同何。答。不然。此依征討事。而則戰士以上竝同也。假量便宜。爲征毛人。乘船沒蕃國耳者。

有親屬同居者。 謂五等以上親。而同居者「也」。釋云。有服親之同居者也。一說。五等以上同居。是與律別也。或說。親屬同居者不限等親也。穴云。親屬同居者。依律五等以上。及三等以上婚姻之家耳。今師說。可云五等以上親也。不可依律也。爲令條無例故。古記(說)云。有親屬同居者。謂同姓共籍也。不限等親也。

其身分之地。十年乃追。 謂懸其沒落不歸。生死無聞。是以十年之後。其口分從追收。若有位田賜田者。亦十年之後。乃合追還。但職田者。不可久曠官職以待十年也。釋云。其身分之地。謂口分田也。位田賜田亦同。爲未知身死故也。但職田者居官之人代得。更不可待十年。跡云。沒落不還者。爲不知死不之狀。位田亦十年後合追。但職田去職之日。則合追。朱云。問。有親屬同居。其身分之地十年乃追者。未知。租調代出何。答。不出調。但可出租耳。*古記云。三班乃追。謂三班之後。三班之年。卽收授也。問。計班之法。未知。若爲。答。以身死應收田條一種。假令初班之年。知不還收。三班收授。又初班之內。五年之間亦初班耳。

身還之日。隨便先給。 穴云。不待班年而給耳。朱云。不待班年卽給哉。答。不待「班」年給耳。文云。身還之日故也。

卽身死王事者。 謂戰場身死。是爲死王事。釋云。案戰場身死謂之死王事。因病死者非也。左傳。僖公四年傳。許穆公卒于師。葬之以侯禮也。注云。男而葬以侯禮加一等。又曰。凡諸侯薨于朝會。加一等。又曰死王事加二等。注云。謂以死勤王事。正義云。朝會亦王事。而別言王事者。謂因王事。或戰陣而死。故別「其文也」。跡云。雖征人。而非兵事直有死者非也。朱云。問。身死王事者。未知。稱王事只軍事一事歟。若遣蕃國使。遇賊被殺者何。入此例不。答。此軍事一也。蕃國使不云者。古記云。*死王事。謂選敍令已說訖也。

其地傳子。 謂若無子者。雖有親屬同居不在給限「也」。釋云。其

官、死王事者、賜生存官田、酬勞一等之外る條文あり。

〔又私治田聽永賣也〕私治田は私墾田なり。墾田の永代賣買は、天平十五年五月廿七日の墾田の永代私有を認むる格制によりて認められたり。

〔寶龜三年十月三日格〕この格、類聚三代格に見えず。

父位田功田、須以此爲傳子耳。穴云。地謂口分田也。其賜田位田、死日亦取。但上文地之處者、爲未知死不之狀故。賜〔田歟〕、位田等、亦待十年耳。功田依上條放耳。問。傳子者未知其限。答。限子世耳也。問。死王事者。於戰場而被殺賊。未知。因王事沒落外蕃。於彼死去。其狀分明者。其田傳子哉。答。若得分明者。准量不輕。是知傳子無妨者非也。問。死王事人。無子有親屬同居者。亦十年後准之取。未知。得理以不。答。爲非也。死日即收耳。朱云。問。其地傳子者。未知。口分田位田賜田皆傳何。答。案其身分之地者。此口分也。問死爲無疑。位田賜田即收不傳子也。或說無別。皆可傳子者。小劣。問。凡稱傳子故爲下功何。又此可出田租何。答。功田自依下〔上ヵ〕條可傳也。此今此條吏所云耳。又田租可出者。古記云。其地傳子。謂口分田也。女子不傳也。今行事。女子亦傳。若依公事沒落者如常。計年取耳。

賃租條
凡賃〔價〕租田者。各限一年。穴云。問。各限一年者。未知。立〔至ヵ〕今年秋。聽爲作來年賃〔價〕以不。答。不可禁也。余案條意知耳。朱云。賃租田者。各限一年者。未知。一年内雖二三度作種。尙任買人之心何。答。不制。可任買人心者。後反不決。問。凡於賣田可有時不。又於私墾田聽永賣何。答。至秋時爲來年賣者不禁也。又私治田聽永賣也。上條。放賣買宅地文可聽者。私案。若依此條可聽哉何。私戶婚律云。凡過年限。賃租田者一段笞十。二段加一等。罪止杖一百。謂職田位田賜田及口分田者也。地還本主。財沒不追。注云。功田不在此限之。

園任賃租及賣。釋云。賃租及賣買皆任其心。縱經年數。賃租無妨。古記云。園聽任賣也。論語云。樊遲請學爲圃。子曰。吾不如老圃。鄭云。種菜蔬云圃。圃布也。取其分布於地也。皆須經所部官司。申牒。然後聽。穴云。國郡相須。與上條同也。朱云。皆須經所部官司者。謂皆者賃租田皆約文贖何。答。皆約文者也。古記云。依寶龜三年十月三日格。經國賣買即立券文。國亦依此耳。

〔門田〕門前にある田なり。

從便近條

凡給口分田。務從便近。謂從其家居便近而給也。縱求外處不可聽也。穴云。定便近有兩說。一說如以近及遠之義。一說以近給近。但遠人越近人而受耳。不安。朱云。務從便近者。任文便近人耳。以近不可及遠者。或不同耳。問。口分田從便近者。已遂均平何。答。猶從便宜耳。不以近及遠。問惡田在*門田者何。答。猶給耳。豈別隔在意給哉。未詳。此說在跡後。不得隔越。古記云。不得隔越。謂此郡人給彼郡。彼郡人給此郡不合也。若因國郡改隸。地入他境。及犬牙相接者。謂隸者附著也。犬牙者如犬之牙。不相當而相銜入也。釋云。說文。隸附著也。音魯帝反。師古注漢書云。犬牙言地形如犬之牙。不相當而相銜入也。假定郡堺必如弦矢也。若以川山爲限。不必正直牙相含入。故云爾耳。又云。案犬牙相接者。因國郡改隸亦云耳。地入他境者。百姓不入耳。若百姓入他界者。地亦依舊受。同可求之。穴云。地入他境。犬牙相接并因國郡改隸耳。但置及字。爲稱犬牙生文耳。跡云。犬牙謂以川爲堺。而地形犬牙合別改境置「直」向者也。古記云。犬牙謂伊呂此(比)訓也。漢書文紀云。師古云。犬牙言地形如犬之牙交相入也 聽依舊受本郡。無田者。聽隔郡受。謂隔郡傍郡也。釋云。上條與此條一種也。但上條爲小田。此條爲無田也。穴云。問。地入他境。及犬牙相接者。聽依舊受本郡。無田者。聽隔郡受。未知。舊與本郡何分別。若一事歟。答。聽依舊受者。如不改隸之時聽受授也。本郡無田者。將如舊受而其舊處無田耳。本郡無田。謂爲凡無田郡生文。非附上國郡改隸之事。但上條論不足。此條論純無田也。後定。不令無田也。無死者生益多耳。朱云。本郡無田者聽隔郡受者。未知。此令(命)別云。置文歟。爲當。依上國郡改隸云文歟何。答。依改隸所云者。聽依舊受者。文則取及(反)本郡無田者聽隔郡受者。未知。而他國隔郡受歟何。私未明也。令釋說長耳何。古記云。問。上條遙受。與此條隔郡受者爲分別。答。一種無別。開元令云。其城居之人。本縣無田者。聽隔縣受之。

〔隱首〕[illegible]人自首し、戸籍に附くをいふ。これに對して、官司が無籍の人を勸出して戸籍に附くるを括出と云ふ。令集解義解は、即ち隱首に注して「謂無名之民、自來而首也。」と云へり。

〔三班收授〕これ即ち大寶田令の何なり。但しその條文の完全なる姿を復活する能はざるは遺憾なり。

〔神田條〕大寶令には、神田寺田の爲めに別に條を立てたり[illegible]養老令之を[illegible]此條の中に[illegible]

六年一班條

凡田六年一班。謂此據未給口分人也。其先已給之者。不「可」更收授也。若田有崩埋侵食。亦依改班例也。釋云。此條者。爲生益隱首等生文。但先得田者不更收授。何者文云。以身死應還田者。又下條。應還公田。皆令王自量爲一段退。不得零疊割退。即知死亡口分田者待班年。即令戸主自量爲一段退。以外見存之口分者。不更收授。又依下條。先無後少者。先所授田崩埋。此稱少耳。不下班年之間。身死者不還。生益者不班耳。穴云。引先所授田崩埋此稱少耳。以上之文。云所說順之者。跡云。穴博說。爲生益隱首立條。取死人口分。授生益等。悉不亂授也。朱云。田六年一班者。未知計年何。貞說。元年正月起。二年十二月卅日畢。然後。七年亦給者何。凡何年可注班年始年歟。畢年歟。後度。貞不明。讃云。自造籍條。可同義者。而則貞志乞年可云給年耳。私同。或云。田六年一班。謂取身死等田。給生益等耳。更不亂給。又身死分者。以班年即收班。逃走分田外條有文（此說。跡後也。）古記云。初班謂六年也。後年謂再班「也」。問。謂約六年之名。假令。初班死。再班收也。再班死三班收耳。問。人生六年得授田。此名爲初班。爲當。死年名初班。未知其理。答。以始給田年爲初班。以死年爲初班者非。問。上條二班乃追。與此條三＊班收授其別如何。答。一種無別也。三班收授。謂即二班收授也。問。於二月授田訖。至十二月卅日以前。文（身）云（亡）何爲初班也。答。以作年爲初班也。假令。自元年正月至十二月卅日以前。謂之初班也。

神田寺田不在此限。謂此即不稅田也。縱有崩埋侵食。不可更復加授「也」。釋云。其寺田聽賣。神田不合。又云。神田寺田雖崩埋。而亦不更加授也。穴云。神田寺田先（元）班之後。更不改給。若有爲水侵食不見改入文。尙無田神寺耳。田租一如令釋。爲師說習耳。其職田亦無租。寺云。師說。令釋。種師說者。（若令釋種師說者）作（亦）。令云（田）論無租所定。更不可有別式也。古記云。神田條。不在收授之限。謂收而不授者也。一云。神田餘者不收欠加。寺田雖欠乘。不在收加之例。問。神田寺田輸租以不。答。並輸。各入本主。問。神田寺田聽賣買以不。答。寺田聽賣買也。神田不合。私此云（文□）。在田有定。□條下。案之。古令。神田寺田別立條。但不得於此條。新令。省其條。可因此條。仍以事緒相類。爲此條中也。

若以身死應退田

は、神田寺田の事をこの條に併せ、神田の條を省けり。

〔但位田依格一年之後收也〕田令集解、官位解免條に引ける寶龜九年四月八日の格に據りて一年の後に收むるなり。

者。每至班年。卽從收授。穴云。問。未至班年間。死人分田誰人佃食哉。答。不見文。但量心。假父子兄弟貫同戸。一人死者。親屬佃食耳。爲同戸而亦親屬故。但上逃亡條。同戸代輸之。亦如此之類*者同此也。然彼文先爲以家長爲戸主論也。問。位田賜田功田等身死之後。有收退年限哉。答。死年收耳。但位田依格一年之後收也。今案功田依上條耳。朱云。每至班年。卽從收授者。未知。未至班年之間。誰人可得乎。戸內人作食耳歟何。先云。先師說准財物法。可處分者何。

還公田條

凡應還公田。皆令主自量。爲一段退。謂一段者猶一處也。退「者」還也。釋云。一段猶一處。退言還也。古記云。爲一段退。謂一處令爲一段。出彼此惡處取集(進)。而爲段退者不合也。假令。一段謂猶一處也。跡云。應還謂凡田不亂授。但抄出授耳。然至六年。直收死人分耳。令主謂戸主。一段謂一處意耳。穴云。一段謂一處。言一人之分一處爲一段退。其二人以上處。別亦二段以爲一處耳。段訓處也。授田只拔出死人之分。給生益。見此條也。問。死人少而生益巨多。何處分。答。以所在見地均給不足者。隨欲遙授也。假一郡人百人。今可給二段。而百人只給一段。所欠遙授耳。又問。生益多田不足者。男一人各授一段。所殘者隨願遙授。止奏耳。未知。先授口分男。依本得二段。今受口分生益隱首等。猶得一段哉。爲當。通計當郡田均授哉。答。先授了不可更亂也。隨文習耳。事可然。上條論此事也。但又上條本郡無田。謂無死者。生益巨多是也。主謂戸主。其田主死去故。朱云。應還公田者。未知。何色若身死。并逃亡人等口分歟。若然者於逃亡人。何人可稱主。又戸主死者何。答。身死逃亡人等。皆以戸主可云主耳。又戸主死者。戸內人宜量還耳。問。犯流徒口分田還官不。若可還者。至班田年還不。答。徒人口分不收。但流人田則可收也。上戸逃走條說了。不得零疊割退。先有零者聽。

班田條

凡應班田者。每班年。正月卅日内申太政官。謂京國官司各申也。釋云。京國官司申耳。今行事民部申官。與令異也。問。應班田者。申太政官者。未知。班了者。亦申哉。答。可申官。更可勘也。跡云。申太政官。謂京國司申官則勘造簿授耳。今行事民部一申官。朱云。申太政官者。未知。官任則施行。爲當奏聞何。答。官處分耳者。應班田者。申太政官。謂可申。此在跡穴。起十月一日。京國官司。預校勘造簿。謂校勘田。及應給人數造簿也。穴云。問。籍與班田年行事何。答。戸籍元年十一月造始。二年五月造訖。即同二年正月申班田由。十月一日申官預造。十一月一日始授。以三年二月授訖。然則以當年可授田。始狀申官耳。問。戸籍卷數及造式文具也。未知。於田何。答。造二通。一通送官。一通留國。但不可有別式故。不著文也。案此條。京職官人亦計京戸口分。而造簿幷撿東戸主等。應班口分田耳。又問。於畿内差授班田之時。國司京職各宣同國郡行授班田之事哉。爲當。注可授田戸員。可受田數。送於國而令賜哉。答。國司京職各計授作簿。但至班田之時。國司京職相共量。使（使カ）官授給耳。其京戸生益隱首多。而國内生益等數少。或國内生益隱首多。而京戸生益等數少者。通計所在之田均給耳。不可有差別。問。田圖有送民部哉。答。不見正文。但職掌。有山川藪澤之事。是知地圖在民部。可反。問。官之報。答。及民部令知班田事何。答。不見文。但案令。以給諸田帳入民部。穴云。諸國田也。今行事別也。問。於籍帳有增減隱沒不同。隨狀下推。未知。於田籍何。答。文稱校勘造簿。謂具生益隱首等。與還公田相支度。所造不能知增減也。其知田之增減及荒廢。依青苗簿帳。每年知耳。古記云。預校勘造簿。謂造田文也。跡云。問。以何時籍至民部省。答。至十一月一日。總集應受之人。對共給授。跡云。問。可受之人未知如何。答。戸主也。朱云。每口之田。具不勘知也。倘准人數。可與戸主耳者。二月卅日内使訖。謂班田之事。既連延兩年。悉以

〔田圖・田籍〕田地の圖面と田地の臺帳なり。唐に於いては、戸籍にその戸に班給せる田地の分量及び所在を記載せしが、我が國に於いては別に田籍なるものを作成せり。民部省に備へられたる百姓口分田の田圖田籍は今に傳はらずと雖も、私墾田の田圖田籍は正倉院に

傳はれり。大日本古文書、卷四に收められたる東大寺開田越中國射水郡榠田野地圖及び東大寺越中國諸郡庄園總券は即ちその一例なり。世に民部省圖帳と稱するもの在るも、その僞物たることは先輩學者の既に論ぜるところなり。類聚三代格、卷十五、校班田事には、自今以後、田圖を留めて田籍を除くべきことを命ぜる弘仁十一年十二月廿六日の官符見えたり。

〔青苗帳〕田地の賃租の狀態を明かにする爲めに、各戶の現に佃作せる田地の面積所在を注記せる帳面なり。靈龜三年五月、初めてこの帳を作り、養老元年八月以後は、これによりて納租を勘せり。類聚三代格、卷十二、諸使幷公文事には、青苗帳の作製を勵行せしむべき承和九年六月九日の格

兩年總爲班田年。依上文。云每班年。即知以先年爲班田年。古記云。十一月一日。摠集對共給授。謂此不名爲初班之年也。二月卅日內使訖。謂此名爲初班年也。其收田戶內。有合進受者。謂以死人分。取生益分聽之。問。籍六年一造。田六年一班。未知。同年造班以不。答。造籍之後年。造田簿給授。同年不可得。爲依籍造田文故也。假令。籍今年起十一月。來年五月內使訖。即田文此年起十月授造。又來年二月卅日內使訖。穴云。問。上條田六年一班。假給之人所佃年限。元年班。六年滿限。即六年十一月始授。七年二月授了。三月始佃。即每人所佃可六年。然則令文云。每班年正月申官。來年二月給訖。案之。元年班。至六年足限。七年可始給。依文每班年者。即七年正月申官。八年二月授了。即計人別所佃年數。總七年靜勘。今案元年正月申官。起十月一日授(校カ)勘造簿。至十一月一日始給。二年二月給了。至七年正月申官。十一月一日始給。八年二月給了。然則每人所佃六年。造簿年限亦如之。或云。問。六年一班。計年何。答。元年正月起。二年二月卅日畢。然後七年又給耳。未明。此說在跡後。

授田條

凡授田先課役。後不課役。先無。後少。先貧後富。謂此條。具依八戶明意。假有甲是課戶而無田。乙亦課戶而少田。丙亦課戶而家貧。丁亦課戶而家富。戊是不課而無田。己亦不課而少田。庚亦不課而家貧。辛亦不課而家富。則依甲乙丙丁戊己庚辛。爲先後次耳。釋云。此條具依八戶明意。假有甲是課戶貧而無田。乙亦課戶富而無田。丙亦課戶貧而少田。丁亦課戶富而少田。戊是不課戶貧而無田。己亦不課戶富而無田。庚亦不課戶貧而少田。辛亦不課戶富而少田。則依甲乙丙丁戊己庚辛爲先後次田。先後者。先給後給也。此則先至人者。經日辛苦後至人者爲勞不久。故依此義給耳。然則先給課口之田。後給不課之田。至於善惡均量給耳。古記云。先課役 謂有課者。雖富猶先給。有課役者也。大例從文次給。餘皆放此。先無謂初班年五年以下不給也。後少謂崩埋口分損也。案田者取無人之分。給有人。然則抄給摠不合收授可知也。穴云。此條凡廣。論授田之體。非立町田所云也。言一郡內摠計所退田。論應受人之課不所授耳。

見え、延喜主税式には、青苗簿の樣式見えたり。

〔田文〕田籍田圖のことなり。後世田文と稱するものは、庄領公領の田地の種類面積を注記せるものにして、數個の田文を取集めて大帳簿となしたるものを大田文と云へり。貞應二年の淡路國太田文、文永二年の若狹太田文等今に存せり。

〔經本部〕國司國衙の令なり。

〔上田・中田〕令に田品を分って、上田、中田、下田、下下田の四等とせり。延喜主税式に據れば、上田の獲稻は一町に五百束、中田は四百束、下田は三百束、下下田は百五十束なり。

間。古令云。其課田戸内有合進受者。雖不課役先聽自取。有餘收授者。今國家令省其文。未知。何處分。答。上條云。當家之内。有口分應受者聽迴給者。然則於是令。亦雖不課役。先聽給當處也。今師說云。猶先給課役也。朱云。先課役後不課役者。未知。於官戸家人奴婢等。何作次第。又此條只人作次第賦。以戸作賦何。答。只戸口可作先後也。問。因ヵ對戸主。雖田給。必田籍可明課口不課口數者。

交錯條

凡田有交錯。兩主求換者。謂。錯猶雜也。假令。甲處田一町。乙處田一町。二人中分。各得其半。即於二人。各求一處。全得一町之類也。釋云。假令。一處田一町。兩人中分得。又一處一町亦中分。此各求得全一町也。古記云。田有交錯。兩主求換者。謂一處上田一町。二人各給中分。一處中田一町。先二人亦各給中半。二人情願不論上中下。一處全作者。判聽除附。朱云。貞云。兩主求換聽。謂差ヵ田籍年求換者。經本部判聽除附。謂除附於田簿也。穴云。判聽除附。未知。進官田簿之後。求換者。猶更聽除附哉。若聽除附者。申官之帳亦改正哉。僞當國詳處分不申官哉。答。未進官田籍之間也。已進之後不合。少乖文例。可檢。

官人百姓條

凡官人百姓。並不得將田宅園地。捨施及賣易與寺。謂。捨施者猶布施也。賣易者賣及貿易。但依文。奴婢牛馬等。不在禁限。釋云。捨施猶言布施耳。施者絕智反。與寺謂捨寺也。古捨施而捨。及賣易而捨也。官雖賣得不禁也。古記云。捨施謂布施也。不得賣易與寺。謂賴賣易也。限一年賣買非也。僧尼與寺一種也。宜不得私賣園宅哉。穴云。捨施謂布施。其以家成寺事亦不得也。釋及守者。賣易二字亦爲入寺也。但寺家之賣百姓者不禁。後定。官人入寺田宅者不許賣與私家。是官物故也。神田亦同。問。依僧尼令。奴婢牛馬及兵器不得充布施。未知。於此令何。答。彼條爲僧尼生文。此條爲寺立文。然則奴婢牛馬等捨施無禁。且釋。彼條猶違處。賣買不聽充。此條亦同。賣買。然則兩令互爲同。賣物。兩條豈有別乎。所人

〔雜戶以下皆可給也何者不可下於奴婢故〕これ一種の勿論解釋なり。奴婢すら口分田を給せらる。況や奴婢よりその身分上等なる雜戶、陵戶、品部等に於いて口分田を給せられざる事あらんやとなり。

〔但今行事賤十二年以上給之〕この今行事は、即ち養老の格制によれるなり。類聚國史、卷百五十九には、「元正天皇

田宅等。科罪之後追還爲元（无）違法也。跡云。不得賣易與寺。謂百姓買得寺田園者不禁。捨施奴婢牛馬兵器者不禁。但於買寺田園者。師說云。爲寺國王奉入者不得賣買。神田亦如之。朱云。貞云。弓矢（箭）兵箭（器）亦不得與。何者不許與僧尼之故者。問。文云。百姓者未知。家人陵戶雜戶等何。

官人（戶）奴婢條

凡官戶奴婢口分田。謂此不稅田也。釋云。師說云。亦是不稅田也。與百姓異也。穴云、官戶奴婢不輸租。朱云、官戶家人等。如良人五年以下不給何。與良人同。家人奴婢。隨鄉寬狹。並給三分之一。謂其寺奴婢者。不在給例（限）也。釋云。師說云。寺奴婢者法無口分田也。穴云。田租及寺家人等。田并放令釋也。家人奴婢可出租。陵戶亦可出租。問。官戶奴婢及家人奴婢等。有給園地乎。又陵戶給田園等如何。答。雜戶陵戶官戶奴婢等。不見給園地之事。但陵戶給口分田如良人耳。奴婢令有資財。爲徵贓贖故。但律稱學家有人「有脱カ」可資財者。爲言不併（行）計法之*生文。朱云。貞云。家人奴婢口分田之租。准良人出者。問。雜戶陵戶品部等何。給口分田不。答。雜戶以下皆可給也。何者不可下於奴婢故。但租可出者。未明。放良人不可給五年以下者何。問。於官有家人哉。何者罪人之家人奴婢。沒官之日何可名也。答。沒官之日則爲官戶也。在跡後。未明。此問古記云。問。家人奴婢並給三分之一。未知。寺家家人奴婢如何處分。答。無給之法。但從來有田寺者。不在給限。唯無田寺臨時量給耳。並給三分之一。謂家人奴減男。家女婢減女也。問。家人奴婢六年以上。同良人給不。答。與良人同。皆六年以上給之。但*今行事。賤十二年以上給之。

爲水侵食條

凡田爲水侵食。謂食猶壞。言爲水侵壞也。釋云。田爲水侵食。猶言侵害耳。古記云。侵食謂侵損也。不依舊流（派）。新出

養老七年十一月癸亥。令天下諸國奴婢口分田授十二年已上者。とあり。

〔闕官田〕闕職田と云ふに同じ。闕官となれる

之地。先給被使之家。謂新出之地堪佃者。不待班年給被使之家。若別縣界出者非也。自家以上。釋。無別也。古記云。新出之地。謂舊川地。此云者。獨口分田。若新出之地。可堪佃食者。先以使損家給之。若有欠者。至班田之年。以公田加給之。八十一例云。川崩埋田。不待班年。以乘田加給。問。墾田被使食者。如何處分。答。以新出之地先給。唯有欠者。更不加給。問。神田寺田若爲處分。答。神田有欠者加給。寺田不合。但已被使者並給耳。皆以新出之地。本主給之。穴云。新出地。謂一郡之內所出也。隔越者隨故耳。問。新出地。有相去遠近哉。答。務從便近。若佃食不便。豈有何用耶。問。數人共使食何。答。亦准田寬狹所在均分給。但不過被使食本田也。問。何爲墾田給口分哉。答。新出之地。負公水者。皆爲口分。雖新出地。私開井溝造食者。爲墾田也。先給謂未至班年先給是。問。此條先爲口分。未知。職位田功田等何。答。有新出地者亦給。若無者。以乘田給耳。問。此文稱被使一色。未知。溝井崩埋無由佃者何。答。至班田之日給耳。此文。爲新出地先給生文耳。古私記。以乘田給者。八十一例文非令志也。問。功田溝井崩埋。及爲水使食。無新出之地者。爲替給哉。答。有新出地。可爲代給。若無者不見代給文。依時處分耳。賜田亦如之。跡云。新出謂被損之田相代出地。但至他所而新出所者。皆公取耳。凡新出之地。不盡勞而安得佃食者。則成口分耳。盡強力而開墾者。是私治田耳。寺田神田墾田被使食。更不給代。朱先同。未知何。園地被使有新出地替給耳。朱云。先給被使之家者。未知。地多少不論。皆給。爲當。但充損田數給何。答。相准損田可給者。先云。師說。雖不有使食墳地荒壞不堪修治。無木田者與無田不異也。至班田時可給代者何。

荒廢條

凡公私田荒廢。謂位田賜田及口分田墾田等類。是爲私田。自餘者皆爲公田也。釋云。口分〔田〕墾田等謂之私田也。乘田謂之公田。穴云。公謂上條乘田也。其寺神田。畢狀亦可爲公田也。自餘雜色田皆爲私田。雖職位功田。若盜作自苗子謁官。主者可云主故。今師云。諸田亦准私田。闕官田爲無主故。若有借佃者。約公田處。三年以上。有能借佃

職田は公田の一部なれば、これを賃租し、その租は正稅に混入せり。天平十二年の遠江國濱名郡輸租帳には、「陸町。闕郡司職田。」とあり。又延喜民部式には、「凡畿外諸國。無主職田者。每レ有ニ其闕一。式部省移ニ送主稅寮一。納ニ其地子一。混ニ合正稅一。」と見えたり。

〔雜色田〕職田、位田、賜田、射田、采女田、驛田、諸司田等種々の田なり。

〔開佃功〕田地を開墾する勞力なり。

者。經官司判借之。穴云。問。荒廢之田。聽國司借佃哉。答。不可聽也。非空閑地之故。縱有任土人亦不許也。問。荒廢二年以下有借佃者何。答。有催課文。無禁留文。然則借佃者聽。但不依三年六年還法。當年之後還官主。問。口分田及雜*色田等。荒廢經年序。未知。以幾年退代哉。答。依荒廢不合退代也。但溝井崩失。不得耕作者。換班給也。爲與被使水無殊也。朱云。荒廢三年以上。謂注官帳。未注並同者。未知。凡計三年。自不佃年初計不。又注官帳。何以所知。答。每年可勘治田之熟不也。而則自不作年始可計三年。問。若三年之後。將田主佃者雖有借人不與何。答。雖有借人不免耳。未。古記云。荒廢三年以上。謂堤防破壞不堪修理。仍有能修理佃者。判佃之也。主欲自佃先盡其主。謂他人先請願佃。經官司訖。後主聞他人佃。而未申自佃者。縱雖後申猶令主佃。開元令云。令其借而不耕。經二年者。任有力者借之。卽不自加功。轉分與人者。其地卽廻借見佃之人。若佃人雖經熟訖。三年之外。不能種耕。依式追收。改給也。荒地謂未熟荒野之地。先熟荒廢者非。唯荒廢之地。有能借佃者判借耳。**雖隔越亦聽。**謂假如。甲郡人。欲佃乙郡田「者」聽也。跡云。雖隔越謂國內之人耳。若他國人願借佃者。申官聞處分耳。穴云。雖隔越亦聽。謂所部一國之內是。朱云。雖隔越亦聽。謂國內人也。若越國界。申官聞處分者。**私田三年還主。公田六年還官。**謂雖班田年。未滿限者。不合收。其限內者輸租。限外者輸地子也。釋云。雖班年而。未至三〔年〕六年之間者。不收也。案三年六年之間。可出租也。穴云。其死者田並闕官田三周六年間。班田及新任人來不可取收。爲有開*佃功。但新任人無田之狀申上司耳。朱云。私田三年還主。公田六年還官者。未知。職田位田功田賜田等。爲私田。爲公田何。凡此田亦聽判借不。答。皆可爲私田也。此亦可判借者。**限滿之日。所借之人口分未足者。公田卽聽充口分。**謂不待班年卽授也。釋云。是亦不待班年而授也。或說。待班年而授者非也。跡云。聽充口分。謂主班田之

〔[illegible]〕

〔開元式〕これに開元七年式と開元二十五年式の二あること、開元令に二あると同じ。律令格と同時に撰定せられたるものにして、その撰者また律令格の撰者と同じ。二十卷、三十三篇より成る。

時據給耳。未審。又大寶令何。但自依未墾之間。合輸地子。但租自始佃年。皆合輸也。穴云。先口分謂當班田之年。若未至班年。待至年而從收授也。跡同之。但令釋異說云。不待班田之年而可給。可檢是非也。朱云。自佃年初出租。但墾了不佃者。未知。而於田主無得何耳歟何。答。然者也。**私田不合。其官人於所部界內。有空閑地願佃者。任聽營種。**謂官人者。國司。若只土人任爲國司并郡司。及百姓等營種者。即永爲私田。跡云。謂公謂郡司百姓并土人任國司。而爲公驗開墾者。永爲私財耳。穴云。官人謂國司也。餘司。跡云。聽營種者。所謂墾田是。但爲非土人故還公。問。只土人爲國司而替解之日還公哉。答。不可還耳。抑可案也。師云。尚可還公也。問。三六年、及任內佃食田租何。答。私田及墾田輸租。然田於空閑地輸租無疑。於公田亦輸租。不稅之田。上釋記故也。還官之後。賃債。租如上條。凡人有於他國空閑地者非。當國所處分也。私申官待報也。朱云。文稱官人。未知。史生何。私案。此亦同歟。何也。又文稱任聽營種。而國司不經官何。先云。然也。但可經國條也。替解之日。還公狀可申官者何。貞云。土人任國司部內。及墾[illegible]者。貞及不同也。古記云。任聽營種。謂告國官知之也。**替解之日還公。**古記云。替解日還官收授。謂百姓墾者待正身亡。即收授。唯初墾六年內亡者。三班收授也。公給熟田尚須六年之後收授。況加私功。未得實哉。舉輕明重義。其租者初耕明年始輸也。開元式[illegible]云。其開墾地。經二年收熟。然後准例。*養老七年格云。其依舊溝墾者。給其一身也。新作堤防墾者。給傳三世。但國司不合。*天平十五年五月廿七日格勅。如聞。墾田緣養老七年格限滿之後。依例收授。由是農夫怠倦。開地復荒。自今以後。任爲私財。無論三世一身。悉咸永年莫取。其國司在任之日。墾田一依前格。但人爲開田占地者。先就國「司」申請。然後開之。不得因茲占請百姓有妨之地。若受地之後。至「于」三年。本主不開「墾」者。聽他人開墾。其親王一品及一位五百町。二品及二位四百町。三品四品及三位三百町。四位二百町。五位一百町。六位以下八位以上五十町。初位以下至于庶人十町。但郡司者。大領

少領卅町。主政主帳十町。若有先給地數過多。茲限便即還公。新作（詐カ）隱欺。如法科罪。國司在任之日。墾田一依前格。

競田條

凡競田。判得已耕種者。謂既種殖訖也。釋云。殖訖謂種也。跡云。種謂已散殖。「苗脫カ」下未散種者爲未種也。朱云。競田謂口分田職田位田等竝同者。雖苗下未殖。猶爲未種者。穴云。此文論墾田也。後雖改判。苗入種人。謂當年田直者。入改判之人也。穴云。改判謂先經郡司。與甲乙陳國府。更改判之類。苗入種人。謂其年直者。入改判之人。爲佃他田故。但積年之直不還。爲經判斷佃。亦不可同律盜耕之積年苗子故。問。還値理具分析。答。當改判理須佃改判之人。而因已忿（怨）耕種。前人只還直於理有何妨乎。但已收秋訖者。並狀與去年不殊。以此比論。不還直爲得也。此云未究。古記云。後雖改判。苗入種人。謂苗而未蒔殖者。苗令取。若有殖訖者。亦刈種人雖得改判人者。酬其地直者。問。改判如何其意。答。先經郡。郡司判與甲。乙不伏。申國。國判與乙。如此改判中間耕種耳。朱云。苗人種人者。但田直可送田主也。未知。若經年佃者。年別田直可還哉何。耕而未種者。酬其功力。未經斷決。強耕種者。苗從地判。跡云。上文後雖改判。苗入種人者。而得地之人強竊刈。或。此文強耕種者。苗從地判者。而種人強竊刈取者。合科盜罪也。朱云。人種人。竝從地判。色（已カ）竊刈取者。科竊盜罪也。強刈取者。科強盜罪者。未明。或云。徵倍贓者。未明。苗從地判者。未知。經多歲者。徵積年苗子哉何。答。然者。穴云。苗從地判。若未耕種　只時苗間事發。亦其苗從地判也。其既經判斷。強耕殖者。依律科斷。問。未經斷決強耕種。已刈取後。乃斷定。未知苗子何。答。私案。亦從地判。還本苗。不依盜法。但斷決之後刈者。正倍一依盜法也。古記云。苗從地判。謂已雖殖訖。猶得地之人刈取也。

〔養老七年格〕有名なる三世一身の法なり。續紀、養老七年四月辛亥條に「太政官奏。頃者。百姓漸多。田地窄狹。望請。勸課天下。開闢田疇。其有新造溝池。營開墾者。不限多少。給傳三世。若逐舊溝池。給其一身。奏可之。」とあるもの、即ち之なり。

〔天平十五年五月廿七日格〕この格、類聚三代格、卷十五、墾田并佃事、續紀、卷十五、法曹至要抄、卷中に見えたり。

〔種人強竊刈取者合科盜罪也〕賊盜律に「凡山野之物。已加功力。刈伐積聚。而輙取者。各以盜論。」とあり。

〔其既經判斷強耕殖者依律科斷〕戶婚律、盜耕公私田の條に據りて、科斷すべきものなるべし。

〔古記云公廨田不輸租〕大寶令に於いては、在外諸司の職分田を公廨田と稱したるものゝ如し。古記所下に「公廨田職田其別如何。答。一種也。」と云へること、及び天平八年薩摩國正稅帳に「依公廨食法、月別充三升食稻」」と云へることは、即ちこの事を想定せしむ。

〔事力〕大宰及び國司に給はる力役の丁にして、中中戸以上の戸より一年交替に取り、庸を免じて大宰官人及び國司の私用に驅使せしむ。その實際防令に見えたり。

〔射田〕射藝を奬勵する財源に充てる田地たり。天平十二年遠江國濱名郡輸租帳に之を名見えたり。延喜主税式に據れば、不輸租田なり。

〔國造田〕國造に賜へる職田なり。不輸租田の中に數へられたり。

在外諸司職分田條

凡在外諸司職分田。古記云。公廨田不輸租。問。國司公廨田以誰人作。答。役事力作也。大宰帥十町。大貳六町。少貳四町。大監。少監。大判事二町。大工。少判事。大典。防人正。主神。博士一町六段。少典。陰陽師。醫師。少工。筭師。主船。主厨。防人佑一町四段。諸令史一町。史生六段。大國守二町六段。上國守。大國介二町二段。中國守。上國介二町。下國守。大上國掾一町六段。中國掾。大上國目一町二段。中下國目一町。史生如前。

郡司職分田條

凡郡司職分田。古記云。輸租也。射田國造田采女田亦同。問。公廨田職田其別如何。答。一種也。朱云。凡於法之職郡司不見。不可得田者。大領六町。少領四町。主政。主帳各二町。狹鄕不須要滿此數。古記云。問。狹鄕皆隨鄕法給。如何其意。答。准百姓口分之例增減耳。問。公廨職田。當國郡無田者。遙受以不。答。亦受。跡云。狹鄕不須要滿此數。未知其意。答。與百姓口分。共相折給耳。穴云。狹鄕不須要滿此數。未知。欲遙受者聽乎。答。可聽。今（令）師云。不聽也。

〔釆女田〕釆女の養料に充てる爲めに、官田の一部を割いて設けられたる田地にして、不輸租田なり。

〔驛起田〕伴信友の比古婆衣は、驛起田は驛を創設する費用に充てる爲めの田にして、驛田は驛務を取扱ふ費用に充てる爲めの田なりと云へり。然れども兩者の間に斯かる區別ありしにあらず。驛起田は大寶令の稱呼にして、驛田は養老令の稱呼なり。その證據には、養老令の施行以前には、驛起田ありて驛田なく、養老令施行以後には驛田の名ありて驛起田の名なし。

〔養老八年正月廿三日格〕この格、類聚三代格に見えず。但し延暦交替式及び政事要略、第五十三には、民部省例としてこの格文引かれたり。

朱云。狹鄕不須要滿此數。謂率百姓口分減數折者。問。狹鄕不足分田聽寛鄕遙受。又本郡專無田之類(數)等如何。答。不足分田。更不給者。未知。而者本郡無田專不給耳歟。何。私案。欲受者如百姓聽遙受哉何。

驛田條

凡驛田。皆隨近給。 古記云。不輸租。問。驛起田田置隔郡不。答。亦置。朱云。雖人便宜先驛給也。驛田必驛可作者。先云。以驛戸人可作者。未明何。 **大路四町。中路三町。小路二町。** 釋云。大路使屢經過之處。以使稀少爲中少耳。朱云。定大中少路者。可依式者。

在外諸司條

凡在外諸司職分田。交代以前種者。入前人。 謂大納言以上職分田。亦准此例。但闕官田者。不在准(此)例

釋云。養老八年正月廿三(二)日格云。凡新任外官五月一日以後。至任者職分田入前人。其新人給糧「料」限來年八月卅日。若四月卅日已前者。田入後人。功酬前人。卽糧料限當年八月卅日。穴云。郡司終身之任「也」。不合有交代。故郡司者不云者。問。大納言以上職田何。答。亦放此。但作令日。不云内官者。條内多論在外事故也。問。於京官。以何日爲交(受)代日。答。以任官日耳。若於任符給「之」(行)訖。一如外官也。跡云。謂依任符至日爲限。若同符有二人。相代而一人種訖。一人下苗而未種者。已種人「者」得。未種「之」人不得耳。但今官符云。四月卅日内至者。入後人。五月一日以後至者入前人者也。朱云。在外諸司職分田。未知。郡司職分田何。同不。答。郡司長任人也。不可云交代。故不入此文者。先云。但唯(准)此文。雖死亡犯罪解。但前種者入前人也。未種死亡解任者。後人可得者何。問。交代前後依何可定。答。以任符至爲定耳。明知代之故也。大納言以上得職田等亦准此條者。遙授國司不可得職田者。古記云。交代以前種者。謂已殖訖也。蒔種者入未種例也。分佃謂賣與他人也。問。公廨職田者名(有)(各)其理若爲。答。外官食料給田謂之公廨田耳。 **若前人自耕未種。後人酬其功直。闕官田。用公力營種。所**

〔補注〕賦役令に「凡令條外雜徭者、每人均使、總不レ得レ過二六十日一」とある。

〔和銅五年五月十六日格〕この格、類聚三代格

有當年苗子。新人至日。依數給付。謂公力者雜徭也。當年者自正月至十二月也。假有前人後年正月判任者。去年苗子、不可更給也。釋云。用公力雜徭之類也。當年猶言一年也。假令。正月判任者。去年苗子依數給耳。案釋當年。即知去年苗者不合也。跡云。當時官田用功力營種。新人至日。功力相折耳。當年謂假令元年各被召。而二年春十之類。不合給也。穴云。問。國官田用公力營種。所有當年苗子。新人至日依數給付者。未知。給前人之間。可折公力之代哉。答。須折所用官物之代耳。問。大納言以上闕官日何。答。不同此例。宜爲公田賃之租也。謂司職田亦准此。十二月以前。爲當年也。問。令釋云。當年猶言一年也。假令。正月至任者。去年苗子依數給耳。不知誰是。答。以十一月以前爲當年。然則正月至任者。不可給付。非當年之故。朱云。以公力營種謂、是營用正役者。未問。或云。色雜徭之故。可食私粮也。當年苗子者。未知。積年苗子可爲何物。答。爲官物耳。依數給付者。未知。折取功力分給乎。答。不折。令全給也。法所許故也。反。當「年說」。苗子依數給付者。謂十二月內至任者。可給也。正月者不給耳者。違令釋耳。京官田蘇闕。用功力不營種者。問。史生職田料。同不。先云。同。何。古記云。依法給之。謂史生田六段。應得稻三百斤、遣米十五斛。計一年三百六十日。即一日料、四升六分之一充此。是依法給之。但充外餘者。成官物及公廨等物耳、其郡司不在給例。問。闕官田用公力營。未知。用何。答。玄謂用公力。不雜役人夫。則知以官物作也。一云。役雜徭也。問。會去草年苦爲處分。答。無事耳。一云。請辭云。國司公廨田。若不得論不得而給也。

外官新至條

凡外官新至任者。比及秋收。依式給粮。謂秋前至任。年實未收。故比及秋收。量給公粮。假如。中國守職田二町。准稻當一千束。其任守。六月判任者。准計年內所殘六月。即給稻五百束之類也。釋云。外官者至任者。以任符可爲新至也。比及秋收。依式給粮者。和銅五年五月十六日格云。國司巡行部內。將從次官以上三人。判官

以下二人。史生一人。並食公廨日米一升。酒一升。史生酒八合。將從一人米一升。酒五合。寶龜二年六月廿日格云。充新任國司公廨。宜停巡行之法。依公廨賜之。自今以後。永爲恒例。前令云。比及秋收。量給公粮者。仍准量如右。〔其流(疏說)曰(日)〕准量公廨田之町段多少。計折到任日月耳。假有中國守。料田二町。准稻當千束。新任國守六月至任者。准計年內所殘六月。即給稻五百束之類。比近也。比音卑履反。見左傳杜預注也。穴云。前人充(交カ)代以前種者。比及來年秋。給粮耳。師同此說。私案。律意雖可有公廨物。秋之後依式給其物。不待來年。古記云。量給公粮。謂上條一種依法量給耳。朱云。依式給粮。謂別式也。至秋收不得其分也。問。史生同不何。先云。同也。又以正稅可給者何。*大同三年六月六日格云。停止給新任國司等公粮事。右西海道觀察使大宰帥從三位藤原朝臣繩主奏偁。准*延曆廿五年三月廿四日令旨。新任國司初到任所。未給公廨。費用乏少。宜各准公廨四分之一。借貸正稅者。然則新任之用。以此足矣。而依舊給粮。於事重疊。望請。當道公粮。永從停止者。右大臣宣。奉勅依請。自餘諸道(國)亦宜准此。

置官田條

凡畿內置官田。 謂畿猶境也。言王畿之內「也」。「其外方五百里男畿。其外方五百里曰采畿。其外方五百里曰衛畿。其外方五百里曰蠻畿。其外方五百里夷畿。其外方五百里鎭畿。外方五百曰蕃。鄭玄曰。畿猶限也。自王城五百里爲界有分限者九也。毛詩。邦畿千里。傳曰畿疆也。尙書大傳曰。畿者天子之境名也。渠依反。周禮。大屬曰。以九畿施邦國之政方千里曰畿。其外方五百里曰侯畿。其外方五百里何畿。*釋云。案王圻之內也。毛詩傳曰。畿疆也。音渠希反也。穴云。御稻。產田謂之官田。古記云。畿內置長(屯)田。不輸租。長(屯)田。謂御(稻)田。供御造食料田耳。朱云。問。官田出租不。先云。不可出者何。**大和攝津各卅町。河內山背各廿町。每一町配牛一頭。** 跡云。問。牛一頭何色牛。「答。牧牛」耳。穴云。跡云。牛者牧之耳。師同之。朱云。問。牛一頭者何色牛。答。廣官物之牛耳。後度反云。牧牛耳者。**其牛令一戶養一頭。** 謂養牛之戶。免其雜徭也。穴云。養牛戶。量狀免一二人之徭也。朱云。問。一戶養一頭者。若此戶內雜徭皆免不。答。免養人一人徭也。皆不免者。未明也。釋達。亦心不安。先云。臨時量功。一二人可免者何。謂

格、卷六の貞觀八年十月八日の格中に見えたり。

〔古記云量給公粮〕前に引ける令釋の文に「前令云。比及秋收。量給公粮者。」云々とあり。古記に引ける條文が古令の文なること、之によりて明證を得たり。

〔大同三年六月六日格〕この格、類聚三代格、卷六、公粮事に見えたり。

〔延曆廿五年三月廿四日令旨〕この格、類聚三代格、卷十四、借貸事及び日本後紀、卷十三に見えたり。

〔屯田〕大寶令に於いては、官田を屯田と云ひしなり。これ官田が上代の屯倉の遺物なるが故なるべし。屯倉をミヤケと訓むによりて察すれば、屯田はこれをミタと訓みしものならん歟。

「慶雲三年格」この格、類聚三代格に見えず。

「神護景雲二年二月廿八日官符」この格、類聚三代格に見えず。

中中以上戶。釋云、定戶品第、待式處分也。其戶內雜徭免之。慶雲三年格云、一戶之內八丁以上爲大戶。六丁爲上戶。四丁爲中戶。二丁爲下戶。一丁未在計例也。今行事、三丁以上家富堪養者充。臨多丁家貧者不充。穴云、中中以上、謂據日多少、其上條爲三等。此條謂九等。兩種依文耳。跡云、至中中者以人數可定之。朱後反之末見可依式者。古記云、注中以上戶、謂計丁數定之。今行事、三丁以上戶遣云、家富堪養者充。臨多丁家貧者不充也。其戶內雜徭免。慶雲三年格云、一戶之內八丁以上爲大戶。六丁爲上戶。四丁爲中戶。二丁爲下戶。一丁不在計例也。

役丁條

凡官田應役丁之處。穴云、丁謂雜徭。畿內無役故也。每年宮內省。預准來年所種色目。及町段多少。依式料功。中官支配。謂色目者、稻白黑爲色也。稻名爲目也。依式料功者、式別式也。料者量也。支配者、支支度也。配當也。釋云、色目稻白黑、謂之色也。稻名謂之目也。依式料功、式別式也。說文、料量也。音力條反。中官支配、支支度也。配猶配當也。古記云、色目、謂稻白黑之色。目謂稻之名也。依式料功、謂作一町人功。若干定申也。朱云、中官支配、謂於田事量可無忘申耳。則無申明人也。則收後亦可申官也。支配者官之支配耳者。其上役之日。國司乃〈仍〉准役月閑要。量事配遣。謂以雜徭充使其事也。釋及古記共云、充雜徭驅使也。又釋云、要月差多丁戶。閑月差少丁戶之類。朱云、准役月閑要量事配遣者、假量百日役者、要月者役五日、閑月者役十日之類耳者。私問。而此說少違令釋意哉何。其田司。年別相替。謂宮內省、並管內雜任。令掌其事。是爲田司也。釋云、宮內省並管內雜任、令掌其事、名云田司。神護景雲二年二月廿八日官符云、*營造官田、令當時長官一人、主當爲佃。町〔長〕別定稻五百束也。古記云、其長官謂宮內省所管諸司制部使部等。省判差遣也。穴云、田司、

謂使部。此從古說。習爲師說。跡云。其田司年別相替。謂宮內省內所管雜色人耳。

年終。省校量收穫多少。附考褒貶。穴云。問。收田訖。是考月之後。又京官畿內十月一日考文。申送太政官。未知。附考何。答。此文爲來年考也。爲不。私案。考課令云。本司考訖後。省未校以前犯罪斷訖。准狀可解及降下(貶降)者。附校。有功可進亦如者。然則當年所褒貶耳。非論來年考。跡云。問。校量收穫多少附考褒貶者。假令。十月未收穫者。京官畿內考者。十一月一日考文申送太政官。未知。附來年考哉。附當年考哉。答。本司考訖以後。省未校以前。犯罪斷訖。准狀合解及貶降者。仍「卽」附校者習此耳。朱云。問。定多少何。答。足常數爲多。不足爲少耳。私先不同也。依考課令足常數者。可與中考也。爲多別不可與上考耳。附考褒貶。謂附來年考者。後反了。未明。若依考課令。省未校前者附勘何。或說。皆追附耳。見考課令者。貞同也。

令集解卷十二

本云 文應元年十月四日見合本書加首書訖　　員外宰相藤 在印

建治二年四月四日引合正親町本校合了

右清家秀賢之本申請令寫之一校畢了

寬永甲戌初冬　　大府侍郎中原職忠

萬治三庚子臘月下旬令一校畢

右令集解河村秀興先生之藏本寫之者也

明和四年季秋日　越智通非印

明和戊子孟夏一會了

安永三甲午五月十九日一會了

文政三年夏五月以水戸彰考館本比校

檢按保己一

右令集解油小路前亞相隆貞卿本令恩借自去秋命人令寫之手親加校合至于元祿四年三月八日終功了　式秀

連々校正加點了尚不審繁多吁嗟天假數年重加校正而已

享保三年孟夏十一日　五十九翁源式昭

令集解卷十三

賦役一　始條以下、「遭」父母喪免朞年徭役條以上。

賦役　謂賦者斂也。調庸及義倉。諸國貢獻物等爲賦也。役者使也。歲役雜徭等爲役也。釋云。說文曰。賦斂也。釋兒職員令。役使也。謂賦斂「役」使令耳。跡云。從人身輸「役」所。總曰賦。役身曰役皆與課役同耳也。穴云。賦斂也。言百姓所出之物官斂藏耳。土地所成進公之賦。從此令奧所所加。讚博士云。讚云。賦役令。尙書曰。其賦惟上上錯。注云。賦謂土地所生以供天子也。說文曰。賦斂也。謂賦斂役使令耳。

令第十　凡參拾玖條

凡調絹絁　謂細爲絹也。麤爲絁也。釋云。絹細絁也。絁麤絁也。**絲綿布。**古記云。布補護反。周禮。幷別(州)其利綿(帛)布。野王案。說文。枲織也。**竝隨鄕土所出。**穴云。鄕土所出。謂假一周(國)十郡隨便宜。郡別進所出亦有耳。不必一國限一種也。師依之。朱云。隨鄕土所出者。未知。一郡之內有數鄕。而所出各別者。每鄕出別物何。答。一國內所出各別者。各出別物耳。未知。於一郡內亦同哉何。**正丁一人。絹絁八尺五寸。六丁成疋。**「令諸國所出四丁成疋。每人出一丈五尺幷六丈二尺。*其格可求。」**長五丈一尺。廣二尺二寸。美濃絁六尺五寸。八丁成**

〔其格可求〕上述の今の行事、何時よりはじま

りしか明かならず。その之をはじめたる格を求むべしとなり。

〔養老元年十二月二日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔可至雜令定也〕雜令に「凡度、十分爲レ寸。十寸爲レ尺。一尺二寸、爲二大尺一尺一。十尺爲レ丈。量、十合爲レ升。三升、爲二大升一升一。十升爲レ斗。十斗爲レ斛。權衡、廿四銖爲レ兩。三兩、爲二大兩一兩一。十六兩爲レ斤。」とあり、又「凡度レ地、量二銀銅穀一者、皆用レ大。此外、官私悉用レ小者。」とあり。

疋。長五丈二尺。廣同絹絁。絲八兩。綿一斤。布二丈六尺。並二丁成絇屯端。謂糸十六兩曰絇也。綿二斤曰屯也。布五丈二尺曰端也。釋無別。又云。絇音其俱反。跡云。依文絲一斤曰絇。綿二斤曰屯。與令釋解異也。端長五丈二尺。廣二尺四寸。其望陁布。四丁成端。「人別所出一丈三尺。」長五丈二尺。廣二尺八寸。古記云。養老元年十二月二日格云。調布長肆丈貳尺。闊貳尺肆寸。一丁輸貳丈捌尺。庸布壹丈肆尺。并肆丈貳尺。即以爲端。常陸曝布以三丁成兩端。「人別所出」上總細布長貳丈壹尺以三丁成。望多布長壹丈肆尺以三丁成端。其輸調絁及上總常陸者。以二丁之庸成揩。若輸雜物者。鐵十斤。鍬三口。每口三斤。鹽三斗。穴云。丈尺斤中皆可云小。抑鐵及鹽等斤斗。可至雜令定也。鰒十八斤。古記云。鰒蒲角反。漢書音飲酒啖鰒魚。說文。海魚也。堅魚卅五斤。烏賊卅斤。螺謂蚌之類也。釋云。鄭玄注周禮曰。蚌屬也。音郎果反。三十二斤。煮海鼠廿六斤。雜魚楚割五十斤。雜腊謂割乾魚也。釋云。鱐乾魚也。音所鳩反。古記云。鱐所溜反。周禮。掌共魚鱐。鄭玄曰。鱐乾魚也。一百斤。紫菜四十八斤。雜海藻（菜）一百六十斤。海藻一百三十斤。滑海藻。古記云。藻積道反。毛詩。魚在在藻。傳曰。水菜也。二百六十斤。海松一百三十斤。凝海菜一百廿斤。

雜腊謂全干物也。釋云。腊小物乾也。音私積反也。六斗。海藻根八斗。末滑海藻一石。澤蒜古記云。釋蒜蘇館反。說文。葷菜。音虛云反。禮記。膳於君有葷桃茢。鄭玄曰。葷薑及辛菜。所以辟凶邪也。說文臭菜也。蒜類野蒜。一名葷也。一石二斗。島蒜一石二斗。穴云。島蒜澤蒜等如蒜。取其加夫良。而子細折勞進耳也。鰒鮓一斗。貽貝鮓古記云。貽音餘之反。爾雅云。貽貝。郭璞曰。黑色貝也。鮓莊讀反。說文。藏魚也。南方謂之魿。北方謂之鮓。青列之鹽旨者也。三斗。白貝葅三斗。穴云。白貝葅者取其實。而作之也。辛螺頭打六斗。

貽貝後折六斗。穴云。貽後折者。穿其貝尻。而附貝奈加良。作之也。海細螺一石。棘甲蠃「六斗。」釋云。蠃。音郎果反也。甲蠃六斗。雜鮨謂鮨亦鮓也。釋云。郭璞注。爾雅曰。鮨鮓屬也。音蓍脂反。古記云。鮨旨夷反。音義曰。蜀之人。取魚不去鱗。破腹以鹽飯酒合喫之。重碑其上。熟食之名爲鮨肉。說文。鮨魚賠出蜀。野王案。賠醬類也。或曰鮨也。五斗。近江鮒古記云。鮒狀(扶カ)有反。廣雅。鮒鰿也。鯉似鱭而大也。朱云。問。鮒者鮮鰿。鹽作鰿。答。凡諸物皆宜量不可殘出耳。五斗。煮鹽年魚四斗。煮堅魚廿五斤。堅魚煎汁謂熟煮汁曰煎也。釋云。說文。煎熟煮熬也。音子仙反。案熟煮也。醬類也。四升。次丁二人。中男四人。竝准正丁一人。穴云。次丁二人出鐵三口。若「只」一人者出二口耳。師爲難。其調副物。謂此唯爲正丁。不及次丁中男也。穴云。問。副物〔令〕之志何。答。不知其理。隨文習耳。副物。依文次丁中男不出也。爲

〔養老元年勅〕この格、類聚三代格、卷八、調庸事、及續日本紀、養老[illegible]

副物文。有嫡正丁一人之文下故也。爲長。一説。無役之人不出。何者。爲京畿内調。別生文。又中男。同京畿内。不役者以是。案。無役之徒。不出副物也。於此説。老丁二人副物同一正丁也。殘疾及諸學生侍丁等無役之人。令云。不出副物耳。兩説也。今案。次丁并中男。及雖正丁而無役之人不可出副物。是知。一説各有所據也。朱云。其調副物正丁一人。謂一端輸正丁也。次丁二人亦同。正丁一人可出。丁後反 但中男不可出也。庸不出之故者。未詳。同。或云。次丁亦不出。不〔出〕文云云故者。未明也。同。或云亦。貞跡云。京畿内依文不合輸副物。日〔自カ〕案。次丁中男並不收庸之色等。皆不可輸副物。凡無役之人可知。不輸副物也。釋云。養老元年勅。自今以後宜兩百姓〔之身〕〔人〕副物。及中男正調。其應供官主用度等。物所司在支度年別用度。並隨郷土所出持國役中男進。若有不足中男之功者。即以折役人夫之雜徭。古記云。問。其調副物。正丁一人。皆三兩者。未知。次丁少丁若爲。答。依文。次丁少丁不合輸。但今行事。次丁少丁亦輸也。養老元年格云云。其〔其カ〕在釋云。故不重寫之。**正丁一人。紫三兩。紅三兩。茜**古記云。茜見反。説文云。茜。茅蒐也。野王案。可以染絳人宜所生也。**二斤。黄連二斤。**穴云。此進黄連者。染草料也。**東木綿十二兩。安藝木綿四兩。麻二斤。熟麻十兩十六銖。銖**古記云。菁司甲反。爾雅。菁麻也。野王案。喪服傳。牡麻曰菁麻也。則麻之有子者爲菁也。**十二兩。黄蘗**古記云。博麥反。説文。黄木也。**七斤。黑葛六斤。木賊六兩。胡麻油七夕。麻子油七夕。荏油**古記云。荏而枕反。方言蘇亦荏也。關之東西。或謂之荏。野王案。蘇葉細而香。其實色黑。荏葉大而有毛。其實色白。此二物類是一種。其根不同。**一合。曼椒油一合。猪脂〔油〕三合。腦**謂馬頭中髓也。釋云。腦頭中髓也。音

〔呂氏春秋〕秦相呂不韋の撰するところと傳ふ。二十六卷あり。今に傳はる。日本國見在書目錄にその名見えたれば、當時既に我が國人に讀まれたることを知るべし。

奴浩反。案馬腦也。古記云。腦頭中髓也。髓音先果反。說文。骨「中」之脂也。 一合五夕。柒三夕。金柒三夕。鹽一升。雜

腊二升。堅魚煎汁一合五夕。山薑一升。古記云。薑苦良反。論語。不徹薑食。孔安國曰。菜也。辛而不葷。說文。禦濕之

菜也。 青土一合五夕。穴云。青土者破石取其中。所用倚如彩色。自能登國進之。 橡 古記云。橡辭兩反。*呂氏春秋。秋反。食橡栗也。高誘曰。橡實似栗。廣雅。櫟也。小爾雅。

櫟子爲橡。字書亦橡字也。 八升。紙六張。朱云。問。紙六張者六枚歟。先云。然也。 長三(二)尺。廣一尺。筵柳 古記云。「柳」檉

「也」。勑鳴反。爾雅。亦云。郭璞曰。今江傍赤莖小楊也。 一把。七丁。席一帳。苫一張。鹿角一頭。鳥羽一

隻。謂一隻猶一具也。釋云。說文隻一枚也。音之石反。但此令云一隻者。一鳥調度也。古記云。隻之亦反。說文。一枚也。穆天子傳王萬隻是也。穴云。鳥羽一隻七丁所出。其鳥色不見文。一隻謂若尾羽

有用者。翼尾共爲一隻。 砥 謂磨石也。釋云。孔安國注尙書曰。砥細於礪。皆磨石也。音職雉反。古記云。砥之視反。尙書。礪砥砮丹。孔安國曰。砥細於礪。皆磨石也。 一顆。古記云。顆

曰火反。 二丁。簀一張。穴云。簀鋪設調度也。 三丁。薦一張。古記云。問。席以下無長廣之法如何。答。依別式耳。此條依時之(之)格。改張頗繁。

但故(放カ)當時行用耳。私所放格二條寫於上了。朱云。薦席苦長廣。依別式耳。 十四丁。樽一枚。受三斗。廿一丁。樽一枚。受

四斗。卅五丁。樽一枚。受五斗。京及畿內。皆正丁一人。調布一丈

〔租帳〕輸租帳といふに同じ。延喜主税式に載

三尺。穴云、京畿内四丁之成端也。次丁二人。中男四人。各同一正丁。朱云、京及畿内、皆正丁一人、調布一丈三尺。次丁二人中男四人。各同一正丁者。未知、此文只爲京畿内立文歟何。案可然何。

調皆隨近條

凡調皆隨近合成。謂一郡之内也。釋云、隨近合成、謂成正端也。穴云、問。隨近何。答。或云、一國内合成。或云一郡内合成。未爲長。不通諸郡合成正端耳。後定。以郡合成。而不是正端者。通國内合成也。不依之。跡云、假調皆隨近合成。謂同郡也。國内亦同說非也。朱云、謂一郡内也。不及比郡也。

絹絁布兩頭。及絲綿囊。謂以紙裹兩頭爲囊也。釋無別也。古記云。囊奴郎反。毛詩、于橐于囊傳曰、大曰橐、小曰囊。字書有底曰囊。

具注國郡里戸主姓名。謂若二戸合成者、可注兩戸主也。釋云、戸主姓名者、戸主之姓名也。除眞義解云、無別。跡云、兩戸主相合者、合注兩人姓名。又兩里相合亦爲也。穴云、二三四里人、共合成、各注姓名與、及列須并注、卽聊可依文。國郡司不注姓名。但今行事別也。問。戸主若有官位者何注。答。依文不可注也。兩頭者、今（令）注外端。不注奥端者。此違令（命）歟。答。可然云。但注年號以足爲驗。故時行事。不勞注奥端國郡里戸主姓名耳。朱云、戸主姓名者、問。知戸口姓名不注者。又位不注者。朱云、問。依文。兩頭同注耶者、今行事注。國郡司姓名者、非令心耳。

年月日。各以國印印之。穴云、年月日、謂國勘之國司之日耳。非元輸日也。

調庸物條

凡調庸物。每年八月中旬起輸。穴云、調庸帳、依倉庫令及此條、通稱租帳。不見時限。備載租之。乃申耳。朱云、八月中旬起輸、謂所部

帳を勘すること見えたり。その形式は、正倉院文書天平十二年遠江國濱名郡輸租帳によりて知らる。

〔民部省式〕延喜民部省式上に、これに相當する條文あれど、これ奈良時代の式にして、三代の式にあらず。石川年足が私に撰びたる古式の一部ならん歟。古記に引かれたれば、天平年中のものなるべし。

〔未發之間遭父母喪若爲答不免〕下條に「凡遭二父母喪一。並免二非年徭役一」とあり。本條とこの條文との關係を明かにせるなり。

内出也。**近國十月卅日。中國十一月卅日。遠國十二月卅日以前納訖。**古記云。問。遠近程若爲。答。依*民部省式。近國十七。伊我伊勢尾張參河丹波因幡備前阿波紀伊讃岐近江三野若狭但馬播磨「美作」淡路國也。中國十四。遠江伊豆相模信野越中駿河甲斐飛(々)驒(太)越前伯耆出雲備中伊豫備後國也。遠國十六。上總常陸武藏下總上野下野陸奥佐渡周防石見土左越後安藝長門隱岐筑紫國也。穴云。問。畿内京戸調何處分。答。亦注戸主姓名。及以國職印。々如上。但百姓八月中旬起輸訖。近國十月卅日入官。宜放近國。以十月入期也。或云。以前納訖。答。納京了也。此云在跡後。**其調糸。七月卅日以前輸訖。**謂輸納於大藏省。其自民身輸者。蠶事登即輸。不待七月也。釋云。輸訖謂輸從身納於官訖。穴云。調絲蠶訖。即起輸。七月卅日以前納省訖耳。郡(部)送糸調訖。絁調之國郡司省不見。同人。爲當別人。量便宜行耳。朱云。調絲。七月卅日以前輸訖。謂近中遠國竝同。無別限。而則一國調使二度可有耳。限先納訖。身死者不却還也。文云。以前納訖之故也。後反了。未明。跡云。絲調七月内始輸。竝合納訖。進國司訖也。非進官訖。問。絲調進人。竝近國之義。未知。何處分。私答。猶其理然耳。豈掃(拘カ)於文哉。於身死人有難免。**若調庸未發本國間。有身死者。其物却還。**謂假令遠國十二月卅日以前納。計其路程。應卅日行。若此程内死者。假未發本國。理既須在路。即其物者。不在免限「也」。釋云。假令。遠國十二月卅日以前納訖。路程合卅日。此程内死者不合免。又起請上調。文已造訖後死者申別紙。從大藏省却還也。問。未*發之間。遭父母喪若爲。答。不免。待來年合免。任官鋼*者(符)隨到即免。古記云。問。未發本國間。有身死者。其物却還。未知。爲處分。答。假令。遠國十二月三十日以前納訖。路程合卅日。此程内死者。不合免。又(文)請事云請調文。若案成者。申別紙及案記云。問。未發之間。遭父母喪。若爲還不。答。不合。來年合免。問。任官等色。鋼符已到若爲。答。即

免也。穴云。未發本國間。謂以行程定耳。假近國十日程者。可十月廿一日上道。廿一日以後死者不違給。皆入官者。謂至京都送給耳。爲未發之程前故也。乃至收大藏了。更申官反給耳。問。京畿內身死者何。答。私案。於無其行程。以納官未納爲限也。師云。未發之間。遭父母喪者。免來年庸。但調不得限(限、免也。)具任官錄符者。依下條附除時也。跡云。假令。遠國唯(准カ)行程合卅日。然則十一月廿日以後。身死不合免。或雖已上道。此程限以前身死者。合反却。朱云。後讀同此說也。稍而大難何。或問。過期限後。發本國者何。答。過期限之故。不可却還。此云在跡後。**其運脚均出庸調之家。**謂庸調之家。每人均出物。充運脚功食也。釋云。每人以下無別也。古記云。每人均出物。運調功食充之。朱云。均出庸調之家。謂正丁與次丁不可均。各別也。**皆國司領送。**謂依律。郡司亦領送也。釋云。郡司亦領送。律爲有國郡綱典故。穴云。＊國司貴賤放考課令也。郡司文略爲律國郡綱典故也。師云。國者目以上也。爲調庸事重故也。朱云。皆國司領送者。主典以上。史生不云者何。

不得僦勾隨便糴輸。謂依律。國司取貨代民客運。是爲僦勾也。應送課物者。皆須從所出輸納。而貴他財貨。詣所輸處市。而糴充者。是爲隨便糴輸也。釋云。不得僦勾。廣雅。僦賃也。音即就反。假有出鐵國。以餘財貨僱當他人。令買京鐵。便輸是謂僦勾。勾音俱遇反。一說。廐庫律云。凡監臨之官。皆不得於所部僦運課物。注云。僦勾客運是也。糴輸者。廐庫律云。凡應輸課物。而輸(賦)受之齎財貨詣所輸處。市糴充者是。或說。僦勾糴輸、句音非也。說文。糴市穀也。音徒歷反。跡云。問。僦勾之義如何。答。唐令答。不依令釋。古記云。僦勾隨便糴。謂徒的反。廣雅。糴買也。輸猶送也。音舒朱反。尚書。以成而學(字)。輸而學(字)。孔安國曰。當輸成辭而信。當輸汝信於土也。輸謂或將貨直付往人。一云。令買物也。或買非本土之所出。便於京都買輸也。凡是僦勾者。唯依事勢不可一到例。穴云。僦勾謂取車運物價也。如律僦勾客運也。令師同之。僦賃也。勾當也。又僦載耳。朱云。不得僦勾。隨便糴輸。謂此一事者何。後度反丁云。僦勾者取百姓功直。國郡司已私運送者。隨便糴輸者。以餘財貨

〔錄符〕課役免除の證明書なり。その釋下條に見ゆ。

＊律は戸婚律[illegible]管三十。三十日加二一等。過杖一百。五十日加二一等。國郡ニ所レ管[illegible]るを云へるなり。

〔國司貴賤放考課令也〕考課令に「凡國司、撫育有方[illegible]

諸所輸處。市糴充此者。則買鐵之類者惣二一」事也。律云。與儭勾客運一義者。令釋一說同也。

歲役條

凡正丁歲役十日。謂於京役之。即不給公粮。若留役者。即官給也。釋云。十日役者不給公粮。何者唐令云。除程糧外。各唯（准カ）役責私粮者。而此令除彼條。此條注闕衣粮文。即*知鈔唐令兩條。約此一條耳。其留役者。官給公粮也。慶*雲三年二月十六日格云。凡身役十日以上免庸。廿日以上調庸俱免。役日雖多。不「得」過卅日。其役廿日乃給公粮。又云。准令。正丁歲役庸二丈六尺。自今以後。宜減半。或說十日役。亦給公粮者非也。何者依下條。計庸民（配カ）役民雇直及食。則知。十日役者無充公粮文。跡云。文云。闕衣糧。又下條云。配役民雇直及食者。故知。此十日非雇民。所以令食私粮。但卅日役令（合）給公粮。朱云。即還粮何。私案。還粮私食耳歟何。又說不給公粮。是爲長。又說每擬集一分折。是爲長。已上兩說耳。穴云。問。歲役之人可上何處。答。可上京都。但隨官處分所上者。不論京他國上耳。不必可上（云）役京都耳。粮一。一云預備卅日粮。爲非。雇夫及衣粮之文。在留役之下故也。爲長。一云。備十日粮。若須留役者。食公粮耳。讚博士同之。師亦同之。問。留役者上正役來之人。便留役之名也。未知。就留役。亦食私粮之說。官下符可留役之狀。命仰百姓備其粮食哉。答。依彼說然耳。朱云。問。歲役必至京。可役不。又可有役期月不。答。有可作物者。便于他國可役也。但不有要急者。此亦閑月可役。何者有農業故者。或云。問。下條謂雇役丁條。與此條其別如何。答。是此條者。歲役百姓便留役耳。下條。不免租調。臨時雇役是也。又上條支度有。庸少者留役令輸庸耳。又遠國不便役身者。皆令輸庸耳。此云在釋後。**若須**

收庸者。布二丈六尺。謂其收庸者。須隨鄕土所出。不可以布爲一例「也」。釋云。案上條文。輸調之人。皆合輸副物。然不收庸之人。副物亦不合輸也。假令。兵士免副物之類是也。凡庸布綿者納大藏。米鹽等者納民部。古記云。皆收庸布二丈六尺。謂調隨鄕土所宜而輸之。不必限布。凡庸布綿者納大藏也。米鹽者納民部也。問。此條收庸立例。不得副物。未知。若爲處

加二一分一。國郡司（謂二掾及少領以上一）各進二考一等一」とあるを指せるなるべし。

〔即知鈔唐令兩條約此一條耳〕唐令にありては、二條の條文を以て規定せることを、我が令は簡約して一條となせり。我が令が唐令を簡單にせるものなることは、この一實例によりて最も有力に證せらる。

〔慶雲三年二月十六日格〕續紀、卷三、慶雲三年二月戊子條に律令の制七條を改めたること見えたる中に、其五として「准レ令。正丁歲役收二庸布二丈六尺一。但欲下輕二歲役之庸一息中人民之乏上。並大宰所部。皆免レ收レ庸。若公作之役。不レ足二備力一者。商量作二安穩條例一。永爲二法式一」と見えたり。

〔慶雲三年二月十六日格〕この格、類聚三代格に見えず。續紀、和銅六年二月壬子の條に「始[illegible]二條事。語具二別格二」とあるもの、即ち之なり。〔養老元年十二月二日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔名例律云雖不滿年役過四十日折一年〕これ名例律下巻[illegible]の一部なり。

〔唐令云[illegible]〕[illegible]律附釋一部十卷。第一[illegible]とあるもの即ち之なり。日本國見在書目[illegible]と見えたれど、これは和[illegible]

分。問。案上條文。輸調之人。皆合輸調物。然不輸庸之人。調物亦不合輸也。假令。兵士免調物之類是一云。案上條文。次丁以下不合輸調物也。慶雲三年二月十六日格云。准令。正丁歲役收庸布二丈六尺。當該輕減役之庸。息人民之苦。自今以後。人身之庸。並宜減半。和銅六年二月十九日格云。其庸布以二丁成段。々長二丈六尺。養老元年十二月二日格云。庸布布輸一人一丈四尺。以二丁之庸布成段。穴云。二丈六尺爲二常出也。以一丈三尺爲一常。事且計功程。一常得五功。案知耳。一日二尺六寸。須留役。謂正役之外。更亦留役也。者。滿卅日。租

調俱免。穴云。租調俱免。其者亦免。爲調役俱免人故也。問。留役之人。租先輸訖。而未論役者。折來年哉。以折免役哉。答。假當年無租調之人。皆預爲來年役乎。開折除租計役調耳。朱云。租調俱免。謂若無田人無俱免耳。又若逢水旱。不可出租者。免來年哉。役日少者。計見役日折免。謂租調混合。總作卅分。以卅分之一。當一日之分。計役日折免也。釋云。謂租調相混。合作四十分之一。當一日之分。計見役日。折免。或云。調布二丈六尺。庸布亦二丈六尺。然則調當十日分者非也。何者唐令。一丁調絹二丈。廿日庸絹六丈。留役滿十五日免調。卅日租調俱免。然則租調相半也。名例律云。雖不滿年役。過四十日者折一年。注云。依令。丁役四十日。當年課役俱免者。案役無日者課役俱可免。非言租調及十日役耳。不當調分十五日該也穴云。役日少計見役日折免。又偏折法。答。租調雜物混合爲卅分。雜徭亦爲卅分。仍先免租。次免調雜物。但雜徭者自折租之日。偏折免耳。令師云。租並調雜物。及雜徭四種之物混合。作卅分。一日當一分。每物作卅分之同義也。令釋之亦。與假此也。但雜徭耳。問。調與調物被折方如何。答。調及調物。並一物混合折免。所嫌依法條。條陳。及限調調物也。名例律徒條。折除課役者附注云。而不滿五十日役。即計程廿日以下。各計日折丁庸。若役卅五日並折調。不滿五十日。更不合折租者。案之卅日中分。以十五日先折課。次以十五日乃折租。可謂案。一鬥圖之讀見。穴云。逆卅日役時。調庸租免。不合免徭。卽令文合。案律。自案。依律。當

書ありしにはあらざるが如し。

〔唐令遣部曲代役者即知是家人也〕我が國の

亦合免。朱云。未知「依」何文所説朱云。計見役日折免。謂先租作十分。當十日分也。次調作卅分折者。未明。後度反了。同令釋初説也。新令釋云。若廿九日以下者。租調併作卅分。一日之役則折卅分之一者何。答。然者。

通正役。並不得過卌(卌)日。次丁二人同一正丁。 謂次丁一人。歲役五日。若收庸「者」布一丈三尺是爲一常。其留役十五日者。租調俱免也。釋云。次丁一人。歲役五日。若收庸者。布一丈三尺。皆爲一常。見營繕令也。十五日者租調俱免。穴云。次丁歲役五日。若應留役者。滿十五日。租調俱免。若役日少者。折免之法。准正丁耳。朱云。次丁二人同一正丁者。未知。次丁二人租皆免。若然者。此說其義不明。凡見義解下條。殘疾免徭役者。而何。次丁可出庸何。私案。此六十一之次丁賦何。 **中男及京畿內。不在收庸之例。** 朱云。雜徭不免。下課役免條云。坊長價長免雜徭故。私營繕令云。京內大橋及宮城門前橋者、並木工寮修營。自餘役京內人夫義解云。役京內人夫。謂以雜徭作。或云。畿內不在收庸之例。徭何。答役耳。此在跡後。 **其丁赴役之日。長官親自點檢。** 朱云。未知。無長官次官者。判官以下何。又點檢者。檢身驗附簿送不何。先云。點檢者。以筆點名頭者。 **并閱衣粮。** 謂歲役日粮。及往還程粮也。穴云。閱讀見也。或云。問。此條閣字訓。令訓擇。未明。此云在跡後。 **周備。然後發遣。若欲雇當國郡人。** 謂當國之當郡人也。釋云。據文稱當郡人。則知他郡不合。何者。名例云。當國郡相互(明定)作價故。或說。當國若當郡人者非也。穴云。當國之當郡人也。不得代比郡人也。跡云。當國郡人。謂當國或當郡皆合代雇也。朱云。當國郡謂當國之當郡者。未知。依名例所案贖。 **及遣家人代役** 謂奴婢亦同也。釋云。*唐令。遣部曲代役者。即知是家人也。案奴婢亦聽耳。跡云。家人謂先家內人及部曲。奴亦合代。穴云。奴亦同聽耳。 **者聽之。劣**

弱者不合。即於送簿名下。具注代人貫屬姓名。其匠。欲當色雇巧人。代役者亦聽之。釋云。當色謂才能之色也。假令。轆轤*工代者。亦差知轆轤之者也。穴云。匠謂貢役之人。其飛驒國工丁。亦聽代無妨也。當色謂私案。木工若工同才人是也。

計帳條

凡每年八月卅日以前。計帳至。付民部。主計計庸多少。充衞士、仕丁采女女丁等食。謂除當年須役人之外。皆總輸庸。充衞士女丁食。并役民雇直及食「也」。釋云。主計依支度書。除可役人數之外。皆計可輸庸。而支配衞士女丁等食及役民雇直食耳。穴云。上條一端積庸布。其無布國。亦量合輸米。故云。充食也。朱云。充衞士女丁等食者。未知。等之字意何也。兵衞依給諸司食料例耳。不依此條也。以外皆支配役民雇直。古記云。役民謂每年國土番上雇民。朱云。問。役民雇直者。未知。下條云。雇役丁者此賦何。及食。九月上旬以前申官。

義倉條

凡一位以下。謂親王不入此例也。釋云。師說云。親王不入此例也。或說。此謂諸臣也。有品及諸王既給時服。又其戶不可有貧賤。仍不入賑給之例。故不取義倉者非也。何者文稱一位。又戶令。皇親爲不課。即知。諸王戶爲省者。不課耳。穴云。諸王以下進義倉。京職諸國皆是。後定。諸王不出義倉也。不可有其戶。凡人亦不被賑給故也。令釋。以始說爲是。以後定爲不也。今師亦同令

[illegible]なることとに[illegible]より[illegible]るべし。

〔轆轤工〕轆轤は、和名抄に「轆轤木轆也。」とあるによりて知らるゝ如く、[illegible]の如き[illegible]なり。天平[illegible]帳に[illegible]人を貢上[illegible]三代實錄[illegible]に見える[illegible]文山傳には、[illegible]を穿め、雲梯[illegible]を構へて、東大寺大佛殿の毗盧舍那佛の[illegible]を引上げ、功を以て[illegible]下を授けられた[illegible]

〔時服〕春秋の二季に親王以下諸司官人に賜は[illegible]に[illegible]年十三以上、皆給二時服[illegible]

布四端。鍬十口。秋絁二疋。綿二屯。布六端。鐵四挺。」と見え、又延喜中務省式には、時服を受くべき百官人の員數見えたり。

〔江說〕佐藤博士の律令考は、これを貞觀格の撰者の一人なる大江音人に擬せり。然れども余は之を貞江繼人に擬せんとす。繼人のことは、貞云の條下に述べたり。

〔慶雲三年二月十六日格〕この格、類聚三代格、卷十四、義倉事及び續紀、卷三に見えたり。

〔和銅六年二月十九日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔和銅八年五月十九日

釋云。戶令。鰥寡條亦爲良人也。雜戶亦同。其陵戶官戶家人等。不在論例也。問。若有年不熟者。可免哉。答。不見免文。古記云。問。文稱一位以下。未知。有品如何。答。此謂諸臣也。有品及諸王不在此例。跡記云。諸王以下皆合出。不熟年無免文。又說諸王不合出也。不可被賑給故。＊江說。文既稱一位。然則除親王。以外諸王皆約也。朱云。一位以下者。未知。親王何。又雖女戶猶同出何。貞說。親王不可出。但諸王可出者。

及百姓雜色人等。 謂品部及雜戶等。其陵戶不在此限也。釋云。品部及雜戶也。師說云。陵戶不在此例。古記云。問。雜色人等何色。答。雜戶等色。但陵戶不在此例。穴云。雜色謂雜戶品部也。其陵戶不出義倉。又無被賑給也。

皆取戶粟以爲義倉。 謂分富賑貧。其情合義。故曰二義倉一也。釋云。無別也。古記云。問。義倉之意。答。取富人物。賑給貧人。謂之義倉也。大稅謂之正倉也。朱云。皆取戶粟者。未知。戶主一身之出賦。若戶口皆遍出賦。答。戶主獨所出。又戶品依戶主一人定耳。問。凡義倉爲何所設。答。以此物先爲賑給耳。

上上戶二石。上中戶一石六斗。上下戶一石二斗。中上戶一石。中中戶八斗。中下戶六斗。下上戶四斗。下中戶二斗。下下戶一斗。

古記云。問。如何定九等。答。計資財定耳。慶＊雲三年二月十六日格云。自今以後。取中中以上戶之粟。以爲義倉。必給窮乏。若官人私犯一斗以上。卽日解官。隨贓決罰者。不合令格。具見釋。和＊銅六年二月十九日格。其資財百貫以上爲上上戶。六十貫以上爲上中。四十貫以上爲上下。卅貫以上爲中上。十六貫以上爲中中。十二貫以上爲中下。八貫以上爲下上。四貫以上爲下中。二貫以上爲下下戶也。和＊銅八年五月十九日格云。其資財准錢三十貫以上爲上上。廿五貫以上爲上中。廿貫以上爲上下。十五貫以上爲中上。十貫以上爲中中、六貫以上爲中下。三貫以上爲下上。二貫以上爲下中。一貫以上爲下下也。又云。奴一口准

貢六百文。餘一口四百文。今上件定法。臨時處分耳。即計貲財。定九等。亦臨時准量耳。寶龜二年十一月八日太政官符。九等戶貲財價事。依長幼立市估。仍爲正價。田令云。課桑漆。上戶桑三百根條義解云。九等戶中下計口多少臨時量定。其餘條。稱上上戶。中中戶等。亦准此例也者。此是令內通例也。但於此條可依格。釋云。上上戶者。定戶品第。時式處分。以下亦同。天平寶字二年五月廿九日官符云。諸國義倉。輸少用多。甚乖格旨。仍檢慶雲三年格。自今以後。取中中已上戶粟。以爲義倉。又案和銅八年格。諸國所輸義倉數少。積年不熟。何以救飢。自今以後。貲財准錢三十貫以上爲上上戶。廿五貫以上爲上中。廿貫以上爲上下。十五貫以上爲中上。十貫以上爲中中。今檢諸國義倉。國毎略同。所輸悉稻。又至給用。諸國不同。或以斗爲石。或以升爲法。窮民是一。賑給各殊。自今以後。依賞令輸其給用法者。量貧乏差。以斗爲基。令拼存濟。寶龜五年格云。自今以後。用諸國義倉者。無官符過當年輸數賑給國者皆返却。唯蘇云黑督。不過年輸者例返。穴云。師云。稱下下戶者。亦有財堪出者也。若貧窮者不堪出者不可出也。

義倉准錢事

若稻二斗。大麥一斗五升。小麥二斗。大豆二斗。小豆一斗。各當粟一斗。釋云。天平六年格云。以粟一斗相替稻三束。以大豆一斗當稻一束。小豆一斗當稻三束。古記云。天平八年四月格云。取稻一斗。當粟一斗。雜穀輸家。任情聽之。皆與田租。同收畢。

土毛條

凡土毛臨時應用者。謂土地之所生皆爲毛也。釋云。土地所生。是謂土毛。古記云。土毛謂草木也。其地所生。謂之地毛。當國所出。皆是土毛耳。穴云。依先私記也。問。下條云。諸國貢獻物者。皆盡當土所出者。未知。與此條土毛有別哉。答。文據臨時應用者。即知。此條土毛者。稱臨時之事耳。但下條。尋常爲例所進耳。並准當國時價。

格」に此格、類聚三代格」卷十四「義倉事」に見ゆる天平寶字二年五月廿九日の格中に見えたり。又續紀「卷六」靈龜元年五月乙巳朔に「太政官奏。更改」義倉出レ粟法一。合隨二貧富一出粟一。准一制格一」とあるものはこれなるべし。

「寶龜二年十一月八日太政官符」この格、類聚三代格に見えず。但し續紀「卷卅一」寶龜元年十一月甲辰の條にこの事見えたり。

「天平寶字二年五月廿九日官符」この格、類聚三代格「卷十四」義倉事に見えたり。

「寶龜五年格」天平六年格」天平八年四月格」三つの格、何れも類聚三代格に見えず。

〔課戶謂小丁一人以上也〕小丁は少丁の誤ならむ。少丁は大寶令の用語にして、卽ち養老令の中男なり。之によつて考ふるに、令釋には古令を註釋せるものある歟。

〔天平十九年六月一日格〕この格、類聚三代格に見えず。但しその事續紀天平十九年五月戊寅の條に見えたり。

〔慶雲二年十一月四日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔帳內資人〕帳內は有品の親王に賜はる護衛兵乃至從卒にして、資人は五位以上の官人に賜はる從僕なり。その員數軍防令に詳かなり。

〔天平神護元年勅〕この

價用郡稻。 謂割置(畢)田租。以充雜用。是爲郡稻也。下條云。諸國貢獻物者。皆以官物買充。亦是郡稻也。凡官稻之源。出自田租。卽分爲三。一曰大稅。二曰梁(粮)穀。三曰郡稻也。跡云。下條郡稻謂租。爲雜用而別置。朱云。價用郡稻。謂分置正稅。名郡稻者。

封戶條

凡封戶者。皆以課戶充。 謂有中男一人以上者。卽「爲」課戶。其封戶仕丁。亦給其主「也」。釋云。封戶仕丁卽給其主。*課戶謂小丁一人以上也。*天平十九年六月一日格云。鄕內戶口緣有多少。所輸雜物「其」數不等。官議其平章。損多益少。每一戶以正丁五六丁。中男一人爲率。則國鄕別課口二百八十。中男五十。擬爲定數。其田租者。每一戶以二十束爲限。不合加減。自今以後。永爲恒例。古記云。問。封主無給仕丁文。據誰文處分。答。調庸全給又仕丁免課役。卽給課役主耳。課戶〔課〕少丁一人以上也。*慶雲二年十一月四日格云。以四丁准一戶也。兵士等類不在點例。但出身之色。不在障限。穴云。課戶中男以上一人是也。於今依格也。雜徭公役耳。以封戶不得差兵士仕丁等。但任*帳內資人雜任之類者不禁也。跡云。課戶謂不見丁多少。皆是中男有一人者是課戶也。 **調庸全給。** 釋云。*天平神護元年物將。頃年以來。王臣封戶或緣損田。應免調庸者。便以餘鄕滿數充給。是則徒損官物。獨闕私門。自今以後。諸家食封有損田戶者。宜依令條除免。不得通計滿給。古記云。問。封戶或遭水旱。或會恩復。若爲處分。答。文亦不見。臨時處分耳。遭水旱令免。跡云。不熟之年。不得封物耳。停令充志。朱云。調庸全給者。未知。依文水旱年何。但格文水旱年不給者。此令意何。

其田租爲二分。一分入官。一分給主。 釋云。*天平十一年格云。依令。其租爲二分。一分入官。一分給主者。自今以後。全給其主。*天平廿年格云。運送封戶租米。脚夫公粮者。准運官物之夫。以正稅稻給粮。自今以後。永爲恒例。本梭(狂)何可檢。古記云。問。其租一分給主。若爲處分。答。運舂米國者。未(米)送國者。販賣輕貨送給耳。

穴云、田租謂口分田租。其雜色田租、皆納公倉也。私案之、功田治田賜田等之類在封戶是也。朱云、其田租稻二分、一分入官、一分給主者、未知、口分田租賦、若私墾田租、皆入官何。此亦損水旱年損者、若皆租免猶不入官士何。答。竝然者。

水旱條

凡田有水旱蟲霜。不熟之處。國司檢實具錄申官。謂一戶以上田損五分以上者。若不滿五分者、唯注租帳。不待言上。其戶內之田。或損或得者。並免其分租。不免調庸。若不熟之田。一處滿五十戶者。隨驛言上。若通計數所處。滿五十戶者。國司處分申官。此條唯爲口分立文。其賣買田。及功田職田賜田墾田等者。依見損數免其田租。不依口分例也。釋云。師說云。一處不熟五十戶者。馳驛言上。案問答官可遣使也。若通計數處。滿五十戶者。國司處分。附調使申耳。是口分田也。但賣買田及功田位田職田賜田墾田等。依青苗簿。患爲十分免租。不及課役也。其錄申官。謂一戶以上。但一戶內口。或損或得者。並免其分租。不免調庸也。慶雲三年九月廿日格云。田有水旱蟲霜不熟之處。應免調庸者。四十九戶以下。國司檢實處分。五十戶以上。申太政官。三百戶以上奏聞。應申官者。九月卅日以前申送。十月以後不須。養老八年格云、損者今以七分已上爲定。不得以六分失半。私案、靈龜三年五月十一日勅云、勅准令田有水旱蟲霜不熟之處、國司檢實、具錄申官、今國司檢實之日、或不遭水旱、妄錄損亡、失充倉之實、或全損爲得、致加損田、應申官之帳、息由國司不存檢校。致有細虛損失。請量之道、豈合如此。自今以後、調部宜造苗簿日、必詰其處、並租帳時、令取其實。若不加檢察、致有隱漏、准事論數、卽解見任。王者施行之文。弘仁七年十一月四日官符云、應令依法處分損田事。右太政官、去大同元年十一月二日下諸國符偁、畿內、東海、北陸山陰、南海、大宰觀察使直勝〔使直偁〕檢太政官去延曆廿〔二一〕年七月十五日符偁、右大臣宣、奉勅、古今通典、前面倒後格、其率適中、仍取捨後此、更立著例〔制〕。今須天下田租戶別立等

格、類聚三代格に見えず。

〔天平十一年格〕この格、類聚三代格に見えず。但し、その事條は、天平十一年六月十八日の條に見えたり。

〔天平廿年格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔慶雲三年九月廿日格〕この格、類聚三代格、卷十五、損田幷租地子事に見えたり。

〔養老八年格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔靈龜三年五月十一日勅〕この格、類聚三代格、卷十五、損田幷租地子事、及び政事要略、卷六十、交替雜事に見えたり。

〔弘仁七年十一月四日官符〕同前。

〔弘仁十年五月廿一日官符〕この格、類聚三代格、卷七、牧宰事に見えたり。

常免二分。令輸八分。其有損七分已上戸者。大國四十九戸已下。上國卅九戸已下。中國廿九戸已下。下國十九戸以下。以爲限制。若損七分已上戸。國内摠依此限。及損五分有多少通計。不過通一分者。令國司檢實處分。通前「計」爲三分已下。至其納官之數。定收七分已上。若因年損過此法。卽准例申官。聽裁者。據此准量。五分已上。明有其限。四分已下未見所由。縱令有甲。授田一町。十分而論。見損四段。又有乙。損三段。而諸國覆檢(損)使等確執格旨。不勞三四分。百姓爲患。莫過於斯。望請收租之法。復依不三得七之舊例。但四十九戸之差。一依格行者。右大臣宣。奉勅依請者。諸國承知。依宜行之者。今被右大臣宣偁。奉勅。定損之法。格文灼然。而或國司不必其人。於損四分已下之田。濫起疑論。更煩聽裁。宜演格旨。令人易知。仍須檢損之體。先檢見損。通計國內。不過三分。卽令國宰處置。加超此法。乃以申官。又*弘仁十年五月〔廿〕一日官符云。應國司申政。詐不以實。奪其公廨事。一詐增損田數事。右賦役令云。凡田有水旱蟲霜不熟之處。國司檢實。且錄申官。慶雲三年九月廿日勅「偁」。凡田有水旱蟲霜不熟之處。應免調庸者。四十九戸以下。國司檢實處分。五十戸以上申太政官。三百戸以上奏聞。應申官者。九月三十日以前申送。十月以後不須者。然則事須委細(曲)實錄。限內言上。若涉不實。罪亦同上。上條云。一詐增賑(六字當作大字)。給飢民數事。右戸令云。凡遭水旱災蝗不熟之處。少粮應須賑給者。國郡檢實。預申太政官。奏聞。詐僞律云。詐欺官私。以取財物者。准盜論。注云。監主詐取。自依盜法。有官者除名。倍贓如法。未得者減二等者。然則言上之日。須錄〔錄〕其實。不實之罪。文明白(十字當作大字)。律今或國解文。注損万町。遣使覆檢。五六千町。或國解文。只差(著)損狀。得損町段。都無注載。或過期乃申。巧稱路障。或寄事他政。至冬追申。國司。所請再三慇懃。不得(須)忍止。猶發使人。至于覆審不及言上。非唯詐欺上官。兼亦費損路次。摠是不愼憲章。屢致不實之弊也。忘公潤私。聞而有之。致忠致廉。希而不聞。以前事條。具件如前。今被大納言正三位兼行左近衛大將陸奥出羽按察使藤原朝臣冬嗣宣偁。奉勅。爲吏之道。須致忠貞。不實之事。理須懲革。宜准所詐奪其公廨。兼處法律以懲將來。又郡司是自勘自申之職也。國司則隨申覆檢之吏也。准量其過不輕。國司宜亦論罪之方。自

〔私記云〕何人の私記なるや明かならず。但し單に私記とあることによりて、貞云、穴記、讃記とあるもの、何れも令私記の略號なることと知らるゝなり。

〔口分田二町一町賣一町佃〕二町ある口分田のうち一町は他人に賃租し、一町は自家自ら作るなり。賃租は、當時これを一年間を限つての田地の賣買と見做し、田地を他人に賃租することを田地を賣ると稱し、他人の田地を賃租することを田地を買ふと稱し、賃租の額を田地の價と云へり。延喜主稅式に見ゆる青

依犯條懲罰之事、一同國司者、諸國承知、依宜行之、其損田者、畿內必申、若有繼實錄、須經國（日）者、限內前申損狀、追早（申）准實錄帳、若不准帳不聽遣使、但於遠國、九月之損、定知不其限內言上、宜東海道取東、東山道山東、北陸道神濟以北、山陰道出雲以北、山陽道安藝以西、南海道土左等國、大宰管內、大隅薩摩日向多褹對馬等國島、九月之內、風水之損、雖十月後、行程之內、特聽通計、過程之外、不聽制收、自今以後、立爲永例、不得輒消。古記云。問。田不熟之處、卽（節）仍免課役、未知、於田有限以不、答、苗簿、或云、依見營人、造青苗簿、責戶口（房）手實、則會籍帳。仍知虛實、然後入簿、其賣田主、不問得損、卽附令（全）得、但輸租者、徵見營人、或買田在損雖免輸租。不及調庸、若有遭損戶、及賣買田、口夾名且當調庸青苗簿、若多在夾（交ゥ）名、各造別項、＊私記云、假令、＊口分田二町、一町賣、一町佃、此賣佃但（在ゥ）損者、雖免輸租。不免調庸、若雖賣一町、令（全）損佃一町之中、不得七段、得三段（論見營一町）、而不得免、但賣田不論得損、斷附令（全）得、不輸其租、然則知以十分論者、總口分田論耳。又或說云、賈田租事、爲賣買人、凡除口分田之外、別爲十分、唯免租耳。問。法博士答云、雜色田依苗簿、而別爲十分、損五分以上免租、且雖損七八分以上、不及免調庸、此以苗簿破令條文也、問、且錄申官、以幾戶爲限、答、一戶以上也、但一郷五十戶（全）損者、先馳驛申上、卽官遣使檢校也、其五十戶不足甲、竝從此集五十戶損者、當國處分付便使申也、四分以下不申、田租之時聽耳。問。依戶作十分、若有一戶之內一人、得已分田、作不熟、若爲處分、答、依戶爲十分耳、但有房戶者、直租免耳、調庸不免、問、損七分免租調、未知、無課有役如何、答。役免下急直損義云、若無課而有役者、卽免役者、准養文、此說是也、慶雲元年六月十九日格云、國有水旱蟲霜不熟之處、自五十戶以上、論申官、以下少者、國司檢實處分、具錄申官、及貢事附考文、九十戶以上太政官處分、三百戶以上奏聞、養老三年、諸國按察使等請事、答、官判云、諸國重例、給義倉者、九百斛以下、一百斛以上與之、若應數外給者、使專知狀、且給、且申、若義倉不足用稻聽之、穴云、且申道一國內一戶田損五分以上、言上是也、但道使覆檢不見多少合求、四分以下不足云損、國

司處分。附租帳申。具申。未知。專使歟。答。後日云調使耳。又問。損五分亦附調使申哉。答。然耳。若損七分以上者。爲可免調故。其不滿五分以下者。附租帳國處分申耳。其依令釋。一處五十戶以上不熟。馳驛謂依公式令馳驛耳。但稻五十戶。爲師說。問。一處五十戶其義何。答。一里之五十戶口分於一處。而悉損是也。其一里之五十戶口。分所所損通計滿五十戶。及諸里之五十戶口。分受於一處。悉損。或雖一里之五十戶田。於一處不熟。而不滿五分以上之類者。皆不馳驛。只言上。及國司處分耳。令(令)師云。一里之田。受所所而悉損。他里受田一處悉損者。爲交與一處損。五十戶田不異。即知。准之馳驛也。但別有格者。依格放耳。言上之後。遣使可覆。律有文。問。格云。三百戶以上者奏聞者。未知。依國言上之狀。官奏聞歟。爲當國司作奏書歟。答。依國言上之狀。官奏聞耳。問。籍後往來爲別戶。未知。立誰戶作分。答。爲難。但暫定於今戶。作分課稅。違期爲坐今戶故。但時行事別也。可爲十分。謂(稅違)於一戶爲分。非人別爲分也。假一戶十町。五町賣他全刈。五町自佃悉損。仍賣及佃。租皆免。凡租者佃人所出。今稱免者。免可出租之人耳。今師云。所賣五町。全刈者。買人可令出租(可出全租)也。所自作五町全損者。只免租不及課役。或所賣悉損。所作悉得者。買人只免租。不及課役也。自作悉得者。出租幷課役如常耳。案之。此苗簿式心也。能可反檢耳。抑沽田租令文不明。故別有苗簿式。其依別式習耳。讚云。甲買乙景(內カ)丁等田。總計滿五分。雖然不免租。抑奏式耳。案之買集人人田作總計。滿五分以上者。唯免見損之分。所得之租不免。假令。損五分者。免五分。損七分者。免七分。今所殘徵五分三分之類。但不及課役。凡非自口分者。不免課役耳。問。八町賣人全損二町自作全得。今於戶損滿八分。免課役哉。答。口分主先日已得直。於主無損。然不免課役。但租爲五分以上損。故令(全)免。師不依此云。或一戶內七人分悉損。三人分全得者。租調十人俱免。庸不免之類也。跡云。假令。一戶內有數丁。而一人田全損。餘人田不損者。爲不及分損。全損人不免課役。只免租耳。問。被命(令カ)旨。賃他得直前訖者。於主無損。明不免課役。未知。募秋直。其田不熟。於主有損。仍爲免課役。答。賃田直四束。租田輸直六束。即明租分二束也。雖田不熟。准賃田直

苗帳式に賣買田とあるものは、即ちこの賃租田のことなり。

〔慶雲元年六月十九日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔養老三年諸國按察使等請事〕これ類聚三代格、卷七、牧宰事に「按察使訪察事條事」とある養老三年七月十九日の格を指せるものなり。

〔專使〕專らその事の爲めに發せられる公使、國使にして、四度使その他の使に便附するにあらざるものを云ふ。

〔調使〕輸調使、貢調使、運調使とも云ふ。四度使の一なり。調庸の物は每年八月中旬輸を起し、近國は十月三十日、中國は十一月三十日、遠國は十二月三十日以前に上納す。延喜の制越後、佐渡、隱岐は明年七月、長門は四月、伊豫、土佐は二月を限り

て納め、陸奧、出羽の兩國は當國に納め、西海道は大宰府に納めしむ。この問答にある如く、租帳はこの使に便附するを例とせり。

〔甲乙景丁〕我が律は、甲乙丙丁と云ふべきところを甲乙景丁と云へり。名例律、彼此俱罪之贓の條の疏に「假有乙盜二甲物一、景轉盜レ之」云々とあるが如き即ちその一例なり。これ我が律が唐の高祖の諱の同音を避けて丙を景に作れる唐律を直寫せる故なり。當時の令律家即ち律文の例に傚ひ、甲乙丙丁を甲乙景丁と云へるなり。

〔備償〕今云ふ賠償なり。この語多く律條に見えたり。雜律に「凡棄毀官私器物、及毀伐樹木稼穡者、准盜論。棄毀亡失及誤毀官私器物者、各備償」とあるが如き、即ちその一例なり。

四束者。備償如本。其明利一束。不合出也。此則亦於本主無損。然則亦不免調役耳。今師云。是亦。依田損得徵及免耳。但非自佃之故。雖田主不得其價。而准賃田之例。調役倶免之日。雜徭悉免。只免租調之日。不免徭。餘亦如之。問。此條。先爲當年損。未知。去年一戶田。爲水使食八分以上。後年無田何處分。答。此文爲殖之被損害。謂其力無田而不佃者。不在此例也。又問。此條。爲殖了不熟生文。未殖而下苗子之間。皆悉遭水旱。遂不殖。爲若處分。答。*不見文。臨時商量耳。後案。其已耕作訖。逢灾不殖者。准入此例。假苗入水。或遭旱等也。私云。後論文云。不熟及損者。明爲殖。其未殖者。縱因水旱荒廢。不入作分之例。釋猶田被水流失無佃。猶進調也。師云。種散下未殖。而依水旱遂不殖者。皆不熟作分也。問。一戶十町。五町荒五町作。逢水旱損何。答。不得所蕪號損。仍尚計損五分免租耳。或八町荒。二町見作不熟。尚爲損十分之類。則下文云。桑麻損盡者。各免調者。未知。田損七分以上。而桑麻不損。或桑麻損盡。而田不損者。若爲處分。答。損田七分以上者。桑麻雖不損。而須免租調。若桑麻損盡者。田雖不損。而免調耳。不及餘物也。問。雜色田色別爲分。未知。亦於戶作哉。答。等是本主各別。然一戶。縱有五位一人。各一人別爲分之類。不依戶作分也。其賜田亦如之。不作口分文。無據一戶給之法。又功田賜田色別作分。但非此令所云耳。今師所說。此條爲口分生文。然則自餘位田。職田功田。及雜色等田者。雖損五分以上。尚除損分。徵所得分。假令。損八分者。徵二分之類。問。易田倍給者。未知。爲分何。答。假一戶合給十町而給二十町者。只見佃十町爲十分。論考課令勸課條分。亦合放此義。跡云。一處田五十町。以上桑麻一郡以上損者。馳驛之言上。此是爲師說。但文不見耳。但非全損者。不馳驛而直言上。爲十分謂一戶內口分田。假令。一戶內有數丁。而一人田全損。餘人田不損者。爲不及分。猶全損人不免課役。但租免耳。又雜色田別爲十分。損五分以上者免租。不及調庸。又賣買口分田者。買人只損免租。賣人不免調役也。朱何者得直之損者。貞云。依買人名可計也。依賣人名不計者。貞不同也。此當頓心者。朱云。問。計一處何。答。一鄉五十戶人口分田損也。他鄉人相交者不云者。且錄申官。謂申聞月不見也。但損狀申上則免耳。一不得報符也。一年更官不可遣使者。後及了云。官

〔不見文臨時商量耳〕適用すべき條文見えざれば、時に臨んで適用すべき法律を發見すべしとなり。

〔戸律部內有旱澇條有文〕戸婚律に「凡部內有二旱澇霜雹蟲蝗爲レ害之處一。主司應レ言而不レ言。及妄言者杖七十。覆檢不レ以レ實者。與同罪。」とあるを云へるなり。

〔驛戸〕驛となれる村里の民戸なり。之よりして驛子を差す。驛子は課役を免ぜられて、官用荷物の運搬に從事し、又その中中戸以上は驛馬を飼養す。驛長は驛戸の內家富みて事に幹なるものを選んで之に任ぜり。

使可遣也。戸*律。部內有旱澇條有文者。未明。若彼律多奏聞時。遣使覆何。又云。具錄申官者。差專使可申何。答。損不滿五十戸時者。附調使可申。何者。使則依損免調庸狀可狀申故者。令釋云。一戸以上者。未知。戸口損不申官。何可免租乎。答。國免則附租帳可申「者」。作十分謂一戸內口分田作十分也。人別口分不作十分者。未知。依何人別分不作十分。雖全損不免課役意何。答。猶戸內田摠計可作十分也。依戸口分不可作分者。

十分損五分以上免租。損七分免租調。損八分以上課役倶免。謂課者調及副物。田租之類也。役者庸及雜徭之類。但驛戸者不在免例。何者飛驛國匠丁不免故也。問。課謂田租之類。未知。他條田租亦得爲課以不。答。唯爲當條生文。不涉令內通例。假如。三位以上父祖兄弟。雖免課役。不可免租之類也。釋云。課謂調及副物。田租之類。役謂庸及雜徭品部之類。或說。課役者是調庸別名者非。案驛*戸者不可免。何者飛驛國匠丁不免故。跡云。令釋。課役之解也。正爲此條不包餘條。假令。五位子免課役之類。不免田租之類也。朱云。田損者桑麻雖不損。猶免課役耳。又衞士等之類。雖不熟之年。猶令上京。但還國之日免調耳。朱。貞不章者。穴云。問。衞士仕丁等之類。不熟年不免仕之由何。答。此文免除見進之物也。其役身之徒非。又所云。縱遇恩復年。亦不免仕耳。跡云。衞士仕丁之類。雖不熟之年。猶令上京。但還國之日免調耳。此說不知得不也。師云。不何追免也。

若桑麻損盡謂一戸全損。卽雖不全損。不堪輸調者亦是。其桑麻者不相須也。釋。師說云。桑與麻不相須。檢勘所損不堪輸調。是謂損盡一郡。損盡者馳驛言上耳。穴云。問。田損五分以上時言上。一處五十戸以上。馳驛若數多者奏聞。未知。於桑麻損(如何言上。馳驛奏聞等之事。答。令釋云。師說。桑與麻不相須。檢勘所損。不堪輸調。是一郡損盡者。馳驛言上耳。但非全損者。直言上耳。謂一戸以上全損者。直爲言上耳。古記云。問。桑麻損盡爲十分以不。答。不作十分。但依文。一戸盡可免。然今行事一國全盡乃免。盡謂無殘餘。跡云。損盡謂全不堪輸調。若輸絲布處亦准此。**者各免調。**謂 若

無課而有役者卽免役、其三國輸庸布不同、故稱各也、釋云、無課有役者免役耳、云者輸庸國、庸者輸布國、故稱各字也、穴云、云庸損並各免調、謂以絁綿布爲調也、令釋云、免調者、若無調有役者免役耳、復定、輸布之國依庸損免耳、自余庸不可免也、其出雜物者、不損免、但依田不熟不出雜物國皆同免耳、朱云、各免調謂無課有役者、不免役哉、古答云、者、遵釋也、未知、凡無課有役色何色、私案、下條云、夏季附者、色課從役、

其已役、已輸　謂已役者臨時差役也、已輸者已上條云、調系七月輸之也、釋無別者此賦何、也、古記云、其已役謂臨時差役也、已輸謂絲調七月卅日以前輸之、

及臨時遣輸下足、**者聽折來年**、謂來年若有恩復、及遭水旱蟲霜者、亦須待後年免也、釋云、來年卽遇風、洪(恩カ)、復火(大)、泯(恩)及水旱蟲霜者、待後年免耳、跡云、若來年有旱而恩復等者、更折以後有課役年、古記云、問、來年若會恩復、又遭水旱、若爲處分、若又遭水旱者、加隱給、未年免課役、會恩復者、更不合折。一云、有課役年合免、此爲長、

邊遠國條

凡邊遠國、有夷人雜類　謂夷者夷狄也、雜類者、亦夷之種類也、釋云、夷東夷也、舉東而示餘、推可知、雜類謂夷人之雜類耳、古記云、夷人雜類謂毛人、肥人、阿麻彌人等類、問、夷人雜類一歟、二歟、答、本一末二、假令、隼人、毛人、本土謂之夷人也、此等雜居華夏、謂之雜類也、一云、一種無別、**之所應輸調役者**、

隨事斟量、不必同之華夏　謂中國也、釋云、包氏論語注云、諸夏中國、案對夷之辭、夏者謂禮反、古記云、問、化外人投化復十年、復訖之後、課役同華夏只不、答、不同也、華夏百姓一種也、朱云、有夷人雜類條、合下復除條、所謂、未知其意何、答、若夷狄外蕃與賦、何者合釋、云穴何云、所謂卽夷人等應輸也、餘放令釋、

待符條

凡應免課役者、皆待蠲符　謂蠲除課役之符也、釋云、免課役符謂之蠲符、古記云、問、任官應免課役、未知、任官何色、答、國司下限、朱云、應免課

〔肥人〕吉田東伍博士に從へばこれをクマビトと讀むべし。肥前、肥後の人なるべし。奈良時代には、肥前、肥後等の住民は、薩摩の隼人と同じく、未だ皇化に浴せざる夷人雜類なりしなるべし。日本紀私記に肥人書、薩人書なる名も見えたり。

〔阿麻彌人〕アマミ(奄美人)なり。齊明紀に海見嶋と書き、天武紀に阿麻彌と書し、文武紀に菴美に作り、元明紀に奄美に作る。今の大島なり。文武天皇二年、

務廣貳文忌寸博士に兵器を授けて南島に國を覓めしめ、同年七月に多褹、夜久、菴美の諸島朝宰に從つて來り、方物を献ぜしこと續紀に見えたれば、奈良時代には、新附の民なりしを知るべし。

〔隼人〕九州の南部に居住し、久しく王化に服せざりし人民にして、ハヤトの名は敏捷勇猛なること隼の如くなるより出づ。上代の熊襲の子孫にして、その俗所謂天孫民族と異れりと雖も、その日本人種なること論を俟たず。書紀に隼人の祖先を火闌降命とする說見えたれば、その服屬の古きを知るべし。然れども服屬以來屢〻叛したること史に見えたり。性勇武なるを以て徵して宮門の護衛に當らしめ、令制布かれて後は、隼人司をして之を管せしめたり。

役者皆待錮符至。然後注免者。可徵亦同。徵符至可徵者。**至。然後注免。符雖未至。驗位記。灼然實者**謂若公驗灼然者亦同也。古記云。問。位記灼然者亦免。若公驗灼然者若爲。答。亦與位記同合免。穴云。有公驗者。進位記已。跡云。雖公驗有無符者不免也。朱貞云。可徵者。秋季至符者。調庸合徵也。朱云。符雖未至驗位記灼然實者。亦免者。未知。一端何免。凡位子竝官人等。得位田亦錮符下何。先云。然可下者也。五位子等雖未至位記。父位記驗者。尚免故耳者。未知。而凡依父位得日免故若依自位記得日免何。私案。依得父位田可免哉。先同也。**亦免。其雜任被解應附者。**謂舍人及兵衛資人等被解卸。其衛士仕丁等解下者。亦同。釋無別也。穴云。解時謂下條春夏等是。問。學生九年不進者可解退。而本國滿年限不解。本國司尚待解時哉。答。有年限之類。本屬錄狀申官耳。豈*待曲吏之解時乎。**皆依本司解時日月據徵。**謂假令錮符至國。雖隔數年。仍依本司解時追徵也。朱云。依本司解時。日月據徵。謂解文雖忘至。依本司解日可徵者。未知。於可免何。依本司下符日免。若依至國日免何。私案。依本司下日可免何。

春季條

凡春季附者。課役竝徵。謂准上條。雜任被解應附者。皆依本司解時日月據徵。卽雜任春季被解附帳。謂之附也。又上條。應免課役者。待錮符至。然後注免。若春季符至者課役竝免。擧春爲言。餘季准此。釋云。師說云。若春季除者課役竝免。夏秋二季亦宜放此。上條依本司解時日月據徵者。此爲附時耳。秋季附免課從役者。案。問答錮符至附卽有位人。猶可役是不乎。古記云。問。春季附者免課從役。秋季以後附者。課役免。未知。上條云。依本司解時徵輿。爲當從附時徵免乎。答。依本司解時徵耳。此條徵狀明耳。主計寮常例行事。雜色春季解下如令。但春季入色。課

〔[illegible]氏[illegible]注〕[illegible]の[illegible]成の作れる[illegible]法なり。この書、日本國見在書目録に見えず。

〔公驗〕公の證券なり。但し茲にては、僧尼の得度公驗を指すなるべし。

〔[illegible]〕[illegible]る官史なり。

〔大例〕[illegible]明[illegible]大寶の[illegible]なり。

〔非此文志又其事不當也〕これ令文の本旨に

役俱免。此是合釋。夏季入色。徵課免役。秋季入色。俱課役不免也。或云。雜色入色以徵時比免時。穴云。附謂除本司名。附本國帳。卽上條被辭應附是。問。若春季辭而以夏季。附本國帳者何。答。亦如之。皆依上條辭時日月之支徵耳。此爲同季除附生文也。問。春季鐍符以秋季至者何。答。依文依符至日者。然則未至符。而爲經秋故。課役全徵。夏季至者徵課免役之類。私案。徵免並以民部下本屬之符爲期。本司辭時。謂爲先同季辭及下生文。若兩季相連者。尙以民部遣爲限。免亦如之。令師云。民部鐍符云。以其季應徵免之人若干者。然則春季辭。人鐍符雖下。秋季以辭可徵免灼然也。問。應免者何。答。依令釋言徵免相對旅耳。不依古私記。假令。七月至鐍符者。是已得家業之人。尙徵課役。但上條依至日注免者。舉大例耳。夏季附者。爲役者並存也。跡云。夏季附者。仍爲皆合役也。朱云。春季附者。課役并徵者。若春季除者。課役並免耳。以下亦可放此者也。免課從役課(謂カ)雜徭不免者。未知。而夏季除者役及雜徭皆免。只徵調何。私案可然也。秋季以後附者。課役俱免者。未知。秋冬季並同何。文意又課役俱免者。雜徭皆免何。

夏季附者。免課從役。秋季以後附者。課役俱免。其詐冒隱避以免課役。謂詐復除。謂之詐也。相冒有除之人。謂之冒也。不附戶貫。謂之隱也。詐疾病。謂之避也。皆是所詐以免課役者也。釋云。詐謂詐復除也。冒謂相冒有除之人也。隱謂不附戶貫也。謂之隱也。避謂詐疾病也。皆謂所詐以免課役者也。或說。假有甲被差仕丁。雇乙代上。甲遂隱避。乙上終番歸下之時。官司知冒者。甲乙兩人各輸當番之年課役者非也。何者雇乙代上者。彼此共無所免之故。但此色者。並冒各罪冒徵也。冒要報反也。古記云。問。詐冒隱避。未知。請具分折。答。詐謂詐復除也。冒謂相冒合戶。有所蠲免也。隱謂不附戶貫。隱漏也。避謂詐病者所避也。跡云。詐謂詐復除也。冒謂相冒。冒謂蠲免也。隱謂詐漏脫也。避謂詐疾病也。穴云。詐冒隱避曰事具同。跡云。令釋云。非此文志。又其事不當也。尋理知耳。**不限附之早晚。皆徵當發年**

あらず、又その解釋を實際に行ふことも適當にあらずとなり。之によりて當時の法律解釋家が單に法文の文字解釋、文理解釋を倚ばずして、文を實際に適用して克く社會の幸福を增進するものを以て妥當なる解釋と考へたることを知るべし。

〔課役依別格也〕類聚三代格、卷八には、陸奥國の浮浪人の調庸を土人に准ずべきことを制せる大同五年二月廿三日の格見えたり。之によれば、從來浮浪人には、その浮浪を懲戒する意味を以て土人より重き課役を負はしめたりしこと知らる。故に隱首にも別格によりて重き課役を負はしめたることとありしなるべし。但しその格求め得ず。

〔和誘和同相賣〕和誘は今云ふ誘拐なり。和同相賣は、本人の承諾を得てその人身を賣買す

課役。謂徵事發年課役也。釋云。當發年謂事發年耳。但科罪者。依律計積年課役科耳。古記云。當發年謂至附年也。課輸之後附猶徵也。跡云。徵當發年課役。謂雖調庸上進(道)後事發者。猶徵附來年調。令進上也。朱貞云。卽年附事使可進者何。朱云。徵當發年課役者。未知。此年若會水旱。恩復何。私案。會水旱不可免。但會恩復可免哉何。逃亡者附亦同。古記云。逃亡者謂走還也。然隱首走還者。課役依別格也。[*]穴云。逃亡者附亦同。謂除帳走還亦只徵當發年課役耳。師云。逃亡謂除帳之口。還來附。是文稱附字之故也。兩說可檢是非也。私案。和誘和同相賣等事發者。[*]亦同逃亡。徵當年課役耳。問。絕貫[*]。所在附貫者何。答。亦放此文。徵當發年耳。問。逃亡者罪合徒罪。依下條。徒人在役免課役者。未知。何處分。答。依文。徵當年課役。在「役」年不徵。私案。當年夏入徒役者。依至鐲免之法。徵課免役。秋季後入役者。課役全徵之類也。取可反覆。跡云。逃亡者謂逃亡除帳之人復來附也。朱云。逃亡附他所貫何。同哉。答。同者。未知。此文所云。先爲何色何。又古記云。開元式云。一依令孝義得表。其門閭同籍。並免課役。卽孝義人身死。子孫不住。與得孝義人同籍。及義門分異者。並不在免限。一依令授官。應免課役。皆待鐲符至。然後注免雜任解下應附者。皆依解時月日據徵。卽雜補任人。合依補時月日鐲免。一依令春季附者。課役並徵。夏季附者。免課徵役。秋季附者。課役俱免。卽春季被(破)除者。全免。夏季被除(破)者徵課。秋季被(破)除者全徵。一防閤(閣)挾僕邑(色)士白直等。諸色雜任等。合免課役。其中有解替。卽合計日二人。共免一年。一諸色選人中間有替解。或有轉選得官徵免。依被(破)除法。各與本司計會。

口及給侍條

凡課口。及給侍老疾人死者。限十日內。里長與死家。注死時日月。經國郡司印記。謂若不課之人死者。於告朔及計帳時顯申「也」。[*]釋云。不課等色身死者。或經告朔。或計帳時顯也。古記云。問。課口及給侍老疾人死者。限十

日內。經國郡司附除。未知。以外若爲處分。答。或經於告朔日。或顯於計帳。無定例。穴云。私如先記也。朱云。課口及給侍老疾人死。謂爲之課役。并取侍人異云耳。經國郡司印記者。未知。經行事何。里長經郡。郡經國不可。又不待告朔計帳之時。則經國何。又印記何其志也。經國郡司印記。〔記〕謂至計帳時。除取耳者。

人在狹鄉條

凡人在狹鄉。樂遷就寬。謂畢戶之人。即戶口求遷者。不可聽也。戶令既有此事。今此再發者。彼設就寬之法。此明賜復之制也。釋云。人者一戶也。戶令亦有此事。彼明樂遷之理。此言遷寬之復耳。古記云。問。凡人在狹鄉。未知。人戶何別。答。人者謂一戶以上。不稱一人。案戶令云。凡戶居狹鄉。有樂遷寬。不出國境。申於本郡。當國處分者。戶令。遷狀說此令復狀顯耳也。問。戶之內口樂遷者。如何處分。答。除從亦合貫。以外不合聽。可附下條若雖聽不合與復也。

去本居路程。十日以上。復三年。釋云。復釋見職員令也。夷人被抄略者亦同也。古記云。十日以上。謂二十日以下也。復浮陸反。漢書師古曰。復者。除其賦役也。杜預注。昭廿七年傳云。都君子在都邑之士。有復除者也。孔穎達云。都邑之士。以君子爲號。故知。是有復除者也。謂復復其身。除其徭役。賈逵云。然今之律令。猶名放課役者爲復除。是漢世以來有此言也。問。復與免課役。若爲其別。答。復者不限課役。雜徭悉免也。免課役者。或免雜徭。或不免雜徭。無定例。假令。三位以上父祖兄弟子孫。及五位以上父子並免課役。如此之類無雜徭。又孝子等。同籍悉免課役。*並陀國課役俱免。如此之類。並合雜徭也。穴云。十日以上不見其限也。跡云。復謂令還本業也。去本居已絕其產業故。據復其業。除其調役雜役。歟。

五日以上復二年。二日以上復一年。一遷之後。不得更移。古記云。一遷之後。不得更移。謂不得更樂遷他寬鄉。亦不得還本貫也。

ることなり。賊盜律に「凡略レ人。略ニ賣人一(爲ニ奴婢一者絞。爲ニ部曲一者流三千里。爲ニ妻妾子孫一者徒三年。(中略)和誘者。各減ニ一等一。若和同相賣爲ニ奴婢一者。皆流二千里。賣未レ售者減二一等。」と見えたり。

〔絕貫〕貫籍を絕てる無籍者なり。その解戶令にあり。見るべし。

〔給侍老疾人〕侍丁を給せらるる老者及び廢疾者にして、八十以上及び篤疾者を謂ふ。戶令を見るべし。

〔告朔日〕儀制令に「凡文武官初位以上。每ニ朔日朝一。各注ニ當司前月公文一。五位以上。送ニ著朝庭案上一。即大納言進奏。若逢ニ雨失一容。及泥潦並停。」とあり。これ即ち告朔の制なり。

〔狹鄉〕狹鄉の古字なり。萬葉集には[illegible]と書けり。和調聚は山多くして衣の數積あるに

似たればヒダと云ふと云ひ、諸國名義考は挽手人より負ひし名なるべしと云へり。
〔謂三百六十日稱年者也〕名例律下卷に「稱レ年者。以二三百六十日一」と見えたり。
〔靈龜三年十一月八日太政官符〕この格、類聚三代格に見えず。但しその事、續紀、卷七、養老三年十一月甲辰の條に見えたり。
〔延暦十六年五月廿八日格〕この格、類聚三代格、卷十七、蠲免事に見えたり。

沒落外蕃條
凡沒落外蕃。得還者。一年以上復三年。謂若被夷狄略取。而得還者亦同也。古記云。問。沒落外蕃得還者與復。未知。毛人。隼人。被抄略得還者。若爲處分。答。不足稱蕃者。然給復一種無別。一年以上。謂一年餘不至二年以來耳。朱云。一年以上。謂*三百六十日稱年者也。還來之後。更初計復年數給也。或云。問。一年以上復三年之義。答。稱年者用三百六十日。然則不足三百六十日不復耳。以上之用。此日可出。更問。令義(時)暦非必三百六十日何。令(企)依律可不聽復。此云在跡後。二年以上。復四年。三年以上復五年。外蕃之人投化 謂投花猶歸化也。釋云。投化謂來投我化耳。穴云。問。化外奴婢來投化者。放爲良人。未知。同外蕃之人投化哉。答。彼文爲良人。其於奴婢放下文爲慥也。古記云。問。外蕃投化者復十年。未知。隼人毛人赴化者。若爲處分。答。隼人等其名帳已在朝庭。故歸命而不復。但毛人合復也。開元令云。夷狄新招慰附戸貫者復三年。*靈龜三年十一月八日太政官符。外蕃免課役事。高麗百濟。敗時投化至于終身。課役俱免。自餘依令施行。*私延暦十六年五月廿八日格云。勅百濟王等。遠慕皇化航海梯山輸款久矣。神功攝政之世。則肖古王遣使貢其方物。輕嶋御宇之年。則貴須王擇人獻其才士。文教以之蔚興。儒風由其闡揚。煥乎斌斌。于今爲盛。又屬新羅肆虐。并吞扶餘郎舉宗歸仁。爲我士庶陳力從事。夙夜奉公。朕喜其忠誠。情深矜愍。宜百濟王等課并雜徭永從蠲除勿有所事。主者施行。者復十年。其家人奴被放附戸貫者復三年。謂假令。家人奴沒落。外蕃得還。郎放從良者。賜復之數。不可過三年。以其放賤爲良。所優特多故「也」。釋云。沒落外蕃得還。亦不加也。爲放奴從良其所免特重故。唐令(答)見也。古記云。問。家人奴婢被放附戸貫者復三年。令欲還本屬者聽。未知。路程二日以上。重復以不。答。不合。問。案戸令。官戸家人公私奴婢。被抄略沒在外蕃。自拔得還者。皆放爲良。未知。經二年以上。復四年以不。答。

尙復三年。爲依自拔從良故。穴云。家人奴抄略在外蕃。或未滿一年。或滿二年拔得還。放賤之後。尙復三年。旨依還來所復。非依從復故。又問。境外人先化內充賤。二等以上親。贖爲良聽。未知。何故。答。放化內家人奴復三年。官戶拔還等是。問。獻略之良人家人訴得免之日何。答。可見唐令(答)也。後定。同家人等猶三年。跡云。家人奴被蕃賊抄略。二年以上乃得還者。放賤猶復三年。朱云。家人奴被放附戶貫者。復三年者。化外奴來投國悉放爲良。亦准此復給者。貞云。家人奴自贖免賤。亦於家人奴被放附戶貫復給耳。

外蕃還條

凡以公使。外蕃還者。免一年課役。穴云。使謂水手以上也。外蕃高百新等是。朱云。以公使外蕃還者。免一年課役。謂還來後更免一年也。水手以上皆免也。問。以公使外蕃還遭風浪經年漂流何。貞答云。此沒落耳。問。春季夏季未還來何。貞答云。唯折免耳。其唐國者。免三年課役。謂水手以上有課役者也。釋云。依格歷之年同籍雜徭免之。古記云。其唐國者、免三年課役也。靈龜二年十一月八日太政官符。遣大唐國水手已上徒(後)家徭役事。正身一房徭役已免。不及別房。朱云。唐國者免三年課役者。未知。此等色。徒免課役之年內。若會水旱恩復父母喪等何。若更亦不免不。又上復給二條同。亦所疑何。

孝子條

凡孝子。順孫。謂高柴泣血三年。顧悌絶漿五日之類孝子也。原穀諭父迎祖。劉殷目雪獲芹之類。順孫也。釋云。高柴泣血三年之類。所謂孝子也。原穀諭父迎祖。是所謂順孫也。禮記曰。高子羔執親之喪。泣血三年未嘗見齒。君子以爲難也。吳書曰。顧悌父終水漿不入口五日也。孝子傳曰。云々。在下。先賢傳曰。幽州迫近北狄。其民賤老貴少。州人原孝才者。其父年及老。孝才惡之。欲棄之於中野。輿而出。孝才少子名穀。歲初十歲。因諫不能止。穀涕泣曰。穀不悲大人之棄其父。唯悲大人年老。穀之棄于大人。故悲[illegible]而已。孝才感悟。亦輿而還。終爲孝子是也。雜抄曰。劉殷不知何許人也。而

〔高百新〕高麗、百濟、新羅なり。

事三母後召不仕。三母旅(竝)喪。始乃應令公幹晉眞位至三公。又殷祖母終冬月思芹。殷乃涉野不避雪。號呼尋覓莫知求處。忽容中止々之聲。殷乃下視逐獲生芹。已上六云。順孫是孝子一同。仍舉進耳。古記云。孝子謂孝經序曰。顏回。閔子騫。冉伯牛。仲弓性至孝也。唯曾參躬行匹夫之孝。故夫子告其誼。於是。曾子謂然知孝之爲大也。韓詩外傳曰。曾子曰。吾嘗仕爲吏。祿不過鍾釜。尙猶欣欣而喜者。非以爲多也。樂其養親也。親沒之後。吾嘗南遊於楚。得尊官焉。堂高九仞。榱題三尺。轉轂百乘。然猶北面而泣涕者。非爲賤也。悲不見吾親也。格後物云。其孝必須生前純至。色養過人。沒後階哀毀。喩禮神明通感。賢愚共傷。又云。孝養貳親。始終無怠。名表州里。行符曾郭也。又云。却標孝悌。有感通神也。順孫。謂孝子傳云。孝孫原穀者楚人也。父不孝之甚。乃厭患之。使原穀作輦。扛祖父送山中。原穀復將輦還。父大怒曰。何故將此凶物還。穀曰。阿父後老復弃之。不能更作也。頑父悔悟。更往山中迎父還。朝夕供養。更爲孝子。此乃孝孫之禮也。於是家(閨)門孝養。上下無怨也。孝孫順孫。其別若爲一種。文異義同。乘(桒)案魏徵時務策云。義夫彰於郄缺。節婦美於恭姜。孝子則曾參之徒。順孫。則伯禽之輩。順孫猶承順於祖考之孫也。毛詩。皇矣篇毛注曰。慈和遍服曰順也。孝經孔氏注云。承順祖考爲幸也。周書謚法云。孝順也。伯禽。此文王之孫。卽周公之元子也。魯頌閟宮篇曰。成王告周公曰。叔父建爾元子。俾侯於魯。箋注云。成王告周公曰。叔父我立女首子伯禽。使君於東。加賜以土田山川附庸之國。令專統之也。又維天之命篇曰。文王受命。七年五伐之。箋注云。阮也。徂也。此三國犯周。而文王伐之。於是文王造征伐之法。乃至於子武王用之。伐殷紂。而有成功也。尙書大誥曰。武王崩。子成王立。三監及淮夷并叛之。周公相成王。將黜殷。孔氏注云。三監。管蔡商「奄」淮夷徐奄之屬皆叛周。卽周公相成王。皆黜殷也。尙書文侯之命篇曰。魯侯伯禽宅曲阜。徐夷竝興。孔氏注曰。徐戎淮夷并起。爲寇於魯東。魯侯伯禽往之。乃孔子敍書。以有魯侯伯禽治戎征伐之備。卽連帝之事。此自文王武王至於周公。有繼代之道。卽周公之子伯禽。承順祖考之道。有征伐之志。安救其人民。定安其社稷。故謂伯禽爲順孫也。又尙書大傳曰。周公之子伯禽。與成王之子康叔。竝二人朝乎

〔夫〕醫心方作夫之夫。義夫の夫は或は夫の夫と同じく人又は男の意に解すべし。夫婦の夫に非ずとなり。
〔開元格〕開元格には、開元前格、開元後格、開元新格及び[illegible]

成王。見乎周公。三見而三笞。伯禽見失爲人子之禮。故笞之。伯禽語康叔曰。吾見乎公。三見而三笞之。其故何也。康叔有駭色。語伯禽曰。有商子者賢人也。與子見之。於是康叔與伯禽見商子曰。吾二子朝乎成王。見乎周公。公三見而三笞之。其說何也。商子曰。南山之陽有木。名曰橋。小枝上掩爲橋。南山之陰有木。名曰梓。二子盍相往觀焉。於是二子如言。而往觀乎南山之陽見橋。喬喬而仰。往北山之陰見梓。晉然而俯也。晉進見也。喬喬發上兒也。二子反以告商子。商子曰。橋者父道也。梓者子道也。二子者。明日見乎周公。入門而趨登堂而跪。周公迎拂其首而勞之曰。汝安見君子乎。二子以實對之。周公曰。君子乎。商子也。拂撫也。言康叔伯禽。竝二子見於商子、而既識於孝順之禮也。輩猶徒也。論語先進篇曰。何晏注曰。先進後進。謂士先後之輩。皇侃疏曰。輩猶徒也。

義夫。節婦。謂幸

歲五代同爨。郭儁七世共居之類義夫也。衛共姜。楚白嬴之類節婦也。毛詩曰。衛共伯乳早死。其妻守義不嫁。父母欲奪而嫁之。誓而不許。遂作栢舟之詩。以見其志。列女傳曰。楚白貞嬴者。白公勝之妻也。白公死。其妻紡績不嫁。吳王聞。使其使大夫。操金百鎰白璧一雙以娉焉。因以輜軿卅乘迎之。將以爲夫人。辭曰。白公無恙時。妾幸得充後宮。執箕帚。今白公不幸而死。妾願守其墳墓以終天年。王賜金璧之禮授之。夫人位非愚妾之所聞也。吳王覽其守節而有義。號曰楚白貞嬴。隋書曰。李彥隴西人也。曾祖威齊有代最齊有孝義之名。自曾大父至彥五代同爨共被白首至彥之也。世行家業。文見齊書。又同書曰。郭世儁字弘。又夫原汲水人也。家門雍睦七世共居。犬家同乳。烏鵲通巢。時人以爲義感之應云々。釋云。五代同爨。二子乘舟之類。所謂義夫也。夫讀如匹夫之夫。貞嬴守白公之節之類。所謂節婦。或說夫婦之夫者非也。開元格云。其義必須。累代同居。一門邕穆。尊卑有序。財食無私。遠近欽承。州閭推伏。州縣親加按驗。知狀迹殊尤使聞奏者。准令申奏。其得旌表者。孝門復。終孝子之身也。穴云。義夫卽令釋云。其家五代同爨已也。重世相繼。其四代以往。雖有人能至五代相繼行。所以至五代父母已亡。後同爨者。猶爲義夫也。四代以下人不爲義夫。令釋。二子乘舟。謂一身示兒弟義心。非謂義夫也。事見毛詩也。他人人義居者非義夫也。

の四種あり。開元前格は、開元三年、黃門監盧懷愼、紫微令姚崇等開元三年令と同時に撰上するところにして、開元後格は、開元七年、吏部尙書宋璟、中書侍郎蘇頲等開元七年令と同時に撰上するところたり。共に十卷二十四篇より成れり。格後長行勅は、開元十九年に侍中裴光庭、中書令蕭嵩等が開元後格以後の制勅を删定したるものにして、六卷より成り、開元新格は、開元二十五年、李林甫等が開元二十五年令と同時に撰上したるものにして、十卷より成れり。茲に引かれたる開元格がその何れなりやは、之を判定するに由なし。

私案。不必五等以上親。言祖父母父母亡。令別居而不別。經五代。令計所在之人。經五世卽是。非五等親也。但在(他)外之人非也。問。節婦號何得哉。答。待志行聞於國郡號耳。跡云。義夫謂五代同爨。而相濟之類也。朱云。問。五代同爨者。未知。一二代同爨何。答。一二代不可稱義夫。唯當五代人。可稱義夫者。問。節婦未知。夫之存亡時別不。答。孝子順孫節婦。死生無別者。古記云。義夫謂格後勅十三卷云。其義必須累代同居。一門邕穆。易衣而出。同爨而食。尊卑有序。財產無私。言行匪虧。鄉閭不競。官寮委驗。遠近稱揚。其祖父見存。計子孫。雖至四代共居者。亦不得計。從數爲義。又云。五代共居。或姓同爨也。乘案魏徵時務策。義夫郄缺。一名冀缺。又郄成子。春秋僖公卅三年傳曰。初臼季使過冀見冀缺。耨其妻饁之敬相待如賓。與之歸。言諸文公。曰敬德之聚也。能敬必有德。德以治民。君請用之。臣聞之出門如賓。承事如祭。仁之則也。公曰。其父有罪可乎。對曰。舜行罪。殛鯀其舉也。興禹管敬仲桓之賊也。實相以濟。康誥曰。父不慈。子不祇。兄不友。弟不恭。不相及也。詩曰。采葑采菲。無以下體。君取節焉可也。文公以爲下軍大夫也。案令諸師所說義夫。謂義家也。夫婦之夫者非。令驗缺夫行事。合當貢舉之條。不當課役之條。然則義夫累代待得義家之名。同籍免課役耳。節婦謂夫亡後奉舅姑。負土營葬。慕思不止也。判集云。婦女鄧早亡夫壻。情求守志。願事亡父數年遂生一子。欵與亡夫夢。令郎有娠。姑乃養以爲孫。更無他慮。鄧兄將以恥辱。遂卽私適張衡已付聘財利時成納。其妹確乎守志。貞固不移。兄遂。以女代妹。赴時成禮。未知。令得以不。鄧請爲孝婦。其理如何。阿鄧宿種淺薄早喪所天。願事舅姑。不移貞節。兄乃奪其永志。私適張衡。然鄧固此一心。無心再醮。直買匹夫守志。松筠之契已深。復慈兄嫁不從。金石之情彌固。論情雖可喜尙語狀頗有生疑。婦居遂誕一男。在俗誰不致惑疑。與亡夫夢合。夢合未可依憑。卽執確有奸。奸非奸。又無的狀。但罪難濫罰。獄貴操情。必須妙盡根源。不可輕爲與奪。欲求孝道。理恐難從其兄識情。庸愚未閑禮法。妹適張衡爲婦。衡乃剋日成婚。參差以女代妹。因此便成伉儷。昔時兄黨今作婦公。舊日妹夫翻成女壻。顚倒昭穆。改易尊卑。據法不可聽容。論情實難免怒。必是兩和聽改據法。自可無辜若也 因

〔國守條〕職員令の大國守の條なり。

〔賈逵注國語〕國語は、春秋時代列國の事蹟を國別に記したるを以て名づく。一に春秋外傳ともいふ。外傳は内傳即ち左氏傳に對する稱呼なり。隋書經籍志及び日本國見在書目錄には二十二卷とあり。唐書藝文志には二十一卷とあり。但し見在書目錄には、韋昭の注見えて賈逵の注見えず。

〔列女傳〕日本國見在書目錄に「列女傳十五卷（劉向撰、曹大家注）」と

自爲稱身罪。仍須改正也。**志行聞於國郡者。中太政官奏聞。**古記云。志行謂承上諸事也。朱云。志行謂一事也。中太政官者。未知。隱顯則若專使申。若殊可有申時何。

孝子門事

表其門閭。謂假如於其門及里門。築堆立牓。題云。孝子門。若里「也」、或云。堆音都迴反。釋云。築堆立牓。題云。其門假如。孝家義門。之類也。穴云。孝悌忠信清白異行免課役。表門閭何。答。不合也。依文習耳。顯孫是孝子一向。仍事涯耳。餘如國守條解。*門閭謂門及里二處表耳。朱云。表其門閭者。未知。待報之後。表其門閭不也。古記云。門閭謂家並當里路門也。表謂立柱。注孝狀也。奏報後表也。**同籍悉免課役。**朱云。謂一戶內稱「同籍」耳。問。於節婦女妹等何。答。不在同戶者不免課役耳。問。同籍悉免課役者。未知。孝子人等死後何免不。答。死之後不免者。私可會此文。古記。在上春〈秋〉季附條終。

冬笋事

有精誠通感謂孟宗泣生冬笋。梁妻哭崩城之類。通感「也」。釋云。*賈逵注國語曰。精明也。精猶善也。假如。孟宗泣而笋生。梁妻哭崩城之類。所謂通感。楚國先賢傳曰。孟宗母嗜笋。及母亡之後。冬節將至。笋猶未生。宗入竹園哀歎之。而笋爲之出也。得以供祭。至孝之感也。又曰。孟仁字恭武。江夏人也。事母至孝。常嗜笋子。冬月未抽。仁執竹泣叩祭神精急抽笋子。故曰。冬竹雪穿應至誠而秀質。*列女傳曰。齊杞梁之妻也。莊公襲莒戰而死。其妻無所歸。乃就於城下而哭之七日。城崩。妻遂投淄水而死。又曰。杞梁北宦長城。暇遊之間。至班孟超家。竊登花樹。樹下有池。超女是貞婦也。杞梁樹上不知地中沐浴。仰見杞梁。心懷慚愧。思看終一身。誰看再夫。謂杞梁云。妾聞婦人之容。不看再夫。今見妾容。更無餘心。未遂芳期。杞梁畢死。〈此時〉超女歸哭屍一時。天感崩城。故曰。誠喚遊靈。更乘崩城之感。古記云。精誠通感者。劉向孝子圖曰。郭巨。河內溫人。其家富。父沒分財二千萬。爲兩分。與兩弟。己獨取母供養。寄任隣家。妻產男。慮養之。則妨供養。乃令妻抱兒。己掘地欲埋之。於土中。得金一釜。上有鐵券云。賜孝子郭巨。還宅主不敢受。遂以聞官。官依券題還巨。遂得養兒也。楚國先賢傳曰。孟宗母生時嗜笋。冬節將至笋尚未生。宗

あるもの之なり。劉向は、漢の宣帝の時、散騎諫議大夫給事中に進み、元帝の時、散騎宗正給事中となり、建平元年に卒したる前漢の大儒なり。

〔蔡邕別傳〕蔡邕字は伯喈、陳留圉の人なり。孝弟甚だ高く、遠近之を奇とす。朝に仕へて東觀に校書し、議郎に遷る。後事を以て罪せられ、後漢の景帝の初平三年に死す。著述頗る多し。その傳藝文志、經籍志に所見なし。

〔王韶之孝子傳〕隋書經籍志に「孝子傳讃三卷(王昭之撰)」と見え、舊唐書經籍志に「孝子傳讃十五卷(王昭之撰)」とあり。日本國見在書目錄には見えず。

〔其勳位者一准選敍令降法〕選敍令、蔭位の條に「其五位以上、帶二勳位高一者、卽依二當勳階一、同二官位蔭一。四位降二一等一。五位降二二等一」とあ

入竹林。哀歎而筍爲之出。供祭也。蔡*邕別傳曰。邕字伯喈。性篤孝。母卒。廬乎冢側。動靜以禮。木生連理也。又有兎。馴擾其室傍也。王*韶之孝子傳曰。李陶交趾人。母終。陶居墓側。躬自治墓。羣烏銜塊助成墳也。**者。別加優賞。**朱云。未知。同籍皆同不。答。有通感一人別賞耳。問。以何色給。答。臨時給耳。不見物色者。古記云。別加優賞。謂免課役外別祿給也。

三位以上條

凡三位以上父祖兄弟子孫。及五位以上父子竝免課役。謂爲男五位以上生文。其婦女不同比例(限)「也」。其*勳位者。一准選敍令降法。但不帶五位以上者不在此例。釋云。其勳位者。一准選敍令蔭條降法耳。一云。勳位止身在下條。但蔭親無條者非也。問。五位孫未出身者何處分。答。准貢人得第未敍。而免徭役耳。案見唐軍防令。穴云。問。三位者爲男三位生文。未知。女三位亦習男三位。其父祖兄弟子孫等。免課役哉。答。勳位不在此例。但四位帶勳一等者。同官位蔭降。敍從三位子位。然則同三位。而及兄弟諸孫也。問。五位孫以廿一貢上。未知。貢以前何。答。貢訖後。隨任色免除。但未貢以前。差科如白丁也。或云。唯貢人得第未敍。而免徭役耳。案唐軍防令。爲劣。朱云。問。稱三位五位以上者女何。同不。答。可案者。私案。稱父祖兄弟者。於女亦同歟。但稱子孫者。於女不同歟。何者於父可稱子孫故。未知。而何也。父祖者不及曾高也。孫者及曾玄者。未明。其理何。後反云。孫亦不及曾玄者。私同。八位以上。嫡子不准五位孫者。未知。貢狀既同色何。不同意何。古記云。問。三*位以上。及五位以上之親節級免課役。未知。勳位六等以上之親。若爲處分。答。案選任(敍)命(令)其五位以上帶勳位高者。於當勳一位。降一等八位以上。帶勳位二等以上降四等。唯勳位一等降五等。以外不在蔭限。然則勳位子孫(後)可得八位以上。竝合免課役。

舍人史生條

凡舍人。史生。伴部。使部。朱云。舍人者。左右大舍人幷中東宮舍人也。伴部謂諸司友御造也。古記云。問。史生伴部等。竝免調。未知。使部無文。如

るを云へるか。
〔三位以上及五位以上之親同籍免課役〕こ在大寶令の條文なり。本條との差を見るべし。

〔神龜四年正月廿六日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔令師正五位下黃文連大國〕黃文は又黃に作り、國は國に作るものと讀むべし。大國は文大角に作る、[illegible]と讀むべし。文武天皇の四年、黃文連大國に大寶律令の撰定に與かり、從正六位上に叙す。和銅四年四月、從五位に敍し、養老四年正月、從五位上を授け、同年十月、刑部少輔に任ぜられ、同五年正月には、

何處分。答。文意必可任也。**兵衞。衞士。仕丁。防人。帳內。資人。事力。驛長。烽長。** 謂無位內長上。准入此條。其外長上者。灼然不同。但勳位九等以下。預外長上者。理同初位長上。卽亦合免也。釋云。師說云。無位內長上者准入此條。**及內外初位長上。**

外長上者灼然不同。但勳位九等以下。預外長上者理「同賦」。初位長上合免。文稱長上。故知番長上者。免衞使〔役カ〕耳。主政帳等有位也。下文所稱者無位耳。朱云。令釋云。番上免徭役者。未知何色。若掌省坊令管職何。跡云。無位內長上事。內番上是輕。故亦爲不課也。古記云。問。初位長上。未知。無位長上如何處分。答。伴部分番衞有免文。明長上亦免。問。內外初位分番上下若爲處分。答。輪課免役。若無故不仕者。課役俱徵。問。勳位九等以下免徭役。未知。任大少毅主政主帳。課役俱免以不。答。可免。＊神龜四年正月廿六日格云。勳位九等以下任長上官。應免課役事。右被太政官去神龜三年十一月十五日符云。得令＊師正五位下黃文連大國從五位下越知直廣江。正七位下鹽屋連吉麻呂等申狀偁。謹檢賦役令云。內外初位長上勳位八等以上。並免課役。其下政主帳勳位九等以下。並免徭役者。謹案令文。勳位九等以下。未任用之前。只免徭役。卽知已被任之後。合免課役者。若官知狀。自今以後。永爲常例。**勳位八等以上。** 朱云。未知。以上限何。**雜戶。陵戶。品部。** 朱云。品部。謂取良人配隷諸司職色也。職員令釋見。**徒人在役。** 穴云。罪人因禁經年免徭役。但爲未役故。不免調也。**並免課役。** 古記云。問。謂免課役之色。皆稱不課口以「不」。答。皆注不課口耳。但爲課戶耳。問。田令云。田給〔授カ〕先課役。後不課役。未知。防人衞士仕丁事力之徒。依無課役應給復以不。答。不合先可給也。**其主政。主帳。** 穴云。無位主政〔主〕帳解任間。比良人未仕也。師云。同白丁也。不安。朱云。主政〔主〕帳帶初位者。同外長上者。**大毅以下。兵**

明經第一博士として賞賜を蒙れり。神龜三年正月正五位下を授けられ、同五年二月、守部連の姓を賜はり、同年八月、年老いたるを以て上表して骸骨を乞ひしも優詔ありて許されず、却つて物を賜へり。武智麻呂傳に「宿儒」として大角を筆頭に掲げ、考課令集解、善條に「其清愼之善。當朝得人。守部大夫獨也。」と見えたれば、その學德一世に高かりしを見るべし。大隅の詩懷風藻に見えたり。

〔天平八年正月廿日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔未知調何答可出見名例也〕名例律上卷、除名條に「凡除名者。官位勳位悉除。課役從二本色一。」とあり。課役とある以上、調庸ならび徴するなり。

〔後敍非八位以上者可

士以上牧長帳。驛子。烽子。牧子。國學博士。醫師。諸學生。釋云。國學生亦同也。穴云。造紙及諸手挑文生等。皆比學生也。侍丁。里長。貢人。得第未敍。朱云。未敍。謂秀才明經上下中上比也。勳位九等以下。初位。跡云。五位以下八位以上嫡男(子)。未出身之間。猶如凡人也。古記云。問。無故不上。初位雜徭若爲。答。不免差充綱典耳。一云。不合。及殘疾朱云。殘疾帶初位者。不累免耳。並免徭役。古記云。天平八年正月廿日格云。大宰官人及所部國司等彼(後)家徭役事。奉勅。大宰官人。及所部國司等後家徭役免負者。幸覆天澤。並免疾苦。雖赴邊任。永無煩累。但自爾以來。年月浸遠。官人相替。稍忘恩勅。免役之家。還被驅使。不能嘿已(也)。具狀請裁者。官檢案內。勅文灼然。恐其當時漏脫。令仍未下。省宜依彼家情願遍告本貫。令免徭役者。其坊長。價長。免雜徭。謂取京畿人。故不勞庸。若取外國人。卽合免庸。其坊令同里長亦免徭也。釋云。取京畿人故。不勞庸。若取外國人。應免庸也。坊令同里長免徭役。令行事課役俱免。穴云。價長坊長等。是本於京人無役。故只稱雜徭。若任有役人者。免徭役耳。坊令是約初位處故。不別著也。師云。同里長也。跡云。坊令無文。故爲准輸。

除名未敍條

凡除名未敍人。免役輸庸。釋云。願役身亦免雜徭等。所以優也。朱云。除名人免役輸庸者。未知。調何。答。可出見名例也。問。免官之人等未敍之間。亦身無歷任位記何。答。名例敍法條云。不在課役限者。而別(則)有正文。可知私案後敍非八位以上者可出調。跡云。此條人令(合)調庸進也。願役身者聽之。其應收庸者。亦不在雜徭及點防之限。謂除名之人。輸庸之外。不得更亦點兵士及衛士「也」。釋云。不得點兵士及衛士。爲不在雜徭。及點防之限

故。穴云。問。文云。應收庸者。亦不在雜徭及點防之限者。未知。若願役身而得聽之人。可差雜徭及點防哉。答。上日歲役。隨願可役自餘雜徭。點防不合。但免官以下無位人者。見敍法條終注。跡云。願役身。而不合科徭點兵士之類。朱云。又亦之字意何。若庸之外。亦稱不爲雜徭點防心歟。

免期年徭役條

凡遭父母喪。並免朞年徭役。古記云。問。遭父母喪者。所養本生有別以不。答。所養父母者免朞年。但於本生父母者且待孝禮。一云。孝禮律。重本生輕所養。然依律名(大)例。所養並合朞年。唯(准)新令。爲所養父母五月服也。但左兵衛大荒木牛養爲所養父。先解任。復任後。本生父母死。仍請貫葛井連男成。答。贈左大臣藤原專(尊)。依令。爲人後者。不在兄弟之子不得出身。然則以父代伯。宜爲本生父(之)五月服假給耳。依此答。宜此府獨行例如此。唯官官人等。依律並解任也。問。嫡孫承重。並免朞年朞役。未知。服朞年不。答。服。名例律云。嫡孫承祖與父母同故。朱云。遭父母喪。謂養父母。不入此例也。爲服期限輕輕也。免朞年徭役者。爲哀痛重也。雖水旱恩復年來年不折。

〔出調〕選敍令に「凡犯二除名一限滿應レ敍者、三位以上、錄レ狀奏聞聽レ勅。正四位、於二從七位下一敍。從四位、於二正八位上一敍。正五位、於二正八位下一敍。從五位、於二從八位上一敍。六位七位、並於二大初位上一敍。八位初位、並於二少初位下一敍。」云々とあり。故に六位以下の者の除名せられたるものは調を出すべし。八位以上に敍せらるゝ者の調を免ずるは、戸令に八位以上は不課とあればなり。

〔朞年〕一年なり。唐律に期年と云へるは、玄宗の諱基の音と同音なるを以て、之を避けたるなり。我が令にこの字あるは、我が令が唐の永徽の令に據りて開元の令に據らざりし一證なり。

〔孝禮〕この書支那の典籍なるべきも、日本國見在書目錄に見えず。

令集解卷十三

本云、文應元年十月十八日見合本書加首書畢(了)

建治二年四月廿七日引合正親町本校合畢(了)

權大納言藤原在判

〔翼〕大寶令の官名なり。養老令の兵衛佐に當る。

〔贈左大臣藤原尊〕藤原不比等の第二子房前なり。懷風藻にも、房前を贈左大臣と書けり。天平九年十月七日左大臣正一位を追贈せられ、天平寶字四年八月七日更に太政大臣を追贈せられたり。

慶長四年林鐘十三日課少内記賢好令校了　　吏部清原秀賢

寛永十一甲戌仲冬假他筆令寫之一校了　　大府侍郎中原

萬治三庚子季冬下旬令一校畢　　羽林中郎將藤原

右者請河村秀興先生之藏本如元本寫之校合者也

明和四亥閏九月　　越智通邦［印］

同七年寅五月十七日以京師本一校了

安永三　年七月廿一日一會了

令集解卷十四

賦役二　雇役丁者條以下。終條以上。

＊閑月・要月〕次の頁に
ある頭書見えたり

凡雇役丁者。〔應（雇カ）役丁條〕穴云。爲雇夫生文。其使歲役之人。不見文也。問。雜徭何。答。雜徭可役國中。是文先爲雇夫也。抑徭「夫」之事。合講捕亡律。丁夫雜匠。在役亡之條也。朱云。雇役丁者。未知。正役人約此條不。答。不約者。讚云。此條爲雇丁生文。其於歲役不見。計所作色目多少及上役之限。但支度用度可納。庸少者留役令輸庸耳。又遠國不便役身者。亦收庸耳。問。於雜徭何。答。雜徭可役國中。非此條所募也。抑可檢捕亡律。丁夫雜匠在役亡之條也。

本司預計當年所作色目多少　謂本司者木工寮也。色者草蓋瓦蓋之類也。目者倉屋觀之類也。多少者倉屋及人功多少也。釋及古記無別也。穴云。本司謂木工寮也。私案。當年謂凡在京一年内。可作物計知申耳。問。稱當年者。始於何月。至何月計爲當年。所以起疑者。七月内奏訖。自十月一日。至來年二月卅日。上役是爲閑＊月也。自三月以後爲要＊月爲役。然則當年之期。以何爲限。答。稱當年者。自正月至十二月是爲當年。但作物之事迄十(十二)二月耳。若有要可役者。要月亦可有役使也。故文稱若要月者。不得過卅日也。讚云。本司預計當年所作色目多少。謂木工寮謂之本司也。色謂草蓋瓦蓋之類。目謂屋倉之類。多少謂屋倉及人功多少也。穴案。當年謂凡在京可造物者。預勘當年中。可作物并可役人功申官耳。問。始於何月至于何月稱當年哉。答。自正月至于十二月是稱當年耳。問。下文云。七月卅日内(以前)奏訖。自十月一日至二月卅日内。均分上役者。已踰年役使。而何限十二月哉。答。稱當年之辭卽上說。但於作物。涉年驅使耳。大[illegible]可謂正。私案。依文七月内奏訖。八九兩月太政官支配。并諸國若調而送上之程也。起自十月一日迄于來年二月上役。若可要作者。至七月合上役。故文云。若要月者

〔文同意殊讃須消息〕學令集解、釋奠條にも、「名同實殊。讀須消息。」と見えたり。されば讃は讀の誤りなるべし。文同じきも意味異る。適宜に解釋して令の消息に通ずべしとなり。

不得過卅日者。然則文稱當年八月以後七月以前。一如考限也。譬猶學令。計當年教授多少之文。**申官**。朱云。申官謂申時不見也。讃云。問。本司何日申官。答。不見申日。但准量行程申耳。

錄付主計。謂案文本司既申官。官卽付主計。而稱錄付者。言官取本司錄狀。卽轉付主計。非是官更別錄也。釋云。依文本司申官。官付主計。而稱錄付者。官取本司錄狀。轉付主計耳。唐令云。本司量校。錄送度支。*文同意殊。讃須消息。穴云。錄付主計。謂受本司錄付主計也。跡云。錄付主計。謂受取本司注申。而付主計也。讃云。與釋無別也。**覆審支配**。謂主計覆審申官。官卽奏聞支配也。釋云。覆審謂主計覆審也。支配謂官支配耳。言主計覆審申官。官奏聞支配耳。穴云。覆審。支配。謂分爲二句也。支配謂官受本司申解。支配諸國令進也。跡云。覆審支配。謂付主計令覆審而支配也。古記云。覆審支配。謂本司充申人功合不勘當。若不當者。更支配申官。官更支配奏聞也。讃云。覆審支配。謂分爲二句也。覆審者主計覆審也。支配者官支配也。言主計覆審申官。官奏聞支配耳。問。本司何日可申。答。不見申日。但准量行程申耳。**七月卅日以前奏訖**。謂一日以後也。穴云。以前謂七月一日以後也。先覆奏而後支配。但文義難讀。案唐令知耳。跡云。奏訖謂官奏也。讃云。與義解無別也。**自十月一日。至二月卅日內。均分上役。一番不得過五十日。若要月者。不得過卅日。**古記云。均分上役。謂假。令三千雇役三分一番一千役也。「問。三月。案雜令爲閑月。於斯條何。」要月謂依雜令四五六七八九月以外。爲閑月也。讃云。均分上役耳。古令(答)云。假令。三千人雇役爲三分。一番役千人耳。問。文云。自十月一日至二月卅日內。均分上役。一番不得過五十日。若要月者。不得過卅日。未知。十月以後二月以前。有閑月要月歟。爲當。要月之文。爲三月以後可役立文歟。答。二月以前。皆是閑月。仍不得每番過五十日。若有不得三月以後應役

「要月謂依雜令。四月以後九月以前也」雜令に「凡訴訟。起十月一日。至三月卅日檢按。以外不レ合。」とあるに據りて說をたてたるものならむ。訴訟は農閑期を利用して行ふべきものなれば、訴訟を許さざる四月乃至九月を以て要月とせるなり。

〔單身〕家に兼丁なく、その身役せらるれば、外に家業を營むものなきを云ふ。

使者。不得旬番過廿日耳。古令〈答〉云。要月謂依雜令。四月以後九月以前也。**其人限外上役欲取直者聽。**古記云。五十日。卅日役之。更其〔其〕後番人上役欲得功直者聽〔役〕也〔已〕。物〔總〕記不合也。〔釋〕云。聽以上無別也。**國司皆須親知貧富強弱。因對戶口。即作九等。定簿預爲次第。依次赴役。**謂計帳之時。國司會集人民。知其貧富強弱。即差品戶口之多少。吉度資產之廣狹。預作九等之品數。及先後之次第。至於赴役。即依此簿。故下條云。家有兼丁者要月。家貧單身者閑月也。釋云。差戶口多少。家財〔家〕優劣。作九等。爲下條稱家貧單身閑月故。穴云。因對戶口。即作九等。謂以計帳日。造九等。九等謂貧富九等。丁多少九等是。仍出義倉幷差科耳。令師云。依計帳。知丁多少。貧富等第。幷臨差科之時勘知強弱。而至臨差之時。更作九等第。應差遣耳。是知可謂差科時。作九等也可檢。唐令云。收手實之際。作九等定簿者是。但據九等。檢正身。定強弱耳。假作簿云甲戶富上上。於丁中中之類。若差遣其人之日。求強弱耳。問。營繕令云。凡有所營造及和雇造作之類。所司皆先錄所須總數。申太政官。又條云。在京營造及貯備雜物。每年諸司總料來年所須。申太政官付主計。預定出所科備者。未知。兩令其應其分計〔酉〕。答。彼令。爲須物生文。此令。爲役丁事生文。兩令理途各殊也。假來年可用瓦檜皮之類。依營繕令貯備之丁。但可役之丁。依此令所作耳。跡云。貧富強弱總令造九等也。差科令輸物者。從單丁而貧先富。但身差遣者。雖貧而有兼丁者要月示此一端。遠近難易之類。推可知。朱云。問。知貧富強弱者。依要閑月爲差遣耳。何也。對戶口。作九等定簿。謂對戶主作九等者。未知。而何。文云。對戶口哉何。後又云。對戶口可作九等者。或云。更不可作九等。何者。計帳則可注顯貧富強弱九等故者。直不同也。古記云。即作九等。謂戶口多少家財優劣。作九等定簿。但強弱者不合作九等也。預爲次第。〔依〕次差使。謂輩民也。取家有多丁。謂雖家貧。猶取多丁之戶。若丁數等。取富戶。取生云。作九等定簿。謂依人數

作九等也。又依貧富作九等。總作二通。何者依人數役時。依貧富役時。可有之故者。可案之。令文未明。此文。在跡後。讃云。知貧富强弱。因對戸口。即作九等定簿。謂計帳之日。造九等也。假如。作貧富九等。幷丁多少九等是。仍須科義倉幷爲差遣次。唐令云。收手實之際。降作九等定簿者是。但據九等。檢正身臨時簡强弱耳。假作簿云。甲戸富上上。於丁。中中。乙戸富中上。於丁上上之類。至差遣之日擇强弱耳。古答同之。問。案文可謂簡差之日。對戸口作九等。而何說計帳之日九等哉。答。作九等者。計帳之日行事也。何者賦役令義倉條九等。田令置官田條九等。皆計帳之日可作定故。但簡强弱者。簡差之時事耳。問。作九等意。答。下條云。差科先富强。後貧弱。先多丁。後少丁。其分番上役者。家有兼丁者要月。家貧單身者閑月。又上條云。一位以下及百姓雜色人等。皆取戸粟以爲義倉。上上戸二石。上中戸一石六斗。上下戸一石二斗。中上以下各有差等。又田令置官田條云。每二町配牛一頭。其牛令一戸養一頭。注云。謂中中以上戸。又云。授田先貧。後富者是。知所以作九等。爲定差科次第。及義倉之數也。問。營繕令云。有所營造及和雇造作之類。所司皆先錄所用總數申太政官。案之。此條。爲臨時別勅營造生文也。又條云。在京營造及貯備雜物。每年諸司總料。來年所須。申太政官付主計。預定出所科備案之。此條爲尋常營造。預令備科(料)物立條也。者。未知。兩令之別。答。彼令爲科備應須造作。雜物竝材木等立文。此令爲役丁夫生文。假如。人功閑月應役故。此令。七月卅日以前奏訖。其雜(料)物材木等。預應科備故。彼令總量料度在前申官。兩令理途各異耳。

差科條

凡差科。先富强。後貧弱。先多丁。後丁少。謂差科。正役雇夫等之類。其調庸輕重。亦准此法也。穴云。差科。謂輸調庸差遣。其身皆約正役雇夫等之類。私案。徭亦放此也。問。下文。分番上役。與此文何別。答。下文爲分番上役生文。此文爲一度科差發之類。問。調庸有常期科徵。豈有先後乎。而此文稱先後何。答。假令。條(絲)謂(調)七月卅日以前進如此之類。先取富戸。次貧戸。令進庸(衣)調之類。餘推可知也。貧弱謂於富不論强弱。但此文。弱者强與弱二時事是也。先多丁。謂貧富强弱均時是。但取用之法。令放擅興律兵士

條。財均者取強。力均者取富財。力又敵先取多丁之文也。朱云。差科者。未知一端何色物也。問。先富強。後貧弱者。未知。幾事。若富而強。富而弱。貧而強。貧而弱。總四事轉何。**其分番上役者。家有兼丁者要月。家貧單身者閑月。**穴云。分番上役。閑月與要月相交可差發、而後番當要月者。先以家貧單身爲先番。而閑月差遣、以有兼丁遣後番要月耳。釋云。兼丁數丁也。猶云多丁也。

丁匠赴役條

凡丁匠赴役者。皆具造簿。穴云。凡諸條丁匠。皆爲雇生文。不爲歳役生文。師云。歳役亦約條文。又婁太國匠丁。不約件條也。但上條。差科歳役亦約。律有明文故。朱云。衞律私度條疏云。重防丁夫。有擅歴者是贓。丁匠赴役者。未知。正役及雇夫皆約不。丁匠謂直役丁並匠丁二色也。**丁匠未到前三日。預送簿太政官分配。其外配者。便送配處。皆以近及遠。依名分配。**謂以近及遠者。假令。大和國紀伊國有造作事。應發關東民者。以美濃配紀伊。以尾張配大和之類也。依名分配者。木工金匠。執事不同。隨其名實。色別分配也。釋云。以近及遠。假有倭國木[國]造作之事。應役關東丁夫者。以三野夫配木國。以尾張夫配倭國之類。依名分配謂名帳也。穴云。其外配者。便送配所者。師云。送丁匠也。私思送簿配所也。但送簿者。丁匠亦然耳。以近及遠。謂假應在京營造者。先取畿內人夫。次及外國之類。畿內雖無丁役。於量役無妨。若南處可役者。依令釋習也。依名謂。依一本國歷名也。師云。依名者。木工鍛冶工等。依才名分配耳。朱云。便送配處者。未知何。若不送太政官便送可役所轉何。依名分配者。未知何。釋云。依名帳者何。若依才能之名配轉何。古記云。其外配者。便送配所。謂西方之民。便配造難波宮司也。以近及遠。謂先着役近國。次中國。次遠國也。依名分配。謂依名簿木工者配木工寮。鍛師

〔木國〕紀伊の國なり。古は林木繁茂せるによりて木の國と云ふ。後國名には好字を選び、必ず二字となすべき詔出づるに及んで、紀伊と改めたるなり。

〔造難波宮司〕孝德天皇の創め給へる難波の宮

は、天智天皇都を近江の大津に遷し給へる後も保存せられ、白雉三年攝津職を置き、同八年羅城を築きて別都と爲せり。慶雲三年、文武天皇幸し給ひ、尋いで聖武天皇また神龜二年、天平六年、玆に幸し給ひ、天平十六年終に都をこの地に遷されたり。造難波宮司は、即ちこの遷都の準備を爲す爲めに置かれたる臨時の官司にして、その創設、廢置の年代を明かにせずと雖も、續紀、天平六年三月丁丑の條には、造難波宮司に祿を賜ふこと見え、天平六年出雲國計會帳には、造難波宮雇民逃亡の狀を報ぜる民部省の符のこと見え、天平九年但馬國正稅帳には、造難波宮司の雇民の食料として雜腊伍斛を支出したること見えたれば、その頃には既に存在したる事明かなり。

者配鍛冶司也。注。器械謂小斧「鋒」鍬鎌之類。漢書。師古曰。械者器之總名也。一曰有盛爲械。無盛爲器也。**作具自備。**謂是爲工匠。非關役夫也。釋云。作具鑿。小斧之類也。穴云。作具於匠自備作具也。於丁非者。

有事故條

凡丁匠赴役。有事故不到闕功者。謂身及親病之類也。穴云。問。防人欲發犯罪。及對公私事非至徒者。量情決發遣。又云。防人在路被(破)除者。不合差替。未知。於丁匠何。答。丁匠亦量情決發遣無妨也。但被(破)除者。差替爲支度用故也。事謂犯徒罪以上。可差代等也。後案。犯徒者與後番人共不可送。然則杖以下量決發遣。是知事故此一事也。但被引重罪證。並杖以下雖明者。與後番送令陪耳。故謂身病親患等。其逢親喪者。免排年徭役故。不合與後番人送故。不入此文也。朱云。丁匠赴役有事故者。未知。正役及雇役丁同不。若爲稱給雇直。此條爲不約正役人不。問。事故謂身病并父母喪病。皆同何。問。有事故之人過多何。若病損之日摠集共送雖要月令役不。古記云。不到闕功。謂病患遭喪之類也。**與後番人。同送陪功。**謂陪猶助也。言隨闕功之多少。而塡助也。釋云。賈逵注。國語曰陪助也。音蒲帙反。謂一功闕處以一功塡耳。古記云。問。與後番人。同送陪功。未知。一國盡一番上役。何稱後番也。答。猶差替丁送耳。若丁既盡無者。待病損。十一月卅日以前送也。以後並遭服者不合。朱云。與後番人同送。謂若無後番人者。不可送者。未知。而其分作物何。若可無後番人者。差代他人送何。**若故作稽違。及逃走者。所司**謂國司也。釋無別也。古記云。問。所司即追捕決罪。仍專使送役處。未知。所司誰官。答。本國司此所司。當逃走。國司亦此所司耳。假令。上道之間。逃走者。將領主司。經所在國司知。即所在追捕獲者。專使送役處耳。若不獲者。告役處并本國知耳。穴云。所司謂在國國司也。其仕丁亡者。依捕亡令也。丁匠亡者。依此文也。其罪徒以

上差替耳。即追捕決罪。仍專使送役處陪功。即給雇直。朱云。即給雇直者。未知。給功法何。若依營膳令可給不。又役夫及匠丁。給功多少同不。

役丁匠條

凡役丁匠。皆十人外給一人。充火頭。謂火頭者廝丁也。執炊爨之事。故曰火頭。即給功直。與見役者同也。釋曰。火頭廝丁也。案燃火炊飯。故曰火頭也。給功直與見役同也。古記云。問。給一人充火頭。未知。此火頭給功直不。答。＊一種給無增減。火頭謂廝丁。此人燃火炊飯故。名火頭耳。穴云。義役之丁食私糧者。不合有火頭也。師云。留役之夫食公糧者。取其中人。每十人充火頭耳。可檢。凡丁差一百國者。火頭更十人加耳。師云。可役一百人夫者。加火頭十人。併百十人勘定下符耳。跡云。火頭丁丁匠之內人也。朱云。給一人充火頭。謂依文十人之外人耳。未知。正役幷雇役丁皆同給不。若爲。得食給並給雇直事。此條。只爲雇役丁觸不。疾病及遇雨不堪執作之日。減半食。闕功令陪。穴云。不堪執作之日。減半食。謂役之日全給常食也。闕功謂闕日也。細放下條解也。私案。下條云。丁匠往來。如有重患〔病〕不堪勝致者。留付隨便郡里。供給飲食。待差發遣者。然則未差之間。給半食及直。在役所邊供給。在道尙供給故。不合還却也。但病平堪役者。闕月內役使無妨。廢月者還却耳。後日博士云。未差間雖經多日官給半食耳。丁匠遭父母喪者。還退差替耳。跡云。闕功令陪。謂正役人會病疾者。損日令陪。但雇人疾者食減半給。朱云。火四食雖雨不減半也。闕功令陪之日。不食減半。全給者。未知。而何。作物少食多乎。唯疾病者。給役日直。謂見其病之狀。不可更役者。若應其役者。當番之役猶令追陪也。釋云。給役日直者。計見役日。給其直。穴云。唯疾病者給役日直。謂給半食及役日力〔直ヵ〕還却。是若輕病

而して聖武天皇は翌天平十七年再び平城の都に還られたれば、造難波宮司も恐らくこの時に廢止せられしものの如し。

〔防人欲還鄕里及對公私事并在從者具情決發遣〕これ軍防令の條文なり。古記に又云として引けるものも亦然り。案ずるに防人の上「軍防令云」の三字を脫せしならむ。

〔仍專使送役處〕天平寶字五年十二月廿三日の甲斐國司解には、保良離宮より逃亡せる仕丁甲斐國巨麻郡栗原鄕の漢人部町代の替りとして同鄕人の漢人部千代を都留郡の散仕矢作部宮麻呂に附して貢上せり。これ逃亡丁匠の替りを專使を差して役處に送れる實例なり。

〔廝丁〕炊事をなす仕丁にして、仕丁の補助なり。五十戶より仕丁二

人をとり、一人を以て断丁に充つ。その事下條に見えたり。

〔功直〕今云ふ賃銀なり。

即平者赴役耳。跡云。給役日直。凡單淺病之人者。病差息令倍役。若疾重不任役者。給役日直也。朱云。上文閾功令陪。謂爲病輕損日令陪役耳。下文。唯疾病者給役日直。謂病重爲不息。給役直聽還者。未明。問。正役人病重不任作役何。只免役若役分收庸何。 **雖雨。非露役者不在此限。**

營造條

凡在京有大營造。 謂役五百人以上也。穴云。及跡無別也。釋云。大營造謂五百人以上役。申上待報之類。古記無別也。朱云。在京者。京城内歟何。 **役丁匠之處。皆令彈正巡行。** 古記云。未知。外國若爲。答。臨時處分耳。朱云。彈正每日巡行不也。凡雖役所不申。彈正自巡行何。 **若有非違。隨事彈糺。** 謂役不如法也。釋云。役使不如法。謂之非違也。禮儀服色之類者非。古記云。若有非違。謂役使不如法此。不在禮儀服色之類。穴云。非違者。役使不如法也。

丁匠在役遭父母喪條

凡丁匠在役。遭父母喪者。皆國司知實申役所。 古記云。遭父母喪者。皆申役所。謂計路程盡役日者不申也。問。丁匠遭喪皆申役所。未知。仕丁女丁等類。若爲處分。答。案軍防令。衞士上番年雖有重服。不在下限。下番日令終服。即知。以外雜色皆服解耳。釋云。知實申役所。謂計路程盡役日者不申耳。穴云。無別也。跡云。凡除衞士防人立文外。直丁女丁等之類。遭喪皆習此條。朱云。丁匠在役遭父母喪。謂如上條。養父母不入者。未知。正役。并雇役丁。并同役(何)者。上條。遭父母喪免非年徭役之故。爲當若下文爲稱給役「直」。只爲雇役丁何。 **即給役直放還。** 釋云。軍防令。衞士上番雖有重服。不在下限。即知。以外皆放還耳。穴云。給役直放還者。衞士等依軍防令。自餘依此條耳。

藁藍條

凡供京藁藍。 古記云。藁公道反。孟子。七月八月不雨。苗則藁矣。說文秆也。史記。使屈原爲憲令屬草藁未定。野王案。藁猶草也。稻去其穗也。藍力甘反。毛詩。終朝采藍。不盈

一籠簀云。藍染草。**雜用之屬。**謂染草纑蘰柏槽机籠簀等之類。即其所輸者。准折雜徭也一。釋云。染草纑蘰柏槽机籠簀柏等也。古記云。雜用之屬。謂黃草釘纑蘰槽机籠置簀柏等也。**每年民部預於畿內。斟量科下。**釋云。所科物者。准折雜徭耳。古記云。預料下。謂國知可輸物色。臨時充雜徭令採。穴云。此條爲徭料科下。但此條文。下(丁)文(夫)以(次)兩依文放耳。更無別義也。其科下之日。依公式令請內印耳。朱云。民部預於畿內斟「量」科下。謂不申官者。未知。雖不申官。下符者必捺內印何。

斟酌功力條

凡役丁匠。皆斟量功力。均課輕重。謂若前經重役、則後處輕役也。古記云。問。均課輕重。未知。輕重若爲。答。可用百人。功充百人。可用五十人功。充五十人耳。此反者。非均輕重也。一云。昨日充重役者。今日充輕役。謂之均課也。**日滿即放。**謂假令。量十日功。調發人民。功雖未畢。日程既滿。便即放遣。其功程不適。意由主司。故依下文。附考貶(殿)責也。釋云。假令。量十月功令遣。而未成其役。日既滿者。即放遣耳。但意由主司。故附考殿耳。穴云。日滿謂滿五十日者即放却。若滿五十日。作物不合法者。罪在主當。主當謂主領夫人也。跡云。日滿即放。謂專當人不加檢校。令失功程者。只坐監當之人。丁匠則放退。更不合副功也。朱云。問。意歸在丁匠身、而何所關不令陪役意何。答(問)假木工寮預造作事者、其司之官人皆爲主當官司也。爲當。只以預事人爲坐何。稱節級意何。**其主當官司。不加檢校。致失功程者。節級推科。**穴云。節級謂從所關輕重推科。非連坐之義也。令師云。主當官司。主典以上。依公坐之法連坐耳。私思役使丁匠。依律皆有主當而將領之人。是知此將領之罪明。無連坐也。但依行事。有主典以上連坐時、又有坐將領之時耳。不可一執也。釋云。節級推科。此是連坐。故云節級。以所由爲首耳、朱云。節級推科、謂連坐可科也。或云無連坐者非。**仍附考殿。**古記云。仍附考殿、謂負亦

＊依公式令請內印耳　公式令に、內印方三寸、五位以上位記及下諸國公文則印、と見えたり

〔醫藥文略也〕飲食の事を云ひて、醫藥の事を云はざるは、當然の事として文を略せるなり。之を供給せざるに非ざるなり。唐の雜律には「諸丁匠在ㇾ役。及防人在ㇾ防。若官戶奴婢疾病。主司不ㇾ爲ㇾ請ㇾ給醫藥一救療ㇾ者笞四十。以ㇾ故致ㇾ死者徒一年。」とあり。之に相當する律文我が律に在せしこと疑なし。本條が醫藥供給の事を云はざるは、即ち律條によりて明かなればなり。

附也。朱云。附考殿者。朱知。不足殿何。

丁匠往來條

凡丁匠往來。穴云。此條正役留役雇夫(役)等。皆須一同。朱云。於此條正役。並雇役夫皆同何。如有重患不堪勝致謂勝者任也。致者至也。言往來中途。身被重病。不能勝任以至前處也。釋云。勝任也。音識承反。古記云。勝致謂往至也。者。留付隨便郡里。供給飲食。謂以官物資給也。釋云。以病者物給養。故云。若無粮食。即給公粮。雇役夫皆程粮私備。古記云。供給飲食。謂即給官物也。穴云。供給飲食。謂郡里以病人私粮供給也。凡丁匠往反(及)。米(來)(米)皆食私粮耳。*醫藥文略也。並情丁匠往還間。食私粮於事爲不穩也。下義云云。案之。往還之粮須自備。跡云。供給飲食。謂即丁匠身所賚之私粮。而便供給耳。若無私粮者。乃給公粮。供給數習上條耳。朱云。准倉庫令耳。未明。凡丁匠番還給。官粮不之狀不見文。此條。雖至役所。未附作而疾病。上條在役中而疾病也。待差發遣。古記云。待差發遣。謂若身尩弱路遠。擔粮不堪者。以移付丁匠還送。供給過遣。若不堪步行前給乘馬。其上京丁匠雖(假)病損不能驅使者。送還本土。以狀告役所知也。若無粮食。即給公粮。謂病差發遣之時也。

赴役身死條

凡丁匠赴役身死者給棺。朱云。未知。役所官司作給歟何。在道亡者。所在國司。以官物作給。並於路次埋殯謂殯者斂也。言殯斂假藏。待家人至也。釋云。殯殯斂也。音必刃反。道(路カ)次猶道邊。跡云。道(路カ)次猶道邊也。立牌。並告本貫。穴云。告謂附便(使)人。師云。所在官司。遞送遣遣之。文稱告本貫之故。少不安。令釋。及跡各異說也。朱云。告本貫者。未知。差專使者不。若無

家人來取者燒之。謂因問既告。道路有程。待其迎接。過限不來者。即於當所燒之(也)。釋云。以告遣日准量行程耳。一云。待本貫移。然後合燒。若不反者。依公式令附考耳也。跡云。燒。謂待告本貫反移。而令燒也。穴云。無來取。謂推行程過可來期也。燒後其牌不取。爲可來來取骨故也。牌者排也。朱云。未知。燒之後。猶立牌不。古記云。問。若無家人來取者燒之。未知。家人來限。答。以告遣日量路程耳。一云。待本貫移然後合燒。即承告本貫主司取。不報狀移送耳。若不返報者。依公式令附考。有人迎接者。分明付領。釋云。迎接者接持(待)也。古記云。迎接謂來取。

晝作夜止條

凡役丁匠者。皆晝作夜止。穴云。此爲雇夫生文。歲役丁亦同此文。上患死條。亦准習耳。

六七月從午至未休涼事

其六月七月。從午至未。放聽休息。謂炎毒正甚。乾坤熾然。撫其喘喝。放令休涼。若其所役在影蔭之中者。即不入此限也。釋云。蔭所役者不放。古記云。休息謂安居也。又蔭役所者不放。朱云。未知。聽休息者。正役雇役丁皆同也。要須役者。不在此例。謂喪葬有時。饗(宴)會有日。事不獲已。理在必行。如此之類。是爲要須之役也。釋云。喪葬饗事。倩急速之類。古記無別也。朱云。要須役者。不在此例者。未知。只爲休息歟。若雖夜尚役不。

車牛人力條

凡爲公事。須車牛人力傳送。而令條不載者。皆臨時聽勅。謂假令。蕃客來朝之時。所用車牛人力之類也。釋云。假令。蕃客入朝之時。應須車牛傳送之類也。穴云。一端蕃客等之類。問。車牛人力爲何科役使乎。答。文稱令條不載者其用度也。朱云。皆臨時聽勅者。未知。何司行事。若臨

一文蔭役所者不放一蔭役は役蔭の誤ならん歟。午より未に至る間休息せしむるは、暑熱を避けんが爲めなり。故に蔭所に使役する者には休息を與ふる要なきなり。

時預事司申太政官者。官則奏聽勅歟何。問。差科馬牛人等何色物若爲。令條不載臨時聽勅。而則其色爲不見何。

差科之日。皆令所司量定須數行下。 謂所司者治部玄蕃也。釋無別也。古記云。問。皆令所司量定。未知。所司誰司。答。關事之司。謂之所司耳。假令。依蕃客入朝所用者。治部玄蕃稱所司耳。穴云。所司謂治部。若非蕃客事者。可用物司量定耳。行下亦爲所司生文也。師云。行下者官〔行〕下也。〔行〕但諸司行下。謂事皆自官出耳。朱云。皆令所司量定。須數行下者。未知。所司只行下。若申官司哉。**不得令在下有疑。使(便)百姓勞擾。** 謂在下者供事之下司也。勞擾者不明期會。妄動人民之類也。釋云。在下猶言下司也。有疑。假令。須用車馬人若干也。不顯用數。謂之有疑也。穴云。有疑謂不定數是。勞擾亦同心。言多發徒疲也。多少也。但徭折不之狀。合案下雜徭條。古私記也。令師云。須雜徭用耳。古記云。在下謂下司也。明錄用數并日時行下。一時集聚運送。預差發留待。不得使百姓辛苦也。跡云。有疑謂不顯數多少。直〔作〕仰備車馬之類。勞擾謂顯集日限。直兼召發百姓。令候(獲)(俟)多日之類。在下猶下司也。

貢獻物多條

凡諸國貢獻物者。 謂案前令。云朝集使貢獻物。今此令無朝集使三字。即知。不必附朝集使。亦當寄附便使也。釋云。前令云。朝集使貢獻。今令除之。即知。附便使耳。跡云。爲常例。令貢獻之物。朱云。未知。而不待官符。國爲例貢何。但使色不見文。故附便使貢耳。穴云。古令附朝集使者。而今除其文。不見附〔便〕使。朱云。問。此物以何人可運也。雜徭歟。若充功雇歟何。**皆盡當土所出。** 釋云。下文所計雜物是。古記云。問。皆盡當土所出。未知。銅錢若爲。答。銅錢不貢也。**其金銀。珠玉。皮革。羽毛。錦。** 古記云。金銀金黃金也。謂金生麗水也。珠玉自生曰珠。作成曰玉。所謂玉出崐崗。皮蒲奇反。革各額反。羽優詡反。鳥長毛也。毛莫高反。眉髮之屬也。有毛曰皮。去毛曰革。鳥翼曰羽。獸毛曰毛。春

〔吉備酒・下野氈・駒形箭〕これ當時の名産を列記せるものなり。吉備の酒は、萬葉集、卷四に「古人のたばせる吉備の酒、病めばすべなし、ぬきすたばらむ」と見えたり。[illegible]見えたり。

〔醫疾令〕これ醫疾令の

秋毳三年左傳曰。皮革齒牙骨角毛羽也。角音古岳反。獸頭上骨出外謂之角也。正義曰。說文曰。獸皮治去其毛曰革。革更也。則有毛爲皮。去毛爲革。周禮。掌皮云。秋斂皮。冬斂革。以其小異故。別時斂之。散〔羽〕文。毛。則皮革通也。領上大齒謂之牙。鳥翼長毛謂之羽。齒牙毛羽。各自小異。故歷言之也。罽音羈衒反。采色織文字在帛部。

罽。羅。縠。紬。綾。謂罽者氈之屬。

即毛布也。羅者綺之屬。羅有邪文者也。縠者細繒也。紬者大絲繒也。綾者有文繒也。釋云。罽音居厲反。說文。毳布也。尙書曰。織皮毛布也。羅縠。釋名。謂紗縠也。案有文曰羅。無文曰縠。音胡谷反也。紬綾。說文曰。紬大絲繒也。音直由反。案綾文繒也。古記云。罽音居厲反。西胡毳布也。毳罽也。又作綱字。字在罔糸兩部。又云。罽謂氈類也。羅縠。上音力多反。王逸曰。羅綺屬也。又曰。織有邪文者也。范子計然云。羅出齊部也。又云。羅謂有文紗也。下字胡木反。細練也。亦謂之紗縠也。又云。縠謂薄都准使也。紬綾。上音除留反。大絲繒也。又云。紬謂厚都准使也。下音力升反。謂布帛之細白綾也。似綺而細也。穴云。罽者毛之布也。不習。

香。藥。彩色。穴云。香藥一也。凡稱香皆是也。古記云。彩色謂雜丹也。令釋云。氈類爲非也。

服食。器用。謂服食者。服讀如服餌之類。如吉備酒。胒龍脯之類是「也」。器用者如下野氈。駒形箭之類是「也」。釋云。無別也。文(又)云。尙書曰。明王愼德四夷咸賓。無有遠邇。畢獻方物。惟服食器用。述義曰。玄纁絺紵供服也。橘柚菁茅供食也。羽毛齒革。及瑤琨篠簜。供器用也。古記云。尙書旅獒篇。太保訓于王曰。嗚呼明王愼德。四夷咸賓。無有遠邇。畢獻方物。惟服食器用也。孔安國曰。天下萬國無有遠近。盡貢其方土所生之物。惟可以供服食器用者。言不爲耳目華侈也。述義曰。惟可以供服食器用者。玄纁絺紵供服也。橘柚菁茅供食也。羽毛齒革瑤琨篠簜。供器用也。又云。服食謂噉(饌)食物也。貞冬至御贄耳。器用謂奇異器物也。穴云。問。吉備酒是藥耶。無官令例也。又醫疾令。諸國輸乙藥處置採藥師。隨時採取者。未知。此條年料貢藥及調等其理何。答。或云。貢令。令取藥等之外。每年交易令進耳。但司納典藥。爲當納別司者不見耳。器用者能器習令

釋也。**及諸珍異之類。**謂非唯器用以上諸物。自外珍異。種類繁多。故云之類而約也。釋云。非唯服食器用以上。品目甚多。故云之類。古記云。問。凡諸珍異之類。未知之類。答。品類至多。故稱之類也。然此臨時在耳。穴云。珍異異木。異寶是也。**皆准布爲價。以官物市充。**古記云。以官物市充。謂郡稻也。諸條用諸國貢獻物者。皆以官物買充。亦是郡稱也。官物者皆以郡稻充也。朱云。問。准布爲價者。未知。調布歟。以官物謂正稅也。市充謂市而充官用者。穴云。官物謂郡稻也。**不得過五十端。**謂每國一年所貢雜物價直。各不得過五十端也。釋云。一國一年貢物價直。不得過五十端也。古記云。問。不得過五十端。未知。於一物直不。答。文無各字。故一國一年朝集使貢獻之物。直物不得過五十端也。跡云。五十端。謂一國内摠直也。朱云。不得過五十端者。未知。一國雖有多種物。不過五十端。若每物色以五十端市何。**其所送物。但令無損壞穢惡。而已不得過事修理。**謂裹束之用。宜在薦席。而還用布帛之類。是爲過事修理也。釋云。假令。裹宜用薦而用布之類。舉一而示餘准可知。古記云。過事修理。謂以薦可裹以席裹。以席可裹以布裹〔以〕之類也。**以致勞費。**

調物條

凡調物。及地租。朱云。地租者。田租。亦何色也。**雜稅。**謂出擧稻。及義倉等是也。穴無別也。釋云。雜稅。出於民身之稅也。其物冬種。故曰雜稅。上條雜稅。謂義倉等是也。古記云。稅謂神祇令。其稅准義倉者〔是〕。卽謂義倉之稅耳。朱云。雜稅者。正稅亦何色。**皆明寫應輸物數。立牌**謂戶別可輸物數也。穴云。寫者戶別寫歟。爲當。一里内應輸歟。答。戶別寫可出數是也。立謂官司立也。非坊里長等之立。朱云。立牌謂於國者郡。於京者職可立者。**坊里。使衆庶同**

逸文なり。この條文又政事要略第五十九に見えたり。

〔郡稻〕郡に貯藏せる正稅の一部なり。正倉院文書に天平五年越前國郡稻帳なるもの見えたり。續紀天平六年正月庚辰條に「勅命諸國。雜色官稻、除驛起稻以外。悉混合正稅」と見えたれば、郡稻なるものこれ以後廢絕せり。

〔主條〕律令の條文を金科玉條と云へり。延喜式序に「[illegible]金科[illegible]條[illegible]不レ可レ用ニ之於施行之節一」と見え、[illegible]律、私和條の疏に「金科雖レ無ニ節制一、亦須ニ比附論刑[illegible]律[illegible]條、遂使ニ獨爲ニ僥倖一」と見えたり。

〔但格中男出作物者〕類聚三代格、卷八、調庸事に[illegible]養老元年十一月廿二日の格に中男作物[illegible]と見えたり。

〔[illegible]河及大水有堤防之處〕これ大寶營繕令の

知。

雜徭條

凡令條之外雜徭

謂徭訓役。其正丁次丁歲役日數。在於圭*（上）條。皆立明（名）文。即是雜徭。不入此限。故稱外而起之。調庸之外。國中諸事。不論大少。摠爲雜徭。其役法者。准上條。次丁減正丁之半。中男減次丁之半也。釋云。徭訓役也。音餘招反。正丁次丁歲役日數。明載令條。故云外。凡雜徭者。除庸調外。國內供（諸カ）事。不論大小。皆是雜徭耳。其次丁雜徭減正丁半。少丁減次丁之半。何者唐令烽條云。取中男配烽子者。无（免）雜徭故也。或說。修理隄防。營造官舍。如斯之類。載在令條。依文稱外。明知非徭者非。何者若此之類。不入雜徭「々々」之文屬在何事。所謂[illegible]吏深（除）文。豈唯（准）刑獄乎。穴云。中男四人。同一正丁。但*格中男出作物者。然則調及雜徭並無。跡云。令條外。謂除正役十日外。送驛傳。修理隄防堰類。摠不合過六十日也。朱云。問。雜徭之人給公粮。不又給斷丁不也。津橋道路每年起九月半。當界修理者。未知。如此之類。皆以雜徭可役何。凡雖水旱恩復年不免雜徭何。古記云。問。每人均使。未知。課不課皆使不。答。正丁六十日。次丁卅日。少丁十五日合使。問。令條外。未知。外字之意。答。田令云。其春米運京者。賦役令云。調庸運脚均出庸調之家者。軍防令云。軍團官庫損壞。須修理者。十月以後聽役兵士者。又條云。城隍崩頹者。役兵士修理。若兵士少及無者。聽役人夫。所役人夫。皆不得過十日者。又條云。蕃使出入。傳送。囚徒及軍物。須人防援者。皆量差所在兵士遞送者。又條云。其城隍崩頹者。役當處居戶。隨閑修理者。營繕令云。貯庫器仗。有生澁綻斷者。三年一度修理。在外者。役當處兵士及防人者。又條。營造雜作。應須女功者。皆令本司造。若作多及軍事所用量調不濟者。申太政官。役京內婦人者。又條。京內大橋及當宮「城」門橋者。並木工修營。自餘役京內人夫者。又條。津橋道路。每年起九月半。當界修理。十月使訖。其要路陷壞停水。交廢行旅者。不拘時月。量差人夫修理。非當司能辨者申請者。又條。近*河及大水有堤防之處。國郡司以時檢行。若須修理。每秋收訖。量

條文なり。養老營繕令には「河及」の二字なし。これ養老令の撰者が我が國には黄河揚子江の如き特別の河川なければ、河と水とを併稱する要なしとして削除せるものなるべし。

〔屯田〕上代屯倉の名殘なる官田なり。大寶令に斯く云へり。田令集解、官田の條を見るべし。

〔和銅五年五月十六日格〕この格、類聚三代格、卷六の貞觀八年十月八日の官符に引けり。又この事、續紀、卷五、和銅五年五月甲申條及び延喜雜式に見えたり、

功多少。自近及遠。差人夫修理。其暴水汎溢。毀壞堤防。交爲人患者。隨即修營。不拘時限。應役五百人以上者。且役「且」申若要急者。軍團兵士亦得通役。所役不得過五日者。捕亡令云。囚流人。移郷人。及防人。衞士。仕丁。逃亡者。經隨近國司。承告之處。下其坊里五保。令加訪捉者。又條。有盜賊。率隨近兵士及夫。登共追捕者。雜令云。取水漑田。皆從下始。即須修治渠堰者。先役用水之處者。以上諸條。皆此令條之内。不在雜徭之限。但臨時將有事。假令。作新池隄及倉庫。他界路橋。御贄獦贄。送公使上下。遞送從馬等類。皆是宛雜徭也。又有令條内。宛雜徭役處也。田令云。*屯田依。式料功。上役之日。國司仍准役月閑要。量事配遣者。賦役令云。供京藁藍雜用之屬。每年民部預於畿内斟量。科下者。又條。爲公事須車牛人力傳送。而令條不載者。皆臨時聽勅者。醫疾令云。藥品施典藥年別支料依藥所出。申太政官散下。令隨時收採者。又條。國輸藥之處。置採藥師。令以時採取。其人功取當處隨近下配支者。營繕令云。官船行用。若有壞損者。隨事修理。若不堪修理。須造替者。預料人功調度。申太政官者。廐牧令云。牧馬須校印牧馬者。先盡牧子。不足國司量須多少。取隨近者充者。喪葬令云。皇親及五位以上喪者。并臨時量給送葬夫者。*和銅五年五月十六日格云。國司。不乘驛傳而向下者。長官馬七疋。判官以下五疋。史生二疋。其遷代者。長官馬廿疋。夫卅人。以下節級給之。其郡司向京。關公事者。竝給馬夫。其取海路者。水手准陸夫數。以上諸條。竝是充雜徭耳。一云。除十日役以外。皆充雜徭。此爲長。但准調庸。舂米。竝須修治渠堰者。先役用水之處者等。并不在雜徭之限也。

者。每人均使。摠不得過六十日。

仕丁條

凡仕丁者。每五十戸二人。以一人充斷丁。謂斷猶使也。言給使於波炊。即與火頭同也。釋云。斷使也。養也。音息移反。與火頭同耳。養老四年格云。仕丁衞士。并匠丁及斷。并在役之日。免當房雜徭。但獨女丁不稱也。古記云。每五十戸二人。注以一人充斷。謂以一人名仕丁。以一人名斷丁。二人之外。更不取斷丁也。問。餘

〔養老四年三月十七日格〕この格、類聚三代格、卷十七、蠲免事及び續紀、卷八に見えたり。

〔養老二年四月廿八日格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔女戶〕女戶主の戶なり。

〔廝丁〕仕丁一人には廝丁一人附き添ひ、又女丁にも資丁ありて之に給仕す、これ廝丁なり。

戶二里。令滿五十戶。差仕丁不。答。令差。問。仕丁女丁之類。戶內免雜徭不。答。養老四年三月十七日*格云。仕丁衞士。並匠丁及廝。並在役之日。免當房雜徭。但獨女丁不稱。然並皆免耳、養老二年四月廿八*日格云。向京衞士仕丁。免其房雜徭。以供當身資養。穴云。問。廝丁食亦官粮與。答。然。火頭及下條廝丁等。並食官粮耳。一郡內相通。每滿五十戶取二人也。不論女戶*。不課戶計耳。朱云。仕丁謂直丁驅使丁等國至日。總名仕丁耳。**三年一替。若本司籍其才用。仍自不願替者聽。**謂雖本司要而自不願。及雖自願而本司不要者。並不在聽限。彼此相願。然後乃聽。其女丁相替年限。一同仕丁也。釋云。籍猶藉也。籍秦昔反。古記云。本司籍其才用。仍自不願替者聽。謂本司雖留。自願替者。抑不令留(免)。其自願雖留。本司不願者。猶相替耳。朱云。若本司籍其才用。仍自不願替者聽。謂相須聽者。未知、廝丁亦同何。穴云。女丁無替年限。或云。放仕丁三年替爲不。師同此說。又無廝丁。又不見充(免)戶政。但格別有其事。跡云。女丁充廝丁事不見文。但免房內雜徭。**其女丁者。大國四人。上國三人。中國二人。下國一人。**朱云。女丁者。未知。差中女以上何。又充廝丁不。

斐陀國條

凡斐陀國。庸調俱免。朱云。庸調俱免。謂匠丁丁夫並同也「未」知。田租雜徭不免何。**每里點匠丁十人。**謂「若」不足里者。即率此法而降減也。穴云。里謂以五十戶爲一里。若不足里者。率此法十戶點二之類。跡云。若不足五十戶里者。通計郡內點定耳。朱云。未知。何通計。上條定仕丁亦如是也。朱云。每里點匠丁十人。謂若不足五十戶者。准折耳。**每四丁給廝丁一人。**謂十人之中二人充廝丁。八人爲匠丁也。古記云。問。每里點匠丁十人。注云。每四丁給廝丁一人。未知。十人外更點不。答。十

〔別格〕この別格見えず。

〔殘次丁〕殘疾及び次丁なるべし。殘疾は雜徭を免ぜられ、次丁は課役正丁の半ばを負擔す。

人之内以二人充厮。以八人爲匠丁。一年一替。餘丁輸米。充匠丁食。謂若遭蟲霜水旱者。准調庸法以折除之。然則上條免役之色。〔此謂主政以下。免徭役歟〕。此條亦當相折以米。若上條。不免調役之色。此條亦不須免米。其匠丁者。尙依例點。何者遭損之時。仕丁不免役故也。問。除匠丁之外。更有餘點者乎。答。衞士防人。亦合得點。何者於理可差兵士故。其仕丁不須也。釋云。如逢訊復大恩及蟲霜水旱者。准庸調法折除。但匠丁者依舊駈使耳。何者遭損仕丁不免役「任」使。故免役之色者。以所輸米。相准調役以折除耳。或說。侍人等色。全輸米六斗者非也。古記云。問。斐陀國免課役輸米。未知。普會恩免年若爲處分。答。輸米免耳。匠丁猶上也。仕「丁」色亦同。問。遭水旱年若爲。答。准損分法輸米折除耳。問。雜徭免不。答。不免。問。匠丁解(厮カ)丁准至附早晚等。分輸米以不。〔答。依本司解時早晚等。分輸米以不。〕答。依本司解時早晚合折輸也。代調處(庸)輸米故。問。充侍人〔免人〕免米不。答。不可免也。調不免故。問。充雜役。免課役之〔也未〕免不。答。可免也。上匠丁年不輸故也。請辭曰。運調庸舂稅之類不云也。但作新池堤。及倉他處路橋之類者。充雜徭。問。點匠丁里。點仕丁女丁不。答。依*別格點衞士匠丁等色。里皆相避。併(猶)違不聽。但女丁合點也。一云。斐陀國匠丁之外。更不點他色也。穴云。充匠丁食。謂納官訖。臨時充給也。其衞士防人等上京之間。不見食官粮。然則丁往還亦食私粮也。正丁以下中男以上。竝同爲調生文。然假里長驛子初位等。免徭役之類。合輸六斗。殘*次丁令出三斗之類。凡此文。米令輸者。屬心一如調非。調役混合出耳。或遭水旱損七分之年。租及米全免耳。不依古說。自餘解放先私記也。問。除匠之外。有點餘色哉。答。仕丁不合有。但有差兵士。國別也。仍上衞士防人等耳。令師云。不遣衞士防人也。見所據「也」。跡云。免徭役之類。准折令免。假令。〔假全〕侍丁除庸分之類。又殘次丁依算法准折耳。朱云。輸米宛匠丁食者。未知。如運調庸丁則令輸人。運人何違。遭水旱等年。無匠丁食者。以別給者也。以輸米相准調役折除者。未知。何可相准也。正丁六斗。次丁三斗。中男一斗五升。

令集解卷十四

本云文應元年十月廿五日以興於龜山殿宿所見合本書加首書了　員外宰相藤在

建治二年閏三月廿五日引合正親町本校合了

慶長三年重陽於燈下令校合　清原秀賢

寬永甲戌以清家之本令寫之遂一校之功畢　大府侍郎中原

萬治四辛丑仲春初六令一校畢　羽林中郎將藤原

文政三年五月廿八日以水府彰考館本比校了　撿挍保己一

令集解卷十五

學令第十一

義解云。教化之官。總名爲學。釋云。五經通義曰。三王教化之官。總名爲學。

凡貳拾貳條

博士助教條

凡博士助教。皆取明經堪爲師者。謂非唯學業。兼取德行。故曰堪爲師者也。釋與義解無別。古記云。問。*博士助博士取明經堪爲師。未知。以幾經爲限。答。雖以一二經出身。所見博達者取耳。穴云。堪謂德行。依選敍令取方正清脩名行相副是。但今至任師日。又更取合師範人。言德行有深淺。銓擬之日。先盡德行之心耳。問。於書筭。亦可簡方正清脩之人。爲當止取業術優長。而不釋德行哉。答。依文於書筭及音等。不簡德行耳。律學通達。宜亦習此也。朱云。於明經取堪爲師者。則知。於音書筭。只取業術優長者也。不待堪也。或云五經六籍謂之明經。在釋背。書筭。亦取業術優長者。謂於書曰業。於筭曰術。略音博士者。案文可知也。釋無別。穴云。書業筭術是也。

大學生條

凡大學生。取五位以上謂諸王諸臣皆是。唯*親王不在此限。別有文學故也。釋云。稱五位者。內外並同。但神龜五年格云。外五位嫡子補大學生。即知。庶子及孫不須。古記云。五位以上子孫。謂諸王者非也。問。外五位子孫。若爲處分。答。與內位子孫同。但神龜五年格云。外五位嫡子補學生。即庶子幷孫不合。朱。五位以上子孫。謂玄孫並同者。穴云。文稱子孫。其弟姪不在此例。子孫。及東西史部謂居在皇城左右。故曰東西也。前代以來。奕世繼業。或爲史官。或爲博士。因以賜姓。摠謂之史也。釋云。東西史部。謂居住

〔助博士〕助教のことなり。大寶令に於いては斯く呼べり。

〔神龜五年格〕類聚三代格、卷五に見える神龜五年三月廿八日の格なり。

〔＊本令應蔭勳位子者を學生に充つ此間令臨時量耳〕本令は唐の永徽令にして、此間令は日本令なり。此令によりて我が令の不備を補へるものなり。

東西。世習史部也。凡是史部。前代以來。或作史官。或爲博士。據賜史姓。東西文部亦是。史部。釋見神祇令。古記云。東西史部子。謂倭川內文忌寸等爲本。東西史等皆是。朱云。東西史部子者。未知。嫡庶并同不。穴云。東西史部。分貫於外國者亦補大學生無妨。其非東西史。而自餘史姓之類。補國學生耳。其東西文忌寸。西文首等。不更論。補大學生耳。外國并取用悉同。先說不依古私記。**子爲之。**

若八位以上子。情願者聽。謂八位以上者。內外並同。子者不論嫡庶也。釋云。八位以上子。內外並同。一云。內八位之子不論嫡庶。何者兵衞不足者。取庶子故。古記云。問。若八位以上子有限以不。答。子謂嫡子也。庶子不合。一云。庶子亦得。何者軍防令云。中等送兵部。試練爲兵部。如不足者通取庶子故。問。八位以上子、情願任者聽。畿內畿外同不。答。畿外不取。又外六位以下子不取也。但並得任國學生耳。跡云。八位謂內八位庶子以上。何者庶子是爲兵衞。外八位子。不異白丁故也。其勳一等子不載文。案＊本令應蔭勳位子者充學生。此間令臨時量耳。朱云。八位以上子情願者聽者。未知。五位以上子孫。東西史部子。郡司子弟等雖不情願猶取不。又勳位之子不可取者。八位以上。皆內外並同者。未知。外八位以上子者。未知嫡庶同不。凡庶子聽者。爲嫡子不足時歟何。穴云。郡司八位以上。其子先補國學生。若情願者補大學生。凡史部以上子。雖不願取用。八位子隨願補任也。問。勳位子何。答。不同此文。自餘放先私記及令釋也。**國學生取郡司子弟爲之。**謂子孫弟姪之屬也。釋與義解無別。古記云。問。郡司子弟不得滿數。若爲處分。答。兼取庶人子耳。穴云。五畿內國別有學生。令心畿內亦有博士學生耳。**大學生式部補。國學生國司補。並取十三以上十六以下聰令者爲之。**謂聰者明也。聰也。令者善也。釋云。韓詩。聰明也。案也。令善也。音力政反。古記云。聰令。上倉公反。下力政反。聰明。令善也。朱云。並取年十三以上。十六以下聰令者爲之者。未知。令案（案）條文與何。

〔開元令云釋奠爲中祀州縣釋奠亦准小祀例〕これ開元祠令の逸文なるべし。珍重すべし。唐六典、卷四、祠部郎中員外郎條に「日月星辰社稷先代帝王岳鎭海瀆帝社先蠶孔宣父齊太公諸太子廟爲二中祀一。司中司命風師雨師衆星山林川澤五龍祠等及州縣社稷釋奠爲二小祀一。」とあるもの、即ちこの制なり。

〔神護景雲二年七月卅日官符〕この格、類聚三代格、卷十、釋奠事及び續紀、卷二十九に見え

釋奠條

凡大學國學。毎年春秋二仲之月上丁。釋云。二仲月者。取日夜中分也。上上也。始也。蒼頡篇。丁壯也。盛也。爲相半。爲令盛長學業。上丁之日耳。古記云。問。二仲之月爲釋奠意各若爲。答。二仲之月。日夜等分。爲令得學生中正。中分之月耳。問。上丁若爲。答。上上也。始也。丁壯也。盛也。爲令盛長學業。上丁之日耳。跡云。二仲之月上丁。謂此二月者。晝夜相半之時。然則爲令得學生中正故。又上上也。始也。丁壯也。盛也。不上始盛壯之月爲釋奠事者。爲令人盛長故也。釋奠於先聖孔宣父。謂釋釋菜也。奠奠幣也。祀其先聖。以示敬道。宣父是孔子謚也。謚法。施而不有曰宣也。釋云。魯哀公十六年孔子卒。公謚曰尼父。漢平帝封孔子後孔均。爲襃成侯。奉其祀追謚孔子。曰襃成宣尼公。然則此令稱宣父者。蓋兼魯漢謚歟。古記云。孔宣父哀公作誄。且謚曰尼父。至漢高祖之曰宣父。謚法令問通達曰宣也。*開元令云。釋奠爲中祀。州縣釋奠亦准小祀例。又云。其哭泣之聲。聞於祭所者。推(權)斷訖事。又云。諸祭「器祭」服有破弊。不任修理者申替訖。器則埋之。服則燒之。皆「長」封者。又云。散齋有大功以上喪。致齋有周「年脫カ」以上喪竝聽赴。卽居緦麻以上喪者。不得預宗廟之祭。其在齊病者聽還。若死於齊所。同房不得行事。開元式四卷云。諸祠祀。若臨時遇雨。需服失容。則以常服從事。若已行事遇雨者。則不脫參(祭カ)服。*神護景雲二年七月卅日官符云。應改孔宣父號爲文宣王事。右得式部省解偁。大學寮解偁。助教正六位上膳臣大丘牒偁。天平勝寶四年。大丘隨使入唐。問先聖之遺風。覽膠庠之餘列。國子監有兩門。題曰文宣王廟。時「有」國子學生程賢告大丘曰。今主上。大崇儒範。追改爲王。鳳德之徵于今至矣。然准舊典猶稱前號。誠恐乖崇德之情。失致敬之理。大丘庸闇。聞斯行諸。敢陳管見。以請明斷者今依所牒。謹請省裁者。「省」案解狀。理須必然。方行其敎。合旌厥德。後天奉時。蓋謂此乎。仍顯改由。謹請官裁者。官議奏聞。奉勅依奏。其饌酒釋云。*馬融注論語曰。饌飮食也。音士戀反。古記云。饌仕眷反。儀禮但饌于西塾。鄭玄曰。饌陳也。論語有酒食先生饌。馬融曰饌飮食也。明

衣　釋云。唐稱明衣者。是沐浴衣也。此令明衣屬意祭禮服。名同實殊。讀須消息。穴云。明衣謂沐浴衣也。非祭服也。其格後物也。不依令也。**所須。竝用官物。**朱云。未知。於大學何色物。於諸國何色可用。古記云。釋奠儀式。竝所須物等事。具有別式。

在學爲序條

凡學生在學。各以長幼爲序。朱云。各以長幼爲序。謂年之長幼者。未知。各字之意何。穴云。文稱長幼。明不論王臣。以長幼次耳。與朝參爲異。

初入學。皆行束脩之禮。謂束脩脩脯。卽十束脯也。釋云。脩脯也。音息流反。皇侃疏論語曰。束脩十束脯也。古者相見。執物爲贄。贄至也。表已來至也。古記云。束脩之禮。論語述而云。子曰。自行束脩以上。吾未嘗無誨焉。皇侃曰。束脩十束脯也。古者相見。必執物爲贄。贄至也。脩脯也。穴云。其國學生亦放此行耳。**於其師。**或云。明經文章生書等之師。在稱皆。**各布一端。**謂學生非一人。故稱各。言每人皆出一端也。**皆有酒食。**古記云。無多少限。隨堪備耳。假令。壺酒十束脯以上也。

其分束脩。三分入博士。二分入助教。謂案職員令。博士一人。助教二人。然則總計所有以作七分。三分入博士。其餘四分均入助教。其自餘諸博士。亦皆有束脩也。釋云。案唐職員令。國子學博士二人。助教二人。大學博士三人。助教三人。四門學博士三人。助教三人。學令云。其分束脩。三分入博士。二分入助教。是博士助教。每人取一。其分不平也。故博士每人可得三分。助教人別可得二分耳。依文。音博士不入此例。案律音筭生等各入其博士耳。古記云。問。其束脩。三分入博士。二分入助博士。案官員令。大學博士一人。助博士二人。若爲處分。答。一分入助博士。謂助博士一人料也。若有二人者。故此分法耳。假令。銀五文。博士三人(文カ)而博士二人。各一人一文カ得耳。一云。二分入助博士。謂助博士二人料。假令。銀五文。博士三文。助

とす。

〔馬融注論語〕後漢の馬融の注する論語にして、夙く古逸なり。この書、日本國見在書目錄に見えず。

〔皇侃曰〕皇侃の論語義疏を引けるなり。舊唐書、經籍志に「論語疏十卷(皇侃撰)」とあり、日本國見在書目錄に「論語義疏十卷 皇侃撰」とあり。皇侃は梁の大儒なり。

〔假令銀五文博士三人〕助博士二人各二文得算一〇〇分法見侯爾取

経に見えたり。延喜主税式に見ゆる公廨分法の如きも、宜しくこれに從つて、一人の得分を求むるには、分配すべき總數に、各人の比と人數との積の總和を分母とし、この人の比を分子としたる分數を乘ずべし。

〔延暦十七年三月十六日官符〕この格、類聚三代格に見えず。但し九條家の弘仁格抄、巻三、式部下にその目見えたり。

博士二人。各一文得耳。何者案厩牧令。凡牧馬牛。毎乘駒二疋犢三頭。各賞牧子稻卅束。即是牧子二人料。人別卅束不合給也。其博士助博士員「官負」令明文注者之意。別不合稱一人料。故知。二分此二人料耳。跡云。束脩爲七分。合與也。又書以下博士。不得束脩。依文。皆合入助教以上也。穴云。書筭亦得束脩也。問。音博士何。答。假。於音博士先四百生等。教音之說之時。行音博士。音訖訓就時。亦行總兩度行耳。不依或說也。

經周易尚書條

凡經。周易。尚書。周禮。儀禮。禮記。毛詩。春秋左氏傳。各爲一經。或云。總爲七經。在跡記背。孝經。論語。學者兼習之。穴云。公羊傳穀梁傳不被令。與唐已殊也。但於今讀。此臨時行事耳。古記云。問。注文選爾雅亦讀。未知。必令讀以不。答。任意耳。不必令讀。下條。孝經論語皆須兼通。即文選爾雅。不合試策也。※延暦十七年三月十六日官符云。應以春秋公羊穀梁二傳。各爲一經。教授學生事。右得式部省解稱。案學令云。教授正業。左傳服虔杜預注者。上件二傳。弃而不取。是以古來學者。未習其業。而以去寶龜七年遣唐使明經請益直講博士正六位上伊與部連家守讀習還來。仍以延暦三年申官。始令家守講授三傳。雖然未有下符。難輙爲例。自此厥後。二三學生。有受其業。即以彼傳冀預出身。今省欲試。恐違令條。將徒抑止。還惜業絶。竊檢唐令。詩書易三禮三傳。各爲一經。廣立學官。望請。上件二傳。各准小經。永聽講授。以弘學業。仍請官裁者。大納言從三位神王宣。奉勅依請。

教授正業條

凡教授正業。周易。鄭玄王弼注。謂非是一人兼習二家。或鄭。或王。習其一注。若有兼通者。既是爲博達也。釋云。習一一家耳。他皆

〔周易注者巨多雖然只
習鄭玄王弼注不習餘注
也〕隋書經籍志、兩唐書
經籍志、藝文志及び
藤原佐世の日本國見在
書目錄を見るに、周易
の注家三四十に及べ
り。我が令は、その中よ
り後漢の鄭玄の注せる
周易十卷と魏の尚書部
王弼の注せる六十四卦
六卷とを正經と定めて
之を習せしめ、他の
注家をとらざるなり。

放此。古記云。習一一家耳。他他准此。朱云。鄭玄王弼註。謂二人名也。他放此耳。則案文可知。穴云。周*
易注者巨多。雖然只習鄭玄王弼注不習餘注也。假。論語此何晏注。其中注者號數多。但號何晏注者何。
晏所撰故也。鄭玄注者。非今所讀。而別
有鄭玄注之論語一種耳。餘皆放此也。
尚書。孔安國鄭玄注。三禮。毛詩。鄭玄
注。左傳。服虔杜預注。孝經。孔安國鄭玄注。論語。鄭玄何晏注。

禮記左傳各爲大經條

凡禮記。左傳。各爲大經。毛詩。周禮。儀禮。各爲中經。周易。尚
書。各爲小經。通二經者。大經内通一經。小經内通一經。若中經。
即併通兩經。其通三經者。大經中經小經各通一經。
朱云。問。皆文通
小經三者何。答。
案文。准二經可聽。又問。通三經者。大經中經小經各通一
經者。未知。通中經三者何。答。其勞同故。猶准三經聽何。
通五經者大經並通。
古記云。謂
中經小經之
内。任意通三經耳。跡云。五經通五經人。春秋禮記易書詩也。他所稱五經者。詩書禮樂易與此不同也。朱云。
通五經者。大經並通者。未知。通大經二中經一小經一者何。若准大經二中經一小經二。聽哉。或云。問通
五經者。大經並通。未知。三經并小經者何。答。雖小經聽耳。未明。在
跡背。
穴云。此條先私記說。今釋與舊令相
殊「相」預之心耳。問。通四經人。大經與小經。而無中經者何。答。有大經故。通爲也　通五經人。有大一中
二小一者。先試大經。次試中經。爲通四經。不許爲五經
也。問。於通五經。有何嫌並不許只中小滿五經哉。答。
孝經論語皆須兼通。

凡學生。先讀經文（先讀經文條）釋云。讀文謂*白讀也。唐令讀文與此異也。*唐令無音博士。或云。凡讀文者皆同。在釋背。古記云。學生先讀經文。謂讀經音也。次讀文選爾雅音。然後講義。其文選爾雅音。亦任意耳。穴云。讀文謂讀訓亦帖耳。考課令進士條。帖所讀。文選上秩七帖。爾雅三帖。謂讀音帖也。醫生大學生等之讀者讀訓也。問。先讀經文者。先讀一經歟。爲當讀二經論語孝經歟。答。讀文。先讀二經論語孝經等文也。但於義講依下條耳。私案。醫生讀諸經訖分業義也。朱云。學生先讀經文。謂假通五經人。先五經文讀了耳。反。下條不違此情也。後反云。雖通五經人。先讀二經及論語孝經文。講義了後。更讀三經文。講義耳者何。或云。問。先讀經文。通五經人何。答。先讀五經文耳。次條亦存此意也。未明。在*跡記背。**通熟。然後講義。每旬放一日休假。假前一日。博士考試。**謂考校也。言校試學者之道藝也。釋云。考試。猶如言試也。穴云。博士。一端生文。助教亦同。**其試讀者。每千言內。試一帖三言。**謂三言者三字也。帖者釋見下也。言唯千言之內。帖覆一處之三字。令其闇讀。若其不滿千言者。不復在試限。然學者之志。有所不暇(假)。若懈緩不滿者。既重於不過帖。又須入決罰之限也。釋云。千言。通計經注也。每千言。內唯帖一處三字不勞盡讀。帖釋見考課令。古記云。問。讀者每千言。內試一帖三言。不足千言若爲。答。不足決罰耳。一云。不足千言不在試之限。須滿千言可課試也。初學。一旬讀千言。多難也。穴云。試讀者。每千言內試一帖。課計千言。只讀過一處三字。非盡讀千言也。文稱每千言。然則一二千言。各別帖也。不可千言內。三帖二千言內三帖也。問。年或幼。或長。未知。一旬之內令讀三千言哉。答。此量其形狀。臨時合課。不必一同也。但此文。爲堪人所制。故不通決罰也。問。一旬合讀三千言。而只讀二千言全通。或讀三千言訖。全不通。如此之類何。答。讀三千言訖通二。乃爲第。然。讀一千言。不讀全千言者。縱通二。尙決「罰」爲於讀三千言之通二故也。又問。旬所讀。不足千言者何。答。文

〔白讀〕朱筆のオコト點の附かざる白文を讀むことなり。

〔唐令無音博士〕唐に於いては自國語なれば、敢て發音を敎授する必要なし。故に音博士なるものなし。我が國に於いては外國語なる故に、音博士を置きて發音を學ばしめ、入唐の際には唐人と會語し得るだけの修業をなさしめたるなり。

〔在跡記背〕紅葉山文庫本の律には、紙背にその表面の條文の注釋を記入せるところあり。上記の說は、卽ち何人かが跡私記の紙背に記し置きたる注釋に在るなり。

稱千言內試。然不足千言內者不試。只決罰也。或云。待滿千言句試者。爲非「言」也。講者亦如。朱云。問。每千言內試一帖三言者。未知。千句歟。千字歟。答。千字者。問。一貼三言者。未知。一帖覆三字意歟。爲當如只三處歟何。答。一帖覆三字之名耳者。

講者。每一千言內。問大義一條。 古記云。應注之文。通計滿數也。

摠試三條。 古記云。讀者講者。各試三條也。試謂博士等。穴云。總試三條者。於講者也。但讀者准講者。過帖三處耳。朱云。摠試三條者。未知。此文只爲講者歟。答。講者讀者並約者。並未知。一帖三言。稱條意歟。私案。唯講者。可云試三處何。先云。然者。

通二爲第。 穴云。爲第謂爲及第之心也。

通一。及全不通。斟量決罰。 謂斟酌其答播之多少。博士隨狀量決。故云斟量決罰也。釋云。案文。博士可決罰。或說寮。判官以上決者非也。斟斟酌也。音職深反。決罰多少臨時量定。故云斟量。古記云。斟量決罰。謂寮判官以上問決也。決數。隨狀自笞十始耳。問。蔭子眞決若令贖哉。答。據律令贖。但寮例決罰耳。跡云。斟量決罰。謂不蔭贖。量令決耳。言隨彼人等(示)級。而博士量合決也。■穴云。決罰謂博士行事也。付寮令判官以上決罰者。爲劣說。又旬試之日。學生所得等第。不見送寮之事。然則年終試之日寮知耳。決罰謂諸生以下是也。朱「云」。諸王以下皆可決者。未知。抑諸王可取學生哉何。凡此條。稱學生博士。諸業皆約不。若先爲明經歟。私案文。先可爲明經何。

每年終。 謂考期以七月爲年終。此稱年終。亦與考同。何者爲定博士考課故也。釋云。稱年終者。依考期。以七月可爲年終。何者爲定博士考課故。讀制律云。考校謂內外文官。武寮。終應考校功過者。跡云。年終謂以七月爲限。

大學頭助國司。藝業優長者試之。 穴云。大學頭助者不熟藝業優長也。但任堪其事人耳。跡云。頭助國司等。年終親自試之也。

試者。通計一年所受之業。問大義八

〔蔭子眞決若令贖哉答據律令贖〕蔭子は五位以上の者の子にして、廿一歳に達すれば、父祖の蔭によりて一定の位階に敍せらるべき者なり。斯くの如き身分の者に對しては、笞杖の正刑を加へず、名例律によりて贖銅の換刑を用ふるなり。

條。謂爲講者生文。讀者卽無年終之試。其書生試法。可有別式也。古記云。問。大義八條。謂講者。讀者非。跡云。問。大義八條。謂讀者。准此數合試七條。朱貞云。不見。可不試者也。凡書學生亦讀書。令習其字體也。穴云。問。大義八條。謂講者也。其於讀者。不合年終試也。跡云。同講者也。竿生試七條。得五以上爲上。得三以上爲中。得二以下爲下。其音生句試。放讀者試也。年終試不合也。私案。雖年終時。而句試博士依例試耳。自餘放先私記也。得六以上爲上。得四以上爲中。得三以下爲下。頻三下。謂三年頻下也。釋無別也。朱云。稱頻三下。故隔年不計何。私案文可然。及在學九年。不堪貢擧者。並解退。其從國向大學者。年數通計。穴云。從國向大學者。下條。式部考進補大學是。服闋重任者。不在計限。謂闋者終也。言服終重任者。居喪之年。不在通計之限。釋云。闋音苦穴反。鄭玄注禮記曰。闋終也。謂不計遭喪一年也。古記云。服闋重任者。不在計限。謂居喪之年。不合滿數也。

分經教授條

凡博士助教。皆分經教授穴云。分經謂博助各以業經分教學生也。朱云。博士助教。皆分經教授者。未知。自餘博士。分經不教哉何。先云。分可教者。私亦同。何者下條云。竿學生分經習業者故抑何。學者。每受一經。必令終講。古記云。問。每受一經必令終講。未知。誰人令終。答。學生令終耳。朱云。每受一經必令終講者。未知。學生待通熟了爲講了。穴云。每受一經者。孝經亦同一經耳。祕(私カ)思。令終講者。一經之義。令悉通了也。可檢。此條每受一經。必令終講者。於講義人耳。上條解說(記)。所講未終。不得改業。

〔唐令云孝經論語共限一年〕唐六典によるに、開元令には學令なし。故に茲に引ける唐令は、恐らく永徽學令の文ならむ。

〔字林〕日本國見在書目錄に「字林二卷（呂忱撰）」とあり。又隋書經籍志に「字林七卷（晉弦令呂忱撰）」と見えたり。

〔三蒼〕日本國見在書目錄に「三蒼三卷（郭璞注）」とあり。隋書經籍志に「三蒼三卷（郭璞注。秦相李斯作。蒼頡篇。漢揚雄作。訓纂篇。後漢郎中賈魴作。滂喜篇。[illegible]」[illegible]とあるもの[illegible]なり。今亡し」。

〔石經〕石經は後漢靈帝の熹平四年三月、諸儒に詔して五經の文字を正し、石に刻して大學門外に立てしを以て始とす。[illegible]

爲考課等級條

凡博士助教。皆計當年講授多少。以爲考課等級。

謂定多少者。可有別式。即令式爲多。不及爲少也。釋云。唐令云。孝經論語共限一年。尚書公羊穀梁傳各一年半。周易毛詩周禮儀禮各二年。禮記左傳各三年。皆先讀孝經論語。以讀諸經。有暇兼習書。日一紙。並讀國語說文字林三倉爾雅。書學生課業。石經三體書。限三年成讀。說文限二年讀。字林限一年。*算學生課業。孫子五曹共限一年。九章海嶋共限二年。周髀五經算共限一年。記遺三等數。共限一年。夏侯陽張丘建算術共限一年。律生。則六年其令律式也。古記云。講授多少。謂依本令。假令。大經三年之。即一年料一經充。以此爲多少耳。穴云。問。多少何。答。上條以一旬所教。知一年所教。仍爲等級耳。假。如講授生徒充業。若最共得是。此條稱多也。或雖講授有方。學生不堪充業。爾時不與最。只有善。或教授不方。居官怠惰之類。并狀爲中下下上之類。故云爲等級也。或云。有別式。假隨經大少有所成年限。仍定等級。兩說。今師云。令有別式。一端。依經大少。各有讀日限。然則得此意條耳。博士說。雖隨經大少立別式。上條所定。尚爲法讀講耳。也。私思。但義疏文者一旬一萬言講。是依別式者。問。講授者。未知。讀者何。答。亦同。須令讀於考課令。朱云。博士助教皆計當年講授多少。以爲考課等級者。未知。自餘博士何。又講授多少。依式處分者。未知。旣上條立一旬讀限何。依此不計情。答。至年終於定多少猶可依式者。私案。依令釋可然也。

通二經條

凡學生通二經以上求出仕者。聽擧送。

朱云。未知。諸學生皆約不。

其應擧者。試問大義十條。

謂據通二經人。若通三四經者。准考課令。每經可試問大義七條也。朱云。試問大義十條者。未知。若此式部所試問幾何。答。此大學寮內所試者。未知。寮官人試哉。博士試哉。穴云。試問大義十條者。爲通二經人耳。若加經者。試問每經七條耳。一事以上同先說。古記云。問。計年二十五以下。未知。廿五年若爲。答。始廿五年貢。但廿六以上不得耳。

得八以上。

送太政官。朱云。於大學生。先送式部。式部申送太政官耳。問。文稱得八以上。未知。秀才人何。若上上上中者。即得敍位。故送太政官乎。上下中上者。不得舉哉何。先云。可然者何。若國學生雖通二經。猶情願學者。謂在學未滿九年者也。釋無別也。朱云。問。通二經人。滿九年九年〔之〕及第了。猶亦欲學餘經者何。若爲滿九年。亦更不聽哉。答。然也。穴云。此文爲未滿九年。其國而九年通二經訖。敍位。更願入大學。通經者不聽也。但臨時議有耳。申送式部。朱云。未知。先申送太政官哉何。先云。可然也。考練得第者。進補大學生。謂若補大學生後。更被舉試。不第者。(即)退還本貫也。古記云。問。國學生雖通二經。猶情願學者。進補大學生。未知。年限已滿。無所益學若爲處分。答。還本貫。更不合出身也。一云。以先二經聽出身。跡云。得第者進補。謂欲通數經者。不敍位。而直補大學生。此得出身之日。皆通計前經合試。若得二經而不得餘經者。止依二經者敍法耳。朱云。考練得第者。進補大學生者。未知。留省以上。爲得第不。又此先年數。通計留大學生何。答。留省以上爲得第者。然則六條以上耳。又可通計先年。此則上條云。其從國向大學者。年數通計者是也。穴云。假二經及第訖。試之日。更試前二經。若前經不通者。更不試後經還却。師云。得七六者爲第得。而進補大學生。但通三四經後。被貢之日。先試前所試之二經。得八以上者可試餘經。若得七以下者。更不試餘經也。*案選敍令耳。但前得八條。後試得七以下者。雖不試餘經。而尙依前八條爲敍法也。師同之。或云。依後七條敍也。

講說不長條

凡學生雖講說不長。而朱云。稱學生。有限以不。答。此明經生耳。古記云。不長謂不及第也。穴云。不長謂通五以下。不及第也。長訓益也。閑於文藻。謂閑者習也。藻者藻麗也。釋云。*毛詩傳「曰」。閑字作嫺。閑習也。文藻文章也。古記云。閑者訓學。訓寬也。文藻謂文章一種也。穴云。藻之字可求其樣也。才堪

たり。隋書經籍志には、一字石經周易一卷、一字石經尙書六卷、一字石經魯詩六卷、一字石經儀禮九卷等見えたり。

〔孫子〕日本國見在書目錄に「孫子算經三」とあり。隋書經籍志に「孫子算經二卷」とあり。舊唐書經籍志に「孫子算經三卷（甄鸞撰注）」と見えたり。今存するもの上中下の三卷より成る。知不足齋叢書に收めらる。又寛政六年の和刻本あり。何れも唐の李淳風の注あり。

〔五曹〕日本國見在書目錄に「五曹算經五。（甄鸞撰）」とあり。舊唐書經籍志に「五曹算經三卷（甄鸞撰）」とあり。五曹とは五つの役所の意味にして、即ち田曹、兵曹、集曹、倉曹、金倉の五つを云ふ。五曹算經は、即ち右の五司必須の算法を示したるもの

秀才進士者。亦聽學筭。朱云。秀才進士一歟二歟。答。二也。選敍考課令其條也。見文。

筭經條

凡筭經。孫子。釋云。一卷。郎人名也。古記云。一卷。郎人名也。今選二卷。五曹。釋云。一卷。郎人名也。古記云。一卷。郎人名也。今選五卷。九章。釋云。九卷。徐氏祖仲種。種計筭也。古記無別。海島。釋云。一卷。徐氏祖仲海嶋計筭也。古記無別。六章。釋云。六卷。高氏也。古記無別。綴術。釋云。五卷。祖氏也。古記無別。三開重差。釋云。三卷。高氏也。古記無別。周髀。釋云。一卷。古記云。一卷。今選一卷。天地高計也。九司。釋云。一卷九司。古記云。一卷九司。事種計也。各爲一經。古記云。問。明經幷筭經竝行。上先注小經。其意若爲。答。從初。顯注次第耳。一云。從文便注耳。無異義也。學生分經習業。古記云。天平三年依式部解。官議曰。案學令。凡筭經孫子以下九司以上各爲一經。其學生辨明術理。然後爲通。試九章六章綴術各三條。餘經各一條。試九通六以上爲第。若落九章者。雖通六猶爲不第者。令設及第之科例。立敍位之法。但學如麟角。權時制宜。成若牛毛。理須間品。其周髀者。論天地之運轉。推日月之盈虛。言涉陰陽。義關備說。此(比)類餘術。難易殊懸。一槩餘術。理未允愜。頃者諸國貢擧下生。偏習餘經。苟規及第。無益國之大器。有容身之少才。曆象樞要幽賾難見。自今以後。習下出身。不解周髀者。請依令文。只許留省。事異常例。

解經義條

凡國郡司有解經義者。即令兼加教授。謂國博士外。兼令教授也。釋無別。古記云。解經義。謂知經耳。即令兼加教授。謂不兼博士任。又云。無博士國耳也。穴云。問。國司有解經義。而不教授者何。答。爲理強仰令教耳。可問。朱云。令兼加教授者。未知。任郡司倩。若國司令仰教何。又令兼加教授哉何。又有解經義。即令兼加教授

にして、實用的價値高し。知不足齋叢書本及び和刻本あること孫子算經に同じ。

〔九章〕日本國見在書目錄に「九章九卷(劉徽注)」「九章九卷(祖中注)」「九章九卷(徐氏撰)」。「九章術義九(祖中注)」。「九章十一義一」「九章圖一」「九章乘衍私記九」「九章婦音七」「九章私記九」等と見え、隋書經籍志に「九章術義序一卷」「九章算術十卷(劉徽撰)」「九章算術二卷(徐岳甄鸞重述)」等見えたり。今四部叢刊に收めらるものは、隋書に見ゆる劉徽撰の九章算術十卷なり。孫子、五曹と同じく昔時算術の教科書なれども、この書最も高級なり。

〔海島〕日本國見在書目錄に「海島二」「海島一(徐氏注)」「海島(祖仲注)」「海島圖一」」とあり。舊唐書經籍志に「海

者。未知。業方并同不。若文先爲明經歟何。若訓導有成。即宜進考。謂准依博士教授多少。乃進其考也。釋云。訓導有成。謂通二經以上者。古記云。訓導有成。謂准博士等教授多少。爲令法耳。跡云。有成謂令(全)令通二經以上出身訖也。穴云。訓導有成。謂不待成業訖。毎年生徒。充業者宜進考。有成謂如云有成(方)充業之類也。豈未成業而還省(劣)於博士乎。或云。待及第訖進考也。古記同之。朱云。有成者。未知。留省以上歟。先云。依跡說(記)者。得八以上可爲成。但今度說。國博士毎年與考。況於職掌外。教授國郡司。毎年可進考也。然則成者。年終試得第稱成耳者。

書學生條
凡書學生。以寫書上中以上者聽貢。謂定書品第。待式處分。其書生。唯以筆迹巧秀爲宗。不以習解字樣爲業。與唐法異也。釋云。定書品第。待式處分。古記云。問。何以得知寫書上中以上哉。答。以書博士等寫書准量耳。神龜一年三月十四日太政官處分。貢書生者。板茂連安麻呂。鴫田主(廣)道等同類已上者聽貢。已下不須。穴云。*寫書謂書手好士也。與唐令異。故不依知字體之說。一端見格也。私案。但寫書者。自然勘知字樣耳。其定品第者。待式處分。書學生敍位。不見文也。或云。字樣兼習耳。在釋背。朱云。定書品第。待式處分者。未知。試數并敍位等狀何。此亦可有式何。先云。然者。其算學生。辨明術理。然後爲通。古記云。術理謂術道也。求知所隱微。謂之術也。試九章三條。海島。周髀。五曹。九司。孫子。三開重差。各一條。試九。全通爲甲。通六爲乙。若落九章者。雖通六猶爲不第。古記云。若落九章。謂試三條。全不通也。得一二條爲通業也。其試綴術六章者。准前。綴術六條。六章三條。謂若

嶋算經一卷(劉徽撰)。」とあり。武英殿聚珍版全書に收めらる。又寛政六年の和刻本あり。測量に關する算經にして、幾何學三角術に關する問題も多く見えたり。

〔周髀〕この書、日本國見在書目錄及び隋唐の經籍志に見えず。然れども四部叢刊には、漢趙君卿注、北周甄鸞重述、唐李淳風注釋、明趙開美校と題せる周髀算經收めらる。又我が國には、天明五年版の周髀算經圖解及び文政二年版の周髀算經國字解あり。三四五の直角三角形の算法を示し、次で天體の距離を推算し、日月星辰の運行、二十四氣の順還等を說けり。

〔五經〕隋書經籍志に「五經算術一卷。五經算術錄遺一卷。」とあり。日本國見在書目錄に

以九章與綴術、及六章與海島等六經、願受試者、亦同合聽也。釋云、以綴術與少經二受試、可聽。一云、依此條文。彼此不相涉。但九章與六章者可聽。穴云。以六章與九章相代通無妨也。*令釋古令義與今不同。朱云。問綴術六章者、准前者。未知、稱准前者、稱試條數歟何。先云。可然者。古記云、注六章綴術幷准九章條數。謂以六章綴術。代九章試聽耳。

試九。全通爲甲。通六爲乙。若落經者。 謂六章摠不通者也。釋云。六章稱經也。 **雖通六猶爲不第。其得第者敍法。一准明法之例。**

請假條

凡學生請假 謂緣身及父母患。臨時請假之類。其休假及田衣等假。不在此限。跡云。此假臨時之假。餘當條有文也。穴云。假者臨時假也。非田旬等假也。朱云。旬假等不可經官司。古記云、言假、謂田假幷種種私假等。旬假者非。 **者。大學生經頭。** 穴云。經頭者。若無者經助及允耳。朱云。經頭者。未知。無頭者何。必稱經頭志何。答。一端舉長官耳。無長官者。經次官以下耳。 **國學生經所部國司。** 穴云。經國司者。亦經判官以上耳。朱云。國學生經所部國司。未知。醫生皆同哉。先云。可同。經所部國司者。大典以上耳。古記云、經所部司、謂國司也。 **各陳牒量給。** 謂學生陳牒。所司量給也。釋云。令陳牒而判給耳。古記云。各陳牒。謂令學生自抄寫。仍令習屬文。

行禮條

凡學生自非行禮之處。 謂釋奠及束脩之類。釋無別。古記云。行禮之處。謂束脩之禮。釋奠之禮。及公私有禮事處。爲習其事驅使耳。 **皆不得輙使。**

「五經算二」とあるもの或は之ならむ歟。

〔夏侯陽〕日本國見在書目錄に「夏侯陽算經三」とあり、隋書經籍志に「夏侯陽算經二卷」とあり、又新唐書藝文志に「夏侯陽算經一卷甄鸞注」と見えたり。今武英殿聚珍版叢書に收めらるゝも、亦三卷なり。

〔張丘建〕隋書經籍志に「張丘建算經二卷」とあり、新唐書藝文志に「張丘建算經一卷甄鸞注」とあり。今知不足齋叢書に收めらるゝも三卷、唐の李淳風の注[illegible]〔古令〕[illegible]其年十六以下[illegible]者」の下に「年十五以下」なる注文ありしなるべし。

〔案選敍令〕選敍令に「凡秀才取二博學高才者一明經取下學通二二經以上一者上進士取下明閑二

不得作樂條

凡學生在學。不得作樂。 謂不必五音雜比也。釋云。五*音備謂之樂。不然者雜戲耳。古記云。作樂謂備五音之名。不然者雜戲耳也。一云。不必備五音也。此爲長。朱云。令釋云。五音不備者雜戲耳。未知。其罪何。 **及雜戲。** 朱云。不得作樂及雜戲者。未知。若違作樂者。科違令罪。又雜戲者作雜律科博戲罪何。穴云。違犯及違暇。并斟量決罰。不依律科料減贖也。上條。不經頭退等。亦同眞決。爲重也。私思。不至解退之過者。博士斟量決無妨也。但師御意。不在上條決色者。不可決罰也。 **唯彈琴** 釋云。五絃之琴也。古記云。無別。 **習射不禁。其不率師教。** 謂率循也。不受正業。好爲雜戲也。釋云。授正業不受習。常爲雜戲也。爾雅。率循也。音所律反。古記云。其不率師教。謂教授正業。不爲受習。常爲雜戲也。 **及一年之內。違假滿百日者。** 謂摠數前後之違假。一年之內。既滿百日者。卽(已)不除休假之日。「其」稱年者。自違假之日始計也。釋云。都計年。前後違假。令滿百日者不除假日。稱一年者。自違假日始計亦同也。古記云。違假滿百日。謂前後頻犯者非也。一云。每一旬一日假。亦合通計。爲不仕人。不可給假故。又通計頻犯。滿百日卽解也。五位以上子孫亦同。穴云。一年。謂從正月迄十二月也。若自八月迄當年七月爲一年。爲試其間違假者不爲一年。凡稱年例文。稱一年之內。然計累數度滿百日。解退之日。更不決罰也。問。假令。滿百日者。以解退爲罪。未知。違假不足百日者。不罪而待滿百日之時解哉。爲當可有別罪哉。答。師云。雖滿百日解退。而猶科違假之罪。後應解退耳。凡違學令者。斟量決罰。違餘條者。依律科斷。又稱在學者。若假日假月等在禁限也。跡云。一年之內。謂自正月至十二月。內數度之假。合計滿百日。若雖隔年。而三百六十日之內。計違假日。滿百日者。皆有是又旬假。皆總計滿百日。朱云。考限爲一年。若涉二年者。不解者何。貞云。凡違假罪。依律可科無故不上罪者。或云。解退度更不科罪也。僧尼如配外國寺者。貞不同也。問。此條大學國學並同何。先云。並同。又醫生陰陽生等。可准此者。私案。只稱學生者。大學國學生

時務一、並讀二文選爾雅一者上、明法取下通二達律令一者上、皆須下方正清循名行相副上」とあるを案ぜるなり。

〔毛詩傳〕毛詩は今云ふ詩經なり。魯人毛享の傳ふるところなるによりて之を毛詩と名づく。宋の朱子に至りて、孔子の手定を經たる故を以て、之を詩經と稱して尊重せり。但し毛詩傳その註釋書なること云ふ迄もなけれど、隋書、兩唐書の經籍志、藝文志及び見在書目錄には、毛詩傳なる書名見えず。

〔爲書謂書手好士也與唐令異故不依知字體之說〕爲考課等級條引くところの唐令には「書學生課業。石經三體書限二三年一成レ讀。說文限二二年一、字林限二一年一」と見えたり。故に唐の書學生は、書手に巧なるのみならず、文—

可無別。案上書假條知耳。並解退。

遭喪條

凡學生年廿五以下。遭喪服闋。求還入學者聽之。謂在學。未滿九年者也。釋云。亦爲在學未滿九年者。何者十六學者。自十七始在學故。或云。廿四以下。合聽者非也。然通計年數。不得成業者不合聽。古記云。問。年廿五以下具分折。答。准廿四以下合聽之。一云。廿五年亦聽。卽廿六年貢擧。遭服年折耳。服闋告穴反。禮記。有司告以樂闋。鄭玄曰。闋終也。音苦穴反。說文事已也。然通計年數。不得成業者。不合聽也。朱云。遭喪謂父母喪也。養父母喪不入者。穴云。廿五之年春入學者。至十二月爲滿九年。廿五之年秋冬等間入學。商量不清者。更不許讀學也。年廿六以上爲老不許。然廿五以下遭父母喪。不許更入學。問。廿五之年。秋冬入學者遭喪。一年之分可聽。而何不聽入學之心。答。師云。遭喪之年。於理不許。許者。然則遭故不學年之分可聽耳。

放田假條

凡大學國學生。每年五月放田假。九月放授衣假。謂九月霜始降。婦功成。可以授冬衣。釋云。詩國風曰。九月授衣注云。九月霜始降。婦功成。可以授冬衣。古記云。九月授衣假。謂七月流火。九月授衣也。火大火也。流下也。九月霜始降。婦功成。可以授冬衣矣。義云。大火星者。暑者寒暑之候也。大火星中而寒暑退。故將寒之候。先著者。火所在也。其路遠者。仍斟量給往還程。古記云。其遠路。謂一日程以上。穴云。行程卅日者。四月收田畢之類。朱云。未知。國醫生並同哉。

學の講究に關する知識を有せり。然れども我朝國の書學生は唯書手に巧なるのみを以て足り、別に說文の知識を必要とせず。これ兩國の書學生の大いに異るところなり。

〔令釋古令義與今令不同〕令釋の說は、古令釋も大寶令の義を祖述せるものにして、今令釋ち養老令の義は之と同じからずとなり。

〔古記云、監所部司謂國司也〕古令には、所部司とありて〕國の字なかりしことを知るべし。

〔五音〕宮、商、角、徵、羽の音を云ふ。

〔遭喪謂父母也養父母喪不入者〕養老令によるに、父母の喪は服紀一年なれど、養父母の喪は五箇月なり。

〔詩國風〕毛詩の國風なり。毛詩三百五篇は、これを國風百六十篇、雅百十一篇、頌四十篇に

分つ。下に引ける句は、國風の幽風の中に見えたり。

〔流火〕火星西に流れ下り、涼氣漸く生ずるを云ふなり。

〔但義通文難〕解釋妥當なるも、典據とすべき條文を發見し難しの意歟。

〔依軍防令充内舍人并大舍人東宮舍人者此歟〕軍防令に「凡内六位以下、八位以上嫡子、年廿一以上、見無二役任一者、毎年京國官司、勘檢知レ實。責レ狀簡試。分爲二三等一。儀容端正、工二於書算一、爲二上等一、身材強幹、便二於弓馬一、爲二中等一、身材劣弱、不レ識二文筆一、爲二下等一(中略)上等爲二大舍人一、下等爲二使部一、中等送二兵部一、試練爲二兵部一如不レ足者、通取二庶子一。」とあり。

被解退條

凡學生被解退者。皆條其合解之狀。申式部下本貫。朱云。皆條其合解之狀者。未知。除作樂違假遭喪等之外。亦若有可解之狀。若犯罪者何。同約此條不。答。文先爲上所制違也。但犯徒罪以上可解等。亦同可申者。但國學生只國解退附帳耳。不申官也。國初補故。又申式部。下本貫者。未知。解狀。式部申太政官哉。答。然也。申官。官下民部。民部下本貫耳者。

其五位以上子孫者。〔皆〕限年廿一。〔以上〕申送太政官。准蔭配色。謂不論業成不。皆當申送也。古記無*別。釋云。不限業成不。皆申送。或云。六位以下嫡子。亦同此五位。但義通文難。跡云。内八位以上嫡子。不見文。故猶在學生合上。或說。准五位孫合申送。朱云。准蔭配色者。未知。*依軍防令。充内舍人并大舍人東宮舍人者此歟。答。然也。但六位以下嫡子者。雖在學生。猶本貫司可申送也。大學寮不可申也。穴云。五位以上者。然八位子不申上。答。凡不堪貢擧解退。自本國依常申上耳。或云。八位亦同者爲劣。此條爲省略(改)。唐令。九品以上之文故也。私案。軍防令云。内八位以上嫡子。年廿一以上。無役任者之處。讚云。見在役任者。本司申送。一說不申送。待考滿申送者。此是爲元(尤)任得考色。生兩說。其任不考色者。本國司申送爲長。若不申送者。其任里長烽長之類。豈以誰時申耶。爰知。見任得考者。自本司申送。任學生等者。自本國申。爲見不在役(保)任故。

公私條

凡學生公私有禮事處。令觀儀式。謂元日及公卿大夫喪葬之類也。釋云。公私有禮事。謂朝廷賀正。及私家喪葬之類。古記云。令觀儀式。謂公私吉禮。凶禮威儀法式。令見習也。朱云。公私有禮事處。令觀儀式者。未知。自聞見歟。若令召觀歟。答。聽見耳。不可令召觀。但大學「生」常可勤學文。不爲他行。唯爲令見禮事。更立文耳。

令集解卷十五

文應元年十月晦日見合本書加首書了今年又當寫檢校之上經營左衞門尉日入齋月依可忘他事暫可閣置者

權大納言藤在

建治二年閏三月二十九日引合直親町本校合了
弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢

員外宰相藤在判

右以清家之本令寫之一校畢
寛永十一甲戌季秋日

中原職忠

萬治四辛丑孟春初七令一校畢

羽林中郎將藤原

右書清河村秀興先生藏本書寫畢
元本八花山院家本

明和亥歲閏九月

越智通邦 印

明和七年庚寅五月十日以京師本一校了
安永三年八月一日一會了

文化十癸酉年四月再校了

筒井忠英

文政三年五月晦以彰考館本校合畢

總検保己一

令集解卷十六

選敍一　始條以下。考滿應敍之人條以上。

選敍　謂選者選擇。言選才授官也。敍者考敍。言計考敍位也。釋云。選者銓擬也。言量才授職也。敍者考敍也。言計考敍位也。周禮曰。敍秩次也。謂先尊後卑也。穴云。選者。量才授職之名。*律云。選官乖於擧狀。以故不稱職者。私案之。讃博士以未（朱）知（加）。問。先考課而後可位敍。而考課令置下何。答。先選官而後有考課事。故上有選。下有考。又以有位任用官。故選敍相連生文也。

〔律云選官乖於擧狀以故不稱職者〕職制律、貢擧條の一部なり。

令第十二　凡參拾玖條　（義解作捌一條闕歟）

應敍條

凡應敍者。謂六位以下也。朱云。此條長上番上並約何。答。長上番上內外並同者。**本司八月卅日以前校定。**謂計考結階。卽長官自校。與考同。*若帶二官以上者。從一高官送其選文。不須二官共送。其選文之期。亦與考同也。釋云。本司八月卅日以前校定。起去年八月一日。盡今年七月卅日爲一年考期。所以知者。祿令云。自八月至正月。上日一百廿日以上者。給春夏祿。自二月至七月。亦計日給秋冬祿者。是則一年給祿法也。故考期亦以此爲限也。古記云。考選雖別條爲限日。同不相離一時作耳。跡云。卅日以前校定。謂隨六年內考科。而校定合敍之狀。每年考課放此令校定。朱云。問。本司者見仕（任）寮司歟。若管歟。答。本司者寮司者。生云。選文者。省更作總目帳。可申官。但長上番上可作別。〔答〕。卷者未明。在跡記背。或云。任（仕）兩官以上「者」。各依官考。謂各司考文送省。省定考第了從（後）。一高官而作選文可申者。先記云。問。八月考定月也。九月如何。答。造考文并寫程月耳。更案云。九月者。管省考寮司月也。先云。於送管省。無明日限。但

〔若帶二官以上者從一高官送其選文〕下條に「凡任二兩官以上一者、一爲レ正。餘皆爲レ兼。」とあり。卽ち正官についてのみ選文を送り、兼官については送らざるなり。

〔本司謂當司長官其次官以下不在此例一放考課令元條義也〕考課令の元（ハジメ）の條に「凡內外文武官初位以上。毎年當司長官。考二其屬官一。」とありて、義解はその下に「謂次官以下也」と注せり。

〔於女官預縫殿寮稱本司耳〕職員令、縫殿寮の條に據れば、內外命婦宮人の名帳、考課はこの寮の掌るところなればなり。

〔結階〕下條遷代の條に見ゆるもの、即ち結階の法なり。

〔問文稱式部未知兵部何同不答然也〕職員令、兵部省の條には、即ち內外武官の名帳、考課、選敍、位記等を掌ること見えたり。

畢十月一日。考文可申太政官耳者。在朱記背。穴云。本司謂當司長官。其次官以下不在此例。一放考課令元條義也。私案。番上次官共校定。爲昇降必當次官最故。其被管諸司。及大宰部內等。並九月卅日以前。送官司及府官耳。於女官預縫殿寮稱本司耳。私案。在京諸司考文。毎司造考文。爲當司解。省寮司各同十月一日。申送太政官。考課令及公式令計會處見義。但不押署耳。問。校定何。答。六年內考相折結階申是其五位以上考。官所定。故本司只注可成選之狀申官。官量定當年考。亦不結階相折直奏。爲物授故。不結階耳。又任兩官以上者。本司雖考訖。未得行結結階相折。爲於省更可定等第故。問。下條云。各依官考。未知。選文亦各造哉。答。其一云。以功過相折果從一高官上考者。以是案。高官條造選文。餘官不合也。**式部起十月一日。盡十二月卅日。**穴云。式部者。其中務及兵部亦同。問。式部選文十月一日進官。更下省哉。又官選文有下式部哉。答。依法進官。但諸司選文同共更下省耳。官選文亦下省令勘。爲造考文故也。仍物忠。集色別造記。一如考文選官也。朱云。應敍者。本司八月卅日以前校定。式部起十月一日盡十二月卅日。謂本司申太政官。官受取付式部。日限者未知。先申官。依何文可知。又官何日可付式部。答。本司申官狀。考課令一條有文。又式部太政官行事日限。依公式令受事條。一日初可行。但此令一端取大旨畢月一日耳者。或云。太政官受日。卽點付無禁。故稱一日者。問。文稱式部。未知。兵部何同不。答。然也。又女考事悉准男。但中務預掌耳。或云。問。式部起十月一日者。公式令云。一日受者。一日付。而何一日至太政官。卽日至式部。其分折。答。二日至耳。官物之體獨畢諸數耳。不可有異義。在穴記背。**太政官起正月一日。盡二月卅日。**朱云。此亦何日可申官乎。**皆於限內處分了**〔畢〕。穴云。處分了。謂假令。太政官二月卅日前定。而奏聞並遣位記了耳。處分與校定同義也。**其應敍人。**穴云。問。不可敍人何。答。亦關注不敍之由申送。爲注任日知故也。跡云。問。應敍者。未知。不可敍者何。答。私案。雖不合

敍。而別注六考之科。合申送。爲除前勞故也。或云。不可敍之人。不可申送。又本結階相折無妨。在跡記背。

本司量程申送集省 謂量程者。量十二月一日。應會集之程也。集省者。爲唱示敍階之高下。及令(合)披訴選中(之)抑屈。集於式部兵部也。釋云。量程謂量十二月一日可到之程也。一云。可會十一月一日量耳。大寶元年十二月七日處分。陸奥越後國者。其首長一二人集。但筑志不在集限也。古記云。量程謂可至十一月一日量耳。集省謂不必盡集。量事留之。朱云。申送集省者。未知。此亦式兵部歟。若先申送官。爲當直申送省。答。不明宜習耳。但省者兵部亦同者。其五位以上勅授。然無可結階相折不可集也。別記條唱示之處。可勘會。後案。依別記條。五位以上亦集耳。六位以下。皆悉申送集省。其不當成選之年者。外國初位以上幷不令(合)集。爲有朝集使故申送者。更列交名而申上耳。問。申上由何。答。爲唱示敍第申送耳。或說。爲銓擬者。古令。依應選責狀試練之耳。又不依爲賜位記之記也。問。付專使申送歟。答。依文。更注見參不參之人名帳申送耳。但差專使。爲當附使人來審宜耳。問。邊要之官有別哉。答。邊要之官可有別式。假。大宰部内官處分。不申送等是也。*弘仁式云。選人長上於官引唱。番上於省引唱。若三日之內不到者。降一階敍。其國郡司及外散位。於國引唱。其錄申省。不在起限。*延曆十九年十二月十九日官符云。一諸司六位以下考唱不到事。右得式部省解偁。養老二年十月十八日太政官處分云。諸司預考之徒。必宜正身參對。若被追不起者。不須預考。自身披訴有理者。省未校以前。聽入(前聽)考例者。依一日怠除一年勞。准其勞。怠事須優恕。若從降等足(是)以懲勸者。宜從降等。以前被右大臣宣偁。奉勅如右。自今以後。立爲恒例。

内外五位條

凡内外五位以上勅授。内八位。外七位以上奏授。外八位及内外初位。皆官判授。 謂勅授奏授判授者。宮人位授(授法)亦同。其勳位亦依相當法。准文位式。假令。六等以上爲勅授。十二等以上爲奏授之類也。釋云。宮人敍法亦放此法

〔朝集使〕四度使の一なり。國衙より一年の政を太政官に申送する最も重要なる國使なり。國司の考文、朝集帳、計會帳、郡司名簿、軍團歷名簿、官私牛馬帳等の公文を齎す。

〔弘仁式〕我が國最初の官撰の式にして、嵯峨天皇の弘仁十一年四月、弘仁格と共に成れり。四十卷より成る。その細目本朝法家文書目錄に見えたり。本朝文粹收むるところの序文に據れば、孝謙天皇既に格式の編纂を企圖せられ、藤原内麻呂、菅野眞道等その事に勞きし

耳。古記云。問。官人若爲敍法。答。放男法耳。跡云。勅授謂敍階之處少補合定。又勳六等以上亦爲勅授。朱云。内八位外七位以上奏授者。未知。何司可奏授。私案。官奏授耳歟。何者依奏授式耳何。問。内外初位皆官判授者。未知。授者案可在太政官不。又凡授後達不奏聞。又不成選。臨時可授初位。依此文太政官不奏。直給不。答。穴云。勳十二等以上皆奏授。六等以上勅授也。外七位以上判授。謂允先奏從(詳)官判授耳。女位記放男也。

任官條

凡任官。大納言以上。左右大辨。八省卿。五衞府督。彈正尹。大宰帥勅任。謂皇太子傅。官位高於七省卿。故准爲勅任也。跡云。亦同。准勅任。勅任謂勅旨補任也。穴云。女官不見文。但令行事勅任。餘官奏任。謂。内外諸司主典以上。其郡領軍毅亦爲奏任也。釋云。餘官奏任。神祇伯以下官史省錄亦是奏任。古記云。問。餘官奏任。未知。弁官史内外記左衞府志諸司長上大宰典大少毅等類若爲。答。除被文外。皆入餘官。但内舍人一色。依軍防令。式部選充耳。然今行事此亦奏任耳。才伎長上亦同。問。郡大領以下式部銓擬。若爲其意。答。擇其才能責狀試練。職掌省故。銓擬申官耳。跡云。謂官任定奏聞耳。皆爲奏任。穴云。文學奏任。内舍人軍毅亦同。兵衞如先私記。式部選充。然今行事。此亦奏任。一云。判任舍欺。私案。依軍防令。以判任爲長。大舍人東宮舍人式部充故。兵衞亦兵部充也。主政。主帳。及家令等判任。謂依軍防令。内舍人亦爲判任。其文學才伎長上亦同也。穴云。自餘寫文(書)手等得考人。皆式部判補。朱云。問。勅任判任之人任官簿。何司可有。答。問。

勅任奏任判補行事差別事

任(奏任)奏任判補其行事何。答。私職員令式部卿注云。補任家令。義解云。謂先銓擬申官。然後乃補任也。舍人。史生。使部。伴部。帳内。

も、[illegible]果さず、嵯峨天皇の朝に至りて藤原冬嗣、藤原葛野麿、秋篠安人、物部中原敏久等に勅してこの事業を完成せしなり。この書今傳らず。然るに弘仁式と稱する十二巻及び其の目録なるものは僞書なり。但し近年九條家の舊藏に於いて弘仁式の主税、式部の二種を發見せり。

〔延暦十九年十二月十九日官符〕この符、類聚三代格に見えず。但し九條家の弘仁格抄、卷二式部上に、[illegible]六位以下[illegible]事、一大宰府[illegible]蔭子孫敍位事。延暦十九年十二月十九日。」と見え、格題目は有るもこの前段の格文を擧げたり。

資人等式部判補。朱云。舍人謂大舍人并東宮舍人等。未知。兵衛或云。入史生所者。私不同何。穴云。國博士國司簡取。申上式部判補耳。私下條云。凡國博士醫師者。竝於部內取用。義解云。謂國司簡擇才術之可用者。申太政官卽式部判補也。

應選條

凡應選者。皆審狀迹。謂考中功過。謂之狀也。履行善惡。謂之迹也。釋云。皆審狀迹。以考狀可爲審案。考課令云。官人還迹功過。應附考者。皆須實錄故。迹子迹反跡也。韓詩。迹理也。跡云。

德行事

狀謂德行之狀。迹謂所履行之大迹。言此依考狀知迹耳。又說。所祓考狀曰狀。合見所履行曰迹。言察考狀。又合見所履行知。朱云。應選者。皆審狀迹者。未知。一位以下皆同不。答。穴云。爲任官選人條也。狀迹謂考狀具注行能功過。以此考文知其狀迹耳。非更見其人身也。又一選內狀迹是也。非古昔狀迹兼云也。狀迹。如景(還)迹也。私案。庶人被擧。亦審擧狀耳。律條有文。古記云。

銓擬之日。先盡德行。謂此爲奏任立文。凡銓衡人物。必據考簿。卽式部條其德行才用之應採授者申太政官。官吏銓擬奏聞。其判任者。式部銓擬申官。而乃補任也。釋云。銓擬之日。先盡德行。*廣雅。稱謂之銓衡類所以稱物也。說文。擬度也。鄭玄注周禮曰。德行內外之稱也。在心爲德。施之爲行。周禮。六德。知仁聖義忠和也。大寶元年七月廿八日太政官處分。夫選任者。奏任以上者注可用人名。申送太政官。但官判任者銓擬而申太政官。古記云。問。銓擬之日。未知。誰司銓擬也。答。太政官并式部兵部也。問。

德行事

德行。答。論語曰。有德行者。顏淵閔子騫也。朱云。問。銓擬之日先盡德行者。未知。物任奏任皆同。先銓擬不。答。然也。德行以上以考狀所知。四善之外。又有德行耳。驗不至稱善之人於他有優也。假。方正淸修等是也。

德行同取才用高者。才用同取勞效多者。釋云。勞效音古敎反。古記云。問。勞效。答。大例經年數多也。勞功也。效驗也。朱云。問。德行才用勞效竝同何。

勞效等同者取年老事

〔廣雅〕日本國見在書目錄、論語家に「廣雅三卷(張揖撰)。」と見え、隋書經籍志に「廣雅三卷(魏博士張揖撰。梁有四卷。)」と見えたり。今傳はるものは十卷あり。廣雅の舊目によりて、博く漢儒の箋注及び三蒼、說文の諸書を採りて、之を增廣せる故に、之を廣雅と稱す。

時代に至りて惟宗の諱を避けて之を博士と改めたり。故に今に至りて名稱存す。

若取年老乎。答。

任兩官條
凡任兩官以上者。一爲正。謂官位相當者爲正。若皆不相當者。以一高者爲正也。釋云。官位相當爲正也。不論先後高下者。諸説以高官爲正者非。何者。至署記爲難辨之故者。未明。問。此條。主典以上并同不。若史生等何。跡云。穴云。或説以相當爲正。劣。或説。以高爲正。爲長。私案。從一高官上考者。以是案。以高官爲正。允以得理。私案。以相當爲正。見官位同者。依古私記。以尊爲正長。尊卑等者以官位令之列次爲次也。讃同。但官位令已以尊(爲)上件尚未可。**餘皆爲兼。**

任內外官條
凡任內外文武官。謂其郡司軍毅者。雖是外文武官。既非官位相當之(已)職。故不關此條也。朱云。問。爲行爲守之文。主典以上並同不。又史生郡司等何。私案。史生无官位相當之。故不可云行守。但郡司何。**而本位有高下者。若職事卑爲行。高爲守。**謂者以无位人。任長上官者。亦須(猶)注守。穴云。无位以才任長上官者。亦書守也。

同司主典條
凡同司主典以上。朱云。問。刑部與判事。中務與監物。極同司不。答。不遵。問。主典以上者。未知。內舍人并才伎長上等何。或云。左右弁以上可相避。爲職掌相通故。或云不相避者爲穷。刑部與判事可避。爲連判故。或私記云。中務內(左)七。院不相避。在穴記昔。職員令中務條義解云。凡此省錄以上爲同司。內記監物主鈴典鑰各爲一司。即三等以上親不可相避。其侍從內舍人亦不相避。**不得用三等以上親。**謂其非三等親者。縱得相隱。猶須任用也。釋云。養老七年十一月十六日太政官處分。伊勢國渡相郡。竹郡。安房國安房郡。出雲國意

字郡。筑前國宗形郡。常陸國鹿嶋郡。下總國香取郡。紀伊國名草郡。合八神郡。聽連任三等以上親也。跡云。四等親。雖相隱而任用同司无妨。古記云。三等以上親。案儀制令。父子爲一等。祖孫伯叔兄弟爲二等。曾祖從父兄弟兄弟子曾孫爲三等。以外雖相隱親。不在避限。

在官身死條

凡在官身死。謂主典以上。其雜任亦准此也。釋云。在官身死。官判任以上皆合言上。省判補以下申省耳。古記云。問。郡司及國史生幷番上等色若爲。答。官判任以上皆合言上也。省判補以下申省耳。跡云。在官謂主典以上。雜任亦放此。但奏任以上申太政官奏聞。判任色官判署。又補任色申送省耳。朱云。問。在官身死及解免者。皆卽言上者。未知。此文內外諸司皆約文歟。答。然者此條可見。唐令問謂在官(在官謂。問。)雜任死及解免。亦申官哉。答。申有補任之者耳。外分番牧長等之名張在省。官申死闕之狀。私案。但解替之狀者非也。爲國司補任故也。及解免者。謂此云解免。猶云解去(也)。〔穴云〕。卽喪解病解等之類。皆揔爲解免。其因犯解免者。斷罪言上。仍待符報。乃合解官。不可更言上。*凡解免者。或爲一事。或爲二事。隨事成義。不必一例也。釋云。解免者服*解亦同。古記云。跡云。穴云。*考解自附考帳申上。又不得釐事。待府報解。又造簿行事。公式令述了。免謂官當以上。*其徒以上送刑部。但其罪當官當不當之狀。當司預知。不官當者。不言上也。又理事如常。爲不官當以上故也。問。犯罪〔官當者不言上也。又理事如常。爲不官當以上故也。問。犯罪〕應除免官當者。不得釐事者。卽號闕哉。答。然也。故卽言上。但爲未奏聞前者。不任其替。下條具狀申太政官奏聞。不得徑(經カ)解故。此條亦斷罪訖。仍奏聞。問。國守犯官當以上。有別論哉。答。職制律云。在外長官有犯。所部屬官等不得輒推。犯罪當死者。散留其身。侍上報下者。故犯罪非死罪者。尙理事。一云。不治。其狀。述獄令及律了。卽推可官當。闕狀不言上。但只依律申犯狀耳。或云。生云。不然也。斷罪了言上。何者報尤(免)任授。除注簿案者。「可」放此文故者。又在外長官犯者。所部屬官等不得推問故者。未知。在跡記昔也。皆

〔相隱親〕名例律に「凡同居者三等以上親、及外祖父母子孫六婦、夫之兄弟。及兄弟妻。有ㇾ罪爲ㇾ隱。家人奴婢爲ㇾ主隱。皆勿ㇾ論。」とあり。これ相隱親なり。

〔凡解免者或爲一事或爲二事隨事成義不必一例也〕解免は解官及び免官の意味のときもあれば、解免と熟字に讀みて一つの意味の事もあり。必ずしもこの用法一定せずとなり。

〔服解〕父母の喪に遭ひて解官することとなり。下條、職事官患解の條に「若充ㇾ侍遭ㇾ喪患解者、侍終服滿、及患損之日、還令ㇾ上ニ本司一。」と見えたり。

〔考解自附考帳申上又不得釐事待府報解又造簿行事公式令述了」公式令、任敍官位條に述

即(則)言上。釋云。皆則言上。謂附使「使」。若无使(使)、次者附事使耳(同)。古記。其國司、大上國介以上、中國掾以上並闕。釋云。並闕、不限死亡解免也。大上國介以上中國掾以上一人先闕、言上已訖後、守一人闕者馳驛耳。古記云。朱云。並闕者死闕也。但在外長官犯死罪者、不合預當務也。此時次官死亡者。與介以上並闕不殊。故可馳驛也。但於在外長官犯流罪以下者、次官以下不得推問者、猶可預當「務處ヲ」也。但申上可聽裁耳。職制律見文也。此時介雖死亡、爲有長官行政、不可馳驛。並不預當務、馳驛哉不。貞云。可求者。穴云。問。馳驛者、未爲早替任也。假大國介以上並可管當、雖馳驛、官未去斷罪前、不替任。然无馳驛之用何。答。爲未斷罪訖。未得闕。故不替任。但尤先馳驛之用、於事少不便耳。若犯流罪以上、除免官當者、長官聽事。故不馳驛。但介之免狀及律依犯狀、言上者有耳。或云。問。守就朝集。在京之間。介闕者各爲並闕馳驛哉。答。然。此文爲合理事故也。在跡記背。及下國守闕者。跡云。下國守闕者、日當鈴印耳。穴云。問。下國守或致仕、或侍(侍、辭)。未知、馳驛哉。答。侍患當辭者、申後不得聽事者。然放(故)免而不聽事馳驛耳。或云。侍致仕者、且待且申、不馳驛。致仕人者、申後未替任前、依舊理事。不合爲闕。闕謂上之死及解免是也。馳驛謂假於下國目、人行耳。但於鈴印、判官以下不掌之。*或直白文而馳申。此說劣。依文習文。鈴印并諸政等、一同判官也。守朝集年、目在當事同判官。凡諸馳驛事、皆如常。但史生、文不明。殊晦耳。又除此使之外、主典(渓)里、不馳驛。而直言上耳。或云。下國守就政在京。目在國身死者、史生等白文、可言上耳。乞鈴赦、不可馳驛者。問。下國守在京。目身死者、馳驛哉。答。跡云。馳驛乞勘。然在跡記背。別史生等、得用驛鈴哉。答。自文(紙)言上耳。鈴印納官庫耳者。皆馳驛申太政官。古記云。問。馳驛遠近若爲。答。畿外皆可馳驛。若大宰帥。跡云。問。大宰帥闕即言上。未知。後又大貳闕者馳驛者。答。有少貳故不合馳驛。但少貳亦闕者、次官以上並闕、故合馳驛也。此問同答勾何。

[illegible]同なり。
[illegible]以上[illegible]一級令
[illegible]なり。

〔致仕〕[illegible]することな
り。下條「凡官人、年七十以上、聽致仕」云々の條にその例あり。
〔白文〕國司郡司の印璽を[illegible]ざる公文なり。
今昔物語、卷廿五、源頼義朝臣罸安倍貞任等語に「而ル間貞任等彌ヨ[illegible]テ、諸ノ[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]テ官物ヲ徴リ納メザリケリ」、

白符ヲ可レ用。赤符ヲバ不レ可レ用ト。白符ト云フ、經清ガ私ノ微符也。印ヲ不レ押バ白符ト云フ。赤符ト云ハ國司ノ符也。國印有ルガ故ニ赤符ト云也。」とある白符は即ち茲に云ふ白文と同じ。

〔城國〕城廓ある國なり。秋田城のある出羽國の如きその顯著なる例なり。斯かる國に於いては、國司の一人城司を兼ぬ。出羽に於いては介秋田城司を兼ぬる例なり。故に之を秋田城介と云ひ、略して城介と云へり。

〔三關國〕三關國なる名稱は本條の外、職員令、大國條、公式令、諸國給鈴條、軍防令、帳內條等に見えたり。軍防令の「凡置レ關應二守固一者、並置二配兵士一分番上下。其三關者、設二鼓吹軍器一、國司分當守固。」なる條文の義解注

及三關國。壹岐對馬守者。雖獨闕。猶從馳驛例。古記云。問。多褹大隅薩摩及陸奧出羽等國若爲處分。答。文不載者皆言上耳。朱云。注云。壹岐對馬守者。雖獨闕。猶從馳驛例者。不可名下國故更立文歟何。貞云。不然。中國等可入耳者。三關國者他國者。雖有城國。不入此例也。其待報之間。大宰遣判事以上官人權攝。謂判事以上者。監典。其權攝連署之法。須准此司爲判也。養老六年八月廿九日格云。自今以後。緣有公事。向京國司。皆聽乘驛。但(唯)伊賀近江丹波(紀伊)等四(三)國。不在給驛之例。權攝連署之法。依公式令可爲判。爲判事與二嶋此皆比司故。任訖。馳驛發遣。朱云。未知。此文馳驛。只爲申太政官之色歟。答。古說云。問。還守若爲訓。答。反而馳驛遣耳。先將反時爲訓此不通也。或云。春秋還節也。未得正文也。

遷代條

凡初位以上。謂一品以下也。或云。問。初位以上。答。一位以下。又此條長上官遷代一位以下可遷代之故。一品以下亦同。問。右大臣以上爲不考之人。不可計上日哉何。私依祿令計日給祿。然則可計上日哉何。先疑乃同。然何。在跡記背。穴云。以上謂一品以下也。長上官遷代。謂自卑官遷高官。此據六位以下考滿進遷之人。其五位以上者。雖不遷代。亦猶以六考爲限。更始計之也。釋云。遷代。皆以六考爲限。依官位令。位與官相當任之。今六考滿。更有敍法故。官亦遷耳。跡云。初位以上遷代。以六考爲限。謂以六考成選。而遷改昇者。一位以下皆同。但六考中中進一階。以下只據六位以下也。朱云。遷代者。未知。一事二事。答。生云。正一位。及不考之人。六考之後。遷代之狀不明者。或云。問。於不考人可遷代哉。答。不遷代。何者依位遷官。而官位不相譲者。何可遷代。或云。文稱遷代者非。已上非正說。疑耳。在跡記背。生云。以下穴云。以上謂一位以下也。假。五位以上滿六考。式(或)不勑授尙遷代。以六考爲限也。但勑任之色。皆以六考(爲脱カ)限。故六考中中進一階以下。爲六位以下生

には、「謂伊勢鈴鹿、美濃不破、越前愛發等是也」と見えたれば、この三國を三關國と云ひしなり。續紀、天平神護元年三月丙申の勅にも、「又伊勢美濃越前者。是守關之國也。」云々と見えたり。

〔養老六年八月廿九日格〕この格、類聚三代格、卷十八、驛傳事及び續紀、卷九に見えたり。

文也。古記云。皆六考爲限。位以分番一考長上五成選。此待六年不。答。任官者。必以六年所(可)遷代也。以上不復。(改) **皆以六考爲限。六考中中進一階敍。每三考中上。及二考上下。并一考上中。各又(亦)進一階敍。**謂假令。六考之内。三考中上。二考上下。一考上中者。合敍四階。若六考上上者。合進十三階。其一階者。是中中初基之階也。釋云。案。六考中上及四考上下。并二考上中各敍三階。六考上下敍四階。六考上中敍七階。一考上其五位以上者。不可結階。准注考第奏耳。何者案軍防令加轉條。六等以上兩轉加一等。三等以上三轉加一等。此即五位以上結階之法既異。此條理亦可別也。古記云。穴云。此十三階兩説。但十二階説者。爲不當也。廿四階論者。時人所論。亦爲不當也。朱云。私案。一考上上進一階敍者。不稱各又之字。則知不進廿四階。此以爲諮何。答。或云。問。六考上上可敍十二階。而何敍十三階哉。答。文稱各又之故加耳。或云。六考上上進廿四階者非也。已上非正説。疑耳。在古記背。**一考上上進二階敍。其進加四階。**謂假如。六考之内。三考中中。三考上中。或六考上下之類。其初位之官。應進四階。亦猶奏聞。但其位記者。自合依判授式也。跡云。進加四階。謂假無位長上進加四階。猶爲初位故。入判授之法。朱云。未知。然者別敍之意何。若奏聞之間。稱別敍歟。但爲顯其功能異於凡。別奏敍耳。非云奏授之法也。穴云。假勅授外授五位以上奏聞者。即遣位記之法。爲勅授之情也。問。進加四階奏聞者。爲別敍歟。答。不然也。只爲奏聞生文。引下文不在限。句承上二事更分別心耳。**及計考應至五位以上。**謂其五位以上者。無結階之法。即以六位所得考第敍一。准計應至五位以上者是也。假如。從六位上之官計考。應進三階者。即至從五位下之類也。跡云。應至五位以上。謂六位成選。令合五位者。只定六年内考上中下等之科。而不定階數。只奏聞耳。又未位五位以上人。亦放此耳。穴云。應至五位以上奏聞。謂假正六位下人。可進二階至五

位者。本司結階相折而奏聞。即授位記不更依上條奏也。若自先五位者。上條解訖。若正六位上人滿六考。可至五位。本司不結階相折直奏也。結階本爲可敍六位以下。令已滿六位訖故。不結階奏耳。或云。穴云。計考應至五位以上。奏聞別敍。謂假令。正六位下人加二階者。可至五位之類此。何者文計考者。有計字之故。正六位上人加一階。可至五位者非。何者不被云計之故者。此說兩先不同也。在跡記背。朱云。計考應至五位以上。奏聞別叙者。未知。別叙志何。若勅授歟。若不授五位者。奏之後太政官如常奏授若別乎。又此色雖同位。爲別奏可作考文不。答。**奏聞別敍。**生云。於奏聞別敍者。有兩說者。未明。**其考未滿。而以理解。**謂假如。經三考得中上。其人以理去官者、〔人以理去官者。〕不可依三考敍一階。必須通計後任。待滿六考。而乃敍之類。其以理解官。總有七色。致仕考滿。廢官。省員。宛侍。遭喪。患解是也。釋云。其以理解者。下條云。長上官以理解。後任日通計前勞者。即知。不除前勞。若不任官者。與分番考通計敍耳。穴云。以理解者。不在進限。謂此條爲不進生文。＊下條爲通計前勞生文也。朱云。其考未滿。而以理解。及考在中下以下者。不在進限者。未知。此於一年中考曰歟。爲當於六考之事歟。又考滿六考之後解者。雖居服猶敍位乎。不。或云。在跡記背。**及考在中下以下者。不在進限。**謂假如。五考中中。一考中下者不在進例。即其六考皆悉除弃。不在通計之限也。釋云。先云。下條云。長上官以理解。後任日通計前勞者。則知自非以理解官之外除前勞者。未知。在跡記背。穴云。中下以下。謂不至解官。在中下以下者。不在進限者。子細生文耳。問。六考之內不考年交者何。答。置大(又)云。除前勞。私案。此說爲非也。下別記條在釋。假。「理」解官。後任日。通計前勞。況不考未解。當(甞)除乎。朱云。問。假。中以上。雖有下考。即從上第之故。但上「下」以下考者准相折。猶有中下考者。不進敍。除前勞哉。私案。可然。又下條。令釋見而何。答。然者。**若有上考下考。准折之外。仍有上考者。各聽**

〔下條〕ニ凡長上官以レ理解者、後任日、聽レ通ニ計前勞一。其考解、及犯罪解者、不レ用ニ此例一。」云々の條を指す。

[illegible]下帳、
[illegible]位帳に[illegible]者[illegible]
八、[illegible]
者[illegible]之[illegible]
[illegible]三年二月十六日

依法加階。謂假令、二考中下、二考中上、二考上下者、一中上・一中下相折、即得四中中考、其外猶有上下二考、應依上法加一階之類也、釋云、謂依下條、准折得五考中中一考上中者、依此條、進二階敍、故云有上考者、各聽依法加階、縱無上考而六考中中者、亦依此條敍、跡云、唯此准折外、仍有上考者、亦准上文聽加階、以二中上折二中下、今仍有上考者二、上下此准折外有上考、又以三中上折三中下、此准折而中中、在此依下條心合敍、又以三上下折三中下、仍有三中上、此准折而有上考、亦依下條心合敍、朱云、私案、此則准折有、各〔盆〕迫可云也、抑上下考者、雖有中下考不相折、可直進哉不何、私案、必相折有中中以上考時可進也、直不可進、何者下條云、每一下上、以一上下除故者、未知、何答、然也、穴云、若有上考下考准折外、仍有上考、謂不被相折而自本別有上考、是故云爾也、若相折而有中中六考者、亦依此條進一階、並此條義也、但相折下條義耳、或云、相折考下條義者、亦無損、私案、相折之内考、皆下條義也、私案、四考中上、二考下上相「折」爲六中。　即考未滿。從見任遷爲內外官者、並聽通計前勞。釋云、以理解、更復任未任亦同、此亦一端耳、朱云、即考未滿、從見任遷爲內外官者、並聽通計前勞者、未知、此亦於一年內所稱歟、爲當於六年內所稱歟、又內官者、國郡司並同不、答、私案、於六年考中所云、又國郡司可無別何、　其六考之外有餘考者、通充後任考。謂餘考所生、觸類不一、假如、分番經七考入長上者、以七考爲限、即分番一考、是爲餘考、又長上得五考、使蕃經一周以上、或考當下第、肤「有」不輩、古記云、待後年更定「之」類也、釋云、餘考所生、觸類非一、假如、分番經七考入長上、或經一考使蕃、四周之內、皆是餘考、慶雲三年二月十六日格云、初位以上長上官遷代、皆以四考爲限、四考中中進一階敍、每二考中上及一考上下以上、各又進一階敍、一考上上進二階敍、其進加四階、及計考、應至五位以上、奏聞別敍、若考多者、進「者」准考第加各依本法、考雖多七考以來、但有一下考者、亦不在進限、其餘考者不得將

苑後任考數。後任復任復有餘考者。通計成四考者選日亦聽加階。*新令說曰。太政官處分。依令苑後任考。古記云。問。餘考若爲。答。考滿之年。有障事故。不得授位也。假令。天平九年格云。石見等國。依疫病不進考文。授考訖後進上。或考授之日失落之類。朱云。其六考外。有餘考者。通苑後任考者。未知。此只爲長上一色歟。若番上餘考何。又餘考者。考課令云。若考當下第狀有不盡。量校難明。附使勘覆善惡。待後年摠定。若過考之後。訴理不狀應雪者。亦如之者。此等歟。又令釋說。餘考色何合不。答。並可去。餘考。又此條。先爲長上。未知。番上餘考何。亦通苑後任考耳歟何。

計考應進條

凡計考應進。謂准折之後。乃知應進也。**而兼有上考下考者。並得准折。每一中下。得以一中上除之。**謂以一中上。除一中下者。得二中中考也。釋云。**每二中下。及一下上。得以一上下除之。**謂以一上下。除二中下者。得三中中考。又以一上下除一下上者。得二中中考。若三考上下。三考中下者。三上下爲三中上。三中下爲三中中。即結階一級也。釋云。每二中下。得以一上下除之。即成三考中中也。及一下上得以一上下除之。即成二考中中也。若三上下三中下者。三上下爲三中上〔下〕。三中下者三上下爲三中中。結階一級。何者以一上下。折二中下。又以一上下。折一中下者。不足二階故。古記云。跡云。以三上下。折三中下。合敍一階。或說云。以一上下折二中下。又除一上下之加一中下。合敍一階者非。但文云。以一上下折二中下者。折而據可〔耳〕。有益之色耳。朱云。折可有益之色者。假令。一考上下。三考中上。一考中下。如之類歟。答。穴云。**下上。**謂非私罪者。**上中以上雖有下考。即從上第。**謂不用准折之法。直從上中以上考敍。假如。一考上中。五考下中者。從一上中考。進一階敍。其下中五考者。即皆除弃。既無中中基考。所以不敍一階也。釋云。*貪濁有狀　爲下下之類。若

格」この格類聚三代格、卷五、定秩限事に見ゆる承和二年七月三日の格中に引かれたり。又續紀、卷三にその事見えたり。

〔天平九年格云石見等國依疫病不進考文〕この格續紀及び類聚三代格に見えず。天平九年は我が國に疱瘡が初めて流行したる年にして、續紀によれば、この年の疱瘡は、春四月の頃、筑紫より流行し始め、夏を經て秋に涉り、全國的に猖獗を極め、六月京師に於いては、百官官人の疫病に罹る者多き爲めに廢朝を行ふの止むなきに至れり。即ち藤原不比等の子房前、武智麻呂、宇合、大宰大貳小野老、中納言多治比縣守等何れもこれに死せり。續古事談には、この病が新羅より漂せるの漁人によりて筑紫に傳へられたりとの說見え、類聚

會赦、而不解官者。未是解官之色。猶從下考耳。何者、考課令云、除考者、祿依常法故。跡云、問、在考上中以上、今經一考之年、當二躍以下、但遭會赦、是非除免故、不合解官。未知、是人何處分。答、私罪下中、公罪下下、爲解官色、故皆合除所帶。朱云、下考謂不至解官、問、貶附人已、恩赦頗蒙、只景迹論、降考幷祿依常法。非除免者。不解官。未知。以景迹論。至公罪下下私罪下中、成選之日何處分。答、爲不解官故依例成選也。文稱不至解官者、若至解官、更不合考故生文。今師云、此不解官人故、仍從、仍從上第。又云、明只稱不至解官、不云未犯不至解官故也。讃云、除。　**下考謂不至解官者。**謂中下、下上、及公罪下中是也。釋云、下考謂不至解官者、下文公罪下中私罪下上。謂之不至解官也。公罪下下、私罪下中、此則解官考也。見考課令。私云、考課令云、官人有犯私罪下中公罪下下者、並解見任。

公罪下中。私罪下上、雖有上下、仍從下考。謂假如二考下中左考上下、即從下中一考。除上下左考之類。問。內外長上及分番出入、考限既有等級。未知、上日若爲通計。答、內外長上、同以二百卌日爲考。內外分番、同以一百卌日爲考。所以下條、以分番三日充長上二日。但帳內資人以二百日爲考。此若與長上通計、亦依各同分番之例。其分番、帳內資人者、分番一百卌九日、資人一日、若資人一百卌九日、分番一日、各通計一百卌日、即合得分番考。唯資人一百卌日無分番日者、不合得考。又問、長上分番、各有上下考者、准折之法、據何實的。答、假如二、只長上中上、折分番下者、得長上中中一。分番中一、只分番上、折長上中下者、得分番中一。長上中中一、只分番上、折長上下上者、得分番中一。長上中中一、只長上上下、折分番下二者、得長上中中一。分番中二之類也。釋云、公罪又下與帳可軍團條釋云、只景迹論私罪下上、而有上下考者、尚從下考、或左考上下、一考公罪下中、成選之日、合從下等除而帶也、而會恩赦者、尚從下等也。爲而已從下上之、更追不合赦故也。私案、隨上而決定耳。下文亦同之。問、三考中上、三考下上、此人若會赦、赦不相折、而從、但以三考中上、通一而。答、私案、亦

右官抄には、疫病撫恤の方法を布告したる官符の文見え、又正倉院文書の和泉監正稅帳には、この年の管内百姓の死亡五百五十三人に上れること見えたり。而して考課令には、總外國の考文は十一月一日に朝集使に附して申送すべき規定見えたれば、この格の發せられたるは、恐らく十一月以後なるべし。この格は實に古記に見えたる最も遲年の格にして、中田博士はこれによりて、古記の著作年代を天平十年以後と推斷せられたり。

〔古記有私罪下下之類〕これ考課令、最條の句なり。

〔公罪〕官吏が職務上犯す罪にして、多くは稽失の罪なり。これ刑法上の犯罪にあらず、懲戒處分を受くべき行爲なり。故に當時はこれを公罪と稱して、私罪と

ち眞正の意味の犯罪と區別せり。

〔公勤不怠職掌無闕之最也〕これ考課令、最條に見ゆる諸官之最なり。

〔何者宮衞令於衞府云每月一日十六日各一換籍故〕宮衞令の初條に據れるなり。

從下第。凡赦書免罪。只爲未刑(形)。其先已定等第訖。不追赦免故。朱云。公罪下中私罪下上。雖有上下。仍從下考者。未知。而有上中以上考者。不相折。從上第哉。答。然也。凡此文。則相對上文之文歟。答、然也。問。更有一中下。以卽爲一考中上考。得相折不。答。多得。問。增勞年限。答。一選之內。以六年爲限。若六年之內。不得中中以上者。不計前勞也。

散位條

凡散位。若見官無闕。雖有闕而才職不相當者。穴云。才職不相當。謂擬任(仕)闕所。而其才不相當也。其有才用者。雖官位不相當。依行守任用耳。問。依才任用。若主典六位而見任。令判官闕所。任八位有才用人哉。答。不合也。以六考遷代。事爲如此不交錯也。**六位以下分番上下。**謂文稱六位以下。卽知五位以上。雖無執掌。仍令(合)長上。卽可與公勤不怠。職掌無闕之最也。釋云。無闕之最。與官人同。跡云。五位以上長上合得九等第。然計臨時所行之事與最。又合與恪勤之善。女孺等得長上考。放此。朱云。六位以下分番上下者。未知。何事可上下。又以幾日可爲一番。答。猶仕雜公事耳。司內外不論。隨差遣仕耳。若無事者。直散位寮得日耳。五位以上行事亦同。但長上人耳。或云。以十五日可爲一番。＊何者宮衞令。於衞府云每月一日十六日。各一換籍故。凡衞府文官分番。不可別故者何。**每有闕。各依本位。量才任用。其分番經二考以上入長上者。竝以七考爲限。**謂凡考選之限。都有四科。內長上六考。內分番八考。外長上十考。外散位十二考。假令。內分番經一考。入內長上者。同六考例。經二考以上者。以七考爲限。外散位經一考。入外長上者。同十考例。經二考以上者。以十一考爲限。外長上。經一考。入內分番者。同八考例。經二考以上者。以九考爲限。外長上經一考入內長上者。同六考例。經二考以上者。以七考爲限。外散位。經一考入內分番者。同八考例。經二考以上者。以九考爲限。觸類而長。餘推須知也。文云。經二考以上入長上者。

〔元三箇例〕これ審らく選敍令令條に見えたり舊記箇例、四級司例等と同性質のものなるべし。

卽知出者亦同。假如、長上經五考出分番者、同六考之例。經四考以下者、只七考爲限之類。其分番經一考入長上者、分番上一、長上中上五、敍三階。分番中一、長上中上五、敍二階。分番中一、長上中中五、敍一階。若經二考以上入長上者、分番上六、長上中上一、敍三階。分番上中各一、長上中上五、敍二階。分番中四、上一、長上中上一、敍一階。分番中四、長上中上三、敍二階也。釋云、私案、外散位經二考、入内長上者、同六考之例。經三考以上者、只七考爲限。凡外分番二考、當内長上一考。此說有難、可請博士。慶雲三年格云、散位分番上下、只六考爲限。其分番經二考以上入長上者、並以五考爲限。若經一考者、聽同四考之例。選考不滿六、而復滿三周者亦准之。中上、兵部結二階、式部結二階。今檢文、聽同四考。如四考中上歲、宜兵部結階爲考也者。分番上者、當長上中上。分番中者、當長上中中。今只分番分番中考一、長上中中三考者、可無敍乎。然則以分番上、當長上中上。其理允當也。散位經二考、入内番上。同以八考爲限。其長上敍法。分番上考一、長上中上考五敍。分番中一、長上中中五(上)、分番上一、長上中下一、中中四、分番下一、長上中上中中四、各敍一階。分番經二考上、入長上敍法。分番上六、長上中上一、敍三階。分番中一、上一、長上中上五、敍格結階。分番經一考、入長上敍法。分番上一、長上中上三、階。分番中一、長上中上三、敍二階。分番中一、長上中中三、敍一階。分番經二考以上入長上敍法。分番上四、長上中上一、敍三階。分番中一上一、長上中上三。分番中二、長上中上一。分番中一上三、長上中上一、分番中三上一、長上中上一、並敍二階。古記云、註以七考爲限。一考爲限。其分番經二考以上、同四考之例。選考不滿六、而亦准之。又下敍部司軍團條釋云、式部省例、内外長上並分番爲考事。内長上四考、分番六考。經一考入長上者、同四考例。經二考以上者、以五考爲限。敍法、分番一考上、長上三考中上、並二階。分番二上長上二中上、敍二階。案、長上經三考出分番者、亦同四考例。經二考以下出者、亦以五考爲限。外長上八考、散位十考。經二考入長上者、同八考例。經三考以上者、以九考爲限。案、外長上經六考、出外散位者、亦同八考例。經五考以下出者、亦以九考爲限。其外長上入内分

〔内位資人・外位資人〕類聚三代格卷五に見ゆる内外五位の待遇の差別を規定せる神龜五年三月廿八日の官符には「位分資人。右外正五位五人。外從五位四人。（女亦同。）」と見えたり。これ即ち外位資人にして、軍防令に見ゆるものは即ち内位資人たり。

番者。經一考者。同六考例。經二考以上者。以七考爲限。案。其内分番經五考。出外長上者。亦同六考例。經四考以下出者。亦以七考爲限。外長上入内長上者。經一考同四考例。經二考以上者。以五考爲限。案。内長上經三考。出外長上者。亦同四考例。經二考以下出者。亦以五考爲限。外散位入内長上者。五考爲限。經三考以上者。以六考爲限。案。内長上經二考。出外散位者。亦以五考爲限。經二考以下出者。亦以六考爲限。外散位入内分番者。經一考同六考例。經二考以上者。以七考爲限。案。内分番經四考。出外散位者。亦同六考例。經二考以下者。亦以七考爲限也。其帳内職分資人。以六考爲限。即准内分番。*内位資人。以八考爲限。即准外長上。*外位資人。以十考爲限。即准外散位。出入亦同耳。同條。古跡云。問答云。外長上。經一考。入内番上者。同八考例。經二考以上者。以九考爲限。又外散位經一二考。入内番上者。同八考例。〔經三考以上者。以九考爲限。今郡司散位。經一考。而郡司以九考爲限。散位同八考例。於義爲難。朱云。此說貞不決也。可案此令意者。私案。下條文所說與何。朱云。其分番經二考以上。入長上者。並以七考爲限者。未知。經分番七考了。入長上者則不敍何。更加長上一考爲敍位。而今一考。爲餘考之理何。然則分番經八考了。未敍位之間。入長上者猶更待長上一考。敍位。今二考爲敍考。凡此文稱二考以上者。至幾考。答。二考以上者。七考以下耳。經八考了者。即須敍。可不更加長上考故也。穴云。問。七考人六考中中。一考下等者何〔爲〕。答。「爲」在中下以下故。不在進限。外散位經二考。入外長上者。令文同十考例。經三考以上者。以十一考爲限。問。令釋云。外長上經一考。入内分番者。同八考例。經二考以上者。以九考爲限。爲理。又云。外散位經二考。入内分番者。同八考例。經三考以上者。以九考爲限者。未知。後云。「合」令意哉。答。以令意案者爲合也。但尋理不合也。然。外長上是十考人。經二考以上入者。以九考爲限。況外散位十二考人例同八考例哉。明知。亦以九考爲限也。問。資人任内雜色者何。答。雖内外異。同以八考爲限。然入出無異也。

若經一考者。聽同六考之例。其經八考者。八考中進一階

叙。四考上四考中。進一階叙。八考上進二階叙。雖考不滿八。而使蕃滿四周者亦如之。釋云。四周周而。假。起自正月。而至正月之類。古記云。問。使蕃滿四周者。答。以四考成選聽耳。問。經二周以下若爲。答。以一周當二考耳。問。長上官者若爲。答。一種無增減。學轄明重義。一云。長上者。猶以六年爲限。常之長上故。問。蕃羅人番以不。答。可入也。跡云。番上人使於蕃滿四周亦如之。謂是番使之雜任。若此人被召雜事以上者。以六考爲限耳。長上人使蕃者。仍合滿六周也。穴云。使蕃謂水手等雜任皆是。私案。四周謂一端生文。故令釋云之類。然起自元年八月迄至五年七月。是可云四周也。問。化内使而滿一周者何。答。文舉蕃。然則化内不同此例。私案。里長等。號於分番而置其長上。即化内使。亦同此義耳。即有上考下考者依前例。其以別勅及伎術。直諸司長上者。穴云。問。別勅長上何色。答。侏儒倡優等。是見祿令之釋也。伎術謂令條不被載色。假如。琴師等也。其下部長上考法。所被令條。非據此條所云也。私案。使謂少才。假如。琴笛上手也。朱云。其以別勅及伎術者。未知。伎術者不預別勅別云事歟。凡伎術之司何。答。別勅者。假。倡優之類。伎術者琴笛之類者。伎術皆預別勅者。未知。凡歌儛笛師等。依職員令可有。又依官位令。有相當從八位上文。未知。然者依此文。可爲勅任哉何。然。私案文。伎術可爲不預別勅何。但於琴無職員及相當位耳。於此少疑耳何。考限叙法。並同職事。

考滿應叙條

凡考滿應叙之人。有高行異才。或尤達治體。謂高行者。人所楷則。皆爲高行是也。異才者。才藝超拔。異

〔侏儒〕短小の人を云ふ。古へ短小の人を俳優としたるによりて俳優の意に用ひらる。禮記、王制に「侏儒百工」と見えたり。

〔見祿令之釋也〕祿令の「凡内舍人、及以別勅才伎、長上諸司者、皆准當司判官以下給」なる條の釋ならむ。

〔允恭合和飛丹藥授五位之類〕古記に引かれたるを見れば、これ奈良時代にありし事實なるべし。但しその事續紀に所見なし。

〔鹽屋判事智判事〕鹽屋判事は、養老律令の撰定に與れる從五位下鹽屋連吉麻呂なるべし。この人刑部省の判事に任ぜられたる事國史に見えずと雖も、その法律に詳しかりしを見れば、或ひは判事に任ぜられしことありしなるべし。而して古記の著作せられし年代には、名判事の名を擅にせしものの如し。この人の傳、職員令、式部省條に掲げたり。

於人倫者也。治體者。治國之大體有四。一曰仁義。二曰禮制。三曰法令。四曰刑罰之類也。釋云。孝悌忠信之類。是謂高行。孝經曰。孝者子婦之高行。忠者臣下之高行也。書數射御之類。是謂異才。格後勅云。文學優上識明時務也。治體。治國之體要也。古記云。高行。謂忠行孝行。孝經曰。孝者子婦之高行也。忠者臣下之高行也。異才謂文武等術醫方之類。特秀於人倫也。一云。伯(柏)厚(原)連挑(桃)「要」飛「錦」之文。授五位。允*(无)恭(恭)合和飛丹藥。授五位之類。問。德行與高行其別若爲。答。德行大兼之名。高*行細別之名也。格後勅。行府會部(郭)〔郎〕是孝行也。或尤達治體。謂能知時律理整所部也。一云。如鹽屋判事智判事等之類也。格後勅云。文學優上識明時務也。跡云。異才謂書數射馳(馭)也。朱云。此條長上及諸番上。廣皆約不。先云。廣約。不見人品者。有高行異才。并達治體。何可知。又高行異才。或達治體。此三事不相須不。答。穴云。問。令釋稱書數。未知。明經明法秀才進士等何。答。書者造字體事也。見經家。其明法等可求也。忠謂之高行。孝子婦高行。忠臣下高行。是孝悌仁義禮智信。皆云高行也。信満白。亦可云高行也。但異行。殊合勘求。讃云。異才。少少試知其能。乃敍也。但不如出身試耳。若欲心承試者。依下出身條義耳。問。四善及最。以是之稱高行。未知。過是何行耶。答。依善最定考第訖。但舉其行擇給耳。或四善一最人。有異才等是。問。書數異於人何。答。出身之人。敍法有別條。但此條。庶人之中書筭與貢人。一同是。若雖書數不及第之輩者。非書者。寫書上中以上輩。治體。問。有人。得四善一最。進十三考。未知。過是治體方一端分析。答。雖善最內。其治國體要驗異是也。又問。番上中。亦依治體。有進哉。答。可有也。假。小心謹卓。執當幹了人之。達治體。任用之日可堪治體。自然知耳。

皆聽擢以不次。不須限以常條。釋云。謂不依考第而特高敍任耳也。古記云。皆聽擢以不次。不須限以常條。謂不依考第而特高敍。又雖無闕。爲復於見任官。即聽補替也。一云。不待選。便擢用。朱云。此人等。每考滿年。如此可敍不。又雖擢以不次。可授外八位內外初位。倘太政官判授不奏不。穴云。問。擢以不次。不須限以常條。未知。加階之數。有所依哉。答。

下條云、被去職者、加本蔭本第一階者、然則當色、於叙條例耶哉、是知、可進一階也、

令集解巻十六

始條以下。考滿應叙之人以上、

本云文應元年十二月二日於鷹山殿宿所見合本書加首書畢　員外

弘長元年九月日於鷹山殿令一見加朱點畢　員外宰相藤判

弘長三年十月廿一日於西郊重加一見畢

同年十一月八日屬休日組抄書（出）畢

建治二年閏月三日引合正親町之本校合畢

慶長三年六月十九日於燈下令校合畢　吏部清原秀賢

寛永十一甲戌仲冬初以清家本令書寫遂一校了　大府侍郎中原職忠

萬治四年辛丑孟春仲三令一校畢　羽林中郎將藤原

右者清河村秀興先生藏本書寫校合者也

元本高橋家藏本

越智通邦印

明和四亥壬九月

明和七年庚寅五月十二日以京師本一校了

安永三年午九月四日一會了

忠英

文化十酉年四月十九日校了

撿挍保己一

文政三年六月以彰考館本比校了

〔許叔重〕日本國見在書目錄に「[illegible]」とあるもの一名なり。隋書經籍志に「[illegible]許慎注」とあり。

〔國造〕は大化改新以前の地方官にして、もと地方の豪族の大和朝廷に内屬したるものなり。神武天皇紀に[illegible]を國造とし、[illegible]を[illegible]國造としたることと見えたるは、國造のことの史に見ゆる始めなり。大化改新の際、國造を廢して郡司を置き、國造の族の性識清廉にして

令集解卷十七

選敍

郡司取性識清廉堪時務條以下、雜關令條以上。

郡司條

凡郡司。取性識清廉。 釋云。稟天以生曰性。識知明清也。亦曰。有廉隅。論語疏曰。性者所稟以生也。鄭玄注禮記曰。識知也。孔安國尚書注。性有廉隅也。野王案。廉猶潔也。跡云。識知也。古曰。性好多別善惡白黒。而清潔人也。 **堪時務者。爲大領少領。強幹聰敏** 釋云。強健也。幹強也。聰察也。敏疾也。書曰。強健。許叔重。淮南子注曰。幹強也。說文。聰察也。安國尚書注云。敏疾也。案。強當爲彊也。朱云。強幹謂於政事所稱也。身力不云也。 **工書計者。爲主政主帳。** 古記云。問。堪時務。與工書計。其別若爲。答。書算雖不多能。可堪時政者補任耳。 **其大領外從八位上。少領外從八位下敍之。** 跡云。假令。内七位任郡司者。即日改敍外位也。 **其大領少領才用同者** 穴云。大領少領才用同。謂德行才用共同也。 **先取國造。** 謂取見爲國造者。即神祇令。國造出馬一疋是也。古記云。先取國造。謂必可被給上條也。國造之人。所管國内不限本郡。非本郡任意補任。以外。雖國造氏不合。問。不在父祖所任之郡。若爲任意補任。答。國造者一國之内長。適任於國司。郡別給國造田。所以任意補充耳。問。國造才用劣者若爲處分。答。未定國造。依才能任他人。已定國造。若有所闕者。才能雖劣先用國造也。一云。不合。若才用劣者。猶在國造耳。問。國造敍法若爲。答。臨時處分耳。但與大領同位以上耳。跡云。國造謂見任國造人也。朱云。先取國造。謂國造與庶人。相望大領少領。先可取國造者。國造謂有

時務に堪へたる者を取りて郡司に任ぜり。それ以後地方官としての國造は廢絶したりしも、地方の豪族は尚この名を稱し、郡田の神事を掌れり。

〔國造田〕國造田の起源明かならざれど、田令集解、令釋引くところの民部例には、既に關國造田のこと見えたれば、奈良時代より存在せしを知るべし。國造に與へられたる田地にして、その租稅法上の性質は、郡司の職田に等しかりしなり。仁明天皇の承和元年十一月には、兵部省の請によりて國造田二十町の地稅を永く親王以下五位以上二十人の內射試習の資に充てしめたることあり。又延喜十四年八月には、諸國の國造田四百十一町五段を國別に注記したること見えたり。

〔弘仁二年二月廿日詔〕

國可有一人者。未知。常定成氏可有不。答。穴云。先取國造。謂非兼任。而解退國造任郡領也。問。國造本興如何。答。古昔。無國司而只有國造。治一國之中。郡別。任大少領耳。問。神祇令。國造出馬一疋者。未知。國造任郡領之後不出哉。答。不可出也。*弘仁二年二月七(廿)日詔。應變設教。爲政之要樞。商時制宜。濟民之本務。故有堯舜異道。而天下歸仁。湯武殊治。而蒼生欣賴。朕還淳返朴之風。未覃下土。興滅繼絶之思。常切中襟。夫郡領者。難波朝廷。始置其職。有勞之人。世序其官。逮于延曆年中。偏取才良。永廢譜第。〔令〕今省大納言正三位藤原朝臣園人奏云。有勞之胤。奕世相承。郡中百姓。長幼託心。臨事成務。實異他人。而偏取藝業。永絶譜第。用庸材之賤下。處門地之勞上。爲政則物情不從。聽訟則決斷無伏。於公難濟。於私多愁。望請。郡司之擬。先盡譜第。遂無其人後及藝業者。實得其理。宜依來奏。主者施行。*弘仁三年八月五日官符云。應任郡司事。右大納言正三位兼行皇太子傅民部卿勳五等藤原朝臣園人奏狀偁。夫量能授職。邦教所先。訓俗宣風。郡司是寄。故任當其器。則庶績咸康。委失其才。則政治自亂。加以譜第之事。既復舊例。奕世相繼。義在象(衆)(登)賢。是以國司簡定。銓擬言上。無賴之徒不預銓擬之例。或身在京。考(爭)第相申。抑退國選。遂奪其位。一民之心。未有推服。百里之任。何能可堪。臨事面墻。操刀傷錦。其之爲弊。古今一揆。望請。自今以後。銓擬郡司。一依國定。若選非其人。政績無驗。則署帳之官。咸解見任。永不敍用。以懲將來者。右大臣宣。奉勅。依奏。但主政主帳不在此限。弘仁五年三月廿九日官符云。應聽以同姓人補主政主帳事。右檢天平七年五月廿一(二)日格偁。終身之任。理可代遍。宜一郡不得併用同姓。如於他姓中。無人可用者。僅得用於少領以上。以外悉停。「任」但神郡國造。陸奧之近夷郡。多褹嶋郡等。聽依先例者。今被右大臣宣偁。奉勅。一郡之人同姓尤多。或身有勞效。或才堪時務。而被拘格旨。不蒙選擢。人之爲憂。莫甚於此。宜改斯例。依件令補。不得因此任譜第人。自今以後。永爲恒例。*天平神護二年四月廿八日勅。式部銓擬諸國郡司。課試多人。擁申補任。爲此之故。待日度年(季)非但勞民。亦妨諸務。朕每念此。意猶納隍。自今以後。宜革斯弊且試且任。隨終隨遣。然則官無滯政。人無

〔弘仁三年八月五日官符〕この格類聚三代格、卷七、郡司事及び日本後紀、卷廿二に見えたり。

〔天平神護二年四月廿八日勅〕この格、類聚三代格、卷七、郡司事に見えたれど、續紀この事なし。

〔天平神護三年五月廿一日勅〕この格、類聚三代格、卷七、郡司事に見えたり。

〔天應二年三月十八日勅〕[illegible]

〔寶龜六年四月廿二日勅〕[illegible]

〔天平十一年七月十五日官符〕[illegible]

〔延曆十四年五月九日官符〕[illegible]

〔慶雲三年格〕[illegible]二月十六日の格なり。

〔神龜五年三月廿六日〕續紀、[illegible]見えたり。

聽業。官下國司。永爲恒例。主者施行。天平神護三年五月廿一日勅。諸國郡司主政已下。初任之日。雖位一級。自今以後。永爲恒例。天應二年三月十八日勅。諸國郡司主帳已上。員外之職。遭喪解任。更莫復任。自今以後。永爲恒例。權任亦同。寶龜六年四月廿二日勅。服解郡司。理須復任。不可停前人擬他人。非被百姓訴。及受財枉法。如此之類。不得復任。其主政主帳。身才衰劣。意渉奸僞。縱非被百姓訴。及受財枉法。不得復任。天平十一年七月十五日官符云。右奉勅。諸國郡司。不善不得在終身之任。延曆十四年五月九日官符云。應以衛府舍人任主政主帳事。右被右大臣宣偁。奉勅。衛府舍人係望重級。令廢兵士。其曾已絕。若有巧於書計者。宜用主政主帳。

敍舍人史生條

凡敍舍人。朱云。舍人謂左右大舍人。并東中宮舍人也。史生。古記云。問。諸司史生無文若爲。答。分番一種略耳。兵衛。作部。使部。及帳內。資人。並以八考爲限。釋云。慶雲三年格。帳內以六考爲限。職分資人亦同。神龜五年三月廿六日格。位分資人內位資人。且八考爲限。外位資人以十考爲限。古記無別。朱云。帳內資人雖外考。位依文以八考爲限。八考中進一階。四考中。四考上進二階。八考上進三階敍。朱云。未知。此等色何不云相折法意答。

郡司軍團條

凡敍郡司軍團。皆以十考爲限。朱云。軍團者少毅以上也。十考中進一階。五考上。五考中進二階。十考上進三階敍。雖有上考下考者。准折並同八

格」この格類聚三代格に見えず。但しその事續紀、卷十、神龜五年三月甲子（廿八日）の條に見えたり。

〔國府〕國衙國廳といふに同じ。國の役所なり。

〔慶雲三年格〕慶雲三年二月十六日の格なり。

考例。其外散位者。分番上下。朱云。未知。何處可上下。答。*國府可上耳。外五位以上亦同也。穴云。外散位者。分番上下。其内位任里長後解替者。爲外散位。外位任防長解者。爲内分番耳。問。郡司五位致仕上何處耶。答。長上於國府注上日行事。申太政官。官量定等第耳。皆以十二考爲限。十二考中進一階。六考上。六考中進二階。十二考上進三階敍之。相折同郡司。其分番二考。長上八考。亦同十考例。朱云。外分番與外長上所云也。分番二考。謂經一考亦同也。若經三考以上者。並以十一考爲限。釋云。*慶雲三年格。選郡司軍團。皆以八考爲限。其外散位者以十考爲限。分番二考。長上六考。亦同八考之例。若經三考以上者。並以九考爲限。古記無別。跡云。三考以上。只據番上人入長上也。長上七考以下。以十一考爲限。朱云。若經三考以上者。以十一考爲限。謂若經十一者一考爲余考。

帳内資人條

凡帳内資人等。才堪文武貢人者。謂武人貢擧試條。幷敍法。不載令條。待式處分也。釋云。武擧人試條幷敍法。不見令條。待式處分也。古記云。才堪文武貢人者。未知。武擧人試條幷敍法若爲。答。武擧人考試法式。幷及第敍法。幷將出別式也。不限年之多少。謂依貢人條。凡貢人幷限年廿五以下。但帳内資人。縱年廿五以上聽貢擧。故云不限年之多少也。朱云。帳内資人等者。未知。等字意何。答。亦聽貢擧。朱云。聽貢擧者。未知。何人可擧。又不擧者科罪不。答。雖不擧无罪。何者文稱聽字故也。未知。何人可擧哉何。得第者於内位敍。謂若本位先高者。改爲内位。卽位記多者。改其最高。其及留省之第者。考滿之日。乃敍内位也。釋云。其位高於對策第者。改本位可敍内

［延暦四年格文］この格、類聚三代格及び續紀には見えず。

［擧賤包貴］これ誤りを疑はしきを示す類なし。

位。延暦四年格文也。跡云。無位人得第者敍內位。若本位高於第位者。即改其本位。但前位記雖不毀。而仍不合用。凡外位任內職事者。皆即改合授內位。穴云。得第者。於內位敍。問。本位外八位。可授初位者何。答。改八位授於內八位耳。又問。本位初位以上。今明經出身上下以下而可留省第者。量心至考滿日敍內位耳。問。改外八位敍內八位。未知。先外位毀哉以否。答。從獄令毀位記條論定耳。又問。自余諸雜任以上出身者也。亦得入內哉。答。擧賤包貴。明入內也。**不第者各還本主。**朱云。問。被貢人不第者。貢擧之人罪何。答。不可科罪者。然可案律。

本主亡條

凡帳內資人等。本主亡者。朞年之後。皆送式部。謂周忌之後月也。其考者主家校之。若本主犯罪除免者。不待朞年即追之也。釋云。朞年考者。主家考也。古記云。問。朞年之後。未知。其年考若爲處分。答。如常得考耳。跡云。朞年之後。謂遭服之年。猶仕其主宅。故仍合與宅考。若是人等。有位或无位。而本主犯罪被除免者。其令本主亡法資人等非犯罪人。又非緣坐之人故也。朱云。朞年之後。皆送式部。謂服了後年送耳。問。假元年十月本主亡者。二年十月服了。未知。二年考何處可得。若留省幷後更仕他主者。仕先主八九十月日通計。後仕所與二年考耳歟何。問。本主亡者。朞年間。帳內資人考何人可與定哉。答。尙主家可考定送。直注上日行事不可送。可案。凡稱帳內資人者。職分資人皆約不。答。皆約者。穴云。問。擧亡是一。未知。去職之日。職分資人何。答。稱資人者。職分位分幷同。若去職者。亦同此文也。朞年考。得於本主家也。私於〔云〕去職。不待朞年。爲服一年故也。上件解述令志。但於今放格耳。問。文學家令等。何處分。答。亦朞年之後解官。其服年得考。食祿如常。問。諸王諸臣職事之家令。本主死則是去職。未知。於此色有異哉。答。私案。於親王家令。朞年之後解官。上解訖。其於職事家令。不待朞年即解退。爲去職之後。不合有家令故也。其犯罪被[illegible]家資人等。臨時令勘也。**若任職事者。即改入內位。**謂隨任職事。即入內位。若任才伎長上者亦同。故上條云。伎

〔當免之人〕官當及び除名の處分を受けたる人なり。

術長上。竝同職事。其内位任外職事者。亦卽改敍外位也。文云。改入内位。卽須毀先位。猶當免之人*。後敍之位。與先位同階者。仍毀先位也。釋云。若任職事者。卽故人内位。入謂授也。改位記入内位。本位記不毀者非也。案。外位記不可更還。或説。資人本階外少初位。任於鷹司令史之類者非也。何者乖下文故。又稱職事。卽知才伎長上等。待考滿日。敍内位耳。但内位出郡司者。不改者非。案内位出郡司者。亦卽改可授外位。古記云。卽入内當位。謂改外位位記。授内位位記也。朱云。若任職事者。卽改入内位。謂高位位記。一授(枚)改也。皆悉不改也。然則六位犯罪被官當其間。其妻子犯罪者。不得贖也。爲七位位記。外位不改故也。未明。大難。此説。後度反了云。良雖持外位位記。尙如内位可贖也。内位出外位者。亦可放此義。何者一人身内外位共不可有故者。任職事。謂才伎長上等亦同者。未明。後反云。同雜色者如令釋也。穴云。問。内位出外位者何。答。具可放古私記云也。言卽給。但時行事殊耳。大夫云。先外位位記不進。**其雜色任用者。考滿之日。聽於内位敍。**朱云。未知。考滿之日。先本位皆改入内位不。答。古記云。其當色任用謂分番也。**若無位者。未滿六年。皆還本貫。**謂直云六年不言六考。卽知。不問考之得否。唯計年數也。釋云。六年謂不限考得不。皆留者。犯罪除免人資人。亦准身死留耳。古記云。未滿六考。謂滿六年之人。不論考得不。若留省也。一云。六年謂六考。縱經十年以上。不滿六考。皆還本貫。此云未盡也。穴云。文不云六考。徑稱六年。故不論考得不留省。又本主除免。其(資)人亦放此人。不還本。爲非緣坐故。但未滿六年者亦如上。已上。大夫云。但古私記兩説耳。朱云。滿六年者。未知。雖未足二百六十日。死年尙稱年不。又服年入六年之内不。答。可入也。又此文帳内資人幷兼文歟不。私案。見文下可云兼帳内也。抑聞正説耳何。答。然也。又犯罪人資人。准身死留者。未知。而未滿六年。此亦還本貫哉。答。然也。**若廻充帳内資人者。亦聽通計前勞。**謂未還之前。使相廻充者。若既還訖

〔帳内視事〕唐六典、卷二十九によれば、親王府には、親事府、帳内府あり、親事三百三十三人、帳内六百六十七人附屬せり。

〔謂以三百六十日爲一年〕名例律に「稱年者以三百六十日」と見えたり。

者。不在通計之限也。釋云。未還本貫之間。便充帳内資人。不限當家他人也。既還本色。不更追充。古記云。亦聽通計前勞〔謂〕謂未還本貫人。課役從本色。雖多年。更得成帳内資人者。前主考後主考通計。聽成選也。一云。未還本貫之間。便充帳内資人者。聽通計也。還本貫訖後。更求仕者非。何者本令。若廻充帳内視事。謂祖父帳内便充子孫是也。跡云。廻充。謂不限同家他人。廣充資人者皆是。但還本貫以後。更補資人。不計前勞。朱云。若廻充帳内資人者。亦聽通計前勞者。未知。已私求充賦、爲當官司自充賦。答。

以理解條

凡長上官以理解者。後任日聽通計前勞。謂其分番亦准此也。釋無別。穴云。後任謂任職事。其官人解上散位寮亦同。朱云。長上官以理解者。後任日聽通計前勞者。又上條云。考未滿以理解者。不在進限者。未知。其兩條意何。私上條所云各異也。案上條可知者。問。長上官者。未知。內舍人及才伎長上等同不。答。其考解。及犯罪解者。不用此例。雖以理解。而無故停私。過一年者。亦除前勞。釋云。停私過一年。謂以三百六十日爲一年。古記云。停私過一年以上。謂以三百六十日爲一年也。朱云。無故停私。過一年者亦除前勞、謂一位以下初位以上無別者、但職制律者在職不仕人爲解官。五位以上六位以下別者。問。无故停私者。未知。有故者。停年多少不論。通計前勞哉。先云。可然者。

帳内勞滿條

凡帳内勞滿應敍。跡云。資人不合聽。朱云。帳内者。未知。職分資人何。才堪理務。謂閑曉書筭。及知屬文。堪從政者是也。釋云、才堪理務。不至貢擧之科者非也。或釋云。不至貢擧之科資人不合。古記云。才堪理務。謂工書筭。並知法令。雖不至貢擧之科也。問。時務與理務若爲別。答。大而言一。細而言別。何者理務謂必須書筭也。時務謂

縱不便書計。臨時差遣公事勘濟也。朱云。堪理務何可知。答。**本主欲於內位敍者聽。**釋云。師說云。已敍內位者。不得還主家。古記云。欲於內位敍者聽。謂猶仕本主也。

官人至任條

凡官人至任。若無印文者。不得受代。謂此爲主典以上立文。其雜任亦准此也。釋云。此條官人。非唯長上何者。外國史生郡司軍團被任之日。必有印文。此是擧重包輕之義耳。今時行事。京官之中。武官有任文官無任文。古記云。問。若無印文者不得受代。有限以不。答。外國不限遠近貴賤。皆得印文。史生主政主帳等皆同耳。唯畿內不合。跡云。至謂任京官雜任以上皆是也。穴云。職制律貢擧*吏部格官人。有犯贓賄名教者。即與替。又條。內外官令與替者。勅到之日。即停理務。此格述令心歟以不。答。稱官人。京外官並同。番上亦有印文也。跡云。亦同。朱云。無印文者。不得受代。未知。何司可出印文。答。

官人年七十以上聽致仕條

凡官人。年七十以上。聽致仕。謂主典以上。即雜任亦准此也。釋云。白虎通曰。臣年七十懸車致仕。懸車示不用也。致仕致職於君也。禮記。以事代任。原意同耳。此條稱官人者。只爲長上生文。*凡令內聽字。用意不同。隨事設文。不要一例。何者獄令云。行刑之日。五位以上聽親故辭訣。又云。流人至配所。六載以後聽仕。此是任意之聽。又云。婦人在禁。臨產月者。責保聽出。又云。鞫獄官司。與被鞫人。有五等內親及讐嫌者。皆聽換。推此是制約之義若此之類。令內極多。偏執守文。所謂膠柱故。致仕之聽。明知任意耳。加以七十必令致仕者。以上二字寧非贅字。古記云。問。聽致仕任意以不。答。必令致仕。但身才強幹。堪時務者。臨時有不聽耳。分番。亦合致仕也。**五位以上上表。**謂郡司五位亦同也。釋云。上表行事。釋見

〔吏部格〕儀制令集解に唐の垂拱格を引けり。されば玆に引けるものは恐らく垂拱の吏部格なるべし。

〔凡令內聽字用意不同隨事設文不要一例〕令條に用ひたる聽なる字に「何々スルコト得」なる意味と「何々スルコトヲ要ス」なる意味との二ありて、その用例一ならず。場合によ

りて何れかを判斷すべしとなり。

〔六位以下申牒省奏聞有限以不〕古令に於いては、申牒省とありて、式部省に申牒せしを新令に至りて太政官に申牒することゝなしたるなり。

〔宿衞違假條〕衞禁律に「凡宿衞人應上番不到、及因假而違者、一日笞卅、三日加一等、過杖一百、五日加一等、罪止徒二年」とあ

職員令。古記云。問。外五位郡司若爲上長。答。上國上官。亦任意耳。但先申國耳。朱云。五位以上上長者。未知。動位相准不。又行等不論。依本位何也。**六位以下申牒官奏聞。**謂此爲奏任立文。卽判任以下者。官省處分。其外官者。申牒國。國卽依牒狀申官也。釋云。奏任以上者奏聞。判任者官處分。雜任各本司處分。告省知耳。今行事先申本司。本司申省。省申官。官奏聞。養老四年官處分。郡司少領以上。病患并年老及致仕等。國司解任申送者。別取手書并狀。申上之。古記云。問。*六位以下。申牒省奏聞有限以不。答。判任以上皆自申省。卽申太政官。奏任以上者奏聞。判任官處分。以外雜任。各本司處分。告省知。國郡亦同。

職事官患解條

凡職事官。患經百廿日。謂並計假日。滿百廿日。卽取考日之半。依唐令。百日爲限。亦取考日半。若其所患既在殘疾以上。不可更出仕。量狀解官。不待百廿日也。釋云。每月六假及下番日。不在計限。或說唐令云。百日不愈。此令云。百廿日不愈。還計百日之內。六假數適廿日。故知所加廿日。正爲每月六假。故假日不在〔令〕除限者。其理不安。何者於長上而計假日者。番上人亦可計假日。今計百廿日內。長上假廿日。番上假六十日。此其理不平。故依律。計見上日。可爲百廿日。今檢律條。此間律輕唐律。故令亦加日數耳。案律。總計月別六假科罪。然則是亦無相違耳〔其〕於分番者。無有假日者。是法所立也。更無可計之。所以律條亦除下番日。衞士防人等。亦有下番。非是假日。又於官人有假日。於不官仕人。不可有假日。是以案。計六假。滿百廿日。得其理也。古記云。患經百廿日。謂每月假日并計滿數也。穴云。患。謂長延病是。其一切成殘疾以上者。量狀解官。不得百廿日。但雖殘疾。堪任用者亦量高耳。百廿日。並計加每月假日。若違假之徒。亦計每月五日假日科耳。但宿衞違假條而可定。未究後定。不合計假日。何者依律。上番宿衞違假不上。只計見上番內。不計下番日故。不依此說。下國守患而百廿日內何行事。答。日得行也。若日以上共患者。臨時量狀耳。但於親患。且行且

るものを指す。下に「依律」と云へるもの亦之なり。

〔律養父母與親同者〕名例律に「其嫡繼慈母若養者與レ親同。」とあるに據れるなり。

〔簡云〕後に法例の中に引かれたり。唐の法律家なるべし。

〔爲無侍委親之官生文〕名例律に「凡祖父母父母。老疾無レ侍。委レ親之レ官。（中略）免所居官。」とあり、又職制律に「凡祖父母父母。老疾無レ侍。委レ親之レ官。即

看（省）病耳。**及緣親患。假滿二百日。**謂親者父母養父母亦同。其嫡孫承重者。亦在（依）此限也。釋云。緣親病。假滿二百日。一度二百日。親謂父母及嫡孫承祖父。幷養父母等是。然祖父母以下不必給二百「日」假也若。跡云。一百日。謂一度二百日也。親。謂父母「嫡母」嫡孫承重。然祖父母以下。不必合給二百日假也。穴云。親。謂父母如官人父母病患危篤之條案耳。其祖父母承重者。不合滿二百日。讃云。祖父母同。問。養父母同。問。養父母患者何。答。律*養父母與親同者。若委之任者。科同親母。然此條亦同。又本生父母患假滿二百日者亦解官。爲遭喪時解官故。私案。不勞侍本生父母也。**及父母合侍者。**謂此據在京官。故唯擧父母。不言祖父母。其律爲在外立法。故兼擧祖父母也。釋云。說文。侍承也。假有官人父母合侍。仍雖解職。別給侍人。何者所解官人。本非課色故。問。父母合侍者竝解官。又名例律。祖父母父母合侍。委親之官免所居官。請其分折。答。律制外任故。稱但父母父母也。令制在京諸司。故云父母也。其祖父母者。在京諸司帶官侍養耳。若子有數人者。侍人之外猶皆解官也。古記云。問。父母合侍者竝解官。又名例律。祖父母父母合侍。委親之官免所居官若爲分折。答。律之外任制。故稱祖父母父母也。令在京諸司制。故云父母也。其祖父母者。帶官侍養耳。跡云。官解充侍人。爲不課色故。更副丁者非也。問。孫任官。合侍祖父母解官。答。京官帶官合侍。但往外任者解合侍也。穴云。官人年六十以上解官侍以不。答。案之。*簡云。徒年六十以上不充侍。取外侍之任。尙爲委親者。以此案之。爲解官必也。或云。取外侍之任。只科違令。此說亦合解官矣。更案。簡云。*爲無侍委親之官生文。故不論老疾。尙免所居官。其取外侍委親之任者。可異論。何者依令。應侍者解官。唐令（答）。更不充侍人者。即知六十五已下充侍之任。不能取外侍者。理當違令。其六十六不任侍人。必可取外侍。推之。此文稱解官。據見堪侍。故不更取侍人。其子孫明六十六以上。必可取外侍者。理不合解官。故無科責委祖之任者。依簡云。合律心。此條合侍者。令爲京生文。其之外國者。依律。祖父母通曾高。竝解官可侍。問。任畿內者。於祖父母亦解哉以不。答。案公式令云。官

委附三年状一。以求二人侍一
仗一百。云々とあり。

〔名例律云才用灼然要籍驅使合帶官侍者不拘此律〕これ名例律「凡祖父母父母老疾無侍、委レ親レ之官」條の疏なり。

〔大夫云〕五位以上に昇れるさる明法家の說なり。「職田令集解」に大夫、興原敏久を興大夫と呼ぶ例あり。

人之任一。不得以子孫年廿以上隨身一。畿內任官不在此限者。以是案。將之任所帶官侍耳。不科違令一。若委之
者。依律免所居官耳。私云。問。外國人任京官。父母在外所者何。答。委之京者。亦免所居官。將之者。於父
母一科違此令一。於祖父母等一依違戶令科也。又問。
老疾人云。不解彼官人欲取同家中男者可何。答。**並解官。其應侍人。才用灼然。要籍驅使**
者。令帶官侍。穴云。要籍驅使。謂必籍才用而驅使也。私又問。帶官侍。若帶京官。爲當京官外何有別
哉。答。名例律云。才用灼然。要籍驅使。令帶官侍者。不均此律。彼條論之外任。明知。之
京任者亦有
帶官侍耳。**皆具狀申太政官奏聞。**釋云。與致仕條同也。古記云。皆具狀申太政官奏聞。謂
放致仕條耳。問。五位以上若爲處分。答。一種不限貴賤
也。穴云。問。主政主帳家令皆奏聞以不。答。致仕條。古私記云。奏任以上奏聞。判任色官任判解者。此
得敎（政）依習耳。私云。大夫云。致仕條亦如。朱云。職事官者。未知。內舍人幷才伎長上。及內外諸司皆
同不。又部司主帳以上同不。若依令釋與
致仕上同者。然則判任色者。官處分何。**其番官者本司判解。**謂患經百卅日。若緣親患假
滿二百日。及父母合侍等。皆
本司判解。而後除者補任也。釋云。患經百卅日。緣親患假滿二百日。及父母合侍。皆本司判解後申省耳。
或說。番上無患解之文者非也。何者稱其字者。承上事故。古記云。問。本司判解。申所管省不。答。解後
告知耳。跡云。番官。本司判解。謂身患幷親患。及合侍等。皆本司判解。即習職事官。令申式部也。穴云。
大夫云。番官本司判解。謂爲侍立文。但患解者。雖滿百廿日。而不解也。此云可覆。不可即後（復）。後云。猶可覆。
番官。依文。本司判解。依上條義。言**並下本屬。**古記云。並下本屬。謂番官以上。式部兵部具錄。
上檢。於元之「補」解已之名耳也。移民部。即課役應徵放狀。色別具記。下符本貫也。
跡云。下本屬。謂付民部。令下本屬。若過百廿日以後。未申上之間。患損來者。仍申上聽裁耳。穴云。並
下本屬。其上條解官之類。皆放此下耳。私後可取捨也。但於不課不下用之。公式令任授條見。問。跡云。

付民部令下。未知所歸。答。爲總戶貫及錮免司。故云爾。或爲可徵課役故。朱云。下本屬者。長上番上竝同。或說。八位以上者。式部副解狀下符本屬也。全免之人故。民部更不煩者。先大疑未決如何。**應解者。申後卽不得理事。**朱云。未知。此只爲職事官歟。若番上皆約不。答 **其以才伎長上諸司者。若充侍遭喪患解者。侍終服滿。及患損之日。還令上本司。**謂復任本官。若本任無闕者。分番上下也。釋云。還令上本司。謂才伎長上也。假有雖補其代。猶還上耳。余色者。散位若外散位。竝任意聽仕耳。或云。番上者。還上本司耳。跡云。長上還令上本司。謂若本司有闕者。令上本司耳。無闕者不得耳。又番上人。還令上本司者亦非也。朱云。以才伎長上諸司者。未知。別物長上何。穴云。文擧才伎長上。其別物長上。不在此例也。還令上本司。謂不論本所闕不之狀。還上。但本所不闕者。爲番上耳。案本令知耳。本令云。令本司有闕者。依選式比校者。依選式比校。*謂依銓擬條。比校德行。同取才用高。才用同取勞效多是。 **應充侍者。先盡兼丁。**釋云。此亦云才伎長上耳。古記云。問。先盡兼丁。有限以不。答。文本例獨依才伎長上稱耳。但職事令盡兼丁分番不合。若欲侍者。職事官人職之。才伎長上不聽也。跡云。盡兼丁。謂止據才伎人。同戶內有兼丁。自餘雖有兼丁請合解官。穴云。私云。盡兼丁者。未知。此文才用灼然人。亦有盡兼丁哉。答不合也。下文。只爲才伎長上生文耳。 **兼丁謂中男以上。**穴云。先盡兼丁。問。戶令云。先盡子孫者。未知。中男謂親疎殊哉。答。不論親疎取。戶令。同家中男之不論親疎故也。朱云。問。依戶令幷名例律犯死罪八虐條。竝以正丁可充侍丁。而何此條以中男可充侍丁乎。於才伎人。殊所充歟。未知。其志何。

癲狂酗酒條

凡經癲狂酗酒。謂酗酒者以酒爲凶也。經者。言昔有此事。今則無之。若今見爲者。灼然不可任用也。釋云。癲狂之釋。具於戶「令」。則葛*氏方云。凡癲疾發。則仆地吐涎沫

〔謂依銓擬條 比校德行同取才用高才用同取勞效多是〕これ唐の永徽選敍令の銓擬條を引けるものならむ。唐六典、卷二、吏部尙書侍郎の條に「一曰德行。二曰才用。三曰勞効。德鈞以ㇾ才。才鈞以二勞效一。其優者擢而升ㇾ之。」とあると比較すべし。六典の文唐令の意を取りて文を取らざるを見るべし。

〔葛氏方〕戶令、目盲條に引けり。日本國見在書目錄に「葛氏時後方十。葛氏百方九。」等とあるもの之ならむ。

「甲乙子奏云」戸令目盲條に「甲乙子奏云」とあるもの之なるべし。故に參考の爲めに掲ぐ。[illegible]日本國見在書目録に「黄帝甲乙經十二」(黄帝甲乙經十二卷)「甲乙注四」等とあるものの類なるべし。

[illegible]

無知也。狂發則欲走。或自高稱賢聖也。尚書。酗于酒德。孔安國云。以酒爲凶。謂之酗。音許具反。已上諸書皆發今止。故稱經字也。除侍衞官之外得任用。或釋云。倒仆爲癲。音徒賢反。忘觸爲狂。音渠王反。餘同上釋。古記云。癲狂。師古云。癲者時々倒仆。失常心也。又一曰。狂之與癲同也。野王案。狂者狂而觸人也。又。名云。狂者。常狂惑而無止時也。故狂與癲異也。*甲乙子奏云。癲疾得之。在母腹中時、其母有所驚。氣上而不下。精氣並居。故令子發爲癲疾。又云。狂者始發少臥不飢。自高自賢。辨知自貴倨善罵詈。日夜不休。多爲狂病。狂發則妄行走也。葛氏方云。凡癲疾發。則仆地吐涎沫。無知。又云。凡狂發則欲走。或自高稱賢聖也。華他(陀)云。十歲以上爲癲。十歲以下爲癇也。問。經癲狂人。除侍衞之官以外。得任官以不。答。得任用。問。依戸令。癲狂爲篤疾。未知。篤疾之人若爲任官。答。此條癲狂者。昔發今止。故文稱經字也。戸令癲狂者。自幼時發。至長不息。不合任用。故云爲篤疾。問。殘疾以上篤疾以下任官以不。答。篤疾不合。癈疾以下合任。不任在。何者侏儒此癈疾。齊晏子。等芙連等之類合用。一目盲。手無二指。足無三指。手足無大指。禿瘡無髮。久漏。下重。大癭瘇。此殘疾合任用。但兩耳聾。一色不合任用。酗酒。尚書。酗于酒德。孔安國云。以酒爲凶。謂之酗。音許具反。穴云。問。酗酒與荒耽有別哉。答。荒耽。常好酒不任器用。但酗酒雖任器用之。若有飲酒時怒。是故只不任侍衞。得任餘官者也。

及父祖子孫　謂此祖孫者。不及曾高曾玄也。古記云。父祖被戮。謂因犯判斷。處死皆是也。跡云。侍等被戮。事准此也。

被戮者。　釋云。賈逵注國語曰。戮。殺也。音力竹反。

皆不得任侍衞之官。　謂侍從以上。及內舍人。中務判官以上。內記幷兵衞之類。其案雜令。禁內駈使亦不可配也。釋云。侍謂近侍也。侍從以上。內舍人。中務判官以上內記等也。衞謂衞府之官也。兵衞等類。亦不可任。一云。案雜令。犯罪被戮。其父子應配役。不得配禁內供奉及東宮所駈使者、然則諸雜色者。依雜令禁耳。古記云。侍衞之官謂侍從。以上及內舍人謂之侍。五府志以上謂之衞。問。侍從以上具分折。答。中務判官以上。太政官少納言以上也。問。內記

〔問宮衛令云 宿衛及近侍人二等以上親犯死罪被推劾者牒本司本府勿聽入內者未知兩條何會作答此條先在永徽令今於開元省除故兩條難會〕問ふ。本條には、父祖子孫戮せられし者は、侍衛の官に任ぜらるるを得ずとあるも、宮衛令には、宿衛及び近侍の人の二等以上の親死罪を犯して推劾せらるれば入內するを聽さずと云へり。二等以上の親死罪を犯して推劾を被るだに入內を聽されずとせば、死罪を犯して戮せられたる者の子孫が侍衛の官に任ぜられざるは勿論の事ならずや、然らばこの選敍令の條文は不用ならずやと。答ふ。然り本條ば如何にも不用の冗文なり。その文ある所以は、我が令の藍本となれる永徽選敍令にこれに相當する條文あれば、之に倣へるなり。然

若。答。依文不入。但量心不合任。如此之類至多。不可具述。臨時斟酌耳。大例。帶兵之色制耳。問。兵衛衛士。衛門々部若爲。答。此亦斟酌耳。但依文不障耳。一云。案雜令。凡犯罪被戮。其父子應配役。不得配禁內供奉及東宮所駈使也。諸雜色類。依此條制耳。穴云。問。*宮衛令云。宿衛及近侍人二等以上親。犯死罪被推劾者。牒本司本府。勿聽入內者。未知。兩條何會作。答。此條先在永徽令。今於開元令省除。故兩「條」難會。但依宮衛令。推劾之間舉此輕明。已被戮者。又不得任供奉諸司。雖任餘官。不聽入宮內。一依彼令耳。又雜令云。犯罪被戮。父子應配役者。不得充禁內供奉及東宮所駈使者。以是案。亦不得充東宮侍臣耳。問。女官何。答。不見文。應臨時量也。跡云。內侍以下人親被戮。亦放此耳。又依雜令。被配役人。不得充禁內供奉者。故此條人。亦不合用兵衛典膳侍醫之類。又依宮衛令。二等以上親被戮者。不得任侍衛官。何者被推劾是輕。尚不得入內故也。

朱云。問。此條并宮衛令雜令其別何。答。

散位身才條

凡散位。身才劣弱。不堪理務者。式部判補諸司使部。謂其出仕之道。進漸爲榮。若先任職事者。不可復更補使部伴部也。釋云。師說云。先任職事者。不補使部。何者*官仕之道。以進爲宗。故六位以下子等。在散位者爲使部。五位以上子孫。亦不合充爲散位。案軍防令可知也。古記云。身才劣弱補使部也。案軍防令。六位以下八位以上之嫡子黃狀簡試。分爲三等。上等爲大舍人。中等爲兵衛。下等爲使部。五位以上子孫爲內舍人及東宮舍人。未知。先被簡試。既任官。并充雜色訖。至成選年。身才劣弱。若爲處分。答。分番之色合補使部。職事之徒不合。一云。職事分番一種無別也。跡云。六位以下子等。在散位者爲使部。五位子等爲散位。又無位主典以上者。不合補使部。穴云。補伴部亦聽也

失位記條

凡失位記者。於所在陳牒。釋云。如言陳牒於所在也。假有郡領被任歸鄉。在路失落位記者。卽陳牒於失所國郡索取。又錄失狀。申本國司。從被申省

れど永徽の開元令は亡れ且つ唐令の元なりとして[illegible]。故に本條と宮衛令の條文とは兩立し難きなりと云へるなり。これ實に我が令が唐の開元令に據らずして、永徽令に據りし證かたる證據なり。永徽令は、高宗の永徽二年に、太尉長孫無忌、開府儀同三司李勣、尚書左僕射于志寧等が律格式と倶に撰上したるものにして、三十卷より成れり。唐律疏議その他に逸文を存するのみにして、今傳らず。

〔[illegible]〕明、[illegible]、正、直、勤、務、追、進、[illegible]大寶令の[illegible]當時の位階の稱目なることを之によりて明かなりと云ふべし。

[illegible]

耳。古記云。所在陳牒。謂申牒所在官司。假令。行道之人。道路之間。失落位記。申牒當所官司。即當處知者。具狀便付失人。移送本屬本司也。穴云。問。於宮城内道失者。以何稱所在。答。以便近司稱耳。其於大學内道失者。以大學稱所在之類也。

本屬本司　釋云。本屬者所貫也。穴云。稱本屬者。外散位部司等是。自餘皆牒本司。若本司與本屬一。隨便近陳牒聽耳。

長官。推其失由。具狀申省。勘授案申官更給。　謂勅授奏授判授。亦各如初授時也。釋云。勅授奏授判授。皆如初授時處分。古記無別。跡云。若五位以上合奏給。穴云。更給之日。依下牒(狀)奏聞及判授耳。朱云。位記錯〔誤脫カ〕條云。五位以上奏聞者。故此條亦奏者。未知。奏則如初勅授不。答。如初授時處分。後反云。六位以下皆同也。與下條異者。私未明。何。

具注失落重給之狀。　謂令授位記及授案。並皆注重給之狀也。謂正位記并案。并合注重給之狀。穴云。問。重給之時以年號。答。寫先位案。重給狀處注當時年月日耳。可注位記年故。朱云。重給日月注不。或云日月可注者何。然若可注者。位記授案並注附不。

位記錯誤條

凡位記錯誤。　穴云。問。若年號及人號等誤者。依官文書條哉。

須改授者。五位以上奏聞。　跡云。五位注六位。六位注五位之類。亦合奏。朱云。五位以上奏聞者。未知。官失誤不。答。問勳六等。准五位奏不。答。

六位以下判改。　謂奏授以下。皆得判改也。釋云。奏授以下皆得判改也。勳位亦同。但位高下相當者。依官位令耳。或說。勳位十二等以上。皆此勅授。軍防令。勳賞高下聽判故者非。古記云。六位判改。謂奏授以下皆得判改也。問。勳位若爲。答。一種无別。但位高下相當者。依官位令文耳。一云。勳十二等以上。皆此勅授。家軍防令。勳賞高下隨時聽判故。

並注授案。　跡云。注授案謂正注於授案。

伎、當國、主師、本屬、官軍賊衆多少、彼此傷殺之數、及護賊、軍資器械一、并二戰時日月、戰處一、并畫二陣別戰圖一、仍於二圖上一、具注二副將軍以上姓名一、附簿、申二送太政官一。勳賞高下、臨時聽レ勅。」とあるに據りて、勳十二等以上すべて勅授なりとする說は非なりと云へるなり、

〔令行事准史生之例〕類聚三代格、卷五、加減諸國官員并廢置事の條に、大和の國の解によりて、四國の史生二人を省いて博士醫師各一人を置くべき事を令せる弘仁十二年十二月二日の官符、及び太宰府の解によりて對馬の史生を停めて博士一人を置くべき事を令せる弘化十二年三月二日の官符見えたり。國博士國醫師も史生に准ずる今の行事とは、これ等の例を云へるなるべし。

國博士條

凡國博士醫師者。並於部內取用。謂國司簡擇才術之可用者。申太政官。即式部制補也。跡云。取用謂在國散位庶人。取可堪人而申上耳。不必及第人。朱云。部內取用者。未知。何司可補任。答。穴云。問。取用之法何。答。史生式部制補。然申式部。式部試判補耳。但試法可別。豈及第敍內位而外考乎。或云。問。試法可別。豈及第哉。未知。何令學生及第哉。答。國郡司有解經義者。進考者。案之知耳。在穴記。若無者。得於傍國通取。釋云。傍國非當國者。皆爲傍國。若傍國允者。取京人充。式部例。從朝廷補任者。考限敍法皆同內分番也。古記云。傍國謂非當國者。皆爲傍國。若傍國允者。取京人充也。問。長門國得於津國取不。答。得。但今行事。從朝廷補任耳。考限敍法。及准折。並同郡司。謂以十考爲限。十考中進一階之類。但本非職事。故以百冊日爲考也。古記云。注考限敍法及准折。並同主政等。謂當贖之法。及行立次第之類。但下考者不解任也。問。公廨職田准主政等不。答。不合。將有別式也。*令行事准史生之例。穴云。問。主政主帳判任。何故考限同郡司。補任同史生。田令(答)隨文習耳。令釋云。職田同主政者。依古令考限敍法同主政之文。檢令不給職田也。朱云。考限敍法及准折。並同郡司者。未知。考課令。郡司立四考第。國博士立三等考第。又於考日數何。答。補任之後。並無故不得輒解。謂充侍。遭喪。患假滿限。及犯官當之類。此外不合也。釋云。故。謂充侍。服解。病患滿日。犯官當以上。皆合解任。以外不合也。一云。病患日滿者。不可解也。國博士醫師取當國者。同主政。取傍國者。合免課役也。古記云。並無故。謂充侍。服解。病患滿日。犯官當以上。皆合解任。以外不合也。

內外文武官有闕條

凡內外文武官有闕者。隨闕即補。不得總替。釋云。有闕者隨闕者。凡秩滿者。以六考爲限。今是不得秩滿。隨

〔内典〕佛教の經典を内典と云ひ、それ以外の典籍を外典と云ふ。日本國見在書目錄に外典目錄の表書あるは、即ちこの意なり。

〔楚辭〕漢の劉向が戰國の屈原等の辭賦を集めたるものにして、一に離騷經の名あり。六朝の間之が注を作れる者多し。日本國見在書目錄には、王逸、釋智騫等の諸注見えたり。

闕且補。故云不得攝替也。古記云。問。隨闕即補。不得攝替。上條長上官遷代。皆以六考爲限。若爲分析。答。有闕者隨闕即補。不待六年。秩滿者以六考爲限。不待有闕。故云不得攝替也。問。假令。百官之人、一時秩滿。散位才職皆悉相當得攝替不。答。得無障也。穴云。有闕謂死及解免也。非云六考爲限遷代也。不得總替。謂子細云耳。私案。假以甲司正佑令史。一度遷任乙司之類。此條所制之也。

秀才進士條

凡秀才。取博學高才者。謂博學者。博涉羣籍。學其大體。即通與博學。文義稍異(殊)也。跡云。取。謂考課令秀才以下被試之人等可試。此條云色。朱云。秀才取博學高才者。未知。諸史百家及内典皆可通不。答。明經。取學通二經以上者。進士。取明閑時務。並讀文選爾雅者。朱云。文選爾雅者。音訓並可通不。答。明法。取通達律令者。皆須方正清脩。謂方亦正也。脩脩整也。釋云。方正清脩。方甫芒反。左氏傳。官脩其方。杜預曰。方法術也。方正也。正音之盛反。左氏傳。正直爲正。正曲爲直。杜預曰。正己心也。楚辭。指蒼天以爲正。王逸曰。正平也。清且盈反。清者潔徹無瑕穢也。脩似州反。論語曰。脩々次序皃也。脩自也從也。方正清脩。猶正清也。或釋云。猶脩ヵ宜也。方則也。始也。義也。且也。餘與上釋無別他。朱云。昔於書生不求方正清脩不何(可)若。答。名行相副。穴云。名行如名實。

秀才出身條

凡秀才出身。上上第正八位上。上中正八位下。穴云。此條。具如古私記。問。秀才講說不長。何故敍位。於明經例寛由。答。不寛也。假。明經通七經者。合敍正七位上故。但雖講說不長。文章博高故號秀才也。明經。上上第正八位下。上中

〔天平廿一年六月八日太政官奏〕この格、類聚三代格に見えず。但し弘仁格抄、卷二、式部上にその目見えたり。

從八位上。

古記云。問。敍法之外。得第人等。若爲處分。答。留省。待考滿敍耳。朱云。秀才明經上下中上無敍法。只留省耳。見考課令終條云。其大學擧人具狀申太政官。與諸國貢人同試。試訖得第者。奏聞留式部。義解云。秀才明經得上上上中者。各有敍法。其上下中上不在敍位之例。唯留式部待選乃敍也。＊天平廿一年六月八日太政官奏。〔按天平廿一年四月改元曰天平感寶。六月格稱天平可疑。下文云。去延曆十三年云々。據此則彷作延曆。而誤貫合爲天平如何。〕秀才明經更開敍法。并加減明法學生貢事。秀才上上第。元敍正八位上。上中第元敍正八位下。已上依舊不改。上下第元留省不敍。今定大初位上。明經上上第。元敍正八位下。上中第元敍從八位上。已上依舊不改。上下第元留省不敍。今定大初位下。中上第元留省不敍。今定少初位上。右得式部省解偁。大學寮解偁。文章博士從五位下賀陽朝臣豐㳺。助教正七位上越知直祖繼等牒偁。謹案考課令課試。秀才明經并以四考爲限。案選敍令云。二色出身。敍法同以二等爲例。得第敍法具如件。今檢法意。上下中上二等之第。白丁僅得留省。有位曾無所進。因茲赴學之流。无意果業。苟規容身。競爲東西。竊尋其由。良有以也。唐國則音訓自合文字。言語常譜故事。然猶古來善作。其數无幾。才美之難。往哲所歎。此俗則辭義將字相乖。翻譯觸事易忘。是故建法以降。殆向百歲。二色出身。未及數十。因此論之。難易自明。今以難及之科。抑難進之士。恐後生解體。此道廢絕。謹案唐開元令。秀才明經兩色出身。並「立」四等敍法。就中。秀才上下第正九「品」上。中上第正九品下。明經上下第正九品下。中上第從九品上。望請。准據唐令。更開敍法。以勸後進者。省依解狀。謹請官裁者。今檢省解。實合事宜。但令條上上上中二等敍法。重於唐令。推尋其皆(旨)。事在勸勵。伏望。上上上中二等敍法。依舊不改。上下中上二等之法。一依唐令。其入色之輩。乃用此法。若白丁者。降一階敍。有位之人。於本位上。計本第階更加敍之。一依去延曆十三年十月十一日格。以前推賢擇官。往哲弘規。任能責成。先生茂範。從以高懸。靑紫旌時惟降。世之英髦卓絕蓋斯令乃寶(貴)擢宏才。尙以二等之第。勤(勸カ)課律學。只置一十之貫。自非拔萃誰應高擧。豈被擢進。豈須牽攸(枝)。今式部「有麗カ」欲開求賢之路。敦崇學之規。遂有來請。足爲獎勸。伏望。開條立例。取才擧能。庶得家餘儒吏之風。國多

身才之伝。三詳錄状、伏聽天裁。副以申國副之間。

進士。甲第從八位下。乙第及明法甲第大初位上。乙第大初位下。其明經秀才得上中以上。有蔭及孝悌被表顯者。加本蔭本第一階敍。謂孝悌者。善父母謂之孝。善兄謂之悌。令被表顯。獨是孝行。不及於悌。但舉成文。以稱孝悌也。表顯者。依賦役令。表其門閭是。若一人兼有蔭及孝悌者。亦不可累加二階。其本蔭先已敍之者。不得更敍同階以下也。釋云。加本蔭本第一階敍。假如有從四位嫡子。本蔭從七位上。對秀才策得上上第。當正八位上者。敍正七位下之類。是謂加本蔭一階。亦有從五位嫡子。本蔭從八位上。明經出身得上上第。當正八位下者。敍正八位上之類。是謂加本第一階。若更有孝悌被表顯者。各又加一階。敍正七位上從七位下之類。若本蔭前已敍之者。在後不得更同階以下敍。其蔭上者。既已加之。止從一高敍耳。或說。若兼有蔭及孝悌者。不在加一階之例者非。但直以蔭出身者。雖有孝悌。不在加階之例。或案或本蔭或本第。當一高者。孝悌分加一階。是爲長。或云。加二階者爲劣。何者加者依孝悌所加也。若本蔭與本第其等者。本第上不可加蔭分階故也。和銅八年四月八日太政官處分。選人元有官位。據本敍位者。還日通計前勞。但无位據本用。始被敍位者。成選之日。不在通計前勞之限。但別勅授位者。總計前勞。寶龜二年閏三月十五日勅。自今之後。有位見試以及第者。同階以上重一資敍之。延曆十四年勅云。古記云。其秀才明經有蔭。若蔭高者加蔭。若第高者加第。但孝悌者加第。若兼有蔭及孝悌者。不在加二階之例。直以蔭出身者。雖有孝悌。不在加一階之例。問。孝悌若爲別答。孝悌謂孝子順孫也。其義未不合也。跡云。凡出身人。本位高而第位合下。或等者試。但考狀上作耳。但假令。依五位蔭。敍正八位下。此後得明經第。其父亦得四位者。不待至考滿。唯依四位蔭。更加經分一等合敍。或依五位蔭。授八位訖。是後父得四位以上者。考滿之日。令給其高官蔭位。何者五位子孫除名

〔寶龜二年閏三月十五日勅〕この格、類聚三代格に見えず。
〔延曆十四年勅〕この格詳かならず。

〔額說依古令情〕額田今足の說は、大寶令の條文に據りて立てたる說にして、養老令の解釋としては當らずと云へるなり。

〔延暦十三年十月十一日官符〕この格、類聚三代格に見えず。

以後。其父得三位蔭合敍。今犯罪人。尙重被一蔭。無罪之人。重不合得乎。自餘具如令釋解。但一位嫡子。秀才明經幷孝悌被表顯者。不定階而直奏聞耳。孝悌猶孝也。朱云。第位與蔭位高下等者。何上可加孝悌分一等哉。若此時第位蔭位无別何。問。第位與蔭位等。雖无孝悌。尙必加一階哉何。問。孝悌者一歟一歟。凡得上中以上。有蔭及孝悌者。未知。同時於可得所稱歟。若有先後者。一高敍不。又敍位之後。孝悌被表顯。或先〔後〕被表顯。後敍位何。又何時可稱被表顯。答。又傳聞。額說蔭位高第位下者。蔭位上加第分。*又孝悌分也。第位高者。更不可加蔭分也。但加孝悌分耳者。然何。又順孫義夫等。不加階。傳聞。額說依古令情。順孫亦可入此條。又國守條此可入者。未明何。穴云。有蔭及孝悌被表顯。謂一度行事也。若一度(々)敍位後者非也。徑從一高敍位。而但加孝悌分耳。問。得上中以上人。有蔭兼孝悌被表顯者何。答。尙本蔭本第一高上加一階。不依令釋。得明經上中人。或有蔭無孝悌。或有孝悌無蔭。但有二者加階是也。今師云。得上中以上。有蔭。兼孝悌顯者。依令釋加二階之說。中云。同令釋兩說。讃云。亦加一階。他才人有蔭及孝悌。只依高蔭。更不加孝悌等新(料)階。穴問。有蔭之人。兼被孝悌表顯何。答。私案。此文爲得明經上中以上人生文。自余如此等非也。師云。第位先敍了後有蔭。又孝悌表者。蔭分孝分共不加。或蔭位先敍了後得第。又孝悌表者。加孝分一階。不加蔭分。何者有悌雖无蔭加孝分有蔭无弟者。雖有孝而不加之故。少不平。可求。問。孝悌何。答。如云孝也。其順孫及義夫。亦被表顯者。加階。表顯。謂賦役令表鄕閭是也。又問。考滿之日。依上條。更稱高行加哉。答。不合也。師云。可擢加耳。正六位上。得秀才明經上中以上。孝悌被表顯者。可加階狀奏聞而待勅處分耳。私案。但秀才明經上下以不及進士。明法等之類出身日。雖有表顯。不加階者。考滿之日。依上條高行有擢加耳。讃云。明經上上第正八位上。本蔭位八位。雖本蔭已卑。加蔭分一階如文也。*延暦十三年十月十一日官符云。應出身得第。本位上加本第敍事。右被右大臣宣偁。奉勅。選敍令云。秀才明經得上中以上。有蔭及孝悌被表顯者。加本位本第一階敍者。除此之外。至有位人本位本第有相當者。更不加敍。據理論之。事乖勸誘。自今以後。出身得第之徒。先〔明〕有本位者。於本位上。計本第階。更加敍之。使後進罷有所希求。自餘依令。以爲恒例。

其明經。通二經以外。每一經通加一等。謂既云加〔者〕。「若」本經不及上

〔正子〕　實子といふに同じ。

中之第者。雖餘經全通。更無可加進。然則本經上中以上者。餘經亦試。若其不及者。餘經亦不可更試也。釋云。其明經通二經以外。一經通加一等。通五經人。本經通六七條。則無敍法。故所加三經雖全通。而更無敍法。通五經者。通二經十條之外。更通經別七條。見學令。跡云。每一經通。謂一度以三經出身者。先試二經並論語孝經訖。得上中以上者。更試他經大義七條。合加授。若二經止得六以上者。他經雖得五以上。不敍位。但留省而已。若二經止得六以上者。他經出身訖以後。更以一經以上。欲受試者。不合聽。問。通二經以外。每經加一等。學令云。通五經者。大經並通者。未知。此條之每經加一等者。大少有別否。答。穴云。通二經以外。每「通」一經加一等。謂不論經大少加耳。无郎師文故。通上中以上。其試二經得上下以下者。不更試餘經心止耳。試加他經。不可爲二經以上敍位也。跡云。尙試爲不可者。令釋云。若未位前已敍訖者。在後不得對同階以下第者。以此云。案況二經已不及敍位。豈何煩試他經。縱他經有得第。爲不可敍位。故放先私記也。今師依跡之說也。貞云。雖應得同階以下位。必試知其進不。仍擬任用。古記云。問。三經以上敍法若爲。答。不見敍法。臨時處分耳。一云。依文。二經「三經」敍法。一種無別。但四經以上不見文也。

兩應條

凡兩應出身者。謂藉父或祖蔭。及秀才明經。兼有父祖蔭之類也。釋云。兩謂貴父及祖蔭之類。古記云。兩應出身。謂父蔭祖蔭。秀才明經進士等。從高敍耳。跡云。從高謂非親蔭。以才出身之類。合試一高。餘不可試。但高物不得第者。乃以次下合試給耳。朱云。兩應出身者。從高敍者。未知。父祖蔭與以才出身。第位亦同。從一高不。答。**從高敍。**

爲人後條

凡爲人後者。非兄弟之子。不得出身。謂若取兄弟之子者。須敍嫡子位。即養父於後生子者。敍庶子位。其六位以下者。養子既得敍嫡子位。其子亦不可出身也。釋云。非兄弟之子。不得出身。六位以下養子得出身。五位以上養子。得嫡子位。或說。得庶子位者非。何者養子者名庶子。六位以下養子。不可得出身故。一云。正子後

〔問答云〕何某の令問答ならむ。

〔所養生子本生無子欲還者聽〕戸婚律に「凡養子所レ養父母無レ子而捨去者徒二年、若自生レ子及本生無レ子欲レ還者聽レ之」と見えたり。

〔令云〕戸令、養子條なり。

〔古記云一等親條〕これ古令にありし條文なり。養老令には、一等親の條なるものなし。

生者。亦得嫡子。從(位)六位以下養子。出身已訖之後還本生。後更生子。得出身無障。先出身名爲養子。後出身名爲嫡子。敍法雖同。嫡養顯耳。古記云。問。兄弟之子。得嫡子蔭以不。答。得庶子之蔭。雖已得官。聽還本生位記不追也。問。六位以下養子出身已訖。或得官之後還本生後。更生子得出身以不。答。得無障。先出身名爲養子。後出身名爲嫡子。敍法雖不別。嫡養錄顯耳。跡云。以兄弟子爲養子者。依令嫡子蔭法。若養子得蔭位出身。後生正子者。六位子不得出身。五位子得庶子位耳。若前人未蒙蔭者相替耳。問。答云。養子得位後生正子者。欲還本生者聽。不合返其位記者。今改往別家之人。何得他蔭位乎。然則得位記猶不還本生耳。又異爲嫡子故也。穴云。問。養子得本生蔭以不。答。可得。假所養六位。本生得五位者。得出身八位耳。何者流人雖別籍。尙得本犯收蔭及出身義故也。賞罰可等。*讃云。問。所養生子。本生無子。欲還者聽。未知。養子敍位訖後。聽還哉。又若聽還。追其位哉。答。稱欲還聽者。不論已敍未敍。又敍位之後。無不還之文。然則雖敍位訖聽還耳。讃云。敍位後不還。又不追其位也。其養所新生者。爲嫡子無妨。但不得敍位耳。師意。出身敍位亦可得也。少難。 私記云。更出身爲非也。若文五位以上者。得庶子之位耳也。問。讃嗣令云。其八位以上嫡子未敍。身亡及罪疾者。更聽立替者。彼文八位以上四位以下嫡子敍訖。無更立替文。然則先所養之子。敍位訖者。還本生後。雖新生。更不立嫡子哉。答。亦不立耳。上文稱立替者。爲二位以上論也。但於或云敍位訖者。追其位。還本生訖者。八位以上。竝新立嫡子。敍位如常也者。皆用讀案讀耳。問。或云。養子身死之後。更以次立。養嫡具放下條者。未知。依習哉。答。*令云。養四等以上親合昭穆者。彼文所養之家任意。然則所養合昭穆者。養所任意。不要習下條所云也。*古記云。一等親條。問。一等親被戮。上條父祖被戮。爲分別。答。上條父祖被戮子孫不得任用。此條子被戮。父不得任用。祖得任用也。宿衞及近侍之官。謂上條侍衞之官一種也。問。以女任內侍司不。答。不合。

贈官條

凡贈官。死王事者。與生官同。釋云。戰場身亡(亡)。謂之死王事也。古記云。死王事。謂陳死亡也。問。從征未臨陳死。或對賊不顚死。或使違絕

〔但於律蔭與正位同也〕名例律に「凡贈位及外位與二正位一同。贈事初位。與二八位一同。用レ蔭者存亡同。」云々とある條より演繹せるところならむ。

〔隱居私家〕この隱居は自ら遊んで仕へざるの意にして、老人の隱居にあらず。

域死亡。並與贈官。其蔭若爲處分。答。往討之事不論臨陣不臨。上道死以上與官同。唯使遠絶域臨時處分耳。一云。死王事。謂病死者非。〔田令云。因王事沒落外蕃不還。有親屬同居者。其身分之地十年乃追。身還之日隨便先給。卽身死王事者。其地傳子。義解。身死王事者。謂爲戰場身爲死王事。〕

餘降一等。

謂得死然者也。降一等者。降其子孫之蔭位也。釋云。得死然。謂之餘降一等也。計降雖至初位亦敍。或說。初位不敍者非。古記云。餘降一等。謂贈官從五位嫡子從八位下。庶子不在敍例。起請辭云。凡蔭子者。不在敍初位之例。但令行事未知。跡云。降一等。謂依子出身法降一等。假令。贈從五位。嫡子從八位下。庶子大初位上。三位以上孫。依此法合降敍。下帶勳位條。其胥此解。朱云。餘降一等。謂行王事自然死。幷在己家死並同不。答。問。凡此條只爲子出身蔭。若亦有餘事不。答。問。此條。只爲五位以上蔭。答。穴云。餘降一等者「一」云降父位。言贈物禮制蔭法事等。並降道也。但於律*蔭與正位同也。故死然之蔭。亦同正位耳。一云。此文。爲子蔭生文。不論父位。爲常說也。私案。令釋云。計降雖至初位亦敍。或說初位不敍者非者。案。此云。假從五位庶子降一等者。敍大初位上。是若欲降父位者。豈及此文乎。又假贈從五位若降父位者。其子豈同五位子哉。然則「將」附父位之說不通也。

授位條

凡授位者。皆限年廿五以上。

謂入色年限。起自十七也。釋云。文限廿五。故知入色年限。起自少丁。軍防令。五位以上子孫。幷八位以上嫡子。年廿一以上。皆申送者。此不自進仕。隱*居私家。理須差科課役。故不同白丁。求出申送。但別物才伎長上。及中宮舍人。諸司伴部帳內資人等之類。皆限年十七出身。廿五敍位耳也。古記云。問。皆限年廿五以上。何人色。答。秀才明經進士。及諸色才藝出身。幷自進仕等。皆至年廿五。卽敍位耳。問。軍防令。五位以上子孫。幷八位以上嫡子。皆限年廿一以上申送。未知。若爲。自進仕人。未滿年廿一。得出身也。答。貢人皆限年廿五以下。得第上中以上敍位。以外待考滿敍位。然則十七出身。起十八年盡廿五合八年。考滿歲遣敍位。又以別勅。才伎長上諸司。及中宮舍人。諸司伴部帳內資人等。無年限。如此之類。皆限十七年

〔慶雲三年格〕類聚三代格に慶雲三年二月十六日の格見えたれど、この文見えず。續紀、卷三、慶雲三年二月庚寅の條に、この事見えたり。

〔延曆十四年十月八日官符〕この格、類聚三代格に見えず、格逸及び日本逸史この文を收めたり。

出身。廿五年敍位耳。但蔭子所以限年廿一以上者。自進不仕「猶」隱居。至年廿一。既無所仕。應差課賦役故不同白丁。求出申送耳。是爲官仕人所在。立年限之條。然今行事。出身之人。必以年廿一以上爲限。此是誤涉蔭子位子限年之條耳。依令。八考成選。十七年之出身。依格六考成選。十九年出身耳。朱云。問。白丁十六出身。猶待廿五敍位何。答。穴云。帳内資人等。自十七出身也。問。貢人十五六而得第。白何年始得考乎。答。尙白及第子始得考滿年敍位之日。充後任考耳。令更覆古記〔說〕也。師屬意。敍位後可得考之。私思不便。何得第者留省。不第者遂本色。令得第留省人。何不得考。故爲不便之。

唯以蔭出身者。皆限年廿一以上。釋云。案。庶人敍位。限年廿五。蔭子敍位廿一。然則蔭子者年廿一出身者。「出身」年卽敍位之故。軍防令云。五位以上子孫。限十二月一日。八位以上子者限十二月卅日以前也。而今行事出身之人。必以年廿一以上爲限。此誤涉軍防令無役任而求出條。又*慶雲三年格云。准令。藉蔭入選。雖有出身之條。未明。預選之式。自今以後。取蔭出身者。非因貢擧及別勅處分。並不「在」成常選之限。此格爲四五位孫立文。而式部課子孫。一依此格取例耳。古記云。唯以位出身者。皆限年廿一以上。未知。若爲處分。答。五位四位子。三位以上子孫。并五世王子。以上年廿一以上。必敍位耳。但慶雲三年格云。准令藉蔭入選。雖有出身之條。未明預選之式。自今以後。取蔭出身者。非因貢擧及別勅處分。並不在常選之限。跡云。五位以上子孫。年廿一。必合敍位。朱云。以蔭出身者。皆限年廿一以上者。未知。此卽爲敍位稱出身歟。若只爲六位以下嫡子出身歟。答。*延曆十四年十月八日官符云。應三位巳上子孫及四位五位子年滿廿一者。敍當蔭階事。右得式部省解偁。按選敍令。凡授位者。皆限年廿五以上。唯以蔭出身者。限年廿一以上者。又慶雲三年十二月十六日格云。准令。藉蔭入選。雖有出身之條。未明預「選」之式。自今以後。取蔭出身者。非因貢擧及別勅處分。並不有常選之限者。令按彼格意。准據四位五位之孫立例。非爲白餘生文。而省所行。三位以上子孫。及四位五位子出身之後。待足六考。乃預選例。既乖令條不易因循〔條〕。但施行歷代不得輙改。謹請官裁者。右

大臣宣。奉勅。所
請有理。宜依請。

蔭皇親條

凡蔭皇親者。親王子從四位下。謂親王者。不限有品無品皆是也。凡一部令內稱親王。不注品階者。皆依此例。釋云。親王。不論有品無品。凡一部令內。稱親王處。不顯品者。一皆放此。朱云。親王子從四位下者。未知。皇太子之子何。同不。答。問。稱子者。女子不入。又內親王之子不入何。諸王子從五位下。古記云。諸王子從五位下。謂三世四世王也。二世上亦是諸王耳也。朱云。諸王子。從五位下者。未知。稱諸王者三世以上歟。答。私案。於此條然。但大例。孫王以下皆諸王耳。繼嗣令初條有正文也。其五世王者從五位下。謂既不在諸王之限。故同諸臣著緋也。釋云。其五世王者。從五位下。子降一等。從五位下是著緋衣也。子謂五世王之子也。慶雲三年格云。自今以後。五世之王。在皇親之限。其承嫡者。相承爲王。自餘如令。即著紫服者。依此格哉。子降一等。謂六世也。以下不合得蔭也。古記云。其五世王者從五位下。謂此與諸臣同位。著緋朝服。亦得任六位以下官也。但慶雲三年格云。依此格哉。子降一階。謂六世王即得王名。七世以下不合得名也。穴云。師云。三世上。不聽取五世王爲養子。何者五世王已絕皇親籍爲諸臣。豈得成三世王之子。而還名四世王乎。是知不可許也。可案。延曆十七年閏五月廿三日勅云。依令。五世之王雖得王名。不在皇親之限。而慶雲三年格昇居親限。如聞。頃聞之徒。苟規數錢。鞠養庶流。名爲己胤。遂附屬籍。以汚宗室。非徒違(速)亂於一己。同[illegible]亦延轉於七品。朕所以了寧過於雨。曾不改悟。彌長奸濫。靜言其弊。深合懲肅。宜停後格一依令條。其五世王者。依舊不改。五世王有施行。天平元年八月五日勅云。五世王嫡子已上。娶孫王生男女者。入皇親之限。延曆十五年十二月九日勅云。皇親之除。事具令條。而宗室之胤。枝葉已衆。宜加懲肅。無可周及。是以雖任無階。自今不論。蓋亦皆有二。於此。宜令斟酌。宜其四世五世王及五世王嫡子。年滿廿一者。敍正

〔是著緋衣也〕衣服令に據るに、五位の禮服及び朝服は淺き緋の衣なり。故に緋の衣を著する者は即ち五位なり。

〔延曆十七年閏五月廿三日勅〕この格、繼嗣令集解及び類聚三代格、卷十七に見えたり。

〔天平元年八月五日勅〕この格、類聚三代格、卷十七及び續紀、卷十に見えたり。

六位上。〔六位〕「但」庶子者降一階敍。自今以後。永「以」爲〔恒〕例。子降一階。庶子又降一階。唯別勅處分。不拘此令。

考滿應敍條

凡考滿應敍。若有蔭高者。聽從高。釋云。蔭高者聽從高。問。以蔭出身者。年廿一敍位。若先有役任者。必待考滿爲限。此亦限年廿一敍位乎。答。跡云。從高謂假令五位以上子。年十九任雜色。至考滿之年。合授位之類。問。無役任人。限年廿一申上則敍位。兼先任雜色之人。何例待至考滿乎。又若考滿之日。不至得階之色者。令不敍位乎。答。在役任人非。至成選年者。無申上文故。＊又文云。考滿合敍者。故知。非合敍者。本蔭亦不合敍。＊＊案帳內勞滿。高行異才條等。合爲證也。朱云。考滿應敍者。未知。考滿不可敍何。答。問。凡從高目者。先勞者除不。答。問。考滿應敍。若有蔭高者。聽從高者。未知。一端何。其意。答。穴云。未考滿。問。又得五位者。除前不待考滿。敍蔭位。但可有於古令待考滿年敍之事。與令「行事」殊也。案軍防令可定。問。敍蔭位者。除前勞哉。答。合除。但未滿考。而敍蔭位者。迄至考滿之日。不合除却。何者假五考上上。未滿一考。問(間カ)。依蔭敍八位。當年考亦上上。摠爲六考上上。合敍十二階。豈除去前勞倒致贖(噴カ)乎。但其勞同蔭位以下者。只聽從高蔭除前勞。自敍蔭位後始計耳。自今以往之勞。不「可」計耳。跡記異記(帝記)(寔)。師不耳。此條義。至軍防令可決定。古記云。後敍日聽從高「耳」。謂若蔭高者從蔭敍。若選高者從選敍。故云聽從高也。問。令有少初位上文從五位下。未考滿之間。遭恩授勳一階。亦是後敍耳。依蔭合敍。但今行事。不依蔭。直一階敍。此不知所由耳。

除名應敍條

凡犯除名限滿應敍者。三位以上。錄狀奏聞聽勅。朱云。未知。三位以上人帶勳位。亦更勳位

〔延暦十五年十二月九日勅〕この格類聚三代格に見えず。然れども九條家の弘仁格抄に見えたれば、弘仁格にありし格なること疑を容れず。按ずるに選敍令集解引くところの格文にして、類聚三代格に見えざるもの頗る多し。これ三代格の缺巻が選敍に關する巻なるが故なり。

〔又文云考滿合敍者故知非合敍者本蔭亦不合敍〕これ即ち考滿應敍なる法文の反對解釋なり。

〔案帳內勞滿高行異才條等合爲證也〕前條「凡帳內勞滿應レ敍、才堪二理務一、本主欲下於二內位一敍上者聽」、及び「凡考滿應レ敍之人、有二高行異才一、或尤達二治體一、皆聽三擢以二不次一。不レ須三限以二常條一」なる條文を傍證と爲すべしとなり。

可給狀奏聞。爲當一處奏聞。又三位以上者品約不。答。

其正四位於從七位下敍。從四位於正八位上敍。正五位於正八位下敍。從五位於從八位上敍。六位七位。並於大初位上敍。八位初位。並於少初位下敍。

跡云。無在外位人。合敍外位也。朱云。四位以下人等。得七位以下。如公式令奏授判授歟。若別。否(答)。穴云。問。滿限之後。內位敍內位。外位可敍外位。未知。得內考之外五位。若得外考之外五位。無別哉。答。無正文。但理不可然。得內「考者。可敍內」八位。

若有出身位高於此法者。「聽」仍從高。免官免所居官亦准此。

朱云。未知。此文若爲有出身位高於此法從高歟。爲當上文。錄狀奏聞。皆約。答。不約。或(式)云。問。免官免所居官。亦准此。未知。上文。三位以上奏裁者。免官以下亦奏裁哉。答。不合也。在穴記昔。

出身謂籍蔭及秀才明經之類。

謂以父祖蔭。及秀才明經出身。若犯除名者。限滿之日。復聽敍本蔭本第也。釋云。蔭謂先後同也。出身謂除名後出身也。跡云。出身謂假令從五位子授八位。犯罪除名者。限滿之日還依五位蔭。亦授八位。若蔭更高者。依高合敍也。明經謂元依二經得位。除名之後不合得前位。但以他一經欲承試者。併計前論語孝經試十條。依第聽敍耳。朱云。秀才明經之類者。未知。之類字何。音博士等並同不。又本位物授者何「下」不。答。或云。秀才明經之類。限滿日。更試敍者。未知。若然者。隨後得第敍。若不第者。還依除名敍法不。答。穴云。出身謂秀才明經之類。問。秀才明經等。取方正清修名行相副。未知。先犯除免人。何有名行由。答。悔過改心。出身有何妨。宜聽也。師云。出身謂秀才明經者。无此才人除名。滿年限之後。受試得第也。若先得第人者。去前經弁(并)。才更以他經弁并。才爲出身耳。不用前才。何者先第位第已除名了之故也。除(既)多師不依耳。問。然。學生犯盜。悔

〔不率師教者解退〕學令在學條に「其不レ率ニ師致一、及一年之内違レ假滿ニ百日一者、並解退」とあり。
〔若養兄弟子者亦同〕上條「凡爲ニ人後一者、非ニ兄弟之子一、不レ得ニ出身一。」より見て當然のことなり。

心出身者聽哉。答。不率師教者解退。更不合論也。又問。稱好學。自國貢擧亦得哉。答。已更聽出身者得貢擧耳。**即才優擢授者。並不拘常例。**朱云。未知。此除名之後。擢授歟。爲當先擢授本位歟。凡此才優者。一端何。答。穴云。師才優擢授者。並不拘常例。私案。上條。爲考滿可敍生文。此條爲滿年限合敍時擢生文。

五位以上子條

凡五位以上子出身者。一位嫡子從五位下。釋云。若養兄弟子者亦同。或說。同庶子蔭。敍正六位上者非。何者若如所言者。豈發例哉。朱云。此文及稱五位以上子出身。不別男女。而女子不被父蔭。依何所云。答。**庶子正六位上。二位嫡子正六位下。庶子及三位嫡子從六位上。庶子從六位下。正四位嫡子正七位下。庶子及從四位嫡子從七位上。庶子從七位下。正五位嫡子正八位下。庶子及從五位嫡子從八位上。庶子從八位下。三位以上蔭及孫。降子一等。**謂嫡孫降嫡子。嫡孫降庶子也。釋云。問。嫡孫無嫡之日所得名歟。謂嫡孫降嫡子。何者承祖與父母同。故庶孫降庶子。嫡孫之兄弟。若庶孫也。古記云。三位以上蔭及孫降子一等。謂嫡孫嫡子一等。嫡孫「降」庶子一等。嫡孫謂嫡子之長子。庶孫謂嫡子之衆「子脫カ」並子之子等。一云。依禮。有嫡子者。無嫡孫。皆爲庶孫也。嫡子長子以下。皆降庶子一等敍也。跡云。降子一等嫡。謂未得嫡孫之名者。降庶子一等合敍。但立嫡孫訖。降嫡子一等敍。但嫡孫同母弟等。皆降庶子一等合敍。穴云。三位以上蔭及孫事。與先私記同。成云。問。文云。

〔延暦十九年四月十日官符〕この官符、類聚三代格に見えず。但し弘仁格抄に見えたり。

〔神龜五年三月廿八日格〕この格、類聚三代格、卷五、定内外五位等級事に見えたり。

三位以上蔭及孫。降子一等。繼嗣令云。三位以上繼嗣者。皆嫡相承。若無嫡子及有罪疾者立嫡孫。無嫡孫者。立庶孫以上者。未知。立庶孫之日。同與嫡孫之位哉。答。可與耳。凡以孫列爲嫡。降嫡子一等以子列爲嫡者。子與嫡之位。私案。於庶子庶孫者有益。於庶孫者無益。在穴記。延暦十九年四月十日官符云。庶蔭四位孫事。右謹案令條。三位上蔭及孫。降子一等者。然四位蔭孫一同五位。今四位者爵號既尊。封秩是厚。而及孫之蔭。尙未有殊寵爵。其理實乖弘恕。伏請。降子四等。以及降蔭。庶使冠蓋異等。尊卑別次。臣等商量。所定如件。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。　外位蔭准內位。釋云。神龜五年三月廿八日格云。外正五位嫡子從八位上。庶子大初位上。外從五位嫡子從八位下。庶子大初位下。古記無別。　其五位以上。帶勳位高者。卽依當勳階。同官位蔭。四位降一等。五位降二等。謂亦降其子蔭位也。釋云。五位以上。謂四位以下。不在三位。帶三位勳一等。同當勳階者。無益故也。本令三位以上。帶勳位高。同當勳階蔭。何者勳一等當三位。正三位從三位同蔭故。「從三位蔭敍法」。只別故同當勳階也。此命「人」「而」無益。何者。勳一等當正三位。」或說。從四位於勳一等。正五位於勳二等。從五位於勳三等。是擬高者非。何者公式令云。令條擬階位者。正從上下各爲一階。率二階爲一位者。然則降文蔭者。可云降一位。又贈官降正位一等之色。從五位者子無敍法。又本令云。自外降入九品者。並不得成蔭者。此卽降子階。不降文位也。穴云。五位以上帶勳位高者。卽依當勳位。同官位蔭。謂四位帶勳一等勳二等。同官位蔭降一等敍也。文稱同官位蔭。明知。蔭子位也。或云。依當勳階同官蔭位者。若帶一等二等者。其子及孫。依三位蔭降一等二等。何者文稱依當勳階同官位蔭故也。但疑其蔭不及孫歟。可問。額云。不可及孫。在穴記。皆。古記云。其五位以上。帶勳位高。謂正五位帶勳一等降一等。准正四位蔭。帶勳二等。降二等准從四位蔭。若從五位帶勳一等二等。降法與正五位同也。唯帶勳三等。降二等准正五位蔭也。其八位以上。帶勳「位」二等以上。

降四等。謂帶勳一等降四等。准正五位蔭。帶勳二等降四等。准從五位蔭也。以外不得蒙蔭也。起請辭云。凡勳位選任者。假令。六等以上。若才職相當者。得任五位官及六位以下官人。但不得。爲當位以下次官。後敍之日。若無官位者。准選無位之例。但得蔭子勳者。並據蔭子之例。加二階敍。假令。子從八位上敍。父正八位上敍也。問。散五位以上子若爲處分。答。散五位以上。既入文官。更不合預。

繼嗣令第十三

謂、繼、嗣者子也。即謂不及嗣是也。釋云、說文云、繼續也。尚書曰、罔弗及嗣。注云、嗣謂子也。謂繼子令也。穴云、嗣亦繼也。謂繼嗣子之令耳。

四條

皇兄弟條

凡皇兄弟皇子。皆爲親王。古記云、未知、三世王即位、兄弟爲親王不。答、得也。穴云、皇姉妹皆爲親王。問、皇祖皇考何稱。答、不見文、有別由耳。不入注令也。女帝子亦同。謂、據嫁四世以上所生。何者、案下條、爲五世王不得娶親王故也。穴云、女帝子者、其兄弟者兼文述之。故只顯子也。孫王以下皆爲皇親也。朱云、女帝子亦同〕者、未知、依下條、四世王以上、可娶親王。若違令娶女帝生子者、爲親王不何。「案、前爲親王者、今所疑者、據五世王及凡人所生之子爲凡人哉。」古記云、女帝子亦同。謂父雖諸王猶爲親王。父爲諸王。女帝兄弟、男帝兄弟、稱。以外竝爲諸王。自親王五世。雖得王名。不在皇親之限。跡云、五世王、不入諸王之例。故雖帶五位、不合著素衣等。朱云、自親王五世、雖得王名、不在皇親之限。謂只五世王一色。不在皇親之限者、未知、何文與義如相違乎。答、穴云、文云、自親王五世、雖得王名不在皇親之限者、五世僅得王名。至六世必賜姓成臣。不可得王名耳。在穴記背。*慶雲三年二月十六日格云。准令。五世之王、雖得王名不在皇親之限。今五世之王、雖在王名、已絶皇親之籍、「今五世之王、雖在王名、已絶皇親之籍、遂入諸臣之例。顧念親親之恩。不勝絶籍之痛〔痛〕。自今以後、五世之王在皇親之限。其承嫡者相承爲王、自餘如令。天平元年八月五日格云、五世王嫡子以上、娶孫〔女〕王、生男女者入皇親之限。自餘依慶雲三年格。延暦十七年閏五月廿三日勅云、依令、五世之王、雖得王名。不在皇親之限。〔安〕建慶雲、昇皇親限、如聞、更闡之輩、適〔苟〕規徵發、攜養庸流、名爲己胤、遂附屬籍、以汚宗〔室〕、非徒連累於一己、固亦延

〔慶雲三年二月十六日格〕この年月の格、類聚三代格に見えたれど、この文見えず。續紀、卷三、慶雲三年二月庚寅の條にこの事見えたり

〔天平元年八月五日格〕この格、類聚三代格、卷

十七及び續紀、卷十に見えたり。

〔延暦十七年閏五月廿三日勅〕この格、類聚三代格、卷十七に見えたり。

〔基問〕政事要略、卷二十九、年中行事及び卷六十一、交替雜事には「基按」なるもの見えたり。又雲圖抄の裏書にも「基按以二辛壬一撚也。」云々と見えたり、基或ひは坂上明基ならんか。令集解以後の人なり。

〔我云〕未だ詳かならず。

〔公云〕公問と云へるものもあり、未だ詳ならず。

黷於七廟。朕所以丁寧過於再三。曾不改悟。彌長奸濫。靜言其弊。深合懲淸。宜停後格。一依令條。俾夫王有殊貫。蘭芬不雜。主者施行。

繼嗣條 **凡三位以上。**朱云。未知。親王同不。私問。三位以上四位以下。謂只爲臣家歟。何者皇親別有條制故。者(若)雖皇親及親王。有立嫡哉。**繼嗣者。皆嫡相承。若無嫡子。及有罪疾者。立嫡孫。**謂其子與孫。敍法各殊。即雖嫡子已敍。身死。及有罪疾。猶亦得立嫡孫。若無嫡孫者。不可立嫡子同母弟。何者爲嫡子前敍訖故也。釋云。聽立嫡孫。謂以孫非爲嫡子。凡此家嫡若無者。更聽立嫡。若以子列爲嫡者。號爲嫡子。若以孫列爲嫡者。號爲嫡孫。嫡子父自牒治部并本貫。治部檢定申官也。「＊基問。義解云。不可立嫡子同母弟。何者嫡子前既敍訖故也。未知。只嫡子嫡孫以誰人令承祭事。私答。以次立嫡孫同弟耳。」朱云。若無嫡子及有罪疾立嫡孫者。未知。凡此文。嫡妻長子之未得嫡子之名。問(間)。身死并有罪疾歟。爲當。得嫡子之名訖後事歟。又若無嫡子者。從初專有嫡妻之長子歟。答。跡云。一位以下八位以上嫡子。得嫡子位。並得出身訖。有罪疾者。依文合立替。若立嫡子訖。其身死者不得更立。謂未得位並出身。而雖身死而不更立。但三位以上立嫡孫。若無嫡孫者。雖有嫡子同母弟及庶孫等不更立。何故者。有罪疾是替前人立後人。然則前人非嫡子故。又立訖身死。若此又立嫡者。可云立兩嫡子故也。＊我云。立嫡孫。謂三位嫡子。敍位子死者。可立嫡孫。五位以上嫡子。敍位記(訖カ)死者。不可更立之。下條與此條。好可覆勘。又嫡子父身死者。中途嫡子讓。又於外國猶申治部哉。可求。貞答。猶申治部者。又以嫡孫立嫡者。不云嫡子。正不限嫡庶。皆云嫡孫耳。又於庶子者。稱嫡子耳。又以孫立嫡之日。不敍嫡子位。依上條。蔭及孫敍耳。在讃記＊背。公云。文無嫡子者。謂死去也。何者有嫡孫之「孫之」故。問。古令(答)云。無嫡子及有罪疾立嫡孫者。若依無嫡子及有罪疾。而立嫡孫了後。其嫡孫死及有罪疾者。不限未敍位及已敍了。不許立替。何者文云。無嫡子及有罪疾者立嫡孫。無者以次立嫡子同「母」弟。無者立嫡子者。案之。無嫡子。及雖有嫡子。而有罪疾之時。擇取行事也

〔封爵令〕唐の永徽令の篇名なり。唐六典に見ゆる開元令の篇目にはこの篇名見えずと雖も、唐律疏議には、封爵令を引けるものあり。我が繼嗣令は、即ちこの封爵令を摸したるものならむ。

然則云嫡孫及母弟等。替立之後不可許又更立。未知。此說依不。答。師云。不可依。何者爲貴室於四位以下也。在穴記背。古記云。一云。問。立嫡。未知。具分析。答。分財條。具說訖。然復重說。案封爵令公侯伯子男身存之内(日)。不爲立嫡。亡之後嫡襲爵。庶子聽仕(任)宿衞也。襲爵嫡子。無子孫而身亡者除國。更不及兄弟。此間之法文見在。立嫡子。若嫡子亡及有罪疾立嫡孫。無嫡孫者以次立嫡子、案文、見在日。以次立嫡可得。又父未立嫡亡者。官依法令立嫡。但父先立嫡。嫡身亡。更未立之間。父身亡。并父立已訖。身亡未分財。及不被蔭之間。嫡子身亡。及有罪疾者更不合立嫡。　無嫡孫。以次立嫡子同母弟。無母弟立庶子。　釋云。公羊傳云。桓公者隱公之弟。並魯惠公之妾子也。桓幼而貴。隱長而卑。隱長又賢。何以不宜立。立嫡以長、不以賢。立子以貴。不以長。嫡謂嫡夫人之子。尊無與敵。故以齒子。謂左右媵及姪娣之子。位有貴賤。又防其同時而生。故以貴也。禮。嫡夫人無子立右媵。右媵無子立左媵。左媵無子立嫡姪娣。嫡姪娣無子立右媵姪娣。右媵姪娣無子立左媵姪娣。質家親親先立娣文家。尊尊先立姪其雙生也。質家據見立先生文家據本意立後生也。桓以何貴者。其母右媵也。子以母貴。母以子貴。故以桓可立也。左氏傳云。隱公者。惠公元妃。孟子之姪娣子也。即是繼室之子、當嗣世。以禎祥之故追成父志。爲桓尚少、是以立爲太子。帥國人奉之也。今案。一傳之意。公羊先兩媵。後嫡姪娣。左氏先嫡娣。後兩媵。雖有此異、依母立子。其義一也。三位以上。嫡子死立嫡孫。四位以下。嫡子死後不得更立。跡云。無母弟者。立庶子貴。謂母弟未得嫡子名。其身死故立庶子。然則知嫡妻長子。未得嫡子名。而身死者。合立母弟庶子等也。　無庶子立嫡孫同母弟。無母弟立庶孫。　釋云。五等爵。爲立嫡子法耳。朱云。無母弟立庶孫者。未知。悉(事)合無子孫何。若如庶人。取四等以上親一養一不。又取兄弟之子養者名養子。爲當名嫡子。凡三位以上立嫡孫。四位以下不立嫡孫。其志何。又立嫡子人。有年限不。答　四位以下。唯立嫡

〔古記云但氏上者聽勅〕
大寶令に於いては、氏

子。謂庶人以上。其八位以上嫡子。未叙身亡。及有罪疾者。更聽立替。謂四位以下。其四位以下者。不立嫡孫。若嫡子已叙。身死及罪疾者。不聽更立。不可再叙嫡子之位故也。跡云。罪謂盜杖以下數犯者亦是。故其出身竝「叙」位記後人亦蒙蔭。其如常嫡子。問。養子得蔭後。身死竝有罪疾者何。答。依上文。身死者不合立替。但有罪疾者合立替。前人位竝出身事。爲非子故合追還。又不堪爲養子故也。朱云。八位以上嫡子。未叙身亡。及有罪疾者。更聽立替者。未知。未叙身亡等。雖三四度猶立替不。又後所立人。皆同名嫡子不。又新令問答云。六位以下子得出身。五位以上子。得嫡子位子後。雖身犯死罪。亦更不得立嫡者何。答。又問。及有罪疾者。更聽立替者。未知。此亦未叙時歟。若不又八位以上者。其限何。又庶人嫡子身亡。有罪疾何。更立替不。答。穴云。八位以上。謂四位以下。其下條。五位以上者。論立嫡行事也。此條。論身死時更立替耳。兩條。五位非相累也。讃云。六位以下。其五位以上。依放下條。問。八位以上嫡子叙訖身死。不更立替。其若未處分財物者。一宅合諸兄弟均分。初位及庶人。嫡子身死。更立替。與情頗一宅。何故八位以上例(倒)下於庶人由何。答。俗文習耳。又爲兩度不可叙故。額同。讃云。雖不得出身。爲身承家。更立嫡。如庶人也。問。八位無子但有孫。未知。得出身以不。答。依文不可然。但欲養子聽抑合禮家也。或云。令師云。注。稱其八位以上者。且可讀一位以下。又云。及有罪疾者。此亦爲未叙生文。然則八位以上。一位以下。立替嫡子一同也。少不安。可問求。後定四位以下。「或案」此條「下條」云。「此注云。」八位以上者六位以下也。下條云。有罪疾。不任承重者。爲一位以下五位以上立文。然則五位以上。依下條有罪疾者。不論未叙已「叙」聽立替。若身死者准上條。未叙者亦聽替也。又此注及有罪疾者。不擇未叙已叙。得立替也。兩條別也。「案」文可知之。静可檢之。師後同之。在穴記背。

其氏宗聽勅。朱云。未知。此庶人以上。氏皆不答。*古記云。但氏上者聽勅。謂諸氏上者。必勅定給。不論嫡庶。

宗のことを氏上と稱せしなり。故に氏宗も之を和訓するときはウヂノカミと讀むべし。宗は宗族の意なり。儀禮に「別子爲レ祖、繼別爲レ宗」とあり、又管子に「宗者族之宗也」と見えたり。

〔韓詩〕云　日本國見在書目錄に「韓詩外傳十卷韓嬰撰」と見え、隋書經籍志に「韓詩二十二卷〈漢常山太傅韓嬰撰〉薛氏章句」「韓詩翼要十卷〈漢侯苞傳〉」「韓詩外傳十卷」[illegible]と見えたり。韓人韓嬰の傳ふる春秋時代の詩なり。[illegible]

定嫡子條

凡定五位以上嫡子者。陳牒治部。驗實申官。釋云。大寶二年令問云。繼嗣令云。定五位以上嫡子者。陳牒治部。驗實申官。是其狀如何。答。嫡子之文(父カ)。自陳牒於治部定立。京職國司。知其狀而並身。申送於式部也。朱云。陳牒治部者。未知。治部之所定立歟。爲當先定立。令申知其狀歟。又京諸國之五位。皆同申治部不。又父身死者。誰可申治部。又五位以上者其限何。答。或云。問。定都司五位以上嫡子。亦陳牒治部哉。答。申牒國耳。公問。陳牒治部者。未知。行事。答。治部受家牒。更造解文申官。官受付式部耳。又問。京國官司。可知其由之事知「何」。答。治部移京國。可令知耳。但其勘籍事者。就民部勘耳。令行事。治部移京國。令勘籍申耳。在穴記背。

其嫡子有罪疾。罪謂荒耽於酒。謂迷亂曰荒也。樂酒曰耽也。釋云。迷亂曰荒。樂酒曰耽。音丁含反。荒釋出尙書。耽解出說文。穴云。好酒爲耽也。嗜耽是也。古記云。荒耽於酒者。尙書曰。義和湎淫。孔安國曰。沈湎於酒。過差失度也。韓詩*云。飲酒閉門不出。客曰。湎耽。說文。樂酒也。云酒病狂也。荒耽沈湎皆酒一種也。一云。荒廢也。耽於酒。廢國已業也。

及余罪戾。謂犯徒以上罪。若數有愆犯。量情不任器用者。雖不至徒亦是也。釋「云贓カ」罪徒以上也。戾音魯帝反。爾雅。戾辜也。案唐令(答)雖不至徒。數有犯失是。古記云。及餘罪戾者。謂官人除名免官免所居官當等是。自丁八虐及徒罪以上是。過失及餘罪者非也。朱云。荒耽與罪戾。總幾事。若二事歟。又罪者過失疑罪並同不。答。穴云罪謂或云管以上。或云徒以上也。但今所定。好酒尙爲罪。然則尙難心不任器用。以爲罪耳。假。最迹好盜。縱不得財。豈得爲任器用。或徒以上。無公坐之類。爲責邪。宜量情定耳。又唐令答云。罪者病疾之罪非刑罰之罪。詐僞律對策云。數犯罪戾。將來不任器用。以對策爲長。又跡云。或遁避罪戾之數類。

將來謂往前也。古記云。將來

不任器用者。釋云。任音如林反。周禮鄭玄注曰。任猶用也。論語。孔子云。子貢曰。汝器也。「器也」。注云。汝是器用之人是也。古記云。不任謂不用也。器用。

亭の傳ふる毛詩と相竝びて單に詩と稱せられしも、漢詩、魯詩共に亡び、今毛詩を存するのみ。これ今の詩經なり。されば玆に引ける詩經は實に珍重するに足るべし。

〔未知科罪之後離之哉答不合離假不由所有三月內論者科違令不離義也又官戶陵戶於異色婚少異故〕戶令に「凡嫁レ女、棄レ妻不レ由二所由一、

〔如〕論語曰。君子使〔人〕器之。必不求備也。**疾謂癈疾。**或云。問。疾謂癈疾者。未知。殘疾兩耳聾等。尚不任器用。此等如何。答。大例。除癈疾之外。殘疾尚立嫡子。但臨時斟酌（量）不任替耳。在穴記背。**不任承重**謂繼父承祭。祭事尤重。故云承重。釋云。繼父承祭者也。祭事尤重。古記云。承重謂說祖父之際承繼也。**者。申牒所司。驗實聽更立。**釋云。既聽更立。敍位無疑。或云。父存嫡子有罪。除名者。更「立脫カ」嫡子得嫡子位。有疾并身死。更不立嫡。未得位而身死者。更立耳。六位以下者。嫡子出身之後。身死者。不更立嫡。未出身之前死者。又得更立。但嫡子有罪後立嫡子者。難得嫡子之位。唯得嫡子之物耳。又父不定嫡子。而身死者後得追立。案嫡子身死者。不得更立。謂不限出身。未出身。皆不得更立。何者嫡子之子。承父分故。朱云。嫡子有罪疾。不任承重者。申牒所司。驗實聽更立者。未知。既敍位未敍位同不。凡此條與上條何別。公問。其嫡子有罪疾者。聽更立者。未知。一端生文歟。爲當身死者亦約之哉。答。又同（問）。或云。父存。嫡子犯罪除名者。更立嫡子。未知。得不。答。所說得理。何者此所謂有罪疾耳。養子立替。亦同子孫耳。無別文之故。在穴記。

王娶親王條

凡王娶親王。臣娶五世王者聽。朱云。王娶親王者聽。未知。親王娶內親王者聽不。凡此條稱王者諸王歟。若天皇歟。答。諸王也。何者上條義云。女帝子亦同。謂嫁四世以上所生。何者案下條。爲五世王不得娶親王故也。古記云。娶五世王者聽。謂廣至于庶人稱臣也。**唯五世王。不得娶親王。**穴云。五世王。不得娶親王。*未知。科罪之後離之哉。答。不合離。假。不由「所由」三月內論者。科違令。不離義也。又官戶陵戶於異色婚。少異故。朱云。五世王。不得娶親王者。然則娶孫以下聽哉何。

令集解卷十七

皆不レ成レ婚。不レ成レ棄。所由後知、滿二三月一不レ理、皆不レ得二更論一。」とあり。又「凡官戶、陵戶、家人、公私奴婢、與二良人一爲二夫妻一、所レ生男女、不レ知レ情者從レ良。皆離之。」とあり。五世王親王を娶るものは、良賤異色婚と性質を異にするを以て、前條に據りて違令の罪を科するに止め、敢へて之を離婚せしめざるなり。

文應元年十二月廿六日於二條烏丸宿所見合本書加首書訖歳將暮時豫昏於今年者不可復見明年以吉曜可見次卷耳

員外宰相藤原在一

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢

員外宰相藤判

弘長三年十一月十八日屬休日重加一見了

建治二年五月六日引合正親町本校合了

慶長三年仲秋十二令一校了

吏部秀賢

右以請家之本寫之一校畢

寬永十一甲戌季秋日

中原職忠

萬治四辛丑孟春初七令一校畢

羽林中郎將藤原

右者請河邑先生御本書寫畢校合者也

元本者高橋本

越智通邦［印］

明和四亥孟冬

同七年庚寅五月十四日以京師本一校了

安永三年年十一月一日一會了

文化十癸酉年四月廿六日補寫了

同日校了

筒井忠英

文政三年夏六月以彰考館本校了

撿挍保己一

〔律云考校課試不以實是也〕とは職制律、貢擧條の一部を引けるものなり。

〔古記云考仕令考者校也仕者勞也〕大寶令に於いては、考課令のことを考仕令と稱せしことを知るべし。持統天皇紀、四年四月庚申の條にも「依考仕令。以其善最功能。氏姓大小。量授冠位」とあるを見れば、考仕令なる稱名は、淨御原令より傳へしものなるなり。

令集解卷十八

考課一　初條以下。官人最迹條以上。

考課　謂考者考校功過也。課者課試才藝也。律*云。考校課試不以實是也。釋云。考考校。課課試也。言年終功過考校。並藝業伎能課試。有數也。跡記无別。穴云。考校課試令也。但與職掌處考課。爲異也。問。下條云。考貢人者。未知。何會作。答。彼文爲課試。然則試貢人是也。枚以下當司決。又下條云。分番者。每年本司。量其行能功過。立三等考第。又下法。注云。本司考訖後者。何者下條云。三位以上奏裁。五位以上太政官量定奏聞故。但依其條。不定等第。申送太政官耳。古*記云。考仕令。考者校也。仕者勞也。年終考校所仕功過也。又兼餘功過附校也。但擧大例題卷目耳。讃云。考考校也。課課試也。言年終功過考校。並藝業伎能課試。有數也。考謂年終考校官人功過也。課謂課試貢擧之人也。故職制律云。一〻〻〻。考校課試而不以實。一人笞五十疏云。考校謂內外文武官寮。年終應考校功過也。課試謂貢擧之人。藝業伎能。依令課試有數者也。與職掌所考課異也。何者別立策試之文故。問。下條云。考貢人者。未知。會作。答。彼考貢人。與此課試貢擧人。文異意同耳。問。先考後可敍。而考課令次於下意。答。先選官。後有考事。故上置選事。下次考事。又以有位任官。故敍選相連生文耳。問。考校課試。其行事如何。答。一端下條云。凡官人最迹功過。應附考者。皆須實錄。又云。德義有聞者。爲一善。又云。神祇祭祀不違常典。爲神祇官之最。又云。**最上善事**一最以上有四善爲上上。一最以上有三善。或無最而有四善爲上中。一最以上有二善。或無最而有三善爲上下。又此條云。內外文武官初位以上。每年當司長官。考其屬官應考者。皆具錄一年功過行能。并集對讀。議其優劣定九等第。又條云。分番者。每年本司。量其行能功過立三等考第。小心謹卓。執當幹了者爲上。番上無違。供承得濟者爲中。逋違不上。執當虧失者爲下者。案之。且日錄最官人上

日行事。而年終准量其行能功過。定功過等第。謂之考校也。又下條云。貢人。皆本部長官貢送〔木〕太政官。若無長官次官。貢其人隨朝集使赴集至日皆引見。辨官即付式部。其大學學人。其狀申太政官。與諸國貢人同試。又條云。秀才試方略策二條。文理俱高者爲上上。文高理平理高文平爲上中。文理俱平爲上下。文理粗通爲中上。文劣理滯皆爲不第。又云。明經。試周禮左傳禮記毛詩各四條。餘經各三條。孝經論語共三條。皆舉經文及注爲問。通十爲上上。通八以上爲上中。通七爲上下。通六爲中上。通五及一經。若論語孝經全不通者皆爲不第。通二經以外別更通經者。每經問大義七條。通五以上爲通。又云。進士試時務策二條。帖所讀文選上帙七帖。爾雅三帖。其策文。詞順序。義理慥當。幷帖過者爲通。事義有滯。詞句不倫。及帖不過者爲不。帖策全通爲甲。策通二。帖過六以上爲乙。以外皆爲不第。又云。明法。試律令十條。識達義理。問無疑滯者爲通。粗知綱例。未究指歸者爲不。全通爲甲。通八以上爲乙。通七以下爲不第。又云。試貢舉人。皆卯時付策。當日對了。式部監試不記者。不考了。對本司長官。定考等第唱示者。案之。諸國及大學貢舉人。隨色課試。定其等第。謂之課試也。其書筭生。此篇不立試法。但放大學學人耳。其職國等貢筭醫(藥)者亦放下條。但學典藥生者。不依下條。醫疾令有文故也。學令云。書學生。以寫書上中以上者聽貢。其筭學生。辨明術理。然後爲通。試九章三條。海嶋周髀五曹九司孫子三開重差各一條。試九全通爲甲。通六爲乙。若落九章者。雖通六猶爲不第。醫疾令云。醫針生。各分經受業。醫生習甲乙脈經本草。兼習小品集驗等方。針生習素問黄帝針經明堂脈決。兼習流注偃側等。圖赤烏神針等。經。又云。醫針生業成送官者。式部覆試各十二條。醫生試甲乙四條本草脈經各三條。針生試素問四條黄帝針經明堂脈決各二條。其兼習之業。醫針各二條。問答法式。並准大學生例。醫生全通。從八位下敍。通八以上大初位上敍。其針生。減(降)醫生一等。

及第事

令第十四　凡漆拾伍條

「又條五衞府軍團及諸帶使者爲武唯内舍人及竺志不在武之例」これは古記に引かれたもので、大寶公式令の文なり。養老公式令は、後段を注として「太宰府、三關國、及内舍人、不ㇾ在二武限一」と改めたり。

「又[illegible]」[illegible]諸[illegible]
[illegible]

内外官條
凡内外文武官。謂。依公式令。在京諸司爲京官。自餘皆爲外官。又五衞府軍團及諸帶使者爲武。自餘並爲文是。但外武官不入（誡）此條。何者軍毅別爲立四等考第故也。釋云。公式令云。在京諸司爲京官。自餘皆爲外官。又云。五衞府軍團及諸帶使者爲武。自餘並爲文。案。内外文官内武官。此條。無外武官。何者軍毅者爲立四等考第故。古記云。問。内外文武官若爲別。答。公式令云。在京諸司爲京官。是此内官。其臨司在外。及國郡軍團皆爲外官。是此外官。*又條。五衞府軍團及諸帶使者爲武。唯内舍人及竺志不在武之例。自餘並爲文。跡云。無外武官。防人正等皆爲外文官也。讃云。内外文武官。謂公式令云。在京諸司爲京官。自餘皆爲外官。又條云。五衞府軍團及諸帶杖者爲武。自餘並爲文等注云。大宰府三關國及内舍人。不在武限是也。問。如公式令者。外武官入此條歟。答。此條爲内文武官及外文官生文。其外武官不約此條。何者軍毅。下條立四等考第故也。問。依軍防令。有大將軍以下錄事以上。何不約外武官哉。答。將軍是臨時官也。非此條所論。須臨時處分。或云。注上日行事。軍還之後定考第耳。非令文所云也。

初位以上。謂一品以下。此即考校主典以上之法。凡任主典以上者。必須有位。故云初位以上。若有無位長上。亦入此條也。釋云。此是考校主典以上之法。凡任主典以上者。必須有位。故云初位以上。若有無位長上者。又入此條。其考番上並郡司軍毅法。其見下條也。跡云。初位以上。謂一位以下也。穴云。初位以上。謂一位以下。假。右大臣以上一品一位。而大納言亦一品之類是也。古記云。問。内外文武官初位以上者。分番長上若爲有別。答。此條謂長上也。考分番條在與也。又先以有位人任官。故稱初位也。無位長上。亦放有位耳。讃云。初位以上。謂是考校主典以上之法。凡任主典以上者。必須有位。故云初位以上。若有無位長上者。亦放此文。其考番上並郡司等。其在下條。問。以上之文有其限哉。答。一品以下也。假。有右大臣以上一品一位。而大納言亦一品一位之類。何者長官考文官哉。又別記條云。毎年考文集日省勘校。色別爲記。其顯功過。三位以上奏裁。五位以上太政官量定奏聞。然則五位以上當司長官所

員令集解に引ける別記とは別物なるべし。

〔或釋云〕或る解釋書に云ふの意なるか、又令釋に數種ありて、或る令釋に云ふの意なるか、詳かならず。

〔興大夫云〕正五位下興原宿禰敏久なるべし。この事一物云の條に云へり。

〔大和山田說〕養老令の撰定に與れる大和宿禰長岡と山田連白金との說なるべし。大和長岡は、刑部少輔五百足の子なり。世々大和の國造たり。初め倭忌寸小東人と稱せしが、天平九年宿禰の姓を賜はり、この年大和の國號を改めて大養德と爲す

不考也。而何說一品大臣考一品大納言哉。答。私案。勘注上日行事。及校定善最。對讀示謂之考耳。與六位以下考法異耳。穴案。凡注善最者。定等第時事也。然則五位以上。止注上日行事奏也。又強三位以上。亦須讀示功過行能。故曰考耳。抑可問他人也。古令(答)云。初位以上。謂六位以下。一云。廣包一品以下也。問。有可考右大臣以上功過乎。答。不可考校。何者最條云。獻替奏宜。議務合理。爲大納言之最。不云右大臣以上之最。則明。不在考校之限。但可注上日。爲給祿故也。又可注行事。依職掌文勾稽失故。可檢之。

每年當司長官

謂本司長官。不由所管之省也。釋云。省內寮司。各當司長官考其次官以下。但寮司長官考者。省長官考又押監耳。*或釋云。省內寮司。各錄其行能功過送所管省。省長官定等第申送太政官也。當司本司文異義同也。讚案。當司長官。謂省內寮司。各當司長官。考其屬官。但寮司長官考者。注上日行事送所管省。省長官。九月卅日以前定等第耳。舊說云。省內寮司。各錄其行能功過送所管省。省長官定等第申送官也。當司本司文異義同也。此說時人思非。*興大夫云。依古令意。所陳於今不合也。

考其屬官。

謂次官以下也。釋云。當司次官以下。謂之屬官。或釋云。唐令釋云。屬官謂所管局署等。*大和山田說亦同此義。古記云。其屬官三字。屬上句。應考者三字。屬下句讀耳。假令。式部省管大學散位寮。即卿考寮屬以上。唯如馬寮左衛府者。本府長官考之。其屬官謂所管寮司等。並本司內人等。摠名屬官耳。跡云。考其屬官。謂當司內也。非云所管之省。案儀制令寮屬郡司條。鬪訟律所部屬官等。假令爲證。但所統屬官者。別如所統字。爲別例也。或云。屬官者。引職制律在外長官條。鬪訟律佐職及所統屬官條。儀制令。元日國司皆率僚屬郡司等。向廳朝拜者條。可稱者。又或案云。職制律。去官受舊官屬士庶饋與條法云。舊官屬。謂前任所僚佐此者。私而彼文稱官屬耳。在跡背。穴云。問。長官考其屬官。未知。次官以下。共有相論定哉。答。不合也。但。就中有昇降不當者相論定。何者爲與職事修理昇降必當。訪察精審庶事兼擧。勤於記事稽失無隱之最故。又主典以上共署申上故也。問。於太政官。右大臣以上考訖何。答。亦送式部。凡於選文考文。式兵部是所司耳。問。太政官考文送式部。未知。何人若式部被考問耶。

答。不見文。但頃年行事。辨之大夫等被考。問。於今更改史等被考問也。今行事。官考文造符下式部。若有事不盡者。式部造解文。請問其由。即此令意耳。案公式令符式解式等可知。師依之。或云。問。於中務等品官者卿考哉。答。省卿定耳。在穴記背。讃云。屬官謂當司次官以下。唐令釋云。屬官謂所管局署等也。大和山田等同此說者非也。問。依何文。次官以下謂屬官耶。答。儀制令云。元日國司皆率僚屬郡司等。向廳朝拜。職制律云。在外長官有犯者。所部屬官等不得推。注云。大宰國郡等長官有犯。所部次官以下不得輙即推鞫者。案此等文。次官以下。謂之屬官。問。何爲長官。何爲次官。答。獄令云。公座相連。右大臣以上及八省卿諸司長並爲長官。大納言及少輔以上諸司貳皆爲次官是也。問。長官考其屬官。未知。次官以下共有相論定哉。答。不合也。但知昇降不當者。相論可定。何者爲得職事身修理昇降必當。次官之最。訪察精審庶事兼擧。判官之最。勤於記事稽失無隱。主典之最。之最故。又主典已上共署申送故也。問。太政官考。大臣定訖後。下式部哉。答。可然也。凡於考選事。式兵部是所司耳。又問。官考文下式部。誰人至省被考問哉。答。不見文也。古記。行事辨史被考問也。八十一例。史至省被考問也。並不見其所由。今時行事。官考選文。造符下省。若事不盡者。省修解文請問其由。案之。令意亦然也。**應考者。皆具錄一年功過行能。**謂其錄者。年中功過行能考校之時。摠集抄錄也。功過行能者。職事修理爲功。公務廢闕爲過。善惡爲行。才藝爲能。其錄才進考。令條無文。猶亦兼錄者。爲銓衡人物必攝考簿故。即選敍令。應選者皆審狀迹。銓擬之日先盡德行。又考滿應敍之人。有高行異才是也。釋云。功增戶也。過荒田也。行清廉也。能書計也。或說。職事強濟謂之功也。職務廢闕謂之過。善最從功生。負殿從過生。其義并同。古記云。問。皆具錄一年功過行能也。答。功謂職事強濟。過謂職務廢闕。善最從功生之。負殿從過生之。兼在他司歷送功過耳。行謂孝行忠行惡行。能謂書算射騎之類。此二者無預考。唯爲銓衡之日注耳。跡云。行謂景迹也。能謂才能也。問。何條依行能有進下之色。答。貪濁有狀降考。又清愼進考。是依行昇降。又國郡司兼加教授條。異才人擢以不次條。是依能進考也。朱云。應考

に及んで姓も大養徳に改め、後大和に復するに及んで大和宿禰と云へり。小東人を改めて長岡としたる年代は詳ならざれども、天平寶字年中なるものの如し。長岡幼にして刑名の學を好み、兼ねて文を屬し、武智麻呂傳には、文雅を以て稱せらる。靈龜二年、遣唐使に從ひ、吉備眞備等と共に入唐請益し、疑滯の日多く發明するところあり。法律を云ふもの皆以て准的となす。養老二年養老律令の撰定に與り、同六年二月、功により田四町を賜ふ。時に從六位上なり。天平九年十一月、宿禰の姓を賜はる。同時に從五位下を授けられ、天平寶字元年六月、紫微大忠となり、同四年河内守となり、同八年右京大夫に任ず。年老いたるを以て自ら辭して職を去る。神護景雲

二年賀正の宴に天皇その八十に登れるを嘉賞し、御製して正四位下を授けられたり。又長岡嘗て吉備眞備と共に養老律令を刪定し、神護景雲三年に功を終へたり。山田連白金は、銀とも書く。この人初めは百濟人成と云へり。その姓名を改めしは、天平寶字元年十二月より同二年七月までの間なるが如し。養老二年、律令撰定に與り、功を以て同六年田四町を賜ふ。天平寶字元年、正六位上となり、同二年七月、外從五位下を授けられ、同三年十二月、史の姓を改めて連の姓を賜ひ、同五年十月、主計助となり、同七年四月、河内介となれり。文德の朝の碩學山田春城はその曾孫にして、春城の傳に、曾父白金明法博士にして律令の學を云ふもの皆白金を以て准的と爲すこと見えた

者。皆具錄一年功過行能者。未知。不應考者何。凡此文。寮司等所爲歟不。又於官內何人可錄。若令主典錄歟。或云。此條專寮司等。各所爲者何。私案。可知也。生云。此文應考者。見可得考人也。不考人不入此條。何者別記條云。其有功過灼然理合黜陟者。雖不滿日。別記送省者。則知。不考色不送省者。私案。但上日足。依過被不考人者。至下下等。皆附考文申耳歟。在跡記皆穴云。問。以善最景迹。立九等第。下條有文。今此文。以功過行能定九等第。*依律。考校不實者減一等注云。負殿應附。不附者亦同者。即明。考校功過不以實者。負殿之外灼然矣。古私記云。負殿成於過。不平（平下。之）其指示。答。好成職掌。依最進考。是據功定也。職事粗修。善最不聞者是依過定也。依清慎貪濁等昇降。是依行定也。*又擢以不次。任以才用高。*國郡司兼加教授等。是依能所爲也。但兼加教授。是恆好成式之外。非定例。又擢以不次。任以才用。是亦不在依年中行事昇降考故。此文能字。只爲銓擬各用耳。其占候醫卜。生徒苑業等。雖依能。尙是職掌。然可云功。不合云能。又分番人。量行能功過。立三等考第。彼番上亦迹功過而加能之字。尙注文體如是而已也。番上等條能亦如之。但勸課田農。增益戶口。或荒蕪減損。及依負殿昇降等者。先定九等第訖後。次定功置上等。又次依過降耳。此文功過。非云先定彼色。私思順之（片定）。但師云。混雜一度。定考第色不爲便之。案分番條功過知耳。彼番上亦無依能加。以是案。爲銓擬及擢以不。次而注考狀也。然可云錄景迹功過。而加能之字。尙注文體如是已。而番上條能亦是。問。依功過行能戶口多少及負殿等昇降者。本司所定。未知。諸條附考殿得貶不得等之類。亦本司所定歟。爲當送省令定歟。答。送省令定耳。師同此說。細之事。下條情狀可責者。省校日。皆聽臨時定之所解也。讃云。應考者。謂私案。縱不應考。亦尙可錄功過行能。何者雖處不考必可注考帳故。又各功過灼然者。別記可送故。但犯官當以上。斷罪之者。不可煩注其功過行能也。可檢。　錄一年功過行能。謂下條云。官人景迹功過。應附考者。皆須實錄案之。抄錄日日所實錄之景迹功過。行景迹也。能才能也。　問。計一年者。起自何月。答。起去年八月一日迄今年七月卅日。謂之一年。何者祿令云。在京文武職事。及大宰壹伎對馬皆依官位給祿。自八月至正月上日。一百廿日以上

り。

〔依行昇降〕不當者は一等を降し、これ前行、貪濁條の句文なり。

〔又選叙令〕選以下。任以方用者に選叙令、高行異才能優ずる條の句なり。

〔國郡司兼加教授〕學令に「凡國郡司有解經義者、即令兼加教授」とある條、即〔官〕〔若訓導有成、即宜進考〕とある條文の趣旨を取れるなり。

〔有（若）不如法〕者具狀附考下省、上部司條の趣を取れるものなり。

者給春夏祿。秋冬亦如之。是即一年給祿日限也。今以祿日與考限相通故也。私案。雖不得祿。可有得考。何者一年之內應通計故。問。文云。錄功過行能。未知。依行能而昇降之色。答。跡云。*貪濁有狀降考。清慎顯著昇考。是依行昇降。又依學令。國郡司若有解經義。兼加教授。訓導若有成者應進考。又選叙令。考滿應叙之人。有異才聽擢以不次。是依能進考也。私案。此文不合。何者彼令論考滿日之事。此令謂每年考日之事故也。穴云。無依能進考之文。但文體相字耳、广下述。問。下條以善最景迹定九等第。與此條錄功過行能定九等第同歟。異歟。答。穴云。同物也。何者好成職掌者依最進考。是所謂功也。職事粗修善最弗聞者。依公降考。是所謂過也。依四善及愛憎任情。處斷乖理等進考降考。是所行也、案之。行者善惡之通稱也。故云。錄功過行能定九等第。但無依能進考。何者假如。生徒苑業。及占候醫卜等事。雖依能而好成職掌、即可云功。不可云能。又分番人等。量行能功過立三等考第。此亦無依能進考。以此言之。能字爲錄擬及擢以不次。注考（然）狀也。然可云錄景迹功過。而加能字者。注文之體如之而已。番上等亦復如之。問。緣勸課田農增益戶口及損減戶口田農。若貪殿等昇降之類。未知。先定九等第訖後。依功進加。依過減降歟。爲當。混合一度定第歟。答。穴云。本司所定。但捕亡令追捕罪人條云。其得賊不得賊。國郡軍團皆附考。私案。注考狀耳。案。國司京官也。獄令國斷罪應申覆者條云。若理狀已盡可斷決。而使人不斷。妄生節目盤退者。國司具狀申官。附使人考、案之。官受國解下省。又云。覆囚使人至日。先檢行獄囚枷杻鋪席及疾病粮餉之事。有（若）不如法者。亦具狀申附考。官受使解下省。學令云。國郡司有解經義者、即令兼加教授。若訓導有成。即宜進考。省受國解擢進。田令官田應役丁條。其田司。年別相替。年終省校量收穫多少。附考褒貶。宮內。送式部令定。私案。宮內令昇降也。公式令。奉詔勅及事經奏聞雖已施行條云。若軍機要速。不可停廢者。且行且奏。即執奏合理者。量事進考。不合理者、亦量事貶降。官。仰式部令昇降之。如此之類。受事之官送式兵部。令昇降之耳。　竝

集對讀。謂讀記即使定其考第也。釋云。對讀已畢奏時定考第耳。今行事定畢對讀也。古記云。問。竝集對讀也。答。錄功過行能。即對讀。然議其優劣。定等第訖。亦對讀耳。准（唯）令（今）行

事。定訖一時對讀耳。問。島司一人集。答。依文。壹伎對馬二島。島司一人持考文集府。唯多褹大隅薩摩日向等國亦准此耳。以外諸國郡司皆以考文集府耳。跡云。對讀謂注集一年內行能等。主典讀申時。長官取筆定上中下等。是云注考官人也。朱云。並集對讀者。未知。此每年諸司各所爲歟。又何人可對讀。或云。每年諸司各所爲者何。私此問答讀了。或云。並集者外國人集哉。答。不集。在跡記背。穴云。並集對讀。謂次官以下也。郡軍之雜依下條也。問。諸司長官考。及九國三島之長官。亦集省及府。被對讀哉。答。可然也。後不合。然下解了。但只依別記條讀耳。問。此文對讀有(者)五位以上讀示哉。若讀示者。八省卿及諸司五位以上長官。集式兵部哉。答。依文。功過行能。縱雖五位以上讀示耳。但諸司長官考。不論五位六位。於式部兵部不合讀示。六位長官。經依本司善最昇降耳。爲非當司。不對讀耳。故依此云不更對讀者。諸司長官及九國三島長官。不合集管官。爲無集用故。私云。問。並集對讀。議其優劣定九等。未知。定訖後更唱示哉。又定者。對讀之時。即定歟。答。依文。定訖後。不見更唱示。然依文先對讀。登時定九等第耳。大夫云。更讀示。此量情讀。更不合唱示也。讃云。問。文云。並集對讀者。案之集次官以下對讀。示上日行事。朱云。諸司長官及大宰管內國島之長官。亦集省及府被讀示哉。答。當司次官以下。功過行能縱有五位以上。依上文。可讀示。但諸司長官及九國三島長官功過行能。不論五位六位。於省及府不可讀示。依本司上日行事。可定考第。爲非當司不可對讀。然則不可赴集。無其用故也。可案。

議其優劣。定九等第。謂於一人亦可有優劣也。釋云。議其優劣。謂於一人亦各優劣。職事强濟是優也。職務廢闕是劣也。古記云。問。議其優劣若爲。答。校一人功過有優劣也。議二人長短有優劣耳。跡云。優劣謂於一人身功高曰優。功下曰劣昇降耳。朱云。議其優劣。定九等第者。未知。雖定九等第。不結階不。凡此條。可敍位人約不。又此文五位以上六位以下並同不。或云。此條。各本司所爲也。所管之省者不可爲。但勘考文押署也。可案計會式者何。私案。可知也。讃云。並集對讀議其優劣。定九等第。謂集次官以下。令讀聞之。錄年中行能功過也。强濟職掌及各(有ヵ)善行謂之優也。廢闕職務及有

惡行謂之劣也。或云、功增戶也。過荒田也。行清廉也。能善計。也。言最從功生。負殿從過生。其義同之也。依其優劣。所定考第。有九等者、謂之定九等第也、跡云、對讀謂計集一年內行能功過。而主典讀申之時。長官取筆定等第也。依文。對讀訖而皆時定第耳。令行事定畢後對讀也。私案。對讀者。令讀聞上日行事於次官以下也。議其優劣。定九等第者。主典讀了後。長官自定九「等」第耳。貞云。長官自讀而即第耳。以議其優劣。謂於一人亦有優劣。

八月卅日以前校定。 古記云。問。八月卅日以前校定。其理。答。依農事竟方爲耳。朱云。八月卅日以前校定者。未知。此文爲何司立日限。若各爲本司歟何。答。然也。穴云。八月卅日以前校定訖。九月卅日內送管上司也。問。所管上司。只校定其長官考。爲當覆校番上以上考哉。答。可覆校番上以上。若昇降不當者。於省而定。准所失輕重。降長官考。上官可勘顯。而不用正者、依上官不覺科罪。吏案文云。京官畿內。十月一日。考文申送太政官者。又下云。本司量行能功過。立三等考等訖者。其記送省者。然則寮司各考造解送官耳。*一如計會條。但不押署耳。

京官畿內。十月一日。考文申送太政官。 朱云。未知。畿內何可申送。若別可有考文使不。又十月一日可至太政官。爲當其日申上日歟。或云。畿內附朝集使可申送者何。又先記云。畿內考文者。附朝集使可送也。見古令者。*古令云。京官畿內十月一日。外國十一月一日。考文附朝集使送太政官者。未知。令(令)不何也。或云。京官畿內。十月一日。考文申送太政官。謂畿內於外國附朝集使申送者。私案。下條云。大貳以下及國司。每年分番朝集者。畿內亦國司則知可有朝集乎。在跡記背。穴云。申太政官。未知。爲謹解。爲當爲以解。答。作謹解耳。私案。*至公式令可定。讚云。八月卅日以前校定。京官畿內。十月一日。考文申送太政官。謂八月卅日內。本司校定了。九月之內。管省校定寮司長官考第。并覆勘番上以上考第。十月一日申送耳。問。於畿內有朝集使耶。答。可有。案古令(答)如之。問。作考文之事「何」。答。「耳」作謹解。爲申官故也。額云。寮司考文。合作以「爲解」被省押署故也。

外國十一月一日。附朝集使申

「計會條」公式令、計會式に作るべし。

「古令云京官畿內十月一日考文附朝集使送太政官者」大寶令の條文なり。本條と比較して其の意を知るべし。新令に「附朝集使」の四字を削りしは、考文を朝集使と別ならず、使宜に國使に附すべきことと爲したる故なり。

「至公式令可定」公式令

解式條に「有八省以下、內外諸司、上二太政官及所管一、並爲レ解。其非レ向二太政官一者、以レ以代レ請。」と見えたり。

〔爲供奉冬至會集使〕これ古令の文なり。下に古令云としてこの文を引けり。

〔攝津職者爲京官附爲國司答古說爲京官也然不見正文〕公式令、京官條の集解にも「穴云。問。攝津職者爲二京官一哉。答。然也。」と見えたり。これ攝津の難波の京が延暦十二年まで帝都の一として保存せられたるが故なり。

送。或云。附者。多掌餘事故稱附也。何者下條云。大貳以下及國司。每年分番朝集。所部之內見任及解代。皆須知。其在任以來年別狀迹隨問辨答者故也、在跡記皆。古記云。問。考文附朝集使。此使所掌何。又京官朝集以不。答。爲供奉冬至會集使。故云附耳。賦役令云、凡朝集使貢獻物者、皆盡當土所出。其金銀珠玉皮革羽毛錦罽羅縠紬綾香藥彩色服食器用。及諸珍異之類。其京官不在朝集之例。大貳以下及國司。每年分番朝故。讃云。問。考文附朝集使。未知、此使掌事。答、古令(答)云、爲供奉冬至會集使。故云附耳。不審也。又問。攝津職者爲京官附爲國司。答。古說爲京官也。然不見正文。**考後功過並入來年**。釋云。考後功過並入來年。謂自八月至來年七月。是一年考限也。然更起此文者。爲下文合解及貶降者當年卽附校。更對此文也。跡云。問。何更稱考後功過並入來年乎。答。爲生本司考訖以後。可有進退者。附校之注文故更發文也。古記云。問。上文云。其錄一年功過行能也。何更煩稱考後功過並入來年哉。答。注云。准狀合解及貶降者。仍卽附校。有功應進者亦准此。注設此文。不至升降者入來年。爲此應注相對丁寧明耳。此無異義。其考後功過並入來年。謂自八月至來年七月耳。讃云。考後功過並入來年。謂去年八月至今年七月。是一年考限也。然更所以起此文者。爲下注云。本司考訖以後。省未校以前犯罪斷訖。准狀合解及貶降者。仍卽附校故。更對此文耳。跡記云。爲生注文先發此文也。近耳。**若本司考訖以後**。謂八月一日以後。卽與考後同。但考後功過。合解及升降者。卽附當年考。若不至解及升降者。仍入來年。以此爲別。故兼注互明也。釋云。考文人省。是謂本司考訖。跡云。本司考訖以後。謂以七月卅日爲前。以八月一日爲後。朱云。此說不合令文。自必八九月功過。亦同可附故者。私而此說稱違明近耳。若八九月皆同稱約本司考訖以後勾者。何煩可有乎何。而此八九月功過者。於合解及貶降。當年考所附耳。穴云。本司考訖以後。謂八月一日以後。**省未校以前**。謂十二月卅日以前也。何者選敍令。應敍者。式部起十月一日盡十二月卅日。卽考選程限。理合一同故也。釋云。考第未申官。是謂省未校以前。跡云。省未校以前。謂十二月卅日內。穴云。省未校。謂十二月卅日以前。令釋見義。下條過考以後。此文並同義。又公式令。計會十二月卅

日以前校了。即附唱故也。悉前私記解訖也。讃云。考文入省。是謂本司考訖也。考第未申官。是謂未校以前也。彼是不同。可問。問。本令云。尚書省。未知。此文省者亦其情歟。答。此文省謂式兵部。古令改太政官爲省。案知耳。古記云。問。注若本司考訖以後。太政官未校以前。若爲其義。答。本司謂中務省衛府等。考後謂八月一日以來。太政官未校以前。謂式部省內外考文校訖。而十二月一日以後申太政官。官處分。謂訖之校定。假令。雖申太政官。未處分。猶申送而合附校也。讃云。注云。本司考訖以後。省未校以前。謂考文入省。是日本司考訖也。考第未申官。是日省未校以前也。古令(答)云。注別帳。而副考文申送。以上爲不也。若考文申送後發者。附使。使申。若無便使者。差專使送。並朝集使領取申官。仍式部附校耳。跡記云。本司考訖以後。謂七月卅日之前爲前。八月一日之後爲後也。古令同之。省未校以前。謂十一月卅日以前。穴同。若合有昇降者。本司申官。下式兵部耳。省內。此司先申管省。省覆申官。私案。若考文未進之前。斷定訖者。本司附校之。如進官之後。斷訖者。錄其狀應申耳。*十二卷問答同也。

犯罪斷訖。准狀合解及貶降者。仍即附校。跡云。若合有昇降者。本司申官合送省也。穴云。犯罪斷訖。准狀可解及貶降者。仍即附校者。明。未斷罪。縱可除免官當。不可附言。下條。應除免官當。不在考校限者。論考中行事。此文考事先訖故。與彼爲異也。假。雖貪濁有狀。盜三端以上。獄成而未斷者不附校。爲下條云官人犯罪附殿者。依(據)案成乃附故也。問。犯罪者。未知。非犯罪。而依餘過。合解及貶者何。答。文舉犯罪。然餘過者非。問。至成選年者敍哉。答。於應給祿之官。合除免官當停給祿者。今於敍位事爲難。宜別勘也。私思。依祿令并下條。可會檢之。私案。依例成成選。仍敍位先訖者。依例當免。若斷罪先者。停敍位耳。又問。假。貪濁有狀可處下下。斷罪已訖。或官田司收穫稻欠少可追降之類。不追降哉。答。後日(目)。案檢犯罪者。一端生文。其依過合降。亦可降。朱云。准狀。合解及貶降者。仍即附校者。未知。若有犯罪。不至解及貶降何。若附來年哉。答。然也。合解及貶降者。未知。貶與降別何。古記云。問。及貶降者。未知。降一等歟。答。有功應進者。明。一等以上合昇降者。皆即附校耳。問。本司即付考文申以不。答。注別

「十二巻問答」十二巻より成る令問答なり。本朝法家文書目録に「一上古問答一巻、問答五條」等見えたり。又假寧令集解及び喪葬令集解には二巻私記なるもの見えたり。斯く何某の私記問答とも知れざる令問答私記を、その著者を以て呼ぶこと、當時の例なりしが如し。

帳。而副考文申送。若考文申送後發者。附使依申送。若無使者。差專使送。並朝集使領取申。仍式部附校耳。讃云。注文云。犯罪斷訖。准狀合解及貶降者。仍卽附校者。是知。未斷罪。縱當除免官當。不可附校也。但下條。應除免官當。不在考校之限者。是論考中之事也。此文論考後事耳。假如。雖貪濁有狀。盜三端以上獄成。而未斷罪者。不可附校。故下條云。官人犯罪附殿者。皆依(據)案成。乃附之也。問。至成選年猶敍乎。答。依祿令。應給祿之官當以上停給者。其至成選事。可別勘也。穴云。依例成選訖。依例當免。若斷罪先者。停敍位耳。長。又問。注云。犯罪者。未知。非犯罪而依餘過。合解及貶降者如何。答。穴云。*稱犯罪者。一端生文。其依餘過合降亦放此也。假令。貪濁有狀。可處下下。斷罪已訖。*或官田司收穫稻欠少合降考之類。貞同。

有功應進者亦准此。

朱云。問。未知。一端何。私案。公式令云。執奏合理者。量事進考者。此等何。穴云。有功應進。謂考(走)過(還)及得賊。執奏合理。田司收獲多。常附考褒(最)等皆是。讃云。有功應進者亦准此。謂假有考(走)過(還)及得賊。執奏合理。官田司收獲過多。可進考之類皆是也。

無長官次官考。

謂判官主典不在考限。唯錄上日行事。申送於官。凡注考官人。不定自身考第。具錄善最功過。申送管司。若無管司。申送於官。卽式「部」兵部校定也。釋云。判官主典不合考人。但錄上日行事申送耳。凡注考官人者。不定其身考第。但具錄善最功過。申送管司。無管司者。申送式「部」兵部校定耳。跡云。無長官次官考。謂判官等不合考人。直注上日功過合申送也。朱云。未知。此時管司作考文哉。又本司知考第事何也。上定九等第。謂六位以下。若五位以上。錄上日功過善最行能等。合申送。朱云。依別記條。五位以上。太政官定考第唱示耳歟。又寮司等長官。亦注功過等申送者。問。以何日申送。問。省定等第。若無所管之司。亦注上日功過等申送。官則有定等第耳。畿內。十月朝集也。雖正六位上。而令定等第。但成選之日不結階。而直合奏聞。又太政官定等第。不結階而奏耳。穴云。次官謂諸司貳。判官以下。只注上日行事。送上司耳。故次官以上。得昇降必當最。又於長官無次官判官署文爲證也。問。長官考。何人定。答。注上日行事送管省。省九月卅日以前定耳。問。八省長官考何人定。答。私案。送

〔稱犯罪者一端生文其依餘過合降亦放此也〕これ犯罪なる令文中の語を、例示と解せるなり。

〔或官田司收穫稻貝少合降考之類〕田令、終條に「其田司、年別相替。年終、省校ニ量收穫多少一附ㇾ考褒貶。」とあるに據れるなり。

〔傳聞大判事說唐令心次官者以次之官也然則判官亦得考師不依之〕の意は、「無長官者、次官もとより以上、次官以下の官は考するを得ずと解するも、大判事の說は、この次官を長官次官の次官と解せずして、次の官と解し、判官も亦主典以下も考し得るものとせり。傳へ聞くところによれば、この大判事の說は、唐令の解釋より由來せりと云へど、我が師はこの說に從はずとなり。大判事は、讃岐永直ならん歟。永直は從五位下守大判事兼行明法博士たり。

式部。式部色別爲記申官。官三位以上奏裁。五位以上量定奏聞耳。無被管事諸司長官六位以下者。皆式部所定耳。問。送長官上日行事日。注善最哉。答。不合注。止注上日行事耳。問。然若注善最者。爲違令哉。答。無可科罪。或不注、並無妨耳。若注送亦無妨。私案。兩云。申只不。注善最爲長。何者善最。是定九等日之行事也。今注以上日行事送。是爲不得。自考然耳。讃云。注送長者。未爾定。或云。傳聞。大判事說。唐令心次官者以次之官也。然則判官亦得考。師不依之。問。無長官者當其日不上贖。爲當闕贖。答。當其日無耳。非闕官也。在穴記。古記云。問。無長官次官考。答。若無次官者判官主典亦考。凡專考官人者。不定其身考第。具錄功過申送。若無主典以上者。史生等具錄善最功過申送耳。讃云。無長官次官考。謂判官等不合考之。何者職事修理昇降必當。爲次官以上最故。次官得考。但判官不合。仍須直注上日行事送管省。省定等第也。若無所管司者。亦注上日行事申太政官。下式兵部定第耳。但任五位以上。如上說了。或云。依唐令私記。判官主典亦考。古令一答同、之爲非。問。八省長官考。及無所管諸司。諸國長官考第。何人之所定。答。依下文。申送官後下式部。式部校定。色別爲記進官。官三位奏裁。五位量定奏聞。六位以下。省定考第申送耳。

官人景迹條

凡官人景迹功過應附考者。

謂官人者主典以上。其分番亦准此也。景迹者景像〔一狀〕也。猶言狀迹也。釋云。爾雅。景大也。謂人履行善惡大迹耳。讃云。官人謂主典以上。番上亦合放此也。穴云。官人謂主典以上。但番上、亦同主典實錄耳。問。部司軍團何。答。亦放此。主典實錄耳。景迹善惡通稱故。注云。景迹高。景迹劣也。古記云。問。官人景迹功過應附考者。未知。若爲。答。景迹謂善惡之行。功過謂上既說訖。更重陳上事耳。雖無功過者不注耳。一說。景迹謂其爲人善惡酗酒。又五性貪穢之類。必令附考也。讃云。官人謂主典以上。其番上之人。亦主典實錄也。部司軍團亦放此。主典實錄耳。景迹功過者。釋云。爾雅。景大也。謂人所履行。善惡大迹耳。能守暗文也。其功過者如上條說。穴云。景迹者善惡通稱。故下注云。景迹功狀高而考第下。或

〔八省院〕朝堂院の別名なり。八省百官の朝參は、朝堂院に於いて行はるゝを以て、この名あるなり。大內裏の西南に位し、朱雀大路の正面に位す。その正殿を大極殿と稱し、その後に小安殿あり。天皇卽位の大禮を茲に行はせらるゝが正式なり。諸司の告朔も茲に行はる。院の構內に昌德、含章、承光、明禮、延休、朝集等の十三殿、蒼龍、白虎、栖鳳、翔鸞の四樓、應天、長樂、會昌、東福、散法等の二十五門あり。

考第優而景迹劣之類。**皆須實錄。**謂一年之內。每日記錄。卽至考校之時。集此記注。以爲撿錄。是上條所謂。具錄一年功過行能者也。此條不言行能者。卽人之才能。不可每日記錄故也。釋云。皆須實錄。手取筆抄錄者。跡云。行能略文耳。言。不待年終。當行能之顯之時。令注置也。皆須實錄。謂主典人人功過行事令見校。長官以下。而日日令注置。此云實錄也。朱云。皆須實錄者。未知。何人可錄。若主典可錄哉。答。然也。先云。此書(蓋)每日判官以上實勘。加主典以上署名爲印。可收置者。問。以上諸條。右大臣以上皆約不可(何)。最所云。獻替奏宣議務合理。爲大納言之最者。何約此條不。答。不可約。但外記可注上日耳。爲合(給)錄者何。穴云。勤於記事稽失無隱。爲主典最。故主典實錄耳。諸判官以上亦考。唐令(答)古說如此。爲兩說。能者不合日日實錄故。不云也。問。中務內諸品官等實錄。何人行哉。答。同司內故。省主典實錄耳。假令。於八省院*。當司行事。皆主典實錄耳。問。主典已之景迹功過自錄哉。答。然耳。或云。能字略文也。何者假令。八月一日日記始也。其日必可注才能故也。又無能人。若有才顯者。依顯日可注置故。但不可日日記耳。問。內舍人侍從等實錄何。答。中務少輔以上。是得侍從之最者。然則輔以上。一人一人常侍。而檢知侍從內舍人行事。而仰省錄令注置耳。或云。省錄以上。常分侍內裏實錄耳。案衞禁宿衞條知之(又)。文應附考者。若不應附者。不須實錄也。一端。官內細少雜事之實錄。而用之類耳。在穴記。古記云。問。實錄誰人。答。長官是。讃云。應附考者。皆須實錄。謂私案。凡官人景迹功過。皆應附考者也。故云然耳。非謂有不附考之色也。但日不滿。並有犯法而不考之色。是終年所定也。其於實錄。不可有別也。實錄者。釋云。手取筆抄綠耳。案之。主典所爲也。何者勤於記事稽失無隱。爲主典最故。古說。長官實錄者爲非也。跡記云。主典注長官以下雜色以上功過行事。令判官以上見覆。而日日注置。是曰實錄也。穴云。能者日日不合記錄。故不云。說見上條。貞云。略文隨顯日可注也。但諸博士及才伎長上。如此之類。日日不可實錄。至于年終。注考狀耳。跡記云。隨顯之時實錄是也。與貞云同。問。中務內諸品官之景迹功過。何人實錄。答。穴云。同司內故。省錄合實錄耳。假令。於八省院。當司行事者。皆省

〔額大夫〕五位下攝國
司の令長なるべし。こ
の事「額云」の條下に
見ゆ。
〔當所任〕是也斷罪理等〕
下同〔最經〕の文なり。

錄實錄耳。*額大夫屬心。監物主鎰主鈴等。各實錄送省也。私思。侍從內舍人主鈴主鑰等。省錄分在內裏可實錄。案古記云。簿如之耳。監物者。已散諸司。各行職掌。省司無便分注。然則當局實錄送省也。是非未決。又問。給十日何。答。品官皆運省覆給耳。如額大夫說者。當局自注。可送省司也。檢可。問。案最條。右大臣以上不考校。未知。功過行能實錄以不。答。穴云。只得檢出其得失。不可實錄其景迹功過。假如。右大臣以上。*變稽任意。處斷乖理等。不合以景迹論之類。問。主典已上景迹功過自錄哉。答。可然也。**其前任有犯私罪。斷在今任者。亦同見任法。**謂依下條。官人犯罪附殿者。皆據案成乃附。私罪。計贖銅一斤爲一負。公罪。二斤爲一負。各十負爲一殿。自上中以下。率一殿降一等。故前任犯私罪。斷在後任者。仍同見任。可附負殿。若前任犯公罪。斷在今任者。依律卑官犯罪。遷官事發。在官犯罪。去官事發。犯公罪流以下勿論。此則既得勿論。亦不可附負殿也。釋云。前任有犯私罪。斷在今任。謂名例律云。卑官犯罪。遷官事發。在官犯罪。去官事發。或事發去官者。公罪流以下勿論。然則前任職事犯私罪。或事發「或」未發。遷任他司是。其散位或任職事亦同。但前任斷訖。公私罪者。依下文。皆悉附見任考。問。功過灼然。理合黜陟者。雖不滿日別記送省者。未知。與其考如何。答。有殊功者。式部隨狀。與其考耳。但當得中中考人。當今年。增益戶口。開發田疇。如此之類。今年定可得考第。又加功分見其等第。可置中上以上者。是亦可與其考。唯不受師說。可求也。跡云。前任謂番上人任主典。少主典任大主典之類。亦爲前任也。有犯私罪。謂犯公罪死罪者。依律與失官當應合處杖。此人遷官事發者。仍附考並科罪耳。朱云。前任有犯私罪。無職後事發。或事發在無職何。例云。私罪皆據律科。雖復遷官去任。並不免罪者何。私案。不可免罪。先記云。問。先任有犯私罪。斷在今任者。亦同見任之法。又云。即應計前任日爲考者。功過並附。其別如何。答。前任有犯私罪。斷在今任者。私罪未斷。今斷定是也。應計前任日爲考者。公私之罪斷定已訖是也。在古記普。穴云。問。假任初位犯公罪。任職事事發者何。答。放名例無官犯罪條之釋也。案之。番上任長上亦同之。又大夫云。散位在職事。亦同此法耳。先別俱也之。前任後

〔但未斷公罪流以下依律放免〕名例律無官犯罪有罪事發條に「在レ官犯レ罪。去レ官事發。或事發去レ官。犯二公罪流以下一。各勿レ論。」とありて、その疏に「謂事發未レ斷勾一間。便即去レ職。此等三事。犯二公罪流以下一。各勿レ論」とあり。

〔未知律令二條若爲交過〕考課令なる本條の條文と「無官犯罪。有官事發」云々なる名例律の條文との關係如何と問へるなり。

〔增益戶口開發田疇〕これ下條に「凡國郡司、撫育有方」云々なる條文の句なり。

任。謂以印文至日爲定。不以遷代日。且約此〔此〕心案耳。讃。犯私罪斷在今任者。若在先任斷訖公罪者。依下文功過。竝附之文。前任功過。後任功過竝附。以於後任爲考耳。*但未斷。公罪流以下。依律放免。其公罪死罪者。依律與減失。所殘者計負殿可降之。今師云。與失減之後。流以下罪者亦不附。何者與減之後。此所謂公罪流以下耳。此說不安。私思。本犯死罪者。雖與失減。所殘徒杖罪。尙附耳。可檢。在穴記。古記云。問。其未任官前。犯私罪。斷在今任者。亦同見任法。公罪若爲。答。私罪是重故同見任。公罪是輕故不同見任。既得勿論。問。名例律云。無官犯罪。有官事發。流罪以下。聽以贖論。今此令未任官前。未知。律令二條若爲交通。答。令者初位任初位官。八位任八位官。既官位相當。所以除免官當負殿等。皆同見任之法。八位以上。亦不論行守。悉同見任法。其律者初位及無位。而任八位以上官。所任既高。所以不用官當除免。又不計負殿也。讃云。前任有犯。私罪斷在今任者。亦同見任法者。主典以上亦任主典以上是。其以番上任職事亦同。跡記云。以少主典任大主典。亦爲前任也。釋云。前任有犯。私罪斷在今任。謂名例云。卑官犯罪遷官事發。在官犯罪。去官事發。或事發去官者。公罪流以下勿論。然則前任職事犯私罪。或事發。或未發。遷任他司是。其散位任職事亦同。但前任斷訖。公私罪者。依下文。皆悉附見任考也。問。下條云。功過灼然。理合黜陟者。雖不滿日。別記送省。未知。與其考何。答。或云。有殊功者。式部隨狀量與考。但常得中中考人。當於今年。*增益戶口。開發田疇。如斯之類。今定可得考第。更加功分。而見其等第。可居中上以上者。亦量可與考。唯未受師說。可求之。問。依律稱公罪流以下。然則公罪死刑仍合論科。未知。科斷之方。答。跡云。依律與失減。所殘合科。若此人遷官事發者。猶附考竝科罪耳。私思。與失減者。罪是爲徒。故徒勿論。但疑因本犯死罪。雖得失減。而仍科罪竝附考歟。但於不失減之色。更不勞考校也。「朱」未決。問。例云。無官犯罪。有官事發。流罪以下。聽以贖論。注云。謂從初位及庶人。而得八位以上位記者。此令云。前任有犯私罪。斷在今任者。同見任法者。未知。任初位官犯私罪。遷八位官斷其罪者。若爲處分。答。古答云。令者爲初位任初位官。八位任八位官生文。所以除免官當負殿等。皆同見任之

〔擅興律之軍興者斬〕擅興律に「凡乏軍興者斬。故失等。」とあり。之は乏の誤なり。

〔古記云問即改任應計前任日爲考者功過竝附又下條云即從見任轉爲別官兼耳前任功過通入後考未知二條若爲別答檢新遷下條者除而不取即畢文也〕即ち之に據れば、古令には、本條の外別に「即從見任轉爲別官兼耳。前任功過、通入後考。」なる條文ありしこと知らる。古記

法。其律者。爲初位及無位而犯罪。任八位以上官立文。所以不用除免官當之例。又不計貢贖者旁。今案。此令爲遷官生文。彼律爲授位立制。依文可習。問。公死罪不失減之色。一端示之。答。擅興律之軍興者斬。律云。故失等者。案之。失是公罪也。問。前任後任。以何日定之。答。遷叙令云。官人至任。若無印文。不得受代者。即明。以印文爲定之。問。律所謂卑官犯罪。遷官事發。在官犯罪。去官事發。或事發去官等。皆有罪得贖。答。私案。此令爲於今任考。以印文爲定。彼律爲原張罪生文。既遷任他司。何不刎論乎。然則除前任斷訖之外。皆以遷代日爲限。縱有印文未到。但犯在前任。依律勿論也。**即改任。應計前任日爲考者。**謂考中改任者。若考後改任者。皆在前任爲考也。釋云。此是考中改任。通計前後。任日在後任爲考也。但專計前任日爲考者。前任後任竝隨便耳。但考限之後遷任者。在前任爲考耳。**功過竝附。**跡云。前任所斷。公罪皆合附。但未斷而遷任者不附也。朱云。私案。名例律云。事發未斷。勾問便即去職。此等三事。犯公罪流以下各例論者是也。問。即改任。應計前任日爲考者。功過竝附者。未知。此於(猶)一年中所犯贖。答。然也。問。功過竝附者。未知。此時斷訖未斷。不論公私罪。皆可附乎者。公罪未斷。猶可免乎何。但依律。問。公罪未斷可免耳。名例情亦可免而何。古記云。問。即改任應計前任日爲考者。功過竝附。又下條云。即從見任轉爲別官兼耳。前任功過。通入後考。未知。二條若爲別。答。檢新遷下條者。除而不取。即知畢文也。一云。改任謂徙他司也。轉任謂昇同司也。二條共合通計前在日數云耳。穴云。即改任。應計前任日爲考者。功過竝附。謂考中改任。通計前後任日。在後任爲考也。但專計前任日爲考者。前任後任竝隨便耳。興人云。云。須於後任考也。何者爲對當司長官合貴(讀)。未(余)故。但考限之後遷任者。在前任爲考耳。可轉。問。上文云。前任有犯私罪。斷在今任者。同見任法。此文云。應計前任日爲考者。功過竝附者。未知。其別。答。前任有犯私罪。斷在今任者。前任私罪。後任斷定是也。應計前任日爲考者。前任公私之罪。於前斷定已了是也。但未斷者。公罪勿論。私罪如上。**注考官人。**謂長官也。

はこの條と本條との區別如何と設問し、新選卽ち養老令を撿するに、この條除かれて无ければ、この二條は累文なることを知るべしと答へたるなり。古記は前述の如く天平九年以後同十二年に至る間に編纂せられたる書なれば、古記の作者は、養老令を見て、之と古令とを比較することに據りて、古令の意を明かにせるなり。

〔登時〕卽時なり、スナハチと訓むべし。唐時代の俗語なり。敦煌律にも「其蓄産欲レ觝二齧人一而死傷者不レ坐不レ償。亦謂登時殺傷者。卽絶時皆爲二故殺傷一」と見えたり。

〔叮嚀生文耳〕上文に「皆須二實錄一」とある以上、その實事を述べて敢て藏不を加ふべからざること當然なりと雖も、猶その事を深く印

釋云。指當時長官「者」。古記云。問。注考官人誰人。答。亦長官也。一云。成案主典是也。讃云。注考官人。謂年長官也。所以言然者。依上條。主典讀申上日行事。*登時長官。取筆准量功過。注考等第。故云注考也。古答。一云。成案主典。謂之注考也。劣。**唯得述其實事。不得妄加臧不。**跡云。得述其實事。不得妄加臧不。謂依主典實錄之狀。可與昇降。不得妄加善惡也。朱云。不得妄加臧不者。未知。臧字正訓何。凡此時行事也。若日別所爲歟。爲當年終所爲歟。先云。年終所爲者。穴云。私案。加臧不。謂主典實錄合理。長官稱不合理。其實錄上加臧不。以可上爲下。可下爲上之類也。古記云。問。注考官人。唯得述其實事。不得妄加臧不。又上文云。皆須實錄。若爲此事累哉。答。得述其實事者。爲稱不得妄加臧不。*叮嚀生文耳。讃云。不得妄加臧不。謂依主典實錄之狀。可爲昇降。不得輙加善惡也。但有實錄不當者非也。**若注狀乖舛。褒貶不當。**謂景迹功狀高而考第下。或**考第優而景迹劣之類。及隱其功過。**謂主典也。言若長官昇降不當者。降長官考。若主典實錄不明者。降主典考。故云。各准所失輕重。降所由官人考。假如。降一等者。卽降所由一等。降二等者。亦降所由二等之類。若降數人考者。唯依一重者降。卽昇者亦准此法。其所由官者。先奪最後降考。餘官者唯奪其最也。問。*依律考校不以實者。一人笞五十。二人加一等。失者減三等。未知。至於降考。故失有別耶。答。據律科罪。雖故失各異。在令降考。卽故失無別。是律令義殊。未可滯執。又問。降考之後。亦依律科罪以不。答。降考訖後。更亦科罪也。釋云。若注狀乖舛。褒貶不當。及隱其功過。以致昇降者。故失幷同舛差也。音尺戀反。又昌戀反。褒進也。音博毛反。貶墜也。音方丹反。各准所失輕重。失讀如得失之失。假如。降一等者降一等。降二等者降二等之類。若降數人考者。唯隨一重降。此條失者無所降。故失共等也。長官所考有失。而判官知不擧者。除臨事兼擧之最。跡云。所失輕重。謂降一等者降一等。若降二人以上考者。依一人重合降。若兩人相當昇降一等者。

集せしめんが爲めに、要錄でこの條文を設けたるなり。

〔依律考校不以實者一人、笞五十、人加一等。失者減三等〕とは職制律、貢舉條の文を引けるなり。

爾人考各降一等之類。貞云。尙可准所由一人考者。私未同。所失謂故失共同。但主典所經有僞妄。而長官不知。而失之致降者。長官考不降。但合求知而不求知。致失除昇降必當最耳。下條云。分番人。本司量其功過。立一等考第。又云。昇降必當爲次官以上最者。然則知。長官合得考番上以上之最。次官止合得考番上之最。若當此時。番上人考得實。主典以上考失實者。長官不得最。朱先云。長官雖昇降主典以上考合理。昇降番上不當者。不得最者。次官合得最。但無長官之日者。次官亦准長官耳。朱云。私此說未同。凡最事條理昇降必當爲次官以上最者。長官在時。猶若次官可得此最乎何。凡最所爲少副以上。少輔以上最者等意何。私案。上云。所失者。故失同。謂假令。〔主典實〕主典實錄之日。有故失增減事。而長官不覺。任增減而致昇降考者。長官考不下。但合除最耳。然此事狀隱微。而案覆難覺者勿論。或主典依法實錄。而不依其狀。謬然致ヵ昇降者。長官考合下。或主典自謬致出入。而長官知失。致仍昇降者。長官主典。但〈但〉被下考耳。凡視自誤人被下考。不覺他誤而致昇降人者。不被下考。可知。是云故失同也。朱云。若注狀乖舛。實降不當者。未知。其志何。若依注狀乖舛。而實貶不當軏不。凡此文。依主典注狀。長官所實貶軏不。先等云。此長官注定考等第。此注狀乖舛。實貶不當者。然則此文。皆長官之行事者何。答。然也。凡此故失無別者。何以所知文之類意一端何。答。聞。各准所失輕重。降所由官人考者。未知。所由官人考。不是所降人考數何。若追降先年考爲當降來年考哉。答。降至下下者。雖不足所降考數。更亦不可降先後年考也。尙止耳。又假。降一等分者。降一等者。計考數可降也。考高下不可准當也。或問。假令。主典最云。勤於記事。稽失無隱。若主典失。增減功過。合降人考。降主典考朝何。答。緣失錯增減功過。自然最除之。又更定主典之可得考等第。准前人降考第級。降一等。二等。更依律科罪。計負殿又降耳。在黄記背。穴云。若注狀乖舛。實貶不當。謂注考長官也。及隱其功過。謂主典實錄之日。雖依法。而至年終。成案之日。有隱失。隱謂故也。失亦同。古私記云也。大夫云。長官若主典俱可有也。准所失。謂下文失實意是也。輕重謂昇一二等考者。亦降一二等之類也。讚先私記解云。私案。此是有意故貶是。仍勘出之當日。降所由官人考也。其無意故。但辯不能而當日被勘返者。同可其論申定耳。乃唱示考第。中太政官。不合降所由官人考。師不依之。尙同故失一同

〔爲當除昇降必當之最〕爲當はハタと訓むべし。昇降必ず當るは長官次官の最なり。下條文あり。見るべし。

〔連座の官〕長官、次官、判官、主典なり。名例律、連座條及び獄令、公座相連の條を見るべし。

〔公問〕公云とあるものと同じなるべし。その人未だ考へず。

之說。但於朝集使。雖無意故。辨答不能。而遂當年令昇降故降耳。問。長官有一最一善居中上。而降人考一等。未知。准輕重降一等。處中中耶。爲當除昇降必當之最。只與一善爲中中。爲降一等處中下哉。答。處中下耳。私案。若有他最者。尙居中中耳。又不處愛憎任心處斷乖理之下上也。師云。若可被言愛憎任心者。隨狀爲下上耳。但大意同上說耳。問、兩人相謀。昇降有從減。答。無從減。假。兩人相量。降人考一等者。兩人考各降一等耳。師云。降爲首之長官一人考。不依此說。問。降所由官人考者。是式部所爲也。未知。彼同「司」餘官及上官不覺等之考何處分。答。私案。文云。所由官人。然同司餘官及上官官人等只降最。不可准所失降。問。餘官等不覺者。此考後之犯。可入來年。何除最由。私答。年中行事所得之最。故據考事者。尙除據餘事者不附。何者准所失輕重。降所由官人考。此雖考後行事。附論故。連坐之官。俱除最也。餘皆入後年考。但於上官等。無由勘知之類不除最也。問。本主昇降資人考何。答。可勘。又問。番上人考得實。主典以上考失實。此長官准輕重降考。又除最。次官爲不預故。不降考。未知。除最以不。私答。爲同連署之文ヵ故。主典以上。俱除最如常。又爲職事不理也。跡云。大夫云。爲昇降必當之最者。問。滿六考成選之年。昇降人考。仍遂或加階或降。是只非考昇降。兼增減其位。未知。有所由官人別科哉。答。不合別科也。尙依考輕重昇降耳。依文所云。又科罪。尙依職制律耳。又問。考課令法。但臨結階時。有成加減者何。答。此非依考昇降。然合別論。非此文所云也。師云。依律科罪。即附負殿降耳。公問。准所失輕重。降所由官人考。未知。上官不勘糺者如何。答。可勘知而不勘正者。依上官不覺科罪耳。即明。管司勘顯者。寔司所由之人。降考科罪耳。在穴記。古記云。問。若注狀乖舛。褒貶不當故失若爲。答。故失等無別。問。及隱其功過。以致昇降者。故失何。答。此謂故也。問。各准所失輕重。降所由官人考何。答。降一等降一等。降二等亦降二等耳。問。數人降考與一人降考。若爲除法。答。不合累降。從一重耳。問。失者若爲降。答。文稱所失。猶同降耳。問。一部律內公事失錯。皆減故三等何。此令條故失等降哉。答。公事失錯。公文有誤。此等本條立罪名。此條。殊乖舛不有失錯。不在有誤與減三等者。既無罪名。所以故失共降耳。讃云。若注狀乖舛。褒貶不當。及隱其功過。以致昇降

者。釋云、故失並同。舛人悲反。野王案。舛差互不齊也。問。假令。主計長官。定次官以下考第進省、省覆檢有昇降不當者。彼省則降主計考哉。答。可然也。可檢。穴云。注狀乖舛。實貶不當、謂注考之長官也。及隱其功過。以致昇降。謂主典實錄之日。強依正法。而至年終抄錄之時。有隱失也。故失同上。古答。注狀乖舛、謂故失無別也。隱其功過。謂故犯也。與大夫云。長官主典俱可有隱失也、爲長。准所失輕重、謂釋云。失、謂知得失之失。假如。降一等者降一等。降二等者降二等之類。若降數人考者。唯隨一重降。此條失者、無所降故失等也。長官所考有失。而判官知不舉者。除應事兼舉之最也。最上條建了、私案。除次官以下　穴案。不能辨答。而當日被勘返者。後日同司共論定。更申者。仍唱示考第也。不可降所由之考。但朝集使雖無意故。不能辨答。遂使當年考昇降故。降其年考耳。可檢。跡案。所失謂故失等者。假令。主典實錄之日。有故失爲增減。而長官不覺。而致昇降者。不降長官考。但止除最耳。如事狀隱伏。案覆難覺者勿論。或主典依法實錄。而長官不依其狀。誤致昇降者。降長官考。或主典自致出入。而長官知情致昇降者。長官主典俱可降考也。凡緣自誤者被下考。不覺他誤者。不被下考。只除最耳。是曰故失同也。此與下說異也。後可檢也。問。長官有一善一最。考居中上。而降他考一等。未知。降考之方。答。先降昇降必當之最。只爲一善降居中中。准所失輕重。亦降一等居中下耳。若有他最者。仍爲一善一最。亦降一等。處中中耳。但不處愛憎任意。處斷乖理之下上也。何者於等別生文故。跡記云。若兩人相課降人考者。兩人之考可降也。又云。主典所注有僞舛者。本司量其行能功過。立三等考第。又云。昇降必當爲次官以上之最者。則知。長官與得考番上以上之案。而長官不知致昇降者。其長官考不降。但合勘知。而不勘知者。除昇降必當之最耳。假有下條云。分最。其次官。止得考番上之最。若當此時。番上之人昇降合理。長上之人。昇降不當者。次官得最。長官除最。但無長官之日。次官亦同長官耳。長上或說。不論長上番上。致昇降不當者。次官以上並除最。而說、是非可檢之。問。降所由官人考者。未知。徒本司之傍官及上官。一端、民部爲上官、主計爲下官也。不覺之考如何處分。答。穴案。文稱所由官人。然則其昇傍官及上官不覺等。止除最耳。又問。上官不覺等。是考後犯也。可入來年。而何除最

〔答文所不云也須准檢諸條〕條文に其の事見えず。須らく諸條を案檢して、その可否を決すべしとなり。

乎。答。穴云。依年中行事。所得考也。而令昇降故爲然耳。凡緣考事者。尙附降考。緣餘事者。不煩附校耳。何者文云。准所失輕重。降所由官人考者。雖是考後。而當年附校故。其連座之官俱除最耳。但於上官等。無由勘知之類者。依律勿論。問。下條云。家令。每年本主。准諸司考法立考。又云。帳內及資人。每年本主。量其行能功過。立三等考第者。未知。本主昇降資人以下考者。降主考乎。答。私案。於家令。准諸司法。降考無妨。但於資人等。降主考難矣。私案。降主考。於事無妨。可問他人。問。考滿成選之年。昇降考加減敍階者。非止昇降考第。兼加減其位。未知。有別科耶。答。不可別科。一依職制律科考校不實罪耳。又問。結階之日。加減其階如何。*答。文所不云也。須准檢諸條。**以致昇降者。各准所失輕重。降所由官人考。即朝集使裒貶進退失實者亦如之。**謂長官所考合理。而朝集使不能辨答。仍降朝集使考。若長官所考乖理。而朝集使亦不能辨答。唯降長官考。爲降所由官人考故也。釋云。長官所考合理。朝集使不能辨答。仍降朝集使考。若長官所考乖理。朝集使不能辨答者。降長官考耳。何者文降所由官人考故。其朝集使在任以來。年別狀迹。隨問辨答。凡降考之法。准所失輕重降外。依律科考校不實罪。更計負殿累降也。跡云。朝集使進退。謂不能辨答考第。而令昇降也。故有愛憎。昇降人考者。止依昇降合降。又合除昇降必當最。不合預處斷乖理之第。朱貢云。愛憎任情。可被云者。依下條可下耳。可案者。未明。私案不同也。何者依昇降考下之法。此條別生文故也。朱或云。但下條爲自條判斷乖理下法耳者。未知。可求私案同也。朱云。問。裒貶進退幾事。或云。一事者何。答。裒進貶退。然則一事。私案。裒進與貶退二事歟何。凡選敍令初條。以六考遷代條。考課令初條。此條其別何。私案。可知。各意別耳。穴云。朝集使裒貶進退失實。謂辨答不能致昇降。是裒貶進退者。昇降一種。但注文體猶如之耳。問。朝集使在國。定考之日。有相論革哉。答。不合。但察其狀迹耳。其就中昇降不當者。相論如常耳。問。下條云。若考當下第。有狀不盡。量校難明。附使勘覆善惡。待後年摠定者。彼色如何。此朝集使辨答。不能令失實者如何。答。凡使得辨答。仍令

升降者。此文所云。若不得辨答。覆校難明者。依下條論。下述其義。降所由官人考。總有二種之義。雖有註狀𢑥舛。升降不當。及隱其功過致升降。或故或失二。又依理定等第。而之不審考狀。而仍致令升降。一總三事。假令。長官故失。升降人考。省勘校之次問使。使同長官辨答。後事發者。准輕重降長官考。使者只隨升（最カ）。若使依理辨答。令改所失者。只降長官考。使無過也。或長官依理定考第了。准考狀不量功量過。使不申改其由。任考狀至令升降偏徧者。事緣使之褒貶。案職制律。考校不實。減一等。應附負殿不附。至令有升降者。亦知之者。今論實。過緣長官主典故。罪者失減科考者。依文准輕重。降所由官人也。然則於長官論者故升降。一事。失升降一等以上。一事。雖任實定。而依考狀。應附不附。考狀令升降一事也。已上降考。或覆校難明。待後年定。一事也。不降考。此總四事耳。但長官任實定等第。又考狀無𢑥舛。唯不委考狀。有觸事可勘問。勘問之次申云。此誤進考狀。令更可改狀云云。省依辨答升降此使過耳。故降使考。但量功量過者非也。上解了。即其中有故失耳。古私記云。狭校。私不申降使考。無所愛憎者。只所由降者考。古記云。問。即朝集使褒貶進退失實者亦知之。若爲。答。朝集使不在所褒貶。唯長官所褒貶有不當者。必亡隸合改正。今實不當考文來。所以降朝集使考耳。何以知者。下條云。大貳以下及國司。毎年分番朝集。所部之内。見任及解代。皆須知。其在任以來年別狀迹。隨問辨答。依此文。朝集使一事以上合知也。問。降使考時者。國所由考若爲。答。文不及國。故朝集使獨降耳。一云。假有國史生三人。各寫紙三百張。並

國史生各寫紙印判事

有別當。又一人寫二百紙。並遣使他所。式部省考問。日寫二百紙者劣。三百紙寫此當何。合同等也。即朝集使挾私云云。國司定日。雖思不當。不得述懷。今被勘問。國司略不合同等。如此類申降。所以降朝集使考耳。不然者。降國長官考。凡長官所考。既合正理。主典所注𢑥舛。以致升降者。降主典考。所以文云各准所失輕重。降所由官人考。即朝集使褒貶進退失實者亦知之。此是不合連坐。唯長官主典及朝集使。各以所由降耳。一云。不能以其事。使曰披陳委曲。即使挾私不申功過。致有升降考耳。但至者無所愛憎者。以所由降耳。問。褒貶進退若爲別。答。一種無別。唯細云者。褒貶謂一等二等。進退謂一等已而。大

〔注云〕職制律、貢擧條の本注なり。

言而一種耳。讃云。朝集使褒貶進退失實亦如之者。釋云。長官所考合理。朝集使不能辨答。仍降朝集使考。若長官所考乖理。朝集使不能辨答者。降長官考耳。何者文云。降所由官人考故。其朝集使在任以來。年別狀迹。隨問辨答。凡降考之法。准所失輕重降。外依律科考校不實罪。更計負殿累降也。案之。依除一最。又合除〔降〕一等。問。何時。降朝集使考哉。答。古答。一云。假令。國有史生三人。二人各寫三百紙。並有別當所。一人寫二百紙。並遣使他所。而省考問曰。寫三百紙者此優也。寫二百紙者此劣也。何居同階哉。于時使答云。國考定曰。雖思不當不得述懷。今被勘問不可同等。如勘〔斯カ〕之類。降朝集使考耳。不然者降長官考耳。凡長官所考合正理。主典所注乖舛。以致昇降者。降主典考。所以文云。各准所失輕重。降所由官人考。凡降考者。唯長官主典及朝集使。各以以所由降耳。不同連坐之例。一云。不能以書盡事。使口披陳委曲。即使不委。而令昇降者。降使考耳。但至省無所增減者。降所由考耳。跡記云。朝集使褒貶。進退失實。謂不能辨答。令考昇降也。褒貶進退一事。但文體相副耳。古答。褒貶者二三等。進退者一等「而」已。大云。一種耳。未審。私案。褒貶進退失實者。褒貶人景迹功過。而進退其考第是也。案上褒貶不當注文。知之也。可案。問。朝集使在國定考之日。有相論乎。答。不合。但應知狀迹。爲可辨答故也。若有昇降不當者。相論如常也。問。下條云。若考當下第。狀有不盡。量校難明者。附使勘覆善惡。待後年摠定。此條云。朝集使褒貶失實者亦如之。未知。二條之別。答。穴云。凡使得辭答。而令昇降者。依此條論。若不能辨答。量校難明者。依下條論。其義下述訖也。凡降所由官人考。摠有三種之義。何者注狀乖舛。昇降不當。及隱其功過致昇降。或故或失二。又任理定等第。不審考狀而致昇降三。假令。長官故失。昇降人考。省考校日。問使者。同長官辨答已訖。于後事發者。准失輕重降長官考。其使者只降最。若使依理辨答。令改其失者。只降長官考。使者無過也。或長官依理定考第了。唯量功量過。不注考狀。而使者不申其狀。徑任考文令昇降者。偏論其怠事緣使者。職制律云。考校不實減一等。注云。負殿應附不附。及不應附。而附致考有昇降者。罪亦同。今論實者。過緣長官主典故。於罪者與失減。於考者降所由耳。然則於長官論故昇降一。失昇降二。昇降雖依實。而不注考狀。令致昇降三。以上降考之色

也、或量校難明、待後年定、是不降考之色也、但長官任實定等第、亦依實注考狀、而省解事勘問、使者申云、謬濫考文、可改之狀云云、省依辨答、以爲昇降此使者過也、故只降使者考耳、古私記云、挾私不申、降使者考、無所愛憎者、

降所由考、爲劣也、

令集解卷十八

本云

弘長元年三月十九日雨裏於春日社神主館見合本書粗加首書了

中宮大夫藤　在判

金澤文庫

建治二年四月一日引正親町本校合了

慶長四年蒲節十一日課少外記賢好令校畢

吏部清原秀賢

寛永十一甲戌初冬下澣課他筆令書寫中原職在一校了

大府侍郎中原職忠

萬治辛丑仲春初九遂一校畢

羽林中郎將藤原

右者以河邑秀興先生之御本書寫校合者也

越智通邦　印

明和四年亥季冬
戊子春以朝倉氏本一校了
乙未二月四日一會了
文政三年六月以彰考館本校了

撿挍保己一

〔黃霸〕その傳、漢書、卷八十九、循吏傳に見えたり。
〔鮑永〕その傳、後漢書、卷二十九、列傳に見えたり。
〔廉范〕その傳、後漢書、卷三十一、列傳に見えたり。
〔宋景公〕その傳、呂氏春秋に見えたり。
〔六德〕智、仁、聖、義、忠、和の六つの德目なり。周禮、地官の條に見えたり。
〔皇侃云〕梁の皇侃の撰せる論語義疏に云ふの意なるべし。

令集解卷十九

善條以下。一最以上條以上。

考課二

德義有聞　謂德者得也。性得高行。義者宜也。裁制合宜。二者相須。乃得稱善。以下三善亦合相須。假如。黃霸守尹。瑞鳳集國。劉昆作宰。猛虎渡河之類。是德也。鮑永引車。哭於舊君。**五常事**廉范下馬。屬於窮使之類。是義也。釋云。德義。釋名曰。德者得也。得事宜也。人有博愛之德。謂之仁。有義斷之德爲義。有明辨尊卑敬讓之德爲禮。有言不虛妄之德爲信。有明了之德爲智。是五常之道。不**義事**可變革也。心動於內。出則由道。故道德之字。恆相將也。義者宜也。裁制合宜也。易繫辭曰。理財正辭。禁民非爲曰義也。德義相須。乃得稱善。以下三善。亦可相須。假令。宋景公徙星三舍之類。所謂德也。臧文仲如齊告糴之類。所謂義也。**德義者內外稱事**案德義之行。無所不兼。其有德必有義也。然則德義者寧是內外稱乎。德義不相須者。難文恪勤公平。檢其行事。各一事相須者非。然下文云。一最以上有四善者。即知。不約下三善。貞何事顯爲言名耳。穴云。德義有聞。謂衆人聞知也。德義猶德也。爲一物也。假令宋景公徙星三舍可云德行。此尚不足云德也。但六德心耳。故稱此云德。於聖主至德要道爲劣。義宜也。德義一物耳。言德行合云德行。但令釋一端亦有義耳。問。東宮傳及篤道貞專人等。任職之後。得德義者哉。答。德義謂賢人是內外稱。德者六德也。智仁聖義忠和是。義即德之內稱耳。故云一物也。見周禮也。臧文仲如齊告糴。不君子言行合法則是。若不及此者。不在此例。景狀論耳。古記云。德義。曲禮曰。德者得理之稱。論語云。德行顏淵閔子騫。德者得也。自得於心。心動於內。出則由道。故道德之字。恆相將。皇侃疏云。五常謂仁義禮智信也。就五行論人。稟此五氣而生。則備有仁義禮智信也。人有博愛之德。謂之仁。有嚴斷之德爲義。有明辨尊卑敬讓之德爲禮。有言不虛妄之德爲信。有照了之德爲智。是五常之道。不可變。雜。革也。釋

名曰。德得也。得事宜也。老子曰。上德不德。是以有德。下德不失。是以無德。毛詩云。德輶如毛。民鮮克舉之。左傳云。國家之敗。由官邪也。官之失德。寵賂章也。呂氏春秋曰。**宋景公熒惑云舍事**宋景公時。熒惑在心。公問子韋。對曰。禍在君可移宰相。公曰。宰相所與治國家也。曰。移於民。公曰。民死誰與爲君。曰。移於歲。公曰。歲饑民必死。子韋北面再拜曰。臣敢賀君。天處高而聽卑。君有至德之言三。天必三賞君。熒惑果徙三舍。九十里也。釋名曰。義者宜也。裁制事物。使合宜者也。易繫辭曰。理財正辭。禁民爲非曰義。王弼曰。義猶理也。*太公六韜曰。**義者與人同好惡事**與人同好同惡者義也。義之所在天下歸之。*新序曰。白公之難。楚人有莊善者。辭其母。將往死之。其母曰。棄其親而死其君。何謂義乎。莊善曰。吾聞。事君者。內其祿而外其身。今所以養母者。君之祿也。身安得不死乎。遂辭而行。比至公門。三廢車中。其僕曰。子懼矣。曰懼。懼則何不及(反)乎。莊善曰。懼者吾私也。死君公(吾)義(公)也。吾聞。君子不以私害公。遂至公門。刎頸而死。君子聞之曰。好義乎哉。德義不相離也。

者。爲一善。

清愼顯著

謂清者潔也。愼者謹也。假如。*楊震暗(闇)夜辭金。*胡威歸路問絹之類。是清也。*孔光典機。不語溫樹。*樊宏謡闕。無謬鐘漏之類。是愼也。釋云。清愼。釋名曰。清者青也。去濁遠穢色如青。廣雅曰。愼恐也。假令。楊震闇夜辭金之類。所謂清也。*阮籍口絶臧否之類。所謂愼也。穴云。清愼爲二事也。具如令釋也。二事相須也。言。清者不有要愼。但愼者必有清耳。其楊震清愼相包人也。古記云。清愼清廉也。釋名曰。清青也。去濁遠穢色如青也。濁瀆也。廉斂也。自檢斂也。左傳曰。宋人或得玉。獻諸子罕。子罕弗受。獻玉者曰。以示玉人。玉人以爲寶也。故獻。子罕曰。我以不貪爲寶。爾以玉爲寶。若以與我皆喪也。不若人有其寶。家語曰。曾子弊衣而耕於魯。魯君聞之而致邑焉。曾子固辭曰。吾聞。受人施者常畏人。與人者常驕人。縱君有賜。不我驕也。吾豈能勿畏乎。孔子聞之曰。參之言。足以合其節也。後漢書曰。**羊續受生魚懸庭事**羊續字興祖。太山平陽人也。爲南陽太守。常弊衣薄食車馬羸敗。府丞嘗獻其生魚。續受而懸於庭。丞後又進之。續乃出所懸魚。以杜其意也。謹愼也。毛詩曰。敬愼威儀。惟民之則。太公金匱。

〔太公六韜〕日本國見在書目錄に「周文王師姜望撰」とあり。蓋し隋書經籍志に據れるなり。漢書藝文志に見えず。六韜は、文、武、虎、豹、龍、犬の六篇より成るを以て名づく。戰國以後に成れる僞書にして、太公望の作にあらざることは、古今僞書考に詳かなり。

〔新序〕漢の劉向の撰なり。百家の傳記を取り、類を以て集めたるものにして、雜事五篇、刺奢一篇、節士二篇、善謀二篇に分る。今傳はるものは、大抵嘉靖二十六年の刊本なり。享保二十年、平野玄仲の飜刻本あり。この書、日本國見在書目錄に見えず。本書の引用に據りて王

武王問師尙父曰。王帝之誡。可得聞乎。師尙父曰。黃帝(曰弟)之居民上。搖搖恐久不至朝。故爲金人。緘緘其口。曰愼言語。堯之居民上。振振如臨深淵。舜之居民上。矜矜如履薄氷。禹之居民上。慄慄如恐不滿日。湯之居民上。翼翼[illegible]不敢息。吾聞之也。道自微而生。禍自微而成。愼終如始。見(貞)如金城也。淸愼不相離者。**者。爲一善。**

公平可稱　謂背私爲公。用心平直。假如。趙武擧以私讎。祁奚薦以己子之類。公平也。釋云。公平。說文云。公平也。韓非子曰。背私爲公。假如。咎犯擧以己讎。祁奚薦以己子之類。所恪勤尺謂公平。穴云。公平爲一事也。不被謂相須也。古記云。公平。呂氏春秋曰。晉平公問祁黃羊曰。南陽無令。其誰可。對曰解狐可。黃羊晉大夫。祁奚之子。公曰。非子讎耶。遂用之。公又問曰。國無尉。其誰可。對曰。午可。公曰。非子之子耶。遂用之。孔子聞之曰。善哉祁黃羊之論也。外擧不避讎。內擧不避子。可謂至公矣。舜有子九人。不與其子而授禹至公也。呂氏春秋曰。昔。先聖王之治天下。必先公。以公則天下平矣。平得於公。法云。得猶出也。嘗試觀於上志。法云。上志古記也。有得天下者衆矣。其得之必以公。其失之必以偏。偏謂私不正。書稱。無偏無黨。王道蕩蕩。言至公也。古有行大公者。帝堯是也。得舜而傳之。不私於子孫。蓋人君之公。夫以公與天下。其德大矣。人臣之公。治官事則不營私。處公門則。不言貨利。當分法不阿親。奉公事不仇讎。忠於事君。是之謂公也。**者爲一善。**

恪勤匪懈　謂恪敬也。盡力曰勤。假如。馮豹奉事。通宵伏閤。車馬從政。戴星居官之類。恪勤也。穴云。恪勤。謂開門前上。閉門後下。卽此意耳。不合執令釋心也。私案。雖計日足(其二百卅(日))日。餘日之中。有無故不上一日者。不云恪勤耳。釋云。恪勤。爾雅云。恪敬也。杜預注左傳云。盡力無憂爲勤。假如。馮豹奉事。通夜伏閤。車馬當官。戴星居職之類。所謂恪勤也。古記云。恪謹也。律疏議曰。大將吏恪居官次。夙夜在公也。襄廿三年左傳云。恪居官次。杜預曰。次舍也。邵南采蘩云。夙夜在公。鄭箋云。公義也。四善並須。衆人悉知。然後成善。一得以後無所犯者。永得善名。但恪勤一善。當年

朝に渡來せることを知るなり。

〔[illegible]〕その傳、後漢書、卷四十四、列傳に見えたり。

〔胡威〕その傳、晉書列傳第六十、良吏傳に見えたり。文獻事類、卷二十二には瑚玉集を引きて、胡威の事蹟を載せたり。

〔孔光〕その傳、漢書八十一、列傳五十一、匡張孔馬傳の中に見えたり。

〔[illegible]〕その傳、後漢書列傳二十六に見えたり。

〔[illegible]〕竹林七賢中の一人なり。その傳、晉書に見えたり。

〔祁奚〕祁奚は晉の祁黃羊の事なり。その事蹟、呂氏春秋第一及び春秋左氏傳襄公三年の條に見えたり。

〔[illegible]〕その事蹟、春秋左氏傳襄公三年の條に見えたり。

〔馮豹〕その傳、後漢書列傳十八に見えたり。

〔巫馬〕その事蹟、呂氏春秋卷二十一に見えたり。

〔開門前上閉門後下〕宮衞令に「凡開ニ閉門一者、第一開門皷擊訖、卽開ニ諸門一。第二開門皷擊訖、卽開ニ大門一。退朝皷擊訖、卽閉ニ大門一。」云々とあり。

〔律疏議曰〕唐律疏議なるべし。唐律疏議は、高宗の永徽三年五月、太尉長孫無忌、司空李勣等凡そ十八人に詔して撰定せしめ、同四年十一月に成りたる永徽律の註釋書なり。三十卷より成る。唐律の今に傳はるを得たるは、實にこの書の存するに據る。

〔其淸愼之善當朝得人守部大夫獨也。〕守部大夫は大學博士正五位下守部連大隅なるべし。大隅は卽ちもとの鍛冶造大角なり。その傳職員令集解に揭げたり。

宜得。不必積年之也。其*淸愼之善。當朝得人。守部大夫獨也。問。德義之行。無所不兼。若得德義之善者。自然得下三善以不。答。文云。一最以上。有四善者卽知。不約下三善。須每事顯爲善耳。

者。爲一善。

最條。此中有卅二條 義解云。最總有卅二條。*凡最者八字相須。乃得成最。假如。玄蕃寮。雖蕃客不來。猶得僧尼合道。蕃客得所之最。擧一以言。餘准須知。其方術之最。以四字成。假如。陰陽師最。占效驗多之類也。釋云。師說曰。相須八字。乃得成最。依無可行之事不行者。猶可得最。餘皆放此。假有。玄蕃蕃客全無。僧尼合道。如此之類。亦備八字。以爲最名。擧一而言之。餘皆放此。一云。縱有四字。亦得最名也。

神祇祭祀不違常典。爲神祇官之最。釋云。祀典不闕。縱闕餘事。猶與最耳。但依律科罪計殿降耳。或說。待成餘事。得最者非也。朱云。未知。餘職掌全了。更亦與最不。或云。雖餘職掌全行。更亦不與最。又祭祀不違常典者。雖餘職掌闕失。猶與一最。何者爲祭祀之事重。別更擧顯。依尤重一事與最也。更亦不加除也。與餘司別者何。古記云。問。神祇祭祀。不違常典者爲最。於「檢」職掌攝(構)庶事若爲。答。諸事皆預祭祀事。所以稱祀爲本。須成諸事得最耳。謂少副以上。

大納言事

獻替奏宣。議務合理。爲大納言之最。跡云。大納言最八字言。落一言者。不合得最。但依無可行之事。不行者。猶合得最。餘官皆放此耳。「參議庶事敷奏宣旨侍從獻替」朱云。爲大納言之最者。則知。右大臣以上不預最例也。*但外記錄上日耳。爲給祿者。貞云。八字四字兩記二可存耳。穴云。合理之字。不預獻替奏宣事也。其右大臣以上考不合也。只注上日耳。假。太政官外記雖檢出太政大臣以下。右大臣以上稽失。不合(令)實錄景迹功過。又大臣以上。愛憎任情。處斷乖理。居官謟詐。貪濁有狀等。不合以景迹論之類也。古私記云。有四字而雖無四字事。可得最者。旣記八字

右大臣以上不預最例事

愛憎任情

〔凡最者八字相須乃得最〕最一以下最條皆四字の二句より成る。神祇事職、不正當無といふが如し。この二句の要件兼ね備つて最を爲すなり。

〔但分番[illegible]十日[illegible]給[illegible]者〕[illegible]令に「凡[illegible]文武職事、長上官、[illegible]分番、皆依官位給[illegible]。自八月一日至七月卅日[illegible]上日一百廿日以上者、[illegible]給[illegible]」云々とあり。故に右大臣以上最例に預らずと雖も、外[illegible]十日を[illegible]するなり。

耳。余條放此。一云。以四字亦注耳。兩說。大夫云。以四字注者。此云亦。何者若然者。大平之歲(年)。而歸之最。何得注耶。見无(奏)可行事年者。雖無行。以八事與最。若有行事(年)已失者闕四字。故除最。古記云。問。議務合理。而不獻替奏宣。得最以下。答。可獻替不爲者。不可得最。但無可爲事。不作者得最。問。有奏宣而無獻替。唯可得最。未知。記文之體若爲。答。有四字。而雖無四字事。可得最者。既記八字耳。餘條放此耳。一云。以四字亦注耳。

承旨无違。吐納明敏。爲少納言之最。跡云。承旨謂當事之時物可不之狀而不妄誤耳。朱云。承旨正文可求。古記云。問。雖奏一度之事。得少納言最以不。答。一考之內。待奏數事。乃可得最。

受付庶務。處分不滯。爲辨官之最。謂少辨以上。朱云。受付庶務謂受付。攝諸司并官。處分事不滯者。只爲處分者。穴云。問。不滯之字。受付以下。承文賦。答。可然也。又問。職員令云。糺判官內。謂尋常事。未知。此文處分不滯。處約臨時事哉。答。私案。凡施行文書。皆自辨官出入。其中上施下滯者。皆不得最。大夫云。受付謂文書也。處分謂事之處分。古記云。問。不滯與不停。其別若爲。答。一種無別。

侍從覆奏。施行不停。爲中務之最。謂少輔以上。朱云。未知。一躡何事可施行。答。詔勅施行耳。穴云。施行。詔謂勅也。

〔銓衡之於錙銖〕銓衡は、衡器に掛けて重量を計ることなり。錙銖はともに量目の單位にして、一錙は六兩の重さを云ひ、一銖は一兩の二十四分の一の重さを云ふ。何れも小量なり。

〔覆囚使〕太政官より國府に道別に派遣せらるる使にして、國の斷ぜる徒以上の罪を覆審し、兼ねて諸國の斷罪行刑の不如法を糺彈することを掌る。その事獄令に見えたり。

〔允愜〕妥當の意なり。マコトニカナフと訓む。

〔或說謂奏任以下勅任者非何者唐令云應選者皆責狀試練會有犯者具注犯由銓試訖五品以上及計階至五品者並引見此令既除此令文明勅任者待勅裁耳也〕この解釋は、全く日本令と唐令とを比較することに

銓衡人物。謂銓衡者銓量也。衡平也。人物者猶云人也。言司選之於才能。猶*銓衡之於錙銖。故謚云(言)也。釋云。銓衡所以稱量輕重也。已解〔近〕上。人物者士人之稱也。諸子記傳稱。有知人之鑒。以爲長。於人物不可具舉。謂銓衡文官之內人物。知其職度。隨事差充耳。假如。明法之吏遣*覆囚使。清廉之人。使勘財物之類。是謂銓衡人物。或釋云。銓衡也。所以稱量輕重也。人物美士之稱也。猶劉向人物志也。謂銓衡文官之內人物。知其識度。隨事差充耳。假如。明法之吏。遣覆囚使。清廉之人。使勘財物之類。是謂銓衡人物也。**擢盡才能。爲式部之最。謂少輔以上。**釋云。秀才明經進士明法。隨其才業。試練定科。及擬郡司人。適分簡謂(課)試。取優捨劣。公正無私之類。是謂擢盡才能。唐令。此最爲選司。彼此不同。何能允*愜。或*說。謂奏任以下也。勅任者非。何者唐令云。應選者。皆責狀試練。會有犯者。具注犯由。銓試訖。五品以上。及計階至五品者。並引見。此令既除此令文。明勅任者待勅裁耳也。朱云。銓衡人物。擢盡才能。爲式部之最者。未知。此簡定令(合)職人中官歟。又銓衡官人中。爲當廣泛散位以下中銓衡哉。答。爲任用官。〔銓衡散位以下中耳。又官人之才可知也。問。此文。勅任以下皆同哉。答。皆同。但承上宣可銓衡。具狀選敍令讀了。穴云。問。擢盡以上番上以上相約也哉。答。案兵部條稱武官。然則此條。亦可謂主典以上也。假如。八位以上嫡子。定二色及三等之簡。若定不如法者。爲非主典以上故。倚得最之類也。此條。職制律選官乖於舉狀條。官人以上是也。後案。番上以上也。擢盡才能。謂試練貢人等。並依考文。核知文官才能也。古記曰。問。銓衡人物。擢盡才能。其別若爲。答。爾雅曰。好人謂之人物。猶劉*向人物志是。凡人有文武所能及有犯。皆注附考文。補官之日。太政官令式部省舉可用人。則式部檢考案悉抄出。又選敍(任)令云。凡應選者。皆責狀試練。會有犯者。具注犯由。銓擬之日。先盡德行。德行同者。取才用高者。才用同者。取勞効多者。則式部具錄可用狀申送。仍官補任耳。謂之銓衡人物。擢盡才能也。

僧尼合道。謂合於佛道也。釋云。謂合僧尼令耳。僧尼謂天下皆是也。跡云。合道與弗擾。一同也。僧尼謂天下皆是也。朱云。犯狀不顯聞。常可思合道。古記云。僧尼合道。謂六時合道行道。讀經禮拜之類之也。

譜第弗擾。謂治部掌本姓。解部掌譜第爭訟。故舉以爲最名也。釋云。譜第弗擾。謂有所爭訟。能決斷從正。縱有實擾。無由勘知者非者。穴云。弗擾謂所爭訟。能決斷從正也。無由勘知者。倘得最。問。後年不合道。及譜第擾等事發者何。答。不合追改。前考爲非故詐得故。但於事發年。依當法計負殿降耳。問。依發前年不合道事。附當年考除最哉。答。然耳。自余諸司放此也。私案。不合得善最。前詐不得善最者。依下條追改也。雖實僧尼不合道。實擾譜第。无由勘知。得考後。其事發者不追改。不又合除當年考。依例考課故。古記云。譜第弗擾。謂有所爭訟。能決斷從正也。**爲治部之最**。謂少輔以上。

戸口不濫。謂據勘籍帳。令無脱漏及冒名也。釋云。戸口不濫。與上弗擾意同耳。假有無脱漏冒名。而身與帳相合也。穴云。戸口謂家人奴婢以上皆是也。不濫謂無增減隱没詐冒之類。皆是也。古記云。戸口不濫。謂有稱無稱有。冒名別籍兩貫之類。能勘正不漏也。**倉庫有實**。謂諸國所支租稅雜稻。舉息如法。令無懸欠也。釋云。諸國所支。租稅雜稻。如法。舉息使無欠損。是謂倉庫有實。或有不善。國司私自隱截。而民部勘出。課令(合)推徵如此之徒。非是者過至得善最。於理無妨也。跡云。有實謂天下出納數。皆依帳而檢知耳。穴云。有實謂以帳勘知。令(合)無隱詐是也。凡雜稅皆是也。令無奇詐。謂之實也。余如令釋云也。古記云。倉庫有實。謂雖能勘稅帳。倉庫無實。不合得最。一云。雖無實。而勘求不漏。推徵者。令(令)最也。**爲民部之最**。

よりて生じたる解釋にして、後世令を文理的に解釋するのみにては、斯かる結論に到達することを得ず。されば當時の法律家は、恰も今日の民法學者が獨逸民法を研究する如く、唐令を研究したるなり。

〔劉向人物志〕劉向は劉劭の誤りに非ずや。劉向は後漢の人、劭は魏の人なり。日本國見在書目錄、廿七名家の條に「人物志三卷(劉劭撰)」とあるもの、即ち之なるべし。漢魏叢書中に收めらる。九徵、體別、流業、材理、材能、利害、接識、英雄、八觀、七繆、效難、釋爭の十二篇より成る。

〔戸口謂家人奴婢以上皆是也〕家人奴婢は本主の所有物たると同時に、本主の家口の一員たり。當時の戸籍計帳には、本主の戸口の中

に奴婢を記載せり。獄令に「凡流移囚、在レ路有二婦人産一者、並家口、給二假廿日一。家女及婢、給二假七日一。」とある如き、即ち家人奴婢が本主の戸口の一員として認められゐたる一證なり。

〔冒名〕免税の特典ある人の名を冒し、或ひは僧尼、官吏の名を冒して、租税を免れ、入道、蔭位の特典に與るものを云ふ。

〔別籍〕戸婚律に「凡祖父母父母在。而子孫別籍異財者徒二年。」云々と見えたり。

〔兩貫〕戸令に「其先有二兩貫一者、從二本國一爲レ定。唯大宰部內、及三越、陸奥、石城、石背等國者、從二見住一爲レ定。」云々と見えたり。

〔租稅雜稻〕正稅及び雜稻の意なり。正稅は國衙の貯穀の大本にして、貢獻の物をととの

謂少輔以上。

銓衡武官。謂知將吏之材略。備預諸非常。其武擧出身。隨材練擢亦是也。釋云。銓衡武官之內。將吏知其兵略。准擬非常。假如。權謀之士。預備將軍。勇力之人。名爲戰卒(士)之類。文武擧出身。隨能試練。取舍合理。明無偏頗之類。是謂銓衡武官。朱云。銓衡武官。與銓衡人物。其別何。答。穴云。銓衡謂銓擬武官。任用其職也。兵衛每至滿考。兵部校練。隨文武所能申官。堪理時務者申官處分者。卽知。番上以上。軍穀國司。簡取申兵部。兵部銓擬奏任也。令釋云。權謀之士。預備將軍。謂銓衡將軍是也。古記云。銓衡武官。軍防令云。凡兵衛。每至考滿。兵部校練。隨文武所能。具爲等級。申官。堪理時務者。量才處分也。其主典已上。於(檢)考選狀。如式部耳(之)也。

調充戎事。謂調習軍容。充備火(兵)具也。釋云。調習軍人。充備兵(火)具。是謂調充戎事。跡云。調謂調衞府等弓馬也。戎事。如令釋解。朱云。問。調充戎事者。京諸國皆相須爲最乎。穴云。調充戎事。謂調習兵士衞士等也。言調習陣列也。充備軍器是。但調習充備者。本司及國司所掌。去年帳與今年相誤之屬。令(本)此以重事故爲最名也。問。案令條。兵部不掌調習陣列之。而何有此最乎。大夫云。兵部自無掌調習。但案之。衞士「府」調習陣列。幷不調習者。兵部勘知。可降其考之。而不降。因斯。兵部考降耳。但兵部勘出。而降其考者。不更降兵部考耳。私其兵衞戎事不在此例也。古記云。調充戎事。謂公私戎具。軍防令有文(之)也。**爲兵部之最。**謂少輔以上。

決斷不滯。朱云。決斷。一歟。二歟。古記云。決斷不滯。謂速決其事也。**與奪合理。**穴云。決斷與*奪一事也。以不滯與合理。爲別也。問。與奪失錯後擧原其罪。未知。與最以不。答。罪已放免得最無妨也。古記云。與奪合理。斷事合法式「之也」。**爲刑部之最。**謂少輔以「上」及判事。朱云。未知。少判事以上

〜、官吏の公廨に充て、時の非常に設ふ。雜稻は、之を出擧して、その利稻を以て特定の費用に充つるものにして、弘仁延喜の主税式に、諸國雜稻の目とその束數見えたり。
〔出擧〕利息を擧ぐるの意なり。出擧と云ふに等し。
〔私出擧〕國司等が公以外に官私稻を出擧して利を貪る事なり。雜令に曰、即ち「凡欠二負官倉一應レ徵者、若分付欠損之徒、未レ離レ任者、納二本倉一。已去レ任者、隨レ便徵、任、充二本國一便納送京一用、不レ須二在任去任一納レ京。」なる條文見え、又類聚三代格、卷十四に、私出擧を禁斷せる寶龜十年十一月官符見えたり。
〔雜稅〕租庸調以外の租稅にして出擧稻、義倉、權稅錢等を云ふ。賦役令義解、調物及租雜稅

斷。若相遷任。皆私少判事以上耳。

諸於修置。謂安置得所也。**明於出納。**穴云。明於出納。謂或欠或乘。並是不明也。假甲倉乘乙倉欠。爲不通計故。尚除最也。問。於内藏無別條。縱不謹及不明。尚得次官以上。判官以下最哉。答。私案而耳。**爲大藏之最。**謂少輔以上。

堪供食産。謂供御雜膳謂之食。宮田及園池所生謂之産也。古記云。所須。色別準擬。至於供用。皆能堪之也。朱云。問。堪供食産。只爲御食歟。又産者爲宮田歟。又諸司給飲食等。闕失何云。**催治諸部。**謂治灌治也。部所部也。宮内所管。多是供奉之司。其事尤重。故爲最名「也」。釋云。治灌治也。部所部也。宮内所管多是供御飲膳之司也。供御之物。清潔爲先。是以職掌之内。舉其尤重。以爲最名。餘皆放此。或說。催治諸部。謂所管諸司作部也。又贄*戸之類。（或本不若甚。僞人讀「皆」）跡云。諸部。諸所管諸司皆是也。催治謂所管之諸司内。供奉之物闕之識（或）。諸司人。當無奉事有失者。宮内不合得最。穴云。本司無品嘗（掌）不嘗（掌）（當）。及不清潔等。並非堪供食産及催治諸部。故不與最也。古記云。催治諸部。謂所管諸司作部也。又贄戸之類也。**爲宮内之最。**謂少輔以上。

訪察嚴明。穴云。訪察謂不要巡行訪察也。由清風俗。是亦訪察耳。**糺擧必當。**跡云。謂糺顯當理耳。**爲彈正之最。**謂忠以上及巡察。朱云。未知。依一人能巡察以上者得最。若求所由與最。凡余諸司亦何。答。古記云。問。注巡察以上。答。少忠以上也。

條に「謂出擧稻、及義倉等是也。」と見えたり。

〔與奪失錯後擧原其罪〕與奪は生殺與奪にして、判決と云ふに等し。獄令に「凡諸司斷レ事、悉依二律令正文一。主典撿レ事、唯得レ撿二出事狀一。不レ得三輙言二與奪一。」と見えたり。後擧とあるは後に覺擧することなり。覺擧に就きては、名例律に「凡公事失錯。自覺擧者。原二其罪一。應二連坐一者。一人自覺擧。餘人亦原之。」云々と見えたり。

〔贄戸〕ニヘべと訓むべし。贄なる漢字は、人に相まみゆる時に執るところの禮物を意味すれども、我が國にてはこれを天子の供御及び貴人の食料を意味するニヘなる語に充てたり。ニヘべは即ち供御の物を調のへる品部、雜戸にして、網引、江人の類なり。その事、職員令

興崇禮教。禁斷盜賊。釋云。假有。外國丁夫。入京犯法。既非所部。得最無妨也。跡云。此*興崇與大宰興行一種也。禁斷。謂他堺人。盜部堺之物皆同。若行盜賊以後。能獲斷決者。不合除最。但卅日以後獲斷者。爲科罪故合除最。穴云。盜賊二事也。余放先私記也。縱雖能追捕。尙爲不禁斷也。古記云。問。禮義興行。誰興行。答。京內百姓興行耳。爲京職之最。謂亮以上。

監造御膳。謂亮以上及奉膳爲監。典膳爲造也。古記云。問。監造御膳。若爲別。答。監謂亮以上。造謂典膳以上也。問。官員令奉膳職掌云。知御膳。若爲別。答。造與知無別。細書而辛苦之味。具知耳。淨戒無誤。謂不犯食禁也。釋云。大內一膳。同得此最。比其職掌。不可相關。但以供御雜珍大膳所掌。供御事重。因爲最名也。跡云。內膳奉膳者。自合加監造。大膳如令釋解。穴云。不品嘗及將雜藥。至御膳所等。並是不淸戒故。不與最。爲主膳之最。謂亮及典膳以上。穴云。問。女司典膳何處分。答。女司善最不文明也。別勘耳。

部統有方。謂方者義方也。釋云。部統有方。謂統率隊仗威儀陣列如法。分配所所。苦樂均平有義。謂之有方也。其少人懷土。心在必歸。一二逃亡。何能制斷。但爲部統不合義方。若走過多者。乃合除最。穴云。具同義曰(春)(日)云。余放令釋。古記云。問。部統有方。未知。行事若爲。答。部統有方。謂摠率隊仗威儀。朝廷侍衞陣列。居立如法。言辭不煩。並分配所所。苦樂均平。如此之類。謂之有方也。問。衞士行盜。並與人鬭打。及逃走者。得爲有方以不。答。侍衞以外。盜鬭者非。但奉*勅役使。不以理。致令逃走者。依擅興律科罪。並計殿降考。以外不合。問。或云。役使以理。衞士逃走。主司不覺。雖免科

亀帳、大同頭條に[illegible]なり。

〔豈爲[illegible]大寶令行一條也〕並に云へる[illegible]り、下條大宰之最條に云へる[illegible]と同意なり。

〔古記云[illegible]〕古令に[illegible]に作りしなり。

〔但有[illegible]不以[illegible]〕[illegible]云[illegible]とあり。[illegible]即ち之に相當する[illegible]律の[illegible]なるべし。

〔謂不飲酒醉亂及不與人鬪打之類〕僧尼令、飲酒條に「若飲レ酒醉亂、及與レ人鬪打者、各[illegible]俗」とあるを指せるなり。

界。准國郡司。以十分論降考。未知。此云允帳以不「合」答。論語曰。小人懷土也。今已棄懷土之心。専乖家業之道。遂散他界。流離父子。故國郡司爲十分考降也。其衛士辭父母。訣妻子向京。守衛番期已遠。積戀切鎮襟。及愛念妻子孫。深懷土之意。豈爲全無逃失之徒。以此比彼。不爲允帳。故不合預考也。然今行事。或量狀降。或依十分降。無定例也。芳隨處斷耳。問。今有判官。不得部統有方之最。但奉勅搭提盜人。卽爲搜之內。提獲鑄錢。今以此功。得爲最不。答。捕亡令云。凡糺提盜賊者。所徵倍贓。皆賞糺提之人。卽官人非因檢校。而別糺提。亦依賞例。案文明知。不得爲最。又雖糺提。非因檢校。不得未司成最注考。但狀注顯迹省耳。何故者。下條云。善最之外。別有可嘉尚者。若校之日。皆聽臨時量定。

警守無失。跡云。無失謂縱有當門失。而非預其事之官人。不合除最。朱云。警守無失者。未知。官人警守贓。爲當令人警守贓。答。穴云。警守無失。謂所所主當人等。無犯失是也。

爲衛府之最。謂尉以上。

音樂克諧。不失節奏。釋云。禮記云。文采節奏。聲之飾也。注曰。節奏再〈闋〉同〈闋〉作止進所應。古記云。問。節奏。答。節謂譜歌之節也。奏謂詠歌起畢也云云。

爲雅樂之最。謂助以上。

僧尼弗〈不〉擾。謂合僧尼令也。釋云。與上僧尼合道。同意耳。朱云。於大宰九國三嶋之僧尼擾何。與最與不。答。古記云。僧尼弗擾。謂不飲酒醉亂。及不與人鬪打之類。若治部雖不得最。玄蕃合得最。唯玄蕃不得最。治部不合得。合更案。弗擾猶故也。

蕃客得所。謂遠人新至。不服水土。不習風俗。有司存檢。不致令其頓盡也。釋云。使無凋傷。是則得所耳。古記云。蕃客得所。謂出入關情願。中官處分。問。蕃客與夷狄。若爲別。答。蕃客國所者。重國聘往在京夷狄等也。唯稱夷狄所者。不入朝聘之使也。

爲玄蕃之最。謂助以

上。

支度國用。釋云。野王案。支充也。音章移反。賈逵國語注曰。度揆也。音徒落反。**明於勘勾。爲主計之最。**謂助以上。

謹於蓋藏。明於出納。謂京國官倉。蓋藏及出納。其在京者。主稅自檢校。在外者。據帳知〔之〕也。釋云。謂在京官倉蓋藏出納耳。一云。京國倉庫。至應破壞。催令修理。跡云。蓋藏出納。謂在京職倉。親自知損不。竝知積物實。但在國倉。依帳知出納。縱無實而不失於帳者。明於出納耳。又倉損不之狀。推造立以來遠近。加勘悟令修理耳。穴云。蓋謂修蓋也。藏謂修置也。京職出納。身自臨倉勘知。諸國。以帳勘知其實是也。欠乘如上釋也。古記云。問。謹於蓋藏。明於出納若爲。答。京國庫倉。至應破壞時。預催令修理。但以經年數。合知破壞之時。*其出納謂下上是也。

爲主稅之最。謂助以上。

調肥閑馬。釋云。閑馬。上音胡山反。周禮云。天子十有二閑。鄭玄曰。每廐爲一閑也。**不脫飼丁。**謂脫脫漏也。不從戶貫爲脫也。釋云。脫脫漏也。不從戶貫者是也。文稱飼丁。卽*少丁以上是。但*不課之色。依律。計口科罪。依殿降耳。少丁以上。人數多者。亦依律科也。跡云。不脫謂在寮在國皆同。但不覺增減竝脫不課者。科罪附殿耳。但不除最也。丁謂中男以上也。穴云。不脫謂上下本司。及在外國皆是也。增減年狀爲不課。亦是爲脫丁也。在本司駈使。逃亡亦同也。在本國之逃走者。縱雖遂除帳。不除最。爲非本司過故也。在本司上下之脫漏。蓄息男女者。爲本司過。在國

〔其出納謂下上是也〕これによりて奈良時代に出納のことをアゲル、オロスと云ひしこと知らる。監物をオロシモノノツカサと云ふは卽ち倉庫より物を出す司といふ意なり。

〔少丁〕これ新令の中男なり。令釋は、時々職員令を官員令と云ひ、中男を少丁と云へり。これ令釋に古令の註釋

書本亦自三四義全作ず。時以在耳。〔但不課之色依律、若旧捕亡吏の捕亡律に、謂部内ヨリ止他界逃亡者獄、若一人里長笞〓、中略〕若將家口逃亡者得者、一戸同ニ一人ニ爲ニ罪、四人加二等、職四五人笞四十、十人加一等ニ云々と見えたり。

之脫漏。而本司不舉(覺)。無由勘知。得最也。私云。古記云。問。不脫飼丁。答。不脫。謂逃亡去。並脫漏戶口之類。飼丁謂老疾小子女皆是。一云。文稱飼丁。即少丁以上是。但老小以下。依捕亡律耳。若脫人數ゝ。依捕亡律。計日科罪。即計殿累降。准人數少不成殿。依此條除最耳。**爲馬寮之最。**謂助以上。

愼於曝涼。謂曝者陽乾也。涼者風涼也。釋云。案。曝陽乾。音蒲木反。涼風涼也。音呂張反。或釋云。曝乾日也。涼當風也。**明於出納。爲兵庫之最。**謂助以上。

朝夕常侍。拾遺補闕。爲侍從之最。

監察不怠。出納明密(察)。爲監物之最。古記云。問。不惑。答。惑失也。違也。穴云。出納謂經年彼此相交。無由指號者。云ゝ。朱云。問從ニ出納監物等。皆不得最耳。私云。出盡之日。驗知承前不明。出盡之人已明察者。後人得最。其知倉庫令義也。朱云。問。監察不怠。與出納明察。其別何。私案。自心愼勤。監察不怠。又明察情耳歟。何ゝ。ゝゝ。

勤於宿衛。進退合禮。爲內舍人之最。古記云。問。進退合禮。答。孝經云。進退可度。注云。進退動靜。義云(曰)。進退謂行有去就。禮則爲進。止亦爲退。故云。進退動靜也。進退以心行爲言。故舉止解進退也。

古令文。新令ニ取ラズ。

〔恭愼無愆。容止合禮。爲舍人之最。〕古記云。問。容止合禮。答。孝經云。容止可觀。注。容止威儀也。讃曰。容止。謂貞有光華。狀貞爲容。停立爲止。故云。容止威儀也。容止以貞爲言。故傳以俯仰解容止也。此二。其實有異。共不得同。軍防令云。凡五位以上子孫。性識聰敏。儀容可取。充内舍人。以外。隨狀充大舍人及東宮舍人。問。文稱舍人。未知其限。答。軍防令云。五位以上子孫。性識聰敏。儀容〔止〕可取充内舍人。以外隨狀充大舍人及東宮舍人。又條云。八位以上嫡子。儀容端正。工於書筆爲大舍人也。卽知。中宮舍人合取白丁。不在得最之例。問。舍人。此分番。若爲得最。答。未詳其理。此條。新令除而不取。仍爲不用之。

職事修理。昇降必當。謂諸司次官以上。皆得此最也。釋云。此條。爲無最名諸司立耳。昇降謂考也。古記云。問。昇降必當。答。昇降謂考是也。跡云。此條。爲不稱最諸司而立條。朱云。不稱最司。假如。諸陵司。散位寮。贓贖司等之類。不可勝計也。穴云。番上考必當。主典以上考不當者。次官得最。長官不得最。或次官。假令不預考事。長官一人考訖。而番上以上考不當。尙次官得最。爲非自過故也。問。長官昇降不當。次官尙得最事。誰時哉。答。長官昇降不當。次官勘知。不同其事時。得此最。答。同共連署進者。共不得最。爲不修職事故。若雖共連署。無由勘知者。次官尙得最耳。假。任二官以上次官。而一官主典以上考狀及考第隱微。無由勘知之類是也。問。承前諸司。更得次官判官等之最哉。答。一云。不合也。下一最以上。謂爲任二官以上耳。私夭(云カ)文博士。就此說尙與二最也。一云。承前諸司。又得此最。以下亦如假式部丞得考問之最。及判官之最之類爲長。

爲次官以上之最。

揚淸激濁。謂激淸也。言淸廉之人在下第者。賞而進之。貪濁之人。處上考者。貶而降之類也。釋云。激濁。王逸注楚詞曰。激感也。言潔士居下等。問。而升上等。貪人居上等。問。而

〔箋注〕隋書經籍志に「鄭玄作二毛詩箋一」とあるもの、即ち之なるべし。

〔但脫誤有闕之類未究也〕職制律に「凡上書若奏事而誤者笞五十。口誤減二等。上二太政官一而誤笞卅。餘文書誤笞卅。」云々と云へり。これ即ち脫誤の罪なり。

〔擧問稽失〕これ大寶職員令の句なり。神祇官條、大史一人の注に撿出稽失とあるを、古令にては擧問稽失に作れり。その他の古記を見て知るべし。

降下等。令感其心也。跡云。揚清激濁。謂常有得善最之人。而邂逅犯輕罪。依殿至下第。而嘉前善。仍居上等。因而惡人自感耳。穴云。本司昇降不當。而考校之日。糺問致理。是云揚清激濁。若本司昇降無失。考校之日無更揚激。亦得此最耳。凡可嘉尙及矜〔並〕嘖等之類。考問所執。故揚清激濁也。古記云。問。揚清激濁。答。揚清〔激濁〕謂常好人。居下等。問而升上等也。激濁謂貪濁之人居。上等。問。而降下等。使自其心也。激訓。曾曾久。亦訓。澆。詩云。揚之水。白石鑿鑿。箋注云。激揚之水。波流湍疾。澆去垢濁。使白石鑿鑿然也。

襃貶必當。爲考問之最。謂式「部」兵部丞。

訪察精審。庶事兼擧。爲判官之最。跡云。庶事兼擧。與職掌無闕。供承善成。並同事。朱云。訪察精審。未知。一端何。私案可云也。

公勤不怠。職掌無闕。朱云。公勤不怠。與職掌無闕。別何。答。私案。心不怠。又臨事無闕耳歟。何。

爲諸官之最。謂諸無最官。皆得此最。如主鈴典鑰及諸長上之類也。釋云。此條。只爲有一官立耳。如典鑰主鈴諸長上之類。穴云。散左位以上。於寮得諸官之最者。未知。以何色爲職掌哉。答。雖無職掌。尙與此最。問。上日參朝延所得。未知。上下事何。答。職掌開門前上。閉門後下。略放此耳。又得格勤。善無妨也。之。

勤於記事。稽失無隱。爲主典之最。穴云。問。或云。公文程内成了者。若有文字脫誤。不除最者。未知。爲是哉。答。然耳。倶〔但〕脫誤有罪之類。未究也。博士。先雖科罪。不除最也。古記云。問。稽失無隱。答。擧問稽失耳。問。今有主典。公文有誤一字。得最以不。答。自非至聖。誰人無過。先日〔日〕。焦勤既成庶事。後時有忘。乃致小過。以

誤一字。決斷罪名。不足成殿。不可除最也。

詳錄典正。詞理兼舉。爲文史之最。謂詳者審也。典正者婉而成章。盡而不汙之類是也。文史者圖書助以上也。釋云。詳錄典正。毛詩傳曰。詳審也。錄記也。典經也。言百代常行之道也。正直也。國史爲體。直而有經。假有內亂。錄云朋淫衆烝。是不典也。愛奸好色。是不正也。惟爲不修。是典正之類也。文史史官也。案職掌圖書助以上也。跡云。典正謂直有經。言直嘉而常可法則耳。此爲次官以上最。掌修選國史之事故也。穴云。其放令釋也。次官以上得此最也。古記云。問。詳錄典正。答。說文。典大冊也。野王案。尙書有堯典舜典。孔安國曰。可爲百代常行之道也。典正猶典耳。此所謂國史上抄體耳。文史謂圖書寮助以上也。

明於記事。不失勅旨。爲內記之最。

訓導有方。生徒充業。謂方者道也。充者滿也。依*學令。通中以上。是爲充業也。釋云。訓導有方。孔安國注論語曰。方道也。生徒充業。古者三年乃明一經。今不必然。待式處分耳。其學生者。學官量宜分配。博士各依已分敎充。是生徒充業也。或釋云。方道也。義也。跡云。充業謂一年內。說授多少。須待式處分。朱云。若依學令。可定多少乎何。又(人)爲博士之最者。晉書博士等皆放此耳。但國博士者下條有文也。凡番上人不預得最之色也。穴云。問。國博士條云。居官不怠。敎導有方。爲上敎授不倦。生徒充業爲中者。未知。此條。敎授不倦。生徒充業。若有殊哉。答。下條立三等考第。故兩種生文。但於此文。生徒充業者。皆爲訓導有方。充業謂生徒爾充業也。晉亦同得此最也。書博士不見文也。問。充業。未知。行事若爲。答。一云。在別式。一云。學令所立。以是爲限耳。兩

〔依學令通中以上是爲充業也〕學令に「凡書學生、以二寫書上中以上者一聽レ貢。」とあり。

說。謂得業博士。有(者)習經業者。皆約此。一爲准大學生。私云(脫文ナルカ)也。私案。學令。隨當年講授多少。爲之課業殿者。又講者讀者一句所被試。亦條有明文。然先業。合學令者。與最耳。爲長。古記云。問。得博士最。有限以不。答。有生博士皆得此最。無生者得善不得最也。別勅々使長上亦同。問有方。答。孔安國論語注云。方道也。訓以義方(也)。

爲博士之最。

占候醫卜。謂陰陽曰占。天文曰候。療病曰醫。灼龜曰卜也。釋云。陰陽曰占。天文曰候。療病曰醫。灼龜曰卜。其記最之體。占師效驗。得七之最。一云。卜效驗者。得七之最。以下放此。跡云。占效驗多。如此注。合與最。不得(依)記八字之說。穴云。問。占筮相地何。答。略文。通計爲十分耳。又問。占爲何問贖。爲當廣爲諸司公事問贖。答。爲公事。占筮相地。皆是不可賞錄耳。爲私人者非也。候。博士充業之最。兼得耳。問。假。候云。「以」來年有災(計)云云。是未然事。而未效驗。如此之類何處分。答。當年最。依例與了。於後年若不實者。以不實年除最哉。其上條解了也。醫謂侍醫及醫師俱是也。大平年無病者。尚與最。凡自餘諸最。若無行事年。尚注八字與最也。私案。針案摩咒禁等師。亦放醫師也。古記云。問。占候醫卜。答。占謂陰陽師也。候謂天文師也。醫謂藥師也。卜謂卜部長上也。在卜部之中也。問。記文之體若爲。答。卜師效驗得七之最。一云。占者效驗得多之最。一云。占者。效驗者得七之最。以下放此耳。筮者同卜耳。

效驗。釋云。效猶呈見也。音胡教反。穴云。效猶呈也。如見也。

多者。十得七爲多。釋云。周禮云。凡邦之有疾病(者)。疕瘍造焉。則使醫分而治之。歲終則稽其醫事。以制其食。十全爲上。十失一次之。十失二次之。十失三次之。十失四爲下。注曰。疕。頭瘍。亦謂禿也。身傷曰瘍。分之者。醫各有能也。食祿也。全猶愈也。以失四爲下者。五則半矣。或不治自愈也。穴云。當年效驗。擬有六者。尚得最。但不被云十得七耳。私案。七以下之内。有或平或不平者。以平分倒二分。准量可與最也。朱云。十得七爲多。或云。常此文。在得四爲多。未明。此說不許(詳)。

爲方術之最。釋云。鄭玄注禮記曰。術道也。藝也。

推步盈虛。謂步猶尋也。推步紘望晦朔以爲曆是也。盈虛者。日月行度之盈縮。及時序節候之進退也。釋云。鄭玄注尚書大傳曰。步推也。盈虛謂日月五星之度數也。跡云。步推也。穴云。盈虛謂月之大謂之盈。小謂之虛。古記云。問。推步。答。尚書大傳。大禹步于上帝。鄭玄曰。步推。禹推天道觀政得失。盈虛謂日月五星之度數。一二〔三〕卷具說也。

窮理精密。爲曆師之最。穴云。日月刻數相違。爲不密。問。曆得允業最哉。答。

市廛不擾。姧濫不行。謂男女肆別。貨食區分。是爲市廛不擾也。姧盜及行濫之徒。不得其情。是爲姧濫不行也。釋云。市廛非擾。*男女別所。食貨分區之類。是謂非擾。廛市内容地也。音直連反。姦濫不行。姦濫姦盜及行濫之屬也。不行謂不得行其惡道耳。古記云。問。市廛非擾。姧濫不行若爲。答。賣沓廛不賣冠。男女不交居。謂之非擾也。*雜律曰。不牢不眞謂之濫。*又條云。販鬻之徒。共爲姧計。自賣物者。以賤爲貴。買人物者以貴爲賤。更出開閉之言。共物共限一價望。使前人迷謬以將入已者。謂之姧也。爲市司之最。謂佑以上。

推鞫得情。申辨明了。謂鞫者窮罪也。了者了別之義也。釋云。推鞫得情。鞫。音居陸反。安國注尚書曰。鞫窮也。說文。窮理罪人也。從革從勹從言也。得情者。曾子曰。如得其情。哀矜勿嘉是。周禮曰。以敍聽其情。注云。情爭訟之辭也。或釋云。鞫窮罪也。音擧竹反。申辨。錄罪人辨辭。於判事竝大少輔所。自讀申也。古記云。問。得情。答。論語注曰。情之實也。問。申辨。答。辨謂訴人之辨也。爲解部之最。

禮儀興行。戎具充備。謂此唯爲大宰府及筑前國。其管内諸國者非也。釋云。禮儀者。晉及管内諸國也。戎具。貯庫兵器。及諸國軍團兵士調度之類。府監者得國

〔男女別所〕關市令に「凡在レ市興販、男女別レ坐。」と見えたり。

〔雜律曰不牢不眞謂之濫〕これ雜律、造器用條の注なり。

〔又條云販鬻之徒共爲姧計自賣物者以賤爲貴買人物者以貴爲賤更出開閉之言共物共限一價望使前人迷謬以將入已者謂之姧也〕これ雜律、賣買不和條の疏なり。

「肅清所部國司最也」雖其令に據るに、蓋肅清所部は國司の職掌と略ぼ異るところなし。故にその最も同じきなり。

掾之最也。穴云。問。職掌者雖異。皆所部內事。爲當廣述九國之職事。答。九國之職事皆依其事耳。問。然。隨進行者。一人何能。但以春時巡九國盡巡教挙(僻)乎。答。此附諸條可定。假九國之職。增益戸口。勸課農桑事。其道計九國。不道(通)。如此之類。可斟定也。古記云。問。職掌有限不。答。皆知別國禮義耳(也)。　爲大宰之最。謂少貳以上。

強濟諸事。肅清所部。謂姦賊不起之類也。假令。盜賊已起。限內捕獲。尚亦須除(降)其最也。釋云。肅清所部。鄭玄注禮記曰。肅敬意之言也。假。有兩人爭訟。決斷合宜。及部內盜賊。掩(捕)捉不漏。如此之類亦是肅清耳。案。卅日內捕者。從免罪(者)。是可得最。卅日外獲者。不可得最。釋律疏同國最也。古記云。問。肅清所部。答。賊盜律云。此部內有一人爲盜。及容止盜者。里長笞五十。三人加一等。界內有盜發。及殺人者。一處以一人論。注曰。一處有盜者。同部內一人行盜。一處殺人。仍從一人強盜之法。又云。國。隨所管郡多少。通計爲罪。各罪止徒一年。強盜者。各加一等。即盜及盜殺殺人後。卅日捕獲。主司各勿論。注云。部內有人行盜。乃當境者。若部內人殺他人之及境內人被殺。事發後卅日自捕獲。並他人捕獲。主司並得免罪也。今此條。雖得免罪。爲不肅清所部故。可除最。唯人數多者。依減損戸口條。併計累律耳(也)。　爲國司之最。謂介以上。

無有愛憎。供承善成。謂大宰監亦得此最也。釋云。供承善成。廣雅。供奉也。音居庸反。鄭玄注禮記云。承猶事也。　爲國掾之最。

防人調習。戎裝充備。釋云。毛詩傳云。戎兵也。案。裝行裝也。音側亮反。謂防人國身兵器也。古記云。問。防司最戎裝充備。又大宰最亦其充備。又兵部最調充戎事。以上三事。其別若爲。答。兵部大宰一種。但防司。謂防人國身兵器也。若補任大宰。監未充其具。課兩國法。仍得爲最也。　爲防司之最。謂佑以上。

譏察有方。行人無擁。爲關司之最。謂譏者問也。關司謂依軍防令。國司分當守固是也。釋云。譏察有方。廣雅。譏問也。有方釋見上注。行人無擁。左傳。道路無壅。野王案。壅猶塞也。字在土部。陸法言切韻。擁手擁也。擁與壅音相涉。並音於瀧反。關司謂軍防令國司分當守固也。案目以上也。或釋云。擁壅同音。所以相涉耳。壅障也。朱云。譏察有方者。未知。一端何。古記云。譏問也。推也。關司。軍防令云。其三國關者。設鼓吹軍器。國司分當守固。所配兵士之數。依別式也。國司謂目以上也。

一最以上。謂神祇少副以上。得神祇祭祀。不違常典。及職事修理。昇降必當最之類。故云以上也。釋云。式兵部丞。有考問之最。判官之最。國司有關司並國司之最。少納言有侍從並少納言之最。故云以上也。古記云。問。一最以上若爲。答。式〔兵部丞有考問最。又有判官最。其三關國。得國最關最之類〔也〕。

有四善。謂凡善者必待衆知。然後乃得爲善。即一得以後。其行不渝者。永得其善名。但恪勤善者。不必天然。雖是凡庸。自強可得。故隨狀昇降。即在當年也。釋云。凡四善者。必待衆知然後稱善。一得以後。其行不移者。永得善名。就中恪勤一善。不必天性。雖曰凡庸。自強可得。故隨狀昇降。各在當年耳〔也〕。

爲上上。公問。下文云。若於善最之外。別有可嘉尚者。省校日。聽臨時量定者。未知。有四善一最之人。若有可嘉尚者。與上上考之外。別加嘉尚之分哉。又至成選日。有進階哉。答。考至上上者。無所可加。故不可狀更加進。但附考狀耳。至選日。亦加階不見也〔々〕。

一最以上有三善。或無最而有四善。爲上中。一最以上有二善。或無最而有三善。爲上下。一最以上有一善。或無最而有二善。爲中

上。古記云。問。有一最一善。別有過若爲。答。有過。無可得最之理。一云。若不足除最過者。得最耳。問。有一最一善。兼別有可嘉尚若爲。答。以一最一善與中上。卽別須功狀注續。者待之日量進耳。

一最以上或無最而有一善。爲中中。穴云。問。無最而有一善。竊何。答。清愼之人。若有無最分耳。但公平並恪勤人必有最耳。謂公平恪勤人。不明有最故耳。私案。此說爲非。何者。文曰(云)。無最有四善故。假令恪勤之人。職事粗理者。此別下文云。無最有一善矣。然則。無最有四善者(物乎)。有如此耳。朱云。問。最與善何爲貴。答。答ヵ爲等乎。何者。文云。二最以上。或無最而有一善。爲中中故也。更案。善可爲貴。何者。上文云。一最以上有二善。或無最有四善。爲上中。然則有四善人。雖人無一最。猶爲上中。無一善人。雖有數最。尙爲中中故也。古記云。問。有一善者。有職事闕與最。答。職事粗理以下之人。無可得善。職事粗理。釋云。野王案。粗略也。音祖古反。善最弗聞爲中下。跡云。職事粗理。善最弗聞人。爲下也。合應闕之理者。爲中下。穴云。問。職事粗理。善最不聞義。未知其義。答。雖無最。除最之外。職事皆理。卽職粗理。最不聞。古私記云。職事粗理。以下之人。無可得善。不安。又問善之人。可有犯私罪。故下云。當在上考者。雖有殿不降。注云。謂非私罪者。則知。私罪亦有耳。古記云。問。中下以下之人。依行事下歟。只殿降歟。答。依行事並殿降耳。

愛憎任情。處斷乖理爲下上。釋云。愛憎任情。處斷乖理。此一事。跡云。或有善最人。愛憎任情。而處斷乖理。仍爲下上。穴云。愛憎任情。依此處斷乖理一等也。古記云。問。愛憎任情。處斷乖理。一歟。二歟。答。一條也。背公向私。職務廢闕。爲下中。釋云。以背公向私一事。爲下中。則以八字爲注耳。一云。八字此一事。一云。以四字爲注云。四字在者。亦注四字耳。竊爲錄故也。跡云。背公以下者。假令。合會審判。則是私案之人耳。朱云。背公向私。職務廢闕。爲下中者。未知。雖背公向私。不職務廢闕。色可有不。

〔律云狀謂殺人之類得狀爲驗故也〕唐の斷獄律の「諸應レ訊レ囚者。必先以レ情審二察辭理一。反覆參驗。猶未レ能レ決。事須二訊問一者。立レ案同判。然後拷訊。違者杖六十。若贓狀露驗。理不レ可レ疑。雖レ不二承引一。即據レ狀斷レ之。」なる條の疏議に「若贓狀露驗。謂計レ贓者見獲二眞贓一。殺レ人者檢二得實狀一。贓狀明白。理不レ可レ疑。」云々と見えたり。即ち知る、この文我が斷獄律の疏文なることを。

〔六贓〕强盜贓、竊盜贓、枉法贓、不枉法贓、受所監臨贓、坐贓を云ふ。

答。穴云。背公向私。依此職務廢闕一事也。古記云。問。背公向私。職務廢闕。答。私使直丁等。令治產業之類。其背公向私。必須職務廢闕。乃與下中。一云。不相須。凡最條上四字在者得最。今此條上四字。在亦下耳。諸條皆放此耳。但記文者。得八字記。亦得記四字耳。唯上下之字相交者爲中也。中「下」字相交者爲〔中〕下耳也。

居官諂詐。及貪濁有狀。

謂八字不相須。故隔句以及。其六贓一尺以上入已者。皆是貪濁。卽盜不得財。亦爲下下也。釋云。諂諛也。音及琰反。事不相須。故斷章以及。餘皆放此。有狀。謂犯贓一尺以上也。雖贓不入已。而貪濁露驗者。爲有狀。何者律*云。狀謂殺人之類。得狀爲驗故也。跡云。諂詐謂不必有贓。假有。戶令云。諂諛求名之類。貪濁有狀。謂縱得贓。量其景迹。無貪濁之情者非。若此二色人。縱是出身人。何得稱恪勤哉。故縱雖有善。仍合居下下等。監主詐欺未得。或盜不得財等。量其狀。令(合)居下下也。朱云。先記云。問。諂詐及貪濁有狀。其別如何。答。諂詐謂言詐是也。貪濁者取財是也。穴云。居官諂詐一事也。「貪濁有狀事也。」問。有狀。未知其義。答。六*贓一尺以上皆是也。假。計*庸賃爲贓。雖非見贓。量情尙是貪濁也。又私役使直丁。尙爲下下。爲計贓科罪故。不合處背公向私下中也。問。唐令(答)云。雖不滿一尺。情貪濁者。尙爲下下。未知。依放哉。答。然耳。假。盜不得財。擅賦斂入私等。雖不入財。已遂此枉法贓。仍爲下下。入官坐贓論。不在此例也。自餘入私。縱成雖無罪色。准此附考耳。詐未得者。依諂詐之文。其不滿一尺之會赦時。依勅斷條釋也。不得財者。不被言有狀也。後*讃云。雖贓不入身皆是。盜不得財皆同。問。下下等色。未獄成會赦。及自首全免者何。答。依常善最爲考耳。假。恪勤人。飮酒坐而犯受所監臨一尺。不可有善最。若赦及首者。放免而依常實錄與考耳。依勅斷條合講也。(勅斷條或述云。本犯私罪。斷徒以上。被恩免。當年考。應居上者。准殿降之。但不得降至下第者。獄成未獄成。並約之。如此云者。若會赦者。本犯私罪。斷徒以上。可有降色不降色。但於首者如說。問。此條。諂詐求名及貪濁有狀。並愛憎任心等之類。若會赦降者如何。答。師云。任勅斷條案耳。」)(以上百八字。一本作分註)〔也〕。問。下下以上人。有增

「監臨官爲贓」雖制律に非監臨之官。私役使使監臨一及借奴婢牛馬車船碾磑邸店之類一。各計庸賃一以受所監臨財物論。」とあるは則ちその一例なり。「讚云」讚云を讚岐朝臣永直を解すれば、後者はその弟永成、又はその子時人にして、讃永本の繼と解するときは、廣直又は永直なるべし。この事前に讃云の條下に云へり。

益戶口勸課田農者例。答。依例進加耳。師云。中下以下人。有可嘉尚。不在加限。何者。文云。善最之外者。問。有善及最人之有可嘉尚耳者。此說不安。後可檢。勅斷條。恩前賦成。只景迹論。降考等條等。若有功者。不合然也。更案。文云。犯私罪下中。公罪下下。並解見任。謂只功過昇降之。見(是)所在罪。下中下下以上。縱以景迹論。下中下下以功累加。可上第者處上第。但是。依景功所進之第矣。豈何害煩最乎。又同條云。不在考校之限　六箇之字。只謂除免官當。不及上文考事可知耳。後案。私罪下中。公罪下下解見任。故更不加餘功。又受情任情。處斷背理下上。此上條。私罪下上。雖有上下。從下考故。亦不加功。但中下以上乃累加。貞博士同了。更案。上中以下。率一殿降一等。今有過者。既定等第了。其上降者。然則有功者。亦定等第了。其上乃昇加。自非除免官當者。必可考校故也。有狀謂猶得狀爲驗也。古記云。問。居官諂詐及貪濁有狀。其別若爲。答。文稱及字。卽知。二事。居官諂詐。其人以諂詐爲宗耳。貪濁有狀。其人者貪濁耳。諂詐與貪濁不相須有一箇爲下下。問。依心性下賤。以殿降賤。答。文稱有狀。卽明。計殿降可云也。一云。量心爲下下也。不須必成殿也。問。量心爲下。計殿至下。若爲抄狀也。答。皆注貪濁諂詐耳。問。以功居上上者。若爲抄狀也。答。以功居上者。依行事何注。不合與四善也。問。計殿至下。既注貪濁之字。以功居上。皆爲不與四善也。答。以此論彼。皆爲不便宜。以功過至下下者。依行事合注。不合注諂詐貪濁四字。

爲下下。若於善最之外。別

有可嘉尚

謂。釋云。左傳杜預注曰。尚上也。上適注楚辭曰。尚尊也。音時亮反。又音亮反。別有可嘉尚。謂國家外所作可稱耳。故注別紙。中式兵部。令昇降耳。跡云。別有可嘉尚。謂勸課田農。撫戶口卿敎授之輩。如此事。本司不定等第。而直顯注功狀。申送省。省校日量定也。穴云。善最之外。別有可嘉尚。謂假格後物百官以俸料。充用軍事此等也。其獲盜賊附者。國郡司審等也。兼加敎授下僚。朱云。曰案。此並行職掌及請所部也。不被云嘉尚。令釋云。職掌之外是也。問。上條。有功應進。與此條嘉尚有別哉。答。不合別。上條。有功之處。嘉尚事。亦均耳。此時謂功過之最。私案。古記云。

問。別有可嘉尙。答。官人往鄕裏(裏)見他人鬪打。能提繫以送官司之類。一案。格後勅下條十四卷云。勅旨京官文武玖品已上。壹仟貳佰貳(衍カ)人。表請。內外官。各出壹月俸料錢供軍。其無俸料請。准往例。節級處分者。卿等。情切奉公志存憂國。請申私俸式助軍機。備(脩)覽所陳。深以嘉尙。令依來奏。以遂羣議。其蕃官不在此例也。

及(又)罪雖成殿。釋云。犯罪贖銅十斤曰殿。假如。漢書。所謂內史以負租。調殿當免是也。「而」情狀可矜。謂爲人寡尤。而邂逅犯罪者也。古記云。問。及罪雖成殿。情狀可矜也。答。其爲人。常鮮過失。邂逅犯罪。成殿之類。

或雖不成殿。而情狀可責者。謂論其所犯。雖是輕罪。而情意不悔。數有愆失者也。釋云。謂其爲人。景迹常惡。所犯不至殿。古記云。問。或雖不成殿。而情狀可責也。答。其爲人。景迹常惡。計所犯不至殿之類。跡云。情狀可矜。或可責。謂揚淸激濁之處。已解訖。朱云。問。或雖不成殿。情狀可責者其意何。答。依犯實狀。可注附負殿數。但量景狀降考耳者。穴云。可矜可責。並是揚淸激濁也。考問之日。宜量定也。假。天性淸愼。而依同司有私曲。連坐而成殿。此可矜之類。更犯類犯數度。而尙答罪而不至殿之類。此情狀可責之類。如不直點不到也。

省校日。皆聽臨時量定。朱云。未知。昇降階數。令有文立。爲當省注定階數何。答。階數不見也。省所定耳。

令集解卷十九

本云
弘長元年四月廿五日於龜山殿官廳見合本書畢了　近日可有仙
洞御法會事予奉行之間忩不畢了　見此卷政道至要也可抄出

中宮大夫藤　在判

同三年九月廿一日於同所重加一見畢(了)今日評定之
次可有五位藏人延尉佐所望猥沙汰畢(之)仍見此卷

建治二年四月三日引合正親町本校合畢(了)

本云
慶長四年五月十三日課少内記賢好令校合

吏部清原秀賢

寛永十一年林鐘課少外記生職令校合畢

中原職忠

萬治四辛丑仲春初九令一校畢

羽林中郎將藤原

右一冊請朝倉景貞藏本令書寫了
明和五年子孟夏

越智通邦　印

同六年丑六月以河村氏藏本令校了
同七年寅四月以京師本校合了
安永四年未二月廿一日一會了
文化十癸酉年五月七日校了

筒井忠英(花押)

文政三年以彰考館本校合了

撿挍保己一

令集解卷廿

分番條以下私。罪條以上。　考課三

[illegible]皆訓の一字を置きて義[illegible]

凡分番者。毎年本司量其行能功過。立三等考第。義云。本司謂當司次官以上也。所以知者。昇降由官。長次官以上最故也。或云。分番者。舍人史生伴部使部及散位。貢人得第。未任職事之類皆是。但兵衞門部。及帳内資人等。下有條也。問。上條。義云。善惡爲行。才藝爲能。職事修理爲功。公務廢闕爲過者。此條亦同哉。師説然也。問。分番人。德人。德義有聞等何。或云。分番人不可有善最。師説。不可毛善。但不附考文耳。小心謹卓。義云。高而不羣。謂之卓也。或云。小心謂恭愼。卿謹四云。執當幹了者爲上。義云。執當者猶執掌也。幹了者。幹强也。了畢也。言强幹畢了。自能理事也。番上无違。供承得濟者爲中。義云。待人指揮。承順成濟者也。問。小心謹卓。供承得濟。與分番上。不違執當幹了。若爲處分。或云。猶爲中等。私案。下條兵衞立三等考第。亦勤謹之。宿衞之法。便習弓馬者爲上。番上不違。職掌无失。雖解弓馬。非是灼然者中。違番不上。數有犯失。好請私假。不習弓馬者爲下。義云。雖習弓馬。而好請私假者。此類中等。謹案殊類。猶其下第。其自餘諸條其下仰上。全面不及者。亦皆准此者。然則依此義定耳。師同。或云。幹了亦案其事。不得處分得濟者。受教得濟。不事教不得事成。私見義條。逋違不上。執當虧失者爲下。問。逋違謂或云。計一年上番日。百八十日。假如。雖考限日有百四十日。讀四十日内。有逋違不上一日以上是。但。有假故之徒。但具百卌一日者。依行業功過爲

〔若无故不上者律有罪條〕職制律に「凡官人無レ故不レ上。及當レ番不レ到。若因レ假而違者。一日笞廿。三日加二一等一。」云々とあり。

上爲中耳。非逋違故者何。師説。可然。問。稱執當虧失。不見多少。然則許一度以上爲下哉。或云。可然。不云數故。師同。問。逋違不上。執當虧失者爲下。若此人會恩赦者何。或云。此行事之過也。會赦而猶爲下。或云。可赦免假。逋違不上。供承得濟。會赦者。免逋違之過。爲中等耳。釋猶有一善失最。置中中之人。會赦。與最爲中「與」(等カ)者。此兩説以誰爲是。問。分番人。百八十日之內逋違者爲下。未知。主典以上雖足二百卅(卌)日。殘日內。或有假故。或无假故。一日不上。如是之類若爲處分。或云。有假故者。但上日足二百卅(須)日。尙爲恪勤之類也。※若无假故不上者。律有罪條。豈得恪勤者哉。但依行能功過。依例得考第也。不須必同番上人之逋違。不上爲下第也。此以下三條。依功過定。若以殿可降者。依下條。又過者小事也。若事大者。无位以上解官耳。私案。可下(々)兵衞條云。數有犯失者爲下。義云。杖罪以下郎降其考。若至徒以上者。仍可解任也者。然則可放彼條。問。逋違不上之人。執當幹了若爲。或云。與中等耳。問。逋違不上。供承得濟若爲。或云。猶爲下等。私依下條義可定。在上。或云。問。上等中等相交者。功既高。所以量昇上等。又上等與下等。相折處中等也。中與下等相交」者。不足相折。猶爲下等耳。或云。分番不在考解之限。分番之人准長上。可計殿降。在下條。**對定。訖具記送省。**義云。送「於」式兵二省也。問。上條云。京官畿內十月一日。考文申送太政官。外國十一月一日。附朝集使申送者。而此條送省者何。或云。先申官。乃送省。或云。直送省。何者依本令。本府考記。錄申尙書省。案記者。在軍防令。此令初條。改尙書省未校以前。爲省未校以前。又改此條送尙書省者。而改爲省。然則本司考記。主典以上送官。番上送省者何。師同後說。問。送省日限。同主典以上考文哉。或云。然也。何者於送考文日限。無別之故。問。下兵衞門部條。亦送考文。放此條耳歟。師說然也。

凡兵衞立二等考第。恭勤謹愼。宿衞如法。便習弓馬者爲上。義云。

〔盜律三犯條〕賊盜律に「凡盜經レ斷。後仍更行盜。前後三犯レ徒者流。三犯レ流者絞」とある條なり。

〔无兼丁加杖免役〕名例律に「凡犯レ徒應レ役。而家無二兼丁一者。徒一年加杖一百廿。」云々とあり。

弓馬相須。即得爲上」也」。問。或云。恪勤謹愼。與上條小心謹卓。義同者何。師同。問。恪勤謹愼。便習弓馬。而宿衞之處。頗有失者。不爲上等哉。師說。然也。問。便習弓馬。未知。便字之意何。或云。考中好習弓馬　私案。便弓馬之意耳。問。便習弓馬者。至考時可試哉。又每年試哉。師說。不可然。官司自然檢知耳。

番上不違。職掌无失。雖解弓馬。非是灼然者爲中。義云。或弓。或馬。一者灼然。亦爲中」也」。問。恪勤謹愼。宿衞如法。與番上不違職掌无失。以何爲別。或云。无別。私案。番上不違人。不必恪勤謹愼」。但宿衞如法。與職掌无失。不可有少別歟。

違番不上。數有犯失(過)。義云。數者二度以上也。犯者故犯也。失者過失也。並是杖罪以下。即降其考。若至徒以上者。同(仍)可解任也。問。杖罪以下。犯二度以上者。既降其考爲下等。若是二度以下犯。有位蔭。贖罪者。不計殿降哉。或云。下條云。官人犯罪附殿者。皆據案成乃附者。已稱官人。即問。分番者不在計殿之限。或云。猶可計殿下。但下附殿條。及物斷條。一端擧官人耳。其犯失二度以上者。已至下等。不可更計殿者何。私下條義云。分番計殿。亦皆准此者。然則數有犯失居下等者。不可更計殿。二度以下犯。計殿降耳歟。師同。或云。*盜律三犯條疏曰。數犯明憲者。是以數字爲三度以上。問。數有犯失者。在職掌所則歟。爲當在他處犯皆同哉。或云。皆同者。或云。此文犯失。是在職掌所是也。但處犯失者。隨罪計殿可降。私案。不論職掌處。自餘處。良以爲叶。師同。問。徒罪以上解官。未知。*无兼丁加杖免役。並有蔭可贖之色。皆同哉。或云。可然。師同。問。衞士仕丁等。亦皆犯徒以上者可解却哉。或云。可然或云。准无兼丁之例。可加杖。何者。縱下未當復爲上之故者何。師同上說之。

好請私假。不習弓馬者爲下。義云。雖習弓馬。而好請私假者。此傾中等。依考殊異」者。猶居下」第」等。其自餘諸條。居下仰上。企而不及者。亦皆准此也。或云。不習弓馬。謂不便弓馬」謂不便弓馬」是者何。問。好請私假。謂以幾度爲好。或云。此亦二度以上者何。師同。問。軍防令

〔以義倉等物賑給貧窮人等竝差科如法之類〕

云。兵衛者。國司簡郡司子弟強幹便於弓馬者。郡別一人貢之。又條云。內六位以下。八位以上嫡子。年廿一以上見无役任者。每年京國官司。勘檢知實責狀簡試。分爲三等。身材強幹便弓馬爲中。十二月卅日以前送兵衛。試練爲兵衛者。然則兵衛本皆取便於弓馬者。未知。同。何可有不便弓馬哉。師說。初選用之日有其才補任之後。下意習耳。問。上中等。皆文所云之事。相須爲定哉。或云。可然。但檢者。雖有一一尙可爲下者何。師同。

凡衛門門部。立三等考第。正色當門。義云。正色者。色貞嚴正。不爲阿曲者也。當門者執掌之處「也」。明於禁察。監當之處。能肅姧非者爲上。義云。糺肅精審。无「有」漏失「者」也。問。當門者是執掌之處者。與此文所云監當之處。其別何。私案。无別。下文。不勤其門。數有愆違。檢校之所。事多踈漏者。是亦其門與檢校之所同處耳歟。師說。當門謂宮門。監當。所謂不必門。除門之外所耳。居門不怠。檢校无失。義云。雖是无失。頗有踈漏。故猶爲中也。至於禁察。未是灼然者爲中。問。檢校无失者。頗有踈漏之謂也。未知。與至於禁察。未是灼然。其別何。問。下文云。事多踈漏者爲下。義云。漏半以上者乃爲多者。然則此義文稱頗有踈漏者。十分之四以下耳歟。或云。然也。不勤其門。數有愆違。檢校之所。事多踈漏者爲下。義云。漏半以上者。乃爲多「也」。或云。數與多。其義少異也。數謂不計二度以下失也。所得雖多。所失三度以上者下考耳。多謂檢校一二事全失者。亦猶爲多。所失雖三四度。所得五以上者亦不爲多。或云。從不勤其門。至於爲下。摠是一事。

凡國郡司。撫育有方。戶口增益者。義云。其生益者不入功限。若加功產育。事迹分明者。尤是撫育有方者也。或云。有方謂假令。*以義倉等物。賑給貧弱人等。竝差科如法之類。又

義倉の粟を以て貧窮の民を賑給すること、「延喜主税式」に見えたり。天平十年周防國正税帳には、義倉を賑給する爲めに國司が郡内を巡行したることを見えたり。課科は即ち課役の免科にして、賦役令には、「凡孝子順孫義夫節婦」、「貧弱」、「免孝子」、「從少丁」、「其分番上役者」、「家有」兼丁」者、兼月」、「家若單身者、閑月」なる條文見えたり。

〔又依律里長以上可科逃亡〕、闕脫〔補亡律に「凡部内有一口逃亡浮浪」者、一人里長笞〕

依戸令。鰥寡惸獨貧窮老疾。不能自存者。令近親收養。若無近親。付坊里安恤。如在路病患不能自勝者。當界郡司。收付村里安養。仍加醫療。依如此之行。戸口增益耳。增益謂下條所謂。招慰措田逃首走還者。得入功限是也。朱云。若加功産育。事迹分明者。未知。加功令産育之方。一端何。問。京職亦可有戸口增益損。使功過哉。或云。非別勘處分。不得以畿內外國等爲京戸。然則不可有增益之功也。但貴減損者爲過。皆出爲功耳。或云。同國司進以加考耳。師同上說。問。坊令何。或云。依律。爲在官非監臨。又既須增減等條。同里長。然則不同此條郡司。問。大宰府。通計管國增益減損。可昇降者哉。或云。於筑前國同國司。考自餘管國不可通計。於

各准見戸。爲十分論。加一分國郡司。 謂撲田亦同。但據律。以下有脫字歟。**及少領以上。各進考一等。** 義云。准猶依也。見戸者本戸。下文「云」准見地論。亦與此同也。問。朱云。撲及少領以上者。未知。同官內一人有功者。同僚皆進考哉。或云。若知依一人功有增益。止進一人考耳。但非的知之者。依一人功廣進耳。師同。**每加一分。進一等。增戸謂增課丁。** 義云。本戸計戸數增戸依丁數也。假如。本戸百烟。即十烟爲一分。今有增丁十人者。爲加一分。進考一等之類也。「其國郡司。各依行能功過。立考第已之後。更依斯條爲分昇降也。」問。本戸有百九戸若百十一戸者。作十分既有欠剰。未知。作分若爲。或云。有百九戸除九戸。有百十一戸。除一戸。令（合）作十分。已上此所據。但量情所謂者同。師說。可云然。問。除本戸者。以去年定數爲本戸哉。或云。可然。假如。初年減一分除一等。後年增一分進一等耳。師同。問。計增益損減。待附籍及除帳哉。或云。每年作增減分耳。不待除帳造籍。但考中逃還者。不在入功過之限。何者戸口逃亡者。登年失條役。又依律。里長以上可科逃亡罪故。師同。問。籍戸隨戸可填計哉。或云。可然也。何者戸令云。以五十戸爲里故。然則一同百姓。師同。問。戸口增減。以何時可勘定。或云。計帳之時可定。然則與考限別也。問。或云。增戸爲分。亦不合過十分。何者爲考不

卌。（中略）坊正村正同ニ里正之罪一。若將家口逃亡浮浪者。一戶同ニ一人一爲レ罪。四人加ニ一等一。」云々とあり。

〔依戶婚律私家人奴婢同不課例〕戶婚律初條に「漏ニ无課設口一者。六口爲ニ一口一。罪止ニ一年半一。卽不レ滿ニ六口一。杖六十。家人奴婢亦同。」と見えたり。

〔令云獄囚有疾病者云々〕これ獄令の條文なり。

過上上故也何。義云。其國郡司。各依行能功過。立考第已訖後。更依斯條爲分昇降也。問。是卽國司依加減之分。可昇降耳歟。師說然也。**率一丁同一戶法。**或云。假一戶之內。有十丁益者。爲十戶耳。**每次丁二口。中男四口。不課口六口。各同一丁例。**問。依*戶婚律。私家人奴婢。同不課例。未知。寺家人奴婢何。或云。不見文。可勘求。或云。不入增益減損。何者不註計帳之故。師說同上說。**其有破除者。得相之折。**義云。戶口有減損者。卽得以增益相折也。或云。以減課一丁。相折見丁一人耳。然則正丁一人破除者。以次丁二口。若中男四口。不課口六口相折耳。何者下注云。課及不課竝准上文故。或云。得相折。謂郡司增與損得相折。國內通計諸郡。得相折耳。內有破除。雖得相折。而科罪猶不免耳。抑可案律。可檢其律。問。假有考居上中之人。益口二分。因加一等居上上第。其所殘一分爲考極故。更无褒進。未知。此人有私罪一殿者。以所殘一分當哉。除上上考爲上中哉。或云。案令條。有以功過相折之理。然則准彼。以所殘一分當之。不可降上上考也。或云。可降見得之考。抑可檢律條者何。師同上說。問。所殘一分。加後年考哉。師說不見。可加之文也。**若撫養乖方。戶口減損「者」。**義云。其死損者不在損限。若受寃致死。灼然可驗者。卽是撫養乖方者也。或云。減損。謂下條所謂。戶口入逆走失。死罪配流以上。前帳虛注。及沒賊致減損之類是。問。上注云。增戶。謂增課丁者。未知。損戶亦計課丁哉。或云。然也。假如。十分之內。減損一分。降考一等。課丁一口准一戶。故云准增戶法也。問。義云。受寃致死灼然者。一端何。或云。一端。令*云。獄囚有疾病者。主守申牒。判官以下。親驗知實。給醫藥救療。病重者脫去枷杻。仍聽家內一人入禁看侍者。又斷獄律云。囚應請給衣食醫藥。而不請給。及應聽家人入看而不聽。應脫去枷杻等。而不脫者。笞五十。以故致死者。杖一百。卽減竊囚食。笞卌。以故致死者。加役流者。如此致死之類。謂之受寃者也。**各准增戶法。亦減一分降一**

[illegible]

等。每減一分降一等。課及不課。並准上文。問。戸律云。國郡不覺。脫漏增減者。郡內十口笞卅。卅口加一等。過杖一百。五十口加一等。國郡以所管郡爲罪。通計爲罪。注云。若止管一郡者。減郡罪一等者。未知。依此可准者哉。或云。於考亡文。可減一如令條。不可准於律條。師同也。其勸課田農。能使農(豐)殖者。亦准見地。爲十分論。義云。部界之內。所有雜田。若據爲見地。其農業者人民所先。故加一分乃進。損一分即降也。或云。問文所云。但一分間之豐穣耳。或云。甲郡人受乙界田者。乙郡官司牒送甲處。若遣里長等。可令催殖。不謂荒蕪者。可名荒蕪。降乙郡司考故。雜色田皆據計爲見地。其甲郡司不科罪。又不降考者。於罪可責。私案。同郡內。准口受田科罪。令(今カ)所在之田既非部內。依此不科罪耳歟。問。戸婚律云。部內田疇荒蕪者。以十分論。一分笞卅。一分加一等。罪止徒一年。注云。國郡各以長官爲首。佐職爲從。疏云。部內。謂郡在甲長所管田。若郡內。總計准口受田。分十之中一分荒蕪者。笞卅者。律既計口分田科罪。而何總計雜色田降考哉。或云。律令異義。隨文習耳。依律。部內口分田荒蕪者。每年爲分科。但於此令。雜田。元年損減降考訖。二年以後以彼先損。不更追降。何者。於功每年不可進考之故。問。或云。去年戸口受田豐儉增減。不是分者。今年通計爲分者非也。爲考以一年斷故。但注附考狀耳者何。私案是也。問。田令云。公私田荒廢。三年以上有能借佃者。經官司判借之。雖隔越亦聽。私田三年還主。公田六年還官。未知。入草爲功哉。或云。實不能人荒者爲過。借能人熟者爲功。師同。問。同令條云。其官人於所部界內。有空閑地。願佃者。任聽營種。替解之日還公者。是亦計加爲功耳歟。或云。然哉。何者。爲分之時亡甚。皆據計雜田。爲見地故。私案。爲分之法。假有部內雜色田。有千町者。以百町爲一分也。元年百町荒蕪者。爲損一分。降考一等。二年以元年熟田九百町爲見地。以九十町爲一分。即九十町荒蕪者。爲損一分。又降一等。三年以二年熟田八百十町爲見地。以八十一町爲一分也。即百六十二町墾發者。爲加二

分。進考一等耳。故或云。見地。每年增減无有定法。見戶亦同。若以本員。常爲見地者。荒年者。每年通計本員降考。殖年。都无進考之事。又熟田之外。別能墾發注文。无有其用者抑何。問。於戶口者。有減損者。則得以增益相折。未知。於田若爲。假如。甲郡田減一分。乙郡田加二分者相折之。不降國司考哉。或云。可然。或云。於田不合然也。但計去年熟地。先折滿其數。計所餘田。依文二(一)分進一等。何者相折文在上故也者何。問。上文戶處注云。謂掾及少領以上者。下文見地處。不云其限。或云。何放上文耳。師同。

加二分各進考一等。每加二分進一等。謂熟田之外。別能墾發者。其有不加勸課。以致損減者。損一分降考一等。每損一分降一等。問。田令云。給口分田者。男二段。女減三分之一。易田倍給。義云。易田「者」其地薄瘠。隔年(歲)耕作者。未知。不入荒蕪之例哉。私案。假如。部內有易田百町。准五十町法。可作增減之分耳歟。問。*律云。二罪以上俱發。以重者論等者從一者。然則戶口減損。田疇荒蕪合依一重。未知。於考如何。或云。可累降。何者下義云。數家(處)有過者。亦須累降之故。問。勸課合法。而百姓不耕殖。或遭水旱。遂致荒蕪者。猶爲過哉。或云。百姓不耕殖。尙可爲過。戶律荒蕪條。*宋簡張等云。雖加勸課致荒蕪者。乃科罪義也。且遭水旱不可爲過。問。勸課能令殖。而遭水旱已損者如何。或云。爲致已損。不爲功。又爲无課勸不爲過也。謂熟田之內有荒廢者。義(或)云。去年見作之田。今年名曰熟田也。去年不作之田。今年名熟田之外耳。

若數處有功。竝應進考者。亦聽累加。義云。依學令。國郡司有解經義。卽兼令加教授。訓導有成。卽進考之類。若數處有過者。亦須累降「也」。或云。問。六考上上人。敍十三階。依此條亦更加哉。答。不加。但或說依擢以不次之條。別加敍者非也。何者非高行異才之故。或云。國

〔律云二罪以上俱發云々〕名例律の條文なり。

〔宋簡張等云〕宋、簡、張何れも隋唐の法律家なり。宋私記は、公式令集解に、簡私記は戶令集解に、張私記は獄令逸文に各單獨に引かれたり。政事要略、第七十、糺彈雜事に引ける寬弘六年二月八日の令宗允正等の勘文には「唐儒

朱云。」と見えたれば、朱の唐人なることは疑なきに庶し。稻葉通邦の神祇令和解亦「律附釋、律疏、律朱、此屬ハ唐律ヲ云フモノナリ。」といへり。

郡司解經義加教導。於本國而長官進加耳。其執奏合理不待國進。省考校之日。官量合進。不合進送省。附獲賊國郡軍團附考者。只注附考狀。非進考也。問。上條云。强濟諸事。肅清所部。爲國司之最者。未知。此條增益及豐稔等。不入彼條哉。或云。皆約彼條與最。亦依此條。爲分進考也。但減損戶口田農等。爲賊事。相修善最形聞。居中下。或爲无最有一善居中々。更依此文爲分降耳。或云。上條依最所進一等也。此條。從增口多少所進數階也。又依上條。以景迹定第訖後。依此條。從損降之。然則可謂上條最及景迹之外。別降考也。數說同之。此兩說。以誰爲是也。

凡國郡。以戶口增益應須進考者。若是招慰。謂不從戶貫。而招慰得者。義云。不從戶貫。謂蠻夷之類也。問。賦役令云。邊遠國有夷人雜類之所。應輸調役者。隨事斟量是賦。爲當文稱招慰。然則是附戶貫。全出調庸之色賦。師說。課調役者。可依賦役令。但至于爲功者。隨其年秩。依正丁次丁中男法。准上條定耳也。**括出。**義云。謂籍帳无名。而官司勘出者。**隱首。**義云。謂无名之民。自來而首也。問。括出隱首者及是无名之論也。未知。或无來不附籍。或附籍之脫漏皆同哉。或云。並同。或云。脫漏戶口者不覺。及並知情共科罪。戶婚律。國郡不覺脫漏增減者。郡內十口笞卅。卅口加一等。過杖一百五十口加一等。國隨所管郡多少。通計爲罪。各罪止徒三年。知情者各同里長法。又條云。里長不覺脫漏增減者。一口笞卌。三口加一等。過杖一百加一等。罪止徒三年。注云。不覺脫戶者。聽從漏口法。國郡脫戶亦准此。又云。若知情者。各同家長法。又條云。脫戶者。家長徒三年。脫口及增減年狀以免課役。一口徒一年。二口加一等。罪止徒三年。滿无課役口者。六口爲一口。罪止徒一年半。即不滿六口杖六十。仍脫漏當年事發者得罪。即括附。若經年事發者。覺舉其罪者。无罪不覺者。科不覺之罪附帳。如此等不入此條。功過依律論耳。博士同之。穴云。在任之內。脫漏即在任之內括出者。皆是功過也者。此等云者。誰得其理。私案。脫漏者。當年即爲過括出者。當年則爲功之

〔奴是不課也〕戶令に「不課、謂二皇親、及八位以上、男年十六以下、並蔭子、耆、癈疾、篤疾、妻妾女、家人、奴婢一。」とあり。
〔背本朝投蕃國或從僞等是也〕賊盜律、謀叛條の疏に「謂欲レ背二本朝一。將レ投二蕃國一。始謀未レ行

說。良以爲是。 走還者。義云。謂逃走之人。悔過還歸。「其浮逃絶貫。於所在附貫者。亦入功限也。」
師同之。 問。或云。走還謂不必待除附籍帳。何者爲考以一年爲限故。而或說。除帳之人「自」歸者非者何。私案是也。師同。問。賊律云。亡命山澤。不從追喚者。以謀叛論者。未知。還來者爲功哉。或云。以事發之日爲過。然則還首之時亦同。走還功耳。師說。亡命山澤。還來同叛。自首減一等。合徒三年。然則還年既不配流以上。然則不可爲過。仍須爲功。則知。或說得義。義云。其浮逃絶貫於所在附貫者。亦入功限「也」。問。戶令云。沒落外蕃得還。及化外之人歸化者。所在國郡給衣粮。具狀發飛驛申奏。化外之人於寬國附貫。安置。沒落之人依舊貫。无舊貫任於近親附貫者。未知。此等亦爲功哉。或云。沒落之人爲功。或云。不可爲功。此兩說誰是誰非。私案。沒之日不在人力。所制卽不爲過。落亦不可爲過。然則得還之日亦不可爲功。其化外之人寬國附貫亦不可爲功。抑何。師說。竝皆可爲功。何者依此人得(德)如此可進考之色。自然出來之故。問。名例律云。犯流合(應)配三流。俱沒(役)一年。妻妾隨(從)「之」。父祖子孫欲隨者聽。移鄕之者「家口亦」准此。若流移人身死(喪)〔者〕。家口雖經「附」籍。六年之內欲(願)還者聽(放還)者。未知。附籍之日以配所爲有功。還來之時。亦以本貫爲有功哉。或云。爲官判聽不爲功。或云。爲功者。未知是非。師說不可爲功。問。戶居狹鄕欲移就於寬。入功限哉。或云。亦不入功。官判之故。問。*奴是不課也。本主放爲良之日。爲增課丁哉。私案。依檢文不可爲功何。 得入功限。 折生者不合。義云。折者分也。言一戶分爲二戶也。或云。有合折出之色。而知情不折出。後爲他人被告擧者。合入損口之例者。私案。不可然。何者雖折出而不可「爲」增課丁之故。 若戶口入逆。義云。謂自入逆黨者也。問。入逆黨者。一端何。或云。沒化外也。或云。入於逆國入毛人國亦是也。私案。*背本朝投蕃國。或從僞等是也。但已上道不可更得者。入此文。直爲謀狀 走失。義云。謂逃亡也。 犯罪配流以上。義云。謂已殺已配者。科罪之輩。約配流以上之句耳。師同。 其緣坐家口。及沒官

〔事覺者、皆實□輕□者遠流。」と見えたり。

〔或云流人妻妾入損口之例但父祖等願從者不可入何者官判聽故〕名例律に「凡犯流應配者、三流俱役一年。（中略）妻妾從之。家人不在限例。其祖父子孫欲隨者聽。」云々と見えたり。これに據りて立てたる說なり。

〔依倉庫令文案孔目交代之日分付然後放還〕延喜交替式に「凡官物、具文案孔目、專當官人、交代之日、並相分付、然後放還。若數多不可卒輸者、據帳分付。」と見えたり。これ即ち、釋に引ける倉庫令の逸條なり。

并雜戶同居等皆是、「但移鄕及特流。並當贖者非也。」問。義云。謂已殺已配者。未知。諸國流人斷訖言*上。未報之間。何處分。或云。爲未知改斷故。入來年過耳。斷訖待季之間。依例降考申送耳。師同。問。或云。流人妻妾入損口之例。但父祖等願從者不可入。何者官制聽故。或云。妻妾亦不爲損口者。兩說依誰爲長。師說。爲首流隨人其妻妾。是則有司治國。乖方之所致也。然則可入損口之例。問。配流人會赦降〔降〕。免其罪何。或云。上條云。未司考訖以後。省未校以前。犯罪斷訖。准狀合解及降貶者。仍卽附校。有功合進者。亦准之者。然省未校之前放免者。改其考。已訖之後。放免者不改耳。私同。或云。罪已會赦。得免罪人。亦得留。是知。不入過例也。「私」案。已省校了之後。何改其考。更不爲過哉。然則上說爲長。抑何。師說。至勅斷條可（可カ）定。問。元來不附帳籍之人。入逆走失犯流等爲過哉。或云。不可爲過也。師說。不可爲功。但依脫漏戶口之法科罪耳。義云。但移鄕及特流。並當贖者非也。或云。移鄕之人。妻妾可入損口之例。私案。移鄕人。身已不入損例。明知。妻妾亦不言而可知。不可入損例。

前帳虛注。義云。謂前司之時。死者注生。逃者注在。而後任之官。因循不改者「也」。問。或云。計帳之時。因循而受。故降後人考。若計帳之日勘發者。止降先人考者何。私案。是也。師說。依*倉庫令。文案孔目交代之日分付。然後放還。假如。三四月之比交替分付了。六月七月之間。无口之狀顯者何。還責先人。然而分付人民之由不見令條。如此之事。可有別式處分。問。未至計帳之間。事發者。雖他人被告。後人考猶不降哉。或云。後任之官。知而不改者。縱未至計帳之日。而依降考之例。又前人旣雖分付訖。猶其考合追改。私案。是也。案下條知之。或云。前司誰注置。若无由檢求。不合覺知者。不在降考之例。若合檢知。而不知降考耳。

及沒賊〔謂被逆賊抄略。〕**以致減損者。依降考例。**沒賊。非人力所制者非。問。上條云。未司考訖以後。省未校以前。犯罪斷訖。准狀合解及降貶者。仍卽附校。有功合進者。亦准此者。未知。此條并降之色。只放徙文哉。或云。然也。但走還括出等之類。檢有來年須相折。若入來年。功過

相折歟。未定者。或云。賦役令云。詐冒隱避。以免課役。不限附之早晩。皆徵當發年課役者。故爲當發年功者何。師說。不待後年。

凡官人。因加戶口。及勸課田農。幷緣「餘」功。進考者。於後事若不實。縱經恩降。其考皆從追改。「謂雖已敍位。亦須追改也。」問(同)。或云。會赦所不免。悉赦之。赦者不合追改。或云。猶合追改者。此兩說以誰爲是。師說。猶合追改。何者勅斷條。稱恩赦前獄成者。非常赦皆在其中。又戶令。先姧後娶爲妻妾者。雖會赦猶離。是雖非常赦猶離之故。問。假令。有國司實考中中。以誰(詐カ)進一等居中上。後合進追改。若爲處分。或云。改中上爲中中耳。私案。處居官詔詐「之」下下哉。師說。改中上爲中中。是號追改。仍則處詔詐下下耳。義雖已敍位。亦合追改也。問。或五位以上者何。或云。依詐功得五位者。尙可追改。或云。詐得六位了後得五位。五位非是據增功勞授也。注狀可奏者。私案。兩者說共得其義。凡追改之日。內八位以上皆可奏耳歟。師皆同(因)之。問。稱依餘功者。善最等亦同哉。或云。然也。私案。善必待衆知。是知不可詐得善。但詐得最者改降耳。師說。亦處詔詐之第耳。問。或云。當年可降。而不降考訖。後年事發何。答。无追改文。不可更改。或云。不可得而得。故須從追改。下條考當无下第。而待後年。明知。可居上第而居下第者。所由官人考亦追可降耳者。是二說(云)誰是。私案。以追改之說爲長。師同之。或云。又問云。追降所由官人考者。未知。可降何年考。答。追降訖(誤)年考耳。師同之。問。去年所由官。成迭今年春得位秩。去年誤以他考居下第之事發者。依去年考已得位了。至如是者。若降事發年考哉。師說。長官誤降人考。得位之後事發者。猶應追改。可除昇降必當之最故。是所謂不實耳。凡此條稱不實者。故不實失不實。竝无別。无別文之故。問。文云。官人者。未知。番上何。

或云。番上不可同。私案。此說非也。師說番上亦同。

一但在京諸司不可斷徒以上、仍送刑部令斷」獄令に「凡犯罪、皆於事發處官司推斷。在京諸司人、京及諸國人、在京諸司事發者、犯徒以上、送刑部省」とあり。

一粟云」栗云」の誤り歟、又宗は惟宗の宗歟、未だ詳かならず。

凡官人。犯罪附殿者。皆據案成乃附。義云、殿者殿其選數也。案成者斷罪案成。不待贖銅納訖也。問、下文云、私罪計贖銅一斤爲一負。公罪二斤爲一負。各十負爲一殿者。公罪徒一年不可官當。則合贖銅廿斤。是一殿也。＊但在京諸司不可斷徒以上。仍送刑部令斷。因此案之。假令。諸司官人犯公坐徒。送刑官令斷之日。本司亦可附殿。然則在本司斷。在他司斷在本司犯。在他處犯等之罪。皆悉可附殿哉。私案。可然。師說。在他司斷及犯皆同。何者下條云。他司人有功過。皆注牒本司附考者。然則得牒知其犯過附耳。或云。在職掌所犯。在外所犯不可有差別。何者得上上考人已有四善。此人猶可有公私殿也。則知。其私殿不必在職掌處犯之故。私案无難。或云。據案成乃附者。本司斷罪了則附耳。不待官覆斷者。私案。有難。何者獄令云。刑部省及諸國。斷流以上。若除免官當者。皆連寫案申太政官。案覆理盡者。申奏者。案之。諸國所斷。申流以上。若除免官當。刑部覆斷。然後申奏。除此之外。餘犯不可覆斷。下條云。依法合除免官當者。不在考校之限者。合計殿降考者。是杖以下若公罪徒一年以下也。不在可覆斷之色。而今稱不待官案覆者。曾无所由。或云。據案成乃附者。公式令云。獄案冊日程注云。謂徒以上辨定須斷者。此是案成之日也者。私公式令義云。杖罪以下准爲一人中事。「爲」引律令正文故。問。附殿者。未知。不成殿不附哉。或云。下條云。官人犯罪者。考日即附考狀者。案之。不見輕重。又上條云。罪雖不成殿。情狀可矣責者。省校之日。聽臨時量定者。即知。雖不足殿必附。又職制律＊粟（栗）宗云。雖不合至降考。而亦附。雖不成殿。亦附者。問據案成乃附者。未知。其行事。或云。乃附謂附考。言雖犯罪未斷罪訖者不附考也。即之負乃情殊也。凡當年負殿。亦至考時附耳。下條云。應考之官犯罪案成「者」。考日皆即附考。然之故。或云。乃附謂別有負殿之書附畢耳。下條者稱考日可附考狀之理耳。私同後說。何者不待納贖可附之故。師說。不可有負殿書。但以斷文至考時附考狀耳。**私罪。計贖銅一斤爲一負。**義云。負者負其罪名也」。依下條。官人犯罪。轉斷有輕重者。皆依轉斷附殿。即徒條

不限眞決徵贖。皆悉附殿。然則收贖是輕。尙亦附殿。眞決惟重。理自須知。」其分番計殿亦皆准此也。」問。鬪訟律云。戲殺傷人者。各減鬪殺傷二等。卽无官合贖。而犯者依過失法收贖者。未知。附殿何。或云。於贖銅者。爲不輕過失。徵死贖。但於附殿者。依見科罪可附徒分者何。或云。戲殺人者減鬪殺二等。合徒三年。若无位有蔭合贖者。准有位法合官當。卽依下條不在考校之限。何者下條。義云。无位官人有蔭贖。徒以上者亦須解官。不可輕八位以上故。是知。爲三位有用者。私案。爲三位有用者。三位犯徒三年者。議減一等。合二年半。然則合贖。則依戲殺人。猶徵死贖。但於附殿者。可附二年半贖。故云爲三位有用也。有用者。言所疑之調有用也。師說。彼律爲无官合贖之人立文。其官之輩猶依本罪可當贖。不可准過失。然則所疑无用。但有蔭无位官人者。徵死贖耳。則可解官。不可計殿。問。下條云。依法合除免官當者。不在考校之限。義云。无位官人有蔭「贖」。徒以上者。亦須解官。不可輕八位以上者。未知。无位官人。犯杖罪除名贖訖者。本是依令除名之犯不考校哉。爲當爲罪徒以上。猶考校准殿降哉。或云。臨時量景迹可定解否之狀。不依眞徒法者何。師說。旣稱不可輕八位以上。則知。不在考校之限。在下條。問。名例云。八十以上犯反逆殺人合死者上請。盜及傷人者收贖。餘皆勿論者。未知。亦可附殿哉。或云。於可得考之人者。可附殿耳。或云。不合附殿。是兩說以誰爲是。師同上說。義云。其分番計殿亦皆准此「也」。或云。分番雖不至殿。而有二度以上犯者。依上條合居下等。私案。有三度以上犯失。附至下等者。不可更計殿。二度以下可計殿降耳。或云。有蔭合贖之人。无位犯徒以上。已收贖訖。今准有位人可官當之色。雖已收贖訖。仍合解見任。私案。下條云。「官人有犯私罪下中公罪下下。竝解見任。卽依法合除免官當者。不在考校之限。義云。若无位官人有蔭贖。徒以上者。亦須解官。不可輕於八位以上也。又上兵衞條云。數有犯失爲下義解云。竝是杖罪以下。卽附其考。若至徒以上者。仍(同)可解任也者。然則依件等條習耳。

公罪。一斤爲一負。各十負爲一殿。當上上考者。雖有殿不降。義云。謂若當上上考之人。兼有

私罪殿公罪殿者。唯得以私罪降上下。其公罪殿不在降限也。或云。有公罪負私罪負者。以私罪累分合ヵ名爲公坐殿。其公罪雖有相交。不在降限。私案。是也。何者下條云。官人有犯私罪下中公罪下下。並解見任。義云。若通計公罪私罪殿降。至下中者卽爲公罪殿。不可解官之故。又案詐僞律可知。或云。問。詐僞律。僞爲官文書條云。若增減文案。以避稽者杖八十。注云。主司若避公罪有所增減。卽本罪依公坐加罪爲私罪。若應以官當者。須以私併公通。所加私罪爲公坐當法。其於附殿者。各依公私兩論者。而何併計公私負公罪一殿哉。答。理猶合然。何者於官當已以私併公。然則於附殿亦當然哉。但律一端稱大例耳。又問云。律文旣於附殿者。各依公私罪兩論者。卽知公坐殿私坐殿各別合論。而何以私負併公負哉。然則所說之旨。良未爲宜。答。律稱依公私兩論者。此爲私罪一斤爲一負。公罪二斤爲一負。累併官生文。又以帝併輕者。是律當意。然則相累爲殿。於理無妨。或云。加主上上之外。雖有餘考猶不加。若有殿者。相折以彼餘考哉。上撫育有方條。贖（讀ヵ）了。問。有一最以上四善。得上上考之人有犯附殿者。須除其善最。然後准殿降考。是知。有負殿之人。不可居上上考而何。此義解稱當上上考之人。唯得以私罪降上上哉。或云。隨其犯狀可除善最者。先除善最了。定所殘考。然後計殿降考。若可除善最者。依文計殿降上考耳。師說。凡公罪者。不可除善。或云。當上上考者。雖有殿不降。謂四善人有犯罪耳。凡一得之後无過。永得稱善最。有過者。不合稱善。未知。此人始自後年。无善名哉。答。雖非聖人不能无過。於小咎等。豈永失四善哉。宜並情處決。但於私罪。當年依文計殿降考。來年以後。豈得稱德義乎。師說。犯私罪者。先除弃名定考第。然後計殿降耳。

謂非私罪。自上中以下。率

一殿降一等。（私案。雖公罪猶合降。）**卽公坐殿失應降。**（義云。謂公坐成殿。元非挾私。故曰殿失。若公坐故者。不可減殿。何者依律。＊盜決堤防者杖八十注云。有人盜決堤防。取水供用。无問公私。各得此坐。水若爲官。卽是公坐。然則公坐殿。故不可減明也。或云。職制云。貢擧非其人一人。杖六十。失者各減三等。此是公坐殿失也。大祀不預申期。

＊依律盜決堤防者杖八十」これ雜律の條文なり。

〔依名例律於二等以上尊長等犯過失殺傷合徒不聽贖〕名例律に「凡應ニ議請減一。及八位勳十二等以上。若官位勳位得レ減者之父母妻子。犯ニ流罪以下一聽レ贖。（中略）其於ニ二等以上尊長。及外祖父母夫夫之父母一。犯ニ過失殺傷一應レ徒。」とあるものの意をとりて云へるなり。

此公坐故犯也。**若當年勞劇。有異於常者。聽減一殿。**義云。謂得中上以上考者。何者中上以上考。非常人之所得故。是以。唐令加一季祿。即常得中中之人。特得中上〔年〕。常得中上之人。特得上下之類。故云有異於常也。或云。若去年中上。而今年中中。此不在稱勞劇之例。私案。見義解。問。或云。考中邂逅罪犯既成。負殿念悔勤倍增異於常之類。此是上條罪。雖成殿情狀可矜也。但有別功者。以常法准折耳。而何。私案。就義解論之。此說既破也。仍爲不用。問。別有可嘉尚者。亦爲異於常者何。私案。乖義解。又用。**其犯過失殺傷人。及疑罪徵贖者。並不入殿限。**問。*依名例律。於二等以上尊長等。犯過失殺傷合徒。不聽贖。是若依過失。猶不計殿哉。或云。可附殿。師同。名例云。於二等以上尊長。及外祖父母夫夫之父母犯過失殺傷應徒。亦不得減贖是也。問。或云。殺傷人者一事者何。私案。或殺或傷是也。凡雖爲一事。不可有害。何者過失殺已不附殿者。傷亦不可附之故。或云。除過失疑罪之外。无官犯罪條。贖銅計負殿如常。或云。除過失殺傷人之外餘犯故。失並計殿无別。

凡官人有犯。私罪下中。公罪下下。並解見任。義云。依上條。計公私殿。降至此第(條)者。即解見任。其以景迹論。降至此考者亦同。「若通計公「罪」私罪殿。降至下中者。即爲公罪殿。不可解官也。」問。下條云。國司每年量郡司行能功課。立四等考第。清謹勤公。勘當明審之類爲上。居官不怠。執事无私之類爲中。不勤其職。數有愆犯之類爲下。背公向私。貪濁有狀之類爲下。下條終云。下下考者。當年校定即解。未知。此等計殿降考。即可解官哉。若合解官者。至何科之日可解哉。私案。可計殿无疑。即至下下者解耳。師同。或云。所以以景迹論降。亦同解官者。下條云。郡司背公向私。貪濁有狀之類爲下下。當年即解者故。上條背公向私。職務廢闕爲下中之色。亦解見任耳。問。以景迹論之色。至下中下下之日。同亦解官。未知。依

減損戸口出農等。降至下中下下者何。或云。跡釋云。私一知カ耳。或云。下下之人。有餘功之日加進而不解官。受一安ヶ。留中中之人。依減損降至下下者解官无疑。令无別文故。師同。義云。若通計公罪私罪殿。降至下中者。即爲公罪殿。不可解官。問。今案義解意。假如。居中中考之人。有私罪一殿。公罪一殿者。總降三等可處下中。則是爲公罪下中不可解官。謂之通計公罪私罪殿降。至下中。未知。居下上考之人者。公罪一負。私罪九負。通計彼此爲一殿。降一等處下中者。亦爲公罪下中。不解官耳歟。或云。然也。或云。依私罪殿一而降下中者。不解官者。私案。其旨不明。

即依法合除免官當者。不在考校之限。義云。若无位官人。有蔭贖徒以上者。亦須解官。不可輕「於」八位以上也。問。犯除名免所居官等杖罪何。或云。不在考校之限。亦奪當年祿。或云。不依贖犯徒法。（在上條也）。此兩說誰是。師說。不在考校之限。不可輕八位以上之故。名例云。監臨主守。於所監守犯姧盜畧人。若受財而犯法者。亦除名。注云。盜及枉法。謂盜三端。枉法一端。又條云。祖父母父母老疾无侍委親之官。免所居官。盜律云。竊盜一尺杖六十。一端加一等。（案之。三端合杖八十。）職制律云。監臨之官受財枉法者。一尺杖八十。一端加一等。（案之。一端合杖八十。）又條云。祖父母父母老疾无侍委親之官杖一百。問。无位官人犯徒。解官之罪。出仕年限何。或云。依官當年限者何。師說。亦同之。或云。當上有考解文。但犯徒罪以上者。八位以上除免官當之故。初位无位亦雖收贖了。猶合解官。私案。見上兵衞條義。

並奪當年祿。義云。當年者自春至冬。即奪事發年祿。不可追前年祿。假如。正月事發者。不徵去年祿。即停將來祿。若秋祿既給後事發者。春秋之祿。並皆徵還之類也。或云。三月事發者。春秋追徵。秋之祿停給。或云。私罪下中。公罪下下。依此令奪全年祿。私罪下上。公罪下中。依祿令奪半年祿。祿令云。應給祿之官。若負犯應除免官當。被推劾科斷未了。其祿停給。待斷定。檢定然後給之。其私罪下上公罪下中。奪半年之祿。或云。問。未司科斷了者。雖未奏。而猶徵祿哉。爲當待奏了哉。私說。令云。奪祿者。徵半一年。限六十日內輸了。徵一年限百廿日內輸了。義云。並從制當日始計。即與徵

〔名例律云云々〕名例律、除名條の一部なり。

贖銅同。或云。問。同(國)司公廨亦准稱可徵者。而今或(式)云。給訖犯罪不徵者何。**本犯不至除解。**(以下十二字。延曆交替式。政事要略作注。)**而特除解者不徵。**問。特除解者。未知。責心臨時除解歟。或云。別勅臨時所行耳。所司私不可除解。但於解官者官判任以下者。所司私得解者何。師說。罪雖不成。殿情狀可責者。省校之日。皆聽臨時量定者。故知。所司臨「時脫カ」量。除其考。至解官者。則可解官。故云。得私解。又除者。除免官當皆約之。問。特官當者何。或云。特免所居官及官當亦不徵歟。何者與除解不殊故。**其考解者。期年聽敍。**義云。考解之人。不可進(追)位。而言聽敍者。猶云聽仕。問。名例律云。免所居官及官當者。期年之後。降先位一等敍者。此條云。期年聽敍者。未知。期年與之後有別哉。或云。期年者與期年之後同意(心)。見詐僞律詐假官條。私案。彼條云。其於法不應爲官。而詐求得官者。徒一年注云。謂有罪譴。未合仕之類。疏云。假如。除名者六載後聽敍。免官者三載後聽敍。免所居官期年聽敍者。則知。期年之後。與期年同意。

令集解卷廿

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢

本云

員外宰相藤判

此校了

建治二年閏三月廿九日以正親町本書寫畢　　見畢　章　藤

同年四月五日引花山院本令校合畢（引合他本校合了）　　花山院

本云

慶長四年五月十七日課少内（外）記賢好令一校畢　　吏部郎中清原秀賢

寛永十一年九月日遂校合畢　　大府侍郎中原職忠

万治四年辛丑年仲春十八日令一校畢　　羽林中郎將藤原

右一冊以朝倉景員本任本書寫畢

明和戊子歳季夏　　越智通邦　印

明和己丑七日以河村氏藏本一校朗一閲了

明和庚寅四月以京師本一校了

安永四年三月四日一會了

文化十癸酉年五月九日校了　　筒井忠英

文政三年六月以水府本校正畢　　撿校保己一

〔比徒條云流外不用此律〕これ唐の名例律に「諸除名者比ニ徒三年一。免官者比ニ徒二年一。免所居官者比ニ徒一年一。流外官不レ用ニ此律一。」とあるを引けるなり。我が名例律に於いては、これが「初位不レ用ニ此律一。」に改められたり。

〔閑月陪番〕賦役令に「凡屋ニ役丁一者、(中略)自ニ十月一日一、至ニ二月

内外初位條

凡内外初位以上長上官。穴云。比徒條云。流外不用此律。本令云。流内流外長上官故。可云内外初位。何者自考流内官以下皆京國約。即知。論位非云司之内外。又考流外論位。又非司也。於京國之處。只稱内外文武官九品以上耳。内外初位以上長上官。謂位之内外是也。非云内外官也。但於理無損益也。私案。稱内外位者。散五位以上約。只稱内外官時。只云職事。散官不約。故知不可云無損益。公云。本令云。流内流外故耳。云内外官。私云。師同之。在穴跡記。云。少毅以上郡司爲外長上官。朱云。内外初位以上者。未知。無位長上何。答。同也。稱位者。品並同也。

計考前釐事。不滿二百卌日。分番不滿一百卌日。穴云。分番計百卌日。未知。兵衞給祿條云。計日夜。於此何論。答。依文。但日足百卌日者。與考不論夜事也。公云。問。國博士醫師考限放何色。答。師云。放番上以百卌日爲考限。在穴記。跡云。國博士資人等皆爲番上也。朱云。選敍令云。考限敍法及准折同郡司者。而何國博士同分番哉。答。猶可同番上日限。何者並三等考第故者。於有如此相違色。假如。坊令長上得分番考耳。私疑。若帳内資人。不滿二百日並不考。分番者。若日有斷絕。欲於考前陪(倍)上者。皆聽通計。謂有故闕番者。若農時請假。閑月陪(倍)上者。量其意。「故理不可聽」也。釋云。假有農時請假。閑月陪番。如此之徒。理不可恕。但儻有事故請陪(倍)合農時。法令無所容計(許)陪(倍)「有無」。或唐令云。若番有長短。日有斷絕。言

卅日一内、均分充役。一番不レ得レ過二五十日一。若要月者、不レ得レ過二卅日一云々とあり、故に閑月は即ち十月收穫を終りてより二月末日の播種に至る農閑期にして、この期間は上番の日を指するなり。

〔古令云新任身從公使未起上者云々〕これ本條の古令の文なり。兩者の差異就きて見るべし。

記云。若日有斷絶。謂有故闕番也。无故不上亦同。陪謂所闕加足之名。穴云。陪上聽。謂私記云。無故不上亦同。大夫云。同令釋云。無故不上者不許者。私案。令釋亦无異義。農月請假。閑月欲上者。法不聽耳。但无故不上。罪後欲上者。令釋亦不禁。

卽先從公使。後改(任)官者。

謂散位先從公使。後任官者亦同也。釋云。卽先從公使後任(改)官者。謂散位先從公事。後任官。亦可稱改官。何者唐令云。卽新任身從公使者。就彼文案。先從公使後任官。爲當。任官之後從公使。其別不見。故此令具顯耳。不改官之人從公使者本。是分番者。不同長上日。若任使、制官主典者亦同長上法。跡云。先從公使。謂分番人遣(退)使之間。任職事。但改(任)官者。改散官任職事心耳也。若番上遣(退)使經一周者。成番上二考之類。選「敍」令。「使蕃滿四周者之條下。」穴云。化内者非也。文云蕃故。假里長身長上得番上考。朱云。此假遣文書使等不定。「使」主典只一人遣身「但以」。番上人召使主典以上者。仍長上人耳。朱云。卽先從公使。後改(任)官者。未知。爲分番人歟。爲長上人歟。或云。文者爲長上人所云。何者爲改官故。但分番人亦准此耳者何。答。然也。穴云。先從公使。後改官者。本主典已上而差使。後改本官任他司。是其番官雖得稱官。不被云改官故。或云。改散官任職事心者。就古令意讀耳。於今不合也。但古令云。新任身從公使未起上者。起補授(任)日。同在司整事法者。但番官從使後任主典者。亦同是耳。使者或偏使。或召主典以上並約。但偏使者同番上也。使番經二百八十日。尚爲考。爲令非一周故也。古記云。問。新任身從公使。未知。任之從使之後任官。若爲其別。答。一種也。是行也。使謂國内使。遣使新羅亦同。唯經四周別論耳。

起補任日。及任訖未上。便差充使者。

穴云。「便差使者。便卽之義。律疏云。聽使適中。是中也。

起差使日。並同在司整事法。若舊人被使。後得替者。

謂官人充使。後得替解任者也。釋云。若舊人被使後得替者。替後使日亦聽通計。此爲與長上日。就注条例一年耳。但給祿並定考第者。待身至耳。爲不知上日並功過故。古

記云。問。同在司釐事法。若定考第以不。答。不合同釐事法。謂與日數給祿耳。待身還令定第也。問。此人應成選待身來。過期限若爲。答。省量令定。問。若舊人被使後。得替者後使日。亦聽通計給祿不。答。不給。但依前得長上考耳。本司日若干。任內使日若干。任解之後。使日若干記送省耳。問。官人從公使仍得賜。未上道幷上首无正身。未知。給職事祿不。答。依文竝合給之。又常例行事。給不「哉」給分番也。分番謂兵衞之類。跡云。舊人謂官人被使以後去任者。檢以使日得長上考耳。凡被使之官須正身還來。勘定上日功過。可給本司祿。又可定考等第也。朱云。竝同在司釐事法者。未知。行事何。若以使日於本司而與考歟。又凡使上日所至之國司與不何。答。本司上日與使上日。各送省可定考第也。如二官以上人考者。又問。送省可定者。未知。先進官耳歟。穴云。替後使日亦許通計。謂本官替是。問。何司與之考。答。散位上日無一日以上故。尙先任官考送耳。何者文稱舊。合檢彼先司稱舊通計故。其替使者不審。但交替之時。國司雜食官粮共有日限。不給上日。一端有此色。師云。替使之後若尤所上者。不得上日耳。後案。先任之官及使處。各注上日行事送省。省校定耳。讃云。更案新任司考也。問。使人之考於何處與哉。答。還到本司與耳。問。注最何。答。從使色注耳。假諸司主典任使判官者。據本司上日與主典最。據使之判官上日。與判官最。但不爲二最。爲不被云一最以上。又非兼官故。卽於使處犯公罪。到於本司。事發者科斷如常。又非檢校攝判之處故也。合勘律說者云（師云。可准檢校攝判之所耳。）公問。舊人被使後得替。於何處與考哉。答。師云。替使之後有散位上日。於散位與考。若尤上日。而前司日與後使日通計足考限者。以前司日與使日。式部爲考耳。可求。（在穴記。）

替後使日。亦聽通計。其有功過灼然。謂當上中以上考者爲功。當下中以下考者爲過。是竝功過灼然者。其分番亦准此也。釋云。功過灼然。理合黜陟者。雖不滿日。別記送省。所以別送者。若有殊功者。隨狀與考如有大過者量意解官。古記云。問。其有功過灼然。答。得考之人功過皆附考日。不滿人、卽不合考。故云。別記送省。准犯合解者。解量功合用擢用之意耳。假令。考文云。官位姓名不考日若干。功過注顯也。更別紙子細注記申送耳。

輒內貲人亦同。問。即從見任轉爲別官者。答。初位條具說記。穴云。問。其有功過灼然。理合黜陟者。之一最一善。有者最合陟。及職務廢闕可黜是。師云。此爲日不滿生文也。但。或一最。或一善。是人合得中中。即爲非有功灼然。故不記送。私案。令有一最一善日不滿者。記送用不。何者日滿之一最一善與不滿不合同故。但合上下以上者。合注送。爲非人之常所得考故也。或合中下之人。是亦無過灼然故。亦不注送合受。但合下上者注送。爲成選日相折時。及奪祿故其中上。中中中下若有負殿合降。有釜者合注送。讚云。凡六考內有不考者。皆除前勞。假三考上等。後年不考。更加二年擬爲六考遷代。即依彼不考除前勞之類。然則此文過灼然。謂至解官。乃注送不然不送耳。但功一等以上皆注送也。私案。此說不當。何者選敍令云。長上官以理解者。後任日聽通計前勞者。解官〔以理〕之人。尙通計前勞、況在任人。一日不上。當年不考。豈依何文除前勞耶。又云。考解者。不用此令者。今准考解之例。明知。不當然〔選敍〕令云。遷代以六考爲限者。然則以六考內所得五考以下。一二考以上成選耳。不過六考。何者雖以理解尤故。私停過一年者。除前勞被前六考之內一考耶。是知。明不通計。又文云。尤故不上。明有故者通計。無年限。又文云。理解者。聽任于雜色。無所解埋色。假元年得一二年。不上三四五六年皆不考。至七年上得一考。如此之類。豈通計後任之日。通其在任之人。依解退色。故知。六考之內不論考得不。應記爲六考內選。通計前勞者。謂假上五考滿六之年以理解。既以理解者。此法可聽故。更後任之日上通計前勞。其在任之人得五考。滿六之日。不滿不考。此非解退不仕色。故滿六之年總爲六考。以彼且得五考選成爲尤除。又考之年文故。又以理解色計前勞。謂或上中下等皆通計。通計者。上中下及不考皆通計。是滿六年灼然。讚博士後同。問。依景迹論合處中中中下日。不滿上日。而此人有負殿者。何處分。答。此別記送者。以負殿降而解官耳。別記送。謂功過行能。共具注記送也。四善雖諸司所知尙記送耳。問。番上人有功過灼然。別記送哉。答。合有依功迹爲最迹等也。有過灼然者不送。假貪濁有狀。及數有犯失等。並不注送耳。爲尤用故也。師云。猶記送之一伺者爲量心臨時解任也。又案此條別記送者。爲臨時責宥也。又云。別記送者者。不經官而徑送者耳。京

〔遭喪解任〕假寧令に「凡職事官、遭二父母喪一、並解官。自餘皆給假。」云々と見えたり。

國竝與考文共送也。在穴記。朱云。有功過灼然。理合黜陟。謂可得中上以上中下以上考者衆答也。未明也。遙令釋何。貞云。於功者。中中以上。何者此文不見限故。但於過者。不可至解官者。更不送。何者於日不滿人无可降考故。雖送可无益考故者。私問。跡昔云。別記送者長上番上竝同。何者番上雖无考解文。臨時量狀可解弃故。或云。番上於過不可送者非也。

理合黜陟者。雖不滿日。別記送省。其分番與長上通計爲考者。謂是爲分番入長上立法。若長上出分番者。不用此法。猶亦以長上一日。爲分番一日。其外長上與內分番。亦不在通計之例「也」。釋云。分番三日當長上二日。以長上二日不得當分番三日以內。分番三日當外長上二日。其理不安。唐令云。奉二番者。三日當長上二日。三番者二日當一日。若三番與二番通計者。亦三日當二日者。古記云。問。通計爲考。答。若通計不滿長上日。而分番日滿者。仍得分番考。但以長上三日不得。充分番三日。問。長上二百卅日得替。分番十五日得通計二百卅（卌）日。若爲處分。答。猶與分番考也。問。長上百卅（卌）日*遭喪解任。或服中補任。竝无分番日。若爲處分。答。雖无一日以長上百卌日。令得分番考。一云。不合。跡云。三日當二日。謂若長上廿日。而出番上者。猶番上廿日耳。何故者。自日多考至日少考故也。番上百日。長上卅（卌）日者與番上考。（朱貞後反了。云經百卅日入長上。通計長上日不滿二百卌日。還可得分番考。但番上經百卌日入長上。通計長上日不滿二百卌日。寡不得考耳。私案。可然也。）（以上五十九字作分注。）若經長上百卌日出番上。而全無番上日者。不與考也。（一朱私當（案カ）可然也。）問。內番上日。與郡司日。何相當。貞答。分番三日當長上二日无別。唐令（答）別立耳。朱云。分番三日當長上二日。謂帳內資人亦准分番者。未知。凡此文爲何時立文。若番上日與長上日。通計爲與長上考時立文歟。若然者。如此通計不足二百卌日。不與考哉。答。然。不足不與者。生答也。穴云。分番三日當長上二日。私案。給亦如之。問。分番與長上通計爲考。或云。分番行事。注小心謹卓執當幹了。長上行事。一最一善中上考。或云。直據云一最一善中上。不注小心謹卓等。兩說何是。答。同上論使事義。仍番上長上二種注耳。問。番上无遙。供承得清與一最及一善併者。處何等。

「此既文本心也」これ既に條文の本意なり。本意とは、文字解釋によりて知り得られる條文の意義なり。

答。虚中上耳。依選叙令、分番上中下者、當長上之中、上中中中下也。彼意爲既考記故、生彼義也。此意爲考中行事故。混合此例。仍云分番日百日番上無違、供承得濟長上日一百卌日、一最一善爲中上耳。如此之類、量情定等。不合。合、要執選叙令之義也。內分番出外長上者、不依此文。假甲乙二人、各得分番日三六十日、出外長上。甲得長上日二百。乙只得百日。乙依不足日、還得內考。甲長上者、依日足得外考。於理不當。故從雖出外長上、得二百卌日。有自先餘分番之日一日者、尙與考耳。今師云。甲爲日滿與外長上考。乙爲日不足二百卌日。不與考。但內番上日百卌日者、與內分番考耳。自餘內分番入內長上等、通計兩色日。不足二百卌、卌日者、長上番上竝不考。但番上一色日滿百卌(卌)日者、還與分番考。不滿者不考耳。以外亦如之。後云皆依前說可讀之。私案。此說論理凡然矣。但長上不論內外。是二百卌日。番上不論內外百卌日。以此論、尙以長上番上品色已殊。以分番三日當長上一日。此既文本心也。不可以內外論。未究問。於此論郡司立四等考第、下下合解官。分番立三等考第。不解官。如此何處分。答。尙依三等考第不解耳。但有合黜陟者、習上文、別記迻耳。內分番入內長上日、若不足二百卌日。得番上考時。亦如之也。或云。問。實人等色。入內番上及長上者、通計上日依何法哉。答。實人日三、准番一百日。而若有番上日一日者、與番上考。若全无番上日與實人考。若實人日不足一百日、而无番上日者不考耳。但實人日與番上日、通計足百卌日者、與番上考耳從寬義也。其入長上者、通計上日如長上與番上通計時耳。在穴記。跡皆云。問。假番上人番「上」無違。供承得濟可爲中也。此人經六十日被差使、而以使日通計可與長上考。若此人一最一善、或无最有二善、可置中上者何。答。從長上可置中上也。從實意耳者。或云。依實「可」南「注」者、凡可覆「注」。

分番三日。當長上一日。每年考文集日。省勘校。色別爲記。謂上日考第。色制非一。故云色別。即今所謂考之別記者也。釋云。色別爲記上中下。又三位以上五位以上六位以下內及外初位以上。長上幷分番及帳內資人也。古記云。謂。色別爲記。答。上中下色也。跡云。色別謂三位四位六位以下。或長上番上各條色上中下也。穴云。色別爲記。謂上論內外長上番上資人。下論三位五位以上六位以下。及上中下等。皆色別爲卷。其續功

〔官宣〕太政官の宣なり。國司廳宣、太宰府廳宣なるもの多くあれど、太政官宣なるものその例多からず、交替式に二三その例あり。

過行能耳。師云。上云考文之外。爲別記送省事生文。但有其中内外長上番上資人等。爲別卷耳。在穴記。**具顯功過。三位以上**謂一品以下。其右大臣以上。不在考例也。釋云。三位以上奏裁。大臣以上不在考例。唯錄上日耳。案最條知之。古記云。問。具顯功過。三位以上奏裁若爲。答。三位以上具顯功過。但以別記奏。以考文不奏耳。一云。三位以上。具錄善最。於太政官唱示。其右大臣以上不在考例。唯錄上日數耳。朱云。具顯功過。謂行能亦顯耳。文畧耳。生云。具顯功過。謂本司所進考文者留省。省更別記進官。假如。摠目帳者。未知。與考文作其別何。在穴記(在跡)。**奏裁。**謂此爲六位以下立文也。釋云。此唱示者。爲六位以下生文。然則六位以上官唱示。又三位以上奏裁之後唱示耳。或說。此文皆論作別記之樣。何者三位以上奏裁定等之後。五位以上。太政官量定等第之後。六位以下。省校定之後。乃始應爲別記。然則唱示考第。謂三位以上五位以上。六位以下。竝約者非。養老五年官宣。*在省唱考之日。三位稱卿。四位稱姓。五位先名後姓。以爲永(恒)例。古記云。問。**五位以上。太政官量定奏聞。六位以下。省校定。訖唱示考第。**

(以下本文)

奏聞。唱示考第以不。答。合唱示。但今行事。式部省定善最唱示。申太政官。官更爲唱示考第也。一云。親王以下。省(日)(同)考選事。竝於太政官唱示也。問。申官與送省。若爲其別。答。一種。先皆申送官。後皆送省耳。跡云。五位以上。太政官定等第奏。至成選之年。亦注中上中中之狀。不定階數直奏也。六位省定等第。唱示訖申官。至成選之年。亦定階訖申官。朱云。至成選年。結階數不可唱示。不見文故者。師說云。一位以下五位以上唱示事。文不見。然官唱示。乃奏聞耳。朱无(先カ)云。太政官量定。司散然云耳者。五位以上考。太政官「唱考第。謂官」可定。式部掌考案何。唱示考第。謂在京人等也。朱云。三位以上奏裁。謂只記上日行事奏裁者。未知。而勅則定階數。爲當只定考上中等。又於五位以上同所疑。又奏裁。謂太政官奏裁賦。私案。可知也。生云。於五位以上者。太政官不結階只奏。但於定考第官位耳。未明。三位以上者。奏裁勅定等第也。此後官唱示耳。在跡記背。穴云。三位以上奏裁訖者。亦隨上中下別記也。仍考文選文。摠申官。官覆審訖。六位

以下云々。雖備文。諸式部。選文之人。若遣使記。即申官。官摠二月卅日內處分記耳。伊云。五位以上官唱示。又三位以上者具之唱示耳。新令問答同。古記案不明。又大夫云。雖部司而五位以上者。皆依此文定參。冊問說云。三位以上。其續功過注官定是。及五位以上。並定了唱示乃奏。私記同之。

申太政官。若考當下第。狀有不盡。

謂若考當下第校量難明者。猶依上第爲定也。古記云。問。若考當下第。狀有不盡。未知。考狀有二殊以不。答。校量其人不合下第之類。考狀無殊者非也。一狀內不周悉亦同下第。謂中下以下也。朱云。考當下第狀有不盡。謂考當上第。狀有不盡皆同也。此文。一端云耳。穴云。考當上第。狀有不盡者。依上第定耳。讚云。同額云。一端云下第。則知當上第之人亦如之。記。在穴

量校難明者〔難明者〕附使勘覆。

謂使者便使也。釋云。附使勘覆。謂便使勘覆事者耳。唐令。每道有考校使。故云也。古記云。問。附使。答。遣巡察使覆囚使。並差專使耳。跡云。使謂從令釋。并朝集使。何者被請勘人故也。公附使勘覆者。爲外國生文。案文可知之。釋云。便使勘覆其事者。謂京官使人往諸國之勘覆其事耳。記。在穴

善惡待後年摠定。

穴云。問。請待後年摠定。未知。同察主典以上考皆不定哉。答。師云。依例與考記耳。但後年顯不實之狀者。追降前年考而依實定耳。

若過考之後。訴理不伏應雪者亦如之。

謂雪者明也。釋云。應雪。廣雅。雪除也。書傳所云。雪恥之義是也。古記云。問。若過考之後。答。上政官校定之後也。亦如之。謂亦附使勘覆耳。問。謂當下考者乎。答。亦謂非定令解官也。跡云。過考之後。謂雖在京人。過考之後猶待。得後考時。令勘定也。朱云。京官不云者。朱云。皆過考之後。訴理不伏。應雪者亦如之者。未知。何時爲過考之後。皆八月一日以後歟。凡此等色。爲餘考哉。答。三月一日以後。爲過考之後者。先私不同也。穴云。亦如之。謂亦附使勘覆爲是。古私記所云。

〔伊云〕佐藤誠實博士の律令考には「伊云とあるは、伊吉連子人か、伊與部連家守か。家守は善道眞貞の父なり。」但し伊は伊吉の略なり」と云へり。伊吉連子人の名は僧尼令集解、任僧綱條に見えたり。明、元正朝の人なり。伊與部連家守は、大寶令の撰定に與れる伊與部連馬養の子にして、公羊傳の大家なり。令[illegible]解の撰定に與れる[illegible]貞は、家守の子にして、その傳は續日本後紀、卷十五、承和十二年二月丁[illegible]の條に見えたり。

〔附使勘覆謂使使勘覆事者耳唐令每道有考使故云也〕唐令には、道每に考校使なるものあり[illegible]、寶さざるものを覆校す。我が令には[illegible]考校使なし、故に考を校する使には、これを[illegible]に附す[illegible]なり。

ずとなり。
〔外國〕畿外の國なり。

任二官條

凡任二官以上。各依官考。謂二官各依常例立考。故云。各依官考也。釋云。依官各考。跡云。依官考。謂數官各滿考日。省各定考第申送也。

省考校日。聽以功過相折。謂以功折過。定其等考第。若二官共无功過。唯有善最者。不可相折也。釋云。省考校日。聽以功過相折。累從一高官上考考之。別記約從一官起本此條耳。其甲官春祿日百卌日。乙官秋祿日百卌日者。式部考校日相累併二百卌日爲考耳。其日灼然非同日故。一高官上考。謂猶言高官上考也。此言以功折過。爲從上考立文故。稱聽字。但二官共无功過。止有善最者。直從一官考。若共有功過者。又累併昇降其一官考。至解官者。以功過不相折。古記云。問。聽以功過相折。未知。一官上日卌。一官上日二百。通計二百卌日得考不。答。不合。問。累從一高官考。答。高官謂官位之高也。一云。得上考官。謂之高官。跡云。問。數官各不滿日者何爲。答。各注上日功過善最令送省。省通數司爲考。朱云。未知。然則省可作此人考文哉不何。但假令。兩司各卅日。而並在同月者。猶是摠卅日耳。不得成六十日之類也。以功過相折。謂不依當善最科。而依異功過相折。朱云。未知。此說合乎。答。然也。假令。甲司有一最一善。居中上。乙司職事粗理。善最弗聞。居中下。如此之類不相折。直從上考之官。若兩司考第等者（省）從官位高官考耳。問。甲司考中上以上。乙司考私罪以下中下。未知。相折否。答。依選敍令。雖有上上。而有私罪下中者。皆令解官。不令相折。此下考至解官故。朱云。然者文稱以功過相折者。此爲何時。若爲不至解官過歟。答。然也。但一司居上中。一司有私罪下上者。至解官故。從上中官考耳。朱未明也。問。甲司依一最一善居中上。乙司中中而有一殿者何。答。依乙司殿令除甲司中上考。或乙甲司各中中。甲司益戸口一分。乙司損戸口一分者。以功過相折。所殘一分益進一等。居甲司中上之類。如此令相折。或兩司各中上。一司上益戸口一分。又一同上加田農二分者。以二司中上爲一中上。而進二等成一上中之類。朱云。聽以功過相折。謂若考第等者從一也。若有高下者。從一高者。但有功過者。相累昇降耳。凡此功過者。善最之外功過者自餘其狀。案令釋可知。從一高官上考者。未知。此文志。先稱高官之上考歟。或云。若高官无上考者。從有上考卑官考者何。

〔舉一隅示三也〕一隅を舉ぐと云ふに同じ、法文一例を舉げたるに過ぎず、實際に解すべしとなり。

「春云」は古記か令私記なるべし。

答。此文志不見考高下。尙從高官考者。未明。而又高官專不考何。尙同不。先云。但高官考專不考者。可從卑官考者何。或云。問。六位官考中中。七位官考中上何。答。以七位官考加中中上。成中上。只不過中上耳。又於過者。相累一官考通可折。未明。生云。於任二官以上人者。一高官取餘司。上日功過作考文送省。先不同也。各記上日功過送省。則省作考文者。未明。在跡記背。穴云。兩司或共有功。或共有過。或甲司祭祀不違常典。或職國事修理。朝集事。如此之類相累辨。答。但於成選年集哉。以功過相折。謂善最負殿增益戶口等皆是也。又相折。謂綱例耳。有不令相折者耳。師同之。假令。甲司神祇祭祀。不違常典。乙司僧尼合道。謂第不擾。此人有一善者。爲一最以上。有一善若不聞。乙司最者。以甲司最及一善亦爲中上。其最考第。有得不之司。但善者廣諸司所知。不令有可得不之司。此常法耳也。或甲司有善最人。乙司愛憎任情。處斷無理者。悉爲下上。爲善最皆論故也。乙司職事粗理。有一善者。依尤最有一善之文爲中中。卽通計彼甲司善最。若是可云二最「物」者。卽尙爲一最一善處中上。若不可云一最「物」者。混併論。尙爲職事粗理。而只有一善處中中之類也。以上釋不令相折之類也。其有負殿及餘功過等者。是以過相折之類也。*舉一隅示三也。舉從一高官上。謂官位高官也。譬如猶雖兩司。各與格勤善遂爲一善義耳。問。兩司各有負殿及餘功過等時。彼此相折。所定等第其分折。答。假令。甲司一最一善。而有公罪三殿。居下上。乙司亦一最一善。而有公罪二殿。居中下者。省勘校之日。從一高官一最一善居中上。卽以兩司五殿混併一高官上爲下下。仍解一高官。但一官考處下下不解官耳。又不除承前之勞也。依文迴於見任官上論耳。轉斷條。以最速論處下下。不解官同義也。故。大夫云。相折物者云。省同云日。考案各可成中也。古私記。及春*云。亦不除前勞者。大夫云。不除前勞者。或甲司有一最一善。而犯公罪五殿居下下。令解官。乙司亦於一最一善。而有增益戶口一分居上中者。舉從一高官爲上中。而降五等爲下上。兩官竝不解官之類。若乙司無增益者。徑任。任。解彼有殿甲司耳。更無舉從之類也。但乙司遂令混併故。亦處下下上。旣解了也。問。甲乙兩司各有一最。而甲司犯私罪二殿。居下上。乙司增益戶口二分。居上下。兩司各中、中上者。依選敍令義。雖有上下。猶從下考故。爲

〔公問職大夫兼神祇伯…………然則不除最哉〕京職の大夫神祇の伯を兼ね交代に兩司に至つて事を視る。神祇官に至る日

當依文相折哉。答。此條爲考中行事故。依文。累從一高官上以功過相折。爲一中中耳。師云。不至解官。倚得相折。若至解官。不得相折也。此謂甲司計負殿。至下下時者。問。二官各定等第申送之後。於式部以兩官功過相折。從一高官考之日。改彼前所定卑官考文哉以不。答。師云。不令(合)與。穴異說也。又初條注云。本司考訖以後。省未校之前。犯罪斷訖。准狀令解及降貶者。即附校。有功可(應)進者。亦如者。故知。考後功過尚准狀昇。況考內過。一如附負殿條義。不合放選敍令灼然也。問。凡任兩官以上。及或任兩判官。或判官次官相交。或一司得最。一司不得最。如此之類。累從之日。捨取具示。答。假令。式部判官兼任刑部判官。而於式部考。如法。但不兼擧庶事。刑部好兼擧庶事者。與考問一最。除刑部兼擧之最。或神祇伯兼他司長官。兩司職事好行昇降必當。而但祭祀違常典者。却(都)无窮(寂)。爲祭祀之事此重。不修理。又不被云職事修理故。又兼兩司主典。而一司不勤於記事者。除一司之最之類。言合稱二最者。一司二有失。一司二無失者得最。不合(令)稱二最者。縱雖每司注最。唯一司有失者。餘司皆不得最耳。爲不被云二最已上故也。師儲同之。私案。次官與判官交任者。令(合カ)云二最也。合請正說也。問。累從一高官。未知。每官之行事。皆省約一歟。答。行事者各每司注顯。假甲司主典勤於記事。無隱稽失。乙司亦如之。三四司各注之類。但至於定級。處從一高官中上中中耳。以上解並二司。各爲滿日故也。若日不滿者。如先私記也。縱雖日日參朝廷。居甲司而不到乙司。行事之日。不得乙司日之類也。或云。問。一官考居中上以上。今一官考居下上。而有公罪一殿者。相折之法何。答。一端以此一殿降中上以上考耳。大槩不至解官以上者。上考下考得相折。若至解官者。不可相折也。公問。一司有一善一最居下(中)上。一司有職事粗修善最弗聞者。何時(得)相折哉。爲當。依一司一善一最居中上哉。答。師云。依一司一善一最居中上耳。私思。一司依善最居中上。一司有*一善。若尤善有一最者不相折。而依一司中上考。若一司職事粗修。善最弗聞者。猶居中下。依一司過已耳。公問。職大夫兼神祇伯。至職視事之日〔日〕。每事无失。至官視事之日。祭祀之事亦无失。而至官視事之日。職家之政有失。至職視事之日。官之政有失。如此之類。非長官過。然則不除最哉。答。師云。雖非視事之日過。

には官に失なく、京■に至る日には職に失なし。然れども官に至る日には、職に失あり、職に至る日には官に失あり。何れも■官不在中の失にして而もその不在は兼官の爲めの止むを得ざる不在なり。故に斯かる場合には失ありと雖も長官の最を除くべからざるものと考ふべきやと問へるなり。

而但一端。神祇祭祀之事。違常典者。也不待異文。自餘推可知耳。在穴記

累從一高官上考、若一官上犯私坐應解者。即(則)並解。謂二官並解。若犯公坐者。唯解事發之一官。其計二官公殿至解官者。亦解一高官也。釋云。選叙令云。上中以上。雖有下考。即從上第。注云。下考謂不至解官者。即知。解官之考不得相折。故云。一官上犯私坐應解者。則並解也。若犯公坐者。此解事發一官耳。古記云。問。二官公殿通計一官。未知。二官公殿。各合解官。若爲處分。答。並即解官。何更致疑。跡云。或二司各上第中中。而各有公殿二者。趣成一中中。依殿至下下而解一官任此。依二司殿爲降考故。令除兩考。此是異而解官也。或作以下可問。非通解釋也。見任官上論也。朱云。此說。貞不同。而未明。可求。假令一依甲司公殿二者乙司公殿一。而降至下下者。兩司並至下下。然依文。但解一官而已。此非據見官上論考合除。或兩司各有中下考。又各有私殿一。降至下中者。並兩司解論考合除也。今唯一司中上。一司公罪下下。如此之類。不得不相折。此解一司。爲居中上考耳。朱貞云。不可居中上考。凡犯公罪。一司解官年。專餘司考不可得者。未明。可避何。今師云。一司考居中上。一司考至解官者。即解下考官。但上考官雖不解官。亦依一司解官居下考耳。跡云。解一官。今一官猶居中上耳。此云公罪者。若私罪者。二官並解耳。又其一官私罪異位考至下中者。二官並可解之。在穴記朱云。此文。師云。一官上犯私坐應解者。則並解者。而或云。通計中乙司負殿。一官至解官者。並解者。未知。合文不。答。倘通計甲乙司負殿可解官也此文未亦然也。假通計一官負殿。降一官考。至解官者。則得兩官並解意耳者。**即一官去任**謂只釋去任也。釋云。一官去任。謂一官上犯公坐解也。或說。一官去任。謂只釋去者非。何者只釋去任者。通計前勞之法。選叙令有文。今且依。人猶在一見任。何更勞遺字子。穴云。一官去任者。謂犯公坐解官是也。兒私坐應解者。即並解。今私坐亦云然也。此說後人所讀也。令釋及古私記並云去任。謂只釋去任。其犯公坐去任者。古私記云。前勞不論。大夫云。上事同古說。記。但前勞不可除者。量心讀耳。

者。聽廻所累考。於見任官上論。謂廻所解之官考。爲見任之官考。而成選敍位(任)(也)。釋云。言一官上犯公坐解了。然先所累考。非止一官勞。是故不除前勞。以充成選。此聽字本意也。但共有過。而相累解一官者不解得。廻所累考論。何者累折之日。其考訖故。又二官過共累至解官故。前勞既除耳。古記云。問。聽廻所累考。於見任官上論。答。兼官之人以理停一(二)官。卽去官考。見任官考通計成選聽之。若犯公罪。解一官。卽解官考。不得通計。故云。卽一官去任者。謂以理去也。因犯去者非也。假令。二官各犯公罪。通計而解一官者。亦見任官先考不可除也。跡云。聽廻所累考。於見任官上。謂假甲乙兩司各滿日考訖而。甲司公罪下下。乙司在中中者。乙司中中考全在以前。兩司功過相折成考。不合除弃。是名聽廻見任官上。若乙司不滿日者。甲司是解官。乙司是不考耳。此皆不合除前勞也。聽廻謂假令五年。一官上犯公坐。而解任者。四年以上注考廻見任官上任。依二司公罪。而累下解官者。皆除前勞耳。或云。聽廻見官也。

令集解卷廿一

本云
弘長元年九月十八日見合本書加首書畢(了)
皇后宮大夫藤原(在)判

「本云」
建治二年五月八日引合正親町本校合畢(了)
弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢

「本云」
慶長二年臘月五日於燈前令校合畢(了)
員外宰相藤判
右以清家之本令寫之逢校合畢(了)
清原秀賢
寛永十一年仲秋
大府侍郎中原職忠
右以中家本令書寫之遂一校畢(了)
万治四辛丑仲春仲旬
羽林中郎將藤原
右一冊以朝倉景員本任本書寫畢
明和戊子歳仲秋
通邦［印］
明和庚寅孟夏以京師本一校了
安永四年未三月廿一日一會了
文化十癸酉年五月十日校了
筒井忠英
文政三年以水戸彰考館本比校了
撿校保己一

〔國司處兩說但史生以上之說爲長也〕國司は目以上なりとする本注の說と史上以上なりとする通說とは、後の通說の方勝れりと當時の明法家は皆云へり。之に據つて之を觀れば、當時の法律家は、令の本注なりとも之を不適當なりと思惟するときは、之に從はざりしことを知らる。蓋しこの本注の如きは令文起草者の大なる失策なりと云ふべし。

大貳已下條

凡大貳以下及國司。或云。大貳以下。謂典以上。但於國司守亦朝集。在跡背。跡云。國司謂史生以上也。古記云。問。國司若爲。答。史生亦入國司者。注云。目以上故。穴云。*國司處兩說。但史生以上之說爲長也。謂目以上。**每年分番**謂旣云每年分番。卽知。以一年爲番限也。釋云。以一年爲番限。古記云。問。分番朝集。以幾日爲番限。答。以一年爲一番耳。跡云。朝集謂番分一年在京也。朱云。問。每年分番朝集者。未知。計一年何若。依上條。畿內十月一日。外國十一月一日。初可上番哉何。穴云。其九國二(三)嶋集於府。府官所(取)管朝集耳。朝集使一年內在京也。問。以何一年此在方(京カ)知。答。古記。所讀(說)如之。但案。辨官及散位寮職掌云。朝集事。此已異。餘使。令心一年內隸功。朝集使一年在京。可見唐選敍令官人解代條文。但粗見唐令(答)。**朝集。所部之內。見任及解代。皆須知。**古記云。問。所部之內。答。國守以下散位以上。及以國造郡司等。譜第子細知耳。跡云。解代謂解代之由「知」耳。朱云。所部之內見任及解代。皆須知者。未知。此文。只爲朝集使歟。若廣爲在任國司歟。答。只爲朝集使。又問。見任解代者。國郡司之解代皆約不。答。皆約也。又問。解代者幾事。答。私案一事耳。何者上文已云見任故何。穴云。所部之內。謂同僚以下皆是。但主典於長官等不被云所部者。中間有(在)耳。**其在任以來年別狀迹。**謂國守以下。在任一選之內。年別狀迹。隨問辨答也。釋云。在任謂國司守以下在任一選內也。但郡司者准國司。亦一選內耳。文止就國司故。云在任以來。一云。朝集使在任者非。古記云。問。其

在任以來。令。在任謂國守以下在任也。不在朝集使在任也。跡云。在任謂見任國司等是也。但於郡司言亦同也。穴云。在任謂大夫以下朝集使在任也。古云。見任國司是兩說。朱云。謂代等方在任也。明。狀遣。未知。只應注狀哉。答。私案。選敍令。審狀遣已。然據注狀耳。同。假元〔令カ〕年辨若去年以上之在任是也カ。未知。假如今年雖在任以來狀遣」由。答。假有成選事等。爲其時知耳。穴問。在任者。未知。當國司總在任哉。爲當。朝集使在任哉。答。國司總在任耳。令釋在穴記。同之。

隨問辨答。

内外官人事

凡内外官人。准考應解官者。謂狀官以下。其長官之考。不得自定。即待報未下之間。猶須釐事也。釋云。准考待因考也。其在外長官者。除犯死罪散留之外。不從停釐事。待符報耳。跡云。五位以上。本司不得定第。然則待省勘定耳。國司六位以下。自不定第。亦准此。朱云。省勘定申官。官下符。至時解官耳。穴云。准考謂定可解官。是其未至考時。犯贓爲有狀。逐要合解官。尚釐事耳。爲未考故也。其三位以上遂奏裁。五位以上並。官量定日釐事如常。假本司長官監判申了。未得定等第故然耳。問。承上何。答。亦准殿降。上就言了。朱云。問。內外官人。准考應解官者。郡司皆約不何。下條於郡司下下考。當年即解者何。或云。郡上人者不在此。在穴記例。**即不合釐事。待符報即解。**謂待報之間。不可釐事力職田。釋云。未司考記已訖。申官已訖。官下符之間。不合釐事。但不退事力職田。至報解日停耳。但朝會不合。謂令。同獄令。古記云。同。即不合釐事。答。本司考記已訖。申官已訖。官授定下符之間。即不合。令釐事。但不退事力職田。至報解日停耳。但不得朝會。獄令明文。跡云。不合釐事。謂國司朝集使上道。京官考文申官之不合釐事。穴云。待符報即解者。式部往可解官之狀申官。官即給報符耳。在穴記。朱云。謂凡以待報即解者。官之符報也。不在者符報者。未明。

〔見獄令〕茲に指せる獄令は「凡犯レ罪應二除名官當一者、不レ得二釐レ事、及朝會一。其被二勘推一、難レ非二官當除免一、徒以上、不レ得レ入レ内。其三位以上、非二解官以上一者、仍

聽㆓薦レ事朝會、及入レ內供奉㆒。」なる條文なるべし。

〔權兼〕權官及び兼官なり。權官に就きては、公式令に「凡內外官、勅令レ攝㆓他司事㆒者、皆爲㆓權檢校㆒。」とあり、兼官に就きては、選敍令に「凡任㆓兩官以上㆒者、一爲レ正。餘皆爲レ兼。」とあり。

〔京裏〕京中を云ふに等し。京師のうちなり。

〔事發處官司〕事件の發生せるところの官司なり。この句獄令初條に見えたり。

應考之官條

凡應考之官。犯罪案成者。考日即附考狀。古記云。問。每年考日。答。每年謂當年也。考中之犯。附當年考。不預來年之考也。但成選年者。一選之內。每年犯狀注附選文耳。若他司人有功過者。錄牒本司附考。謂其功過。雖不至可升降。猶亦錄牒。爲通計附考故也。釋云。雖不足升降。猶送爲通計故也。古記云。問。若他司人有功過者。答。他司人。謂權*兼他司事。並所在官司也。假令。在京官人在京*裏。有功過者。即京職錄牒本司耳。功過謂一等以上合升降也。不然者不合。一云。不足升降功過。亦錄牒耳。爲通計故。朱云。錄牒本司附考者。未知。犯時則牒本司哉。爲當。若見送期限哉。答。案亦皆可申。又問。牒本司之後。*事發處官司。更亦不可申省乎。於功何。私案。於過更亦可申省。但於功更不可申省也。先同。或云。他司人如何有功過。答。一端。大學官人盜京職物者。京職牒大學耳。在跡背。其在京斷罪之司。謂在京諸司皆是。何者依獄令。在京諸司杖罪以下。當司決之故。其刑部所斷。官當以上罪者。奏報之日。隨即錄送。不入此條也。釋云。在京斷罪之司。廣應(序)在京諸司耳。或說。偏稱式部者非。何者依獄令。杖罪以下爲當司決之文故也。古記云。問。斷罪之司所斷之罪也。答。在京諸司杖罪以下。刑部省死罪以下。皆謂計贖銅合降考。不然者非。朱云。在京斷罪之司者。未知。諸司刑部送(遂)約哉。答。然也。所斷之罪。九月卅日以前。並錄送省。謂雖不成殿。亦須錄送。其國郡亦准此。釋云。雖不成殿亦錄送。其國郡司亦合准送。和銅五年官宣。諸司功過者。皆申送辨官。乃下式部也。朱云。國司牒本司。並九月卅日以前。並錄送省哉。答。然也。

官人犯罪條

凡官人犯罪。敕斷有輕重者。皆依敕斷附殿。謂官人犯罪。本罪成殿。而判斷或輕或重者。皆依敕斷。計殿降

考。假令、官人犯私罪、杖一百、應贖銅十斤、是成一殿、而勅斷杖九十者。即依贖銅九斤附、若勅斷徒一年者、亦依贖銅廿斤附之也、釋云、勅斷有輕重、謂本犯成殿、而勅斷或輕或重者也、古記云、問、勅斷輕重、答、假令。本犯一殿、勅斷二殿、本犯二殿、勅斷一殿、依勅斷定耳、又本犯一殿、勅斷九負、此依勅斷耳、朱云、官人謂番上人亦放此耳、此條爲勅斷之色不見、又輕重尤限、猶臨時有耳、私案、公式令云、有事陳意見欲封進者、即任封上、少納言受得奏聞。不須開看。若告言官人害政及有抑屈者、彈正受推、當理奏聞者。然則不論罪輕重。皆可奏聞。若此等一端爲勅斷賦何。依勅斷附殿者。若勅傳附負者附負耳。跡皆云、依勅斷附殿、謂犯杖一百。而勅斷徒一年。或犯徒一年。而勅處杖一百也。穴云、私案、官人犯私罪徒一年、勅斷處杖一百、依勅斷附殿、文所云、下云。即別勅放免不入殿限注云、本犯私罪、斷徒以上、蒙恩免、當年考應居上者。亦准殿降者、舉輕明重之悉(義)被特放。尚猶應居上者、准殿降、況有重從輕、量此重於会赦故、依注文亦准殿降、但至下第及不至之狀、一如會降等之時義論定耳、未了、其論在下文、更案下注、爲斷五等恩免生文。未斷之前勅定故、不放下文、悉從勅斷耳、附殿者、若有一二負亦附耳、上條云、應考官犯罪案成者、考日即附考狀、職制律。朱、朱云(栗)云。不成殿、雖不至降、尚附不附科違令也、問云、附殿者、假令、本犯百杖、而勅斷杖九十尚附殿。不安、或云。問。此條官人者。稱主典以上歟、爲當得考之通稱歟、答、文稱官人、即明。爲主典以「上」生文也、上條官人犯罪附殿、又應考之官、犯罪案成、考日即附考狀等之類、爲主典已上立文也、番上非也、但有注考狀耳、案考第條知耳、在次記、

若本犯不成殿。勅令附考者。依本犯附考。謂本犯不至殿者也、假令、官人犯罪、應杖九十、而勅決杖一百者、猶依贖銅九斤附、若應杖七十、而勅決杖六十者、仍依贖銅六斤附也、釋云、假有本犯杖九十、而勅斷決杖一百、或有本犯笞五十、而勅斷決杖六十、即而直稱附考者。依杖九十笞五十附考、若種依杖一百笞六十附考者、依勅處分耳。若勅斷輕本犯者依勅斷耳。古記云、本犯九負、勅斷一殿、令附考者。依九負附耳、故云、依本犯附考也、問。

〔恐生疑故生此文〕この條文無しと雖も斯く解釋し得られざるにあらず。但しこの意味を一層明確ならしめんが爲めに此の條文は設けられたりとなり。

〔與律特蒙鴻恩同意也〕名例律、八虐反逆緣座條の疏に「如特奉二鴻恩一。惣蒙二原放一。非常之斷。人主專レ之。」とある

本犯九負。勅斷成一殿。卽令附考。猶依九負附考。此是違勅。若爲其義。答。此令亦是勅耳。跡云。依本犯附考以上。其放令釋解也。朱云。問。依勅斷附殿。與本犯不成殿。勅令附考。其別何。或云。上文隨勅斷罪附殿。下文不依勅斷罪。依本犯附負也。以此爲別也。凡上文爲成殿以上也。下文爲負以下者何。答。然也。穴云。依本犯附考。若是本犯重而勅斷輕者。依勅斷附耳。師云。尙依本犯附之。不安。 私案。上云。官人犯罪。考日附考狀者。又云。雖罪不成殿。情狀可責。*省校量定者。故知。本同尙一負以上注附。但此文本犯不成殿。令附考者。若依勅令附任勅斷歟。恐生疑。故生此文。跡背云。本犯不成殿。謂負以下。

卽別勅放免。及會恩降者。竝不入殿限。 謂恩降者。恩赦及降也。不入殿限者。依律。若贖銅輸訖。後會降者。唯除所降。餘准殿降〔之〕也。注蒙恩免之處。釋云。其會降者。收贖之人。限內贖銅先輸訖者。免降分耳。何者恩前獄成者。以景迹論。故贖銅未輸限內過(遭)降。全免其罪。恩後獄成者。全免之。故降後獄成。收贖之色。又可勿論。跡云。別勅放免。及會恩降。謂會勅赦降等。被免本罪。若輸贖訖。竝眞決訖。會赦勅降等者。不附殿。唯會降免降分耳。假令。无蔭人。犯徒一年。此公坐。而或無家丁。而眞決訖。或未決。而會一等之降者。附杖一百殿之類。此若私罪。考居上者。仍降二等。又假令。七位子无位。而犯徒一年。斷贖銅廿斤訖。會一等之降者。依律悉放免。無數可計故。全不附。若此人已輸贖銅訖。會一等之降者。免降分一等。而計所殘之一殿附考之類。言已輸贖銅訖。有數可計故。但私罪當年考合居上者。竝猶降二等之類。然不至下第耳。問。別勅放免及會恩降者。不入殿限。未知。雜犯死罪未獄成。而會恩降者何。答。合勘律。又答。不附殿。朱云。大難。何者流重反免死者。可輕哉何。朱云。別勅放免。*與律特蒙鴻恩同意也。 會恩降謂恩與降二色也。竝不入殿限者。未知。其志何。若如云不附殿歟。私案。可然也。又此文本犯免官以上。竝贓賄入已皆約文歟。私答。此色依下文解官。竝迄於下下可降考。可謂不約此文也。又問。竝不入殿限者。未知。公罪輕重不論。竝私罪杖以下。獄成未獄成竝爲无別乎。又若有公罪一犯罪何。抑死罪可有乎何。答。問。凡會降減殿之法何。若於杖罪一

[illegible]

[illegible]

負、隔二等。於徒罪一殿降一等、於流罪三流同為一等者、可至徒三年之殿乎何。答、然也。穴云、問、即別敕放免及會恩降者、並不入殿限。未知、已輸、未輸且陳。答、已輸未輸、放於別敕及恩降放免。但違限不輸者、依獄令不可免耳。其會降者、已輸之者、無追免文故、只免降斷而可不降者。依附殿也。若贖內未輸者、假有十殿會一等降、皆悉放免。名例律釋云也。問、降之殿之云何為。答、假犯徒一年贖銅廿斤、會一等降者免一殿。後又會一等降、以一負為一等。或先犯杖一百、後又犯杖一百、會一等降者、各一殿而為十八負。或數皆定別犯者十、據淵者一百、會一等降、皆悉放免。與律同義。私云、一案云、穴罪二斤為一負、十負為一殿、即十一殿、降為一等者。案之、與律義意殊。然則依文率一殿而降免。假如、犯公罪徒一年為一殿、會一等降者皆悉放免。公罪徒二年、此稱記、更犯計贖兩殿、合降二等。而會一等降者、尚計兩殿降一等耳、本與律殊也。問、獄令云、過限不輸、會赦不免者。未知、於別有敕免何。答、私案、從官放免、亦不入殿也。但私罪斷徒以上、加注文也。本犯私罪斷徒以上。謂徒以上者流罪也。依獄令、若犯死罪、獄成會赦之類者、解見任職事。即死罪會赦者、直解其官、不可煩准殿降也。文云、斷徒以上、即本斷者從是名明。其比徒之色者、不在斷徒以上之限也。跡云、徒云、非常之斷、人十等云、此限不合解官之類耳。不云殿事。然此注所云私罪斷徒以上。會非常之赦者不合降。何者、見富斷徒以上、會非常之赦者、不合以是遂論故也。朱云、斷徒以上、謂流罪以下也。死罪人更考不帶故。未明。問。若死罪斷了、別有放免者何。或云、放死以下者何。答、死不入者大[illegible]也。此罪斷徒以上、不在除名免官當也。放以下者、准殿不降。若徙居上者、猶居上耳。問、本犯私罪者。未知、公罪何。答、公罪專依文不入殿限耳。穴云、斷徒以上、謂已斷了。若未斷者即從恩免耳。問、只其限者為。答、流以下是也。死罪獄成會赦者、解見任職事。除前勞無也。但於死罪、別有放免、官位動仕並初、不同敕降例。今案之、於官並解故。同獄律。但於考事、依注文降耳。讚曰、此說、今云死罪以下並為耳。其事在上、今須耳。未令云、十官品贈品皆歸回、即須皆身明初。明不解官。問、徒以上、未知、半年徒何。答、勘會准律須耳。謂云、贖准法、從

放免之。但律疏。有以盜　私案。稱徒年處半年徒非。其徒說了。今注(任)稱徒處畢論也。徒以上送刑部。半年徒
半年不合贖配役文耳。　師云。會降者。不限罪輕重。皆悉不入殿限。　會非常恩者不可降。爲本犯
亦合送。所殘准殿降。　至中下以下第耳。但私罪斷徒以上者。依注文耳。可求。
免官。此重會非常恩。不可以景迹論故。卽常赦所不免。皆悉赦除者。卽此耳。跡同唐令。答。分明。問。斷
徒者。未知。未斷笞杖以上。會降者。所殘何處分。答。會降者。不入殿限之處。解之義也。宜所殘依別斷
定附負殿如初也。或云。私「云」思順也。但會赦勅之日上陳了。又靜思量斷定已訖。此重尙限內會降者。
悉從放免上說了。未斷是輕。何得計除降分外負殿降考乎。徒思量。此云難矣。斷徒以上。謂獄成。若未獄
成者從恩免。而原爲免官以上。是重尙放免故也。或云。雜犯死罪獄成會赦者。依獄令解見任職事。未獄成
會赦者。依此條計殿降者。就此云。案雖未獄成。亦同可降之。卽知。獄成未成一同。私同之。問。下文云。
本犯免官以上。及贓賄入己。恩前獄成者。以景迹論。未知。未獄成。會恩免約此斷徒以　蒙恩免。　謂恩
上之處降哉。爲當。同雜犯放免哉。答。若本犯免官以上者。量情約斷徒以上之處。在穴記。　赦及
別勅放免。其降亦同也。釋云。恩赦也。免勅也。或連讀蒙恩而免者非。跡云。注蒙恩免。謂兼所云別勅放
免與常赦。朱云。恩免謂赦與別勅放免一色也。穴云。私云。蒙恩免。謂斷了未科間。恩免罪。是其贖銅
以下是也。恩免二也。恩謂赦降約也。何者假令。依律限內未輸。會降者不限贖多少。悉從放免。卽雖
從放免。而尙計殿可降耳。所以者。會放赦免此重。猶計殿降之。會降悉放免此輕。豈不計殿降哉。是知。
會降悉免時者。准赦計殿降之。卽明。
降亦約之。但已輸訖者。上釋訖(說)。　當年考應居上者。　謂中上以上也。釋云。上謂中上以上耳。
古記云。問。注居上與下第。上謂中上以
上。下謂中
下以下。　亦准殿降。唯不得降至下第。　謂中下。其計贖銅降考。不限已輸未輸。上條稱據案成
乃附故也。釋云。下第中下也。其會降者。除降分「外」
餘殿者。縱至下第猶降耳。又上文蒙恩免之處。釋云。計贖銅降考。不限已輸未輸。何者依上條據案成乃附
故。朱云。蒙恩免。當年考應居上者。亦准殿降。未知。凡此文出贖人。並被眞決人附殿並降考。並同乎。答。

然也。穴云。今有爲人有私殿。當年考中上。而逆一等降者。未降。行事。依文雖會恩降。准殿降。不得降至下第。何降處中上即降之。殘一殿分降爲中下。何者若公罪者。只降殘定殿之分。降不可處中中。此只知可。案。先以今殿降居中中。不得降至中下。爲文云當年考合居上者爲不合。不居上。而〔上缺〕居中故也。若不然者。此會降與不會降無別故。**若本犯免官以上。**謂除名也。案律。雜犯加役流。子孫犯過失流。並合除名。若會恩赦者。即須免其罪。但至於考日。計殿降爲也。釋云。若本犯免官以上穴。虐故殺人。反逆緣坐。獄成者。雖會赦猶除名。監臨主守於所監守「犯」姦盜**枉法事**略人。若受財而枉法者。亦除名。其雜犯死罪。元非除名色。但獄令「云」。雜犯死罪獄成會赦。全免。原一解是任職事。依此條解耳。又云。監臨主守於所監守。犯姦盜略人。若受財而枉法。獄成會降者。同免官法。監臨之外姦盜略人。受財而不枉。並徒以上。若犯流徒。獄成逃走。祖父母父母犯死罪被囚禁。而作樂及婚娶者免官。是本犯免官也。跡云。免官以上。謂不必贓賄入己。廣免官以上者。以是違論也。朱云。免官以上。謂依贓不依贓。並同無別也。但依贓者。贓依降也。不依贓者。計負殿下者。穴。未知。然則下文只是違論者。此云贓。若當大杖心贓。古。跡者云。問。經犯除名。遇恩而免所居官。依何爲本犯。答。免所居官爲本犯。若遇降者。猶免所居官之故。夫問。穴云。附釋云。免官以上。及贓賄入己者。問。雜犯死罪免官以上。只依死除名耳。未非其贓一贓。色耳。其雜犯加役流爲免官以上耳。問。本犯免官會赦以後。有不只是違論而哉。答。可有也。但依贓法也不是負殿。但約上計。**及贓賄入己。**謂官人受所監臨物一尺以上之類也。釋云。案贓者。相汗。汗相之總名也。釋其於上。賄音呼猥反。謂雅。賄財也。贓賄入己者。依律布一尺以上也。古記云。問。贓賄入己。等。文字集略曰。非理取財也。日。贓音祖郎反。廣雅釋言曰。賄財也。音呼猥反。朱云。問。贓賄入己。未知。若六贓哉。答。然也。穴云。問。令何有贓爲下下之處。與此贓入己有違哉。以不。答。此文只是違論。謂即上條爲下下是也。然則大問。與前上條殊。但此文稱入己者不入己者。合有異何。假如贓曾入私者。只枉法論。同謀共盜。造

〔案律雜犯加役流子孫犯過失流並合除名〕名例律に「其加役流。反逆緣坐流。子孫犯過失流。不孝流。及會赦猶流者。各不レ得二減贖一。除名配流如レ法」と見えたり。

〔贓賄入己者依律布一尺以上也〕職制律に「凡受二人財一而爲請求者。坐贓論加二等」とあり。而して雜律、坐

贓の條には、「凡坐レ贓致レ罪者。一尺笞十。一端加二一等。」云々と見えたり。

〔文字集略〕日本國見在書目錄に「文字集略六卷(阮孝緒撰)」と見え、隋書經籍志に「文字集略六卷(梁文貝處士阮孝緒撰)」と見えたり。この書今亡ぶ。

〔又雜犯加役流子孫犯過失流等獄成而會常赦者不除名〕名例律に「凡犯二八虐故殺人反逆緣座一。(本應二緣座一。老疾免者亦同。)獄成者雖レ會レ赦猶除名。」云々とあり。故に八虐、故殺人反逆緣座以外なる雜犯加役流、子孫犯過失流等は、常赦に遭へば

意及徒行而不受分。及不行又不受分。并役使所監臨等。非贓入己故。會恩者全免。但未會恩以前。依上條處下下耳。唐令(答)。不滿一尺亦同故。未決訖也。其受得枉法贓與餘官。縱不入「己」。而爲先受得訖爲入己也。雖不入己。滿盜三端。枉法滿一端者。本犯除名故解官耳。又上條。唐令(答)。縱不滿尺爲貪濁有狀。今此條稱入己者。本人一尺以上。若不滿尺者。亦放免。但未決訖。依律稱贓入己者。一尺以上也。即知。不足一尺。不在貪限。

恩前獄成者。

謂別放(赦)及降。并同恩例。其監主犯贓盗。而獄成會常赦者。免所居官。此常赦所不免。亦不在考校之限。即如此之類。會非常赦者。仍以景迹論。舉此一端。餘隨可知也。釋云。恩常赦非常赦。相當其罪狀論耳。假如。監主犯贓盗。畀人受財枉法。而獄成會常赦者。免所居官。此爲常赦所不免。不在考校之限故。此等色類。會非常赦者。以景迹論。舉此一節。餘推可知。或說。恩常赦者。其理不通也。別勅放(赦)免亦仍以景迹論。貶考奪祿耳。但不解官者。縱會非常恩猶以景迹論故。古記云。注恩免。謂凡赦也。亦恩前。謂常赦所不免悉赦(故)除赦也。一云。注恩。謂恩惠也。降免。謂放免也。跡云。恩前謂非常赦并常赦並在。不依令釋解也。問。贓賄入己。及本犯免官以上人。別勅放免何答。問。凡位人犯監主盗二端。或犯凡盗徒以上。而獄成會赦。全免令。以景迹論至下下考。未知。解官否。答。私案(答)。合解官。免官以上人無贓者。計贖銅。除考解官如常法。貞云。於免官以上。更不計贖。依文直可解官者。此說。與令釋問答相遂。而可求耳。＊又雜犯加役流。子孫犯過失流等。獄成而會常赦者不除名。是等依此條。以景迹論。是本犯除名耳。朱云。凡此條恩赦非常赦並同也。或說。會非常赦者。全免者非。何者別勅放免雖廣優。猶准殿下並以(優於)景迹論。豈何非常赦殊勅放優哉。其理不然也。但或云。勅放亦全免。准殿不降者非。恩前獄成。謂若未成者全免。更不以景迹論也。問。自本犯免官以上以下。若預上勅斷事不。答。上勅斷事相承者。未明。私案。可云不預也。穴云。恩謂非常之恩。常恩並約也。問。本犯免官及以景迹論色等。會非常恩何。答。赦免耳。非除名故也。或云。凡爲令例。而讀方文稱。赦及恩者常赦並非常赦皆一同。无差別也。就之案。免官會非常「有」恩亦須降考。解官之法如會常赦時也。但依令釋可差別之。免官以上不可論景迹者。計殿降也。以景迹論者。計殿降亦約也。師云。依文猶以景迹論。免官以上。是景迹耳。可耳問。他人。令(今)雜犯徒以上准殿

除名の處分を免れるものと解釋せるなり。

〔律云會赦及降者盜詐枉法猶徵正贓餘贓非見在者從赦降原者〕名例律、以贓入罪條の疏文なり。

公言六 公式令[illegible]にある一[illegible]公式、公問[illegible]面に屢々見えたり。公の何人なるかは詳ならず。

律云[illegible]入士擧」[illegible]れ名例律、八虐反逆條注條の欵なり。

降。視免官以上不降乎。仍降至細法。假。祖父母犯死罪被囚。而作樂等耳。問。免官以上及贓賄入已等。或獄成或未獄成會降。並其分析。答。未犯除名獄成者。縱會降。悉盡合免官。私案。律云。會赦及降者。盜詐枉法。猶徵正贓。餘贓非見在者。從赦降原者。只是案盜詐枉法三色會降。有減一負以上者處下下。依上條解官。已降先負者。同恩不解官。自餘雜贓會降。雖只景迹論不解官。何者盜詐會赦尙徵是重。非降免者不解官。但會降之日專心重。計減一負以上者解官。自餘雜贓。雖減負贓。但只景迹論。處下下之外更不論。卽不解官。須合請正就也。一答。未犯除名會降悉盡合免官、(免)會贓徒以上。依當贓之法。杖以下依贓法、計負贓不殊也。獄之成不具。如上注解也。以上計贓時不釋也。公後云。文稱恩前獄成者。若降前獄成者。不可用此例。仍只景迹。及計負贓降考並解官。如不會赦也。不除降分。何者會赦悉免罪之時。尙獄成者。不得放免。會降減一二等時。豈得除降分哉。是知。獄成會降者。不除其分。合降及合解官。但未成獄會降者。只除降分。自餘減如上條也。可檢。贓賄入已者。只景迹論。下下亦不論獄之成不也。但贓罪降了者。同赦非除免不解官。未降了時。解官不之事。未決。師云。免官以上。及贓賄入已恩。前獄成者只景赦論。既免除。並依常法。卽非除免者。不解官者。贓入已者。只景迹論。可屋下下。免官以上先贓者。只免官除名之類。只可解官。如不會赦時。此景迹耳。凡罪免官以上者。必可解官。私思。雖免官以上。只景迹論。及計贓降不至解官者。不可解官耳。「可」謂他人。擬思量。免官以上之有景迹者屋下下。必可解官。若先景迹而計贓降者。若不至下中以下者。不解官耳。具。問。律云。若本犯恩。應原放者。非常斷人士等。官位勳位並合卽初。不同赦降之例。未知。免官以上。及贓賄入已等。其罪別有放免者。約上放免之處哉。爲當。同下文恩哉。答。私案。約人下文。何者放免與恩一同故。下處亦此恩爲恩生文耳。特恩未約哉。得非除免者。不解官耳。其特放雖除免不解官哉。敕云。特勅放免不同此例。謂是也。私案。斷徒以上。明入上注也。但放免云者。謂於上注蒙恩而免之處爾。公。師云。別勅放免亦同恩也。令釋同之。此條敕者。此云非常赦當赦一同。但師說心未常赦別可論也。私案。律及令意。恩前獄成。乃除名免官。免所居官。及只景迹論耳。上注云。未犯私罪斷徒以上。蒙恩免。謂亦是爲獄成。徒以上國覆奏聽狀。處斷決杖收贖之

狀。以外待使在京者。長官同斷案。已判了。是爲獄成。若獄未成會恩者。皆悉赦（放）免不在附限。又雜犯罪獄成會赦不解官。或云。依文。恩前獄成者。然則未獄成者。免官以上。皆從放免耳。私思。本犯免官以上及贓賄入。已恩前獄成者。以景迹論。降考奪祿。依常法。卽非除免不解官者。今案文體。免官以上。及贓入己。恩前獄成者。爲依常法降考奪祿及解官。而別生此文。然則未獄成會恩。約上注文。徒以上降至中中。杖以下從放免。卽明。上注約獄成未獄成之說。爲長。然未聽正說。在穴記。

仍以景迹論。謂依上條。居官謟詐。及貪濁有狀爲下下。卽贓賄入己。是貪濁有狀。卽雖會恩會赦。猶爲下下。又依上條。官人有犯。私罪下中。公罪下下。奪當年祿。卽依此文。亦合奪祿。故云貶考奪祿。並依常法「也」。釋云。凡免官以上。及贓賄入己爲賄。殊深。是以雖會大赦。猶以景迹論。古記云。問。以景迹論。答。卽以上二事。名（各）爲景迹。別更不在景迹論也。朱云。問。以景迹論者。依何條所論。若依一最以上條論歟。答。然也。「假」貪濁有狀爲下下耳。

貶考奪祿。並依常法。古記云。問。貶考奪祿。並依常法。答。不會赦如初當發年徵祿也。跡云。奪祿。謂不至除免。而以景迹論。至下下者雖不解官。而奪當年祿也。尤似有蔭之人。犯公私徒一年。會一等降者。降至下第之類。但私罪斷徒以上。會降雖盡。而准殿合降。准不降至下第耳。朱貞云。猶可免降分者。私不同。何者及（反）降優赦者（貴）故也。朱云。或云。貶考奪祿。並依常法者。既依常法者。然則依無赦時之法。免官以上者。更不可考校也。又不可計負殿者。[未明而長。]後度。貞同此說耳。問。祿令云。私罪下上公罪下中。奪半年祿者。未知。此亦稱依常法之故。奪祿不。答。

卽非除免者不解官。謂除者除名也。免者免官也。依上條。私罪下中。公罪下下。並解見任。其贓賄入己者。縱「雖」至下下。不可解官。但本犯除名免官者。仍須解官。故云。非除免者。不解官也。釋云。贓賄入己。不至免官者。依舊居官。但至免官以上者。卽解故云也。文稱免官以上。故知。免所居官者。不可解。然則本犯除名。會赦。應免所居官之色。若更會非常恩者。不解官。何者會赦。免所居官者。非本犯除免故。古記云。問。卽

非除免者。不解官。答。上犯免官以上者。計殿降考。至下中者則解官。不至下中者不解。唯贓賄入已者。縱至下下考。不合解官也。徵贖耳。朱云。以景迹論貶考。雖至下下考。非除免者。不解官耳。但至可解官考故奪祿耳。即非除免者。不解官者。則知。除免之色解官乎。但別勅放免者。雖除免之色。不解官。何者律云。非常斷人主專也。官位勳位合卸釦。不同敎降例故也。此以勅放爲別。問。上文雖滿殿降。不至中下。下文至下下並除免之色。即解官。其別何。答。上文爲不在除免罪。下文爲除免並贓賄入已罪歟。答。然也。穴云。卽非除免者。不解官。謂除名會非常赦時免官。會常赦時。是解官耳。以景迹論考奪官耳。餘可。跡云。古記云。前官有犯解。即。考未校定。其已罪應解者何。答。若考校定訖。但應解而改任。並坐罪者並不合解見任官也。

殊功異行條

凡每年諸司、謂辨官。治部。民部。刑部等也。得國郡司政有殊功異行。謂功狀行迹。超倫拔萃。假如。鄭渾興陂。沛郡倍稻。魯恭馴雉。汝南化水之類。殊功也。仇覽長吉。導美化孝。卓茂寧密。修善遜讓之類。異行也。釋云。殊行異行。謂功狀行迹超倫拔萃耳。鄭渾守沛。開田富民之類。所謂殊功也。卓茂寧密修善遜讓之類。所謂異行也。古記云。殊功。謂管大夫作佐蘇道。增封戶。須男郡大帳作須男山嶺道。授正八位之類也。異行。謂界內有害令時合減息。或有旱嶄令雨當之類。穴云。問。殊功異行何司所得。答。民部合得也。開田富民防災不入等是也。但自餘諸司亦有者。皆是不合號考也。朱云。未知。諸司得殊功異等行事何。私案。依受行糺政可知耳賦何。及祥瑞。災蝗。釋云。杜預注左傳云。祥吉凶之先見者也。音似羊反。舊說。瑞應也。左傳。天反時爲災。又曰。天火爲災。音則才反。蝗。音胡肓反。春秋說。食苗之蟲也。古記云。祥瑞謂祥瑞也。災蝗謂蝗蟲也。又云。非時雷降成害爲災也。穴云。問。依有災變降部司國司何。答。依治儒言意致時災。故依祥瑞。依災降耳。問。於京職何。答。不見文也。跡云。祥瑞災蝗之類。皆量其景迹降考耳。戶口調役增減。當

〔鄭渾〕その傳、三國志、魏志卷十六に見えたり。

〔魯恭〕その傳、後漢書列傳十五、魯恭の傳中に見えたり。

〔仇覽〕その傳、後漢書列傳六十六に見えたり。

〔[illegible]〕[illegible]上毛野朝臣廣人にして、[illegible]人なり。續紀によれば、廣人は元明天皇の慶雲元年、從五位下を授け[illegible]

濃尾張兩國の守を兼ね、養老元年、從四位上に進み、同三年、美濃尾張參河三國の按察使となり、同四年には召されて右大辨に進みしが、養老五年五月、元明太上天皇の崩御に遭うて出家し、沙彌滿誓と號せり。養老七年、造觀世音寺使となりて筑紫に下り、同寺の別當となりて卒せり。麻呂が伎蘇(木曾)街道を作りしは、その美濃守在任中にして、彼がその功によりて封戸七十戸、功田六町を賜りたることは、續紀、卷六、和銅七年閏二月戊午の條に見えたり。

〔須芳郡主帳作須芳山嶺道授正八位之類〕この事、國史に見えざれど、奈良時代にありし事實なるべし。

〔女孺〕メノワラハとも訓む。後宮十二司に屬さる仕女丁にして、百官諸司の直丁、駈使丁

界豐儉。釋云。周易。豐大也。廣雅。儉少也。音居險反也。古記云。戶口增減當界豐儉。旣國郡司撫育條說訖也。豐儉者即田疇耳。朱云。田不荒爲豐。田荒爲儉也。

盜賊多少。釋云。謂一人以上錄送耳。古記云。盜賊多少。謂一人以上錄送耳。朱云。問。盜賊幾事。又何罪以上也。又不得財何。先云。如捕亡令盜賊者一事。又得財以上者何。

並錄送省。謂殊功異行自辨官。祥瑞自治部。調役增減自民部。盜賊多少自刑部。並皆錄送式部兵部也。釋云。上件等事。須得知太政官治部民部刑部彈正等。省謂式兵部也。古記无別。朱云。未知。送省志何。答。爲進考耳。

凡家令條

凡家令。謂書吏以上摠名。即文學亦本主考。其扶以上及文學。得諸官最。從得判官最。書吏得主典最也。釋云。次官以上得諸官最。判官得判官最。主典得主典最。穴云。問。家令與最。未知。與誰最。私案。與諸官之最。抑令勵。文學亦本主考耳。案給。祿處知耳。或云。於家令帳內資人可附貢殿乎。答。師云。可附耳。在穴記。

每年。本主准諸司考法立考。謂家事者考事。即宮內省承主旨。定其考第「也」。釋云。隸宮內省案隸附著也。嬪以上。及內親王家事。隸宮內省者。

著也。音鼻帝反。謂省承主教每事施行耳。其女王資人考選者。前令。正親司掌之。此令旣除故。其家定送式部耳。宮內省率嬪以上家考文。內親王家令直送式部省耳。但女孺*等考者。送中務省耳也。古記云。問。注云。隸宮內省。定等第以不。答。定等第送也。隸謂所管屬耳。其女王資人考選者。正親司校定送宮內省。即宮內省率嬪以上家考文。內親王家令。正親司等送式部省耳。凡男考文皆送式部。女考文皆送中務可知也。跡云。隸宮內省。謂家令以下資人等考者。省承家考。定等第。朱云。未知。誰人可記上日行事。答。家司可記耳。若无家司色者。倘可有記人耳。

餘女王內命*婦家者。猶自定耳。朱云。若有考文不當召家令問耳。但除親王之外。皆召本主問耳。穴云。嬪以上及內親王家。只注上日行事送省。省承亦准諸司考法考耳。不依。或云。本家定等第送之也。問。帳內資人。依下條本主考。未知。於內親王等帳資何。答。亦送省令定也。其除內親王以上。自餘女王命婦等。

に當るものなり。〔命婦〕内外の二種あり、内命婦は五位以上を帶する婦人を云ひ、外命婦は五位以上の者の妻を云ふ。

〔戸令云、國司在官公廨不充私計等〕戸令、國司條下一二條に「若國司在官公廨、不ㇾ充ㇾ私計」とあり。「耳」は「色目耳、不ㇾ得」者、者、恐誤而衍之云々と見ゆ。

木上考定送也。但有考問之日宜量耳。凡貢人等考有昇降者、降木上考耳。或云、家事謂非只考事、廣様耳。在跡記背。**考訖中省案記**。古記云、問、毎年中省案記何。答、中式部記置也。人色別有者。耳。亡異義更重聞。也。故不申官直送者。朱云、申省案記、謂申式部省也。是只得長上考人、但有不申官色耳。案記、未知。志何。答、或云、案記謂收置也。未明。在跡記背。穴云、申省謂先申官送者。或説直送者。爲労。引下條附朝集使送省等爲靜也。或直申省案記者、收置者耳。在穴記。**准考應解者。同諸司法。**

考外位

考郡司條 **凡國司。毎年量郡司行能功過。立四等考第。清謹勤公。勘當明審之類**。謂郡司所行、合居上第者。非唯此事、觸類繁多。故曰之類。若緣餘行難得上第、取此八字、以爲最名也。釋云、清謹勤公謂之善、勘當明審謂之最。善最相須乃得上考。其郡司所行、合居上第。非唯此事、觸類繁多。故曰之類。注狀者、須實錄耳。或說、若緣餘行難得上第、取此八字、以爲最名者非也。古記云、問、清謹勤公勘當明審之類相須哉。答、相須也。清謹勤公謂之善、勘當明審謂之最。上二事者、相當善最。但一事不相備、而積行事、將在上事相當者、相代得注任。故云之類。其執事勘當一種也。朱云、戸令云、郡司在官、公廨不及私計等。未此條可得考也。故釋之類字也。後反了。然未明耳。穴云、勘當明審之人、所部不肅者、居上等後。不肅降考耳。政績能不、思逮善惡、皆約四等。言思逮善惡、謂之行也。政績能謂之能也。師云、身才尊約能也。或云、才能也。但國守條、兩能者約之類也。勘當明審等、謂之功也。數有愆咎、謂之過也。於軍團武藝、亦謂能耳。或云、問、之類之用何。答、加令釋耳。問、於郡司軍毅計負殿降考哉。所以致疑者、計附負殿之文、在外之上故也。答、附負殿同内官耳。无

別故也。在穴記。為上。居官不怠。執事無私之類爲中。朱云。問。爲中色字相須爲中不。答。不勤其職。數有愆犯之類爲下。朱云。下色八字不相須也。數有愆犯。謂笞罪以上也。*數謂三犯以上也。盜三犯條可案也。背公向私。貪濁有狀之類 謂二事不相須。有一者卽爲下下也。釋云。二事不相須也。古記云。問。背公向私。貪濁有狀相須哉。答。不相須。上條立訖。穴云。背公向私。爲下下不相須也。爲下下。其軍團小毅以上。謂其主帳者。不在得考之例。故云以上也。穴云。問。軍團主帳不預考限哉。答。然也。以散位動位任軍〔團〕主帳者。考第番上不可稱職事。私云。統領有方。部下肅整 謂二事相須乃得爲最。其下文亦准此也。釋云。二事相須。古記云。問。統領有方。部下肅整。相須以不。答。是必相須。何者待肅整有方合顯。所以不可不相須也。爲上。清平謹恪武藝可稱爲中。古記云。可稱謂上品可爲師也。或云。問。文稱武藝者。其身一人之才。爲當能調人之號歟。答。於身才云然耳。在穴記。於事無勤。武藝不長爲下。古記云。不長謂中品人平耳也。朱云。不長謂始所習能不安減也。武藝用同心也。穴云。不長謂不長於人。數有愆失。武用無紀 謂紀者綱紀也。釋无別也。古記云。无紀謂下品不可用也。不可爲師也。穴云。無紀謂無可紀紀綱紀也。軍毅背公向私。並爲下下解官。又郡司犯三度以上爲下。〔軍〕毅犯三度以上爲下下。隨文改耳。爲下下。每年國司「皆考」對定訖「具記」附朝集使送省。朱云。送省謂送式兵部不申官。穴云。對定時對讀如上條耳。其下下考者。當年

〔*數謂三犯以上也 律三犯條可案也〕賊盜律に「凡盜經レ斷。後仍更行レ盜。前後三犯レ徒者近流。三犯レ流者絞。」とあり。これ即ち三犯の條なり。

天平年中[illegible]の注行[illegible]

校定郎解。謂校上條得郎解。此條亦同。此文承於進者之下。即知、一省校定中官郎解「之〔亡〕」也。古記云。其下下考者。當年校定郎計。解謂殿降至下下者郎解。不然者不解。上已具說訖也。一云。此條不禮犯罪。猶合解。或云。問。下下考當年勘定郎解者。未知。定考之。不待申上而解哉。答。准六或云。郎解者。未知。何司所爲。若省校定申官。官解任者不。答。讚記昔

國博士條

凡國博士。立三等考第。居官不怠。教導有方爲上。釋云。教導有方。假令。以求授古受難。以古授求受易。以如此方便教導。又兼嗆長劣禮節耳。故左傳云。教以義方。國博士爲外番上。爲立三等考第故。古記云。教導有方。假令。以求射右受難。以右授求受易。以如此方便教導。又兼嗆長少禮節耳。故左傳云。教以義方也。穴云。居官謂參國廳也。教授不倦。生徒充業爲中。釋云。謂忘方意直懇勤教耳。古記七別。朱云。生徒充業。謂一年內所教也。不在成合給。不勤其職。教訓有闕爲下。朱云。爲中下色八字恒須不。答。也其醫師。准効驗多少。謂醫生徒充業。而不療病者。仍爲下第。釋云。不得療病。但生徒充業者爲下。若病者止六人全療者爲上耳。穴云。醫師准多少考。問。於大半年何。答。准博士與充業之最。但於療病者年終生徒充業。尙准多少定第也。朱云。醫師若亡病人不療者。尙得上考耳。又。未明。古記云。問。醫師得六〈八〉人以上爲上。假令。有病者七人。不得療若爲。答。猶爲中等耳。問。醫師生徒充業。不得療病若爲。答。不考耳。問。大半之年亡病者若爲。答。依博士最耳。問。醫師立三等第。國博士亡此文若爲。答。平手一相開亡要義也。十得七以上爲上。得五以上爲中。得四以下爲下。或云。問。國博士醫師考。雖當下第。依考不解任乎何。答。在令穴昔記

帳内條

凡帳内及資人。每年本主。量其行能功過。立三等考第。恪勤不懈。清廉稱主。爲上。祗承合意。謂祗者敬也。承猶事也。釋云。祗承上音諸時反。毛詩。傳祗敬也。承解見上也。古記云。祗承供承一種也。產業不怠爲中。好請私假。數有愆失 謂一事不相須。若有一者。亦爲下。其相折之法。同分番條也。釋云。一事不相須。有一者亦爲下。古記云。問。好請私假數有愆失。相須以不。答。不相須。唯子細相折者。放分番條耳。或云。問。愆犯與愆失別何不。答。問帳内「及」資人者。未知。職分皆同乎何。答。在跡。 爲下。

考貢人 跡云。謂勘貢人心耳。

秀才條

凡秀才試方略 謂方大也。畧要也。大事之要畧也。釋云。師說云。方畧无端也。多聞博覽之士所知无端。大事。假如。顏淵短命。盜跖長生。福善「禍」淫何其爽鮍之類也。古記云。秀才謂文章「博」士(生也。)方畧謂无端大事也。多聞博覽之士。知無端。故試以无端大事也。假令。試問云。何故周代聖多。殷時賢少。知此事類二條試問耳。一云。問云。何故馬者大行之後間地。犬者小行之時上足。是亦爲端无事也。穴云。令釋無端大事。謂无所依。依之無端耳。 策二條。文理 謂文辭也。理義也。釋无別也。古記云。問。文理。答。文理文句也。理謂義理也。

俱高者爲上上。文高理平。理高文平爲上中。文理俱平爲上下。文理粗通爲中上。文劣理滯 釋云。說文。劣弱也。音力輟反。滯凝也。音直例反。 皆爲不第。

明經條

凡明經。古記云。明者明也。知也。試周禮左傳禮記毛詩各四條。餘經各三條。釋云。
以二經以上出身者。官先令定其業經。然後試餘經。至于敍位。以先二經定第。更依餘經加階。若
業經不得敍位者。餘經者不可更試也。朱云。餘經各三條。謂餘經色可見學令也。周易。尚書。孝經
論語共三條。謂論語孝經。猶一部之書也。釋云。屬意二書推爲一部。一部之内所試三條耳。皆舉經文及注爲問。其答
者。釋云。如古答人。皆須辨明義理。然後爲通。通十爲上上。謂其通中經者。二經並通。然則周禮毛詩各四
條。論語孝經共三條。合試十一條。若通十者。雖不全通。猶爲上上也。釋无別也。穴云。中經二。總試十一條。
通十爲上上。不依唐令(答)也。跡云。通十爲上上。謂餘書以甲乙爲等第。但此明經者。通中經人。以十以
上爲上上。故以甲乙不定第也。通八以上爲上中。通七爲上下。通六爲中上。通五及一
經。跡云。通一經。謂雖通六七條。仍爲不第耳。若論語孝經全不通者。謂試三條。全不通者。釋云。試三條。不通一是。古記云。若論語孝經全不通。
謂若孝經通一條。論語全不通。或論語通一條。孝經全不通者。不是全不通。
或云。皆論語孝經全不通者。爲皆不第。謂通十爲上上。以下待受文。在跡記。皆爲不第。古記云。問。皆爲不第。
答。二經三經之人正經雖全通。而論語孝經全不通者。皆
爲不第耳。問。四經五經不試文若爲。答。臨時斟酌耳。通二經以外。別更通經者。跡云。
別更通經之處。
令從學令解。每經問大義七條。通五以上爲通。

〔魏徵時務策〕魏徵は唐初の名臣なり。その傳新舊兩唐書の列傳に見ゆ。傳中徵十策を以て李密に干せしも密之を用ふる能はざりしこと見えたり。時務策は卽ちこの十策を載せたるもの歟。この書今傳らず。

凡進士條進士試時務策。謂時務者。治國之要務也。假如。既庶又富。其術如何之類也。釋云。時務謂治國要道耳。呂氏春秋。一時之務是。假如。使无盜賊其術如何之類。古記云。時務謂當時可行時務是非也。策謂試板之名也。案魏徵時務策*。問。鄉邑何因無孝子順孫義夫節婦。答。九族之説著在虞書。六順之言顯於魯冊。故義夫彰於魏缺。節婦美於恭姜。孝子則曾參之徒。順孫則伯禽之輩。自茲已降。往往間出。石奮父子慈孝著名。姜肱兄弟恩義顯擧。當今天地合德。日月齊明。万國會同。八表清謐。然上之化下。下之必從。若影逐標。如水隨器。但能導之以德。齊之以禮。敎之以義。懷之以仁。則孝子順孫。同閭如市。義夫節婦。連袂成帷。蕩蕩之化可期。魏魏之風斯在。穴云。治國要道是也。問。任職之後。治體有方者。依選敍令更進階哉以不。答。進耳。一條。帖所讀。謂帖者安也。言於字上安物。請讀令過也。釋云。廣雅。帖安也。音他協反。謂字上安物。請讀令過耳。古記云。帖謂一行三字。以板覆隱令讀過。此板名爲帖也。穴云。帖隱三字令讀過。謂之帖也。或云。帖所讀者讀音耳。在穴記。朱云。文選幷爾雅音讀耳。文選上帙七帖。爾雅三帖。其策文詞順序。義理慨(愷)當。穴云。文詞如文。義理如義。如理也。幷帖過者爲通。事義有滯。詞句不倫。釋云。事義理也。有滯不利也。詞句文也。不倫狼藉也。古記云。不倫。假令。不似先儒典籍之文也。文詞與詞句一種也。義理與事義一種也。大樂正論造士之秀者。以告于王。而升諸。司馬日。進士司馬辨論官林。論進士賢者。以告於王。而定其論。官之位之祿之。穴云。不倫於告(吉)(古カ)也。言先聖典法是詞句順序也。不倫於此。卽斯云不倫也。倫類也。其文詞順序。而上下句不對亦爲不也。或云。令釋不倫狼藉也。言亂濫耳。在穴記。及帖不過者爲不。帖策全通爲甲。策通二帖。過六以上爲乙。朱云。謂帖雖全

〔物但疑脱不置乎〕物の字の下「云」の字を脱せるなるべし。物云は物部敏久の令私記なり。疑ふらくは立法者、明法博士及び明法生を職員令に制定することを遺亡せしならむとなり。

〔見下條貢與擧各別文律一事說〕次の條文に「凡貢人云々」とありて、又「其大學擧人云々」と見えたり。文義制律、貢擧條の註にも「謂貢者依レ令諸國貢人擧

通。落第一疏不也。帖過六以上。謂只文義通。雖開粗知大略倫同也。文不制試也。以外皆爲不第。

凡明法試律令十條。謂依此令。必可有明法博士及生。跡云。問。明法之師在何處乎。答。依此文。必令(令カ)有之。物但疑落脱不置乎。律七條。令三條。識達義理。問無疑滯者爲通。粗知綱例。未究指歸者爲不。穴云。指旨也。歸趣也。全通爲甲。通八以上爲乙。通七以下爲不第。

貢擧人條

凡試貢擧人。皆卯時付策。當日對了(畢)。謂策者簡也。所以書文詞者也。言於秀才進士。付此簡策。令其書對也。釋云。策試人簡也。音惻革反。師說云。明經出身不用策試也。當日對了。當日終日也。對答也。古記云。卯時付策。當日對了。謂秀才進士「二」色之人。一日之內策二條了。當日謂從旦至夕也。一云。明經業經等、經醫陽天文等。皆入此條。當日對了。更无別條也。穴云。問。卯時付策。未知。誰時爲帖試過耶。答。一日策。一日帖。但不見先策後帖先帖後策也。此云不當。尙一日內策並過帖耳。當日謂從旦至暮是。師云。一日明經等不可必終一日耳。在穴〔記〕集云。卯時付策。謂秀才幷進士也。何者付策故也。但帖所試不必當日也。餘經依此條試。但七對了日限。國學大學皆同。問。貢擧一轍、二轍。先云。二事「者」未知。見下條貢與擧各別。又律一事說。凡從諸國貢秀才人者。式部監試。謂式部監視其試。不必親試也。跡云。監試。謂有式部人之人而省監試耳。穴云。監試謂試者別在外。但式部監所其試耳。上當日對了之。已上試博士與擧生文之行事。不訖者「不考」。謂當日二策不成畢者也。穴云。不考。謂依下各還本色之處耳。古記云。問。不訖者不考。皆爲不敍。答。假令一日一策。

者。若別勅令擧。及大學逡レ官者爲二擧人一。」と見えたり。

〔穴云次官如初條其判官以下不合貢擧〕考課令初條に「凡内外文武官初位以上、毎年當司長官考二其屬官一。」とありて、その下に「謂二次官以下一也。」なる義解の注あり。而して其の條下に引ける集解の穴記には、「問。長官考其屬官。未知。次官以下。共有相論定哉。答。不合也。」とあり。本條の説は、即ちこの屬官を考する權限の説を、貢擧人を選定する權限にも准用したるものなり。

〔本令視郡内好學者亦

不能應。答。日已終入。吏不可試。皆退本色耳。〔考〕了(畢)。對本司長官。定等第「唱示」一。謂對式部卿定其等第也。釋云。本司長官。謂試官長官也。假如。式部付少輔令試。試了對卿定第耳。或說。本司長官。謂下條云。本部長官者非也。何者唐令云。試貢擧人皆卯時付策。當日對了。本司監試。不訖者不考。畢本司判官。將對尚書定第。即知本司者試官也。跡云。本司長官。謂式部卿也。穴云。本司謂式部也。或云。定等第者。對本司長官。而定第階。了唱示學生耳。穴在記。

凡貢人皆本部長官。貢送太政官。若无長官次官貢。謂其判官者不在貢限也。跡云。長官貢送。謂長官勘知堪貢耳。非自親率貢。朱云。爲事无長官次官貢也。无長官次官貢者。判官以下不可貢也。穴云。次官如初條。其判官以下不合貢擧。本令視部内好學等。亦如之。戸令解說。此條貢人。謂國學生也。古記云。問。文限六位以下。若五位以上子若爲。答。爲限年別生文。其五位以上子孫。依學令皆限年廿一申送太政官。若有貢擧者。限年廿〔一〕表貢耳。但充色者。「一」從本司出身耳。凡在諸司名有人者。從本司出身也。不合依本貫也。問。本部表貢。仍申太政官。答。記表辭申官耳。非上表也。一云。表貢謂上表也。仍以表書進太政官耳。問。太政官受取表書。令開見不。答。案公式令。有事陳意見欲封進者。少納言受得奏聞。不須開者。即知。以外應得開見。問。受表書即進奏不。答。試訖之後。以表聞。若有不第。依職制律科罪也。其人隨朝集使赴集。朱云。其身上。其朝集使京耳。至日皆引見辨官。即付式部。已經貢送。而有事故不及試者。後年聽試。朱云。有事故。謂司事故臨時耳。貢人有事故亦同也。後年有事故。亦後年試耳。其大學擧人。其狀申太政官。

勘之」とは其の古令の文なり。

「本司具宜仍申太政官」との古令本條の文なり。

「若有不第依職制律科罪也」は職制律、貢舉條に依りて罪を科するなり。

與諸國貢人同試。跡云、同試、謂同時試也耳。朱云、與諸國貢人同試、謂諸國貢人隨朝集使、十月十一月至京也。如此大學擧人、十月十一月可擧耳。穴云、與諸國貢人同試、謂同時試也、假朝集使十一月一日申送也「々々」。案亦十一月一日申送、不合申十月也、師云、可試、十一月畢送耳。**試訖、得第者。奏聞留式部、**謂秀才明經得上上上中者、各有敍法、其上下中上、不在敍位之例、唯留式部待選乃敍也。朱云、奏聞留式部、未知、官奏聞。答。**不第者。各還本色。**謂未滿九年者。還本學、其滿者還本貫。故云、各還本色。釋云、學生未滿九年者還本學、滿九年者還本貫耳。跡云、還本色、謂滿九年者、「不」合還本色。

令集解卷廿二

金澤文庫

本云

弘長元年九月卅日於龜山殿宿所見合本書加朱、首書畢「了」　權大納言藤在判

建治二年五月廿七日引合正親町本校合「了」

慶玄蒲月念一、課少内記賢好令校了　史部清原秀賢

萬治四辛丑季春初三令一校畢　羽林中郎將藤原

右一冊以朝倉景員本任本寫畢

明和戊子歲季秋　通　邦印

明和己歲孟冬以河村氏本一校了

明和庚寅歲孟夏以京師本一校了

安永四年未三月卅日一會了

文化十癸酉年五月十二日校了　筒井忠英

文政三年以彰考館本比校者也　撿校保己一

令集解卷廿三

祿令第十五

釋云。鄭玄注周禮曰。祿若今時月俸也。跡云。給官人食料日祿也。穴云。受食謂之祿也。唐*以粟充。此間以絁替耳。

凡壹拾伍條

給季祿

凡在京文武職事。及大宰壹岐對馬。朱云。大宰謂大宰府内一并壹岐對馬、并職事以上官人給耳。即以府官物給耳。皆依官位給祿。謂計以往日。給將來祿。然則未給之間。以理去官者。雖滿限日。不在給例也。釋云。皆依官位給祿。依官位令給耳。假如。三品四品同任大宰帥八省卿。任帥者給三位祿。任卿者給四位祿。或說。三品四品同准正三位者。此依前令。依品位給祿乎。跡云。問。官位令云。三四品任大納言大宰帥八省卿者。未知。此人等任八省卿者。准大納言祿給否。若依行守所猶給。答。不問彼此。猶日滿者。合給上官祿。若各在同月日者。據此止六十日故。不合給彼此日祿。朱云。凡給祿之法。計任(任)日給往前祿耳。依官位給祿。謂爲官位相當色云耳。問。大納言以上亦得此條祿耳歟。先云。然可得者。穴云。依官位給祿。謂官位相當色(也)。凡依所過上日。給將來祿也。古記云。問。皆依品給祿。未知。品祿法若爲。答。與位同。无別也。或云。請事書云。四品以上祿准三位以上祿例。然此事未審也。自八月至正月。上日一百二十日以上者。給春夏祿。穴云。問。以八月爲始。未知其由。答。不識其

「唐以粟充、此間以絁替耳」唐六典、卷三、戶部、倉部郞中員外郞の條に「凡京官正一品七百石。從一品六百石。正二品四百六十石。從二品五百石。正三品四百石。從三品三百六十石。正四品三百石。從四品二百六十石。正五品二百石。從五品一百六十石。正六品一百石。下以十石爲差。從七品七十石。正八品六十七石。下以五石爲差。至從九品五十二石外官降一等。春夏二季則春給之。秋冬二季則秋給之。」とあり、唐に於いては粟を以て祿に充て、我が國に於いては絁を以て祿に充てたる。

由。依文習耳。其考日一百四十日取此祿限日故。以八月爲考初月也。古記云。問。注雖滿限日。若有中下狀。未知。若爲。答。量其犯狀。至於考時。必須在中下也。正從一位絁三十疋。綿三十屯。布一百端。鍬一百四十口。正從二位絁二十疋。綿二十疋。布六十端。鍬一百口。正三位絁十四疋。綿十四屯。布四十二端。鍬八十口。從三位絁十二疋。綿十二屯。布卅六端。鍬六十口。正四位絁八疋。綿八屯。布廿二端。鍬卅(卌)口。從四位絁七疋。綿七屯。布十八端。鍬卅口。正五位絁五疋。綿五屯。布十二端。鍬廿口。從五位絁四疋。綿四屯。布十二端。鍬廿口。正六位絁三疋。綿三屯。布五端。鍬十五口。從六位絁三疋。綿三屯。布四端。鍬十五口。正七位絁二疋。綿二屯。布四端。鍬十五口。從七位絁二疋。綿二屯。布三端。鍬十五口。正八位絁一疋。綿一屯。

〔季祿〕在位以上、三位以下の位階を有する者に給ふ祿にして、その量は、下に祿令目録に規定せられたり。

〔職祿〕在京の文武職事及び太宰、壹岐、對馬の官人に賜ふ祿にして、その祿の量は官位令に相當する位階によりて賜ふも、職なきものは位階ありと雖も、給ふ例にあらず。前條の規定を準據の定をためたり。

布三端。鍫十五口。釋云。天平寶字三年格云。正八位鍫十五口。今減五口也。從八位絁一疋。綿一屯。布三端。鍫十口。大初位絁一疋。綿一屯。布二端。鍫十口。少初位絁一疋。綿一屯。布二端。鍫五口。家令降一級。謂書吏以上。通稱家令。假令從七位官。降爲正八位官之類。其少初位官。更無所降者。以鍫五口准爲降法。計大少初位祿法。以鍫五口爲差故也。釋云。書吏以上通稱家令。假有家令從七位官。降爲正八位官類。師說云。其少初位官更無所降者。以鍫五口准爲一等。何者比校大少初位祿法。以鍫五口爲差故。穴云。家令之處。其如令釋也。朱云。降一級謂於此二階稱一級耳。別勅才伎人不在職事之例。下條有給文也。古記云。問。注家令降一等若爲。答。有正位者。給從位祿。准〔唯〕少初位者減鍫五口。問。以何爲等。其理若爲。答。大初位少初位之間。絁綿布皆數等。所以以五口爲一等。只至彼耳。問。文云。家令未知。家扶以下若爲。答。家令以下書吏以上皆降也。唯文學不在降限。秋冬亦如之。

凡祿。祿春夏二季二月給條 春夏二季。二月上旬給。朱云。此上條藏祿給日限也。但位祿給期不見也。但式部例十二月給耳也。以絲一絇代綿一屯。秋冬二季。八月上旬給。以鐵二廷代鍫五口。穴云。鐵以十斤爲一廷。但以二廷代五口。不知其由。

凡内舍人。及以別勅才伎。長上諸司者。釋云。別勅長上假使之類。才伎長上雜變之類。伎字假借。所以相涉也。音渠綺

〔別勅伎才二物〕別勅長上と才伎長上とは二物にして別なり。同一物にあらずとなり。

〔此先達說〕先達即ち先

反。古記云。問。以才伎長上者。有限以不。答。官員令无文。皆入此限也。或云。別*勅才伎二物。在跡記背。

皆准當司判官以下祿。其位主典以上者。准少判官。以外並准大主典。謂假令。中務大錄。正七位官。少錄正八位官。若內舍人正八位者。准省少丞。即從八位以下。及无位者。准省大錄之類也。釋云。中務少錄正八位官。大錄正七位官也。然則內舍人正八位以上者。准省少丞。從八位以下人。无位者准省大錄耳。或說。與大主典同位以下。准大主典之錄者非也。古記云。問。注其位主典以上者。准少判官若爲。答。依文與少主典同位者。可准少判官之祿。但今行事。與大主典之同位以下。准大主典之祿也。此是法。主命作者本意如然也。朱云。其位主典以上。謂雖與長官次官同位。猶准少判官也。若无主典大少官者。猶准主典耳。或云。問。其位主典以上者。今見帶主典身位歟。爲當。官位相當歟。答。依釋可依官位相當也。在跡背。

行守條

凡行守者。並依行守處給。謂假令。帶六位人。行七位官者。給七位祿。帶七位人。守六位官者。給六位祿之類也。若一人帶數官者。祿從多處給。謂若高官之日少。而卑官之日滿者。仍從高給。穴云。帶數官者祿從多處給。若上官專无日者。依下官祿。其上日爲不上百卅日故。解官耳。但上官與下官通計滿百卅日者。依上官給爲考。累從一高官同義也。若无高官日者。從卑官祿耳。朱云。一人帶數官者。祿從多處給。謂高官日滿時耳。後反了。若卑官日滿。高官日不滿者。依卑官給也。後反了。但高官初任者。依初任條給耳。後反了。凡從先任主典以上人。不可云初任官者。私同也。若一人帶數官每司上日不足者。祿不得一々耳。彼此司上日不通計也。與考日殊也。後反了。問。未知。若稱不通計。於同日所說歟。又與考日殊所說何。答。後反云。本司各注上日送省者。省通計彼此司。上日可給祿者。或云。問。若一人帶數官者。祿從多處給。未知。高官不滿日。卑官滿日者。祿若爲給。答。案文滿日。官可給。但省例依高官給。此先達說。在跡記背。

罪學者の說なり。當時一般讀の說なりしか、令意に適へると否とを問はず、先輩の說なる故に行はれたることを見るべし。故に我が王朝に於いても、ローマに於けると同じく、學說は又一つの法源なりしものと觀察して然るべし。

應給祿條

凡應給祿之官。若有負犯。謂有犯罪也。釋云。負讀如負殿之負。負犯猶犯罪耳。應除免官當。被推劾。科斷未了(畢)。其祿停給。待斷訖校定。然後給之。謂若應當免者。依考課令奪當年祿。不應當免者。仍即給之。考課令云。凡官人有犯。私罪下中。公罪下下。並解見任。即依法合除免官當者。不在考校之限。並奪當年祿。釋云。謂准犯應除免官當之徒。斷定日。不至除免官當。故云。校定然後給之。若見應除免官當者。依考課令奪當年祿耳。但未校考之前。有私罪。下上公罪下中者。可給祿。考校之後可退奪。何者前令有初條注。雖留限日。有中下狀。不在給例又(之カ)文。此令既除故也。跡云。然後給之。謂無罪者給耳。問。未可預並考第可奪祿者。不被祿文否。答。被申合給。但當省考之時。校定更合徵耳。兵衞合奪祿者。與職事同。朱云。應給祿官。謂別勅才伎長上。後反了。并兵衞亦同也。考課令云。凡內外官人准考應解官者。即不合違事。待符報。即解義云。待報之間。不可追事力職田。依此案後說是也。凡於國司亦准此條。可除免官當者。職田事力待給也。不待符報。但所給追不徵也。未明。後反云。職田事力待符報解官日停給者。穴云。非應除免官當者給。如當法至考時應徵者。乃徵耳。大夫云。同私案。本司考訖以後。省未校以前。犯罪斷訖。准狀合解及降貶者附校。然則奪當年之季(年)祿也。後年有犯者。乃徵後年耳。或云。問。才伎長上及兵衞等同職事否哉。答。師云。才伎長上同職事。其考同長上故也。但兵衞者不同此例。何者番上人故也。或云。於官當只上兵衞事一同。但於考解別耳。何者番上人尤考解理之故。私思贖之。又國司可除免官當之人。公廨稻者。准祿法奉了。未知。職田事力等何。答。考解者。待符報之間。可除免官當之人。罪斷訖後。未下官符之前。不可取職田事力。但職田依田令交替前蒔者。與先人。若交替後者。入後人耳。師云。古記云。校考之後。若有下狀。謂省校考訖。未申官間事發者。即附校。徵已給之前祿也。考文申官訖後者。更追申附校。待後應給之祿也。若依日不滿而不可給祿者。還徵前受之祿也。問。本司考訖後。未

申官「省」以前發者若爲。答。一種无別也。或云。問。給祿之官。兵衞等何。答。亦同。問。公罪給徵哉。答。科斷未了停給。但給了後犯罪不徵耳。事力等准此耳。已上未明。在跡記皆。**其私罪下上。公罪下中。奪半年之祿。**古記云。問。公罪下中。奪秋冬之祿。未知。下中下下若爲。答。此條。只例解不合解官。然則公罪中下以下不合解官者。猶徵二時之祿。合解官。徵一年之祿耳。

初任官條

凡初任官者。雖不滿日。皆給初任之祿。謂初任者。无祿人入有祿也。不滿日者。計任後日。不足給限。其兵衞者。雖是有祿。既(郎)非職事。若初任官者。亦入給例。郎遭喪解官。奪情從職者。通計前日給之。不同初任之例。釋云。初任謂无祿入有祿也。和銅三年二月四日太政官處分偁。初任者。无祿人還任有祿者。其有祿人轉任他司者。不入初任之例。案以理解任之徒復任者。依此處分。皆入初任之例耳。其初任者。雖應滿日。猶給初任祿耳。何者任應日滿而不上。一二日者責重。「不應滿而不上百日。責輕。「此其生姦之道不等故。或說此計任後日。理然不足耳。若應滿不上者。不在給例。*何者法令(令)止(心)人姦濫(濫)故者。非令式部所行之例。一人帶數官。若雖高官日不足。而卑官日滿者。其祿從多給。初任官者。雖乞上日。給初任祿也。案兵衞等合入初任官之例。何者祿法既准宮(官)人。又宮(官)人散事有位准少初位。乞長布一端注云。給徵之法並准男。卽知。男散位亦可有給徵之格*云。國司遷任京官。身遭給祿之日。上日隨身卽給。不遭者不給。又才伎長上任官者給初任祿。或釋云。其遭喪解官之徒。周期之內復還任者。不在初任之例。通計前任日給耳。何者爲未付散位考帳故。餘同上釋。但和銅三年以下入初任之例耳。以上文也。古記云。雖不滿日。皆給初任之祿。謂雖无一日猶給耳。文初任之祿故。一云。无一日者。不合給也。文不云无日。云不滿日故。問。仕(任)可滿日。而故不上。不滿日若爲。答。猶給耳。一云。不合。問。任志國人便任(任)。隔

〔何者法令止人姦濫故者〕人の姦濫を止めるといふ立法の趣旨よりして、法文を解釋せり。又これによりて、吾人は、律令法が人の姦濫を止めて之を善に就かしむる儒教的目的を有せしことを明確に認め得べし。

〔格云國司遷任京官身

「給祿之日[illegible]」[illegible]上任官者給初任祿」この格、類聚三代格に見えず。但し續紀、卷七、養老元年十二月丁亥條に「太政官處分、舊例、五位以上外任、還任京官者、[illegible]日[illegible]入[illegible]」とあるに[illegible]もの、即ちこの格なるべし。

「但時行事亦不定也」亦給耳と云ふ說と不合也と云ふ說と二つありて決せず、時の行事も亦定らずとなり。之によりて之を觀るに、古記は兩說ありて決せざるときには、時の行事即ち現に行はるる慣行によりて說の當否を決すしとなり。

「[illegible]」[illegible]を補するもの[illegible]、續紀、養老元年十二月丁亥條に見える太政官處分なるべし。又延喜式、卷十八、式部上に[illegible]

目以上。不合（令）向京。中國人召任京官。量往來程。並不得過上。若爲處分。答。亦給耳。一云。不合也。亦已未盡。但時行事亦不定也。問。卑官之日。既滿祿限。轉任高官。上日亦在。若爲。答。今依所至給。從高遷卑亦同。但今至處日充者。依前任日給耳。問。兵衛授刀舍人給初任之祿以不。答。不合。爲不長上故。問。國史生郡司軍團入初任不。答。國史生入初任之例。國郡司軍團通計日可給。並爲長上故。問。國司轉任京官。通計上日。未知。給祿日不來。來。若爲。答。依格身遭給祿之日即給。不遭者更不給者也。一云。祿令先文者。皆合入初任之例。不合通計先祿之日也。跡云。國史生兵衛本非官人色故。合云初任。朱云。此記於兵衛。未明。凡兵令釋云異耳。又依格者要長上名初任。但內舍人不合初任。問。服解人未至。散位寮或任本官。或任他司者何。答。此復任遷任。不合入初任之例。朱云。凡服解人。祿文奏了後。解者給也。未奏前解者。祿不得耳。私心同。穢及云。祿日滿者。雖未奏。猶給也。但服解以後。至「散」位寮。更任職事者。爲有散位之日。合名初任。但復任遷任者。爲无散位日故。不合云初任也。或云。初任謂无散位。无遷大學通計給日。不足不給。但轉下與已上。給初任祿。問。解官之人有散位日何。答。給祿无散位日。通計前後日。已上未明。在穢記昔。穴云。不論日滿上日有一日以上是。若郡司日者不給。爲不穢云。日不滿故也。令釋云。此是計任後日。理然不足耳。若雖滿不上者。不在給例者爲非也。宜依令文者也。或云。師云。兵衛任職事爲初任。別勅長上。者使長上任職事。不爲初任。故格別爲文。但祿文任者使長上。兵衛者可入初任之例耳。問。七月之內以理解去任之人。已滿日可得祿。新任之人亦可得初任祿。未知。兩人共給哉。答。師云。新任之人可與初任之祿也。去任之人。不可入給例。何者祿計所任之日。給將來祿。然則假令。七月去任之人。不可預秋冬之祿。但「穢」被祿文。是「祿文穢」中之人。與其分祿耳。又問。依上意。服解之人復任者。不可云初任。未知。誰時得初任之名。私答。終服之後。上寮。得番上一日者。任職之後。稱初任給祿。若无日者。雖得初任之名不給祿。爲文云不論日「不云書」无日故。其服中復任者。亦爲通計前日與。不可云初任。但闕之後。復任者未定。讀跡 大同三年十二月廿七日官符云。初任官人兵祿事。右依令。自八月至正月。上日一百廿日以上

司一者。任二職事官一與二初任一同。」と見えたり。〔大同三年十二月廿七日官符〕この官符、類聚三代格、卷六、位祿の條に見えたり。

〔凡徵祿者雖正祿見在但會恩降者可免卽與六贓稅異〕名例律、以贓入罪條に「會二赦及降一者。盜詐枉法猶徵二正贓一。餘贓非二見在一及收贖之物。限內未レ送者。並從ニ

者。給春夏祿。秋冬亦如之。此則六月之內。上日三分之二已上。乃給季祿。而承前之例。初任之官。不限日之多「少」。皆依給祿之例。今被右大臣宣稱。奉勅。自今以後。改張此例。起自任日。至于限月。上日不滿三分之二者。不在給例。又二月八月上旬新任者。雖祿文未奏。而既在限外。宜入後季計日給之。其給馬料。亦准此例。

奪祿條

凡奪祿者。徵半年。限六十日內輸了（畢）。徵一年。限百廿日內輸了（畢）。 謂並從判徵日始計。卽與徵贖銅同也。或云。限六十日百廿日者。式兵部勘定訖之。待其報爲限耳。問。徵半年者。限六十日輸了。未知。假令。春祿受了。至給秋祿之時。日不滿而不得其祿。此人考在私罪下上。公罪下中可徵半年祿者。不得秋祿之故。不徵哉。爲當徵彼所得春祿哉。答。師云。不徵耳。可案。在穴記。**若限內遇恩。及別勅復任者。** 謂限內復任本官者。其任他司亦同。若限外復任者。猶亦須徵之也。穴云。別勅復任。謂亦限內任也。師云。不限限內外。何皆免徵耳。問。若別勅任於他司。或雖當司。非本所面遷官〔五九頁一・〕「跡云。考内。〔一五〇頁四〕「免。公罪下上。公罪下中等者不可徵也。朱云。別勅。復任者並免徵。謂限內復任也。後反了。而未明。復任。謂遷任亦同。或云。別勅復任。謂限內復任耳。若限外復任者。猶徵耳者。在跡記。**並免徵。** 或云。文云。並免徵者未給者。更爲給以不。答。在穴記。**卽應給者。從復任日爲始計。** 謂既云從復任日爲始計。卽知。不同初任之例。凡徵祿者。雖正祿見在。但會恩降者可免。卽與六贓稍異。釋云。若限內遇恩。及別勅復任者並免徵。遇恩謂遇降亦同。何者名例律。會赦及降者。「除」盜詐枉法之外。餘贓皆免故。但贓會赦者贓費用之日免徵。其祿者雖在正物同收。謂贖之物猶免耳。文不論費用見在故。但未犯免官以上。及贓賄入已。恩前無成者。依考課令猶徵耳。然則此令爲雜犯立文耳。古記云。若限內遇恩。未知。降意（慮）若爲。答。降意。慮亦同。案名例律

赦降原」と見えたり。これ即ち六贓を徴する法なり。祿を徴する法は之と稍異り、祿物見在すと雖も、恩赦に遭へば、之を徴することを免ずべしとなり。

〔未知本令始給與此始計其別何〕唐令には從復任同始給とありしを我が令は復任日爲始計と改めたり。この兩者の意味の差如何と問へるなり。

會赦及降者。謂若枉法贓者。正贓倶沒。其見在及收贖之物。限内未送者。並從赦降原放也。問。名例律與此令同義以不。答。小義異也。律者雖會赦。正贓見在者。猶徴之。官主雖正贓費用者。除盜詐枉法及收贖之物以外。悉免徴也。合者限内會恩。雖在正祿免徴。若過限不輸。雖亡正物同收贖之物。不免猶徴也。穴云。限内過亦即也。獄令釋云。不原也。問。限内過恩。謂限外不輸不放免也。但過非常赦者放免。獄令。欠負官物條降者何。答。亦合免。爲六贓降免故。古記云。問又過恩。謂不論見在見亡皆是。問。復任與初任別何。答。與初任已殊故。此文云。從復任日爲始計也。古記云。問。私案。以理去任者。通計勞給不可從復任後初計。但亦不初任耳。即應給者。從復任日爲始計。*未知。本令。始給與此始計其別何。答。始給。謂雖無日給耳。今於此始計。謂恐通計前任之日故生此文。宜計滿百卅日給。故云。始計也。依文。假雖得散位條上日。不合云初任。爲復任限内故。又爲免徴前祿。若限外復任者。云給初任之祿耳。爲前祿已後也。凡官人以理去任。有分番日。日者。可云初任官考。解犯罪者。雖有分番之日。依文從復任日計也。私思。謂限内復任。朱云。從復任日爲始計。謂爲祿給計日耳。未知。於考日亦同乎。先云。然也。凡此文者爲不通計。先上日云文耳者。未知。凡此時尚先勞皆除哉何。或云。此文者依犯罪除前任日。自復任日計。「於」服解者。通計前後日耳。此先違記。在跡記背。

兵衛條

凡兵衛六月内。上日夜各八十以上者給祿。朱云。日夜相須給耳。又得考日所亦同也。又。未明。計月者始八月計耳。或云。問。日夜各八十以上者。考所亦習此哉。答。然也。未明。在跡記背。古記云。六月内上日夜各一百以上者。分番者歟。謂在以上也。答。日別留日及會集等日。須必參上。以此准普云耳。除此等日以外。亦仕(任)滿耳。問。夜集日不足。日集夜不足。通計得不。答。不合。有位准大初位。无位准少初位。授刀舍人亦准此。

〔天平寶字三年格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔古記云問宮人職員令〕古記は大寶令の註釋書なれば、宮人職員令は宮人官員令とあるべきなり。後宮職員令集解には、明かに「古記云。後宮官員令。問。官員之字若爲。」と見えたり。故に茲に職員令と云へるは、新令の稱呼を不用意に用ひたるものと見るべし。されば、令釋に唯一箇所官員令の語見えたりとて、之を以て直ちに令釋を古令の註釋書と斷ずるは早計なりと云ふべし。

〔寶龜四年格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔大同二年十二月十五日官奏〕この格、類聚三代格、卷五、定官員竝官位事及び類聚國史、第四十、後宮內侍司の條に見えたり。

釋云。*天平寶字三年格云。授刀舍人兵衞等。有位給十口。今減二口。无位五口。今減一口。跡云。授刀舍人。謂人。此令（令）有文。不見所在司耳。朱云。授刀舍人。謂一事。但此書不見其本司也。穴云。授刀舍人。謂大舍人帶刀也。私案。此說不安也。於今不見其所住（在）之司耳。

宮人給祿條

凡宮人給祿者。*古記云。問。宮人職員令。六位以下稱宮人。五位以上稱命婦。此條宮人若爲分別。答。此條无別。五位以上亦稱宮人耳。朱云。宮人給祿事。不依本位也。猶依官給耳。

尚藏准正三位。尚膳尚縫准正四位。典藏准從四位。尚侍典膳典縫准從五位。釋云。尚侍准從五位。寶龜十年格云。前件之司。多掌職員。給祿之品。縣省比司。自今以後。尚侍准尚藏。典侍准典藏。*寶龜四年格云。宮人職事高官卑位。依官高位卑官。依位給之。*大同二年十二月十五日官奏云。擬定位階事。內侍司尚侍二人。右件祿令准從五位。今准從三位官。典侍四人。右件祿令准從六位。今准從四位官。掌侍四人。右件祿令准從七位。今准從五位官。右謹檢令條。尚侍者供奉常侍。奏請宣傳。典侍者若无尚侍代掌宣傳。掌侍者雖不得奏請。而臨時處分。得預宣傳。由茲准量。所務是重。而准位猶卑。祿賜欠少。伏望昇進爵級。品秩相當。臣等商量所定如前。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。尚酒准正六位。尚書尚藥尚殿典侍准從六位。尚兵尚闈准正七位。尚掃尚水掌藏掌侍准從七位。掌膳掌縫准正八位。典書典藥典兵典闈典殿典掃典水典酒准從八位。自餘散

事。謂氏女・采女猶之類[也]。釋云。氏女女孺之類。是謂散事。穴云。私案。東宮宮人。職員以上。女竪亦同。爲職員令云。准此故也。問。親王乳母考賜准宮人。未知。祿何。答。師云。亦可給之。但不見正文。

有位准少初位。无位減布一端。給徵之法並准男。朱云。犯罪徵並依初任給祿并同也。

食封條

凡食封者。釋云。畿土爲界謂之封。周禮。諸公封地。是謂食邑之意也。跡云。給是日封也。一品八百戸。二品六百戸。三品四百戸。四品三百戸。内親王減半。

一無品親王内親王封戸員數事此文在格　大同四年六月廿二日官奏云。无品親王内親王食封事。右奉勅。件封戸。大同三年十月十九日論奏云。一品已下食封。並四位位祿等。並據令訖。但先經恩賜更不收還。其加階進級之日。即便復給。各得其所。又大同三年六月廿九日式云。无品親王等食封二百戸。男女並同。但叙品之後。一從停止者。今檢奏意。无品親王叙四品之日。封邑一百五十戸。然則无品之日。其封二百戸。叙品之時。還失五十。事之穩在。良不便穩。官議定奏聞者。謹奉。依勅旨商量。件封戸。大同三年論奏。依令已訖。然則女者良官半減。内親王准(五五四頁・五五二頁)。賞加畢。然則雖有加給未見減省。所據行事。理合同範。伏請從令而後。一品以下食封并四位位祿等。並依令條。但先經恩賜。不更收還。其加階進級之日。即便還給。各得其所。凡法令之興。其來尚矣。有國通規不易之典。而一則遵行。一則乞據。臣等商量。良不可然。謹錄事狀。伏聽天裁。謹以申聞。謹奏。聞。大同三年十一月十日官奏云。内外五位位祿准據令格事。正五位祿絁六疋疋。格其八。綿六屯屯。格其八。糸廿六絢停。格其今。布卅六端八端。格其卅。庸布二百卌常。以二丈八尺爲段。百廿一端今一丈二尺。格其一五十四段。定一百十。從五位祿絁四疋疋。格其六。綿四屯屯。格其六。糸廿絢停。格其今。布廿九端。格其卅六端。庸布一百八十常。以二丈六尺爲段。八十三端一丈六尺。格其[illegible]。右據祿令。所定如件。外正五位祿絁四疋。格其[illegible]。綿四屯。格其[illegible]。糸十三絢停。格其今。布廿四端。其[illegible]。庸布六十段。今定。格其外從五位祿三疋。格其[illegible]。綿三屯。格其[illegible]。糸十絢停。格其今。布廿端。其十八端。今定。庸布冊段。今定。

〔氏女〕氏々より後宮に[illegible]上の女子なり。その事、[illegible]

〔女[illegible]〕[illegible]王家に屬する女孺な[illegible]に[illegible]人[illegible]叙之限[illegible]とあり。

〔大同四年六月廿二日官奏〕この格、類聚三代格[illegible]に見えたり。

〔大同三年十月十九日[illegible]〕

〔大同三年十一月十日官奏〕この格、類聚三代格[illegible]、政事要略、第廿七に見えたり。

〔天平寶字四年十二月十三日乾政官符〕この格、類聚三代格、卷八、封戶事及び續紀、卷廿三に見えたり。

〔又稱年以三百六十日何〕これ名例律の文なり。

〔神龜五年三月廿八日格〕この格、類聚三代格、卷五、定內外五位等級事及び續紀、卷十に見えたり。

格貞廿端。右准大寶元年格。竝折中祿令所定如件。以前檢太政官去大同二年十月十九日奏、一品已下食封。竝四位「々」祿「等竝(兼)據(依)」令條。而內外五位未有所定。偏」據格旨。還忘祿令。臣等商量。良須折中。伏請依件定。以爲恒例。其女祿亦准此減半。謹錄事狀、「伏」聽天裁。謹以申聞。謹奏聞。*天平寶字四年十二月十三日乾政官符云。應全給尙侍尙藏封戶幷位田事。右奉勅。准令給封。女悉減半。但尙侍尙藏職掌旣重。宜異諸人量須全給。位田竝亦如此。自今以後。永爲恒例。(其无故不上一年者則停給。)(以上十一字本文。當作大字。)謂兼爲封祿立例。其職封者不入此例。但以理解官者。服闋及病差之後。无故不上一年者。准選敍令停給。其在任之官。不上百二十日者亦不給也。釋云。其无故不上二年者則停給。封祿竝停給。此爲散位立文。有一日者不退(追)位田。資人无退(追)文故不可退。其以理解官不上者職封待一年。位封待二年竝停耳。案職封者。解官卽停。得職卽給。不可待年。何者以理解官。无故不上二年者。除前勞故。古記云。問。其无故不上二年者則停給。未知。封祿若爲處分。答。封者不停。祿者不給也。一云。封祿竝停給也。位田亦停。問。以理解官。无故不上若爲。答。職封待一年。位封待二年。則竝停耳。跡云。无故不上。謂无官有位非致仕人。或云。問。无故不上二年者。則停給者。未知。此文。散官一品以下皆待受文(交)賦不。又无故上不二年者。然則以理解官人。除有故不上二年外。更計二年何。*又稱年以三百六十日何。答。在跡記背。穴云。問。或云。以理解官之。无故不上二年者。停給祿者何。答。此文无故不上二年者。此一品以下相承之文故。其云爲不也。師云。以理解官人。无故過一年不上者。依選敍令已除前勞。然則以理解官人。不上二年者。則停給也。令釋同之。或云。文已无別。卽明。尙侍二年停給耳。无故不上二年者。則停給者品封職封。及位封位祿皆是。跡云。无故不上。謂除致仕人之外。何者旣致仕之者。不仕之事不可責故也。順之。師同之。問位田令(令)古答云。*神龜五年三月廿八日格云。外位位田者。內位減半給之。女減三分之一。無故不上經一年者停給。職田資人何。答。凡諸條引此條爲證。然則習封祿亦停給耳。令釋云。位田資人案。內位无故不上。經六年以上者停給也。又田令云。職分田。太政大臣卌町。左右大臣卌町(五九一頁)。(五八五頁)者何。答。遷任他司皆是。爲見任職事故

八二

也。師云。若別勅放免。私罪下上。公罪下中等者。不可徵也。朱云。別勅放（三五頁）三。（五六頁）六　太政大令半之。其先經恩賜復據論奏。更不收返。謹錄事「狀」、伏聽天裁。謹以申聞謹奏。奉勅依奏。臣三千戶。左右大臣二千戶。大納言八百戶。跡云。凡大納言以上食封位封官條等果給耳。朱云。問。大納言以上給職封。計上日給不。答。不可計也。

大納言已上不計上日可給位祿職封事

若以理解官。及致仕者減半。古記云。注若以理解官。及致仕者減半。謂位祿亦同。何者下文无故不上一年故也。職封也。不在位封減半之例。非理解官者即奪耳。問。以理解官。及致仕之徒。得替者爲。答。職封則停給也。穴云。問。古私記云。以理解官及致仕者。任替者停給封。未知。同（用）可不。答。不合然也。假雖任替減半給耳。職田職分亦同。或云。問。以理解官及致仕者。減半者。未知。有停年限不。答。在跡背。正一位三百戶。從一位二百六十戶。正二位二百戶。從二位一百七十戶。正三位一百卅戶。從三位一百戶。其五位以上。不在食封之例。正四位絁十疋。綿十屯。布五十端。庸布三百六十常。從四位絁八疋。綿八屯。布卌三端。庸布三百常。正五位絁六疋。綿六屯。布卅六端。庸布二百卌常。從五位絁四疋。綿四屯。布二十九端。庸布一百八十常。女減

〔慶雲三年二月十六日格〕この格類、聚三代格には見えず。續紀、卷三にその事見えたり。

〔大同三年十月十九日官奏〕この格、類聚三代格、卷八、封戶事に見えたり。

半。釋云。慶雲三年格云。正一位六百戶。從一位五百戶。正二位三百五十戶。從二位三百戶。正三位二百五十戶。從三位二百戶。正四位一百戶。從四位八十戶。其封戶者授位之時。卽與處分。位祿者。式部例十一月給之。初授五位會給位祿。未奏之前。宜入給限。神龜五年格云。外位位祿。內位減半給之。女減三分之一。无故不上經一年停給也。古記云。問。正四位以下給物。若爲其意。答。封戶之代給物耳。依*慶雲三年二月十六日格。正一位六百戶。從一位五百戶。正二位三百五十戶。從二位三百戶。正三位二百五十戶。從三位二百戶。正四位一百戶。從四位八十戶。問。給封祿時。未知。若爲。答。令无文。但今行事位祿以十月給。給訖後授位者。來年十月給耳。封戶者授位時。卽與處分。但給調庸者。依當國定申上戶下「戶」數給。未定(訖)。問(間)。調入京者不給。此亦來年給耳。神龜五年格云。外位位祿內位減半給之。女減三分之一。无故不上經一年停給。或云。女減半謂嬪嫁以上不入此例全給。下條有文也。在異記背。朱云。從正四位絁十疋以下此位祿耳。*大同三年十月十九日官奏云。應賜位封。依令條事。右謹案祿令。王臣食封各有等次。但五位已上不在此例。而慶雲年中。更昇差數延及四位。大同「之」元「年」。大納言以上職封復(五六六頁)。(五六九頁)大納言廿町。義解云。以理解官及致仕者。准職封減半。其郡司以理解。其職田卽收。不

六 九

可准此。又軍防令云。資人。太政大臣三百人。左右大臣「二」百人。大納言一百人。義解云。若致仕者准祿令減半。大納言亦准此。資人等无追文故。不可追。兩說誰爲是。答。師云。位田資人不在此限。卽知。令釋一同。其職事百廿日不上者解官。則无給職封。但今論以理解官耳。

中宮湯沐二千戶。 釋云。湯沐方伯爲朝。天子皆有湯沐之邑。於天子之縣內視元士注給。齋戒自潔淸之用也。俗湯沐用潘也。古記云。中宮湯沐若爲。答。湯沐可用調度耳。問。封戶同不。答。大前言者。非公戶故可封戶。然此不在封戶之例。一云。封戶一種无別也。方伯爲朝天子。皆有湯沐之邑。於天子之縣內視元士注給。自齋戒潔淸之用也。俗湯沐用潘。

東宮一年雜用料。絁三百疋。綿五百屯。糸五百絇。

〔慶雲三年格〕この格類聚三代格に見えず。但し續日本紀、卷三に見えてゐる。

〔延暦六年格〕この格、類聚三代格に見えず。

〔延暦十七年閏五月廿三日勅〕この勅、類聚三代格、卷十七に見えてゐる。

〔天平元年八月五日勅〕この勅、類聚三代格、卷十七及び續日本紀、卷十に見えてゐる。

〔[illegible]〕[illegible]をり、[illegible]大[illegible]長[illegible]今廿四條のことは、前に[illegible]ゐる。

〔延暦廿年十二月十三日官符〕この官符、類聚三代格、卷六、位祿季祿時服馬料事に見えてゐる。

布一千端。墾二千口。鐵五百廷。

皇親條

凡皇親。釋云。慶雲三年格云。五世之王在皇親之限。其承嫡者相承爲王。延暦六年格云。六位諸王任六位官者。依官祿任七位官者。依王祿。自今以後永爲恒例。朱云。問。皇親。未知。於此三世四世歟。答。延暦十七年閏五月廿三日勅云。依令。五世之王雖得王名。不在皇親之限。爰逮慶雲。昇居親限。朝圖。頑闇之輩。昔規徵祿。携養庸流。名爲己胤。遂附屬籍。以汚宗室。非徒速謗於一己。固（固）亦延黷於七廟。朕所以丁寧過於再三。曾不改悟。彌長姧濫。靜言其弊。深合懲愼。宜停勅後格。一依令條。但天王有殊貫。簡芟不雜。王者施行。天平元年八月五日勅云。五世王嫡子已上娶孫王生男女者。入皇親之限。年十三以上。皆給時服料。春。絁二疋。糸二絇。布四端。鍬十口。秋。絁二疋。綿二屯。布六端。鐵四廷。朱云。問。此祿何月可給。若准職祿乎。答。其給乳母王者。謂一世王。其親王者。不見令條。可有別式。若皇親任官。及敍五位以上者。不可重給。但季祿與王祿「從」「令給也」。令釋云。延暦六年格云。六位諸王任六位官者。依官祿任七位官者依王祿。自今以後。永爲恒例。其給乳母王。謂孫王也。古記云。問。注其給乳母王入親王不。答。不入。別治給也。跡云。給乳母王。謂孫王也。此不求乳母存亡。但親王文不見。別勅治給耳。若此王等有位者。止從位祿耳。不合累給。穴云。帶官者。職祿位祿累給。皇親之料不累給也。餘同。跡云「也」。問。於今鄕定令敍六位諸王何。答。職祿與皇親累給耳。給乳母王者。謂孫王者。但親王者。別有治給耳。未可也。可檢。或云。給乳母王。謂孫王。貞云。職員令。親王及子給乳母者。然則親王入此例。者非也。昔在讚記。延暦廿年十一月十三日官符云。應職事諸王上日不滿預王祿事。右被右大臣宣偁。准例諸王給祿不勘上日。而今任官之後計日入祿。上日不足。

〔釋云上條云女減半者是爲非妃夫人嬪者生文何者妃夫人嬪亦戀減給者具見上條何更疊耶又封祿是重優令准男資人位田灼然不減也」令釋に曰く。上の食封條に女は半を減ぜよとあるは、宮人の爲めに設けたる條文にして、妃、夫人、嬪の爲めに設けたる條文にあらず。何となれば、妃、夫人、嬪にも、その祿の半を減ずべくんば、前條を以て足り、本條文を疊ねて置く要なかるべし。嬪以上は封祿是れ重し。優遇して男子の祿に准ぜしむ。資人、位田等も

一无預祿。是緣得官還失其祿。事乖弘恕。理須改易。自今以後。職事諸王上日不滿。宜給王祿。但不直本司。經二季以上。量情可責。宜解見任。 絁四疋。糸八絇。布十二端。穴云。問。注云。給乳母王者。絁四疋。絲八絇。布十二端者。今案〔祿〕(令)文。春秋祿法「也」〔云〕有差別。未知。於給乳母孫王者。「春秋祿无差別哉。爲當牽餘王可加減哉。答。給乳母王者爲別。優生文。是知」春秋之祿。其數无差別。此云未究。可問他人。

嬪以上條

凡嬪以上。竝依品位給封祿。謂欲顯不減半。故云依品位。其封祿是重。優令准男。資人位田。灼然不減。*釋云。上條云。女減半者。是爲非妃夫人嬪者生文。何者妃夫人嬪亦應減給者。具見上條。何更疊耶。又封祿是重。優令准男。資人位田灼然不減也。古記云。竝依品位給封祿。謂不依減半之例也。 其春夏給號祿者。釋云。號祿嬪夫人妃是號也。依號給祿。古記云。號祿者。謂稱妃。稱夫人稱嬪謂之。朱云。嬪以上號祿。月(同)職祿給同時給。 妃絁廿疋。糸卅絇。布六十端。夫人絁十八疋。糸卅六絇。布五十四端。嬪絁十二疋。糸廿四絇。布卅六端。若帶官者累給。跡云。嬪以上亦不合累王分祿。朱云。若帶官者累給。謂雖帶三四官猶累給也。此殊優諸色故也。抑可求。後反云。一官分累給也。穴云。帶官累給者。號祿與官祿累給也。但帶數官者。多職祿與號祿給二色祿耳。每官累併不可給也。 秋冬亦如之。以綿代糸。

功封條

凡五位以上。謂一品以下也。釋云。文云五位以上。故六位以下不可在功封。古記云。五位以上功食封者聽。謂六位以下。雖大功不在食封之例。但別勅處分依下條耳。跡云。六位以

軍防令、田令に各女は半を減ずの文あるも、續以上には減ぜざること、これによりて豹然たるべしとなり。

〔未知勳相准不　答相准可入何者有相當文故者〕勳位を有する者、官位五位以上を有する者に准じて、功封を賜ふ者の中に入るべきや否や。相准じて入るべし、何となれば、官位令に勳六等は從五位に准じ、勳一等は正三位に准ずる條文あればなり。

〔未知此文勅爲不稱年限歟答然也〕類聚三代格、卷八、封戸事に「太政官符、封一百戸、五十戸輸レ米國）右被二內大臣宣稱。奉レ勅。件封永施二秋篠寺一。其權入二食封一限立二令條一。此年所レ行甚違二先典一。天長地久。帝者代襲。天下物者一人用無レ窮、有所レ念永人二件封一。今謂永者是一代耳、自今以

下。不在稱有功之例。若有功者。先授五位以上耳。朱云。五位以上功食封。未知。以上有限以不。答。四位以下。何者依上條四位以下不食封故者。或云。五位以上功食封者。*未知。勳相准不。答。相准可入。何者有相當文故者。昔。在跡記

以功食封者。其身亡者。大功減半傳三世。穴云。大功減半傳三世者。未知。放功田。父祖未請(得)身亡者。給子孫哉。爲當有別哉。答。可放田令耳。可問他人。朱云。身亡謂得封亡。及未得亡並同也。上功減三分之一傳二世。中功減四分之三傳子。謂男女同。釋无別也。下功不傳。

寺不在食封例條

凡寺不在食封之例。若以別勅權封者。不拘此令。釋云。說文。拘止也。音舉隅反也。權謂五年以下。朱云。*未知。此文。勅爲不稱年限歟。答。然也。若勅不稱權字者爲別哉何。

令條外條

凡令條之外。若有特封及增者。並依別勅。朱云。有特封者。未知。一端何。若。假令。臨時六位以下如給封歟。答。假令。四位五位等如給封耳。又神寺等給耳。增者。假大納言以上及三位以上等。帶給數外增給耳。

令集解卷廿三祿令

後。立爲二恒例一。前後所レ施一准二於此一。寶龜十一年六月十六日。」なる格文見えたり。卽ち之に據れば、權に別勅を以て封戶を與ふるものは、五年を以て限りとし、永く施入すと云へるものは、その天皇の御一代を以て限りとせしなり。

弘長元年九月日於龜山殿令一見朱點畢　員外宰相藤判

本云
弘長元年十月九日於龜山殿宿所見合本書加首書了　權大納言藤在—

建治二年六月一日引合正親町本校合了　金澤文庫

文化十癸酉年五月十三日校了　筒井忠英

慶長三年重陽於燈下令校合　清原秀賢

本云
慶長四年林鐘初六課少內記賢好令校合　吏部清原秀賢

右以淸家本令寫之令校合畢
寬永十一初冬　大府侍郎中原職忠

萬治四年季春初於燈下令一校畢　羽林中郎將藤原

文政三年六月以彰考館本比校了　撿挍保己一

蕉園石川介校字活刷

明治四年辛未八月發兌

東京

書林

須原屋茂兵衛
須原屋伊八
須原屋新兵衛
和泉屋吉兵衛
和泉屋金右衛門
岡田屋嘉七
英屋文藏
島屋平七
山城屋佐兵衛

〔古記云 外門 謂最外四面十二大門也〕これによれば、古令に於いては、宮閤門を外門と稱せしこと知らる。又平城京の大内裏にも十二の大門ありしこと知らるるなり。

宮衛 謂宮王宮也。衛禁衛也。釋云。宮王宮。衛禁衛也。謂王宮禁衛令耳。 令第十六

凡貳拾捌條

宮閤門條 **凡應入宮閤門者。** 謂衛門所守。謂之宮門。兵衛所守。謂之閤門也。釋无別也。*古記云。外門謂最外四面十二大門也。主當門司。謂門部也。其中門。謂衛門與衛士共防守也。門始著籍此門也。內門謂兵衛主當門之也。 **本司具注官位姓名。** 謂本司者。在京諸司皆是也。其注官位姓名者。此爲主典以上立文。其雜任准此也。古記云。本司皆謂在京諸司也。穴云。應入宮閤門。謂一品以下皆是也。 **送中務省付衛府。** 古記云。付衛府。謂左右衛士府不預門籍之事也。朱云。送中務省付衛府。謂若可入閤內人者。可付衛門兵衛二司也。然則本司記一通下送中務省也。送中務省。未知。以何人可送。答。不見。尙直丁等令送耳。付衛府。未知。召衛府不也。字意何。答。送而付意耳者。或云。問。文云。本司具注官位姓名。送中務省。又下文云。本司當日牒省除籍者。未知。不經所管省徑送中務歟。爲當。先經管省後。送中務意歟。又造書樣。依何式哉。答。寮司門籍者。造解文送管省。造移文送中務也。亦加移文付衛府耳。但加中務官人押署。爲當不加署者。不見也。後案。中務押署可送。可檢付者。付本府也。非付門也。後日所定。寮司門籍造解文送省。受取造移。文云。門籍若干。而送中務耳。不加押署也。中務付衛府之日

亦如之。未知。在穴。**各從便門著籍。**謂宮門閤門。當人出入。各有要便者。是爲便門也。**但五位以上著籍宮門。**謂五位以上身貴朱紫。事殊士庶。故在京者。皆於諸門著其通籍「也」。釋云。在京五位以上。雖不出入而著籍也。在外者不著也。其五位以上。亦隨便門著。何者非著門者。不得出之文承下故也。*古記云。五位以上著籍中門。謂便門之外。又更著中門也。內門不合。无籍也。穴云。但五位以上著籍宮門。謂雖不合入著耳。但五位以上。謂在京五位以上。雖常不入。爲臨時入著耳。其國郡司五位者。不在此例。何者改任當日爲除籍之故也。文稱宮門。其閤門上解之也。跡云。五位以上著籍宮門。謂上云。注宮位姓名。送中務。一位以下直丁以上。皆籍隨便門置宮門閤門。今此五位以上雖无掌。而籍合置便宮。何者非著籍之門者。不得出入勘會。答。**皆非著籍之門者。並不得出。**穴云。門非著籍之門者。並不得出。未知。无籍引入亦放此義哉。答。然也。无籍入門者不聽也。**若改任行使之類**謂改任者。出任外官。若在京遷官者。至一日十六日。須換其籍。其未換之間。尚依舊籍也。之類者。假患等類。亦約此中也。釋云。之類謂請假病患等也。見衞禁律也。穴云。改任。謂爲專除籍。若內舍人任侍從之類。此非應除籍之色。至宜換籍時。改「未改」之間无妨出入。爲无登時改籍之文故也。或云。師云。雖非除籍之色。尚牒省改換官名耳。不可出入之故。在穴。宿衞謂內舍人兵衞。凡長上「番上」皆每一日十六日換耳。行使謂一日以上行使是也。問。改任行使。未知。任日卽除。爲當。給還文之時歟。答。任日卽除耳。其五位以上而奉辭奉見者。依下條无籍。應入禁中人行耳。上文。本司錄官位姓名送中務者。謂此文。每月一日十六日換籍是。言本司造門籍。每月送中務之付衞府耳。其衞府官。亦合先送中務。故云。下文。宿衞人准此之處。令冝條文耳。或云。問。中務付衞府之日行事如何。徑取集諸司籍「門」而付歟。爲當。造中務移文付歟。爲當。於諸司所進之籍棲紙。加中務官人之署而付歟。答。不見正文。但說略見上也。在穴。**者。本司當**

〔古記云、五位以上著籍中門〕古令に於いては、宮門を中門と稱せしなり、

〔謂請假病患等也見衞禁律也〕現存衞禁律にこの疏文見えず。散佚せる部分にある歟、未だ詳かならず。

〔蔡邕獨斷〕日本國見在書目錄に「獨斷一。（今案蔡邕撰）」とあり、隋書及び舊唐書の經籍志には見えず。漢の蔡邕の著にして、今漢魏叢書及び格致叢書に收めらる。

〔无籍應入禁中者臨時引入人耳見律〕唐の衛禁律、宮殿門無籍條の疏議に「應ㇾ入宮殿。在京諸司皆有ㇾ籍。其無ㇾ籍應ㇾ入者。皆引入。其無ㇾ籍不ㇾ得二人引一。」云々とあり。これに相當する我が衛禁律の文を云へる歟。

日隷省除籍。朱云。隷省除籍者。未知。省告知衛府令除何。答也。告知除者耳。**每月一日十六日。各一換籍。**釋云。換易也。音故玩反。朱云。每月一日十六日各一換籍者。未知。長上番上並同不。答。並同无別者。或説。新任遷任之人。待一日十六日著籍者。未知。而置籍間不聽出入何。答。不然也。任官之當日。即可置籍者換籍謂本府「記」改籍〔記〕耳。未知。此時中省何。答。然也。如元置時可有耳。疏云。換籍謂雖五位以上。並主典以上。皆依此文合換「也」。**宿衛人准此。**穴云。宿衛人准此。謂案唐令。為換籍生文。但於此令。冠條文也。問。於中宮東宮禁衛何。答。亦有宮閤五衛禁衛耳。為宮臣宿有犯失故。但職及坊同中務耳。朱云。宿衛人准此。謂衛府為送中務立文耳。

應入禁中條

凡无籍應入禁中。謂門籍以内也。釋云。門籍之内摠云禁中。*蔡邕獨斷曰。門戶有禁非侍御者。不得入。故曰禁中。音居陰反。或云。問。下奉物夜開諸門條。受物人注出入人名帳。宜「送」中務宜送衛府者。與此條无籍應入禁中相類哉以不。答。相類也。在穴。朱云。*无籍應入禁中者。臨時引入人耳。見律。**及請迎輸送。**謂就禁中請物。是為請迎。輸物送禁中。是為輸送也。釋云。就内請物。是謂請迎。以物送内。是謂輸送。古記云。請迎謂禁内物運出外也。輸丁謂擔調庸參入之物故此。**丁匠入役者。中務省。臨時錄名付府。**穴云。依律无籍應入者。准勅引入者。是云臨時錄名付府也。**五十人以上。當衛錄奏。**謂五十人以上者。假如。四十人先入。十人後入者。通計先後。既滿五十亦須錄奏。若於東西分入者。亦以此準之「也」。當衛者。〔衛者〕衛門及兵衛府也。釋云。假令。四十人先入。依文。後入通計前入滿五十人者。即須錄奏當衛々門。及兵衛府也。每五十人入亦須奏也。古記云。當衛錄奏。謂主當門籍府也。周一日之中。先入卌人。後入卄人。令五十人。未知。奏不。答。合奏也。穴云。問。自東門卄五人。自西門卄五人。左右兩司何奏。答。偏一府

奏耳。問。公式令云。物處分五衞之事。本司覆奏者。未知。兩條。答。依參入數多者。衞府錄奏聞。依兵庫事者。本庫郎可奏耳。不可從一也。或云。當衞者於宮門衞門府。於閤門兵衞府耳。若宮門閤門二門可通入者。二府各奏哉。又稱五十人以上者。臨時「參」入數歟。答。二府各可奏。又稱五十人以上者。臨時入人數耳。在穴。跡云。五十人以上。謂臨時入雜色人等。摠計滿五十人者合奏。或先卅人入。後廿人入者亦合奏。但先入卅人出訖後。又廿人入之類。不合奏。當衞謂若閤門者。兵衞亦並合奏也。朱云。先從西門入廿人。後從東門入卅人者。後入東門可奏者。未知。先入廿人。東門不知。不奏何。先云。不知雖不奏无罪者。未知。何。中務省臨時錄名付府者。依文。每人可錄姓名也。直不可送大數者。

其有所輸送未畢。欲宿守物者。斟量聽留。謂中務衞府。相共斟量。其請迎未了者。亦准此「也」。古記云。輸送未了。謂請迎未了。亦同也。斟量聽留。謂人數多少。隨物斟量也。跡云。斟量。謂預出納之司斟量。經衞府而留耳。朱云。貞「民」云。預物司「與衞府」相斟量。聽留耳。穴云。斟量。謂門司出納司共斟量。若五十人以上留時。亦不奏。不依文云。師同之。

兵衞衞士條

凡兵衞衞士上番。衞士上番。謂自本國初上者。**皆須檢點正身。然後奏聞。**謂兵衞者每番奏聞。衞士者。唯初上一度奏聞也。釋无別。古記云。皆須檢點正身。然後奏。謂兵衞者每月二番上。每番檢點奏聞。但衞士者番代之事。一度奏聞。以後不奏故。注謂自本國初上番者也。上謂參上也。今行事。門部亦奏。跡云。依衞門門部等不合奏。朱云。貞同此也。依文可習者。穴云。兵衞初任之日。兵部判補。但授兵使日本衞奏耳。謂兵衞衞士。正身見在者。郎以「少」畢。點其名上也。奏聞者。本衞各奏聞「也」。釋云。檢點驗也。點小畢也。謂檢點見在正身本衞奏耳。穴云。檢點奏聞。謂兵衞者。本府奏聞。衞士者。兵部檢點奏聞。師依令釋。本府奏之說。律云。主司不知冒情。注云。主司。謂兵

〔律云主司不知冒情〕唐の衞禁律に「諸於宮殿

門一。無レ籍及冒ニ承人名一。而入者。以ニ闌入一論。守衞不レ知ニ冒名情一。宮門杖八十。殿門以內遞加ニ一等一。」とある條文に相當する我が律文の一部歟。

〔羅城門〕京師の周圍に廻らせる羅城の門なり。普通羅城門と云へ

衞府。又云。兵衞冒代事。從國來者衞府不坐故。其衞士兵部分配二三府故。兵部奏聞。乃分配。師不依之。朱云。檢點。未知。點字意何。又兵衞每番檢點何。答。以筆點名上耳。令釋同。又每番可檢點耳。

開閉門條

凡開閉門者。跡云。開閉門。謂宮城門以內皆是也。**第一開門鼓擊訖。即開諸門。**謂擊鼓時節。可有別式。假如。寅之一尅。擊第一鼓者。卯之二尅。可擊第二鼓也。諸門者大門以外。「內外」諸門也。釋云。第一開門鼓擊訖。假令。寅一尅擊是第一。卯二尅擊是第二鼓。諸門除當朝堂之大極殿門以外。內諸門是。古記云。第一開門鼓擊訖。謂寅一點二行下槌。每行十二槌。第二開門鼓擊訖。謂卯四點又二行下槌。跡云。擊鼓司並定擊鼓等。依別式耳。朱云。貞云。陰陽寮可擊開閉諸門者。除大門外宮城門。宮門閤門皆同。可開閉者。或云。問。此條開閉門等鼓。所有及守打之人。並打鼓之時有所見哉。答。不見令條。然則可有別式。師云。鼓者時司鼓同耳。**第二開門鼓擊訖。即開大門。**謂朝堂南門也。古記云。大門謂大極殿及朝堂當門也。自餘稱諸門者。此間（門）宮門相當難知。隨時所用耳。穴云。大門謂朝堂前大門。之當宮（重）閤門通內門皆是也。朱云。開閉大門者。二大門。並同時可開閉者。**退朝鼓擊訖。即閉大門。晝漏盡。**古記云。晝漏盡。謂以日入爲限也。**閉門鼓擊訖。即閉諸門。理門**謂臨時定一便門要出入者。晝夜常開。監人出入。謂之理門也。釋云。理門。臨時定一便門人出入者。名云理門。晝夜常開。檢人出入。穴云。理門者。宮城宮閤門。各皆定一門。晝夜出入。又有門籍。然人有兩籍耳。但男女別門出入同門出入之事。不分明也。朱云。問。宮城門宮閤「門」可有理門何。答。然也。理門臨時量之（定）。而則其數。亦臨時可定也。**不在閉限。京城門**謂羅城門也。釋云。*羅城門。謂之京城門。何者衞禁律云。越京城垣者。徒一年。又條越坊市垣者。笞五十。故坊門亦隨羅城門開耳。唐令云。宮殿門夜漏盡。擊漏鼓之

宮、朱雀大路の南端に位する最大の羅城の門を意味するも、此に云ふ羅城門は京城の羅城門なり。

〔雜律〕云直宿坊街應聽行而不聽注〔雜律〕、見夜條の一部なり。〔闈司〕後宮十二司の一なり、後宮職員令を見よ。

開。夜漏上水一刻〈刻〉擊漏鼓訖閉。五更三籌。順天門擊鼓。諸街〈衛〉即連〈遞〉擊小鼓。使〈使〉聲徹皇城京城諸門。又云。城門皆擊鼓。鼓〈也〉七百槌訖。諸城門開。開後一刻〈刻〉順天門開。晝漏盡順天門擊鼓。諸衛依而擊。諸城門皆擊鼓。至四百槌訖閉。云。師云。尙依古記可言第一。坊門閉門鼓也●。亦如京城也。

者。**曉鼓聲動則開**。謂上文第一開門鼓是也。釋云。第一開門鼓。謂之曉鼓聲也。穴云。曉鼓謂非上云第一開門鼓也。或 **夜鼓聲絕則閉**。謂亦上文閉門鼓是〔也〕。釋云。晝漏盡。閉門鼓。謂之夜鼓聲也。 **其出入鑰者**。謂諸門及京城門鑰皆是。其出入早晚。待式處分。假令。寅之一刻開門者。卽其之一刻。出鑰之類也。出之既如斯。入之亦准此。凡宮閤管鑰者。進於御所。其京城門鑰亦同。但依下文。婚嫁喪病等之類。並見放過。卽知坊門鑰者。坊令主掌也。釋云。鑰謂京城門鑰皆同。出入行事待式處分。坊門鑰者不入也。下條有婚嫁喪病者。〔見〕放過故。但唐令曰。鑰〔匙〕皆連鐵魚兼刻其門名。藏之於櫃。其出納時節。開門之法。從別式。穴云。出入鑰者。開門鼓以前三刻出。謂京城鑰皆在御所。同共出入。不依宮令閉答也。見律附釋也。但坊門鑰坊令執爲順也。爲坊內開門故也。或云。開門鼓以前三刻出。謂假令。第一鼓卯一刻者。寅三點是也。同在穴。跡云。大門鑰同共出哉。或云。雜律云。直宿坊街應聽行。而不聽往。張云。直宿不應聽行。而開門放行者。仍科擅開閉之罪者。案之。坊門鑰坊令掌。故衛禁律。有坊令不時開閉之文。但京城鑰可有御所。見附釋〈令釋〉。令必亦如之。私案。令及律請進門鑰。並兼京城以上。但闈司止掌〔宮〕閤管鑰不掌京城。是以令云。典鑰掌不進御所者。本闈司職掌。亦云。宮閤管鑰律稱謂進內故。京云。出鑰訖。是宮人罪。以是計倘進內耳。在穴後。 **第一開門鼓以前三刻出。閉門鼓以後三刻進**。卽

諸衛按檢所部及諸門。謂諸衛者。五衛府主典以上。但長官者。依下條。以時檢行也。所部者。御垣周迴。及大藏民部倉院等。令衛士守是也。釋云。諸衛謂

五衛府主典以上。但長官者。依下條以時檢行也。所部謂依別式。左右衛士府中門。并御垣之穢。及大藏
民部喪儀馬寮等。以衛士分配防守。以時檢行。爲有所部之人。謂之所部耳。或云。私案。宮城內亦可行夜。
案律可知也。在釋。古記云。問。卽諸衛府。各按檢所部及諸門。未知。諸衛府雜色又所部者何若。答。諸
衛。謂五衛府主典以上也。所部謂依別式。左右衛士府中門。並御垣廻及大藏內藏民部外司喪儀馬寮等。
以衛士分配防守。以時檢行。爲有所部之人。謂之所部也。左右兵衛府內門諸門按檢也。衛門府中門外門
「按」檢也。跡云。諸衛府按檢所部及諸門。諸門謂兵衛衛士等。分充諸處令防守。而至夜亦令兵衛衛士
等。巡察庫藏條。與行夜條。並令讀。卽此巡察人等各定不之狀。申本司在直次官以上。**持時行夜**謂宮
也。衛府志以上「代」令在直。公式令云。京官日出上。午後退宿。衛官不在此限故也。域以
內。其京內行夜者。下已有文。故不入此也。古記云。持時行夜。謂一夜二分番上。以上以番巡行也。
朱云。持時行夜者。未知。何人可行夜。又何處可行夜何。答。衛府可行夜何。答。衛府可行夜者。未
知。守門同舍人可行哉若。別舍人**者**。**皆須執仗巡行**。穴云。使謂隨身兵仗是。若恐行
歟何。又夜內巡行數不見乎何。夜之時離仗。故生此文耳。問。**分**
明相識。謂行夜兵衛既有左右。彼此共知。故曰分明相識也。穴云。分明相識。謂左右兵衛左右衛士
府等人。相通分明識耳。言若非行夜人詐稱行夜歟。恐其詐稱故。「見行夜之人分明相知耳。
下部隊主帥相**每日色別**謂既有諸衛。故云色別也。釋云。假有一衛。遣甲行夜。差乙守因是謂色。
辨識同心。別云兵衛衛士門部。各詣本府官長。通平安。古記云。色別一人。謂兵衛衛
士門部。各詣本府官長。通平安也。跡云。色別謂假令。兵衛三人分遣處處。令巡察者。
此三人各申平安耳。穴云。色別謂司別是也。其一司人。往往差遣守當。亦同見令釋。**一人**。**詣在**
直官長「**通平安**」。謂次官以上。凡衛府者。長官若次官一人。必在宿直。不得共退。故云詣在直
官長「也」。釋云。詣。若詣稿。詣至也。音五計反。官長謂次官以上。凡衛府

者長官次官一人。必宿直不得共退耳。古記云。官長謂次官以上。凡衛府者長官次官一人。必宿直不得共退。令行事。官長。謂。次官大平耳。穴云。其主典以上不通平安。爲官人自檢察人故。通平安。釋云。通消息耳

也。

未宣行條

凡詔勅未宣行 謂未送太政官也。 **者。非司不得輙看。** 謂除中務少輔以上之外。皆爲非司。恐未施行前。門司輙看。故設此制也。釋云。司謂守當一人耳。一云。中務少輔以上。一云。爲門司開見立文。*古記云。問。詔勅未宣行者。非司不得輙看。未知。司誰司。答。依公式令。詔謂中務少輔以上。勅謂主典以上是也。又此條。爲門司制立文也。穴云。司謂中務少輔以上也。古私記云。於勅錄以上是者。因古令生義耳。於新令不合。中務受送太政官訖者爲施行訖。其内記造間。无煩他人見賎也。爲无可見他人事故。問。案公式令。太政官留爲案。更寫一通施行。又云。太政官施行詔勅。案成後頒下者。皆給寫程者。案之。以太政官施行。爲施行。未知。何定。答。或師云。於太政官見施行時云爾耳。但中務送官之後。爲已宣行了耳。稱宣行者。宣奉行意也。行施行意也　可檢　在穴。跡云。非司謂中務少輔以上。皆爲預司。自余雖門司而不得見耳。朱云。中務少輔以上爲司。何「者」若爲注宣奉行。抑未知何。貞(與)云。然此宣奉行者。宣奉行心也。然則宣奉行了者。雖未施行。他司見不制者。或云。問。詔勅未宣行者。未知。宣者宣奉行之心歟。爲當。施行之心歟何。雨先云。施行之心者。未明何。貞云。未然。宣奉行之心者。在跡。

車駕出行條

凡車駕出行。 謂出幸於京外也。 **兵衛衞士先按行。** 謂按檢。於行列也。釋云。按行。爾雅。按止也。按抑也。郭璞曰。按於旦反。毛詩傳。按行列也。古記云。按行謂檢行也。或云按行謂陣。郭良奴也。在穴記。跡云。按行謂調抑列。行一心耳。朱云。貞假調先後間意耳。先謂未車駕出之前。並行列耳。穴云。按行謂按列也。行件也。 **及道邊**

「古記云、問、詔勅未宣行者、非司不得輙看、未知司謂司外、依公式令詔謂中務少輔以上、勅謂主典以上是也」、古記は、本條に云ふ司を詔書に就いては、中務少輔以上の中務省の官人、勅書に就いては、主典即ち中務大少錄以上の中務省の官人なりと解せり、その根據とするところは、大寶の公式令、詔書條に中務少輔以上が署名すべきことゝ見え、勅旨條に錄以上が署名すべきことゝ見えたるに在るが如し、されど現在の養老公式令には、詔、勅ともに中務少輔以上の署名ありて、錄の署

名なし。これ兩令の差なり。公式令集解、勅旨條の令釋に「此亦少輔以上可迯。何者、爲宮衞令云。詔勅未宣行者。非司不得輙看故。時行事錄迯此前令錄署名。仍因循耳。」とあるに照し合せて知るべし。

〔字書〕日本國見在書目錄、小學家に「字書廿卷（冷泉院）」とあり、又隋書經籍志には、「字書三卷。字書十卷。」と見えたり。

〔及登高臨瞰者並皆呵禁〕衞禁律に「凡登レ高臨二禁中一者杖一百。」とあるを參考すべし。

隱映(暎)處。檢察非常。謂隱者隱翳也。映(暎)者映(暎)瞭不明。其備預諸不虞。司衞之善政。故至於隱映(暎)之處。必愼非常之變也。釋云。廣雅。隱翳也。字書。映瞭不明也。音烏郎反。非常不虞也。讀文乃於道邊隱映處者。檢察非常。古記云隱於謹反。周易。天地閉賢人隱。隱。野王案。隱不見也。映於敬反。*字書。映瞭不明也。穴云。及字先讀。次至道邊處也。

前後呵叱。古記云。呵古可反。字書。呵呵睥也。大怒也。叱齒逸反。左氏傳記。野洩叱之。野王案。叱猶呵也。釋云。呵叱。鄭玄注周禮曰。呵詰問也。音呼多反。蒼頡篇。叱張口呵也。音齒逸反。

觀人大言。登高者使下。謂凡天子出行。放人令縱觀。若高聲大言。*及登高臨瞰者。並皆呵禁。令其抑下也。釋云。廣雅。觀視也。音古丸反。讀文觀凡人之大言。及登高者使下。下謂通大言及登高者。古記云。大言謂言語高聲也。穴云。使下以上爲大。備生文也。

若有所幸。謂於宮中及京內。有所臨幸也。釋云。謂宮中及京內也。上出行謂京外行幸也。古記云。若有所幸。謂宮中京中也。穴云。若有所。幸謂小幸也。若有所幸與出行臨行並一種也。朱云。貞云。可依令釋者。

皆先防禁門巷。謂閭閻門戸。及巷里道街(術)。防禁其人物。並皆令靜謐也。釋云。防禁門巷。謂檢察非常。古記云。先防禁門巷。謂檢察非常一種也。巷者小道也。跡云。先防禁門巷。謂不限留所。及行時皆先防禁耳。先謂在御前防禁心耳。

駈斥所不當留者。謂去乘輿三百步之內。非陪幸之人。不得輙近。故皆駈斥也。釋云。廣雅。駈奔也。野王案。駈遣逐。音舊右反也。斥猶疏遠(席)。駈音氣俱反。意乘輿應留三百步內者。逐退(速)四百步外也。古記云。駈去虞反。周禮。索(素)室駈疫鬼。野王案。謂遣逐之也。斥齒亦反。楚辭序。逐鴻鵠。近(習)鴟梟。野王案。斥猶疏遠之也。駈斥所不當留者。謂臨時勅。關人遠近有限。故云所不當留者。穴云。所不當留。謂不見其限。臨時量耳者。訓人也。跡云。所不當留者。謂三百步內非人所可留故。四百步外令駈斥也。朱云。駈斥所不當留者。駈斥遠近

不見也。必里中不所去三百步。

理門條

凡理門至夜燃火。謂內及中外三門。皆衛士燃火也。釋云。內中外門並衛士燃火也。古記云。內門。中門。外門。並衛門府衛士燃火也。今行事又燃外門也。穴云。宮城門並有理門。而燃火。監察出入耳。或云。同之。於京城門不可有理門。在穴。并大器貯水。監察諸出入者。釋云。貯水。謂杜預左傳注曰。貯蓄藏也。丁呂反。或云。貯。麻字久。在古記。

兵庫大藏條

凡兵庫大藏院內。皆不得將火入。古記云。問不得將火入。未知。院外將火得不。答。案倉庫令云。去倉五十丈內不得置館舍。即知。爲非常故放此耳。穴云。問。倉庫令云。去倉五十丈內不置館舍。未知。此條。將火放彼相去哉。答。可然也。其守當人。須造食者。謂官人以下。直丁以上也。釋云。及古記无別。穴云。須造食。謂移食物是也。於外造。謂於五十丈外造也。「釋曰。倉庫令云。去倉五十丈內不得置館舍。即知爲防火災故。五十丈外造耳。」餘庫藏謂內外庫藏。其倉庫亦同。釋云。餘謂諸國兵庫及筑紫大藏之類。古記云。餘庫藏。謂內藏國郡兵庫也。倉庫亦同也。穴云。稱庫藏一端生文。餘庫謂內藏國郡兵庫亦同也。同。准此。

庫藏門條

凡庫藏門。朱云。庫藏門者。未知。兵庫大藏門歟何。私案。文可然也。及院外四面。恆持仗防固。謂分配衛士。令其守護〔之〕也。釋云。「分」配衛士職掌云差科是。古記云。謂衛門「與衛門」與衛士也。朱云。院外四面恆持仗防固者。未知。此文日夜並同何。但下文。夜則分時檢行。謂夜更爲加檢行稱夜歟何。又可檢行何。答。衛府可巡行

者。未知。五衞府一夜內。各二(一)度可巡行哉不。又上條與巡行之舍人別人歟。同人歟何。或云。上條廣爲諸衞立文。此條獨爲衞士爲文。與上條異。見職員令。穴云。非司謂除庫藏司以外。皆爲非司也。釋云。除庫司以外。古記。无別。不得輙入。夜即分時檢行。謂衞士主司。各持時巡檢也。釋云。上條持時行夜一種也。古記。无別也。穴云。分時檢行。謂防固之人檢行。其官人依上條按檢耳。師同之。

諸門條

凡諸門及守當處。非正司來監察者。先勘合契。謂非正司者。非本府官人。別物令監察也。先勘合契者。契者符書也。書兩札。刻(割)其側。合以爲信者。其衞府。府別雖有合契。給契之制。令條无文。但案軍防令。將軍征討須交代者。勘合符。此條亦云。勘合契。既有勘符契之文。即知。有初給之法。假如(令)。非司之人。將契來者。即主當當處人。當向本府請其片契。相對勘合也。釋云。非正司者。非本府官人。物別令監察也。假如。來問護宿直之類也。先勘合契讀(訓)符書也。音苦計反。謂隨身符也。一云。隨身符之外。每府可有契。是記(說)爲長。古記云。非正司。謂不在本府官人。別物令監察也。先勘合契。謂隨身符稱契耳。一云。隨身符者。次官人以上執掌。下文不同。執送本府。此事不類。不知。合契何物也。令行事不依文合契。隨身符竝不見。穴云。正司謂本司也。來(同)監察如檢校也。釋釋訖也。合契。謂一說。公式令。佐以上給隨身符是。假有監察二人者。赴本司受乞隨身符令合耳。爲劣。一說。府別倉有合契。若監察之來者。先參本司勘合契耳。或云。師〔及守〕云。每門「乃守」當之〔之〕處。各可有合契。就文所讀耳。跡亦同之。在穴。本云。每門有合符。故詐僞律云。宮殿符。皇城「京城」符。餘符。附釋云。皆有符。開門。又云。守衞充兵之處。皆有交符也。更警夜之所。執魚符勘過。跡云。依文。諸門及主當處。令云。有合契。但博士說云。奉物監察人來。到主當處等者。先經本府。令勘契。凡衞府府別令有合契也。朱云。問。合契可有何處。有本府哉。可在守當人手哉。答。守當人手可有

〔監門式〕唐の永徽又は開元の監門式なるべし。永徽式は高宗の永徽二年に律令格と共に成れるものにして、廿卷より成る。開元式のことは前に述べたり。

者。私本明可有本府哉。何。同聽檢校。不同執送本府。跡云。執送本府。謂臨時量人形勢散禁。或執縛耳。

宮墻條

凡宮墻四面道内。謂街邊通渠與宮墻間地。是爲道内也。釋云。謂街邊渠與宮墻間地者。古記云。四面道内。謂墻與溝之間。兵士守内也。穴云。道内謂垣邊是也。其道上積者不禁也。唐令云。順天門爲宮門監門。式云。順天等門爲宮城是。不得積物。古記云。不得積物。謂宮人馬亦不得停駐也。其近宮闕。不得燒臭惡物。及通哭聲。謂宮闕猶云宮也。臭惡之氣應及。哭泣之聲應通。謂之近也。釋云。宮闕猶宮耳。臭臭氣也。音尺救反。古記云。其近宮闕。謂哭聲應通闕内。燒臭亦同。

宿衛器仗條

凡宿衛器仗。若有人稱勅索者。主司覆奏。然後付之。謂宿衛器仗者。衛府及内舍人所帶之仗也。主司者。兵衛及中務判官以上也。釋云。宿衛器仗。謂衛府帶仗是也。稱勅索者。主司覆奏。賈逵注國語曰。索求也。音所白反。主司謂判官以上也。古記云。主師覆奏。謂判官以上。令行事。不覆奏直即付之。穴云。宿衛謂内舍人兵衛也。器仗謂隨身仗也。主司謂中務兵衛府。其衛門門部及衛士等。器仗令進助。非文所云也。跡云。宿衛器仗。謂宿衛人帶仗耳。索乞也。朱云。宿衛者兵衛内舍人也。衛士衛門府之仗不可矣者。未知。兵衛内舍人不爲宿衛。有已家有(布)索不奏直可付哉何。

鹵簿條

凡鹵簿内。不得横入。謂鹵簿者。鹵楯也。簿文籍也。言簿列楯(猶鹵)以爲部隊也。横入者。截陣以横入也。釋云。鹵音力古反。簿音蒲盧反。蔡邕獨斷。天子出車

〔少文例難讀之可返〕上記の師說、少しく文例併し難し、反覆考慮すべしとなり。

駕。謂之鹵簿。又云。天子出車駕次第。謂之鹵簿也。横入謂裁陣横入也。古記云。鹵簿上音力古反。下音蒲慮反。蔡邕獨斷。天子出車駕。謂之鹵簿也。又云。天子出車駕次第。謂之鹵簿。有大駕。有小駕。有法駕。大駕則公卿奉引。大將軍參乘。太僕御屬車八十一。乘備千乘萬騎。在長安時。出祠天於甘泉備之。百官有其儀注。名曰甘泉鹵簿。中興以來。希用之。先帝時時備大駕上原陵。他不常用。唯遭大喪乃施之。法駕。公卿不在鹵簿中。唯河南尹執金吾洛陽令奉引。侍中參乘。奉車郎御屬車卅六乘。北郊明堂。則省諸副車。小駕。祠宗廟用之。每出大僕奉駕上鹵簿。獨尚書侍中々常侍々御史主者。郎令史皆執。注以督整諸軍車騎。春秋上陵〔令〕又省於小駕。直事尚書一人從令以下皆先行〔法〕駕上所乘曰金根車。駕六馬有五色〔安車五色。〕立車各一。皆駕〔四馬〕。是爲五時副車。俗人名之曰五帝車非也。又有戎立車以征伐。三蓋車。名耕根車。一名芝車。親耕籍田乘之。又有蹋猪車幔〔幔〕輪有畫。田獵乘之。綠車名曰皇孫車。天子孫亦有乘之。以從横入。謂立陣之中。彼此司隊間得出入。非從駕人者。不得也。穴云。鹵簿陣是也。鹵衆也。衆之簿卽陣耳。横入謂凡陣内不得横遮〔度〕也。職制律。〔但制陣 往來者不禁也。或云。義制令。唐令云。鹵簿者隊使之名。今案。下條云。車駕出入。諸從駕人當按次第。如鹵簿圖者。案此意。如鹵簿圖陣列之中。不得横入耳。大總(緫)不得陣内横入也。在穴。

其監使之官。 謂本衛之監使者也。釋云。本衛監使者也。或云。臨時有監使官非。古記云。問。其監使之官。未知。何官。答。五衛府亦是監使之官耳。朱云。監使之官者。未知。人色可有不何。

檢校者得去來。 跡云。得去來。謂本府監使之官。令〔令〕得横入。上已云。不得面下。文得故也。朱云。貞云。雖監使之官。不得横入者。未知。面有陣内。他人者專添陣〔陣〕不聽往來哉何。私案。不安何。穴云。監使之官横入耳。同。或云。師云。得去來者。得副入也。雖監使之官。不得横入耳。少文例難讀之。可返。

車駕臨幸條

凡車駕有所臨幸。若夜行。 釋云。行幸。臨幸一種也。古記。无別也。跡云。夜行謂就臨幸之次。與車駕出行而至夜心耳。

部隊主

〔續漢書〕晉の司馬彪の撰なり。彪字は紹統、高陽王睦の長子なり。公に讓せられずして嗣たるを得ず、官僚の間に縁書館にゐるのみ。乎素より文學を好み、博覽を注覽す。光武中興より建安に至る迄、忠臣義士多きも良吏なきを憂ひ、衆書を討論し、其聞く所を綴り、世祖に起り孝獻に終る。年を編する二百、世を錄する十二、上下を通綜し、庶事を旁貫して、紀、志、傳八十篇を撰す、續漢書之なり。この書今亡び、八志三十篇を存するのみ。

〔依律京城門以內是〕也。衛禁律に「凡奉」勅以合」符夜開」宮殿門」、符雖」合不」勘而開者徒三年。（中略）其皇城門減」宮門一等（京城門又

師（帥）。謂五十人爲隊、即五十人以上長、是爲主帥（帥）也。釋云、續漢書云、大將軍有營五部、部有校尉一人、比二千石。杜預注左傳云、百人爲一隊。今令五十人爲隊。然則五十長以上是。謂部隊主帥（帥）。古記云、部隊主帥、謂左右兵衛府番長、左右衛士府主帥、衛門府門部以上也。穴云、部隊之主帥、謂五十長以上、一云、百長以上也。不及官人。同見衣服令也　**各相辨識。**跡云、各相知。謂五十長以上各相知。何者主帥以上者。注選彼此可調陣故。朱云、私同。但貞云、部隊內人等之各相辨識。但主帥、亦彼此可相識耳。此說如違令文何。又部隊內人等、更无所可疑故也。私同。或云、問。文稱、部隊主帥、各相辨識者、未知、左右之主帥、各相辨識歟、爲當、同府一百長以下、五十長以上分、各相識歟。答。私思、可云同府主帥也、同之。但左右之主帥亦相知耳。在穴。　**雖是侍臣。從外來者。**謂侍臣者、少納言侍從中務少輔以上也。從外來者、元非陪從、而新來者也。釋云、无別也。穴云、問、下條云、兵御三百步內、不得持兵器。未知、侍臣是帶仗。雖然爲非元從駕之故、不禁三百步內耶。答。侍臣常應從駕人。但依有不聽入陣耳。又問。非侍臣、自餘諸衛官、亦雖帶仗、得入三百步內哉。答。依下條、非「元」從駕者。皆不聽入三百步內耳。侍臣也。師云、同。朱云、問。侍臣者、右大臣以上亦同　**非勅不得輒入。**穴云、不得輒入。謂入陣內也。朱云、雖是侍臣、不何。答、不可同者。未明。何。從外來者、非勅不得輒入者、於夜所云也。於日不禁者。未明。何「也」。

奉勅夜開門條

凡奉勅夜開諸門者。受勅人。謂奉勅旨、開門之侍從等類也。穴云。諸門、謂依律京城門以內是也。　**具錄須開之門。幷入出人名帳。**穴云。入出人名帳、謂元从人也。受勅人具錄、謂依勅宣旨或式、內記錄耳。或云。依文奉勅之人可錄。在穴。　**宣送中務。**

減一等」。云々とあるを謂へるなり。
〔律云本司謂衛府及闈司也〕唐の衛禁律に「諸衛衛人被二奏劾一者。本司先收二其仗一。違者徒一年」なる條文あり。これに相當する條文の疏ならむ。
〔謂八十一例云内門兵衛府奏中門衛門府專奏〕八十一例は内門中門と稱して宮閤門と云はず。知るべし、八十一例の成る大寶令施行時代にあることを。

中務宣送衛府。衛府覆奏。然後開之。 謂假有口敕夜開宮門者。受敕之人。宣送中務。中務覆奏。宣告衛府。衛府覆奏。轉告闈司。闈司轉奏。然後乃開也。釋云。凡開閤門者。假有口敕夜開宮門者。侍從奉敕宣送中務。中務覆奏宣告衛府。衛府覆奏宣告闈司。闈司覆奏然後開耳。穴云。中務宣送衛府。謂依公式令。先覆奏故。律*云。本司。謂衛府及闈司也。同私案。此事更可覆。公式令。敕處分五衛兵庫本司覆奏者。案之。衛府自覆奏敕處分云云耳。闈司侍内裏。即出給也。跡云。宣送中務。謂假令。侍從奉敕宣送中務。中務令覆奏。何者下句云俱奏敕者。不合覆奏故。朱云。未知。此說合不何。衛府謂雖衛門府奏訖。兵衛亦合奏。朱云。問。依此文。中務宣送衛府者。未知。而不經太政官何。依公式令。中務更寫一通。送太政官者。其別何。先云。不可送太政官。於門事者。太政官「代」宣送衛府故者。而未明。又云。未知。中務之覆奏者。公式令心贓何。先云。然者未知。而違此問答耳。又云。衛府奏敕者。更不宣送中務者。未明。其理何。古記云。門司覆奏。*謂八十一例云。内門兵衛府奏。中門衛門府專奏。衛士府相隨從耳。大極殿門者。兵衛開閉。**若中務衛府。俱奏敕者。不合覆奏。** 穴云。若中務衛府俱奏敕。謂對面俱奏。其衛府面奏者。不經中務直開耳。又闈司不更覆奏。爲府面奏故。但只有請進鑰耳。跡云。又衛府對面奏敕者。〔中〕中務不合覆奏也。**其奏敕人名違錯。** 謂出入人名與帳乖錯也。釋云。奉物人名錯衛違錯。一四 謂正身乙者執奏聞。五 二 奉物之帳注甲見其人。三 六 穴云。奉物人名。謂出入之人名同。跡云。人名。謂出入之人名也。**即執奏聞。** 謂執申之義。非執縛之謂也。釋云。唐令(答)云。即執奏聞。謂非執縛之執也。朱云。即執奏聞者。未知。執字心何。貞云。如上條。臨時量人形勢。可執縛者。違令釋。

諸門關鍵條

凡諸門關鍵管鑰。 謂關者持門横木也。鍵者門牡也。管者所以函牡也。鑰者所以開管鍵也。釋云。說文。關持門横木也。鄭衆(玄)注周禮曰。鍵謂牡也。一「案鍵門牡

〔鍵管如律疏訖也〕唐の衞禁律、奉勅夜開宮殿門條の疏議に、「及開閉管鑰而開者。各徒一年。」「謂牝者爲レ管、牡者爲レ鍵。」とあり。之に相當する我が律の疏文を謂へるなるべし。

〔五十隻爲一事〕[illegible]

也」管所以鬪牡也。鑰所以開管鍵也。鍵音其輦反。管鍵也。古記云。鬪古壞反。左氏傳。斬𢈔門之鬪以出。野王案記。說文。以木橫持門戶。謂〔戶謂〕所以闔門〔扉扇〕。今所謂門擔也。鍵管上音奇褰反。下音古續反。周禮。司門掌授「管」鍵以啓門。國門。鄭玄曰。管籥也。鍵謂牡也。鍵鑰餘灼反。字書。古文闔字也。闔闢[illegible]也。問。管鑰有何處。答。有中務省。主當門司。各詣請進。問。常置中務不。答「不合」。每日請進也。令〔令〕開門鑰不見也。穴云。*鍵管如律注疏訖也。鍵牡謂鏁之舌也。管牝謂鏁之宮也。鑰所以開彼鍵管耳。他所管鑰猶爲與此殊也。或古記云。鬪謂門度橫木也。鍵謂雄也。管謂雌也。鑰謂鍵管之鑰也。

皆須牢固。謂牢「者」亦固「也」。釋云。廣雅。牢堅也。音盧刀反。

五衛府條

凡五衛府官長。皆以時按檢。謂與職員令以時巡檢同。其判官以下。自依上條。每日按檢也。釋云。皆以時按檢。謂時時按檢也。每日不合也。古記云。无別。穴云。以時謂不限晝夜時時巡檢耳。同。跡无別也。朱云。按檢與〔巡〕檢。「據」无別也。文稱所部。未知。諸門何。私案。諸門亦同贓何。所部。糺察不如法。

儀仗軍器條

凡儀仗軍器。謂用之禮容。爲儀仗。用之征伐。爲軍器。即同實而殊號者也。釋云。儀仗軍器實同號殊。所須威儀名云儀仗。嚴[illegible]備征戰。名云軍器也。十事以上。謂弓一張。箭五十隻。各爲一事。即弓箭不相須也。假令。一日之內五事先入。五事後入者。通計先後須奏聞。其出者亦准此也。依下條。諸門出物。无牓〔牒〕者。一事以上並不得出。即知。九事以下。皆合責牓〔牒〕。但不合闌耳「也」。釋云。假。有一日之內八事先入。二事後入者。合奏出亦放此。何者絕時出入不合奏聞者。宿衞之徒。自然得便故也。下條。諸門出物无牓(牒)者。一事以上並不得出。故知。九事以下並合責牓〔牒〕。但不合闌耳。一云。案下條。入者不足十事。不責牓(牒)。但出者一事以上皆責之。一事。謂箭五十隻弓一張也。古記云。問。十事以上。未知。箭一隻稱一事不。答。不合。五十隻爲一事。弓箭不

す。故に一具の矢を以て一事となすなり。矢五十隻を以て一具となすことは、軍防令、兵士毎火條に「毎レ人、弓一張、弓弦袋一口、副弦二條、征箭五十隻、胡籙一具。」云々とあるに據りて知るべし。

〔依律弓一張爲一事矢一具爲一事〕律に依ると云ふもの、恐らく衞禁律ならんも、今その條文を詳かにせず。

〔堂博〕堂說と云ふもあり。明法博士堂某の令私記を引けるものならんも、その人を詳かにせず。

〔律云中務衞府俱奏勅者〕衞禁律、奉勅夜開宮殿門條の疏文なるべし。唐律疏議には、「中書宣送門下。其宮內諸門城門即與二見直諸衞及監門大將軍中郎將折衝果毅內各一人一。俱詣レ閤覆奏。」云々とあり、唐の中書省は即ち我が

相須也。問。先入五事。後入五事。奏不。答。合奏。又不足十事。亦責牓(牒)出入唯不奏耳。一云。不足十事者。依下條耳。穴云。依*律。「弓一張爲一事。矢(箭)二「一具爲」一事。若矢一欠者。不爲一事。胡籙无矢(箭)者。非軍器。宜依下條。但籙雖獨无用。是事重爲軍器耳。自餘如令釋也。問。東門五事入西門。左事人左右府。所勘各五事。幷滿十事何司奏。答。放第一條釋。一司奏耳。司雖左右各殊。尙是一兵衞府故也。同或云。*堂博心。依箭一欠不奏者。量情難許。宜量奏可云也。問。九事以下責牓哉。答。師云。於戎使等出入者。九事以下亦責牓。但不奏。於餘物者依下條耳。在穴。跡云。此條以箭一具爲一事。下條以矢(箭)一隻爲一事。軍器一事以上入者。亦合責牓也。朱云。但此文。爲奏聞稱十事者。私不(未)同何也。問。弓五事。矢(箭)五事。通計爲十事奏聞不何。**出入諸門者。皆責牓(牒)。**穴云。諸門諸宮城皆合(令)責牓(牒)。同。朱云。責牓謂中務付衞府。以此牓問會耳。出入手(乎)无牓。下條見文者。未明。後反。**門司**謂衞府也。穴云。門司謂衞府也。同。或云。闈司者。師不依之。問。上條說。令云。衞府覆奏。謂令闈司者。未知。此條奏聞有殊也。答。在閤門。先令闈司奏。自餘奏事當衞自奏耳。或云。其闈司者。於內裏而衞府之覆奏時。有相知申耳。闈司更不可奏故。律*云。中務衞府俱奏勅者。不奏者。其闈司不預此條之奏。在穴。跡云。門司謂衞府。朱云。或云。闈司奏聞者非也。奏聞訖後聽出入耳。**奏聞。勘聽出入。其宿衞人常服用者。不拘此限。**

獻軍器條

凡有獻軍器戎仗謂弓箭刀矟之類。爲軍器也。鼓吹幡鉦之類。爲戎仗也。釋云。无別。一云。軍器者戎物名也。戎仗者鼓吹者非也。古記云。軍器謂戎摠名也。戎仗謂鼓吹者非也。**等。卽令內舍人。隨獻人**謂假令。物「令」兵庫及臣下。獻器使者。庫司及物主。謂之獻人也。釋无別也。古記云。有獻軍器戎仗等。謂物「令」兵

中務省に當り、之の諸衛十六衛は其の衛府兵衛府に當る。

「釋云宿衛人謂兵衛内舍人也衛士者非也案律可知也」下の宿衛近侍條にも、宿衛、謂兵衛及内舍人也。見衛禁律也。とあり。唐の衛禁律、非應宿衛自代條の疏議には「宿衛者、謂大將軍以下衛士以上。」目 [illegible]

庫者。庫司幷物主獻軍器被使。又有私獻」者庫司等物主」。謂之獻人也。**將入**。釋云。將入者持入也。古記云。將入謂內舍人自持入也。穴云。令內舍人隨獻人將入。謂內舍人等自賚幸獻人參入耳。非也。或云。獻人將參入人耳。在穴。獻人謂元獻軍器人。其參人。或云。非物者不可獻也。在穴。朱云。問。誰人可持入乎。答。內舍人可持入者。或云。獻人持入者非也。違此文故也。

車駕行幸條

凡車駕行幸。即開諸門。跡云。問諸門。謂雖京內須臾之幸皆令開門。朱云。開諸門者。京城門不入也。穴云。謂(諸カ)門放上耳。**隨便開理門**。穴云。隨便謂留守人出入便是。凡理門不合必一定。臨時隨便宜開耳。即號云理門也。或云。宮城以內也。於京城不可有理門。在穴。朱云。隨便開理門者。未知。上條云。理門外臨時別更開理門歟不答。**其留守人者。各自理門出入。並駕還使至乃開**。釋云。讀文駕還之除使至乃開。古記云。駕還使至。謂先驅使至乃開宮門也。朱云。駕還使至者。未知。一事歟。二事歟何。

上番條

凡宿衛人。謂兵衛。其門部亦准此也。釋云。宿衛人謂兵衛內舍人也。衛士者非也。*案律可知也。**應當上番。而有故**。古記云。有故謂身患父母病并喪假等。是令行事。妻子病患不聽也。朱云。有故謂父母病患亦同也。未明。**不得赴**。謂赴至也」。言不得至本府也。釋云。爾雅。赴至音撫遇反。謂不得至府耳。**及下番須一日程以上行者**。謂其計程者。從私家計。不從本府。故云下番「也」。釋云。畿內兵衛還家之程。一日不合申牒。但從家向他家。一日程者申牒耳。外國兵衛者不可論也。古記云。問。下番須一日程以上行者。未知。有律國兵下番還程。一日以上申牒以不。答。不合。但從私家赴他所。一日程以上申牒。爲知往所故也。問。紀伊伊賀近江國人下番若爲處分。答。外國

不聽。跡云。一日程。謂從家經宿可行。何者下句云。聽暫往還者。即知下番之間。不合往還於府舍。説云。外國人雖下番。而不得輙往還。朱云。以此文稱下番。知番上人耳者。未知。然則内舍人亦番上人歟。未知。後反云。内舍人不云者。須一日程以上行者。不聽者。未明。一日程謂稱往還耳。凡宿衞官人主典以上。亦放此文者。未明。雖外國人其家十五日内可往還者。任往還耳歟何。「但」從家更可行他所。一日程以上者。經本府耳歟何。穴云。下番一日程以上。謂自家相去假下番之人。自府去家十日。其還家間不申牒。自家赴他所乃申牒耳也。同。或云。問。外國兵衞十五日之内。不堪往還者如何。答。下番之内。不得往還者。不許還家耳。同。若可堪往還者許耳。問。於門部何。答。當上番日不得赴者。可申牒耳。在穴。**皆於本府申牒。其注所行之處。**古記云。其注所行之處。謂申牒之内注狀也。穴云。其注所往。謂其注申牒耳。**若不滿一日程者。聽暫往還。**

元日條

凡元日朔日。古記云。元日夫裝五纛有鉦鼓也。朔日。五位以上授聚集時尤幡。直帶仗威儀耳。穴云。依衣服令。會集日。朔節節日其儀文〔之〕殊。又疑。朔日之中。或立儀仗。或不立儀仗歟。*四孟立耳。或云。朔日依文。必可立儀仗。但依衣服令。知有大小異耳。至衣服令可定。在穴。**若有聚集。**謂元朔之外。別有聚集。假如。*出雲國造奏神事之類也。穴云。聚集謂節日等是也。同。朱云。若有聚集。謂除元日外聚集也。**及蕃客宴會辭見。皆立儀仗。**釋云。宴賜宴也。會朝會也。見面參也。辭釋見職員令也。古記云。蕃客宴會辭見。左大臣以上之任授。聚集立幡。尤纛鉦鼓也。穴云。元會謂蕃客朝會給饗日是。職掌所解下見。謂元參朝日是也。又云。宴會職掌所小會曰燕。大會曰饗。又云。朝堂之會曰饗者也。大會若彼義歟。又律云。宴會食盡也。或云。燕會者一事。辭見亦一事。在穴。朱云。蕃客之宴會辭見也。未知。國内宴會辭見不立儀仗哉。若約上云。聚云集之儀。答。

〔四孟〕春夏秋冬の四孟月の朔なり。孟は始首の意なり。孟月は正月、四月、七月、十月を謂ふ。

〔出雲國造奏神事之類也〕出雲國造新任の時朝廷これに負幸物（オヒサキノモノ）を賜ふ。國造國に還りて潔齋すること一年にして、諸祝部並びに子弟を率ゐ、國司と倶に入京し、玉六十八枚、金銀裝の横刀一口、鏡一

面、倭文一端、白木綿、毛馬一疋、白鵠一翼、御贄五十舁の獻上物を京外の便所に修飾し、豫め神祇官長監視し、神祇官に吉日を卜し、神壽詞を奏し、申し、神壽詞を奏し、所司に宣示す。後一年再び入朝して神壽詞を奏す。その神賀詞、延喜式、卷八、祝詞の條に見えたり。

〔三〕應劭注漢書〕日本國見在書目錄に「漢書百十五卷。（後漢東郡太守應劭集解）」とあるもこれなり。

〔四〕衛禁律闌入宮門律に「凡闌入宮門者徒一年…杖一百、且双相向者徒二年」と見えたり。

宮門內條

凡宮門內及朝堂。釋云。宮門內者門籍內也。朝堂者大門內也。古記云。宮門謂宮門以內也。穴云。令釋云。朝之堂大門內。謂八省院是。其次大門之內。不在此例。或云。宮作。宮門之內可有數門者。即朝堂之門也。未知。此文。稱宮門內及朝堂意。師答云。朝堂不必宮門之內耳。私思。此意不安。但此。依律。必可在宮門內。然于細言耳。可檢。穴。在　朱云。朝堂謂宮門外者。未知。令上條何可然哉。未聞。可求也。

不得酣酒。**作樂**。釋云。孔安國注尚書曰。樂酒日酣。音胡甘反。古記云。酣酒上胡甘反。尚書。酣歌于室。孔安國曰。樂酒曰酣也。淮南書陽輕云。酣若極常曰。酣樂也。應劭注漢書曰。酣洽也。一曰。不醒不醉曰酣也。

申私敬。**行決罰**。謂拜謝曰敬也。笞杖曰罰也。釋云。案歎樂曰樂。拜謝曰敬。笞杖曰罰也。笞杖是輕。*尚不許闘破。是重禁制物。然。古記云。酣酒作樂。申私敬者皆私事也。行決罰。謂公私俱禁。朱云。不得行決罰。謂公私无別也。

分街條

凡京路分街立鋪。謂分街者。猶每街也。街者四達之路也。鋪者提衛之舍也。釋云。說文。四通道也。鋪屋也。街音佳諧反。古賣反。案。鋪提衛小舍人也。音普胡反。如令中置鋪是也。分街謂每街也。古記云。街柯厓反。說文。四通道也。鋪屋也。分街謂每街也。鋪謂守道屋也。謂令行人之意。朱云。分街立鋪。則置其番當人。且次。令守不充數。政分者。未明。私案不同也。

衛府持時行夜。古記云。四衛府持時行夜。謂左右兵衛左右衛士也。令行事。中衛左右兵衛共。互行夜。一夜巡行。一夜停止。衛士不預也。穴云。持時行夜。謂上衛宮門行夜也。此條京中行夜也。或云。衛府者五衛府也。當。五衛之中何府可夜行。答。不見。但行夜行之府耳。同。非在衛府併夜行之事也。四衛可夜行。爲衛士最積不堪檢校故。穴。在　跡云。持時謂分時各巡行耳。朱云。衛府持時行夜。謂檢校非違犯上條行夜人同人者。未知。何色人。答。衛府可行夜。但其色不見也。

夜鼓。謂街鼓。其曉鼓亦同也。釋云。夜鼓也。古記云。夜鼓聲絕。謂坊門皆鼓。

〔漏刻鼓〕漏刻は水の漏る量によりて時を計る器にして、卽ち今の時計なり。漏刻鼓は卽ち時を報ずる爲めに打つ鼓なり。

〔依律犯夜者笞廿是〕これ雜律の條文なり。

可有来行耳。一云。漢法用每鋪有鼓也。穴。朱(夜カ)鼓。謂上條所云是非。但不知其所在也。令釋。街鼓謂爲未合也。但且就心曉夜鼓者。漏*刻鼓外別在耳。聲絕禁行。曉鼓聲動聽行。若公使。及有婚嫁。古記云。婚謂男娶妻也。嫁謂婦歸夫家也。跡云。婚嫁謂行婚禮之時也。喪病須相告赴。求訪醫藥者。勘問明知有實放過。朱云。明知有實放過。謂若急不得知實者。執後求知耳。非此色人犯夜者。衞府當日決放。謂依上條。行夜諸衞。各詣本府。通平安。是爲當日也。釋云。依*律犯夜者。笞廿是。當日明日。古記云。當日決放。謂夜不合決。明白(日カ)也。朱云。決放謂本府決放耳。應贖。及餘犯者。送所司。謂依獄令。刑部及京職。是爲所司也。釋云。京戶者送京職。諸司人及諸國人送刑部省。案獄令可知。古記云。送所司謂刑部省也。朱云。問。餘犯者送刑「部」。所司者。未知。答罪以上。皆送所司裁何。

諸門出物條

凡諸門出物。無牓者。一事以上並不得出。謂一事猶一物。與上條(各)義異也。防其盜詐。故更責牓(牓)也。文云。出物。卽知。除兵器之外。入物者。不可責牓也。釋云。一事謂堅魚一節以上也。文稱出物。故知。除兵器外入物。不須責牓也。古記云。一事以上。謂堅魚一節。此爲一事耳。問。上條十事以上出入。此條一事以上出。未知。出入與出若爲分折。答。上條儀使軍器事情重故。出入側奏。此條一事以上。廣及萬物情狀稍輕故。入內不制。出入禁制。隨事輕重條別立制。穴云。此條。凡矢一隻爲一事也。但爲奏時。以一具爲一事。依律意所讀也。問(同)。別物賜不之狀好勘知聽耳。不責牓也。同。問。別物賜儀使軍器。十事以上者何。答。此條。爲輕少物生文。其十事以上者。依上條責牓(牓)並奏聞耳。同。或云。師云。除兵器之外入物者。

依文不可責牓之。在穴。又或云。義解云。除兵器之外之外入物者。不可責牓者。案之。於兵器。縱一隻出入者責牓。後背。凡人往穴跡云。諸門謂職員令云。禁衛諸門者。則知。宮城門以內皆是。別勅賜物者。不在此限。謂明可知。若不知物賜者勘求耳。**其牓中務省付衛府門司勘校。有欠乘者。**謂朱云。其牓中務省付衛府。謂中務錄物數付衛府一也。衛府只此書勘出入二入耳。出入。入。手无牓者。未明。後反了。上條說云。門司謂衛門司並衛士府者。未知。何衛士可責牓哉。不見職掌。何。又牓中務付衛府。而何衛門府衛士可勘據何。私案。可知也。**隨事推駁。**謂駁猶正也。釋云。駁猶正也。音比角反。古記云。推駁謂問正也。問校也。**別勅賜物。不在此限。**

車駕出入條

凡車駕出入。諸從駕人。當按次第。如鹵簿圖。謂當按猶列次也。言諸衛各整當陣列次。令其不雜亂也。釋云。鄭玄注禮記云。不失其所曰當。猶俗言當頭也。當讀去聲。古記云。當按謂亦次耳。鹵簿圖謂行幸之圖也。假令。行芳野。左右京職列道次隼人司衛門府。次左衛士府。次右衛士府。次右圖書寮。如此諸司。當次圖耳。至雜職之外。倭國列道。京職停止也。穴云。儀制令。唐答。鹵簿隊仗之名也。問。鹵簿圖在誰司哉。答。不見文。臨時行幸之時。而諸司造耳。非。或云。師云。鹵簿圖當可有〈在〉。但在其司不見。同。但別司可在有穴。朱云。問。當按事歟也。答無。如文讀也。**去御三百步內。不得持兵器。其宿衛人從駕者聽之。**跡云。去御謂一面相去限此三百步內。不得持兵器。假故上條之(云)駈斥所不當。留者此三百步外合駈斥。又從駕人。須與之間往來者不禁。故云。從駕者聽。朱云。問。雖宿衛人不從駕者不聽哉。答。然也。不從駕者。同上文三百步內。不得持兵器耳者。

有非違條

凡隊仗内有非違。彈正不辨姓名。聽至仗頭就主司問。謂隊仗者。衛士陣謂之隊也。兵衛内舍人陣。謂之仗也。主司者領兵官也。問者。問犯非違之人姓名也。釋云。使頭猶言使所也。就主司問者。主司謂當所領兵者。問。謂問遣非違者姓名也。穴云。隊仗猶陣也。就主司問等同。了後注犯狀。行還以後糺彈耳。同(問)。或云。衛士之陣*曰隊。兵衛之陣曰仗。是先辨姓名者。不更問耳。同也。在穴。跡云。隊仗内非違。謂衛府人有非違。朱云。問。隊仗幾事。依衛禁律爲二事何。答。然者聽至使頭問。不爲横入問耳。古記云。不辨謂不知也。使頭謂「使邊也。」主師「謂隊長以上也。」云「使頭也。」

宿衛近侍條

凡宿衛及近侍之人。謂宿衛者。兵衛及内舍人也。近侍者。少納言侍從中務判官以上也。釋云。*宿衛謂兵衛及内舍人也。見衛禁律也。近侍謂少納言侍從中務判官以上也。穴云。宿衛謂内舍人兵衛。其五衛。主典以上。亦同爲宿衛官故也。近侍謂依律注解訖也。或云。職制律注云。少納言侍從中務判官以上是同。問。中務納言以上如何。答。舉下明上。即知。不聽入内同。文稱宿衛者。〔其衛者〕其衛士者是賤。宿衛又无可入内之事。若有擔物等入者。但臨時宜量耳。在穴。跡云。宿衛謂兵衛内舍人。但衛士等无合入内之理。近侍謂中務判官以上納言等也。朱云。宿衛者兵衛内舍人。又其兵衛府官人亦入内者。未知。於衛門府衛士府官人等。又制哉何。**二等以上親犯死罪。被推劾者。**穴云。二等不放律之例。同。然量情。曾高於余二等親是近親。准量不可入内耳。*其依律。曾高於曾玄非二等親故。聽入内也。遂戮訖後解其職耳。同。且選敍令述訖之。師逢順朱云。犯死罪。謂過失疑罪不云也。雖國斷亦同也。釋云。推劾法有罪也。音胡愛反。**推斷之司。速遣專使。**謂若罪人在外。量狀殊重者。馳驛牒報也。釋无別也。**賫牒。報宿衛及**

〔問隊仗幾事依衛禁律爲二事何答然者〕衛禁律に「凡車駕行衛」隊者杖一百。若衛二兵衛及内舍人仗一者徒一年。」とありて、隊と仗とを別事とせり。これによりて、本條の隊仗を一熟語と解せずして、二事と解するなり。

〔宿衛謂兵衛及内舍人也見衛禁律也〕衛禁律非應宿衛自代條の疏なるべし。

〔其依律曾高於曾玄非二等親故〕律は名例律、二等親の條なるべし。

〔一〕[illegible]

近侍之人。本司本府勿聽入內。謂依選敍令、父祖子孫被戮者、皆不得任侍衛之官、令案此條、伯叔兄弟亦不可任侍衛之官、何者二等親、犯死罪被推劾者、勿聽入內、以此言之、推劾之間、旣不聽入內、殺戮之後、何得任侍衛也。釋云、選敍令、亦有此事類、彼條爲斷訖、行刑之後、禁制也、此條爲推斷之間、禁制也、然據文、推斷之日不聽入內、殺戮之後更聽入內、然此事勢於理不可、依前推斷之日、斷之日、已不聽入、殺戮之後、豈聽入哉、依前推斷之日、不聽入內、以爲見欠、當、但選敍令云、父祖子孫被戮者、皆不得任侍衛之官、卽知、伯叔兄弟被戮、不得任侍衛之官、檢宮衛令、伯叔兄弟亦不得任之、〔一〕令釋會、但檢唐令、選敍令文並死也、唯此法新設、是以相舛并、推理言之、伯叔兄弟亦不任是爲長、古記云、問、宮衛近侍之人二等以上親、犯死罪被推劾者、勿聽入內。又選敍令云、祖父母父母被戮、不得任侍衛之官、未知、二條致疑、若爲其別、答。此條者推斷之間禁制也。選敍令者。斷訖行刑之後禁制也、各依當條施行耳、穴云、雜令、父子被配沒者、不得充禁內供奉、東宮所駈使者、然則雖非近侍供奉諸司、亦不得入內也、自餘之職入內宅坊、爲非宿衛爲近侍故也、或云、死罪推劾之間、入內不許、若推劾是流罪者、乃聽入內耳、在穴跡云、若是被推劾之間、若被戮、亦依選敍令不令任侍衛官。

令集解卷廿四

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢

員外宰相藤判

本云弘長元年十一月朔日雨中見合本書粗加首書了
權大納言藤在

建治二年六月三日引合正親町之本校合了

慶長三年七月廿二日於燈下令校了
吏部清原秀賢

右以清家之本令寫之寛永十一甲戌
孟冬於灯前令校合畢
中原職忠

萬治四辛丑季春初六令一校畢
羽林中郎將藤原

右一冊請正鄰先生之藏本書寫畢
越智通邦印

明和戊子歲仲冬

明和庚寅歲仲春以河村秀興本及京師本一校了

安永四年乙未五月廿二日一會了
筒井忠英

文化十癸酉年五月十六日校了

文政三年六月廿六日以水戸彰考館所藏本比校了
撿挍保己一

令集解卷廿八

儀制 始條以下 終條以上

儀制 謂儀者朝儀、即蓋皇太子拜天條以上是也。制者法制、即祖父母患重條以下是也。釋云、儀朝儀也、制者法制也。謂朝儀法制令耳。或云、問、令釋云、制者法制者。未知、法令皆此法制也、而何別稱此篇。別名其實。此篇別以儀制爲篇目、故云然耳。可依令釋耳。在穴。穴云、唐令答云、儀者令條儀式、制者制約非違也。古記云、儀制謂儀事制事並稱耳。跡云、儀制釋其意。於令釋、假令、毎朔日朝、或儀式、或喜等之類、曰朝儀也。計等觀及行路相遇之類、曰法制也。

令第七 凡貳拾陸條

天子。祭祀所稱。 謂告于神祇、稱爲名天子。凡自天子至車駕、皆是書記所用、至風俗所稱、別不依文字。假如、皇御孫命、及須明樂美御德之類也。釋云、天子是告神之稱、俗語云、皇御孫命。古記云、天子祭祀所稱。謂祭書將記字。謂之天子也。辭稱須賣彌麻乃美己等耳也。跡云、天子以下七號俗語同辭。但於注書之時設此名耳。朱云、天子以下諸名注書也。**天皇。詔書所稱。** 釋云、天皇、穴云、令云、天皇詔旨云云咸聞是也。**皇帝。華夷所稱。** 謂華華夏也、夷夷狄也。古王者、宣誥於華夷、稱皇帝。即華夷之所稱、亦依此也。釋云、華華夏也、夷夷狄也。謂宣告華夷、通因此號耳。夷者語耳。華謂華夏也、夷謂夷狄也。跡云、皇帝謂華夷若有可注御名之事者、用此名。**陛下。上表所稱。** 古記云、

（須賣彌麻乃美己等）ニ、スミマノミコト（皇御孫命）なり。古記の作られたる天平年代に於いては、國民は通常天皇をスメミマノミコトと稱へ奉りしことを知る。

〔乘輿車駕三后亦同律義也〕名例律に「凡稱二乘輿車駕及御一者。太皇太后皇太后皇后竝同。」とあり。

〔依公式令太皇太妃太皇大夫人皇太妃皇大夫人亦同也〕公式令、平出條に「太皇太后。（太皇太妃。太皇太夫人同。）皇太后。（皇太妃。皇太夫人同。）」云々と見えたり。

上表謂進天皇之書。謂之上表也。穴云。問。陛下以上四號。於太上天皇何稱。答。太上天皇不見行詔書。豈有何煩乎。於祭祀華夷上表二事。皆稱太上天皇也。但於上表。此一色令〈令カ〉習兩說。下條云。上表。太上天皇上表。不云可異之狀。只於三后皇太子上啓。別稱殿下。或云。陛下之字居上故。依文云太上天皇耳。或云。尋義合云陛下。不合云太上天皇也。師云。同可稱陛下也。乘輿車駕二事。於太上天皇以上通所申御號。

乘輿事

問。依公式令。有天恩慈旨等事。未知。爲誰時所云哉。答。不序制爲其事。假詔書。華夷。上表等併用有耳。或云。可請正說。師云。除此條所*云之外。有可稱者依彼耳。在穴。乘輿。車駕。三后亦同律義也。朱云。於太上天皇上表稱陛下。但皇帝以上名不可稱者。未明。或云。天子以下諸名太上天皇同稱用者。或云。陛下以上名不可稱者。未明。私案。依下條云。於天皇太上天皇上表。同稱臣妾名者。則知。於太上天皇亦可稱陛下也。依*公式令。太皇太妃。太皇大夫人。皇太妃。皇大夫人亦同者。而則同爲平出故。乘輿以下名同可稱者。未明。額不同也。案私亦不同何。跡云。從乘輿以下。太上天皇。三后名皆通令用耳。又朱云。額不同也。律爲科罪稱同耳。正不「同」耳。稱乘輿車駕者。而不能一決。未知何。

太上天皇。讓位帝所稱。 釋云。名例律云。稱乘輿車駕及御者。太皇「太」后皇太后皇后竝同者。於太上天皇「后」亦同。

乘輿。服御所稱。 謂凡物御王者。皆稱乘輿御物。不敢〈斥〉黷以言。故託乘輿以名之。假如。乘輿御馬。乘輿御食。乘輿御書等之類也。釋云。凡御物者。皆稱乘輿御物耳。假如。稱乘輿御馬。乘輿御食。乘輿御書之類也。古記云。乘輿服御所稱。謂御物者。皆乘輿御物稱耳。假令。乘輿御馬。乘輿御食。乘輿御書耳也。

車駕。行幸所稱。 車駕謂乘輿行幸之時名。謂之車駕也。

赴車駕所條

凡赴車駕所。曰詣行在所。 釋云。上條云。車駕行幸所稱者。疑若誤稱〈訪〉〈詣〉車駕所歟。故殊立此例也。跡云。詣行在所。謂注云。詣本國行在所。不

「本國」紀伊國なり。
「河陽」河內國なり。

令云、「詣」詣本國車駕所、朱云、注書也、於太上天皇亦如此同稱者、額不同也、太上天皇行幸可稱者何也、額云、初行幸之間名車駕也、行留所在在（坐）名詣行在所者、或云、假令、注云、詣河陽*行在所、本國行在所之類、但所以起此文者、若依上條、稱詣車駕所歟。在穴。古記云、問、注曰詣行在所、未知、此注文說庶字歟、答、不然、庶注相倒也、假令、於行幸所參出入者、書記云、詣行在所耳、案本令可知。

行在所事

皇后條

凡皇后皇太子以下。率土之內。謂皇太子以下者、百官以上、其庶人者自約率土之內也、率土者、率循也、即率土之濱、莫非王臣是也、釋云、毛詩云、率土之濱莫非王臣、注云、率循也、濱厓也、古記云、率土之內、謂大八州是也、問、皇后於皇太后稱妾名以不、答、可稱妾耳、又太子及婦女於皇太后皇后稱臣妾、但太子於皇后文不見、跡云、太子以下、謂百官以上也、朱云、皇太子以下者、未知、皇太弟何也、又云、天皇與太上天皇同列之人也、皇太子稱本名也、皇后稱本姓名者、未明。或云、問、先帝并太上天皇之后、約此條哉、答、師云、不入此條、亦不得中宮職之名耳、私思不安、問他耳。

率土濱事

皇后於皇太后禮

於天皇太上天皇上表。同稱臣妾名。古記云、問、上疏上表、未知。若爲分折。答、義趣一種、唯人、色代者字亦爲異耳、跡云、稱臣妾名、謂發題不注官位姓、直注臣妾名、但年號下、具合注官位臣姓名、上啓處、皆放此也、穴云、問、諸奏事式在公式令、未知、上表式在何所、答、不見其式、但作表進耳、表首表尾表奥者具官位姓名耳、或云、文稱臣妾名者、爲注發題者設之文耳、但注事年號下者、亦細可注官姓名也、凡此條上條爲注置公文設此文耳。在穴。

太上皇后禮

對揚稱名。謂凡臣下面在君所。稱揚自名者、唯稱其某甲、不言臣某、「其」太皇太后、皇太后、於天皇太上天皇、及太皇太后皇太后「皇后」皇太子、相稱之辭、不見令條、待式處分、之、釋云、對對面也、揚稱揚也、皇太子於皇后文不見、古記云、對揚謂對面皇帝而直揚也、穴云、皇太子上於皇后及太皇太后皇太后上表、於天皇文等在別式也、私案、皇太子上於皇后者「於」於皇太后、其太皇太后皇太后等。並是於天皇爲至親之人、何適理可稱表哉、不可載文、不可

太皇太后禮

有表。或云。師云。不文所云。但今所說順耳。可檢。穴。在　跡云。太子於皇后又皇太妃夫人等不見文。合有別式。額不同也。朱云。皇后與皇太子不見文。可有別式也。額不同。皇考皇妃於天子何。答。凡如此色不可上

皇考

表啓者。額云。皇后者作令可奉皇太子也。皇太子者作啓可上皇后者。凡如此色者。皆可依親義禮也。太皇太后與皇太后亦同者。未明。而於不有親色何。又違諸說何。

皇后皇太子。於太皇太后皇太后。率土之內。於三后皇太子上啓。稱殿下。自稱皆臣妾。釋云。凡此條上表啓稱號耳。假如。上啓之時。稱三后皇太子號者稱殿下。注已名者。稱臣妾耳。若書儀臣妾名。言臣妾名言之類。跡云。問。上啓。未知。遣啓歟。答。不見其式。但遣啓耳。或云。若如啓式遣歟。師云。公式令啓式者。爲職坊生文。但此者不依彼令。遣表樣之啓耳。問。文云自稱皆臣妾。未知。不加名字哉。答。師云。依文。稱名字耳。但至奥而稱官位姓名耳。又於太皇太妃太皇太婦人者何。答。不見。師云。亦准此也。穴。在　古記云。問。自稱。未知。意何。答。自稱謂如上猶稱臣。亦稱名耳。不在自對之意也。上啓表同。謂上啓與表同意屬與陛下之注義同耳。以表同字。代通稱字耳。宮官謂東宮官也。自稱名謂不加臣也。自稱臣謂不加名也。假令。臣名上表也。臣上疏也。名上啓也。臣上啓也。但連署者。官位姓名記耳也。或云。假於啓如云臣言妾言。而不稱其名。但日月之下稱名。在釋耳。

對揚稱名。

車駕巡幸條

凡車駕巡幸及還。百官五位以上辭迎。謂車駕出時奉見爲辭。還時亦奉見爲迎也。釋云。无別也。古記云。辭迎謂出行時對面。謂之辭也。還入時對面。謂之迎也。穴云。百官五位以上。謂散位亦同。辭迎二也。辭別也。出行時辭。還行時迎是也。朱云。百官五位以上者。未知。散五位何。答。並同者。不見爲辭迎所。遠近一端。有宮城

〔皇太子監國〕皇太子監國のことは公式令に見えたり。即ち同令、便奏式の條の注には、これを說明して「謂天子巡行、太子留守、是爲監國」と云へり。

〔若朔日當大陽虧日何〕太陽虧くるときは、廢朝すべきこと、下條に見えたり。故にこの問あるなり。

〔國忌〕皇考皇祖及び母后等の御忌日を云ふ。職員令、治部卿の職掌に國忌の事あり。義解は之に注して「謂先皇崩日也」と云へり。又國忌日には皇帝事を視ざる一日なること下條に見えたり。

門等耳。或云、不見迎辭遠近一端。云京城之內耳。在釋。

留守者不在辭迎之限。 謂執掌之長官留守者也。假如、監國之太子。若執契之公卿之類。釋云、留守者、留守長官也。假如、皇太子監國、若執契宰相是。古記云、留守謂皇太子監國是。不然者、執契宰相是。穴云、留守者、依公式令、給鈴契人是也。跡云、留守、謂太子或臨時執鈴契之人。自餘不在此限也。

若不經宿者。不用此令。 釋云、假行一日之內往還也。

文武官條

凡文武官初位以上。 釋云、番上亦同也。古記云、文武官初位以上、謂長上唯分番准此耳。穴云、初位以上、謂主典以上。但番上人亦朝耳。問、雜任之徒、朝由日、爲何耶。答、爲朔日是朝儀故。番上以上集耳。跡云、初位以上、謂番上亦令朝也。朱云、初位以上、謂一位以下也。

毎朔日朝。 謂朝者朝會也。古記云、尋常之日、唯就曹座。至於朔日、特於庭會也。釋云、朝朝參也。古記云、毎朔日朝、謂朝參也。朱云、毎朔日朝。謂雖受假、必此日朝者。未明。不同也。私先又云、毎朔日朝者、若朔日當大陽虧日何。一日朝。若下文准逢雨哉。答、更不朝也。准下逢雨時、直送辨官可納中務省也。但依令釋、令史等可送納中務省。未見。問文可宜直送者。或云、問、毎朔日朝、未知、除朔日外亦朝參日哉。答、師云、有常朝參。但爲示朔日儀式別立參顯耳。問、朔日若當日蝕國忌等者何。又文武官知文官、常就上位哉。答、朔日若日蝕國忌者、准逢雨及泥潦之日入中務耳。又武官依文朔日朝參。但毎日居上位者、不見正文。又女官朔日之行事不見也。在穴。又或云、朝參儀式、五位以上列東西殿前。辨官者列辨官殿前。六位以下列式部辨官殿後也。在讚。

各注當司前月公文。 穴云、注當司前月公文、謂前月所行寄移解牒等、或施行、或不施行。加之。昔慧注即其告朔書。謂之公文故。注云、取公文授納中務也。但前月行事有合注不注、假多文、枝文等之類爲例所。而又與餘公文少殊者、不在此例。臨時取捨耳。或云、前云、付人告朔之書也。少不安耳。在穴。自餘行事、縱昨日奏裁。

令日更告朔耳。**五位以上。送著朝廷案上。**謂其被管諸司。皆送所管上司。故云五位以上也。釋云。若无五位官者。預申官。令式部臨時差充也。被管諸司就所管上司上。故云五位以上耳。若无五位者。預申官令式部召諸司。餘司五位相代送置案上。古記云。五位以上。進置朝廷。謂无五位司者預進辨官。令式部召諸司。餘五位令進置也。跡云。五位以上。謂祭司告朔之書者。摠勘「進」。自餘无五位之司者。兼預无五位狀申官。官仰式部。令他司五位進。朱云。五位以上。謂散五位不云也。云文官武官送置同案上也。此案。式部所設者何。**即大納言進奏。**釋云。進讀以(爲)進退之進也。古記云。大納言進奏。謂令内舍人賷公文机參入進置。即奏。故云進奏也。穴云。進奏猶奏也。謂百官所進公文皆爲奏耳。問。祭司所進公文。造本司之奏書歟。爲當以管省更改造省之奏歟。答。凡祭司事經省而出。然則摠集造省奏耳。但陰陽寮奏者。依別條習耳。與此爲不同也。又問。百官所進公文。每卷奏歟。答。每卷奏。爲當奏事旨。並不審文。但每卷奏者於事不便。蓋疑奏事由歟。未審也。或云。師云。摠奏告朔之由也。非每卷奏也。在穴。其進奏之。於内記皆悉取。納中務省。爲在御所公文弁官不合得取故也。時行事。亦如此也。或云。師云。不必内記取也。只納中務耳。少不安。在穴。一云。注文令時條文也。但御在(在御カ)所公文辨官取者。此爲管百官故也。兩說。師云。依上說也。**若逢雨失容。**古記云。失容謂不得進退容止之類也。**及泥潦並停。**謂泥濘也。潦淹也。音奴低反。說文。潦雨水也。音盧到反。古記云。泥潦謂陸詞曰。潦雨水也。音盧浩反也。**辨官取公文。摠納中務省。**謂逢雨及泥潦。停告朔之時。諸司五位以上。以公文送辨官。辨官受取納中務省。即納省之後。不可更奏。其視告朔之時。大納言奏後。亦中務受取。釋云。謂諸司判官以上供(俱)集。辨官不得遷還也。一云。雖進辨官。而令五位以上進耳。其无泥潦日者。奏後中務受收(取)耳。泥潦之日。辨官取公文。令史等送納中務耳。古記云。辨官取公文。摠納中務省。謂諸司判官以上。不限位高下。共集進辨官。不得進還。辨官受取。便送中務省也。問。送中務省人色。

未知。何人。答。史等牽送。跡云。辨官取公文。謂逢雨失容之日。諸司公文皆進辨官納中務也。朱云。辨官取公文總納中務省。謂爲逢雨以下云注文耳。納中務省者。未知。奏不。答。不見奏文者。直可收納也。額云。公文送辨官者隨宜。諸司六位以下等可送也。不必有五位以上者。遠釋後說及貞耳何。穴云。其泥潦之日。公文送。无奏。經治中務耳。行事。可依令釋耳。

文武官三位條

凡文武官三位以上假使 謂三位以上者。散位不在此例也。假者奏給之假也。釋云。武官三位以上者。散位者非假使者。假奏給假也。使公使也。古記云。文武官三位以上。謂散位亦同也。假使謂請假謂之假也。遣使謂之使也。此假謂奏假也。穴云。散三位亦同。與假寧令京官三位以上。給之外奏給是。抑放徒條。散三位之釋耳。跡云。假謂給奏而假也。朱云。額云。文武官三位以上者。散位亦同者。遠釋及貞說。而可案假寧令何。又云。使者不見遠近。雖一日內往還猶同者。額云。雖不見遠近而可有消息也。者。去皆奉辭。還皆奉見。古記云。辭見謂退時對面。謂之辭也。還參時對面。謂之見也。其五位以上。朱云。五位以上者。四位以下也。奉勅差使 謂奉物定名。及令所司差遣並是也。釋无別也。或云。奉物差使者。律所解詔使也。官使非也。在穴。者。辭見亦如之。即外官三位以上以理去任。至京者亦奉見。謂其赴職之時。亦奉辭須知也。釋云。之任時。亦奉見。以去任至京亦奉見故也。古記云。奉見謂參時對面。謂之奉見也。穴云。以理去任。謂秩滿也。其患解。侍解。亦同服解者。雖以理去任。爲因服故不預也。師云。服闋之後。亦奉見耳。跡云。服解入服闋合見。

大陽虧條

凡太陽虧。有司預奏。謂太陽者日也。虧者薄。蝕也。有司者陰陽寮也。釋云。河圖計先篇曰。陽積精爲日。王逸注楚詞曰。虧缺也。案。大陽虧者日蝕也。有司陰陽寮也。

〔律所解詔使也〕名例律八虐大不敬條の注に「詔使者奉」詔定」名、及令ニ所司差遣」者是。」とあり。この意味の詔使なりと云へるなり。

古記云。太陽謂日也。虧謂日蝕也。有司謂陰陽寮。直奏也。跡云。預奏。計日度數。預知可日蝕之日也。朱云。太陽虧。謂日蝕也。不云月虧也。有司預奏者。陰陽寮直奏也。不可經中務及太政官者何。穴云。有司預奏。官亦預須告諸司。或云。師云。不申中務太政官而經寮奏耳。在穴。

皇帝不視事。百官各守本司。不理務。過時乃罷。謂「帝」不視事者。不聞「聽」政事。過時乃罷者。假令。日蝕在申者。酉時得罷。是爲過時罷也。釋云。不視事。不聞政事也。過時乃罷。音徒解反。廣雅。罷歸也。野王案。罷止也。假。有日蝕在申者。酉時。是謂過時也。罷謂止司之事歸家也。古記云。過時乃罷。謂本令過虧時者。即如。常理務也。罷訓止。音破阿反。此令過虧時者乃退。遂日不理務耳。罷訓退。音破阿反。問。虧時當夕者。諸司侍(待)守不。答。侍(待)守耳。穴云。百官謂在京諸司也。過時乃罷。謂假卯時日蝕。過時者罷歸家耳。與唐令意殊也。跡云。守本司謂曹司耳。乃罷謂日蝕止而歸家(處)。罷猶止也。朱云。皇帝不視事。謂凡皇帝聞政日。日可有也。御所所聞也。百官各守本司。謂外官不云。不可知故也。

皇帝二等以上親。謂有服之親。其子婦者雖是二等。非有服者。故不在此例。案喪葬令。服紀者。兄弟子七日。又假寧令。七日服三日。今偏執令文。爲姪孫喪。皇帝不視事三日。即與職事官給假三日。何以爲別。君臣禮數。淆亂尤差。一日萬機。理豈合然。然則伯叔姑兄及姪孫。雖俱居二等。而服紀懸隔。尊卑自別。不可偏守等親。以一槩論。即稱不視事三日者。唯爲三月以上服故也。至於姪孫喪。皇帝不視事一日。理以爲允也。釋云。二等以上親者。曾高祖亦同二等耳。重於外祖父母故。案以上謂皇子也。但皇考妣者臨時制耳。朱云。皇帝二等以上親。及外祖父母。謂今帝之親等也。先帝之親不云。或云。師云。曾高者入二等親。爲重外祖之故。在穴。

及外祖父母。右大臣以上。若散一位喪。皇帝不視事三日。謂依喪葬令。從發喪日始計至三日。其親王亦同。給葬具及賻物。親王與

〔七廟忌日〕支那の七廟九廟の制に倣ひ、我が國に於いても、七國忌、九國忌なるもの行はれたり。七國忌又は九國忌に入る天皇皇后は、代々疎を省き親を加へしかば、沿革するところありて一定せず。村上天皇以後は、之を天智、光仁、桓武、文徳、光孝、醍醐の六帝に限定せり。

〔大寶問答〕大寶令の服務に關する法律問題を解釋せる書なるも、詳かならず。

散一位同故也。釋云。依喪葬令。以發喪日爲喪日耳。師說云。親王亦同。何者給葬具條。及賻物條。親王同散一位故。穴云。不視事三日。謂發喪日。細事。喪葬令。天皇服條釋也。問。二等以上親。及外祖父母不見發喪之日限。未知。起自何日哉。私答。天皇爲本服二等以上親。喪服錫紵。此自遭喪日始服。服限依此條。然則自知喪服錫紵日不視耳。讃同。三等親亦同。抑定發喪之日。不發哀色。亦相准。跡云。問。哀不視事者。未知。起何日而忌乎。答。以擧哀日爲始。古哀聞始日是也。朱云。皇帝不視事三日者。若此日内有國忌日。日蝕日等者。猶計三日内也。不更日延。凡計三日。以聞喪日爲始者。後度說云。云見別記也。額云。後求可識者何。古記云。問。皇帝三等親。未知。等外何。答。一品准一位。外准三位以上。**國忌日。**穴云。張云。天子七代之祖死日爲國忌者。於律可有別式。又宗爲天子何。釋云。國忌日謂七廟忌日也。謂先皇崩日。依別式令(合)廢務者。**三等親。百官三位以上**謂散位者非。其皇帝不視事日。百官不停理務。何者大陽虧。及國忌日。別立廢務之法。以外卽无此文故也。釋云。百官三位以上。謂職事官也。案皇帝二等以上。及百官三位以上。喪日百官不停理務。何者皇帝不(合)視事之日。百官亦停理務者何。更注文顯。依別式令廢務乎。又見式部問答也。古記云。百官三位以上。謂散位及致仕亦同。穴云。百官三位以上。謂亦京官於外國者。令知發喪之日者。有放此耳。私案。喪葬令云。京官五位以上身死。並奏聞遣使弔者。故知。京官三位以上奏聞是也。不及於外國三位也。又時行事。治部奏聞停記(説か)事。散三位。或云。皆同。故上云散一位。或云。不入兩說也。餘見星云也。跡云。百官三位。謂散三位以上不在此例。朱額云。散三位以上亦同者。達諸說。又外官同者。未明何。皇帝不視事。謂百官猶治務耳。何故者。國忌日。依別式不治務。日蝕之日皇帝不視事云。而更稱本司。不理務故也。**喪。皇帝皆不視事一日。**

〔此非禁書之例故國郡亦合有耳〕職制律に「凡玄象器物。天文圖書。讖書。兵書。七曜曆。太一雷公式。私家不得有。違者徒一年。」とあり。これ禁書なり。瑞圖はこの中にあらず。故に國郡にもこの書を備へて祥瑞を見るべしとなり。

〔若江弓削里也〕河内國若江郡弓削里なり。古記の作られたる年代に接近して、この里より祥瑞を出せる實例ありしなるべし。

祥瑞條

凡祥瑞應見。 釋云。祥瑞釋見考課令。古記云。祥瑞謂瑞也。瑞寶也。信也。應見。謂天以瑞而應人之德。故云。應見也。跡云。祥謂吉凶之先。先見之也。瑞謂天地應德。然此條。謂只善徵耳。未明何。或云。陸賈云。瑞者寶也。行(信)也。天以寶爲應人之德。故曰瑞也。今案所定祥瑞者。尙瑞耳。謂吉瑞也。但稱惡瑞者。稱不祥之瑞耳。在穴。**若麟鳳龜龍之類。依圖書合大瑞者。** 釋云。稱之類者。水出圖書亦同。或云。稱龜龍之類者。其中可有不合大瑞物耳。草木之屬。若合大瑞者亦同。記傳所讀。凡此條惡瑞者非也。但有申官謝也。在穴。跡云。圖書謂瑞圖書。*此非禁書之例故。國郡亦合有耳。額同而何。**隨即表奏。** 謂祥瑞所出之官司。勘據圖書。合大瑞者。不待元日。即時表奏也。釋云。案大瑞以下皆先申官。官付治部。依圖書合大瑞者。隨即治部表奏。上瑞以下。元日以聞。治部例云。養老四年正月一日辨官口宣。依改常例。太政官申符瑞者。大瑞已下。皆悉省加勘當。申送辨官。但上瑞已下。更造奏文。十二月終進太政官。古記云。治部例云。養老四年正月一日辨官口宣云云。穴云。表奏謂治部奏也。表奏。爲表而奏故注。云其表也。造式見公令釋也。跡云。隨即表奏。謂大瑞以下。皆先申官。官送治部。治部勘定。則奏聞。額不同而何。但上瑞以下。不造表耳。大瑞不待元日而表奏。故云隨即表奏也。朱云。表奏。謂治部作表奏也。得瑞物人名亦注者。不明。後反云。表文。不可注得人名。但可注附國解耳「文」者。額異說耳何。或云。國設瑞圖。合大瑞可言上官。官即可表奏也。治部不有表故。此文隨即表奏者。但上瑞以下。可申上治部。治部元日以聞。不申上官故。此文上官瑞以下並申所司。元日以聞者。貞及令釋等不同也。額云。若得瑞人明白知大瑞者自表奏耳。更不可申國者。遣諸說何。**其表唯顯瑞物色目。及出處所。** 古記云。出處謂川内國也。所謂*若江弓削里也。又云。處所謂所。**不得苟陳虛飾。徒事浮詞。** 釋云。謂表内文章不須過實耳。古記云。謂當時有德事。繁實記加不得之類。跡云。注陳實事。飾詞令「不」得也。朱云。此說後反不同。未

明。又蓮令釋何。額亦不同何。上端以下。並申所司。謂申治部。凡上端以下。皆先申官。官付治部。而此釋申所司者。據其應當掌驗之所也。釋云。所司。治部也。古記无別也。上端以下。並申所司者。此文與志遂見耳。遂。元日以聞。其鳥獸之類。有生獲者。仍遂其本性放之山野。謂凡鱗甲羽毛。產自山水之氣。飲(飼)啄飛栖。不服人之馴養。故放令遂生。若有馴人啥哺。保其喘息。雖在籠紲。而不可觸死者。皆待報至。然後放之「也」。釋云。謂未申官前可死。然者隨即放之。自餘待報。放之山野。謂本生山野也。古記云。遂其本性。謂未申官前。有可死狀者。亦隨狀放之。自餘待報。放之山野。本生山野也。穴云。遂其本性放之山野。謂依文送治部。但放者治部以聞訖。待報。下放耳。或云。案之同待報。下乃放之。然則遂本性者。果瑞應之由。而乃放耳。師不狀非其實。送有瑞所。在穴。餘細見古私記也。或云。皆送治部。但下文餘皆送治部。謂爲云置治部生文也。私爲劣。又不合以甲川龜放乙川之類。餘案其云耳。跡云。遂其本性放之。謂獲生之初申上。則合放本處。縱注甲山之獸。放甲山之類。但令行事。以本實送者耳。朱云。仍遂其本性放之山野。餘皆送治部者。皆得瑞物所司行事耳。或云。不然。凡得瑞物。必皆可送治部。遂其本性放之山野耳。而則餘皆送治部者。餘皆如言。收置治部者。此說雖違文。又貞令釋(云)。並不同也。餘皆送治部。若有不可獲。謂雲氣之類。不可親附者也。釋云。雲氣之類。是言餘皆送治部之中。亦有不可送物耳。古記云。不可獲。謂雲木之類也。及木連理之類。古記云。木連理之類。謂草木皆是也。不可(須)送者。所在官司。案驗非虛。具畫圖上。其須賞者。臨時聽勅。朱云。其須賞者。臨時聽勅。謂見種諸國耳。後反云。諸國給。爲當只給得瑞一國。不見其限也。徒文。此亦臨時可聞勅耳者。

〔俗行事凡人前拜官人後拜也〕古記の年代に民間に於ける實際の慣行として、凡人即ち無官の人と官吏とが相遭へば、凡人さきに禮拜し、官人之に對へしことを知らる。

元日條

凡元日。不得拜親王以下。謂拜賀之禮。不及親王以下。其三后及皇太子者。並須拜賀也。釋云。凡元日賀拜者。雖他日皆不得。古記云。問。元日不得拜親王以下。未知。二日以後拜不。答。元日賀拜者。年終不合也。穴云。文稱親王。其拜三后皇太子不禁也。凡元日之賀。於親王以下。縱二日以後不得拜。朱云。不得拜親王以下「々々」謂五位以上也。五位以上得致敬之故也。未明。額異說耳。元日不得致敬。非元日應致敬者。後反云。元日拜賀者。雖他日皆不得者令釋同。但其別不見。雖不爲致敬尤罪也。額異說也。

唯親戚。謂親者內親也。戚者外戚也。釋云。親內親也。尚書孔安國曰。戚外戚也。戚近也。野王案。近所以爲親也。音倉曆反。古記云。唯親戚謂內外諸親。及同姓氏族皆是。於親王諸王以下是也

及家令以下。不在禁限。古記云。問。不在禁限。未知。拜朝以前拜不。答。所不言也。一云。俗行事凡人前拜。官人後拜也。令勘禮文也。

若非元日。有應致敬者。謂假有事不得已。臨時須拜。非謂元日外理必拜。故文稱有應致敬者。即有不應致敬者之辭也。釋云。謂緣公事送禮也。奉物使之饗是也。或云。授位任官。應相拜賀之類也。古記云。敬謂緣公事送禮也。奉物使之饗是也。穴云。若非元日有應致敬者。處其解見云也。古記。又(文)依令釋也。但應致敬者。私案。若不致敬者。有何罪耶。若有應致敬者。其依此制。違制三位以上拜一位之類。及(乃)科違令。民云如之。跡云。非元日有應致敬者。謂授位任官之類。或奉物使之饗。所在司拜賀之類。天下廣令致敬。然此說爲甚難。何者假令。甲(申)授五位。而天下七位以下。悉往集不致「敬」。豈令(合)科違令乎。今依唐令。尤貴。然者於木頭(朝カ)官令(合)致敬耳。額同也。問答云。應致敬。謂依公事送禮奉物使之饗是。

四位拜一位。穴云。四位拜一位。謂諸王四位亦拜諸臣一「位」耳。後反云。下條下馬。准拜禮之處。天下七位過五位下馬者。此條亦同。不然者。此條亦相通習耳。未審也。或云。私思。有可拜者。依此文。若有不拜者。不貴耳。師同此說。在穴。爲與唐令異。故生此頻。但別案八十一例。私果(案カ)以(比)下條下坐之色下馬也。跡云。四位拜一位。謂諸王皆同。

五

「神龜五年格」類聚三代格、卷五に見ゆる神龜五年三月廿八日の内外五位の等級を定むる格なり。

〔案唐令致敬之式若非連屬應敬之官相見者不拜今我習俗偏取位高下不顧官高下此其理相倒也〕唐令を案ずるに、唐に於いては、連屬應敬の官に非ざるものは、相見ゆるも拜を爲さず。然るに我が令は、連屬應敬の官にあらずとするも、高位者に相會へば拜を爲す。これ我が國の習俗、偏へに位階の高下を重んじて、官の高下を重んぜざる故なり。律令の精神よりいへば、官位令なる名稱によりても知らるる如く、官は位よりも重し。故に我が令の制度はその理顚倒せるものと云ふべしとなり。蓋し我が令が位階を重んじたるは、我が國に於いては、位階は最初

位拜三位。六位拜四位。七位拜五位。釋云。神龜※五年格云。非元日有應致敬者。内八位。外七位。並拜外五位也。古記。及跡无別也。以外任隨私禮。謂假有卑幼五位已上。拜伏尊長六位以下之類也。釋云。五位弟姪。與七位兒叔及六位以下。各相致敬是。此條。※案唐令。致敬之式。若非連屬應敬之官相見者不拜。今我習俗偏取位高下。不顧官高下。此其理相倒也。古記云。以外任隨私禮。謂不緣公事。私相禮拜也。假令。四位拜四位耳。一云。以外謂六位以下也。朱云。以外任隨私禮。謂六位以下也。一云。五位以上。亦約此文者。未知。而則上文與非元日應致敬別何。答。上文爲他人也。此爲親屬五位以上說耳者。未明。又額同也。或云。師云。於六位以下者。不論他人親屬。任隨私禮一端。令釋。學親屬爲說耳。案文不合。可問他人也。在穴。

在路相遇條

凡在路相遇者。三位以下遇親王皆下馬。謂稱親王者。有品无品並同。若无品親王遇有品親王者。不可下馬。何者上條以敍禮。此爲諸王以下。不及親王。此條亦有品无品无別故也。釋云。无品親王遇有品親王不下。古記云。親王謂有品无品皆是。不限年多少也。跡云。三位以下。謂諸王皆同也。親王不限有品无品。及年多少者同。以外准拜禮。古記云。問。以外准拜禮。未知。諸王諸臣同不。答。一同无別。但八十一例云。諸王五位遇一位不下。六位遇五位諸王下馬耳。其於拜禮條。諸王諸臣並同也。一云。諸王不拜諸臣也。問。无位皇親如何。答。出別式也。問。勳位若爲。答。此條勳位依官位令。合相當也。一云。律令少義畢故。勳位合有別式。釋云。八十一例云。諸王五位遇一位不下。六位遇五位諸王下馬耳。其於拜禮條。諸王並同者。其理不通。可尋也。又云。勳位依官位令。合相准當也。一云。律令義畢。令有別式。穴云。以外准拜禮。謂以位論。假四位遇二位太政大臣者。不下馬之類也。朱云。以外准拜禮者。而

姓（カバネ）に應じて授けられたるものなるが故に、姓に對する尊重の情は位階に移され、それが新しく授けられたる官職よりも重んぜられたる爲めなり。

〔依律三后皇太子陪從亦同也〕名例律に「凡稱乘輿車駕及御者。太皇太后皇太后皇后並同。稱詔勅者。太皇太后皇太后皇太子令減一等。」とあるに據れるなり。

則尤位孫王。遇臣五位下馬耳。於下馬。諸王諸臣尤別故也。凡於下馬男女同者。**其不下者。皆斂馬側立。**謂。一位以上遇親王。三位遇一位之類。駐馬按立於道側也。凡六位公使。於所使之國。遇四位以上國司者。不合下馬。若國司遇詔使者。同位以下合下。何者下條云。官人就本國見同位卽下。何況詔使。豈得輕於國司。其有姓在路。遇六位詔使不下。若於所使國遇之者皆下也。釋云。謂駐馬立於道側耳。假如。一位二位遇親王。四位遇一位三位。三位之類也。師說云。詔使六位以下。四位以上不下。凡人遇詔使亦不下。其驛使相遇者。准拜禮。唯急速驛使者不下。八十一例云。驛使遇應致敬者下馬。若急速者不下也。古記云。其不下者。謂一位二位遇親王。四位遇一位三位。三位遇一位二位之類也。皆斂馬側立。謂止馬路邊立也。問。詔使六位以下。遇四位以上如何。答。合下。凡人遇詔使亦不下。問。驛使相遇者如何。答。准拜禮。唯急速驛使者不下。八十一例云。驛使遇應致敬者下馬。若急速者不下。跡云。問答云。詔使六位以下。遇四位以上者下。凡人遇詔使亦不下。自餘驛使。准拜禮之法。穴云。私記云。詔使六位以下。遇四位以上者合下。凡人遇詔使者不下者。但在路相遇者。詔使驛使一同致敬之法。但至前所部內國司五位使七位以下任。隨私禮耳。何者官人就本國見者。同位卽下者。此爲非使時生文。然假使六位。國司亦六位合隨私禮也。其部內諸人下馬灼然也。爲國司隨私禮故耳。**雖應下者。陪從不下。**謂車駕陪從。依律。三后皇太子陪從亦同也。釋云。陪從謂陪駕者。古記云。陪從謂車駕陪從也。跡云。陪從。謂三后皆同。但皇太子陪從。雖无文量理同車駕耳。自餘大臣。並親王以下陪從者。皆下馬耳。朱云。陪從。謂三后皇太子陪從亦同也。

遇本國司條

凡郡司遇本國司者。皆下馬。謂境內境外皆同。稱國司者。史生亦是也。其博士醫師於部內取充者。不同此例也。釋云。雖遇他境亦下。古記云。本國司。謂目以上也。皆下馬謂六位以下郡司。遇國司以上卽下馬也。問。郡司至傍國。遇本國司若爲。答。只同。問。國醫師國博士若爲。答。朝廷補任者。入史生之例。取當國。傍國者不合。問。官人及郡司遇他界

「神龜五年三月廿八日勅」この格、類聚三代格、卷七、郡司事に見えたり。

內國司若爲。答。准昇遷耳。問。郡內官人遇本郡司若爲。答。文稱本國。故知。不在下之例。神龜五年三月廿六(八)日判。諸國郡司五位以上相逢。當國主典以上者。不問貴賤。皆悉下馬。如有官人於本部逢國司者。同位以下必須下馬。不然者。(相)推面(爲)過。其有故犯者。內外五位以上。錄名奏聞。六位以下。(以)決杖六十。不得蔭贖。問。格文稱如有官人。於本郡逢國司者。同位以下必須下馬。未知。史生入不。答。稱國司者史生亦同。何者上文稱主典以上。則明。色不別者皆入耳。穴云。國司以史生以上之說爲長。未知。博士醫師亦爲國司哉。答。博士等取用部內。故不合同國司也。但於今者可同史生者。部內百姓殿司郡者。同佐職以官長耶。未知。於下馬何。答。依文不下耳。問。京職百姓遇職官人者何。答。不下馬耳。爲不同國故也。問。於一官番上以上下馬。有殊哉。答。不審文。假長官五位。主典七位。使部六位。如之等有別式耳。但於主典以上。一同致敬條同耳。跡云。郡人遇郡司六位以下者不下。朱云。若五位以上。准昇者。神龜五年格云云。私在朱「朱カ」問答。如古記。令釋亦如之。朱云。遇本國司。謂史生醫師博士並同也。一云。取土人爲博士醫師郡司不下馬。悉同郡司故者也。不在土人者下馬者。未明。貞同也。額亦同也。部。郡。內。白丁遇郡司者下馬。反了。但有位人不下馬者。額云。不可。

唯五位。非同位以上者

不下。謂稱同位者。不論正從上下。其初位國司。遇五位郡司者不下。无位史生亦同「也」。釋云。此條。稱同位者。不論正從上下。皆是同位耳。何者公式令云。條內稱階位者。正從上下各爲一階。案二階爲一位。三位以上正從各爲一位。又闘訟律。官位同自相毆條云。六位以下。八位以上。或五位以上。或三位以上。並爲官位同。然則律令立文。隨事輕重。當條見義。不必一規也。其國司初位以上。遇五位郡司亦不下。无位史生亦同。古記云。唯五位非同位以上。謂「假」令郡司正五位上。國司從五位下即下馬。唯郡司外從五位下。國守正六位上即不下。何者上條五位拜三位。即不稱正從上下故。正五位上以下。從五位下以上。並爲同位也。其國司初位以上。遇五位郡司亦不下。一云。无位國史生。亦不合下也。八十一例云。國司史生遇五位郡司者。不下馬。六位下郡司遇史生者下馬。穴云。同位者依上條。不求正從上下是也。

〔就見者唐令屬意有就州縣見不是路遇此令屬意界内相遇耳法用各殊不可膠柱〕「就見」の意味は、唐令と日本令と互に相異る。唐令の意に囚はれて我が令の意を解すべからずとなり。令釋が斯く云へるは、當時の我が法學界に日唐令の差別を無視して、唐の律令學者の説を取つて、直ちにこれを我が律令解釋の上に施す弊風ありし爲めなり。膠柱は史記列傳、藺相如廉頗傳に「王以レ名使レ括。若二膠レ柱而鼓一レ瑟耳。」とある故事に據れる成語なり。〔土人〕その郷土出生の人なり。

〔依雜令六位以下並給座席居此〕雜令に「凡聽

若官人就本國見者。同位即下。謂假令。京官主典以上。於本國界内。遇當國司者。同位以下即下。釋云。就*見者。唐令屬意。有就州縣見不是路遇。此令屬意。界内相遇耳。法用各殊。不可膠柱。文稱同位即下。故知。高位並遇郡司者。並不下。古記云。若官人就本國見「者」。同位即下。謂假令。川(河)内國人任京官。退家遇國司者。同位下馬。自非同位以上不下。若國司遇部下五位以上官人。亦不下也。問。官人。未知。分番長上同不。答。稱國司者入史生。不限位高下也。官人不限貴賤。以位高下論。然則散官職事並同。文案格文可知。穴云。官人就本國見者。同位即下。謂堺外准致敬之法耳。師同説也。文稱官人。明番上人。遇本國司者。與郡司百姓同下馬。不論堺内外可准致敬之法。在穴。跡云。官人謂所部之人任官。若非此本部内而相見。彼此准拜禮耳。就謂不限因事不因事。但在界内而相見是也。官人不限位卑賤。問。散五位者何。朱答云。額云。官者散位亦同。而則六位郡司逢七位國司者下馬也。六位散位逢七位。國司者不下馬耳者。未明。而貞云。可同於郡司者何。又云。官人就本國見者。若不任(住)官人。部内人有位者。可放郡司者。額不同。未明何。又云。假七位人。任川(河)内國司。遇河内國人五位以上者。國司可下馬耳。凡可准當下馬禮也。堺内外尤別者。未明。額不同云。不下馬者。問。任土*人爲國司。而遇已同條國司者。何可下馬哉。若當准下馬禮哉。爲當。准官人就本國見文。可下馬哉何。額答。任土人博士醫師。而遇同條國司者。准。若應致敬者。並准下馬禮。古記云。並准下馬禮。謂當條。皆下馬同位。即下馬是。上條准拜禮者非也。朱云。若應致敬者。並准下馬禮。謂上條稱下馬禮反了。此爲官人以下立文者。後反了。未知。於郡司若應致敬者何。若廣云文歟。後答云。官人郡司並約文也。此條。即稱准下馬禮者。額亦同者。

在廳座條

凡在廳座上。見親王及太政大臣。下坐。古記云。座上謂令五位以上。並給牀席。*依雜「令」。六位以下。並給座席居此。謂之

座上也。見親王謂不限有品无品。並是也。一云。无品准耳。下座謂五位以上。自牀下立。六位以下。自座邊跪。聽外之人立地也。釋云。下座謂五位以上。自牀下立。六位以下自座下跪之。聽外之人立地耳。其律〔釋〕例也。穴云。見親王及太政大臣下座。此條只據職論。不求位高下。上條依位論。不求職高下也。或云。廳座者。上位座也。何者太政大臣以下相見故也。但會集所座同之耳。在穴。朱云。在廳座上。謂曹司廳者。後及了未知。在八省廳何。後答云。先八省座。但〔但〕。餘曹司座亦同者。跡云。非在廳座。有行禮儀集聚之何者。**左右大臣。當時(司)長官。即動座。**謂左右大臣。見親王及太政大臣。卽動坐。其太政大臣見親王。及親王見太政大臣。並不動也。民部卿於主計亦是。當時長官也。依*律。佐職及所統屬官。毆官長同罪故也。釋云。師說云。左右大臣。見親王及太政大臣動座。太政大臣見親王。親王見太政大臣。並不動。民部卿於主計亦是。當司長官。餘皆放此。何者闘訟律。佐職及所部屬官毆官長一色故。親王者无品亦同也。古記云。卽動座。謂八十一例云。左右大臣見親王及太政大臣。並動坐。唯親王及太政大臣不相動。左右大臣亦不相動也。一云。案文。左右大臣亦下耳。八十一例云。親王入廳者。前後任意。但五位以上者。初必自前入。穴云。太政大臣見親王。左右大臣見太政大臣者。案文。隨次下及動耳。但爲不分明故。八十例生文。在令釋依彼害耳。或云。師云。依令釋爲是也。在穴。跡云。當司謂省卿亦同也。自餘放令釋之解。**以外不動。**

儀戈條

凡儀戈。謂平頭戟也。用之威儀。故曰儀戈。卽是不可獨用。必於用蓋之時。乃並用耳。釋云。威儀所須之也。說文曰。平頭戟也。陸詞曰。勾子戟。故知。戈戟一種。戈音古和反。古記云。問。儀戈節會之日。令以取不。答。元日於*朱雀陳飾馬并立。藤原左右大臣。儀戈奏聞自兵庫下充遣上者。不知也。跡云。此戈。元日威儀所用。但其戈私造備耳。朱云。儀戈。當不可用。假用飾馬時等者。而此文不見耳。**者。太政大臣四竿。左右大臣各二竿。大納言一竿。**

〔上〕、及曹司廳者、五位以上、並給二牀座一。其制從二別式一。凡在京諸司主典以上、毎レ年正月並給二座席一。以下略。とあるに據れる歟。

〔依律〕律に「凡佐職及所統屬官、毆二官長一者、各減二吏卒毆二傷官長一二等一」云々とあり。

〔朱雀〕平城京の中央を南北に通ずる朱雀大路なるべし。

〔古記云 漆字謂以漆用墨也今行事以火燒作字也〕 法文には漆を以て書くとあれど、奈良時代に於ける實際の行事は、燒字を以て書きたること知らる。

〔飾馬〕 裝馬ともいふ。唐鞍を以て飾裝したる馬なり。蕃客の接待、御禊、行幸、賀茂祭等に用ひたり。その製、馬の頭に銀面、菖蒲形を掛け、鞦、胸掛、面掛には多く杏葉を飾り、轡、大縢背には最も華美なる透金物を掛け、鞍橋の居木の端には、金屬製革製の長き八子(ハネ)と稱するものを飾り、鞦の組違の所に雲珠(ウズ)と稱する寶珠樣のものを据ゑ、尾には尾韜を

版位條

凡版位。釋云。版板。音博管反。釋具職員令也。皇太子以下各方七寸。厚五寸。朱云。版位皇太子以下。謂廣至凡人者。未知。此元日時云歟。答。然也。題(顯)云(書)其品位。或云。皇太子版位。注東宮耳。在釋。並漆字。謂以漆書記也「之」。釋云。以漆書畢之也。古記云。漆字謂以漆用墨也。今行事。以火燒作字也。

蓋條

凡蓋。皇太子。穴云。問。皇太子不有儀戈由何。答。尙依文習耳。或云。師云。上條儀戈。此條。蓋並副飾馬所用也。此說。不安耳也。在穴。朱云。蓋常不用也。此亦可用飾馬時等者。紫表。蘇方裏。頂及四角。覆錦垂總。古記云。頂及四角。覆錦垂總。謂在寺寶頂一種也。親王。紫大纈。一位深綠。三位以上紺。四位縹。朱云。此條稱位者。職事散位无別也。或云。蓋色云紫縹。不云深淺「通」耳。在釋。四品以上及一位。頂角覆錦垂總。二位以下覆錦。謂唯得覆錦。不可垂總。其大納言以上者。兼用錦總也。釋云。二位以下覆錦。謂不垂總。大納言以上垂總。謂錦亦覆也。古記无別也。朱云。二位以下。謂三位以上者。但先不同也。如苛耳。而何。唯大納言以上垂總。並朱裏。總用同色。謂總者聚束也。同色者。與表同色。釋云。說文。總聚束也。音作孔反。同色謂與表同色耳。古記云。總用同色。謂用表色也。

祖父母條

凡祖父母父母患重。及在囹圄。謂患重者。不離枕席也。囹圄者。繫囚之所。其依律散禁者非「也」。釋云。患重謂不免枕席也。在囹圄者。

掛け、[?]には嫌疑として
連坐の意を解すなり。
〔禁囚〕官家囚ふ又は獄の
ことなるべし。
〔其依律斷罪者非也〕戸
婚律に「凡祖父母父母
被囚禁而嫁娶者、死
罪徒一年、流罪減一
等、在杖罪一百」とあ
り。囚禁とは監禁の意
なり。故に散禁はその
例にあらざるなり。
〔父在禁母令婚嫁者母
可罪科耳。依戸律者〕こ
の場合母は主婚なり。
戸婚律に「凡嫁娶違律、
祖父母父母外祖父
母主婚者、獨坐主婚」
とあると見えたり。
〔國部〕國衙なり。
〔倉庫院・厨院〕國衙内
に於ける建物なり。
倉庫院は正税官物等を
収める倉庫のあるところ、厨院は國衙の役人
の食堂及び炊所なり。

囹音良丁反、圄音魚擧反。鄭玄注禮記云、囹圄、所以禁守繫者也。若今別獄也。戸婚律云、祖父母父母被囚禁、而嫁娶者、死罪徒一年。流罪減一等。徒罪、又減一等者。案、杖罪以下无罪名。律雖无罪名、令有禁制。朗知、散禁以上也。古記云。囹圄謂獄。是異代別名耳也。問。文稱在囹圄者、未知。罪輕重有不。答。案戸婚律、祖父母父母被禁、而嫁婚者。死罪徒一年。流罪減一等。徒罪又減一等。杖罪以下无罪名。律雖无罪名。令有禁制。則知。散禁已上皆是也。穴云。杖罪以上在禁皆是。但依律、祖父母父母被囚禁而嫁娶者。死罪徒一年。流罪減一等。徒罪又減一等。於杖罪无文者。助律耳。或云。私案。從違令。合笞五十。師云。同之。在穴。跡云。患重謂枕席病。但同病者非也。囹圄謂散禁以上是「也」。

者。不得婚嫁。若祖父母父母。有命令成禮。不得宴會。

古記云。有命謂祖父母父母令命是也。令成禮。謂令嫁娶也。問。不得宴會。未知。有樂以不。答。雖无樂爲其事而行者。雖飲酒一杯亦是宴耳。跡云。令成禮。謂病者有命。雖令宴會。猶成婚禮而已。不令宴會也。朱云。*父在禁。母令婚嫁者。母可罪科耳。依戸律者。未知。父在禁。祖父令婚嫁何。答。祖父可坐也。凡戸律可案者。何也。不得宴會。謂雖聽(聽)命(令)。不得宴會者。案文可知也。或云。此條。祖父母可放律例。在穴。

五行條

凡國部。皆造五行器。

謂依其所用。得五行名。假令。鐵銗爲土器。火鈎爲火器。斧鑿爲木器。鉗鑕爲金器。盆桶爲水器之類。釋云。五行器謂器物也。假如。鏡是金器。几(几)是木器。盆是水器。釜是火器。甕是土器。所謂五行之類。又鋤鍬鑊斧鋸等之類悉兼也。一云。吹革(草)。「壽」[?]是金器。斧鑿是木器。盆瓶是水器。燧火鈎是火器。鐵銗是土器。古記云。五行謂金木水火土。是万物皆從五行。故稱五行爲事端也。器具謂万種器是。假。金器木器水器火器土器也。郡院者。國衙斧小斧鋤鐇鑊鑿之類。倉庫院者。長櫃木櫃之類。厨院者食器之類。物色至多。不可具述。

器顯一二耳。問。國郡各具以不。答。國謂大郡耳。凡國内有官舍之所。皆隨便造具也。問。其數有限以不。答。无限。隨狀量宜具耳。問。不用之物太多。造其費(貴)損官物如何。答。物可賣者。賣價納官。不可賣物者。以放散「官」物論耳。跡云。五行器。謂万事器皆是。依五行而備耳。何者鍛冶器是金器也。木工器是木器也。杓𢊁筩是水器。倉(庫)院。設長句。河池溝火鈎是火器也。起造土之器。是土器也。如此之類。廣備耳。穴云。其同足云迄鋤鍬皆是。備設供万用耳。令釋。只一稱餘金器者非也。

有事則(卽)用之。竝用官物。釋云。有事謂傳送公使入朝蕃客。竝水火有害之類也。古記云。有事則用之。謂傳送公使入朝蕃客。幷水火有所損害之類。則合用。穴云。有事謂凡万事皆是也。朱云。竝用官物者。未知。何色物。額答。郡稻耳。田令云。國官田用公力營種。所有當年苗子新人至日(田)。依數給付者。而則除當年之外。積年稻竝闕遺物等可稱郡稻者何。又或云。如至郡人所進稻。此可稱郡稻。下條。官物亦同。未知而何。

元日國司條

凡元日。國司皆率僚屬謂僚者同官也。屬者統屬也。跡云。僚屬猶同寮也。朱云。問。僚屬二賦。一賦。答。一事。如言同僚之屬官也。**郡司等。向廳朝拜。訖長官受賀。**謂受致敬之禮「也」。若无長官者。次官受賀。其六位長官者。止受郡司賀。上條云。若應致敬者。准下馬禮故也。釋云。受賀。謂受致敬禮。師說云。長官无者雖朝不賀。若六位長官者。止受郡司賀耳。准下馬禮故。但京官者。雖長官而不賀。穴云。无長官者。次官受賀耳。爲令設宴故也。但判官以下隨諸條義次耳。不依令釋。受賀者。依文。不求致敬之法賀耳。假。長官五位。次官亦五位。依文賀耳。或云。師屬心令釋。而僅同此說。但於次官者。遂師從令釋也。可反覆也。在穴。跡云。長官受賀。謂放上致敬之法。然則長官在六位者。同寮不合拜。但得郡司六位以下拜賀。朱云。已上說。令釋同。但後反「了」。額亦同。後說云。於外國爲嚴「成(威カ)」勢所立也。而則雖六位長官。同可受賀者何。問。下條云。无長官者。次官應致敬之人聽決。未知。无長官者。次官應致敬之人。受賀否。答。此條云。拜賀。下條云。決罰。各依當條

之文耳。朱云。長官五位者。雖同五位。次官以下猶拜者。額云。受賀所不見者。私案。文朝拜之則亦可賀而何。又云。長官受賀者。未知。不賀科罪不。又問。无長官者。設宴者不聽何。答。不聽也。古記云。受賀謂受拜也。唯在京者。不得拜長官也。**設宴者聽。**古記云。受賀設宴者聽。謂宴具用官物。兼受郡司等相餉食物也。**其食以當處官物及正倉充。**謂官物者郡稻也。正倉者正稅也。穴云。官物謂依諸條爲郡稻也。正倉謂正稅也。或云。官物謂動用。正倉謂不動者。爲劣也。私案。上條官物亦爲郡稻也。朱云。官物謂動用之物。若无動用之物者。乃令用正稅。**所須多少從別式。**

春時祭田條

凡春時祭田之日。集鄉之老者。一行鄉飲酒禮。謂鄉飲酒之禮。六十者坐。五十者立侍。所以明尊長也。六十者三豆。七十者四豆。八十者五豆。九十者六豆。所以明養老「也」。即令鄉黨之人。親「自」執禮。於國郡司者。唯知其監檢「也」。釋云。唐令云。縣令案月集「鄉」之老者。一行鄉飲酒禮。六十以上坐堂。五十以下立侍堂下。使人知尊長養老之禮。皆用酒肉物。出公廨。案。祭田古籍雖名不同。原其所會。但是先嗇。歐一事以上。準此施行耳。古記。天子大蜡八。伊耆氏始爲蜡。蜡者索也。歲十二月而合聚万物。而索饗之也。嗇是也。古仕焉氏。古記云。春時祭田之日。謂國郡鄉里每村在社。神人夫集聚祭。若放祈年祭歟也。行鄉飲酒禮。謂令其鄉家備設也。一云。每村私置「社」「神人」「官」名稱社首。村內之人。緣公私事往來他國。令輸神幣。或每家量狀取斂稻。出擧取利。預造設酒。祭田之日。設備飲食。并人別設食。男女悉集。告國家法令知訖。即以齒居坐。以子弟等充膳部。備(供)給飲食。春秋二時祭也。此稱尊長養老之道也。穴云。集鄉之老者。謂不必謂一鄉也。假一郡之內。隨便宜往往有五六處耳。問。案本令。五十六十兩色生文。何此例。答。文稱鄉飲酒禮。然則依禮習耳。但唐以六十爲老。於此令以六十一爲老耳。問。於此令五十者若

「正倉謂不動用也」不爲劣也」官物とは郡稻の稻を云ひ、正倉とは不動用の稻を云ふと爲す說は、劣として取らざる也」動用とは、國衙の正倉に貯蓄せる租穀の中、常年の用に供する穀にして、その之を藏せる倉を動倉と云ふ。不動とは國の非常に備ふる爲めに正稅の一部を割きて藏めたるものにして、之を藏せる倉を不動倉と云ふなり。

「若放祈年祭歟也」鄉飲酒の禮は、支那に於いて古くより行はれたる儀式なるも、我が國にはこの慣行あらず。故にれを古記は、祈年祭の慣行に鄉飲酒禮の儀式を加味して、之を日本風の儀式[illegible]

なしたるなり。
〔文稱鄕飮酒禮然則依禮習耳〕文既に鄕飮酒禮と稱す。然らば則ちその儀式は、禮に規定せる鄕飮酒禮の儀式慣行に據るべしとなり。
唐に於いて禮と稱するものは、我が國の儀式なり。我が國の儀式としては、新儀式、貞觀儀式等あれど、鄕飮酒禮の儀式の徵すべきものなし。唐の開元禮、卷一百二十七、嘉禮に鄕飮酒のことと見えたれば、これに據りてその內容を知るべし。
〔服親〕服紀を有する親族にして、その範圍は喪葬令、服紀條に見えたり。

爲。答。合勵禮。假。言合五十人養六十以上歟。爲當。五十以上。但被尊人歟。不審耳。師云。就令釋案之。令五十以上人。尊六十以上人之道耳。跡云。祭田謂每鄕村立社。人人聚集祭此。國郡加檢校耳。朱云。祭田。未知。何月可祭。若猶春時可祭耳。不見明文也。集鄕之老者。謂量便宜集耳。不見遠近竝其數也。**使人知尊長養老之道。**穴云。尊長養老此一也。師同之。**其酒肴等物。出公廨供。**朱云。出公廨供者。未知。多少何。答。

遭重服條

凡遭重服。有奪情從職。朱云。遭重服。謂父母喪也。五月以下不云。一云。此亦服內不可爲者、未明。古記云。奪情從職。謂高行異才之用。灼然要籍驅使之類也。穴云。問。於祖父母父母及承重者。或假內或「假」外於服內何論。答。此文〔爲祖父母。爲父母喪生文。其於祖父母喪。假內亦放此。或云。此條。爲任職事生文。下條。爲經被召問人生文。或云。下條遭喪被起者「此脱カ」條。奪情從職之是。私思順之。穴。在**竝終服。不弔不賀。**謂不弔賀於吉凶也。古記云。不弔謂不問他人喪。服親者非也。跡云。不弔謂服親之喪者。不在禁之例也。**不預宴。**謂雖是公會。亦不得預。釋云。不弔不賀不預宴。謂雖此公事亦不得預耳。其於親喪有別式。古記云。不賀不預宴。謂公事共是。唯別勅者非。朱云。雅樂師等可教習歌舞。奪情從職故。但治部官人。喪事不監護也。額云。此不在弔。猶可監護者何。亦雅樂官人奏樂不預。額同耳者。後反云。爲公事不可制作事者。釋違也。

凶服不入條

凡凶服不入公門。謂凶服者縗麻也。公門者宮城門。及諸司曹司院。其國郡廳院亦同。但驛家廚院等者非也。釋云。凶服者喪服也。不入公門者。市門倉庫國郡廚院驛家等類。不稱公門。但國郡廳院。市司廳院門者。是爲公門耳。古記云。不入公門。謂市不在公門之例。以午後集故。自餘國郡廳院爲公門。倉庫國郡廚院驛家等類。不稱公門也。穴云。凡公門皆是。宮城內亦爲公

〔一〕嫡孫承祖亦同」者何律に「嫡孫承祖與二父母一同」とあり。

〔二〕賤避貴」の條は貴賤の禮に於る者、良民賤民の竝なり、家人奴婢は良民と相違一種、本註に見ずと雖も道を讓るべきなり。

門也。於市其曹司院。是爲公門耳。跡云。公門謂國郡廳門皆同也。朱云。因服不入公門者。假五月。服卅日。而則卅日不入公門耳。不顧本五月也。**其遭喪被起者。**釋云。起興也。謂被徵興也。古記云。被起。謂上條。奪情從職是。格後勅。起家。謂解官停家之徒。召起補任是也。**朝參處亦依位色。**謂入公門。及朝參處。並依位色「也」。釋云。上文因服者。若入公門可服位色。今被起人亦依位色故。稱亦耳。古記云。問。亦字如何。答。上文因服不入公門。時服位色被起者。亦依位色。故稱亦字耳。穴云。朝參處。亦依位色。一云。謂凡公事及就私事。申訴入宮內者亦依位色。一云。爲不合因服故也。亦者亦因服不入公門之義也。跡云。亦謂因服之人。臨時合出入門者。必合著朝服故。遭喪被召起人。亦依位色。朱云。額云。凡遭喪人。爲己切害事可聽申訴也。自餘事。服内復可告訴。若服中告訴者。著吉服罪可科者。**在家依其服制。**古記云。在家。謂緣私事往來鄉里者。名爲在家。爲公事者。亦依位色耳。嫡孫承祖亦同。

行路條

行路禮事

凡行路巷術。謂行路者道路也。巷術者里中小道也釋云。四者道路別名耳。行音古庚反。巷音胡降反。行路者道路也。巷術里內小道。跡云。此條。具合放令釋之解。古記云。行路謂路也。道路是。巷術謂里內小道是。摠道路別名耳。或云。此條。義如令釋所說耳。行路一。巷術一。合二事也。在穴。**賤避貴。**謂假令。兩人窄徑相遇。必應單行者。初位避八位。八位避七位之類也。古記云。賤避貴。謂此條貴賤廣通。假令。同位者諸臣避諸王。白丁避官人。賤避良之類。與下馬條義異也。朱云。於貴賤不求正從也。未明何。**少避老。輕避重。**謂輕老而少重。猶亦須避老。此據同位之人。如有貴賤者。不問老少輕重。止依賤避貴之文「也」。釋云。此條。相遇依文次第耳。假如。老者雖重。避有位人少者雖重。避年老人。廣說二人又周此法之意耳。古記云。問。少避老。有貴賤只不。答。有。假令。賤老避貴少之類。隨文相避也。朱云。凡此條定老少者。依遇徑兩人可定老少者。

「恃位蔭」謂不論稱日猶依知實耳也」我れはこれ五位以上の貴種の子なり、豈畏れんやと日に稱せずと雖も、その位蔭を恃んで故らに憲法に違ふの實あれば、

内外官人條

凡内外官人。謂主典以上。其番上既舉重者。決亦无疑也。釋云。主典以上也。番上者。舉重明輕。決无疑也。跡云。官人謂主典也。然舉官人是重。雜任白丁有蔭者。決笞无疑也。古記云。内外官人。謂分番長上並同。

有恃其位蔭。故違憲法 謂位蔭者。身帶官位。及父祖之蔭也。故違憲法者。故不下馬。及失禮觸忤之類。即於本司犯是也。若在外犯者。自依贖法也。釋云。野王案。恃即怙也。音時止反。位蔭謂位及蔭。或說位之蔭者非。何者有蔭輕有位故也。爾雅。憲法也。音許建反。故違憲法。假如。故不下馬。及无禮觸忤之類。私案。於恃蔭色若其蔭人請條色者。不可決五位一色故也。可案之。穴云。問。於(恃)蔭有限哉。答。凡恃蔭犯者。六議以下皆決耳。於律亦有不免罪故也。故違憲法。謂依律。勳七等以下。於本司及監臨犯笞罪者。依決罰之例情是。仍論於本司。及監臨處犯事耳。然別。於本司毆人。此元。恃位蔭者。依此條決罰。若於外處犯者。放彼條依贖法也。或云。師云。此兩說也。依一說者可然。但於事發處。長官決之說者。不合耳。在穴。問。同司人於司外與相犯。於本司發者何。答。此監臨之人也。即知。長官量情決之无妨。若與他司人相打者。依當法斷之。但依令一說者。發處長官決耳。問。於本司犯者。假郡司於國犯。寮官人於省犯。稱本司哉。答。然耳。亦問。此條與此律於當司所犯 本知。何爲別耶。答。律不恃位蔭故與減法。此條。不用位蔭。故无與減。以爲別也。跡云。恃謂元恃蔭發情。而顯情(恃)蔭之狀。縱人鬪相毆而致加罸日。申云。已交内七位者。此元心非恃蔭者。不合決也。位蔭謂官人恃已父祖蔭。或恃已位而犯法也。憲法謂雖非當司内犯。而廣事發處。長官合決也。又云。違憲法。謂當司内犯。自餘。依贖法耳。不合得決笞。*朱云。額不能決云「此」兩說耳者。朱云。恃位蔭。謂不論稱日。不稱日猶依知實耳也。違憲法謂廣鬪毆詐欺之類。皆約者。未知而何。此條別立志何。若只爲當司内犯立文應不何。額云。此條猶責恃蔭別立條耳。但當司他司事此兩說耳者何。又云。故違憲法者。然則其聽贖何。案可然也。於散初位。恃位不云(立)也。可真決故也。或云。*刑部格云。内外官人。有恃其班品。故違憲法者。文武職事六品已下。勳官一品已下。量情決杖。仍不得過六十。若長官无廳。通判官。應致敬者。決其徒以上。依常法。

今案此格。本犯杖一百。量情決杖六十。然則於。在穴。

者。六位以下。及勳七等以下。宜聽量情決笞。

謂。杖罪以下。量其情狀。多少決笞。若徒以上者。依律科斷。既云量情決笞。卽知。或全決其罪。或量減其罪。若其。其若。減決者。亦不須依從減例減之法。唯止量減其一二等。若依減法者。卽爲濫用位蔭故也。釋云。徒罪以上。依律科。杖罪以下。量情決笞耳。量情謂量情輕重多少決笞耳。然則不拘例減。但得從減。古記云。量情決笞。謂不得聽贖。唯得從減也。一云。百杖以下。犯者量情。笞五十以下決耳。造罪不同論。案勅斷條。據垂拱格可知。穴云。量情決笞。謂所犯罪內量情決耳。不合過。本犯也。決笞謂古說杖罪以下。量情決笞者。是常說也。但此條。本意爲重罪生文。令以杖罪決笞者。還輕其文(又、本之志)。及本律杖罪以下決者。於國家故律爲決笞。然則於此亦爲答生文。於杖罪以上。尚依。罪條之義。凡合法意也。其義不中。何者。不恃位蔭者。從重贖。恃位蔭者。從輕決笞。其理不合然。或云。師云。律弘爲庶人以上設文。此令爲官人不聽贖。而更決生文。然則此條意。宜決笞者。重於贖耳。不合律義。問。於杖罪以下決笞之乞(說)。假。郡主帳恃位蔭犯杖罪。(郡)否定之間。依此條斷。及依此條決哉。答。依此條量情斷笞。但元爲杖罪故送國耳。不合郡決也。或云。可謂由說。從師云。所見決此答。故倘郡可決笞也。在穴。但无五位郡者。依常法贖杖耳。於答亦如也。不合申上國也。抑覆耳。問。令(合)與減罪一不。答。斷獄律。朱(朱)云。杖罪以下。雖不得贖。仍減一等。案之。律令義別。不可以此比彼。故无減法。或云。師云。文稱量情決笞。故無。无減之。在穴。又或云。問。附負殿依何爲法。答。依見決笞附耳。在穴。跡云。決笞謂百杖以下。量彼人情。笞五十以下合決。又此條不用蔭使故。不直例減。但合與從減。不合過本犯之數也。聽決笞。謂所連屬之決(一本り)官以上也。問。犯百杖以下。未知。郡司量情。笞五十以下決否。答。未犯笞罪合決。但杖六十以上合送國也。朱云。申送國可決者。未明。額云。此條。郡司專不得長官也。不可行決詞者何。朱云。聽量情決笞。謂所決之罪。分附負殿。但兩免之罪。分不附負殿(者)。亦不收贖者。或云。收贖者非。額云。兩免分皆可附負殿者。未明詞。又云。此文。量情決笞者。而則杖罪不可入此條者。而諸說不同也。家令等不入諸司例也。決者未

之を決答すべしとなり。[illegible]は唐の刑部格一なり。下文を見て知るべし。唐時[illegible]に於いても[illegible]せられたる文書[illegible]の中に唐の[illegible]刑[illegible]格なるものあり。[illegible]ペリオ一三[illegible]氏の所蔵に歸す。この文と比較し得ばらんには定めて興あるべし。[illegible]は則天武后の垂拱元年、內史[illegible]、夏官尚書[illegible]、鳳閣侍郎[illegible]、刪定官[illegible]智弘等十餘人と共に、武德以後垂拱以前の詔勅にして時に便なるもの[illegible]を刪して[illegible]二卷と爲し、[illegible]の所[illegible]にして[illegible]ことなるもの[illegible]に[illegible]し六卷となしたるもの[illegible]にして、その序は武后自ら之を製せりと傳へらる。[illegible]垂拱格[illegible]二十卷、[illegible]格二卷、[illegible]格[illegible]、留司格六卷。散頒格三卷。」とあれど、舊唐書[illegible]

知。防官何。答。依諸司例不決者。未明。問。六位之大領以下。故違憲法者。國長官可決耳歟。若主政以上。同判官以上例不決哉何。私案。下文諸司判官以上者。而則郡司不同諸司例。爲可決哉。額云。然也。凡郡司有特蔭者。大領以下皆可決也。但郡司專不可行決者。又云。雖六議人尙決者。或說不決。貴五位故者。未明。額云。可決者。

若長官 謂本司五位以上長官。下次云。聽次官應致敬者決。

又依上條。五位以上。受致敬禮。然則次官應是致敬者。長官必五位以上須知。但長官者。雖罪人不應致敬。仍得決之。次官者罪人不應致敬者。不得復決。是即長官次官之殊別也。釋云。若長官亡。聽次官應致敬者決者。文稱次官。應致敬者。即知。罪人長官也。何者唐令云。致敬之式。若非連屬。應敬之官相見。或貴賤懸隔。或有長省(幼カ)親戚者。任隨私禮。又條云。其準品應致敬而非統屬者。則不拜。注云。謂文昌都事。於諸司郎中殿中主事。於諸局直長之類。即勾付之官。於首判官品雖卑。亦不拜者。*今我令。抄唐令致敬之條生文。若頗乖其義者。即自生猶豫(楯矛)也。又檢律令諸條。皆貴當司長官。異於他司之故。文云。次官應致敬者。即知。長官者不求致敬。縱有行守。而本位五位以上皆是。何者檢闘訟律。云本部五位以上長官條。五位行六位長官者。猶可科毆五位長官罪故。但六位守五位長官者非也。或說。長官謂事發所長官。非罪人長官。縱使發處不決。於外國人何行哉(耶)者。非。何者致敬既爲長官。何勞外國人乎。但已上致敬之條。習俗異於唐令。諸儒可相論耳。古記云。次官應致敬者。謂長官雖不合致敬。而得行決也。問。郡司入長官心(以カ)不。答。入案職制律。在外長官條注云。國郡長官故也。穴云。若長官亡謂次官應致敬者決。謂於長官亡致敬之文。假。五位長官決六位主典耳。問。文稱致敬。未知。國司六位長官次官等。決郡主帳六位以下哉。答。郡司於國司。允雖致敬之色。於此條。所論長官。謂五位者。然則六位以下長官及國司等非五位者。非文所論故。依文不決耳。或說。於長官允致敬之文。宜六位長官決耳。[illegible]此條於當司所犯者。朱云。知所部百姓。任諸司主典及雜色。而於本屬違憲法者。不得決罰哉。答。不合。[illegible]決也。後日定於常(當)監臨處而犯故決耳。言任諸司雜色。於本司及監臨犯笞罪。依決罰例意。仍郡司決諸

唐六典刑部郎中員外郎條及び日本國見在書目錄には、何れも垂拱格二卷、留司格六卷とあり。尙書省諸曹の吏部、司封、司勳、考功、戶部、度支、金部、倉部、禮部、祠部、膳部、主客、兵部、職方、駕部、庫部、刑部、都官、比部、司門、工部、屯田、虞部、水部を以て留司の名としたること、式と同じ。

〔倘依二罪條旨義〕名例律に「凡二罪以上俱發以レ重論。等者從レ一論。」とある文によりて論ずとなり。

〔斷獄律宋云杖罪以下縣不得斷減一等〕杖罪以下、斷するを得ずと雖も、尙ほ一等を減ずるは、名例律の減意に據れるなり。この說、宋私記の斷獄律の條下に見えたる歟。

〔今我令抄唐令致敬之條生文若頗乖其義者即自生猶矛也〕本條の令

文に據れば、位蔭を恃んで故らに憲法に違ふ六位以下、勳七等以下の內外官人を殺害する權能を有するものは、原則としてその被害者の本部官司の長官なりと雖も、若し長官なきときは、次官の致敬すべき人なり。而して次官の致敬すべき人といふは、即ち五位以上の次官なり。次官既に五位以上なりとせば、本條の長官は、五位以上のものと限るものと解せざるべからず。斯く解するときは、五位以下の長官は、位蔭を恃んで故らに憲法を犯す六位以下勳七等以下の屬官を殺害する權能を有せざるものと解せざるべからず。然れどもこれ明かに本條の趣旨に反せり。本條の趣旨は長官は六位以下と雖も決答の權を有し、次官は五位以上に非ざれば決答の權能を有せざるの趣旨なることは、

司主典耳。問。於此說。假書吏及文學等。此非於家令處。而令決色。然何故此條舉文學由何。答。臨時監臨是。假書吏臨時任於諸司主典犯者決耳。或說。家令以下。決爲非諸司判官以上故。此說以上故。此說无聽者從此耳。又學文學。明。習祿令家令以下輕故也。跡云。問。說者云。此條。長官五位以上之「官」者。未知。何知五位以上爲。答。凡華官事合官位相當。令文云。聽次官應致敬者決。然則次官五位者。長官必五位以上推可知。問。假令。五位行六位職事。未知。此人得決六位下人否。答。合決。何者鬭訟律。陵五位以上官長條。說者云。六位守五位職事。而陵者非故也。依此說。大領帶五位者。合得決主帳及諸司主典以下。朱云、額不同也。但當國主典以下不得決。何者郡司五位遇國司六位以下者。斂馬立(合)側故也。朱云。長官者罪人長官。一云。事發處長官者。並未定。額云。此兩說耳者何。依文。判官以下不可決答。不知。答。判官五位以上何。私案文云。若長官无聽次官決者。則知。判官以下不可決也。而何。又云。於罪人之長官云。說攝省長官何。答。長官可云者何。又或云。於長官雖六位長官。不求致敬。尙決者。未定。私不同也。私案。若事奪所長官歟。何者若稱當司長官者。於文學誰人可稱長官哉何也。或云。問。五位行於六位長官者。爲五位決答。未知。六位守於五位長官者何。答。不決耳。爲非五位故也。在穴。

无。聽次官應致敬者決。其諸司判官以上。釋云。其才伎長上者。其位主典以上者不可決。何者祿法准判官故。一云。才伎長上任主典者。是釋判任故。不可同判官。穴云。問。於品官等。其位當判官以上者不決。未知。以正從相准歟。爲當。以上下相准歟。答。依官位令者。以上下爲級。假。大膳少進正七位上官。主醬(醬)正七位下官。爲非判官同階故決答。自餘才伎長上。依祿令。其位主典以上者不決。給少判官祿故也。尙依文習耳。又問。於女官何。答。已上諸條等。皆悉爲男生文。於婦女合別勘。不同此例也。或云。師云。物之師並長上之屬。卑於主典者。依決答之例耳。在穴。古記云。解部主菓司等。中務主鑰以上。不在決限。問。諸司才伎長上如何。答。其位主典以上者。不可決。何者案祿令云。其位主典以上者准小判官。以外並准大主典故。跡云。才伎長上人。

闘訟律が本屬長官の威權を重んじて「凡佐職及所二統屬一官。毆二傷官長一者。各減下吏卒毆二傷官長一二等上」なる條文を置けるによりて明白なり。斯くの如き矛盾を生ぜる原因は、唐令に位階によりて致敬すべき文と、官職によりて致敬すべき文との二條ありしを、我が國の立法者は、位階によりて致敬すべき文のみを留めて、官職によりて致敬すべき文を除きたるが故なりと說明せるなり。

其位主典以上。給判官祿之日不合決。朱云。後反。不決。乃同令釋後說耳。額同此問答說也。額云。凡令釋。才伎長上稱初位官者。古令心耳。於此令。縱本有祿人耳者何。給主典祿之日合決答。或云。問。主典位者行守者何。答。不安「可脫カ」求。行守假所任不當。判官以上者。縱位高決耳。問。諸司判官任當司主典犯者何。答。不決。爲諸司判官故也。但於家令上說訖也。已上朱在穴。

及判事彈正巡察。 朱云。額云。彈正大疏正七位上官也。彈正巡察正七位下官也。雖然依此令文。巡察同判官例免決答也。大疏不免決答者。私案。若少疏依正八位上官贖何。

內舍人。 謂其監物者。擧輕明重。亦不可決也。釋云。師說云。略監物者。所謂擧輕明重之義耳。

大學諸博士。文學等。 謂上學大學博士。下稱文學。卽在其間諸司諸博士等。亦不在決答之限。釋云。諸謂音筭等上學大學諸博士。下注文學。然則在於其中。諸司諸博士亦不在決答之限。古記云。問。除大學諸博士。以外諸博士決答以不。答。皆入不決之限。穴云。其諸寮諸博士等亦不決。爲學文學故也。跡云。又陰陽寮諸博士等不合決。諸師等合決答。自餘雅樂寮師等。又主鈴典鑰主鑰典履之類。勘官位令。其位與當司判官相當以上不決。朱云。後反。不決也。但額同此問答說也。若位下於判官者合決。朱云。額同也。又後額云。或云。依其職掌判官以上者不決。又或云。其位判官以上不決者。並此兩說耳者。但位以主從爲高下之類別。上令无讀(續)狀。朱云。凡令內稱博士者皆不決也。稱師者決耳者。問。國博士決不。答。可決也。

不在決答之限。

帳內資人條

凡帳內資人。雖有蔭位。不稱本主者。杖罪以下。本主任決。 穴云。問。考課令云。祗承合意者。而爲不稱歟。爲當有別事哉。答。一爲不合主意耳。朱云。資人謂職分故同。此條蔭位。上條位蔭其別何。答。同无別者。本主任決。謂依杖笞之犯數決也。不任主心也。但四位以下杖罪不決耳。凡此文。不稱本主者。只不稱本主情行事耳。依考課令可習也。自餘。他犯不可決者。額云。送所司可決者。未明。文志何。古記云。不稱本主者。申式部。謂具錄犯狀申送。但本主決之。杖罪以下不申送。

＊神龜五年格　類聚三代格、卷五に見ゆ。神龜五年三月廿八日の格なり。

〔律學〕律學博士なり。寧樂時代には、明法博士のことを律學博士と稱せり。類聚三代格、卷四の神龜五年七月廿一日の官符に、律學博士二人の名義を明法博士に改むることも見えたり。

贓罪處分。謂杖罪以下。式部決之。還給本主。徒罪以上。送刑部合復任。加杖數贖也。役亦同。問。當色讀色者爲處分。答。准色處分耳。准八位以下。犯杖罪以下。依決罰之例。學事罰轄。諸司雜任。於本司及監臨犯杖罪以下者。爲決罰例故。＊神龜五年格云。位分資人誥(請)後犯罪者。披陳所司。推問得實。決杖一百。追奪位記。却還本色。　四位以下。　唯得決笞

五等親條

凡五等親者。父母。養父母。朱云。養祖父母不入等親者。先有別義通耳。額云。至于養曾高皆可入等親者。未明何。　夫。子爲一等。謂養子亦同也。釋云。稱子者女及養子亦同。戶令見文。古記云。問。等親入養以下。答。不入。唯不得離準入耳。一云。稱等者女亦同。他准此。　祖父母。嫡母。繼母。伯叔父　釋云。伯叔釋見戶令。　姑。兄弟姉妹。夫之父母。妻　穴云。律博云。謂妻死者。更見立嫡妻者。　妾。姪。孫。子婦爲二等。謂妾亦同。子妻尚爲二等。父妾入二等者。其養子之父母。及妻者。不得復爲夫之父母及子婦〔也〕。釋云。養子之妻。與養父母者。不可稱夫之父母及〔正〕子婦。各從本等也。一云。亦同夫父母及正子婦也。妾亦爲二等。孫婦妻。故父妾等可入二等。妾亦約也。問。祖之妾何等。答。孫之妾入四等者。此夫之祖父母爲入三等故。其於祖之妾。已亦ヵ。養決杖(反秋)(反報り)者。合從勘取捨也。私案。不入等親也。或云。師云。養子之子嫡者。同實孫耳。自餘放令釋也。在穴。跡云。父妾亦爲等。但孫妾入等親故　曾祖父母。謂祖父之父母也。釋云。曾祖者祖之父也。爾雅云。曾重也。案高祖。言最在上也。　伯叔婦。夫姪。從父兄弟姉妹。異父兄弟姉妹。夫之祖父母。夫之伯叔姑。姪婦。繼父(母)同居。夫前妻妾

子爲三等。謂今妻妾子亦同也。夫姪爲三等。夫兄弟爲四等。謂伯叔之妻爲母。夫之姪爲子。又兄弟之子猶子。引而進之。即此義也。從父兄弟。謂兄弟之子。相呼爲從父。長者曰兄。少者曰弟也。釋云。夫姪爲三等。夫兄弟四等者。案跡(蹟)伯叔之妻爲母。夫之姪爲子。故此義耳。從父兄弟者。兄弟之子相呼之號。長者曰從父兄。少者曰從父弟。漢書注曰。言從父而別也。夫前妻妾子者。異母所生也。今見在妻妾子亦同。前讀猶前人「也」。穴云。伯叔婦姪婦之處一同也。只夫姪爲三等。此爲與伯婦反報故也。夫兄弟爲四等。此爲與兄弟妻妾反報故。尚依此法習耳。父妾爲三等也。爲與夫前妻妾子反報故也。繼父須同居爲親也。夫前妻妾子不須同居也。跡云。伯叔妻妾不入。又夫姪爲三等。夫兄弟爲四等事者。猶依本令而設法耳。姪甥謂通男女也。朱云。伯叔妾姪妾皆入等親也。繼父同居。謂離後不云者。未知。雖不離不同居何。答。不爲等親耳者。額云。子與不同居也。

高祖父母。從祖祖父姑。謂祖父之兄弟之姉妹也。釋无別也。古記云。從祖謂祖之兄弟也。從孫謂姪男(甥カ)之子是。朱云。問。從祖祖父姑者。未知。兄弟有別不。答。无別者。

從祖伯叔父姑。謂從祖祖父之子。即父之從父兄弟姉妹也。釋无別也。

夫兄弟姉妹。兄弟妻妾。再從兄弟。謂從祖伯叔父之子。釋云。從祖伯叔父之男女。父之從父兄弟之子也。

姉妹。外祖父母。舅。姨。謂母之兄弟曰舅。姉妹曰姨。釋无別也。

兄弟孫。從父兄弟子。外甥。曾孫。孫婦(妾)。妻妾前夫子爲四等。穴云。問。繼父須同居爲親。未知。於妻妾前夫子何。答。不須同居也。釋云。於四等親。夫之弟妹與兄之妻妾。不可作尊長卑幼。然則與凡闕(闕)无別也。

妻妾父母。朱云。妻妾父母。謂妻妾祖父母不入親也。額云。姑子。舅子。姨子。玄孫。外

孫。女聟爲五等。釋云。於五等以妻妾父母爲尊。以外以齒爲長。劣耳。

公文條年號事

凡公文應記年者。皆用年號。釋云。大寶慶雲之類。謂之年號。古記云。用年號。謂大寶記而辛丑不注之類也。穴云。用年號。謂云延曆是。同近江大津宮庚午年籍者。未知。依何法所云哉。答。*未制此文以前所云耳。

〔未制此文以前所云耳〕庚午の年籍と云ひて、年號を云はざるは、當時未だこの儀制令の條文を制定せられざりし故なりとなり。

令集解卷廿八

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　　員外宰相藤制

本云

弘長二年正月廿五日於石清水八幡宮見合本書加首書畢自去廿二日南院女院御參籠當宮予從駕經廻之間也　　權大納言藤在｜

建治二年五月廿六日引合正親町之本校合畢

慶長二歲端午後五令一校畢　　清原秀賢

右以清家之本寫之寛永十一甲戌中冬令校合畢　　中原職忠

萬治四辛丑季春初七令一校畢

羽林中郎將藤原

右一冊以神村先生之本使書畢

明和戊子歲季冬

越智通邦 印

明和庚寅歲二月廿三日以京師本一校了

同辛卯正月二十六日以河村氏本一校畧加異□了

安永六年二月五日與河子栗一會了

文政三年七月以水戸彰考館校合了

撿校保己一

（古記往四品以上案新令可知ニ云ふハ古記の文）

令集解卷廿九

衣服令第十九　凡壹拾肆條

衣服　古記云。衣服謂禮服也。

皇太子條

皇太子禮服　古記云。禮服謂服大祭禮(祀)大嘗元日也。朱云。問。禮服何時可服。答。下條云。大祀大嘗元日「則」服。謂上三條待(時)侍。受文者是。

禮服冠　謂作有別式也。釋無別也。古記云。禮服冠謂禮冠也。玉冠是也。或云。皇太子禮服冠可有別制。諸王與諸臣亦可有別也。穴在。

黃丹衣。或云。今案。皇太子之衣色與朝服一同也。穴在。

牙笏。白袴。白帶。深紫紗褶。謂褶者所以加袴上。故俗云。袴褶也。釋云。廣雅。紗小也。微也。音所加反。案小縠也。釋名。袴褶者。褶複上之衣也。音時入反。案所以加袴上也。古記云。褶謂似婦人裳也。褶訓枚。枚帶也。穴云。褶著袴上也。

錦襪。烏皮舄。謂烏皮者皂皮也。舄者高鼻履。釋云。烏皮皂皮也。舄晶鼻履也。音私積反。或云。烏履。烏皮履義同也。皮履除烏皮之外也。在釋。古記云。烏皮謂皂皮也。舄謂似僧等常履高鼻也。朱云。問。皇太子佩綬玉履不。

親王條

親王禮服

一品　朱云。无品親王無禮服稱。有品故也。古記云。問。有品无品有別以不。答。此條。四品以上。案新令可知。但无品有別式也。禮服冠。四品以上。每

品各有別制。或云、一品以下禮服衣同一品。案此體可知之。穴。在朱云、四品以上、每品各有別制。謂其爲禮服冠也。下諸條注放此耳。有別制、謂別式者。從深紫衣以下者、一品以下四品以上无別者。深紫衣。牙笏。白袴。條帶。謂條帶者、辮糸也。釋云、周禮鄭玄注曰、其實皮縚、以條絲飾之。說文、扁緒也。案條絲編、音吐高反。古記云、條帶謂綬一種无別也。或云、條帶不限色。在釋。深綠紗褶。錦襪。皮烏舃。佩綬玉珮。謂綬者黃綬也。珮者帶玉。天子珮白玉、公侯珮玄玉是也。釋云、爾雅、郭璞曰、綬卽佩玉組、所以連繫瑞玉也。音植酉反。廣雅、黃綬也。玉珮帶玉也。禮天子佩白玉、公侯佩玄玉是。珮音蒲背反。或云、綬白帶也。以白色爲之耳。一作釋。古記云、佩謂帶也。負也。佩綬玉佩、謂帶二物併也。玉佩謂以玉金飾也。朱云、綬與玉佩二色也。諸王禮服之條有文。

諸王條

諸王 謂五世王不入此限。令內通例也。卽須著諸臣之服也。穴云、五世王、凡不入諸王之處也。令通例而習耳。 禮服

一位。古記云、其无位諸王服色、准諸臣五位、但除其朝服耳。釋云、或說、其无位諸王服色、准諸臣五位。但除其朝服者、未見、所由也。朱云、額云、令釋云、其无位諸王服色。准諸臣五位。但除其朝服者、未見所由者、此古令心耳。服色條心耳者何。 禮服冠。五位以上、每位及階各有別制。諸臣准此。跡云、諸王與諸臣禮服冠亦有別式也。深紫衣。牙笏。白袴。條帶。深綠紗褶。錦襪。烏皮舃。一位以下五位以上、並淺紫衣。以外皆同一位服。五位以上佩綬。三位以

なり。大寶令には「四品以上每品各有別制」なる注文なかりしことを知るべし。

「令釋云、其无位諸王服色准諸臣五位但除其朝服者未見所由者此古令心耳」選敍令に「凡蔭皇親者。謂王子、從四位下。諸王子、從五位下。其五世王者、從五位下。」云々とあり。こゝに諸王は、无位と雖も其の服色諸臣の五位に

準ずる故なるべし。但し无位の諸王には朝服なしとの令釋の說は、所由を見出す能はず。これ令釋の說が、古令の意に據れる故なるべしとなり。

上加玉珮。諸臣准此。

諸臣服條

諸臣禮服

一位。禮服冠。深紫衣。牙笏。白袴。條帶。深縹紗褶。錦襪。烏皮舄。三位以上淺紫衣。四位深緋衣。五位淺緋衣。以外竝同一位服。大祀大嘗元日則服之。謂此文承上三條也。大祀者臨時之大祀。假如。祀天地之類也。大嘗者。神祇令。毎世一年。國司行事是也。釋云。大祀臨時祀也。假如。祀天地之類也。大嘗謂一世大嘗也。穴云。大祀大嘗。新令問答說訖。爲是也。大祀臨時祀耳。大祀以下文上四條相承文耳。跡云。大祀謂臨時祀也。大嘗謂毎世嘗之也。

朝服條

朝服

一品以下五位以上。竝皀羅頭巾。衣色同禮服。牙笏。白袴。朱云。問。衣色同禮服。牙笏。白袴者。未知。與牙笏白袴禮服時用。若別有哉。更作文心何。額云。无別也。獨文所云耳。金銀裝腰帶。或云。金銀者二用者。任〔位〕五位以上之意耳。在穴。白襪。烏皮履。六位朱云。凡六位以下。无禮服者也。深緑衣。七位淺緑衣。八位深縹衣。

〔大同元年十月七日格〕この格、類聚三代格に見えず。蓋し現存類聚三代格に缺卷ある故なり。この格、弘仁格、卷十、雜にありしこと、弘仁格抄によりて知らる。又政事要略、第六十七に、この格見えたり。
〔養老六年二月廿三日格〕類聚三代格に見えず。弘仁格抄、卷十、雜に見えたり。

初位淺縹衣。私*大同元年十月七日格云。太政官符。應改七位初位當色事。右被右大臣宣偁。奉勅。今聞漢家之制。畧異此間。綠縹之淺。不著當色。知而不改。服制無節。蕃客朝覲。如見之何。宜七位者同著深綠。初位者共服深縹。自今以後。並爲恒例。並皁縵頭巾。謂縵无文繒也。穴云。縵无緌冠耳。木笏。謂職事。朱云。注文職事。謂只爲木笏也。烏油腰帶。白袴。白襪。烏皮履。袋從服色。朱云。袋從服色者。未知。无位有袋不。答。无用也。不可用也。女亦不見袋。不可用者。額云。女亦可用也。无禁文。又爲可辨位故。下條。衣色准男夫故者何。穴云。初位以上有袋。見武官條也。禮服之日。无袋也。私*養老六年二月廿三日格云。太政官謹奏。停止位袋事。右奉勅旨。從三位行授刀頭藤原朝臣房前上意見。一品以下初位以上位袋者。一切停却「者」。宜作(任)商量者。臣等謹檢衣服令。袋從位色。緒別正從。結明上下。當時裁從(徒)女功。勞費衣袴。將著反費。欲停卽利。伏請依彼意見。永從停廢。謹以申聞。謹奏。奉勅依奏。親王綠緋緒。謂以綠緋二色相雜而爲緒也。釋云。二色倂用也。古記云。无別也。一品四結。二品三結。三品二結。四品一結。諸王三位以上同諸臣。謂三位以上者。一位以下也。同諸臣者。下文。正位紫緒。一位三結等是也。釋云。正一位正二位正三位各紫緒。從一位從二位從三位各緣緒。正從一位三結。正從二位二結。正從三位一結。朱云。諸王三位以上。同諸臣。謂緒并結數並同也。正四位以下從五位以上。並爲諸王立文者。未知。此文。諸王三位以上。與又諸司四位以下。爲明辨別立文歟何。案然也。穴云。諸臣三位以上與諸王三位以上无別也。或云。諸王三位以上同諸臣。謂緒色并結數也。在釋。正四位深緋。從四位深綠。正五位淺緋。從五位深縹。釋云。諸王四

〔天下庶人私服如此也〕日本書紀、持統天皇七年正月辛卯の條に「是日令天下百姓服黃色

位正位深緋。從位深緑。上階二結。下階一結。五位正位淺緋。從位深縹。上
階二結。下階一結。穴云。諸王從四位。諸臣從四位亦无別。但緣緒故也。
結同諸臣。
謂下文。上
階二結。下
階一結是也。其初位者。以大少爲正從。即大初位上少初位上二結之類「也」。釋云。假如。大初位上下紫緒。
「少初位上下緑緒。大初位上」少初位上二結。大初位下少初位下一結之類。跡云。初位以大少合爲正從也。

諸臣正位紫緒。從位緑緒。
跡云。諸臣正位紫緒從位緑
緒。謂一位以下初位以上也。
上階二結。下階一結。唯一位三結。二位二結。三位一結。
釋云。諸臣一位以下正位紫緒。從位緑緒。
一位三結。二位二結。三位一結。但四位
以下。上階二結。
下階一結也。
以緒別正從。以結明上下。
朱云。諸臣三位以上。與諸王三位以上。並無
別。一位以下三位以上。以緒別。正從「以」結
明一二三位耳。
无上下故也。
朝廷公事則服之。
朱云。此文朝廷公事則服者。爲必服者立文耳。他所雖服
不可禁者。或云。師云。朝廷公事則服之者。除筠之外也。但
筠者尋常取耳。問。文云。朝廷公事即服之者。未知。私家服者如何。
答。師云。亦不責耳。在穴。古記云。綺帶。謂條帶一種。少科下耳。

制服條

制服
穴云。於无位不合云
朝服。故云制服耳。

无位。
謂庶人服制亦同也。朱云。无位謂白丁亦
同也。或云。*天下庶人。制服如此也。在穴。
皆皁縵頭巾。
釋云。縵。說文。繒
无文也。音莫旦反。
黃袍。
謂裁縫體制。一如朝服也。穴云。袍與衣不見其別也。或云。不云黃衣。
而云黃袍之由可求耳。在穴。朱云。黃袍謂合衣者。但從時可單服衣耳。
烏油腰帶。白襪。皮

衣奴皂衣。」と見えたり。庶人に黄袍を着せしむること、既にこの朝に始まる。

〔古記云白脛裳謂上結下不束也縛脛謂上結下束也〕本條の義解に「無白袴者。文之省略也。」と云へり。されば古令には、橡墨衣の下に「白脛裳」の三字ありしなるべし。白脛裳は白色の脛裳（ハハキ）にして、袴の裾を紐にて縛りたるものなり。武藏國大谷發掘の埴輪土偶に、この脛裳を着用せるものあり。允恭記に見ゆる脚結（アユヒ）の小鈴は、即ちこの脛裳の紐に鈴を着けたるものなり。

履。或云。皮履者。除烏皮之外耳也。在穴。朝廷(庭)或云。可作廷(庭)字也。在穴。公事則服之。尋常上條。古記云。尋常。謂朝夕也。通得著草鞋。或云。尋常著皮履者。亦不禁也。在穴。朱云。尋常通得著草鞋者。未知。朝廷公事不免哉。答。然也。額亦同也。家人奴婢穴云。家人奴婢爲參公事者是。官戸陵戸一同。朱云。家人奴婢。謂官戸奴婢亦同也。先云。雜戸可同良人服色。但陵戸服色何。若同家人哉何。額云。同者。橡墨衣。謂橡櫟木實也。以橡染緇。俗云橡衣也。此條。無白袴者。文之省畧也。釋云。橡木名也。以橡染緇。俗云橡衣。音詳兩反也。

*古記云。白脛裳謂上結。下不束也。縛脛謂上結下束也。

服色條

凡服色。白。黄。丹。紫。蘇方。緋。紅。黄。橡。纁。蒲萄(陶)。謂纁者三染絳也。蒲萄(陶)者。紫色之最淺者也。釋云。纁。說文。淺絳也。音許云反。俗云。蘇比也。蒲萄(陶)青色也。俗云。鳩染也。古記云。纁謂蒲比也。蒲萄(陶)謂青色鳩染是也。緑。紺。縹。桑。黄。楷衣。蓁。柴。橡。墨。如此之屬。當色以下。各兼得服之。謂假令。著紫之人。兼得服蘇方以下諸色之類。此條。包爲男女立制也。釋云。當色以下。以文次第定當色階耳。假如。著紫人者。得服蘇方以下之類。古記云。兼得服之。謂尋常。穴云。爲上衣生文。假。三位蘇方上衣以下服耳。女亦同也。或云。師云。但除朝服色耳。其私所服者。用雖朝服色任得服用之。在穴。

内親王禮服條

内親王禮服

一品。禮服寶髻。謂以金玉飾髻緒。故云寶髻也。釋无別也。 四品以上。每品各有別制。朱云。各有別制。唯爲寶髻也。一品以「下」四品以上。並同著深紫衣以下不。答。並同无別也。 深紫衣。蘇方深紫紕帶。釋云。禮記鄭玄注曰。紕緣邊也。又曰。在下曰紕。爾雅。紕飾也。音疋曳反也。或云。紫紕帶以他色紕紫縫耳。在釋。 浅緑褶。穴云。女褶服褶上耳。跡云。婦女服褶。謂男褶表袴上。女褶。先著褶。而纈裙表。而褶下端顯也。纈褶與紕帶一同古耳。明也。古記云。褶男一種。唯男上而袴顯出服之。婦裳一種下服之也。或云。女褶。俗云引下裙。著裙中著總之裙也。在釋。 蘇方深浅紫緑纈裙。釋云。下條云。緑纈纈紕裙。即知此亦爲紕耳。一云。此條无紕字故。不爲紕也。穴云。深浅紫緑四色。纈裙。謂以一衣四色。深交纈耳。與紕裙別也。裙或本作裳。又或云。深浅紫緑四色。與上蘇方合五色之。師不依之。在穴。 跡云。禮服。纈裙者數色種(纈)交而成一裳。但制服緑纈紕纈裙。謂各一色纈也。朱纈異說耳也。朱云。深浅紫緑纈裙者。未知。幾種。若案下内命婦條云。四種何。先云。深浅者。只就紫一色耳。則三色者。私未同。額不能。問以決耳。何更反疑。可同。何者亦下條云。浅緑紕帶故。問。凡纈字者。蘇方以下皆待受文敷。若只爲緑一色耶何。額云。皆待受文者何。 錦襪。緑舃。古記云。緑舃謂以青皮緑衣縫作也。

飾以金銀　朱云。飾以金銀。謂只爲舃也。下條放此者。未明。古記云。禮服梳者。謂刻梳也。非精謂玉名也。

女王條 女王禮服

一位。禮服寶髻。五位以上。每位及階。各有別制。内命婦准此。深紫衣。五

〔纈文〕しぼりの模樣なり。纈に纐纈と﨟纈との二種あり。纐纈は絲にて帛布を處々絞りて染めるものにして、普通に行はる所なり。﨟纈は﨟を以て帛布に文樣を置きて、左右相對に染め出すものにして、奈良時代には盛んに行はれたり。正倉院御物中にその逸品あり。今の置き糊をして染める方法は、この法の遺れるものならむ。

位以上。朱云。五位以上者。有約二位以下文耳。又有准下條文也。皆淺紫衣。自餘准內命婦服制。唯褶同內親王。

內命婦條

內命婦禮服

一位。禮服寶髻。深紫衣。蘇方深紫紕帶。淺縹褶。蘇方深淺紫綠纈裙。謂下條云。綠縹纈紕裙。此條。無紕字。即知。五色交絲以爲*纈文也。錦襪。綠舃。飾以金銀。三位以上。淺紫衣。蘇方淺紫深淺綠纈裙。自餘竝准一位。四位。深緋衣。淺紫深綠紕帶。烏舃。穴云。烏舃此非皮也。言親王用綠舃。命婦用烏舃耳。以銀飾之。五位。淺緋衣。淺紫淺綠紕帶。謂在傍爲紕也。自餘皆准上。大祀大嘗元日則服之。朱云。大祀大嘗元日則服。謂上內親王以下。待受文者。外命婦。夫服色以下任服。謂衣褶竝同。古記云。外。命婦聽夫服色。以下任服謂衣裳竝聽。穴云。依文。三位妻服紫衣。四位命婦服緋耳。問。除服色之外。寶髻以下舃以上何。答。不見文。依別式耳。跡云。外命婦夫服色。以下任服。謂衣褶竝服。但寶髻有式。額同之。朱云。外命婦夫服色。以下任服。謂假。一位妻。初深紫衣服用耳。問。此亦大祀大嘗元日所服

歟。若尋常事歟何。額云。大祀大嘗。并尋常時皆用者何。
又額云。任服者。帶舃纈等皆同禮服。但寶髻不見耳者何。

朝服 朝服條

一品以下。五位以上。去寶髻及褶舃。謂其錦襪亦去。爲與舃同類也。穴云。「去」寶髻時。直如常耳。義髻之處亦如也。私案。去舃故烏皮履耳。跡云。去舃謂錦襪皆去也。以外並同禮服。六位以下。初位以上。並著義髻。謂以他髻飾自髮。是爲義髻。釋云。以他髻著飾己髻。號爲義髻也。蓋義命令之意也。穴云。六位以下著義髻。五位以上無髻而參耳。朱云。六位以下初位以上。著義髻志何。若不得寶髻代歟何。又五位以上。尋常之日用髻不何。答。不髻者。額云。可髻者何「之」。衣色准男夫。朱云。衣色准男夫。謂爲六位以下歟何。案可然也。深淺綠紕帶。綠縹纈紕褶。或云。紕褶集綵色裁制縫褶也。在釋。初位去纈。古記云。初位去纈。謂尋常得纈。但不得用朝服裳同色也。白襪。烏皮履。四孟則服之。釋云。六位以下初位以上。義髻以下。烏履以上。節日及朝服皆服之。穴云。四孟之朔。是日服朝服由不知也。六位以下。大祀大嘗亦合朝服也。跡云。四孟謂四孟月之朔日。朱穴同 朱云。四孟則服者。未知。除四孟月外月何服。凡此文。一品以下皆約文歟何。先云。然者何。四孟之、則服。謂月内度服者、未明。後考。反了。或云。四孟之月之朔日也。此唐事耳。我土不然。猶令如常。在釋。古記下條云。四孟謂四時初之朔日也。古記云。著當色服。謂男一種之也。

「一云四孟云、六月之朔日也此唐事耳我土不然猶令如常」四孟即ち一月、四月、七月、十月の朔日

に朝服を着して參會することは、唐土の慣習にして、我が國にはその慣行なし。されば本條四孟と云へど、その實際の適用なかりしこと之により知らる。斯く令に規定せられたるものと雖も、我が國俗に合はざるものは、實際には行はざりき、この事は王朝法制の實際を知る上に極めて肝要の事なりと云ふべし。

制服條

制服 釋云。无位及庶女服制耳。

宮人。朱云。宮人謂十二司宮人者。未知。東宮宮人何。穴云。問。東宮宮人及嬪以上。女竪等一位以下。禮服朝服同此哉。答。於東宮不明。可著禮朝服時。但制服隨此耳。深綠以下兼得服之。紫色以下。少少用者聽。謂聽用細帶等之類也。釋云。少少謂細帶等也。綠。縹。紺纈 謂三色纈各得特用。不得交色以爲纈。其不顯深淺者。卽得通服耳。釋云。不顯深淺者通用耳。古記云。綠縹紺纈及紅。裳。謂全一色不紕縫(縫)也。穴云。綠縹紺纈。此以三色爲一褶。或服紅褶耳。及紅褶。四孟及尋常則服之。若五位以上女。除父朝服以下色者。其庶女通得服之。穴云。五位以上女。謂或宮人中。或廣非宮人皆同。私案。但文先爲宮人所云也。此條。爲制服廣立制也。或云。五位以上。謂命婦六位以下。在釋。服。同無位宮人。穴云。凡天下婦女服制。此條與唐令情異。若違此制者。科罪耳。朱云。廣庶女謂廣天下凡女耳。此條則稱同无位宮人者。額云。不然也。上服色條。稱同无位宮人者未知何。或云。无位謂宮人。在釋。

武官禮服條

武官禮服

衞府督佐。兵衞佐不在此限。謂(佐)依官位令。兵衞佐。是正六位下官。其雖任五位。不可同督。依相當法制禮服故也。仍須依朝服法。准志以上。加錦裲襠。

若六位任三衞佐者。亦准志以上法也。釋云。若五位行任佐者。猶依官位備耳。穴云。兵衞佐若准帶五位亦不在此例「依」云。下朝服制耳。或云。師云。同之。此條禮服亦在穴。但大祀大嘗元日。依文。云牙笏故不帶弓箭也。下朝服條亦不帶弓箭。宜五位以上。依文官牙笏。六位以下木笏耳。六位以下。會集日弓箭帶耳。或云。師云。會集日、督佐亦同志以上。但文爲志以上耳在穴。　問。六位任督佐者。著禮服何。答。此文。先爲五位宜別別助也。凡六位守督佐。五位任志以上時。大祀大嘗元日。裝束不明文。跡云。兵衞佐身雖有五位。不同此例。爲陣陳。法之設。異故也。朱云。兵衞佐。不在此限。謂爲六位人也。若五位者。依此條後反也。五位不可著六位襖故也。額云。不然也。猶依官位耳者。古記云。督率位。謂習亦同也。一云。翼者約少志以上。何者案官位令督率佐。是五位以上官。翼是六位官故也。

以下准此。釋云。下准此。謂朝服條耳。案禮服時不帶弓箭、唯會集日可帶弓箭耳。跡云。以下准此。謂下條佐者。兵衞佐不同也。朱云。以下准此。謂爲下條佐所云也。額云。不然也。則此條下注所云者何。額云。兵衞佐不在此限。以下准此者。此條。下注則以下准此者。他條稱以下。尤例者。私案。公式令物授位記式條注云。兵部亦同。以下准此者。此則見下条授判授位記式條。所稱以下耳。今以彼文比此條。以下文爲下條爲所云乎而何。

並皁羅冠。皁緌。「謂冠緌也。」跡云。雖冠謂禮冠是。但與文官禮服有別制耳。或云。問。文官禮服冠。與武官禮服冠有別哉。答。可有別。但其制不見也。亦冠與頭巾別也。在穴。「緌」謂冠綏也。釋云。說文。冠纓也。音儒佳反。古記云。緌謂此同冊俗意只〔奧〕可氣也。

牙笏。位襖。謂無襴之衣也。釋云。案文。無襴者曰襖。音烏皓反。古記云。位襖謂不著襴缺腋衣之也。

加繡裲襠。謂一片當背。一片當胸。故曰裲襠也。釋云。儀禮鄭玄注曰。直心背之衣也。釋名曰。兩襠者。其一當背。其一當胸也。故曰兩襠也。音都堂反。顔野王。裲作兩字。古記云。裲襠謂直心背之衣也。其一當背。其一當胸。故云裲襠也。釋云。漢書師古曰。繡者績爲帝形。繡音物爲業文也。鉤鞢謂曲鉤也。鞢音及列反。束帶鞢謂之鞢。但其道令不見也。備云鉤。謂釋奠禮服帶鉤是。但□未作耳。三衞主

「古記云、督率位、謂習亦同也」の「位」は「佐」の誤り、「習」は「翼」の誤りなるべし。古令にては、八衞督を兵衞督と云ひ、兵衞佐を兵衞翼と云へり。故に古令の本條は「督府督率佐」とありしなり。

「漢書師古曰」師古注の漢書に曰くの意なり。師古は唐の秘書監顔師古なり。師古名は籀、雍州萬年の人、隋の時安

養の尉たり。唐高起るに及び、仕へて朝散太夫より中書舍人に進み「機密に參ず」太宗の朝中書侍郎となり、後五經正義を撰するに當りその主任となり、功を以て秘書監弘文館學士を授けられ、貞觀二十二年、六十五を以て卒せり。この書早くより我が國に傳はり、佐世の見在書目錄に既にその名見えたり。

〔何者依律令私有甲不制故何〕唐の擅興律には「諸私ニ有禁兵器一者徒一年半。(謂下非ニ弓箭刀楯短矛一者上)弩一張。加ニ二等一。甲一領。及弩三張流二千里。甲三領。及弩五張絞。私造者。各加ニ一等一。」とあり。されば唐に於いては、甲は禁兵器にして、私人之を所有せば流二千里以上の刑に處せられたり。我が擅興律亡んで傳はずと雖も、この集解の文に據れば、甲を

師。謂左右衞士府使部衞門部是。衞士鞋謂烏鞋也。此條。除烏作横刀弓箭以外。皆悉官備。穴云。問。裲襠行縢等是。私備歟。答。案下條官備耳。或云。師云。此條。裲襠行縢官備。自餘物私備之。在穴。朱云。凡仕禮服等物私備耳。但下條云。挂甲官設耳。爲不免私有也。此說未明。*何者依律令私有甲不制故何。未知。檢何。私備不。額云。官備者。　兵衞督雲錦。金銀裝　釋云。說文。敉飾也。音側羊反。字在女部。　腰帶。金銀裝横刀。白袴。烏皮靴。兵衞督赤皮靴。錦行縢。謂縢緘也。所以覆股脛。令衣不飛揚者也。釋云。孔安國尙書注云。縢緘也。音徒登反。所以覆股脛。案令衣不飛也。朱云。此條。雖不見服用時。尙於上服大祀大嘗元日耳。額同也。穴云。自餘武官。五位以上。同文官禮服。六位以下放武官朝服處。但可有別式。或云。此說未見所因。可反求耳。在穴。　問。於裲襠等何。答。亦不服。

朝服（武官朝服條）

衞府督佐。並皂羅頭巾。位襖。金銀裝腰帶。金銀裝横刀。白襪。烏皮履。穴云。兵衞佐同志以上服。若帶五位者。與督无別也。不筋上辭了。其督佐大祀大嘗元日禮服。自餘會集日。只朝服耳。上條。穴云。問。督佐朝服之處除綾。若畧文歟。答。可然也。朱云。凡此條。不筋及　其志以上。朱云。其志以上。謂兵衞佐以下幷餘司尉以下也。古記云。此條。志以上位袴畧文耳。　*襖依格不袂(缺カ)腋縫也。凡衣服令。依時時格式故爲既多。不可具述。隨當時法用耳。其諸禁色得爲裏衣。但薄朝服不可「下」合。一云。依別格蘇方一色不得裏衣。六位以下。聽服用四䌜以下及小綾。但无位者聽用帶帒。以外不得。凡雖聽服用色。可相濫者不合。假令。橡白染枝子染與

禁兵器と爲さざりしものゝ如し。因みに云ふ、甲はカブトに非ず。ヨロヒなり。挂甲は儀式用の鎧にして、これをカケヨロヒ又はウチカケヨロヒと云へり。江家次第に「近衞次將甲。多以レ錦裁ニ甲形一、以レ紫畫レ之。[illegible]於ニ風流甲一、或以ニ金銀珠玉一飾レ之」と見えたり。

〔依幣〕[illegible]の樣、詳かならず。

黃丹色。不可相濫之類也。並皂縵頭巾。皂緌。位襖。烏油腰帶。烏裝横刀、白襪。烏皮履。會集等日。謂元日及聚集幷蕃客宴會等。此止爲志以上立制也。穴云。注文爲志以上尉以上是。兵衞佐亦同。仍縵頭巾耳也。會集此止謂上大祀大嘗元日。及宮衞令。立儀使日是。自餘節日非也。私案。會集謂大祀大嘗元日是也。朔節日。不入也。古云朝庭公事也。何者下衞士應會集日。朔節日兩種故。或云。師云。會集等日。督以下志以上一同也。又此條。裲襠挂甲緋襖槍纓纓末額者竝官備。自餘私備之。又云。師云。於衞士一色者。依下文。會集日朔節日。別著裝束。但於主帥以上者。會集日之句。皆約朔節日耳。令釋同之。在穴。朱云。注云。會集等日者。未知。會集一賦。二賦。答。於此者。可一也。凡此注。爲兵衞佐以下幷餘司尉以下立注賦。何者督佐上條。具立禮服色也。禮服日。與會集日同日故也。額同。但行幸時。帶弓矢事。不見文者何。而可云蒙條文哉。若禮服之外。爲加弓箭等賦何。答。督以下皆約注。而明用禮服。會集日者可依上條也。除會集日可依此條也。額不同也。加錦裲襠赤脛巾。帶弓箭。以鞋代履。兵衞。皂縵頭巾。皂緌。位襖。烏油腰帶。烏裝横刀。帶弓箭。白脛巾。白襪。烏皮履。會集等日加挂甲、帶槍。或云。額云。帶槍人者。不可帶弓矢。但(而)半帶槍。半帶弓耳者。私未明何也。在跡。以位襖代緋襖。朱云。以位襖代緋襖。謂著緋襖意與何。案可然也。先云。緋襖等。官可備者。私未明何。額云。官備者。以鞋代履。主帥。謂門部使部。其隊正等者。依衞士例也。釋云。主帥謂門部使部也。穴云。主帥如令釋也。問。諸條。以伴部爲主帥。爲見。答。此條見耳。又廏寮飼部。廏牧令云。主帥准牧長者。是亦伴部耳也。皂縵頭巾。皂

綏。位襖。烏油腰帶。烏裝横刀。白脛巾。白襪。烏皮履。會集等日。加挂甲。帶弓箭。以縹襖代位襖。穴云。私案。无位黄襖耳。其校尉以下。不在位襖等例故。同衞士。以鞋代履。並朝廷公事則服之。朱云。問。朝庭公事。一事一事歟。又公事。謂京諸國同不。答。朝庭公事一事。凡此文條蒙文也。公事遠近不見。可案者。額云。不見遠近。但其中可有消息耳者。穴云。朝庭謂祭非應坐也。自餘皆是也。

衞士。皂縵頭巾。桃染衫。白布帶。白脛巾。草鞋。帶横刀弓箭若槍。朱云。帶横刀弓箭若槍。謂並皆帶者。未知。而若字心何。答。猶言及也。額不同也何。會集等日。加朱末額挂甲。以皂衫代桃染衫。朔〔日〕節日則服之。謂朔日者。四孟朔日也。節日者。初注會集等日是也。其主帥以上注。稱會集日者。朔節日亦同。但衞士注。言會集日者。非是朔節日。凡著朝服之時。督佐牙笏。志以上木笏。文不載者略。諸須知「也」。釋云。朔節日亦同。但於衞士朔節日。不同會集日也。此篇。依時時格既改異之。依時法耳。又云。案朔節日不入會集日難也。穴云。朔日。謂依此文可有不立儀仗朔日也。師不依之。私案。依宮衞令。必立儀仗。**時服依極時々改事** 但會集之日。立儀仗式重厚。自餘日雖立儀仗。儀式少薄耳。依文所案。師同此說也。

「尋常去桃染衫及槍。朱云。尋常。去桃染衫及槍者。未知。可著何衣。答。依文除桃染衫之外。皂衫并他色等可著者。私案。不聽皂衫歟。會集日衣故者何。額同也。或云。問。衞士尋常可服何色。答。除皂桃染外任服耳。在穴。其督以下。主帥以上。袋准文官。

令集解卷廿九

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢
本云　員外宰相藤判
弘長二年二月十二日於春日社神主館見合本書加首書了自去九日限七ヶ日參籠之間也
權大納言藤原師繼
建治二年六月九日引合正親町本校合了
弘長二年閏七月廿日見合本書加首書畢
皇后宮大夫藤判
建仁二年六月廿九日引合正親町之本校合畢
慶長三年仲春十一日燈下令一校畢
吏部秀賢
右以清家秀賢朝臣之本申請寫之
寛永十一年仲冬遂一校之功畢
大府侍郎中原職忠
萬治四辛丑季春初七令一校畢
羽林中郎將藤原
右一冊以神村先生之本使寫畢
越智通邦印
庚子季冬略一見加朱書畢
寛政三年三月廿四日以京師本一校畢

□□□辰四月下旬以河村氏本一校且熟覧加頭註了

□□年二月十九日與河千栗一會了

文政庚辰之秋以彰考館本比校之

撿挍保己一

令集解卷卅

營繕令第卅　凡壹拾漆條

營繕　謂營者營造也。繕者繕修也。釋云。詩傳曰。營治也。説文。繕補也。音市戰反。謂治補雜作令耳也。跡云。謂造治令耳也。

〔和雇〕アマナヒヤトウと訓む。強制勞働にあらず、賃雇して勞働せしめ、之に當時當鄉に於ける賃銀の相場によりて賃銀を給するものなり。

〔平功〕律云平功庸者計一人一日爲布二尺六寸凡稱常者皆准此」これ名例律下卷の條文なり。

計功程條

凡計功程者。謂此條大例。爲每年雇役丁匠立制。其賦役令。雇役丁者。本司預計當年所作色目多少申官。預爲次第。依次赴役者。並依此條。皆與功直。但下條。稱和雇者。即依當時當鄉庸作之價。不限功之多少也。釋云。賦役令云。雇役丁者。本司預計當年所作色目多少申官。預爲次第。依次赴役者。依此條。與功耳。但下條。和雇之日。准當時當鄉庸作之價耳。不限多少也。古記云。問。計功程者。未知。此條大例。答。此條。每年爲雇役丁匠立文也。案賦役令。計庸多少。皆支配役民雇直及食是也。穴云。爲官雇役人立法也。四月五月六月七月。爲長功。布一常得四功。二月三月八月九月。爲中功。一常得五功。謂一常者一丈三尺。得五功者。其雖功有長短。而皆依中爲定法。故律云。平功庸者。計一人一日。爲布二尺六寸。凡條准稱常皆准此。但賦役令云。正役之外。須留役者。滿卅日。租調俱免。彼唯依日數立法。不依長短之制也。釋云。布一常得四功。此是爲官營造雇人立法。以下亦同。假如。長功四人。中功六人。合十人一常。即當一日庸二尺六寸。相准十日庸一丈六尺。中功得一常。是一日二尺六寸之法也。但賦役令云。正役之外。須留

役者。滿卅日者。租調俱免者。取中止依日云耳。不依月長短之法也。跡云。布一常得四功。謂雇役人之日。爲給功直立法也。朱云。凡此條。定功程以月長短定也。不依要閑月者。私人不可依此法。彼此和情雇役耳者。穴云。問。有人依此充力役使監臨部内爲有罪哉。答。不是二尺六寸者。計(訂)少庸科耳。爲官立法。故有此科耳。子細之說。可依令釋也。**十月十一月十二月**

正月。爲短功。一常得六功。

有所營造條

凡有所營造。及和雇造作之類。謂別物臨時有所營造也。所以知者。唐令云。別物有所營造。此令。雖不言別物。而理亦不殊。其所司營造。下條別有文。釋云。此條。臨時別物營造之類耳。尋常營造。下條有文。見唐令。穴云。營造謂別物臨時造也。和雇謂非別物而臨時官處分是也。問。與下條以何爲別。答。令釋云(之カ)意(乞)。問。於役丁何。答。兩條並爲言用物各生文。但於役丁此條營造。及和雇幷下條並同。依賦役令。不合有別論也。跡云。此條。與下條別放令釋解也。有所營造。謂此注顯可造物數。及功食數並立法。雇役人之數等也。和雇造作謂此不依上條官法之例。隨當時庸仕之價雇役人人耳也。朱云。問。有所營造與。及和雇造作同事歟。別事歟何。額云。同事也。依有所營造和雇耳者。賦役令雇役云。與此條和雇云別何。答。額云。如釋者。或云。跡云。有所營造者爲法。可造物數。幷可用人數功食等生文。和雇造作者。爲不依上條官法。准當鄕庸作之價。雇役人夫生文者。案此云一何。爲同事也。師異說云。有所營造者。別物依上條官法。給功直造作也。和雇造作者。亦別物准當時鄕庸作之價。雇人夫造作也。三說可反檢也。古記云。有所營造。謂充雜徭應役之處。及買應作之物也。及和雇造作之類。謂依當時庸作之價。雇役之處也。並是臨時之事。當(常カ)例者非。唯此條。廣及於外國也。**所司皆先錄所須總數。申太政官。**釋云。先錄所須摠數。孔安國注尚書曰。須待也。音相俞反。稱待

爲用者。以義訓耳。其賦役令。爲丁夫立文。營繕令。爲材木役直幷料物立文。此條廣及外國官。穴云。所司謂木工寮也。讃云。造所司也。總錄所須。謂可造物所司摠用石一百挂一百之員申官。官下木工寮。細經單功耳。皆先錄所須。謂賦役令云。與預錄當年所作之同義。宜同度申尤妨也。朱云。所司謂木工寮也。若臨時有預他司亦同也。未知。此條。京國別不。合尤別也。令釋同也。

私第宅條

凡私第宅。皆不得起樓閣。臨視人家。謂第者有甲乙次第。故曰第也。樓者重屋也。閣亦樓也。釋云。第宅。野王案。第諸侯王宅舍之名也。漢書音義曰。有甲乙次第。故曰第。音特計反。不得起樓閣臨視人家故。野王案。起興也。作也。說文。「樓」重屋也。案閣亦同樓也。文稱臨視人家。故知。非臨〔視〕人家者得起耳也。古記云。第徒計反。漢書。爲侯食邑者。賜大第室。音義曰。或有甲乙次第。故曰第。野王案。所謂甲第也。即諸侯王宅舍之名也。樓力侯反。爾雅。四方而高曰臺。狹而脩曲曰樓。說文。屋也。第宅謂家也。第謂第一第二之義也。不得起樓閣臨視人家。謂若不臨人家者任意得作也。樓閣謂高屋摠名也。穴云。第宅。或云。自宮殿始都中諸居處是也。第宅猶次第之也。或云。諸侯王宅舍之名。令釋。執後云也。事並見漢書也。一端寧都中爲說。天下第宅皆同也。

宮內有營造及修理。皆令陰陽寮擇日。古記云。營造謂新作也。修理舊作也。朱云。宮內有營造。謂宮門內。額同也。未明。不有起作言。在不云者。額皆同者。未明。後反云。宮城門內皆同與。可案者。額不同也。穴云。宮外造不擇日也。或云。宮內宮門之內也。爲非。在穴。

營造軍器條

凡營造軍器。皆須依樣。令鐫題年月及工匠姓名。謂樣者形制法式也。鐫者鑿也。題者書也。釋云。切韻樣式也。音餘亮反。廣雅。鐫鑿也。音子泉反。杜預注左傳曰。題識也。音度黎反。古記云。鐫子旋子緣二反。方言鐫琢也。說文。穿木鐫也。一曰。琢金石也。廣雅。鐫鑿也。漢書。使掾蘇卒鐫令如淳

〔漢書音義〕日本國見在書目錄に「漢書音義十二卷」隋國子博士蕭該撰」とあり、隋書、經籍志に「漢書音義十二卷、〔國子博士蕭該撰〕」とあるもの之なるべし。隋書には、尙右の外に「漢書音義七卷」〔韋昭撰〕なるもの見えたり。

〔宮外造不擇日也〕これ令意なり。然れども平安後期に於いては、朝廷の崇信せる神社の造營には、常に陰陽寮をして日を擇ばしめたり。その例多く石淸水文書に見ゆ。

〔依格廣一尺九寸長六丈爲疋也〕この格詳かならず。

〔謂都牟伎乃宇須伎也〕ツムギノウスキヌなるべし。縠の字を解せるなり。

〔紵謂俗言手作之布也〕和名類聚抄には、「唐式云。紵布三端。今按紵麻之紵。俗用麻布二字。云阿佐沼乃岐乎。」とあり、新撰字鏡には、「紵繡（同。除呂反。白布細也。苧也。[illegible]也。[illegible]也。紵

曰平鐫。激切使之（令）自知過也。題達奚反。達麗反。杜預注左氏傳曰。題識也。以大旌表識其行列也。野王案。今以書署表識亦謂之題。釋名。書稱題。題諦也。審諦名號也。依樣謂別式將有也。鐫題謂廣雅。鐫鑿也。音子旋反也。穴云。樣物之形樣也。朱云。工匠姓名。謂不注本貫者。

若有不可鐫題「謂弓箭等之類。」古記云。弓矢排甲之類。謂弓箭等之類也。釋云。弓箭之屬是也。**者。不用此令。**

錦羅條

凡錦羅紗縠綾紬紵之類。皆闊一尺八寸。長四丈爲疋。釋云。羅。案有文紗也。紗。案无文片絲紗也。音所加反。縠。拾絲紗也。俗云。薄紬也。紬。說文。紬大絲繒也。音除留反。俗云厚紬也。紵。說文。枲屬細也。音除呂反。羅縠等亦釋見賦役令。周禮。典枲掌布緦縷紵之麻草之物。鄭玄曰。緦十五升布抽半者也。白而細疏曰紵。*依格。廣一尺九寸長六丈爲疋也。古記云。羅謂有文紗也。紗謂无文紗也。謂片絲紗也。*縠謂都牟伎乃宇須伎也。謂拾絲紗也。紬謂厚都牟伎。是亦拾糸紗也。*紵謂俗言乎（手）作之布也。依別格。廣一尺九寸長六丈爲疋也。朱云。稱之類者。未知。一端何色。若臨時作織物皆放此乎。假兩面等歟。答。額云。然也。

在京營造條

凡在京營造。謂假令。來年應築京城之類。即臨時營造亦同。其人功者閑月應役。故賦役令云。七月卅日以前奏訖。但役直材木等。預須科備。故此令前年申送也。釋云。案此條。尋常支度事皆約也。假如。來年應築京城之類。賦役令。爲役丁夫立文。營繕令。爲科備役直材木并料（科）物立文。言人功閑月應役故。賦役令七月卅日以前奏訖。此令爲備料（科）物及材木故。前年申送（邑）耳。穴云。此條。爲尋常生文也。問。遷都改邑者。是臨時行事。令釋。築京城之類。此所謂臨時。以何爲尋常耶。答。遷都元是臨時。但遷畢以後。年料支度所造皆是。令云尋常。跡云。營「造」謂諸司臨時有可造物之事

也、織也」又久利、とあり、手末の義として、女子が手にて作れる衣料なる調布を云ふ歟。

「安居應供養僧若干所須供辨若干之類也」安居は僧徒が雨期の後三ヶ月外出を禁じて坐禪修學するを謂ふ。さればこれを雨安居と稱し、又坐夏、坐臘とも云へり。安居の字義に就いては、寄歸傳に「形心攝靜曰レ安。要期在住曰レ居。」と見えたり。印度にては、雨期の後は爬蟲類跋扈し、外出頗る危險なれば、之を禁じて各自の修養に資せしめたるなり。安居はもと波羅門の行事なりしを、佛徒の採用するところとなり、比丘は白衣に對してこの期間[illegible]、白衣は比丘に[illegible]。佛教の傳來と共にこの行事も我國に傳はり、天武天皇の十二年夏初めて之

者。可用調度之雜物。預申官合科備。若尤可科備之物者不申。依賦役令耳也。朱云。文稱在京。未知。外國何若。答。預事者。外國亦同。而可預事色可求耳。**及貯備雜物。**謂營造之外。別有所貯備。假令。*安居應供養僧若干。所須供辨若干之類也。釋云。假如。來年鑄錢應備銅鐵之類。賦役令。供京藥藍雜用之屬。充雜徭。於畿內科。此條。買物調庸及雜徭等。分廣及外國科備耳。古記云。貯備雜物。謂賦役令。供京藥藍雜用之屬。每年民部預於畿內斟量科下。如此之類皆是。唯此條。廣及於外國也。穴云。貯備謂依營造調度可用者。皆約營造之文小注也。或云。朱(當)云。同(問)此云合釋子細如(加)處「了」在穴。令釋云」。應「備」銅鐵之類爲非也。跡云。及貯備「鐵」雜物。此亦可用諸司雜物。預申官合科備。此亦尤可科備之物者不合申。但依常支度法耳。此等事並非常支料(科)之物。又非合科折之物是也。朱云。在京營造。及貯備雜物。謂營造之外。支度廣別貯備雜物者。後就先事。返云爲營造貯備雜物。及別更貯備雜物皆約者。朱以上二事尋常事。何者下文每年故者。未知。而則其(與)年常支料(科)何別。答也。**每年。**

諸司總料來年所須。申太政官付主計。穴云。諸司諸物。所須之本司是也。問。賦役令。本司錄來(當カ)年所作之色目。多少申官。本司謂木工寮者。未知。此條何會作。答。諸司見令(合)造物本司及木工寮是也。言造物本司先移寮。寮申官也。私案。爲備調度生文。彼條。爲庭役丁生文也。付主計謂爲覆審生文也。跡云。問。賦役令云。損(預)計來(當)年所作色目申官。與此條別何。答。此條。來年可造之物。調度爲令科。而預案申耳。賦役令。金合(令カ)造物之年。細盡總計申耳。朱云。每年者。未知何。可計一年。與賦役令何。答也。諸司。廣預事也。申太政官。謂預年前申耳。明无日期也。**預定出所科備。**謂凡物產所出。土宜各別。故任土作貢。不以其所無。假令。長門採銅。伊豫出鐵之類也。釋云。假如。銅科長門。[illegible]出伊豫之類也。古記云。科備謂即是雜徭也。跡云。預定出所科備。謂銅科長門。*水銀科伊勢。附子科陸奧合出之類。朱云。問。預定出所科備者。未知。官所行賦。若民部所行賦何。額云。官行事者、

を宮中に行へり。安居僧に供養する費用のこと、弘仁延喜の主稅式に見えたり。

〔銅料長門鑞出伊豫之類也〕王朝時代に於いては、長門は銅の產地として知られ、鑄錢のこともこの地に行はれたり。鑞は白鑞と熟字にして用ふること多し。鉛と錫との合金なりと云へども、伊豫より產するを見れば、アンチモニーの類歟。私鑄錢を防止する爲めに白鑞の私有を禁じたることあり。

〔水銀科伊勢附子科陸奥〕附子は毒草トリカブトなり。藥用とす。これによりて、水銀は伊勢に產し、陸奥國にトリカブトを產せしことを知るべし。

〔東宮一年雜用布一千端之類也〕祿令、食封條に東宮一年雜用料。絁三百疋。綿五百屯。絲五

若依法。先有定料。不用此令。釋云。假如。*東宮一年雜用布一千端之類也。穴云。若依法先有定料。不須增減者。不用此令。謂*營造之外事並約故。依令釋耳。文諸司爲例定料皆是也。古記云。先有定料。謂假令。河內國一年內輸調席薦百枚。此是爲有定料也。其年常支料。供用不足。謂假令。年料所常用。百官俸食。諸國舂米不足「之」類也。釋云。年常如言每年耳。支料釋見醫疾令。假如。百官食料。諸國舂米供用不足之類。穴云。其年常支料供用不足。謂假國庸主計支配役民雇力。及食而當年遭水旱免庸。即是支料之供用不足是。問。自其年以下遣論上事歟。爲當。別述歟。答。別述也。古記云。若典藥寮。爲合藥所用細辛不足。申太政官。依藥所出散下。充儲緣令探。此是年常支料供用不足也。跡云。問。支料供用不足。未知。依本司支度狀覆審支配而何。不足之由爲〔若〕。答。假令。大炊寮米依例充。而若時依人數多。不足供用之類。或釋與料等之類。供用不足者申耳。問。貯備雜物。又支料供用。不足與支料之外。更有須何別乎。答。上二句。據不科折(料)之物。下據應科折(料)之物爲別耳。須謂就上句合讀。自餘具放令釋解。朱云。問(何)。其年常支料供用不足。以下。一事爲臨時事哉不何。但令釋。只終一事臨時事者何。額云。然者。及支料之外。更有別須應科折謂假令。臨時造幔幕。應須用東絁。即年常支料之外更科絁折布之類。故曰科折也。釋云。假如。臨時造二千幕。應須東絁五万疋之類。科折布之意耳。古記云。假令。鑄錢司年料外應鑄釜。更可科銅。此是。支料之外也。穴云。主計合申。私記云。問。臨時用物。官所合科折。而何故本科折。而申官由何。答。有然方耳。私案。假太藏省。爲造幕申官科。*上毛國絁五万疋訖。於是。大藏省論定其國常所進紺縹緋等絁。合科紺絁買折縹絁之類。此本司科折申官耳。又云。當供用之次。申併爲來年所預申並約也。或云。師云。此條。預爲來年設(說)文耳。不安。在穴。科折二字或書作科料。但依令釋習耳。私依本令。可造料字。又說在先私記。問。賦役令有奏文。於令尤奏文未知何。答。奏者依公式令云耳。或云。庸(唐)

百枚。有一千端「兼一千日。披五百挺。」とあり。「河內國一年內[illegible]鷹百枚」、「[illegible]式上に「河內國」、行[illegible]一日[illegible]山席五十枚。折薦一千三百八十三枚。葉薦二百枚。」云々と見えたり。

「上毛國」上野國なり。上毛野國（カミツケヌノクニ）の下略なり、今書くところは[illegible]の中略なり。

「戶令亦有此事。彼明注著籍帳」戶令に「凡官戶奴婢、每年正月、本司色別各造籍二通。一通送太政官、一通留本司」とあるもの、色別具注」とある。

「此是戶令巧作貨易爲工居諸興販爲商」これ大寶戶令の文を引けるものなり。唐六典卷三、戶部郎中員外郎の條には、「辨天下之四民。使各專其業。凡習學文武者爲士。肆力

賦役令云。其非年常支料。別有營作。卒須丁多者。並申度支處分者。令(今)此文云。支料之外更有別須應科折者。則彼文支料之外。別有營作是。而制令之日。省賦役令。此令不改故難會。但執此情合讀。支料之外。別有營作。仍更應科折是。假。蕃客可入朝。臨時可營造及貯備耳。又臨時別物造作者。上條設文。但著科折。二說亦无害。又上條爲營造。此文不必營造。凡臨時用物皆是也。或在京大橋暴水流失。臨時有營。其調度。木工寮中宮等是。以唐賦役令爲良。在穴。朱云。問。更有別須。應科折者。未知。所司之應科折歟。若中官可合科折心歟何。私案。官可行事何也。

者。亦申太政官。朱云。亦申太政官者。此亦前年所申者。未明。額亦同也。

解巧作條

凡白丁穴云。白丁謂正丁也。老丁。有歲役故。亦同也。中男、殘丁無役。故不合也。問。驛丁烽子等何。答。有本役之徒不合也。或云。師云。此亦可注。在穴。朱云。文白丁者。未知。有位何。若。依考文可知何。案。答。可然也。

有解雜巧作者。每年計帳之次。國司簡試。附帳申省。謂造別帳申民部省。釋云。戶令。亦有此事。彼明注著籍(簿)帳。此說造送別卷耳。古記云。附帳申省。謂別造帳申也。一云。計帳之下。注其所能也。*此是戶令。巧作貨易爲工。居諸興販爲商。一種耳。一云。戶令。爲長業立文。此條。廣知注人云耳。穴云。附帳謂別簿申也。省者民部也。跡云。附帳申省。謂別造簿申。朱云。附帳申省。謂附計帳使申者(省)、未明。中省者。民部省歟何。答。然也。額云。凡一部通例申省者。注文申省。省隨事色申官耳。但今時行事。申官耳者何。

貯庫器杖條

凡貯庫器仗。有生澁綻斷謂釆鐵生衣。是爲生澁。卽刀劍生衣。出內雜澁之類也。衣服縫解爲綻。假令。鎧甲斷貫之類是「也」。釋云。假如。釆鐵生

衣是。謂生澁。王逸楚詞注曰。澁難也。音色立反。古絶貫是謂綻斷。綻衣縫解也。音丈莧反。古*記云。生澁謂著佐婢也。綻斷謂富己呂婢絶也。穴云。庫謂在京諸國皆是也。

者。三年一度修理。若經出給破壞者。並隨事料理。朱云。若經出給破壞者。並隨事料理者。軍防令。其並修理文也。未知。此令。彼令別何。額云。彼此令可備耳。案文可知也。隨事料理者。隨壞則料理耳。不須三年者。穴云。料理。與修理一同也。

在京者。所須調度人力。申太政官處分。穴云。問。依此條。在京皆令修理軍器。何故軍防令云。在京庫者送兵部由。答。送兵部之後臨修理時。亦還充修理用耳。京職不役兵士者。依文耳。故云官處分耳也。

在外者。役當處兵士及防人。調度用當國官物。朱云。在外者。役當處兵士。及防人調度用當國官物。謂不申官者。額云。此亦申官者。官物謂於此正稅者。未明。凡有防人國兵士可有。不令意何。答。可有。而則有防人國者防人。兵士共可役者。額亦同。但兵士。防人之兵。各別備可修理者何也。

須女工條

凡在京營造雜作。應須女功者。釋云。雜作應須女功者。縫作之類也。古記云。*營造雜作。應須女功者。謂縫作舂米之類。穴云。營造雜作事一也。朱云。在京營造雜作。應須女功者。摠一事也。附營造雜作耳。未知。此臨時事歟何。額云。然。若有事外國亦同。但不申官者。

皆令本司造。謂縫部司也。釋古記。並无別也。

若作多。及軍事所用。量謂不濟謂謂者言也。濟者成也。言作多人少。事不可成濟者。「更」役京內婦女。其役京內婦女。不須給功直「也」。釋云。野王案。謂猶言也。國語賈逵曰。濟成也。穴云。京內婦女不充功役也。朱云。役京內婦女。謂充功不見者。額云。免其戶雜徭也。役馬如折充徭也。五位以上之女子亦同者。未知何。

者。申

耕桑ニ者爲レ農。工作貿易者爲レ工。居沽興販者爲レ商。工商之家不レ得レ預ニ於士ニ食祿之人不レ得レ奪ニ下人之利ニ。」とあり。されば我が大寶令は、唐戸令の文に傚ひてこの條文を置きしなるべし。

〔古記云生澁謂著佐婢也綻斷謂富己呂婢絶也〕佐婢はサビ（銹）なり。富己呂婢はホコロビなり。斯く邦語を以て注文を注すること、古記の一特色なり。

〔營造雜作應須女功者謂縫作舂米之類〕縫作が女子の仕事なりしことは、古今渝りなく、縫殿寮が采女の名帳を掌るは、即ち采女女孺等の女功が縫作にあればなり。舂米が女子の仕事なりしことは、神代記に雀を以て舂女とすること見え、推古紀に聖德太子の薨去に當りて耕夫は耜を歩め、舂女は杵することを止め

することと見え、日本靈異記に椅作女の話の見ゆることとによりて知り得べし。
〔土師器〕土師部の作る土器なり、陶部（スヱベ）の作るものと異る。

太政官。役京內婦女。

瓦器經用條

凡瓦器經用損壞謂陶器卽盤坏之類也。釋云。瓦器謂陶器也。土※師器亦同耳。何者土器雖易破。更不可作分。此簡大之義也。古記云。瓦器謂陶器也。土師器亦同耳。問。陶器不難破。土器稍安壞。未知。如何合同等。答。破壞之間。實稍有殊。雖然。更不合作除分。此是簡大之義耳。穴云。瓦土師器皆是。自餘木笥器等。无除法也。跡云。瓦器謂除瓺等外。盤窪坏高坏之類。或云。跡云。此謂盤坏高坏之類。但瓺甑皆(者)(等)不可除也。師云。瓺甑亦同。少不安也。在穴。朱云。瓦器者。未知。瓺等何同不。答。同也。先不同者。貞(眞)大非者。額亦同。貞說也。但木器不見者。者。一年之內。十分聽除一分。謂依元受數。總爲十分。若奇而不足者。准率爲分耳。其赤土器有損壞者爲分。亦與陶器同。何者十分外。更無爲分之法故也。釋云。依元受數可爲十分。若不足十分者。准爲分耳。穴云。十分謂以元受員爲十分耳。問。此條爲何司。答。凡受器供用諸司皆是也。跡云。十分謂通計元請數爲十分也。朱云。作十分義何元數賦。損數賦何。額云。元請數也。物色別可作十分者。上文云。土師器其易破。不見(可)此(作)文(分)者。未知。「何」可作分何也。以外徵塡。釋云。禮記鄭玄曰。徵召也。塡滿也。音徒賢反。

京內大橋條

凡京內大橋。朱云。京內大橋者。未知。大橋可有數。若最大一賦何。答。數可有也。額云。此臨時有耳。不有大路橋者。及宮城門前橋謂十二門前溝橋也。釋云。无別也。古記云。當宮門橋者。謂近衛宮之橋也。者。竝木工寮修營。自餘役京內人夫、謂以雜徭作「也」。釋云。以雜徭役。古記云。役京內人夫。謂雜徭是也。穴云。問。此條。稱橋生文。未知。於道路修理放下條哉。答。可然也。師云。唯(准)(作)橋不限時。隨壞修理耳也。不安。跡云。役京內人夫。謂充雜徭

駈使。下條。當界修理亦放此。朱云。自餘役京内人夫者。京職行事耳。下條云。當界修理者。此條亦放下條。先可役當條人。若不足後可役他條人者。私未明。何者此文。只役京内人夫故何。額云。不求當條他條者。又從壞則可修理也。不須九月者。

津橋道路條

凡津橋道路。毎年「起」九月半。當界修理。穴云。津謂泊船處。令无妨障也。朱云。津謂廣謂(諸)(泊)船津者。未明。當界修理。謂當郡也。凡此條。只爲外國賦。若於京内道何。上條。只稱橋故。答。上條。不云道者略文耳。額同。上條。道亦放橋。可役京内人夫也。此條。只爲外國者。案説者志然也。但先云。此條。可依也。京國不別故者。非也。額亦不同者。或云。額云。九月農時。但近國十月起調庸進。仍爲早作立限耳者。在跡。十月使訖。其要路陷壞停水。交廢行旅者。不拘時月。釋云。要路陷壞。廣雅。陷隤也。音戸猪反。又音臽。孝經。不陷於不義。野王案。陷猶墜入也。交廢行旅者。爾雅。廢舍也。旅猶客也。音力擧反。古記云。陷音臽。孝經。不陷於不義。野王案。陷猶墜入也。穴云。非要路者。上文云了故。別擧要路也。朱云。旅者衆也。行也。衆所行耳。或云。不拘時月。量差人夫修理者。可使五百人以下。如下條。且役且申耳者。在跡。量差人夫修理。朱云。此條。役雜徭也。非當司能辨者申請。謂當司者。當國之司也。辨者具也。治也。釋云。當司國司也。周禮。鄭玄曰。辨別也。説文。治也。字在辛部。音符蹇反。考工記。鄭玄曰。辨具也。説文。辨判也。音皮莧反。字在刀部。穴云。非當司能辨。謂不得辨調度也。辨具也。下條。爲役人具申。與此別。朱云。申請謂申官請處分歟何。答。然也。古記云。辨者謂具也。調度不堪備也。人功者非也。申請謂言上之也。

〔頭書〕六國史には、屢々諸國に課して船を造らしめること見えたり。天平寶字三年八月、新羅を征せんが爲めに、北陸道の諸國に八十九艘、山陰道の諸國に百四十五艘、山陽道の諸國に百六十一艘、南海道の諸國に百五艘を課して、合計五百艘の兵船を造らしめたるが如き、その著しき例なり。

〔頭書〕大宰主船、大宰府被管の主船司なり。

有官船條

凡有官船之處。謂除攝津及大宰主船司之外諸國有官船之處也。釋云。除攝津大宰主船司船之外。在諸國官船也。唯在諸國課役(船)。不入官船之限也。爲百姓脚直料作船故。此不在兵士看守之例。古記云。有官船之處。謂除攝津大宰以外。諸國特(時)在也。唯在諸國課船。*雖不在私船。不入官船之限。爲百姓脚直料作船故。即此不在兵士看守之例也。穴云。船艇爲是生文也。舶謂大船也。艇謂小船也。此船。爲不在船司。而在他所生文。若在船司者亦同。但令船戶守耳。私云。尋常行用小船者。無覆蓋故。私案。看守放此也。或云。師云。除船司之船。自餘官船者、不限大小皆同此文。獨非爲船艇生文。令釋同之。但百姓運漕課物之船、不在此限也。穴。在 皆遂便安置。並加覆蓋。量遣兵士看守。朱云。量遣兵士看守、謂度可謂國官船駄何。額云。猶可有耳者。 隨壞修理。謂以雜徭修理「也」。釋云。以雜徭修理壞船也。古記云。隨壞修理。謂船也。即役雜徭也。 不堪料理者。謂舟木朽爛不可更修造「理」也。釋云。舟木朽爛不可料理也。古記云。不堪料理者。謂調度非能辨。及須造替也。 附帳申上。朱云。附帳申上者。未知。何申上。若於下條。附朝集使申省何。答。隨壞附便使。先申上官。徵可至省耳者。未明。但下條。爲遣符人功。亦申太政官耳。 其主船司舟(船)者。令船戶分番看守。謂大宰府主船亦同。釋无別。古記云。其主船司舟。謂筑紫主船亦同也。朱云。問。何主船司之船。不云覆蓋心何。凡此三條。能可計會耳。未明。額云。此必主(主)船司可覆蓋耳者。

官私船條

凡官私船。或云。額云。此條。官私船者。大宰主船司船等。皆悉(歷)約者也。朱云。官私船者。未知。約主船司之船不何。 每年。具題(顯)色目勝受斛斗破除見在任不。謂帆、檣、梓之類。是爲色也。船(舶)艇之類。是爲目也。勝堪也。受載也。言船腹孔所容受之多少也。破除者減失也。

〔謂船舶艀艇及速嶋難波伊豆之類〕船に國號を附すること、奈良時代よりの慣習なることを見るべし。

〔穴云大水謂江河是也與古令別也〕前述の如

任不者。猶用與不用也。釋云。色目。假如舶艇之類。爾雅。勝堪也。野王案。受猶容納也。破除。謂破失見無耳。任不謂用與不用耳也。古記云。色謂樟楫之類。日謂舶船艀(遊)艇及速鷗(鳥)難波伊豆之類。勝受也。所堪謂之勝也。破除謂亡失也。不謂見在之中可用。不用也。跡云。色目謂舶(船)或艀(遊)艇之類。見在任不謂任用。或不任用也。破除。舍破失也。或云。色目者一事者。在跡。附朝集使申省。朱云。申省謂兵部者。未知。先申官不何。答。先可申官者。額畧說。或云。申省者。先申官。後至省心耳。者(省)兵部也。案職掌卷可知之。在穴。或云。申省者。凡一部通例任文申省耳。省隨事色可申。色者可申官耳。但公文可進官耳。今行事。先申官耳者何。在跡。

官船行用條

凡官船行用。朱云。官船行用者。未知。主船司船。及餘官船皆同不何。額云。皆同也。或云。官船行用者。船以下皆是也。在穴。若有壞損者。隨事修理。朱云。隨事修理者。不申官者。或云。隨事修理者。用船之司修理耳。在穴。若不堪修理。須造替者。古記云。須造替者。謂留舊所去惡所。加作成及更造之類也。預料人功調度。申太政官。朱云。料人功調度申太政官者。未知。差專使申不何。答。附便使等申耳。若无便使。差事使申耳者。

近大水條

凡近大水。有堤防之處。謂大水者。江河及海也。隄防者。隄塘也。防障也。釋云。近大水者。大江大海是。有隄防處者。說文。隄塘也。音度黎反。賈逵注國語曰。防障。古記云。大水謂大江大海是。*穴云。大水謂江(近)河是也。與古令別也。國郡司以時檢行。朱云。以時檢行。謂時時耳。若須修

理。每秋收訖。量功多少。跡云。每秋收訖修理。謂充徭修理。不限日多少。朱云。每秋收訖。謂上條起九月半。當界修理者。一義耳。額不同也。可准當土早晩。者何。自近及遠。釋云。釋見賦役令。古記云。以近及遠。謂先以近隄防人修理。不堪者。以次側近人爲役。朱云。自近及遠。謂一國內者。未明。額異也。未知。近人役幾日可及遠人。若此文以近人遣遠所心敵何。答。先役近所人後役遠所人情耳。但先役近所人日限宜量耳。私先不同也。額同貞也。差人夫修理。釋云。諸條。營繕營造造作修理料修理營。義同一種尤別。通新舊作。隨事便耳。終條。古記云。諸條營繕營造造作修理料修理營者何別。答。一種尤別。通舊作新作用。隨事勢尤一定理。若暴水汎溢。謂甚雨爲暴也。汎音浮也。溢者滿也。釋云。字書。暴疾也。甚雨曰暴。音薄報反。說文。氾濫汎浮也。方言汎浮也。音浮劒反。爾雅。溢盈也。音夷質反。顧野王。暴作瀑字。古記云。汎孚劒反。禮記。疑獄汎與衆共之。野王案。汎謂普情也。說文。汎濫也。廣雅。汎廣也。溢。餘質反。孝經。滿而不溢則溢者。謂盈而出也。朱云。暴者疾也。反。毀壞堤防。交爲人患者。先即修營。不拘時限。應役五百人以上。謂役雜徭也。人數已多故申送。其於正役者。雖不滿五百人。理必申上。爲折其庸故也。釋云。役雜徭也。不足五百人者。不申官故。見唐令。*文唐醫疾令云。行軍及作役之處。五百人以上。太常給醫師一人。此令除醫疾令。五百人文注於營繕令相通可讀。私案。若徭盡者。厚充功食役。先申官。後役耳。額不同耳。穴云。應役五百人以上。謂不論日多少。總。一日合役五百人以上。是又不論雜徭兵士。應役五百人者皆同。問。此條。徭夫而申由何。答。爲役人員多所申是。問。此文先爲要月。未知。於閑月修理何。答。合役五百人以上者亦申耳。但不日役也。問。軍防令城隍條。役訖申官。此條亦申。未知。申徭夫由何。答。此是爲人數多事。及城隍事等申耳。未意。不謂爲徭。凡天下傜夫。除兩條所云之外。皆不申官也。私案。可

［一］大寶令の本條には「凡近二河及大水一」とあり、養老令は「河及」の二字を省けり。故に古令の大水には河は含まれざれど、新令の大水には江河ともに含まれたるものと解釋すべし。これ穴記が古令の大水と別なりと云へる所以なり。

［二］文唐醫疾令云行軍及作役之處五百人以上太常給醫師一人此令除醫疾令五百人文注於營繕令相通可讀　唐の醫疾令には、「行軍及作レ役之處。五百人以上。太常給二醫師一人一」なる條文あり。我が令は醫疾令にこの五百人以上なる文を除きて、これを營繕令の本條に注せり。故に我が醫疾令には、五百人以上の文なしと雖も、本條と相通覽して、五百人以上の意に解すべしとなり。されば我が醫疾令には、五百人以上なる文

を除ける右の唐醫疾令に相當する條文存在せしなり。唐の太常等に當るものは、我が國に於いては典藥寮及は宮內省なれば、我が醫疾令には恐らく「凡行軍及作役之處、宮內省給二醫師一人一。」なる條文ありしならむ。然れども この集解の文を「此令除二醫疾令一。五百人文注二於營繕令一。」と讀むときは、我が醫疾令には、この唐醫疾令に相當する條文なく、その中の五百人以上の文のみ、本條に注せられたりとの意となるべし。されどこの文斯くの如き意なれは、必ずや「此令除此條」と云ふべし。故に余は之を前の如く解するなり。

[管子]齊人管仲の撰と稱するも、その然らざること朱子以來の定說なり。日本國見在書目錄は、隋書經籍志に倣ひて、これを法家に列

役五百人以上。謂單功滿五百人。是不得過五日。謂五百以上者。或千萬功可有。故云。每人不過五日。假支料人功。可入五百功者。且申官。且役。其見役人數者。或只七八十耳。或一百耳。若可千功者亦同。師不同之說。正役人不可設者何。跡云。此五百人以上合申上。以外不申上。朱云。額云。不可申者何。但充正役合役者。雖一人以上合申上。朱額云。條皆充雜徭合役。但役五百以上。「不」滿五百人者不申上也。朱云。役五百人以上。謂摠計所可役之人功五百人以上者。未明。後反了。但先同此說耳。或云。五百人以上者。一日役五百人以上。每人可經五日時者非後反。同此說也。額亦同也。

者。且役且申。若要急者、軍團兵士。亦得通役。謂上番之兵士也。朱云。若要急者。軍團兵士亦得通役。謂役五百人以上時。不足五百人時。不論要急者。尙役者。**所役不得過五日。**謂既是要月。故不過五日。若秋收之後。不必拘此限。隨事役之。其雖秋收之後。而應役五百「人」以上者。亦不得過五日「也」。釋云。要月役幷五百人以上時也。古記无別也。穴云。不過五日。謂一番若作多者。更亦爲番役五日。又此文。爲要月限五日。或云。師云。不得過五日者。役使五百人以上者。每人不得過五日耳。假令。以五百人役五日。不堪者役六百人。以六百人役五日。不堪者役七百人之類。役五百人一日以上。五日以下之意耳。在穴。跡云。五日謂要月之時也。朱云。所役不得過五日。謂庶人。兵士无別也。額同。若每人役五日。不足人功。亦更作番。每人役五日者。未明。後反云。若一國內人每人役五日。不足人功申官耳。不可更亦役者。未明。所役不得過五日者。未知。此文。只爲五百人以上役時歟。若廣約文歟何。廣約文耳。別記讀了。額亦同也。

堤內外條

凡堤內外並堤上。多種(殖)楡柳雜樹。古記云。隄都奚反。說文。隄塘也。管子。作樹。以荆棘是也。楡謂此間俗稱爾禮木也。**充堤堰用。**謂堰所以畜水而流者也。釋云。野王案。堰畜水而流也。音於建反。*顧野王。作堰字。古記云。堰於建反。左氏傳。規堰潴。杜預曰。堰潴下濕之地也。野王案。堰所以畜水也。堰

謂防一種。此間。俗謂川與奇也。堰謂井塞。穴云。上文云。隄之所亦可有堰。何者下文云。充隄堰用之故。朱云。充隄堰用者。未知。古而自中用歟。若代取充用歟何。先等云云。此文稱充堰用。而則先代取可充者。私同也。

令集解巻三十

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　員外宰相藤判

本云

弘長二年三月朔日年臥病席見合本書加首書畢（了）　權大納言藤在判

建治二年五月廿五（九）日引合正親町之本校合畢（了）

慶長戊戌夾鍾十一日於「青黎」下　吏部秀賢判

以清家之本寫之寬永甲戌一校了　中原職忠

萬治四辛丑季春八日令一校畢　羽林中郎將藤原

右一冊以神村先生之藏本使書□

……り。（顧野王）顧野王の撰なる玉篇を引けるなり。玉篇は説文を増廣せるものにして、注訓は博く經傳を引き、馬融、鄭玄、何休、孔安國、賈逵、杜預、王肅、鄭衆等數家の説に及べり。その自ら案を加ふるものは、野王案の語を加へたり。本書屢々野王案の句あり。即ち又玉篇を引けるなり。野王この書を撰する後、簡ならずして、蕭愷等之を繁雜なりとして改刪せり。又唐に至りて之を増損する者數家あり、則天武后の上元元年、孫強の増字せるものを上元本と稱す。宋の眞宗の大中祥符六年に至りて、陳彭年等詔を奉じ、上元本によりて更に増損せり。今存するものは之なり。我が國に傳へられたるものは、蓋し以下の増損を經ざるものにして、佐世の一

目錄には「玉篇卅一卷。（陳左將軍顧野王撰）」とあり。本書に引けるもの亦野王の時の原本なること、「野王案」の文字あるによつて知らる。增損本は甚しく注文を删去したれば、野王案等の語は毫も見るべからず。而して我が國に傳はれる原本は、今その完本を見る能はざるも、奈良東大寺、久邇宮家等にその一部分を存せり。明治の初、清の黎庶昌我が國に公使たりし時、之を得て古逸叢書に收む。茲に於て千有餘年亡佚せりと稱せられしもの、再び世に出でたり。本書に引ける逸文を拾ひ集めて、古逸叢書本玉篇の缺を補へば、學者を益すること多かるべし。

明和戊子歲季冬　越智通邦［印］

己丑正月畧一覽加朱書了

庚刁三月廿八日以京師本一校了

丁酉三月廿九日與河子栗一會了

文政三年正月以彰考館本比校畢　撿挍保己一

令集解卷卅一　公式一 始條以下便奏式條以上。

公式 謂公文式樣也。此令。亦有驛鈴傳符等事。而止以公式爲名。舉其大者耳「也」。釋云。公式令。謂公文樣式令耳。古記云。公式將錄式也。跡云。謂錄公文之式。此中餘事等亦在耳。

令第廿一

凡捌拾玖條

詔書 謂詔書勅旨。同是綸言。但臨時大事爲詔。尋常小事爲勅也。問。臨時少事尋常大事何。答。檢諸公云。可宣命者。必作詔。不可宣命者勅也。古記云。問。詔書勅旨若爲其別。答。詔書謂臨時在必作物。今令云命檢可宣命之事。皆此大事。論不可宣命之色。皆此少事。又同而何也。勅旨謂尋常行事。穴云。問。詔書與勅以何爲別。答。臨時云詔。尋常云勅。於詔書中有小事。答。優劣詔書之中。有小事。於詔與勅非謂大小耳。云勅也。非以大小爲別也。私思。此條。爲可宣命事生文。下條。爲不可宣命事生文。案當條文可知。然則宣命者爲行臨時所宣而所謂爾也。即知。非可宣命事者。不論大少。皆須爲勅書。可宣命事者。不限大小。皆爲詔書也。師從。又問。若有可宣命之事。而遣勅書出者。依勅旨式行哉。又有不可宣命之事。而遣詔書出者。受行如何。答。事可宣命。必作詔書。不可宣命者。必作勅旨。若違失者。故不隨狀行耳。可求。問。敕降爲何式哉。答。詔書耳。朱云。詔書者。臨時尋常大少事皆約。但爲宣命色爲詔書。不爲宣命。而可行。爲勅書者。未明。不同。額後度反。不決也。然略不見也。尚如先。跡云。問。詔與勅旨

〔隣國者大唐蕃國者新羅也〕唐を隣國と稱しこ、蕃國と稱せざるところに、當代人の風潮を見るべし。

別何。答。詔大事。勅旨少事。朱貞不明決。乃云詔。臨時事物。尋常者未明事云云耳。額亦同之。

式。

明神御宇日本天皇詔旨。 謂以大事宣於蕃國使之辭「也」。釋云。宣蕃國大事辭。古記云。御宇日本天皇詔旨。對隣國及蕃國而詔之辭。問。鄰國與蕃國何其別。答。隣[※]國者大唐。蕃國者新羅也。朱云。宣蕃國辭謂。我化内來時宣辭耳、非宣遣蕃國。市十令案(安)指宣使之辭也。但宣遣蕃國之辭。可求之。額不同也。但事大少可有式之也。私若臨時可定大少哉何。穴云。令釋云。元條。次條宣蕃國辭。謂遣蕃國其蕃使朝聘時亦同。師同。問。蕃使來時。以二條宣一使歟。爲當。以使大少隨用歟。答。於一使或用元條。或用次條耳。私思。於同使請。大事者用上條。諸少事者用下條耳。定大少者不見令條。臨時可量耳。問。蕃國與鄰國有別哉。答。合有也。假。遣蕃國者用此式。使來時亦同。通隣國者合別勘。不依此式。但使來時合放用此式也。无別條故也。未審。可檢。**云云咸聞。** 跡云。咸訓如悉。

明神御宇天皇詔旨。 謂以次事宣於蕃國使之辭也。釋云。宣蕃國次事辭。穴云。次二條朝廷用辭。事大少臨時可量定。不見法條之故。**云云咸聞。**

明神御大八洲天皇詔旨。 謂用於朝庭大事之辭。卽立皇后皇太子。及元日受朝「賀」之類也。釋云。宣大事辭。元日之類。朱云。國内大事者。一端元日宣命等者。額同。或云。不然。此臨時大事者。未收(决)。古記云。御宇御大「八」洲者。並宣大事之辭也。於一事者任用耳。問。大八洲。未知。若爲。答。日本書紀卷第一云。因問陰神曰。汝身有何成耶。對曰。吾身有一

陰元之處。陽神曰。吾身有雄元之處。思欲以吾身元處合汝身之元處。於是陰陽始遘合爲夫婦。及至産時。先以淡路洲爲胞。意所不快。故名之曰淡路洲。等(廼)生大日本日本。此云耶麻騰。下皆效此。豐秋津洲。次生伊豫二名洲。次生筑紫洲。次雙生億岐洲與佐度洲。世人或有雙生者象此也。次生越洲。次生大洲。次生吉備子洲。由是始起大八洲國之號焉。卽對馬嶋壹岐嶋及處處小嶋。皆是潮沫凝而成也。穴云。問。文稱大八洲者。若有(號)計之方哉。答。古(答)(記)(三)有號計之事。不可新言。然則安彼可知耳。

云云咸聞。

天皇詔旨。謂用於中事之辭。卽任左右大臣以上之類也。釋云。宜次事辭。任右大臣以上之類。**云云咸聞。**

詔旨。謂用於小事之辭。卽授五位以上之類也。釋云。宜小事辭。授五位以上之類。古記云。天皇詔旨書竝同。皆宣小事之辭。**云云咸聞。**古記云。云云聞宣者。左事攄云云。

年月。御畫日。穴云。御畫日謂御自畫十日廿日耳。古記云。問。年月日。未知。誰筆。答。御所記錄年月日耳。何知者。以本令云御畫日故。朱云。御畫日謂假如。云一日二日耳。

中務卿　謂其於大少輔。重注中務者。詔書事大。所以重言。卽勅旨式既不重注。是制作之情。固有差別也。釋云。大少輔上中務二字贅文耳。何者唐令此式云。中書令。中書侍郎。中書舍人者。各是官儀闕一字。今非其名。古記云。問。中務卿大輔少輔。未知。毎人稱中務也。答。如式放耳。穴云。詔書者稱輔以上。但注中務字也。師依令釋爲是。或云。卿若不在者。於大輔下注宣。

〔問詔勅誰造答内記造〕これ職員令、中務省條に「大内記二人。掌下造二詔勅一凡御所記錄事上、中内記二人。掌同二大内記一、少内記二人。掌同二中内記一」とあるに據れるなり。

小輔下併注奉行。若不重大輔上中務二字者。无卿而行詔書之時。不注中務二字。以(輿)故重此二字耳。不安。何者假令。於勅旨式。若无卿者。不注中務字哉。此說不通。勅旨者。兩輔之上。无中務字。兩條之別依式習耳也。

位臣姓名宣。中務大輔位臣姓名奉。中務少輔位臣姓名行。

謂凡詔書者。内記於御所作訖。即給中務卿。卿受詔書更宣大輔。大輔奉「以」付少輔。令送太政官。故曰宣奉行也。釋云。詔書者。令内記御所記錄。即給中務卿。卿受詔宣大輔。大輔受付小輔令行。少輔送太政官。故注宣奉行耳。古記云。*問。詔勅誰造。答。内記造。又問。中務不覆奏何。其意。答。召中務給。故不覆奏。問。名下注行字。其意。答。其人親行宣故。注行字。又施行意。跡云。宣。奉。行。謂御畫日訖。召中務卿給。則卿宣大輔。大輔奉授少輔。少輔自寫繕宣奉行三字。所以注附者。後宣奉行人。爲尤知而注附耳。朱云。中務官人。在本司可注署名宣奉行也。穴云。詔書召卿給。卿宣大輔。大輔奉令少輔行。少輔受行。故云爾耳。問。所以注宣奉行爲何用耶。答。詔書此事大重。今爲爾承詔。而宣施行之狀注附。又爲後知其人耳。云。私。宣奉行及姓已上字等。並小輔所書也。卿大輔只注名耳。

師同。

太政大臣位臣姓。

謂自是以下。皆是外記之於自中務來詔書之後所注記。故外記職掌云。勘詔奏也。跡云。從太政大臣以下至月日。此外記所書。但姓字。右大臣以上自署。納言亦自署名。然外記問(間)置於大納言名處(所)。令盡不預史生等。但外記掌詔奏勘耳。故外記所盡可知也。朱云。中務官人幷太政大臣等。不參本司。不預事者。不可注名所者。額同。但不在長故。等待

可行耳者。

左大臣位臣姓。

右大臣位臣姓。

大納言位臣姓名等言。**大納言四人事** 謂大納言四人。皆共連名。於最後名下。乃注等言也。釋云。大納言四人。但署最後名次注等言耳。穴云。大納言四人共署也。師云。尤後名下。注等言云云耳。

詔書如右。謂依下條。詔字是合闕字。而今平出。即是誤失也。穴云。此式。詔字平出。依式習耳。不依下條也。＊請 跡云。請謂如乞之也。奉　詔。付外施行。謹言。

年月日

可。御畫。古記云。問。或本年月日先「耳」。或本「可」御畫先。未知。所從。答。年月日先書。合道理。

右御畫日者。留中務省爲案。別寫一通印署。送太政官。謂御畫日

＊「此式詔字平出依式習耳不依下條也」下條平出條に「大社、陵號、乘輿、車駕、詔書、勅旨、明詔、(中略)右如レ此之類並闕レ字。」と見えたり。

者。依勅旨式。取署留爲案。爲顯宣奉行故也。但以御畫爲驗。不可更印。卽下文「云」。畫可訖。留爲案者。亦准此也。別寫一通者。少輔自寫。爲判官以下不得參預也。釋云。御畫日者。依勅旨式。取署留爲案耳。爲顯宣奉行故。但不印也。何者文云別寫印署故。寫謂少輔以上寫。爲判官以下无預知故。一云。史生可寫。爲職掌故者。非至太政官外記可寫。職掌勘詔奏故。跡云。留中務省爲案。謂少輔以上依式署。爲審署詔勅文案故。又少輔自寫耳。或說云。令史生寫者非。何者詔勅未宣行者。非司不合得(輔)輒看故也。朱額云。記宣。奉。行了後。史生可寫者。未明何。畫可訖。不捺外印而直爲案也。朱先云。在可御畫內。故更不印。朱云。職員令。中務卿職掌云。審署詔勅文案者。則知。留案亦可署名。而何稱於勅旨式署名哉。答。雖依彼令可注。而此式只稱留中務省爲案。不云署名。故云爾耳。无別意者。留省爲案者。不可爲印者。或云。署名之所可印者。不收。額云。印无妨。寫一通印署送太政官。謂廣皆印更寫故也。穴云。留爲案。謂依勅書式署耳。跡云。掌審署詔勅文案故。所留之案亦署耳。問。印何。答。印於署上也。師云。不見可印事也。御畫日。已上不合也。師云。印署送太政官者。明神以下少輔位臣姓名行也。已上皆悉可捺。不言別故。事檢。可反。送太政官。謂少輔以上送耳。私案。於勅旨。令史生送爲是也。爲覆奏訖之也。後日定少輔已上送耳。不依古私記也。畫可訖。留爲案。問。印哉。答。不印。爲在自可字内故也。師同。古記云。問。詔書者寫二通。留中務爲案。未知。誰寫。答。少輔以上寫。何知无制官以下連署之文。一說。大錄可寫也。又問。寫二通。一通留中務爲案。未知。正詔書在何處。又詔書者連署在不。答。詔書亦在中務省。但非連署耳「之」。**大納言覆奏。**

畫可訖。留爲案。 跡云。大納言覆奏。謂中務官人署畫(畫)未印。太政大臣以下。自署姓字。不捺外印。直奏也。**更寫一通。誥。** 穴云。更爲誥寫。故只寫詔書云云狀。年月日不合寫中務以下也。師同此說。朱云。更寫一通誥。謂不捺印。此只寫取詔書辭誥諸司。卽毀弃也。不可署「案」云云也。**訖施行。** 謂凡施行詔書

〔古令勅符式〕古令には勅符式と見做さるる條文ありしが、新令に至りて削除せり。この事下に引ける穴記に見えたり。然れども勅符なるものは、軍防令にも見え、養老以後も行はれたり。新令は唯その式を公式令より除けるのみなり。本朝文粹には、元慶三年四月廿八日の觸穢祓詔の勅符見えたり。

〔今行事詔書副官符下者依古令不改〕養老令施行以後に於いても、實際の行事が古令の儘に行はれたること、之によりて知るべし、されば養老令施行以後に於ける令釋、穴記等が屢〻古令の意によつて論をなせることも怪しむに足らず。何となれば、當時の實際の行事者は、皆一面古令時代によりて、

者。於在京諸司。直寫詔書。副官符行下。若其外國者。更謄官符施行。故下條云。太政官施行詔勅。案成以後頒下者。各給寫程也。跡云。詔(記カ)施行。謂有可下於外國者。謄詔可出官符「而」者。下條云。太政官施行。詔勅案成以後。頒下給寫程者。則知。謄詔新謄詔成案。又古令勅符式故也。*今行事。詔書副官符下者。依古令不改。又計會式云。合詔勅若干者。此謄詔勅官符耳。但下在京諸司者。中務并官署之詔書。成謄詔官符。皆悉同耳。勅旨條。故此更寫一通。詣之施行。謂更不合經中務。直至所司。朱云。但中務并中務撰官等。可直行事者。更官可施行中務省。中務省自它(元)知詔書内事必(止カ)。侍(待)官施行可行事。何者既依官符日月爲案可行故。而今行事吏復至中務。中務移大藏省耳、朱云。此說下令心也。或云。私案。下條云。詔勅頒行。關百姓事者。行下至鄉。皆令里長坊長。巡歷部内。宣示百姓使人曉悉者。今依此文。止詔勅可至外國明知乎何。在跡記。朱云。詣之施行。謂只寫詔書捺印。制。副。官符出行耳。詔書可无人之署名。未明。先不同。可依此式者。而貞不同也。猶亦云云耳。凡詔書之體者。爲行在京也。於下外國別錄也。又額云。詔書可下外國者。謄詔官符。摠作一紙可下。更須不可副官符。若如此式。詔書下者。於其道給詔之狀。官符吏副可給耳。但下在京諸司者。吏不可謄者。然件說並未明。穴云。問。更寫一通。詣之施行者。未知。行下之日。可宇已上皆寫哉。又捺印如何。答。師云。爲請所寫。然則御畫日已上施行也。然則中務已下不可寫之。然則吏不可須署名。此說。可反(檢)。於又行下之時下諸國者。捺内印。下在京諸司者。捺外印也。事可謄書。私思云。此說不合式者。仍須任式寫明神已下可宇已上施行。但於印者如前說也。爲不謄而施行者兩事耳。謄寫同文之。問。於不謄之說。下條。詔勅案成後頒下者。給寫程。又准謄詔勅之文何可至日。答。太政官覆奏而畫可字了。而大納言請之。此爲案成了。又爲行所之詔勅。今有可稱之。而乃謄此。爲謄詔勅符等也。施行。謂或謄或不謄。而下諸國諸司。故下計會式云。合詔書若干。又軍防令云。須見勅符。又云。賣詔書勘合符者。又飛驛等有也。一云。下外國者。謄而出官符。不明。私案。古令有勅符式。故不謄。端見。今無令者其文。故下條云。太政官施行。詔勅案成之後頒下。給寫

學說疑はしきときは、行事によりて之を決せり。故に彼等が時の行事となれる古今の意によりて、新令を解することは有勝のことと云ふべし。

〔椋屬〕椋云、椋橋部、椋晢等と云へると等しく、椋橋部家長なるべし、屬は恐らく大判事屬なるべし、川枯首勝成の如き名明法家も帶てこの職にありたり。

〔職制律釋〕律附釋の職制律の篇なるべし。

〔答皆寫送辨官辭官受付耳爲管八省故也〕職員令、太政官條に「左大辨一人。掌ニ管中務式部治部民部一。(中略)右大辨一人。掌レ管ニ兵部刑部大藏宮內一」とあるに據れるなり。

程。即知。勝出之言。有所據也。又唐令云。尚書省施行。制勅案成。以後頒下。各給鈔寫程。總計符移關牒。二百以上(下)一日程者。即明。勝出也。故兩在。師云。於詔書者。可有勝不之時。但於勅書下諸國者。必勝可用。若下京官者不可勝。何者除勅符式之故。於勅必可勝。於詔不可一(二)執。不案。可檢。後定。詔書者。皆不可勝。問。不勝而下國。行事何。答。副(制)符下耳。時行事亦如之。凡於詔書不論在京在外。或勝出。或寫正詔施行耳。此事律是可案也。於在京。合有勝出。故令釋解。或假令。式部解云。被太政官其月日勝勅符偁者。此是於在京勝勅之端見耳。見職制律釋耳。又縱令。勝於外記造了。即辨官爲事受付了。辨官勝而正案還外記。於事不便。私云。可勵時行事。抑詔書勝爲符施行樣未見。如何處分。凡詔書忘程者坐外記。勅書坐辨官耳。問。下在京諸司於不勝之色。未知。辨官有預知哉。答。皆寫送辨官。辨官受付耳。爲管八省故也。師云。詔書施行之日。以案付辨官。令寫行。行了之後。其案返外記耳(者)。可知。問。詔勅案有留辨官哉。答。不有也。師云。勅書案可在辨官。但詔書之案上述了。凡詔書案留於外記。更寫付辨官。令付行。若合勝者。辨官勝而出符訖。其詔書正文還外記也。爲不合有詔案故也。但勝詔之案有耳。送太政官之後。爲宣行訖。仍不禁者。勅旨亦同。私案。送官日。少輔自送案。此心防他人見突。然則於官未覆奏之間。非外記與大納言以上者。不得見也。師同上說(記)。私宮衞令云。詔勅未宣行。非司不得輒看。義解云。未宣行。謂未送太政官。非司不得輒看。謂除中務少輔以上之外。皆爲非。司恐未施行前。非司輒看故。設此制。古記云。問。宣訖付省施行。未知。宣方。又施行方。答。有棐案宣。或直付省施行。或太政官造符施行。或直寫詔書施行也。付省謂八省所由之省也。

中務卿若不在。即於大輔姓名下注宣。少輔姓名下注奉行。大輔亦不在。於少輔姓名下。併注宣奉行。謂若卿一人在者。亦准大輔也。跡云。卿大輔在者。於少輔名下耳。朱云。尤大少輔者。卿下注宣奉行

者。

若少輔不在。餘官見在者竝准此。謂大少丞竝在者。亦以次注宣奉行。爲准少輔以上故也。前令云。少輔不在者。竝丞見在者准此。今改云餘官見在者。故知錄亦得。釋云。大丞少丞在者。以次皆署耳。爲准少輔以上故。跡云。餘官見在。謂假无輔以上官者。判官三人准此合注。朱云。續不同云。此非正職掌也。不可令知數人故者。未知。適者說何。雖有三人。只一人可預行也。朱云。有判官日不及主典也。但判官以上專无日。主典行耳。不可事止故也。穴云。若少輔不在。餘官見在。竝准此。謂准此少輔。假丞四人。於一人下併注宣奉行。不依先說。師不依之。一云。假。有丞三人者。各注宣。奉。行。師曰。此注。若丞一人與錄二人者。各且注宣。奉。行耳。丞一人之下併不注宣。奉。行也。師云。丞一人之下。注宣奉行。不注錄下。准有輔一人時之故。古記云。問。丞見在丞(竝カ)准此。未知。大丞皆署。答。然也。一人署皆不合之也。

勅旨式

勅旨式

勅旨云云。謂施行之法。一同詔書也。釋云。勅旨不下諸國。若有可行下者。謄勅之官符下耳。其計會式之詔勅者。謄詔「書」勅之符也。何者職制律。詔書稽程條云。謄詔勅移之類。皆是。故。軍防令。須契勅勘同。始合差發者。飛驛式勅是也。不渉勅旨式。何者除勅符式故。古記云。問。勅旨云云。未知。詔勅。書勅。答。書也。穴云。下外國者。謄者新令問答所云。但案之。謄色。不謄色。各可有一端。軍機急速等。飛驛式下並勅上隨了。師異說上條了。私思。詔書。若有人有名數者。須注云云。云云耳(所)。師同。

年月日　古記云。問。年月日中務俱不。答。從内署出。問。尤丞署前有錄署。若爲其意。答。文誤也。於理署丞名後。乃可署錄名。又說。案下文。專當史署。明知。非專當史及判官者

不署。上可云也。

中務卿位姓名。

大輔位姓名。穴云。問。大輔以下有中務字耳。闕字。而平出何。答。依式習耳。

少輔位姓名。

奉　勅旨如右。謂自奉勅。至少辨位姓名。皆是辨官史所注也。古記云。問。奉勅旨如右。符到奉行。未知。誰筆。答。中務筆也。跡云。奉勅旨如右。謂太政官所注也。符

到奉行。穴云。符到之字。依式習耳「之」。

年月日史位姓名。

大辨位姓名。

中辨位姓名。

少辨位姓名。

〔時行事錄送〕此前令錄署名仍因循耳」實際の慣行は、令釋の作られたる時代に於いても、「時行事錄之」と太政官に宮行り」これ大寶令本條の式には錄の署名ありし故に、之に因循するなり。前に「今行事詔書副官符下者依古今不改」とあると略ぼ同意なり。
〔返抄〕受取り證書なり
〔外印〕太政官の印なり。下條に「外印、方二寸半、六位以下位記、及太政官文案則印」とあり。

右受勅人。宣送中務省。穴云。受勅人不明其色也。侍從等耳。問。勅旨送中務日。有內印也。答。不合也。跡云。勅旨云云。年月日。此不捺印故。中務覆奏耳。古記云。問。詔勅尤印之文何。答。案下條。踏印之文不見也。中務覆奏訖。依式取署。留爲案。跡云。中務覆奏。謂侍從奉勅。宣送中務。中務卽以其勅書覆奏訖。取署印捺爲案也。穴云。依式取署。謂先不署奏訖乃署耳。印如上條也。師異說上條了。更寫一通送太政官。謂准詔書。印署送。是詔書勅書。互相發明者也。釋云。此亦少輔以上可送。何者爲宮衞令云。詔勅未宣行者。非司不得輒看故。時行事錄送。此前令錄署名。仍因循耳。送太政官牒。依上條亦印署耳。跡云。送太政官書亦捺省印。與上條互相明耳。穴云。送太政官。謂送於辨官也。師同之。辨官申官長施行。師云。送辨官勅書。中務亦正連署。與一、條互相施耳。古記云。問。更寫一通送太政官。於詔書有文。未知。誰色人送。答。少丞以上。又問。年月日下注錄名。仍錄以上送。何煩。問。若送諸司者。連署留爲案。更取諸司返抄。未知其義。答。不經太政官。直送於諸司爲連署。而留爲案。後中務更取諸司返抄。※一云。此條。送太政官。謂送辨官。卽送史生等。唯召付諸司。中務不爲送也。此是令行事。又不取返抄。唯云月日付位姓名耳也。少辨以上依式連署。留爲案。穴云。少辨以上。謂大辨以下也。更略文也。朱云。少辨以上。依式連署。留爲案。謂不捺印也。不捺詔書案故者。而此令官加筆所云云耳。其初捺中務省印故。未知。而何。外印卽六位以下位記及太政官文案者何。答。先云。此不可云太政官文案耳者。額說不定耳何。更寫一通施行。跡云。問。更寫一通施行。未知。假令。此勅書令至大藏省者。中務署名皆寫者。答。皆寫令送。但令出外國者。勝寫令用官符也。朱云。更寫一通施行。謂寫勅書欲捺印。副官符用行也。不勝者。未

〔仍下諸司諸國諸符牒通計五十紙以下一日程程稽者依律令坐〕下條受事條に、「太政官施行詔勅、案成以後頒下者、給二寫程一。五十紙以下、一日程。過レ此以外、每二五十紙以上一、加二一日程一。」云々とあり、職制律に「凡稽二緩詔書一者。一日笞卅。(謄詔勅符移之類皆是。)二日加二一等一。罪止二杖一百一。其官文書稽程者。一日笞十。三日加二一等一。罪止二杖八十一。」とあり。

〔若失錯及稽程者可覺擧納言已上之所爲〕名例律に「凡公事失錯。自覺擧者。原二其罪一。」云々と見えたり。

明。後返云云。具別記也。然此依稱不勝之說所云耳。額說。詔書條了。穴云。師云。施行之日。只寫勅云云。年月日并奉勅旨如右。以下少辨位姓名已上。但不寫中務卿以下少輔已上也。不安。可反。辨官施行之日。亦少辨以上可正連署。私案。仍*下諸司諸國諸符牒通計。五十紙以下一日程。程稽者依律令坐。若*失錯及稽程者。可覺擧納言已上之所爲。行下他司公文也。若事發者。納言已上依法科斷。坐辨官ゝ。

其勅處分五衛。及兵庫事者。本司覆奏。謂雖中務覆奏。而本司又覆奏。宮衛令云。中務衛府俱奉勅者。不可覆奏故。但衛府奉勅者。中務不奏之。釋云。中務雖覆奏。而本司又覆奏耳。何者宮衛令云。中務衛府共奉勅者。不「合」覆奏故。但衛府奉勅者。中務不奏。古記云。問。其勅處分五衛及兵庫事者。本司覆奏。未知。其意。答。不關中務。而直勅耳。又雖經中務。亦可覆奏也。跡云。本司覆奏。謂雖中務覆奏訖。猶亦合覆奏「也」。穴云。本司覆奏。」謂雖中務覆奏訖送辨官。辨官送府庫〔事〕。府庫更覆奏耳。不由辨官。而徑至府庫者。不合有也。〔問。下條云。事有急速。不合出勅旨。若事依太政官恐遲緩者。中務先移所司。其正勅後行者。未知。中務移所司行事如何。答。造移文可送。但載勅云云狀耳。正勅後必可之故。又問。造奏文覆奏歟。答。不見。合作也。但以辨官送書徑奏。奏了後連署而署耳。爲見奏文(不)之狀故也。又下條。口奏竝准此例故也。朱云。本司覆奏者。未知。經太政官奏歟。答。不經只奏聞耳也。

皇太子監國。亦准此式。以令代勅。穴云。宰相以上留守之時。不用式耳。跡云。問。監國未知。允皇太子差宰相以上。令留守者何行爲。答。不合行事也。以令代勅。謂弁勅行令啓耳。朱云。皇太子監國亦准此式。以令代勅。謂不得行詔書耳。問。皇太子留守條。師記(說)云。雖給鈴契。不可給內印。又不在御所事。餘公事不可行者。未知。依此式。可行令旨。此何色事。答。古云云。不明決耳。額云。內印不可給。但事行不不一決耳。

〔頭〕令集解此條長一段の律令の意に合へる說に、この說を擧げりと思す、當時の法學者の如何に斯論を諸的としたるかを見るべし。

論奏式〔論奏式〕　下斷除名處釋一云、律令内臨時諸事、大者爲論奏、中者爲奏事、小者爲便奏、是合唐律令。此爲長、跡云、此大事、然律令有大(文)事、或无大(文)事故約。假大祭祀斷流罪以上、及除名之類。此令有文。又六議人此律有文也。朱云、論奏、謂臨時之大事者。然則臨時中事以下、皆時常大事皆入奏事者、額云、不然也。臨時事者、大少不論、皆入此條者何。未知、以何此文稱臨時事破律正文哉。答、此兩說可習耳。額如此也。而此云事臨時事多。又云、律令、外議合奏者、皆爲論奏者。故稱臨時事耳者。穴云、問、論奏奏事等、有捺印哉。答、師云、不見捺。但擬有捺印。朱云、問、論以下三式、捺官印以不。答、不見。然不可印。何者不可稱太政官文案故。依下條、詔案奏案不入官文也。未明。但諸國奏文捺印可進。何者諸國印上京公文等。可印故者。

太政官謹奏。其事。　謂假令注云。太政官謹奏。用正稅事之類也。釋云、其讀云事、謂假令。題簽云、太政官謹奏、用正稅事之類。跡云、問、其事未知。有數事者。件何所有。答、徒其事以下、約注件耳。又約云云所有。穴云、人物注處。如先私記也。或說、注云云之處者、爲非也。師云、太政官與太政大臣之中間、可注人物之數。事頒也。朱云、皆有物數者。太政官謹奏者、次件注者。未明。額同。或云、注下云云所者不攷(收)。額亦不同。

太政大臣位臣姓名

左大臣位臣姓名。

右大臣位臣姓名。

〔謂化外人同類自相犯者不用此法律〕名例律に「凡化外人同類自相犯者。各依二本俗法一。異類相犯者。以二法律一論。」とあり。
〔古記云問諸大祭祀未知諸字者〕古令本條に

大納言位臣姓名等言。云云。謂假令注云。爲充軍粮。用其國正稅之類也。釋云。假令。爲用軍粮。其國正稅若干之類。穴云。師云。若充大納言者注。右大臣位臣姓名等言。一如大納言。不及少納言也。朱云。額云。凡諸奏事。今行事。中納言宰相皆同連署也。謹以申聞。謹奏。古記云。問。謹以申聞。謹奏。未知訓旨。答。恐恐毛申給「上」申「上」申耳。今奏狀申耳「上」申耳。

年月日

聞御畫。穴云。問。若有不依奏者。不依之狀。可御畫以不。答。師云。若不依奏者。返却令改。改後乃畫聞耳。

大納言位姓。朱云。額云。凡大納言之諸奏事。皆立版位。可奏耳者何也。

右大祭祀。謂神祇令所言大祀。及臨時大祀之類也。釋无別也。跡云。大祭謂臨時并每世祭皆是也。或說。此條。皆是律令外事。然則大祭祀。謂此臨時之祀也。斷流罪以上及除名。*謂化外人。同類自相犯者。不用此法律。依彼俗法斷之是。*朱云。額云。此亦奏耳。不在化內人故也。穴云。大祭祀謂每世大嘗是。其臨時祭祀亦同此耳。古記云。問。右諸大祭祀。未知諸字者。屬大祭祀之文歟。爲當。令家(案以下文歟。答。令家(案以下文也。又問。大祭祀。答。神祇令云。天皇即位。總祭天神地祇。散齋一月。又條。一月齋爲大祭祀。是此大祭祀也。又臨時令大祭。而齋一月者。大祭祀耳。支度國用。謂太政官。准年豐儉。增減用度。假令。年事不入。宰留用。年事皆入。乃復其初之類是也。即與主計寮支度國用同文異義也。釋云。支度國用。

は、大學記の上に讀の一字ありしことを知るべし。新令には定文としてこれを省けるなり。〔依職制律使部以上皆可同〕職制律、初條の疏に「官有員數」謂內外百司雜任以上、在令各有員數」云々とあり、而して雜任は即ち使部以上なること、選叙令の文によりて知らるるなり。

謂支度國用。長短斷論其便宜申奏耳。古記云。問。支度國用。答。假令。用度物過多者。奏減之。若不足者奏加。卽是名支度國用也。跡云。支度國用。謂假令。不合是朝廷之用物者。並可出用物之便宜而奏聞之類。

増減官員。謂増減省職寮司。及主典以上之員數也。跡云。官員謂主典以上。但番上隨時宜耳。朱云。増減官員。謂主典以上也。番上人入下奏事者。後反云。皆同。貞云。依職制律。使部以上皆可同。何者彼律皆同。稱増減官員故。但直丁以下不入此式者。未明。何者。彼律主典以上。與雜任罪名別故何。額亦同也。但直丁可入律令。外議可奏文也。不可入奏事式者何。穴云。増減官員。謂先主典以上也。番上人亦放此也。師云。案職制律。使部以上一同也。問。直丁駈使丁。令條有員。未知。何處分。答。習職制律。署置官處之義也。仍入奏事耳。師云。此等不入奏事例。官任處分耳。可反。

斷流罪以上及除名。謂此所司不得專斷。事必須議奏者。假如。獄令。犯罪應入議請者。於官議定。雖非六議。但本罪應奏。處斷有疑。及經斷不伏者。亦衆議定之類是。但刑部及諸國。斷流以上。及除免官當者。連寫案申太政官。雖是流以上。而非可議者。故入奏事也。問。免官以下處斷有疑者。依獄令合議定。亦(且)得入此條哉。答。文云。除名。不稱免官。輕重已異也。卽須入奏事。釋云。流罪以上及除名。謂律令之內。雖有文而此可論事耳。假令。獄令云。雖非六議。而(但)本罪應奏。處斷有疑。及經斷不伏者。衆議量定。又六議人等。犯死罪可議論事是也。但獄令云。刑部及國司。諸國。斷流以上。及除免官當者。連寫案申太政官。此是雖流以上。而非可議論故。可依下奏事式。但名例律云。流人經奏盡者。是令取疏文耳。何者唐令。官當以上皆奏盡故。其免官以下。雖衆議量定。止依奏事式耳。一云云。見條始也。跡云。斷流罪已上及除名。謂獄令云。雖非六議。但本罪應奏。而處斷有疑。及經斷不伏者。且議量定。又六議人。犯死罪。而議定案是。但免官以下。及餘死罪以下。合入奏事式。名例云。流死奏盡訖。會恩者同免例者。依疏文耳。然此令。有盡聞之色。

〔蕃夷國異類相犯以法律論之類〕名例律に「凡化外人同類自相犯者。各依本俗法。異類相犯者。以法律論」とあり。

〔卅人以上依軍防令也〕軍防令に「凡差兵卅人以上者、須奏勅」とあり。

「不」有「不」畫闇之免色。故此令心勘習律義耳。朱云。斷流罪以上。未知。可贖死流何。私案。此文尤爲六議人。然則可贖罪同歟。抑何。又犯死罪人。並情科流罪。犯流罪人並情科死罪者。依斷罪以上文。可入此式者。未知。如此可斷理何。額云。此斷物所定。不可更議論。然則可入奏事式者何。穴云。斷流罪以上者。若贖流罪者。不入此條。爲眞流生文耳。問。六議人犯死罪議定日。若定流罪已上及尤(死カ)罪。未知。入誰奏哉。答。尙入論奏耳。師同之。古記云。問。斷流罪以上及除名。未知。律令之外如何。答。*蕃夷國異類相犯。以法律論之類。異常罪名。故爲論事問之類。答。臨時在耳也。

廢置國郡。 謂廢停廢也。置建置也。釋云。廢舍也。晋方肺反。置直也。

差發兵馬一百匹以上。 謂差發騎兵也。文唯擧馬。不言人者。其馬不可獨用。必有人須知故。若「差」發、「出」「歩」兵百人。亦准此式也。朱云。差發兵馬一百以上。謂不論公私馬。廣依兵事差發耳。但先者兵馬司之馬耳。額云。六駄馬者何。或云。兵馬一百疋以上者。專私馬也。官馬者。依下文。五十疋以上者。則可奏者。額。不同也。私差發與用若爲別。穴云。差發兵馬一百疋以上者。謂差發征人幷兵士時一同准馬。知不是一百疋者。征人幷兵士雖滿百人不入條耳。後(彼)師云。兵人一百以上者。相准可入此條。可反。兵馬。謂爲先差發生文。但至差發之日。*卅人以上依軍防令也。

用藏物五百端以上。錢二百貫以上。倉粮五百石以上。 謂其自餘貨物。准「推」價相當者。亦准此式。「若」「祠」節所用威儀兵仗。及位祿「季祿」等。雖物多數。事是尋常。故入下條也。釋云。用藏物五百端以上。自餘貨物准價相當亦同。又上斷流罪以上。釋云。下文諸事准等。除元日朔日威儀兵器。竝四時祿之外臨時別用馬「牛」。即爲論奏式。爲非尋常事故。朱云。藏物錢倉粮者。通計五百端以上入此條。但兵馬幷奴婢以下。不通計者。未明。後云。皆馬與牛通計。滿五十可入此式者。奴婢與馬牛亦同。但其知可准

〔米糧〕糧はかてと〔稻穀〕なり。穀類と稱し、行軍の糧となす。天平十年駿河國正税帳に糧米の支給事例を見え、同十一年伊豆國正税帳に兵糧の糧のことを見えたり。

〔釋云以官奴婢等爲寺奴婢之類〕天平勝寶二年二月廿六日朝廷は奴婢二百人を東大寺に施入して寺奴婢と爲せり。その事正倉院文書、東大寺要錄、續紀に見えたり。令釋は斯くの如き實例を想起して、この文を載せる歟、

〔假增明法生爲論奏之類〕類聚三代格、大學寮の條に「天平廿一年十二月八日勅云。明法生元十人。廿人今定。算生元廿人、廿人今定。」と見えたり。

量耳賤何。額不同。問。令釋其意何。答。米糧等不云梁也。額云。此條文立物色者。專不可通計。但毛文綾錦絲等。准布五百端以上。可入此條者。私案。然也。令釋亦同。然何。用謂遂用亦不得者。穴云。錢與布綾等併計滿五百端者。亦如也。馬牛與奴婢滿五十者。亦如也。但不計贓也。師云。此條用者。永充行而又不還。私思。未安。問。爲何用哉。答。假一端賜人入寺等是也。**奴婢廿人以上。**釋云。以官奴婢等。爲寺奴婢之類。**馬五十匹以上。牛五十頭以上。若勅授外。應授五位以上。**謂除勅授外。官議合敍者。其選敍令。計考應至五位以上奏聞者。入奏事式也。跡云。勅授外。謂依功能而官量定申給也。或選令（選敍令カ）至五位以上者。奏聞別敍者非也。朱云。應授五位以上者。未知。勅位何。答。放此文者。未明。額亦同也。古記云。問。授五位以上。未知。正六位者。補令敍與。答。除勅授外。後功別合敍云耳。**及律令外議應奏者。**謂假令。依年凶荒。議奏給復之類。此以其无正文。即爲律令之外「也」。釋云。復（依）凶弱乏。免課役之類。跡云。律令外應奏。謂假令。依民窮。而議量令免課役之類。古記課調庸皆法令有文。而有增減事者。是律令外事耳。凡依諸司申解。雖奏聞。而官所言議奏者。仍爲論奏耳。朱云。額云。律令外議奏者。格式外亦同者。穴云。之問。律令不便於事者。皆議定奏聞者。雖議不入論奏哉。答。然耳。師云。可入此條。何者申太政官。議定可奏聞之故。此所謂律令外議可奏。於增減官員依文也。凡雖衆議免官以下。不入論奏情也。私案。增減直丁等。是爲恒例。皆立式法。不依未法者。皆約律令之外議合奏之文。假增明法生爲論奏之類。事類也。何不依之耳。古記云。問。若律令外應論者。未知。外令論事。答。假令。依國弱乏。免課役議等。是此律令外文。**並爲論奏。畫聞訖。留爲案。御畫後。注奏官位姓。**跡云。此事之也。令位姓。

〔陰陽寮密奏〕雜令に「凡秘書、玄象器物、天文圖書、不レ得ニ輙出一。觀生不レ得レ讀ニ占書一。其仰觀所レ見、不レ得ニ漏泄一。若有ニ徵祥災異一、陰陽寮奏。」訖者、季別封送ニ中務省一。入ニ國史一」とあり。

謂皆自署姓字。大納言位姓之類是也。古記云。又問。奏官名下注奏字。未知。注方。答。畫可訖。年月日與其位姓名奏注耳。此令(今カ)行事也。大納言位姓名等言者。名下等上奏訖。而後注奏字。

奏事式條

奏事式 古記云。此是中事。跡記无別。朱云。問。尋常大事入此條不。*穴云。問。陰陽寮密奏。可依何式。答。可作奏事樣。但依職掌不可申太政官耳。問。表奏造樣何。答。不見。表奏上表上啓等式之。宜放書儀之禮耳。爲令不制表也。且連署法儀制令見也。

太政官謹奏。

其司位姓名等。朱云。謂可稱本司幷自官次略文者。 解狀云云。謹以申聞。謹奏。

年月日

太政大臣位臣姓。

左大臣位臣姓。

右大臣位臣姓。

大納言位臣姓名。

日本の口傳によりて大臣に直進すべきことを示す。これ故も簡略なる奏事なり。故に簡略作[illegible]

奉　勅依奏。若更有勅語須附者。各隨狀附云云。謂此大納言自注二之辭一、若少納言代奏者、亦准此。凡少納言非奏勅之官。唯於其所奏之事。即得自奉勅語。除此之外。不得復奉勅。古記云。問。奉勅依奏。未知。不依奏。若爲處分。答。不依奏者。即云勅處分云云耳。論事式奏亦放此。問。若更有勅語須附者。隨狀附云云。未知。更有勅語。答。除依奏亦更有勅語耳。跡云。奉勅依奏者。大納言自所盡二書一署也。更有勅語。依奏之。更有勅宣加事。假令。甲乙成舍人。而奏此景丁亦成加之類。朱云。額云。假令。布直端奏勅宣。加二直端一也。其舍人不在奏色也。不可爲書者也。朱云。若有更勅語須附者。各隨狀附云云者。未知。不依奏。別有勅語者何。答。放便奏式可注耳。穴云。具論奏式。或云。若不依奏者。御自書注者。此說不安。豈煩然有乎。所以若有不依奏者。還更依勅處分遣定奏耳。此時乃盡聞給。師同此說。若依御自云云說者。不盡聞而徑云云耳。此說爲不安也。問。更有勅語須附與下。不依奏有別哉。答。无別也。師云。依跡云爲是。何者文稱若更勅語可附者故。

大納言位姓。

右論奏外。諸應奏事者。並爲奏事。朱云。問。論奏外。諸應奏事者。並爲奏事者。未知。而何。有便奏式乎。答。便奏式皆小事耳。**皆據案成乃奏。**朱云。此條。必作文可奏也。不可知下條口奏。故云然耳也。**奉勅後。注奏官位姓。**

若少納言奏者。加名。跡云。无大納言者右大臣。次无少納言名。而直此少納言奏此奏記。記之。及少納言署名耳。朱云。額同。朱云。若少納言奏者加名。謂奏之使。乃加名也。還无大納言。未知。只而。不加少納言名者。額同也。大少納言並无者。右大臣可奏耳。又奉勅後。可注右大臣位姓耳。但大納言奏時也。上論式亦同。穴云。師云。大少納言並无者大臣可

无大少納言時右大臣可奏事

レ論。」とありて、その疏に「若口奏雖レ誤、事意無レ失者不レ坐。」と見えたり。

奏。然則奏勅之後。可注右大臣位姓也。但少納言奏時者。右大臣傍次少納言名耳。跡記云。大臣傍不署少納言名也。順。古記云。問。爲若納言奏者。奏官名下注奏字。未知。少納言何處署名。內隔行署各注奏字。

放論事奏式。

便奏式〔便奏式條〕 古記云。此少事耳。跡記无別。穴云。此奏无署而奏耳。朱云。額云。便奏式者。任文无人名。直可奏耳者。

太政官奏。

其司所申其事云云謹奏。穴云。私思。其司所申者。如其司解狀云云耳。但不稱位姓名。可反。古記云。問。郎云勅處分云云。上條者云云。下有謹奏字。今此條竝件字。未知。若爲處分。答。如式放耳。假令。其解云。式部省爲書位記。請紙三千張耳。

年月日 古記云。問。年月日注奉勅之後。未知。不記年月日奏耶。答。灼然。一云。今行事。先必注年月日也。

奉　勅依奏。若不依奏者。謂依奏之中。亦有不依者。若全不依者。則不可注也。跡云。不依奏者。謂假令奏然（狀カ）云。差甲充使。而不依奏狀。勅稱差乙令充之類。論奏之事。若不依奏者。其不依之狀。御自勅書畫耳。朱云。見於論奏式。更有勅留及有不依奏式。更有作改可奏者。未明。額亦同。而何。朱云。若不依奏者。謂假物如有增減之類。但專不依奏。有停止者。毀弃耳。更如此不可注署也。即

云。勅處分云云。

〔律云不覆奏開注云本司謂謂衛府閤司者〕これ恐らく衛禁律、奏敕夜開宮殿門條の文なるべし。但し唐の衛禁律には、これに相當する文見えず。

〔又案本律監門式知耳〕本律は本令と云ふと同じく、唐の永徽律を意味す。唐の衛禁律、奏敕夜開宮殿門條の疏議に「依監門式、受敕人具錄須開之門并入出人數、宣奏、門下一中書」云々とあるを云へるなるべし。

〔官戶奴婢等給衣服及給[illegible]〕[illegible]令に「凡官戶奴婢、三歲以上、每年給[illegible]、[illegible]、各一具」云々とあり。而してこの

少納言姓名。

右請進鈴印。朱云。謂付使并反納也。此作書。或時口奏也。隨事便者。穴云。請進鈴者。䭾使鈴亦同之。此條爲偏小小之事ヵ耳。請進謂鈴也。於印進時。尤書而申合耳。師同之。行事同之。私案。門鑰請進少納言不合知。律云。不覆奏開。注云。本司謂衛府閤司者。又案本律監門式知耳。

及賜衣服鹽酒菓食。并給醫藥。如此少事之類。並爲便奏。朱云。賜衣服以下。皆令內有文事者。未知。一端何。答。官戶奴婢等給衣服。及給醫藥等耳。但給諸司祿等。可入奏事式者。或云。給諸司月料。可入此條。但其大數初一度奏耳。每月不可奏者何。穴云。私案。假諸司史生賜衣服。永爲恒例。如此別立格式。入論奏。律令外合奏也。事順也。師云。給位祿季祿者。准可入奏事式。又用藏物五百端。入論奏。若四百以下給人何式。可勘。賜衣服。謂假巡察使覆囚使。給時服等是也。問。先說曰。別勅賜亦奏。未知。其意。答。奏令合爲之狀耳。假。特宣申給米百斛者。至給時奏耳。又問。上論奏訖也。亦有如此哉。答。至賜日然耳。問。決杖以下。未知。雖何云奏。答。勅印仰令推勘杖罪以下耳。問。安置。其義若爲。答。條置。假令。化外之人。安置[illegible]國耳。

其口奏者。並准此例。謂口奏之事。准式立案也。釋云。謂以口奏聞。雖已行訖。至於立案。必依此式耳。古記云。問。其口奏者。並准此例。未知。此例。答。凡口奏者。以上小事之類口奏耳。以外皆可記奏。跡云。准此例。謂小事雖口奏。而事記後。具注署奏狀。署奏狀。署奏官姓名耳。但奏事以上。不合口奏也。

奉勅後。注奏官位姓名。其皇太子監國。謂天子巡行。太子留守。是爲監國。釋云。皇太子監國亦准此式。

條の義解には、「謂其四歳以上、依二倉庫令一給レ粮也。」とあれば、倉庫令には、官戸奴婢等に塩粮を給する條文ありしこと知らる。

天子出行。太子留守。是謂監國事。見左傳也。亦准此式。謂作樣並如此之小事可啓。中事以上皆可奏天皇也。古記云。問。皇太子監國亦准此。未知。注奏不。答。以啓代奏。又准此者。小事得啓。以外不合。穴云。監國時不行奏事以上事也。先已記也。師同之。跡記无別。（啓與奏差別事）**亦准此式。以奉勅代啓令。**

令集解卷卅一

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　　員外宰相藤判

弘長二年三月十四日雨中午臥病席見合本書加首書了　　權大納言藤原在—

建治二年六月廿四日引合正親町之本校合了

慶長三年七月廿三日於燈下令校了　　吏部清原秀賢

右以清家之本令寫之寛永十一年仲冬於灯下遂一校了　　大府侍郎中原職忠

萬治辛丑季春八日令一校畢　　羽林中郎將藤原

右一冊以神村正鄰先生之本使書寫[illegible]

明和戊子歳仲冬　　越智通邦　印

己丑歳春貞義解一校了

庚寅歳三月廿九日以京師本一校了

丁酉八月九日一會了

文化十四年五月廿九日校了

文政三年八月以彰考館本比校了

筒井忠英

撿校保己一

〔太上天皇可行勅何者庶人作表可上故者何〕これ儀制令に「凡皇后皇太子以下、率土之内、於二天皇太上天皇一上表、同稱二臣妾名一」云々とあるに據りて立てたる說なり。

令旨式條

皇太子令旨式。三后亦准此式。朱云。額云。*太上天皇者可行勅。何者庶人作表可上故者何。問。皇太子令旨式。三后亦准此式者。未知。一端爲何事。可行令旨。

令旨云云。

年（季）月（皇太子畫）日

奉　令旨如右。令到奉行。穴云。中宮令旨。无令注令到奉行字。師同之。

大夫位姓名。

亮位姓名。

右受令人。宣送春宮坊。朱云。謂持書送也。不在以言宣送也。上物旨式亦同者。　春宮坊覆啓訖。留

畫日爲案。謂准勅旨式。亦須印署也。跡云。留畫日爲案。謂放勅旨式。署名爲案。穴記无別。　**更寫一通施行。**謂或送太政官。或下被管諸司。

〔以下括弧中集解文。當作小字。以下傚之。〕
（釋云。施行。謂或可申太政官。或可下所管諸司。隨狀施行耳。一云。坊受令旨。依式署送太政官耳。如勅旨式。跡云。若令至太政官者。留畫日爲案。更造解令申。自餘。造移牒等耳。朱云。問。更寫一通施行者。未知。捺印不。答。額云。可印者。未知。印給不何。又問。施行者。未知。下所管坊官。並送太政官等。答。不見。而案只可下管內諸司耳。穴云。問。令旨可出諸司者。坊爲牒令解移施行。其於被令如此。未知。諸司被牒令之解移爲返報。書事如何。私案。不見文。宜官省等敢爲符移耶。行事。雖然監國時。以奏勅代啓令。

又儀制令云。上啓三后皇太子者。此等雖允(无)其心。殊蓋相准論返報之書亦作啓。理以允愜(愜)。師云。文不見。可檢耳。又監國時令旨施行。一如勅旨式。或不謄至諸司。未知。尋常時令旨。有不謄至諸司哉。答。不見。可然。必謄出耳。但諸司返報。及上書等之造樣。難(雖ヵ)上論了。抑依律。諸司上啓。可有若違失者。減上臺一等。若委爲送坊書者。宜(宜)何時有此罪耶。未究。)

啓式。啓式條三后亦准此式。

春宮坊啓。朱云。未知。所管坊官。幷餘他司皆同可啓事者。送春「宮」坊令啓不。答。他人私啓。必經春宮坊可啓。只越不可啓。又問。何事「色他司可」啓事。又春宮坊官人有犯者。不經春宮坊別啓。爲當。申太政官啓哉何。 其事云云謹啓。穴云。謹啓件(倭)辭也。如謹以申聞謹奏也。

年月日

〔多多志麻字須〕タダシマウスなり。奏彈を斯く訓むなり。彈正臺を[illegible]如し。

大夫位姓名。

亮位姓名。

奉令依啓。若不依啓者。卽云。令處分云云。

亮位姓。朱云。未知。无亮者大夫啓不。私案。可然也。額云。判官等可啓者何。

右春宮坊啓式。奉令後。注啓官位姓。

奏彈式〔奏彈式條〕釋云。彈猶糺也。音徒干反。漢書。彈以縄墨陷於罪辜是。古記云。奏彈式條。未知訓方。答。多多志麻字(乎)須。

彈正臺謹奏。古記云。問。彈正臺謹奏。未知。闕於謹。答。文誤。不須闕。　其司位姓名罪狀事。跡云。罪狀。謂猶文注耳。

具官位姓名。謂上文云其司位。此云具官位者。假令。一人兼帶數官。在上唯注其一官。於此皆書(盡)其兼官之類。以此爲別。故立文不同也。(釋云。具官位姓名。其謂具注之具也。跡云。具官位。爲明貫屬吏注耳。但具字非此式懐內也。朱云。問。其司位姓名罪狀事。與具官位姓名別何。式(或)云。爲罪人

多時。更具官位姓名注也。又(不カ)收。若雖有一人、尙如此式注。答。然也。額異。穴云。問。上文稱其司位姓名罪狀事。何更稱具官位姓名哉。答。爲稱本屬重注歟。但依式習耳。若奏數司罪人者。宜合見事而申耳。)

貫屬。

右一人犯狀云云。

劾釋云。注(法)有罪也。音胡愛反。上件甲乙事狀如右。謹以上聞。謹奏。

年月日彈正尹位臣姓名。謂若無尹者。判官以上亦得奏也。跡云。无尹者少忠以上合奏也。朱云。无尹者弼以上可奏也。同職掌故也。忠以下不合。額云。少忠以上可奏者何。穴云。若无尹者。次官奏彈耳。判官已下不合也。跡云。少忠以上合奏。

聞御畫

右親王及五位以上。謂一位以下也。古記云。問。一位以下未知其限。答。及庶人。太問。庶人何奏彈。答。假令。庶人打已父母之類。合奏彈。

政大臣不在此限。有犯應須糺劾。而未審實者。並據狀勘問。跡云。令勘問之法。將有別式。但勘問不得明狀者停耳。穴云。勘問之事。可有別式。應須糺劾。謂聞彈見彈辨是也。不須推拷。謂依律。應議請減者。並不合拷訊。皆據衆證定罪。其得減之色。尙不須推拷。何況議請之人。不言須知。凡彈正是糺彈之職。非科斷之官。卽不限有位無位。皆不須得推拷也。（釋云。推拷拷擊也。音苦浩反。顧野王。拷作考字。斷*獄律云。應議請減者。並不合拷訊。皆據衆證定罪者。令不推拷。謂此取本令文耳何。唐令云。流內九品以上官有犯。應糺劾。而未知審實者。並據狀勘問。不須推拷者。文云。九品以上。故勞推拷事耳。我令云。五位以上。卽知。推拷文徒然耳。跡云。問。彈正得拷掠否。答。不拷。故何者。巡察當時。有犯罪人者。依此法令糺。自餘他被告者。不合受糺。然則事發所司而可拷耳。但所司被仰人者。依下條合受拷。）朱云。依彼條。可拷掠欲（歟）。不同云。下條亦不可拷掠也。凡彈正事不可同（用）拷法者何。委知事由。事大者奏彈。謂解官以上也。何

「斷獄律云應議請減者皆據衆證定罪者令不推拷謂此取本令文耳何唐令云流内九品以上官有犯應糺劾而未知審實者並據狀勘問不須推拷者文云九品以上故勞推拷事耳我令云五位以上卽知推拷文徒然耳」斷獄律には、議請減すべき人は、皆拷訊せず、衆證によつて罪を定むとあり。名例律に據れば、議請減すべき人は、皆五位以上なり。故に本條に親王及五位以上とある上は推拷すべからざることは、當然の事なり。然るに獄令に本條を置けるは、唐の公式令に流内九品以上

の官人犯ありて糺劾すべくして未だ實を得ざるときは、竝びに狀に據りて勘問し、推拷すべからずと云へる條文ある故なり。唐令に於いては、九品以上なる故に、この文必要あり。我が令は、これを五位以上に改む。故にこの條文の必要なきなり。されば、本條「不須推拷」の句は冗文なりと云へるなり。

者。獄令云。雜犯死罪。獄成會赦者。解見任職事。此雖非官當。猶合解官也。若於无品親王者。徒罪以上。卽爲事大也。（釋云。委知事由。事大者奏彈。雖推拷知。事不虛者奏彈。何者獄令。三位非解官以上者、得治事朝會及入內供奉故也。但下條云。告言官人害政及有抑屈者。彈正受推、當理者奏聞者。依彼條奏耳。不須此條也、古記云、問、委知事由、未知。不得推拷。何知事由。答。移可推拷之官知實。然後可奏。問、大事有限以不、答、徒以上官當以上也。跡云。事大謂解官以上官當。言雜犯死罪。獄成會赦全免者。解見任職事事之類、奏彈謂注顯死罪之狀奏聞、畢聞訖、留爲案、則移送刑部也、朱云、事大者奏彈、謂解官以上者、未知、不至官當、被解官色一端何、答、後反云、官當以上者、額亦同、然稱解官以上之說志可求耳、若如贓賄入己等之類歟、文云、獄成會赦、免罪可解官故歟

可求考課令等者何。穴云。問。事大何。答。釋云。官當以上。新令問答云。解官以上。或云。本罪奏色。此云未知也。但以解官以上爲上也。爲會赦全免時故也。私案。解官者。爲有職散五位已上。爲官當以上也。私思。順也。師心。屬官當以上。无品親王徒一年已上爲大也。師云。不見也。但相准言者。准官當之法。可謂徒三年已上耳。爲有不得減者之故也。問。奏彈之後何。答。亦送刑部耳。六位以下遂送刑部故。又本令云。御注者留臺爲案。更寫一通移。）送大理故。**訖留臺爲案**。穴云。留臺爲案。未知。（寫案送省哉。答。唐令云。請付大理推科者。其式云。更寫一通移送。今於此令不合然）也。注以臺移文送耳。**非應奏**。謂无品親王犯杖罪以下。及五位以上。不至解官也。釋云。非應奏謂非至解官以下也。**及六位以下。並糺移所司推判**。謂所司者應斷罪之司也。依獄令。衛府糺捉罪人。非貫屬京者。皆送刑部。即則。貫屬京者。送於京職。其彈正糺移罪人。亦須准此。故云糺移所司。（釋云。糺移所

〔謂貫屬京者、送京職以外送刑部耳衞府糺捉罪人非貫屬京者皆送刑部故〕獄令初條に、在京諸司人、京及諸國人、在京諸司事發者、犯ニ徒以上一、送ニ刑部省一。杖罪以下、當司決。其衞府糺ニ捉罪人一、非レ貫ニ屬京一者、皆送ニ刑部省一。」と見えたり。

司。謂*貫屬京者。從京職。以外送刑部「耳」。衞府糺捉罪人。非貫屬京者。皆送刑部故。記其犯狀移送。故云糺移也。古記云。問。並糺移所司。未知。糺移其意。答。記其人犯狀移。故云糺移耳。所司謂刑部也。一云。先糺彈成案。然後糺移應斷之司。跡云。糺移所司。謂在臺事發者。杖以下臺合決。在他司事發者。雖杖以下。而合送刑部。）朱云。額不同也。（假令。在民部兩人相鬪。未知。民部之間。爲臺執獲者。此非在臺事發。）朱額云。此則民部者何。（或他司人至臺相打者。此在臺事發之類。問。彈正臺如何罪爲正有。答。天下死罪。未被所司執獲之間。爲臺問顯者。則巡察而糺正耳。但不得明實者。不糺正。穴云。假。諸國在京有非違事。若不糺舉者。隱論其事故。不限在京外國召糺也。但有人告言者。其事不合隱故。還却令中事

〔求衆證備五聽〕獄令に「凡察獄之官、先備二五聽一、又驗二諸證信一」云々とあるに據れるなり。

〔及五位已上犯罪先奏後禁竝庶人以上等竝不合有故〕獄令に「凡五位以上、犯罪合禁者、在京者、皆先奏」云々と見ゆ。

〔律云糾彈官挾私彈事不實准反坐法不從出入之法也〕闘訟律に「凡糾彈之官。挾レ私彈レ事不實者。亦同之」とあるに據れるなり。

發處所司耳、在京之人、甲告言乙犯狀者、在京雖巡察內、尚還却「令」申京職耳、但於官人害政抑屈、依下條承問耳、問、在巡察路次、糺彈非違非法行事何、答、召臺彈耳、私案、不走失之徒、勘問直召臺也、若合逃走之徒、加防援、召送臺彈耳、但博士御心、必召臺糺、未召之間、若走失者、失者失耳、〕師同之ヲ〔問、糺臺與刑官有殊以不、答、合殊也、假、*求衆證、備五聽、*及五位已上犯罪、先奏後禁、竝庶人以上禁法等、竝不合有故、*律云、糺彈官挾私彈事不實、准反坐法、不從出入之法也、假、未審實、勘問不獲實狀者徑免耳、不合衆證之類、又犯人、或請減八十已上合勿論等、竝依此條糺問、乃令所司當斷耳、問、告言官人害政抑屈者三審何、答、隨下條釋也、問、左右大臣糺彈正事、依此式先訖、但史疑六位已下之彈正不當、未知、大臣糺

之法は、斷獄律に「凡官司入二人罪一者。若入二全罪一以二全罪一論。(中略)其出レ罪者、各如レ之。」とあるものを謂ふなり。

〔三審〕獄令に「凡告二言人罪一、非二謀叛以上一者、皆令二三審一。應レ受二辭牒一官司、並具曉下示虛得二反坐一之狀上。每レ審皆別レ日。受レ辭官人、於二審後一署記。審訖、然後推斷。」云々と見えたり。これ三審の法なり。政事要略、第八十四、糺彈雜事には、三審の法によりて作成せる官人の署記見えたり。

直送所司哉。答。私然耳。問。糺移所司、未知。何司。答。唐令云。移送大理寺、然則於此令云刑部耳。師云。依令釋、移送刑部並京職耳。問、糺移者移因(囚)歟、爲當。文書造移歟。私答。本令云。更寫一通移送大理。下云、非應奏者。並糺移所司推判者。案之。似糺移因(囚)身耳。又問、古記云、記其犯狀移送。故云糺移也。何爲是哉。答。師云、移犯狀也。非送身也。朱云。非應奏及六位以下、並糺送移所司推判者、未知。直注顯犯狀之虛實送、爲當。定罪名了送。又推判之志何。答。直顯注犯狀虛實可送也。罪名不斷也、刑部可斷罪者、但事大者奏彈者。雖不斷罪、預知奏彈耳者

凡彈正糺罪者。不在被人訴告也、巡察時見、并傳聞耳、臺事發者、杖以下臺決、若可贖人者、徵取贖銅送刑部者、(未明。)穎同也。諸司皆如之

〔此則中務攝在侍從員內故者〕職員令、太政官條に「三少納言、在侍從員內。」とあり。而して同令、中務省條には、卿の職掌中に侍從の事見え、又その品官に侍從八人と見えたり。

〔ム介〕ムは某なり。某國の介なり。傳宣草等にム年ム月ム日等と云へるもの多く見えたり。

飛驛式（飛驛式）穴云。問。飛驛者一人永行歟。爲當。遞送歟。答。師云。可言遞送。何者不可一人永行之故。可檢。朱云。額云。飛驛下式上式。合上下可爲一條也。以右字爲限耳者何也。

下式　朱云。問。飛驛下式。律令内何處有正文。又此書无人署名下何。答。无人署名。凡飛驛封固。可給中務省。中務省受取。直則可遣也。不必經太政官也。依此式直下耳。不可依勅旨式。但中務下飛驛狀注置耳者。此少納言職掌也。此則中務攝在侍從員內故者。*穴云。問。勅旨條案及施行文書其事也。未知。此條何處分。答。此條似詔書故。直召中務寫一通。留「爲」案耳。師云。飛驛書封可送下。但未審。於御所封。爲當。於中務封之。可檢耳。又不見署其案。但中務受給少納言令付耳。其案不合在辨官也。又此式无文。更不副官符也。隨文習耳。問。捺内印哉。答。爲公文印耳。師同之。

（少納言兼侍從本緣事）

勅其國司官位姓名等。謂國司非一人。故云等。其前令。別有勅符式。此令既除。即知。飛驛之外。更无勅符。釋云。勅其國司官位姓名等。假如。勅陸奧司守位姓名等之類。司國司也。官長次官也。前令。有勅符之文。新令既除。然則自飛驛之外无勅符可知。跡云。勅其謂假令。云其國司守ム*介等也。穴云。問。下式云。勅其國司官位姓名等者。未知。下軍所幷大宰府者。注方如何。答。師云。勅大將軍位姓名。將軍位姓名。副將軍位姓名等。又於大宰云勅帥位姓名。大貳位姓名。少貳位姓名等耳。但不明文。朱云。問。飛驛可下大宰部内國何。額云。先可下大宰府也。於上式亦同者。未知明何。其事云云。勅到奉行。

年月日辰

鈴剋

上式 上式

其國司謹奏。

其事云云。謹以申聞。謹奏。

年月日守位姓名上。謂不稱(言)辰者略也。釋云。放下式月日下可注辰。跡云。略辰者。合放上條。

鈴剋

右飛驛上下式。若長官不在者。次官以下依式署。謂次官以下。唯一人署。故云依式也。釋云。長官不在者。以次官一人署。故云依式耳。跡云。次官以下。謂目以上。穴記(說)无別。　其非國司。別從軍所上者。副將軍以上並署。謂其注上字者。猶准上例。於年月日姓名下注之也。穴云。問。上文云。守位姓名上者。未知。副將軍以上。署時於誰人名下注上字哉。答。師云。注在尤上人下耳。跡同之。跡云。從大宰府上者。師姓名之下注上。大少貳次次件於下件耳。朱云。副將軍以上並署。謂若一處會集。加大將軍名合二人署者。未知。凡申上事。必先經大將軍言上不答。

九國三嶋飛驛經大宰府事

大宰府准此。謂少貳以上並署。釋云。小貳以上並署。准將軍故。穴云。問。九國三嶋飛驛經大宰府哉。然耳。私案。文大宰府准此。謂自諸軍所哉。是九國三嶋至是。師云。依跡云。不依此說也。

爲只於府中牽驛。不令有故。抑令求也。

解式條
解式

式部省解申。其事。

其事云云。謹解。

年月日大錄位姓名。

卿位姓名。　大丞位姓名。

大輔位姓名。　少丞位姓名。

少輔位姓名。　少錄位姓名。

右八省以下。內外諸司。穴云。八省以下。謂神祇官皆約以下也。神祇官下書於諸司皆爲移。尙同之也。今行事。遣符。若依別制歟。上太政官及所管。並爲解。謂監物上中務之類也。釋云。中務省內監物上省之文爲解。制事上刑部省文爲牒。檢唐令。尙書省內諸司上都省爲制也。尙

書省内。吏部與兵部相報答者爲關也。尚書省下省内諸司。爲故牒也。然則可待式處分。穴云。師云。監物判事等送省造書者。依令釋可兩存耳。讃云。考課令云。決斷不擁(滯)。與奪合理者。爲刑部之最。注云。謂少輔以上及判事者。此爲行同事故。判事送省之書造牒了。在穴記。 其非向太政官者。以々代謹。

移式條

移式

刑部省移式部省。

其事云云。故移。

年月日　録位姓名。

卿位姓　朱云。額云。於〔親〕王可注。可見者。

右八省相移式。内外諸司。非相管隷者。皆爲移。謂假如。衞府。京職。兵庫等之類。既无所管。是爲非相管隷。其大宰向省臺。及管内向大宰。並爲解。以外皆爲移。凡被管者。不得以移直向他司。皆先申所管。所管更牒(修)移向他司。其出符亦准此。但追攝罪人者。不由所管。直向他司。依*律。鞫獄官。停因待對問者。雖職不相管。皆聽直牒追攝故也。釋云。非管隷。謂衞府兵庫之類。師說云。國司向大宰。皆爲解。向餘諸司爲移。但省臺向大宰爲符。大宰向省臺爲解。一云。非

〔依律鞫獄官停因待對問者雖職不相管皆聽直牒追攝故也〕これ斷獄

律の條文を引いて證と爲せるものなり。

大宰部（都）內國司及大宰向省臺。皆爲移。隸附著也。音魯帝反。被管寮司者。皆就所管省移。但追攝罪人者。不由上司直移耳。何者斷獄律云。鞫獄官。停囚待對問者。雖職不相管。皆聽直牒追攝〔追攝〕。注云。雖職不相管。皆聽不緣所管上司。直牒所管追攝故。問。寮司就所管省移他司者。得寮解。省更爲移。爲當。直以寮司移省。官押署送乎。答。古記云。問。非相管隸。未知。何色官。答。五衞府兵庫馬寮神祇官等也。問。大學寮移刑部。若爲處分。答。大學寮關式部移耳。問。國司送省臺。若送五衞府等。若爲處分。答。省臺者爲解。於餘官爲移。唯於大宰亦可解。問。大宰向省臺。若爲處分。答。爲移耳。跡云。散位寮移民部之類。中式部合爲省書。但直牒召罪人之日。依律。遣散位寮移。而直移民部耳。判事解部監物主鈴之類。依公事各送書於省者。將有別式。諸國除省臺神祇官以外。與諸司相報答者。皆合爲移。何者爲下條云。所經歷之處符移者。辨官令便送故也。師說云。八省送大宰送天下諸國者。皆令遣符也。穴云。師云。散位與大學得相移未審也。但主計與散位不得相移。中式部合移民部耳。令釋云。師說云。國司向省爲解。謂下條。省臺准此文注文。殊案所讀也。師同也。後定。案古令。省臺准此者。省臺爲符下司（國）灼然。見古令符式。何者〔臺〕其令兼（無）云。省臺准此注云。署名准辨官。故爲灼然也。但其令「无」。凡應爲解向上者。其上官。向下皆爲符之文。仍然耶。國司向省臺時爲解之事。故生文耳也。於今依令耳也。律云。雖下司亦廳（聽カ）注云。刑部諸司應追官省人者。即知。司者爲下。省者爲上。師云。大宰送省者。同國司作解省下大宰者。亦同國司作符。又除所部國司之外。自餘國司送大宰。大宰送國司之書。皆作移。私思順之。

若因事管隸者。 謂八省及內外諸司。因事相管隸者。假如。文官於式部。武官於兵部之類也。是爲因事管隸也。釋云。諸衞及兵庫馬寮於兵部省是。謂因事管隸。

案。驗諸衞及兵庫。非管隸事者。爲故移耳。文官於式部亦放此。古記云。問。因事管隸。未知。誰官。答。五衞府等於兵部也。跡云。諸省依考選等事。移式部者。合爲以移五衞等之類。於兵部亦准此。

〔准令五位以上有略名六式〕本令下條に「凡授レ位任レ官之日喚辭、三位以上、先レ名後レ姓。四位以下、先レ姓後レ名。（中略）五位、先レ姓後レ名。六位以下、去レ姓稱レ名。」とあるに據れるなり。

但非因「之」時〔者〕、常不合爲以移也。穴云。祿（錄カ）文遂者。皆爲故移如先也。又令釋云。諸衞及兵庫馬寮於兵部是。謂因事管隷者爲不當也。不當令爲管隷。與諸司一同也。**以ゝ代故。「其」一長官署准卿。**謂此稱長官者。是五位以上長官。若判官主典帶五位者。亦須略名。但不得署於行上。既云長官署准卿。即六位之長官亦得署行上。但不須略名。何者准*令。五位以上有略名之式。判官以下無署上之法故也。釋云。師說云。此條。稱長官者是五位以下耳。雜云。次官判官主典若五位以上者。放移略名耳。何者准令。五位以上有稱姓條。六位以下會無略名故也。文稱准卿者。准署行上耳。其判官以下者。准例署行下耳。何者准公式令。判官以下尤署行上之式故。古記云。問。注長官尤。則次官判官所署也。亦加名。跡云。准卿。謂長官次官。件名於上則略名。六位以下不略名。又判官件名於下。但五位以上主典亦略名耳。朱云。長官署准卿。國司亦准此。謂凡爲署名體云耳。非只因事管隷時「也」。穴云。署名事如令釋也。**長官无則次官判官署。**釋云。判官不在者。主典亦署耳。穴云。問。令釋云。判官不在者主典亦署耳。未知。主典二人署歟。答。不合也。私案。注云。判官署不云主典故也。後定。主典一人署移是也。師同之也。問。長官无。則次官判官署。假。於移式只兩人署故。長官闕者。次官署。不書卿之署處。未知。詔勅以下式。長官以下主典已上一人闕者。書其處哉以不。答。不合書。問。病假者何。私答。書名處顯病假之狀耳。若輔以上皆病。只有丞四人者。件四人書署處哉。答。於書名式然耳。跡云。注次官判官署。謂一人々々署耳。**國司亦准此。**穴云。國司亦准此之句不用。師同之。合勘也。引牒式內外官人之處爲證也。**其僧綱與諸司相報答。亦准此式。以移代牒。**朱云。未知。一端爲何事相報答。又諸司者。太政官及餘諸司无別不。又以移代牒者。故牒歟。若以牒答。太政官諸司无別也。又以移代牒者故

牒耳。但因事管隷如俗官。可作以牒者。未明。不見文故。額亦同也。然何。但凡僧作書體不見者。
私案。尙作牒耳。放〔故〕額云。僧綱三綱。爲預公事立牒式。但凡僧不見。可申諸司事。若有可申事。
可作三綱牒耳。凡僧作書樣不見者。私可案僧尼令何。穴云。問。僧尼因私事。諸司進文書
何造。答。權依俗狀故作辭耳。私案。不安。師云。凡僧尼進寺并官之書。不見作體耳。　**署名**
准省。謂律師以上一人署卿處。佐官署日下「也」。朱云。署名准省者。未知。年月日下可注准名。
答。佐官僧可署也。額云。署名准省者。但僧名可注。无姓故者。穴云。僧綱當〔當〕注「名」
也。名爲无姓　**三綱亦同**。穴云。若三綱報答諸司者一人署也。師云。都維那爲佐官師也。但僧綱
故。師同之。　者有佐官。師三綱與僧綱亦造牒。朱云。三綱亦同。謂作牒意可三綱之
中。亦預佐官之行事。師〔云〕。年月
日下可署。僧綱與三綱亦可作牒耳。

符式 符式條

太政官符其國司。

其事云云。符到奉行。

大辨位姓名。 朱云。問。无大辨者。中少辨爲署名何。答。然也。

史位姓名

〔又非本司可追喚〕者非犯罪之外不得直牒追攝理須移本司可參向〕斷獄律に「凡鞫獄官。停ㇾ囚待對問者。雖三職不二

年月日使人位姓名。跡云。使人謂此止送書之使。非檢校事之使也。穴云。使位姓名。謂或專使。或專便使同。若隔日付者更注付。日月下計會式文備爲知行程。師云。年月日使人位姓名者。令付送文書之使。是但可行事之使。得官符行者。件云云之前耳。

鈴剋。傳符亦准此。

右太政官下國符式。古記云。右太政官下國符式。未知。於省臺何。解式云。八省以下。內外諸司上太政官爲解。明「知」爲符狀。　省臺准此。穴云。省臺准此。謂省臺下國爲符是也。文云。其出符之文。見知耳。朱云。省臺准此。謂作符可下國耳。或云。官下省臺者不同也。　若下在京諸司者。不注使人以下。凡應爲解向上者。其上官向下皆爲符。朱云。問。同司官人。各別處依公事。送本司書何作。答。不見〔時〕宜作也。猶牒等〔司〕可作耳者。額不明決。而少異說耳。但諸國朝集使等。依使政已任〔往〕所本國可遣書者。可作牒也。此則私消息也。不可云云事者。額不明決。而亦異說耳。穴云。監物解部制事等。依公事上文書於省。未審也。又本司召同司主典已上。亦不明。但下條云。親王及大納言以上。並中務少輔五衛佐以上。並給隨身符。若在家非時別勅追喚者。勘符同。然後求用其本司。自相追喚。不在此制〔例〕者。一端見此文。師云。造書之樣。不見法條。但時行事遣牒耳。*又非本司可追喚者。非犯罪之外。不得直牒追攝〔換〕。理須移本司可參向。　著名准辨官。跡云。謂判官以上一人。一人與主典著名是。但無次官以上者。下件署判官名耳。*凡辨官依公坐相當。稱判官。可餘判官不在准辨官之

相管」皆雖」直隷〔書持〕とあるに據りて立てたる說なり。
「凡署官依公事相當稱判官」は獄令に「凡公坐相連、右大臣以上、及八省卿、諸司長、皆爲長官。大納言、及少輔以上、諸司貳、皆爲次官。少納言、左右辨、及八省糺判、諸司判、皆爲判官。諸司勘署、皆爲主典」とあり。
「內印」天皇御璽の四字を書せる印章にして、その制下條に見えたり。

例。穴云。問。署名准辨官。未知。諸司判官署歟。答。長官署耳。但式署式准此耳。**其出符。皆須案。成幷案。送太政官**

檢勾。謂凡省臺出符者。向太政官請内印。官印發本案。檢勾出符。其案者。以官印印。送還本司「也」。釋云。假令。省臺出符諸國者。幷案送太政官。官發本案。檢勾出符耳。檢勾之後。其案還本司也。唐令符式云。尙書省下諸寺出符者。皆須案成。幷送都省檢勾。假有百姓訴事。婚(如)經都省受時刑部。刑部勘了。應下外州者。符並勘案送都省。檢本案勾前付刑部之案耳。古記云。問。出符皆須案成幷案。送太政官檢勾。未知。送案意。答。誤乎。不誤乎。爲檢勾也。跡云。案送官。謂爲勘誤不之狀。而令送耳。此檢了還本省。朱云。額云。凡省符下諸國者。爲捺内進官耳。官吏不「可」作改者。問。送太政官檢勾。案捺官印還不。答。官還後可捺本司印也。或云。捺官印可還者不同。穴云。問。令釋云。檢案其得令心哉以不。答。案謂符案也。不依彼也。出符謂省臺之出符是也。故造符上論了也。私云。師云。出符幷案。並送太政官出符者。捺内印官案者。檢勾了後。還本司。本司捺其司印爲案耳。古記云。案者卽官印者。師不依之也。私思。直止(心)云上。出符者。捺内印後不。反本司。依下條。辨官附便使令送耳。但事急。本司差使可遣者。隨狀付本司耳。**若事當計會者。仍錄會日。與符俱送太政官。**謂依下條。有不會之事。故云當計會者。假如。刑部省爲徵贓贖。出符諸國者。卽出符之外。更副別狀云。爲徵贓贖。下其國符一紙。准例請印之類。卽其別狀者。留官計會。故謂之會日。釋云。假有刑部爲徵贓錢。符下諸國者。符外副別狀云。爲贓錢下其國符一紙請印。此狀留官。擬準。準、計會。是謂會日。跡云。會日。爲計會留有也。朱云。問。會日之案。送官之外。更亦可在本司者。未知。此案亦送官檢勾。不亦捺官印不。而事狀既以符案可見。何更本司留會日。案意。答。捺本司印。可送官耳。又本司可有會日案者。額同也。此文錄會日。與符俱送太政官者。未知。可出移諸司。亦與移。

但(倶)送會目不。答。可送。文一端云耳。牒案亦同者。未知。捺官印。可下諸國牒何色。可求耳。借綱等牒可送諸國耳歟。已上事額同也。然何。穴云。造會目樣。略依計會式耳。事當計會者。可有不會色。故云爾也。可案計會式以前所也。但會目者。捺本司印進耳。「爲」留官之故。凡移牒等。皆放符送案及會目耳。古記云。問。若事當計會者。仍錄會目目錄。未知。計會若下於國而有計會之事。問。自餘諸司應出公文者。皆准此。未知。自餘諸司又准此。答。除省臺外五衛府等也。准此者。事當計會歟。符倶送太政官。亦署名耳。唯稱不符耳。問。勅直云勅符。未知。勅符。答。不依中務。直印太政官。爲勅符。遣官故。太政官得爲勅符注云。勅符其國司位姓等。不稱太政官。知太政官勅符者。以大辨署名耳。注云。若事當計會者。錄會日與符。倶送太政官者。謂假由民部省。勘當國之義倉於諸國符下。即錄民部案之目錄。及符送太政官。即官子細勘會目及符。而請印內。謂(蹋)其符等。付令下諸國。其符案及會案示以官印印之。還本一通(道)。其事一通此爲會目。准一通(道)以下不錄會目也。

牒式 牒式條

牒。云云。謹牒。

年月日其官位姓名牒。穴云。師云。一人以上造牒可進者。注式(在)上之人名(君)(若)下牒字耳。朱云。額云。數人可作一牒內者。年月日下人者「注」牒字耳。官位姓名者明本司耳。略文者也。

〔穴云稱三位以上者親王亦同〕これ官位令が、親王四品の相當官を大宰帥とし、諸臣從三品の相當官を大宰帥とせることを根據として立てたる說歟。又衣服令を案ずるに、親王の禮服には、親王瓊玉あり、諸臣にして玉珮を佩しむるものは、三位以上に限れり。

〔延暦廿三年九月廿三日格〕親王、內親王及び三位以上の諸司に申牒する式を定めたる格なり。類聚三代格、卷十七、文書并印事に見えたり。又この事、日本後紀、卷十二に見えたり。

右内外官人主典以上。謂内舍人才伎長上亦同。釋无別也。跡云。内年月日下一人注牒字耳。官云主典。謂使五位爲長上人故。入主典以上位雖名者別本司耳。略文者長上亦同。釋无別也。跡云。主典。謂散五位爲長上人故。入主典以上之例。穴云。致仕五位以上者。可同散五位以上也。或云。致仕之人。一品已下皆減(歲)可作辭者。可反。

縁事申牒諸司式。跡云。凡郡司依私事。送書於當國府。皆准此式也。問。貢人考文進省者。猶爲主。牒。朱云。此亦可爲主牒者。未明。穴云。在先私記也。問。貢人考文進省之書。依何式爲哉。答。爲牒耳。三位以上去名。跡云。假令。爲請貢人送書於國府者。合用自牒。不須家令等也。穴云。稱三位以上者。親王亦同。然則親王自可牒。諸司諸國。不可令家令牒也。私延暦廿三年九月廿三日格云。「若有」人物名數者。件人物於前。謂條物數爲件也。言以人物。件於牒云云之前。釋云。謂件於牒云云之前。跡云。件人物於前。謂初无牒字。而直件人物於云云前耳。

辭式 辭式條

年月日位姓名 謂雖文不言。理當注本司也。釋云。依文。不顯本司名也。然略文可云。跡云。月日。謂略本司耳。辭。此謂雜任初位以上。謂无位雜任亦准此。釋云。注云。初位以上。此謂庶位耳。限初位以上非爲雜任也。文稱庶人。即知。无位雜任不。可稱本司也。跡云。雜任初位以上。謂說庶位雖名之處。然則雜任无位皆約耳。朱云。无位雜任同庶人者。此雜(皆)令釋云耳。未明。此說違令釋等耳何。後反云。同初位以上者。又不入色學生等可同庶人者。額同也。穴云。私案。讀文雜任初位以上連讀矣。何者不別有位无位非雜任者。初位以

下皆約故。致仕六位以下。亦同雜任耳。其學生直丁衞士等色兩說也。衞士等放於雜任者。不稱本屬耳。學生不被夲云雜任故也。師云。凡非得考之色者。皆稱庶人耳。自餘。如令釋及跡說也。**若庶人稱本屬。**跡云。庶人謂白丁也。穴云。庶人謂先无本司白丁也。

其事云云。謹辭。穴云。師云。若有二人已上。造辭書進官者。於諱辭之後連正署耳。又解移及辭牒等之事。男官女官不可差別。无別制故也。朱云。問。解式移式牒式辭式等。男女別不。答。同无別者。額亦同也。

右內外雜任以下。申牒諸司式。若有人物名數者。件人物於云云前。

令集解卷卅二

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　　員外宰相藤判

本云

弘長二年三月二十八(六)日午臥病席見合本書加首書了今日行幸八幡代初之度也

建治二年六月廿八日引合正親町之本校合了

權大納言藤在|

右清家之本申請寫之寛永甲戌
季穐令一校畢

中原職忠

萬治四辛丑季春上旬令一校畢

羽林中郎將藤原

右一冊以神村先生之本使人書寫畢
明和戊子歳仲冬

越智通邦 印

明和庚刁四月朔日以京師本一校了
安永六年八月七日一會了

文化十四年五月廿九日校了

筒井忠英

文政三年以水戸彰考館藏本比校了

撿校保己一

令集解卷卅三

勅授位記式條

勅授位記式

穴云。勅授位記内記自造耳。朱云。問。此位記何司可作。答。内記奉勅可作者。額亦同也。

中務省

本位姓名。年若干。今授其位。

年月日。

中務卿位姓名。

太政大臣位姓。大納言加名。朱云。可稱官位姓名耳。

式部卿位姓名。

右勅授五位以上位記式。釋云。女位記者准此式。而中務署名。式部不預也。中務職掌爲有宮人考敍位記故。但授位之後中宮。宮轉下

〔式部知耳爲給賁人故〕職員令、式部卿職掌に賁人の事見えず。然れども同條集解に「讃云。授位式部可レ知レ之。何者爲レ給二賁人一也。」と見えたり。

〔六等以上爲勅授十二等以上爲奏授之類〕官位令に據るに、勳六等は從五位下に准じ、勳十二等は從八位下に准ず。而して選敍令に據れば、五位以上を勅授とし、八位以上を奏授と爲せり。故に勳六等以上は勅授にして、十二等以上七等以下は奏授なり。

符。式部知耳。爲給賁人故。或云。女初位以上者。中務所給。然則應受勅處分。朱云。未知。勳六等以上約此式何。答。然也。凡勳位式部可掌耳。見職掌。額云。不然也。猶中務式部共可署名。爲預将故者何。問。女六位以下。如男約下奏授判「授」何。答。然。但以中務代式部乎(耳)。額亦同。又勳七等以下。可入奏授式者。私案。凡勳位專爲不入判授式乎何。跡云。女五位以上。無式部之署。下兩條。以中務名代式部耳。穴云。私思。女五位已上位記者。式部不預也。六位以下初位已上位記者。只中務卿署之。式部卿不預也。跡同此說。但師屬意。男女无別耳。後日從上記。問。造勳位位記樣。依誰式哉。選敍令。內外五位以上勅授條義解云。勅授奏授判授。謂宮人授法亦同。其勳位亦依相當法准文官(位)式。假令。六等以上爲勅授。十二等以上。爲奏授之類。**皆見在長官一人署。**跡云。謂右大臣以上一人之署也。穴云。見在長官一人署。爲右大臣已上生文。不及中式之省耳。師同。跡亦如之。署名不要正身署名。八十一例所云也。

若長官無。則大納言。及少輔以上。依式署。朱云。若中務式部卿等授位者。則已位記注已名。若輔以下署名。答。放无長官時。少輔以上依式。式(或)一人可署者。亦未明。額亦同也。**兵部亦同。以下准此。**古記云。問。兵部准此。未知。奏授判授式。无此文何。答。放此耳。

奏授位記式

奏授位記式

太政官謹奏。

本位姓名。年若干。其國其郡人。今授其位。

年月日

太政大臣位姓。大納言加名。

式部卿位姓名。

右奏授六位以下位記式。朱云。六位以下。謂外七位内八位以上也。問。奏授位記式。未知。持(特)位記奏歟。若眞(直)奏授位狀歟。答。私依考課令可知也。額云。猶選文奏後授位耳。不可以位記奏。但作位記前後不見者何。

判授位記式

判授位記式

太政官。

本位姓名。年若干。其國其郡人。今授其位。

年月日

「問判字情何答猶可給判情歟何」判授と稱するは、受位者の成績を判斷して授くるの意味なるべき歟と疑へるなり。

大納言位姓。

式部卿位姓。少輔以上加名。

右判授外八位。及內外初位位記式。朱云。未知。授之後遂不奏不何。先云。不中耳者。額亦同也。又不成選之外官。私雖初位不得授乎。若名牒授可依何式。先云。官成選位可給。但雖牒授外八位以下。依此式可作位記者何。額云。然也。*問。判字情何。答。猶可給判情歟何。

計會式

計會式　釋云。會古外反。周禮。司會中大夫二人。鄭玄曰。會大計也。司會若會若今尙書矣。又曰。聽出入以要會注云。月計曰要。歲計曰會。

太政官會諸國及諸司式

太政官

下其國。省臺亦准此。　謂下於省臺。亦准此式云。下其省臺也。釋云。謂下於省臺。且准此文。注下其省臺耳。一云。省臺下國。亦准此式作符耳。跡云。省臺准此。謂太政官下於省臺。假令。注云。太政官下其省。言省臺下國符者。注會日送官。官與國計會。但非官處分。而送人物向京者。送所領所相會耳。朱云。省臺會諸司不。答。凡不可計會。但非官處分。依省臺處分事者。送官可計會耳。穴云。省臺亦准此。謂下其省云耳。然則讀文之方。省臺猶亦准此耳。案會上諸司之文知耳。

〔正義〕唐の孔穎達の疏せる禮記正義なり。日本國見在書目錄に七十卷と見え、四庫全書提要に六十三卷と見えたり。

〔穴云條別者計條數不計書數〕この說を長と爲す。正倉院文書、正集三十、天平六年出雲國正稅帳の實例を見て知るべし。

合詔勅若干。 謂詔勅者。「是」騰詔勅符。其正詔勅者。无下國之文故也。若干者。若如也。干求也。言事本不定。常如此求之。故云若干也。釋云。詔勅謂騰詔勅符是。正詔勅无下國文故。若干。禮記曰。問。天子之年。對曰。聞之。始服衣若干尺矣。正義*云。「古」者謂知爲若干。若如也。干求也。言事本不定。常如此求之故。云若干也。穴云。私思。詔書數不計條數。師云。合詔勅若干者一端云然也。然則注云。合詔書若干訖。更得件云勅書若干。令(合)被合字也。詔勅謂眞也。若騰者。更云合騰詔官符若干耳。私案。下云。被管諸司。於所管勘校者。讀日寮司所至省符。若騰官符者。爲會云合若干者。以彼准此。詔勅者騰不騰同注云。合詔勅若干。[一]此說師同[一]。朱云。合詔勅若干。謂如有可注也。詔此說與勅。不別件者。後反云。可有別件。而合字盡不見。宜可有者。額亦同。但合字不可注者。

條別顯注云。爲其事。 古記云。問。條別顯注云。(爲)其事。未知。條別何。答。詔書若干。物書若干。官符若干。*穴云。注云。條別者計條數。不計書數。師同之也。

若有人物名數者。即件人物於前。 謂雖非是人物。亦有可爲會。故云有人物名數者也。件人物於前者。言先科條人物。後注顯事狀。非謂件人物於詔勅若干之前也。釋云。文云。若有人物名數。則知雖「非」人物亦可爲會也。件人物於前件科條也。言其營反。件前謂先注人物數。然後顯注其狀也。非詔勅若干之先。古記云。問。若有人物名數者。即件人物於前未知。件人物於前何其心。答。先注人物數。然後顯注其狀也。先者非合詔勅符若干之先。即顯注狀先耳。師云。件人物於前。謂件於爲其事之前也。其年以下至姓名及返抄。合件於爲其事之次也。穴云。即件人物於前者。件於爲其事之前耳。不可件於詔勅若干之前也。師並跡同之。合符並同。 問。下狀云。其年月日下國其符其月日。付使人其官位姓名。未知。可注何處哉。答。師云。月合字後。闕一字可注耳。如時行事也。云可注爲其事之次也

合官符若干。 朱云。未知。省符數若官注量(置)不。答。合注量(置)也。宜同也。穴云。官符省符及諸司移牒等。各注合耳。私思。可見事旨違耳。不必各注合字也。省奉出符國者。

「追假由國司欠負官物」國司の官物を欠負せるを徵する法、倉庫令に見えたり。「凡欠負官倉之物、若分付欠損之物、未徵任者、未徵已去任者、聽於後任及本貫便徵。得借任用、不限在任去任輸京」とあるもの即ち之なり。

「春米百石納木工寮之類」これ當時屢々實際に行はれたる所なり。續紀、卷三十九、延暦七年三月庚戌條には、軍粮三萬五千餘斛仰下陸奧國運收多賀城。又糒二萬三千餘斛幷鹽、仰東海・東山・北陸等國、限七月以前轉運陸奧國。並爲來年征蝦夷也。」と見えたり。

必會自送官故。云令其省符合其司移若干耳之。師同。下條如此。但式文略耳。下委曲述也。

右凡是追徵科造。謂追者追喚也。徵者徵納也。科者科備也。造者造作也。釋云。追徵追喚在外人也。徵謂徵國司欠負之類。古記云。問。追徵。答。追者謂喚在外人也。徵者謂假由國司欠負官物。仍言上太政官徵上符下乎(云乎)。科造謂假有其國衞其物作止符遣乎(云乎)。跡云。追謂召人。朱額云。召在外人也。不云在京者。額同也。然何。徵謂欠負官物之徒(後)下符合徵也。科造謂科而合造物也。朱云。追徵科造送納人物者。未知。幾事。答。五事。或云。六事。科與造各別事也。科者。假當繕令。預定出所科備是者。未明。額云。六事者。穴云。追謂召人。實積不於(檢カ)。將鞭直臨追捕也。徵謂欠負贓物等。依符剋徵日爲限。此給官符徵也。追徵科造。或云二。或云四。師同此說。或云三也。於四事之說。科謂科罪科等是也。

送納人物。謂送人者。流移等配之類也。送物者。當陸贖送送陸奧之類也。釋云。送納人物。謂見人也。只非其名。其追徵科造。除附補免。及解黜官位。追徵位記。皆爲非人物也。諸司出納物者。毎司可會。跡云。送納人物。謂假令。官符云。春米百石納木工寮之類。穴云。送納一也。師同此說。私隨事勢。云元損。假流人送達配所。此可云送也。不可云納。或以官物運納庫所。若令送納京庫。此可云送納。然則一云二云。隨事勢耳。不合限定。可(下)具。私思顯也。物謂非追徵是也。凡丁夫雜匠等之類。皆應計會者人之類也。案此說心。送納人物者。見官送納。爲當。給官符令諸國送納。可一同也。但師依令釋送納見人見物之說。私思。此說不安。可案。凡衞士仕丁采女貢人等之類。皆合計會。事一兩條推之可知也。物謂官物。人謂流徒移配。謂移此配流也。移鄉及僧尼配外國寺等皆是也。依獄令。流移人者。太政官量配。但徒人者。難准法不應可計會。而太政官臨時下符配送。假如。下符云。其國徒人。宜配送於其國某所之

〔何者爲民部所掌故〕職員令、民部卿職掌の條に、優復、蠲免の事見えたり。

類。其畿內徒人送京師者。本非官處分。故不應計會。但依下文。國爲會帳。應官會耳。釋云。移囚。獄令云。官人因犯移配者。只移鄉也。僧尼令云。僧尼犯百日苦使。經三度。改配外國寺之類。亦可爲配也。下條云。非有人物者則不會。謂在京諸司出符者。若事當計會者。仍錄會日(目)與符。倶送太政官。官則可會。故諸司不會耳。古記云。注移配者。移徒配流也。跡云。注徒謂臨時有官符。令送納徒人是。朱額云。假臨時爲役京司召上外國徒人耳。凡此條等常臨時皆約者何。又移配。謂移鄉人僧尼配外國寺也。穴云。問。徒罪何時可給官符哉。答。臨時有然事耳。私思。官議定下符徒耳。移配一事也。僧尼配外國寺等。約之類之處。跡云。竝師云。約移配之句也。**及捕獲逃亡**謂假如盜賊支黨。逃散傍界。官郎下符所在。令捕送之類也。跡云。「捕臆カ」、獲逃亡謂下符令捕罪人逃亡。而國捕獲送上訖。如此事注其符。至月日而合計會也。朱云。一端稱捕獲也。雖不得必可計會者。額同也。未知。然此人追徵何耳歟。何者不有見人故何。穴云。捕獲逃亡者。臨時給官符令捕耳。未捕獲亦可計會也。**之類**。朱云。捕獲逃亡之類者。未知。之類意一端何物。答。可求耳。**除附蠲免**。古記云。除謂復除。除貫之類。附謂附貫之類。蠲免謂不由民部官下蠲符耳。跡云。除附謂復除或雜任解下之類。朱云。除附者。未知。其行事何。答。附除二事。但行事案可云耳。蠲免者。未知。民部掌蠲免事。何時官可知。私案。可云也。穴云。除附謂假僧尼還俗中省除附是也。復除人蠲免也。雜任被解應附者。約解黜官位之文。私云。師云。約除附之句。問。古私記云。蠲免。臨時官蠲免是者何。答。此民部蠲免也。何者爲民部所掌故。但爲明令計會色生文耳。師同。更案省會日在官故。其明可會之色日也。々々。**及解黜官位**。謂解官也。下更有追徵位記之文。故以此文。唯爲解官也。凡計會者。雖已報答之事。亦依式應爲會。故雖得返抄。猶亦計會也。古記云。「解臆カ」黜者謂解官。何者下追徵位記文在故。跡云。解黜官位。謂假令。國合解狀申上訖。而報符至者則解官。以

後合計會。凡雖返報訖。仍合「計」會。何者爲流人領訖返抄申上。猶依交合計會故也。朱云。解黜官位者。未知。行事何。又官與位一贖。二贖。答。犯罪等被解退耳。官與位一事也。穴云。解黜官位者。細解黜官也。一囑考解犯罪解之類。何者待報下可解之故也。**追徵位記。**穴云。非解官人。亦可有耳。**皆色別爲會云。其年月日下國其符。其月日付使人其官位姓名。**釋云。上月日造符之日年月日。下月日付使人之日月日也。古記云。問。其年月日下其國符。其月日使人位姓名者。「未」知二所年月日。答。先年月日符造日年月日也。後月日符造既訖付使人日之月日也。何者擬勘會行程。穴云。下云月日者付使月日是。若隔年者。云年月日耳。爲知行程注耳。朱云。使人者專使。便使竝約者。**若得返抄者。云得其官位姓名其月日返抄。**釋云。謂返抄署名官姓名耳。古記云。問。注云。若得返抄者。云得其位姓名其月日返抄。未知。其姓名者。使人乎。國司乎。答。謂國司。一云。辨官受取返抄史等也。跡云。注返抄。謂國司返抄進官也。朱云。或云。注若得返抄者。外國者進返抄也。京官者。不返抄。故稱若字者。私案。此條明可云。而何。穴云。問。若得返抄者。未知。諸使還日。皆責返抄者。何故居若字由。答。爲會在京諸司者。不合有返抄生文耳。私案。此說未審也。兼文「又」附使人其官位姓名者。此爲下外官生文。注文亦爲外官。但居若字由。使持未還來時是耳。讃云。爲私記云。得其官位姓名其月日返抄。謂辨官受取返抄時。注云其月日「官」位姓名返抄持來耳。跡云。返抄連署國司是也。爲長也。案下條文耳。師同此說。**若非官處分。而國司應送人物向京及他國者。**謂諸國調庸送納於京。及公田價物送太政官。若畿內徒人送京

〔謂諸國公田價送官充雜用〕田令に「凡諸國公田、皆國司隨二鄕土估價一賃租。其價送二太政官一、以充二雜用一」と見えたり。

〔畿內徒人送官下囚獄〕獄令に「凡犯レ徒應レ配二居役一者、畿內送二京師一、在外供二當處官役一」云と見えたり。

〔擿與律云雖非所屬比國郡司得調發給與是也〕擅興律、初條の一部

師。及移囚之類。此等皆元不被官處分。直依常例送納。又有被省臺處分而納者。故云非官處分。其作會帳者。以其國代太政官。以上太政官。及上其省臺。代下其國。以解若干。代部物若干。郎於送國者亦須准知「也」。釋云。謂或被省臺處分。或自向京及他國。並調庸及舂米等輸納自有當法。又獄令云。犯徒應配居役者。畿內送京師。又條云。刑部省及諸國斷流以上。若除免官當者。皆連寫案申太政官。即知。徒罪尤申官文。如此之類。是非官處分。或說。上條謂可會之事。下條論會帳送官之事者非也。被省處分。謂賦役令云。供京藁藍雜用之類(屬)。每年民部預於畿內斟量科下之類。造計會文式依解式耳。假如。其國司解式耳。假如。其國司解申計會事。合解移若干。解一通(道)上官。其事。解一通送其省。其事。移一通(道)送其國。其事之類。古記云。問。若非官處分。而國司應送人物向京及他國者。送處受處亦准此爲會。未知。國別相會歟。爲當。爲太政官。答。於太政官爲也。又疑。與他國於會者。別卷爲乎。答。於別卷不爲。摠爲一卷於太政官計會耳。假令。其國司解申計會事。合解移若干。＊解一通。上官解一通送其省「＊其脫カ」事。移一通送其國。其事。跡云。非官處分。而送人物向京。謂諸國公田價送官充雜用。或畿內徒人送官下囚獄。如此之類。官注量國解狀。與國對會。或調庸田租如此之類。非官省等處分。而依法送納。此民部大藏與國對會。或依省處分送人物。向京及他國者。如此之類。皆封送官對合計會也。向他國謂依省處分可送人物是也。朱云。額云。不然也。非官處分者。專不被官省處分。國司自送耳。何者被省處分者。則(別)依符式作會。自送官之故者。私未同。何者假(郎)民部省合舂近江國米爲納木工寮出符者。作會日送官也。至計會時。送處近江國受處木工寮共可作會帳。可則會日顯送官。必送處領處可爲會之故。然何。朱云。未知。何人物。非官處分國司可送他國。答。臨時省處分等可有耳。私同。但額云。此條專不被官省處分者。非然何。私案。非官處分者。於向京者。被省處分。不被皆可約。但於向他國者。只被省處分一色也。何者非被省處分國司自送。下條有文故。但額畢說耳。然何。額云。非官處分國司可送人物向(地)他國者。＊擿與律云。雖非所屬。比國郡司得調發給與是也者。未知。此後則言上者若殊乎何。又云。斷獄獲

なり。唐律に於いては、此國郡司を此當官司に作れり。

〔斷獄繫囚之處卽須遣使速報應減死所是也〕斷獄の下、律の字を脱し、「應減死」は「應減之」の誤なるべし。斷獄律には、「凡斷[illegible]死罪囚、令其[illegible]亡、[illegible]及囚已身死、若自首[illegible]、[illegible]者、[illegible]因及死者之處、卽須[illegible]使[illegible]、[illegible]減之所。[illegible]有[illegible]准之」と見えたり。

囚之處。卽須遣使速報。應減死所是者。私不同。何者彼律遣使報不在送見人物故何。穴云。若非官處分。謂依省臺處分。向京及他國。或不依官省臺處分向京是也。古記云。被云(官ヵ)處分者送國。領司爲會。在下兩條。令省臺處分者。別无有其式故。以省元(无)。送官之會耳。而官與國會。又受所亦會。此云送所領所亦准此爲會也。兩國自付領者。下條有文也。送處領處爲會。謂被省臺處分。及不被可諸國爲利例送物等。並受納司爲會也。下條。爲被官處分令送可受納之別生文也。然則國司遣會帳兩通。一通於官而會於官符及省臺。元(无)。送官之會目也。一通會於受納之司耳。師不依之說。私案。以一通於太政官可官及受納之兩司並會。不可更爲一通。故下條云。受納之司。亦依見領數爲會。此國者以一通於兩書相會是知耳。師同。古問答同之。古擬造一卷。於太政官會。省臺及受納司不合爲兩卷也。上件先合省符若干注耳。但會於他國者。可爲別卷。爲不入目錄處故。已上並國之行事。下條義耳。更案。尙可有別卷。卽爲留請爲案故。師云。尙不可爲別「卷」。何者國會官之。式云。兩國自相付領者。亦准此爲會。送官對勘者。然則入目錄之處及不入目錄。皆進同卷送國。受國各於太政官。而相會而知事失。不可煩爲別卷也。可案。但非人物之外者。直國與官兩司會也(心)耳。凡在京諸司與諸國於送納之色共計會耳。故下條云。依見領數爲會矣。仍知進未欠不等之狀耳。又調庸退租當爲定例所進皆爲會也。師同之。或云。調庸等是有使人進了之後。諸官返抄乃還國。卽知。不可計會也。私思。順也。人物謂凡有人物名數送納者皆是。假追徵科物。追捉己等送領者並是也。師心爲合□。上注了也。上注所計之人物。是一端也。但下諸司條。一如符令問答耳。爲在京諸司故也。問。凡公文悉爲會賦。爲當。有不會色哉。答。令有也。故下云。應會之外公文也。又上云事當計會者。明不當計會者亦可有耳。又左右弁各造別卷不之狀不審。臨宜耳。

送處。領處。亦准此爲會。

〔又送遣流移人等是也〕獄令に「凡流移人、太政官量配、符至季別一遣。具錄ニ應レ隨家口、及發遣日月、便下ニ配處一」云々と見えたり。

諸國會式條

諸國應官會式 朱云。未知。諸國會省臺及諸司不。答。下文云。若兩國自相付領亦准此爲會、送官對勘者。然則如此色可計會。穴云。問。造計會帳之如何。答。古記依解樣。師同此說。國與省臺諸司等。會式合習此也。下受納之司亦依見領知爲會故也。但非被官處分被省臺處分者。上條釋了也。問。官與諸司竝官與諸國者。明有計會之文。「又」文受物諸司與送物國有計會之事。未知。諸司與諸司有人物相送者。可計會哉以不。答。師云。不見。可檢耳。問。郡與國可計會哉。答。相准可會耳。但不見文也。

其國

合詔勅若干。 准前注。

合官符若干。 准前注。朱云。合官符若干者。未知。省臺等符注別省臺符不。答。別可注量（置）也。穴云。問。合詔物若干。合官符若干之所者。如上條說習哉。答。可然耳。

右被官其年月日符下。追徵科造等事。 跡云。雖非被符之事。而送人物等事。注量（置）解案封送官會也。穴云。下條云。被官其年月日符令納其月日。得其國解送。依員（數）納了者。此則此條所云一端示。※又送遣流移人等是也。被官其年月日符下者。遣官符年月日也。**其符。**

其月日到國。依符送其處訖。獲其位姓名其月日返抄。受納之司。亦依見領數爲會。 謂受納之司者。國司其省臺者。下條別有文「也」。朱云。額云。受納之司亦依見領數爲會者。此文餘耳。何

處原在釋留後讀令に「凡差使人、至二前所一相付領、仍斷二本所處置日月、及到月一、准二計行一程。若差二使人、在レ路稽留、不レ依二程限一、領處官司、隨事推斷。仍以レ狀申二太政官一」と見えたり。

者上下條可約事故者。私案。若此文依官符。爲送國受國立文牒。何者下文稱自字故。然則不爲文餘哉。何以此案可云上句依符送。下文兩國自相送哉何。穴云。受納之司。謂在京諸司及諸國司並是也。私案。受納之司。謂下條諸司也。官諸司以一通送官。而會於官及於諸國耳。

若兩國自相付領

謂非是官處分。又非省臺處分。故云自相付領。假如(令)。移罪人。就多處及先所併論之類。其遞送官符者。路次之國。亦應爲會。*爲勘在路遲留故。但專使送者非。釋云。若兩國自相付領。謂非官處分。又非省臺處分。故稱自字也。假如。移罪人。就多處。及先所並論之類。問。遞送官符。路次國司計會以不。答。可爲會。爲勘在路遲由(留)故。此謂路次國司遞送也。若專使送。並由太政官使送者非。跡云。相付領。謂此非官省等處分。而國司自付領也。假令。輕囚移就重之類。穴云。兩國自相付領。謂人也。假輕囚就重之類。其直牒追捕亦是也。於自餘色。不被云也。不被官符上條云了。問。兩郡自相付領者。准兩國行事以不。答。於郡司不見可會之文。但相准者。准案司於國計會耳。不可送官也。

者。亦准此爲會。送官對勘。

朱云。未知。官並送司。備司。三司一處會勘。私案。可然何。

諸司應會式條

諸司應官會式

其省。臺及餘司皆准此。

穴云。省臺皆計會帳者遣解文。而長官已下主典已上。並署名可進官耳。

合詔勅若干。非有人物者則不會。

謂追喚徴發之類。在京諸司。相去不遠。故不會也。釋云。謂在京諸司相去不遠。故非有人物者不會耳。非有人物

〔外題〕被官の所司より解狀を奉りて裁決を請ひし時、直にその解狀の端に書したる裁決文を云ふなり。

〔造宮職〕宮城を造營す

謂追徵科造等之類。一云。依行幸之事掃造道橋等之類。此非有人物者非。穴云。人物如新令問答也。案之。除〔有之云〕有人物之外。追徵科造除附。追徵位記等。不可計會耳。但應云人物名數者亦會耳。

合官符若干。

穴云。問。案司被謄詔勅并官符之者符者何云。答。凡官符皆先自省至寮。故倘云合謄詔勅官符若干。合官符若干耳。師云。謄詔勅并官符之外。省臺符者。皆成云省符。不可云謄詔勅之〔者〕官符之若干。但有違犯者求其實。可云違勅。爲當。違官符耳。跡云。於以前所說「云」倘可稱詔勅若干官符若干。可比問他人。

准前注。

右被官其年月日符令納。其月日得其國解送。依數納訖。

謂假如。民部被官符。仰諸國。令春正稅納造宮司。國司依符納訖。即民部依此式爲會之類也。釋云。謂假如。官令民部下符播磨國。春正稅送納造宮省。即官下民部之符月日。是上月日也。國司送米納寮之時月日。是下月日也。言被官其年月日符。可令納之物者。其月日得其國解送。可依數納訖耳。或云。至京納物之日。官下符可受納司。是上月日也。國解文進日。是下日月者非者。是也。以上諸式並會官下符。若國司申上解文。亦可會。何者若非官處分。國司送人物向京及他國者。送處受處亦「准」此爲會。即知。可會。或說國司雜事申上之後。已受報符者「不可會者」非。何者官會諸國式云。若得返抄者。云得其官位姓名其月日返抄者。即知。得報符亦應會也。跡云。被官其年月日符令納。謂假令。官下符民部將令近江國春米百石充役民食者。依官符。民部下符近江國。令春米納收民部訖。仍民部爲會。云被官二月一日符令納五月廿日。得近江國解。送依數納訖〔記〕也。朱云。額云。凡被官符進京物。諸國之解之者。先必進官。官外題下可物納所司耳。更亦可納物所司不可給受知符也。但令行事給受知符。不在令情者何。穴云。被官其年月日符。令納其月日。得其國解送。依數納訖。謂假令。官下符。民部宜春米百斛。令納送造宮職者民部爲會

る官司にして、元明天皇の和銅元年、奈良奠都の時に正五位上大伴宿禰手拍を造宮卿と爲したること見えたれば、この時に設置せられたるものなるべし。正倉院文書には、天平十七年十月廿一日の造宮省の移見えたり。二の官、桓武天皇の延暦元年三月癸亥、勅旨省、法花司、鑄錢司と共に廢せられたること、續紀に見えたり。

耳。雖會自造宮了。更所以會者爲知官會一不之耳。但從會官與國會也。卽官與國計會上條釋了。此雖非見納司乘同耳。爲仰民部故。其造宮職。依上條依見受數爲會。與國會耳。師依此說。私案若充從下符於職者。職爲會。而會官只如此文也。案之。此文先爲不轉只於一司下符。卽令納造宮灼然也。爲不轉。可只於一司下符耳。師云。文云。被其年月日符令納者。然則民部被官符令納造宮灼然也。爲不轉。可只於一司下符。卽令納者非也。私案。此條爲見受納之司生文。故上云。其省注云。寮及餘司亦准此。何者假造宮可請米百斛狀申官。官下符省云。米百斛納造宮者。又其色米可受納之狀承知之。符給造宮民部下符諸國云云。國依符百石米納造宮。卽國解送造宮。不合省。故造宮牒彼承知之符爲會。可云被官其年月日符。三受其色米若干供用者。今其月日受其國解送。依員納了耳。其民部省只可云官符若干一通。道一。米百石納造宮職之狀云云。一通。道云云而已。與官計會不合。云得其國解送依員納訖。故其造宮職依最上條爲會。而會國耳。私思理也。又中條云。受納之司亦依見領數爲會。謂不領涉。省經官處分是也。凡中條大分只爲國被官處分送納破文。最上條爲國被省事處分生文。此條諸司被官處分卽受納是。跡云。官下符民部。民部卽受納者。爲是。凡民部處分。諸國未令納諸司者。國與諸司及官計會也。省不會。爲會日造官敍也。故省豪與國不計會也。只受納之司。獨依見受會也。若人乞處分之省豪者。亦依受領數會。未來者亦乞會也。唯有申延意之由耳也。只官與國會耳。問。假官下符民部令納諸司米百石。省依官符下符了。卽下符之省者。與官會訖。未知。國者與誰會。又其符云官符哉。爲當云省符哉。私案。省之會日在官故與官會。但注云。令省司符下耳。未了。

以前應會之事。釋云。以前應會事。謂計會式以下有。未知。計會式以下至兵式。擬條也。三條歟。皆三條。但以前處不入條内者。師云。以前條可爲別

〔古記云問十月卅日以前勘了〕古令に於いては、十月卅日とありしを、新令改めて十二月上旬となしたるなり。
〔計會使〕計會を爲すために國衙より太政官に派遣せらるる使なり。但しこの使のこと國史に所見なし、

條者何。 以七月卅日以前爲斷。謂斷猶云限也。 十二月上旬勘了。跡云。凡計會之帳。起八月一日當年七月卅日。內事各勘集爲會。十二月上旬會了也。穴云。私案。十二月上旬勘了。諸官勘會了辨注。仍即送省。卅日以前校定附帳耳。古記云*。問。十月卅日以前勘了。未知。太政官乎。國司乎。答。謂太政官會。又計帳使者。皆待集了。乃爲會。故十月勘會也。然今行事者朝集使。勘會計會使*者不爲「會」。 被管諸司。皆於所管勘校。謂被管寮司計會者。皆於所管省勘校。若有詐僞及脫漏。省即附考也。釋云。被管諸司計會者。所管省勘校作分降考。跡云。被管諸司。皆於所管勘校。謂假令。爲會云主計寮合官符若干爲其事者。此民部加覆檢押署也。問。官符至寮之由何。答。省被官符更謄可下符寮。偁此爲官符耳。朱云。貞不同。云此可云省符者。未明。穴云。於所管勘校。問。若有脫漏者。當時發爲分降考哉。答。不合也。直勘校改押署耳。官至乃設爲分文故也。釋云。被管諸司計會者。所管省勘校作分降考者。案之。此說爲長。何者假令。寮司依省符已施行了。而脫漏之數。爲分合降其考。仍須改作會帳乃押署送官。然則寮司脫漏者。於省降考分明也。但寮司脫漏可(而カ)省不覺依脫漏押署送官訖者。依下文辨官條。錄寮司並省脫漏。可被降考之狀。送式兵令降考耳。不可一執也。此說私所思。可問他人也。私若有詐僞隱漏者。別令勘也。問。九國三嶋於大宰府何。答。亦於府勘校。及押署送耳。 自餘諸司。各本司勘審。並無漏。然後長官押署。謂於被管會帳之後。所管長官押而署之也。釋云。謂被管名。各。申於所管之省。省又押而是爲押署耳。見唐令。跡云。押署。謂寮司等爲計會帳先進省。省加覆勘。則寮官等署。後署省長官封送官耳。非管攝之官者不押署也。朱云。本司長官以下主典已上押署了。後紙所管長官覆勘押署者。未知。押署上。捺上官印以不。又尤長官者。次官判官押署不。答。不明

〔但其罪依律論耳〕詐僞律に「凡對制及奏事上書詐不以實者徒二年」云々とある條文あり。之によれば二罪を論ずるならんか。

見。然押署上。可捺上官印耳。又其長官者。次官判官一人可署者。未聞。此文一端事。長官賦。次官以下皆共署哉。何者爲降考時。未知何。額同。可降上官考皆共不可降者。**封送太政官。**朱云。問。何司封送也。即上官送賦。若本司還受送賦。答。上官封可送也。更不還本司。額亦同。又上官送並還與本司令送。宜可爲者案可云耳。**國司亦准此。**謂准自餘諸司。各本司勘審之法也。穴云。問。國司亦准此。未知。郡司與國何。答。不合也。師云。不見正文。但相准計會理无妨耳。**附朝集使送太政官。分遣少辨及史等。總集諸司主典。及朝集使對勘。**穴云。分遣少辨及史等者。少辨一人耳。不可及中辨。但左右各計會賦。爲當國會賦。不見耳。分遣猶分配也。案之。非何道分配。只分配計會賦。不見耳。分之簡耳。朱云。太政官分遣少辨及史等。謂道道分充意耳。非誰外所。又反云。同人等可計會耳。道別不可分充。爲有本司務也。可爲宜也。額亦同也。宜可爲者。古記云。問。總集諸司錄令史。未知。文除錄與令史而已。神祇官史左衛府志等之類不載。其義如何。答。略而云耳。皆集也。**若有詐僞隱漏**謂挾情隱漏。不行其事。而遂不載會帳。即雖已施行。而故隱漏者。亦同此法。此皆故犯。不可爲分。唯當准負殿降。乃至其景迹亦須論附也。釋云。若有詐僞隱漏不同者。隨狀推逐。此句應序。故作詐僞隱漏者。但其罪依律論耳。不止降考而已。跡云。詐僞隱漏不同者。謂勘求漏計會帳之由。有詐隱。或雖載會帳。而事皆有詐隱者科罪。並合附景迹等。若此之類。降考之科。合於脫漏者。乃爲五分合降也。朱說云。此文可降考者何。朱云。詐僞隱漏者。未知。幾事。答。一事。額云。二三事賦。而不問決何。穴云。問。詐僞隱漏不同者。隨狀推逐。其脫漏應附考者。只五分論。其色物同賦。別賦等。穴說。詐僞隱漏不同者。事內事也。脫漏附考者。計行下書之數脫漏會帳也。跡

〔獄徒以上送刑部杖以下當司決〕獄令初條に據りて、文を爲せるなり。

〔依律論耳〕職制律の「凡上書若奏事而誤答五十。口誤減二等。上太政官誤答卅。」「餘文書誤答卅。」なる條文に據りてその罪を論ずるなり。

云。詐僞隱漏者。勘求漏計會帳之由。有詐隱。或雖藏會帳。而事旨有詐隱者。科罪并合附景迹。若如此之類。降考之科。合輕於脫漏者。乃爲五分可下其考者。師同之說。私思。兩人所說辭異旨同也。詐僞隱漏四字一事也。有詐僞隱漏不同者。隨狀推逐。謂未行是。師云。雖已行了。可故爲詐隱（僞）。〔可故爲詐僞〕「可」隱漏事旨者亦同。問。居官詐者爲下下。未知。處下下哉。答。合隨狀也。假元挾詐心不行者處其科。若无詐心。可忘誤不行逐。至計會之日。欲遁其稽。隱詐者別勘耳。假由事稽留科及除善最等耳。仍依景迹定等第及計負殿降考。若輕者依分法降耳。取捨合隨狀。假長官詐與人善最。事發日。猶不處愛憎。任情處斷。乖理科。及居官詐等之科之類。私思。事類也。但與考課令可會檢。師云。詐僞隱漏亦爲五分降考。即知。依考課令。以景迹及負殿降考。又依此條降考。令（合カ）二度可降者。此說爲非也。問。於官計會時。其詐僞隱漏之事顯者。於何官可科其罪。又徒罪以上。杖罪以下有別哉。所以起疑者。獄徒以上送刑部。杖以下當司決之。故答。

不同者。隨狀推逐。釋云。逐猶追也。求也。古記云。推逐何訓。答。逐者求也。讀連上句也。其脫漏應附考者。謂此失而漏者。不論事之行否。不藏會帳者皆是也。釋云。其脫漏應附考者。以五分論。一分降考一等。此句應（序）失脫漏者。言事已行了。計會誤漏也。若承符忘誤者。依律論耳。跡云。事旨依符雖行訖。而漏計會帳。是若全不行。或有誤事者。別求科罪耳。穴云。脫漏謂已行了。失錯脫漏是也。師同之說。以五分論。謂假令。官符一通（道）。藏十條事。八條藏。而二條漏者。降考一等之類。若不滿分者。不合降考。〔唯止降考〕唯止降（除）最。此皆降所由考。即尤所由者。皆共降之。釋云。師說云。脫漏不滿一分者。不合降考。但除考最耳。此皆以所由人降考。跡云。爲分之法。假令。官符一通（道）藏十事。而九事藏帳。一事漏帳者。是猶一通（道）全脫漏。是降考一等。謂求勘造計會帳之所由人合降。若數人俱脫漏者。俱降耳。朱云。

〔四等連座法〕名例律に「凡同司犯公座者。長官爲一等。次官爲一等。判官爲一等。主典爲一等。各以所由爲首。」とある法なり。

〔如戸婚律通計之法〕戸婚律第三條に「國郡所管部多少通計爲罪。」とあるを指せるなり。

凡爲分計一事爲一分。爲當。商一通亦爲一分。答。一通可爲一分也。不計事條者。額亦同也。未知。穴云。降考一等。未知。主典由長官。以何爲階降。答。求所由於失乞科罪。答。依此令可降考。更亦不可科罪。額亦同也。餘官降最耳。師同。問。一通（道）内載十條。爲十事。答。爲一事。假九事附帳。一事脱漏。爲令滿一事。師同。問。此云負謬文爲漏處。答。（計）會式令。計物若干。令官符若干者。此計者物之數。聞訟律疏訴條云。可受抑不受者左十。一條加一等。張云。一辭牒爲一條者。即不計事數爲坐。一端見即此也。又式云。合官符若干者。此只計符員。不計事員故。問。每漏一分。降考一等者。弁官只注所漏之數送式部。計所漏之數。爲分所降歟。爲當。弁官依分降可送歟。答。弁官作分。定可降數可送。師同。問。依分降考。未知。有別科哉。答。降考之即罪也。更不可有罪條也。私案。處官文書失錯文字科。古記云。一事注云。只十分論。每漏一分。降考一等。答。太政官論送定式部依法下。又云。降考一等者謂人考。答。主典以上考也。莫用四等連坐法。

每漏一分降考一等　朱云。未知。此文爲其脱漏應附考者。以五分論者。以下云文歟。答。然也。額云。不然也。上計偃隱漏皆同待受文者何。

所管通計被管爲考。古記云。問。所管通計請爲考。未知何。答。省管寮司。然漏落者。省考下。跡云。通計被管爲考。謂省拠計省並寮司爲五分。假令。一寮有脱漏。餘司等无脱者。猶降押署官者。考所脱寮史輔省爲分合降也。朱云。未知。中途當直上官。内降何。同志答。上官者。内可降考。額畢。商量記滑漏數。申送弁官。可合式部省者。未問。穴云。問。文云。以五分論。所管通計被管爲考者。未知。通計之方何。答。如戸婚律通計之法。假令。省所受行十枚之内。脱二枚。寮所受行十枚之内脱一枚。而省不勘。置可會帳並官。而官計會之時勘顯者。省通計寮所脱爲一分降考一等。寮計所脱一枚爲一分。降考一等之類。若於省押檢之内。寮勘。而勘可改正者。省何以可通計哉。但計偃不同。而省官不覺者。依上官不覺科罪。計首殿降考耳。若轄於脱漏者。爲分降耳。但省官知

〔於一事何致兩嘖邪故合從一重者〕名例律、二罪以上俱發の條に「一

詐僞不同。而不改正者。依故縱與窠司同科耳。師異說。上陳了。**辨官條錄。送式部附唱。**朱云。未知。附唱者考校日唱歟。又武官失者送兵部哉。凡此文條錄送者。只爲脫漏以下歟。若詐僞隱漏何可爲。答。省考校日附唱耳。又武官失可下兵部也。私案。詐僞隱漏者。計負殿可降考。然則斷罪官可送式部耳歟何。貞云。此亦弁官條錄。送式部附唱耳。凡依此條。此亦作分可降考故。但約此文。不約者、不見。可案者。又依律科罪。計負殿降考者。如常法也。此文更不云者先疑耳。額亦同貞說耳。**其應會之外。公文須相報答者。**謂上文既立計會之法。此更顯公文報答之制。兩事不交涉。故云應會之外也。釋云。謂上諸應會事等。除會事外。應相報答。而過限不報。是假如。官應會諸國之式云。流移人等至配所日。使人取返抄申官。此亦爲會。然則无使人便遞送流移等送受兩國申送受狀。又可爲會之類。一云。不應會事也。假令。其人其物。借問在不〔不〕。答。是朱云猶國計者。古記云。問。其應會之外公文。須相報答。未知。若爲。答。應會謂必應受行下不應會。謂受不應行事。假令。其人其物其國在否。移問如此之類不合會。唯在无速報答耳。跡云。應會之外公文。謂全不合計會之色。並雖合計會。而未至會時。必有合報上之事。不報上者。別注合送者。朱云。顯同之。若此色不報上。可「附脫カ」計會帳。亦脫漏者。累降考耳。朱云。貞云。顯附計會帳不報答。何可降考。但不報答。穴亦不附計會帳者。猶從一可降考。不累降者。未明。額云。累可降考者。假令。甲國罪人移乙國。而兩國給官符。此等付領訖者。各別合言上。又計會之時。亦合計會之類。但穴云。其國其物在乎否。如此之類。報上訖。更亦不計會耳、朱云。後及云。於問倘可計會者。未明。穴云。其應會之外公文須相報答。謂除上條所計之外。皆是應會之外耳。假上條注會日（日一云）送官之類。此應會公文也。不注會日（日一云）之類。此應會之外公文耳。假非有人物者。不會者等也。故別生文。或云。凡雖應會之公文。未到計會時。必應報答。可不報答者。累降考故。生此文者。此云亦不安。何者於*一事何致兩嘖邪。故合從一重者。

事分爲二罪。二法若等則從一重。累法不同者則以重法倂滿輕法」とあるに據れる歟。一事にして分れて二罪と爲るものは、即ち今日の刑法に云ふところの想像上の數罪なり

〔平六贓〕六贓は強盗、竊盗、枉法、不枉法、受所監臨及び坐贓を云ふ。平は評なり。評價なり。贓物を評價する法、名例律、下卷に見えたり、曰く「凡平贓者。據犯處當時物價及上絹估。平功庸者。計一人一日爲絹二尺六寸。」云々。

私案。累降何者不報答。其罪已發。即又不載計會。此已發更犯故。累科義耳。抑合勘會論發也。惟云。累降合勘。問。於一事先應報答。而不報答。但載計會帳者何。答。於不會也。尚別錄送者。況比從一重可降之。元於可會色可報而不報答。縱載帳尚錄送耳。若不報答。亦不計會者。隨上之兩論之一宜耳。

在京諸司。過一月不報。謂其畿内亦准在京例也。釋云。畿內入京官例。稱一月一季皆計日也。古記云。諸司過一月。謂畿內同京官之例。跡云。畿內同京官。稱一月一季者。計日合爲限。計違近爲程故。假令。諸司過一月。謂畿內同京官之例。跡云。畿內同京官。稱一月一季者。計日合爲限。計違近爲程故。假令。諸司過一月不報。後乃報者。猶注合降考。凡應會之外事。不依分法。直注送者。省官量合降耳。朱云。額云。省官量可降考。不見冊數者。穴云。畿內同京官。何者考文同共進官故也。跡云。可會之外事。不作分法直送省。省官量定可降耳。師同也。私案。假太政官*率六衛下符攝津京職。而過一月不報之類。假文書器物等。亡失得不之狀。早可申送。而不申遂過卅日。被勘發之類。

諸國計程外。過一季不報。跡云。不報答。謂衛府諸司國相報答皆同。朱云。凡諸國諸司。於官不報答所云也。諸司與諸司諸國雖不答。不可附考也。不見者。未明。額亦同。可諸司與諸司諸國答報不見。可求者。穴云。在京諸司。過一月不報。諸國計程外。過一季不報。並謂於官不報上是也。但諸國於官不報上是也。但諸國於省並諸司不報答。亦如之也。問。或在京兩司或兩國。不相報答之類何。答。此文爲不報上官生文。自餘不在此例。又在京諸司。於諸國可報答。而不報亦无罪。何者計會之本意。爲會上官生文。爲不會下官也。私案。依上條。兩國相符類。皆於報答乞別也。私思。相准可云爾。但師云。所不云文。然則於不報答。不降考。別可勘耳。

每年朝集使來日。並錄送省。謂計會考課。期限共同。即知。在京計會。亦與考文俱進也。釋云。謂計會與考文

期限共同故。京官計會文者。與考文共進。穴云。朝集使來日者。京官畿內十月一日之後。外國十一月一日之後也。但於京官无朝集者。一端云然耳。又會計(二字顛倒カ)帳與考選文共進官。諸說一同也。朱云。每年朝集使來日。並錄送省。對唱附考者。未知。必附朝集使考。爲當。求所由附。凡雖附所由人。必對朝集使唱示附狀不。又並錄送省者。何司所爲也。若辨官所爲歟。爲當。可受報答。諸司亦同也。又此文稱省者。式兵部歟。又在京者。何時錄可送省。答。求所由可附。但朝集使以考文來使也。故朝集使來日。對唱附考耳。又在京諸司。共考文可送也。外國如送者。自餘事案可云耳。

對唱附考。

過所式 (過所式條)

其事云云。 穴云。其事云云之上注云。左右京職耳。此式略文。故年月日之下不云官。直稱位姓名也。師不依此說也。**度其關。往其國。**

其官位姓。 謂假有五位以上度關者。即其國與其官位姓。其間應是連行。不可平出也。釋云。其國與其官之間。不可平闕。跡云。其官位姓處誤平出可知也。六位主典以下。皆合稱名年也。朱云。其官位姓者。未知。爲五位以上四位以下歟。答。然也。散位六位以下。稱位姓名年者。未知。依何文所說。答。私案。六位以下。職事散官无別何。穴云。跡云。六位以下主典以上。皆稱名年。師同之。或云。主典以上皆稱姓名。但不稱年。可檢。私案。其臺官位姓。謂下文云資人。明知。爲五位以上生文也。其於六位以下合稱姓名也。

三位以上稱卿。 穴云。注云。其官從三位藤原卿耳。若王者注云。其官從三位卿。亦无別。有不便。可詳檢。四位以上者。從四位王云耳。朱云。親王准三位以上耳。額云。不見也。可有別式者。三位以上稱卿。謂假稱式部式正三位紀卿耳。但王五位以上准諸臣。或稱王。或稱卿

耳者。未。「知脱カ」資人。位姓名。謂資人度關者。即可注其官位姓名之資人位姓名也。若未叙位者。可稱无位「也」。釋云。謂資人度關者。其官位姓之資人位姓名。跡云。資人无位不稱本屬。穴云。資人。謂先隨從耳。但不注從字。依式習耳。或資人獨過關者。注云其(ム)官位姓若卿之資人位姓名耳。年若干。若庶人稱本屬。釋云。若庶人度者。稱本屬耳。跡云。注庶人。謂凡庶人度關者。皆合稱本屬是。穴云。若庶人者。稱本屬者。謂凡庶人度關者。稱本屬之文耳。但於文體少有不便耳。私案。庶人稱本屬者。凡廣律。庶人度關時事耳。從人。

其國其郡其里人姓名。年。奴名年。婢名年。其物若干。其毛牡牝馬牛釋云。牡音包条反。牝音扶履比忍二反。若干疋頭。

年月日主典位姓名。朱云。年月日下。即可注所司名也。假如。注左右京職大屬耳者。額云。時*行事如此。但量心少不便耳。而猶无異說也。穴云。私案。此過所自其事以下。至于疋頭。並此度關人。自所書之耳。故不得直云其司。然則須之(請)過所人。徑依式注二通。申送所司。所司年月下可云其司主典位姓名。何者。假外國人請過所者。徑注云貫屬名年。而申送國司。國司徑云年月日日位姓名耳。即上本屬既顯。故下不更稱其國。若諸司人請職過所者。注云。散位寮使部位姓名之。申送職。職受取注云。年月日左右京職屬耳。而同之。但古令。年月日下稱其職可改省者。蓋過所國司京職所給。即職國伯雜等過所已稱本屬了。時人偏守式樣。上顯本屬記(記)。更累年月日下。稱其職國。總此領(填)。都定順。若者由若允。然者庶人請當國國者。上稱本屬了故。年實下不更稱其司。自餘雜任請本司向職者。通古令而年實下稱其司。

〔時行事如此但量心少不便耳而猶无異説也〕時の行事此くの如しとは、年月下の日明かに所司の名を注記する行事なり。然れども法文には、主典位姓名とあるのみにて、其司の二字无ければ、法意の解釈としては、この行事少しく不合理なり。然れども猶この行事に対して異説を挟むものな

しとなり。上文に據れば、斯く年月日の下に其職名を記入することは、古令の意の遺れるものなり。

次官位姓名。

右過所式。並令依式具錄二通。申送所司。朱云。所司者京職也。凡在京諸司人。可度關。先受本司許狀。移文進京職。得過所耳者。未明。眞關司(市カ)令可會勘耳。私關市令云。欲度關者。皆經本部本司。義解云。本部本貫也。假有大舍人。是京人而欲度關者。依式遣過所。先申本寮。寮修許牒。送於京職。京(職)更判給之(類)。其外國者。先經本部。本部示申國。若有本司者。亦經本司也。請過所。官司檢勘。然後判給。所司勘問。即依式署。一通留爲案。一通判給。

令集解卷卅三

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　員外宰相藤判

「本云」
弘長二年四月十一日見合本書「粗」加首書畢(了)　權大納言藤在一

建治二年七月一日引合正親町之本授(校カ)合了

金澤文庫

慶長三年仲秋令一校畢　　清原秀賢

右以清家之本令寫之課職任速一校之功寬永十一年仲穐　　大府侍郎中原職忠

萬治四辛丑季春仲旬令一校畢　　羽林中郎將藤原

右一册者神村正鄰之藏使寫畢　　越智通邦　印

明和戊子歲仲冬

同庚寅四月二日以京師本一校了

安永六年九月廿四日於河粟子一會了

文化十酉年六月一日校了　　筒井忠英

文政三年以彰考館本校正了　　檢挍保己一

令集解卷卅四

皇祖。〔平出條〕謂不及曾高也。釋云。唐令云。皇祖皇祖妣者。曾高同者。此令除而不取。卽知。曾高不可平出。朱云。曾高不見文者。令釋。不平闕也。穴云。皇祖皇祖妣等。只於皇帝祖父祖母是也。其於曾高不見文。與唐令殊。

臨時合勘也。

皇祖妣。

皇考。謂妣考者。生死之通稱。卽皇祖以下。皇妣以上。不限存亡。皆合平出。並是據不登帝位。及不居天人以上位者也。釋云。皇祖皇祖妣皇考皇妣。爾雅云。生曰父母妻。死曰考妣嬪。尚書曰。大傷厥考心事。厥考厥長。聽祖考彝訓。爾雅云。書文曰。如喪考妣。蒼頡篇〔□〕曰。考妣延年。書文曰。嬪于虞。周禮。有九嬪之官。明此非死生之異稱矣。其義猶〔今〕謂兄爲昆妹爲娟。卽是此例也。妣之言媲也。媲於考也。古記云。問。皇祖考皇考皇妣。未知。稱崩後不。答。曲禮下云。祭王父曰皇祖考。王母曰皇祖妣。父曰皇考。母曰皇妣。夫曰皇辟。注更設稱號尊神。異於人。皇君也。考成也。言其德行之成也。妣之言媲也。媲於考也。辟法也。妻所取法也。生曰父。曰母。曰妻。死曰考。曰妣。曰嬪。問。皇祖妣若爲處分。答。皇祖一種也。跡云。皇祖妣皇妣等。謂皇帝之皇祖父母等。不得帝名。但用此等之名事。是不見文。又嬪于卽位者。此皇妣合平出也。朱云、額異。*皇考皇妣以上名通死生用此。爾雅第一卷說之。朱云。後反同此也。死生不見別。皇祖之皇字猶尊言。依子孫而尊祖父母等耳。此非追皇之心也。朱云。上件四名死後之辭也。生日可稱皇父皇母者。後反云。

〔此非追皇之心也〕追皇

は天皇を追贈せられたる親王・王を云ふなり。奈良時代には、親王にして天皇を追贈せられたるもの二つあり。光仁天皇の父田原親王、淳仁天皇の父舎人親王、文武、元正の岡宮の如きその例なり。舎人親王の追號を崇道盡敬皇帝と稱す。これ即ち追皇なり。

死生別不見者。真釋違耳。上件諸御名可稱時、不見明文。臨時廣有耳。穴云、依禮、生者曰皇祖母、死者曰皇祖妣。又生者曰皇父皇母、死者曰皇考皇妣。即知、文所云者、死後可稱之辭也。但生時不可卑於死時。然則可準用耳矣。師云、依文、不別死生、仍須死生無別。同號也。令釋同此說。皇祖以下縱氏換尙合準圖之也。於說右事亦如文云也。問、何故太皇太妃者然下皇妣等。件上之由何。答、私案、與準用同心。但以貴者文故、頗不平用也。更無優劣。

皇妣。

先帝。古記云、問、先帝未知其限。答、無限。朱云、先帝者天子死後名太上天皇。亦同可稱者、未明。額亦同也。穴云、太上天皇崩之後、同可云先帝。師同。

天子。

天皇。

皇帝。

陛下。

至尊。

〔廢務之限在別式見儀制令〕儀制令、大陽虧條に「國忌日、謂先皇崩日、依別式合廢務者」とあるを指せるなり。

太上天皇。

天皇謚。謂謚者累生時之行迹、爲死後之稱號。即經緯天地爲文、撥亂反正、爲武之類也。釋云、謚者累生時之行迹、爲死後之名稱。假如、經緯天地、謂之文、撥亂反正。謂之武之類。音神至反。古記云、問、天皇謚、未知謚。答、天皇崩後、據其行迹、文武備者、稱大行之類。一云、上宮太子稱聖德王之類。朱云、天皇謚亦死後名也。未知、先帝天皇謚一名別何。答、尙臨時可有耳。

太皇太后。謂天子祖母、登后位者、爲太皇太后、居妃位者。爲太皇太妃、居夫人位者、爲太皇太夫人也。釋無別也。太皇太妃。太皇太夫人同。

皇太后。謂天子母、登后位者、爲皇太后、居妃位者。爲皇太妃、居夫人位者、爲皇太夫人也。釋無別也。朱云、皇太妃皇太夫人等、此天子之母所稱歟。若不然者。皇后何。答、然也。所稱天子母耳。

皇太妃。皇太夫人同。古記云、上件六員太字。若子孫不即位者、太字不加。穴云、太皇太妃等依子孫、即帝位尊平出、自餘非也。爲當、代不平出故也。

皇后。謂天子之嫡妻也。釋云、皇后天子嫡「妻」也、昔今通稱。朱云、皇后者不在天子之母。只稱皇后耳。先帝今帝之后竝同也。

右皆平出。謂平頭抄出。即據當時天子、及國忌可廢務者。其下條闕字亦准此。釋云、平出。謂平頭抄出耳。所謂平出者、見上及國忌廢務爲限。下條闕字亦宜准此。廢*務之限在別式。見儀制令。穴云、右皆平出者。師從令釋所說了。

大社。右記云、問、大祭祀者、若爲處分。朱云。大社者神社也。陵號。乘輿。

「但依律稱御者三后皇太子皆可同耳」名例律に凡稱乘輿車駕及御物者、太皇太后皇太后皇后並同、稱制勅者、太皇太后皇太后皇太子令減一等云々と見えたり。

車駕。詔書。勅旨。明詔。聖化。天恩。慈旨。中宮。御。謂斥至尊。謂一人也。三后亦准此。凡明神御宇。如此之類。非是斥說一人。故不可復平闕。其闕字之號。若當行上者。不可闕之。猶須平出。釋云。斥指也。音昌石反。跡云。斥至尊。謂凡稱御者。三至尊人。然則三后等亦依律令至尊也。凡平出闕字等。當件上端者。不更下。假令。往法云云。其處可用其物若干。天皇直就上頭注耳。朱云。斥至尊。謂依此令天子一人也。但依律稱御者。三后皇太子皆可同耳。額同也。穴云。御謂斥一人也。於中宮非也。依律稱御者。太皇太后皇后並同者。爲科罪生文者。不合闕字也。但令者依式於耳。師同此說。私案。中宮闕字。然稱御處中宮亦闕。跡云。同。問。唐令云。非此不闕者。未知。一端何。答。三問」。稱御行闕字以下。答。不闕也。先度說也。闕庭。朝庭。「東宮。」皇太子。殿下。朱云。殿下者。未知。爲誰所稱。答。皇太子所稱耳。凡此令。爲明平闕字立文也。儀制令。明可稱御名狀耳。

右如此之類並闕字。古記云。問。如此之類並闕字。未知之類。答。假明神聖恩恩敕聖慮等。如是之類。不可勝舉。故云之類。

凡汎說古事條

凡汎說古事。言及平闕之名。非指說者。皆不平闕。義云。謂汎者博也。假令上書云凡人君者。父天母地。故曰天子。此非指言其君。緣博說人君之體。自然及平闕之名。即如此之類。皆不可平闕。依上條。以國忌可廢務者爲限。但此雖國忌以外。而應指說者。亦爲平闕。釋云。汎博也。音孚劒反。汎說古事。謂指的先代帝皇作書耳。上條國忌以外爲限。雖非指說。而皆應平闕。但此條雖云國忌。未帝皇時。有令指述其君者。並應平闕耳。非指說者。謂爲述他事名號相關耳。古記云。問。汎說古事。言及平闕之名。非

〔勳六等以上相准不〕官位令によれば、勳六等は從五位下に相當す。故に贈勳六等以上の勳記も、五位以上の位記に准じて内印を鈐するやと諮問せるなり。

指說者皆不平闕。未知。其意如何。答。汎說古事。言及平闕之名。說異國之君名也。非指說者。非指當國君上說也。跡云。說古事。謂除去國忌以往。是非指說者。而造始是指說耳。但國忌内不論說指不之狀。皆合平闕。朱云。及平闕之名者。云平出闕字二事者。穴云。古事不見其限。合依別式也。令釋云。國忌之外是者。未爲可也。師依令釋爲是也。一端見主及國忌之内。雖非指說皆可平闕。但國忌之外。依此文非指說者。不平闕耳。

天子神璽條

天子神璽。謂此條不稱「凡」字者。依唐令。平闕之上。皆無諸字。故此令亦不以凡字加平闕之上。但喪葬令「云」。凡天皇爲本服二等以上親喪服錫紵。又凡先皇陵置陵戸令守。是制作之紕繆。不可爲別例也。釋云。天子神璽此別條也。上條天子平出故不居凡字。跡云。此條顯不置凡字者。爲平出故。

平出上無諸字事

謂踐祚之日壽璽。寶而不用。

内印外印等事

内印。方三寸。五位以上位記。朱云。五位以上位記者。未知。勳*六等以上相准不。答。相准可捺内印者。穴云。五位謂勳位亦同也。案之。六等已上也。古記云。問。上條五位以上位記。以内印印之。未知。以外詔勅書者。用内印不。答。文不云。故不應用之。然今行事詔勅書者皆用也。及下諸國公文則印。古記云。内印。下諸國公文則印。事狀物數及年月日。亦印鈴剋傳符署處。朱云。下諸國公文則印者。未知。下諸司公文何。亦有何處可印。答。依此文。下諸國公文則印者。然則送在京諸司公文者。各可捺本司印也。但捺内印者。御所可印者。凡攝津職爲京官故。下攝津職公文。可捺本司印也。不可捺内印也。又下津國之諸郡公文。可捺職印也。凡不同諸國之例也。職印則約諸司印耳者。或云。依攝津職事下公文者。可捺内印者。貞不同。爲一司故不然可者。額云。同也。額云。過所文不捺内印也。此私事書耳。不可云公文故者。穴云。下諸國。謂凡在京諸司出符移牒之類。皆經官下類者印之也。但過所是一者。無可經官

〔牒謂太政官及諸司與僧綱及相牒是也〕牒は元來官人が官司に出す文書の名稱なれども、被管にも所管にもあらざる官司に對して發せらるゝ文書の名稱となれり。僧綱は太政官の被管にあらず。又八省

故。印職印耳。師同之。自餘公文者。攝津京職下諸國者。皆請內印耳。或云。諸司下攝津之職符移牒等。若自餘事者捺內印。若因職事者外印也。師因。同此云可檢是非。或云。不用內印。一事已上如諸司。何者政所在京之故也。此說合私思也。問。此職下符管郡者。請內印哉。答。師云。可捺職印。一端如諸國下符諸郡之時。未審。

外印。方二寸半。**六位以下位記。及太政官文案則印。**朱云。外印者。太政官之印也。未知。誰人可掌。答。長官可掌耳。下條讀了。太政官文案則印者。未知。於諸司送來案何。答。可捺本司印者。但或云。捺外印可還者。不收。額亦不收。出符之案。捺官印。還見符式義。穴云。私案。太政官文案。謂下在京諸司文及雜案是。時行事正副物下國時。副官符捺外印下也。古記云。問。外印。太政官及諸司案文。則印之。未知。施行文者用之不。答。於案印一。故施行文皆可用之。又問。於案文印之。未知其限。答。在諸司案一無不印也。

諸司印。謂省臺寮司等。各皆有印也。朱云。諸司印。謂省臺寮司皆約也。或云。被管八省等寮司更下給印也。上司之印可用者非也。依此文。不見別者。但用印字不見耳。假用本司名等耳歟。額同。問。諸司印者未知。坊官及家司何。額云。坊官可給也。但家司不可給。穴云。寮司皆有印。師依此說。或云。寮司無印。此文諸司謂省臺庫等。是故。文云。進官公文。謂寮司公文者。皆經省故也。此說爲不也。方二寸二分。**上官公文。及案移牒則印。**謂太政官及諸司。與僧綱若二綱。相牒之類是「也」。釋云。牒謂太政官及諸司與僧綱及相牒是也。

諸國印。方二寸。**上京公文。及案調物則印。**穴云。依令條。不合有郡印也。師同之。朱云。郡可無印也。有國印之故者。凡印皆官作給耳。如下條案調物。謂三事也非調。廣可有他物之故。古記云。註過所符者。隨便用竹木。謂和*銅八年五月一日格云。自今以後。諸國過所。宜用國印也。

百寮諸司は僧綱の被管にあらず。故に僧綱を當事者の一方に持つ文書は、すべて牒と稱せられたり。

〔和銅八年五月一日格〕この格、類聚三代格に見えず。但し續紀、卷六、靈龜元年五月辛巳朔の條に「始レ今。諸國百姓。往來過所。用二當國印一焉。」と見えたり。

〔致怠者程一日笞卌〕職制律に「凡驛使稽程者。一日笞卌。一日加二一等一。罪止二徒一年一。若軍機要速者。加二三等一。」云々とあり。

行公文皆印條

凡行公文。皆印事狀物數。及年月日。并署。繼(縫)處。鈴傳符剋數。

凡給驛傳馬。皆依鈴傳符剋數。穴云。給驛傳馬者。未知。何人乘傳馬。答。厩牧令云。公使須乘驛及傳馬。又云。官人乘傳馬出使者。卽知。公使所乘也。但事急者。乘驛「馬脫カ」。事緩者乘傳馬。宜應云耳。問。傳馬日行程。答。師云。准馬七十里條。跡云。同之。朱云。問。傳馬行程何。若准驛里如行不何。答。依下條。馬日七十里者。准此等可行耳者。私未明。何者下條爲長。行馬立程故。未知何。額亦同貞說也。此問答亦同也。下立行程條見耳。而何。事速者。一日十驛以上。事緩者。八驛。穴云。和(私)事速。謂尋常驛。尚有速緩。*致怠者。程一日笞卅(卌)。何者注量事緩急日有行程之文。在笞卅(卌)之下故。若軍機要速者。加二等。謂爲飛驛耳。私云。可勘。師云。雖日馳驛。若爲軍機要速者是也。朱云。事速者。一日十驛以上。謂往還並同也。此馳驛也。凡飛驛者。每驛代人馬。往不見行程也。事速與事緩。雖有行程別。於驛使稽程置無別也。見職制律者。問。往時稽與還時稽。有罪別不何。可律案耳何賊。還日。事緩者。六驛以下。謂四驛以上。依文。一驛爲差故也。釋云。以下。謂四驛以上。案本令知也。古記云。注云。(六カ)驛以下。謂四驛以上。跡云。六驛以下。謂四驛以上。唐令。馬日七十里。乘驛馬四驛故也。穴云。六驛已下者。四驛以上。諸說者同之。親王古記云。問。親王未知。有品無品同不。答。同。跡云。親王。謂凡餘條親王不云品者。有品無品皆無別也。及一位。驛鈴十剋。傳符卅剋。三位以上。驛鈴八剋。傳符廿剋。四位驛鈴六剋。傳符十二剋。五位驛鈴五剋。傳符十剋。八位以上

〔傳子〕傳馬の馬丁なり。傳馬は驛馬と同じく、官吏の公用に供する用にして、事急なるときは驛馬に乘り、事緩なるときは傳馬に乘ること當時の制なり。驛子は驛戸の正丁を以て充て、傳子は一般公戸の正丁を以て充てたり。

驛鈴三剋。傳符四剋。初位以下。驛鈴一剋。傳符三剋。朱云。初位以下者。未知。以下限者何。答。無位若白丁並同。無別者。古記。問。驛使長官主典者。未知。給驛數。答。隨位增減也。**皆數外。別給驛子一人。**謂驛子騎馬爲先行者。凡驛家者。人馬必相從。故雖文不云。人馬共給也。文云驛子。不云傳子。*即明。數外亦不可給傳子也。問。文云。驛家。不云傳子。若具內傳馬。亦必每馬無人哉。答。私案。一端云驛家贜。如是記者。傳子必相從贜。抑可求。故雖文不云。人馬共給也。文云。驛人哉。答。私案。一端云驛子。不言傳子。即明。數外亦不可給傳子也。釋云。數外別給驛子一人。唐令。驛子者驛馬引導驛家一人耳。何者。使緩其宿具及束身調度。一事以上驛家准擬。故除驛子外。更無從人。此間驛使除飲食外。一事以上倒必隨身。是以稱驛子者。馬一疋幷子一人。使此驛子文同意殊耳。一云。文稱驛子一人。即知人也。文稱者字故知。傳子亦給一人耳。古記云。問。皆數外。別給驛子一人。未知。驛子馬贜。人贜。又傳若爲處分。答。有馬而人從。故稱驛子。又傳者別不給。本令。別給驛子。謂引導之人。此間作駄。跡云。驛子謂傳驛各馬人一人也。給馬。謂馬一人是也。朱云。給驛子一人。傳子不給者。額同也。穴云。數外別給驛子一人。謂爲駄馬所充也。其於傳馬數外。更不給。爲充數駄故也。古私記亦同也。問。文云。給驛子一人者。未知。因何給馬贜之意。答。文云。親王及一位若干。初位以上各有等差。今此云數外別給驛子一人者。然則明知。初位以上所給之馬外。別給馬人也。但一端文稱驛子一人。案條旨可知耳。**其六位以下。隨事增減。不必限數。**謂六位以上。其初位以下者。別有文故。但此令。無四剋鈴。若應增給者。即封其所乘之剋而給之。古記云。問。注云。六位以下。隨事增減。未知。初位以下減不。答。初位無位不減。又五位以上。有增無減。跡云。六位以下。隨事增減。謂鈴四剋二剋。但初位以下。依文不增減。爲上文云六位以上故也。朱云。額云。不然也。初位皆約者何。傳符剋〔無剋カ〕。增減准此耳。朱云。六位以下。謂初位皆約者。

〔律疏云〕唐律疏義なり。

後反云。依上文。八位以上者。私生同何。隨事增減。謂差行事隨勢經日耳。傳符增減同符待(得)受文者。額初說同也何。穴云。六位以下具在。跡云。與彼無別也。跡云。八位以上是。師同之。**其驛鈴傳符。還到二日之內送納。**謂還到於京送納日限。「其」案唐令。使事未畢之間。便納所在官司。「令」於此令。既除其文。故知使人在國之間。仍合隨身也。釋云。還謂詣於京也。是職制律用驛鈴。事訖應輸納而稽留者。一日笞五十。十日徒一年。傳符減三等是也。到謂到指所之國也。擅興律。其驛鈴違限不納者。笞四十。傳符減二等是。一云。檢本令。使事未畢之間。便納所在官司。所以律疏云。輸所到司者。若不輸納有稽留者科罪。今檢此令無旣此文。則知。使事未畢之間者。使賚耳。還到於京。二日之內送納也。但擅興律不納者。新任國司乘驛到任之類。其鈴可返上之類是也。此說傳符難。跡云。驛鈴傳符。至京應輸納而不納者。職律制有文。至國不入所在司事者。擅興律有文也。朱云。還到二日之內送納者。還來京納日限耳。此則職制律。用驛鈴事訖應輸納。而稽留有(者カ)一日笞五十。十日徒一年者。然則雖良稽留未滿一日者。依職制律可無罪也。但擅興律。爲新任國司立文耳。凡新任國司乘驛傳馬。到任所國。必進納國府。更差使可進上京耳。或云。職制律。滿一日爲稽留時立罪也。擅興律爲未滿一日時立罪耳。並不入京時罪者。貞不同。而未明何。私亦不同。穴云。還到兩說。於律令決。職制律附釋云。驛使至所在事未了者。且納所司。事了然後更請至京進上輸納者。案此一端見。國亦納事。卽常兩說之外。或云。還到二日之內者。還到於京。而二日之內也。若除二日之外。全一日稽留者。依職制律笞五十。二日加一等。十日徒一年。傳符減三等。若二日之內不納。而不滿一日者。依擅興律。驛鈴違限不納之罪笞四十。傳符減二等。此律令之心也。故職制律計日科。擅興律不計日數。而只科笞四十。私思順也。但師不依耳。

諸國給鈴條

凡諸國給鈴者。謂其剋數者。依式處分也。釋無別也。古記云。其諸國給鈴剋數者。將在別式。朱云。給謂官給也。**大宰府廿口。**謂管內諸

國。亦國別皆給也。跡云。大宰門諸國。各國別給也。古記云。問。諸國給鈴者。大宰師廿口。或本無師字。或本有師字。未知。所從。答。無本。

三關。及陸奧國。各四口。大上國三口。中下國二口。其三關國。各給關契謂。其作契之形制者。須有別式。即下條隨身符亦准此也。釋云。師說云。作契制者。非凡所知。古記云。問。三關國各給契二枚。未知。契狀。答。未契也。問。六位左位。更任國守。給鈴如何。答。任左位日。給五位鈴。任六位時。還給六位之鈴。朱云。三關謂給有關國也。不可給關也。何者長官執故。非必關司之國司。故文三關者。然則餘關不給關契。穴云。三關國。謂古令云。三國關與令無別也。依文除三關。三關國之外。不合有契也。讚令問答軍防令云。諸國關別有契者。不依令條。別生文也。**二枚。並長官執。無次官執。**謂有鈴與契。是以稱並。其長官次官並不在者。主典以上亦得執掌。釋云。師說云。長官次官並不在者。國聽一人上。並封契貯司耳。云長官。無以次官執耳。但史生非也。古記云。問。長官執。未知。服假者。稱無哉。答。服假者。與無同。次官無。次次執耳。朱云。並長官執者。爲有鈴關契稱並字者。凡長官在日。次官以下不可執耳。以下亦可放此義也。無次官執者。次次主典以上可執耳。凡無者身病并受假之類。皆同也。凡印等亦夕還館時。封收置官庫耳。不可持還館者。於鈴稱可執人也。未知。於印何不稱乎。答。可放鈴者。穴云。次官。謂不及判官以下。令釋所云也。但於飛驛及下國守國等色。依當條之文耳。師云。次官者以次官也。即知。判官以上亦無者。主典亦可執。但史生非也。問。執鈴契行事何。答。封置庫耳。問。判官不掌鈴印。及可掌狀。請條見。答。鈴並條有文。及次官。但及判官不同。其印有判官掌文。主典無掌文。賊盜律云。官物有印封。而主典擅開者。笞四十。注云。須開者。請當司判官以上。始開是也。師云。擅興心。亦判官以上無者。主典開之無罪也。讚。跡云。無長官。謂依私事赴他所時。契合付次官。爲不棄之備故也。鈴主典以上仍合掌。但有權要之事者。主典猶用契耳。

「古記云問諸國給者大宰師廿口者本無師字或本有師字未知所從答無本」これに據れば、大寶令の本條には、大宰師廿口とあるものと、大宰廿口とあるものとの二本ありしことを知らる。職令は誤りてこれを大宰府廿口と解したるなり。

「次官無次次執耳」これ次官を長官、次官の次官の意に解せずして、次位にある官人の意に解せるなり。この解釋をとれば、次官なきときは判官、判官なきときは主典、これを執ることとなるなり。

車駕巡幸條

凡車駕巡幸京師。朱云。京師者猶言京也。或云。師者衆也。然京者衆之所集也。故加師字。未明。留守官給鈴契。謂留守官者。

皇太子可留守事

皇太子。若不在者。餘官留守者亦是也。給鈴契者。案唐令。不給內印。但有事應用鈴契者。更副官符行下。其依上條。太子監國之日。唯得用物旨及便奏。以外大事。不(得)施行。此據尋常之時。不由非常之變。若有軍機急速應處分兵馬者。不拘恒法。亦得兼行。古記云。問。京師留守官。未知。皇太子監國留守官哉。答。然。跡云。留守。謂無太子餘人皆同。朱云。留守官給鈴契者。未知。內印給不。無印何可行事乎。答。不印給也。給鈴契者。爲合御所之契也。鈴亦爲進遣御所也。凡上物旨式便奏式。皇太子監國。以奏勅代啓令。謂只爲御所事也。廣不可行諸司諸國事者。未明。後云。內印不給也。御所亦可行政故。但留守官。以外印可行公事耳者。未明。額亦。不明決何。穴云。問。文云。給鈴契者。未知。有給印哉。答。雖給鈴契。若不給印者。不可得施行。然則印亦給耳。雖云內印此一也。而據留守者。其印不從行幸哉。答。不可然。但而內印數下見幾。有抑靜檢。或云。留守官者。皇太子以下。於諸國鈴契不施行。但給鈴契本意者。爲通行在所。只給「鈴」契。以已可不給印。其於行在所通鈴契事者。用外印耳。不可有內印之故。後師云。依文習不給印耳。但理於留守官。可有官印。然至行鈴契之時尙難矣。靜可案之。後案。*上條皇太子。不得行奏事以上。但正得行便奏之小事。准此論之。留守之官。不可行中事以上及發兵之事。是知。爲通行在所之說合宜也。又內印可給之說合。私思可檢。

多少臨時量給。

〔上條皇太子不得行奏事以上但正得行便奏之小事准此論之留守之官不可行中事以上及發兵之事〕公式令、便奏式條に「其皇太子監國、亦准二此式一、以二奏勅一代二啓令一。」とあり。奏事式以上に、この句なきは、即ち奏事以上の式によつて行ふべき重大なる

給隨身符條

凡親王。釋云。無品亦同。餘條不稱品者。皆放此。古記云。問。親王。未知。無品入哉。答。入餘條不稱品者。皆放此。及大納言以上。幷中務少輔。五衞佐以上。竝給隨身符。釋云。師說云。作符則制者。亦非凡所知。古記云。問。隨身符何作。答。不知。穴云。師隨身

契勅は、皇太子に在るを行ふことを得ざればなり。留守の官は、皇太子監國の際に於ける京師の留守官を云ふ。唐律疏議には、依令。車駕巡幸、皇太子監國。」とあり、又公式令義解には「謂太子監國、太子留守、以爲監國」と見えたり。

「在家非時文宜連讀」非番にて家に在る時の意なり。非番の時及び家に在る時の意に非ずとなり。

符者。官作可給。案之。爲一人。左符一右符一。合二枚可作之。朱云。左衞佐以上者。未知、爲兵事車。雖六位以下佐以上。必給隨身符不。答。依文猶可給耳。凡雖同司官人。尚各別可給耳。然則可知。中丸符已丸符附驗。可收置御所耳。未知。何司可掌收哉何。此從御所可給耳。 「左一右一」。古記云。問。左右二之意。答。爲頻遣使。」 右符隨身。左符

進内。朱云。進内謂猶言有内也。或云。進内所司作進者。私案。文不可然之也。 其隨身者、仍以袋盛。若在家非時別勅

追喚「者」。謂使役來追也。文云在家。若在本府者。不可更須符。其非別勅。而他司但追喚者。待明赴之。無合符「出」故也。釋云。在*家非時。文宜連讀。非時課役耳。若在本府。別勅追喚者。不葉符參耳。何者在宿待詔故。若非別勅而他司喚者。待明日參耳。無合符故。古記云。問。若在家非時。未知。非時。答。夜也。又服假亦云耳。又於大臣等者。白日亦可云。又問。出使。未知。出之限。問。別勅召。未知。屬別勅而已哉。答。召字兼可得。但出使與別勅者非一事。一云。一事也。問。召檢校一歟。一歟。答。二也。檢校於其人身。問。安不又有可勘問耳。令行事。中務以下。隨身符不給也。跡云。在家謂依私事在他處皆同。但在府而召者。不給符也。 勘符。同然後承用。其左符。勘訖封印付使。 謂封印。猶云封也。跡云。封印猶封也。朱云。假令。以名字等可封耳。 若使至無符。及勘有參差。 謂參差猶不齊也。言雖是正符。而次第差錯之類。其知符有參差者。即速處以聞。及使人者。亦隨狀禁之。釋云。參差不齊也。參音楚岑反。差音楚宜反。謂雖是正契。次第相違耳。檢明令。左符行用之日。從第一爲首從事實用。以次類之也。其勘符有參差者。依擅興律。連機以聞「聞」。其使人并隨禁耳。跡云。不得承用。謂契不合者。速合左聞。但使人依其狀可禁。不可執之狀。論時實「量」耳。」穴云。使至無符。及勘有參差。不得承用。未知。於使人何處分。答。依宮衞令。勘合契條

習耳。與彼殊也。問。依彼條。不同者。執逐本符者。未知。此條。於親王何處分。答。臨時勘耳。此條子細之事。可依令釋耳。私案。厩庫律云。應給契而不給。應下契而不下。若下契違式。及不以契合從事。或契不合。不速以聞。各徒一年。隨身符各減二等者。然則使至無符。及勘有參差。執縛可速以聞。不以聞者。減二等杖九十耳。

不得承用。其本司〔自〕相追喚。不在此例。

國有急速條

凡國有急速大事。謂急速者。盜賊劫略。轉入比界之類也。大事者。指斥乘輿。情理切害。究其徒黨。亦分入傍界之類「也」。釋云。假如。劫賊略人。轉入比堺。兩馳「驛」相報追尋。如此之類。可謂急速。※指斥乘輿。情理切害。究其徒儻。分入比堺。兩國司馳驛相執。如「此之類。可謂大事。言捕竊賊之有急速馳驛相報耳。古記云。問。急速大事。未知二賊。一賊。答。一也。雖大事。事緩者不馳。跡云。急速大事之解。依令釋。但至捕亡令亦合勘。朱云。先云。※依急速馳驛比國者。律有文。但依謀叛以上馳驛比國。不見正文。但案可多有耳者。私案。可知耳。而可求定耳。不在急速大事。而馳驛不可向諸處也。穴云。後穴。※急速謂斷獄律獲死罪處。有驛者。發案奏是也。於劫賊等非也。捕亡令私記備之也。急速大事如令釋也。問。令釋云。指斥乘輿等。馳驛者。未知。依何文馳驛耶。答。可勘律也。但案令條。下國守闕此輕。尚依急速馳驛。以此准條。自餘機急等。馳驛追捕無妨。故令釋案令意耳。私案。獄令。指斥乘輿。及妖言惑衆。檢校了總奏。此驛奏。又職制律云。指斥乘輿。約非大事應密告。朱（朱）（釆）張云了。※其謀叛已上。自然依獄令申奏。先了。更不被云有不合立驛。令此文。充未經申而兩國所行。是故。知律令義異耳。私思。急速大事者。急速者。如條初說。依。斷獄律。是驛也。大事者。職制律。漏泄大事。應密者校注云。大事收捕謀叛之類者。案之。諸國自雖無相驛「馳」正文。而依此條「謀」叛以上。指斥乘輿。情理切害。及妖言惑衆等。若有可相馳驛者。任可得馳驛。然則告密條。※捕亡第三條。擅興初若（條）有如是此事者。兩國可得「馳」驛者。仍須附朝集使申其由狀。但申上及奏聞。於京者不

〔指斥乘輿情理切害〕職制律に「凡指二斥乘輿一。情理切害者斬」とあり、又名例律は「六曰大不敬。（中略）指二斥乘輿一。情理切害。及對二捍詔使一。而無二人臣之禮一。」とあり。

〔依急速馳驛比國者律有文〕職制律に「凡文書應レ遣レ驛。而不レ遣レ驛。不レ應レ遣レ驛。而遣レ驛。者杖八十。」とあるを指せるならむ。

〔謂斷獄律獲死罪處有驛者發驛奏是也〕斷獄律に「凡縱二死罪因一。令二其逃亡一。後。還捕得。及

可附也。復亦可問求之。國馳驛而不不可申官色是。凡此條爲心只兩國。**遣使。馳驛向諸處。相報告者。**穴云。問。向諸處。未知。兩國相報告歟。爲當。向京竝約歟。答。爲兩國相告生文也 於向京不合。何者官自知。又馳驛。當時合隨事推科故也。古記云。問。報告意。答。告之之意也。**每年朝集使。具錄使人位姓名。幷注發時日月。**釋云。發時之年月日也。朱云。發時日月者。未知。時與日月歟。若時之日月歟。答。私案。可云也。古記云。問。日月與年月何。答。年月日意。又問。時注哉。答。不注之。**給馬疋數。告事由狀。送太政官。**朱云。給馬疋數者。一端云耳。用物數皆可云者。問。告事由狀者。未知。一事歟。一事歟。「答」。私案。可云也。**承告之處。亦准此。**朱云。未知。一國內馳驛者。承告郡司。何可爲。私案。郡吏不注耳歟。但國者猶乘驛馬狀注耳歟也。**太政官勘當。有不應發驛者。隨事推科。**跡云。問。此條與下條別何。答。此條云。國司發驛之後。至官爲勘可發驛不可發之狀。下條云。說可發驛之色耳。

國司使人條

凡國司使人。送解至京。謂其爲國司所差遣者。郡司及雜任皆是也 釋云。國司使人。國司之使人。古記云。問。國司使人。答。國司之使人也。穴云。使人者。國史生以上。或差百姓。通上一同也。讃云。差史生以上使是。差凡人者非也 朱云。凡國司使人者。國司郡差使構耳。此史生以上差使耳。於今差驛使部等上使者。不可依此文者。額云。使部等皆同者何。問。國司使人者。未知。諸使人放此不。答。於諸司吏不可放此文。**十條以上。限一日申了。**謂十條者。十通（道）也。申了者。猶云進了。唐令。云付了。此畢文同義。

囚已身死、若自首伏レ罪、死罪者、且與囚及首死之法、即須レ遣レ使捉獲レ處、遣之所レ有レ驛由奏レ聞驛報レ之。」とあり「其罪死已上自然依法令中申奏」獄令に「凡告密人、皆經二當處長官一告。」云々とありて、その義何れにも謂有る、諸本以上「云々」と云へり。

「捕亡第三條」凡追二捕罪人一所レ發人兵、皆隨レ事斟酌、使二多少堪一レ濟。其當界有二軍團一、即與相知、隨即討捕。若力不レ能レ制者、即告二比國比軍團一、得レ告之處、審知二事實一、先須二發レ兵相知除剪一、仍馳驛申奏、若其遲緩逗留、不レ赴二機急一、致レ使二賊得鈔掠及追討不一レ獲者、當處錯、獄本罰、其得レ賊不レ得レ賊、國司軍團皆附レ考。」

「驛使稽程」へ「……」と讀むべし。

「十道」十道の方正しか

るべし。

〔四度使〕朝集使、大帳使、税帳使、輸調使を云ふ。

若有所勘問者。隨狀進退。不可必限一日。釋云。條謂一通之書。有十事者。爲十條也。或說。十道爲十條者非也。一日謂閇門以前。申了。謂進書之所由申明了也。古記云。問。十條以上限一日。未知。一日者給日乎。狀下以上乎。答。問。以上也。十條謂十道。不限事多少也。假令。申諸司。若申一司日（月ヵ同）一日了。跡云。十條謂十道。假令。十道申一司。或十道申數司者。皆同耳。朱云。或云。各別者非。何者、此文不見其別故者、（以下括弧中集解文。當作小字。以下倣之。）（條十道總一度付一司訖。而其司主典讀申。仍且問其使人令辨答。因茲進者。是非使怠過。）朱云。貞不同此說。而私同此說耳何。凡此使怠罪。勘知怠事。所司則可勘科也。不可必還國科罪者。未明。（但十道事。而付數司。仍二日以上者。是此使怠耳。）朱云。私此說難。額不明決耳何。（申了。謂猶進付了也。朱云。申了。謂略進書之由。隨問辨答耳。其不可披極書內事也。*四度使及考文等。雖有期限事無期限事皆同。無別者。或云。不然。計帳令勘者。不可依此日限者。私未明何。穴云。此條爲一司可進文類。至官則付所司也。若可進數官者。每司放此條耳。先度說及跡云。等並或申一司。或申數司同限者。案文可然。）師同此說。（十條猶十道也。鬪訟律。張云。每一辭牒爲一條是。）師依令釋。不依此說之也。（申了猶付了也。不待讀申

〔大帳公文〕大帳使に附して進むる公文、即ち隱首括出帳、雜戸帳、[illegible]戸帳、出擧帳、[illegible]人計帳、[illegible]使名帳、[illegible]戸[illegible]帳、青苗簿等なり。

勘問。只付進了耳。）師云。所進解文、依受司勘問。而辨答理非之可還。爲當。可收定了。此謂申了。少不安。可案定耳。（問。檢時行事。朝集使公文大帳公文者。一度四十卷以上許進逵。尚放此條限三日了哉。答。此等文者。一度可進付。更不可經日。但此者爲每事之狀申顯事也。）私思順。但師心爲一同。無別耳。（又問。下條云。下司申解者。雖無理及事不盡。皆爲受取。以狀下惟（推ヵ）則知。每事可問使口。未知。此條止逵文。不被勘問義何。答。此條程內進付了。更可勘問耳。）師不依之。　廿條以上二日了。四十條以上三日了。一百條以上四日了。

在京諸司條

凡在京諸司。有事須乘驛馬 謂神祇官依幣帛。宮内省依御贄乘驛之類是也。釋古記並無別也。跡云。有事須乘驛馬。謂神祇官奉幣帛使之類。朱云。有事須乘驛馬。謂臨時廣有耳。凡可遣使狀。本司申太政官耳。穴云。有事謂私案臨時事。尋常事也。須乘驛馬。謂私案傳馬亦同。問。在京諸司。有事須乘驛馬者。皆本司申太政官奏給。未知。諸使官商量所遣。其諸司應遣使其色一端請。答。可求。但一端死囚捕。及死首處乘驛報等有耳。又下可有逵文書驛使故。師依令釋爲是。一端神祇官幣帛。「宮」内省贄使。先申官定使人。奏給是耳之也。 者。「皆」

本司申太政官。奏給。

凡驛使在路遇患。不堪乘馬（驛使在路條） 謂遭重喪者亦同。依律。驛使無故以書寄人注。云非身病（患）及父母喪故也。案軍防令。征行大將以下。有遭父母喪者。皆待征還。然後告發。又假寧令云。公使。父母喪應解官。無人告者。聽家人經所在官司。陳牒告追。若奉物出使者。申官處分。即知。公事出使。遭父母喪者。自非征行及奉物使。皆鈴及文書。寄同行人。送於前所也。釋云。文稱遇患不堪乘馬者。「如遭重喪不堪乘馬者」亦同。行者。律云。驛使無故以書寄人注云。謂非身患及父母喪者。又軍防令云。征行大將以下。有遭父母喪者。皆待征還。然後告發。假寧令云。公使父母喪應解官。無人告者。聽家人經所在官司陳牒告追。若奉物出使者申官處分。故知。公事出使。遭父母喪者。自非征行及奉物「使」。鈴及文書。寄同行人。遣送前所耳。古記云。問。驛使路遇患。不堪乘馬者。未知。遭重服何。答。職制律云。*凡驛使無故以書寄人注云。謂非身患。及父母喪者。仍在律無罪。遭父母喪者。與遇患同寄書云。使人在路。若聞父母喪者。聽文書付同行之。若在路去京近者。還京申之。假寧令云。官人遠任及公使。父母喪應解官。無人告者。聽家人經所在官司告。若奉物出使。及任居邊要者。不拘此令。案奉物驛使不可留也。舉哀訖。即事了令返命奏聞。自餘太政官以下使。可留聞哀所。賊盜律。謀殺詔使條注云。奉勅定名及令所司差遣者。即此名爲奉勅使。但太政官量定奏聞。依奏使者。不在奉勅使之例。朱云。凡此使送文書使。不在推問等使者。未知。「一」端何色文書。答。職制律。驛使以書寄人遣者是也。則律見色者。不堪乘馬人。若病不還日。何可還。答。不見也。可言上耳者。後反云。若從人之先還。不得馬食。但待從人還共還。可得食馬耳者。未明。額異。同行人送前所者。未知。此時雖白丁。尙依鈴剋給馬。並食不。答。鈴猶隨身耳。食及馬依白位可得也。不依鈴剋。若有白丁者。可得一剋鈴也。上條初位以下。驛鈴一剋故者。穴云。問。病重而無同行人者。鈴收何。答。私案。所在司收耳。私思。付驛帳。可令進國府。又問。上條說云。鈴不入所司。於此說何。

「凡驛使無故以書寄人注云謂非身患及父母喪者」これ古記に引かれたる文なり。故に茲に引ける律文は即ち大寶職制律の文なり。余は「謂非身患。及父母喪。」を養老律に於いては疏に作れるを以て之を大寶律の疏なりと考へ、「注云」はこれを予注云の意なりと解せり。然れども三浦博士は、注云と云へる以上「謂非身患。及父母喪。」は、

これを唐律の本注と解せりとの見解をとられたり。

穴云同行人謂馬子非奴也」律疏に偽人の場合に於いてのみ、奴婢を人と称せり。故に同行人と云ふは奴婢を含まざるなり。賊盗律、強盗條に注し、即ち「凡強盗(中略)殺レ人者斬。殺二傷奴婢一亦同。雖二家用一。但同居非二奴僕二皆是。」と見えたり。

答。病重須入所司耳。驛使謂送文書使也。過患謂父母喪亦同。律有文也。問。同行人送文書。後送都之日行事如何。答。返抄注附同行人之狀。並自同行人之位。餘並如封付之狀等。其注顯申上耳。又問。使主典共行。而使過患不得行者。主典須言上居當所待。未知。彼所得之鈴何可處分。答。師云。附同行人返上耳。但主典者。且行前所無妨也。問。何其同條有別哉。答。案下文知耳。古私記亦如之。又問。附同行人送時鈴何。答。准同行人位。封(封)付鈴送耳。但増剋者封送之。師云。可封不見也。

者。所有文書。令同行人送前所。謂同行人者從人。

其奴者非也。前所者指語之所也。釋云。同行人者除奴以外皆是。前所謂於同行者。送指〔語〕所。謂之送也。於驛長者。送行前國司耳。爲國司差使遞送故。古記云。問。同行人謂驛使判官主典乎。從人賤。答。從人亦同行人也。又問。令同行人送前所。未知。前所謂誰所。答。私記云。驛使所齎鈴。即付同行人。送所指之處也。跡云。同行人謂此止送文書之使。故除奴外皆驛使。合已從人送所指往之處耳。鈴取返抄可申官。故可長持往還也。穴云。同行人謂馬子非奴也。前「所」謂可文書送致所也。

若無同行人。令驛長送前所。謂前所者。是前路之國。非指語

之所。何者下文更云國司差使遞送故。其巡察。覆囚。及推事等使。不可送書者。申官聽裁也。釋云。其巡察。覆囚。及推事等使。不可送書者。必合即廻。古記云。令驛長送前所。答。私記云。驛使所有文書付驛長。送往前國司所。不付鈴。即國司差使給鈴遞送所指之處。若使人應專檢校者遇患。當國差使申上也。問。令驛長送前國司。未知。前所國司者當司乎。合往前國司乎。答。若有當國府過者。送只往當司所。每國差使遞送。跡云。令驛長送前所。謂驛使所齎公文並鈴。令驛長送往前國司所。其長令致所指往之處。非遞送之鈴也。若道國府過者。驛長雖非已國司。而令送前國司。朱云。未明何。額同也。但其府近者得而申耳。自餘事依令釋。朱云。驛長送國府間。雖有數驛不遞送。猶始受一驛長送者。朱明。後反云。遞送也。額同初說也。令釋亦同也。若當國府違。他國府近可送他國者。凡此條事。去京遠近有隨不合。限不見。而但近者浸申耳。令驛

〔脚力〕飛脚人足なり。軍防令に「凡白日放レ烟夜放レ火、先須レ看二筒裏一至二實不一レ錯、然後相應。若白日天陰霧起、望レ烟不レ見、即馳二脚力一、遞告二前烽一。」と見えたり。

〔中國〕日本の國なり。支那に於ける自國の稱呼に倣ひて中國、華夏等の稱奈良時代には使用せられたり。

長送前所者。若乘傳馬使者。令傳馬子送前耳者。穴云。其勘問使者。送鈴附所在司耳。若有可還之使(便)者。還納京庫耳。若有制官主典者。且申上行耳之也。**國司差使遞送。**穴云。問。國司差使遞送。行事何。答。國傳送遣耳。師云。國傳送者。不可發驛令脚*力送耳。又師云。還時亦國傳送上耳。又返抄可祓其由耳。鈴亦令持可返送也。又問。急速使何。答。發驛令馳送耳。師同。朱云。國司差使遞送。謂每至國府。相之代耳歟。答。然也。若急速者。如無國驛耳。未明。

國客瑞條

凡國有大瑞。及軍機。災(灾)異。疫疾。境外消息者。謂機者事之萌動也。灾者天火水旱之類也。異者怪變咎徵之類也。境外消息者。告飢請救之類也。以上諸事。變動非常。故別馳驛申上也。釋云。軍機機萌動也。灾異疫疾。左傳。天反時爲灾。杜預曰。「反時」。寒暑失性也。又曰。御廩灾注云。御廩藏公所親耕以奉粢盛之倉。又曰。凡火人火曰火。天火曰灾也。又公羊傳。大者曰灾。小者曰火。何休曰。大者謂宗廟正寢也。野王案。凡有害於人。皆曰灾異。怪者地所出也。疫癘也。晋營隻反。時氣不和云疫也。並須爲害。殊重言上耳。境外消息。假如。境外部落。自捕戰伐之類。師說云。消息微言也。古記云。問。軍機灾異。答軍機謂軍政也。灾謂天之所降。異謂地之所出。然禍耳。又問。何機云也。答。機謂萌動也。機密之類。問。疫疾未知其限。答。時氣不和云疫也。問。境外消息。答。知境外有欲襲*中國之志者。馳驛也。境外謂毛人消息亦同。跡云。軍機謂軍政也。灾異謂申上注依用令也。疫謂勘計國內疾人。異於常年者馳驛耳。消息謂界外人自捕戰伐之類。朱云。此文大瑞者。則知。上瑞以下。不可爲馳驛也。灾異二事也。可見用令也。未明。境外消息。謂化外之等來化類。未明。不然歟。後反云。令釋者。穴云。軍機謂密條馳驛等也。軍機者一事。猶軍政也。上瑞以下不馳驛。但隨狀或附使使。或專使言上耳。灾異水旱之類也。非異行也。可馳驛。限戶令說了。師曰也。疫疾亦一也。但馳驛限未見文。跡云。異於常也。**各遣使馳驛**

天火人火事

中上。

朝集使條

凡朝集使。東海道坂東。謂駿河與相摸界坂也。釋云。須流河與桑花界內。東山道跡云。奈*加津道。山東。謂信濃與上野界山也。釋云。科野與上毛野界山。北陸道跡云。北道。神濟謂越中與越後界河也。釋云。高志道中與道後界。以北。山陰道跡云。影友出雲以北。古記云。問。山陰道從誰國乘驛。答。從出雲在乘限。山陽道跡云。疏止毛。安藝以西。南海道土左等國。穴云。於南海道。只土佐國乘驛耳。及西海道。皆乘驛馬。自餘各乘當國馬。謂賃乘民間。

准折雜徭。卽以一日馬力。折一日人徭「也」。釋云。賃百姓馬。以折雜徭耳。徭一日充馬庸一日。「養*老六年格云。自今以後。緣「有」公事。向京國司。皆聽乘驛。「唯」伊賀近江丹波(伊勢)「紀伊」等四(三)國。不在給驛之例。古記云。問。自餘乘當國馬。未知。誰馬乎。答。百姓之馬。又問。百姓之馬。當雜徭之分以不。答。充雜徭。一人一日相替耳。其朝集使致京馬。卽返下臨可退時迎來耳。朱云。自餘各乘當國馬。謂除乘驛馬國之餘國皆同耳。未知。畿內皆約不。答。乘當國馬。謂近京之下。當可使下時。亦待人之馬持向者。未知。此馬別如人不。答云。云不定也。乘馬數如乘驛馬。准位乘者。朝集使謂一端也。推帳大帳使亦同也。但調使不可乘馬。可有別式者。未明。額聞。穴云。問。乘當國馬。未知。乘馬數節級何。答。不見也。師云。准釋可與之。但充當乘戶馬耳。又記曰。乘當國馬之間。自餘使可乘何色馬。答。不見。但有別式耳。師云。卽聞可乘私馬。非式未審。何者朝集使者諸使之中尤事重使也。故於令給馬。然則自餘使於法不給耳。

「須流河與桑花界內」須流河は駿河なり。桑花は桑美の誤にして、桑美卽ち相摸なるべし。

「奈加津道」中つ道卽ち中山道なり。

「養老六年格」養老六年八月廿九日の格なり、類聚三代格、卷十八、驛傳事及び續紀、卷九に見えたり。

〔但一端擧大宰耳攝國皆可帶仗〕大宰府、三關國、及び内舍人は武の限に在らずと云へるは大宰府、三關國の官人及び内舍人は、その外貌武官に類せる故なり。されば之によりて太宰府、三關國の官人の兵仗を帶せることを知るべし。而して茲に太宰府、三關國と云へ

内外諸司條

凡内外諸司。有執掌者。爲職事官。跡云。有執掌謂官位令有文。是以外雖有執掌。爲散官。朱云。執掌者。未知何。答。私如言職掌耳。郡司可爲職事官者。額同。又家司等同者。穴云。内外諸司有執掌。謂官位令有文。職員令有職掌也。何者職事三位家令補家令職事者。則在官位令是也。諸司謂主典以上。内舍人者。善最如長上。故注別顯耳。師云。於此條家令亦同。問。郡司不載官位令者何。答。亦須同。何者職員令有職掌之故也。無執掌者。爲散官。穴云。謂本「令脫カ」心職事人解任爲散官。故云爾。名例贈位條。張云。見。但此條顧本令心案耳也。五衛府。軍團。及諸帶仗者爲武。謂馬寮兵庫等是也。釋無別也。古記云。問。諸帶仗者爲武。未知。其色。答。馬寮兵庫諸物部等也。防人亦爲武。穴云。除五衛府軍團之外。武官者。如令釋「之」。大宰府。三關國。及内舍人。不在武限。謂文云。不在武限。卽知。令帶仗。既擧内舍人。亦中務丞以上。准而須知。釋云。大宰三關國。雖非武官准令帶劍。何者文云。大宰三關國。及内舍人。不在武限故。其大宰官人。及軍毅等在京之日。不帶劍者。別有處分耳。朱云。大宰府者。未知。摠諸國等皆約不。答。依文不可約。但一端擧大宰耳。攝國皆可帶仗。問。大宰府三關國者。未知。史生並郡司。皆可帶仗不。答。皆可帶者。額同。但〔〕依文。只大宰府官人耳者。穴云。大宰府者。九國三嶋及郡司三關國者。亦至郡司並皆帶仗。以此條知耳。自餘並爲文。

京官條

凡在京諸司。爲京官。跡云。問。攝津職有選位者。朱云。攝津職可爲京官。但參朝事者。可同外官者。未聞。穴云。問。攝津職者爲京官哉。答。然也。又問。下符攝津者。捺内印哉。答。預百姓事者捺也。預攝津事者。捺外印耳。一云。下攝津公文。猶捺外内印。爲政所在京内故也。又問。攝津下符郡者。未知。捺内印。捺外印哉。別何。答。師云。可捺職印。不可請内印。尙未審耳。

聞。攝津職者。在津國奉了。未知。如何。開門前上。閉門後下哉。答云。於上下者准外官耳。

自餘皆爲外官。古記云。監司謂芳野監和泉監之類也。

るは、一例を擧げたるものにして、帶仗の官人をそれに限定するの意にあらず。故に攝津國の官人も亦帶仗すべしと云へるなり。

〔聞入六門攝津職者隷京官品帶仗也〕攝津の職の意は、桓武天皇の延暦十二年まで帝都の一として保存せられたる。攝津を謂ふと云はずして職を云へるも、この京あるが故なり。故に難波の京廢止以前に於ける攝津の職司は、京職と同じく京官にして外官にあらざるなり。

〔古記云監司〕古令本條には、監司なる文字ありしものの如し。

〔芳野監和泉監〕芳野監は、元正天皇の御世に芳野郡を改めて建てるところにして、天平の末年に又これを郡としたり。和泉監は、靈龜二年四月甲子、河内國

令集解巻三十四

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　　員外宰相藤判

本云

弘長二年四月十一（廿五）日見合本書加首書畢（了）　　權大納言藤（在）判

建治二年七月四日引合正親町之本校合了

慶長三年仲秋十五令一校畢　　清原秀賢

右清家秀賢之本申請令寫之課職在遂一校合畢

寛永十一年菊月日　　中原職忠

萬治四年丑季春中三令一校畢　　羽林中郎將藤原

右一冊請神村先生之本使書寫畢

明和戊子歲仲冬　　越智通邦　印

同庚刁四月四日以京師本一校了

安永丁酉年孟冬集莊河伯泉之會句讀

大鳥、和泉、日根の三郡を割いて建てるところにして、天平十二年に廢して河内國に併せ、天平寶字元年五月、またこれを分置して和泉の國と爲せり。

文化十癸酉年六月三日校了

文政三年以彰考館本比校了

筒井忠英

撿校保己一

[illegible]

令集解卷卅五 應敍條以下。受事條以上。 公式五

品位應敍條
凡應敍。親王四品。諸王五位。諸臣初位以上。〔以下[illegible]〕（義云。此顯初給（授）之法也。稱以上者。「竝」承上三色也。）

問。選敍令云。蔭皇親者。親王子從四位下。諸王子從五位下。其五世王從五位下。子降一階。庶子又降一階者。然則二世王雖是諸王。可敍四位也。五世王雖同諸臣。可敍五位。又其嫡庶子等。可敍六位。未知。與此條若爲會釋。或云。諸王五位。謂三四世王也。二世王不合也。合敍四位。但入諸王例耳。五世王同諸臣。但敍五位。此條是立大例耳。或云。五世王入諸王之例。私案。義云。稱以上者。承上三色者。然則不必諸王敍五位。諸臣敍初位。諸臣敍初位。則知。可有敍四位之諸王。及敍五位六位之諸臣。不可更疑滯。

其令條內。稱階位者。正從上下各爲一階。率一階爲一位。（義云。率計也。假令。令條內。云從四位正五位之類者。「皆」是「階」混上下階之文。即給貴人位田位祿等。上下同差。故立此法也。）

問。假寧令云。正從位若干。正位若干。從位若干者。然則可給之祿。當條見文。何更立此法意。或云。於其位主典以上。准少判官。以外並准大主典等有用耳。

其三位以上及勳位。正從各爲一位。（或云。名例敍法條云。免官者三載之後。降先位二等敍注云。三位以上及勳位。正從各爲一等者。爲如此等定勳位等有用耳。）餘條稱等者。亦與階同。（義云。選敍令云。三位以上蔭及孫。降子一等之類。或云。稱之類。同令除（餘）降一等。又云。四位降一等。五位降二等。又律内多數。）

文武職事條

凡文武職事散官。朝參行立。各依位次爲序。（或云。行音胡郎反。朝參者元日之類也。）

問。依位次者。放上條。率二階爲一位哉。或云。正從上下。是稱位次。各以次例。見衣服令成條。問。各字意何。或云。依位之科。多稱各字。文官武官散官不別列。

（位同者。五位以上。即用授位先後。或云。位同者。共上階共下階之類。）六位

〔馳道〕天子の御成道をいふ。江家次第、七日節會の頭書に「馳道、輦路也、當二南階之地中一也」と見えたり。即ち宮殿の正面に敷設せる道にして、臣下の通路にあらざるなり。

以下以齒。(義云。齒齡也。)親王立前。(義云。夾馳道。而分立東西也。)諸王諸臣。各依位次不雜分列。(義云。自親王行降一等。諸王立西。諸臣列東。或云。大臣以下。皆立親王後。)

問。或云。外位別列耳者何。或云。不見別。問。或云。坐一行之時。諸王一位次諸臣一位。次王二位。次臣二位。次王三位。次臣三位。又正從以次別坐。一同諸臣。不別王臣。何者。朝服之色無別之故。但四位以下。

(朝服有別)依衣服令。王一位深紫衣。二位以下五位以上。並淺紫衣。臣一位深紫衣。三位以上淺紫衣也。然則王臣無別。又臣四位深緋。五位淺緋也。則與王別也。故王五位之次。臣四位坐耳。或云。王三位以上坐丁之次。臣一位坐者。准是。

諸王五位條

凡諸王五位以上。諸臣三位以上。致仕身在畿內。(義云。在京亦同

存問致仕人事

也。)或云。五位三位者。內外並同。問。文在畿內者。知在外國者何。)

或云。臨時處分耳。或云。不可巡問者。准是。問。文云。致仕者若依身病。及假等解官者何。或云。不見文。

〔存問是中務卿掌也〕職員令、中務卿職掌の條に「勞問」の二字あり、義解これに注して「謂勞者、郊勞也。依二軍防令一凱旋之日、奏遣レ使郊勞、是也。問者、存問也。依二公式令一五位以上致仕、身在畿內一令二內舍人一一巡問一、奏二聞安不一、是也。」と云へり。

每季。五位以上。每年。並令內舍人一巡問。奏聞安不。（或云。此文。五位以上者。諸臣四位五位。亦在畿內者也」）

問。每季每年一巡問。若可巡問之時可見哉。或云。不見二宜爲耳。問。*存問是中務卿掌也。未知。省自余巡問歟。若先奏令巡問哉。或云。中務卿奏令巡問。而奏聞安不耳。或說。勅令巡問。若卿有遺忘者。奏令巡問。此所謂拾遺者非也。問。付遣使奏之曰。若有數語云云之哉。或云。未審。

彈正別勅條

凡彈正。義云。謂巡察以上。其疏亦同也。問。或云。彈正兼內舍人者。亦入權檢校之限。一說。不在權檢校之限者何。

別勅令權檢校餘官者。不得仍知彈正事。義云。不關預彈正務。專知權檢校事。問。既不關預彈正事。然則不可貴(責)。不上耳歟。問。或云。不得知彈正事者。居他司不行彈正本者何。私案。義解。雖在本司不可行。抑何。問。此條。爲權檢校之時立制。其彈正兼任餘司者何。或云。彼此共行耳。問。勅令他司官人權檢校彈正者何。或云。兼行耳。其除(餘)彈正之外官雖檢校他司。亦可兼行。文不制之故。或云。兼官與權檢校。別者。兼官知正任也。權檢校暫間耳。

內外官條

凡內外官。勅令攝他司事者。皆爲權檢校。（義云。假令。式部丞攝兵部丞者。即注云。式部丞位權檢校兵部丞姓名之類」也」。或云。選敍令云。壹岐對

馬守闕。馳驛言上。待報之間。大宰遣判事以上官人權攝者。如是勅令攝他司事。是皆應爲權檢校。或云。號此爲檢校者。與權官已殊也。但權官者。注行守竝兼字耳。不異見任故」)

若比司者。則爲攝判。（義云。比司者。一管之内也。假令。主計助。判主稅助者。「即」注云。主計助位判主稅助姓名之類「也」」。此等皆非正職。亦不可稱行守。但案唐令。判官有假使。當司長官。令此司攝之。此既不依勅。長官自令攝之。故律云。其有勅符差遣。及比司攝判。今案此令。非依勅符。而無長官判令攝之文。故知除大宰之外。皆依勅處分「也」」）

問。義云。比司者一管之内者。若民部承檢校主計助者。亦爲判哉。或云。管者與被管司。亦同比司耳。私案。是也。何者選叙令云。壹岐對馬守竝獨闕。猶從馳驛例。其待報之間。大宰遣判事以上官人權攝。義云。權攝連署之法。須准比司爲判者。然則總官官人權攝被管之司。爲判灼然哉。問。或云。於本司署所不顯耳者。意何。私案。於檢校攝判所注。義解。可注其署所。但於本司不

〔律云在官應直不直應宿不宿者各笞卅者〕これ職制律の條文なり。

可注權檢校及
判之所意歟。

凡內外百官（百官宿直條）司別量事閑繁。各於本司。分番宿直。（義云。雖是假日。亦須宿直。其主典當直。事有期限。及應急判者。雖無判官。亦得與奪也」或云。外官謂郡司等者。未知。軍毅等亦分番宿直哉。」）

問。百官謂是主典已上也。未知。史生等何。或云。雖無正文。理不可不宿。然則宿直之法。可准主典以上也。使部直丁亦同。問。量事閑繁。其意何。或云。若事繁者。二三人宿。事閑者。一人宿耳。不可有不宿之時。問。分番行事何。或云。長官次官判官主典。各有一人者。爲四番宿。問。律*云。在官應直不直。應宿不宿者。各笞卅者。是知。宿直是二也。未知。日夜各分番歟。得日夜卅八魁內同人歟。或云。日夜是同人也。然則日直人。其夜即宿耳。問。於其長官以下在司行事。何煩分番意。或云。官人閇門之後。皆可下故。宿（定）直人令行事耳。問。宮衞令云。諸衞按檢所部及諸門。持時行夜者。皆須執仗巡行。每旦色別一人諳。在直官長通平安。義云。凡衞府者。長官若次官一人。必在宿直。不得共退。故云。諸在直官長。此令。云分番宿直者。然則彼令一端顯。長官次官在直也。然判官主典。亦依此令。分番宿直耳歟。或云。然也。除宿直本司之外。皆於職掌所分宿衞及按檢所部耳。問。下條云。京官皆開門前上。閇門後下。宿衞官不在此例者。未知。衞府除宿直本司。及職掌處之外。無退家哉。或云。上條云。五衞佐以上。給隨身者。在家非時別勅追喚者。勵待者。案之。可有退家。不必假退耳。問。義云。主典當直。事有期限。及應急判者。雖無判官。

〔依格彈正尹爲三位官故〕天平寶字三年七月十三日の格なり。官位令集解に見えたり。

事得專行者。師或云、過所之類、依理無判官以上署者、主典在直之日、不可輙行者何。私案、下條云、謂更及車有假限、並請給過所、若輸受官物者。不在假限者。然則過所者。是所謂更急判者也。是知。主典可判行後、其恐

謂判官以上署不可。主典獨行。

大納言以上。及八省卿。不在此例。謂尋常時。（或云、謂尋常時者、爲大納言以上、及八省卿生文也。或云、注云。謂尋常時者。然則八省卿以上。有事時者。令分番宿直。或云、除八省卿之外、餘官長官以下、雖親王而猶宿直耳。）

問。大納言是正三位官也。假令、省大輔及彈正尹三位者。猶爲非大納言以上、及省卿故。猶可宿直耶歟。或云。依格、彈正尹爲三位官故。不可宿直者。私案。依此說、三位以上不可宿直。但私意未決耳。

京宮上下條

凡京官。皆開門前上。（義云。謂第二開門鼓前也。）閉門後下。義云。謂退朝鼓後也。私案。宮衞令云。開閉門者。第一開門鼓擊訖。卽開諸門。第二開門。鼓擊訖卽開大門。退朝鼓擊訖卽閉大門者。然則此條開門前閉門後。謂開閉大門前後是

〔退朝鼓擊之後仍還本曹無務者還家〕宮衛令に「退朝鼓擊訖、即閇二大門」。云々と見えたり。本曹は即ち本曹司なり。

也。何者義云。第二開門
鼓前。退朝鼓後之故。

外官日出上。午後下。或云。外官謂畿內皆約
之。私案。上條可知。

務繁者。量事而還。（義云、雖是閇門後、而務繁者。事畢還家也。）

問。義云。雖是閇門後。而務繁者。事了還家者。未知。務繁者。雖閇門之後。猶就朝座哉。將還本司。
坐曹司哉。私案。義解還家者。則知。退朝鼓擊之後。乃還本曹。無務者還家。務繁者。在本司耳歟

宿衛官不在此例。

問。不在此例者。然則將
以下者。以上日夜宿衛哉。

（凡上分番宿直條、不入衛府官哉、或云、可入。或云。可入者何。或云。可入
條見上。）

詔勅條

凡詔勅。及事有促限。（義云、促迫也、或云、促迫也、近也。）音七玉反。

問。事有促限者。一端何事。或云。詔勅者
雖事不急。於餘事須有促限。及可入此條。

幷請給過所。若輸受官物者。

或云。請給過所者。給於諸人云意耳者何。或云。請給輸受是二事也。

不在假限。（義云。雖是假日。不在下限。）

問。不在下限者。其意何。或云。此文之意。雖明日假日。而必參入有行耳。但假日始事者。隨其色。雖不掌印鎰之官。可行者行耳。

受事條
凡受事。一日受。二日付畢。（義云。辨官受事。「一」頒」付所司之日限。假令。朔日受。二日付了也。）

問。朔日受官事者。猶皆二日付了哉。或云。可然。但五日受者。七日付耳。爲假日不可付故。但雖假日。而弁以上判了。公文者。猶直。史等付耳。

（凡從事輕重及緩急。或直官付。或行判官以上判而可付。不可一執。）

問。假日不可付者。雖假日不停之色者何。問。考課令云。京官畿內。十月一日。考文申送太政官。選敍令云。應敍者。本司八月卅日以前奏（校定）。式部起十月一日。盡十二月卅日。義云。選文之間。亦與考同者。然則十月一日進官。同日式部受取。此令云。朔日受二日付了者。彼此何釋會。或云。一日受。同日付耳。於勅無制之故。但選敍令盡了。問。義云。弁官受事。須付所司之日

限者。未知。餘司何。或云。除弁官之外。餘官若有可受付者。皆須同此法。

其事速。（義云。軍機及急速之類也。或云。斷獄律云。縱死罪囚令其逃亡後還捕得。及囚已身死。若自首應減死罪者。有驛處發驛報之一端。是事速之色也。受如此之類者。登時付所司發驛耳。或云。軍機事者。當日付兵部耳。）及見送囚。隨至即付。（義云。依獄令。在京諸司。徒以上送刑部。又畿内徒人。送京師等是。其五日程以下。並是所司受事勘申之日限。其始勘之司。亦准此程也。）小事五日程。（或云。野王案。程限也。音直貞反。五日程。謂除假日計耳。何者。勘造公文主典之事也。然則長官一人在直之日。不可勘造故也。）

謂不須檢覆「者」。（義云。治部檢符瑞圖之類。或云。不須檢覆。謂下學生文之類。雖是可勘會籍帳。而不檢覆前案故者何。或云。過所市劵當日了。私案。可然。

何者。上條云。請給過所。不在假限。又雜*律云。賣買已訖。而官司不時過券者。一日笞卅。一日加一等。罪止杖一百之故。或云。瑞圖者。至十二月晦。付治部者。約下限内可了之文耳。）

中事十日程。謂檢覆前案。（義云。主税勘青苗簿（籍）之類也。）

問。原檢律令。無青苗籍。今此義解所稱。苗籍是何文。或云。既出田租何。無苗帳。但送上時並作樣。及使等令不見文。可求耳或云。知以當年苗籍。輸租發並勘去年帳。知其損益。故云檢覆前案也。或云。賦役令云。雇役丁。本司預計當年所作色目。多少申官。錄付主計覆審支配。又營繕令。貯備雜物。每年諸司。總料來年所須申太政官。付主計之類。皆約中事。或云。當大嘗會。及蕃客入朝之時。勘舊例之類。合入中事。

及有所勘問者。（義云。緣檢覆前案。而亦有所勘問者。即雖不因檢覆。而別有所勘問者亦是也。）

問。不因檢覆。而別勘問之色。一端何。

〔注〕律六、賣買已訖而官司不時過等者一日笞卅一日加一等罪止杖一百之故に雜律、買奴婢牛馬條の後半なり。石原正明の律集は、この文を載せり。

〔但依賦役令計帳者八月進官主計九月上旬勘了申官〕賦役令に「凡每年八月卅日以前、計帳至、付民部」(中略)九

大事廿日程。謂計竿大簿帳。(義云。勘大帳税帳等也。)

問。或云。大帳謂計帳別名者何。私案。然也。案下義解知之。問。或云。勘戸籍亦同。大事者何。或云。考帳皆有程者。依私限耳。問盜律云。盜詔書徒二年。官文書杖一百。重害文書。加一等注云。重害謂徒罪以上。獄案及婚姻良賤勳賞黜陟枝(授)官除免之類。疏云。稱之類者。謂倉粮財物行軍文簿帳及戸籍計帳之類者。今此律有行軍文簿(籍)帳之文。未知。大帳税帳。爲籍帳之文見何處。或云。名例律云。會赦應改正徵收。經責簿帳。而不改正徵收者。各論如本犯律。注云。謂以嫡爲庶。以庶爲嫡之類。戸婚律云。國郡不覺脱漏增減者。郡内十口笞卅。卅口加一等。過杖一百。五十口加一等。國隨所管郡多少。通計爲罪注云。不覺脱漏增減。無文簿者。官長爲首。有文籍(簿)者主典爲首。疏云。不覺脱漏增減。無簿帳。及不附籍書。職員令國司職掌云。戸口簿帳者。

依此等文

知耳。

及須諮詢者。(義云。諮詢並問也。與上文有所勘問者同義。但事有大小。以此爲別。是即計一國簿帳之日限。其於國造帳之時。既給廿日程。故在京計筭。亦准此程。＊但依賦役令。計帳者。八月進官。主計九月上旬勘了申官。此不可每國給廿日程。即是下文。云限内可了者。不在此例者也。或云。左傳。訪問於

〔月十日每判事中官。一〕……あるに據れるなり。

〔爲引律令正文〕獄令に「凡斷レ罪。皆須レ引二律令格式正文一。」と云へり。

〔名例云…〕……

善爲請。請親爲詢。注云。請問善道。詢問親戚之儀也。)

問。義云。是即計一國帳之日限者。然則假於一司付數小事數中事者。每小事各給五日。每中事各給十日哉。或云。非連屬同事者。每事各給五日十日耳。一說。不可然。假令。小事三事一度者。官人分紀。各五日勘了。不可至十五日者何。或云。諸司所行諸事。皆准此條爲立亂程。令內立程之色依當條耳。

獄案卌日程。(義云。謂解部鞫定中逆之後。省及判事。決斷成案。其杖以下獄案者。准入中事。爲引律令正文。但判事之受獄案覆斷者。不可給卌日程。准於檢覆前案。可給十日程也。)

問。義云。杖罪以下獄案者。准入中事者。除免之色皆同哉。或云。杖罪除免之色。流徒罪之法者何。問。義云。判官事之受獄案覆斷者。不可給卌日程者。未知。受獄案者。其意何。私案。獄令云。諸國斷流以上。若除免官當。皆連寫案申太政官。案覆理盡者申奏。名例云。刑部覆斷之。覆決訖奏。亦爲獄成者。案之。諸國所斷之流以上。及除免官當等覆斷是耳。問。此義云。判事受獄案覆斷者。未知。在下覆斷之色。少輔以上亦可相斷。而何止稱判事哉。問。或云。數人之罪連一事。同宣者。同此程耳。但各在異事者。每事給卌日程者何。問。或云。徒以上各異者。每事可立日限。雖然。依考課令。不過年給斷罪之期限耳者。其意何。又問。或云。年終大斷罪之文。猶依程限入後年耳。不可偏守年終斷罪期限者何。

謂徒以上辨定須斷者。其文書受付日。及訊囚徒並不在程限。或云。文書受付日。不在程限。謂徒小事五日程以下。受日與進官日。不入程限也。假十日程文。以朔日受者。以十一日進耳。私案。以朔日請者。須十四日進。何者除假日之故。或云。推問囚口之間（聞カ）無程限耳。

若有事速。（或云。事速者一二日內了耳。）問。此文事速。與上文事速若有別哉。或云。同事也。但上文爲官受付也。此文爲下司奉行也。或云。假令。爲遣唐使等給祿令檢舊例。或雖檢覆前案。而事勢聊少者。依此使發期。及事勢令給程日也。而仍怠者。乃科罪耳。又或云。假自軍所訴（料）請用度。官付主計覆審是也。此則軍機急速耳。又或云。假京職失（決）死罪囚爲捕申官。下符近江國之類。是事速耳。或云。事速臨時給程耳。見是上。

及限內可了者。不在此例。（義云。令條之內立期限也。）或云。犯夜衛府當日決放之類。是限內可了者也。令內立限者。一端賦役令。每年八月卅日以前計帳至。付民部主計。計庸多少云云。九月上旬以前申官是也。

其判召者限三日。若不至判待。待後廿日不至。主典檢發。其事判決。（義云。假令。有甲注乙奪己財物。官司判召乙。三日不至。更判待廿日。

〔頭注〕云上田校録者檢出事狀以上四字令に凡諸訂補事、追依注令由之、言改補事、兩得檢出事狀下不得言之與奪」とあり。

違亦不至者。主典檢發、而判官不待前人、其事判決之類。若後有前人申訴、應改判者。亦隨改判也。或云、判召謂官司受訴狀、召前人是也。）

問。判召判待三日、廿日之內。若有故礙、申其狀者何。或云、除有障之日計耳。私案可然。何者下義云、前人有公事。限內不赴對者、亦同此法故。問。除行程之外、可待三日廿日哉。或云、可然。問。判待當十日之日到來、未弁究事由、而登時日近。即亦不來者、更待廿日哉。或云、可待所殘十日。不可更待廿日也。問。行事何。或云、訴訟皆經前人本司本屬。本司本屬召前人、而除可來程之後、三日尙不來耳。問。召遣之使者。先來哉。將未來歟。或云、量事勢可耳。假或道遠而依有其非來之心留速（連カ）耳。或云、取期限々々々三日廿日不來耳。問。鬪訟律云、捍國郡以上使者、杖六十者。未知。此條、被召不赴之人科罪哉。或云、科律勘耳。或云、主典檢發者、檢出事狀是也。問。義云、判官不待前人、其事判決者。是此則物爭歟。或云、然也。若以入罪之事也。訴者不在此例。所犯當司推斷耳。私案。下條或云、上條判召者、亦依此條經本司本屬、若有使損者、依獄令告事發之官司。問。下條之訴訟、又有追攝對問、若其人延引逃避兩限不赴對者、聽越次上陳。則爲推治者。未知。何色量事判決、何色越次上陳。私下條義云、依上條判召三日。判待廿日。是爲兩限也。言其人兩限不赴對者、即須檢發、判使而不檢決、故聽其越次上陳。

即事有期限者、不在此例（義云、假令、有人以身事申訴、而即此人要籍驅使、而其所驅使、亦有期限。若有官司、依當法、待其前人者、此人赴事。必應

〔准令六月十二月晦日大祓者東西文部上祓刀〕神祇令の文なり。

後期。卽官司不依常法、量其濟事。更立程限之類。若前人有公事、限内不赴對者。亦同此法也。）（或云、准*令。六月十二月晦日大祓者、東西文部上祓刀、假有文部二人、六月下旬。經官事長。于時官付所司令鞫其事。就中一人判召不至。計行事日。只在一旬、依合(令)判待廿日者。必應闕事。如此之類。不合判待、必須立限其是濟。是謂期限。私案。與義解同。）**太政官施行詔勅。案成以後頒下**（義云。謂騰詔勅之符案成、又案勅旨式。奉勅如右以下、是勅之案成。不必騰符。此竝不給程。且騰且寫也。或云。案成者、依式印署留爲案之間者見義解、或云。案成後以頒下、謂爲下諸國騰詔勅造符訖後書寫、幷爲給諸司、寫詔勅書也。）

稽緩ノ程日ノ書寫ヲ卽チ官當日出ヲ令ト云フ

問。義云。詔勅案成。謂謄詔勅之符案成者。下條云。文案詔勅奏案之類常留。以外年別檢簡。三年一除者。今謄詔勅之符。是官符也。然則其案須三年一除。依計會式。謄詔勅之符。則爲詔勅常不可除。一書有兩實。留除不同也。未知。其義以乎南類。或云。太政官只正詔勅爲案該。謄之符爲官符。但於奉行所司。以謄符猶爲詔勅案。職制律知耳。

者。各給寫程。（或云。爲兼詔勅。稱各耳。）五十紙以下一日程。過此以外。每五十紙以上。加一日程。（義云。一百紙以上二日程。一百五十紙以上三日程也。或云。九十九紙以下一日程。百卌九紙者二日程。若是百五十紙者。給三日耳。職制律云。稽緩詔書者。一日笞卅注云。詔勅在令各給寫程。五十紙以下一日程。過此之(以)外。每五十紙加一日程之故也。）所加多者。總不得過三日。其赦書。計紙雖多。不得過二日。（或云。除書亦同赦書。）卽軍機急速。事有促限者。皆當日出了。（義云。軍機與急速也。）

問。軍機與急速一一分釋。或云。職制律云。驛使稽程者。一日笞卅。二日加一等。罪止徒一年。若軍機要速者。加三等注云。是征討掩襲(襲)報告外境消息。及告賊之類是也。私案。征討掩襲

〔官有員數條〕職制律の初條なり。

〔驛使無故以書寄人條〕これ又職制律の條文なり。

〔依律當日成了不可給程之〕律に依ると云へるものは、即ち律意に依るの意なり。律文に依るの意にあらず。名例律覺擧條の意を案じて云へるところなり。下文を見て知るべし。

是軍機也。報告外境消息。及告賊是急速也。抑何。或云。急速謂劫賊略人並謀叛等之類。或云。軍機。謂可發兵事也。急速者。無兵之事。或云。軍機急速一事也。何者*官有員數條云。即軍機要速並推〔官〕置者。不用此律注云。謂行軍之所須置。推官者不當並置之罪。又*驛使無故以書寄人行條云。有軍機要速。或追發(徵)報告者。案此二條。軍機急速是一事故。但於律者隨所合讀。不可一執。但於此令軍機急速者。可爲二事。或云。事有促限者。即承上事。雖軍機事。不可有促限。不必當日出了。依上文給寫程。問。皆當日出了者。未知。詔勅赦書皆相承文歟。或云。只爲詔勅所云也。或云。赦書也者何。或云。此就古令所說。於今不合也。

若本司人少。並程不濟者。並聽差比司人怙助。(義云。假如。左辨寫詔勅。人少不濟者。差右辨及外記局人助寫之類。此注總據寫詔勅。非唯爲軍機急速。其內記造詔書。依*律。當日成了。不可給程「之」。)

問。除赦書之外者。此謂當行事也。未知。本司不濟行事何。或云。詔書此臨時事也。若多紙而本司不堪耳。或云。文云。當日出了者。然則過一日依法科罪。問。義云。內記造詔書。依律當日成了。不可給程者。未知。稱依律者何律。或云。名例覺擧條附稱(釋カ)既云。案成以後。擬合成制勅案。不別給程。即是當日成了者。案此文。內記奉宣造詔勅案者。當日出了耳者何。

令集解卷卅五

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢
員外宰相藤判

「本云」
弘長二年五月六日於有馬溫泉見合本書加首書畢「了」
權大納言藤原在判

建治二年七月「二四日」引合正親町之本校合了
慶長三年七月廿三日於燈下令校畢「了」
吏部清原秀賢

右以清家之本令寫之逐一校者也
寬永十一甲戌初冬念五
大府侍郎中原職忠

萬治四辛丑季春十二日令校畢
羽林中郎將藤原

右一冊請神村先生之本使書寫畢
明和戊子歲仲冬
明和己丑歲季冬以京師本一校了
安永六年十一月晦日與河伯栗一寫了
筒井忠英

文化十酉年六月三日校了

文政三年以彰考館本比校了
檢校保己一

〔何者斷獄律移囚條宮衞令下番兵衞條皆以一日程可爲遠故也〕斷獄

訴訟條

凡訴訟皆從下始。謂告冤曰訴。爭財曰訟。從下始者。言從郡司始也。釋無別也。古記云。問。訴訟皆從下始。未知。所始。答。從郡司始。朱云。訴訟於此條一歟。二歟。答。二耳。朱云。若郡司以上可訴者。可申傍國僚也。若皆可訴者。不經郡申國者。額云。次官以下事。可申長官也。但長官事。不申次官以下。越可申上官者何。穴云。從下始。謂郡人者從郡始耳。前人本屬爲下司耳。

各經前人本司本屬。謂官人經本司。白丁經本屬。若有使損。及急速之類者。自依獄令。經所在官司告訴。其上條制召者。亦依此條。經本司本屬。若有使損者。亦依獄令。告事發之官司也。釋云。本司爲官人也。本屬爲白丁也。若有使損及急速之類者。依獄令。經所在官司告耳。古記云。問。各經前人本司本屬。未知。每事皆經不。答。從聽私捕鬪打人傷等之類者。皆申於所在官司。又問。各經前人本司本屬。又獄令云。犯罪皆於事發國郡推斷。在京事發者。犯徒以上送刑部省。於此二令文致疑。若爲處分。答。此令者。訴訟必經前人本司本屬。獄令者。稱承告訴推斷也。跡云。經前人本司。謂經前人本司。聞其斷決。若此有使害者。訴隨近司也。朱云。各經前人本司本屬。謂先進申文。經前人本司本屬耳。若同共申者。可隨便者。未知。然何稱各字乎。答。私案。如言訴訟皆歟何。經謂如言申也。穴云。凡訴訟之體。必申前人本司本屬。私云。其訴官之人者。依前人本司故經耳。非謂下司也。

若路遠及事礙者。謂路遠者。一日程以上也。何者宮衞令下番兵衞。及斷獄律移囚條。皆以一日程可爲遠故也。事礙者。礙止也。不問公私。但有事礙者皆是也。釋云。路遠一日程以上也。或說二日程以上者非。*何者斷獄律移囚條。宮衞令下番兵衞條。皆以一日程可爲遠

[illegible]

故也。事礙。供奉宿衛及掌山造作之類礙止也。音吾愛反。或云。持調之夫將馱向京。有行旅人認尋其馬仍經所在國司推斷之類。古記云。問。路遠。答。據私記。二日以上。問。事礙。答。官人緣公事有礙者。申所在司。跡云。路遠謂一日程以上。何者兵衛下番條。斷獄律移囚條等。不滿一日者爲近故也。事礙謂依公事有礙。假令。有親病人等。去親爲不合往訴廷故也。朱云。事礙謂公私事無別者。未知。私事一端何。答。穴云。路遠謂一日程外也。事礙謂依公事有礙耳。如令釋唐令(空)。公私並是也。

經隨近官司斷之。 跡云。隨近謂雖非彼此之本司本屬。而猶經隨便官令決也。穴云。經隨近官司。謂與捕亡令隨近一同。不論上司下司及內外官。經便司耳。然便經訴人本司本屬。爲隨近故。其本勅遣作之類。亦申便近耳。仍報前人所司。令召之。待期依上耳。

斷訖訴人不服。欲上訴者。 穴云。訴人不服、謂私案。前人不服亦同。朱云。斷訖訴人不服、謂廣掌條文也。

請不理狀。 謂官司判斷。雖得其理。而訴人不服。以爲不理。即判文之外。更與不理狀。聽訴人之上陳也。釋云。判文之外。更與不理狀耳。古記云。問。請不理狀者。未知。造不理狀方。答。判斷之案爲而。給與即以此上申不理狀。謂訴人爲非理故名不理狀。朱云。問。與不理狀事何制者。應注門不服狀與乎。若判書外更記不理狀與何。額云。判書內注聞可見可與。更煩不可別書者。未知。道諸說何。穴云。請不理狀、謂官人判狀。又訴人不服狀此斷注文耳。蓋如云訴人不理申狀。下云。至太政官不理者皆上奏者。可相包習已(也)。

以次上陳。若經三日內不給。 謂故作盤桓。不給與之類。其錄公事者非也。謂則公事。故作盤桓者亦是也。釋云。故作逗留不給之類。公事礙者非。古記云。問。若經三日不給。未知。稱意不給不。答。故作逗留不給之類。公事礙者非。

聽訴人錄不給官司姓名以訴 朱云。錄不給官司姓名、謂一司共不給皆錄耳。若不然者。錄不給一二人者。未聞。額云。此時可云皆不給者。私導理然也。而何。

官

る文を見ず、されば一日程以上を遠とし、一日程以下を近とする說は、當時の學界の定說なりしものの如きも、其の根據頗る薄弱と云はざるべからず。

〔經隨近官司謂與捕亡令隨近一同〕本條の隨近官司は、捕亡令、初條に「凡因、及征人防人衞士仕丁流移人逃亡、及欲レ入二寇賊一者、經二隨近官司一申牒、」とある隨近官司と同義なり。

〔造不理狀方〕不理狀の作製手續なり。

〔判書〕判文又は斷文とも云ふ。判決書なり。

〔不理謂全不理或理不甘心之類〕不理とは官司が全然訴訟を受理せざる場合、及び受理して審理を爲せるも、その判決に服從する能はざるものを云ふなり。

司准其訴狀。卽下推不給所由。然後斷決。跡云。下推謂下書於下司。而問其反報。然後斷決。穴云。下推謂自上司下文推也。卽依下司判狀。及訴人不服狀上司而斷決耳。**至太政官**謂至辨官也。穴云。問。至太政官不理得上表。令釋心。太政官謂大臣之所。未知。於新令有異以不。答。引(別)下喚辭條。及由太政官發遣辨官令便送之等條爲證也。更案。上條云。太政官施行詔勅者。案之。勅者辨官所施行。而尙云太政官。卽知。得心消息可讀耳。不可一報。**不理者。得上表。**跡云。不*理謂全不理。或理不甘心之類。然就者申彈正。或理不甘。心者覆言耳。朱云。此上表者中務也。不經官耳。

訴訟追攝條

凡訴訟古記云。周禮。爭財曰訟也。訴謂申也。朱云。於此條。依財告官曰訴也。爭財曰訟者。未知。然則尋其志一事歟不。答。私案。於此條亦訴訟可一事。但此條就財物訴訟耳。額云。於此條亦爭罪可云訴。然則上條立兩限內罪色可約也。罪亦依行事可判決者。私不同。又蓮諸說何。**須有追攝對問者。**釋云。追攝引持曰攝。俗曰召和那賀(我)須。古記云。問。追攝何訓。答。召和奈我須。一云。追攝謂追也。召也。**若其人延引逃避。兩限不赴對者。**謂依上條。判召三日。判待廿日。是爲兩限也。言其人兩限不赴對者。卽須檢發判決。而不檢決。故聽其越次上陳(也)。釋云。兩限謂上條判召三日。判待廿日耳。此是爲免越訴(之)也。古記云。其人延引逃避者。延引謂詐稱有疾。逃避謂逃亡。兩限謂別限日程。與上條三日廿日異也。一云。此條重說上條事。兩限不赴對者未屬可判決。而不判決。故云聽越次上陳也。穴云。問。上條請不理狀經三日不給。聽越次。未知。此條越次有日限哉。答。知不赴對狀則上訴耳。官司不判亦同。私案。以次(片)言可判者。上條論了。不合得判。不判故。依此條越訴耳。**聽越次上陳。卽爲推治。**穴云。爲推治。謂如上條也。

〔陳意見條〕

凡有事陳意見。謂意者心所意也。見者目所見也。皆是志在忠正。披陳國家利害者也」凡意見書者。其制稍異。不可爲表。而直上太政官。不由中務者。故云少納言受得奏聞也。釋云。志在忠正。披陳利害。是謂意見。意見之書。若作上表者。中務須受。若云意見之書者。少納言須奏其事。若是害政抑屈者。釋。彈〃、正受推耳也。古記云。問。有事陳意見。未知。之意。答。所已所思見之事。畢陳政之官申奏耳。問。欲封進者。即任封。未知。所進。答。進朝廷其密封進者。於太政官轉同奏畢。唯官人害政及有抑屈者。申彈正臺。跡云。意見謂情在忠正。而謂論君上政利害也。封上謂直封上人申太政官。而少納言奏聞。各造上表者。申中務令奏也。穴云。志在忠正。披陳政事利害。是爲意見。問。少納言受得行事何。答。跡云。申官。但作表者。申中務令奏者。私案。假有人申官者。官送彈正。若主太政官。不用之徒作表者申中務。中務送彈正可言。在。爲中務上表事也」中務」。

欲封進者。即任封上。少納言受得奏聞。不須開看。若告言官人害政。及有抑屈者。彈正受推。謂於意見書。有所告言者。其意見書。皆先奏聞。而後關事各下所司也。釋云。或云。其告言官人害政。及有抑屈者。謂不涉意見之事也。此別奏陳他事者是也何。明令云。有事陳意見。非爲訴訟身事。欲封進者。並任封上。舍人受得即奏。不須開看。其上表訴者。每日令御史一人。共給事中中書舍人對受。若告言官人害政。及有抑屈者奏聞。自外依常法者。今案。文陳意見中。可爲有訴訟身事。又上表訴中。可有害政及抑屈。故檢衛禁律。官人害政抑屈。並申於官禁律。謂有越關事申一官。並聽申官。而官受即付彈正令推耳。害政謂非法賦斂也。抑按也。屈曲也。古記云。抑屈者被枉斷也。害政者非法聚斂也。令行事雖受推之。跡云。官人害政抑屈。謂當封上之日。問。其狀中云。有害政抑屈者。不必面陳臺令申耳。朱云。顯異。或說云。告言以下。非意見之事。爲別。朱云。此意未定。須同也。關外人被枉斷官司者。近國國司申官。官即下彈正臺。令推問也。朱云。告言有害政抑屈者。未知。爲已爲人

〔三〕告言三字は告言を受理する手續なり。その法獄令に見えたり。

〔四〕「唐令」凡有事陳意見。若爲訴訟身事。欲封進者。並任封上。舍人受得即奏。不須開看。若是告言者。每日令御史一人共給事中中書舍人同受。若告言官人害政及有抑屈者奏聞。自外依常法」これ本條に相當する唐公式令の文なり、日本令の唐令に比して簡潔なるを見るべし。

〔令行事辨受推之〕法文彈正受推すと云ひ、時の行事辨官受推すと云ふ。兩者の徑庭著しといふべし。

〔釋一云又此問答一云〕令釋一本云ふ。又此の令問答一本に云ふの意なり。令釋及び問答に數種ありしこと之によりて知るべし。

〔拷法〕拷問の法なり。獄令及び斷獄律に見えたり。

〔關外人訴抑屈何〕衞禁律、私度條に「即被レ枉二徒罪以上一。抑屈不レ申。及使人覆訖。不レ與レ理者。聽下於二近レ關國郡一具レ狀申中訴上所在官司。即准レ狀申二太政官一。仍遞送至レ京。若無二徒以上罪一而妄陳者。即以二其罪一々レ之。官司抑而不レ送者。減二所レ訴之罪二等一。」と見えたり。

〔告言人罪非謀叛以上三審受辭官人曉示虛得反座已知官曉示〕獄令

告別不。答。額云。爲已身告言者。可依上訴訟條也。此條。凡廣爲他人害政耳者何。額云。告言官人害政以下文。不預意見耳。只可申太政官者。釋*一云。又此問答一云。並同也。但遣古說及貞說何。彈正受推者。凡先官受取。三審了後付彈正耳。若。臺問不得實。可用拷*法者付刑部耳。臺不可拷故者何。穴云。拷按也。若告官人害政。及有抑屈者。謂預不合三審故。其於告官下解了。問。此文爲預上表害政抑屈。未知。不預上表。害政抑屈事告言者何。答。預上奏。倘彈正受推。則知。不預上表。猶彈正可受推也。又問。或云。此文。非預上表。未知。於此說。預上表害政抑屈何。答。不預上表害政抑屈。倘彈正受推。況預上表。猶彈正可推。凡此兩云於文體各爭耳。於行事無別也。問。*關外人訴抑屈何。答。彈正受推并奏聞耳。又問。私度關條注。實有枉斷「有」出入而訴不平者。不當此坐。朱云。科不可度關罪。未知。此罪者彈正劾發哉。答。可勘問。此是彈正事發罪案。關外被枉斷。於隨近三審了申官。官徑送臺奏聞。科斷如法。然則告言關外之官人害政抑屈者。依文。彈正受推。不合於官三審奏。其自餘關內害政者。於官合三審。何者告*言人罪。非謀叛以上三審受辭。官人曉示虛得反坐。已知官曉示。此等三審事。私案耳。若就小吏。史說論者。官及彈正並不合三審。雖虛無罪。但於關外人。若事虛者。遂有越禁。及誣告罪。爲於國經三審乞故。至日付刑部者。猶召臺推問耳。仍有禁法此說說不安。故上陳。假於彈正臺無三審者。一端有然耳。其始申官之日官依何。又不三審故。陳其理耳。更案此說長。凡經奏虛者。依律科。若不當理者。徑抑退無加罪。不可召前人故。其除害政抑屈之外不合受。問。具見虛。答。又上表告者。依律反坐輕於上書。不實從上書不實科。

當理奏聞。謂案奏彈式。非應奏。及六位以下。並紀移所司推判。但於此條者。元非臺所彈奏。又既先經奏聞。故雖五位以上不至解官。及六位以下。而其所告言當理者。並皆奏聞也。釋云。檢奏彈式。六位以下之事。及雖五位以上之事。自非解官以上之外。悉移所司不爲奏聞。今此條。六位以下及五位以上。不至解官。害政抑屈等。依此條可奏。自餘依奏彈式耳。跡云。當理奏聞。謂此條不求罪輕重。朱云。額不同也。縱六位以下仍合奏聞已（也イ）。朱云。未知。此考。課令爲物斷罪色何。額不同。云當理奏聞。五位以上六

に「凡告言人罪。非謀叛以上者。皆令三審。應受辭牒官司。並具曉示虛得反坐之狀。每審皆別日受辭。」とあるに據れるなり。

〔若徒以上。送刑部。此爲彈正臺事發耳〕彈正臺は即ち在京官司なり。在京官司にて事發せる徒以上の罪は、皆刑部に送るべきこと、獄令初條に見えたり。

〔引律正文爲小字。結事文爲大字〕結事文は即ち判文の結論にし

位以下皆同。官當以上者可奏聞。與奏彈式異也。但杖以下不可奏也。奏聞後。官受取付刑部耳。凡如當犯者。（(以下集解文。當作小字。)穴云。當理糺察訴狀。所訴）合理也。一人非召對官人勘知是非也。但好審察耳。奏聞謂不論六位以下及罪輕重。依奏彈式奏聞。送刑部。刑部召對彼此勘問耳。悉如奏彈式行事也。

不當理者彈之。謂所告言無理。及事不實者。皆彈正准狀推決。但徒以上者。可送刑部。釋云。不當理者彈之。准法合決者。決之合贖者贖之。案爲杖以下也。若徒以上送刑部。此爲彈正臺事發耳。跡云。彈之。謂此在臺事發故。杖罪以下。皆合決贖。但徒以上送刑部耳。朱云。亦同也。但他處犯者。杖以下。皆送刑部耳歟何。穴云。問。不當理者彈。未知。誰罪。答。彈告人令始於官。而三審之故。其罪於臺科斷。徒以上送刑部。杖以下當司決。但告人所申當理奏聞之時者。不論答杖。一如彈式。仍推科被告人上逃了。跡云。不當理者彈。謂此在臺事發者。私案。徑彈退耳。不坐。然則案於此云。彼此召對皆對依法耳。此云奏彈式。與此條少有別也。何者文云。告言官人有害政抑屈者受推者。則知。所申當理者。徑奏。不召對彼此。不當理而彈者。依文所行。然則依文。此時三審及召向（問カ）彼此推問。卽於臺事發故。依法。杖以下當司決。徒以上送刑部也。其三審事皆說了。又問。文云。不當理者彈者。則知。亦可依彈式何。乖文主（生）義。可靜勘。

公文條

凡公文悉作眞書。朱云。案亦同也。

凡是簿帳。釋云。簿蒲廬反。史記。問上林尉諸禽獸簿。野王案。簿猶籍記也。漢書。郡縣多空帳簿。而府庫不實是也。大稅帳。計帳。田籍之類。古記云。問。簿帳者。未知其數。答。大稅帳。計帳。田籍等之類也。跡云。籍帳謂八年亦爲大字也。朱云。凡是籍帳以下皆同公文。但爲作大字更顯頗。答。私案也。

科罪。古記云。問科罪。未知。若爲其意。答。注徒一年杖八十等之意。跡云。科罪謂引律正文爲小字。結事文盡爲大字。穴云。引正文所不爲大字。但加筆結事所可作大字。朱云。科罪者斷罪也。假可云

て今云ふ判決主文なり。律の正文を引くところは卽ち理由なり。主文を大字に作り、理由を小字に作るなり。

徒一年。則作大字耳。**計贓。**古記云。計贓謂卽科罪之贓也。朱云。計贓者。未知。一端何。答。私案。贓責云處耳。**過所。抄牓之類。**古記云。問。抄牓之類。未知其別。答。抄者返抄。牓者門牓。凡公文有數者。皆入之類。朱云。問。抄者。未知。只返抄一色歟。若有別色答。問。之類者。未知。一端何色答。**有數者。爲大字。**釋云。三字作參之類。

料給官物條

凡料給官物。古記云。問。料給文牒。未知。誰人文牒。答。自上給文牒也。朱云。料給官物。未知。一端何色物。答。私案。廣可有耳。**上抄之日。**釋云。上如言載耳。抄文抄也。音初教反。古記云。問。上抄之日。未知。誰官上抄。答。假令。大炊寮承文牒。而記置之日。皆記大炊寮官司姓名而置耳。凡上抄者記於札。**具載疋丈斛斤兩數。供給之處官司姓名。**謂假令。注大藏官司。及辨官。并監物姓名之類。釋云。假令。記云。監物其(某カ)中辨官其(某カ)其(ミカ)之類。穴云。問。軍防令云。出給器使等付領之日。明作文抄。未知。與此條互相放哉。答。私案。互可相放也。

授位任官條

凡授位任官之日喚辭。謂在御所而授任之辭。其在官「省」者。亦准此例「也」。釋云。授位任官。謂在御所若在官者。依下文。朱云。喚辭。謂只以言稱也。**三位以上。先名後姓。**謂假令。喚云秦萬呂宿禰之類也。釋云。假令。喚辭云於錄文姓名具稱者。古記云。問。先名後姓名。未知。注書乎。答。記書也。言亦同。**四位以下。**謂五位以上也。釋云。四位以下五位以上也。若四位授三位者。喚四位之名耳。大伴萬呂宿禰。古記云。問。姓與氏若爲其別。答。卽下文云。六位以下去氏者。案姓與氏無別。

先姓後名。釋云。大伴宿禰萬呂。以外。三位以上直稱姓。謂直稱秦宿禰之類也。釋云。直稱姓大伴宿禰。穴云。外謂除授位以外。御所喚。辭也。若右大臣以上稱官名。穴云。注若右大臣以上稱官名。謂奏以外也。假云。右大臣藤原朝臣耳。後案。只右大臣所申云之類也。先說如此。跡云。稱官名。謂排只外以下也。朱云。授位任官日者。雖右大臣以上。皆同先名後姓也。額同。四位先名後姓。五位先姓後名。謂喚云秦宿禰萬呂之類也。

六位以下去姓稱名。謂直云。秦萬呂。不稱宿禰也。即授任之日。及以外並皆通稱也。釋云。去姓稱名。謂授位任官以外並同。跡云。去姓稱名。謂去姓稱氏與名也。稱氏與名。謂假令。云大伴人麻呂大夫之類。朱云。去姓稱名。謂假如云大伴馬麻呂也。不稱宿禰字耳。或云。六位以下。於奏文亦同者。未明。私。唯於太政官。穴云。於太政官。謂大納言以上所也。時行事亦如之。問。諸儀稱太政官。皆辨官以上也。未知。此文稱太政官所爲太政官意。答。三位以上稱大夫。四位稱姓。

五位先名後姓。其於寮以上。謂辨官以下也。釋及跡記並無別。古記云。問。其於辨官八省者。未知。臺職以下官者爲處分。答。與辨官八省無別。四位稱大夫。五位稱姓。六位以下稱姓名。朱云。六位以下稱姓名。謂假稱大夫宿禰馬麻呂耳。未知。此文爲太政官以下歟。答。私案。無也。司及中國以下。五位稱大夫。謂一位以下。通用此稱。釋云。一位以下五位以上通稱耳。古記云。問。五位以上。總稱大夫。未知。誰所稱。並以上限。答。一位以下五位以上。總稱大夫。假令。聚集之日。五位以上召勅之時。皆各稱大夫等。朱云。稱大夫。謂假稱其司長官大伴大夫耳。四位五位稱大夫處。三位以上。亦同稱大夫也。舉

其下故也。司及中國以下。謂大上國並職庫府等。皆約案以上文也。未知。自餘坊官等何。答。凡此條爲稱他人也。不在稱正身也。若帶勳位准文位稱何。答。

奉詔勅答條

凡奉詔勅。及事經奏聞。雖已施行。謂文書行下。其事未行也。釋云。施行謂文案之施行耳。跡云。雖已施行。謂騰詔勅已出訖。

驗理灼然不便者。釋云。不便謂格後勅云。令楊州造甲八千領。長史裏懐遠奏不辨之狀是。古記云。問。奉詔勅及事經奏聞。雖已施行。驗理灼然不便者。所在官司隨事執奏。未知。不便。答。檢格後勅文。勅令造甲八千領。楊州事長史裏懐遠奏不辨之狀之類。跡云。不便。謂附軍機事。及非軍機事皆在。且可行事者。且合(令)行。若全有可難行之事者不行耳。縱其物無鄕亡(云)(土)者何得行哉。朱云。驗理灼然不便。謂於書首尾相違。驗可知誤之類者。未明。若不便者書不誤。凡事於時不便歟。答。額云。然也。假物。無鄕亡(云)(土)等之類耳者何。

所在官司。

隨事執奏。釋云。執奏謂奏意所執也。古記云。執奏謂奏也。一云。持書奏故云執奏也。跡云。執奏。謂情執不便之狀而奏耳。但執奏之法。申司奏耳。朱云。所在官司。謂書所至之國郡等也。申官奏耳。穴云。所在官司。謂郡司以上申太政官令奏聞。至五衛兵庫不便者何。答。

若軍機要速。不可停廢者。且行且奏。朱云。若軍機要速。謂一事也。此雖不便。尚且行且奏耳。未知。於數何。答。又私案。此文且行且奏者。爲軍機要速歟何。

卽執奏合理者。量事進考。謂准其情狀。量而進之。不限等級。其可貶降者。亦如之。古記云。問。量事進考。未知進限。答。進一二等耳。降亦准此。朱云。進考貶考。何時可爲。又幾階可昇降。答。私案。此之云量事進考貶考者。則知。臨時可定也。不見定數。又至考時進貶耳歟何。穴云。問。量事進考行事何。答。又問。二人以上相量奏。共進哉。答。

知而不奏。及奏不合理

者。亦量事貶降。

驛使至京條

凡驛使至京 跡云。至京謂合至京之使也。朱云。至京謂一端也。道間並至京奏之後。不得語也。 奏機密事 謂軍機及密事也。釋云。一機軍機也。密密事也。一云。機密謂謀反逆叛之類。古記云。問。驛使至京奏機密事。未知。機密。答。機者軍也。密者應事也。一云。機密謂謀反逆之類。跡云。機密謂依獄令妖言惑衆以上。朱云。額云。機密者。釋一二說並同者。未明。可見何。 者。不得令共人語。 穴云。問。不得令共人語。未知。使主身蕃人自奏哉。答。進太政官奏。但奏狀言不合云耳。 其蕃人歸化者。置館供給。〔亦〕不得任來往。 朱云。蕃人歸化、謂使並化來。不論置館供給皆同者。來往謂如言出入也。穴云。館謂使司(所)館也。

諸司受勅條

凡諸司受勅。不經中務徑來。 朱云。私案。諸司受勅。不經中務徑來者。專持來可云也。諸司謂廣受物司也。此文稱物。則知。詔不可然也。見詔書式者。額同。額云。大納言以上受勅者。雖不經中務來。量情豈不承用哉者何。跡云。不經中務徑來。謂本司之人。徑至官。或至餘司皆是。不合承行及覆奏。穴云。諸司謂中務及太政官以下內外諸司也。 及宣口勅者。 謂以口勅宣於中務。既云不得承用。即不可更覆奏也。古記云。問。宣口勅。未知。勅經中務者頗不。答。凡口勅雖經中務。不得受用。徑雖宣於所司。所司不可受用。跡云。不得承用。謂經中務。亦不合承用。覆奏亦不給也。朱云。及宣口勅者。亦不經中務宣可云。但雖經中務。宣此口勅者。除下條急事之外事者。不受用耳頗何。問。及宣口勅者。未知。此亦不得中務宣頗。爲當。雖經中務不頗。答。先無文。直以言宣亦同不承用頗何。答。穴云。假令。宣口勅來中務不得承用耳。 不得承用。若奉口勅索物者。不得

〔機密謂謀反逆叛之類〕宣令、告言條の義解に「謂密者、謀叛以上」依作、若「謀反逆叛庶レ密之事、而言レ有レ密故」其條下文及律、猶二斥二其與、亦其言惑レ衆、亦爲二密事一也。」と見えたい。

(須)經中務。所司承勅即進。謂有物之司。而奉口勅奉進也。釋云。有物之司。而奉口勅者。一依物進續即中官耳。或說。奉口物索物。謂輕𢮎物者非。何者假有面奉口勅。爲物數多即不奉行。所謂違勅耳。古記云。問。若奉口勅索物者。不得經中務。未知。不須經中務者。其事之類。答。勅内藏寮絹一疋二疋。大膳職脯一籠二籠訴用(貢)之事等也。一曰。凡奉勅用内藏物者。仍爲別勅。總中務施行日(月)別申送太政官。年終主計勘勾知欠乘。假奉勅追喚人等。不計用度者。受而行之。不必經太政官。又別勅合秡等調度物請矢一二隻直付所司。後經太政官。又別勅令造屋舍等者。皆依式經太政官。付所司造作。唯今行事大異也。一云。矢一隻此所掌兵庫。直付所司者非。跡云。奉口勅索物。謂具放令釋解。穴云。奉口勅索物。謂御自宣令釋見。**仍附狀奏。**謂本司附狀奏聞。即奏聞之後。申太政官知。釋云。仍附狀奏。不經中務徑奏也。跡云。附狀奏。謂且令知中務辨官而令奏耳。其行事具如勅旨式。言中務覆奏送官。官如常式行事耳。穴云。仍附狀奏。謂所司申送中務「々々」令覆奏。及申太政官合知耳。即奏狀子細云云耳。私奏。謂依中務。云令中務覆奏。是言一如勅旨式義。也。

事有急速條

凡事有急速不合出勅旨。若事緣太政官。恐遲緩者。中務先移所司。謂假令。有急速應須藏物。而欲出勅旨由太政官。恐失事機者。中務省先移大藏出用之類。釋云。不合如言不堪耳。假有急速應須五百端布。欲出勅旨。應失事機。還擬由官。亦恐遲緩者。中務先移大藏出物。其事已了。正勅後行耳。古記云。問。事有急速不合出勅旨。未知其意。答。假令。遣新羅國使人料物已訖。當時發之日。更有賜物。此等事。若緣太政官。應有遲佪故。先賜其物。然後正勅行。跡云。不合出勅旨。謂急速勅旨至中務。「中務」(令)直移所司。而行事訖後。依勅旨式行耳。令釋依口勅說耳。與此解不同。朱云。不合出勅旨者。未知。然則此中務面奉口勅歟。爲當。他人承用哉。若他人承中務者。覆奏後

移所司哉。凡不合出勅旨者。志何。直官曰勅旨。若作書給賦何。答。問。若事緣太政官。恐遲緩者。未知。此與上事一事賦。答。又所司。謂有司也。穴云。給蕃客之類也。此條爲在京諸司也。非外國行也。此條非賦其之類之人事也。一云。出詔勅之先。於內裏令內記造了。御畫日付中務卿給故。不更覆奏勅旨。從官送中務省。省覆奏了。即被勅旨之後。卿以下署留爲案。更寫送官。今文云。不合出勅旨。謂依式必可經官施行勅旨。而急事急故。從便所司耳。就此說職制稱更覆出辭。謂勅書紙多寫送。

其正勅後行。謂依勅旨。

遲經時剋且解官施行。正勅後送。是引受詔忘誤及寫詔書誤之條可勘會。式令也。古記云。勅賜人馬條。問。勅賜人馬。皆本司覆奏。未知。借給不。答。非借給。又問。借賜若爲處分。答。借給亦合覆奏。唯不直送中務耳。凡勅賜人馬者。受勅人直中務覆奏。官馬寮。馬寮覆奏之。馬寮具錄文草毛色齒歲。直送中務。中務然後給之。齒歲謂歲也。以齒定歲。故云齒歲也。

官人判事條

凡官人判事。案成。自覺不盡者。聽舉牒追改。朱云。官人判事。謂一端條令文意同也。聽舉牒追改者。未知。謂內外。又事已行。已未之。又事發未發。有別不。答。穴云。謂內外。及事行已未之意同。但事發後。不可免也。名例律云。公事失錯自覺舉免其罪條有正文者。私同。古記云。問。聽舉牒之案追改。未知。舉牒之案之官。後舉牒之案。不盡之狀。

詔勅宣行條

凡詔勅宣行。文字脫誤。謂其宣行書之脫誤也。脫者應言中務省。而言中省之類也。誤者應言甲申。而言甲由之類也。穴云。文字脫誤。於事理無改動者假如。應言一十二而言十二之類。是脫無改動。應言甲申。而言甲由之類。是誤無改動。

於事理無改動者。勘驗本案。謂在中務之正詔書是也。一云。[illegible]

〔古記云勅賜人馬條問〕勅賜人馬皆本司覆奏とあり。これに據れば、大寶公式令には「凡勅賜二人馬一皆本司覆奏」云々なる條文ありしこと知らる。養老令にはこの條文なし。

〔文草毛色齒歲〕文草は樹籍にして、[illegible]といふが如し、毛色は華毛といふが如し。齒歲は馬の年齡なり。

〔但事發後不可免也名例律云…〕名例律公事失錯條に[illegible]とあれば、[illegible]改するも、公事失錯の罪を赦さざるなり。何となれば、名例律に

〔凡公事失錯。自覺舉者。原二其罪一。應二連坐一者。一人自覺舉。餘人亦原之。其斷罪失錯。已行決者。不レ用二此律一〕云々とあればなり。

〔故律云詔書有誤不卽奏聞輙改者笞五十〕職制律の文なり。

行。文字脱誤。雖是無改動。而不得輙改。仍檢中務本案。亦同脱誤。然而尋驗上下。論比詞緒。義理不動。分明易知故。不更覆奏。卽改從正。若有改動者。覆奏從正。故律云。詔書有誤。不卽奏聞。輙改定者。笞五十。其詔書者。太政官覆奏。勅書者中務省覆奏。卽知。本奏之官司。覆奏從改正也。釋云。勘檢本案。分明可知。謂正詔勅書雖誤而勘檢可改。從正不須覆奏。若有改動者。覆奏從正。何者職制律云。詔書有誤。不卽奏聞。輙改定者。笞五十。此則正詔也。又文云。勘檢本案。分明可知。故此謂中務省也。餘放此耳。或說。雖本案正。而令寫書有改動者覆奏者非。何者凡覆奏者爲取詔勅宣旨。今正詔勅無改動而奏者。非覆奏義故。古記云。卽改從正。謂本案甲申之日施行之。書甲由之日之類。改令(令ｶ)從正也。本案甲申之日施行。亦甲由之日須覆奏。本案爲不正故。跡云。詔勅宣行。謂至太政官而文字脱誤。因而尋勘中務正在(在正ｶ)詔書。詔書亦同脱誤。而於事理有改動者合覆奏。無改動者。改其詔書從正。因而寫取行事也。不依古記。朱云。勘驗本案分明可知者。未知。正詔勅脱誤中務所爲歟。若謄詔勅送太政官。及諸司書脱誤何若。穴云。本案。謂置中務正文也。分明可知。謂可云甲申之類也。言雖本案俱脱誤。勘驗其理。分明可知。是案律知耳。其正詔勅不脱。而官府誤脱施行何。答。下司者依下條執申。至官勘自改定。問。中務本案不脱誤。而官施行時脱誤。無改動者。不可覆奏。未知。官施行時。脱誤有改動者何。答。先案文云。無改動。若有改動者。必可覆奏。私案。至郡者依次申上。從官勘本案。及覆奏。問。改從正。未知。行事何。答。跡云。改正文更施行耳。又問。施行詔勅七道依誤。一道國申官。官改從正。更施行。未知。殘六道更施行哉。答。私案。必可改行下也。又問。太政官覆奏時脱誤何。答。私案。無改動者。改從正。有改動者覆奏耳。更可別耳。又問。無脱誤至國。國施行時。脱誤無改動者。猶申上哉。答。

分明可知。卽改從正。不須覆奏。其官文書脱誤者。諸長官改正。謂當曹之文書。其他司文書者。自依下條下推也。古記云。諸謂申也。跡云。官文書中長官改正。謂當司内人書。但從他司來書者。合案下條。

〔官文書[illegible]者
亦主典[illegible]
罪亦[illegible]
上書若[illegible]
十。(中略)[illegible]行
非二上書[illegible]
とあるを指すなり。

[illegible]
[illegible]
[illegible]
〔下[illegible]〕[illegible]以
てものを六ヶ數すること

朱云。諸其官改正者。未知。若無長官何。又有改動。無改動。有別不。穴云。官文書脫誤無改動者。亦主典史生直改定。並無罪。亦律見其官文書脫誤者。諸長官改正。謂當司公文若從他司來者。依下條義執申。及執[illegible]耳。

〔詔勅頒行條〕

凡詔勅頒行。釋云。頒布也。音布還反。關百姓事者。朱云。假如免調庸之類。行下至鄉。皆令里長坊長巡歷部內。宣示百姓。使人曉悉。釋云。曉知也。悉盡也。審也。音息七反。古記云。曉悉謂無遺人令盡知也。曉者知也。悉者盡也。朱云。私案。正詔勅可至外國狀。以此條爲論乎何。

〔下司申解條〕

凡下司申解。雖無理及事不盡。皆爲受取。謂無理者。雖書詞周悉。而事情無理也。不盡者。雖事情有理。而書詞不周悉也。釋云。雖無理及事不盡。皆爲受取。以狀下推。謂雖不當理及不周盡。皆受取耳。古記云。雖無理。謂不用之事也。及「事」不盡。謂事不周盡。簡略之類。以狀下推。釋云。據正不可抑[illegible]。但依狀科罪耳。戶令戶籍條見文。古記云。問。公文有及增減不同退還以不。答。不合。據正從官[illegible]法[illegible]附。戶令戶籍條〔時〕明文。今行事退還耳。跡云。下推謂使人不得辨明者下問耳。本司[illegible]〔訖〕後令定其書反不之狀。或科罪不科罪之狀耳。其事理實盡。妄有盤下。謂盤者盤桓不進之意「也」。釋云。盤。盤桓不進之意。爾雅。盤[illegible]也。穴云。妄[illegible]下。謂[illegible]退意此也。及有理抑退者。聽越次申請。跡云。問。聽越次申請。未知。太政官妄生節目盤下。及令抑退者何。答。據上條上表

「耳」。朱云。額云。不然。是時可申彈正者何。朱云。有理抑退者。聽越次申請者。未知。無理申請何答。穴云。其至太政官有抑退者。達御所耳。但造奏造表者不見文。好可檢也。凡庶人有造表文也。但儀制令。有表奏文。是於諸司加表字。宜求諸司造表之法。此解先度私記也。**即上符理有不盡。亦聽執申。**古記云。執申謂執奏一種也。跡云。問。上符理不盡而執申者。官改正令(令)行。未知。如此者何時官得失錯罪乎。答。依改申狀知失理者。坐所失所由人耳。此無合免罪之理也。朱云。額同。朱云。即上符。理有不盡。亦聽執申者。未知。即反申下符司歟。答。私案。然也。問。上符理者。未知。若詔勅等皆約不。答。私於詔勅者。可依上條也。穴云。上符理有不盡。亦聽執申。謂私牒亦同。問。於下司脫誤。以狀下推。隨事科罪。此是於文書至司犯罪也。未知。上符脫誤者。推問科罪何。答。依執申即上司而勘問。此是上司而犯罪也。則知。當司推斷耳。

諸司奏事條 **凡諸司奏事。皆不經長官。不得輙奏。**朱云。諸司謂廣有可奏事司耳。或云。得*別奏諸司。假陰陽寮之類者非也。則案下文可知者。然何。問。諸司奏事。皆不經長官。不得輙奏者。未知。於本司公文所云歟。又若無長官。次官何答也。**若有機密。**謂應以機密事申奏者。不必經長官。得直申奏也。釋云。凡諸司奏事不經長官。皆不得輙奏。若奏機密者。必不可待長官耳。古記云。若有機密。密事也。跡云。有機密謂機密之事。不須長官之至時。而速奏耳。問。外國於驛何。答。私案說。此爲在京諸司也。於外國者非。可無。長官未至時。爲府內有館也。此說子細旨不見也。餘如先。**及論長官事者。**謂此亦機密事。釋云。論長官事。亦此密事也。古記云。及論長官事者。謂此亦密事。穴云。機密謂長官次官共有密者。判官可奏耳。*此記文子細旨不見。至獄令可定也。朱云。論長官事者。不在此例者。未知。不經次官直奏。凡長官事者何事。答。額云。如釋云此亦機密事者。未知。然者獄令云。告密人

となり。獄令、第三條にも「而使人不レ斷、妄生二節目一、盤退者、國司以レ狀錄申レ官、附二使人一考一」とあり、

〔得別奏諸司假陰陽寮之類者非也〕雜令に「凡秘書、玄象器物、天文圖書、不レ得二輙出一。觀生不レ得レ讀二占書一。其仰觀所レ見、不レ得二漏泄一。若有二徵祥災異一、陰陽寮奏。訖者、季別封送二中務省一、入二國史一。」とあり

〔此記文子細旨不見至獄令可定也〕獄令に「凡告レ密人、皆經二當處長官一告。長官有レ事、經二次官一告。若長官次官俱有レ密者、任經二比界一論

古」云々とあり。

〔婦人在禁臨産月者責保聽出之類〕獄令の條文に據れるなり。

〔又依律不聽議老疾色等不可爲保者〕斷獄律に「其於律得相容隱、即年八十以上、十歳以下、及篤疾、皆不得令其爲證」違者減罪人罪二等」とあり。

皆謂當所長官。有事辭次官告。若長官次官共有故者。任辭比界而告者。未知。其別何。不在此例。

須責保條

凡須責保者。皆以五人爲限。謂當保内五人。若當保懸遠。無便就者。隨宜取當處之人。釋云。責求也。保佑也。佑信於友道之謂也。五人爲限。謂五家也。假如。婦人在禁。臨産月者。責保聽出之類。必責五人耳。一云。五人謂非必五家。從一家五人亦同。古記云。皆以五人爲限。謂不以五家爲限。唯一家之人以五人爲保耳。跡云。五人謂五保之人。若無五保之人者皆聽耳。又不合用者。老疾人等。朱云。須責保者。以五人爲限者。未知。已同保人贓。爲當。他保人皆同贓。又於證人有數限不。答。額云。同保他保無別。可隨事色。已親屬不可爲保也。詐時減罪之故者。可見詐僞律等。又依律。不聽議老疾色等。不可爲保者。穴云。以五人爲限。謂五家内不足取比保耳。問。責保者何。答。責保參對等是也。又問。取罪人同居人爲保哉。答。相隱親者不可保也。好可勘諸條。

受勅出使條

凡受勅出使。辭訖。無故不得宿於家。謂文稱無故。即知。有故得宿也。異於大將出征。辭訖。不得反宿於家之意「也」。「何」得無別。古記云。辭訖謂奉辭也。無故不得宿於家。謂大將軍雖有故。不得宿家。自餘官使。有故者合得宿家也。跡云。宿謂辭訖宿。而有故依文聽耳。朱云。受勅出使。謂受詔出使亦同者。無故不得宿於家者。未知。非宿暫還入聽不。答。穴云。問。軍防令云。大將出征。辭了不得反宿於家。未知。此條別「何」。答。軍防令有反字。此條無反字。則知。大將不可反家也。此條使不可宿耳。但有故得宿耳。

京官出使條

凡京官以公事出使。皆由太政官發遣。朱云。京官以公事出使者。未知。一端如何。公使又由太政官發遣意爲何。若爲附官符賦。凡諸使以下。在京諸司皆同不。答。額云。然也。皆同者。穴云。問。此條使由太政官用何。答。於傳符條上條了。但此條爲附符移有用也。私案。上條。爲驛遣也。此條。爲傳遣等有用也。古記云。其使不關

〔竹志〕筑紫なり。

〔道奥〕ミチノク（陸奥）なり。

〔軸上端注耳〕正倉院文書にはこの實例多し。木軸の上端を扁平にし、こゝ文書の名稱を書きたり。

官者。〔記〕謂別勅遣使也。**所經歷處符移。**謂省臺出符。及府庫寮司出移也。釋云。依式省臺出符。餘可爲移也。**辨官皆令便送。**謂凡省臺及餘司符移。應下國者。皆送辨官而請内印。官即附便使送下也。釋云。省臺及除司有事。應下國者。符移送辨官。而請内印。即令官使附耳。跡云。移。謂諸司移令下諸國者。申捺官内印而下耳。然上條云。出符須案成辨案送太政官事。當計會者。注會日與符俱送官之處。移皆可相放也。朱云。（同カ）。額云。**還日。以返抄送太政官。**朱云。未知。此返抄置太政官。若初給出符移諸司。答。**若使人更不向京者。其返抄付所在司**謂使人所至留之國。假令。陸奥國司赴任。便付路次文書者。取路次返抄。付陸奥國之類。古記云。注若使人更不向京者。謂假令。使人取竹志返抄還。來留於長門更向他道者。所持返抄付長門國司。附當國使申上也。一云。遭喪留亦同。跡云。其返抄付所在司。謂假令。往（徃）來（東カ）使附近江以往諸國司書者。以其返抄等。付陸奥國耳。朱云。額不同也。朱云。若使人更不向京者。未知。不向由何。若新任國司賦。又其返抄付所在司附使使送者。未知。所在司者。使行來所止國司賦。若即付符移可國司賦。即事速者。差專使送者。未知。此即同所在司所爲賦。〔何〕。答。額云。即付符移國司送也。則以下勾速事爲高耳。而未明何。穴云。若使人更不向京。謂暫間留坐勘雜（推）事。並令作物使耳。不必遂不向京耳。所在司。謂使人至留所司也。假令。向道奥使附下近江國返抄者。從道奥送還耳。事速差專使送亦同。私案不安。何者賚急事返抄。更下至道奥都故。登時差使送耳。**附便使送。即事速者。差專使送。**

責返抄條

凡諸使還日。皆責返抄。朱云。未知。差所行事。並使附符移返抄賦。凡此太政官所責賦〔何〕。答。私案。則於向京使者。差所行政。並使附符移等。皆可責返抄。而

先太政官

爲貴賤。

案成條

凡案成者。具條納目。謂案成者。文案始成卷。此皆以十五日爲斷也。卽本司文書。幷從他司來者皆是也。納目者。納藏也。目目錄也。猶云藏庫(庫藏)之文書目錄也。其皆得日別安。故云日皆安軸也。假令。刑部納目云。一條以其甲配流其處。二條沒入其甲。以爲官戶之穎也。釋云。案成者。從他司來公文。幷本司本案。皆名案成也。具條納目。納藏也。目目錄。案成謂文案成卷。始擬藏庫耳。假如。刑部成案條。納目云。一條配流其甲其處。一條沒入其乙爲官戶之類。此皆以十五日案爲斷成卷。但卷數隨文案多少耳。其目錄者。爲別卷副案藏置耳。古記云。案成謂他司來公文。並本司本案。皆名案成也。納謂入也。目謂目錄也。案皆纏束爲卷。司別爲卷。何者皆其上端云。其司納案目故。跡云。條納目謂藏庫之書目錄造別卷。穴云。案成謂公文造立了也。具條納目錄。謂藏置其司公文。色別顯注爲別卷耳。此中云私記爲別卷。新令問答云。納庫之日。條錄納庫之事目各爲別卷。問案納。令釋云。此條不爲別卷。下條爲別卷者。下納目謂條納案目也。納如入也。私。日皆安軸。皆其上端云其年其月其司納案目。古記云。案目謂案也。文案也。穴云。案目如目錄。私。朱云。問。皆其上端云其年其月其司納案目。未知。目錄軸端注歟。若不(下)文(交)其司者。一端何。若納目錄官人歟。答。軸上端注耳。文不注下端也。其司者本司顯耳。此他司耳。不注納官人也。又其月者如文。云更不注日者。私未知何。釋云。注目者。每十五日。納庫使訖。朱云。問。每十五日納庫使訖者。公文之實歟。若目錄歟。答。公文幷目錄並同。若小月者。以十四日爲限耳。其詔勅目。別所安置。跡云。詔勅目謂詔勅幷目也。古記云。抄目謂詔勅之目錄也。問。內外諸司皆准此。未知。此條爲通司立文也。答。爲太政官立例

古記云抄目[illegible]れ古令に於いては、抄目とありしを、養老令は「詔勅目」と改めたるなり。

文案條

凡文案。詔勅奏案。謂其便奏少(小)事。不必常留也。跡云。奏案謂便奏等案不在此例。穴云。或云。便奏案非何。答。不依也。文明故也。古記云。奏抄謂奏案并抄目也。及考案。穴云。考案謂正文亦爲案。餘文亦同。補官解官案。跡云。解官案常留。謂雖得敍位任官。猶此除解之案常留耳。穴云。解官案任官也。依下條解免者。然免案亦不除常留。朱云。補官解官案者。未知。番上皆同不。答。別記具了也。祥瑞。財物。朱云。公私並約不。答。別記具了也。穴云。財物帳謂依相爭判斷文也。婚。田。謂婚者五位以上妻妾名帳也。田者田籍田圖也。釋云。婚謂五位以上妻妾名帳案置治部。田籍田圖也。古記云。婚謂五位以上妻妾案置治部也。田謂田圖也。良賤。釋云。爭判斷之書。古記云。良賤謂爭私也。市估案。古記云。市估謂市務並每月立三等估價之案也。問。估價之案。常留之意如何。答。爲罪人平贓并隨時年以先例准量立估。假令。依先豐年估定。此豐年估也。以昔儉年估作今窮年估也。如此之類常留。朱云。如此之類者。未知。一端之類字何。答。別記具了也。以外年別檢簡。三年一除之。具錄事目爲記。謂與上條納日同例。假令。爲記云。除去事條合若干。條別注云其事之類也。釋云。具錄事目爲記。謂除去事條合若干。具錄事目造別卷耳。古記云。具錄事目入司爲記。謂除去事條合若干。略其事云耳也。其須爲年限者。並事留。謂假令。准令。稅簿。籍。者。是三年一除之書。而事有懸逋。應須詢問。其人奉使。先向外處者。計其還程。更亦留納之類也。釋云。依文。稅簿者。三年一除之案。假有中國稅簿。准令合除。爲有懸逋。欲問其「人。其人」、「有懸逋」。奉使先向外蕃。計其廻期。只在一載者。更除一年留納。待使(便)耳。古記云。其須爲年限者。謂臨時在耳。穴云。其須爲年限。謂其放令釋。納。限滿准除。朱云。問。不限年多少。事終後除乎。答。

〔古記云奏抄〕古令に於いては、奏抄とありしを、養老令は「詔勅奏案」と改めたるなり。

〔謂五位以上妻妾名帳案置治部〕職員令、治部卿職掌條に、婚姻の二字あり、義解これに注して「謂五位以上嫡妻也。」と云へり。

〔儉年〕凶年なり。

〔古記云具錄事目入司爲記〕古令にありては「具錄事目入司爲記」とありしを、新令は「具錄事目爲記」と改めたるなり。

別記
具了。

任授官位條

凡任授官位者。謂太政官任主典以上。及中務授〔任〕五位以上。式部授六位以下之類也。釋云。任授官任官主典以上也。授位初位以上也。所授之司中務式部兵部也。古記云。任授官位者。謂任官也。授位者非也。所授之司。謂式部兵部也。跡云。任授司謂中務式部兵部也。穴云。所任授之司。謂弘案。兵部式部也。假令。式部掌文官名帳位記銓擬故也。兵部亦同。於五位以上位記。並官人等中務亦同任。謂甲司官人任乙司官人。及番上人任長上官此也。轉任同司者。此下文云轉任也。弘案。任謂无轉任。及以理犯罪解等之類。已從散官新任皆是耳。其甲司任乙司。及進任同司者。皆為轉任。而簿下朱書注也。此是位案外別造簿耳。問。造五位以上授簿行事何。答。議案中務式部各造簿也。位記式二省官人共署故也。又問。官當時除簿行事何。答。議案刑部移式部中務除簿耳。又問。式部掌文官各行事何。答。議案造授簿之後。依任色造簿。此是任簿也。一任簿此名帳也。朱云。問。授位者。初位以上。未知。於初入色人何。亦同可造簿不何。所任授之司。皆具錄官位姓名。任授時年月。貫屬年紀造簿。跡云。貫屬謂一位以下。皆注貫屬也。造簿謂任官授位之人名帳。唯授位之人。更復造位記案。而副簿置也。朱云。其任官簿除貫屬年紀者。則知一位以下案注貫屬年限也。但附勅授位記式。五位以上。已不注貫屬。未知。檢處何。答。依位記式不可注貫屬者。後反云。一位以下於勅皆可注者。額亦同後記也。其任官簿。除貫屬年紀。官人連署印記。跡云。官人連署。主典以上皆署也。穴云。印記謂當省印也。若有轉任身死。及事故以理去任者。即於簿下朱書注之。跡云。問。以理解色本司具狀申官。官則奏聞

〔注毀字了〕延喜式部式下に見ゆる位記を毀す儀式には、「書二毀字一捺印。」とあり。

令下報符。未知。式部何知而朱書注乎。答。准考解令下符。朱云。貞云。官令式部銓擬可任代人。以此可知解官狀故。更不下符式部者。未明。額云。不然。官注解官狀可下式部。自依職掌銓擬可申耳者何。穴云。私案。轉任者注轉任色。身死者依身死注除也。以理去任者。依去任狀注除也。任他司放此也。朱云。卽於簿下朱書注者。未知。假令。武官人轉任文官者何。若式部作任官簿。兵部朱書注何。答。然也。

其有考解。及犯罪除免者。 謂解司者。式部。免司者。刑部。假如。准考應解者。式部錄狀申官。待符報。乃造解簿。又犯罪應除免者。刑部斷定申官。奏報畢。卽造免簿之類。但五位以上。式部不得定其考第。若應考解者。亦太政官爲解司也。

解免之司。 釋云。解免之司。解司太政官也。免司刑部也。假令。考解人。式部勘申太政官。官准前皆具錄官位姓名解任時年月。造簿報下於式部。式部得(待)符報。然後解之後。得任用者。式部申官除解任案也。除免之人。刑部斷定申官。官申奏報下之時。刑部錄狀報式部。式部刑部相竝。向官毀位記。*注毀字了。注除式部案。故云錄報元任授。除注簿案。其論奏式除名者。雖於官議定。而奏報之日。付刑部可行事。刑部相預故。其敍限滿日。刑部申官下於式部。敍用之日。更式部報刑部除簿耳。古記云。解免之司。謂太政官刑部也。跡云。解之司。謂太政官。古式部勘定可解官之狀。申官。官奏聞下報符。是日錄報元任授也。免之司。謂刑部。言刑部斷官當以上申官。官奏報之日。刑部移式部令注毀字。是日錄報元任授也。准前造簿。謂官注置解官之狀。刑部亦注除免之狀造簿。連署印記耳。問。考解色官亦下符本司否。答。下符式部。式部轉符本司耳。朱云。貞云。官報符式部。又下符本司耳者。未明。穴云。解司之(者カ)謂太政官。其錄解時年月造簿。依上注除貫屬年記。仍報元任授除注簿案。問。別勅解官及會赦免罪解官何。答。私案。放考解太政官造簿耳。又問。以理去任者。只朱書注除其考解犯罪解官。別造簿用何。答。後任日通計前勞是已竟。故云爾。免之官謂刑部也。其諸司斷官當以上申官。官案覆。假十日程了申奏。奏報日則下符刑部。刑部移式部。於官毀記也。式部案注毀字。竝印除注簿案是也。又刑部具免狀乃造簿也。凡解免官。謂太政官刑部。私記同之。令釋異說。准前。造簿謂官當以上簿。如授位簿。具注貫屬年紀。解官簿除貫屬年紀耳。

亦

錄解免之狀。准前造簿。仍錄報元任授。謂式部錄報太政官。及中務刑部錄報中務及式部也。朱云。仍錄報元任授除注簿案者。未知。此文爲考解以下歟。又元任授者中務式部兵部歟。又除注者不除弃其人名。注附除免解官狀歟。凡此太政官并刑部所爲歟。答。所問事並然也。跡云。除注簿案。謂授任簿下注除解之狀。一云。貞可注除字者。未知。此讀何。穴云。獄令。爲位案注毀字生文。此條爲注除簿案生文。兩條其義各異。但案本令。奏抄式部覆斷訖送都省。都省令以下侍郎以上。及刑部尙書以下侍郎以上。俱署申奏。奏報之日。刑部徑報。吏部令進位案。注毀字。並造簿。於行事無煩。今此令中奏之日。元（无）刑部卿俱署奏。太政官獨奏。奏報之日。下符刑部。即刑部轉報式部。令進位案。注毀字。此轉廻亦間事涉不便。但煩者。官奏報之日。自然召式部。令進位案。注毀字。又報符刑部。令造簿。仍刑部者。爲報元任授注除簿案。尙報式部。式部從先注毀字日知事狀了。尙依文報耳。此恐其忘失不注簿案。丁寧累刑部注送耳。此義少異上義。相除得理。但尙所煩者有耳。此違本令者然耳。上爲了。豈如獨解之人。滿限之狀。官下式部。式部選擬申官。官判任奏任了。已事悉知了。雖然。依文敍用之司錄報解處。所司除簿者。此依文亦累煩造。猶如此義耳。又依本令獄令。刑部申都省日。位記俱副進耳。又朱云。考解亦官下符式部。式部轉符本司者。不安。何者考課令云。內外官准考應解者不得釐事。待符報即解者。又此條解司者。太政官哉。官下符本司。並報式部注除耳。問。簿案幾事。答。一事也。位案者。奏報日錄毀官位也。

除注簿案。若除解人得敍用者。敍用之司。錄報解處所司。謂用司者。太政官。敍司者。式部者。假如。考解之人。更復任用。及除免之人。限滿應敍者。官敍。錄報式部。式部錄報刑部之類也。釋云。若除解注。與注敍用同。記注而敍之也。人得敍用者。敍用之司錄報解處所司除簿。此解司。謂太政官。刑部皆約也。何者名例律敍法條。免所居官注云。從見出解官日爲計。卽知。免所居官亦可云解官。一說。略除字。案文可知耳。所司式部刑部也。然式部錄報刑部。是不當歟。

宜讀式部錄報所除之刑部耳。古記云。除附謂除刑部簿附式部簿也。跡云。敍用謂敍位任用也。朱云。或云。敍用
者猶一事任官耳者。貞不同也。錄報解處所司。朱云。解處司者。太政官也。但免司者略文耳者。除簿謂官當以上。刑部注限滿令（合）敍之狀申官。官
下式部。式部敍位。而移刑部令注除。朱云。額不同耳。但考解人式部直銓擬申官耳。朱云。未明。遣令釋耳歟何。解處所司。謂除解
處也。朱云。除字略文耳。但或云。約解字者。貞少不同耳。朱云。敍用之司者。未知。何司。答。式兵部者。未知。於五位以上。若中務省
錄敍位狀移刑部。除簿案哉何。私。式部移刑部故。更中務不移歟。先同也。除簿者。未知。其人名專不附
簿案除弃歟不。凡除注。除簿。注除。其別何。答。注附除解等狀耳。不除弃其名者。又除注除簿並同。
無別者。穴云。除用司謂式兵部也。問。敍用時行事何。答。刑部錄滿年限狀申官。下符式部敍訖。式部
〔敍訖〕。敍位之人移刑部。任用之人申官令除簿。是云報解處。解處謂免亦約也。又問。元國不可銓擬者
何。答。私案。滿年限者。式部申官也。問。任官有勅任奏任判任。未知。銓擬
行事何。答。私案。不論奏判。只銓擬申官。依法行耳。但勅任者不可銓擬也。**除簿。即未敍之**

間。在本貫身死者。申刑部注除。謂若未用之間。在本貫身死「者。亦」申太政官。及式部注除也。跡云。未敍之間。謂未敍位任官之間也。
申刑部注除帳。而其簿。依上條當留耳。朱云。申刑部注除者。未知。所在官司申歟。若死冢申歟。答。所在官
司所申耳。於諸國先申官。後下刑部耳者。額云。只申刑部者。私案。令文可同此問答耳何。穴云。即未敍
之間。在本貫身死者。申刑部謂國行事也。私以理去任。在本貫身死。國亦申官注除。一案申散位寮。問。
除解人在本貫。而國郡知除解人行事何。答。選敍令云。職事官患經百卄日。依親患假滿二百。及父母合侍
解官。皆具狀申太政官。其番官本司判解。並下本屬者。
患解此輕。尚下本屬。則知。解官官當皆可下本屬也。**其餘色。依職掌應造簿**謂式部造作部及責
人簿之類「也」。釋云。餘色諸司雜任也。依職掌應造簿者。假如。作部簿責人簿之類。或**者。並准此。**
云。才伎長上亦同餘色。古記云。其餘色依職掌應造簿者。謂才伎長上雜任分番皆是。

授位授勳條

凡授位校（授）勳之類。應須摠奏。而有勘當未盡者。隨見盡者奏之。謂未盡。猶未勘畢。此爲臨時立制。其選滿須敍者。令條既有期限。不可且勘且奏。釋云。未盡。未授（校）了也。此爲臨時敍位人生文。但選人等令有期限者。依限校了。一度奏授。且不可奏授。跡云。此條臨時勳上之類。校。授。勳猶敍勳。朱云。授位校勳之類者。未知之類字何。答。穴云。問。此條校（授）位。上條授位別何。答。私案。上條爲選滿生文。此爲奏生文。然此條臨時授位也。尋常授位者。考課令有文。私案。此云亦不安。凡授位授勳之類。雖考課軍防二令有文。且奏且退任所。依此文。仍不停。待令擁滯耳。仍蓋依考課限內了。勘當未盡。謂私案。文盡首（頭）尾不合也。古記云。任授官位。謂任官也。考授謂考選。勳功謂勳人也。　不得停待致令擁滯。釋云。擁釋見考仕令。滯止也。音直例反。朱云。不得停待致令擁滯者。今只此文案。此令情位。位記必自可受取者未明

官人父母條

凡官人父母。病患危篤者。不得差充遠使。謂化內遠使也。釋云。化內遠使也一云。絕域也。化內臨時處分也。古記云。危篤謂重病也。遠使謂絕域也。化內者臨時處分耳。穴云。危篤謂病重。今合死不必常篤疾也。使謂不論國內使蕃國使皆是。或云。蕃使不依也。朱云。官人者未知。番以下何。又使者主典以上歟。不合蕃上。亦可放此。私案。主典以下皆不可遣。何者。於考道不可別敍何。額同之。

外官赴任條

凡外官赴任。子弟年廿一以上。謂子孫弟姪也。不稱父祖伯叔之類者。舉輕明重之義也。釋云。子弟子孫弟姪也。不稱父祖伯叔之類者。舉

〔釋云擁釋見考仕令〕考仕令は古令の篇名なり。これにのみ據れば令釋は古令の注釋書と云はざるべからず。

〔謂准律舟亦合有行程〕職制律には、「凡驛使稽程者。一日笞卅。」云々とあり。而して驛使は陸路をゆくに限れるものにあらずして、水路をゆくこともあるべし。故に舟にも亦行程ありと解せざるべからざるなり。

輕明重之義耳。或説。祖父母父母等隨之。何者雜令云。外任官人。不得將親屬賓客往任所故者。非所以知者。名例律。祖父母父母老疾无侍委親之官注云。既將之任理異委親。及先已任官親後老疾。不請解侍竝科違令罪故。古記云。問。子弟不得自隨。未知。父母妻妾若爲處分。答。文制年廿一以上。祖父母父母妻妾家人奴婢不限年多少。竝子弟廿以下皆隨之。穴云。問。子弟。未知。女妹何。答。不禁也。私案。男女無別也。朱云。外官赴任。子弟年廿一以上。不得自隨者。未知。番上以上竝同不。私案。番上亦同也。貞云。此文廿一以上者。則知。廿以下聽自隨。但雜令。爲除子孫之外親立制者。未明。額云。雜令。禁親屬賓客耳。祖父母父母伯叔等不禁者。私不同也。同釋説耳。何者違禁本意故。**不得自隨。畿內任官。不在此限。其須覲問者聽。**釋云。覲見。音渠遴反。

行程條

凡行程。※謂准律。舟亦合有行程。但其遠近者。依式處分。跡云。船行程將有別式。朱云。貞云。行程不見者。**馬日七十里。步五十里。車卅里。**跡云。乘傳馬放此七十里行耳。朱云。馬日七十里。步五十里。車卅里者。未知。持物不持竝同不。答。此令爲持物也。於客不見行程者。問。而何。名例律。流配人在道會赦條。行程別(引)此文何。反。答云。於人持物不持竝同。但於馬車不見耳者。未明。額不明決。而私案請(諸)所可云耳何。

遠方殊俗條

凡遠方殊俗人。釋云。文宜連讀。跡云。殊俗謂非常來隣國人面貌奇色耳。穴云。殊俗人謂非常參蕃人也。**來入朝者。所在官司。**謂所初到之國司也。釋無別也。穴云。所在謂國郡司。古記云。所司玄蕃寮。今行事。始所至之處國司具序申。**各造圖。畫其容狀衣服。**朱云。未知。

給歟。謂若注書歟。答。書給耳。此則稱遠國者。

具序名號處所 謂名號者、國號人名也。處所者、住國所在之處也。釋云。號名謂國號人名也。處所謂島海山川也。古記無別也。穴云。名號謂其國號也。假稱謂也。處謂海中山中之類。

幷風俗 謂假如、禾稼再熟之類謂之風、夫死妻殉之類謂之俗。「也」之釋無別也。古記云。風俗謂以船爲業。好弓馬鼓歌

傑等。跡云。風俗謂夫死時妻死之類。問。其人等而序中土耳。朱云。何者具稱序名號故也。穴云。風俗一端。令釋解而其意。屬本鄉。但此文不必其土地。假其來人之風俗亦有耳。假稟性剛柔緩急此等耳。

隨訖奏聞 朱云。未知。申太政官令奏乎。答。私案。可然也。古記云。過所式條。大夫以下少進以上署名。准移式條。凡解移遠諸司者。主典以下史生以上。隨事輕重相連。其國司京職攝津等公文以事隸者。皆爲解。但諸國於竹志大宰府。並爲解也。位記署名者不必自署也。凡出使有所申報者皆爲解。凡親王入府庫寺前後任意。

令集解卷卅六　公式令

建長元年九月日於鎌倉殿令二見加朱點畢　　員外宰相藤判

建長二年九月六日於有馬溫泉見合本書加首書畢　　權大納言藤原在判

建治二年七月引合中書闕之本校合了

本云

建長二年六月四日丙申以合本書加首書了

建治二年六月廿一日引合正親町之本校合了
慶長三年七月廿三日於燈下令校畢
右以清家秀賢之本令寫之一校畢
寛永甲戌七月日
萬治四辛丑季春十三於燈下令一校畢
右一冊請得神村先生藏本使書寫者也
明和戊子歳仲冬
同庚寅歳四月七日以京師本一校了
丁酉十有一月十六日與河伯栗一會了
文化癸酉年六月五日校了
文政三年以彰考館本比校了

員外宰相藤在判
吏部清原秀賢
中原職忠
羽林中郎將藤原
越智通邦　印
筒井忠英
檢校保己一

令集解卷卅八

〔律云、繫飼云廐馬耳〕廐庫律初條に「繫飼死者。各加二一等一」とあり。繫飼の馬即ち廐にある馬なりとの註は、讃の中にあるなるべし。

廐牧令第廿三 凡貳拾捌條

廐牧 謂廐者馬舍也。牧者牧園也。釋云。說文曰。廐馬舍也。音居有反。古記無別。顧野王曰。牧者園也。音英六反。

廐細馬條

凡廐細馬一疋。中馬二疋。駑馬三疋。 謂細馬者上馬也。駑馬者下馬也。釋云。細馬上馬也。駑馬下馬也。周禮。校人掌辨六馬之屬。野王案。六種最下者駑。音乃胡反。古記云。駑奴胡反。餘與釋無別。穴云。案本令。於廐繫飼〔飼〕故云繫飼。以芻草逾於廐所貯積使供。今改繫飼稱廐。卽知。律云。繫飼云廐馬耳。卽主師(帥カ)飼丁得罪如下條。廐謂左右馬寮也。牧馬傳馬驛馬下條有養文。兵馬。軍防令有養文故也。細馬謂上馬也。駑謂馬也。文下馬也。 各給丁一人。 跡云。雖次丁。而仍充一人耳。但日數減半正丁。 穫丁每馬一人。 謂只馬戶丁充。其飼草之日。不充穫丁。但於採木葉者。不可每馬充一人。此須兼日而並充。卽依下條。番役之外。亦輸調草〔是〕也。釋云。穫丁穫刈也。音胡郭反。古記云。穫草刈也。朱云。穫丁每馬一人。謂乾草飼時不可給者。後反丁也。額同初說也。未明何。此明下條馬戶人也。令番仕耳。雖充次丁中男所仕日數不減者。雖所仕之日等所作之物。不可同故者未明。一案下條。中男不合也。貢云云。 日給細馬粟一升。稻三升。 謂稻者半糲米。故稱升也。釋云。稻是也。可減半正丁者。私案理然也。額不同也。 豆二升。鹽二勺。中馬稻若豆二升。 朱云云。稻若豆二升者。未知。二物。答。然也。 鹽一勺。駑

〔此是典藥乳戶牛也〕職員令、典藥頭職掌の條には乳戶のこと見え、別記に「乳戶五十戶。經年一番役十丁。」と云へり。續紀、和銅六年五月丁亥條には、始めて山背國に乳牛戶五十戶を點ぜしこと見えたれど、後には攝津の味原牧を典藥寮の牧と定め、乳牛を此處にて飼養せり。

〔律云與馬戶同不〕律は廐庫律ならんも、現存の廐庫律には、馬戶の二字の見ゆる條文見當らず。

〔釋云若遭田不熟年者

馬稻一升。乾草各五圍。木葉二圍。古記云。今行事。粟已下驪已上不給。乾草日二圍已上。三圍已下充。朱云。乾草五圍。木葉二圍。謂上中下馬無別。飼青草時。不給木葉者。周三尺爲圍。青草倍之。謂倍於乾草也。釋云。以一生兩日倍。音薄枚反。跡云。青草給十圍也。皆起十一月上旬飼乾。四月上旬給青。其乳牛給豆二升。謂給草之法。待式處分。釋云。給草法待式處分。唐令。乳牛牧飼。朱云。乳牛此官牛也。常可定有。但所在不見者。後說見別卷也。穴云。問。乳牛養法何。答。*此是典藥乳戶牛也。則知。乳戶養耳。又問。乳戶養牛官牛歟以不。答。或云。問。此牛何飼哉何。答。時行事在別所養。在穴記也(之)。稻二把。取乳日給。朱云。常不給耳。

馬戶分番條

凡馬戶分番上下。謂次丁以上也。釋云。次丁以上。可分番上下。爲考課令不廄飼丁故。古記云。問。正丁次丁少丁上下等差以不。答。考仕令。不廄飼丁爲馬寮最。則知。少丁以上無別。一云。少丁不合上下也。跡云。上下謂次丁以上。朱云。馬戶分番上下。謂京畿內諸國可有者。未知。此何人。*律云。與馬戶同不。答。又以幾日可爲一番。答。不見。宜可爲者。額同也。或(武)云。分番上下者。以何日爲始番。又一番日限幾日。答。不見。尙十五日耳。在穴記。穴云。次丁謂殘丁老丁無別也。別例斐太國爲證也。分番上下。謂中男以上。故最所稱中男以上也。其調草。正丁二百圍。謂若有水旱年實不登者。一准飛驛國例。唯免其輸。不免番役也。*釋云。若遭田不熟年者合免。何者雜戶陵戶與此同傍遭損害恩。馬戶何事不免耶。古記云。其調草。謂雖會恩免猶輸耳。但令行事調草輸停官。以錢仰買畿內充馬寮也。一云。會恩免幷水旱合免。跡云。若遭恩復之年合免草。但上番不免也。朱云。問。戶令云。雜戶陵戶免課役者。未知何。額云。依賦役令不出。其

合免何者雜戸陵戸與此同併遭損害恩馬戸何事不免耶」馬戸即ち馬飼なる雜戸が、分番上下して牧草を貢するものは、即ち白丁の租庸調に相當するものなり。故に水旱霜蟲によりて租庸調を減免する賦役令の條文は、又馬戸の調として納める草にも準用せられざるべからずとなり。

依此令。可出草必耳者。問。調草仕人之出無不。答。仕同人所出耳。額同也。又問。未知。雜徭并庸等何。可見賦役令并釋。何云(者カ)於調草之外皆可免。穴云。問。分番。上下與調草輸別何。答。准調草者。不分番上下也。其會水旱年者。放白姓也。　次丁一百圍。中男五十五圍。

官畜條

凡官畜應請脂藥療病者。所司預料須數。每季一給。謂官畜者馬寮之畜也。所司者左右馬寮也。言應請脂及藥療治官馬病者。馬寮預料數申官。官即每季一給。其牧畜者。不在此例。釋云。所司馬寮也。馬寮預料須數申官。官每季一給耳。古記云。所司謂馬寮預料須數。每季申官。官每季一給也。跡云。所司謂馬寮料合用數申官。官制給耳。朱云。官畜謂廣諸國驛馬牧等畜者。未明。後了反也。又預之志何。又每季一給者。此何司可物(總カ)出乎。答。預者如言兼耳。穴云。官畜謂左右馬寮御馬也。問。牧馬驛馬給脂藥法何。答。私案。依本令。繫飼並牧同給。然所司謂牧馬。亦同申國國申上耳。所司謂馬寮也。馬寮申官。官每季給。或云。問。義解云。其牧馬不在此例者。未知。驛傳馬何。答。不可養也。在穴記。

牧馬帳條

凡牧馬長帳者。取庶人清幹堪檢校者爲之。朱云。牧長帳者。此長任之人耳。不見可替年限。又長上之人者。

其外六位。謂初位以上。即內位不合也。釋云。內六位以下及動六等以上不合也。古記云。其外六位以下。及動位亦聽通取。謂內六位以下及動六等以上。雖情願不合取也。朱云。外六位以下者。未知。內位雖初位不充乎。答。不可充者。額同也。穴云。問。甲長取六位以下未知。此意取七位以上意何。答。依文習耳。又問。內位情願何。答。私案。准此文聽耳。　及動位。謂七等以下。朱云。無別。　亦聽通取。

牧毎牧條

凡牧。毎牧置長一人。帳一人。謂雖馬牛不盈群。而猶置長帳也。釋云。雖不足群名爲牧者。猶置耳。一云。不足群者。均入諸群。見唐令。古記云。牧毎牧置長一人帳一人。謂不限群多少。雖不足群名爲牧者。猶如數置也。朱令云。其有數少不成群者。均入諸長(群)。朱云。長謂假長官心也。帳謂書人者。未明。若長官次官之心歟。答。同上說也。帳字心書人耳者。

毎群牧子二人。謂若不盈群者。即准量而置也。古記云。毎群牧子二人。謂不滿百及餘者。量宜充也。跡云。馬牛百以下。宜量充牧子耳。朱云。毎群牧子二人者。若不足百者五十以下。牧子一人也。六十以上牧子二人。釋同也。又云。五十以上二人也。凡牧子長上人也。不分番者。額不明決。而云。雖不分番。猶代代守可耳者何。未知。*而何律遊牝時。以當檢校人爲罪者哉。私案。律意亦爲新任立云耳歟何。

其牧馬牛。皆以百爲群。謂凡駒犢至二歲校印。即校印之年。亦爲別群。其未別間。猶從本群。釋云。凡爲群者。爲遊牝也。然則以遊牝年爲別。爲別群耳。未爲別群之間。從本群耳。一云。駒犢生二歲者。即校印。即以校印年爲別群耳也。古記云。以百爲群。謂牝牡同耳。問。一百之牝。謂有六十。未至遊牝之間(問)。若爲作群。答。案本令。至四歲爲別群也。開元令。牡馬牡牛毎三歲別群。准例置尉長給牧人。跡云。駒犢並以遊牝年爲群。合充牧子。朱云。以百爲群。謂爲充牧子更不爲別院也。但以毛色齒年牝牡。可知其預牧子者。未明。後反了也。額云。宜量可知飼者何。穴云。問。以百爲群。未知。爲群何。答。文不見。待式處分也。問。不足百數時爲群何。答。九十以下充牧子一人。律所說。抑令見私記也。跡云。牧置長帳義。是六十者充二人。其只管一牧者。長稻賞廿束。

牧牝馬條

凡牧牝馬。四歲遊牝。謂遊牝猶交接也。釋云。遊牝交接也。牝音扶履比忍二反。*月令季春之月。乃合累牛騰馬遊牝于牧。注云。累騰皆乘匹之名也。言繫在廐之馬。

〔而何律遊牝時以當檢校人爲罪者哉〕廐庫律初條に「遊牝時。當ニ其檢校一者。準レ數爲レ罪。不レ當者。不レ坐。」とあり。

〔月令〕禮記、第六の篇名なり。

〔廿六〕[illegible]の注なり。

〔案雜律亡失官物以十分論〕雜律に「凡[illegible]軍器」事訖得留不レ檢者、十日杖六十」中略「若亡失及誤毀傷者、以十分論、[illegible]六十」と見えたり。

〔馬貴牛賤其由即下給稻條見者〕廐牧令第七

牧遊則就牧之牝合之。古記云、牝者牸、牡者特。牝馬四歲遊牝、謂月令季春之月、乃合累牛騰馬遊牝于牧。注云、累騰皆乘匹之名也。是月令牛馬、謂繫在廐也。其牝欲遊則就牧之牡而合之也。

五歲責課。牝牛三歲遊牝。四歲責課。各一百。每年課駒犢各六十。謂依上條、以一百爲群。即牝牡併數也。此條稱一百者、唯數牸者。凡隨牸畜數、立責課法。故舉成數。以制大例。非是必以一百爲定數。假令、牸畜十、課駒犢六之類。其牧牝馬五十、充牧子一人。課卅駒、即乘一者依下條。賞稻十束。若有六十者、充牧子二人。即乘二者賞稻廿束。釋云、上條以百爲群者、牝牡總數也。此條稱一百者、唯計畜牸耳。此條以百爲率。舉一例耳。若有牝十疋、責課六耳。何者廐庫律、放飼瘦者不滿十者、一當一分論故。假令、有牝馬五十疋以下、充牧子一人者、課駒卅、卅疋、乘駒一疋、賞稻十束。欠一疋者笞卅。何者放飼瘦條、馬數少時罪重故。六十疋以上者充牧子二人、課乘二疋賞稻廿束。首十分。從九分、有課欠者、亦依上法科罰。准[illegible]律爲法故也。古記云、各一百每年課駒犢各六十、課謂計牝馬百也。然本令、馬牛以百卅爲群。若犢卅。此牡所謂父[illegible]之カ馬哉。此間以百爲群。計牝不足百、又不合通計他群。案雜律、亡失官物以十分論。不足十分當一分論。九事爲九分之類。又廐庫律、責任不滿一年而有死失者、總計一年之內。月別應除多少准折爲罪也。即知、以十分論合爲課除十。牝十課駒犢各六也。朱云、每年課駒犢六十、謂校定課日、則爲一群充牧子者。无年課二年檢也。但其月不見也。與下爲印條殊者未明。又畜牸百疋中有死耗者、除死耗分課也。不課六十者未明。然則勘課日即先勘定。死耗何。答、私可然者。穴云、牸畜五十課卅也。一束給十束。若一欠者科廿哉。

其馬三歲遊牝。而生駒者。仍別簿申。朱云、謂申官也。牛二歲遊牝者、亦朝此申者。或云、不申也。馬貴、牛賤。其由即下給稻條見者。不乾。額云、馬牛皆可申者何。

條に「凡牧馬牛、毎レ乘ニ駒二疋、犢三頭一。各賞ニ牧子稻廿束一」云々と見えたり。卽ち馬二頭の價値は、牛三頭の價値に等し。

〔若有首從者依鬪訟律誣告條分賞法給之〕鬪訟律、誣告條の疏に「遂相誣告者。准ニ誣告輕重一反ニ坐告人一」とあり。これを指せる歟。

〔不言皆依首從法〕賊盜律、謀反大逆條に「言レ皆者。罪無ニ首從一」と見えたり。

毎乘駒條

凡牧馬牛。毎乘駒二疋。犢三頭。各賞牧子稻廿束。謂依律。牧馬牛。准所除外死失。及課不充者。一牧子笞廿。「三」加一等。此律既(卽)不稱皆。卽知。合爲首從也。凡賞罰之道。理「非」當均一。准律科罪。既(卽)有首從。據令分賞。何無輕重。卽以廿束爲十九分。十分給首。九分給從。若首從難知者。二人各受十束。其長帳分法亦准此例也。古記云。毎乘駒二疋。犢三頭。謂一百以下。十疋以上不限疋頭多少。毎乘計賞也。問。各賞牧子稻廿束。未知。人別給歟。答。牧子二人合廿束賞。問。以廿束給二人。若爲等分也。答。※若有首從者。依鬪訟律誣告條。分賞法給之。案廐庫律。牧馬牛准所除外。死失及課不充者。一牧子笞廿。※不言皆。依首從法。卽首笞廿。從笞十。今以廿束稻爲二分。二分給首。一分給從。更稻數加者。准此爲分法。各加一分給也。但於謂首從難定。若不得定者均分給耳。以均分給爲長。朱令見文。其於罪者。各不合笞廿。何者於賞物有均分法。於科罪無均分法。故唯於死失者。必合有首從也。一云。此亦無首從者。各笞廿耳。跡云。牝馬五十內課一不足者。笞廿。但非理死者。別求合科。不合輕。於瘦馬。有六十以上者。合充牧子二人。此乘二疋者給廿束。若有損一疋者不坐。但馬五十疋以下者。充牧子一人。此乘一疋者給十束。若有損一疋者合笞廿。何者有二人之日。猶笞廿。爲十九分。合毎乘二疋給廿束。若牧馬有五十疋。而乘駒一疋者。給十束。但牝馬一群內乘駒一疋者。全不給。何者有馬數多而駒少故。但縱牝馬五十疋以下。而乘課一疋者。率百乘二疋之義。寬合稱也。朱云。乘駒二疋犢三頭。謂於百所稱也。穴云。牧子稻廿束。律科罪不爲首從故。賞亦不爲首從。各賞十束。不依爲十九分之說。又一百牧子二人。若九十九以下者牧子一人。乘駒一疋者十束。或云。乘二疋乃始賞廿束。不充二疋。未有罪故。後云不安。跡云。五十九以下一人。六十以上二人也。問。牧子新任死耗而課乘者何。答。私案。課乘此先人之功故。不相折。令(全)計死耗坐後人也。後案。依唐令(答)。坐後人故。賞亦給後人者。然於後人亦相折耳。或云。文云。毎乘駒二疋。犢三頭。各賞牧子稻廿束者。律云。准所除之外不充課者。一牧子笞廿者。而此令乘犢三頭之時。乃賞之心

何官。謂文習耳。在六品。

其牧長帳。各通計所管群賞之。謂假令，管二群之乘四疋，及管三群之乘六疋，各賞稍廿束之類，即管一群之乘一疋，若管二群之，一群乘一疋，一群乘三疋，亦依賞例。其有死闕者，令賞見在人[之]也。釋云，假有二群者，乘駒四疋者，長帳各得十束之類。若一群乘駒三疋，一群乘駒一疋，亦依賞例。其有欠乘者，准法相折耳。相折之法，以課乘得折死耗過，以耗餘不得折課欠。案，此條記者，紛紜其旨難定。唐令，謂賞物二分入長，一分入牧子。〻〻課(謂)長上專當者，其監官及牧尉，各通計所管長尉賞之，皆准印後定數，先塡死耗足外，然後計酬者，此令既除准印後定數之文故。雖未至校印之處，每責課年乘者，酬賞不足科罰。又牧子長帳各以所由爲首賞罰，以鬪訟律竊告首從之法爲定。如有闕及身死之分不除，猶給見在之人。唐令，闕長帳闕及行使無功不合賞者，其物悉入兼檢校合賞之人故。但長帳止管一群，乘課二者，依律止管一群者，減牧子一等科。然則因欠得罪，是可與賞，以得罪長若帳與者，首賞從減無罪者不可賞。果給有罪人耳。賞罰可同故。一云，長帳若管一群者，四乘時賞也者非也。古記云，其長帳各通計所管群賞之，謂二群乘四疋，管三群乘九頭，各賞稍廿束。若管一群乘數足亦給其分。賞法放牧子也。一云，若管一群，二疋乘，牧子長帳其給也。問，馬牛以百爲群，牝牡爲同群。牧子二人充。或牧二群牝馬各五十疋，至責課何乘百爲法。答，牧子者以五十牝責課駒乘二疋即給。止乘一疋不給。其甲乙共無所賞，唯長帳以二疋數給耳。一疋云不合給。此爲長。又問，甲群乘二疋，乙群乘一疋，並四疋，長帳給不。答，給無疑。庫律附釋見文。跡云，長帳止管一群，而乘二疋者，依求首從者不給。何者管一群者，滅牧子一等科笞十，從者又減一等者無罪故。朱云，須乘謂減何。但乘駒五疋者，以卌束爲十九分合給。或乘駒四疋者，首給卌束，從者乞分耳。朱云，私同。何者依鬪律等法故爲，此依首從之法何合耳。凡依得罪法合賞也。問，管一群之內，死失時者，牧子笞卅，長帳減一等，未知。乘二疋時何。長帳課廿束乎。答，其理耳。朱云，私意志然。但須云，未明。可案者何。又管二群之內乘四疋者，首從爲分合給。若管三群之內乘六疋者，首從並合給。此是首從共得罪故。餘皆放此。朱云，問，管二群牧乘駒六疋，於長

帳更亦加給不。答。私案。不可更加給何。又於長帳以牛二充馬一通計給者。穴云。死耗馬與課乘雖其直有優劣。倘計數相折酬賞倘如法也。私案。徵備別准本畜故也。問。以死耗除乘駒以不。答。唐令云。先填死耗「定」足外計酬。私案。雖爲科罪相折而徵備。依下條耳。又問。相折者。率百頭除十之料並相折哉以不。答。爲科罪除死耗耳。然則十之內不相折也。又相折謂爲非理死耗所讀也。以理死者不相折。細義見下條也。

相折事

後案。以理非理約。然則共相折耳。好可竊。問。下條云。有闕及身死唯徵見在人分。未知。於賞何。答。私案。全給見在人耳。爲賞從重故也。

死耗條

凡牧馬牛死耗

謂死耗猶云死。言死而減少。即依理死者。若非理死及亡失者。雖准律免罪。倘據令徵償也。釋云。死耗一也。律稱死失故。此條死耗者死然也。或說。不能見治而致死失。放百疋瘦爲一分笞卅。仍案十疋死免罪。十疋瘦猶坐。即知。除死耗者。此理死也。故無罪。何者一年生駒一年不可俱死故。但非理者。依下條准本畜徵塡耳。其失者。雖死耗十疋之內。依下條徵償。但死者免罪亦無徵償也。駒犢始一年徵計也。古記云。死耗者謂依死而爲減也。耗減也。問。死耗始幾年至幾年作增減。答。始一年計。但增減停止者。將有別式。一云。賞罰共當年校(檢)即時了。雖以乘課折死耗者聽耳。跡云。死耗謂以理死此曰死。走失及不覺盜此曰失也。除十。謂以理死者不求十之內外皆不徵。但准律。除十以外。雖以理死合科罪。若失及非理而死者。雖十之內。仍合徵。但失在十之內者。合免罪。又非理而死者。縱十之內。仍合徵。問。除十外以理死科罪之義何。答。依一百疋之內瘦十疋者罪之。今死十疋無罪。令律旨非理之死。豈可重於瘦哉。則知。非理之死者。起一疋科罪合備償。以理死者。以十外科罪。朱云。死耗一。然則以理死者。而非理死雖十內不免罪也。失者十內免罪耳歟。其理何。答。額然也。依律。雖失十內。猶免罪耳。未知。而律准所除之外失哉。若此以理死歟。答。額然者。額云。死耗一。但律更加失色耳。但死失並同。可除耗十內也。律令互相請明情耳者。未知何。又額云。以課乘充死耗過者。死失並同無別。但於失者。雖律免失罪。而依下條猶徵償耳歟。又加以駒犢補大馬大牛者。爲公可有損故。可案者。私

〔大僕式〕開元の大僕式なるべし。唐律疏議、廐庫律には、大僕式引かれたり。
「又令瘦者依律當科罪不償減價也」廐庫律に「諸畜ニ官馬牛一而各減損寸、同三寸、答廿、五寸以上、答五十」謂闌牧者、寸者、若牧飼瘦者、計三十分爲レ坐。一分答廿、一分加二一等二」とあり。

不同。何者以課乘溢失員者。不被程失故也。溢之外猶有失時。乃可名失。此時依下條可令備。而何。穴云。私案。可云以理非約。何者開元令云。馬廿一歲以上不入耗限。以此案之。當知。理死約也。就此說償可同定死耗二事也。大僕式云*。諸牧長所管馬牛。死失過耗糺罪。合徒者雖去官。亦不在免限者。案之。令死耗如言死失也。無官犯罪條云。又非理而死耗也。其以理死者。不論死員多少不科罪也。私案。以理耗亦無罪也。問。下云。其疫死者。與牧側私畜相准死數同者。聽以疫除者。以此准量。雖疫死不同。死數者科罪。又依律令。瘦者始自一科罪。今非理死損。何故除十由何。答。於疫死不同死數者。於事有疑。故雖見疫死不同者尚科。又令瘦者。依律雖科罪。不徵減價也。非理死者。雖科罪除十。而尚徵十內。猶徵未畜。此則爲重也。各依當條放耳。或說以理死者爲下也。問。以何日爲年無。答不明。但推。權以九月校印。所以亦校印欠便計耳。謂百爲群。亦計乘課除死耗。在律私記。新令問答。生一歲爲群者是也。

者。每年率百頭論除十。謂此欲科死失之罪。故先立率除之法。即律云牧馬牛准所除外。死失者一。牧子答廿。三加一等之類是也。釋云。率計也。音所律反。跡云。問。五十疋以下充牧子一人。未知。加罪法何。答。依朱。朱云。一答廿。三加一等之類。次三加一等之類。朱云。額不明決。可案首何。

其疫死者。釋云。疫癘也。々。**與牧側私畜相准。死數同者聽以疫除。**謂假令。官私畜共是百疋。而各五十四死者。以其死數同。聽以疫除之類。若官畜百疋。此五十疋死。而私畜廿疋。此亦十疋死者。雖死數不同。而以其共半。亦入除限。其老馬牛死。及責課者。並依別式。釋云。案廐令。廿歲以上不責課。又不入耗限。但此令既無此文。則可有別式也。古記云。問。進牝以四歲爲牝。未知。並老除課法有不。答。將有別式也。但未令。其馬廿歲以上。不在課駒限。牛以下不云文。跡云。老免課。並老死年法有別式。穴云。相准死數同課。假私畜十四而七。四瘦死者。率此一百除七十耳。若令一百死者。更除死耗十。以廿疋科罪也。

失馬牛條

凡在牧失官馬牛者。並給百日訪覓。穴云。百日。謂自事發日始計也。限滿不獲。各准
失處當時估價。十分論。古記云。問。各准失處當時估價。未知。懸利(許)(評)以不。答。不合也。七分徵牧子。三分
徵長帳。謂皆據首從法徵之。若首從難定者。卽須均徵也。釋云。爲首從可徵。古記云。七分徵牧子。謂二分徵首。一分徵從。若不得定首從者均分徵。長帳亦同。然必合有首從也。一云。此亦以
均徵爲長也。跡云。失及非理死者。徵謂不論死耗内外。皆合徵。但死失十者。依律免罪耳。七分三分徵之
法。爲首從合徵也。朱云。七分徵牧子。三分徵長帳。謂並依首從徵者。作十九分者。未知。若七分假首徵
四分。從徵三分何若。可有出入。答。額云。不作首從。共均徵者何。凡下文非理死損者。然則於失理失非
理失無別乎。答。私案然也。凡於失可無理失者。更云於失。亦可有理失者。未知。理失不徵不。答。額云。
强盜可名理失者。私不同。何者別可號强盜故何。穴云。問。此文失者。非理
歟。以理歟。答。爲非理生文也。被强盜抄掠者。以理故也。問。備償日限何。如有闕。謂未失之前有闕者。若
〔答依下條六十日内備替耳〕亡(已)失之後去任者。不在此限也。跡云。有闕謂假令。三月牧子一人闕。
三月有馬死失者。猶准有二人之時。而闕人分合免徵也。穴云。如有闕。及身死。謂未失之前闕是。假牧子
一人先闕而同失者。雖所失事由一人。尙除
一人之分也。若失之後而遷任者追徵耳。及身死。唯徵見在人分。其在廐失者。主
帥准牧長。謂馬部之當番者也。若依官司處分。致放失及死損者。止坐官人。其官人不知放失及死
損所由者。唯除其最也。釋云。主帥。謂馬部當番者。若依官人處分致死損者。止坐官人。
但官人不知死損所由。合除最爲重不肥故。但在廐失者。失一疋則坐。不可須二疋。古記云。主帥謂馬部
也。問。馬寮主典以上若爲處分。答。若依官人處分至死損者。馬部已下合徵罰。但官人不知死損所由合除

「若故殺傷者亦准本畜徵不入計贓之律」廐庫律に「凡故レ殺官私馬牛者、徒一年。贓重及殺二餘畜產一者、計レ贓准レ盜論。」とあり、二此處は故殺傷の罪なり。「其贓の律」とは、名例律に「凡以レ贓入レ罪、正贓見在者、還二官主一」云々とあるものを云ふなり。

「不覺亡失」[illegible]主守[illegible]に「諸有レ人。從二庫藏一出[illegible]」[illegible]

是。爲重不肥故。跡云。主帥有數人者。求所由合徵。若其預者。共合徵耳。但依官人處分致死者。長以下徵。若官人不知死之由者不徵。但合除長。爲重不飼肥故也。朱云。主帥准牧長。飼丁准牧子者。未知。假令。但三分七分哉不。答。私案然也。在廐失（三字不審）者。亦放上文給百日合求也。不得此令也。（償者）朱明。額同也。**飼丁准牧子。失而復得。追直還之。**朱云。未知。追心何。答。額云。追猶云求贓。而更文事不明決何。或云。追直還之。猶云追取直還之。在釋背。**其非理死損。**謂若有病不療者。亦爲非理死也。損猶傷也。卽見血蹶跌之類。此皆無分法。唯徵所由人。卽無所由者、亦均徵價直。買畜備償。其所由人。卽有闕及死者。亦見在人償之。*若故殺傷者。亦准本畜徵。不入計贓之律。釋云。上文矜（於）理故准估徵直。此責非理。故准本畜塡耳。雖有闕及死者。猶見在人專償也。古記云。其非理死損。謂死並損傷也。准本畜徵塡。謂以馬牛〔不〕替償價直〔不〕耳。並雖有闕及死者。猶見在人專償也。但會赦合免徵。案廐庫律。故殺官私馬牛。會赦免故。跡云。准本畜徵塡。謂求所由合徵。若共相預者。爲首合命償。朱云。非理死損。准本畜徵塡。謂廣被能文也。死損者。死與損二者。准本畜徵塡。謂徵塡者。未知。而與上文何別。若遺闕身死。猶見在人專償。爲別何。答。額不同也。而則徵塡。謂除皮宍分者（凡此說未明。額不同也。）穴云。其非理死損。准本畜徵塡。謂不徵直。而以見馬牛塡備耳。問。依律。故殺官私馬牛者償減價。未知。與此何。若依律減價者。爲私畜生文。其於役傷官馬牛。依此條。准本畜徵塡耳。私案。牧子以上下等。役傷已所預畜產者。依此文。役傷他牧者者。依律償減價耳。（爲者）傳云（主）問。備償日限何。答。依下條。六十日備替耳。問。甲役傷官馬。牧子不知其人者。以牧子徵備及坐。未知。勘提甲身何。答。以甲塡備。但得罪如何。何者不覺盜難覺盜人。尙坐主守義耳。**准本畜徵塡。**

駒犢條

凡在牧駒犢。至二歲者。每年九月。國司共牧長對。以官字印。印

致レ盜。不レ覺者。減二盜者罪二等一。若夜持レ時。不レ覺レ盜減二三等一。主守不レ覺レ盜者。五匹笞卅。十匹加二一等一。過二杖一百一。二十匹加二一等一。」とあり。

〔故律云非時謂三月一日以後也〕雜律に「凡失火及非時燒二田野一者笞五十。」とありて、その注に「非時謂二三月一日以後。十月三十日以前一。」と見えたり。

左髀上。謂股外爲髀。釋云。股外曰髀。音補委反。古記云。髀補示反。記(說)文股外也。牘。印右髀上。並印訖。具錄毛色齒歲。以齒定歲事釋云。以齒定歲。故云齒歲也。古記無別。或云。毛色猶云毛之色也。在釋背。朱云。毛色歲齒。謂一端也。牝牡亦顯耳。爲簿兩通。一通留國爲案。一通附朝集使。申太政官。

牧地條
凡牧地。恆以正月以後。謂二月以前。故*律云非時。謂三月一日以後也。釋云。正月以後。謂起正月燒也。古記無別也。穴云。正月以後。謂二月以前也。從一面以次漸燒。至草生使遍。或云。以次稍燒。年令草在不絕也。若一度燒者。其草可盡之故。至草生之時遍燒歲(牙)使不盡也。在釋背。其鄉土異宜。謂假令。北地遲暖。南土早陽之類也。釋及古記並無別也。及不須燒處。謂山林及竹町之類。釋云。山林之類。不用此令。穴云。問。牧馬以誰時繫飼。以誰時放飼耶。答。准上條。十一月上旬。繫飼乾草。四月上旬。放飼青草耳。

須校印條
凡須校印牧馬者。先盡牧子。不足。國司量須多少。取隨近者充。謂以雜徭駈使。釋無別也。古記云。取隨近者充。謂取白丁充折雜徭也。朱云。須校印牧馬。謂上條爲印。此條爲用人立耳。

牧馬應堪條
凡牧馬應堪乘用謂體骨强壯。稍應堪乘用者也。釋云。應堪乘用者。强壯者也。古記無別也。者。皆付軍團。謂此名兵馬也。釋無別。古

記云。皆付軍團。謂兼名兵馬。令行事。每年簡試進上。不習於團也。或云。軍團每國可有哉。答。然也。在穴記。

於當團兵士内。簡家富堪養者充。朱云。一家令養馬數不見。未明。額云。一家可令養一疋者何。

免其上番。謂免國内上番。釋無別。古記云。其上番謂上防人衞士者非也。此是國内上番也。

及雜駈使。

須置驛條

凡諸道須置驛者。每卅里置一驛。若地勢阻險。及無水草處。隨便安置。不限里數。其乘具及蓑笠等。各准所置馬數備之

謂下條云。驛長替代之日。馬及鞍具欠闕。並徵前人。即知。乘具是官。司已備。蓑笠者驛子私備。其驛子替代之日。亦新人自備。釋云。下條云。驛長替代之日。馬及鞍具欠闕並徵前人。則知。乘具官備。蓑笠驛子私備。替代之日。新人備替也。蓑草名。可爲雨衣。音蘇和反。笠音力急反。古記云。蓑蘇和反。毛詩。荷蓑荷笠傳曰。蓑所以御雨。笠所以御暑也。問。其乘具及蓑笠等。未知。誰人備之。答。乘具官備之。蓑笠私備之。何者下條其替代之日。馬及鞍具欠闕。並徵前人。即知。官備者。徵私備者不求。然則驛子每馬備耳。穴云。蓑笠等私備。謂令驛戸作備故。不爲官物。又交替之日有欠。更役驛戸令備塡。又非驛長之私物故。交替之日。不還見也。朱云。乘具及蓑笠等。各准所置馬數備者。未知。等字意何。又蓑笠驛長自備乎。若驛子令備乎。但令釋云。驛子私備者何。

驛各置長條

凡驛。各置長一人。取驛戸内家口富幹事者爲之

穴云。置驛戸員有別式也。或云。驛戸以百姓

充也。唯數有別式耳。在釋背。一置以後。悉令長仕。謂牧長帳亦准此也。若有死老病。及家貧不堪任者立替。其替代之日。馬及鞍具欠闕。謂非理而欠闕也。案下條。若馬有闕失。以驛稻市替。此即以理死失故。官司市替。此條。據非理死者。故云徵前人。釋云。並徵前人。此爲非理欠闕生文。古記云。問。馬及鞍具欠闕並徵前人。未知。於馬等級有不。答。下條。每馬中戶各一。即長戶亦充馬一疋。然則長戶亡失者長徵。驛子戶亡失者驛子徵。自廐少別也。問。失馬給訪求限以不。答。不合。事既急速。先立替後訪求耳。若後獲者。本馬立耳。穴云。問。依下條。每馬各令中中戶養。有闕失者。即以驛稻市替者。依彼文。非理死失者。可徵驛戶。何故。此文稱徵前人由。答。事由前人者徵前人。因驛戶者徵驛戶耳。或云。先徵前人。後徵驛戶。其理尚一也。問。徵備期限何。答。驛傳馬未備機急。故當時即徵備。不合有日限也。並徵前人。若緣邊之處。被蕃賊抄掠。釋云。强取曰抄。音初教反。劫奪曰掠。音力讓反也。朱云。被蕃賊抄掠者。未知。被强盜並水火漂燒何免不。答。額云。强盜可免者。私然也。而依何文可證乎何。非力制者。不用此令。

置驛馬條

凡諸道置驛馬。大路謂山陽道。其大宰以去即爲小(山)路也。釋及古記並無別也。廿疋。中路謂東海東山道。其自外皆爲小路也。釋及古記並無別也。十疋。小路五疋。朱云。大中小路。可有別式者。額云。然也。但以就國員可定大小者也。使稀之處。國司量置。不必須足。朱云。只爲小路者。釋心亦然也。而何。皆取筋骨强壯者充。釋云。筋肉之力也。音舉欣反。每馬各

令中中戸養飼。古記云。毎馬中戸各一疋。下戸不合令也。朱云。毎馬各令中中養飼者。未知。此何人戸。各驛戸歟。又一戸内人。皆悉依養馬一疋徭役不。答。額云。然。凡一戸令養一匹。然則戸雖大路廿戸。可除即知耳。若馬有闕失者。即以驛稻謂驛田之收穫也。跡云。問。上條云馬欠闕者徵前人。與此條。云馬有闕失者。市替別何。答。上條非理死失之也。此條只理死也。驛稻驛田之稻。只此稻充驛使食及市代馬耳。穴云。問。除死耗哉。答。除牧馬之外。無除耗之法也。依文徵填也。馬有闕失者。即以驛稻市替。謂爲無官馬時生文也。私案。雖有官馬。以驛稻市替耳。何者下條云。少驛馬者驛稻。此則雖多馬。以驛稻市論故也。然則此文以官馬。謂初置驛傳事耳。一置之後。毎有闕失皆有也。驛稻官物買物貿代故。市替。其傳馬毎郡各五。釋云。小路使稀之處。不必須足也。古記無別也。跡云。傳馬無使之道者置耳。穴云。傳馬五。若不足以私馬供也。或云。問。於驛馬求其贊笠可備。有明文。於傳馬已無此事何。答。在穴記。皆用官馬。謂以軍團馬充之也。其驛馬亦同也。釋云。牧馬堪乘用者。先充傳馬。所餘爲兵馬耳。古記云。問。傳馬皆用官馬。未知。何處在馬。答。牧馬堪乘用。付軍團令養。是除充傳馬以外。名爲兵馬。其小路國有官馬者。用官馬充。若無者。以驛稻買充也。一云。諸國有官馬者。先以官馬充。若大中路。不得以官馬充者。小路亦同也。跡云。大中小路。路別驛傳馬。皆用官馬是。朱云。額同。穴云。皆謂驛傳並用官馬也。若無者。以當處官物市充。通取家富兼丁謂凡驛徭役也。戸。故不必取家富。至於傳戸。唯免徭役。故必取富者也。釋云。通取家富兼丁者。戸內免雜徭故。必取家富。古記云。通取家富兼丁者令養。謂戸內免雜徭也。問。傳馬養人取富。驛戸不稱富。未知。若爲其別。答。驛戸免雜徭役故。不必取富。傳戸不免雜徭。故必取家富也。朱云。通取家富兼丁者付令養者。未知。此稱家。與上文稱戸何別。又此付人家。又五疋馬皆令一家養不。又通云云何。答。額云。通字者通富家稱耳者何

又云。家別可令養一疋。又其家雜徭皆免耳。問。戶與家別何。若戶口家富何。跡云。問。上條云。徵前人。此條云。令中中戶養。又付兼丁人令養。未知。馬有死失者徵法何。答。何所由人令償耳。**者付之。令養以供迎送。**謂國司向任。及罪人令乘官馬者。皆乘傳馬之類。

水驛條
凡水驛不配馬處。量閑繁。驛別置船四隻以下。二隻以上。釋云。二枚曰隻也。**隨船配丁。**謂船有大小。故隨船配人。令應堪行。若應水陸兼送者。亦船馬並置之。釋云。隨船大小取堪艤棹耳。古記云。隨船配丁。謂無多少限臨船量耳。問。文稱配丁。未知。名驛戶以不。答。文稱驛長。則明。名爲丁。免徭役也。跡云。假令。卅里之內。有津渡者。船馬並令置驛長。猶一人在耳。又雖有船。而馬數不令減也。**驛長准陸路置。**

乘驛條
凡乘驛及傳馬。應至前所替換者。並不得騰過。謂騰亦過。釋云。騰亦也。古記云。騰杜登反。楚辭曰。月(日)騰光此云。王逸曰。騰馳也。又曰。騰衆車以使徑待(侍)。王逸曰。騰過也。雜騰奔也。過謂過也。一云。騰馳超越也。**其無馬之處。不用此令。**謂雖是無馬處。唯得過一驛。古記云。其無馬之處。不用此令。謂因致死不徵。若私馬致死者。官爲酬替。爲過非理故。於私馬不求。以非案不。跡云。問。無馬者。猶乘一馬行數驛乎。答。馬行程日七十里。不合過此法。問。甲國馬「猶」得乘乙國否。答。依文不禁。穴云。無馬處不用此令。謂假無馬者。五六驛騰過無妨。或云。不過七十里者。爲非也。*故律云。經驛不換者。笞卅。無馬者不坐。因而致死不償。案之。此律過一(由)驛之口事耳。問。下條云。不足者。即以私馬充。兩條何會作。答。此條專無私馬處耳。下以私馬充故也。朱云。其無馬之處。不用此令者。未知。稱無馬者。一端何。又不設馬驛長罪何。即使決不。答。額云。無馬者專無。

〔故律云經驛不換者笞卅無馬者不坐〕職制律、乘驛馬輒枉道條の文なり。

〔凡人故殺官畜產、竊盜兩
疑[illegible]是者不徵〕廐
庫律に「凡故殺官私馬

並先使（兵乏）、並同無別也」。又急事、不急事、並同、無別者。未知。若可隨事也〈色〉乎何。

軍團官馬條

凡軍團官馬。本主欲於鄕里側近十里內。調習聽。謂本主者養馬之兵士也。若於十里外。以理致死者。雖科違令。不在徵限也。釋云。本主養馬兵士也。若乘十里外致死者。非理死者合徵。無疑以理死者。雖科違令之罪不徵也。古記云。軍團官馬。謂付團令養牧馬也。本主謂令養兵士是也。鄕里側近。謂本主兵士家邊近也。若十里外乘馳殺者。爲非理徵。唯不因馳逐行死者不徵。違令科之。一云。不限十里內外。非理者皆徵。以理者不徵。唯騰過條。爲事急要皆爲非理耳。跡云。十里內謂從家十里內也。非理之死。不論十里內外皆同也。在十里外以理死者。合違令之罪。朱云。欲於鄕里側近十里內調習聽。〔謂習者聽〕者。未知。私任調習乎。爲當。請大毅等所聽歟。答。額不明決云。私任聽情歟者何。穴云。十里外調習者。科違令罪。若致死者。求理非論。假雖十里外以理死者不備〔替〕耳。令釋其見也。不依跡云云。**在家非理死失**謂案唐令。因公事死失者。官爲立替。在家死失。卅（廿）日內備替。則知。非公事者。皆爲在家。若因公事。非理死失者。依下條徵倍〔備〕之法也。跡云。非理死失者備替。謂走臥死之類科不應爲罪。穴云。備替也。朱云。在家非理死失者。六十日內備替。未知。科罪不。稱在家十里內同不。又在家非理死失何。若擧輕包重義歟。答云。在家者十里內同。又非在家。非理死失。徵。無疑也。令釋同也。」但〕罪事未明何。令釋同也。**者。六十日內備替。即身死。家貧不堪備者。**謂雖即身死。而堪備仍徵。此唯爲當條立制。餘物不得引爲比類也。釋云。身死家貧不堪備者。雖云身死堪備者非也。古記云。即身死不堪備者。謂凡身死者。雖家資有堪備不徵。諸條官物負死人皆放此。唯出擧物者非。然依別格亦免之。跡云。凡此條殺故傷者。雖身死而堪備者合徵。又雖走臥死。而皆放此餘。問。凡人故殺畜產。或竊盜

牛者徒一年。」とあり。これ故殺畜産の罪なり。賊盜律に「凡盜二官私馬牛一而殺者徒二年半。」とあり。これ畜産を盜んで殺す罪なり。「配流死者不レ徵」は、名例律、以贓入罪條の文なり。

而殺等配流。死時者不徵。令此條雖身死。猶合備償之義何。答。此條如己馬而乘馳故。雖身死令償。律據殺他人畜産耳。朱云。身死家貧。不堪備者。不用此令者。未知。依名例云。身死及配流不徵者。於此令何不云配流。答。額云。於馬牛猶遣律例耳。而其理大。難者何。**不用此令。**

驛傳馬條

凡驛傳馬。每年國司檢簡。其有大老病 謂大老大病。不任乘用也。釋云。大老病。如言大老大病耳。並謂不任乘用者。古記云。有大老病。謂大老並病也。 **不堪乘用者。隨便貨賣。** 謂於貨物轉賣。跡云。貨賣。謂財兩賣心耳。 **得直若少。驛馬添驛稻。** 古記云。得直若少。謂以上大老直不得買。買强壯故更加直也。 **傳馬以官物市替。** 釋云。官物郡稻也。

公使乘驛條

凡公使須乘驛及傳馬。若不足者。即以私馬充。 朱云。未知。稱不足一端何。答。私案可云耳。 **其私馬。因公使致死者。官爲酬替。** 謂雖則以理。及非理死。皆官酬替。但非理死者。官先爲酬。後更依下條徵備。案下條。非理死失。即知。非理致失者。亦令酬替。其有傷損不任乘用者。亦須酬替。釋云。雖以理死。官猶酬堪塡(損)耳。何者下條云。因公事乘官私馬牛。以理致死。證見分明者。並免徵者。非理死失者徵之。彼爲乘人立文。縱使理死不酬者。足(是カ)見下條。何煩酬替耶。充雜徭雖乘亦同。其非理致死。依下條乘人酬之。此條以理非理皆酬者。先以官馬酬替。然後官徵使人耳。文稱致死。即知。損(知)者不酬。古記云。其私馬因公使致死。謂以理非理並同。充雜徭雖乘亦酬。何者和與功直借得乘往。非理致死。亦合償故也。官爲酬替。謂以馬爲報償。直不給也。問。下條。因公事乘官私馬牛。以理致死。證見分明者並免徵者。非理死失

者徵之。然則乘用之人。専合備償。何更官爲酬替。答。以官馬先爲酬替。然後案乘用人徵之。又上條。乘驛及傳馬。應至前所替換者。並不得騰過。其無馬之處。不用此令。案有馬騰過致死者。使人徵。無馬騰過致死者。使人不徵。此則官令酬給也。無馬騰過。名爲非理故也。問。甲騰過有馬充公事。乙有馬從之。非理非死損若爲科斷。答。甲以私馬遣案公使乙充馬去遣。公使向路之間至死者。使人徵之。若使人至前所。乙將馬至還至死者。乙徵之。唯至損並不徵。爲文稱因公使致死者。不言損害故。穴云。因公使致死。謂不論理非。官爲酬替。々々々。謂准唯不畜替耳。非酬直也。問。依律無馬騰過者。無罪。仍致死不坐。未知。因此致死贓。爲當。病腹死皆同贓。答。縱腹病死。皆爲因公使致死耳。爲於官所不堪醫療故也。律云。案給功直和借者。以理死者不酬替。名例平贓條。唐令「答」云。役使所監臨。以理不備償。案之因公事致死何備償乎。爲轄。私案。唐令「答」爲非。何者此條不論理酬非替。況私役使監臨既違法故。依此條亦爲酬替。朱云。額云。此文一端死者。量心損亦可給填者。私然也。但違釋何也。

乘傳馬條

凡官人乘傳馬出使者。所至之處。古記云。所至處謂至馬替之處也。或云。所至之處。每郡供之也。在釋。**皆用官物。准位供給。**謂官稱其物者。郡稱其驛使者。用驛稱也。隨位高下。有從人多少。故云准位供給。但供給多少。依式處分也。釋云。准位供給。依位有從人數。故云依位供給多少待式處分。古記云。准位供給。謂依別式耳。跡云。准位謂依匙數而供給。皆有增減匙者。依所增減合供之。朱云。每三驛給者。以驛稍給耳。**其驛使者。每三驛給。**釋云。依格。夜止宿之處亦給。可求其格也。古記云。每三驛給。謂依別格夜止宿之處亦給。朱云。每三驛給。謂假第三驛給。又第六驛給耳賊。答。額云。然也。**若山險闊遠之處。每驛供之。**古記云。山險闊遠之處。謂是權山雅日由等是。朱云。險闊遠謂二事不相須者。未明。

依格夜止宿之處亦給可求其格也」下に引ける古記の文にも「謂依別格夜止宿之處亦給。」とあり。されどそ

の別格なるもの、何年何月の格なるや、令釋の時代に既に不明なりしなり。是れその格を搜し求むべしと云へる所以なり。

〔其在京者 先申官下贓贖司也〕職員令、贓贖司の條には、闌遺物の事見えたり。

〔雜物亦同竝給獄囚衣食料〕獄令に「凡獄囚應レ給二衣粮薦席醫藥一、及修二理獄舍一之類。皆以二贓贖等物一充。」とありて、その義解に「闌遺之物、亦可レ充レ用。」とあり。

國郡條

凡國郡所得闌畜。謂闌與闌同。闌妄也。言無主繫養。妄以放逸也。釋云。郡所得當界內訪主。無者送國。國仰諸郡。訪主。故云國郡所得耳。闌放逸也。音落干反。或作闌字。古記云。皆仰當界內訪主。謂郡所得者送國。國仰「郡」別令訪主也。跡云。國郡所得。謂郡〔所〕得闌畜進國。國仰郡里訪主耳。朱云。額云。郡所得闌畜。則可進國也。郡不可訪主者。私未明。又達釋。仰當界內訪主者。未知。訪主體何。答。穴云。當界謂國及郡是。假於郡訪主。經一季無識認者送國。於國又經一季耳。或云。讀。答。郡界內訪主無者。申國充傳馬。及賣國吏不令訪諸郡。記在穴 **皆仰當界內訪主。若經一季。無主識認者。先充傳馬。**跡云。一季。謂計六箇月爲二季也。穴云。問。得牛亦賣充馬哉。答。此文爲馬。其於牛得價入官耳。**若有餘者出賣。得價入官。**謂國郡所得闌畜。各經一季。無主識認。皆出賣。得價充當所囚徒衣粮。即餘財物亦准此法。＊其在京者。先申官。下贓贖司也。釋云。得價入官。成當處官物。＊雜物亦同。竝給獄囚衣食料。在京先申官。承官處分送刑部省。省召贓贖司給。古記云。得價入官。謂當處官物成也。在京者准上。謂訪主若經二季無主者出賣。故云准上也。送贓贖司。謂申官處分。送刑部省。省召贓贖司給。跡云。送贓贖司。謂申官。官下省耳。**其在京。經一季無主識認者。出賣。得價送贓贖司。後有主識認「者」。**謂物實見在而識認者。其馬牛已死。及餘物無實者。不得仍復認訪之。釋云。後有主識認本物。見在對於物實識認。是爲識認故。捕亡令云。得闌遺物。無主認者沒官。沒入之後。物猶見在。主來識認者還之。即知。其物不見在者。不得認覓。其馬牛以死爲期故。本馬見在得認覓。若死失者不可爲見在也。識知也。認釋見戸令也。**勘當知實。還其本價。**釋云。馬還本主。價還買人。或說馬給買人。價還馬主者非。古記云。還其本價。謂馬者本主

讚律義云、五日內未送官者科違令者」雜律に「凡得闌遺物。滿五日不送官者。各以亡失罪論」とある條の釋義ならむ。

給。借者買馬人已。但馬無者。借馬主給也。跡云。須其本價。謂畜給本主。而買畜之人。給須本價。但畜死失以後。本主認來者。不合須其本價。何者無物實而何得稱認有。朱云。須其本畜。死失以後。本主認來者。不合須其本價。何者無物實而何得稱認有。朱云。須其本價者。未知。若本價用盡無。何還官物哉答。私案可然也。額云。還本價者一蹋所云耳。充傳馬亦還給耳。或云。釋的當知實還其本價。馬得本主。價還買人。或說。馬給買人。價得馬主者非。常畜等。依文只得本價不得畜者。在穴記

闌遺物條

凡闌遺之物。五日內申所司。謂此稱闌遺之物者。廣據畜產及財物等。皆是五日之內送所司。即六日以外者。既過送限。違令及坐贓。從重科之也。釋云。所司京職及國司也。此條稱闌遺物者。廣及財物。何者唐廄牧令。及捕亡令。並無送司日限故。雜律義云。五日內未送官者。科違令者。即知。唐令意。得即送所司。不得經日。此間令。立闌遺之物。五日內申所司之文。即知。非獨爲闌畜。然則闌畜及財物。五日內者不可坐。滿五日後。乃以失亡乃坐贓論耳。或說屬意雜畜。何者闌遺財物送司之法。見捕亡令。故者非也。古記云。五日內申所司。謂送物日限並耳也。跡云。五日內申所司。謂財物畜產等送司之法。廣約此條。朱云。額同也。私案。此令所司者。京職國司也。捕亡令。送隨近官司者何。若於畜產者。依此令送京職國司也。於自餘財物者。依捕亡令。送隨近官司耳歟。何也。但爲取申官司日限約此條耳歟何。或說此爲畜產者非也。穴云。物謂廣馬牛雜物皆約。捕亡律。爲云入官所司生文也。朱云。額云。上條五日者。二日之外者。私然也。闌遺之物。五日內申所司。未知。明知其主何。額云。於知其主者。得人私可告遺彼主許。不可申官司也。又難申官不可受也。反還耳。若有妨賊可疑者。得物狀申知所司耳者何。

其贓畜事未分決。謂六贓馬牛等。應入之人。未分決者。即付京職養。充雜徭。若應入之人分明者。令其養之。釋云。簿斂並盜者。是謂贓畜也。充雜徭合養送京職。古記云。其贓雜畜。謂簿斂並盜贓之雜畜也。闌遺之雜畜者非。從其以下

事別進也。分決(配)。謂刑部分決也。付京職謂飼不便故付令養也。跡云。付京職謂在官司未定。本主之畜付京職充雜徭令養飼。在京者付京職。斷定之日。釋云。謂刑部斷定也。古記無別也。若合沒官出賣。謂出賣得價。納贓贖司也。釋云。合沒官。謂盜賊無主合入官也。古記無別也。在外者准前條。謂先充傳馬之類。釋云。在外准前條。謂先充傳馬。餘者出賣。古記云。准前條謂如闌遺之畜之類也。

官私馬牛條
凡官私馬牛帳。每年附朝集使。謂文云附朝集使。即知。京內馬牛不在此限也。釋云。京人馬牛不入此限。何者下文云附朝集使故也。送太政官。謂白太政官。更下兵部。即兵馬司職掌。云公私馬牛是。釋云。送太政官。官給兵部。古記無別也。

官馬牛條
凡官馬牛死者。朱云。未知。驛傳馬竝馬粲皆同哉。若只牧馬牛歟何。私尋情。官馬牛皆廣約耳歟。何也。各收皮腦角膽。謂腦者馬腦也。膽者牛膽也。此皆置所在。依處分用之也。釋云。收皮腦角膽。收置所在待處分耳。腦馬頭中髓也。音奴浩反。膽音都敢反。古記云。膽都敢反。莊子。見其肝膽。白虎通。膽者肝之府也。若得牛黃者別進。謂不待處分。隨得即進。故云別進。釋無別也。古記云。問。若得牛黃者別進。未知其別。答。皮腦角此等收集。至調時共進。又得充國內雜用。但牛黃一色。隨得即進上。不得遲廻。故云別進之也。

因公事條
凡因公事。乘官私馬牛。以理致死。證見分明者。竝免徵。朱云。證見分明。謂二

〔用證人色依律可習耳〕斷獄律に「其於レ律得ニ相容隠一、即八十以上。十歳以下、篤疾者、皆不レ得レ令レ爲レ證」とあるを指すなり。

〔此令文稱皮不言宍〕これ古記のみなり。故に此令文は、即ち大寶令なり。養老令には皮宍とあれど、大寶令には其皮とのみありて、宍の字なかりしことを知るべし。

事也。然則雖無證見。只理死之狀分明免徵者。未明。後反云。案文體證見分同一事。額同。但用證人色。依律可習耳。然從者不用證人者。未知。「遺」頁說何。但雖無證見。明知。理死可免耳。 **其皮宍。所在官司出賣。送價納本司**。謂雖是私畜。其皮宍皆納官司。官只本畜酬替故。釋云。私馬牛致死。送價納本司者。上條公使乘私馬牛致死者。不辭理非。酬其替馬故。送納元所乘使之驛。跡云。皮宍所在官司出賣。謂甲郡畜在乙郡致死者。不論官稍私畜。皆出賣納甲郡司。朱云。則驛馬直者。納本驛也。自餘馬直者。可納甲郡者也。但私畜依上條。不求以理非理。皆報給耳。穴云。私馬皮宍亦官出賣也。只令馬酬替故也。朱云。其皮宍所在官司出賣。送價納本司者。未知。甲國馬死者。乙國即賣。送納甲國驛意歟。或云。穴云死。問。所「在」官「司」即稱本司者。何必本驛歟。若本國歟。答。上「釋廐ヵ」了。古記云。送價納本司。謂隨使「便」應將還者。將返耳。不出賣送皮。納本司。亦得。問。案廐庫律。官私馬牛殺者。出賣皮宍計所減價。此令文稱皮不言宍。若爲處分。依律計所減價科罪故。細求所遣。此條不罪故。不求宍。但專賣者送專價取。皮賣者送皮直耳之也。 **若非理死失者徵陪**。釋云。非理致死者。徵使人故。使人得其皮肉耳。穴云。非理死失者徵陪。謂雜律受寄財物條疏云。准廐牧令償減價也。私案。徵陪減價耳。故居陪之字。可行七十里。即行八十里爲非理。唐令。答。一答。課令附也。朱云。若非理死失者徵陪。謂折免皮宍分者。違釋心。後皮云。皮宍可與使人者。令釋同也。凡皮宍人之不用處何。若不賣不。於役傷時事大所疑。答。

官畜條

凡官畜。在道羸病。不堪前進者。謂官馬牛上京。及向軍所。在道羸病之類也。釋云。羸瘦也。病也。皆力竭也。假如。官馬上京向軍。在道瘦病之類。古記云。羸力竭反。字書。羸瘦也。跡云。官畜謂假令。馬察傷用軍所而下道之類。 **留付隨近國郡。養飼療救。草及藥**

官給。差日。遣專使。送還所司。謂不更達前所。使送還本司也。釋云。所司充畜所掌之司也。朱云。差日遣專使。送還所司者。未知。何不送前所意。答。若近送遣前所耳。此文一端稱送還也。凡官可爲者。未明。其死者。充當處公用。謂上條云。送價納本司者。據驛傳馬。此文非爲驛傳。故云。「死者」充當處公用。釋云。上條送價納本司者。此驛馬也。此條不在驛傳馬故。充當處公用。古記云。問。上條送價納本司。此條充當處公用。若爲分別。答。上條頓乘殺者。此條羸病死者。一云。上條傳驛合實替故。送納本司。下條不在傳驛馬。送達畜故當處使用也。朱云。其死者充當處公用者。未知。死狀移所司不。答。可移送者。穴云。官畜謂先除驛傳馬之外也。何者*律枉道條疏然也。文云。死者充當處公用。故以與上條爲異。但亦效此耳。

〔律枉道條疏然也〕職制律、乗驛馬輙枉道條の疏に「謂在レ驛無レ馬。越過者無レ罪。」云々とあるを指せるならむ。

令集解卷卌八 倉庫 廐牧

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢　　員外宰相藤判

「本云」
弘長二年七月十日見合本書加首書畢(了)　　權大納言在判

建治二年七月九日引合正親町之本校合畢（了）

慶〔長〕戌仲夏初九雷雨打窓不能眠令一校者也

清原秀賢

萬治四辛丑季春中令一校畢

羽林中郎將藤原

右一冊以神村先生之本使書寫畢

明和戊子歲季冬

越智通邦印

同庚寅歲四月九日以京師本一校了

安永七年正月二十四日與河伯栗一會畢

文化十酉年六月六日校了

筒井忠英

文政三年以彰考館本比校了

撿挍保己一

〔釋云休假釋見學令〕學令、放田假條の令釋に、休假の說明ありしなるべし。

假寧

謂假者休假。即每六日。並給休假一日之類是也。寧者歸寧。即三年一給定省假是也。釋云。假暇也。寧安也。謂官人給假及歸寧令耳。跡云。假謂喪假之數。寧謂六假或依定省等。歸家安假耳。穴云。寧〔歸寧〕謂給定省假三十日。歸家寧訪父母也。寧安也。休假者約假字也。非寧義耳。

令第廿五 凡壹拾參條

給休假條

凡在京諸司。每六日。並給休假一日。謂大學典藥諸博士等類亦准此。其休假日假等。若欲上者聽也。釋云。休假釋見學令。其大學典藥等博士與學生同。但官人雖假日。而必有宿直人耳。古記云。問。在京諸司。每六日。並給休假一日。未知。大學寮官人同不。答。亦同。但學生者當直官人爲指(檢)點耳。其諸儒與學生同。每六日並給休假一日。謂欲仕者亦聽也。跡云。休假一日。謂應司之類。正令史。代休直耳。假令。甲月長官三日。主典二日。乙月長官二日。主典三日休安之類。朱云。貞云。不見。宜可爲者。然則頻長官宿直。主典宿直。各互可得假日者。額云。可爲宜。不可必頻者。大學博士等具放學生給假。不依諸司之例。各互可得假日者。額云。可爲宜。不可必頻者。何者博士給八月十五日假者。誰人教生。又學生退授衣假之間。縱有博士行何事。朱云。放案若有不請假學生等何。額專不同也。朱云。在京諸司者。未知。主典以上歟。若史生使部等皆同不。答。主典以上耳。史生以下上番十五日內不給假日。又家司等不可給假日者。未明。額同也。又假日爲宿直人。後追給假日分不。答。不可給者。額同。先云。史生等皆每六日不給假者。貞不同。私案。若可云給番上人者。於舍人等何。額亦同貞說也。穴云。家令等不在諸司之例。不給假也。

中務宮内。供

〔要劇諸司〕劇務の官司を云ふ。晝夜官司に上る必要ある宮內及び供奉の諸司を云ふなり。これら要劇の官司に賜はる特別の俸料を要劇料と云ふなり。

奉諸司。釋云。中務宮內并省名也。問。供奉諸事有數(諸)說。就釐云習之也。供奉諸司廣包要劇諸司。假如。古中務宮內及供奉諸司耳。古記云。中務宮內供奉諸司。謂中務宮內並所管諸寮司是。穴云。內舍人以下典鑰監物等。諸品官皆約中務。問。少納言何。答。亦給五日假耳。供奉謂卽二省內諸司。跡云。供奉謂職掌有供奉字之諸司是也。朱云。貞云。供奉諸司臨時可定也。不必求供奉字。

及五衞府。別給假五日。 謂兵庫馬寮。亦同五衞例也。凡諸司休假。六日一給。至於五衞。不依此法。一度摠給五日。故云別給也。釋云。五衞府別給假五日。兵庫馬寮亦此(比)五衞府近衞中衞亦同。別給謂一度摠給五日也。古記云。五衞府謂衞門府左右衞士府左右兵衞府是。兵庫馬寮之類亦同。依格。中衞府准兵衞府也。別給假五日。謂一度合給五日也。跡云。兵庫馬寮量心合放衞府也。朱云。額同。此條五日十五日假不奏。朱云。依下條一說心何。不奏心何。但可出幾外可奏。凡給假日等。不合入考祿之日。朱云。額同。朱云。別給假五日者。未知。若給日見不。亦作幾番可給。若下文分爲兩番者約乎。答。不見。宜可爲者。但爲兩番者品。爲田假者。私案。始假日已代可得五日耳。額云。不見宜可爲也。釋云。稱摠一度給五日、不妥者。私案。條意一人摠給五日之心也。不在官人摠給之義。宜求耳。穴云。公式令、爲武官之諸司。皆同衞府給五日也。問。五日假是畢每六日給之。假所給。未知。依儀制令奉辭哉。答。彼條假爲奉給生文也。或云。供奉諸司及五衞府。不依百官之例給。而別給五日。何者依常假給者。須闕供奉之事。故分番乎。給五日假。在釋背。

不依百官之例。五月八月給田假。分爲兩番。各十五日。 釋云。總爲此條生文。非唯供奉諸司衞府耳。古記云。五月八月給田假。分爲兩番。各十五日。諸司以下衞府以上並同也。穴云。田假尚給往還程也。朱云。五月八月給田假者。未知。此亦史生使部等皆同不。答。不可給者。額同也。可同諸司以上云。可同諸司。於大學博士等。八月不給田假者。若然五月內盡給田假。爲同學生故者。又九月爲假月乎。又自餘定學生教授醫針暦天文數[illegible]師等類何。依大

學博士。若依諸司例。答。別記注了。額不同。別記注了。額云。凡雖遠國人。於田假不可給行程者。又女官不入此條也。職員令有文故者。未知。而於田假何。**其風土異宜。種收不等。通隨便給。**謂養物成功曰風。生生萬物曰土。其土宜不同。各有早晩。若依一法。恐有廢功。故量事通給。假有郷土四月播殖。七月收斂者。通給四月七月之類「也」。釋云。風土異宜。養物成功曰風。生生萬物曰土。通隨便給。*假有郷法。四月播殖七月收斂者。通五月八月給四月七月耳。古記云。其郷土異宜。種收不等。通隨便給。謂添下郡平群郡等四月種。七月收。葛上葛下内等郡五月六月種。八月九月收之類是。**外官不在此限。**謂此條皆據在京。故云不在此限。

定省假條

凡文武官長上者。父母在畿外。三年一給定省假謂定省者。孝子事親。昏定晨省是。既云文武官長上者。即番上不在給例。其官人田衣假内。可得還親(家)者。更不給定省假。故下文云。若已經還家者。計還後年給也。釋云。父母在畿外。雖外國田假内得往還者。不合給定省假。下文已還家者。計還後年給故也。定省。依禮孝子事親。昏定晨省。省音息井反。古記云。父母在畿外。謂近江伊賀紀伊猶爲畿外耳。但田假内得往還者。更不給定省假。謂對見父母也。曲禮上曰。凡爲人子之禮。昏定而晨省。鄭玄曰。定安其牀衽也。省問其安否何如也。跡云。在畿外謂父母雖在畿外。而田假之内。歸家之人者不給。又雖番上人而下番。番之内不歸家而絶省者。相准合給也。朱云。額不同也。依文。不可給者何。朱云。三年一給者。毎三年一給耳。額云。此條稱年者。不可計月日也。與歳同者。此條女官同者何。**卅日。除程。**釋云。除往還程外給卅日耳。古記云。除程謂卅日以外別如路給也。**若已經還家者。計還後年給。**謂假有官人。因縁公使。便得經往過者。還家之後。更待三年。而始給假之類。釋云。已經還家者。謂因公使經還家耳。計還後年給。

〔謂添下郡平群郡等四月種七月收葛上葛下郡五月六月種八月九月收之類是〕添下、平群、葛上、葛下皆大和國の郡なり。古記は奈良に都のありし天平年間に成れる書なれば、都附近の農作の慣行を擧げて說明せるなり。

〔經還家謂經驛不足枉道五里者便合定省但五里以上不得枉道問父母耳〕これ職制律に「凡[illegible]歸[illegible]權任[illegible]者、[illegible]一日笞五十、[illegible]加一等」云々とある條文の反對解釋なり。

〔嫡孫承祖父母同〕これ名例律の文なり。

〔開元令云〕古記に引かるるを見れば、これ開

假卯。元年還者。至四年給耳。古記云。若已經還家者。謂因公使便得枉入之類。假令。山陽道人遣使筑紫國。便路次相見。計得後年給。除相見年。從明年始滿三年乃給也。跡云。*經還家謂經驛不足枉道五里者。便合定省。但五里以上。不得枉道問父母耳。

職事官條

凡職事官。遭父母喪。並解官。謂選敍令。職事官。患經百二十日。及緣親病(患)。假滿二百日者並解官。其番官者。本司判解。准此言之。分番遭父母及餘親喪者。解官并給假。並皆同職事。其養子於本生亦解官也。釋云。職事官遭父母喪並解官。專職事非事。朗番上此怪。解官無疑。或說番官不解者非。何者選敍令云。職事官患經百廿日。及緣親病(患)假滿二百日者解官。其番官者本司判解者。即知緣親病假滿二百日解官。遭喪豈不解乎。但唐令。諸軍校尉以下。衛士防人以上。及親勳翊衛備身給假不解官。師說云。其郡司亦同職事。准復任耳。跡云。番上人遭父母喪者。合解官。何者依親病假滿二百日時者解官。令(今)遭喪而居二百六十日。豈不可解哉。但祖父母以下。依文給五月三月之類耳。凡父母喪以十三月爲限。然五月以下服計日合給也。養父母謂若遭本生父母喪者。合解官也。朱云。於父母者。雖番上人可解官。但於祖父母以下者。可給本服。不依此條者。未明。或云。自(息)忠云。皆依此條可給假者。未知何。額不明決。凡於親服。僧尼無別者。額不同。而私不知何。又云。皇太子。可服本服者。額云。*嫡孫承祖與父母同者。未明。亦遂一卷私記何。穴云。解官先言職事。番上亦同解官。及給假也。一云。但於祖父母等。給服之說無離。承前博士因此勘耳。其不解官者。依律職事官徒一年。權任不解。從杖罪。朱云。會杖罪耳。南云。古記云。喪爲父母並解官。自餘皆給假。謂長上分番並同。何者詐稱云。凡父母死應解官。詐言餘喪不解者。徒二年。若詐稱祖父母父母死以求假。及有所避者。徒三年半。開元令云。諸喪。斬衰三年。齊衰三年。齊衰杖(杖、非)爲人後者。爲其父母並解官。勳官不解。申其心喪。又條云。諸軍校尉以下。衛士防人以上。及親勳翊衛備身假給一百日。父卒母嫁。及出妻之子。爲父後者。雖

元前令の假寧令の文なるべし。

〔稱祖父母者曾高並同者〕名例律に「凡稱二父母及祖父母一者。曾高同。」とあり。

不服。亦中心喪。其繼母改嫁。及父爲長子。夫爲妻並不解官。假同齊衰。其所養所生者。喪葬令服紀條具說訖也。但帳內資人還上本主也。其郡司亦同職事。唯復任耳。若公使遭父母喪。經九月以上。餘喪日不至解官之限。欲仕者聽之。或欲追服者亦聽之。一云。此謂公使奉勅使是。以外不令(合カ)哀所聞心(止)留故也。解官之限。謂依病條。以百廿日以上爲限也。

自餘謂非重喪者。**皆給假。夫及祖父母。**朱云。此文。稱夫則知此條。男官女官無別並同。問。稱*祖父母者曾高並同者。未知。依下服紀條。於高祖。未明。凡任此文。皆依三月一日服可給廿日十日假哉何。額云。此文任者。然。

養父母。外祖父母。(五月服)卅日。三月服二十日。一月服十日。七日服三日。

天服殤條

凡無服之殤。謂未成人死曰殤也。釋云。未成人死曰殤。音式亮反。依禮。不滿八歲以下。皆爲無服之殤是。古記云。殤謂七歲以下死。謂之殤也。**生三月至七歲。**朱云。生三月至七歲者。然則生三月內死者。專不可給假者。問。假。今年十一月生人者。來年正月初可名無服殤。未知。於(猶)計七歲何。猶始見生年可計耳歟。而案文難何。**本服三月。**謂其於五月以上服親。「無」無服之殤。故唯云本服三月。若不帶官人。遭此喪者。准假日數。心喪居憂。但文云無服。故不可著服。釋云。本服三月五月以上服親。「無」無服之殤。故云本服三月也。此條。分番長上無別。古記云。本服三月。謂五月以上服親尤无服之殤。故稱伯叔以下耳。此條分番長上。不令(合)得作別也。跡云。師條改葬舉哀條。長上番上皆同。朱云。額同。但舉哀假減半之法。從五月三月一月等上減半耳。朱云。此說未明。私心亦可疑何而。此說於番上人可所說何。穴云。庶人亦放此法服耳。不依先云也。問。此文本意爲服歟。爲當。爲殯斂歟。答。案律義知耳。但爲服生文故。庶人亦依此法服耳。額云。此文無服之殤者。然則

「唯按摩博士合入師之例」爲有余穀法故」官位令に按摩師の相當官位は從八位上相當と見えたり。

露結髮耳。更不可著服衣。又於凡人。不可服。但心喪耳者。私釋何。問。此條假。及經受業條假等。於事哀亦更減半耳歟何。在跡記背。朱云。問。凡於令可著服人。年多少可有否何。私案。依名例律。十六以下十一以上。犯流罪以下可收贖。然則十歲以下者。雖不服可無罪哉何。額云。然也。十歲以下雖著服及不著。竝不可責。但可著年限。不問見者。私案。反報始八歲可著之。何者名例律云。九十以上七歲以下。雖有死罪不加刑。即有人教令。坐其教令者。然則八歲以上雖不著服。於父母爲無罪乎何。

給假三日。一月服二日。七日服一日。

師經受業條

凡師經受業

謂師博士也。依律。已成業者是也。私學亦同。釋云。先經爲學生者。不限業之成不者非。何者名例律云。已成業者。雖先去學亦（竝）同見受業師之例故。其私學者亦同。師謂凡在文書學者是。問。私學亦須成業始入此條歟。答。私學然也。問。請試未及第之間。不爲成業歟。若律所謂見受業師者是歟。問。或云。成業者不必受試。縱依所受之才出仕之徒爲成業。一歸。縱雖不第量堪擬補者。擬補博士者。古記云。師經受業。謂大學國學是。在文書學者是。唯按摩博士合入師之例。爲有余穀法故。一云。見受業亦同。學經問事之義也。跡云。經受業謂先已成業。但令見受業者。不求業成不之限。皆三日耳。朱云。此條長上番上。凡學生等皆同無別者。此於師爲服條耳。未知。依名例律竝合釋偁。於教使師等。爲不可服哉何。額云。然。凡不學書者不云者。但音書笇等亦同受業師者。穴云。師謂私業亦同。問。僧尼於師與伯叔父同。未知。爲師何。答。此文爲官人生文。其僧尼等給假之法不見文。

者。喪給假三日。

改葬條

凡改葬。釋云。改移舊屍。古記曰。改葬謂墳墓崩壞改葬之類。

一年服給假廿日。五月服十日。三月服七日。一月服三日。七日服一日。朱云。改葬。假者長上番上無別者。額同也。

聞喪條

凡聞喪擧哀。其假減半。 謂假有官人遭祖父母喪。本假卅日。若在遠聞喪。所在擧哀者。減半給十五日之類也。釋無別。古記云。聞喪擧哀。謂喪者在遠遲聞。已過假期。不得往事故。其假減半耳。但三月服以上親假日未盡。須向喪所不合擧哀。並給程故。凡擧哀假並不給程也。跡云。給喪假擧哀之法。不求屍葬不之狀。依多而給。假令。一月服給十日。此人以喪後四三日聞者。給喪假七日六日以六七日等間給擧哀假五日之類。朱云。已上說。令釋問答並同。但貞不同耳。未明何。然此說於不可往所說何。額云。往於可預喪。尙可隨多給耳。而但依喪假給者可給也。依哀假給者。不可給程。其間能折耳者。又擧哀假三月以上合給程。改葬是輕尙給程故也。朱云。貞云。不可給程者。未知何。額亦同貞說。依文不可給程者何。案上條。長番無別。朱云。聞喪其假減半者。未知。於番上人猶令(合)給本服哉。若如言。此問答。減半本服上可給哉。私同問答。然未明。額亦不明決何。穴云。於番上人服月已過者。無追服日殘者。計殘給耳。不給擧哀之假。又不依先說也。假防人衞士等。聞祖父母等喪。爲服已過。於服不擾也。問。凡職事番上庶人等。過服月聞者何。答。只此耳。若有殘月者。如上解。私案。於番上然耳。不給擧哀之假。故其職事雖月已過。給擧哀之假耳。但於父母全起自聞日給一年耳。可聞(問)禮家。何者下條云。給喪假以喪日爲始。故知。於給之色。自喪日計耳。**有乘日者。入假限。** 謂假「有」本假三日減半。以所乘一日。入假限。給二日之類。釋云。無別。古記云。有乘日者入假限。謂七日假減半卽當三日半日。然猶給四日也。隨多給一種。穴云。有乘日者如先說。

給喪葬條

凡給喪葬假。三月服以上並給程。 釋云。與上除程。意同文異耳。古記云。給喪葬等假。謂喪假改葬假是也。三月服以上並給程。謂本服三月以上親是。唯喪所雖近。以喪日爲始。假日已盡者。皆給擧哀假耳。不在給程之例。朱云。問。三月服以上並給程者。雖無服殤。本服三月以上者。尙給程耳歟何。穴云。喪葬謂喪假。改葬假等也。擧哀者

*川内　河内國カ

約喪。仍亦給程。無服殤亦本服三月給程也。

給喪假條

凡給喪假。以喪日爲始。謂喪日猶死日。釋無別。古記云。以喪日爲始。謂初發喪日也。一云。以死日爲始。何者釋日待時發「喪」者。依律科罪故也。跡云。喪日謂死日也。擧哀者。以聞喪爲始。謂凡給聞喪假者。以聞時爲始。不可追計死日。其聞喪之人。應往會葬者。給喪葬假。釋云。擧哀聞喪也。謂聞喪給假者。以聞爲始。不可以死日爲始耳。假有聞喪之人。可往會給喪假。不可得會者。給擧哀假耳。跡云。應往會。給葬假。然則此說不用。若喪假與擧哀假互有輕重者。隨多給耳。古記云。以聞喪爲始。謂雖經年。猶隨聞時擧哀故。以聞時爲始給假也。跡云。凡預葬給喪假。葬訖後聞給。擧哀假。然此推理求多而給耳。朱云。額少同此說耳。朱云。給喪假以喪日爲始者。此一端爲在一所人云(生)文。然則在他所雖聞喪。而見在可預喪者。計聞喪日可給喪假也。以喪日不可爲始者。此說違令釋問答耳。又爲在一所人者。何可給程乎。難何。

官人遠任條

凡官人遠任。朱云。史生等亦可准此文。何者於父母皆同可解任故者。額云。此條遠任者。不見其限。猶家人告遣無由耳者。及公使。父母喪應解官。朱云。此文應解官者。則知。稱父母喪者。養父母不入者。無人告者。聽家人經所在官司。陳牒告追。謂官司得喪家牒。更附便使移告。若無便使者、亦差專使報告。其告追之間。已經周朞。而聞喪之時。以聞爲始。即解官終服。並皆如法也。釋云。經所在官司陳牒告追。官受家書。遣送報告耳。古記云。經所在官司告。謂川内*人任寛宗國。申川内國司。即國付便使告遣。不得差專使也。跡云。若有人服閡後聞喪者。猶解官耳。朱云。額同。若奉勅出使。謂奉特定名。及令

〔假如壹岐對馬之類見捕亡律〕唐の捕亡律に「諸在レ官無レ故亡者。一日笞五十。三日加二一等一。過二杖一百一。五日加二一等一。邊要之官加二一等一。」とあり。この條に相當する日本律の疏に、壹岐對馬之類云々の句ありしなるべし。

〔選敍令待報之間大宰遣判事以上官權攝者〕選敍令、在官身死條の注なり。

所司差遣等也。古記云。若奉勅出使。謂詔勅定名。並令所司差發。是太政官以下。遣使奉勅依奉使者非也。跡云。奉勅使任邊要人等。自親知喪者。申官令(合)聞裁。不合忘政事。但須臾之間。在所在館舉哀耳。餘使及祖父母以下。依法給舉哀假。而舉哀耳。朱云。額同。**及任居邊要** 謂居邊爲要。壹岐對馬之類。卽史生亦同也。釋云。邊要謂居邊爲要耳。※假如。壹岐對馬之類。見捕亡律。史生亦同。但郡司不同。何者國司隨闕卽擬補故。古記云。及任居邊要。謂伊伎對島陸奧出羽是。今行事主典已上不解官。一云。史生已上皆不解官。跡云。任謂郡司史生等。不在此例。但對馬國人任其國守。遭父母喪者不解官。而申官耳。穴云。任居邊要。謂國司也。於郡司爲**者。申官處分。** 謂官吏奏聞。「私(獨)案。上二家申所司々々申任所。然則差代任意故不申上耳。又文稱官人。故史生亦不申上。此間文。申官者任所ゝ申抑人(申官將又爲)異說。」跡云。申官。謂家申所司所司申官。朱云。額不明決何。朱云。若奉勅出使。及任居邊要者。申官處分者。任所官司所申耳。元承告所在官司。不可申官者。未明。而者。選敍令。與在官身死及解免。皆則言上條。細可計會何。私案。而者。依選敍令心。省判補不申官直可申省。但依此令。雖省判補。任居邊要者。猶申官耳歟。此以此文與選敍令爲別耳歟何。凡此文申官者。所在官司申官歟。爲當。任官司申官歟。此兩說何長何。問。申官處分者。雖奉勅使。尙任文官處分耳歟何。穴云。處分謂代不論定處分。但爲奉勅之使官論定奏耳。申官謂所在官司之申耳。問。若有人告者何。答。其人往告耳。任居邊要者。隨告任所申耳。問。任所言上待報之間。釐務如何。答。※選敍令。待報之間。大宰遣判事以上官權攝者。則不理務灼然。正(是)云不解官言上爲非也。「私云」。

請假條

凡請假。五衞府五位以上給三日。京官三位以上給五日。五位以上給十日。以外。 謂若應過此限者。本司不得直判。皆奏聞乃給也。釋云。請假五衞府五位以上給三日。三日以下本司判給。以外奏聞耳。不必法給三日。下文五日十日亦同。

此條與上在京諸司條、義不相涉也。以外、謂三日五日十日之外耳。古記云、請假謂上諸條、計限並臨時患故忌等假皆是。凡此條、總兼爲給諸假立例也。不可更疑。問、此條爲當給諸假立例。未知、初條、諸司每六日並給休假、日請不。答、不爲請也。以外皆爲請也。問、中務以下衞府以上、不依百官之例、別給假五日。未知、爲請以不。答、爲請入此條也。穴云、京官謂散位亦同。穴云、此文三日五日非初條假可求。」朱云、問、依初條、兵庫馬寮准左衞府。然則此條亦准左衞府。不可同京官哉。額云、然者。問、此條稱五位三位者。動位可相准哉不。額云、不可准者。

及欲出畿外奏聞。釋云、欲出畿外。謂是三日五日十日之內、欲出畿外者奏聞耳。跡云、散一位以下欲出畿外者不奏。朱云、額不同也。京官者、散位皆同故者。凡五位以上者、雖散位同長上何。但依格奏聞五位以上耳。「私案、三日五日等居京所請之依（假カ）也。欲出畿外者雖一日之假、必可奏。故注文耳。」穴云、問、出畿外者奏聞。未知、元條五衞府給五日及田假等、此出畿外若奏聞哉。答、此文給三日五日者、非元條之假。然則此文奏聞亦除元條假之外假耳。仍不奏直出耳。

其非應奏。及六位以下皆本司判給。釋云、其非應奏、上在京諸司條內給假是。古記云、其非應奏、謂上文五位以上給十日以上是也。或云、一端五位給九日假之類。他放此。六位雖給百日、而本司判給之。正與在釋皆。

應須奏者。並官申聞。謂、一省申官、官轉申聞。釋云、先經式部兵部省轉申官、官申聞耳。古記云、並者申奏。謂衞府申兵部、文官申式部、並依納言申奏。何者案名例律、須奏諸司事、須依納言故。朱云、申奏者、先申本司、本司申式兵部省、轉申官。官申聞者。未知、官申聞者、官作奏文可奏哉。若者本官只受取申聞歟何。額云、官作奏聞者。

外官聞喪條

凡外官朱云、京官等家可舉哀耳。曹司中不可舉哀者。**及使人**謂持使官使皆是也。**聞喪者。聽所在館舍安置。**

「案名例律須奏諸司事須依納言故」名例律の如何なる條文を指せるか審ならず。「凡年七十以上十六以下」の條の疏に「依上請之式。奏聽勅裁。」とあるに擬れる歟。

〔古記云近中遠國具在別式賦役令輸調條示了也〕賦役令集解、調庸物條に「古記云。問。遠近程若爲。答。依民部省式。近國十七。伊我伊勢尾張參河丹波因幡備前阿波紀伊讃岐近江三野若狹但馬播磨淡路國也。中國十四。遠江伊豆相摸信濃越中駿河甲斐飛驒越前伯耆出雲備中伊豫備後也。遠國十六。上總常陸武藏下總上野下野陸奥佐渡周防石見土左越後安藝長門隱岐筑紫國也。」とあるもの即ち之なり。

〔謂有闕官馳驛奏之類是也〕選叙令に「凡在官身死、及解免者、皆

謂假日之內。仍得居館舍。但使事速者。不必滿假限。再三擧哀。訖卽發往。釋云。安置謂聞喪使人安置館舍耳。古記云。邸舍謂國司館舍幷驛館舍等之類是也。跡云。館舍安置。謂驛使聞喪者。在館舍可擧哀耳。

不得於國郡廳內擧哀。古記云。國郡廳內。謂判〔尙〕受院(內)皆是也。

外官任訖條

凡外官任訖。給裝束假。釋云。裝裹也。治也。音側良反。朱云。外官任訖者。史生亦同者。任訖者官召了。卽可見裝束程耳。官吏不可給裝束程者。額同。近國廿日。中國卌日。遠國四十日。*古記云。近中遠國具在別式。賦役令輸調條示了也。竝除程。其假內欲赴任者聽之。若有事須早遣者。不用此令。古記云。若有事須早遣者。*謂有閤(闕カ)官馳驛奏之類是也。舊人代至亦准此。謂雖是舊人。亦准初任。給裝束假。其舊人任官。及不任官皆同。但任官者。不待收田苗。卽便赴職。釋云。舊人代至。讀文如言舊人之代至耳。古記云。舊人代至亦准此。謂還家裝束假與之任同。其任土人者非也。*依職制律。舊人有田苗者。待田收訖發遣聽之也。問。交代之間。與裝束程同否哉。朱云。答。交代了後。更可給裝束程。但代人至。卽舊人可移去館耳。不可論交代之內外者。額云。凡交代之程者。此令(今カ)行事也。依此令。不可論交代內外。代人至則可給裝束程者。未明何。若舊人見有田苗。應待收獲者。待收獲訖遣還。

即言上。且國司、大上國介以上、中國掾以上幷闕、及下國守闕者、皆驛驛申二太政官一と見えたり。

〔依職制律有人有田苗待田收訖發二喪葬之也〕職制律、之官限滿不從條の疏に「且有二田苗一者。依二令聽一待二收田訖」謂二田苗一者依レ限須レ還。」とあるに據れるなり。

〔帝皇葬因陵如陵故云陵也見名例〕唐律疏議、名例律、十惡謀大逆條に「疏云、帝王之葬、如山如陵。故曰山陵」と見えたり。之に據れば[illegible]、但し我が名例律の疏には、この文見えず。

〔見官員令別記也〕職員令集解、諸陵司の條に「古記云。別記云。常陵守及墓守、并八十四戸。倭國卅七戸、河内國卅七戸、攝國五戸、山代國五戸、伊勢國[illegible]也。」云々とあるもの即ち之なり。

喪葬令第廿六

謂喪者死屍辭也。葬者藏也。釋云。死謂喪。音息郎反。藏謂之葬。音郎宕反。跡云。死謂之喪。藏謂之葬。言死事葬事令耳。

凡壹拾漆條

先皇陵

凡先皇陵。 謂先代以來帝王山陵皆是也。帝王墳墓。如山如陵。故謂之山陵。其「皇」后。皇太子墓。在令無文。須依別式也。釋云。先皇陵先代以來帝王也。帝皇葬因陵如陵。故云陵也。見名例。古記云。陵謂墓一種。以貴賤爲別名耳。帝皇葬因陵如陵。故云陵。問。三后及太子敎之處。若爲稱。又令守以不。答。除卽位天皇以外。皆悉稱墓。又令守名爲墓守。見官員令別記也。跡云。令守。三后皇太子墓之人不見文。故有別式。朱云。額同。朱云。先皇陵者。無先皇除限皆常可置耳。額同。太上天皇陵皆同。但所充之陵戸數。可有別式。額同。**置陵戸令守。** 朱云。元名陵戸人也。不見耳者。或云。元雜戸所充耳者。未明何。**非陵戸令守者。十年一替。** 謂課役准陵戸。義倉同庶民也。釋云。課役與陵戸同。義倉與百姓同。古記云。無別。或云。非陵戸同。謂依陵戸不足而臨時充也。在釋背。**兆域内。** 謂兆亦域也。墓大夫掌郊墓之地域。爲之圖是也。釋云。兆葬地也。音治小反。域塋域也。孝經。卜其宅兆。而安措之。注云。兆謂塋域。宅謂穴措置也。古記云。其兆域謂塋域也。以籬垣溝瀆以内皆是。孝經。卜其葬地定其宅兆。兆謂塋。宅謂穴也。跡云。兆域謂置廻墓地之堺也。**不得葬埋。及耕牧樵採。** 釋云。耕耕田也。牧養畜也。音莫六反。樵樵柴也。取也。音昨焦反。採採藥(菜)也。古記云。耕牧謂已加功佃食也。牧。養馬牛。樵採謂自然所生之物盜取也。樵謂刈伐木草。採謂采取菓實之類也。朱云。兆域内不得葬埋及耕牧樵採者。他人陵戸並同。無別者。

服錫紵條

凡天皇。爲本服二等以上親喪。服錫紵。謂凡人君卽位。服絕傍朞。唯有心喪。故云本服。其三后及皇太子。不得絕傍朞。故律*除本服字也。依儀制令。子爲一等。故稱二等以上。卽外祖父母亦同。依同令。皇帝不視事與二等親同故。其天皇爲〔後〕考妣。令條無文。依式處分也。錫紵者細布。卽用淺墨染也。釋云。天皇卽位則絕服期。唯有心喪。故稱本字也。唐令。錫紵者。儀禮。喪服傳無事。其縷有事。其布曰錫。音先擊反。此令。錫紵者。錫色紵服耳。鐵黑曰錫。然則黑染淺色耳。三后皇太子。可服本服。爲除名例律本服字之故。古記云。本服謂天皇卽位則絕服。則准有心喪之時。服錫紵。退則說耳。錫紵謂黑染之色。若自不臨者不服耳。然案禮天子絕傍朞。今驗令文。本服三月以上則明。令意於父母亦絕服期也。三后亦同。何者*案名例律議親條注云。太皇太后本服七日以上親。皇后本服一月以上親故。但於皇太子者。且特合勘也。問。以文稱本服。何知絕服期也。答。若不絕服期者。文稱臨五月以上服親喪。可云本字不合稱故。絕服期可知也。跡云。天皇絕服之人故。稱本服也。穴云。太上天皇亦同也。二等親。謂下條有服紀文。則二等親皆是。其於外祖父母放二等親爲良也。問。自誰曰初服。答云。儀制不見文。但准量上令云。凡給喪假以喪日爲始。擧哀以聞喪爲始。「令云。皇帝二等以上親。及外祖父母。右大臣以上若散一位喪。皇帝不視事三日。義解云。依喪葬令。從發喪日始計至三日者。今案。下條云。發喪三日。義云。先葬一日始擧喪。乃至葬日以終。是總發葬三日者。然則先葬二日可服錫紵也。」朱云。天皇者太上天皇並同也。凡服錫紵並除白衣日限。專可依儀制令者。然則外祖父母右大臣以上并散一位等。皆依此令除白衣。可用雜色。但日限依儀制令。三日可服耳。凡此服死日卽始可服也。於此令發喪日。亦死日則可發耳。不見別文者。先云。物(惣)云。別可有發喪日。此日可服者。未明何。額亦云。別可有發喪日。此日可服。然則依下條。假發喪日三日者。未葬前二(三)日。見葬日一日耳。禮意如此者何。又四位以下。無發喪日。親等者見葬日可服者何。額云。此令本服二等以上親者。父母並同無別者。儀制令。亦然也。

爲三等以下。謂四等以上。卽五

〔律除本服字也〕名例律、六議議親條には、「謂皇親。及皇帝五等以上親。及太皇太后皇太后四等以上親。皇后三等以上親。」とあるのみにて、本服の字なし。

〔案名例律議親條注云太皇太后本服七日以上親皇后本服一月以上親故〕これ大寶名例律の文なり。右に引ける養老名例律と比較するに、古律は天皇錫紵を服する親族の範圍を忌服の輕重によりて定め、新律は等親の遠近を以て定めたり。三代實錄、貞觀十三年十月五日の條に古律として引ける條文は、卽ち右の條文と一致せり。

等之内無服親故也。依儀制令、三等親喪、皇帝不視事一日。卽四等親喪、雖得視事、而除帛之制、亦一日爲限也。穴云。三等以上、下ヵ一謂四等以上有服紀也。於四等親雖不停視事、尚除帛衣。但放三等親、一日除帛衣耳。跡云。四等五等親。此三等雖除帛衣一日。但依儀制令。於四五等親不可停視事也。朱云。額同。

及諸臣之喪　謂儀制令、皇帝不視事是也。釋無別。古記云。問。諸臣之喪有限以否。答。且可謂五位以上也。一云。案儀制令、右大臣以上、若散一位喪、皇帝不視事三日。百官三位以上喪、皇帝不視事一日。依此耳。一云。不見限。臨當時廣云耳。跡云。諸臣謂依儀制令。職事三位以上、不視事一日是也。朱云。額云。儀制令云、三位以上者。職事散官無別者。未明。遣諸說何。

除帛衣　謂白練衣。釋云。帛衣白練衣也。除帛衣故者。我朝以白色爲貴色。天皇服也。各以所好色爲貴故。詩云。有客有客。亦白其馬。殷禮以白爲貴。故云然也。古記云。問。除帛衣其意如何。答。當朝以帛色。爲貴色。天皇朝聞上品飾用之。各以己所好色爲貴故。詩云。有客有客。亦白其馬。殷禮以白爲貴故然也。穴云。帛衣猶吉之代。略意稱白衣。一條私記云也。但今可求帛字訓。

「外」通用雜色。古記云。通用雜色。謂紫蘇芳等色皆用也。朱云。問。此條天皇守上置凡字心何。可案公式令。未知何。額云云。不明決。私若爲不指說歟何。額云。若然歟者何。

京官三位條

凡京官三位以上　謂散位亦同。卽以下准此。釋云。京官三位以上。外官及散位者非。何者准令散一位以下。不得家令故。或記散官勳一等並同。古記云。問。文稱京官三位以上。未知。散位勳位及外官若爲處分。答。職事散官勳一等並同。一云。勳官且待其外官。臨時聽物耳。然從二位大伴卿任大宰帥。遭妻喪。仍遣使弔而已。跡云。此條職事是也。然散五位已上一位以下非遭親喪而身薨卒者。小聽。故令求也。朱云。穴云。凡京官者職事散位無別者。未明何。朱云。三位以上者。四品以上皆同者。未知。然者於親王亦爲職事歟何。三位以上者、無品親王(皇等)不入此條。又散位等不入此條者、未明。案下條等、此附可入乎何。

一何者准令散一位以下
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二從二位大伴卿任大
[illegible]位大伴卿[illegible]

即ち大伴旅人なるべし。公卿補任に據るに、大伴旅人は、天平三年正月七日從二位に叙せられ、同年七月廿五日に薨ぜり。その大宰帥に任ぜられたるは、神龜三年のことなり。

〔文擧妻然則夫喪亦奏弔也〕妻は即ち輕く、夫は即ち重し。妻の喪に奏弔す。況や夫の喪に於てをや。これ即ち輕きを擧げて重きを示せるものなり。

〔依名例律勳四等以上入五位例〕名例律、應議條に、「若五位及勳四等以上。犯二死罪一者上請。」とあるに據れるなり。

〔儀制令云皇帝二等以上親喪不視事三日謂除重服之外親是唐禮灼然〕大唐開元禮、卷三、序例に「皇帝本服大功以上親。及外祖父母。皇后父母。百官一位喪。皇帝皆不レ視レ事三日。」と見えたり。

額云。散五位以上。同長上故。皆同入此條者。未明何。額云。京官者。男官女官並同者。**遭祖父母父母及妻喪。**朱云。額云。祖父母父母者養父母同者。妻者妾不云者。穴云。文*學妻。然則夫喪亦奏弔也。**四位遭父母喪。五位以上身喪。**謂一位以下也。釋云。五位以上身喪。外位并勳位不合。一云。*依名例律。勳四等以上。入五位例。以外不合也。古記云。問。五位以上身。未知。外位勳私若爲。答。在京外位亦同。在外外位。并勳位不合。一云。依名例律。勳四等以上入五位例。以外並散官者不合。朱云。額云。五位以上者一位以下者。**並奏聞。**謂治部申官。官轉申聞也。釋云。並奏聞謂本司申官。官奏並下治部耳。跡云。奏聞謂死家申本司。本司申官。官奏聞耳。穴云。奏聞如跡云也。時行事。治部奏聞。又治部職掌所。古私記引此文也。**遣使弔。**朱云。奏聞遣使弔者。官所爲耳。承御命可弔者。穴云。使弔。唐令云。爲本服五服内親百官二品以上喪。並一擧哀者。案之。使奏聞之日。此間喪日也。故知。當日擧哀。即初服錫紵。及不視事。而當時師云。下條發喪日。内侍見事。及服錫紵者。是會本令擧哀之義。少難。抑得此意二條可勘會。讚云。是又少史被内裏官勘事日論定。*儀制令云。皇帝二等以上親喪。不視事三日。謂除重服之外親是。唐禮灼然。其於重服既服一年。諒闇。豈止停三日耶。故知。此令亦除重服外親。是服錫紵。其爲重服者。素服一年。故不入此文者。此云未安。**殯斂之事。**謂斂於戸内。殯於客位是。釋云。殯斂之事。孝經。始死於牖下浴於中霤。飯於牖下。斂於戸内。殯於客位。袒於庭。又云。禮爲死制槨。周於棺。棺周於衣。衣周於身。衣即斂衣。衾被也。古記云。殯斂之事。謂棺槨衣衾事是。孝經。浴於「中」霤。飯於牖下。斂於戸内。殯於客位。又云。禮爲死制槨。周於棺。棺周於衣。衣周於身。衣即斂衣。衾被也。擧屍内之棺槨也。朱云。殯斂之事。並從別式者。其調度所給耳者。未明。若此文凡立制情斂何。額云。於皇親不見也。可隨別式者何。穴云。殯斂之事。並從別式。謂給**並**不之狀也。私案。祖父母等及五位並約。爲賻物別故也。朱云。額云。於皇親不見也。可隨別式者何。

從別式。

百官在職條

凡百官在職薨卒。當司分番會喪。謂此五位以上喪。故云薨卒。文云在職。卽是散位者非也。釋云。謂五位以上身喪也。故云薨卒。古記云。薨卒者。當司分番會喪。謂五位以上之死謂之卒。六位以下者非。其勳位上條一種。自餘諸條亦同。穴云。爲五位生之故。稱薨卒也。朱云。問。此條百官者。京官外官同哉不何。額云。會喪以上。京外官竝同。當司分番會喪者。一番官人數不見文。凡宜可爲者。問。會喪者。只發喪日之限歟。若至喪事了可會哉。額云。會喪限歟。然不明何。跡云。分番會喪。謂遣番遭於喪。假令。少輔卒者。依文。輔以下會於喪耳。

親王。朱云。有品無品竝同也。及太政大臣。散一位。治部大輔監護喪事。謂監視也。護助也。釋云。監視也。音古銜反。護助也。音胡故反也。古記云。監護謂檢校也。見治也。朱云。大輔監護喪事者。若無大輔者。少輔以下次々。以次可監護。但雖無而不可及上也。凡監護喪事者。至喪所而事々可監護者。

左右大臣。及散二位。治部少輔監護。三位。治部丞監護。跡云。三位謂大納言以下准散三位者同也。朱云。三位治部丞監護者。職事散位竝同者。未明何。一案。於一位二位者准職位。尋散位。於三位不云。卽知散三位不在監護之限。

三位以上及皇親。謂不限有位無位。凡七歲以下。是無服之殤。比於成人。禮數既異。卽不合示禮制也。餘條亦准此例也。釋云。中間年限未明也。但案七歲以下。是爲無服殤。不合示禮制也。如此之類。臨時處分耳。古記云。及皇親謂諸王四位以下及無位也。一云。此文皇親。謂有位諸王也。問。無位親王諸王。有年限以不。答。未文明也。但准七歲以下。是爲無服殤。不合示禮制也。如此之類臨時處分耳。跡云。皇親。謂有位無位皆同。但年多少依

臨時處分耳。朱云。貞云。依令釋八歲以上者。穴云。親王及皇親等。不見年限。但可云八歲以上。爲七歲以下無服故也。給賻物條亦如此。與給祿年限爲殊也。不依貞云。

皆土部示禮制。 謂職員令。贊相凶禮是也。釋云。土部示禮制。謂贊相凶禮耳。承官處分治部差遣土師宿禰等。古記云。皆土師示禮制。謂承官處分。治部差遣土師宿禰等也。

内親王女王及内命婦亦准此。 謂准此者。廣承當條之文。卽下條女准此者。亦同此例。其女司掌以上。及散事。同職事官例。卽下條亦准此。其外官。及使人。於所在薨卒者。國郡官司。隨便監護也。釋云。其外官及使人身薨卒者。國郡司隨便監護耳。古記云。問。外官及使人薨卒。誰人監護。答。外官及使人不限貴賤。皆國郡司隨便監護耳。跡云。任文皆被令條之文耳。朱云。然則内親王者同親王耳。女王内命婦者三位以上者。同男三位以上耳。若四位以上幷無位女王者。皆(只)土師示禮制耳者。額同。

職事官條

凡職事官薨卒。賻物。 謂京官及國司竝同也。送死物曰賻也。釋云。職事官薨卒賻物。百官京官及國司也。贈死曰賻。音府遇反。古記云。賻物謂死人賜祿謂之賻。朱云。問。一卷私記云。職事官者。内外皆同。但郡司不給者何。額不同也。此文稱職事官。然則郡司皆同者。未明。進釋。私何。問。才伎長上等。「皆」給賻物耳歟。

正從一位絁卅疋。布一百廿端。鐵十連。 「問。以幾延爲連。」 **正從二位絁廿五疋。布一百端。鐵八連。正從三位絁廿二疋。布八十八端。鐵六連。正四位絁十六疋。布六十四端。鐵三連。從四位絁十四疋。布五十六端。鐵三**

〔神龜五年格〕類聚三代格、卷五に見ゆる神龜五年三月廿八日の格なり。

〔又古及本令稱百官〕大寶令及び唐の永徽令には、即ち「百官薨卒。」とありしを、新令はこれを「職事官薨卒」と改めたるなり。

連。正五位絁十一疋。布四十四端。鐵二連。從五位絁十疋。布四十端。鐵二連。六位絁四疋。布十六端。七位絁三疋。布十二端。八位絁二疋。布八端。初位絁一疋。布四端。皆依本位給。謂不論職事高下。唯依位階給也。文云。依本位。即無位長上。不在給例。其勳位不帶官位者。「亦」同無位法也。釋云。皆依本位給。不謂行守。止依本位給耳。文稱皆依本位給。故知。無位長上無給「法」何者。若依祿法給者。有位之人皆賤無位。又名例云。職事初位與八位同。此亦無位長上不可同。初位長上故其勳位者。亦依本位給耳。古記云。皆依位給。謂不論行守。皆依本位給。假令。八位任郡司。正八位料給。若七位任令史。正七位料給。是若勳位任職事者。亦同准外位。依神龜五年格。內位減半給之。外減三分之一也。跡云。依本位謂假令。初位人守六位職事者。給初位料。六位人行初位職事者。給六位斷之類因而案。無位長上。不合得賻物。但八十一例云。無位官人准初位給故。無位長上亦准初位合給也。朱云。私此令思（心）亦同與何。朱云。額云。依勳位不可給也。依本位可給者。釋同也。穴云。依文。皆依本位給者。恐依行守給。故云。依本位。即明知。爲京國設行守生條。不及郡司。云云。蓋案宜矣。私云。又古及本令稱百官。此令稱職事。依公式令。內外百官。於本司分番宿直者。郡司已約百官。今此郡司者不入者。爲難。但依本位給之文。僅得處分耳。本位之與官位合異耳。上條云。職事從別式者。即知。賻物之外。更別式給職數物。其散位三位以上。三分給一。五位以上給半。穴云。問。六位官人死後贈五位者。稱職事哉。爲當云散五位哉。答。未解官死人故。可云職事。又爲貴從重故。太政大臣絁五十疋。布二百

端。鐵十五連。親王及左右大臣准一位。釋云。內親王「亦同。何」者下文云。女亦准此故。跡云。親王謂不求有品。（八字義解ニナシ。讀文カ。）無品皆准職事一位。朱云。額云。但七歲以下親王。不可准此文也。無服故。臨時可處分。內親王無別也。大納言准二位。若身死王事。皆依職事例。古記云。若身死王事。謂戰庭死是。病死者非。皆依職位例。謂官位勳位竝同也。朱云。問。身死王事何。額云。經戰死耳。但得病死者。雖在軍所。不可同王事之死者。其別勅賜物者。不拘此令。其無位皇親。准從五位。三分給一。謂准散位從五位。假散從五位給絁五疋。而無位皇親。三分給一。即給二疋之類。下文云。減數不等。從多給故。釋云。准散位五位也。「今案。賦役令。正丁一人。調絁八尺五寸。六丁成「疋」。長五丈一尺。然則五疋*此廿五丈五尺也。此作三分。各八丈五尺也。三分之二。此十七丈也。此則三尺。一丈七尺也。「由」此論之。下文可給四疋。而給三疋者。此義解失錯。更無疑也。」古記無別。跡云。無位皇親准從五位。謂從半上更三分給一。女王無別。但婦女女王有位而帶職事者。准男合給。女亦准此。釋云。散事宮人亦同。何者職員令准職事故。八十一例云。凡采女及內侍所掌女孺身死。賻物竝准職事。其無位者。准初位給減數。治部省例。大寶元年五月一日太政官處分。官人賻物者。依正位注物數申官。七月四日物裁。*僧綱賻物者。僧正准正五位。大少僧都律師幷准從五位給之。外位。神龜五年格。內位減半給之。女減三分之一也。古記無別。但無外位字以下文也。朱云。問。女亦准此者何。額云。被令條文耳。然則男女無別者。問。然者散三位五位以上。於男給賻物。若於無官女亦五位以上賻。又凡如職員令散事。女亦可同職事哉何。穴云。女亦准此冠條文。私案。假六位職事女給賻物也。采女女孺五位者。故散五位也。散事准法減哉以不。*延暦八年八月十一日官符云。應賜外國官人賻物事。右檢承前

〔下文可給四疋而給三疋者此義解失錯更無疑也〕減數等しからざれば、多きに從つて給せよといふ下文に據れば、五疋の三分之二は十七丈にして、即ち三疋と二丈となる。故に二丈なる端數を一疋に計算して四疋を給せざるべからず。然るに義解は「三分給レ二。即給二三疋一之類。」と云へり。これ明かに義解の誤なり。

例。外國官人幸死。賻物皆以京庫物賜。今被右大臣宣偁。奉勅。理不可然。自今以後。宜改其例。以當國正稅給之。但新任未赴任所之身亡者。依舊給於京庫。永爲恒例。 **減數不等。從多給。** 古記云。謂假令。職事正從三位絁卅二疋。別爲三分。各七疋二丈。猶以十五疋散三位給之。以一疋。不作減分。他皆放此。穴云。不等。從多給。謂假絁一疋不等者。令從多給耳。

賻物條 **凡賻物兩應合給者。從多給。** 謂大納言以上。本位高者。從位給。若卑者。依職給之類「也」。釋無別。古記云。兩應合給者。從多給。謂大納言本位高者。依位給。本位下者。依准位給也。跡云。兩合給者。謂假令。一位任太政大臣者。給絁九十疋。若大納言絁卅疋。或三位任左右大臣者。亦絁卅疋之類。朱云。已上額同。

官人從征條 **凡官人從征從行。** 謂不限內外。但從征行皆是。其番上者。不在此限也。朱云。問。官人從征者。未知。戰士等身死何。額云。軍防令有文也。從行者從駕行耳。 **及使人所在身喪。** 朱云。及使人者。有使。主典使者。同職事例。亦給賻物。但無主典使者。只此條給者。未知。其志何。 **皆給殯斂調度。** 謂賻物之外別給。但物多少。待式處分。釋云。官人品秩給物多少。待式處分。跡云。給殯斂調度。謂賻物之外給也。額同。朱云。古記云。皆給殯斂調度。謂不限高下給之。其數從別式。賻物亦與京官同。郡司五位亦同。六位以下不合。又京官六位以下。不給殯斂調度也。問。外官不限高卑。皆給殯斂調度並賻物。京官六位以下。給賻物。唯殯斂不給。若爲其理。答。外官所以殯斂給者。只去家懸遠故加給耳。問。然者外官任土人。若爲處分。答。案戶婚律*。監臨之官。娶所監臨女爲妻者。杖八十一例。任土人勿論。又檢本令。送葬非者不給。然此間廣給耳。問。無位長上給不。答。文稱依位給。無位不合給。然今行事不知。問。國史生若爲。答。同京官史生。不限有位無位。皆給殯斂調度也。

〔僧綱卒〕者、僧正准正五位、大少僧都律師並准正五位給之」との事、續紀、大寶元年の條には見えず。然れども、延喜治部省式には、即ち「凡僧綱卒者、僧正准從四位、大小僧都各准正五位、律師准從五位。並准[illegible]事給之。」と見えたり。蓋しこれ大寶以後の制ならん。

〔延曆八年八月十一日官符〕この條、類聚三代格、卷六、賻物事并致事官符、第五十九」を[illegible]事に見ゆ。

〔案戶婚律監臨之官娶所監臨女爲妻者〕戶婚律に據れば、監臨の官監臨するところの人民の女を娶つて妻となすときは、杖八十の刑に處せらる。

〔此間俗〕日本の習俗なり。

〔廐庫律云有吉凶給儀鹵簿故者具狀見彼律耳〕唐の廐庫律、假請官物條の疏議に「假請官物「謂有吉凶應給、

親王一品條

凡親王一品。方相轜車。謂方相者。蒙熊皮。黃金四目。玄衣。朱裳。執戈。揚楯。所以導轜車者也。轜車葬車也。釋云。方相。周禮。方相氏蒙熊皮。黃金四目。玄衣朱裳。執戈揚楯。所以導轜車也。相音息良反。轜車喪車也。或云。轜謂葬屋也。車謂載之車。*此間俗。大人方也。轜車謂送屍車也。音如之反。一云。轜謂葬屋也。車謂載轜之車。下文見也。跡云。轜謂喪屋造載於車。車載轜行車也。又說云。轜謂喪屋。抑合求禮記也。朱云。額云。轜與車一色者。私同。見下文也。或云。轜。俗云小屋形也。轜與車一色也。在釋背。各一具。鼓一百面。大角五十口。小角一百口。幡四百竿。金鉦。鐃鼓。謂鉦者似鈴柄中上下通也。鐃者如鈴。無舌有柄。執鳴之。而止擊鼓也。釋云。金鉦。說文。曰鉦鐃也。似鈴柄中上下通也。音諸盈反。一云。金鉦鉦也。鐃鼓。鄭玄注周禮曰。鐃如鈴。無舌。有柄。執而鳴之。以止擊鼓也。說文曰。鐃小鉦也。音女交反。一云。鐃鼓謂應鼓。古記云。金鉦謂鉦也。鐃鼓謂應鼓也。周禮。卒長執鐃注。以金鐃止鼓。鄭玄曰。如鈴無舌有柄。執而鳴之。以鐃小鉦。跡云。金鉦謂金之鼓也。鐃鼓謂擊金鉦而對振鼓也。或云。鼓俗云振鼓。在釋。各二面。楯謂所以自扞葬者也。釋云。楯殊尹反。周禮。司兵掌五兵五盾。各辨其物〔與其等〕以待軍事。說文。瞂也。所以自扞蔽者也。又音徒損反。左氏傳。晉趙喪生盾。瞂音扶發反。瞂干也。七枚。朱云。問。件諸物永給賻。何者下文云。五位以上及皇親。並借轜具及帷帳故何。額云。不然。皆暫給耳者。私同之。何者*廐庫律云。有吉凶給威儀鹵簿故者。具狀見彼律耳。發喪三日。謂發喪猶舉哀也。先葬三日始舉哀。乃至葬日以終是。總發喪三日也。下文云。發喪五日。亦以發日爲終也。即鼓角幡盾等。因儀哀容。皆悉周舉。然後與所司發喪也。跡云。發喪三日。謂未葬前擇日。而在家三日舉哀。不必始死之日也。穴云。發喪

[illegible]鼓[illegible]

［遊部］以下[illegible]

五日。不[illegible]白苑錯五日也。別定耳。二品鼓八十面。大角四十口。小角八十口。幡三百五十竿。三品四品。鼓六十面。大角卅口。小角六十口。幡二百竿。其轜車鐃鼓楯鉦。乃發喪日。並准一品。釋云。二品並左右大臣以下。不給方相也。諸臣一位古記云。諸臣一位。謂諸王亦同。及左右大臣。皆准二品。二位。及大納言。准三品。唯除楯車。跡云。唯除楯車。謂一位及左右大臣以下皆除也。三位轜「車」一具。鼓四十面。大角廿口。小角四十口。幡一百竿。金鉦鐃鼓各一面。發喪一日。釋云。爲三位一色立文。其一位二位。准親王發喪三日。何者。一品三品發喪日。及轜車鐃鼓盾鉦。並准一品。下云。諸臣皆准一品三品。唯除楯車。則知。自餘發喪日。及轜並鉦鼓鉦等不除故。太政大臣。方相轜車各一具。鼓一百四十面。大角七十口。小角一百四十口。幡五百竿。金鉦鐃鼓各四面。楯九枚。發喪五日。以外葬具。及遊部，

遊部事

謂。其具者轜輒之屬也。遊部者。終身勿事。故云遊部也。釋云。以外葬具轜輒之屬亦是。遊部。隔幽顯境。鎮凶癘魂之氏也。終身勿事。故云遊部。古記云。遊部者。在大倭國高市郡。生目天皇之苗裔也。所以負遊

遊部の事徴すべきなし。この文の考證、伴信友の比古婆衣に見えたり。參照すべし。

〔古記云大路〕古令には、大路とありしを、新令は道路と改めたるなり。

部者。生目天皇之孽。圓目王娶伊賀比自支和氣之女爲妻也。凡天皇崩時者。比自支和氣等到殯所。而供奉其事。仍取其氏二人名。稱禰義余比也。禰義者。負刀。並持戈。余比者。持酒食。並負刀。並入內供奉也。唯禰義等申辭者。輙不使知人也。後及於長谷天皇崩時。而依攤比自支和氣。七日七夜不奉御食。依此阿良備多廳比岐。爾時諸國求其氏人。或人曰。圓目王娶比自岐和氣爲妻。是王可問云。仍召問。答云。然也。召其妻問。答云。我氏死絕。妾一人在耳。卽指負其事。女申云。女者不便負兵供奉。仍以其事移其夫圓目王。卽其夫代其妻而供奉其事。依此和平給也。爾時詔自今日以後。手足毛成八束毛遊詔也。故名遊部君是也。但此條遊部。謂野中古市人歌垣之類是。古記云。注以外葬具。謂上條注曰。殯斂之事是。一云葬具。謂相從威儀細少之物。衣垣火爐等之類是也。問。遊部何人。答云。見釋。穴云。遊部並從別式。謂給不之狀。遊部。謂令釋云。隔幽顯境。鎭凶癘魂之氏。謂百姓之中有人。鎭凶癖魂。是人云氏也。事細在古私記也。又其人好爲鎭凶癘故。終身無事。免課役。任意遊行。故云遊部。終身課役無差科。故謂之終身勿事。

並從別式。五位以上。釋云。四位以下。古記無別。及親王。謂無位皇親。親無別。古記云。及皇親謂無位親王諸王也。

並借轜具釋云。轜具謂轜。古記無別。及帷帳。釋云。釋見官員令。若欲私備者聽。朱云。問。令被條文歟。若只爲五位以上歟何。答。私可令被條文何。女亦准此。跡云。注女亦准此。謂令被條文耳。朱云。額同。

皇都條

凡皇都。謂天子所居也。釋云。皇都京師離宮准入耳。古記云。皇都京裏也。及道路謂公行之道路皆是。釋云。道路云行道皆是也。跡云。無別。*古記云。大路謂諸國大路皆是側近。釋云。猶側近者。限見分明耳。此是兼及皇都之文。古記云。近邊謂步數從別式也。跡云。側近謂及皇都之文。言在道依分明可見。猶側近。朱云。已上額同。並不得葬

埋。

三位以上條

凡三位以上。朱云。三位以上者。未知。無品親王等何。額云。不見也。可有別式者。及別祖氏宗。謂別祖者。別族之始祖也。氏宗者氏中之宗長。即繼嗣令。聽勅定是也。釋云。別祖謂別氏始祖可氏宗。依繼嗣令。聽勅定耳。跡云。別祖謂假土師給秋篠姓之類。古記云。別祖謂本同族。今別姓也。假令。藤原内大臣。橘右大臣之類。始別一身也。子孫不合。一云蘭不作(依)別姓。更加姓字亦同。假令。高岡連。推野連。葛井連。大縣史。依綱(網カ)朝臣。大養徳宿禰等之類是。一云。雜戸陵戸官(戸脱カ)家人奴婢訴良。得免亦合聽。爲後表故也。氏上。謂氏別氏上也。或云。別祖給別姓人也。假令。改物部爲石上之類也。在釋背。並得營墓。謂墓之言慕也。言孝子所思慕者。古記云。並得營墓。謂高下長廣皆從別式也。跡云。墓地遠近不見文。朱云。額同。朱云。問。得營墓者。未知。家等何。答。額云。不見也。就律可案。然不聽歟者何。以外不合。古記云。以外不合。謂諸王諸臣四位以下。皆不得營墓。今行事濫作耳。雖得營墓。若欲大藏者聽。古記云。若欲大藏者聽。謂令以骨除散也。若以骨置墓。亦任其意也。

皇親及五位以上條

凡皇親及五位以上喪者。並臨時量給送葬夫。古記云。並臨時量給送葬夫。謂若有喪發百姓者。充雜徭也。穴云。問。律有吉凶役使臨時部内者。令律何會。答。令臨時量給多少也。律不過四十人也。爲別也。

立碑條

凡墓皆立碑。謂碑者刻石銘文也。釋云。立石銘文曰碑。音彼爲反。古記云。皆立碑謂作石鑿題。謂之碑也。記具官姓名之墓。

〔依繼嗣令聽勅定耳〕繼嗣令第二條に「其氏宗者聽レ勅。」とあるものこれなり。
〔跡云別祖謂假土師給秋篠姓〕桓武天皇の延暦元年五月、土師宿禰安人等上言して、秋篠の姓を稱せんことを請ひ、其兄弟男女六人に秋篠の姓を賜ひしこと、續紀に見えたり。これ又跡記が延暦元年以後に成れることを證するものなり。
〔律有吉凶役使臨時部内者〕職制律に「凡監臨之官、私役二使所監臨一（中略）以監臨二時使一謂（中略）若

釋云。假如。職事官者。記其(某)官卿位姓名之墓。散位者。記其(某)位姓名之墓耳。古記無別。穴云。私案。位字略文。爲三位以上造墓故也。

身喪戸絕條

凡身喪戸絕無親者。謂戸絕者。戸口皆悉絕盡也。無親者。是別戸之內。竝無五等以上親者也。卽雖有親。而非戸令分財色者。不可得分。使其營盡功德。不付四隣五保也。釋云。戸絕。戸口不遺之謂也。無親謂別戸無四五等以上親也。雖有親。而非戸令分財色者。不可得分。然則其傍親營盡功德耳。不付四隣五保也。古記云。問。身喪戸絕無親者。未知。戸內有寄口。竝女若爲處分。又於有親者若爲。答。紀氏傍通*云。身喪戸絕者。所有部曲奴婢店宅資財。竝令近親將營葬事及功德之外。餘竝入女。無女均入已次近親。若亡人存日。自有遺處分。有證驗者。不用此令。唯此間法用。有女從夫戸。竝同戸內無分財良口有者。更不加檢校。然無女者。家人奴婢悉令從良。又親屬別籍異財者。不限遠近。與四隣五保行事同。財物營盡功德。家人奴婢者。放爲良人。准父祖奴婢家人分得者。須還本宗。何者妻*家所得奴婢爲還本宗故。財物見餘亦同。以外不合。其祖父母父母有者。雖有別籍異財。更不令加檢校。外祖父母亦同。何者五月服以上親存日。使損其身不得告言故。跡云。戸絕無親物一事也。朱云。額云。不然也。一事者。穴云。問(國)(因)戸絕還公故。於口分田亦可還公也。用令。爲不絕戸。故至班年故收授也。無親謂如先私記。私案。賊盜律第一條。宗(宋)*云。此條資財竝法不言沒。令付女。無女付近親。將營葬用之者。案之。身死更無子孫相承。是爲絕戸。而又別戸無親屬者及四隣也。卽此文親謂宗(宋)(采)意爲近親耳。卽身死戸絕相須爲一事。

所有家人奴婢。及宅資。四隣五保。古記云。四隣五保。謂四隣竝五保也。朱云。問。四隣五保等先申官司。營盡功德不何。額云。依文不須申官。共爲檢校。財物營盡功德。其家人奴婢者。放爲良人。若亡人存日處分。證驗分明

有ニ吉凶一。借レ使所ニ監臨一者。不レ得レ過ニ卅人一。毎レ人不レ得レ過ニ五日一。」云々と見えたり。

〔紀氏傍通〕下に部曲の語見えたれば、唐の法律書なるべし。日本にも紀の姓あれど、支那にも又紀の姓あり。通憲入道藏書目錄に「律傍通一部一卷。」とあるもの、或ひはこれならん歟。敦煌出の唐職官表殘卷にも、傍通なる文字見えたり。

〔妻家所得奴婢爲還本宗故〕これ古令應分條の文なり。新令には、「妻家所レ得、不レ在ニ分限一」とあり。

〔賊盜律第一條宋云〕賊盜律第一條の宋私記の注解に曰くの意なり。

〔戶令「應分者宅及家人奴婢竝入嫡子財物半分一分庶子均分」これ古令應分條の文なり。〕

〔暑月謂六月七月也〕賦役令に「凡役丁匠皆[illegible]者。昔[illegible]作役止。其六月七月[illegible]」とあるを見よ。

證驗不相須也。古記。雖無證人。而亡人署記。是應驗據。及雖署記不在。而證人分明者。竝不用此令。釋云。亡人存日。處分證驗分明者不用此令。戶令。亦有此事類。彼條。有受分限。故待辭牒入官。此條。無受分限。故待證驗分明。然理亦須相通。跡云。證驗據。一事也。朱云。額同。謂無證人。而亡人署記分明者依用耳。又戶令分財條。此條相通合用。穴云。雖無證驗。而處分分明者。亦同此耳。問。依律。容隱親及年八十以上竝家人奴婢等。不得爲證。未知。於令何。答。於此亦不可用也。假有相違事者。不可爲證。古記云。問。絕戶亡人存日處分者。任用聽之。未知。戶令應分者。宅及家人奴婢。竝入嫡子。財物半分。一分庶子均分。此條。亡人存日處分者用不。答。此亦依處分耳。一云。若爲嫡承繼物者。不合聽。唯當身之時物者。隨處分耳。**者。不用此令。**

親王條

凡親王及三位以上。釋云。親王有品無品竝同。三位諸王諸臣同。古記云。親王謂有品無品竝同。三位以上諸王諸臣竝同。女亦同。**暑月薨者。**謂六月七月。釋云。暑月薨者給氷。師記（說）云。周禮。夏班氷。卽四月也。故知。起自四月迄于癸盡。可謂暑月也。古記云。暑月謂六月七月也。以外隨狀耳。准賦役令役丁匠條也。**給氷。**

薨奏條

凡百官身亡者。釋云。名排內外百官者皆是。古記云。文稱百官。此一端擧耳。何者及三位以上者。職事散官同故。跡云。此條職事番上一種無別。朱云。額云。百官者女官皆約。**親王及三位以上稱薨。**古記云。同百官身亡者。親王及三位稱薨。未知。無品入不。答。親王有品無品竝入。何者下文及皇親卽無位諸王也。擧輕明重。朱云。問。親王稱薨者。未知。於三后自皇太子何可稱。額云。不見。可求者何。**五位以上。及皇親稱卒。六位以下。達於庶人。稱死。**

喪葬條 凡喪葬不能備禮者。釋云。備禮謂凶禮威儀也。古記無別。穴云。上條所計。是卽禮也。與先說不殊。跡云。不能備禮。謂不堪備禮。假令。貧人有紫絹。無荒絹者。此非可用之人勢者得用布。不得用紫之類。貴得同賤。賤不得同貴。謂凡厚資薄葬。聖賢之情。故貴者得同賤。賤者不得同貴。釋云。貴得同賤。假如。三位得同四位以下之類。賤不得同貴。如四位以下。不得同三位以上之類。凡喪禮具當色以下得用。古記云。貴得同賤。謂稱麁之色。得同卒以下之人也。賤不得同貴。謂不得四位以下同三位以上。六位以下。同五位以上也。凡喪禮具。當色以下竝得用也。

服紀條 凡服紀者。古記云。問。服紀若爲。答服耳。年紀一種也。穴云。紀者節也。事也。爲君謂天子也。釋云。君天皇。古記云。君者指一人。天皇是也。俗*云須賣良美己止也。凡君服者著服就座。聽政。令(今)行事「服」問曹司職政。朱云。問。天皇稱君字心何。額云。不見別儀者。*君者太上天皇亦同者。父母。古記云。爾雅。釋親云。父爲考。母爲妣。案生我身父母是也。俗云知知於毛也。僭子亦服解。及夫。古記云。妻妾爲夫服一年。夫爲妾無報服也。俗*云乎比止也。本主。謂其文學家令等。不在此限也。跡云。家令等無服也。穴云。家人奴婢爲主亦可一年。爲同子孫故也。朱云。問。本主者。未知。於家人奴婢何。額云。不見。同子孫耳歟者何。古記云。問。家令以下帳內資人等。爲本主服以不。答。案選敍(任)令。帳內資人亡。本主朞年之後。皆申送者。卽知朞年此期耳。**出母事** 出母ゝ爲妣是也。安住父家曰母。父被出曰出母也。俗云知知爾夜麻禮爾多流於毛也。一年。謂以十二月爲限。不計潤月。其五月以下。竝皆計日也。釋云。師說云。*一年服者以十三月爲限。五月以下計日先宜。古記云。一年謂十三月也。五月謂計月之數。滿五月耳。三月謂計月之數滿三月耳。一月謂計三十箇日爲一月耳。穴云。五月以下服計日如令釋也。以百五十日爲五月耳。或云。五月三月計月。

〔俗云須賣良美己止也〕スメラミコトなり。奈良時代には、天皇の語猶熟せず、スメラミコトと通稱せしこと知らる。

〔君者太上天皆亦同〕儀制令に「凡皇后皇太子以下、率土之內、於二天皇太上天皇一上表、同稱二臣妾名一」とありて、太上天皇は我が國に於いては、天皇と同格、又はそれ以上のものなり。

〔俗云乎比止也〕オヒト(男人)即ちオット(夫)なり。

〔一年服者以十三月爲限〕一年の服を十三箇月とすること、今も然り。これ奈良朝以來の慣例と知るべし。

〔俗云於保知於保波也〕祖父母のことをオホチ(大父)、オホバ(大母)と呼びしなり。

〔俗云志比止志比止賣也〕シヒト(舅)、シヒトメ姑なり。

〔戶婚律云嫡妻之長子爲嫡子〕戶婚律、立嫡違法條の疏なり。唐律疏議にもこの句見えたり。

於一月計日。爲下考也。

祖父母　古記云。爾雅。釋親云。父之考爲王父。父之妣爲王母。案生父之身曰祖父母也。俗云於保知於保波也。

養父母五月　謂。其養子爲本生一年。卽養父母爲子一月也。釋云。養父母爲養子服庶子服也。穴云。於本生父母一年。不依令釋也。養子一月。養子亦同。新令問答云。朱云。問。養父母者未知。於養祖父母何。額云。不見也。可求者何。古記云。問。爲養本生何爲服。答。竝一年須服。何者開元令云。諸喪斬衰三年。齊衰三年。齊衰杖朞。爲人後者。爲其父母竝解官。勳官不解。申其心喪故也。

曾祖父母　古記云。釋親云。王父之考爲曾祖王父。王父之妣爲曾祖王母。案祖父母之父母曰曾祖父母。自我言。曾祖父母也。俗云於保保知。於保保波縢加也。

外祖父母　古記云。釋親云。母之考爲外王父。母之妣爲外王母。案生母之身曰外祖父母也。俗云母方於保遲於保波也矣。

伯叔　古記云。釋親云。父之昆弟。先生爲世父。後生爲叔父。案祖父之子。父之兄弟也。俗兄乎遲。弟乎遲也。

姑　古記云。釋親云。父之姉妹爲姑。案祖父之子。父之姉妹也。俗云乎婆。

妻　古記云。夫爲妻服三月。次妻無服也。朱云。問。妻者。未知。於妾何。額云。爲妾無服者。

兄弟　古記云。釋親云。男子先生爲兄。後生爲弟。案父之子。身之兄弟也。

姉妹　古記云。釋親云。女子先生爲姉。後生爲妹。案父之子身之姉妹也。俗云阿彌。於伊毛也。

夫之父母　謂養子之妻妾。於夫之養父母亦同。釋無別。朱云。問。夫之父母者。未知。於養子之妻妾何。令釋云。亦同者。額云。聽也。古記云。釋親云。婦稱夫之父曰舅。稱夫之母曰姑。案生夫之身曰夫父母。俗云志比止志比止賣也。

嫡子　古記云。戶婚律云。嫡妻之長子爲嫡子。案儀制令。父子爲一等是也。父母共爲嫡子服三月也。俗云男子也。

三月。高祖父母舅姨　古記云。爲從母。釋親云。母之昆弟爲舅。母之姉妹爲從母。案外祖父之子。母之兄弟姉妹也。俗云母方乎遲乎婆也。

嫡母　古記云。妾之男女。謂父嫡妻爲嫡母。嫡母爲妾子。無報服也。俗云麻麻母也。

〔俗云麻麻波良加良也〕ママハラカラなる語ありしこと知らる。

〔俗云宇麻古也〕ウマゴなり。ウは發語なり。孫（マゴ）と云ふに同じ。日本靈異記には、息をウマゴと訓めり。

〔俗云伊止古波良加良也〕イトコハラカラなり。今略してイトコと云ふ。和訓栞は「出子の義、をひを出といふは左傳に見えたり。又糸によれる如きむつびよりいへる詞なるべし。」と云へり。

〔俗云伊止伎毛也〕從父姉妹をイトギモと云ひしこと知らる。妹をソギモコと云へば、イトコギモの略なり。

〔俗云乎備賣比也〕ソヒ（甥）メヒ（姪）なり。

繼母繼父。同居 古記云。母之後夫爲繼父。繼父爲妻之前夫男女。無報服也。繼父若不同居共財不服也。俗云麻麻父也。**異父兄弟姉妹。**古記云。異父同母。故曰異父。既異姓。故服降身之兄弟姉妹一等。*俗云麻麻波良加良也。**衆子。**古記云。除嫡子之外庶子及妾之子。案儀制令。父子爲一等是也。俗云男女也。**嫡孫** 古記云。釋親云。子之子爲孫。繼嗣令云。無嫡子及罪疾立嫡孫。儀制令。祖孫爲二等是也。*俗云。宇麻古也。**一月。衆孫。**釋云。除嫡孫之外皆爲衆孫也。古記云。除嫡孫之外。諸孫祖孫爲二等是也。俗云宇麻古也。**從父兄弟姉妹。**古記云。從父兄弟。釋親云。兄弟之子相謂爲從父兄弟。案從父姉妹亦同。*俗云伊止古波良加良也。從父姉妹者。*俗云伊止伎毛也。**兄弟子七日。**古記云。身兄之子弟之子。案兄弟之女亦同。*俗云乎備賣比也。凡服紀者。八年以上皆爲報服。七歲以下名爲無服殤也。問。雖犯罪被戮。猶爲服以不。答。亦爲服無妨之文也。問。類衆者何服也。答。從値後喪日始計年也。問。服色有限以不。答。不限布麁細白色布服耳。問。要帶漆沓何。答。不得。但冠者不制。又白冠者不聽也。問。獄令云。其徒在役。父母亡者。給假卅日。發喪。未知。役限之內服闋以不。答。不合也。跡云。三后太子等爲親者。依正服法耳。朱云。額同也。

令集解卷四十

弘長元年九月日於龜山殿令一見加朱點畢

本云」
弘長二年閏七月廿日見合本書加首書畢（了）
員外宰相藤判
皇后宮大夫藤在判
建仁（治）二年六月廿九日引合正親町之本校合畢（了）
第四十一闕
忠友按卷中令目闕市捕亡獄令本書云其廿二三卷闕」
慶長三年仲春十一日燈下令一校畢
吏部秀賢
寛永十一年臘月日遂一校了
中原職忠
萬治四辛丑季春十六令一校畢
右以清家之本令書寫者也
羽林中郎將藤原（花押）
右令集解請小路前亞相隆貞卿本令恩借自去秋命人令寫之
令城從二位權中納言藤定淳卿
手親自加校合至于元祿四年三月八日終功了
武秀
連々校正加點了尚不審繁多畢竟天假數年重加校正而已
享保三年孟夏十一日
九十九翁源武晴
右一冊以神村先生之本使書寫畢

明和戊子歳季冬　越智通邦 印

同庚寅歳四月十三日以京師本一校了

安永七年四月二日與伯子栗一會了

文化十癸酉年六月七日校了

同月十一日全校了　忠英

文政三年九月九日以彰考館本比校了　撿挍保己一

右令集解舊本凡五十巻今所存三十五巻有脱文誤字余活字刷印起辛未
四月止壬申正月非不致其勞然又不能無錯置請讀者增補校正之

明治五年正月　日　石川介識

蕉園石川介校字活刷

明治四年辛未八月發兌

東京

書林

須原屋茂兵衛
須原屋伊八
須原屋新兵衛
和泉屋吉兵衛
和泉屋金右衛門
岡田屋嘉七
英屋文藏
島屋平七
山城屋佐兵衛

〔如律轉易得他物及生產蕃息皆可爲見在者〕名例律下卷、以贓入罪條の文を引けるなり。

令集解逸文

捕亡令裏書

推討 二葉(條)
穴云、推討、推者問之言也。討者治也除也、折治之意也、或云推討、子細求探耳。
私記云、爲是也爾郎討猶追討耳、言推問追討精加耳。
不得即加徵拷 古記云。不得即加徵拷、謂當色人夫不令拷問也、又云、徵召也。
發兵 三 釋云、此條。 上二條。及臨時發兵之事也。
穴云、凡此條。奏發兵之狀、獄令犯色也。
翦 釋云、翦去也、截也、排也。云(音カ)子淺反、周禮云、翦猶殺也。
除 古記除 ―― 討撲一種也。
正贓 米(朱カ)云、凡此條。稱正贓者。*如律轉易得他物及生產蕃息皆可爲見在者。
官人 釋云。官人謂監臨外官人主典已上、但監臨官司於所部內。糺盜賊博戲逃亡奴婢等者。皆減半賞。外所投獲者全可賞。
首告 穴云、首告二事也。朱云、首告者首與告二事、假自首己盜罪幷告傍人盜耳若直告傍人盜不首己盜罪。雖物給其罪不可免耳。 又共盜而一人自首、余人皆可免也如自首條義者、未知。而者此時何。何物可給哉。又依賞例者、如上文給倍贓時正贓作五分給時意耳 或記云知情

〔害止之主人〕賊律、闘殴に「止傷止主人」、故用此、若和合者各如之」とあり。

〔和誘〕令云ふ誘拐なり。賊盗律に「凡略人、略賣人。(中略)爲奴婢者、流遠。(中略)和誘者、各減一等。」とあり。

〔主自幸日所生男女聽從良也〕戸籍律、以妻爲妾條に「若婢有子、及經放爲良者、聽爲妾。」と見えたり。

〔與他良人爲夫妻所生知情者從賤還前主不知情者從良〕戸令に「凡官戸、陵戸、家人、公私奴婢、與良人爲夫妻、所生男女、不知情者從良、皆離之。其逃亡所生男女皆從賤。」とあるに據れるなり。

主人者害*止之主人贖。

官私奴婢 十四 釋云、官私奴婢與官戸家人逃亡。合生男女亦從母乎。

穴云、奴婢者一濁也。家人亦同。後案、戸令云、家人所生子孫、相承爲家人者。然家人從父奴婢從母是。又本令云、部曲所生子孫相承爲部曲、家女不云家女所生故。問。稱逃亡未知、不逆亡所生男女何。答、亦如之。但文擧逃亡者。此令、爲論逃亡事逃文也。

釋云、官戸家人亦同。盜謂和*誘也。主*自幸日所生男女、聽從良也。主謂同居共治可有財分者皆爲主、則相娶所生者。不得稱生。

不知情者從母 古記云、不知情者從母、謂略婢配奴。所生男女亦入本色(主)也。與*他良人爲夫妻所生。知情者從賤還前主。不知情者從良。

物猶見在 十五 穴云、問、物尚見在者。轉易得他物及生產蕃息皆爲見在、未知、律令有殊事哉。答、合殊也。假轉易得他物無本物者、不還也。但生產蕃息、令爲見在也。

師云、已費用盡者、其主雖未認、而不給其代了。

獄令裏書

事發處推斷 一 釋云、被毆傷及追捕罪人之所國郡、在京諸司是。謂事發處官司也。推斷、謂在京諸司、杖以下推斷也。

古記云、事發處未知。何處。答、案名——於紀伊國盜蟄、於攝津國科斷之類是。假令、　京內

人與諸司人相犯先於諸司事發者便諸司推斷。於京職不可移。

穴云。事發處云々、謂罪處推斷也捕亡令云、聞告處率隨近兵及夫從發處尋跡即追捉者。即犯罪處是爲發處分明律注云々。*紀國盜贓云々私案盜賊殺人元切害之色依法本於隨近言告是故律一端生文其除切害之外全犯。雖於乙郡提得元犯處推斷、讃云、發者告發是、但告發之日。必告犯罪當處耳、　若雖非犯罪當處、而罪人見在者於告發處推斷故於紀國盜贓津國事發、即知不以犯處爲發處。以告發處爲發處。

釋云賣買雖在他處其物見在者猶還耳、物無者。證驗雖實不可酬還。古記同之

宣告犯狀六

古記云。竝宣告犯狀未知竝字意、答、斷罪日者。令斷結其罪告也、行刑之日、令告去給耳、於流人流給其國告耳。

聽辭決

穴云聽辭決者。屬心罪人自辭訣耳、師云、親故之至罪人所聽辭訣之是也、又朱云同、

五位七

古記曰。五位不別內外。勳位二等以下者不合。*一云。依名例律。勳四等以上合入也。

***自盡於家**

神龜五年三月格云。外五位斷罪行刑之日、不得乘馬及自盡私家也、

隱處

釋云。隱處謂非市隱處耳禮記。文王世子云。公族其有無罪。則磬于甸人。鄭玄曰、不於市朝隱(者)隱也、何人掌野之官懸縊殺曰磬古記云、一云。隱處謂廣野也市者非案禮記文王世子云。公族云々、穴云隱處者非市及京中、綾廣野也、又朱云、未知、隱處者家歟。若外歟、答不見、而可外處者額同也。

決八

古記云、決訓答、決定意也

〔紀國盜贓云々〕獄令、初條の義解に「假有人紀伊國盜レ贓、攝津國事發。即販二紀伊國中估之贓一、准二紀伊國上布之估一、於二攝津國一斷決之類。」とあるものを指せるなり。

〔一云依名例律勳四等以上合入也〕名例律に「凡應議者祖父母。父母。伯叔父姑。兄弟。姉妹。妻子。姪。孫。若五位及勳四等以上。犯二死罪一者上請。」とあるに據れるなり。

〔神龜五年三月格〕類聚三代格、卷五に見える神龜五年三月廿八日の格なり。

決死刑徒逆者云、大辟之科、盡冬月乃斷、其立春在于十二月中者、勿以報囚。

大祀齋穴云、問、大祀齋日並不得奏決死刑、又云大祀者大祀之齋日也、但與齋日相重耳

廿四氣釋云、廿四氣者、毎月二中節也、方案毎月節中耳。

齋齋日者、祭禮齋日也。*本令日致齋、此令改齋日也、古記云、大祭祀、謂中小祀亦同也

雜犯死罪十六穴云、雜犯無罪未獄成死者、不追位記也、但獄成了者、律云、雜犯死罪、即在禁身死者、除名注云、謂本犯合死而獄成者、依此文可追位記也

除名移鄕十七釋云、白丁聽出身、除名之人聽敍、或云、流人六載以後聽仕、謂白丁仕有位敍是、穴云、師云、圖殺卑幼者可移鄕哉、答、不可移鄕、*何者、律云、殺人應「死字アルベシ」死者、案之、殺卑幼者爲不可死者之故、

居作十八穴云、其犯流應住居作者、*雜戸陵戸及婦人依律不配流之類是。

釋云、居役者居如言處耳、下條居作亦同也、

畿内送京師穴云、畿內送京師者、國斷定其罪訖、送罪人身耳、不送斷定之書、唯加送囚解文進上耳。

鈦枷十九釋云、鈦、鉗也、音徒蓋反、鑿拘構三木以嬰頸者、枷云（音ヵ）古牙反、刑部所行流罪著鈦、徒罪著盤枷、案古律、家人奴婢犯流居作著鈦、犯徒居作者著盤枷、刑部之例效此歟

物部二十釋云、一云、諸國別差、有部丁送刑部、謂之名衛士也、後定、大和設有賊人、即因故、爲防援充衛士耳。

古記云、一云、諸國別差有部丁送刑部、謂之名衛士、非三衛々士。　古記云、問、無罪之人也。

〔本令日致齋〕この本令は、恐らく唐の祠令なるべし。

〔何者律云殺人應死者〕賊盗律に「凡謀㆑殺人應㆑死者、會㆑赦免者移郷」云々とあるを引けるなるべし。

〔雜戸陵戸及婦人、依律不配流之類是〕名例律に「凡雜戸陵戸犯流者、近流決杖一百、一等加三十、留住、俱役三年」（中略）「其婦人犯流者、亦留住、」とあり、且つその疏に「婦人之法、例不獨流、故犯流不配、留住、決杖居作、」と見えたり。

〔案古律〕古律は即ち大寶律なり。

〔爲當〕ハタと訓むべし。

〔蔭孫位子〕三位以上蔭その孫に及ぶ。その出身の法、選敍令終條に見えたり。位子は六位以下八位以上の子なり。その出身の法、軍防令に見えたり。

〔張云〕唐の刑法學者張某の私記に云ふなり。

何故稱送由。答。直行可無專使也。

將養 廿一 軍防令釋云。詩傳云。將養也。又曰將助也。云(音カ)卽郞反。毛詩。不遑將父傳曰。將養也。

臨產月 廿三 古記。問。婦人在禁臨產月者。責保聽出。未知。假令。流移人妻。產從得發遣之時。臨產月放此聽留哉。爲*當依在路假廿日哉。答。上條。流移囚在路有婦人產者。卽知。未產者不聽。留待產訖留耳。

出身得位 廿六 穴云。問。又云。出身得位者。未知。出身而未得位之類如何。答。得位之人不追位記。未得之人。依蔭*孫位子之倒(例カ)得考。而成選。但未貢之間。父祖除名者非也。又朱云出身得位謂一濁也。雖未得位出身之後。更不追還者。

毀見當免 廿八 古記云。問。毀見當色及降至者位記。未知。見與降(律カ)別。答。見免者謂最高者。降至者。謂次位及勳位者是。謂於犯徒一年免官者。穴云。毀見官免及降至者。位記者。謂當問職田位田等。何時可取額。待官執符可取。

穴云。問。毀字誰時注。可以起問。賊律終條張*云。告身雖注毀未奏亦同此云。萱達容筆故。問答奏報之日。謂斷罪之奏。奉勅依奏之日卽毀也。

毀位記 釋云。刑部。總收應毀位記。送太政官。々史元授之司。就少納言庫。而令注毀字。已了外記自毀刑部相隨耳。

被勅推官當除免 廿九 釋云。被勅推謂勅令推也。官當除免四字者。斷爲上句。徒以上三字宜屬下讀。何者官當徒罪本是一種。何更疊耶。此文屬意。五位犯徒一年。罪輕不盡其位之類耳。

〔疑罪〕證相半ばして判斷し得ざる罪なり。斷獄律逸條に「凡疑罪各

入内供奉 朱云。入内供奉入内裏耳。未知而者官内内賦何。
徒侶 卅四 斷獄律云。因在禁妄引人爲徒侶者。以誣告論注云。因在禁妄引人爲徒侶者。謂盜發者。妄引人爲同盜發人者。妄引人爲同行之類者是也。
追攝 古記云。追攝謂追也。依罪被公謂之攝也。朱云。額云。審鞫由狀者。三審了後問耳。
五聽 卅五 周禮第九云。司寇之職掌。以五聲聽獄詔(訟カ)於民情。一曰云々。如義解。
死罪奏報 卅七 穴云。朱云。問。凡諸罪皆取罪人伏弁所斷。而何。既奏報畢後。有誰寃枉乎何。答。依官司屈勘雖承伏弁。尚其情不知之等類。凡如此枉斷爲耳。觸類有此條耳。
枷杻 卅九 釋云。師說曰。在頸曰枷。云(音カ)古可反。在足曰杻。云(音カ)勑久反。陸詞杻作杽字也。古記云。枷。謂有頸也。杻在足也。
處斷有疑 四十 穴云。處斷有疑。謂斷罪二三相涉是也。假一人斷徒。一人斷流。爲有流。故爲未罪應奏耳。
朱云。疑。有疑者。罪人伏弁已了。同司有異判耳。與國有疑獄不決等情別者。
經斷不伏 穴云、、、謂罪條定斷了。而罪人不伏別訴理其事當理是也。言上文。爲罪人等異斷。各有疑也。此又官人與罪人。爲。相異生文也。
私思。上條爲奏報了立文。此爲告示時生文也。
議請減 四二 釋云。議請減之罪。猶依此禁法耳。或凡人法者此條不別罪色。又五位以上是。雖死刑而散禁。異凡人。故古記云。問。犯流以上。若除免官當。並脫禁未知。疑罪及過失若爲。答。疑罪及過失者。無禁是。今行事以鎖禁耳。

延引久禁 四六
穴云。延引久禁。謂不問而經日月也。

無故 五二
釋云。假有應輸贖物之人家在遠國無財贍身遣取本貫之間。過限女(如カ)此之類不是無故。

贖過限 朱云。問。過限不入贖銅罪何

流贖 朱云。流六十日。謂近中遠流無別也。以下徒杖、笞亦同不見數多少者、

欠負官物 米(朱カ)云。若欠負官物。應徵正贓及贖。謂依尤財以備免倍贓也。稱正贓也。

折庸 古記云。問。官役折庸。未知。免課役不。答。因免徭役。但課未請定更免。自欠負官物以下文。皆一指官物。不稱私物。又正贓分役年課役亦俱免。

一日一人折布 又朱云。一人一日折布二尺六寸。謂於老少人隨所役臨時定日功者。此則依當時鄉庸作價耳者。假*雖九十以上。皆可役耳者。而可見名例何。

流人給粮* 五六 釋云。天平勝寶九年七月廿九日官符云。給流人粮不論良賤男女。大小一人日米一升塩一勺。至米(未)歲春量給種子秋收之後。一依百姓之例。

朱云。竝鈴官粮謂有近中遠流也。故稱竝字也。未知而依令釋。小男小女等皆給此粮。若皆爲給家口等稱竝字歟何。眞疑不明決。或云竝字者倘加言皆。凡流徒人給粮。多少可有別式

一房 六十 釋云。一房罪人所居一房也。賊律。雖謀反。詞理不能動衆。威力不足率人者。亦皆斬。父子竝配遠流。資財不在沒限。今勅此人資財沒官者。一人物沒官。自餘不在沒限。故云及一房。假令斬者同居異財者。即斬者物沒官。若同財別房。即別房之物沒。若同居共財者。准戸令依均分法。斬者分合沒。若別勅文字資財合沒者。斬者沒者分竝合沒。自流者以下分者不合沒也。案賊律所云雖謀反――――不在沒限者。是有緣坐之罪也。若有勅令沒其資財。皆如反逆人資

依レ所レ犯以レ贖論。(疑。謂虛實之證等。是非之理均。或事涉二疑似一。傍無二證見一、或傍有二聞證一。事非二疑似一之類。)」云と見えたり。

〔假雖九十以上皆可役耳者而可見名例何〕雜令義解、財物出舉條に「故知據二當鄉庸作之價一、以レ役折。即不レ限二年遠近一、皆以レ盡レ債爲レ限也。」とあり。而して名例律には、「九十以上。七歲以下。雖レ有二死罪一不レ加レ刑。」とあり。この兩者の矛盾につきて設問せるなり。

〔天平勝寶九年七月廿九日官符〕この格、類聚三代格に見えず。

財可沒官、不限止一房。但有本犯無緣坐之罪。而勅(物)責財合沒者。止及一房耳。何者名例律云、本犯不至免官、而待除名者、敍法同免官例。若本犯至免官、而時(待カ)除名者。敍法同除名法。此此句此之先說爲非何者文稱本罪、不可緣坐而別勅破家者故。

弁證六一

古記云、弁皮勉反。鄭玄注云、禮記曰弁謂考、問得其定也。弁謂罪人申狀也。證謂證人也。更翻謂赦前死罪合會赦也。赦前流罪不合免赦。如此之徒文弁合翻異。故以赦前弁證爲定耳。

訊罪笞杖＊六二

釋云、訊罪笞罪者、以四分杖可拷。古記云、問、拷杖。未知。若爲。答、拷杖卽此杖笞用耳。釋云、杖者削去節目者、笞杖並約爲杖也。

枷杻

古記云。杻樣未知。若爲。答。枷者隨禁處、長短爲作。元(无カ)定例。開＊元令云。枷長一尺六寸以上、二尺二寸以下、廣三寸。厚一寸鉗重八兩以斤以下。一尺以上一尺五寸以上(下カ)、鏁長八尺以上一丈二尺以下穴云、枷杻等樣依別式也。

雜令裏書

尺一

尺昌石反、度數名也。十寸爲尺。或云、尺度規矩。故字口下安人。殷以十寸爲尺、周以八寸爲尺。家語、布指爲尺、舒肱爲尋也。說文、人之手欲寸分動脈爲寸。十寸爲尺、從尺乙。東＊宮切一

仰觀八

釋云、仰觀候天文臺也。泄漏也。昔私別反。古記云。其仰觀所見、謂卽觀生所見也。穴云、仰觀、就令釋可云臺名也。令來本文也。職制玄象條附釋云。易曰、仰觀於天文者。但仰觀謂今見天是也。又朱云、不得漏泄者、漏他人事不聽意耳。或思漏泄者、猶遺漏者非也。

「訊罪笞罪者以四分杖可拷」獄令に「訊囚、及[illegible]行杖、大頭徑四分」とあり。

〔開元令云 拷長一尺六寸以上二尺二寸以下廣三寸厚一寸〕開元獄令の文なり。唐六典、卷六、「刑部郎中員外郎條」の「凡枷杖扭鎖之制各有差等」の條下にこれと同じ文見ゆ。

「東宮切」、菅原是善の著せる東宮切韻なるべし。三代實錄、卷三十八、元慶四年八月卅日辛亥條に「參議從三位行刑部卿菅原朝臣是善薨」[illegible]「[illegible]東宮切韻」[illegible]

祥徵災異
釋云。善惡效驗曰徵。云（音ヵ）陟阮反。吉凶先見謂之祥。云（音ヵ）似羊反。天反晴爲災。又曰。天火。曰災。云、祖災反。一說、吉氣謂之徵祥也。妖氣謂之灾異也。古記與義解無別。

季別封送
釋云。陰陽寮。一季之内奏案連寫送省也。國吏釋見職員令。古記無別也。穴云。記者季別封送謂無奏書留御所。以案寫送耳。與餘奏書爲殊也。

釋云。假令。其日月時熒惑在心。而災在甲不言之屬也。但文稱所還者。卽知祕奏書耳。一云。奏書亦不祕也。侍勅問占吉凶耳。古記云。不得祕占。謂假令。其日月晴熒惑在心。而災在甲不言之屬也。奏書祕占言。以不文稱所送者。卽知祕奏書耳。一云。奏書亦不祕也。更勅問令占時占吉凶而奏耳。

馬瑙虎魄沈檀蘇芳
釋云。假如馬瑙虎魄之類。是謂異寶。沈檀蘇芳之類是謂異木。古記云。異寶何物。答。異石作器可寶是。異木謂白檀紫檀之類。

材木
釋云。材木未構屋舍也。假柱歩板等類。若既成之物者皆還主耳。
古記云。材木謂在泉*津木之屬也。問。雜財物船屋倉畜産之類。若爲處分。答。除材木以外既成之物悉皆還主。舍聲之類不在論限。假令。在泉津構作置倉賣者。入材木之例。其材木失家内常倉者不合也。穴云。其非材木成舍倉者。不在此例。一如問答也。

檥
釋云。檥表。和名大流岐。楊*氏云。波閇岐在擲旁下垂也。兼*名苑云。一名榛㐂。一名椽（音傳）。爾雅注云。桷（甬）。和名須美岐。屋四阿大擴。

比闌遺物採岸
釋云。接持也。水涯高日岸。云（音ヵ）五旦反。古記云。岸上謂川邊高地也。穴云。文稱棊水。其尋常

皇實錄十卷」。文章博士都朝臣良香預之、又自撰二東宮切韻二十卷。銀膀輪律十卷、集韻律詩十卷、會分類集七十卷」又有二家集十卷。」と見えたり。

〔泉津〕今の木津川なり。奈良時代には、この川の上流の木を伐りて奈良、恭仁の都の造營に用ひたり。正倉院文書に泉木屋所解なるもの多く見ゆ。これ村木の集散地なる泉津にありし役所なり。

〔楊氏云〕和名抄に引

時漂者此閭遺物也。又其朱カ云。此文一端稱澇水耳。尋常水亦日(同カ)者

釋云。標去也。云音ヵ市遙反。睡釋見獄令。又朱(朱カ)云。申隨近官司。申日限不見。與闌遺物別

者。

賞 釋云。賞謂賞捉得人也。唐令、江河五分賞二。餘水五分賞一。言餘水功少。故後主識認者、物見在不見論。古記云。五分賞一。謂有捉得者賞一分也。人所得人謂後主識認者、雖物見在更不論也。穴云。人所得人之後雖認不還。

无主認者 其朱カ云。限卅日外無主認者。入所得人。謂若雖卅日外所得人。其(朱カ)貢處分前。有主認猶知主得人只五分賞一也。文稱无認之故。後反云。限卅日外雖有主認不可給也。全可入所得之人者私尋理然也。唯案文雖耳、何間計卅日、法何依物得日可計哉。依申官司日可計哉何。私。依得物日可計而何。

從下始 十二 釋云。從下始。下於水下也。朱云。從下始、依次而用者。水專充一人。時行事耳。未知。不然於人別偏分充何。私案。於此者從上始可充行也。不然者。亦必分法可遣而何。

修理 釋云。不堪修理者。差發人夫修治耳。所謂以近及遠。古記云。先役用水之家。謂不堪修理者。差發人夫修治以近及遠。假令葛野川堰之類是。以用水之家不令堪修治也。穴云。役用水之家謂先役其水作用之人。不堪乃依營結令役人夫耳。又朱云。須修治堤堰者、先役用水家。謂此依閑時也。臨時量宜役耳。不充當分。又不求正中男也。又不見日限者未明。凡此役人食私糧耳。不可給官食者。皆作物至役用水家。可有妨農業者乃量差役餘人耳者。皆作物少用水家

〔[illegible]〕[illegible]抄なるべし。〔[illegible]〕[illegible]和名抄に[illegible]引用せり。

〔所謂以近及遠〕賦役令に「凡丁匠赴役者、皆具[illegible]。丁匠未レ到前三日、國[illegible]官[illegible]分配。其外配者、便送二配處一。皆以レ近及レ遠、依レ名分配。作具自備。」とあるを指せるなり。

〔葛野川〕今の桂川なり。王朝時代には、この川屢々氾濫したりしかば、防葛野河使なるも

のを置けり、類聚三代格、卷十六の貞觀三年三月十六日の官符には、防鴨河使及び防葛野河使を廢して、これを國司に隸すべきこと見えたり。

〔大路〕廐牧令に「凡諸道置ニ驛馬一、大路廿疋。中路十四。小路五。」とあり。而して義解は大路卽ち山陽道なりと說明せり。

〔難波堀江〕仁德天皇の朝、高津宮を難波に營み、堀江を高津宮の北に堀りたり。物部守屋が佛像を投ぜしはこの堀河なり。桓武天皇の延暦七年、又荒陵(アラハカ)の南に堀江を堀りたり。茲に云ふ堀江は、この延暦の堀江なるやも知れず。

〔防官〕坊官の誤なるべし。京師の坊長、坊令を云ふ。

〔音樂長上〕音樂を以て雅樂寮に長上するもの

多量。便各偏役一時等耳。凡此心推可知者。

津要 十三

釋云。津謂濟處也。讀文要路之津濟也。百姓往來要道。不必大*路也。古記云。要謂國郡百姓往來要道不必大路也。

不堪度涉

釋云。不堪涉度之處。謂造橋不便之處。古記云。不堪涉度之處。謂造橋不便之處。難*波堀江之類也。古記云國郡官司檢校。謂隨便以時檢行。常者不合也。

艘

釋云。艘船數也。音蘇遭反。穴云。每二人船各一艘。謂二人爲上下番耳。又*朱(朱カ)云。二人以下十人以上者。各可分番上下者。未明文所不見何。

廳上曹司 十四

朱云。廳上及曹司座者。未知。曹司者官人休息曹司歟不。又下條。右京諸司者未知。此條何不稱在外。答。廳上者八省之廳上耳。　曹司座者司之廳座耳。此條亦爲京官文立耳。但諸國廳座。國作用准不約此條者。

古記云曹司座謂廳事之座。止宿席者不合。穴云。此條。爲云。給林學五位以上耳。下條。廣五位以六位以下。每正月座席耳。座席一物也。

座席 十五

釋云。師說云。家令不給也。古記云。在外郡主帳以上亦給。又朱云。在京諸司者。防*官皆約者。外官不見給文者。釋云。主典以上。謂才伎長上也。

古記云。主典以上。謂才伎長上亦同。在外郡主帳以上亦同。在外郡主帳以上亦給。一云。工匠音*樂長上之類者不合也。又朱云。主典以上。謂六位以下也。後及(反カ)云。五位以上皆約。何者依此條。每年正月可給故者。而未明何。

なり。類聚三代格、卷四の大同四年三月廿一日官符に見ゆる樂師皆是なり。

［神龜五年格］類聚三代格、卷五に見ゆる神龜五年三月廿八日の格なり。

隨壞卽給 釋云。以下隨壞(壞)卽給除主典以外皆是也。以外謂史生以下番上也。唯兵衞衞士者。本府作而給也。古記以下無別也。

諸第爭訴 釋云。財物家人奴婢良賤諸第爭訟(訟カ)之類也。古記無別也。朱云。問。於此條訴訟。一贓。二贓何。又聞此文訴訟者未知。於爭罪何。若同此文哉。爲當。同使奪哉何。

侵奪 釋云。不經官司斷、先强取物、及打身之類也。古記無別也。朱云。問。使奪。一贓。二贓。答。二耳。令釋同也。私而依名例戶婚詐僞律一可云。但犯其身亦可同耳歟何。

地上自藏 廿二 釋云。謂地主自藏。置而―忘失所有不得。幷父祖之時治置見。子孫佃住者。不在中分之限也

進薪 廿六* 釋云。神龜五年格云。外五位進薪以三荷爲限。

令集解 終

新註皇學叢書第二卷「令集解」の卷末に附記す

本叢書全十二卷は、亡父高見が最後の御奉公のつもりにて、齢八十に及び、執筆校訂に汲々として夜を日に繼いだが、去る昭和三年六月二十三日、不幸他界したので、最後の第十二回配本、令集解一冊は未完のまゝにて殘され、茫然望洋の歎を懷かしめらるゝに至つた。

よつて本書は、斯界の最高權威、京都帝國大學教授三浦周行博士に懇請して、編纂を進めて行つたが、校訂組版共に最至難の業である爲めに、開始以來殆んど三箇年の歳月を費し、加ふるに三浦博士が標註の執筆中、中華民國に出張せらるゝ事となつたから、其の推薦に依つて前九州帝國大學教授瀧川政次郎學士に標註の起稿を煩した。古來、令の研究に必須缺くべからざるに拘らず、最も難解難讀として知らるゝ令集解が、斯くの如く完然なる校本に、平易なる標註を附して、大方に見ゆる事を得たのは、本書を以て嚆矢とするのであつて、私共の深く兩先生に謝すると共に、自ら無上の光榮とする所である。

昭和六年三月十日　　物集高量

昭和六年三月十五日印刷
昭和六年三月十八日發行

（新註皇學叢書　第二卷）

不許複製

著作權所有

著作者　物集高見

發行者　川俣馨一
東京市小石川區竹早町三十二番地

印刷者　井上源之丞
東京市本所區厩橋一丁目二十七番地

發行所　内外書籍株式會社
東京市小石川區竹早町三十二番地
振替口座東京八九六〇番
電話小石川(85)｛一三一〇五四番 二六九番｝

發賣所　廣文庫刊行會
東京市本郷區駒込千駄木町廿一番地
振替口座東京三四一八二番
電話小石川(85)三一七七番

凸版印刷株式會社本所分工場印刷

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 02976 4297